横倭遺跡群 II

（本　文　編）

1991

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

横俵遺跡群 II

（本　文　編）

1991

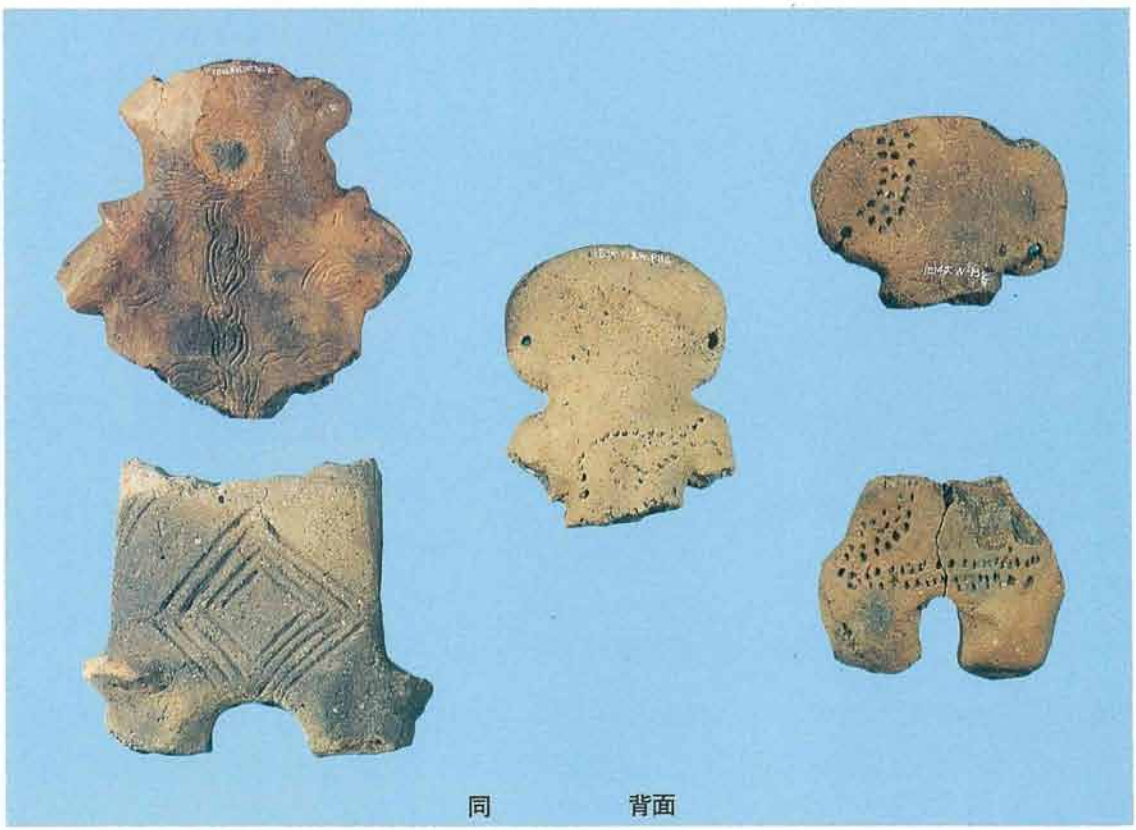
前橋市埋蔵文化財発掘調査団

大道遺跡全景

南部配石遺構全景

上　配石遺構検出状況　　下　1号配石遺物出土状況（三角壜形土製品）

大道遺跡出土　土偶正面



同　　背面

序

横俵遺跡群大道遺跡が所在する群馬県前橋市は、関東平野の北西部に位置しており、北に名山と知られる赤城山を望み、坂東太郎と呼ばれる利根川が市街地の中心部を貫流する自然豊かな水と緑をキャッチフレーズにした人口28万を擁える県都であります。

この様な豊かな自然環境を背景にして本市域には古代遺跡が無数にあり、特に大道遺跡が所在する赤城山南面は日照時間が長いことと台地と谷地が複雑に入り組み湧き水も多い事などの様々な条件から古代遺跡の宝庫と言われる地域になっております。

このような自然環境に恵まれた前橋市東部の大室地区に自然を大々的に取り込んだ工業団地を造成する計画が、前橋工業団地造成組合より提示され、埋蔵文化財の分布状況について調査しましたところ、縄文時代からの遺跡と数多くの古墳が分布していることが明らかになりました。開発部局との数回にわたる協議の結果、全体を四街区に分け平成元年度より4カ年計画で発掘調査を実施することになりました。

大道遺跡の調査は、昭和63年度12月からの試掘調査から始められ、調査の結果に基づいて区域を限定し、平成元年4月より本発掘調査が開始されました。

工業団地造成予定地内は、現在まで大きな開発が無かったため遺跡の保存状況が極めて良く本遺跡の調査でも平安時代・古墳時代後期・古墳時代前期・縄文時代後期～前期の遺跡が数面にわたり埋蔵されておりました。各時代の竪穴住居跡を合計すると130軒以上にものぼり保存状況の良さも加わって地域の歴史を解明していく上での貴重な資料を得ることが出来ました。

その中でも縄文時代の調査では、前橋市域では初の発見となりました祭祀にかかわるものと思われる多数の石棺状の配石墓や無数の土壙及び三角壕形土製品・土偶・岩版・石棒など特殊な遺物も出土しマスコミにも報道され注目されました。

市史を解明していく上での貴重な資料を数多く含む遺跡として、現状保存の協議を申し出しましたところ、前橋工業団地造業組合並びに工場を建設するプラス株式会社の方々の深い理解を得まして盛土保存により縄文時代の遺構は保存されることになりました。発掘調査終了後、造成建築工事により遺跡は消滅してしまうのが通例ですが、今回各方面の方々からのあたたかい御支援を得まして保存措置が講じられたことに対し、大変感謝いたしております。

最後になりましたが、本報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました関係各機関の方々をはじめ、発掘調査に従事されました方々に対し感謝申し上げるとともに、本書が地域の歴史解明に少しでも寄与できれば幸に存じます。

平成3年3月20日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長　遠　藤　次　也

例　　言

1．本書は荒砥工業団地造成事業に伴う横俵遺跡群大道遺跡の発掘調査報告書である。

2．遺跡は前橋市下大屋町大道828－1番地他に所在する。

3．調査面積は44.851㎡である。

4．調査は前橋工業団地造成組合（管理者　清水一郎）の依頼により前橋市教育委員会指導のもと調査区域が広大な為、予算と期間の関係上、Hグリッドラインで南北に分割し、北側をスナガ環境測設、南側を山武考古学研究所が担当した。調査の報告は本書1つにまとめた。

5．調査担当者および調査期間は以下の通りである。

試掘担当者　近江屋成陽（山武考古学研究所）

調査期間・昭和63年12月21日～平成元年3月4日

本調査担当者　白石　光男（スナガ環境測設）

近江屋成陽（山武考古学研究所）

間宮　政光（山武考古学研究所）

調査期間・平成元年2月7日～平成2年1月15日

整理担当者　　近江屋成陽（山武考古学研究所）

整理調査期間・平成2年4月1日～平成3年3月20日

6．本書の作成については、発掘担当者・白石、間宮、近江屋の三者の協議のもと、近江屋が原稿執筆・編集を行い、安藤杜夫、大賀健、松田政基、相京清子、秋山京子、朝生タカ、石井百々子、伊藤彰敏、伊藤順子、大関郁恵、河島ゆう子、片岡美和子、木村春代、黒田宣子、坂本秀美、斎藤きよみ、豊田早苗、根本時子、藤井陽子、藤崎徳江、幕田文子、三宅美知子、矢部知恵子、山口トモ子、日下部利夫の協力を得た。

7．配石遺構のリン・カルシウム分析については、辻本崇夫氏（パリノ・サーヴェイ株式会社）に依頼した。

8．発掘調査の資料は前橋市教育委員会で保管されている。

9．発掘調査及び整理調査にあたっては次の諸氏、諸機関に御教示、御協力を賜った。（敬称略・順不同）

阿部芳郎、石塚三夫、内野洋子、小野圭子、小野正敏、菊地実、武部喜充、八角憲章、林静枝、古谷廣司、古屋都茂、群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県埋蔵文化財調査事業団、前橋工業団地造成組合、前橋市教育委員会文化財保護課、開成測量株式会社、青高館、パリノ・サーヴェイ株式会社、プラス株式会社、明治大学考古学研究室

凡　　例

1．挿図中に使用した北は座標北である。

2．本書に使用した遺構番号は混乱を避ける為、現地調査において使用したものをそのまま用いていた。調査の結果、遺構にならないものがある為欠番が生じている。以下のものが欠番である。

住居址－31・92・109・129号住居址、土坑－23・24・30・52・79・277・304・378・379・408・409・410号土坑

配石－19号配石。

3．配石遺構－石棺状のものは、地山と覆土の見分けが難しく、調査担当者の所見により床面の推定ラインを図中に破線で入れている。

4．挿図に建設省国土地理院発行の5万分の一の地形図（前橋）を使用した。

5．本遺跡の略称は63E14大、1E14大である。

6．各遺構の略称は次の通りである。

H－住居址、D－土坑、JS－配石、S－集石、JU－埋甕、W－溝、K－炭窯址

7．遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。

遺構・住居址、土坑…1/80、柄鏡形敷石住居址、一部の縄文時代の住居址…1/60、立石・配石…1/30、溝…1/160・屋外埋設土器…1/30、炉址・カマド…1/40

配石遺構全体図…1/150、時代別遺構配置図…1/2000、全体図…1/500…遺物　土器…1/4、縄文土器片・一部の土器…1/3・1/8、石器…1/3、1/6

8．スクリントーンの使用は次の通りである。

遺構平面図　地　山……　　焼　土……

礫熱変部分……

遺物実測図　赤彩土器……　　須恵器……黒塗り

土師器……白抜き

9．拓図の貼り込みの位置については以下の通りである。

縄文時代－　断面を中心に表が左、裏が右

古墳時代以降－断面を中心に表が右、裏が左

抄　　録

1．遺跡名　横俵遺跡群大道遺跡（よこだわらいせきぐんおおみちいせき）

2．遺跡の位置と立地

大道遺跡は群馬県前橋市下大屋町字大道828－1番地他に所在する。調査対象地は利根川の支流である神沢川の右岸低台地上にあたる。地表面は幾度かの河川の氾濫により、ロームの原形面、砂壌土、沖積地の粘質土と複雑な土壌になっている。標高は137ｍ～141ｍである。

3．調査期間

昭和63年12月21日より平成2年1月15日までの約1年半カ月間実施された。

4．調査面積は44,851㎡である。

5．検出された遺構と遺物

検出された遺構、遺物は以下の通りである。

時　代	遺　　構	数量	遺　　物
縄　　文	竪穴住居址	22	前期（諸磯）・中期（加曽利ＥⅣ）・後期（称名寺、堀之内、加曽利Ｂ、新地、安行）土器、耳栓、土偶、三角壕形土製品、石鏃、石錘、打製石斧、砥石、凹石、磨石、石皿、石錘、多孔石、石棒、匂玉
	敷石住居址	4	
	配石遺構	27	
	屋外埋設土器	9	
	土　　坑	356	
	溝（河川址）		
	遺物包含層		
古　　墳	竪穴住居址	106	土師器（甕、坏、高坏、台付き甕、片口、台付き片口）須恵器（坏、坑）、土製品
	土　　坑	44	
歴　　史	竪穴住居址	1	土師器（甕、坏）、内耳土器、近世陶器破片
	溝	2	
時期不明	竪穴住居址	1	
	炭　　窯	1	
	土　　坑	81	

6．まとめ

調査の結果、縄文時代後期の集落と墓域と考えられる配石遺構群と古墳時代前期、後期の集落址がまとまって検出された。調査区が広域なため集落のほぼ全容が判明した。とくに、赤城南麓では縄文時代の配石遺構がまとまって検出されたのは、本遺跡が初めてである。

自然科学分析として配石内のリン・カルシウム分析を行った。

目　　次

序
例　　言
凡　　例
抄　　録

第１章　発掘調査に至る経緯と
　　調査組織 …… 1
第２章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 3
　第１節　位置と環境 …… 3
　第２節　周辺の遺跡 …… 5
第３章　調査の概要と経過 …… 7
　第１節　試掘調査 …… 7
　　１．調査の概要 …… 7
　　２．日誌抄 …… 7
　第２節　本調査……11
　　１．調査の概要……11
　　２．日誌抄……11
第４章　基本土層……14
第５章　検出された遺構と遺物……17
　第１節　縄文時代……17
　　１．縄文時代の概観……17
　　２．住居址……17
　　３．配石遺構 …… 174
　　(1)遺構 …… 174
　　①W－13グリッド …… 174
　　②W－15グリッド …… 174
　　③X～Z－17・18・19
　　グリッド …… 174
　　a．上部配石・立石 …… 174
　　b．下部配石 …… 182
　　(2)検出された遺物 …… 201
　　(3)配石周辺から出土した遺物 … 213
　　４．集石 …… 224
　　５．屋外埋設土器 …… 231
　　６．土坑 …… 240
　　７．溝 …… 296
　　８．グリッド内出土遺物 …… 333
　第２節　古墳時代 …… 413
　　１．古墳時代の概観 …… 413
　　２．住居址 …… 414
　　３．土坑 …… 641
　第３節　歴史時代 …… 657
　　１．歴史時代の概観 …… 657
　　２．住居址 …… 657
　　３．溝 …… 660
　　４．トレンチ内出土遺物 …… 661
　第４節　その他の遺構 …… 664
　　１．住居址 …… 664
　　２．炭窯 …… 665
　　３．土坑 …… 666
第６章　まとめ …… 673
第７章　自然科学分析 …… 679
　　－配石内のリン・
　　カルシウム分析について－

挿 図 目 次

第１図　遺跡位置図……4
第２図　トレンチ設定図……8
第３図　グリッド設定図……10
第４図　標準堆積土層図（１）……14
第５図　標準堆積土層図（２）……15
第６図　縄文時代遺構全体図……16
第７図　14号住居址……18
第８図　15号住居址・出土遺物……19
第９図　28号住居址……21
第10図　28号住居址出土遺物（１）……23
第11図　28号住居址出土遺物（２）……24
第12図　29号住居址……25
第13図　29号住居址出土遺物……27
第14図　30号住居址……28
第15図　30号住居址出土遺物（１）……30
第16図　30号住居址出土遺物（２）……31
第17図　30号住居址出土遺物（３）……32
第18図　32号住居址……33
第19図　32号住居址出土遺物（１）……35
第20図　32号住居址出土遺物（２）……37
第21図　32号住居址出土遺物（３）……38
第22図　32号住居址出土遺物（４）……39
第23図　32号住居址出土遺物（５）……40
第24図　32号住居址出土遺物（６）……41
第25図　32号住居址出土遺物（７）……42
第26図　32号住居址出土遺物（８）……43
第27図　32号住居址出土遺物（９）……44
第28図　32号住居址出土遺物（10）……45
第29図　32号住居址出土遺物（11）……46
第30図　32号住居址出土遺物（12）……47
第31図　32号住居址出土遺物（13）……48
第32図　32号住居址出土遺物（14）……49
第33図　32号住居址出土遺物（15）……50
第34図　33号住居址……51
第35図　33号住居址出土遺物（１）……53
第36図　33号住居址出土遺物（２）……55
第37図　33号住居址出土遺物（３）……56
第38図　33号住居址出土遺物（４）……57
第39図　33号住居址出土遺物（５）……58
第40図　33号住居址出土遺物（６）……59
第41図　33号住居址出土遺物（７）……60
第42図　33号住居址出土遺物（８）……61
第43図　33号住居址出土遺物（９）……62
第44図　33号住居址出土遺物（10）……63
第45図　33号住居址出土遺物（11）……64
第46図　33号住居址出土遺物（12）……65
第47図　33号住居址出土遺物（13）……66
第48図　34号住居址……68
第49図　34号住居址出土遺物（１）……69
第50図　34号住居址出土遺物（２）……71
第51図　34号住居址出土遺物（３）……72
第52図　34号住居址出土遺物（４）……73
第53図　34号住居址出土遺物（５）……74
第54図　34号住居址出土遺物（６）……75
第55図　34号住居址出土遺物（７）……76
第56図　34号住居址出土遺物（８）……77
第57図　34号住居址出土遺物（９）……78
第58図　34号住居址出土遺物（10）……79
第59図　35号住居址……80
第60図　35号住居址出土遺物（１）……81
第61図　35号住居址出土遺物（２）……83
第62図　35号住居址出土遺物（３）……84
第63図　35号住居址出土遺物（４）……85
第64図　35号住居址出土遺物（５）……86
第65図　43号住居址・出土遺物……87
第66図　44号住居址……89

第67図　44号住居址出土遺物……90
第68図　51号住居址……91
第69図　51号住居址出土遺物（1）……92
第70図　51号住居址出土遺物（2）……93
第71図　51号住居址出土遺物（3）……94
第72図　51号住居址出土遺物（4）……95
第73図　51号住居址出土遺物（5）……96
第74図　51号住居址出土遺物（6）……97
第75図　59号住居址……99
第76図　59号住居址出土遺物……100
第77図　111号住居址……101
第78図　113号住居址……103
第79図　113号住居址出土遺物（1）……105
第80図　113号住居址出土遺物（2）……106
第81図　113号住居址出土遺物（3）……107
第82図　113号住居址出土遺物（4）……108
第83図　113号住居址出土遺物（5）……109
第84図　113号住居址出土遺物（6）……110
第85図　113号住居址出土遺物（7）……111
第86図　113号住居址出土遺物（8）……112
第87図　118号住居址……114
第88図　118号住居址出土遺物（1）……116
第89図　118号住居址出土遺物（2）……117
第90図　118号住居址出土遺物（3）……118
第91図　118号住居址出土遺物（4）……119
第92図　118号住居址出土遺物（5）……120
第93図　118号住居址出土遺物（6）……121
第94図　118号住居址出土遺物（7）……122
第95図　118号住居址出土遺物（8）……123
第96図　118号住居址出土遺物（9）……124
第97図　118号住居址出土遺物（10）……125
第98図　119号住居址……126
第99図　119号住居址出土遺物（1）……128
第100図　119号住居址出土遺物（2）…129
第101図　120号住居址……130
第102図　120号住居址出土遺物（1）…131
第103図　120号住居址出土遺物（2）…133
第104図　121号住居址……134
第105図　121号住居址出土遺物……135
第106図　122号住居址……137
第107図　122号住居址出土遺物（1）…139
第108図　122号住居址出土遺物（2）…140
第109図　122号住居址出土遺物（3）…141
第110図　122号住居址出土遺物（4）…142
第111図　122号住居址出土遺物（5）…143
第112図　122号住居址出土遺物（6）…144
第113図　122号住居址出土遺物（7）…145
第114図　123号住居址……146
第115図　123号住居址出土遺物（1）…147
第116図　123号住居址出土遺物（2）…149
第117図　123号住居址出土遺物（3）…150
第118図　123号住居址出土遺物（4）…151
第119図　124号住居址……152
第120図　124号住居址出土遺物（1）…154
第121図　124号住居址出土遺物（2）…155
第122図　125号住居址……156
第123図　125号住居址出土遺物（1）…158
第124図　125号住居址出土遺物（2）…159
第125図　126号住居址……160
第126図　126号住居址出土遺物（1）…161
第127図　126号住居址出土遺物（2）…163
第128図　126号住居址出土遺物（3）…164
第129図　128号住居址……165
第130図　131号住居址……167
第131図　131号住居址出土遺物……169
第132図　132号住居址……170
第133図　132号住居址出土遺物（1）…172
第134図　132号住居址出土遺物（2）…173

第135図　2・3号配石……175
第136図　上部配石・立石全体図……176
第137図　下部配石全体図……177
第138図　多孔石・焼石分布図……178
第139図　1号配石……179
第140図　8・15・16号配石、6・12号立石
……180
第141図　1・2・3・4・5・7・8・9
・10号立石……181
第142図　4号配石……183
第143図　5号配石……185
第144図　6・7号配石……186
第145図　9号配石……187
第146図　10号配石……188
第147図　11号配石……189
第148図　12号配石……190
第149図　13号配石……192
第150図　14号配石……193
第151図　17号配石……195
第152図　18・20号配石……196
第153図　21・22号配石……197
第154図　23号配石……198
第155図　24号配石……200
第156図　25号配石……201
第157図　3・4号立石（上部）.26号配
石（下部）……202
第158図　27号配石……203
第159図　1・2・3号配石出土遺物……205
第160図　4・5号配石出土遺物……206
第161図　5号配石出土遺物（1）……207
第162図　5号配石出土遺物（2）……208
第163図　6号配石出土遺物……209
第164図　7・8・9・10・13号配石出土遺物
……210
第165図　14・15・18・21・27号配石出土遺物
……211
第166図　25号配石出土遺物……212
第167図　23・25・26号配石出土遺物……213
第168図　27号配石出土遺物……214
第169図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（1）
……215
第170図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（2）
……216
第171図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（3）
……217
第172図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（4）
……218
第173図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（5）
……219
第174図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（6）
……220
第175図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（7）
……221
第176図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（8）
……222
第177図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（9）
……223
第178図　1・2号集石……225
第179図　1号集石出土遺物（1）……226
第180図　1号集石出土遺物（2）……228
第181図　2号集石出土遺物（1）……229
第182図　2号集石出土遺物（2）……230
第183図　屋外埋設土器……232
第184図　1・2号埋設土器……233
第185図　3・4号埋設土器……235
第186図　5号埋設土器……236
第187図　6号埋設土器……237
第188図　7号埋設土器……238

第189図　9号埋設土器……239
第190図　縄文時代土坑（1）……240
第191図　縄文時代土坑（2）……242
第192図　縄文時代土坑（3）……244
第193図　縄文時代土坑（4）……246
第194図　縄文時代土坑（5）……248
第195図　縄文時代土坑（6）……250
第196図　縄文時代土坑（7）……252
第197図　縄文時代土坑（8）……254
第198図　縄文時代土坑（9）……256
第199図　縄文時代土坑（10）……258
第200図　縄文時代土坑（11）……259
第201図　縄文時代土坑出土遺物（1）…260
第202図　縄文時代土坑出土遺物（2）…261
第203図　縄文時代土坑出土遺物（3）…264
第204図　縄文時代土坑出土遺物（4）…265
第205図　縄文時代土坑出土遺物（5）…266
第206図　縄文時代土坑出土遺物（6）…267
第207図　縄文時代土坑出土遺物（7）…270
第208図　縄文時代土坑出土遺物（8）…271
第209図　縄文時代土坑出土遺物（9）…272
第210図　縄文時代土坑出土遺物（10）…273
第211図　縄文時代土坑出土遺物（11）…276
第212図　縄文時代土坑出土遺物（12）…277
第213図　縄文時代土坑出土遺物（13）…280
第214図　縄文時代土坑出土遺物（14）…281
第215図　縄文時代土坑出土遺物（15）…282
第216図　縄文時代土坑出土遺物（16）…283
第217図　縄文時代土坑出土遺物（17）…284
第218図　縄文時代土坑出土遺物（18）…285
第219図　縄文時代土坑出土遺物（19）…286
第220図　縄文時代土坑出土遺物（20）…288
第221図　405号土坑……289
第222図　405土坑出土遺物（1）……291
第223図　405号土坑出土遺物（2）……292
第224図　405号土坑出土遺物（3）……294
第225図　405号土坑出土遺物（4）……295
第226図　3号溝……296
第227図　3号溝出土遺物（1）……298
第228図　3号溝出土遺物（2）……300
第229図　3号溝出土遺物（3）……302
第230図　3号溝出土遺物（4）……303
第231図　3号溝出土遺物（5）……304
第232図　3号溝出土遺物（6）……305
第233図　3号溝出土遺物（7）……306
第234図　3号溝出土遺物（8）……307
第235図　3号溝出土遺物（9）……308
第236図　3号溝出土遺物（10）……309
第237図　3号溝出土遺物（11）……310
第238図　3号溝出土遺物（12）……311
第239図　3号溝出土遺物（13）……312
第240図　3号溝出土遺物（14）……313
第241図　3号溝出土遺物（15）……314
第242図　3号溝出土遺物（16）……315
第243図　3号溝出土遺物（17）……316
第244図　3号溝出土遺物（18）……317
第245図　3号溝出土遺物（19）……318
第246図　3号溝出土遺物（20）……319
第247図　3号溝出土遺物（21）……320
第248図　3号溝出土遺物（22）……321
第249図　3号溝出土遺物（23）……322
第250図　3号溝出土遺物（24）……323
第251図　3号溝出土遺物（25）……324
第252図　3号溝出土遺物（26）……325
第253図　3号溝出土遺物（27）……326
第254図　3号溝出土遺物（28）……327
第255図　3号溝出土遺物（29）……328
第256図　3号溝出土遺物（30）……329

第257図　3号溝出土遺物（31）……330
第258図　3号溝出土遺物（32）……331
第259図　3号溝出土遺物（33）……332
第260図　グリッド出土遺物（1）……334
第261図　グリッド出土遺物（2）……335
第262図　グリッド出土遺物（3）……336
第263図　グリッド出土遺物（4）……337
第264図　グリッド出土遺物（5）……338
第265図　グリッド出土遺物（6）……339
第266図　グリッド出土遺物（7）……340
第267図　グリッド出土遺物（8）……341
第268図　グリッド出土遺物（9）……342
第269図　グリッド出土遺物（10）……343
第270図　グリッド出土遺物（11）……344
第271図　グリッド出土遺物（12）……345
第272図　グリッド出土遺物（13）……346
第273図　グリッド出土遺物（14）……347
第274図　グリッド出土遺物（15）……348
第275図　グリッド出土遺物（16）……349
第276図　グリッド出土遺物（17）……350
第277図　グリッド出土遺物（18）……351
第278図　グリッド出土遺物（19）……352
第279図　グリッド出土遺物（20）……353
第280図　グリッド出土遺物（21）……354
第281図　グリッド出土遺物（22）……355
第282図　グリッド出土遺物（23）……356
第283図　グリッド出土遺物（24）……357
第284図　グリッド出土遺物（25）……358
第285図　グリッド出土遺物（26）……359
第286図　グリッド出土遺物（27）……360
第287図　グリッド出土遺物（28）……361
第288図　グリッド出土遺物（29）……362
第289図　グリッド出土遺物（30）……363
第290図　グリッド出土遺物（31）……364
第291図　グリッド出土遺物（32）……365
第292図　グリッド出土遺物（33）……366
第293図　グリッド出土遺物（34）……367
第294図　グリッド出土遺物（35）……368
第295図　グリッド出土遺物（36）……370
第296図　グリッド出土遺物（37）……371
第297図　グリッド出土遺物（38）……372
第298図　グリッド出土遺物（39）……373
第299図　グリッド出土遺物（40）……374
第300図　グリッド出土遺物（41）……377
第301図　グリッド出土遺物（42）……378
第302図　グリッド出土遺物（43）……379
第303図　グリッド出土遺物（44）……380
第304図　グリッド出土遺物（45）……381
第305図　グリッド出土遺物（46）……382
第306図　グリッド出土遺物（47）……383
第307図　グリッド出土遺物（48）……384
第308図　グリッド出土遺物（49）……385
第309図　グリッド出土遺物（50）……386
第310図　グリッド出土遺物（51）……387
第311図　グリッド出土遺物（52）……388
第312図　グリッド出土遺物（53）……389
第313図　グリッド出土遺物（54）……390
第314図　グリッド出土遺物（55）……391
第315図　グリッド出土遺物（56）……392
第316図　グリッド出土遺物（57）……393
第317図　グリッド出土遺物（58）……394
第318図　グリッド出土遺物（59）……395
第319図　グリッド出土遺物（60）……396
第320図　グリッド出土遺物（61）……397
第321図　グリッド出土遺物（62）……398
第322図　グリッド出土遺物（63）……399
第323図　グリッド出土遺物（64）……400
第324図　グリッド出土遺物（65）……401

第325図　グリッド出土遺物（66）……402
第326図　グリッド出土遺物（67）……403
第327図　グリッド出土遺物（68）……404
第328図　グリッド出土遺物（69）……405
第329図　グリッド出土遺物（70）……406
第330図　グリッド出土遺物（71）……407
第331図　グリッド出土遺物（72）……408
第332図　グリッド出土遺物（73）……409
第333図　グリッド出土遺物（74）……410
第334図　グリッド出土遺物（75）……411
第335図　グリッド出土遺物（76）……412
第336図　古墳時代遺構配置図……413
第337図　1号住居址……414
第338図　1号住居址出土遺物……415
第339図　2号住居址出土遺物（1）……417
第340図　2号住居址出土遺物（2）……418
第341図　3号住居址出土遺物（1）……420
第342図　3号住居址出土遺物（2）……421
第343図　4号住居址……424
第344図　4号住居址出土遺物（1）……425
第345図　4号住居址出土遺物（2）……427
第346図　5号住居址出土遺物（1）……428
第347図　5号住居址出土遺物（2）……429
第348図　6号住居址……430
第349図　6号住居址出土遺物……431
第350図　7号住居址出土遺物……433
第351図　8号住居址出土遺物……435
第352図　9号住居址出土遺物……437
第353図　11号住居址……439
第354図　11号住居址出土遺物……440
第355図　12号住居址出土遺物……442
第356図　13号住居址出土遺物……444
第357図　16号住居址……446
第358図　16号住居址出土遺物……447
第359図　17号住居址出土遺物……449
第360図　18号住居址出土遺物……451
第361図　19号住居址出土遺物……452
第362図　20号住居址出土遺物……455
第363図　21号住居址出土遺物……456
第364図　22号住居址出土遺物……458
第365図　23号住居址出土遺物……460
第366図　24号住居址出土遺物……462
第367図　25号住居址出土遺物……464
第368図　26号住居址……466
第369図　26号住居址出土遺物……467
第370図　27号住居址出土遺物（1）……470
第371図　27号住居址出土遺物（2）……472
第372図　36号住居址……473
第373図　36号住居址出土遺物……474
第374図　37号住居址出土遺物……476
第375図　38号住居址……478
第376図　38号住居址出土遺物……481
第377図　39号住居址出土遺物……482
第378図　40号住居址出土遺物……484
第379図　41号住居址……486
第380図　42号住居址出土遺物……487
第381図　45号住居址……488
第382図　46号住居址……488
第383図　47号住居址出土遺物（1）……490
第384図　47号住居址出土遺物（2）……491
第385図　48号住居址出土遺物……492
第386図　49号住居址出土遺物……495
第387図　50号住居址出土遺物……496
第388図　52号住居址出土遺物……498
第389図　53号住居址出土遺物……500
第390図　54号住居址出土遺物（1）……502
第391図　54号住居址出土遺物（2）……503
第392図　55号住居址出土遺物……505

第393図　56号住居址出土遺物（1）……507
第394図　56号住居址出土遺物（2）……509
第395図　57号住居址……511
第396図　57号住居址出土遺物……512
第397図　58号住居址出土遺物……514
第398図　60号住居址……516
第399図　61号住居址……516
第400図　61号住居址出土遺物……517
第401図　62号住居址出土遺物……518
第402図　63号住居址……520
第403図　64号住居址……520
第404図　65号住居址……522
第405図　66号住居址……523
第406図　66号住居址出土遺物……524
第407図　67号住居址出土遺物……526
第408図　68号住居址……527
第409図　69号住居址出土遺物（1）……528
第410図　69号住居址出土遺物（2）……529
第411図　70号住居址出土遺物……532
第412図　71号住居址・出土遺物……533
第413図　72号住居址・出土遺物……535
第414図　73号住居址・出土遺物……537
第415図　74号住居址……538
第416図　75号住居址・出土遺物（1）…540
第417図　75号住居址出土遺物（2）……541
第418図　76号住居址……543
第419図　77号住居址……544
第420図　77号住居址出土遺物……545
第421図　78号住居址・出土遺物（1）…547
第422図　78号住居址出土遺物（2）……548
第423図　79号住居址……550
第424図　79号住居址出土遺物……551
第425図　80号住居址……554
第426図　80号住居址出土遺物……555
第427図　81号住居址・出土遺物（1）…557
第428図　81号住居址出土遺物（2）……558
第429図　82号住居址・出土遺物……560
第430図　83号住居址……562
第431図　83号住居址出土遺物（1）……563
第432図　83号住居址出土遺物（2）……565
第433図　84号住居址・出土遺物……568
第434図　85号住居址・出土遺物（1）…570
第435図　85号住居址出土遺物（2）……571
第436図　86号住居址・出土遺物……572
第437図　87号住居址・出土遺物……574
第438図　88号住居址・出土遺物（1）…576
第439図　88号住居址出土遺物（2）……577
第440図　89号住居址……579
第441図　90号住居址・出土遺物……580
第442図　91号住居址・出土遺物……582
第443図　93号住居址……584
第444図　93号住居址出土遺物……586
第445図　94号住居址……588
第446図　94号住居址出土遺物（1）……590
第447図　94号住居址出土遺物（2）……592
第448図　94号住居址出土遺物（3）……594
第449図　95号住居址・出土遺物……595
第450図　96号住居址……597
第451図　96号住居址出土遺物……599
第452図　97号住居址……601
第453図　97号住居址出土遺物……603
第454図　98号住居址・出土遺物……605
第455図　99号住居址……607
第456図　100号住居址……608
第457図　100号住居址・出土遺物（1）…610
第458図　100号住居址出土遺物（2）…612
第459図　100号住居址出土遺物（3）…613
第460図　101号住居址……614

第461図　101号住居址出土遺物 …… 616
第462図　102号住居址・出土遺物 …… 618
第463図　103住居址 …… 619
第464図　104号住居址・出土遺物 …… 620
第465図　105号住居址・出土遺物 …… 622
第466図　107号住居址・出土遺物（１）… 624
第467図　107号住居址出土遺物（２）… 625
第468図　108号住居址・出土遺物（１）… 627
第469図　108号住居址出土遺物（２）… 628
第470図　110号住居址 …… 630
第471図　114号住居址・出土遺物 …… 632
第472図　116号住居址・出土遺物 …… 633
第473図　117号住居址 …… 635
第474図　117号住居址出土遺物 …… 636
第475図　127号住居址・出土遺物（１）… 637
第476図　127号住居址出土遺物（２）… 639
第477図　130号住居址・出土遺物 …… 641
第478図　古墳時代土坑（１）……642
第479図　古墳時代土坑（２）……644
第480図　古墳時代土坑（３）……646
第481図　古墳時代土坑（４）……648
第482図　古墳時代土坑（５）……649
第483図　古墳時代土坑出土遺物（１）…650
第484図　古墳時代土坑出土遺物（２）…652
第485図　古墳時代土坑出土遺物（３）…655
第486図　歴史時代遺構配置図……656
第487図　106号住居址・出土遺物 …… 658
第488図　１・２号溝……659
第489図　１・２号溝出土遺物……660
第490図　トレンチ内出土遺物……661
第491図　その他の遺構配置図……663
第492図　10号住居址……664
第493図　１号炭窯住居址……665
第494図　時期不明土坑（１）……666
第495図　時期不明土坑（２）……668
第496図　時期不明土坑（３）……670
第497図　時期不明土坑（４）……672

表　目　次

表 1　1号住居址出土遺物観察表 …… 416
表 2　2号住居址出土遺物観察表 …… 419
表 3　3号住居址出土遺物観察表 …… 422
表 4　4号住居址出土遺物観察表 …… 426
表 5　5号住居址出土遺物観察表 …… 429
表 6　6号住居址出土遺物観察表 …… 432
表 7　7号住居址出土遺物観察表 …… 434
表 8　8号住居址出土遺物観察表 …… 436
表 9　9号住居址出土遺物観察表 …… 438
表10　11号住居址出土遺物観察表 …… 441
表11　12号住居址出土遺物観察表 …… 443
表12　13号住居址出土遺物観察表(1) … 443
表13　13号住居址出土遺物観察表(2) … 445
表14　16号住居址出土遺物観察表(1) … 447
表15　16号住居址出土遺物観察表(2) … 448
表16　17号住居址出土遺物観察表 …… 450
表17　18号住居址出土遺物観察表 …… 451
表18　19号住居址出土遺物観察表 …… 453
表19　20号住居址出土遺物観察表 …… 455
表20　21号住居址出土遺物観察表 …… 457
表21　22号住居址出土遺物観察表(1) … 459
表22　22号住居址出土遺物観察表(2) … 460
表23　23号住居址出土遺物観察表 …… 461
表24　24号住居址出土遺物観察表 …… 463
表25　25号住居址出土遺物観察表 …… 465
表26　26号住居址出土遺物観察表 …… 468
表27　27号住居址出土遺物観察表(1) … 469
表28　27号住居址出土遺物観察表(2) … 471
表29　36号住居址出土遺物観察表 …… 475
表30　37号住居址出土遺物観察表 …… 477
表31　38号住居址出土遺物観察表(1) … 479
表32　38号住居址出土遺物観察表(2) … 480
表33　39号住居址出土遺物観察表 …… 483
表34　40号住居址出土遺物観察表 …… 485
表35　42号住居址出土遺物観察表 …… 487
表36　47号住居址出土遺物観察表(1) … 489
表37　47号住居址出土遺物観察表(2) … 491
表38　48号住居址出土遺物観察表(1) … 493
表39　48号住居址出土遺物観察表(2) … 494
表40　49号住居址出土遺物観察表 …… 495
表41　50号住居址出土遺物観察表(1) … 497
表42　50号住居址出土遺物観察表(2) … 498
表43　52号住居址出土遺物観察表 …… 499
表44　53号住居址出土遺物観察表 …… 501
表45　54号住居址出土遺物観察表(1) … 503
表46　54号住居址出土遺物観察表(2) … 504
表47　55号住居址出土遺物観察表 …… 506
表48　56号住居址出土遺物観察表(1) … 506
表49　56号住居址出土遺物観察表(2) … 508
表50　56号住居址出土遺物観察表(3) … 510
表51　57号住居址出土遺物観察表(1) … 512
表52　57号住居址出土遺物観察表(2) … 513
表53　58号住居址出土遺物観察表 …… 514
表54　61号住居址出土遺物観察表 …… 517
表55　62号住居址出土遺物観察表 …… 518
表56　66号住居址出土遺物観察表 …… 525
表57　67号住居址出土遺物観察表 …… 526
表58　69号住居址出土遺物観察表(1) … 530
表59　69号住居址出土遺物観察表(2) … 531
表60　70号住居址出土遺物観察表 …… 531
表61　71号住居址出土遺物観察表 …… 534
表62　72号住居址出土遺物観察表(1) … 536
表63　72号住居址出土遺物観察表(2) … 537
表64　73号住居址出土遺物観察表 …… 538

表65　75号住居址出土遺物観察表(1)…541
表66　75号住居址出土遺物観察表(2)…542
表67　77号住居址出土遺物観察表(1)…545
表68　77号住居址出土遺物観察表(2)…546
表69　78号住居址出土遺物観察表(1)…548
表70　78号住居址出土遺物観察表(2)…549
表71　79号住居址出土遺物観察表……552
表72　80号住居址出土遺物観察表(1)…553
表73　80号住居址出土遺物観察表(2)…556
表74　81号住居址出土遺物観察表(1)…558
表75　81号住居址出土遺物観察表(2)…559
表76　82号住居址出土遺物観察表……561
表77　83号住居址出土遺物観察表(1)…561
表78　83号住居址出土遺物観察表(2)…564
表79　83号住居址出土遺物観察表(3)…566
表80　83号住居址出土遺物観察表(4)…567
表81　84号住居址出土遺物観察表……569
表82　85号住居址出土遺物観察表……571
表83　86号住居址出土遺物観察表……573
表84　87号住居址出土遺物観察表……575
表85　88号住居址出土遺物観察表(1)…575
表86　88号住居址出土遺物観察表(2)…578
表87　90号住居址出土遺物観察表……581
表88　91号住居址出土遺物観察表……583
表89　93号住居址出土遺物観察表(1)…585
表90　93号住居址出土遺物観察表(2)…587
表91　94号住居址出土遺物観察表(1)…591
表92　94号住居址出土遺物観察表(2)…593
表93　95号住居址出土遺物観察表……596
表94　96号住居址出土遺物観察表(1)…598
表95　96号住居址出土遺物観察表(2)…600
表96　97号住居址出土遺物観察表(1)…602
表97　97号住居址出土遺物観察表(2)…604
表98　98号住居址出土遺物観察表……606
表99　100号住居址出土遺物観察表(1)……609
表100　100号住居址出土遺物観察表(2)…611
表101　100号住居址出土遺物観察表(3)…613
表102　101号住居址出土遺物観察表(1)…615
表103　101号住居址出土遺物観察表(2)…616
表104　101号住居址出土遺物観察表(3)…617
表105　102号住居址出土遺物観察表(1)…617
表106　102号住居址出土遺物観察表(2)…619
表107　104号住居址出土遺物観察表……621
表108　105号住居址出土遺物観察表……623
表109　107号住居址出土遺物観察表(1)…625
表110　107号住居址出土遺物観察表(2)…626
表111　108号住居址出土遺物観察表……629
表112　114号住居址出土遺物観察表(1)…631
表113　114号住居址出土遺物観察表(2)…633
表114　116号住居址出土遺物観察表……634
表115　117号住居址出土遺物観察表(1)…634
表116　117号住居址出土遺物観察表(2)…636
表117　127号住居址出土遺物観察表(1)…638
表118　127号住居址出土遺物観察表(2)…640
表119　130号住居址出土遺物観察表……641
表120　古墳時代土坑出土遺物観察表(1)
……651
表121　古墳時代土坑出土遺物観察表(2)
……653
表122　古墳時代土坑出土遺物観察表(3)
……654
表123　106号住居址出土遺物観察表……657
表124　1・2号溝出土遺物観察表……660
表125　トレンチ内出土遺物観察表(1)…661
表126　トレンチ内出土遺物観察表(2)…662

図 版 目 次

図版１　調査前全景　南→
テストピット掘り下げ作業　北西→
遺構確認状況(No.11トレンチ)西→
遺構確認状況(No.10トレンチ)西→
遺構確認状況(No.９トレンチ)西→

図版２　昭和63年度調査全景(空撮)
昭和63年度本調査区全景(空撮)

図版３　平成元年度調査区全景(空撮)

図版４　東端部･南端部調査区全景(空撮)

図版５　南西部縄文時代遺構密集地区全景(空撮)東側･西側

図版６　28号住居址～32号住居址･遺物出土状況

図版７　32号住居址･炉址近影･遺物出土状況(１)(２)
33号住居址遺物出土状況(１)(２)(３)(４)

図版８　33号住居址遺物出土状況(５)･同集石近影･33号住居址
34号住居址･炉址近影
35号住居址遺物出土状況(１)(２)

図版９　35号住居址･炉址近影
43号住居址遺物出土･43号住居址
44号住居址内遺物出土(１)(２)(３)(４)

図版10　51号住居址セクション･遺物出土状況(１)(２)　51号住居址検出･炉址近影
59号住居址
111号住居址
113号住居址

図版11　113号住居址遺物出土状況(１)(２)･検出状況(１)(２)･炉址(１)(２)(３)･入り口部柱穴

図版12　118号住居址遺物出土状況(１)(２)
118号住居址(空撮)･(南より)

図版13　119号住居址･119号住居址炉址近影
120･121号住居址検出状況
120号住居址炉址近影
121号住居址炉址近影

図版14　122号住居址遺物出土状況(１)(２)
122号住居址遺物出土状況(１)(２)
123号住居址･124号住居址

図版15　125号住居址遺物出土･125号住居址検出状況
126号住居址内埋甕確認･検出状況
128号住居址･炉址近影

図版16　131号住居址検出　南より
131号住居址周礫･敷石除去状況

図版17　132号住居址検出　南より
132号住居址周礫･敷石除去状況

図版18　縄文時代住居址出土遺物
32号住居址出土遺物(１)

図版19　32号住居址出土遺物(２)

図版20　32号住居址出土遺物(３)

図版21　32号住居址出土遺物(４)

図版22　33号住居址出土遺物(１)

図版23　33号住居址出土遺物(２)

図版24　34号･35号･３号溝住居址出土遺物

図版25　113号･118号住居址出土遺物

図版26　122号～126住居址出土遺物(10)

図版27　28号～32号住居址遺物

図版28　32号住居址出土遺物

図版29　32号住居址出土遺物
33号住居址出土遺物

図版30　33号住居址出土遺物
34号住居址出土遺物(1)
図版31　34号住居址出土遺物(2)
図版32　35号住居址出土遺物
3号溝出土遺物
図版33　51号住居址出土遺物(1)
図版34　51号住居址出土遺物(2)
図版35　59号·113号住居址出土遺物
図版36　113号·118号·119号住居址出土遺物
図版37　120号·122号·124号住居址出土遺物
図版38　124号·125号·126号住居址出土遺物
図版39　126号·131号·132号住居址
出土遺物(1)
図版40　132号住居址出土遺物(2)
図版41　配石遺構全景
1号配石遺構　立石が3基検出
図版42　配石遺構全景(1)　南より正面の赤城山(南側)を望む
図版43　配石遺構全景(2)　1号配石
図版44　配石群確認状況　発掘風景4
配石群発掘風景　上部配石1　7号配石実測風景(セクション)
配石群発掘風景　上部配石2　配石群実測風景　全景
配石発掘風景3　調査終了状況　埋め戻し保存
図版45　1号立石　1号配石　2号立石
3号、4号立石検出状況　5号立石
6号立石　8号、10号立石　7号、
9号配石上面　13号立石　8号配石
図版46　上部配石
15号配石近影　15号配石
15号配石　16号配石
下部配石全景
図版47　1号配石　1号配石遺物出土状況
2号配石　2号配石掘り方
3号配石　3号配石掘り方
4号配石　4号配石遺物出土状況
図版48　4号配石全景
同北側側石　同南側側石
同東側側石　同西側側石
図版49　5号配石
同配石　側面(北側)　同配石　側面(南側)　同配石　側面(東側)　同配石　側面(西側)
図版50　6号配石·確認状況　同配石検出状況　同配石側石(北)　同配石側石(南)　6号配石側石(西)
同配石側石(東)　同配石(セクション)　同(東)多孔石近影
図版51　7号配石検出　同配石北東隅遺物出土　9号配石蓋石状況　9号配石検出　10号配石蓋石状況　同配石検出状況　11号配石蓋石検出状況　同配石検出状況
図版52　12号配石　蓋石状況　同配石検出状況
13号配石　蓋石状況　同配石検出状況
14号配石　蓋石状況　同配石検出状況
17号配石　蓋石状況　同配石検出状況
図版53　下部配石(石棺形)
18号配石　蓋石検出状況　18号配石
20号配石　21号配石
21号配石～22号配石　22号配石
23号配石　蓋石検出状況　同配石検出状況
(蓋石除去)

図版54　23号配石遺物出土状況　23号同遺物出土状況
23号配石掘り方確認状況　23号配石検出(蓋石除去)状況
24号配石検出状況　同遺物出土状況
25号配石検出状況　25号配石検出状況

図版55　25号配石　遺物近影　同配石遺物出土状況
3号、4号立石検出状況　26号配石検出状況(3号、4号立石の下より検出)W－グリッド内8号埋甕
27号配石検出　1号集石検出状況
2号集石検出状況　同発掘風景

図版56　縄文時代配石遺構内出土遺物
1号配石－1　三角壕形土製品

図版57　配石群周辺グリッド内、遺物出土状況
Y－24グリッド遺物近影　5号配石付近Z－18G　Y－19G　14号配石
Y－19G(内)(南)
R－18G　12号配石Y－19G南西付近遺物出土
Z－18G出土状況　22号配石遺物近影

図版58　配石遺構周辺グリッド内出土遺物
Y－17G、18G　Z－23G、27－G

図版59　屋外埋設土器
1号屋外埋設土器セクション　同検出状況
2号屋外埋設土器セクション　同検出状況
3号屋外埋設土器セクション　同検出状況
4号屋外埋設土器セクション　同検出状況

図版60　屋外埋設土器　縄文時代土坑
5号屋外埋設土器　同検出状況
6号屋外埋設土器　7号屋外埋設土器
7号屋外埋設土器　8号屋外埋設土器
9号屋外埋設土器　30号土坑出土状況

図版61　縄文時代配石遺構内出土遺物　3、9、7、5屋外埋設土器

図版62　縄文時代土坑
39号土坑　105土坑
146号土坑　同遺物出土近影
225号土坑セクション　同検出状況
223号土坑　346土坑

図版63　367号土坑　115土坑セクション
115号土坑　同遺物近影
198号土坑　186号土坑
328号土坑　386号～403号土坑

図版64　58号土坑(縄文)
59号土坑(縄文)
87号土坑(縄文)
156号土坑(縄文)
166号土坑(縄文)
181号土坑(縄文)
355号土坑(縄文)
382号土坑(縄文)

図版65　405号土坑遺物出土状況　405号土坑検出状況　E→
同土坑内　敷石近影　N→
同土坑内　敷石近影　N→
同土坑内　埋甕検出状況　W→
同掘り方確認　W→
同敷石除去後全景　E→

図版66　土坑内出土遺物
2D－1　226D－1　8D－1
335D－1　405D－8　405号内埋甕
図版67　縄文時代土坑内出土遺物
405号土坑
トレンチ内出土遺物
No.3T　No.7T土製円盤
図版68　土坑内出土石器
146D－1(石棒)　8D－1
21D－1　21D－15　32D－1
33D－2　35D－1　133D－2
177D　203D　213D　218D－1
図版69　3号溝(河川址全景)
3号溝(河川址)セクション
3号溝(河川址)東→
北部土石流検出　北西→　同北→
図版70　縄文時代溝出土遺跡(1)
図版71　縄文時代溝出土遺跡(2)
図版72　縄文遺物包含層調査状況
L－31グリッド　同遺物近影
W－13グリッド　同遺物近影
Y－Z－15、16グリッド、b，c－23グリッド
図版73　グリッド内出土遺物(1)
第1群　第2群　第3群
図版74　グリッド内出土遺物(2)
図版75　グリッド内出土遺物(3)
図版76　グリッド内出土遺物(4)
図版77　土偶(1)
Y24G－4　Y26G　Z26G
HTa－26G上　Y－18G－76
CTV15GⅡ層
図版78　土偶(2)
Y－13G　2W－P11－G　W－16
GY－21G　W－15G　Y－23G
Z20G　Z20G　a－21G　184D
図版79　土器片転用土製円盤
図版80　縄文時代表採遺物(1)
図版81　縄文時代表採遺物(2)
図版82　グリッド内出土遺物(1)
図版83　グリッド内出土遺物(2)
図版84　グリッド内出土遺物(3)
図版85　グリッド内出土遺物(4)
図版86　古墳時代住居址発掘作業風景
26号住居址発掘風景　S→
26号住居址発掘風景　N→
実測風景(6号住)　奥SE→
発掘作業風景(4号住手前)
96号住居址　発掘風景　NE→
1号住居址カマド、貯蔵穴調査状況
88号住居址　2号溝発掘風景　W→
91号住居址床下調査状況　S→
1号溝　調査状況　N→
図版87　1号住居址　1号住居址カマド
2号住居址遺物出土　2号住居址
左、右2号住居址遺物出土
←↑6号住居址
図版88　3号住居址　遺物出土風景
カマド近影　同遺物近影
3号住居址遺物出土　貯蔵穴
図版89　3号住居址全景
カマド内遺物近影　同1番遺物除去状況　同2番遺物除去状況　同3番遺物除去　支脚検出

図版90　4号住居址全風景
4号住居址カマド　4号住居址カマドセクション　5号住居址　7号住居址遺物出土

図版91　8号住居址遺物出土　8号住居址
9号住居址遺物出土　9号住居址
11号住居址遺物出土　11号住居址
12号住居址遺物出土　12号住居址
遺物近影

図版92　12号住居址　13号住居址
16号住居址　16号住居址遺物近影
16号貯蔵穴　17号住居址
17号住居址　18号住居址遺物近影

図版93　19号住居址遺物出土　19号住居址遺物近影
19号住居址　20号住居址
21号住居址　22号住居址遺物出土状況
22号住居址　22号住居址

図版94　22号住居址　23号住居址
24号住居址　25号住居址
26号住居址　同除去状況
27号住居址遺物出土状況　同検出状況

図版95　36号住居址遺物出土　36号住居址
37号住居址遺物出土　37号住居址
38号住居址　38号住居址遺物近影
39号住居址　39号住居址遺物出土

図版96　40号住居址遺物出土状況　41号住居址
42号住居址　42号住居址遺物出土
42号住居址遺物出土状況　46号住居址
47号住居址　47号住居址遺物近影

図版97　47号住居址遺物出土　48号住居址
48号住居址　48号住居址遺物近影
48号住居址　49号住居址　50号住居址遺物近影　50号住居址

図版98　54号住居址セクション　同遺物出土状況（1）　同遺物出土状況（2）　同遺物近影　同遺物近影　同遺物近影
同遺物近影　同遺物近影

図版99　55号住居址　55号住居址
56号住居址　56号同遺物近影
56号同遺物近影　56号住居址
57号住居址　57号同遺物近影

図版100　60号住居址　61号住居址遺物出土
61号住居址遺物出土　66号住居址完掘
66号住居址　66号住居址同カマド近影
66号住居址カマド遺物近影　67号住居址

図版101　68号住居址　69号住居址
70号住居址　69号住居址遺物近影
71号住居址カマド近影
同支脚　72号住居址

図版102　74号住居址　74号住居址遺物近影
75号住居址　76号住居址
76号住居址　カマド近影
76号住居址　同遺物近影
77号住居址同遺物近影　77号住居址

図版103　78号住居址
78号住居址同カマド近影　79号住居址
79号住居址同かマド近影　79号同カマド近影
80号住居址　80号住居址同遺物近影

図版104　80号住居址カマド近影　80号住居址
81号住居址　81号住居址カマド近影
81号カマド近影

82号住居址　83号住居址
図版105 83号住居址カマド遺物近影　83号住居址カマド近影
84号住居址　85号住居址
86号住居址　88号住居址
88号同遺物出土状況　88号同遺物近影
図版106 88号住居址　88号同遺物近影
90号住居址　91号住居址
92号住居址　94号住居址
94号住居址旧カマド付近　94号同旧カマド
図版107 94号住居址カマド近影　94号同旧カマド近影
95号住居址　95号住居址同遺物近影
96号住居址　96号同遺物近影
97号住居址９７号同カマド近影
図版108 98号住居址　98号同カマド近影
99号住居址　100号住居址
100号同カマド近影　100号同階段状遺構南→
100号同東→　100号同遺物近影
図版109 100号同遺物近影　101号住居址
101号同カマド近影　102号住居址
104号住居址　105号住居址
105号住居址　107号住居址
図版110 107号住居址　107号同遺物出土状況
108号住居址遺物出土状況　108号住居址　108号同カマド　108号同カマド近影　114号住居址　114号カマド近影
図版111 114号住居址カマド近影　116号住居址　117号住居址　117号同遺物近影
127号住居址　127号同遺物近影
130号住居址遺物近影　130号住居址
図版112 古墳時代　住居址出土遺物(１)
１号住居址出土遺物～２号住出土遺物
図版113 古墳時代　住居址出土遺物(２)
３号住出土遺物～４号住出土遺物
図版114 古墳時代　住居址出土遺物(３)
４号住出土遺物～６号住出土遺物
16号住出土遺物　17号住出土遺物
19号住出土遺物
図版115 古墳時代　住居址出土遺物(４)
19号住出土遺物　23号住出土遺物
25号住出土遺物～27号住出土遺物
36号住出土遺物～38号住出土遺物
40号住出土遺物　42号住出土遺物
47号住出土遺物　48号住出土遺物
50号住出土遺物
図版116 古墳時代　住居址出土遺物(５)
53号住出土遺物　54号住出土遺物
56号住出土遺物
図版117 古墳時代　住居址出土遺物(６)
57号出土遺物　61号住出土遺物　66号住出土遺物　67号住出土遺物　69号結出土遺物　70号住出土遺物
図版118 古墳時代　住居址出土遺物(７)
71号住出土遺物　72号住出土遺物
75号住出土遺物　77号住～80号住出土遺物
図版119 古墳時代　住居址出土遺物(８)
80号住出土遺物　83号住出土遺物
図版120 古墳時代　住居址出土遺物(９)
81号住出土遺物(土師)　83号住～86号住出土遺物　88号住出土遺物
図版121 古墳時代　住居址出土遺物(10)
88号住出土遺物　93号住出土遺物
94号住出土遺物

図版122 古墳時代　住居址出土遺物(11)
94号住～96号住出土遺物
図版123 古墳時代　住居址出土遺物(12)
96号住～98号住出土遺物
図版124 古墳時代　住居址出土遺物(13)
100号住～102号住出土遺物
104号住出土遺物
図版125 古墳時代　住居址出土遺物(14)
105号住出土遺物　107号住出土遺物
108号住出土遺物　117号住出土遺物
図版126 古墳時代　住居址出土遺物(15)
117号住出土遺物
127号住出土遺物　127号住出土遺物
図版127 古墳時代　住居址出土遺物(16)
94号－34、38出土遺物　97号－18出土遺物
図版128 古墳時代土坑(1)
円形土坑検出状況(空撮)
図版129 古墳時代土坑(2)
7号土坑　8号土坑
9号土坑　12号土坑
13号土坑セクション　13号土坑
14号土坑　18号土坑
図版130 古墳時代土坑(3)
16号土坑　17号土坑
17号土坑セクション　22号土坑
21号土坑　25、26号土坑　28、33号土坑　28号土坑
図版131 古墳時代土坑(4)
31号土坑　33号土坑
37号土坑　39号土坑
118号土坑遺物出土状況　220号土坑
302、303号土坑　完掘　329号土坑
完掘
図版132 歴史時代　溝
1号溝全景
1号溝セクション　2号溝セクション
2号溝　北側より　2号溝　南側より
図版133 出土遺物が検出されていなかった住居址(時代は覆土の状況より)
10号住居址(時期不明)　14号住居址(縄文時代)
15号住居址発掘風景　15号住居址(縄文時代)
45号住居址(古墳時代)　63号住居址(古墳時代)
63号住居址(古墳時代)　106号住居址(歴史時代)　106号同カマド近影
図版134 時期不明遺構　1号炭窯　38号土坑(製鉄遺構?)　38号土坑　掘り方
38号土坑(製鉄遺構?)近影
図版135 歴史時代　溝・トレンチ内出土遺物
1号溝　2号溝覆土上面No.2～No.10トレンチ

第1章　発掘調査に至る経緯と調査組織

荒砥工業団地造成に伴う横倹遺跡大道遺跡の発掘調査に至る経緯と経過については下記のとおりである。

昭和61年10月　前橋工業団地造成組合より下大屋町・西大室町にまたがる工業団地の開発計画が提示され、教育委員会社会教育課文化財保護係あてに当該予定地内の埋蔵文化財の分布状況についての問い合わせがある。

昭和61年11月　文化財保護係職員による分布調査が実施される。

昭和61年12月　開発予定地内の埋蔵文化財の分布状況を記した地図を作成し、分布状況についての回答をする。

昭和62年４月　開発予定地内の埋蔵文化財の取り扱い（調査期間、調査費用、調査体制）等について前橋工業団地造成組合と協議する。

昭和62年12月　昭和63年度の前橋工業団地造成組合事業計画に荒砥工業団地の造成が計画される。

昭和63年４月　63年度の埋蔵文化財発掘調査の計画について前橋工業団地造成組合と協議する。荒砥工業団地の埋蔵文化財については、11月より第一街区の確認調査から入ることになる。

昭和63年11月　前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導監督の下に、第一街区の確認調査が山武考古学研究所・スナガ環境測設により実施される。

第一街区の字上諏訪山地区については、確認調査の結果遺跡が認められず本調査は無しとなる。

字大道地区については、縄文時代から古墳時代にわたる複合遺跡であるということが分かり、約45,000㎡を対象に本発掘調査が必要となる。

平成元年２月　前橋工業団地造成組合との協議の結果、大道遺跡のうち、約4200㎡を対象に本発掘調査が実施される。

平成元年４月　大道遺跡の発掘調査が継続して実施される。

（前橋市教育委員会文化財保護課）

前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査組織(昭和63年・平成元年度)

団　　長　二瓶　益巳（前橋市教育委員会　管理部長）
事務局長　福田　紀雄（前橋市教育委員会　文化財保護課長）
事務局次長　浜田　博一（前橋市教育委員会　埋蔵文化財係長）
調査指導　遠藤　和夫（前橋市教育委員会　埋蔵文化財係主任）
　　新保　一美（前橋市教育委員会　埋蔵文化財係嘱託員）
　　平岡　和夫（山武考古学研究所所長）
　　須永　眞弘（スナガ環境測設株式会社代表取締役）

調査担当者

北部担当（Hグリッド線以北4,000㎡）
　　白石　光男（スナガ環境測設株式会社埋蔵文化財第2チーフ）
南部担当（Hグリッド線以南40,851㎡）
　　近江屋成陽（山武考古学研究所調査研究員）
　　間宮　政光（山武考古学研究所調査員）

発掘調査協力者

飯島いし、飯島キクエ、飯塚明三、石井春江、石関うめ子、石田いつ、伊藤廉倫、井野ヒロ、石関コズエ、入沢やい、岩上まさえ、江口よしの、大川きよ、大沢やよい、大山浩子、小川悦子、女屋知恵子、小野木年江、勝田キミエ、鹿沼豊子、神沢芳子、木島ヒサ子、木村すい子、木村瑞枝、栗原計子、高坂とも、高坂花子、小屋たみ子、斎藤重美、斎藤たけ、斎藤まき子、斎藤八重子、坂牧光枝、桜井啓一、桜井貞子（上並榎）、桜井貞子（下大島）、渋沢成一、新保永二、新保勝太郎、新保隆、新保富恵、新保昌子、新保まつ、新保松乃、新保幸永、須賀コト、須賀サイ、須藤なを子、関トシ子、善セツ子、高尾ハル、高橋やすの、武井ヨシ、田代きよ、田村愛子、都築俊之、角田トリ、鳥山初子、中山銀造、萩原あや子、萩原ミヨノ、畑村正一、蜂須賀もとめ、羽鳥イソヨ、原島さい子、原島なか、福島逸司、堀越うめ子、堀越くに、堀口ふくの、前原アヤ子、牧野ゆき子、松井きん、松永シマ子、真庭トシ、村山弘子、茂木典子、諸田恒次郎、諸田棲子、八木原きぬ子、八木原テル子、山口里江、山口キク、山口きく枝、山口久松、山田由美子、横沢和代、横沢信子、吉田良子

第2章　遺跡の位置と歴史的環境

第1節　位置と環境

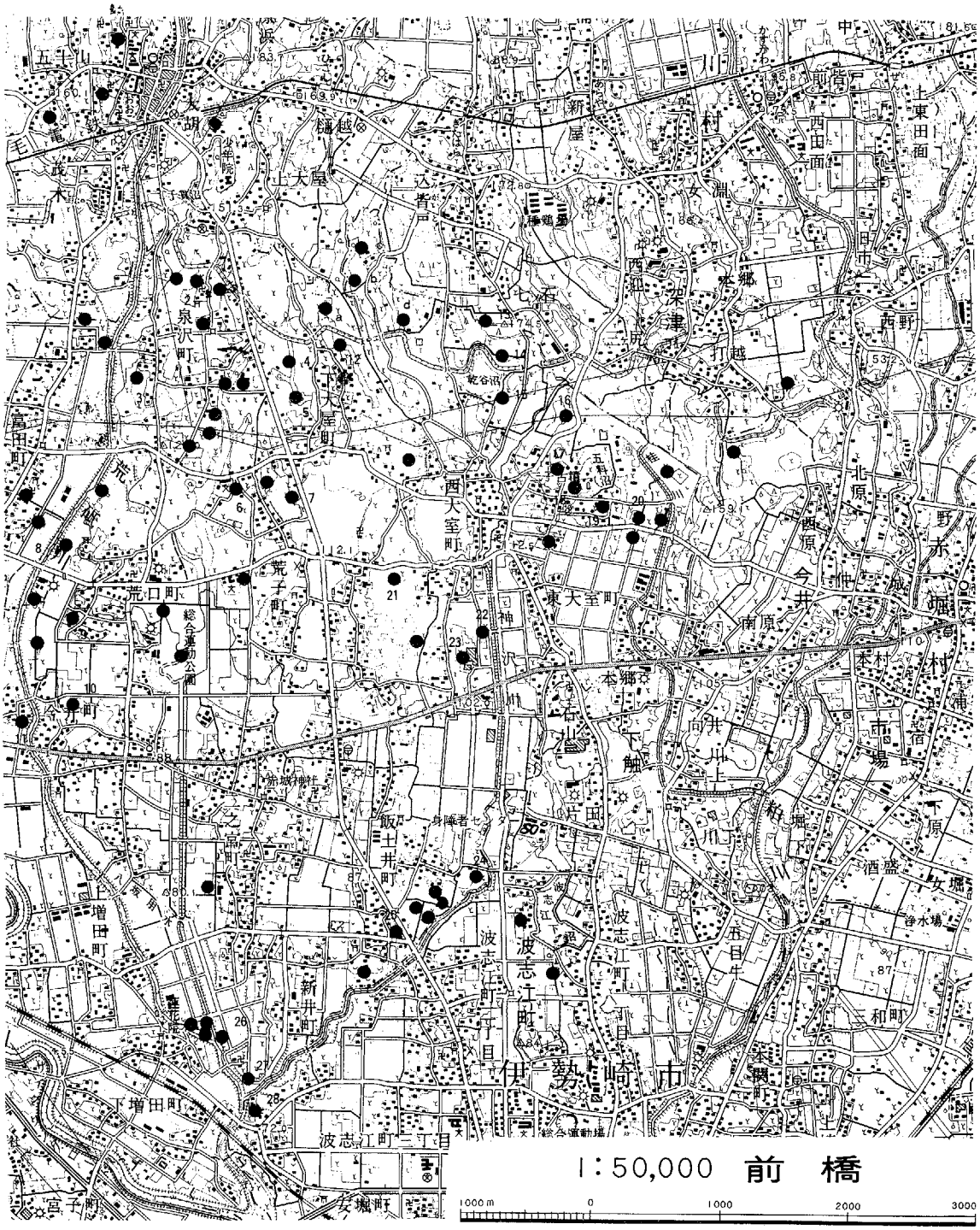
横俵遺跡群は前橋市下大屋町字上諏訪山・大道、西大室町熊の穴・上横俵・中横俵・大久保に所在している。前橋市の市街地からは東へ約9㎞の旧荒砥地区に位置し、東西約1.2㎞、南北約1㎞、面積55ヘクタールという広大な範囲に及ぶ。その中の本報告の大道遺跡は上毛電鉄大胡駅から南へ約2.5㎞、本遺跡群を貫流する利根川の支流である神沢川の西側の低台地上に存在する。『群馬県遺跡台帳・前橋編』には八光ABC遺跡として記載されている周知の遺跡である。

遺跡の立地する赤城山南麓は広大な裾野地形を形成し北から南への緩傾斜地となっている。この斜面は、第四期洪積世に活動を始めたと考えられる赤城山の火山泥屑物・火山泥屑物が主な構成要素であり、それらの上を赤城、榛名、浅間山等の諸火山によって噴出された火山灰が風化しローム層を厚く覆っている。

本遺跡群内の台地部分の地層も浅間B軽石、浅間C軽石等を含む黒色土の下に浅間－板鼻黄色軽石、浅間－白糸軽石、浅間－板鼻褐色軽石、姶良－丹沢火山灰、暗色帯、赤城－鹿沼軽石、榛名－八崎軽石等が順を追って確認される。

赤城火山斜面上には、多数の中小河川が南下しているため赤城山南麓は河川の解析により舌状台地、沖積地、裾野扇状地が発達している。本遺跡群を東西に二分する神沢川も幾度かの流路を変え氾濫を繰り返していたと考えられる形跡が本遺跡にも数ケ所認められた。(図版72)そのため本遺跡の地表面はロームの原形面、砂壌土、沖積地の粘質土と複雑な土壌となっている。標高は137ｍ～141ｍを測る。

本遺跡群周辺は河川の流量が比較的少なく流速が早いため、大正用水に見られるような人口の用水路、八光沼、横俵沼のような溜め池、沼等の潅漑施設は古い時代から発達していたと考えられる。遺跡の現況も水田、桑畑、牧草畑、果樹園として利用されていた。現在は工場用地として姿を変えている。尚、縄文時代の配石遺構は現況のまま地下に保存されている。



第1図　横俵遺跡群と周辺の遺跡分布図

1.横俵遺跡群（a.大道遺跡　b.上横俵遺跡　c.熊の穴遺跡　d.大久保遺跡）2.谷津遺跡
3.丸山遺跡　4.東原B遺跡　5.村主遺跡　6.荒子小学校Ⅱ遺跡　7.堤東遺跡　8.富田遺跡群
9.荒口前原遺跡　10.荒砥北三木堂遺跡　11.今井城跡　12.大道遺跡（県教委、昭和63年度調査部分）
13.七ツ石古墳群　14.七ツ石遺跡　15.北山遺跡　16.上縄引遺跡　17.後二子古墳　18.中二子古墳
19.前二子古墳　20.梅木遺跡　21.荒子の砦遺跡　22.荒砥東原遺跡　23.荒砥二之堰遺跡
24.赤石城跡　25.新土塚城跡　26.荒砥前原遺跡　27.八坂遺跡

第2節　周辺の遺跡

本遺跡群の周辺には土地改良事業や城南住宅団地造成等、大規模な開発の増加とともに多くの遺跡が発見されている。以下、縄文時代以降の主な遺跡について概観していく。

縄文時代

前期と中期後半から後期初頭の小規模な集落が点在している。本遺跡群の中では大道遺跡の東岸の神沢川を隔てた東側の台地に存在する熊の穴遺跡（平成元年度調査）に前期諸磯式土器を伴出した住居址が4軒検出している。

中期後半から後期初頭では赤堀村曲沢遺跡（調査時は赤堀村であったが現在は赤堀町である。）には大規模な集落の調査事例がある。しかし、市内では小規模な集落の調査事例が現状である。主な遺跡は荒砥前原遺跡、荒砥北原遺跡の中期の集落址。荒砥二之堰遺跡は中期後半の集落址で、柄鏡形敷石住居址が検出している。また、近接する伊勢崎市の八坂遺跡では後期後半の配石遺構が検出しているが、配石遺構は現在のところ周辺ではこの一例のみである。

本遺跡の広がりと考えられる大正用水を隔てた南側の地域では、昭和63年度に群馬県教育委員会が県営圃助整備工事に先立って同名の大道遺跡として発掘調査が行われた。検出された遺構は縄文後期の住居址1軒であった。

弥生時代

弥生時代になると遺跡の発見例は少ない。中期後半から後期の小規模な集落が七ツ石遺跡、荒砥上川久保遺跡、荒砥前原遺跡、荒口前原遺跡、荒砥島原遺跡で検出されている。沖積地を臨んだ台地の縁辺や微高地上に立地する傾向をもっている。

古墳時代

古墳時代になると遺跡数が一段と増加する。前期では本遺跡群の熊の穴遺跡で住居址が10軒検出されている。赤城南麓の荒砥地区では、、樽式土器、赤井戸式土器、古式土師との供伴する資料をもつ遺跡がかなり見られる。

周溝墓の検出例では、本遺跡の西側約1㎞の東原B遺跡で16基検出している。遺物は二重口縁穿孔壺が出土している。その他、上縄引遺跡、島原遺跡、堤東遺跡などでみられる。また現在のところ前期古墳の発見例はみられない。

中期の遺跡は現在のところ発見例は少ない。荒砥荒子遺跡、梅木遺跡（後期まで存続する可能性がある）、丸山遺跡で環豪と柵列で囲まれた館跡と考えられる遺構が発見されている。集落址では、荒砥上諏訪遺跡、荒砥東原遺跡谷津遺跡、荒砥北原遺跡でみられる。

後期に入ると遺跡は増加し、古墳や集落址が多く点在する。主な遺跡としては、本遺跡の南東約2㎞の五料沼のほとりに、国史跡となっている前方後円墳、前二子、中二子、後二子古墳

が存在する。その他に、本遺跡の南約800ｍのところに伊勢山古墳が存在する。また神沢川右岸台地上には、上横俵古墳群と熊の穴古墳群が存在している。この地区も荒砥工業団地造成地区に入っており、横俵遺跡群として平成元年度には、熊の穴遺跡Ｍ－１号墳として直径約25ｍほどの小円墳が１基調査されている。

集落址では本遺跡に近い（西へ約1.2km）位置にある東原Ｂ遺跡、村主遺跡。また、大正用水を隔てた南側の大道遺跡では住居址が１軒検出されている。その他、周辺には検出例が多くみられる。

奈良・平安時代

奈良・平安時代ではさらに遺跡の検出例が増大する。本遺跡群の１つ大久保遺跡からは平安時代の住居址が２軒検出された。１号住居址からは『東』、『中』、と書かれた墨書土器が出土している。また、本遺跡の南西約２kmに位置する荒子小学校校庭Ⅱ遺跡では住居址12軒が検出されており、３号住居址床直上から銅印が１点出土している。

中世以降

集落址は現在のところ発見されていない。城、館跡、としては荒子の砦、大室元城、今井城、城山城、赤石城、中屋敷等が存在する。また、富田遺跡群では板碑や五輪塔と共に骨蔵器が出土している。さらに、荒砥北三木堂遺跡では火葬墓の検出がみられる。

以上のように本遺跡をとりまくことの地域では、考古学上重要な地域と考えられる。

参考文献

『群馬県遺跡台帳』前橋編

『群馬県史』資料編１・２・３

「村主遺跡・東原Ｂ遺跡」現地説明会資料　群馬県教育委員会　昭和62年10月17日

「阿弥陀井戸道上・伊勢山・大道・山王・明神山」昭和63年荒砥北部遺跡群発掘調査報告書　群馬県教育委員会

「山武考古学研究所年報」№7　昭和63年度　山武考古学研究所

「年報」平成元年度版　前橋市教育委員会

「横俵遺跡群Ⅰ」前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1990

第3章　調査の概要と経過

第1節　試掘調査

第1項　調査の概要

試掘調査は昭和63年12月21～平成元年3月4日に至って行われ対象面積74,750㎡の10％を調査対象とした。調査は真北にあわせ調査区内に20ｍ×20ｍのグリッドを設定し、そのグリッドに沿って東西へ20ｍおきに幅2ｍのトレンチを入れた。トレンチの呼称は南から北へNo.1・2・3・4・5・・トレンチとした。調査を実施するにあたって、試掘及び発掘調査とも平成元年11月まで、という期間的な制約があった為、面積も広大であるのを考慮し、トレンチ設定枠内に2ｍ×2ｍのテストピットを西端部、中央部、東端部、その他現況で地形的に変化のある部分に手掘りで確認面の調査を行ない、トレンチの掘り下げは重機（バックフォー0.7）を用い時間の節約に努めた。

第2項　日誌抄

昭和63年12月

16日、現地にて前橋市教育委員会文化財保護室主任（現・同保護課係長）遠藤和夫氏と調査区範囲について打ち合わせ。北限と南限、東西の範囲の確認を行う。21日より、トレンチ設定枠内に2ｍ×2ｍのテストピットを入れ遺構確認面の調査を開始する。27日、年内の作業は本日で終了。

昭和64年1月

6日より調査を再開する。遺構確認面の調査終了トレンチよりトレンチ掘り下げを開始する。平行してテストピットの掘り下げを行う。No.11トレンチより、住居址と思われる落ち込みを確認する。7日、No.10・11トレンチの西側は谷地となり、浅間B軽石準層が堆積しておりその下が泥炭層になっていて水田址の可能性が考えられたが調査の結果、畦畔が現れない為、水田址の可能性は薄い。本日が昭和の最後の日となる。

平成元年1月

8日、元号が変わり本日より平成となる。9日、トレンチ掘り下げを継続する。No.12トレンチより遺構確認作業を開始する。住居址と思われる落ち込みは16箇所認められる。13日、農協を挟んだ東側No.9～No.13トレンチの遺構確認作業に入る。No.12トレンチより住居址思われる落ち込み2箇所確認する。覆土内より古式土師の甕形土器の口縁部の破片が出土。石田川期のものと思われる。18日、前橋市教育委員会文化財保護係浜田、遠藤両氏来跡。本調査の打ち合わ

第2図　トレンチ設定図

せを行う。19日、No.6～No.7トレンチの西側は黒色土層が34cm～85cm堆積しており、地形的に谷地になっている。また、黒色土層には縄文後期の土器片が多量に含まれている。河川の氾濫の跡が認められるが遺物の摩滅が認められず、河川の氾濫の後の窪地に投棄されたものではないかと思われる。下旬より写真撮影、実測を行ない31日をもって北側の未解決部分を除き終了する。

2　月

3日、前橋市教育委員会社会教育課文化財保護室との協議により本調査区を設定する。7日より本調査開始。（詳細は本調査の項参照）9日、社会教育課文化財保護室との協議により北部約22,420㎡の保留区域を本調査、同時平行して試掘を行うこととなった。トレンチの入れ方は、前回と同じ方法で行い南側より同じ番号を付けた。13日北部22,420㎡に20m方眼の杭打ちを行う。15、トレンチの設定を行う。17日よのトレンチ掘り下げを開始する。20日、No.17トレンチの東寄りに径約50cm～1m程の安山岩質の集石が検出。人為的に並べてあるように見える。調査区外であるが古墳が付近に存在する為、古墳の石室の可能性が考えられる。24日、大喪の礼の為発掘調査休み。下旬より、写真撮影、実測を開始する。

3　月

先月に引き続き、遺構確認作業を行う。平行して写真撮影、実測を行ない、7日をもって終了。調査の結果、No.12、13トレンチよりまとまって住居址が認められた。また、No.15トレンチのやや西側寄りに広範囲に落ち込みが認められるが、自然の窪地の可能性が強い。No.17トレンチより覆土に焼土、炭化物を覆土中に含む楕円形の落ち込みが1箇所認められた。また、東寄りの集石は河川の氾濫による土石流によるものか、人為的に並べたようにも見え古墳の石室の室の可能性の2点が考えられ、この地区も本調査の必要が考えられる。

小　結

調査の結果、遺跡は西端と東寄りが谷地になりその間の中央部と東端の台地上に存在する。確認された遺構は台地の南西寄りに縄文後期の遺物を覆土中に含むものが集中し、土師器破片を覆土中に含むものが北側と南東側に分布している傾向を示した。

確認された遺構は住居址23軒、土坑12基、溝3条、遺物は縄文時代後期（称名寺、堀之内、加曽利B式）土器片、打製石斧、黒耀石石鏃、剝片、古墳時代前期、後期、奈良・平安時代の土師器（甕、坏）の破片、中世の摺鉢、近世陶器破片が採取された。

第3図　グリッド設定図

第2節　本　調　査

第1項　調査の概要

調査期間は平成元年2月7日～平成2年1月15日に亘って行われた。調査区域は確認調査の結果に基づき前橋市教育委員会社会教育課文化財保護室と協議を行い決定した。

グリッドは公共座標を用い10ｍ×10ｍのグリッドを設定した。グリッドの名称は北西隅を基準とし、南北をアルファベット（調査区域が広大な為、大文字が終了した続きを小文字で呼称した。）、東西をアラビア数字で呼称した。

遺構確認面は第3層暗褐色砂質土層上面で行った。工事の関係上平成元年度より、南部の道路工事部分を優先して行った。また、Ｖグリッド以南は縄文の遺物包含層が確認されており、遺物が多量に分布していた。従って、包含層の下に遺構の検出が考えられ、古墳時代～歴史時代所産の遺構調査終了後、西端よりグリッド杭に合わせて南北に幅2ｍのトレンチを20ｍ間隔に設定し調査を行った。特に遺構の集中している区域については10ｍ間隔で追加トレンチを入れた。トレンチ名は西側からアルファベット順で呼称し、追加トレンチについては東側から続きのアルファベット記号を付けた。トレンチ調査の結果、数ケ所に於いて遺構が確認された。これらの縄文包含層下の遺構の調査は遺構を確認したトレンチを拡張して調査を行った。

本遺跡の遺構の調査は調査期間の関係上、竪穴式住居址は赤城南麓で検出例の多い古墳時代～平安時代の所産のものは二分法で土層を観察し、遺物は覆土下層、床直上、カマド及び貯蔵穴内出土のもののみを記録した。その他の覆土中のものは一括でとりあげた。縄文時代の住居址は検出例が少ない為、四分法で土層を観察し、覆土中の遺物もドットで記録を行った。

配石遺構は四分法で土層観察を行い、覆土中及び床面の土壌サンプルを取り上げた。結果については自然科学分析の章で述べている。また、遺構は現状保存となる為、掘り方調査及び石材の材質鑑定は行われていない。現在、埋め戻しされ緑地部分として保存されている。

その他、土坑は半截で土層断面の観察を行った。中世以降と考えられる薬研堀状の溝については部分的に掘り下げを行い、方向と形態の確認のみの調査を行った。

なお、遺構番号は調査順に付しているが遺構と遺物の量が多いので混乱を避けるため、整理調査の段階では一部の遺構を除き、調査時で付した番号をそのまま用いた。変更のあった遺構については凡例中に示した。

第2項　日 誌 抄

平成元年2月

前橋市教育委員会社会教育課文化財保護室（平成元年4月1日より、文化財保護課）との協議により、調査区を設定する。なお、調査区域が広大で、来年度にかかる継続事業な事と期間の関係の為、年度内に出来る範囲（4,141㎡）と北部（Ｎグリッド以北4,000㎡）の2班体制で調査を行う事となった。

平成元年３月

平成元年度への継続事業の為、すぐ遺構調査に入れるように次年度調査の行われる東端部の2,749㎡の表土排土を上旬から下旬にかけて行った。平行して4,141㎡と北部4,000㎡部分の遺構調査を２班体制で行う。調査の結果、4,141㎡部分では住居址10軒、土坑29基が検出された。

また、北部4,000㎡では住居址１軒と炭窯が１基の検出のみにとどまった。本遺跡の集落の北限と考えられる。調査は季節風の強い日が続き予定より遅れ、遺構の写真撮影と実測調査が部分的に残り、４月に継続することとなった。

平成元年４月

引き続き4,141㎡と北部4,000㎡部分の調査を行い中旬にそれぞれ終了した。スナガ班は他の地区に移動した。山武班は中旬より本格的に表土排土を開始した。それに伴い調査員を１名、調査補助員20名増員する。表土俳土は工業団地造成工事工程の関係上道路工事が先行するため南端部より開始した。それに平行して東端部の遺構調査を行った。さらに、南東部の昨年度保留地区にトレンチ入れ試掘調査を行った。調査の結果、近・現代の耕作により攪乱が著しく遺構は存在しなかったため本調査対象外となった。

平成元年５月

１日に表土排土と平行して南端部より方眼杭打ちを開始した。南端部の西寄りの地点に礫が固まって検出。川の氾濫による土石流の可能性が考えられるが、人為的に並べてあるように見える。この地域には古墳が多く古墳の可能性が考えられるため表土除去作業を慎重に行った。

中旬の入って表土除去作業も進み人為的に礫群が一つ、一つ並べられている事が判明した。当初、古墳の可能性が考えられたが、縄文の所産とみられる多孔石や周囲の散在している土器片は縄文後期の加曽利Ｂ式に比定するものであった。この地域では検出例の少ない縄文時代の配石遺構の可能性がでてきた。

下旬、東端部より検出された19号住居址より床直上で完形の石田川式の台付き甕と、赤井戸式の甕の口縁部破片が共伴して出土した。

南端部では縄文後期の土器片の出土がかなり多く見られる。土師所産の遺構確認面が縄文の包含層であることが確認される。

平成元年６月

東端部の遺構調査は６月14日で終了した。東端部は古墳時代前期の集落と縄文時代と思われる住居址２軒と土坑と後期の薄い遺物包含層が僅かに検出された。15日に表土排土作業を終了する。下旬、南端部の遺構調査に入る。梅雨に入り、雨上がりの日に土壌が水分を含んだ事を機会に南端部の調査を一時中断し遺構確認作業に全力を投入した。農繁期の為、調査補助員の人数が半減し、発掘作業が予定より遅れた。

平成元年７月

南端部の遺構調査と平行して土師所産の住居址、土坑、歴史時代所産の溝の調査を南部より北部へと調査を進めた。中、下旬に大雨が降り緩斜面の突端にある南端部の遺構が水没し、水中ポンプで吸い出し作業の繰り返しで調査は難行した。

平成元年８月

梅雨もようやく上旬で明け、人員の数も元に戻り調査が軌道に乗って来た。しかし、調査区が広大なため、未調査部分に雑草が生い茂ってきた。発掘調査と平行して除草作業を行う。下旬に予定していた南端部の空撮を調査が遅れているため一カ月延期した。

平成元年９月

引き続き南端部の遺構調査、土師所産の住居址の調査、歴史時代の調査を行った。中旬に台風の影響で大雨が降った。再び南端部が水没してしまった。水中ポンプで吸い出し作業を行う。一日で終了した。28日、南端部の空撮を行った。

平成元年10月

５日をもって南端部道路工事部分の調査を終了した。９日に道路工事部分を市教育委員会文化財保護課との協議により、工事施工業者に解放した。土師所産の住居址、歴史時代所産の溝の調査を終了した。土師所産の住居址は遺存が良く掘り込みが深く、出土遺物も完形に近いものが多い。下旬より縄文の遺構調査に入った。

平成元年11月

２日、Ｖグリッド以南は縄文の遺物出土量が多いため遺物包含層下に遺構の検出の可能性が考えられたため南北に幅２ｍのトレンチを20ｍ間隔に入れ遺構の確認を行った。なお遺構の集中して検出された地区に関してはさらに10ｍ間隔にトレンチを入れた本調査の方法については期間と予算の関係上、18日に現地にて前橋市教育委員会文化財保護課との協議によりトレンチ内に検出された遺構部分を拡張して調査を行うこととなった。当初の予想より検出された遺構、遺物が多く、期限の11月30日までに調査を全工程終了する事は不可能となった。そのため市文化財保護課と前橋市工業団地造成組合と協議を行い、予算と造成工事工程から最終期限を平成２年１月15日厳守となった。下旬より縄文時代の住居址、土坑、屋外埋設土器、包含層の調査と平行して配石遺構の調査に入った。

平成元年12月

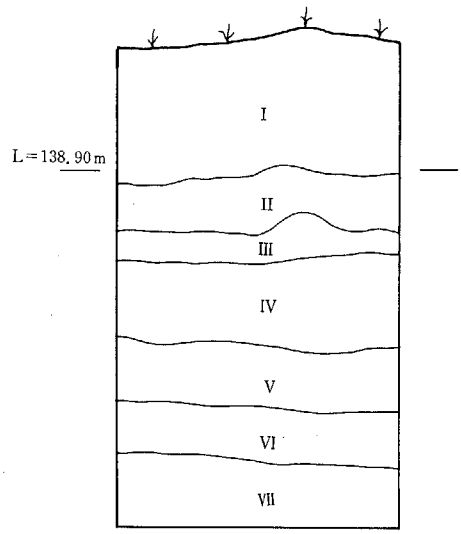
７日、空撮を行った。（遺跡全景、北部、配石群全景、敷石住居。）下旬に縄文時代住居址、土坑、屋外埋設土器、包含層の調査を終了した。引き続き配石遺構の調査を行った。

平成２年１月

引き続き配石遺構の調査を行った。写真撮影、実測を行い、15日に大道遺跡調査終了した。機材、遺物の搬出、プレハブ撤去を行った。本遺跡は縄文時代～歴史時代に至るまでの複合遺跡であった。特に、縄文時代後期と古墳時代の遺構と遺物は資料的に豊富で貴重な成果が得られたと思われる。

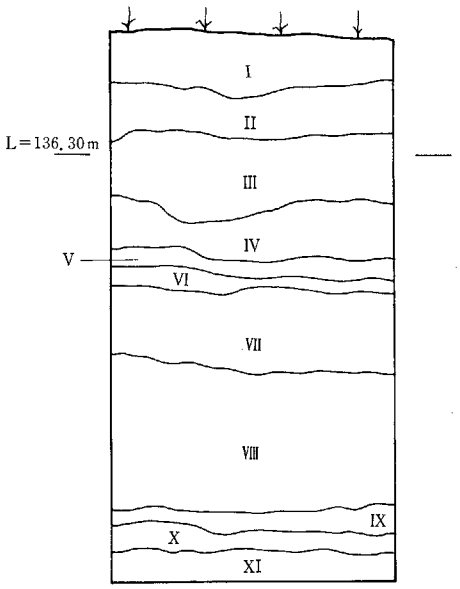
第4章　基本土層

本遺跡内の地形は低台地と谷地に大きく別れる。幾度かの川の氾濫の跡が確認され複雑な土壌となっている。従って同遺跡内において地点によって異なった土層が認められる。



北部標準堆積土層

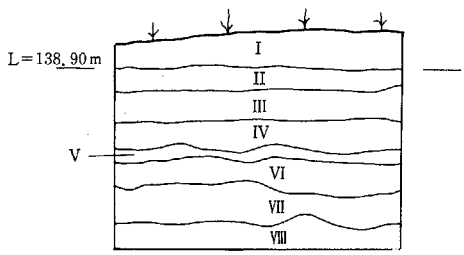
第Ⅰ層	暗褐色土	耕作土。桑の根が入る。
第Ⅱ層	黒色土	白色軽石粒φ1㎜～2㎜多量に含む。しまり強。粘性弱。
第Ⅲ層	黒褐色土	褐色砂質土φ10㎜～20㎜多量に含む。しまり強。粘性弱。
第Ⅳ層	黒褐色砂質土	礫を多量に含む。川砂と思われる。
第Ⅴ層	灰色砂質土	小礫少量含む。白色軽石粒φ1㎜～2㎜多量に含む。
第Ⅵ層	暗茶褐色土	白色軽石少量含む。しまり強。粘性弱。
第Ⅶ層	褐色土	ローム層B．Pを多量に含む。Y．P少量。しまり強。粘性弱。



南端部標準堆積土層

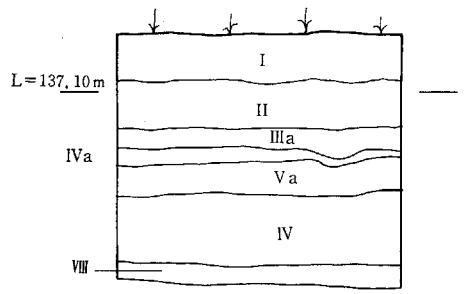
第Ⅰ層	暗褐色土	耕作土。
第Ⅱ層	黒色土	白色軽石(F・P)多量に含む。しまり強。粘性弱。
第Ⅲ層	暗褐色土（縄文遺物包含層）	褐色土混入する。小石少量含む。しまり粘性強。
第Ⅳ層	褐色土	小石少量含む。しまり粘性強。ソフトローム層。
第Ⅴ層	黒褐色土	砂粒を多量に含む。しまり粘性強。
第Ⅵ層	青灰色砂質土	鉄分を含む。褐色土少量混入。
第Ⅶ層	黒褐色土	砂粒を多量に含む。しまり粘性強。
第Ⅷ層	茶褐色土	粘質土。白色軽石少量。
第Ⅸ層	黄褐色土	B．P少量含む。
第Ⅹ層	黄褐色土	ハードローム層。
第Ⅺ層	褐色土	B．P多量に含む。しまり粘性強。

第4図　標準堆積土層図（1）



西部標準堆積土層

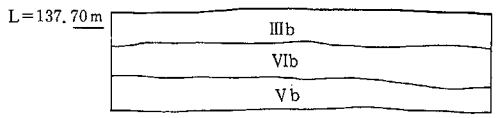
第Ⅰ層	暗	褐	色	土 耕作土。
第Ⅱ層	灰	褐	色	土 旧耕作土。
第Ⅲ層	灰	褐	色	土 鉄分を多く含む。しまり強粘性弱。
第Ⅳ層	黒	褐	色	土 白色の砂の粒子多量に含む。しまり強粘性弱。
第Ⅴ層	暗	褐	色	土 砂粒を多量に含む。しまり強粘性弱。
第Ⅵ層	浅間B軽石層			
第Ⅶ層	黒	色	土	前橋泥炭層。しまり粘性強。
第Ⅷ層	暗褐色砂質土			白色粘土φ10㎜～30㎜少量混入。鉄分少量含む。



南西部標準堆積土層

第Ⅰ層	黒	褐	色	土 耕作土。しまりなくボソボソ。
第Ⅱ層	黒	褐	色	土 色軽石少量含む。(浅間A軽石?)しまり強粘性弱。
第Ⅲ層	黒	褐	色	土 Ⅱ層より色調暗い。白色軽石粒細かく多量に含む。オレンジ色の軽石粒細かく多量に含む。しまり粘性強。
第Ⅳ層	黒	色	土	オレンジ色の軽石粒細かく(φ40㎜)帯状に堆積。白色軽石粒細かく多量に含む。しまり粘性強。
第Ⅴ層	黒	色	土	白色軽石多量に含む。オレンジ色の軽石微量に含む。しまり粘性強。
第Ⅵ層	黒	色	土	白色軽石、オレンジ色の軽石微量に含む。しまり粘性強。
第Ⅶ層	黒	色	土	白色軽石細かく微量に含む。しまり強。

南西部縄文遺物包含層



Ⅲb	黒	褐	色	土白色軽石細かく少量含む。しまり強。粘性弱。
Ⅳb	黒	褐	色	土白色軽石粒細かく多量に含む。ローム混入。しまり強。粘性弱。
Ⅴb	黒	褐	色	土白色軽石粒細かく多量に含む。2層より含有量多い。しまり強。粘性弱。

第5図　標準堆積土層図（2）

第6図　縄文時代遺構全体図

第5章　検出された遺構と遺物

第1節　縄文時代

1．縄文時代の概観

遺構は住居址26軒（数石住居址4軒を含む。）、配石遺構27基、屋外埋設土器（埋甕）9基、土坑357基が検出されている。また、14・15号住居址は伴出遺物がないが、形態及び覆土の状況から縄文時代の所産と考えられるため、本時代に入れた。

遺構の分布は本遺跡の北から南へ緩やかに傾斜した南端部に集中し、住居址は配石遺構を囲むように弧状をなしている。

なお、遺構は沖積地にあたる黒色粘質土層に掘り込まれているものが多く地山と覆土が似ている為、検出には困難をきたした。特に確認面から掘り込みの浅い住居址は平面形が不明確のものがある。

遺物は遺構内出土と遺構外のものを合わせると膨大な出土量である。縄文時代の遺物が本遺跡の出土遺物総数の約3分の2を占めている。本書では紙面に限りがある為、遺構内より出土した遺物を中心に掲載を行い、遺構外出土遺物については本遺跡の性格を把握できる資料を中心に載せる事を試みた。

以下遺構別に説明を行う。

2．住居址

14号住居址（第7図　図版133）

位置　K－29グリッド／形態　楕円形／規模　残存径3.39ｍ／壁高　36cm～45cm。

壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に締まりがあり硬質である。／柱穴8本。Ｐ1とＰ2に柱痕が検出されている。径10cmを計る。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
長径cm	27	29	21	21	28	36	24	54
短径cm	26	－	－	－	27	28	22	48
深さcm	48	52	51	63	60	60	53	49

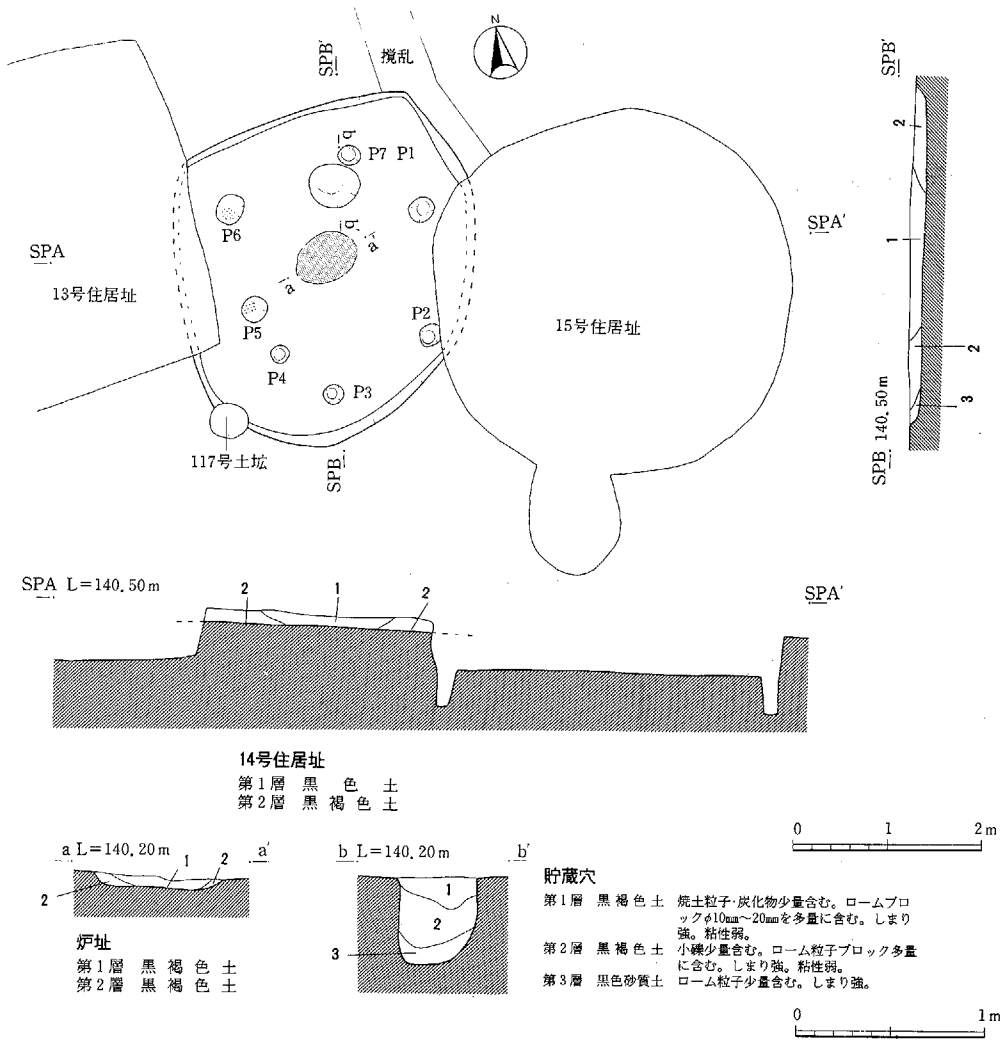
／炉　中央部に位置する。長軸66cm、短軸49cm、深さ8cmを計る。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。地床炉である。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土と黒褐色土の2層に分層される。

遺物の出土状況

検出されなかった。

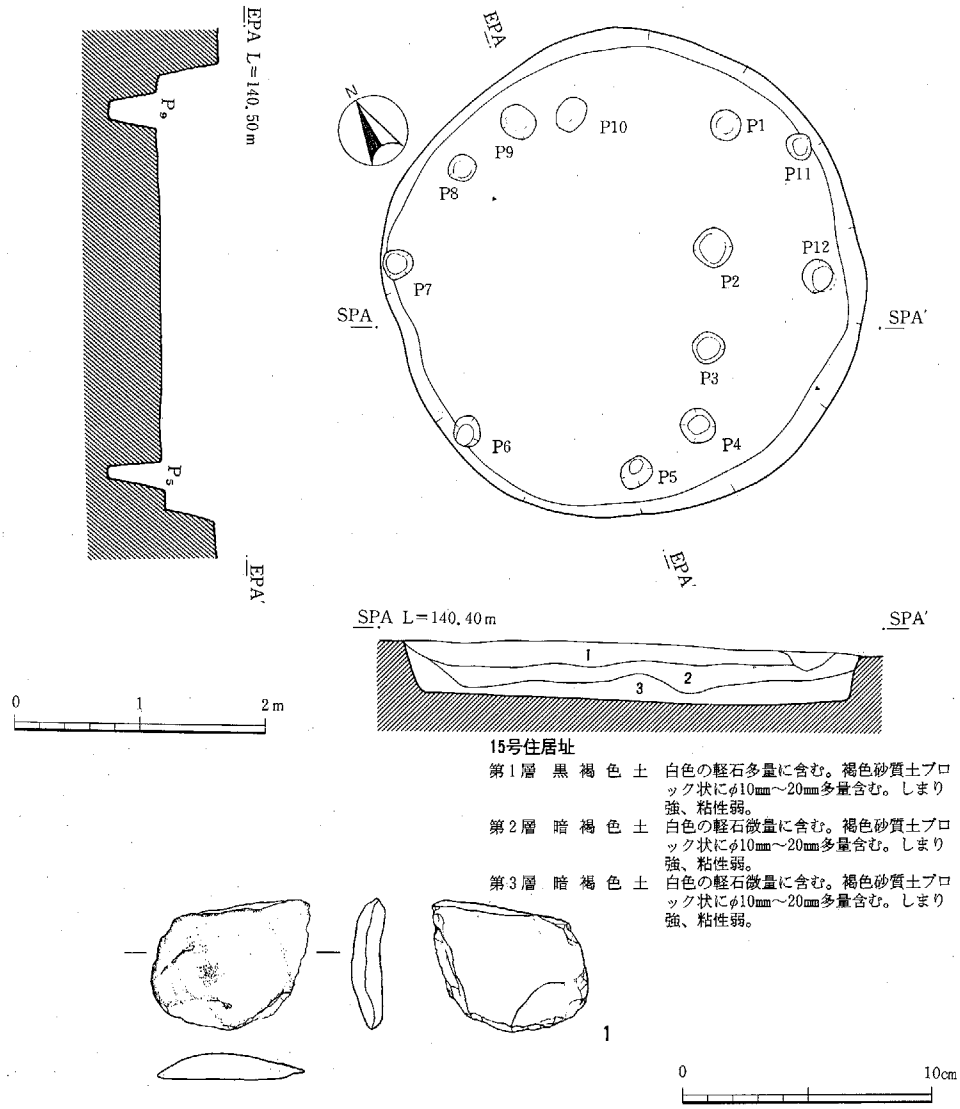


第7図　14号住居址

備考

新旧関係は東壁を15号住居址、西壁を13号住居址にそれぞれ切られる。また径38cm、深さ15cmの円形の穴は覆土の観察から本址に供なわず、本址を切っている事が判明した。従って、この円形の穴を117号土坑と命名した。

本址は遺物の出土は見られなかったが形態と覆土の状況から縄文時代の所産と考えられる。



第8図　15号住居址・出土遺物

15号住居址（第8図　図版133）

位置　K－30グリッド／形態　楕円形／規模　径約3.54cm／壁高　44.5cm

壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に締まりがあり硬質である。／

柱穴　12本。配列はまばらである。覆土の観察では新旧関係をつかめなかった。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
長径cm	24	33	26	29	26	25	24	22	31	28	22	26
短径cm	－	31	－	－	－	－	－	－	－	24	19	24
深さcm	45	41	41	42	44	41	24	38	38	54	41	39

P12は底面が外側へやや張り出す。

炉　なし。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土と暗褐色土を基調に2層の合わせて3層に分層される。

遺物

スクレイパーが覆土2層目より出土した。

備考

新旧関係は14号住居址を切る。また、本址も伴出遺物はみられなかったが、形態と覆土の状況から縄文時代の所産のものと考えられる。

28号住居址（第9図　図版6）

位置　b－22グリッド／形態　不明（近・現代の耕作により削平される。南西側に一部壁が残る。遺存する壁面は丸みを帯び柱穴の並びから楕円形を呈すると推定される。）／主軸方向N－45°－E

規模　推定・長軸7.89m×短軸5.60m（東西×南北）／壁高0～7m／壁溝　なし。

床　全体に至って面をなしているが特に硬質化された面の検出はみられない。／柱穴　31本。P1・P2・P3が主柱穴に相当すると考えられるが、4本目のP2とP3に対応する柱穴の検出がみられない。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
長径cm	32	46	28	22	24	24	26	28	29	29	26	53	34	24	38	66	31	24
短径cm	－	36	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	48	－	－
深さcm	17	17	16	13	23	24	36	35	16	43	13	24	12	32	23	19	15	10

No.	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
長径cm	25	18	41	46	47	48	69	22	18	19	21	38	34	86	52	53	96
短径cm	－	－	－	－	32	－	52	－	－	－	－	28	－	－	－	－	66
深さcm	39	15	12	32	32	15	51	13	29	12	12	14	19	29	18	19	15

※P15、P25は柱痕の検出あり。径15cm前後を計る。P32、P33、P34内には遺物が検出されている。貯蔵穴のような性格が1つ考えられる。

炉　ほぼ中央部に石囲い炉が検出。遺存悪く組み石がはずれている。組み石には総数12個の石が使用されている。そのうち3個は多孔石を用いられている。掘り方長軸47cm、短軸42cm、深さ14cmを計る。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。

覆土の状況

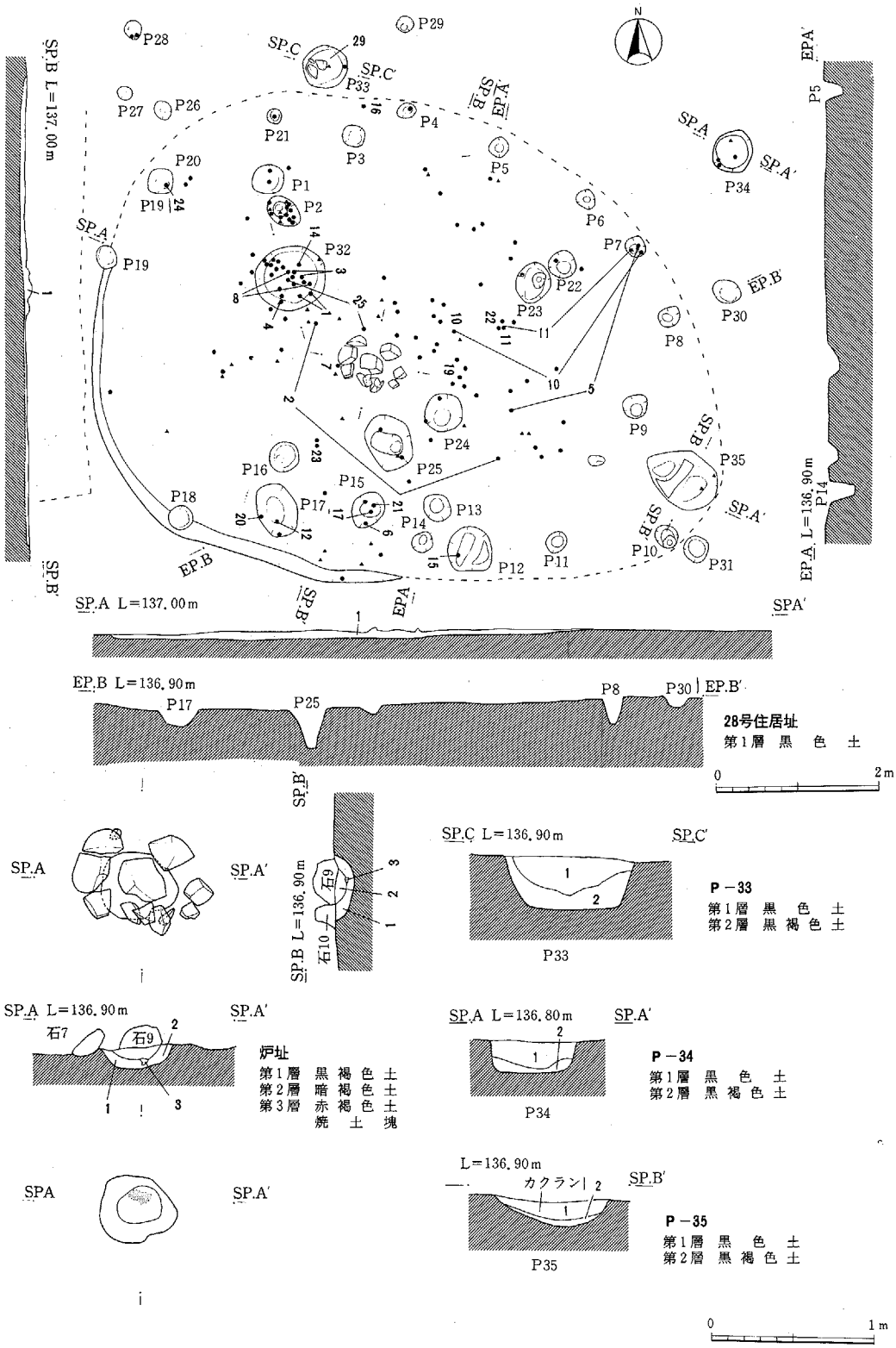
自然堆積である。近・現代の耕作により削平され、黒褐色土の単層で検出された。

遺物の出土状況

P32より土器片が16点出土。P33より土器片1点。床着では全体に散乱した状態で土器片42点、石鏃2点、自然礫が3点出土した。実測遺物点数29点。

備考

遺構面は北から南へなだらかに傾斜している。比高は7cmを計る。


N
SP.A L=137.00m
SP.B L=137.00m
EP.A L=136.90m
EP.B L=136.90m
28号住居址
第1層 黒 色 土
0 2m
SP.C L=136.90m
P-33
第1層 黒 色 土
第2層 黒褐色土
SP.A L=136.90m
炉址
第1層 黒褐色土
第2層 暗褐色土
第3層 赤褐色土
焼 土 塊
SP.A L=136.80m
P-34
第1層 黒 色 土
第2層 黒褐色土
L=136.90m
カクラン
P-35
第1層 黒 色 土
第2層 黒褐色土
0 1m

第9図　28号住居址

本址は壁が近・現代の削平によりほとんどが消滅しており、床面は地山との区別がつきにくく、遺構の範囲をとらえるのに困難をきたしている。本址に伴う柱穴は覆土の色調や混入物で判別した。

炉址は焼土の検出状況から判断してあまり使用されていない事が言える。

検出された遺物（第10.11図）

検出された遺物は確認面より掘り込みが浅いため掲載した遺物はほとんど床直上と柱穴内より出土したものである。

1は浅鉢土器口縁部の破片である。P32内より出土した。口唇部にRL縄文を施し、一重の沈線を巡らし区画する。肩部には沈線間にキザミを施す。胴部は平行沈線を巡らす。

2.4～7は深鉢形土器で綾形状の沈線を施す。6がP15より出土し、その他は床直上より出土したものである。

8、9は肩部がくの字状に強く張り出す深鉢形土器である。縦位および弧状沈線でLRの磨り消し縄文を区画する。9は赤彩の痕跡が認められる。

10は口縁部にはボタン状の貼付を施す。口唇部にキザミを施し、LR縄文を施文する。

11は13～15は沈線間にキザミを施す。

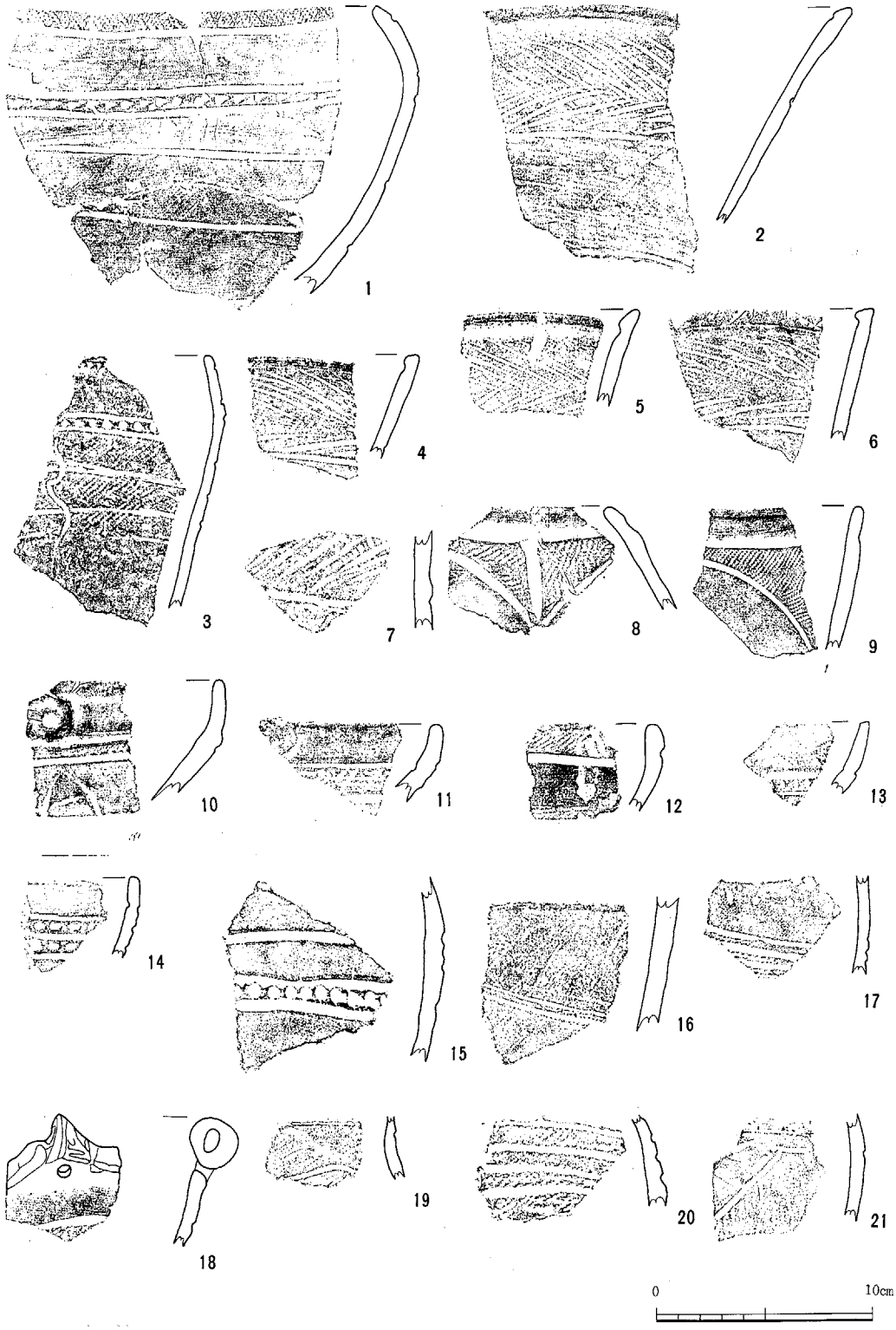
13、14は深鉢形土器口縁部の破片で15が胴部の破片である。それぞれ平行沈線で区画しLR縄文で施文する。LR縄文を平行沈線で区画する。16は深鉢形土器胴部の破片である。

17、20は単節LR縄文を施文し横位の平行沈線で区画する。

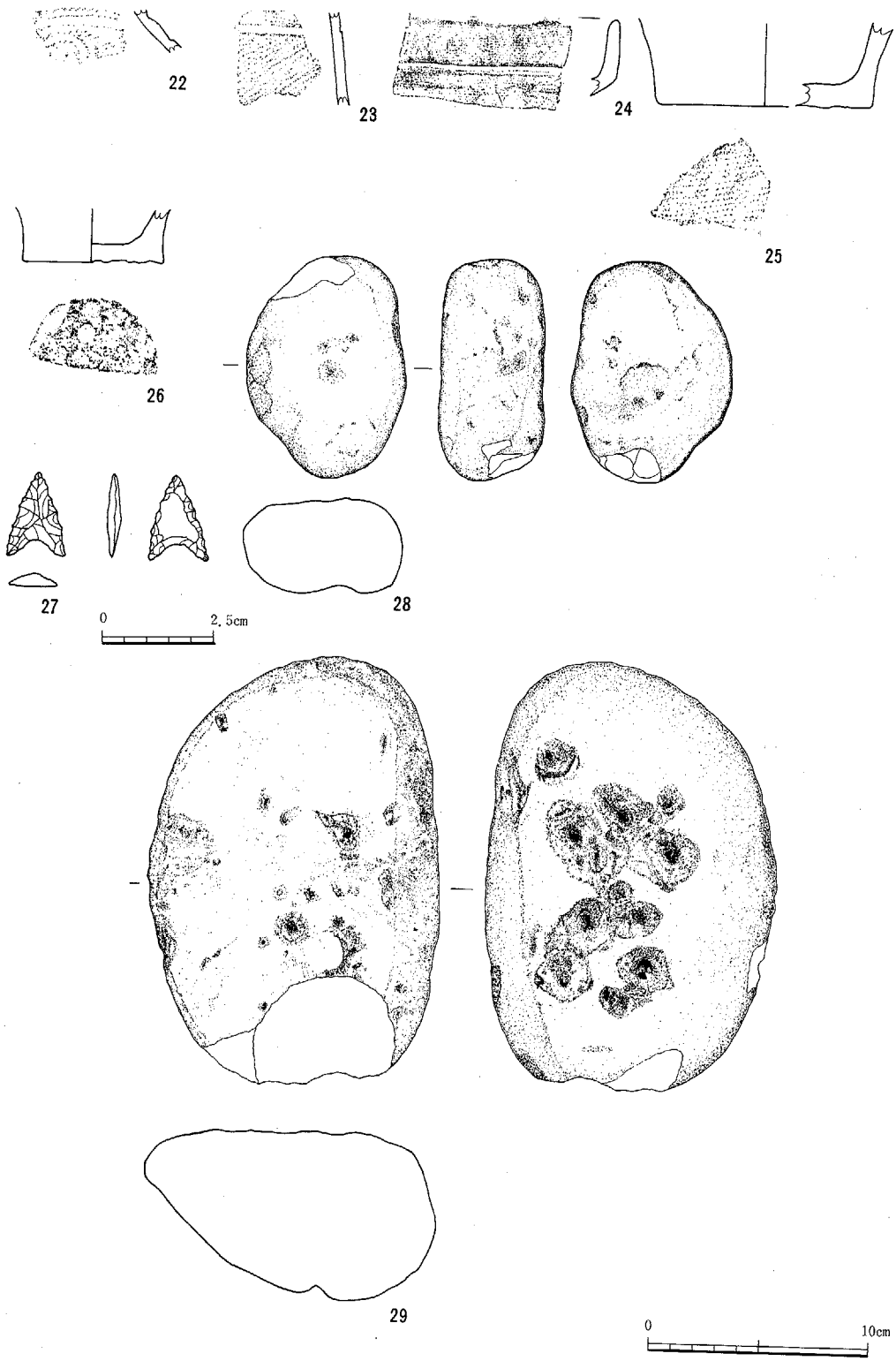
24は浅鉢形土器である。体部に沈線を施す。内外丁寧なミガキを施す。

25、26は深鉢形土器の底部の破片である。網代痕がある。25は復元底径9.8cm。28凹石は長さ9.9cm、幅7.1cm、厚さ4.8cm。

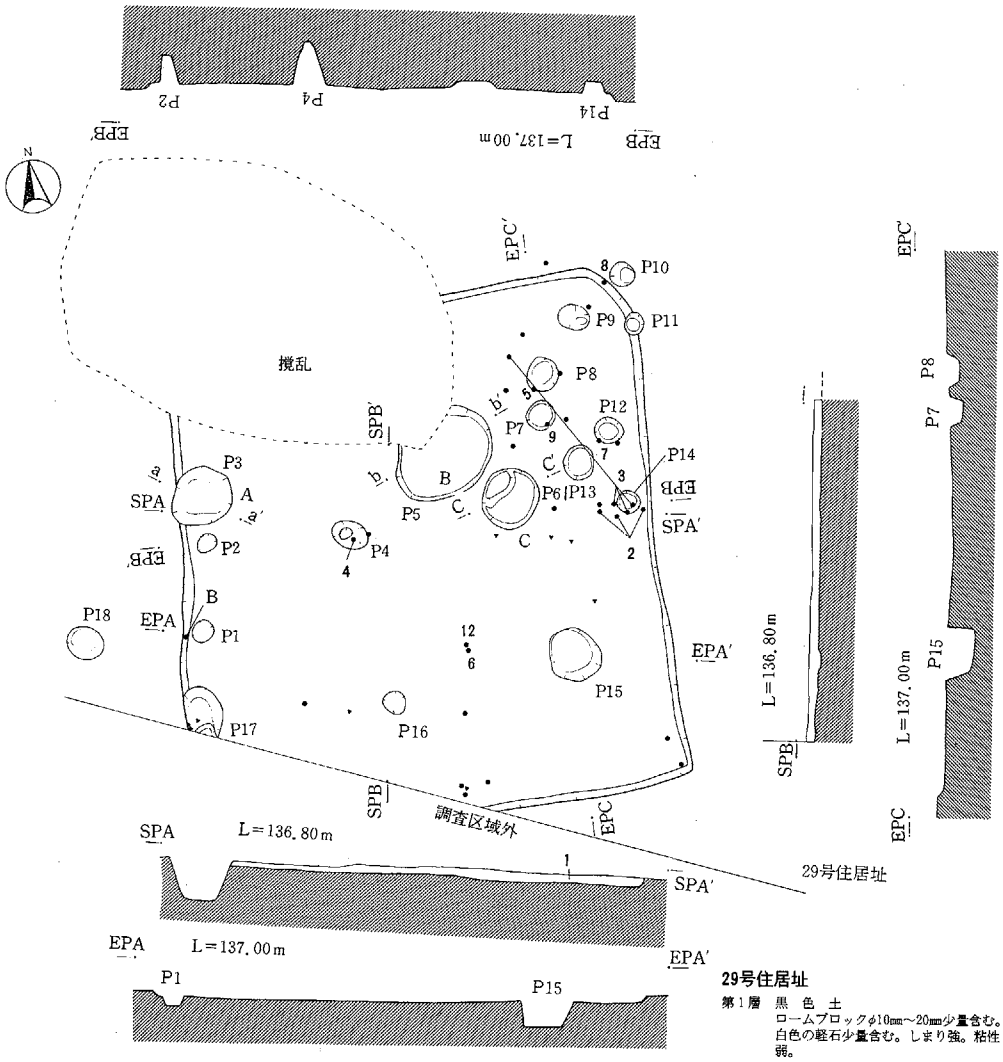
27は無茎石鏃である。長さ3.2cm、幅2.05cm、厚さ0.7cmを計る。29の多孔石は一部欠損している。長さ18.9cm（残存長）、幅12.9cm、厚さ7.6cm。



第10図　28号住居址出土遺物（1）



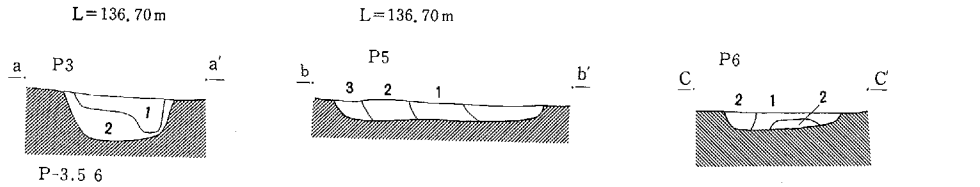
第11図　28号住居址出土遺物（２）



29号住居址

第1層 黒 色 土 ローム ブロックφ10mm～20mm少量含む。白色の軽石少量含む。しまり強。粘性弱。

0 1 2m



第1層 黒 色 土 ローム ブロックφ10mm～20mm少量含む。白色の軽石少量含む。しまり強。粘性弱。

第2層 黒 色 土 ローム ブロックφ10mm～20mm少量含む。白色の軽石少量含む。しまり強。粘性弱。

第3層 黒 色 土 ローム ブロックφ10mm～20mm少量含む。白色の軽石少量含む。しまり強。粘性弱。

0 1m

第12図 29号住居址

29号住居址（第12図　図版６）

位置ｂ－21グリッド／形態　方形／主軸方向　Ｎ－０°－Ｅ／規模　5.40ｍ×5.03ｍ。（南東隅が調査区外に延びる。また、北西側は攪乱に切られる。／壁高０～８cm。／壁構　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に至って面をなすが特に硬質化された面の検出はみられない。／柱穴　18本。西側に１本、やや遺構外よりやや離れて検出されたものがある。覆土の状況が遺構内と似ているため本址のものとして扱った。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
長径cm	24	23	70	39	113	64	31	36	33	26	23	28	36	29	56	23	不	40
短径cm	20	17	60	29	67	63	－	－	25	－	20	－	－	－	－	－	39	35
深さcm	11	31	31	36	11	8	12	9	37	46	40	10	8	11	26	10	69	18

※不は不明を表す。Ｐ17は調査区外に延びているため不明である。

炉　焼けた痕跡は認められないが位置と形態からみてＰ５が炉址の可能性が考えられる。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。上部が近・現代の耕作により削平される。黒色土の単層である。

遺物の出土状況

全体に亘って土器片（深鉢）が散乱して出土した。実測遺物点数14点。

検出された遺物（第13図　図版28）

床着、柱穴内より検出された遺物を掲載した。１～14は深鉢形土器の破片である。１は平行沈線間にLR縄文を充填する。また、沈線による連結弧線文を施し、中は無文帯を構成する。

２と３は接点はないが同一固体である。沈線間にキザミを施す。床直上より出土した。

４は口縁部に沈線を巡らせ以下、沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填する。口縁部による刺突を施した細い紐線を巡らせる。床面より５cm高い位置で出土した。

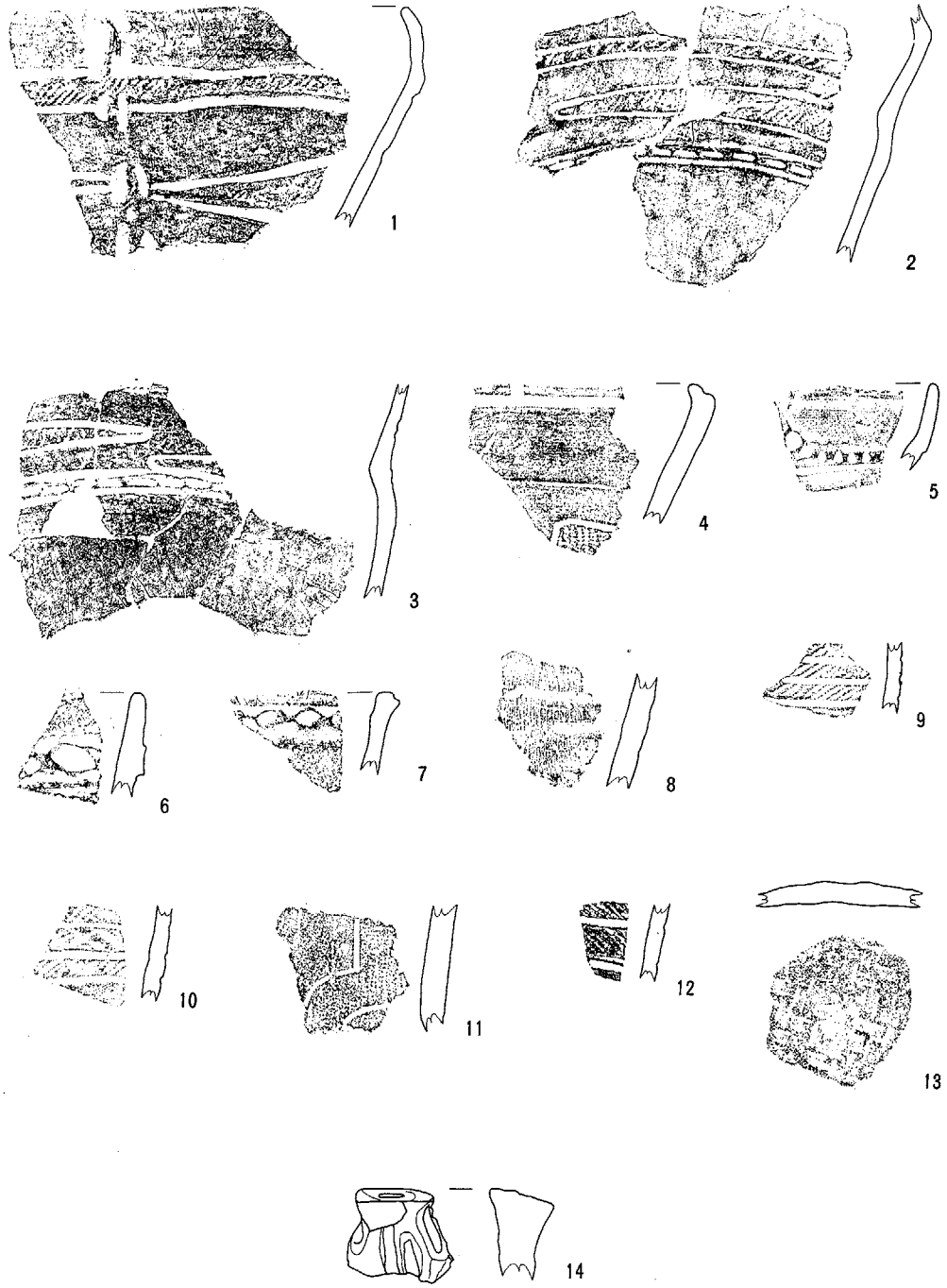
６、７は口縁部の破片で指頭圧痕を施した一条の紐線が巡る。床面上より出土した。

８は櫛歯状の沈線を施す。９～11は沈線間に単節LR縄文を充填する。９は床直上、10はＰ７内、11はＰ９より出土した。

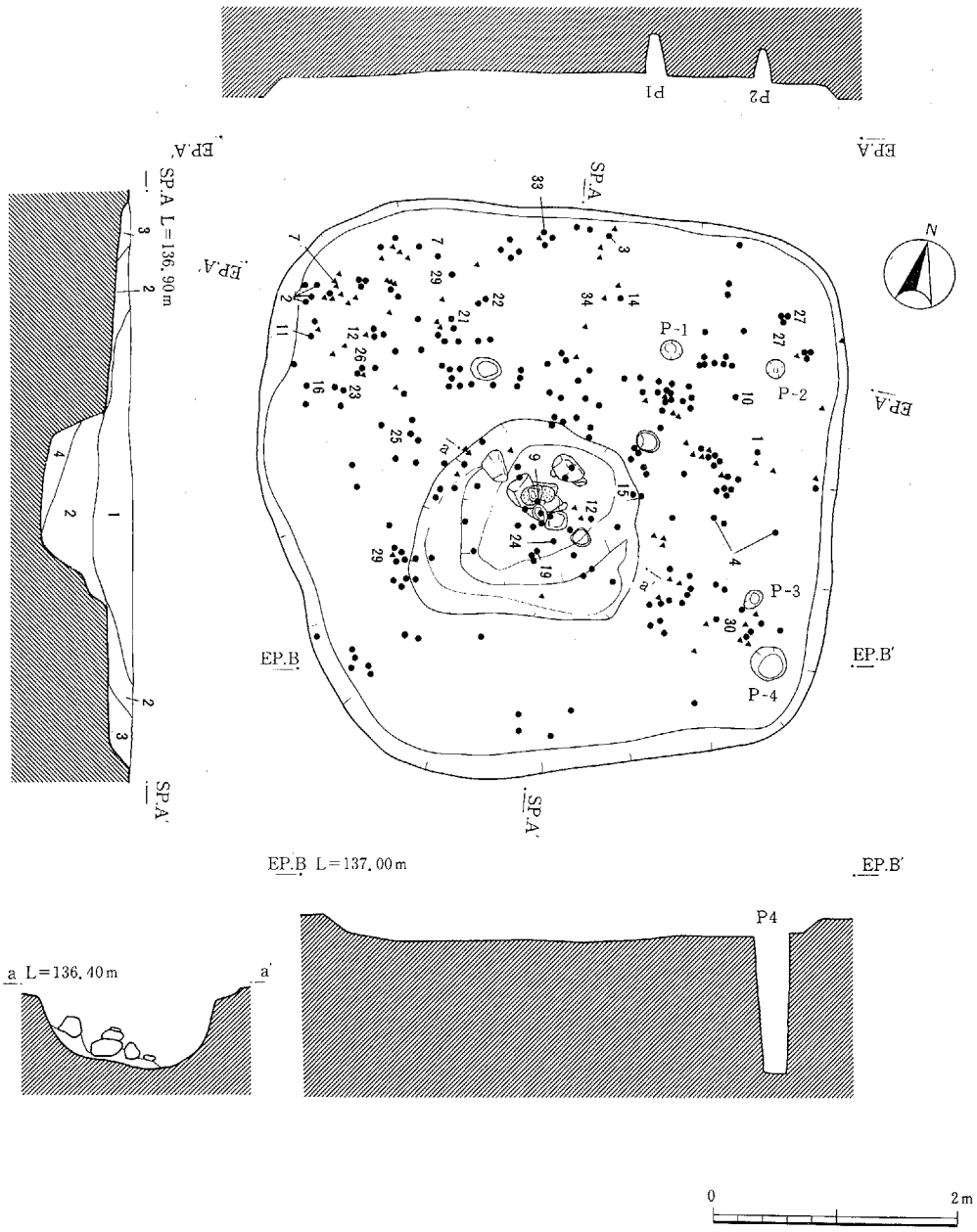
12は単節RL縄文を施文し、沈線で区画する。

13は深鉢形土器底部の破片で網代痕がある。床直上より出土した。

14は深鉢形土器の口縁部に付く突起の破片である。床直上より出土した。



第13図　29号住居址出土遺物



30号住居址

第1層	黒	色	土	白色の軽石粒細く多量に含む。オレンジ色の軽石微量に含む。小礫少量含む。しまり強、粘性弱。
第2層	黒	色	土	白色の軽石粒細く少量含む。暗褐色土混入の小礫少量含む。しまり強、粘性弱。
第3層	黒	色	土	1、2層に比べ色調淡、小礫少量含む。白色の軽石粒細かく微量に含む。しまり強、粘性弱。
第4層	灰	褐	色	土

第14図　30号住居址

30号住居址（第14図　図版６）

位置　Ｙ－14グリッド／形態　隅丸方形／規模　3.86ｍ×3.45ｍ（東西×南北）／壁高　13ｍ～16cm。／壁構　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に至って面をなすが特に硬質化された面の検出はみられない。／柱穴　４本。Ｐ１・径16cm、深さ26cm。Ｐ２・径16cm、深さ33cm。Ｐ３・径16cm、深さ16cm。Ｐ４・径27cm、深さ11cm。相対する西側には柱穴の検出はみられなかった／炉　なし。／その他の施設　ほぼ中央部に楕円形の掘り込みが検出された。覆土の堆積状況を観察した結果、切り合いが認められないため住居址に伴うものと考えられる。規模は長軸171cm、短軸139cm、深さ59cmを計る。中より多孔石１点、自然礫12点が出土した。細かく観察すると人為的に積んであるかのように見えた。なお多孔石、自然礫は火熱は受けていない。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土を基調に３層と灰褐色土の合わせて４層に分層される。

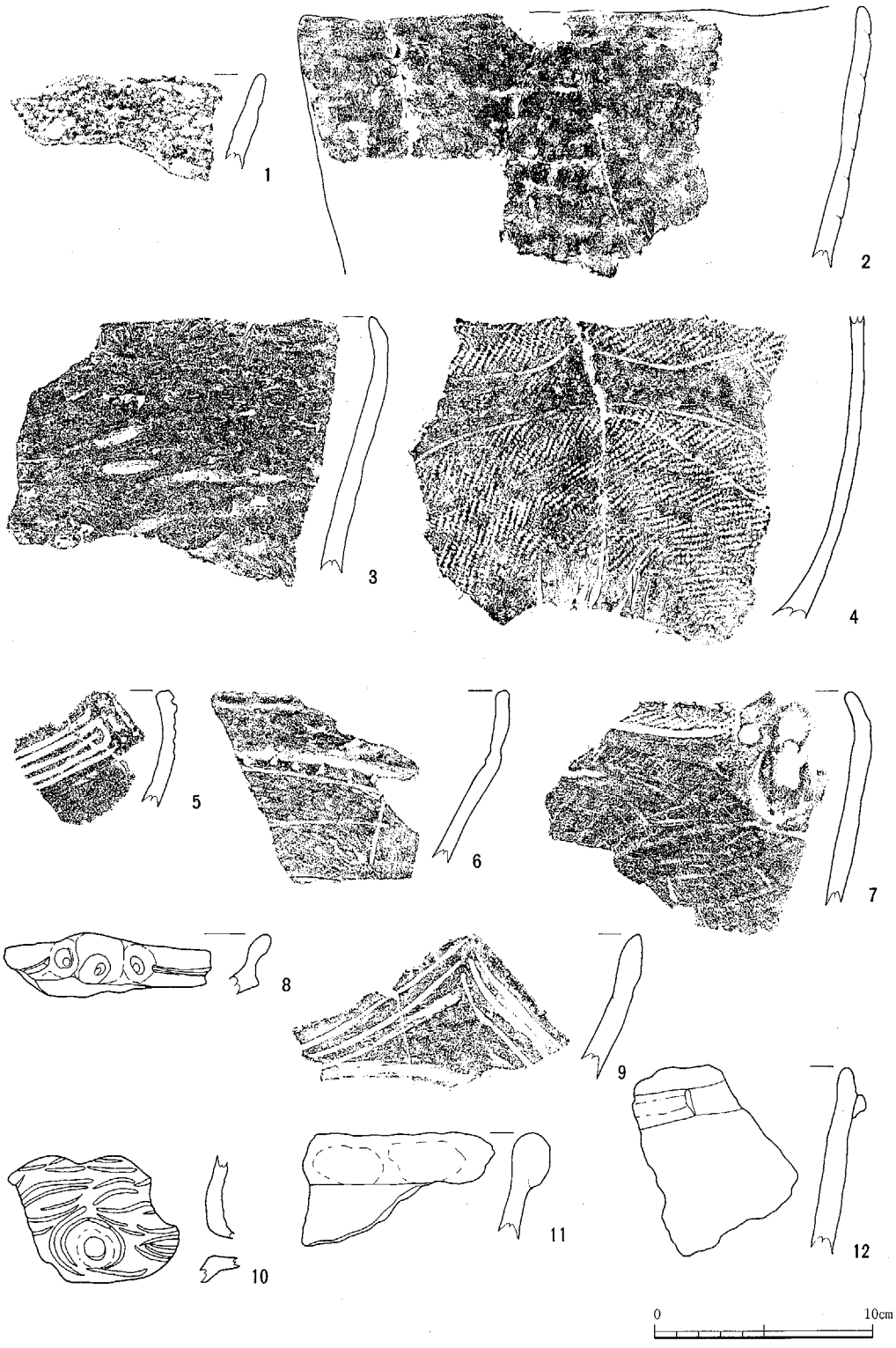
遺物

全体に亘って土器片（深鉢、注口土器）が散乱して出土した。その他、石鏃、打製石斧、磨石、砂岩製の砥石が出土。実測遺物点数31点。

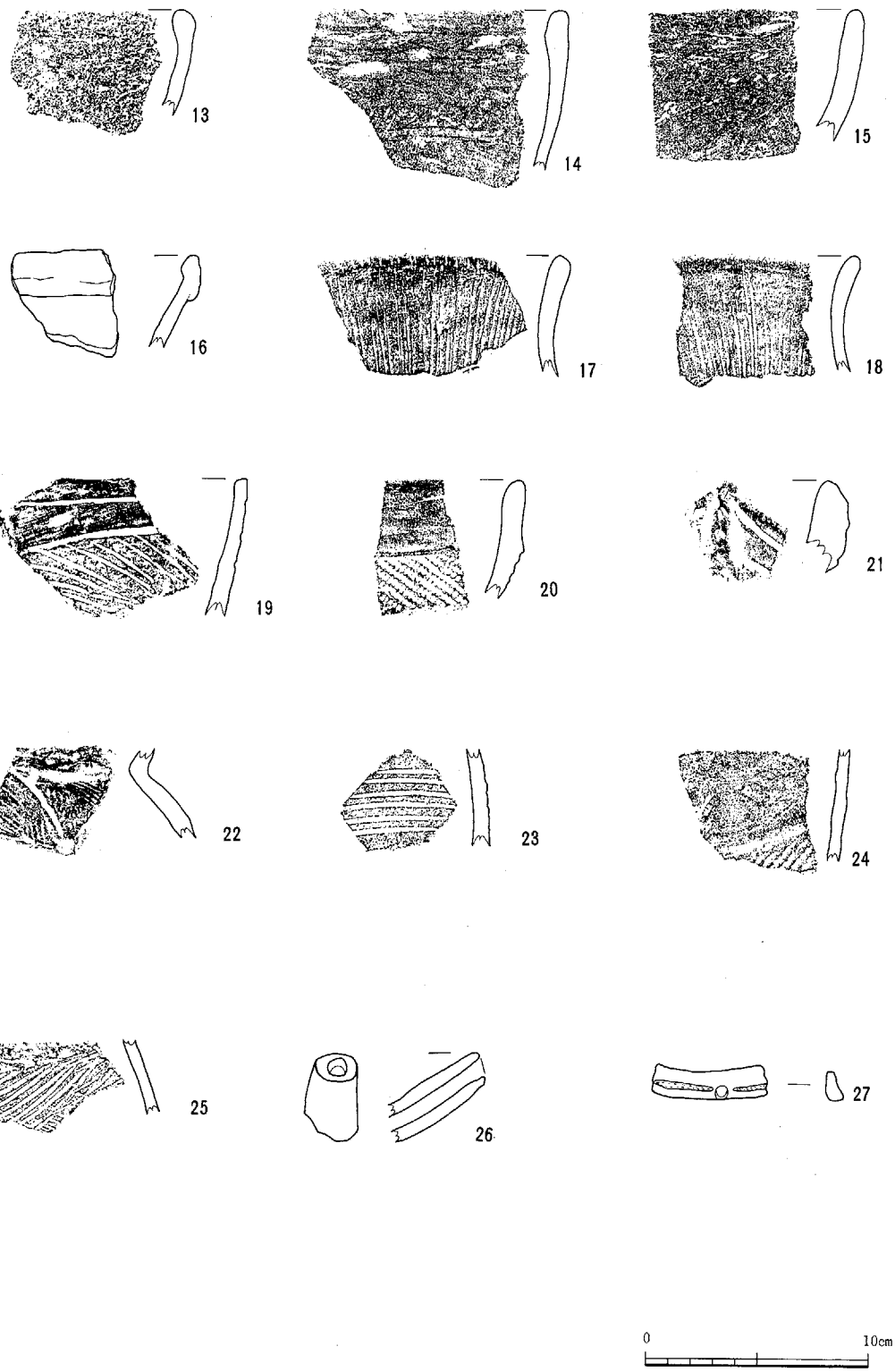
検出された遺物（第15～17図　図版28）

覆土中、床着、柱穴内より検出された遺物を掲載した。１～２は深鉢形土器口縁部の破片で指頭圧痕を施した一条の紐線が巡る。３は深鉢形土器口縁部の破片で４はLR縄文を縦位、横位に施す。５は杉状の沈線を施す。深鉢形で無文の粗製土器である。６、７は沈線間にLR縄文を施文する。８は沈線間にRL縄文を施文する。９～11は沈線で区画された内側にLR縄文とキザミを施す。12は一重の沈線を巡らし区画13する。肩部には沈線間にキザミを施す。胴部は平行沈線を巡らす。７は口唇部にキザミを施し、LR縄文を施文する８～10は沈線間にキザミを施す。11、12は深鉢形土器の口唇部突起である。13は深鉢形土器底部の破片で網代痕がある。～は無文の粗製土器である。

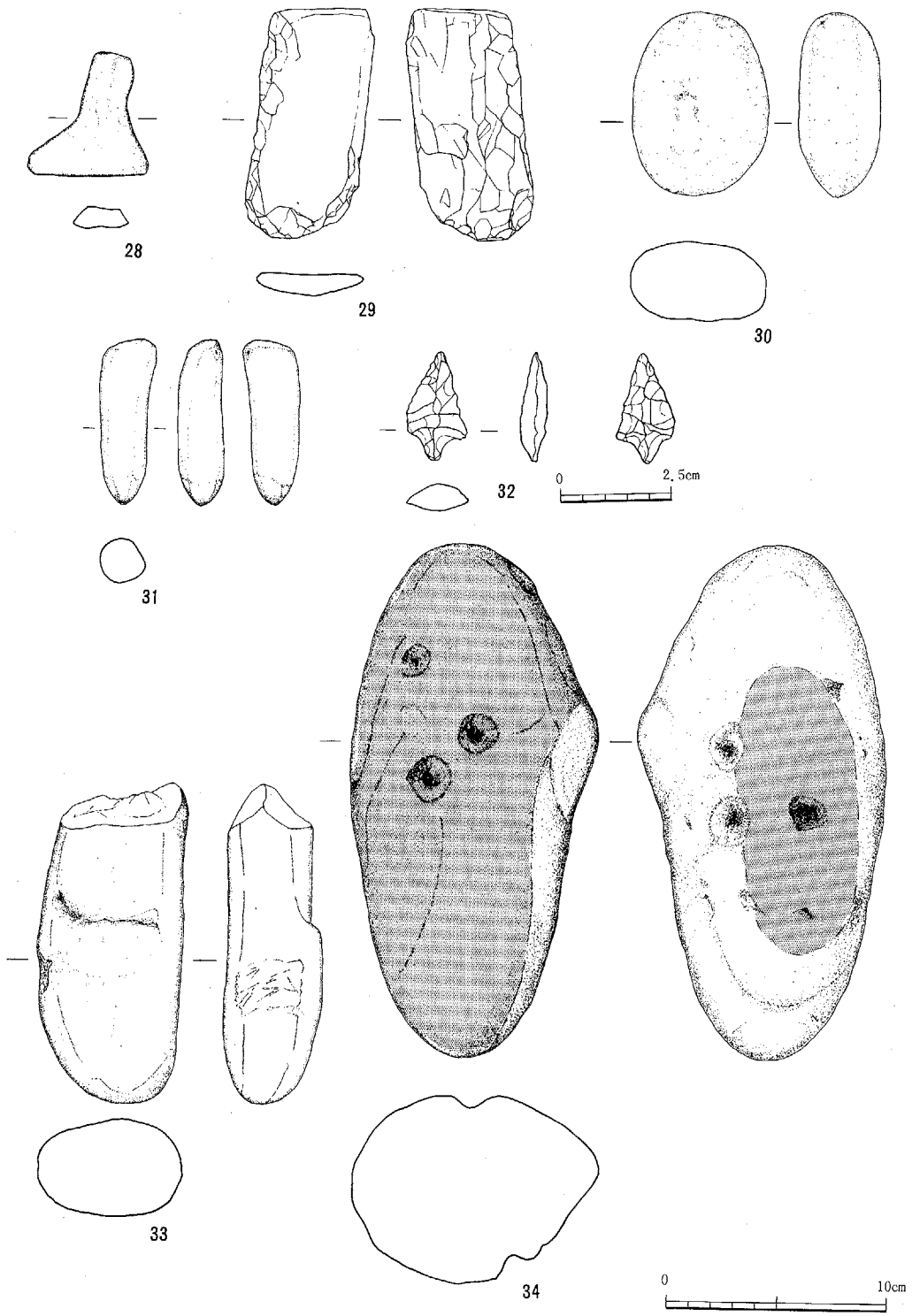
る。口縁部と底部が欠損している。半分は割れて散乱して検出されたが復元結果、完形にはならなかった。残存高18.6cm。胎土は砂粒を含む。焼成は良好。内外に黒斑がある。色調は内28は砂岩製の砥石である。29は打製石斧である。長さ10.4cm幅4.9cm厚さ0.9cm重さ71ｇ。30は磨石である石材は安山岩。中央部に敲打による凹穴がある。長さ8.3cm幅6.1cm厚さ3.7cm。31は石錐、34、は多孔石で熱を受け赤色化している。長さ23.2cm幅11.1cm厚さ8.5cm重さ2.1kg、33は叩き石長さ13.9cm幅6.6cm厚さ4.3cm重さ634ｇ。



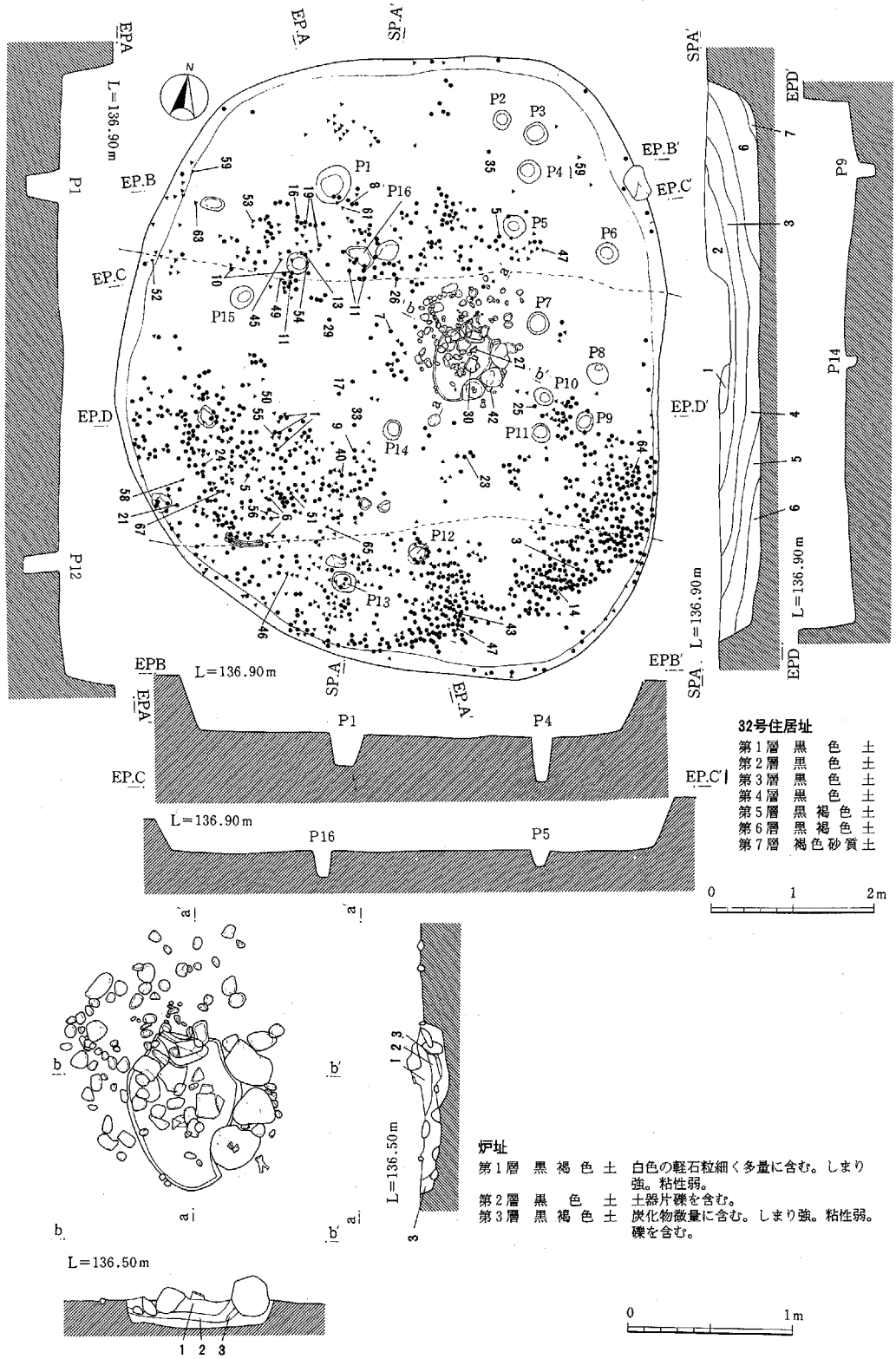
第15図　30号住居址出土遺物（１）



第16図　30号住居址出土遺物（２）



第17図　30号住居址出土遺物（３）


EP.A
EP.A'
SP.A'
EP.B
EP.B'
EP.C
EP.C'
EP.D
EP.D'
EPB
EPB'
EPD
EPD'
L=136.90m
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
32号住居址
第1層 黒 色 土
第2層 黒 色 土
第3層 黒 色 土
第4層 黒 色 土
第5層 黒 褐 色 土
第6層 黒 褐 色 土
第7層 褐色砂質土
0 1 2m
炉址
第1層 黒 褐 色 土 白色の軽石粒細く多量に含む。しまり強。粘性弱。
第2層 黒 色 土 土器片礫を含む。
第3層 黒 褐 色 土 炭化物微量に含む。しまり強。粘性弱。礫を含む。
L=136.50m
0 1m

第18図　32号住居址

32号住居址（第18図　図版６・７）

位置Ｘ－14グリッド／形態　楕円形（方形に近い）／主軸方向Ｎ－45°－Ｅ／規模　長軸7.07×短軸6.06ｍ（東西×南北）／壁高55cm～53cm／壁溝　なし。／床　全体に至って面をなしているが特に硬質化された部分の検出はみられない。／柱穴　16本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
長径cm	48	24	27	28	28	25	28	26	24	25	25	23	26	25	30	26
短径cm	—	36	—	—	—	—	—	—	—	19	—	—	—	—	25	—
深さcm	38	41	40	54	18	31	13	29	27	27	22	42	44	18	43	32

炉　石囲炉が検出。遺存悪く組み石がはずれている。周囲に小礫が散乱した状態である。遺存されているのは組み石は５個である。掘り方長軸109cm、短軸89cm、深さ19cmを計る。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。炉址は焼土の検出状況から判断してあまり使用されていない事が言える。

覆土の状況

自然堆積である。43、44号住居址より続く３号溝は本址の覆土より検出されていない。従って本址は３号溝を切っていることが判明した。土層は黒色土５層、黒褐色土２層の合わせて７層に分層される。

新旧関係

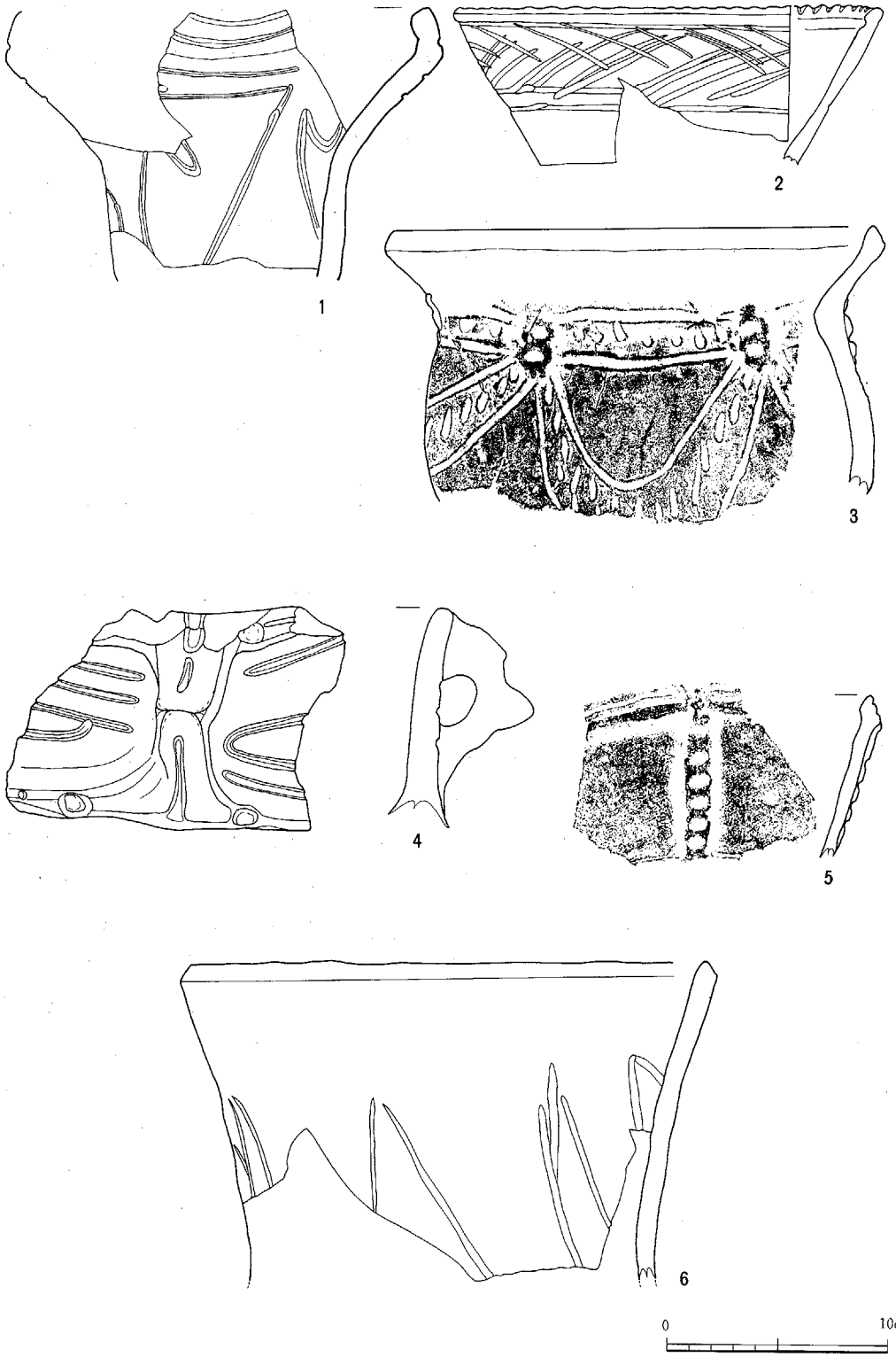
３号溝（河川址）を切る。なお３号溝の残存部分が本址の床下より検出された。

遺物の出土状況

覆土の第２層、第３層中より多量に土器片が出土した。また、本書掲載の台付き浅鉢の破片は第４層より出土した。また、床面より深鉢の破片、舟形土器、土偶１点、打製石斧、磨石凹石が出土した。全体に散乱した状態であった。さらに、炉址内より深鉢胴部上半の破片が出土。実測遺物点数67点。

検出された遺物（第19～33図　図版28～30）

覆土中、床着、炉址内より検出された遺物を掲載した。１は深鉢形土器である。沈線によるＪ字状の区画文を施文する。２は深鉢形土器口縁部の破片で横位の平行沈線を巡らしその間に綾杉形の沈線を施文する。３は深鉢形土器口縁部の破片である。出土位置は覆土第６層より出土。床面より約10cm離れている。施文は頸部にボタン状の貼付を施し横位の平行沈線と胴部はＵ字状の沈線を区画し内側に列点を施す。口径22.6cm、残存高11.3cm。胎土は砂粒を含む。焼成は良好、色調は暗褐色である。４、５、指頭圧痕を施した一条の紐線が巡る。７は台付き浅鉢である。出土位置は覆土第４層、床面より約10cm離れて出土した。施文は口縁部、体部に刻みをもち、体部には明確な沈線が羽状に入る。口辺部にはタテ方向のミガキ、下部に平行沈線が入り、その間を横方向のミガキが入る。口径29cm、残存高13.1cm。口縁部と底部の約３分の１と脚部が欠損している。内外に黒斑あり。焼成は極めて良好である。



第19図　32号住居址出土遺物（1）

色調は淡褐色。調整は内外共に丁寧なミガキが施されている。沈線間にLR縄文を施文する。8、9は沈線間にRL縄文を施文する。9～11は沈線で区画された内側にLR縄文とキザミを施す。12は一重の沈線を巡らし区画する。肩部には沈線間にキザミを施す。胴部は平行沈線を巡らす。7は口唇部にキザミを施し、LR縄文を施文する。10は舟形土器である。口縁部にはボタン状の貼付を施す。体部にRLの縄文を施文し、間を沈線で区画する。器面は丁寧なミガキ。底部外面はヘラケズリのちミガキを施す。長さ30cm、幅（復元）17.4cm、器高5.7cm。胎土は砂粒を含む。焼成は極めて良好である。色調は黒褐色である。沈線間にキザミを施す。11～15、21～24は無文の粗製土器である。12は深鉢形土器の口唇部につく突起である。13は深鉢形土器底部の破片で網代痕がある。

30は深鉢形土器である。炉址内より出土した。波状口縁で吸盤状の突起をもつ。また、口縁の山と谷の部分に装飾的に突手をもつ。残存高25cm。

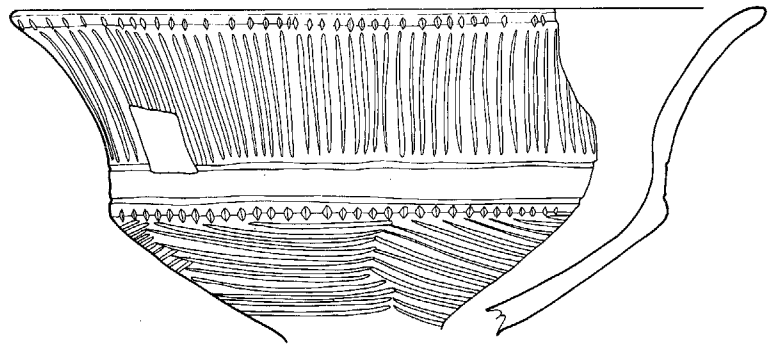
31、32、33、34は瘤状突起が貼付される単節RLの縄文を施文し平行沈線で区画した後交互に縄文をナデで消す。

35は板状土偶胴部の破片である。残存の長さ9.0cm、幅6.8cm、厚さ1.1cm。胴部は沈線文でうず巻き状等の区画文を表現し胴部は乳房を貼り付けて表現している。

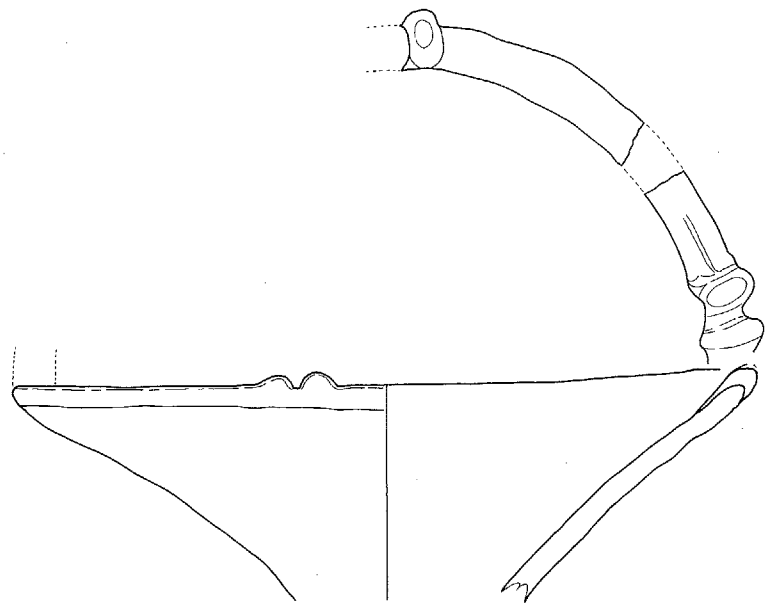
36は礫器である。側面に使用痕が認められる。長さ9.2cm、幅8.2cm、厚さ2.2cm、重さ271ｇ。37は敲石の破片である。残存の長さ5.5cm、幅4.3cm、厚さ1.8cm、重さ60ｇ。38、39は分胴形の打製石斧である。38は約２分の１が欠損する。残存長は6.4cm、幅6.9cm、重さ104ｇ。

40は剥片石器である。側面に使用痕が認められる。長さ6.8cm、幅6.9cm、厚さ２cm。41は石錘である。先端が欠損する。残存長5.8cm、幅3.1cm、厚さ1.1cm、重さ４ｇ。42は石棒である。長さ14.7cm、幅６cm、厚さ4.8cm、重さは1000ｇ。43は砂岩製の砥石である。長さ5.1cm、幅は3.7cm、厚さ0.9cm。重さ23ｇ、44は凹石である。長さ12.9cm、厚さ3.1cm、幅8.6cm、重さ493ｇ。45、55～57、58は磨石である。45は長さ15.3cm、厚さ2.9cm、幅9.4cm、重さ716ｇ。55は長さ8.2cm、厚さ5.6cm、幅7.3cm、重さ460ｇ。56は長さ8.1cm、厚さ2.3cm、幅6.2cm、重さ190ｇ。

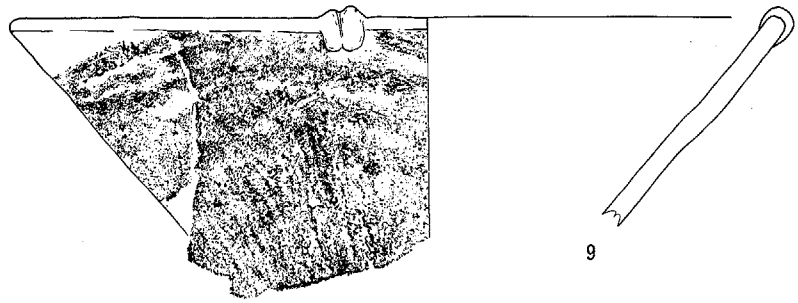
57は長さ12.5cm、厚さ3.0cm、幅7.5cm、重さ467cm。58は長さ7.4cm、厚さ2.0cm、幅5.0cm。重さ123ｇ。60は長さ6.2cm、厚さ2.6cm、幅5.7cm、重さ116ｇ。それぞれ磨滅しており使用痕が認められる。59、61、62、67は凹石である。59は長さは13cm、厚さ6.9cm、幅7.7cm、重さ736ｇ。61は長さ10.2cm、厚さ6.3cm、幅7.9cm、重さ635ｇ。62は長さ11.3cm、厚さ4.5cm、幅5.7cm、重さ329ｇ。67は長さ10.9cm、厚さ8.3cm、幅5.4cm、重さ527ｇ。63、65、66は多孔石長さ15.9cm、厚さ7.5cm、幅12.4cm、重さ1800ｇ。65は長さ12.8cm、厚さ10.7cm、幅11.2cm、重さ1200ｇ。66は長さ18.1cm、厚さ6.5cm、重さ1800ｇ。



7



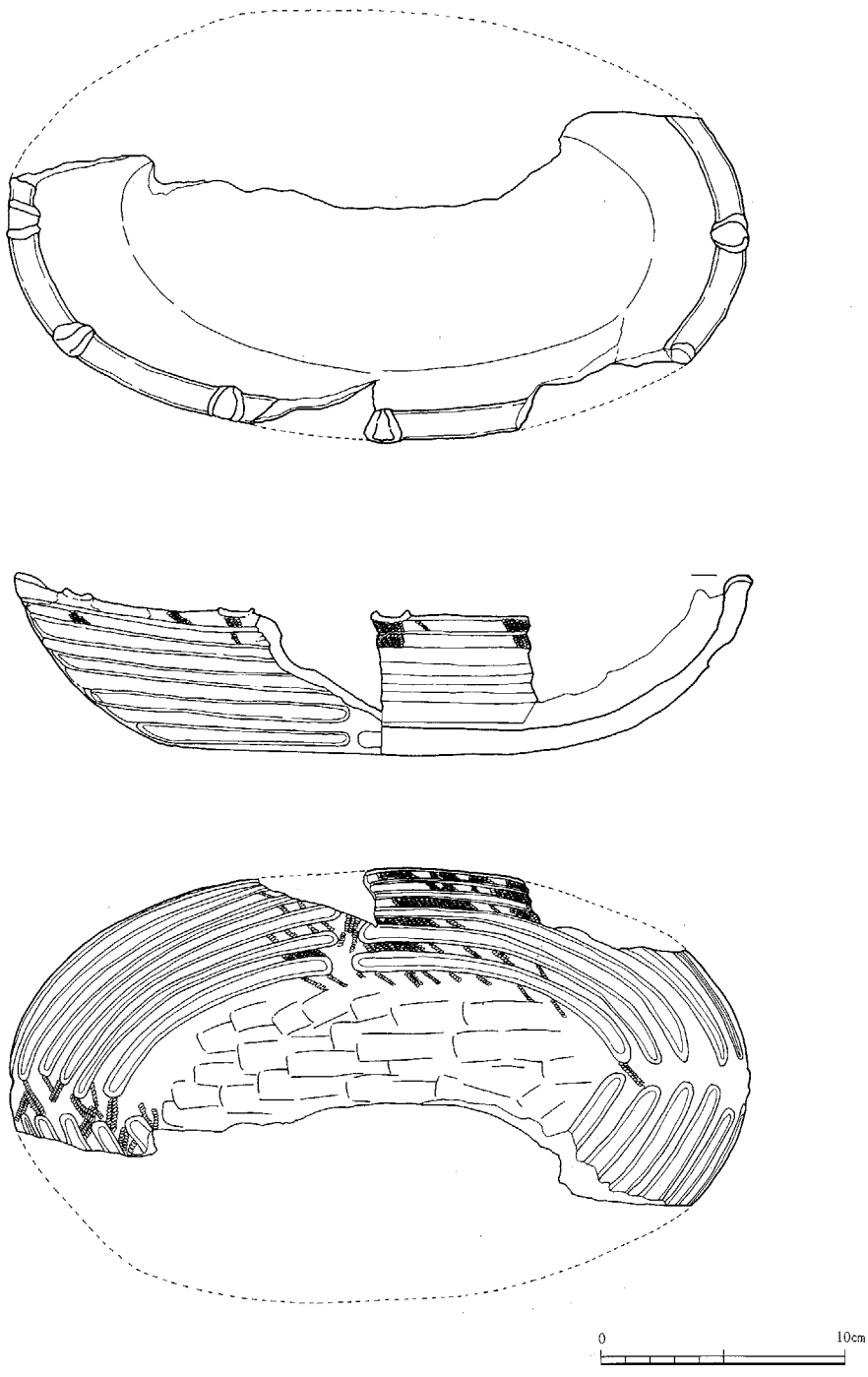
8



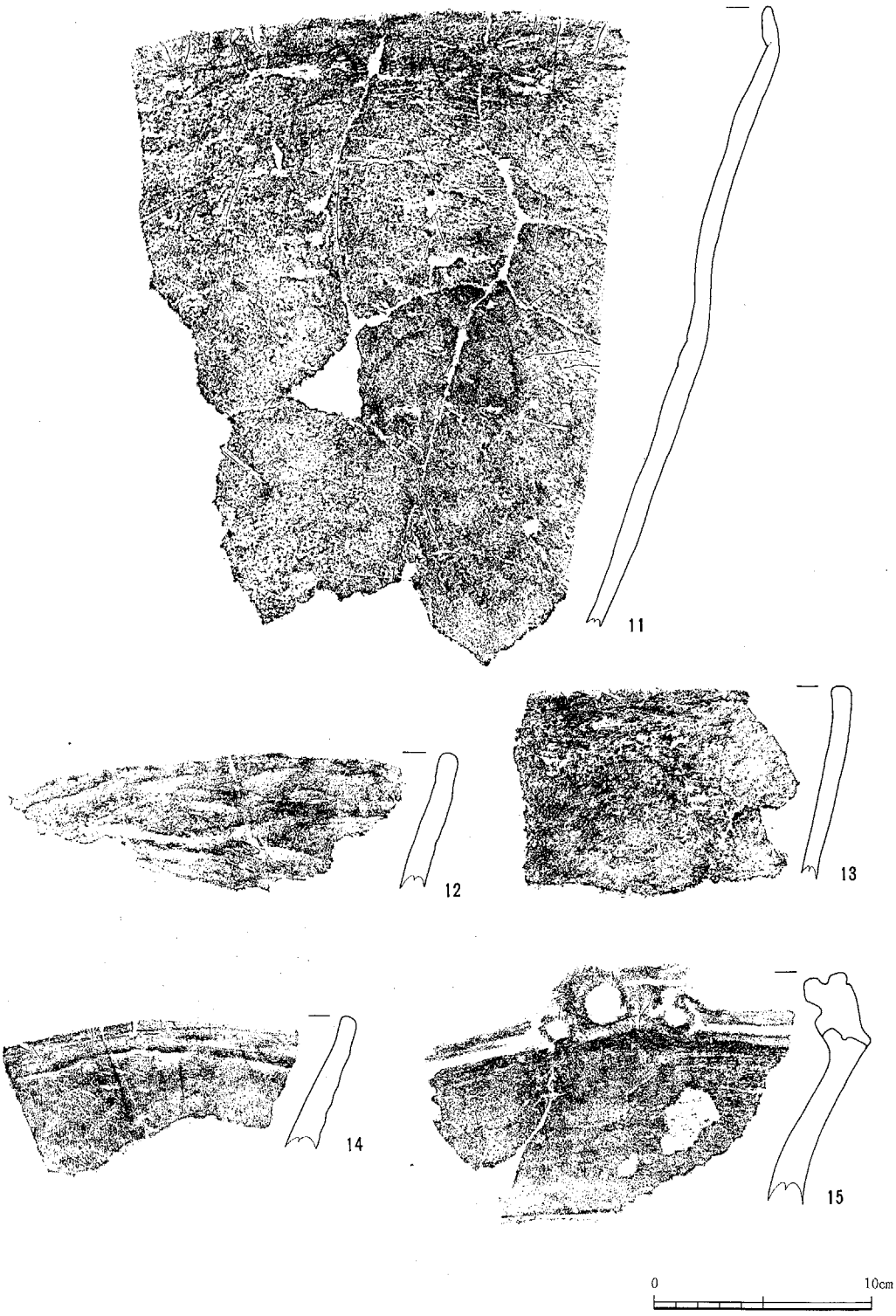
9

0 10cm

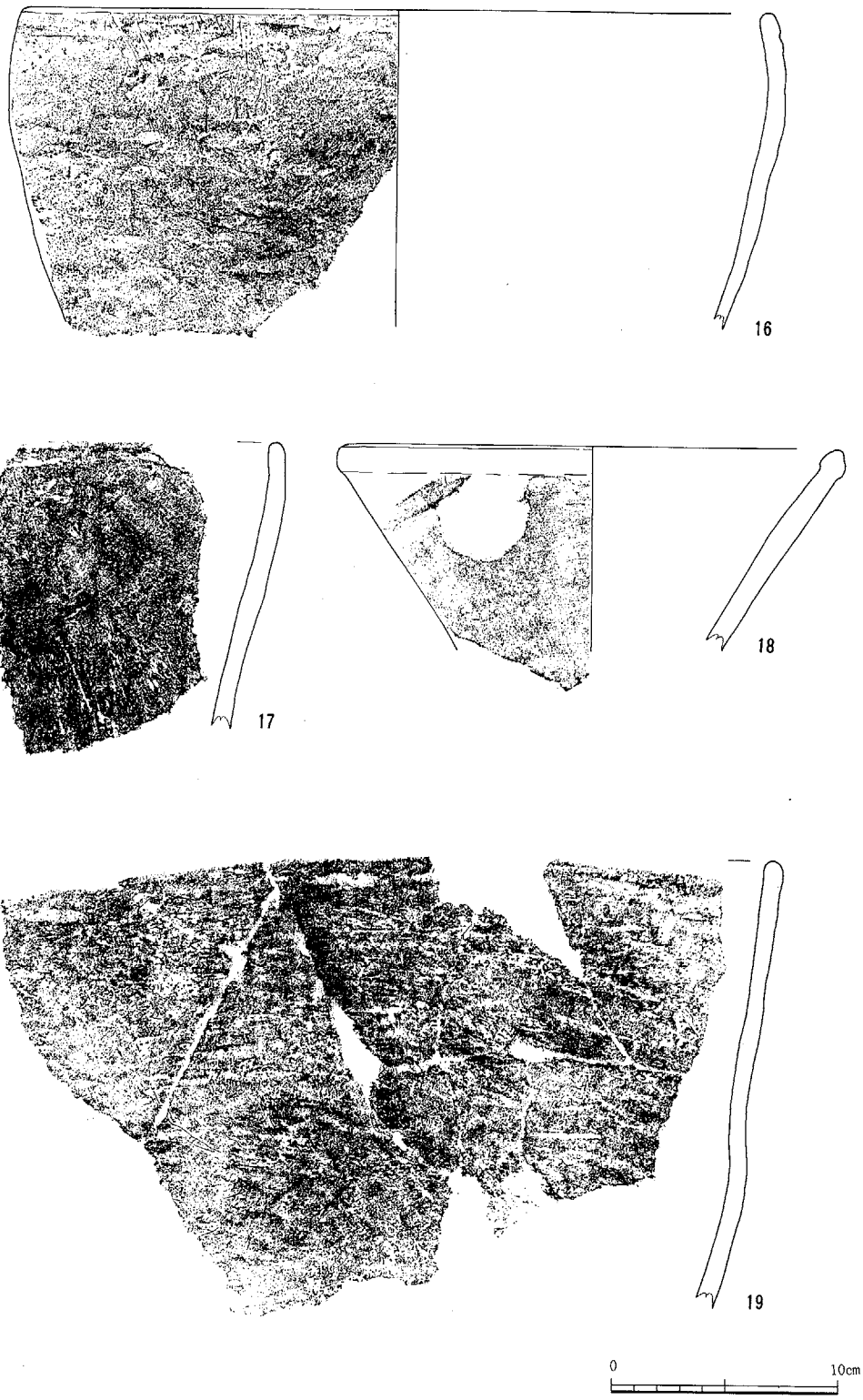
第20図　32号住居址出土遺物（２）



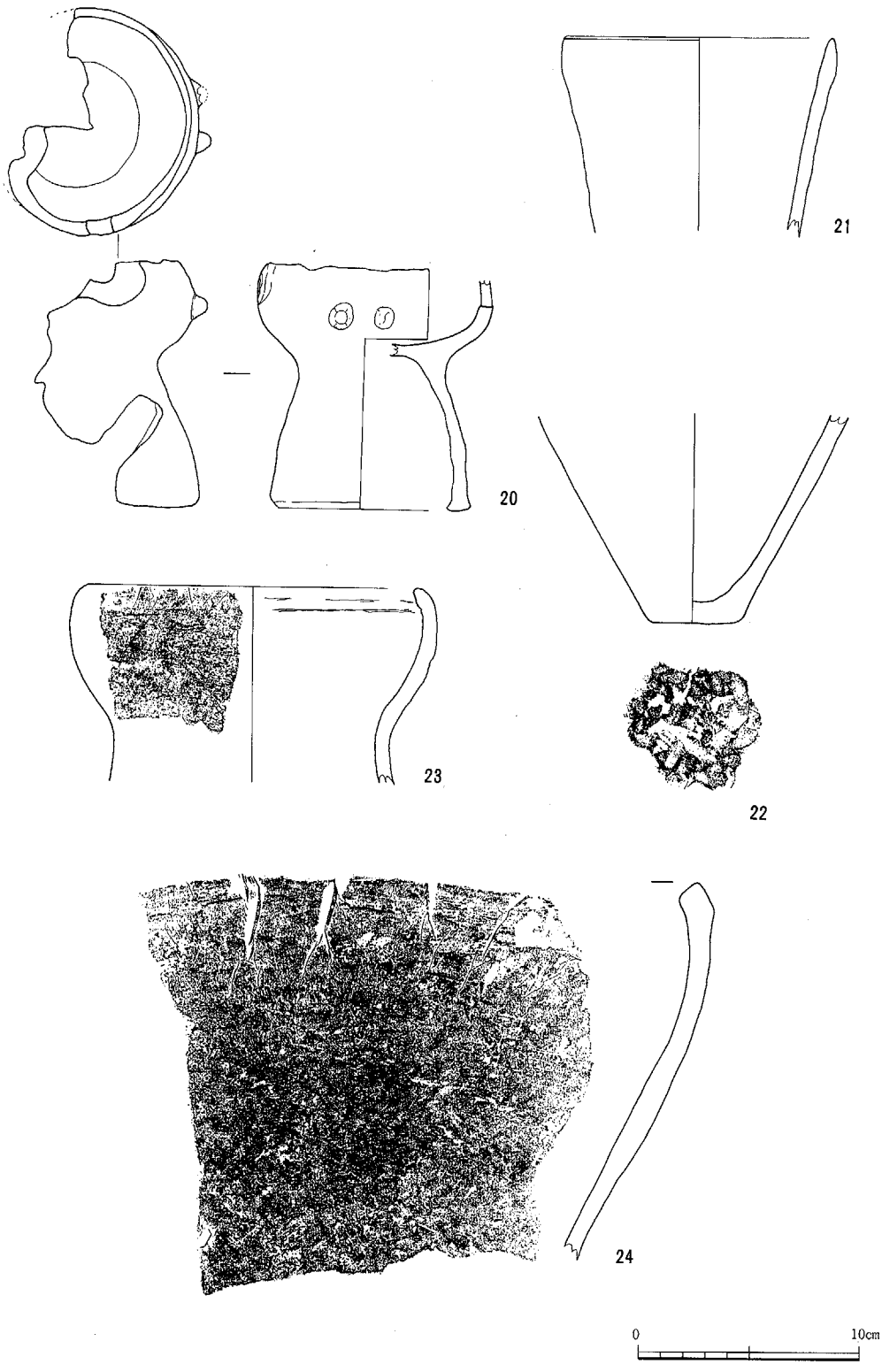
第21図　32号住居址出土遺物（３）



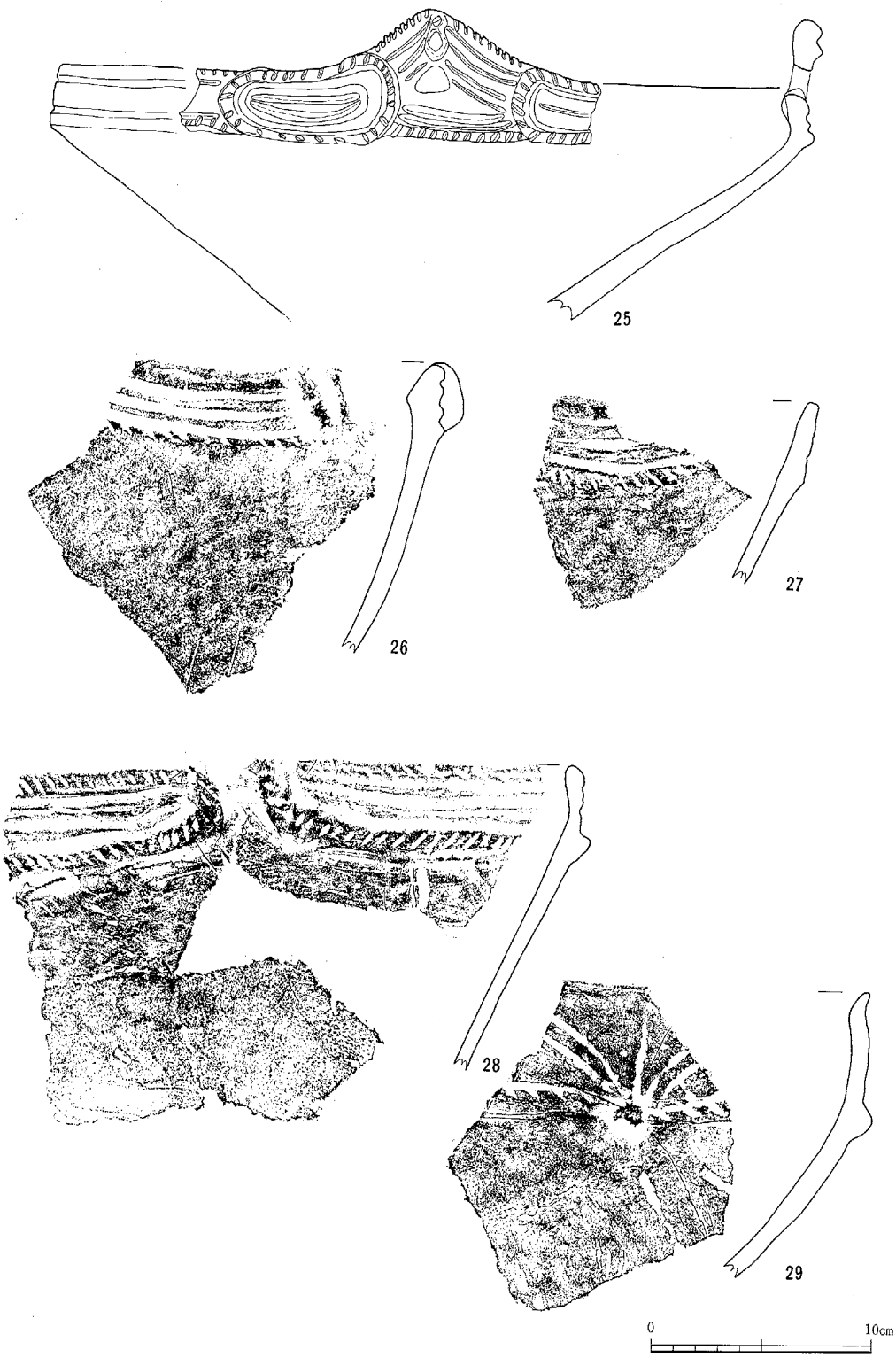
第22図　32号住居址出土遺物（4）



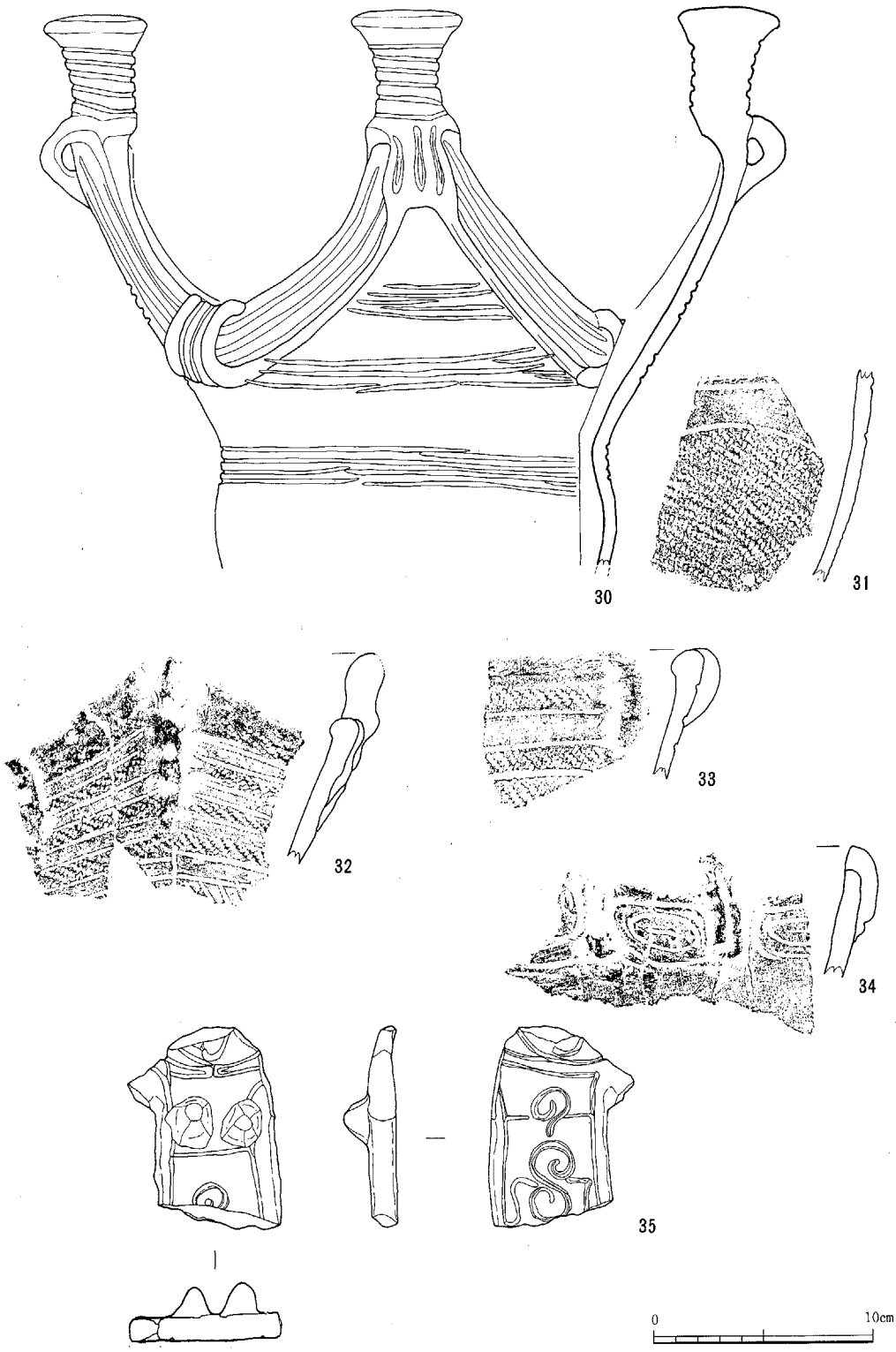
第23図　32号住居址出土遺物（５）



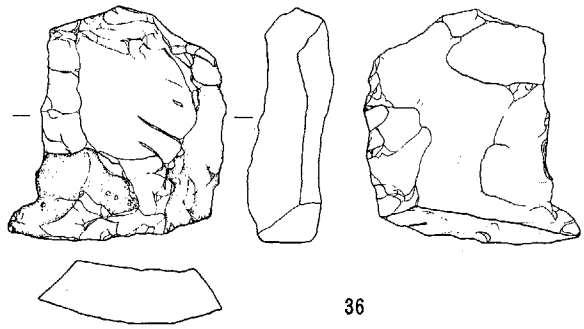
第24図　32号住居址出土遺物（6）

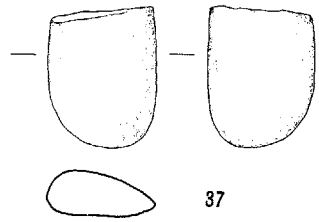


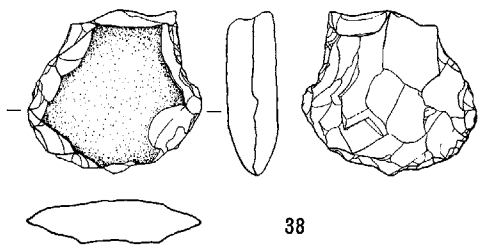
第25図　32号住居址出土遺物（7）

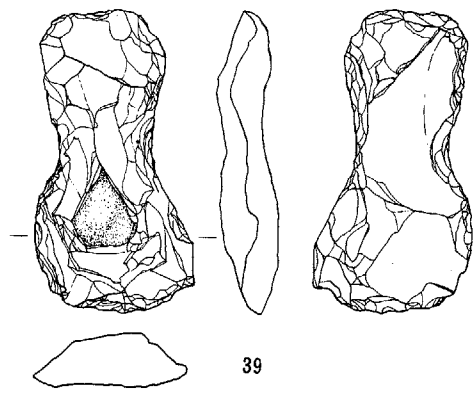


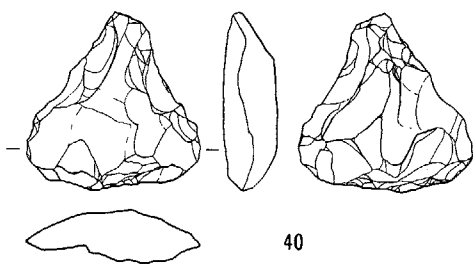
第26図　32号住居址出土遺物（８）

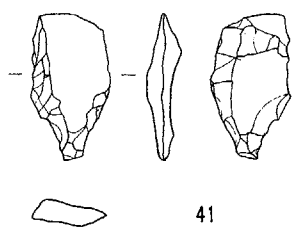




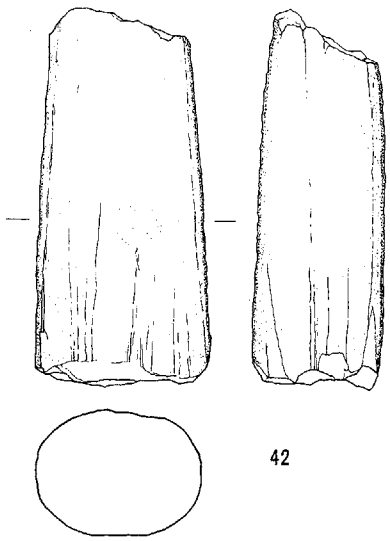




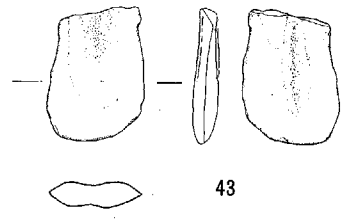




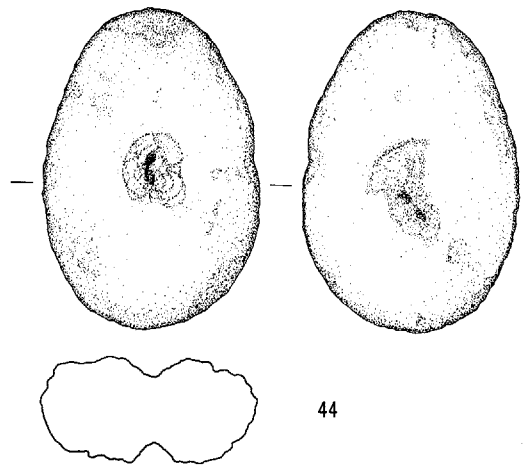
第27図　32号住居址出土遺物（9）



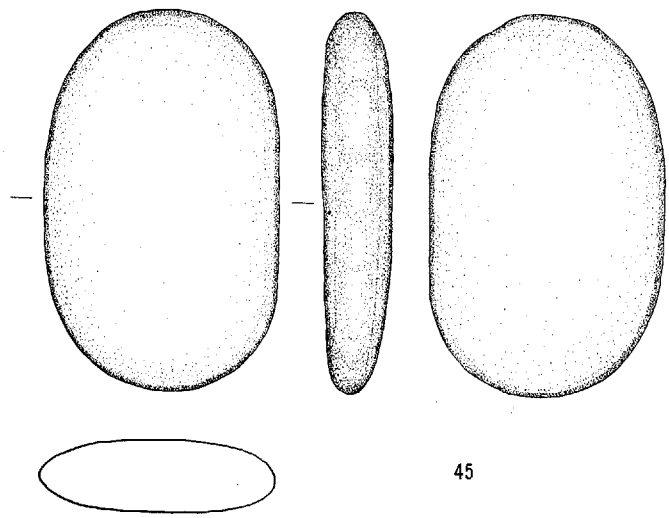
42



43



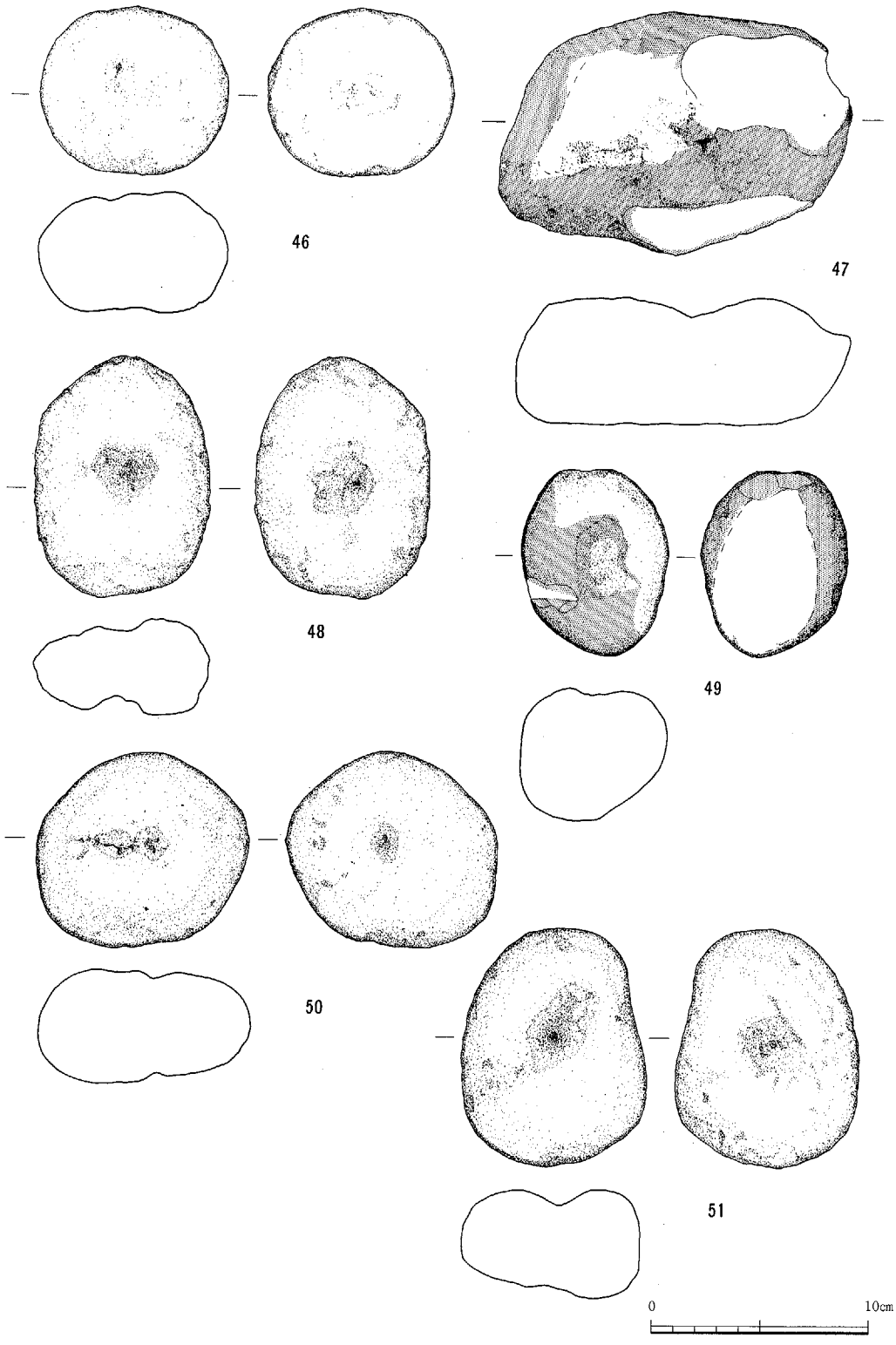
44



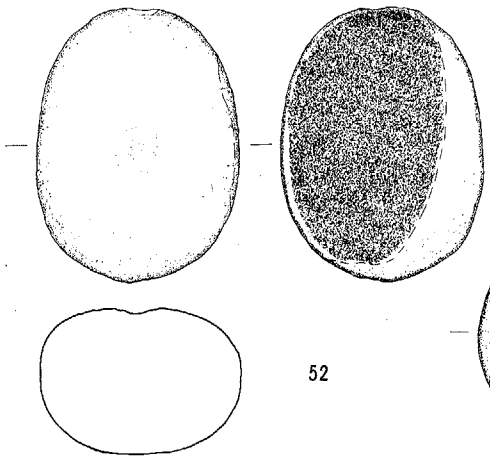
45

0 10cm

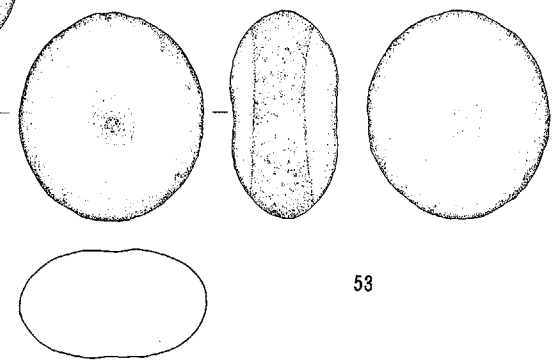
第28図　32号住居址出土遺物（10）



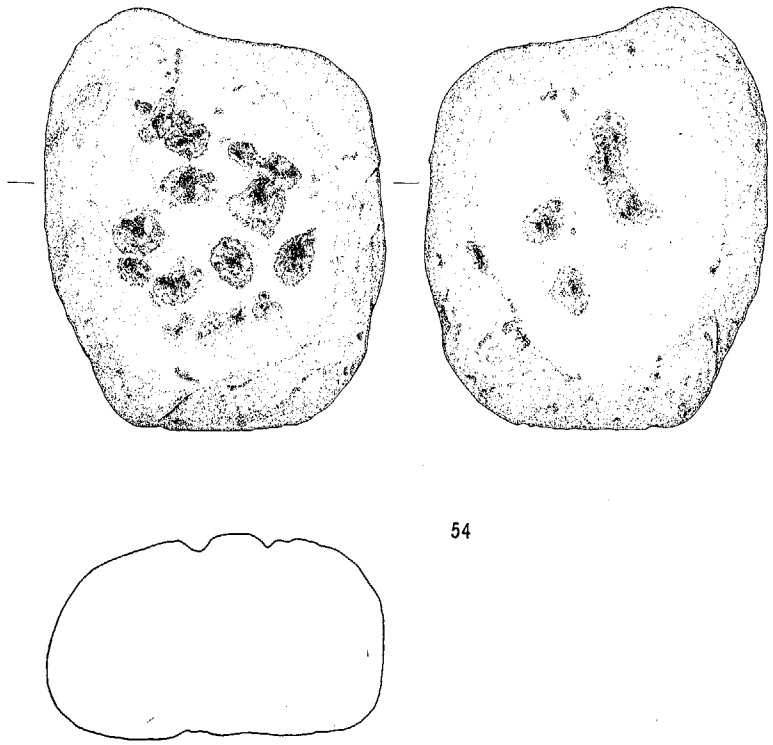
第29図　32号住居址出土遺物（11）



52



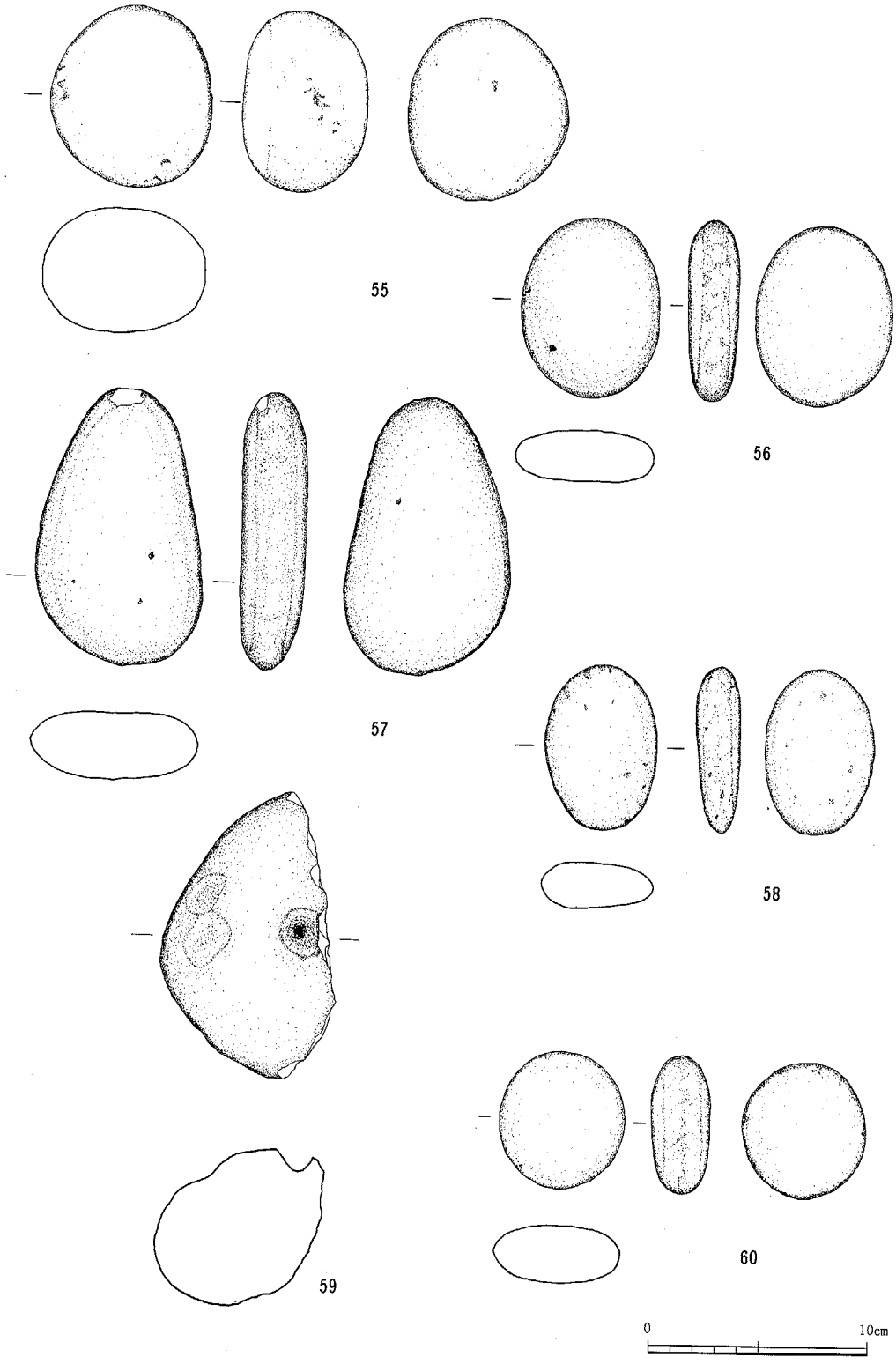
53



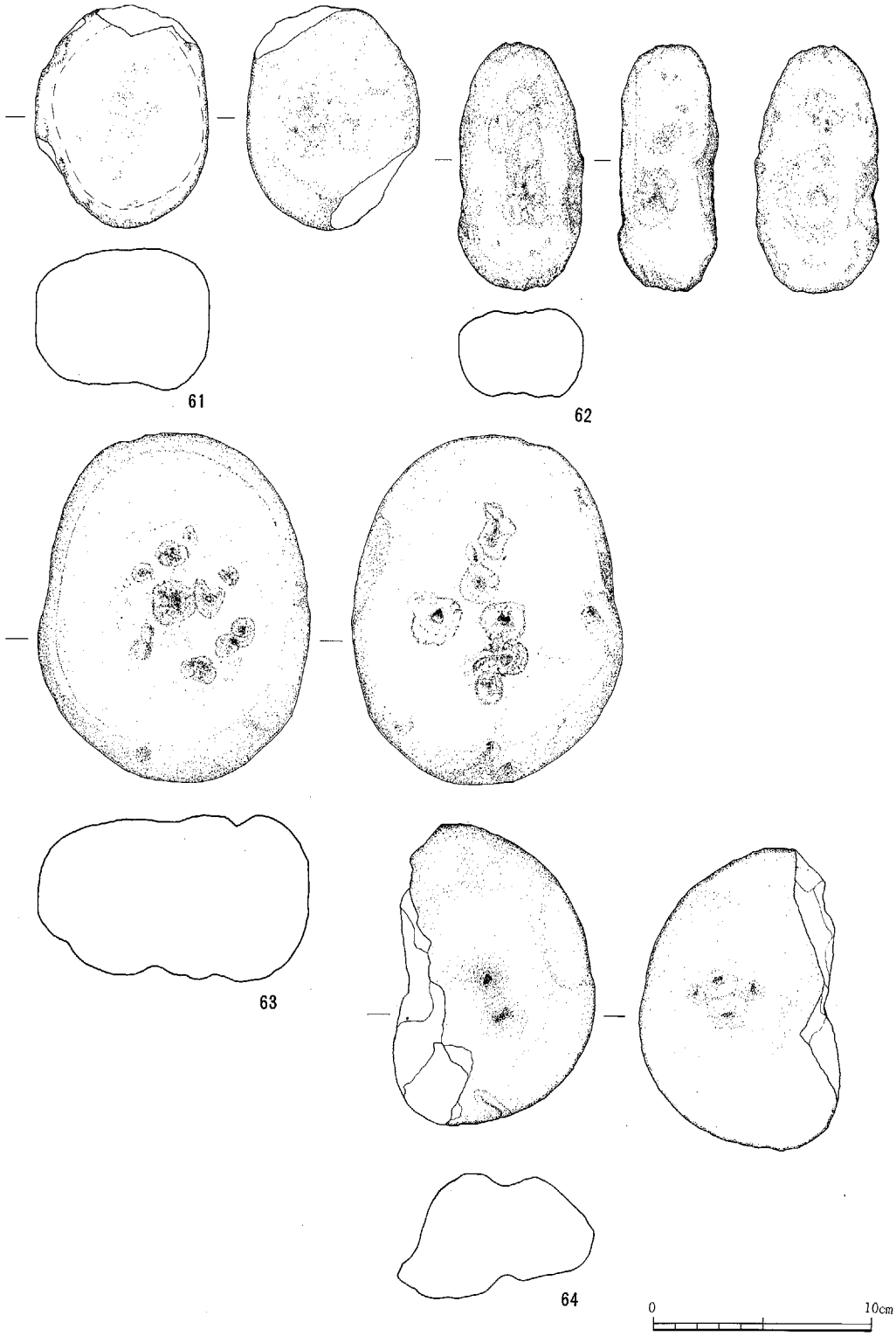
54

0 10cm

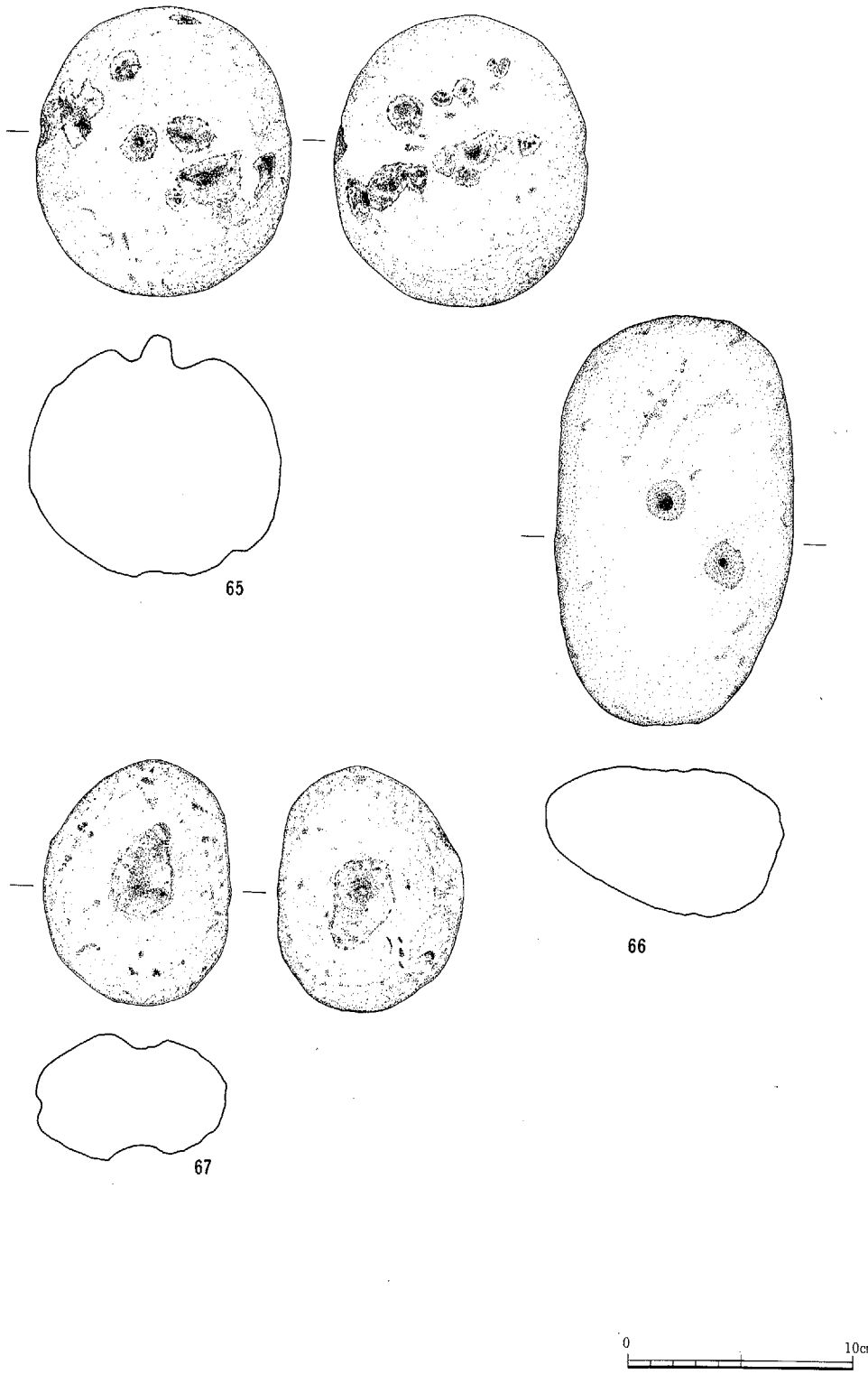
第30図　32号住居址出土遺物（12）



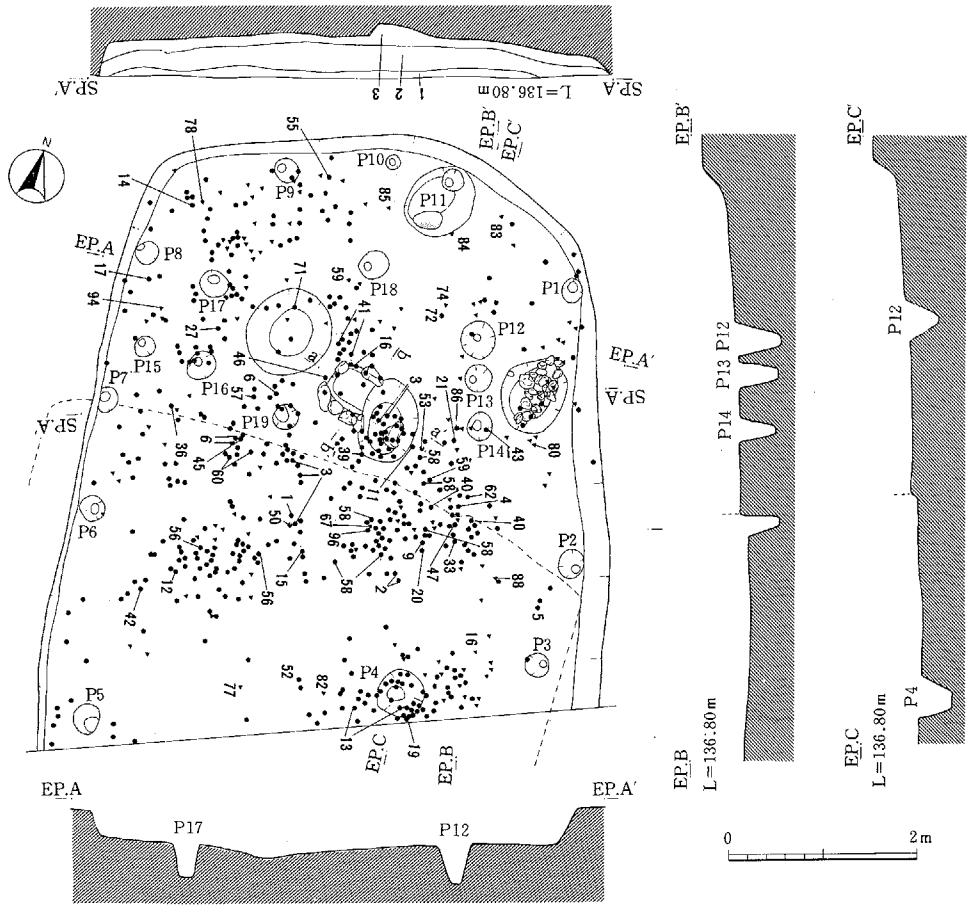
第31図　32号住居址出土遺物（13）

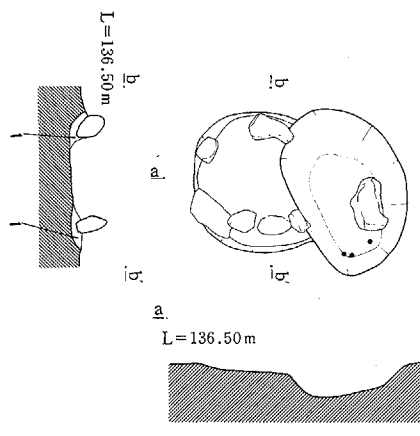


第32図　32号住居址出土遺物（14）



第33図　32号住居址出土遺物（15）





第1層　黒　色　土　白色軽石粒細かく多量に含む。しまり強。粘性弱。
第2層　黒　色　土　白色軽石粒細かく少量含む。土器片多量、骨片少量含む。しまり強。粘性弱。
第3層　黒 褐 色 土　土器片多量、骨片少量含む。しまり強。粘性弱。

第1層　暗 褐 色 土　埋土。石を固定したもの、しまり強。つき固めている。

第34図　33号住居址

33号住居址（第34図　図版７、８、30、31）

位置Ｘ－13グリッド／形態　隅丸長方形／規模　長軸は調査区域外へ延びるため不明。短軸4.29ｍ。（南北×東西）/壁高24cm～35cm／壁溝　なし。／床　暗褐色砂質土に掘り込まれる。全体に亘って面をなしているが硬質部分の検出はみられなかった。／柱穴　18本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
長径cm	10	25	26	50	32	25	26	23	25	15	22	34	28	28	26	29	29	32
短径cm	－	－	－	--	27	－	19	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
深さcm	44	98	50	36	25	45	39	48	27	25	44	52	42	37	48	48	64	54

炉　石囲炉である。楕円形の掘り込みに切られる。掘り方は長軸不明、短軸44cm、深さ７cm。平面は楕円形、断面は鍋底形を呈する。／その他の施設　楕円形の掘り込みが３ケ所検出された。覆土の状況から本址に伴う遺構と考えられる。便宜上、土坑と呼称した。土坑１・長軸10cm、短軸64cm、深さ29cm。Ｐ11と重複する。また、中に火熱を受け赤色化した自然礫が１点出土した。土坑２・長軸94cm、短軸83cm、深さ14.7cm。土坑３・炉址を切ったような形で検出されている。しかし、住居址の覆土中からの掘り込みが認められな構ったため炉址に付随する遺構の可能性が考えられる。長軸88cm、短軸58cm、深さ17cm。共に平面は楕円形、断面は鍋底形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土を基調に２層、黒褐色土１層の合わせて２層に分層される。

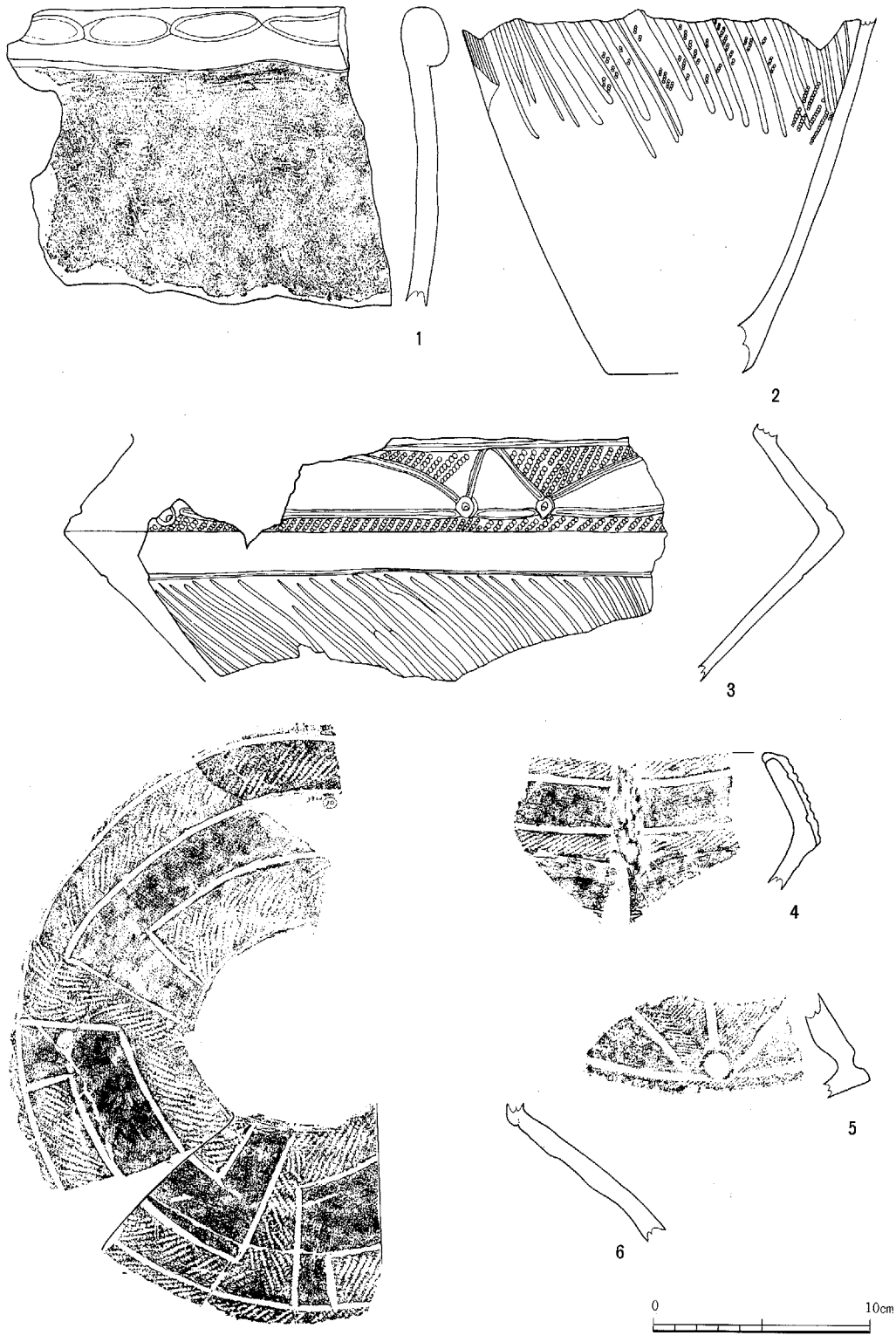
遺物の出土状況

覆土中より多量に土器片が出土した。床直上より石棒の破片が出土した。実測遺物点95点。

検出された遺物（第35～47図　図版21、22、31、32）

覆土中のものは多量に出土したため代表的なものと、床直上より出土したものを掲載した。１は深鉢形土器の口縁部破片である。口縁部に指頭圧痕を施した紐線を巡らす無文の粗製土器である。床直上より出土した。２は深鉢形土器の破片である。LRの磨消し縄文を施文し、覆櫛歯状の沈線を施される。覆土第３層中より出土した。３はくの字状に屈曲するソロバン玉形の深鉢形土器の破片である。体部上半は横位や弧状の沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填される。下半は横位や斜位の沈線を施される。床直上より破片３点で散乱して出土した。４は瘤状の突起を貼り付し、沈線による区画文の中に単節LR縄文をされた沈線５は３と同様な破片である。

６は注口土器の体部上半の破片と思われる。沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填される。床直上より出土した。７、８は深鉢形土器口縁部の破片である。無文の粗製土器である。また、８は波状口縁である。共に覆土第１層中より出土した。９は深鉢形土器の破片である。斜位の沈線を胴部上半と下半に巡らし、頸部に平行沈線を巡らせ間は無文帯を構成する。以下に刺突文を巡らせる。床直上より出土した。10は深鉢形土器口縁部の破片である。櫛歯状の沈



第35図　33号住居址出土遺物（1）

線が施される。床直上より出土した。11、12は深鉢形土器口縁部の破片である。13は浅鉢形土器の破片である。胴部に単節RLの磨消し縄文を施文される。床直上より3つの破片が散乱して出土した。14は深鉢形土器の破片である。口縁部に沈線で区画された中に縄文帯とキザミ目帯を巡らせ、縦長の貼り付文を施される。胴部に櫛描きの沈線を施される。覆土第2層中より出土した。15、16は深鉢形土器の口縁部破片。無文の粗製土器である。

覆土第3層中より出土した。17は深鉢形土器口縁部の破片である。沈線間にキザミ目を施し、以下を綾形状の沈線を施される。覆土第2層中より出土した。18は深鉢形土器の破片である。波状口縁である。口縁部に沈線による区画文を施し単節RL縄文を充填する。以下を沈線による区画の中に綾形状の沈線を施す。覆土第1層中より出土した。19は深鉢形土器の口縁部の破片である。口縁部に平行沈線を巡らせ間にキザミ目を施される。以下を綾形状の沈線を施文される。20、22は深鉢形土器の口縁部破片である。第2層中より出土した。口縁部に平行沈線間に縄文帯単節LR縄文をとキザミ目帯を巡らせ施文される。21は深鉢形土器の口縁部破片である。綾形状の沈線を施される。覆土第2層中より出土した。22は深鉢形土器である。口縁部に沈線で区画された問に単節LRの磨滑縄文を充填する。体部には池線間に刺突文をめぐらせ以下綾杉状の沈線を施す。覆土第1層中より出土した。

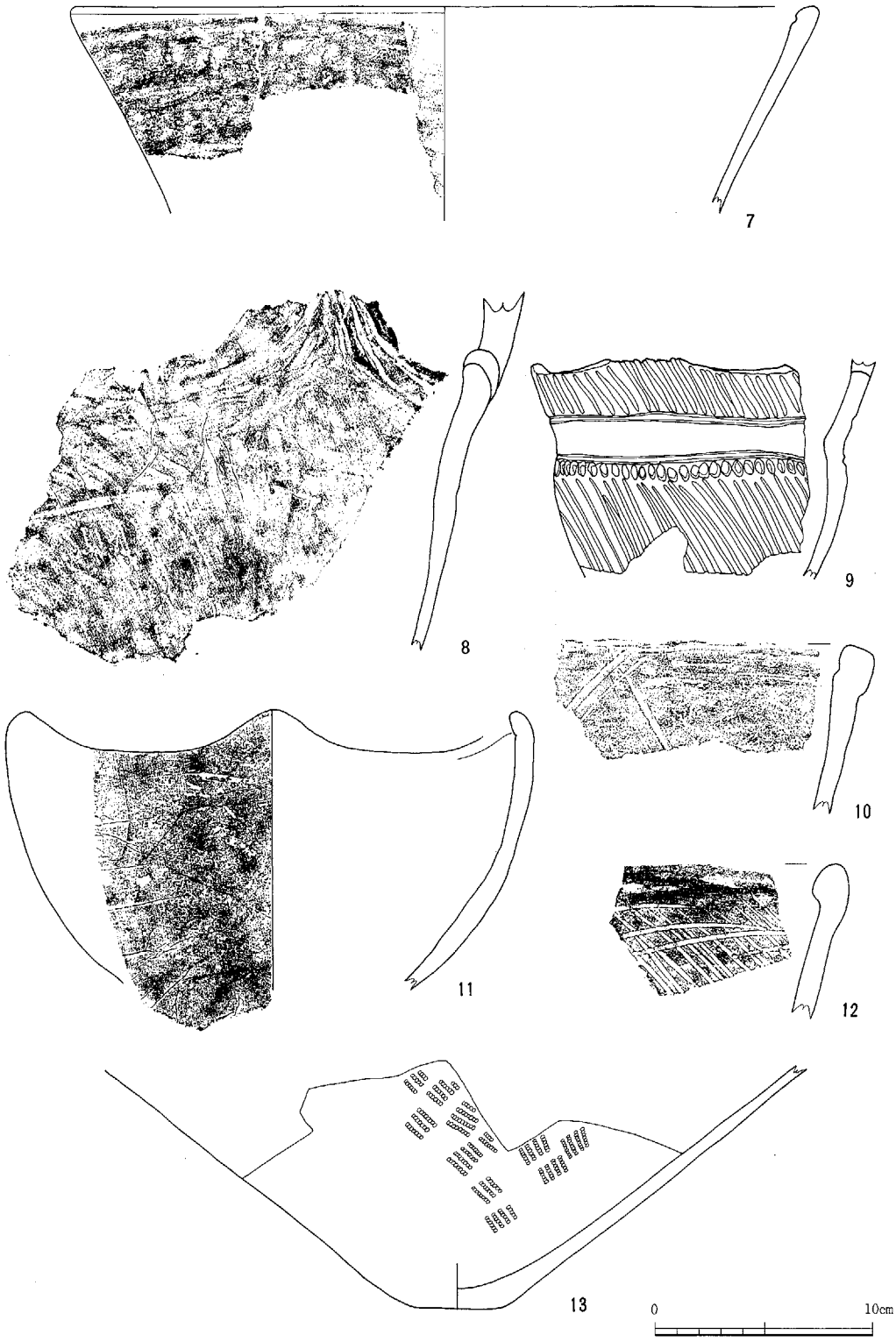
23～35は赤彩土器である。共に覆土第2層中より出土した。23は沈線間に単節LRの磨消し縄文を充填させる。下半が欠損する。31は深鉢形土器口縁部の破片である。弧状沈線の区画文の中に単節LR縄文を施文する。37は深鉢形土器である。無文の粗製土器である。覆土第1層中より出土した。38、39は深鉢形土器の口縁部破片である。綾杉状の沈線を施される。覆土第3層中より出土した。40、41は深鉢形土器の口縁部破片である。口縁部に沈線を巡らせ中に単節LR縄文を充填させる。床直上より出土した。42は深鉢形土器である。口縁部は床直上より出土した。50、54～56は台付き異形土器である。50は胴部の破片である。胴部はまるくふくらむ。第2層中より出土した。54～56は覆土中より出土した。脚部の破片である。赤彩が施されている。51は深鉢形土器底部の破片である。無文の粗製土器である。54～56は脚部の破片である。55、56は赤彩が施されている。57、58、60は深鉢形土器口縁部の破片である。波状口縁である。綾形状の沈線を施文様れる。59は浅鉢形土器口縁部の破片である。口縁部に単節LRの磨消し縄文帯とキザミ目を施し把手を貼付される。胴部には綾杉状の沈線を施される。床直上より出土した。61、62、64は注口土器の注口部の破片である。63、65は山形土偶の脚部の破片である。

66～69は耳飾りである。みな耳栓形を呈する。66は床直上より出土、他はみな覆土第3層中より出土した。66は径1.6cm、高さ1.2cm。67は径1.8cm、高さ1.1cm。68は径1.1cm、高さ1.5cm。69は中央部に小孔があく。径1.3cm、高さ1.9cm。70は径2.0cm、高さ1.9cm。

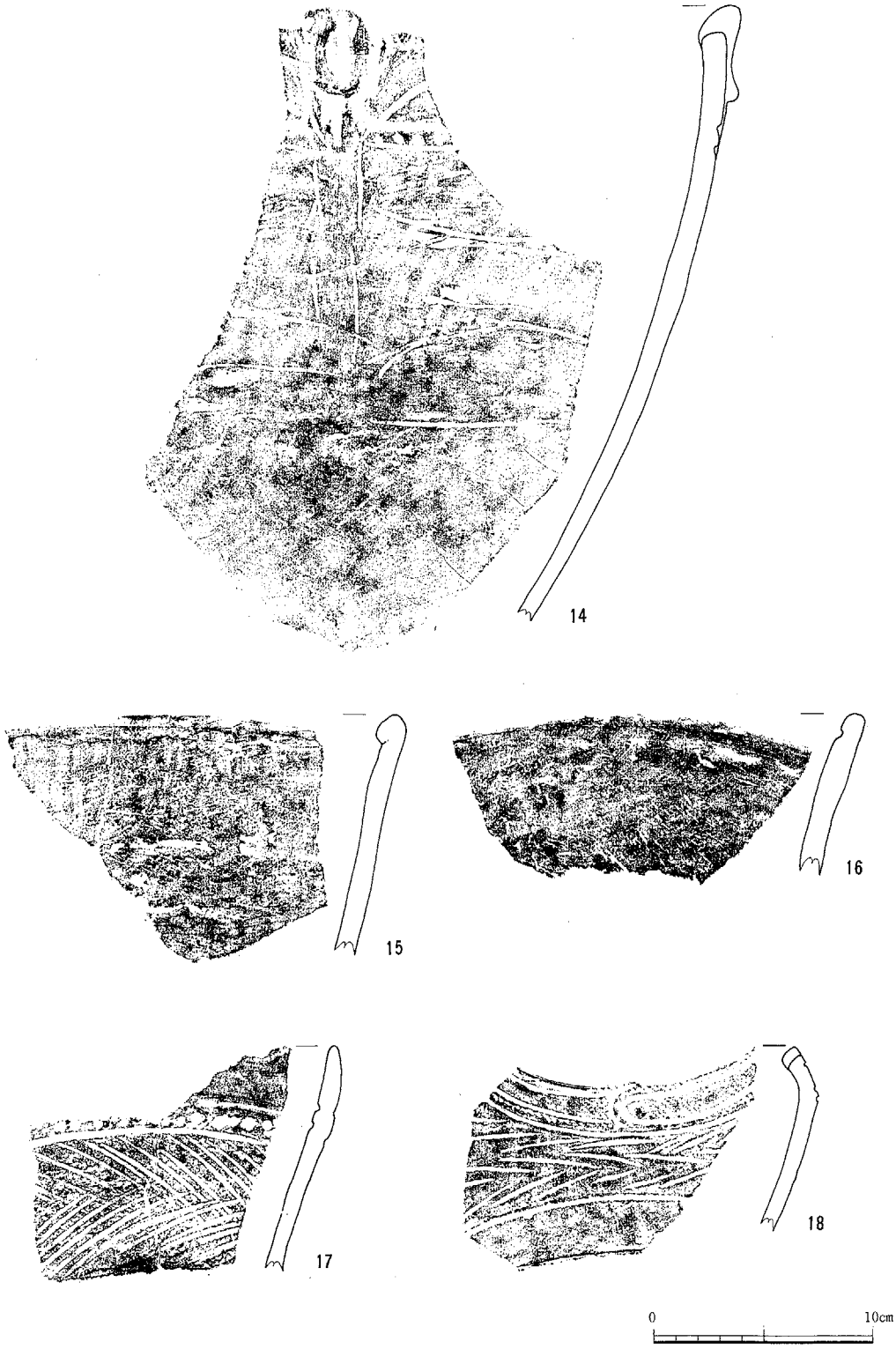
71は深鉢形土器である。無文の粗製土器である。72は深鉢形土器である。波状口縁である。口縁部に単節LR縄文を施される。以下を綾杉状の沈線を施される。

73、75は剥片石器である。石材は頁岩である。側面を刃部として使用されている。73は長さ8.8cm、幅3.6cm、厚さ1.4cm、重さ39g。覆土第1層中より出土した。75は長さ7.9cm、幅4.3cm、厚さ1.6cm、重さ44g。床直上より出土した。

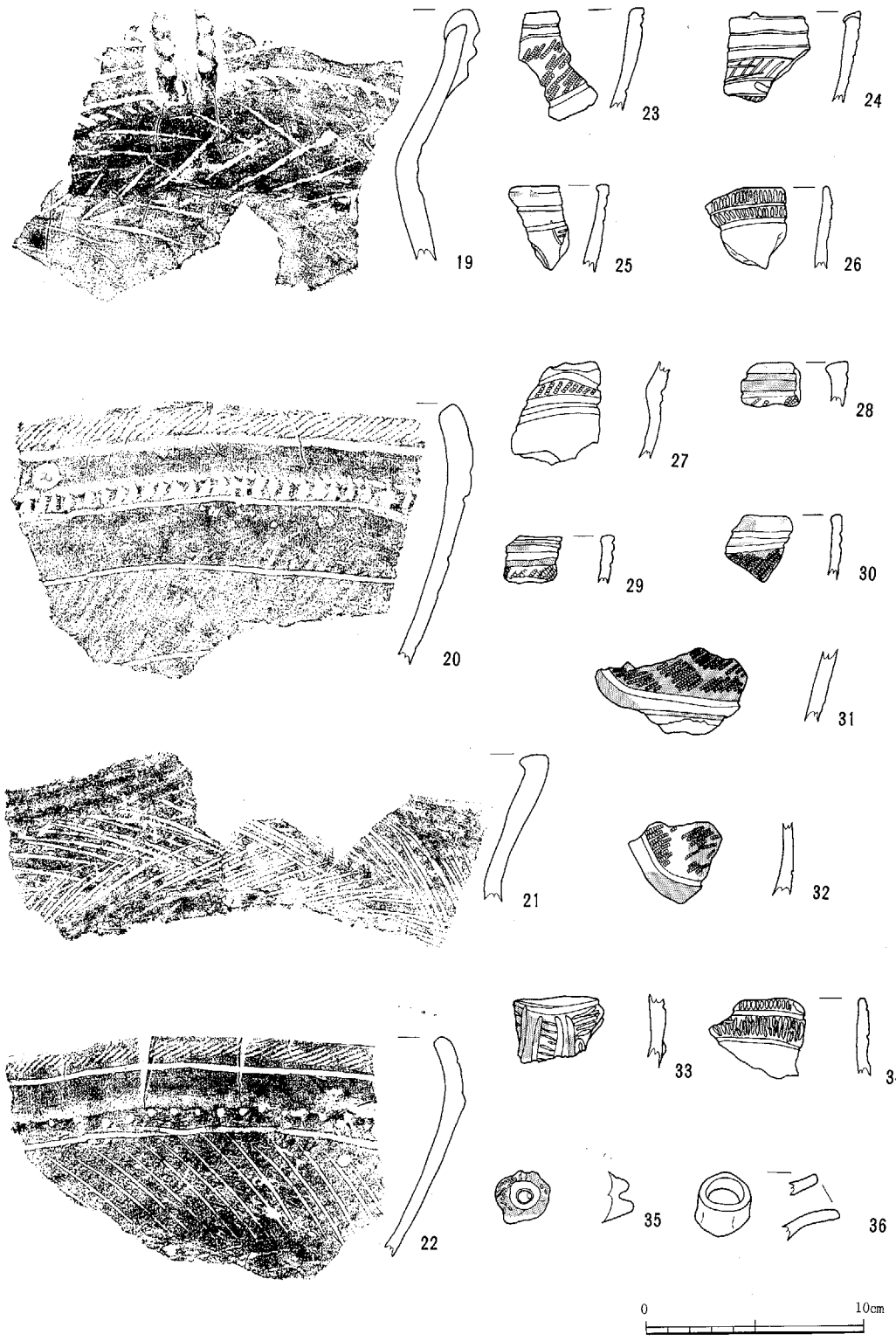
77は打製石斧である。長さ7.2cm、幅3.5cm、厚さ1.2cm、重さ59g。覆土第1層中より出土



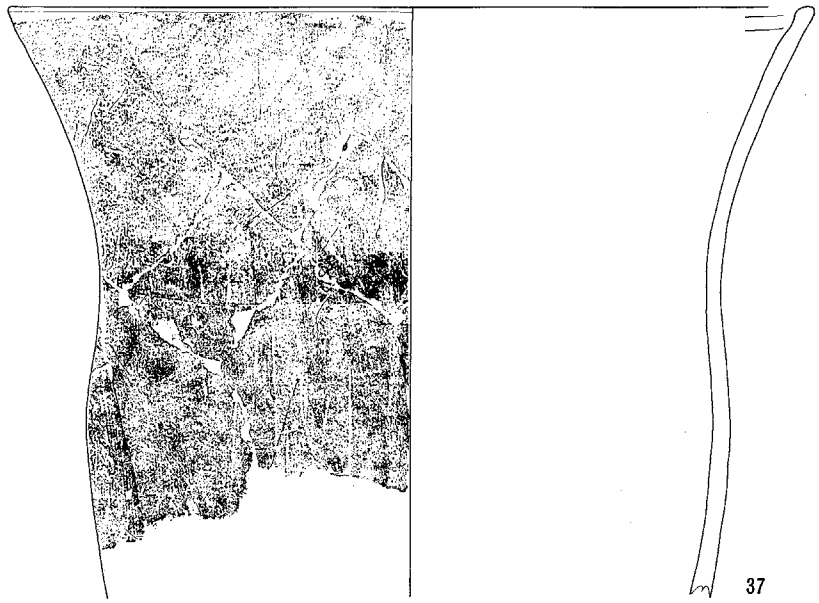
第36図　33号住居址出土遺物（２）

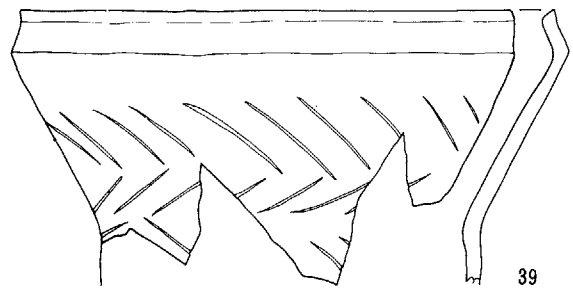


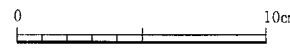
第37図　33号住居址出土遺物（３）



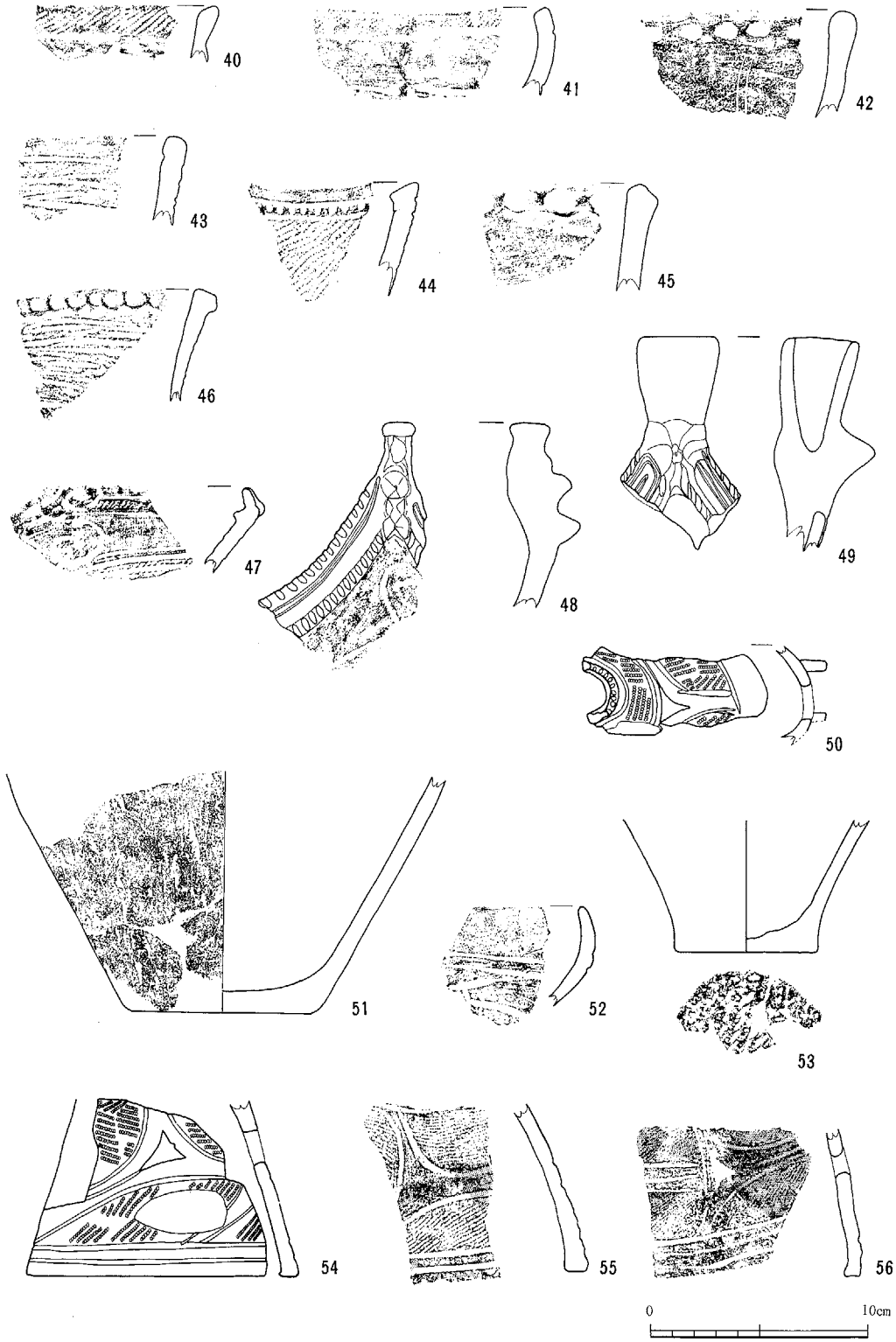
第38図　33号住居址出土遺物（4）



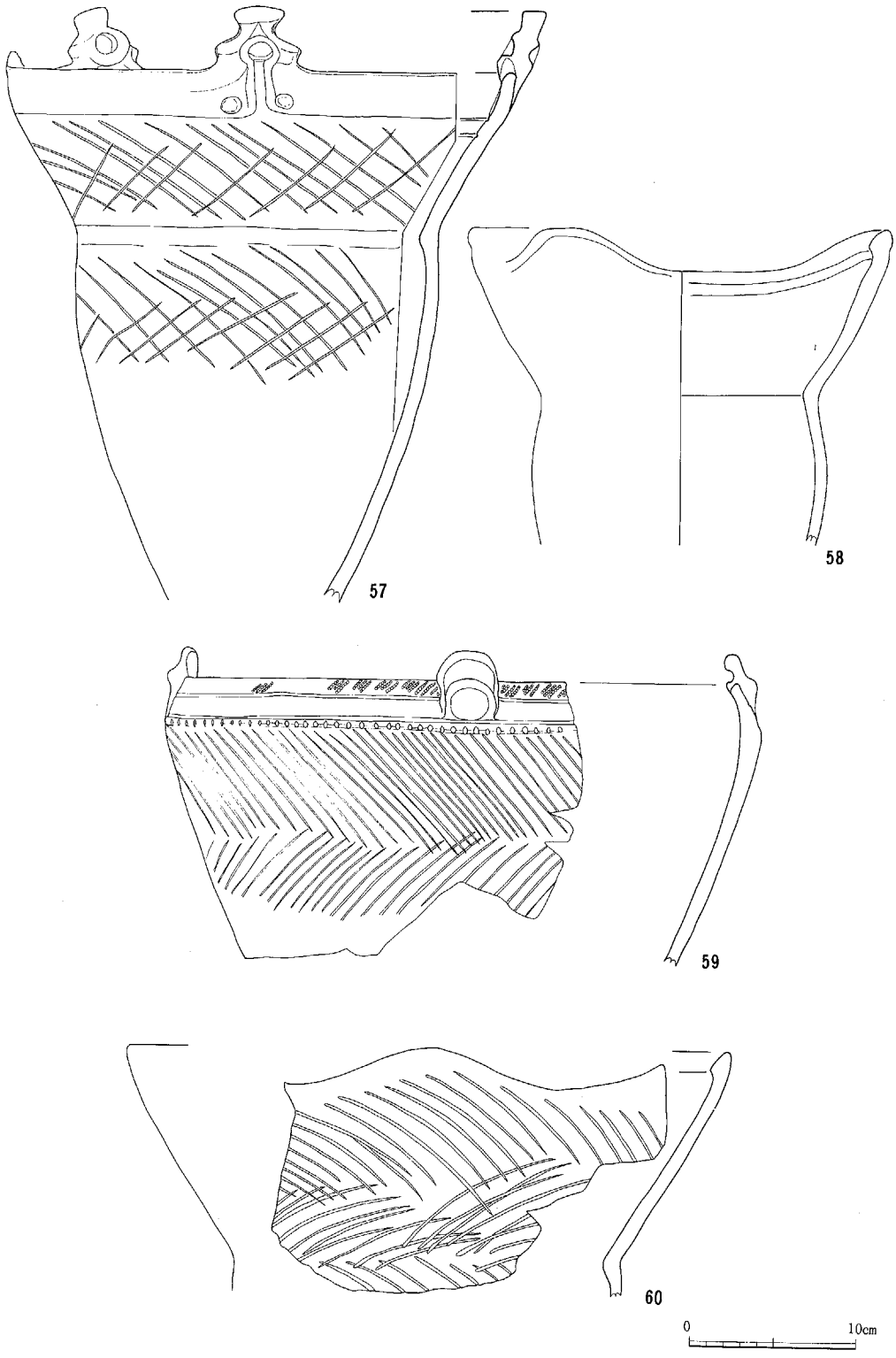




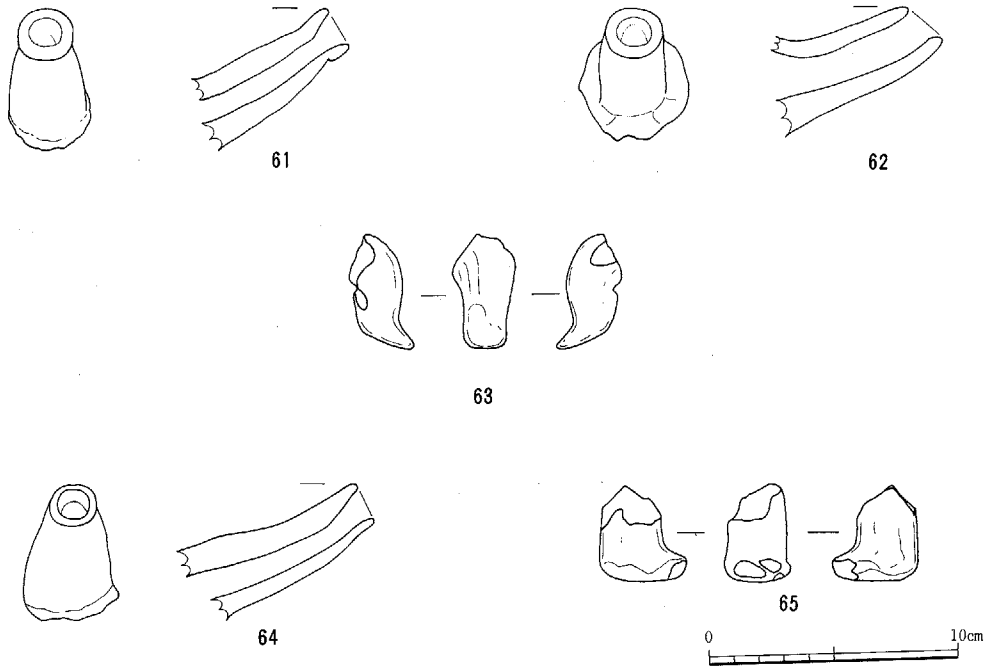
第39図　33号住居址出土遺物（５）



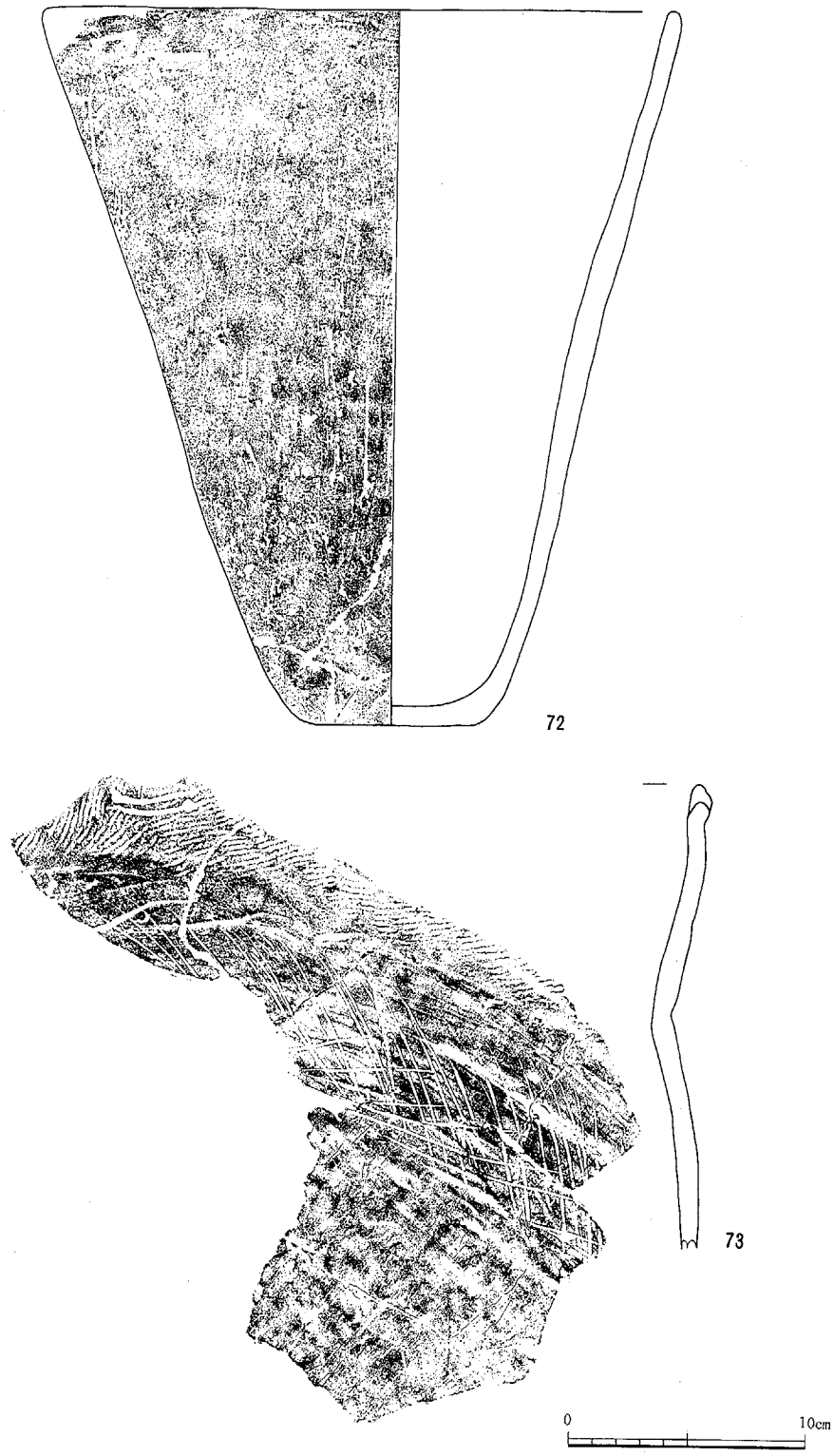
第40図　33号住居址出土遺物（６）



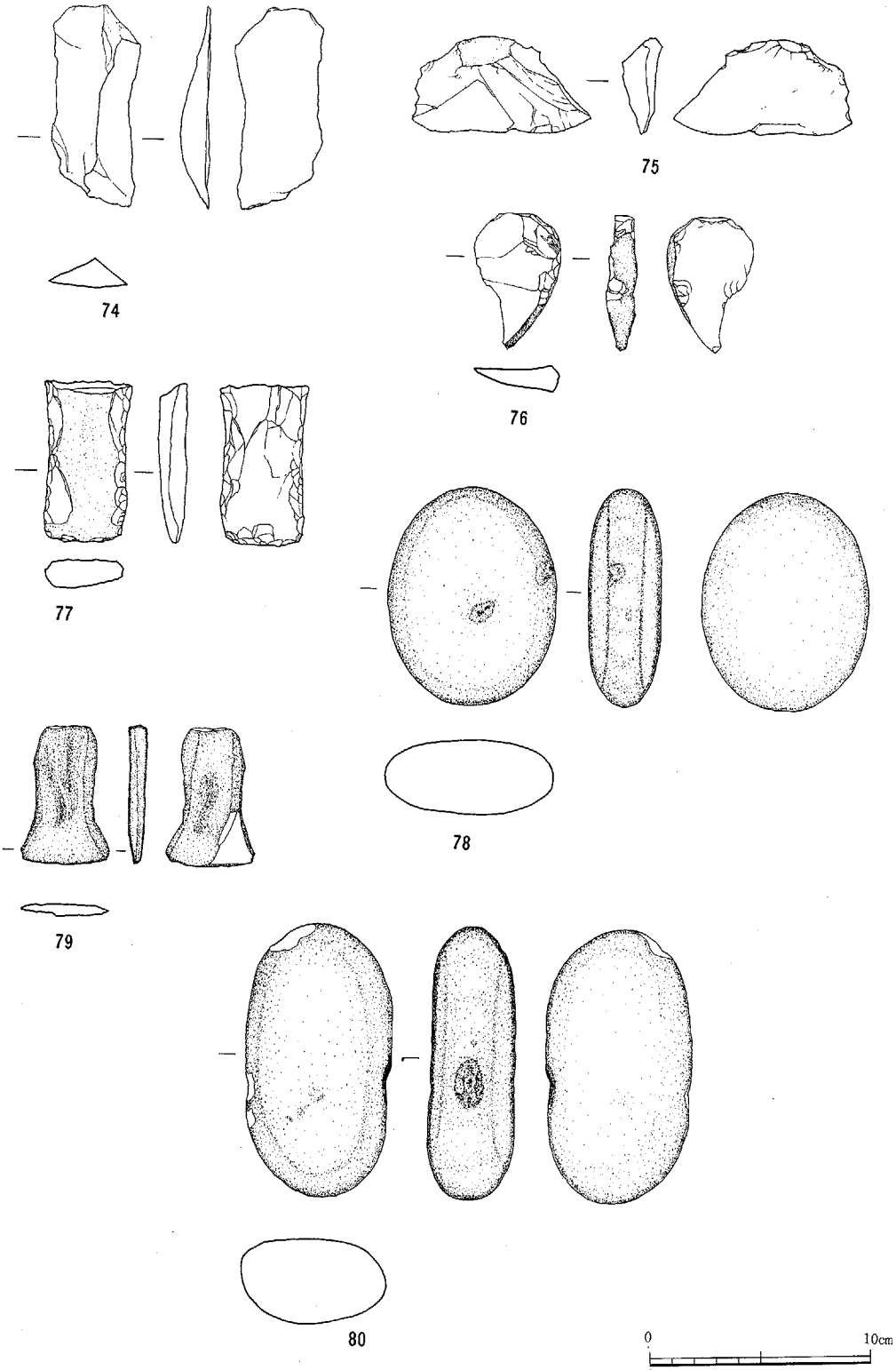
第41図　33号住居址出土遺物（７）



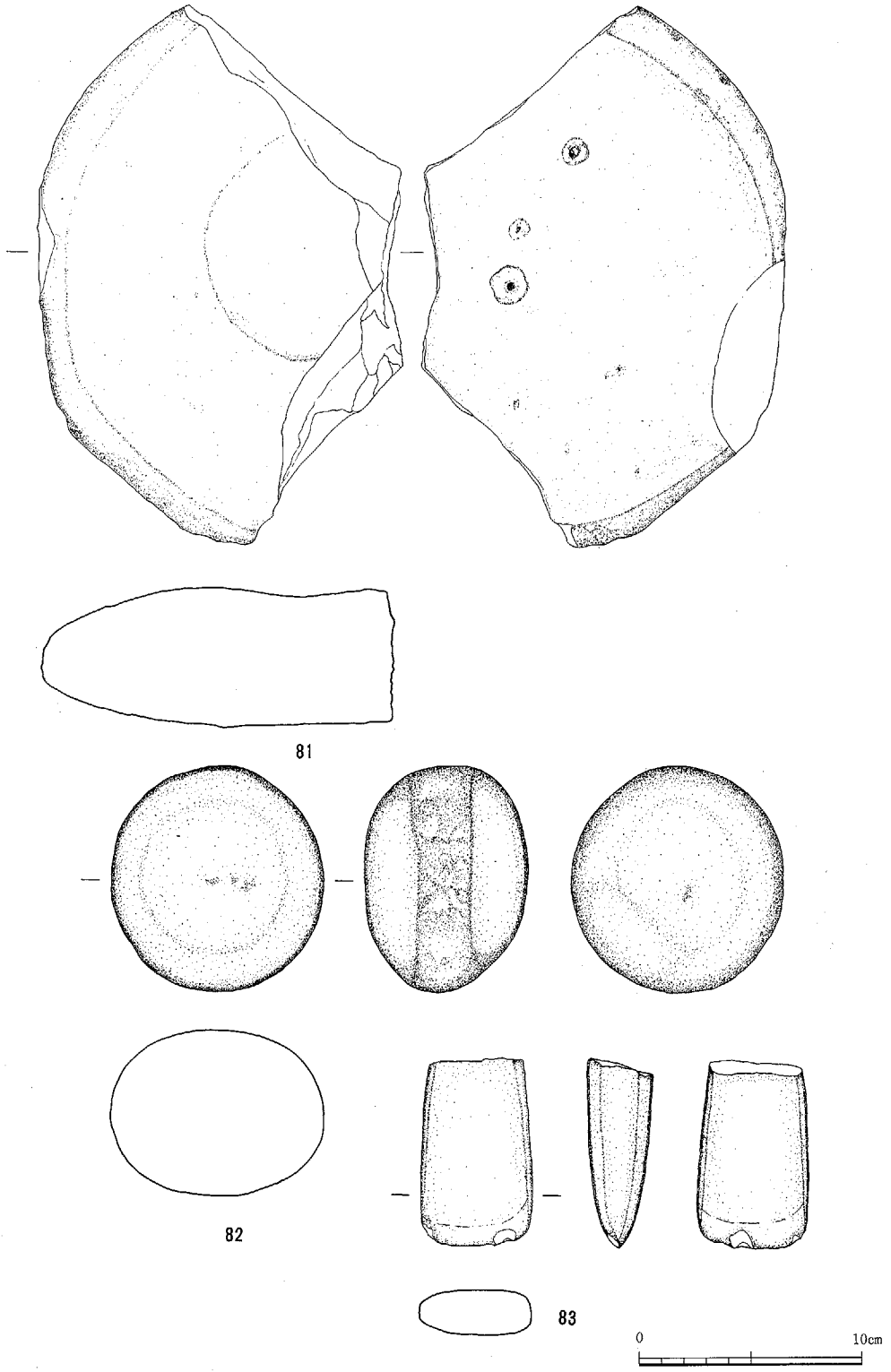
第42図　33号住居址出土遺物（8）



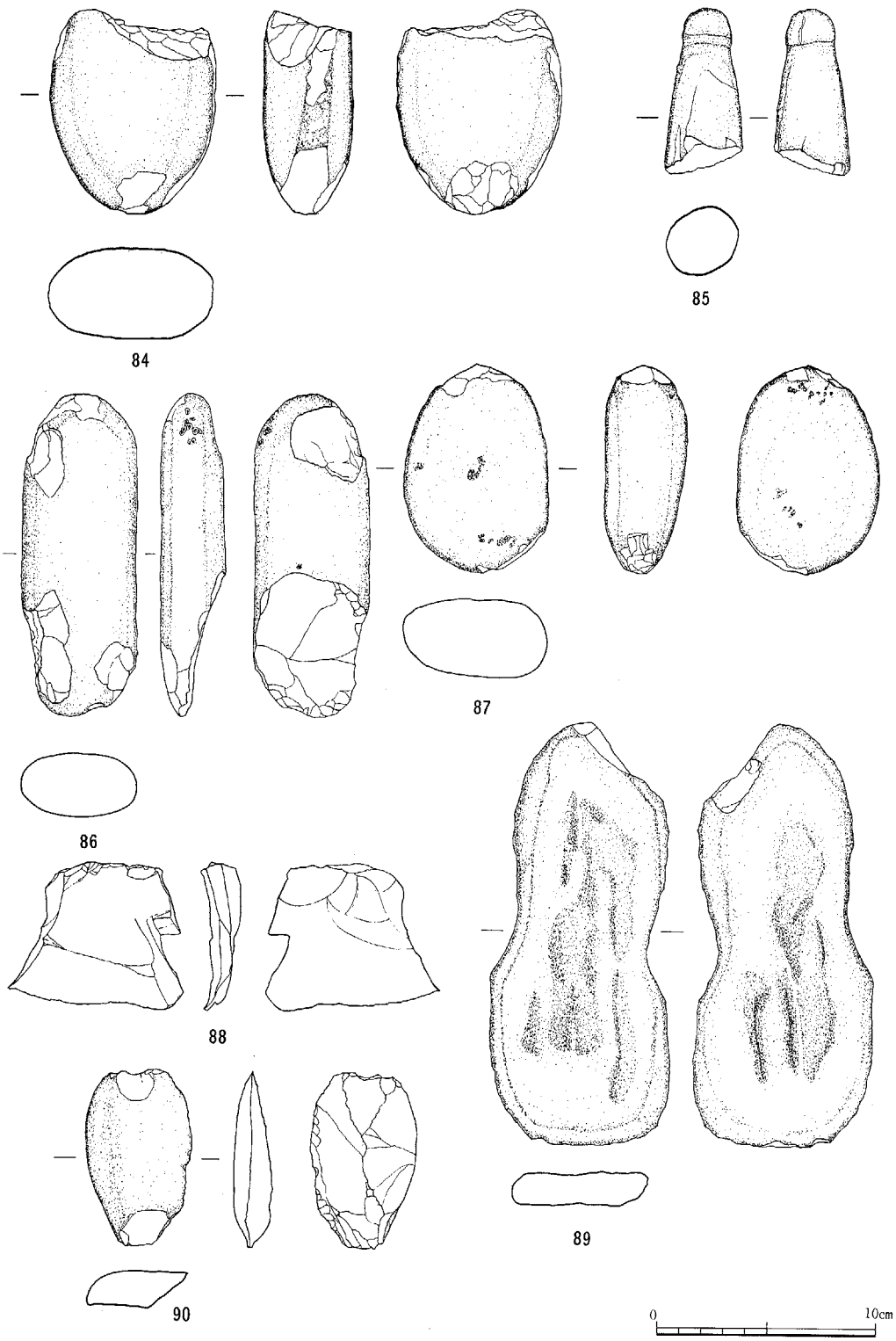
第43図　33号住居址出土遺物（9）



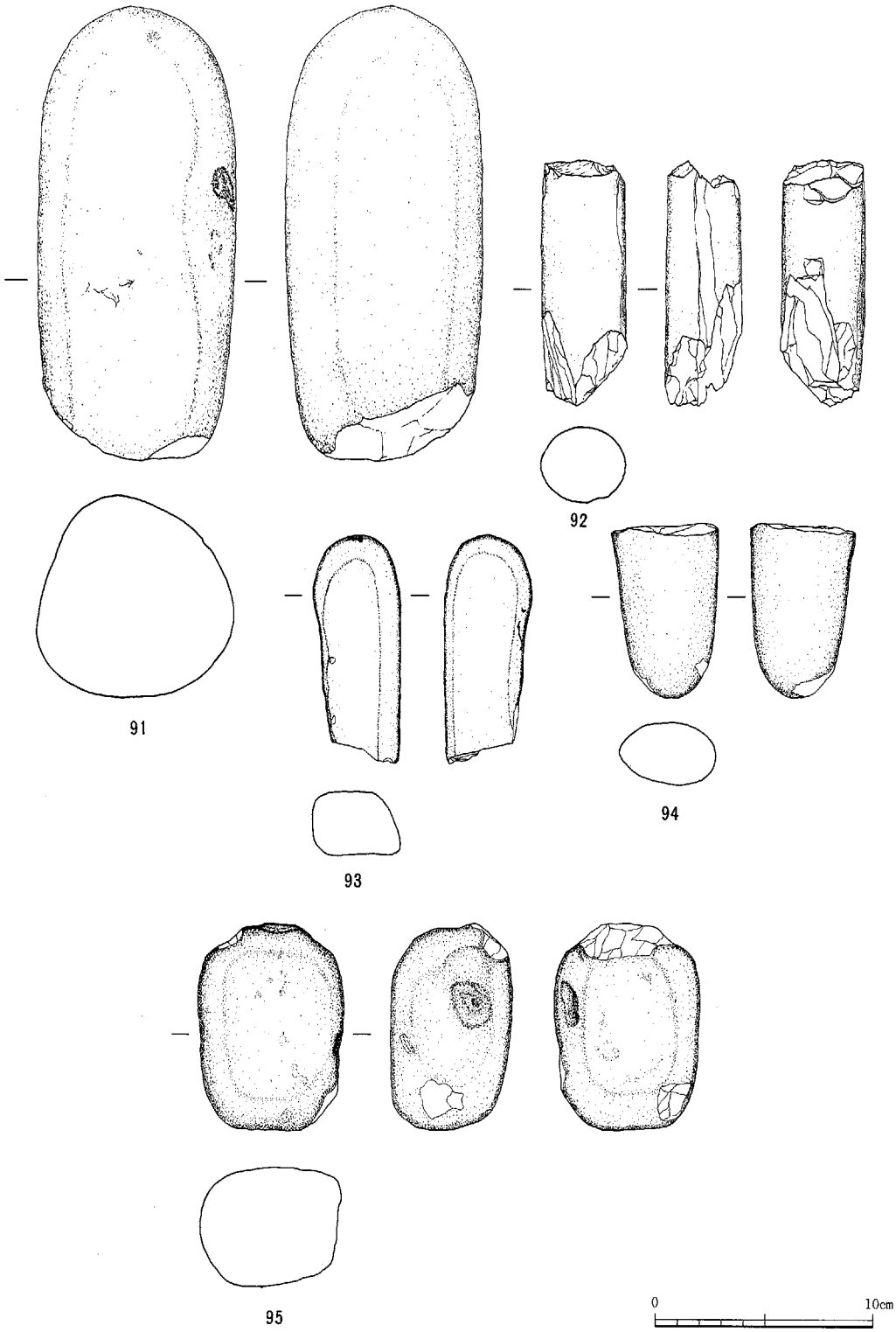
第44図　33号住居址出土遺物（10）



第45図　33号住居址出土遺物（11）



第46図　33号住居址出土遺物（12）



第47図　33号住居址出土遺物（13）

した。78は磨石である。石材は安山岩である。長さ9.8cm、幅3.2cm、厚さ3.3cm、重さ364ｇ。床直上より出土した。79、89は砥石である。石材は砂岩である。79は長さ6.2cm、幅3.9cm、厚さ0.5cm、重さ19ｇ。床直上より出土した。89は一部欠損する。長さ19.1cm、幅8.1cm、厚さ1.5cm、重さ359ｇ。床直上より出土した。80、82、91は磨石である。石材は安山岩である。80は長さ12.2cm、幅6.4cm、厚さ3.8cm、重さ364ｇ。床直上より出土した。82は長さ19.2cm、幅7.9cm、厚さ1.9cm、重さ1000ｇ。床直上より出土した。

81は石皿の破片である。石材は安山岩である。裏面には敲打による突孔がある。残存長23.7cm、幅15.6cm、重さ2800ｇ。床直上より出土した。83は磨製石斧の破片である。石材は玄武岩である。残存長は7.7cm、幅4.7cm、厚さ2.9cm、重さ220ｇ。85、92は石棒の破片である。85は石材は緑泥片岩である。長さ7.3cm、幅3.3cm、厚さ3.1cm、重さ123ｇ。92は石材は頁岩である。

火熱を受けて赤色化している。また、割れやすくもろい。残存長11.1cm、幅3.8cm、厚さ3.4cm、重さ216ｇ。

91、93～95磨石である。91は長さ20.8cm、幅8.8cm、厚さ9.2cm、93は長さ9.9cm、幅4.0cm、厚さ2.9cm。94は敲き石である。残存の長さ7.8cm、幅4.8cm、厚さ2.8cm。覆土第３層より出土した。95は側面に敲打による突孔があく。石材は安山岩である。長さ9.4cm、幅6.5cm、厚さ5.4cm、重さ529ｇ。

34号住居址（第48図　図版８）

位置　Ｘ－13グリッド／形態　方形／主軸方向　Ｎ－45°－Ｅ／規模　長軸5.54ｍ×短軸3.72ｍ（南北×東西）／壁高　35cm～36.8cm／壁溝　内側に楕円状に検出。北東側が切れている。拡張前のものか。？幅は５～９cmを計る。深さは２cm～９cmを計る。／床　全体に至って面をなしているが特に硬質化された部分の検出はみられない。／柱穴　８本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
長軸cm	22	21	24	23	37	114	73	73
短軸cm	－	－	－	－	22	81	64	68
深さcm	34	25	28	20	30	14	10	23

※Ｐ６～Ｐ８は柱穴というより貯蔵穴的な可能性が考えられる。

炉　石囲炉が検出。遺存悪く組み石がはずれている。遺存されているのは組み石は６個で、そのうちある。掘り方長軸92cm、短軸89cm、深さ19cmを計る。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。

覆土の状況

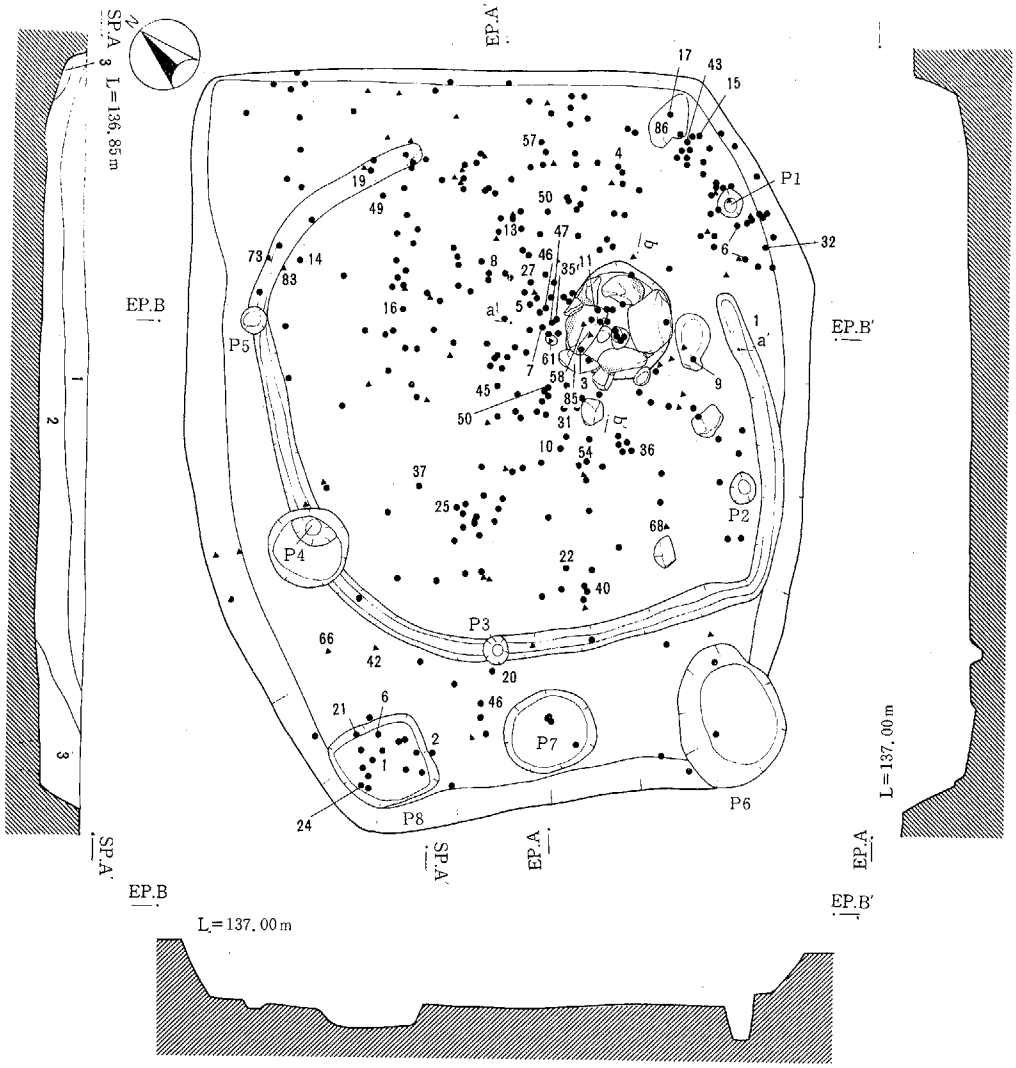
自然堆積である。黒色土を基調に２層、黒褐色土の合わせて３層に分層される。

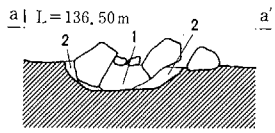
遺物の出土状況

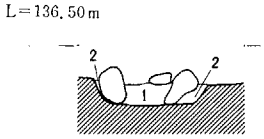
覆土の第２層、第３層中より多量に土器片が出土した。また、床着では土器片が全体に散乱し、北東壁付近に石皿の破片が出土した。実測遺物点数84点。

検出された遺物（第49～58図　図版24）

掲載した遺物は覆土中のものと床直上と炉址内より出土したものである。１～４は無文の粗製土器である。そのうち１～３は浅鉢形土器口縁部の破片である。出土位置は平面的な位置は







34号住居址

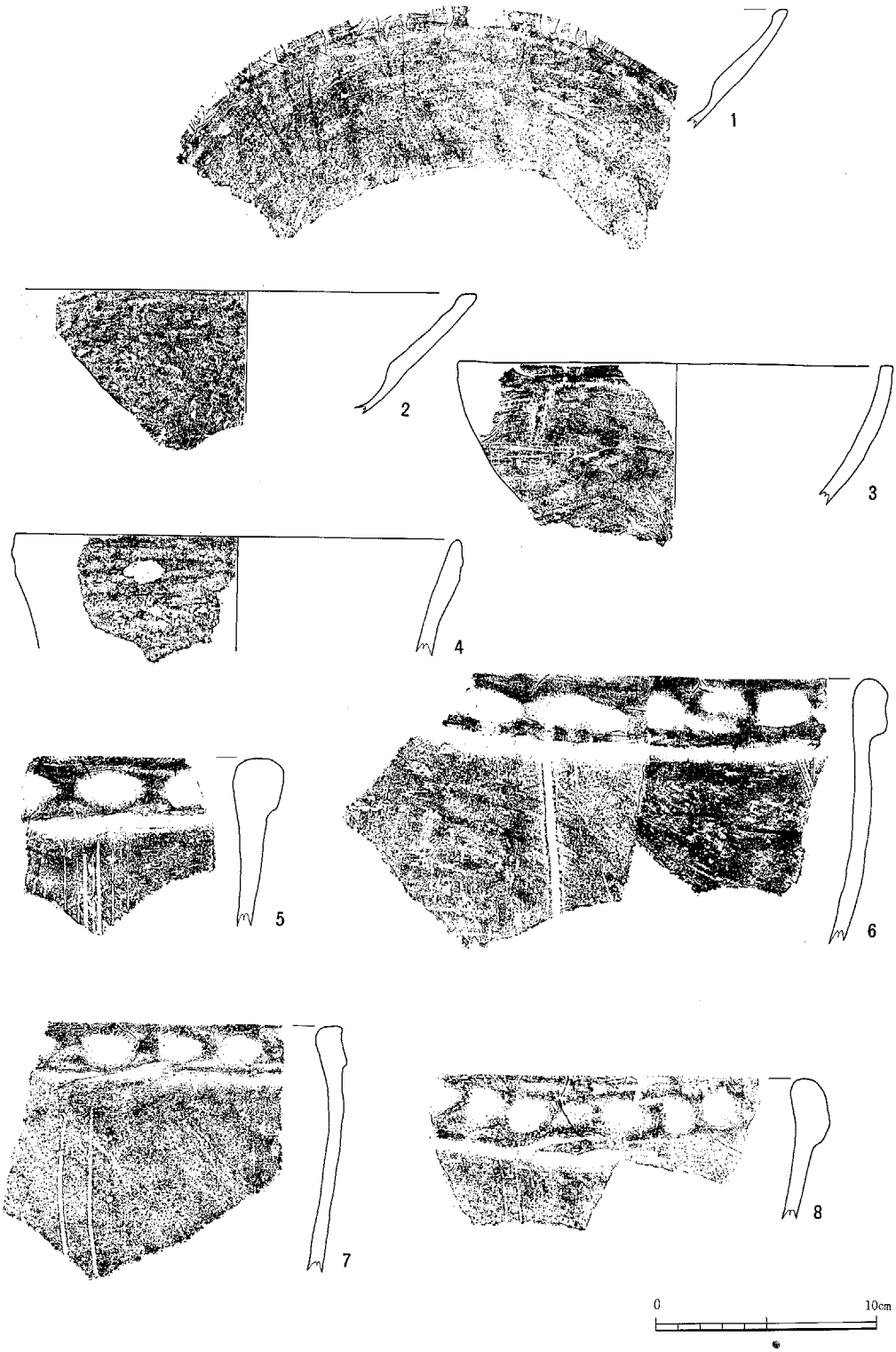
第1層	黒色土	白色の軽石粒細かく多量に含む。オレンジ色の軽石微量に含む。縄文後期土器片多量に含む。石器少量含む。しまり強、粘性弱。
第2層	黒色土	白色の軽石粒細く少量含む。縄文後期土器片多量に含む。石器少量含む。しまり強、粘性弱。
第3層	黒褐色土	白色の軽石粒細く少量含む。褐色砂質土混入、しまり強、粘性弱(砂質土)。

炉址

第1層	灰色砂質土	砂層の地山の上に貼ってある。骨の細片多量に含む。
第2層	灰色砂質土	褐色砂質状のブロックを混入。裏込め石の間に入れた人為的な埋土である。

0 2m

第48図　34号住居址



第49図　34号住居址出土遺物（1）

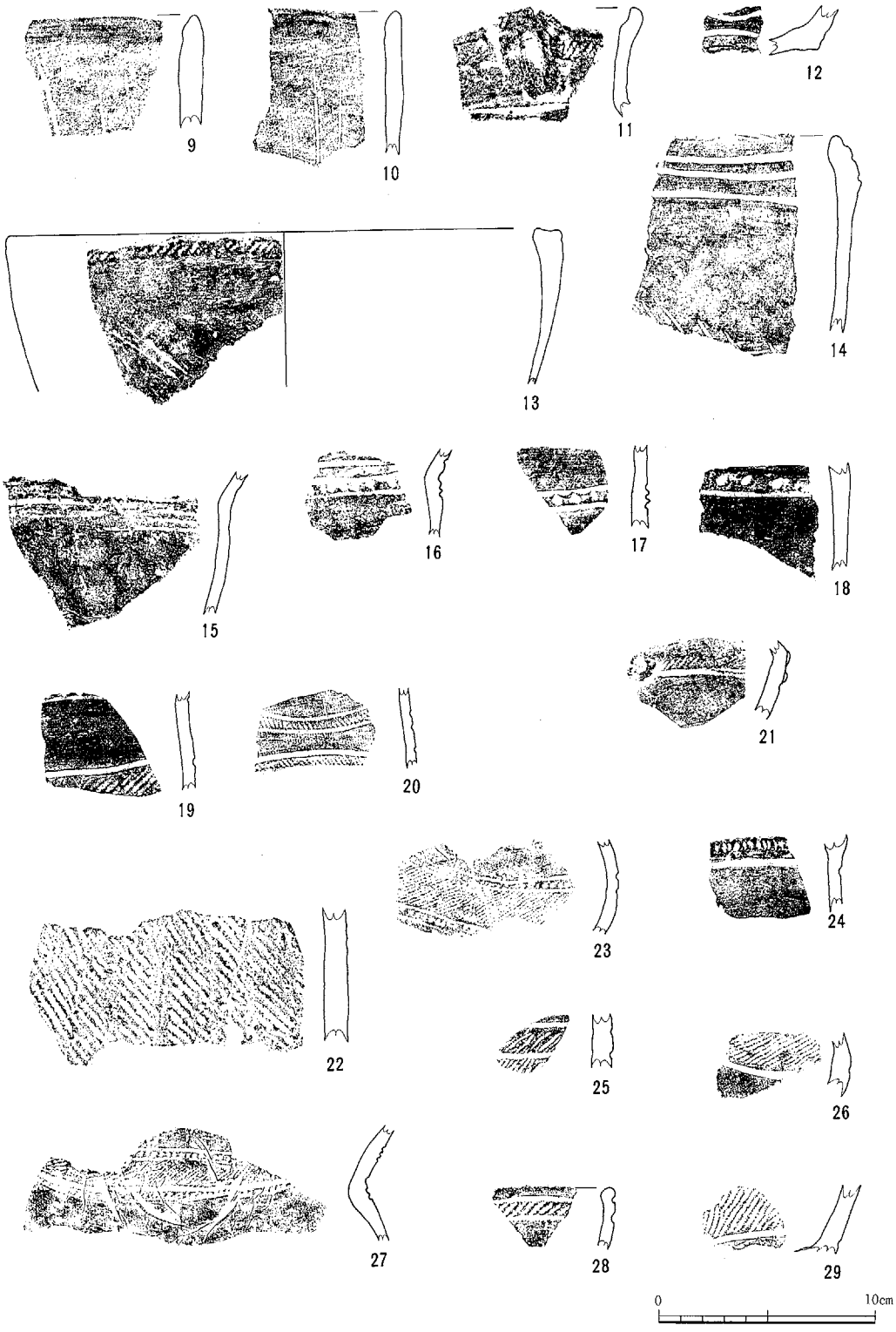
図のとおりで断面で見た位置では1が土坑1の底直上より出土した。2は覆土第3層中より出土した。復元口径8.9cm、残存高5.4cm。3は深鉢形土器口縁部の破片。床着である。5～8は深鉢形土器口縁部の破片。口唇部に指頭圧痕を施した紐線を巡らす。胴部には縦位の沈線を施す。出土した。口唇部にRL縄文を施し、一重の沈線を巡らし区画する。肩部には沈線間にキザミを施す。胴部は平行沈線を巡らす。2、4～7は深鉢形土器で綾杉状の沈線を施す。6がP－15より出土し、その他は床直上より出土したものである。8、9は肩部がくの字状に強く張り出す深鉢形土器である。縦位および弧状沈線でLRの磨り消し縄文を区画する。9、10は深鉢形土器口縁部の破片である。赤彩の痕跡が認められる。10は口縁部にボタン状の貼付を施す。口唇部にキザミを施し、LR縄文を施文する。11～14、16～18は沈線間にキザミを施す。19～21は沈線で区画されたなかに13、19、21は単節LR縄文、20は単節RL縄文で施文する。15が胴部の破片である。それぞれ平行沈線で区画しLR縄文で施文する。LR縄文を平行沈線で区画する。16は深鉢形土器胴部の破片である。17、20は単節LR縄文を施文し横位の平行沈線で区画する。22はLR縄文を施文する。16、24は浅鉢形土器である。体部に沈線を施す。内外丁寧なミガキを施す。25、26は深鉢形土器の底部の破片である。網代痕がある。25は復元底径9.8cm。26.28.29は沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填する。

30は口縁部には縦長の突孔が平行沈線間に刺突を巡らせ以下、斜行沈線を施す。31は綾杉状の沈線を平行沈線で区画する。32は綾杉状の沈線を施し、頸部は平行沈線で区画し間は無文帯を構成する。35、36は条線文を施す。37は口縁部は孤状沈線で単節LRの磨消し縄文を区画する。4単位の突起が付くものと思われる。以下肩部に平行沈線を巡らせその間を刺突を施す。

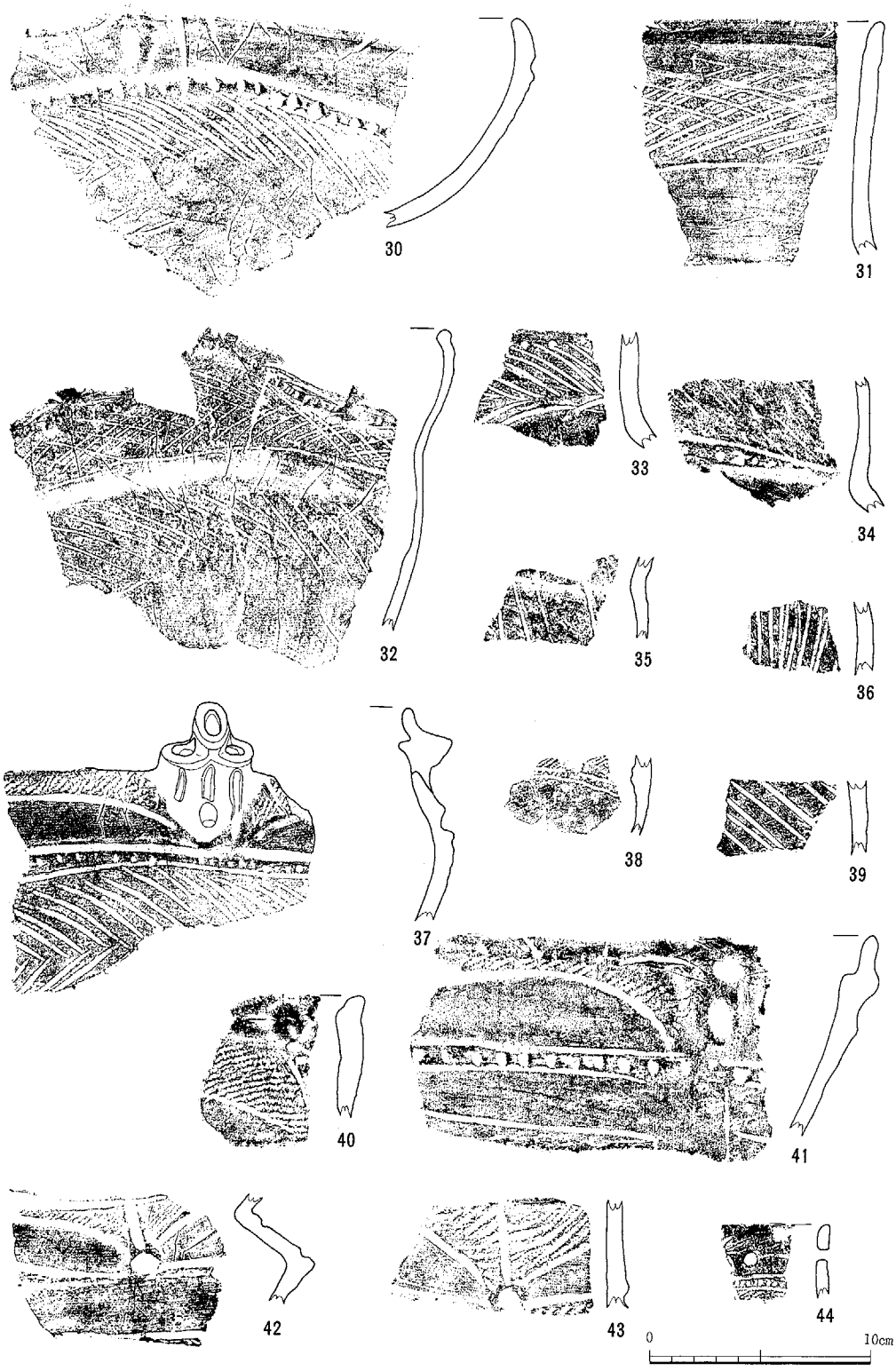
38は単節LRの磨消し縄文を施し、以下平行沈線文を巡らせその間を刺突を施す。39は斜行沈線を施す。40は沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填する。41は口縁部は孤状沈線で単節LRの磨消し縄文を区画する。その文様帯の間に刺突文を施す。42、43は肩部がくの字状に強く張り出す、ソロバン形の深鉢形土器の体部上半の破片である。縦および孤状沈線で中に単節LRの磨消縄文を区画し、沈線の接点に刺突文を施す。43は以下横位の沈線で磨消縄文を区画する。44は口縁部に円孔があく。平行沈線間に刺突文を巡らせる。以下、単節LRの磨消し縄文を施すものと思われる。45は口縁部に指頭圧痕を施した隆帯を巡らす。46は無文の粗製土器である。47、48は沈線文の中に単節LRの磨消縄文を充填する。49は深鉢形土器底部の破片である。底に網代痕がある。器面は内、外共に丁寧なミガキを施す。50は深鉢形土器底部の破片である。底に網代痕がある。器面は内、外共に丁寧なミガキを施す。50は深鉢形土器の突起の破片である。51は耳飾りである。耳栓形を呈する。4単位の突起にキザミを施し、花びら状の表現を施す。中心には刺突を施す。胎土は砂粒を含む。色調は暗褐色である。長さ2.0cm、幅：頭部2.1cm、茎部0.9cm。52は注口土器の注口部の破片である。器面は丁寧なミガキを施す。

53～56は赤彩土器である。53、54は胎土、焼成、色調共に似ており、接点がないが同一固体と考えられる台付き浅鉢形土器の破片である。55、56は深鉢形土器の破片である。沈線間に単節LRの磨消し縄文を充填する。567は深鉢形土器である。口縁部に指頭圧痕を施し、以下櫛歯状の沈線は規則的な間隔で縦位に施すものと思われる。器面は内面はミガキ、外面はヘラケズリの後ナデで調整している。胎土は砂粒を含む。焼成は良好。色調は淡褐色である。

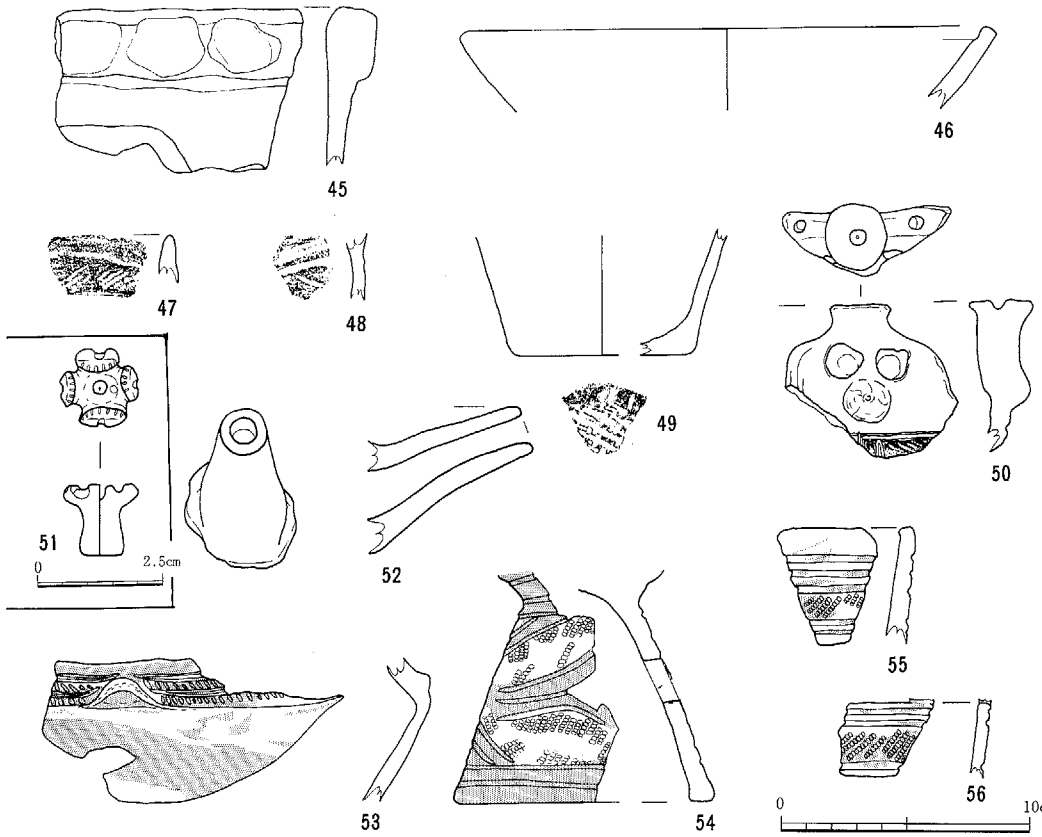
58は打製石斧である。側面は刃部として使用されている。長さ8.2cm、幅は5.2cm、1.8cm。



第50図　34号住居址出土遺物（２）



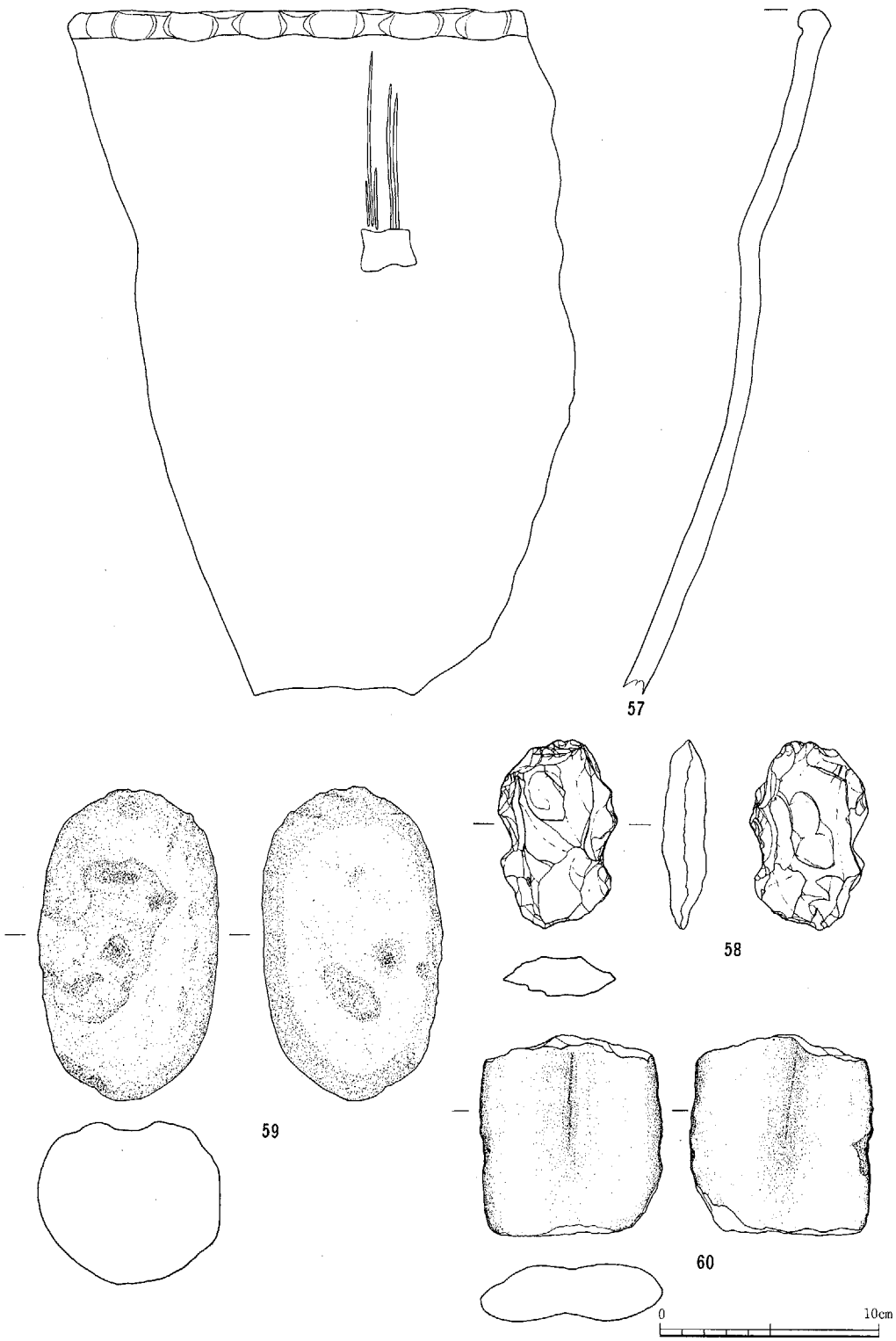
第51図　34号住居址出土遺物（3）



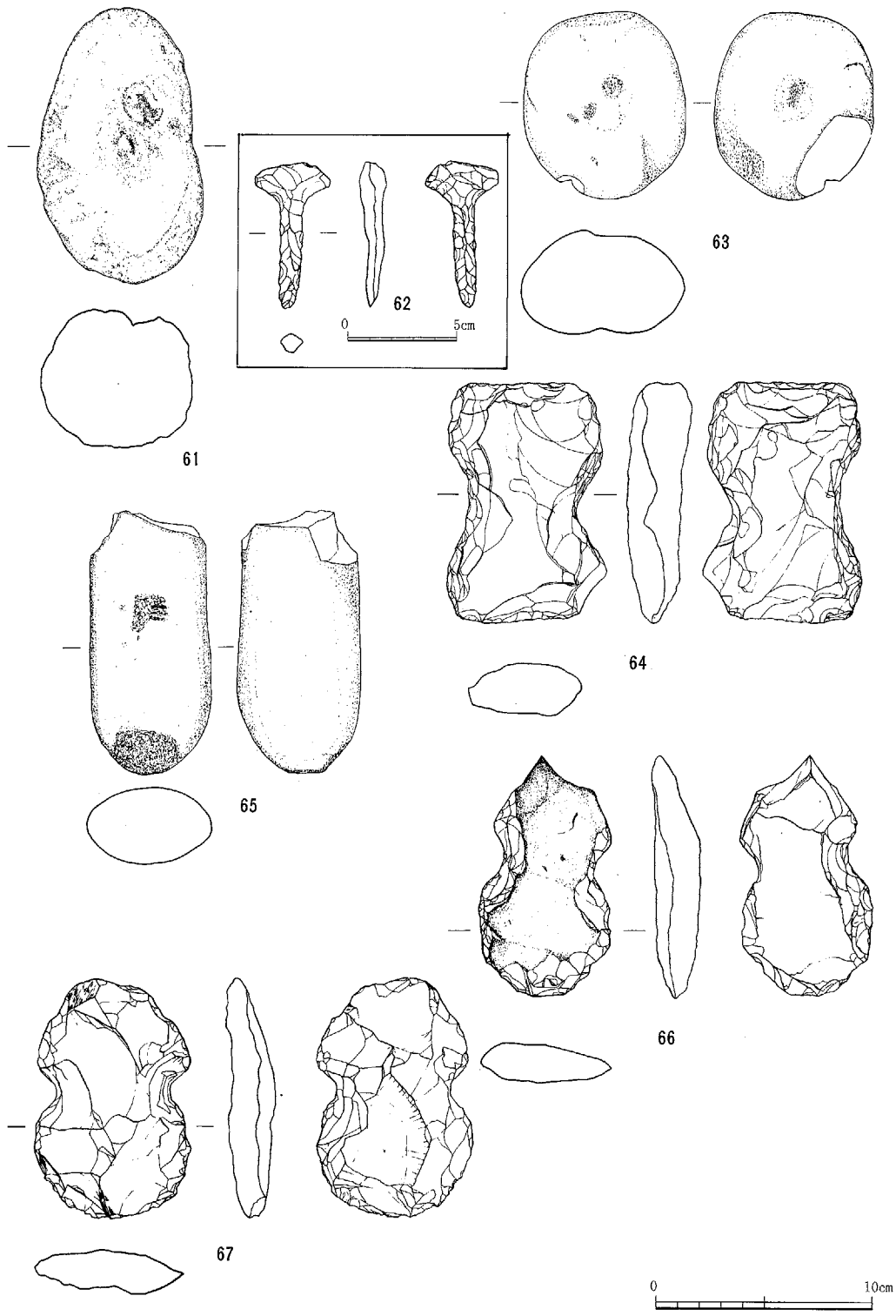
第52図　34号住居址出土遺物（4）

59.61.63は凹石である。59は長さ9.9cm、幅7.1cm、厚さ4.8cm。77.80は無茎石鏃である。長さ3.2cm、幅2.05cm、厚さ0.7cmを計る。81は多孔石は一部欠損している。長さ18.9cm（残存長）、幅12.9cm、厚さ7.4cm。石材は安山岩である。

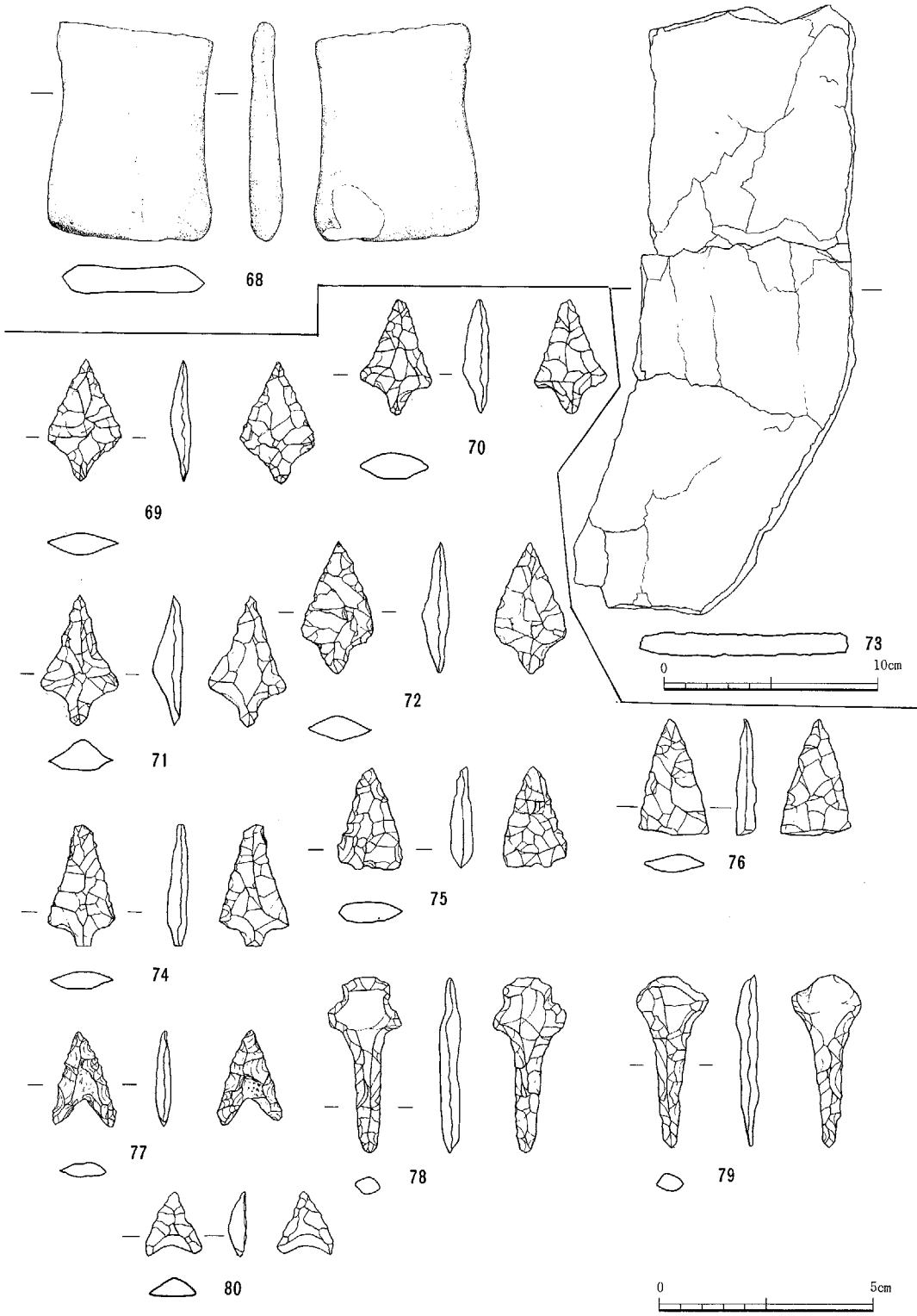
66は砂岩墳の砥石である。長さ　67～70、72は有径石鏃である。石材は67、70はチャート、68、69、72は頁岩である。大きさは67は長さ2.8cm、幅1.7cm、厚さ0.5cm、重さ1.5ｇ。68は先端部が欠損している。残存の長さ2.6cm、幅1.7cm、厚さ0.6cm、重さ1.7ｇ。69は長さ3.0cm、幅1.6cm、厚さ0.7cm、重さ2.0ｇ。70は長さ3.0cm、幅1.7cm、厚さ0.6cm、重さ1.7ｇ。72は先端部と柄の先端が欠損している。残存の長さ2.6cm、幅1.6cm、厚さ４cm、重さ1.6ｇ。71は石板である。長さ28.1cm、幅9.4cm、厚さ0.9cm、重さ505ｇ。73、74、75、78は無茎石鏃である。石材は73がチャート、74は頁岩、75、78は黒曜石である。大きさは73は長さ4.6cm、幅3.0cm、厚さ0.9cm、重さ1.5ｇ。74は長さ5.4cm、幅2.8cm、厚さ0.7cm、重さ1.4ｇ。76、77は石錐である。石材は頁岩である。76は長さ5.6cm、幅1.1cm、厚さ0.9cm、重さ1.9ｇ。77は長さ5.2cm、幅1.2cm、厚さ0.9cm、重さ1.7ｇ。82は石棒の破片である。残存の長さは89は敲き石、84は磨石、85、86は石皿である。石材は安山岩である。85は炉の組石として転用されていたものである。火熱受け部分的に赤色化している。全体の約２分の１が欠損。残存の大きさは長さ28.3cm、厚さ7.1cm、重さ5200ｇ。86は床着である。約５分の１が欠損。かなり使い込まれ穴があく。長さ44.2cm、幅27.4cm、厚さ3.6cm、重さ6200ｇ。



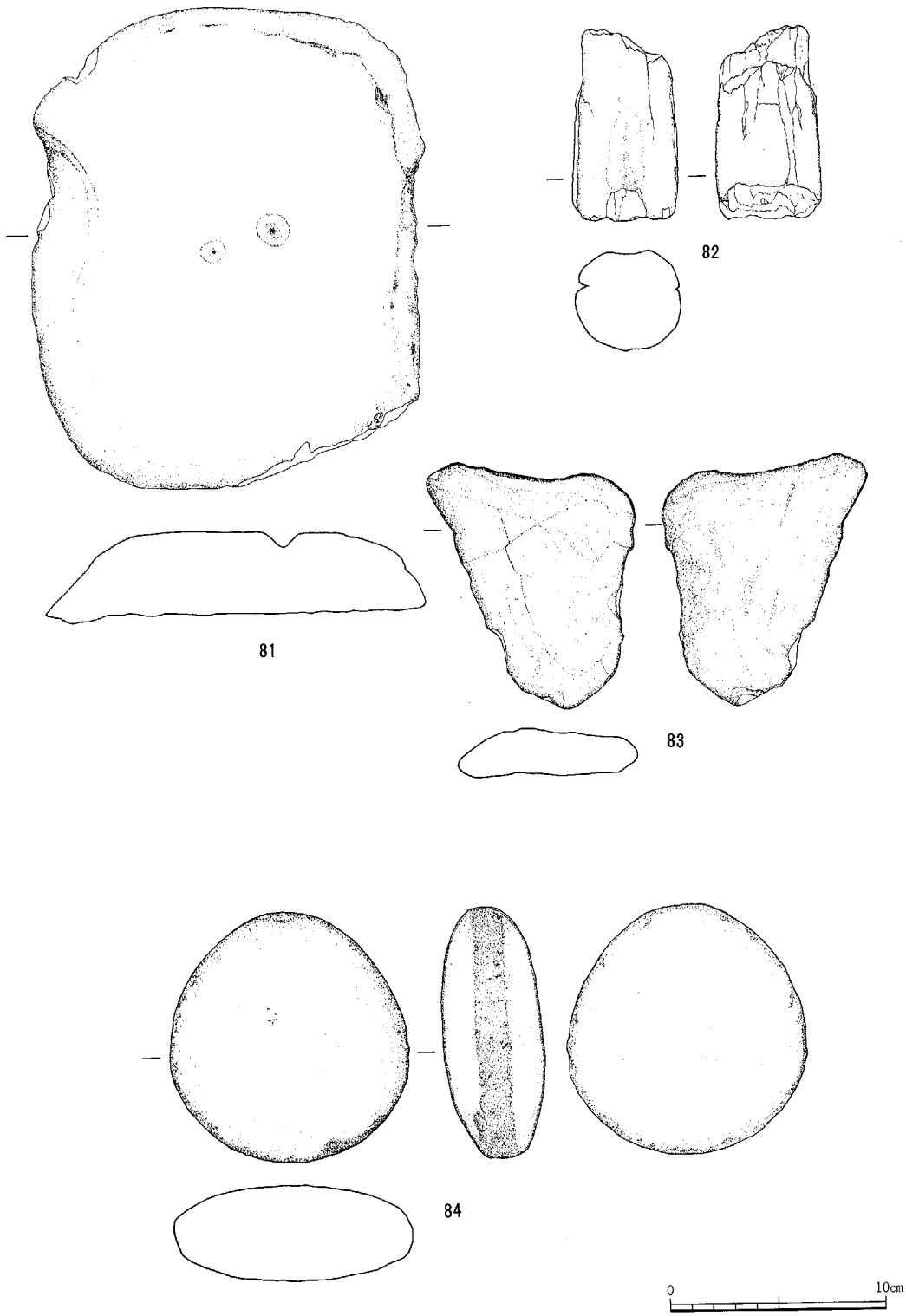
第53図　34号住居址出土遺物（５）



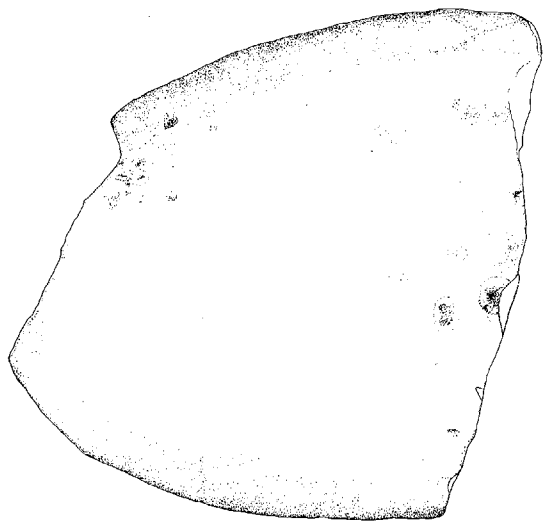
第54図　34号住居址出土遺物（6）



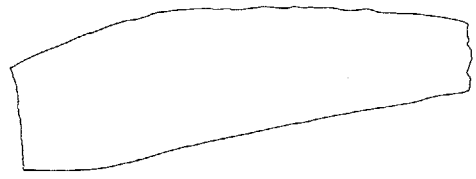
第55図　34号住居址出土遺物（7）

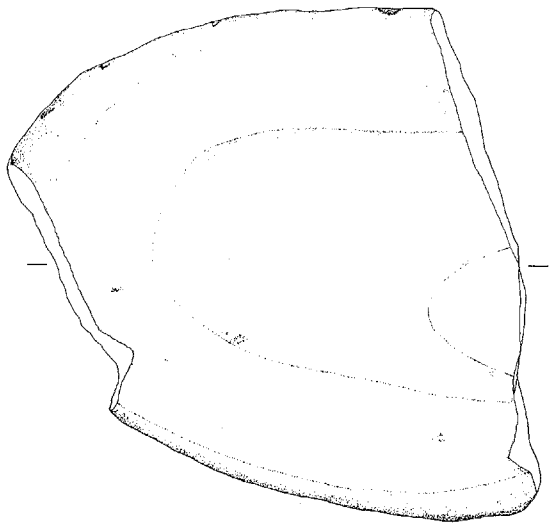


第56図　34号住居址出土遺物（8）

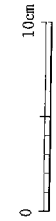


83

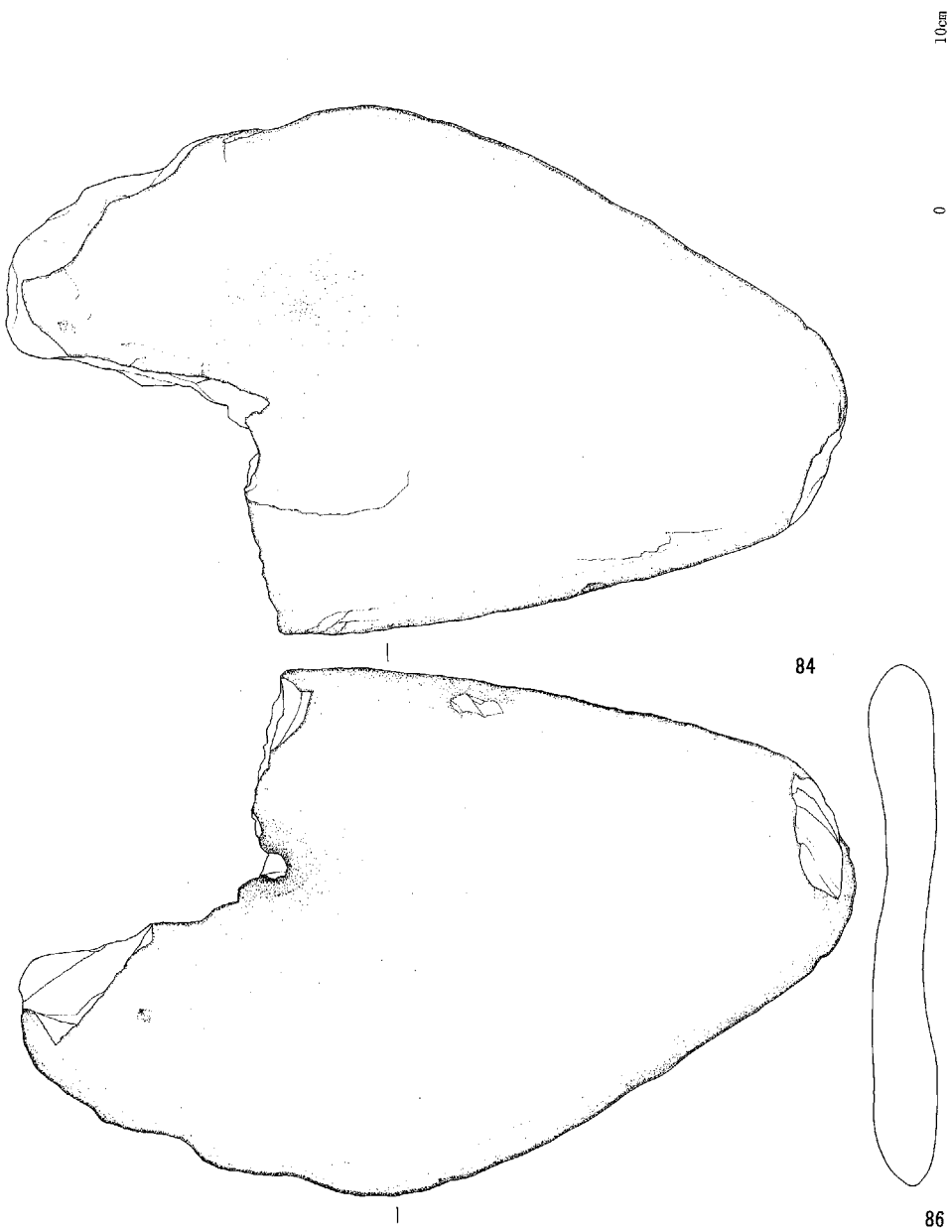




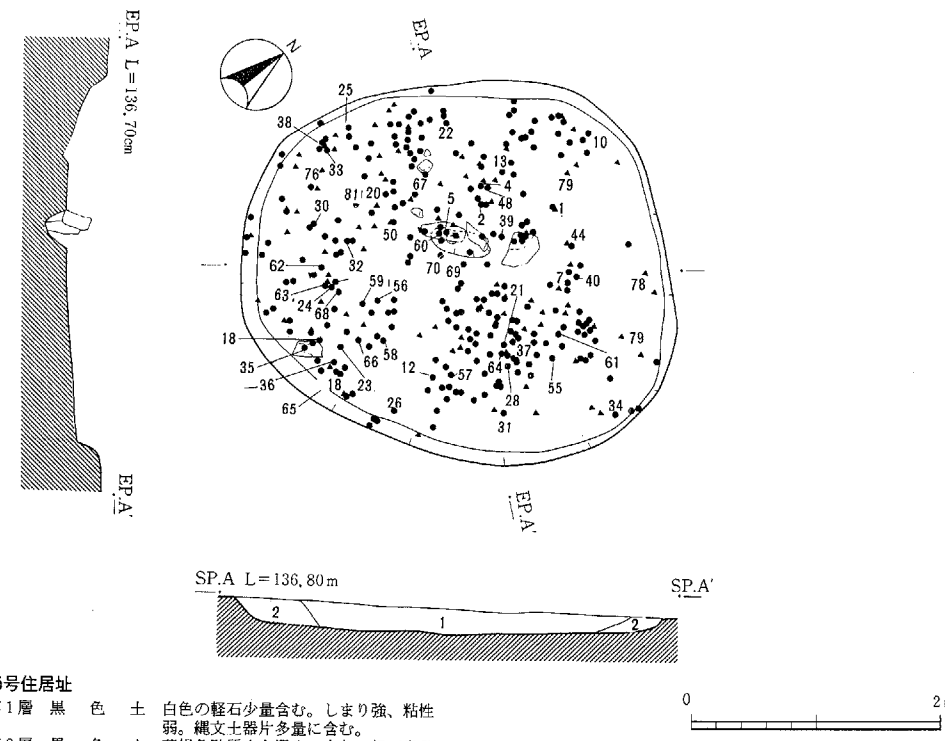
85



第57図　34号住居址出土遺物（９）



第58図　34号住居址出土遺物（10）



35号住居址

第1層 黒 色 土 白色の軽石少量含む。しまり強、粘性弱。縄文土器片多量に含む。

第2層 黒 色 土 黄褐色砂質土を混入、白色の軽石微量字、しまり強、粘性弱。

第59図 35号住居址

35号住居址（第59図 図版8、9）

位置X－12グリッド／形態 楕円方形／規模 3.21m×2.77m（南北×東西）／壁高 9cm～10cm／壁溝 なし。／床 暗褐色砂質土に掘り込まれる。全体に亘って面をなしているが硬質部分の検出はみられなかった。／柱穴 なし。／炉 石囲炉である。遺存状態が悪く組み石が外れている。遺存しているのは1点のみである。また、組み石は火熱を受け赤色化している。掘り方は長軸49cm、短軸19cm、深さ17cm。平面は楕円形、断面はU字形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土を基調に2層に分層される。

遺物の出土状況

覆土中より多量に土器片が出土した。床直上より耳飾り（滑車形）が5点出土した。さらに土偶頭部の破片1点出土した。実測遺物点数82点。

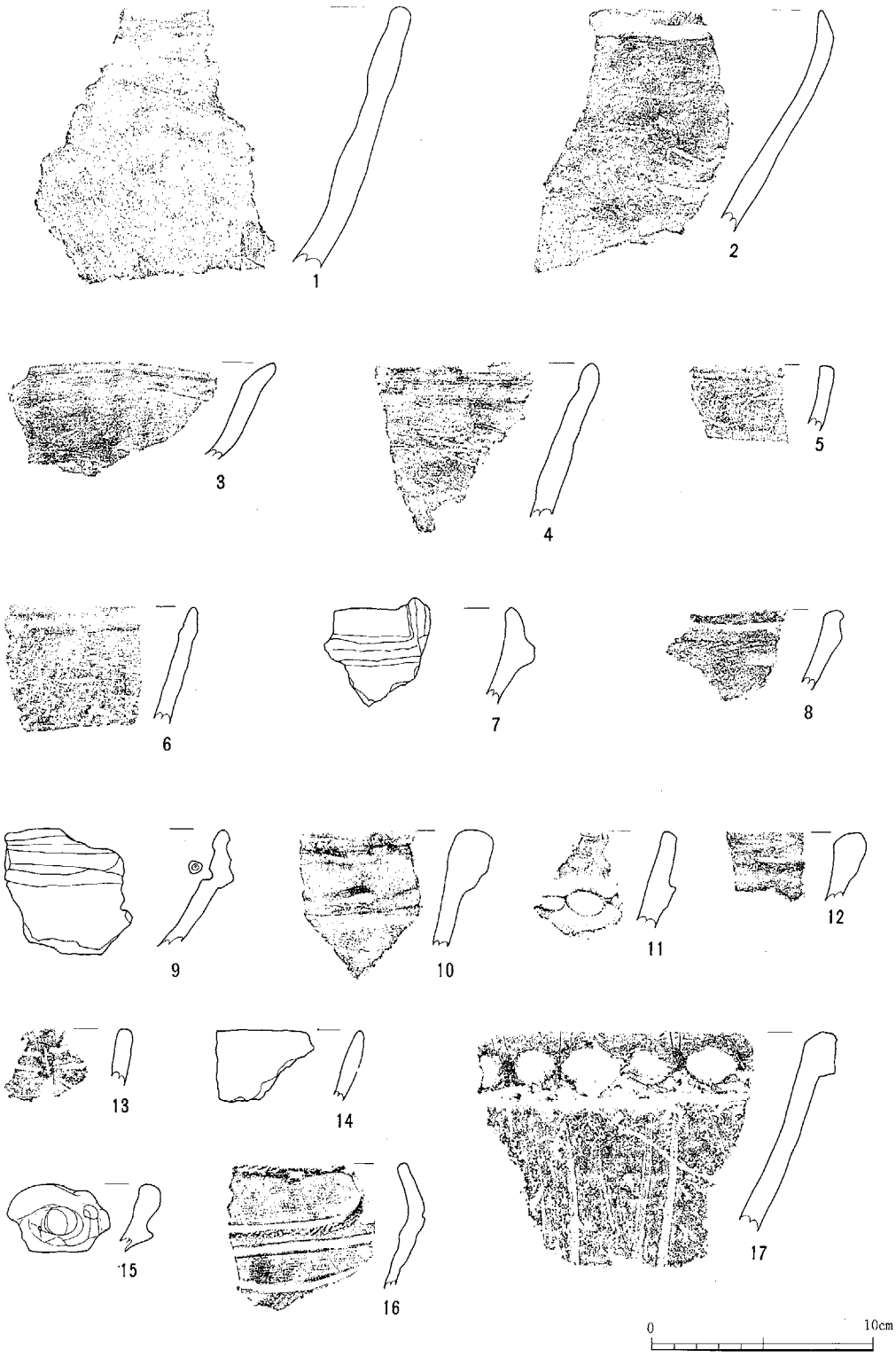
検出された遺物（第61～65図 図版21）

覆土中のものは多量に出土したため代表的なものと、床直上より出土したものを掲載した

1～17、19～30は深鉢形土器の口縁部破片である。

1～6、8、12、14は粗製土器である。7、8は口縁部に沈線を巡らす。口縁部に紐線を巡らす。16は沈線による区画文の中に単節LR細縄文を充填する。胴部には櫛歯状の沈線を施す。

17～26、28～30は深鉢形土器の破片である。17、19は口縁部に指頭圧痕を施した紐線を巡ら



第60図　35号住居址出土遺物（1）

す。18は浅鉢形土器口縁部の破片である。20～22は無文の粗製土器である。23は沈線間に単節LRの細縄文を充填する。24は深鉢形土器口唇部にキザミを巡す以下平行沈線文を施す。25は波状口縁である。26は縦位の単節LR縄文を施文し、横方向のケズリで無文帯する。27は浅鉢形土器の口縁部の破片である。口縁部に平行沈線文を巡らす。28は口縁部口縁部に貼付文を施す。29は単節RLの磨消縄文を施す。以下沈線文で構成する。、30、32は綾杉状の沈線を施される。31は条線文を施す。33は刺突を施された紐線を2重に巡らす。33は沈線による区画文の中に単節RL縄文を施文する。35は単節RL縄文を施文される。36は沈線による区画文を施し縦位と横位に刻目を施した紐線を貼り付する。37は沈線による区画文の中に単節LRの磨り消し縄文を充填する。38は粗製土器、横方向のケズリが入る。39は平行沈線文の中に単節LRの磨消縄文を充填する。40は平行沈線文の間に単節RLの磨消縄文とキザミを充填する。以下斜行沈線を施す。41は口縁部内外に沈線を巡らす。42、49、56は綾杉状の沈線を施す。44、45、50は平行沈線間に単節LRの磨消縄文を充填する。43、45は口縁部に沈線を巡らし、区画された中に単節LR縄文を充填する。46は平行沈線文を施す。47は沈線による区画文の中に単節LRの磨消縄文を充填し、刺突を施す。48は沈線による区画文の中に列点を充填する。49は口唇部を肥圧させ刻目を施し、以下綾杉状の沈線を施す。53には単節LRの磨消縄文を沈線で区画する。51は単節のLR縄文を施文する。52は横位の単節LR縄文を施文する。54は横位の櫛歯状の条線を施す。55は平行沈線間に櫛歯状工具による縦位の条線を充填する。56は綾杉状の沈線を施す。57～62は深鉢形土器の底部の破片である。57、58、61、62、64は底に網代痕がある。63は深鉢形土器の口縁部の破片である。口縁部に沈線と刺突を施す。65は注口土器の注口部の破片である。外面はミガキが施される。66は土偶頭部破片である。板状土偶に類するものと思われる。残存長34cm、幅4.2cm、厚さ2.4cm。胎土に砂粒を含む。焼成は良好、色調は暗褐色である。

67～71は土製の耳飾りである。滑車形を呈する。67は径2.6cm、高さ1.2cm。68は径2.4cm、高さ1.4cm。69は径2.6cm、高さ1.4cm。70は径2.4cm、高さ1.3cm。71は径2.0cm、高さ2.9cm。

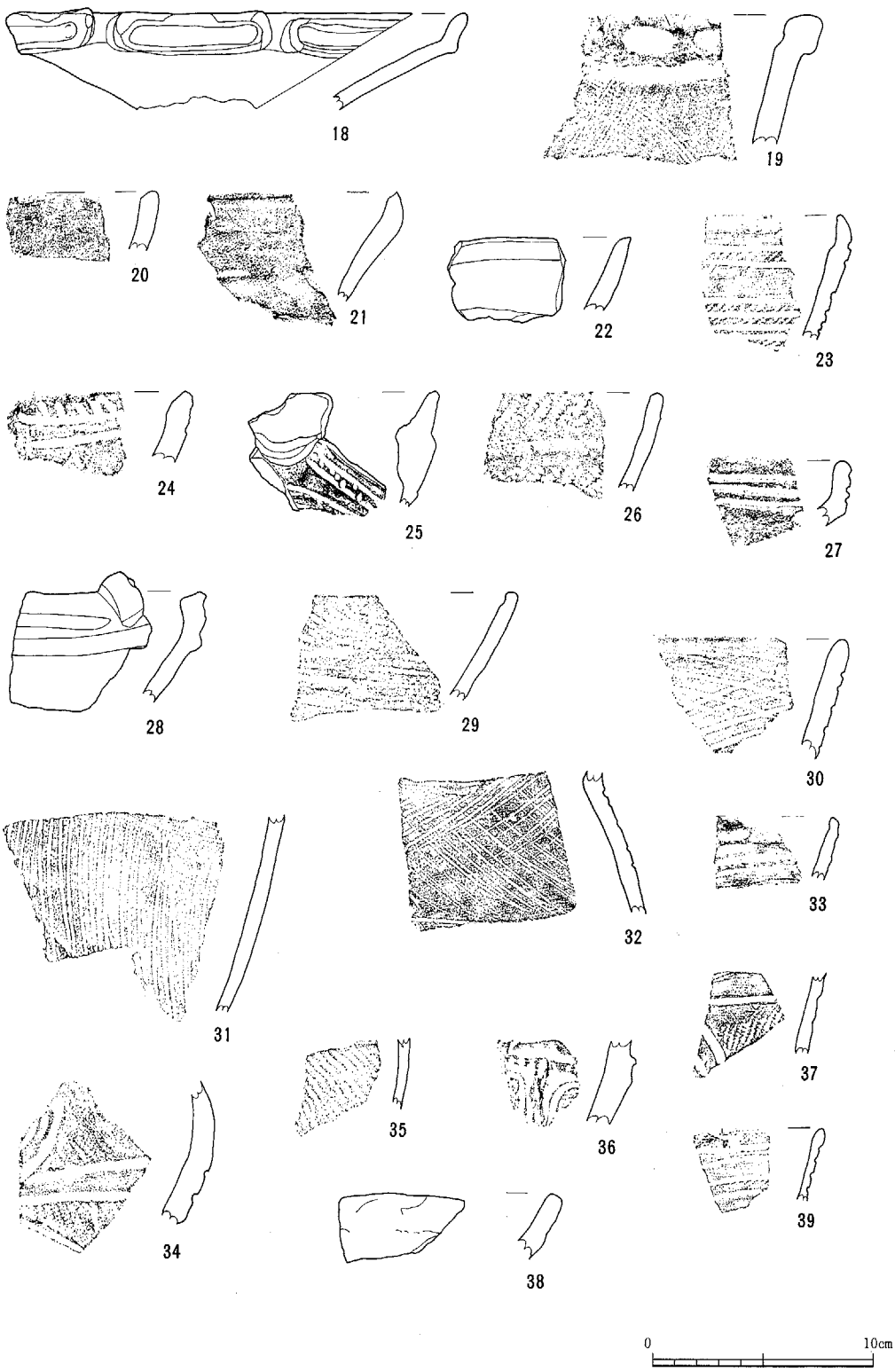
72～74は石鏃である。石材は頁岩である。72、73は有茎石鏃、ともに先端部が欠損する。72は長さ2.3cm、幅1.5cm、厚さ0.3cm。73は長さ2.6cm、幅1.4cm、厚さ0.4cm。74は無茎石鏃である。長さ1.6cm、幅1.4cm、厚さ0.3cm。

75～78は剥片石器である。共に側面を刃部として使用されている。75は長さ5.6cm、幅6.4cm、厚さ2.1cm、76は長さ4.9cm、幅7.8cm、77は長さ7.8cm、幅4.4cm、厚さ1.0cm。78は長さ9.2cm、幅4.2cm、厚さ1.4cm。79～82は床直上より出土した。

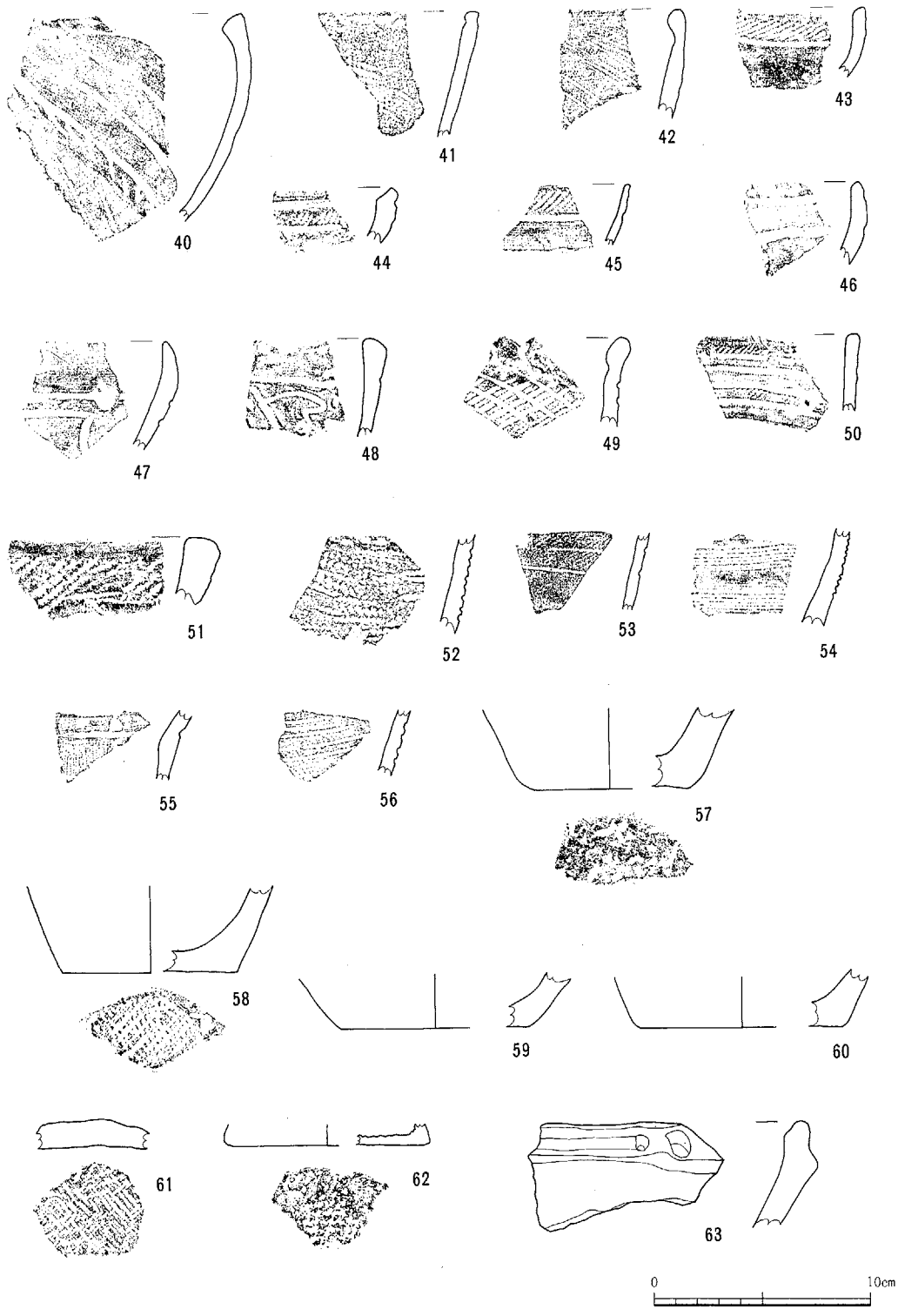
79、81は凹石である。石材は安山岩である。79は長さ12.2cm、幅6.8cm、厚さ5.1cm。81は長さ13.6cm、幅8.9cm、厚さ4.2cm。

80は丸石である。石材は安山岩である。長さ7.8cm、幅7.4cm、厚さ4.8cm。

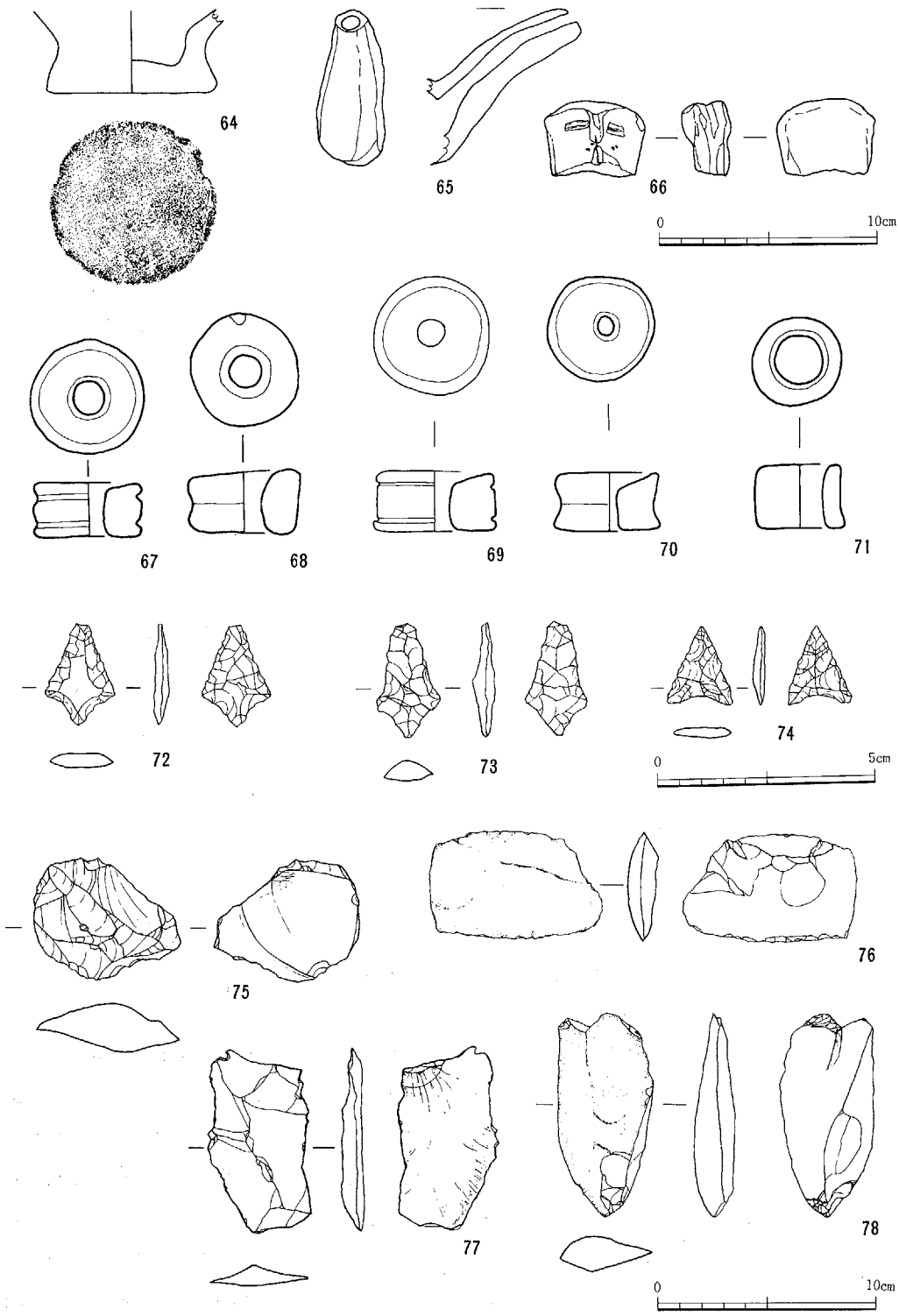
82は砥石である。石材は砂岩である。熱を受け部分的に赤色化している。硬質化させるため火熱を加えたものと思われる。表裏共にV字形の溝を呈する。刃物や骨格器の先を尖らせるための使用されたと間えられる。残存の長さ5.6cm、幅2.2、厚さ0.4cm。



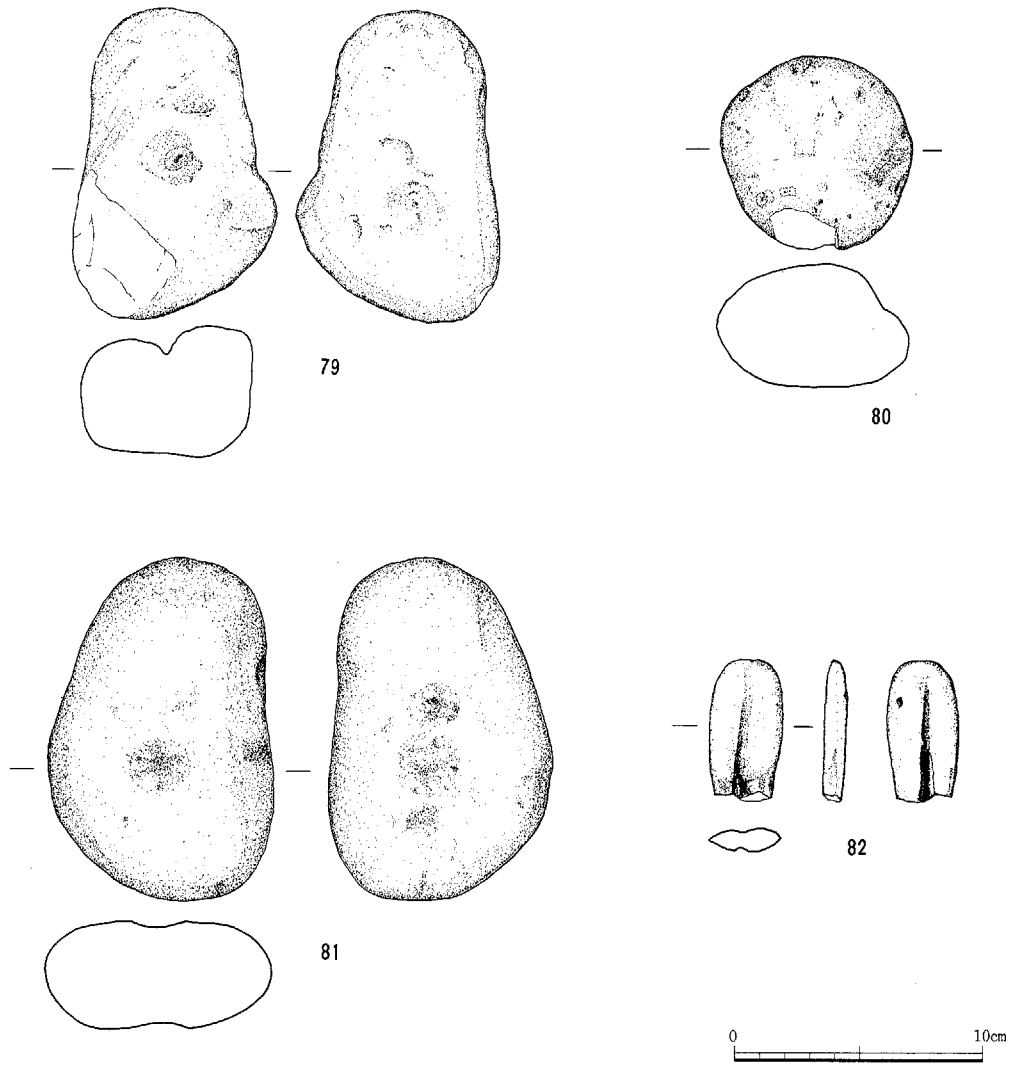
第61図　35号住居址出土遺物（２）



第62図　35号住居址出土遺物（３）



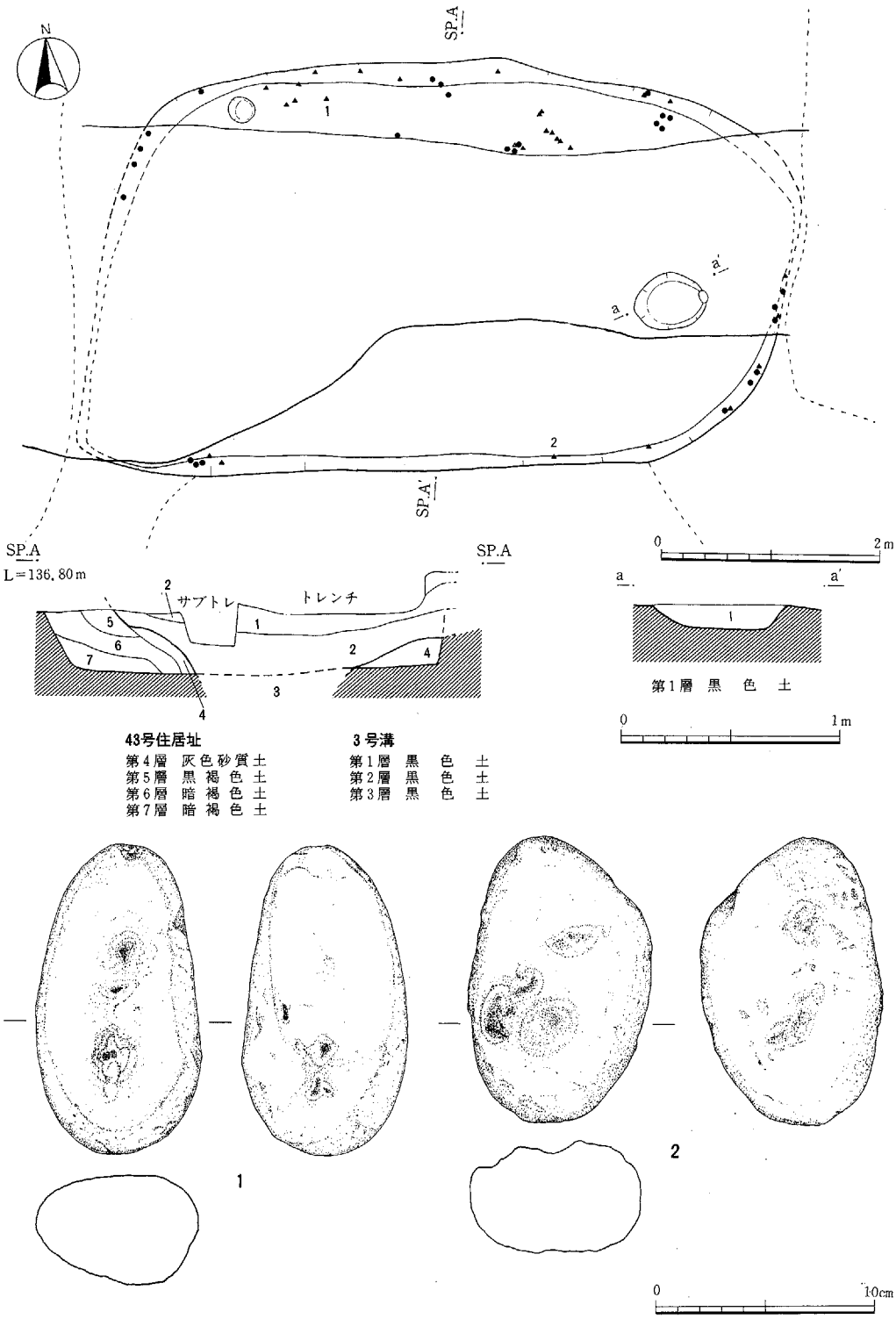
第63図　35号住居址出土遺物（4）



第64図　35号住居址出土遺物（５）

43号住居址（第65図　図版９）

位置Ｘ－15グリッド／形態　隅丸長方形／規模　6.25ｍ×3.36ｍ（東西×南北）／壁高　79cm～82cm。／壁構　なし。／床　黒色粘質土層に掘り込まれる。全体に至って面をなすが特に硬質化された面の検出はみられない。また、中央部分を３号溝（河川址）に切られる。／柱穴１本。形態から見てほとんどの柱穴は屋外に存在した可能性が考えられる。また桁に相当する柱穴の位置は３号溝に切られたものと考えられる。Ｐ１・径25cm、深さ10cm。／炉　西側寄りに位置する。３号溝に上部を切られ焼けた痕跡は見られないが組み石が１ケ所遺存し、形態から石囲炉の可能性が考えられる。長軸66cm、短軸50cm、残存の深さ３cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。



第65図　43号住居址・出土遺物

覆土の状況

自然堆積である。黒色土を基調に3層と灰褐色土の合わせて4層に分層される。

遺物

覆土中より多量に土器片が出土した。調査当初、遺構の掘り込まれている面と覆土が黒色土で判別がつきにくく平面の精査では溝との切り合いを確認することは出来なかった。掘り下げを進め土層断面の観察により溝が本址を切っていることが判明した。従って遺構実測図の溝の内側の多量の土器片は出土レベルから溝の埋没過程において破棄されたものと判明した。本址に伴うと考えられる遺物は北西と南東壁寄りに出土している。実測遺物点数2点。

44号住居址（第66図　図版9）

位置X－16グリッド／形態　不整方形？（黒色土層に掘り込まれているため土層の観察を慎重に検出作業を行ったが覆土との見分けがつきにくく困難をきたした。そのため、掘り過ぎている可能性が考えられる。形態はほぼ方形に近いと推定される。／規模　5.63cm×5.62cm（東西×南北）／壁高　58cm～68cm。／壁構　なし。／床　黒色粘質土層に掘り込まれる。全体に至って面をなすが特に硬質部分の検出はみられない。また、全体の約3分の1を3号溝に切られる。／柱穴　3本。P1・径20cm、深さ32cm。P2・3号溝に上部を切られる。残存の径27cm、深さ17cm。P3・径28cm、深さ37cm。その他、3号溝に切られ不明であるがP1～P3に相対する柱穴の存在した可能性が考えられる。／炉　残存する部分では見られない。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土を基調に4層に分層される。

新旧関係

3号溝に切られる。

遺物の出土状況

本址に伴うものは北西隅に集中する。また調査当初、住居址の覆土中に多量の土器片の出土がみられると考えられたが43号住居址同様覆土中のほとんどの出土遺物は出土位置と高さから3号溝の埋没過程において破棄されたものと判明された。実測遺物点数3点。

検出された遺物（第67図　図版24～25）

1は深鉢形土器口縁部の破片で沈線による区画文の中に列点を施す。覆土第3層中より出土した。2は深鉢形土器集合沈線の間に縦位のLR細縄文を施文する。覆土第3層中より出土した。3は深鉢形土器の破片である。集合沈線の間の刺突文を施す。覆土第3層中より出土した。1～3ともに層位的なレベルは同一である。

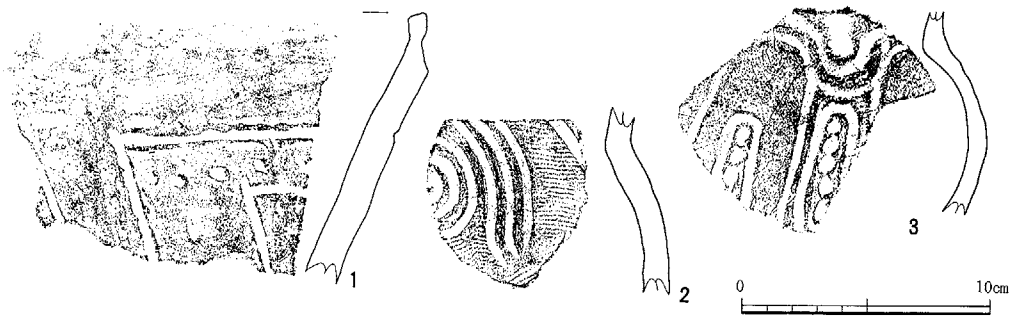
4は凹石である。覆土中の出土である。紙面の関係上実測図は掲載出来なかった。両面に2孔ずつ凹部が認められる。また側面が磨られており磨石としての併用がみられる。石材は安山岩である。長さ9.8cm、幅7.8cm、厚さ5.4cm、重516g。

44号住居址

第1層	黒	色	土	白色の軽石多量に含む。焼土粒子·炭化物少量含む。しまり強、粘性弱。縄文土器片多量含む。
第2層	黒	色	土	白色の軽石多量に含む。焼土粒子·炭化物微量含む。しまり強、粘性弱。縄文土器片多量含む。(1層より白色軽石含有率少ない。)
第3層	黒	色	土	白色の軽石少量含む。しまり強、粘性弱。
第4層	黒	色	土	白色の軽石微量含む。(3層に比べ色調暗い)しまり強、粘性弱。

0 2m

第66図　44号住居址



第67図　44号住居址出土遺物

51号住居址（第68図　図版10）

位置X、d－24、25グリッド／形態　楕円形／規模　4.64ｍ×3.54ｍ（東西×南北）／壁高　14cm～55cm。／壁構　なし。／床　褐色砂質色土層に掘り込まれる。硬質部分は炉址周囲より南東側に伸びる部分と南西側の部分にみられる。／柱穴　10本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
長径cm	34	18	44	20	35	37	28	31	37	21
短径cm	32	—	—	—	—	31	—	26	35	—
深さcm	18	28	11	14	12	11	45	11	23	31

※柱穴の位置と深さはまばらである。

／炉　石囲炉である。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土と黒褐色土を基調に２層に分層される。

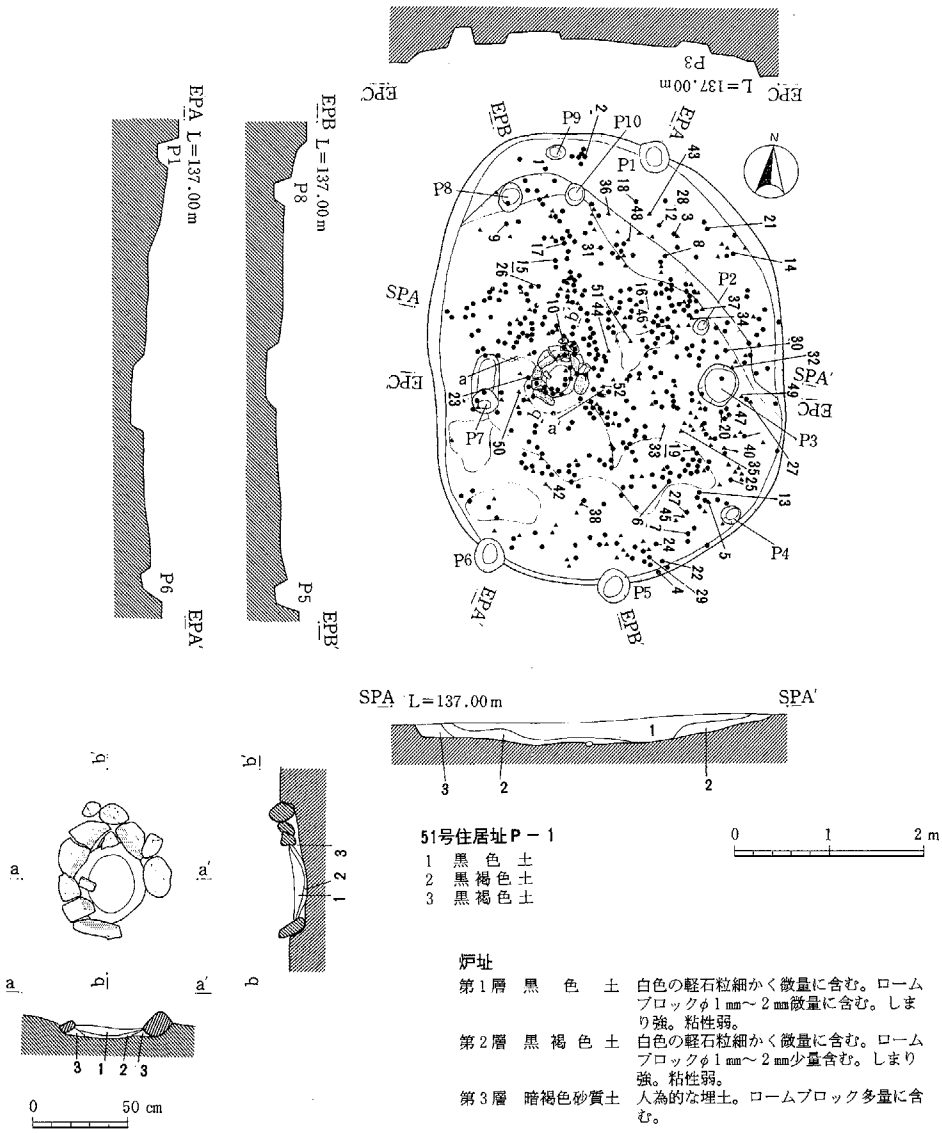
遺物の出土状況

覆土中より土器片が多量に出土した。また、若干骨片が出土した。実測遺物点数52点。

検出された遺物（第69～74図　図版35、36）

覆土中と床直上、炉址内出土のものを掲載した。１～30は深鉢形土器の破片である。１～９は綾杉状の沈線を施す。また、５は口唇部にキザミをもつ。４、７は波状口縁である。深鉢形土器である。

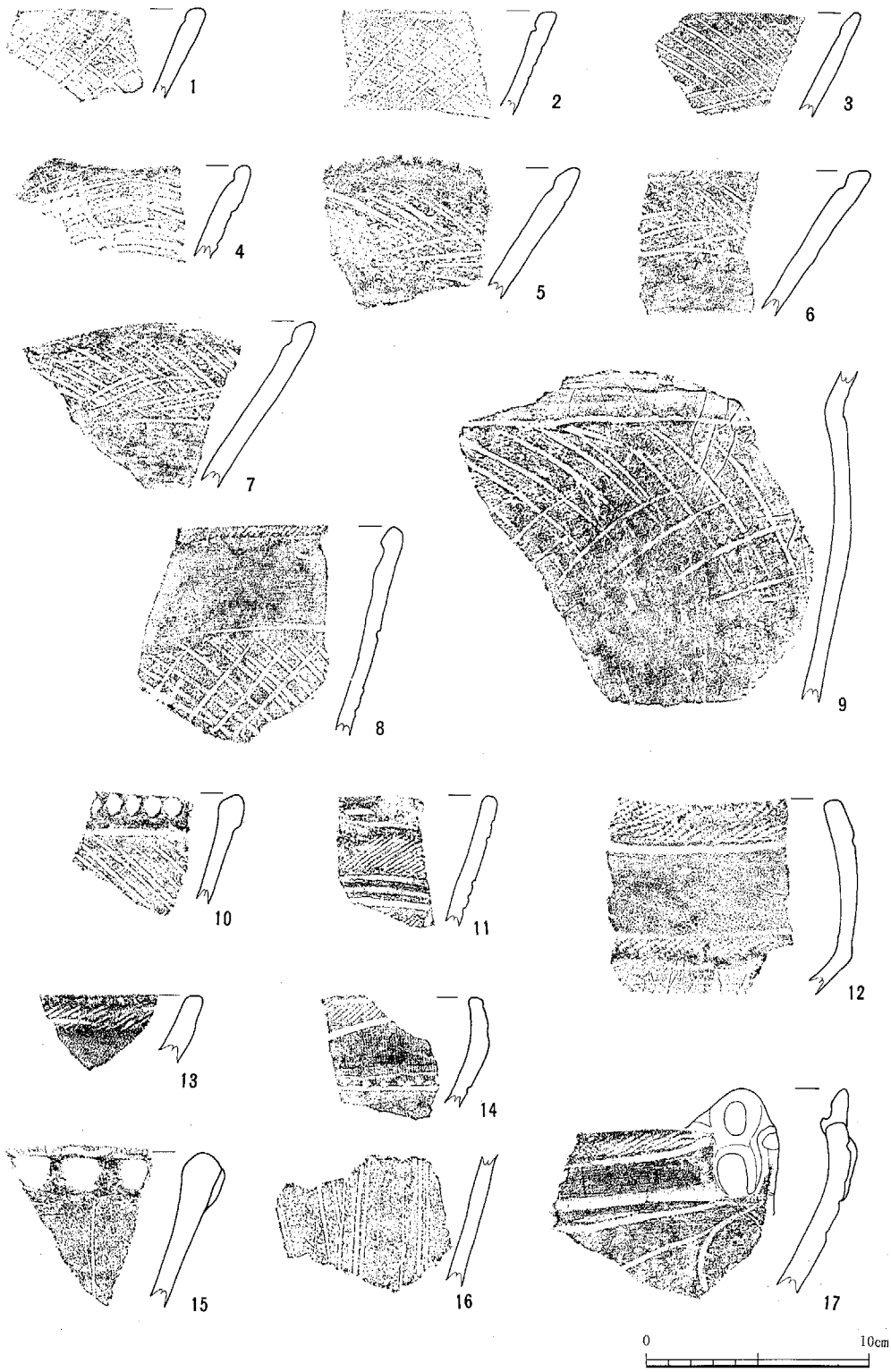
10は口縁部に指頭圧痕を施した紐線を巡らす。11は深鉢形土器口縁部の破片である。12は浅鉢形土器口縁部の破片である。沈線で区画された中に単節LR縄文を施文する。13、14は深鉢形土器口縁部15、16は櫛歯状の沈線を施す。17は深鉢形土器である。18、19～25は無文の粗製土器である。25は口唇部に山形のキザミをもつ。21、22、28と30は深鉢形土器底部の破片である。共に底面に網代痕がある。31は耳栓である。径1.1cm、厚さ上面に赤彩を施す。32～37、39は



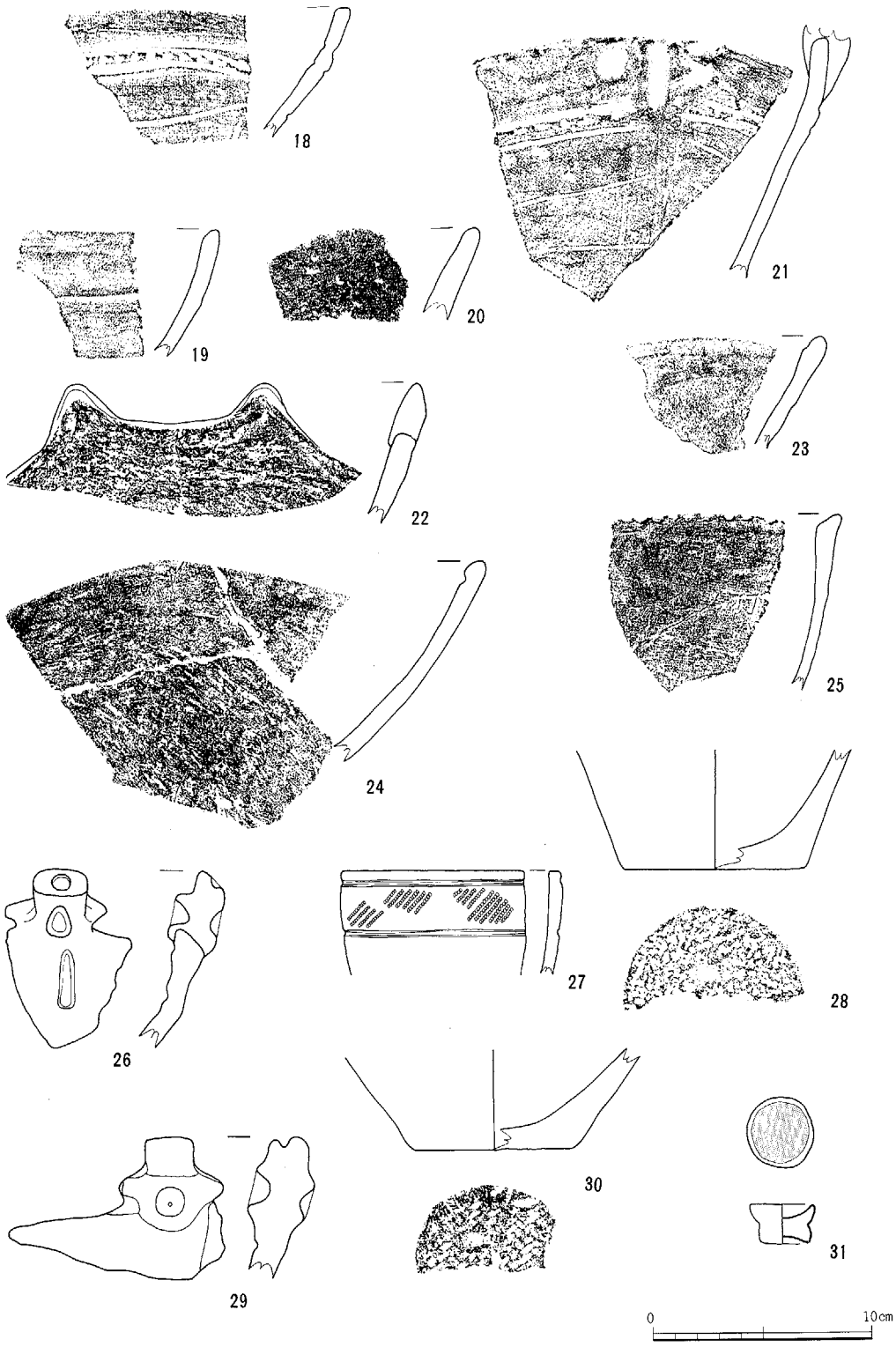
第68図　51号住居址

剥片石器である。石材は頁岩である。32は長さ8.2cm、幅5.9cm、厚さ3.4cm、重さ152ｇ、33は長さ7.7cm、幅5.4cm、厚さ1.8cm、重さ85ｇ。34は6.3cm、幅2.9cm、厚さ0.9cm。35は長さ6.3cm、幅3.0cm、厚さ0.9cm、重さ270ｇ。36は長さ3.8cm、幅4.8cm、重さ11ｇ。石材は黒色頁岩である。37は長さ7.0cm、幅9.4cm、厚さ1.9cm、重さ115ｇ。38は無茎石鏃である。長さ3.8cm、幅7.5cm、厚さ0.5cm、重さ13ｇ。39は長さ2.2cm、幅0.9cm、厚さ0.9cm、重さ0.5ｇ。40、41、42、47は砂岩製の砥石である。40は破片である。残存長5.7cm、幅3.9cm、厚さ0.8cm、重さ25ｇ。41は破片である。残存長5.3cm、幅5.2cm、重さ26.6ｇ。42は破片である。長さ12.4cm、幅4.6cm、厚さ0.9cm、重さ67ｇ。47は長さ8.2cm、幅7.5cm、厚さ1.1cm、重さ95ｇ。

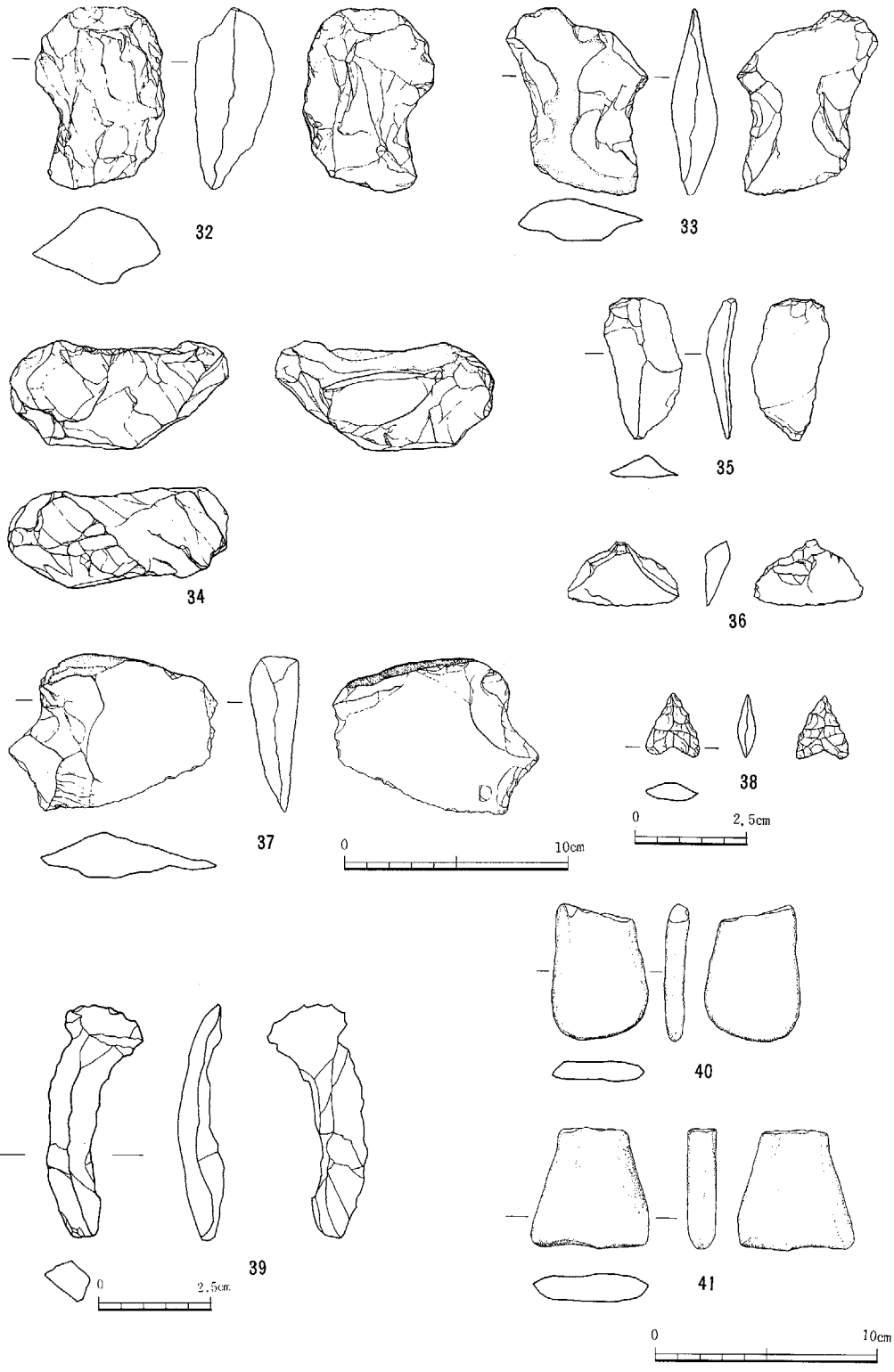
43、44、46、51は凹石である。43は表面が一部欠損する。4面とも敲打による孔が認められる。



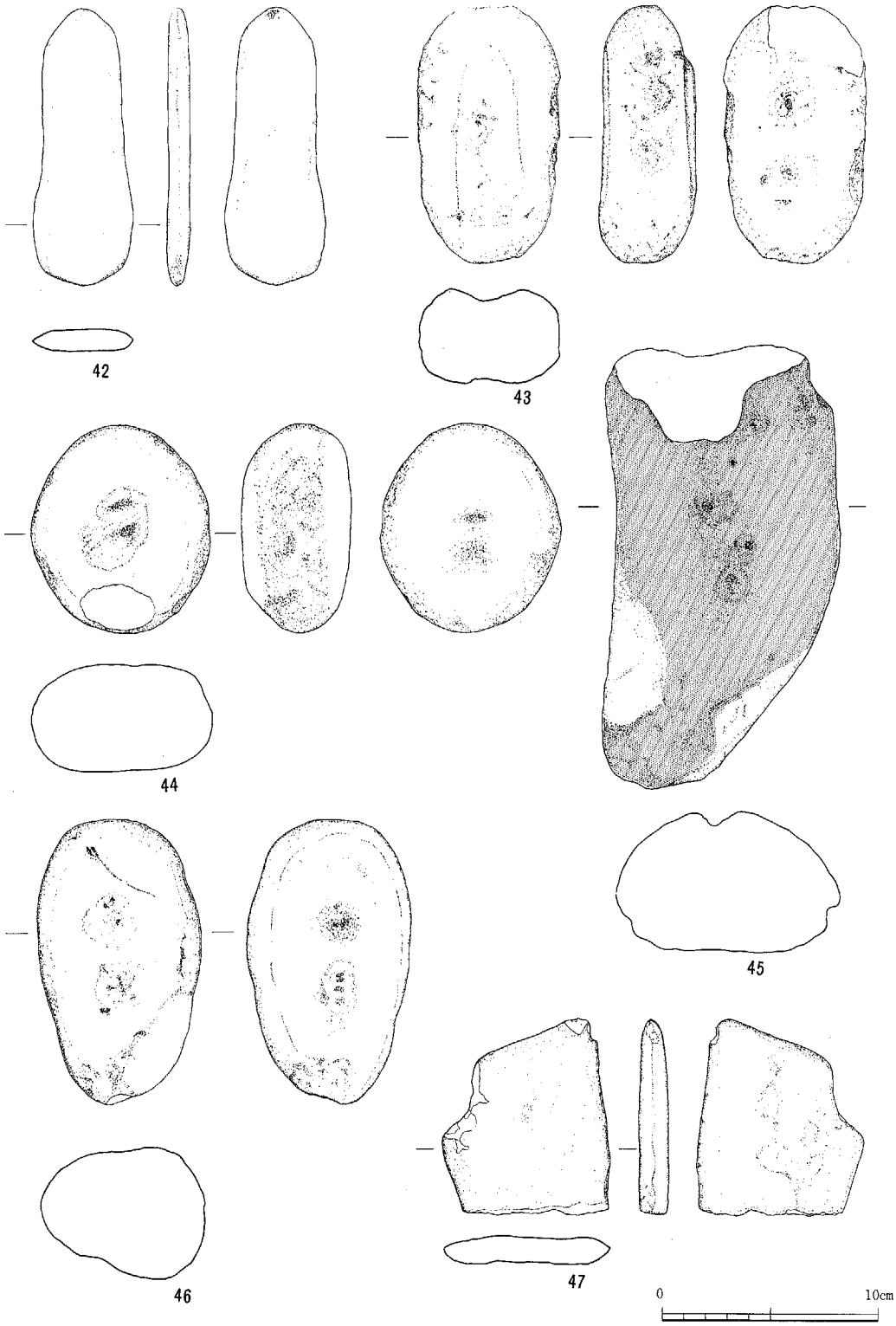
第69図　51号住居址出土遺物（1）



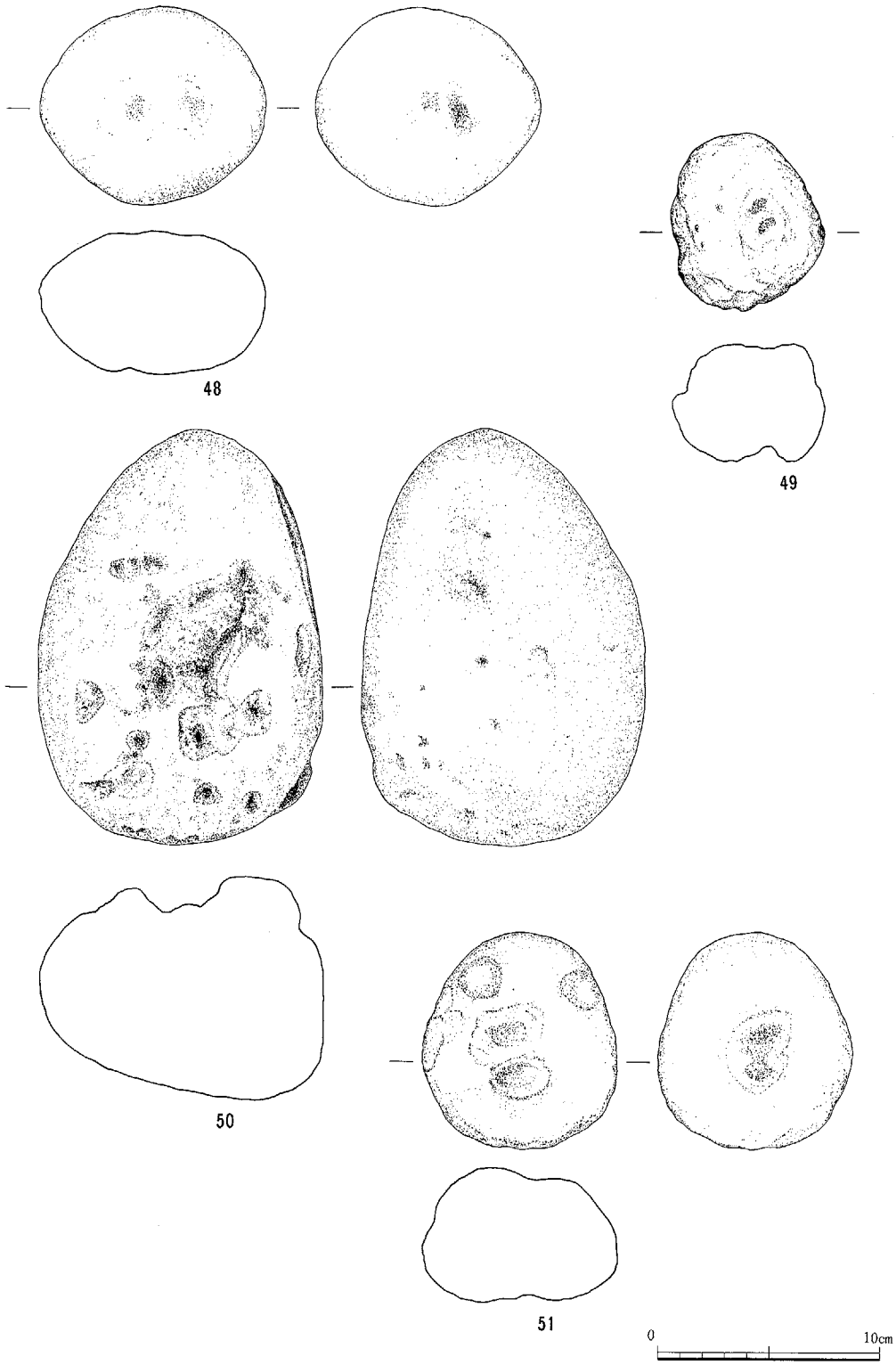
第70図　51号住居址出土遺物（２）



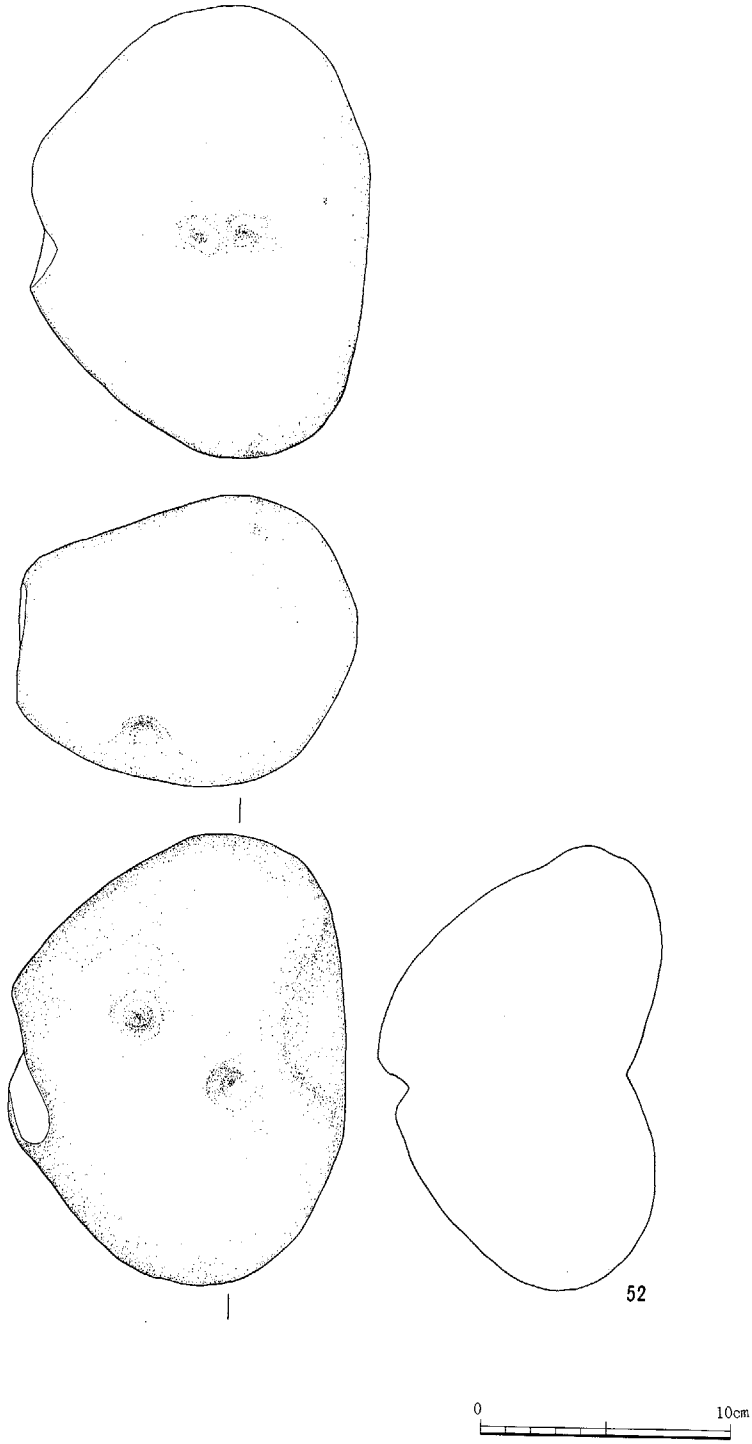
第71図　51号住居址出土遺物（3）



第72図　51号住居址出土遺物（4）



第73図　51号住居跡出土遺物（5）



第74図　51号住居址出土遺物（6）

長さ11.8cm、幅6.6cm、厚さ4.2cm、重さ399ｇ。44は長さ9.6cm、幅8.3、厚さ4.8cm、重さ1990ｇ。磨石と併用されている。46は長さ13.2cm、幅7.5cm、厚さ61cm、重さ554ｇ。45は多孔石である。一部欠損する。また、火熱を受け赤色化している。長さ19.4cm、幅10.2cm、厚さ6.4cm、重さ2900ｇ。石材は安山岩である。48は長さ8.9cm、厚さ6.4cm、重さ559ｇ。51は長さ9.6cm、幅8.7cm、厚さ5.8cm、重さ2900ｇである。50は多孔石である。長さ18.5cm、幅12.6cm、厚さ9.9cm、重さ560ｇ。52は陰石と考えられる。長さ13.4cm、幅17.9cm、厚さ10.3cm、重さ3100ｇ。

59号住居址（第75図　図版10）

位置　Ｔ－20グリッド／形態　隅丸長方形（小判形）／主軸方向　Ｎ－５°－Ｅ／規模　8.63ｍ×5.67ｍ/壁高３cm～４cm／壁溝　なし。／床　褐色砂土層に掘り込まれる。全体が硬質化されている。／柱穴　10本。Ｐ１、Ｐ２、Ｐ３、Ｐ５、Ｐ６が主柱穴に相当するものと思われる。

No.	1	2	3上下		4	5	6	7	8	9	10
長径cm	36	38	64	32	24	24	24	31	24	49	31
短径cm	－	－	49	14	－	－	－	－	－	－	－
深さcm	46	47	32	47	48	48	43	65	45	51	65

※Ｐ３の上、下は上幅、下幅を示す。

炉　南東隅寄りに位置する。長軸68cm、短軸52cm、深さ４cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　Ｐ９に隣接している方形の掘り込みが考えられる。長軸57cm、短軸54cm、深さ19cmを計る。

遺物

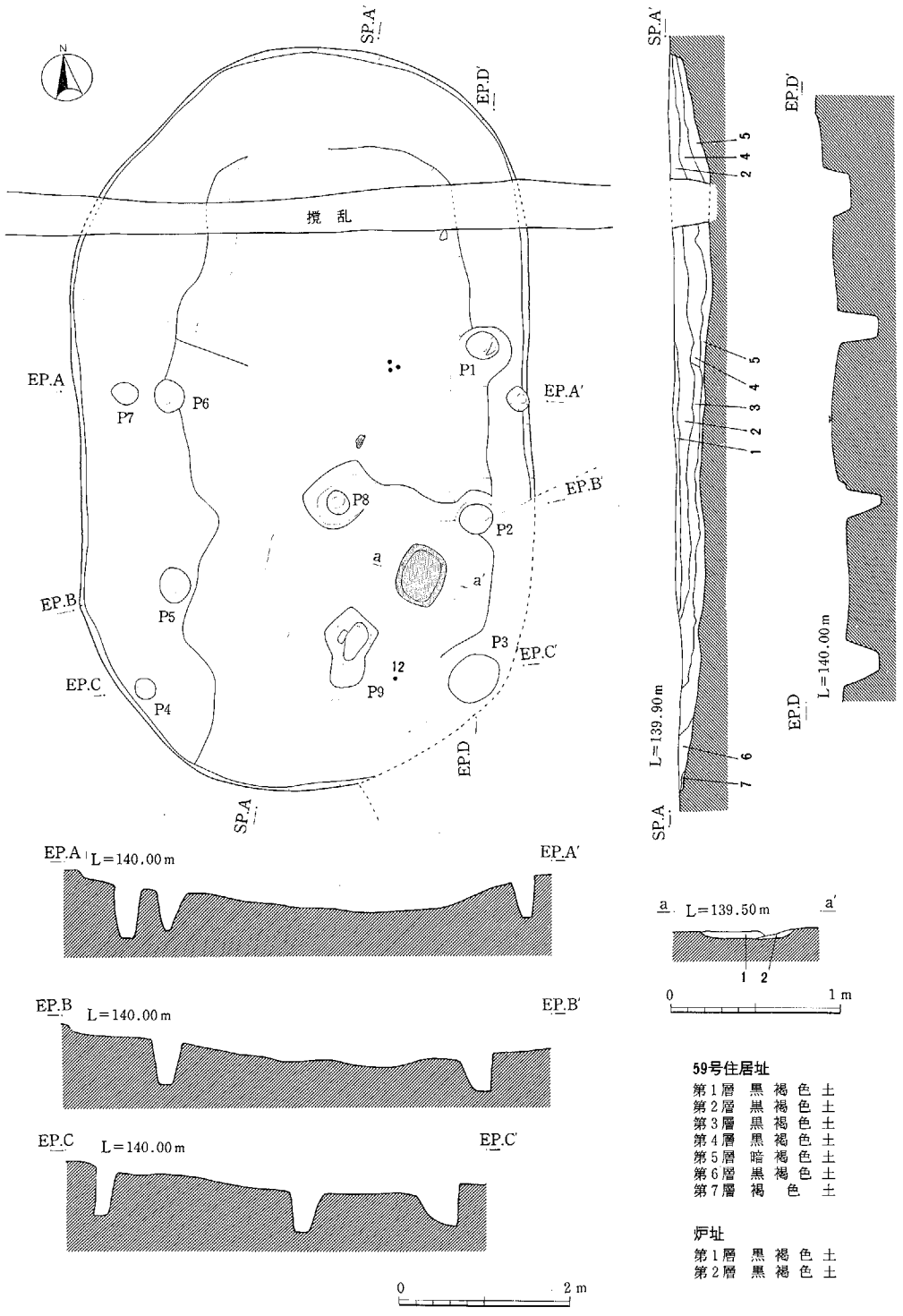
Ｐ１とＰ６の主柱間の線上、Ｐ１寄りに３点床着で土器片が出土している。他に、覆土中より土器片が１点、炭が床着で１点、自然礫が貯蔵穴内から２点、北東隅寄りに床着で１点出土している。

備考

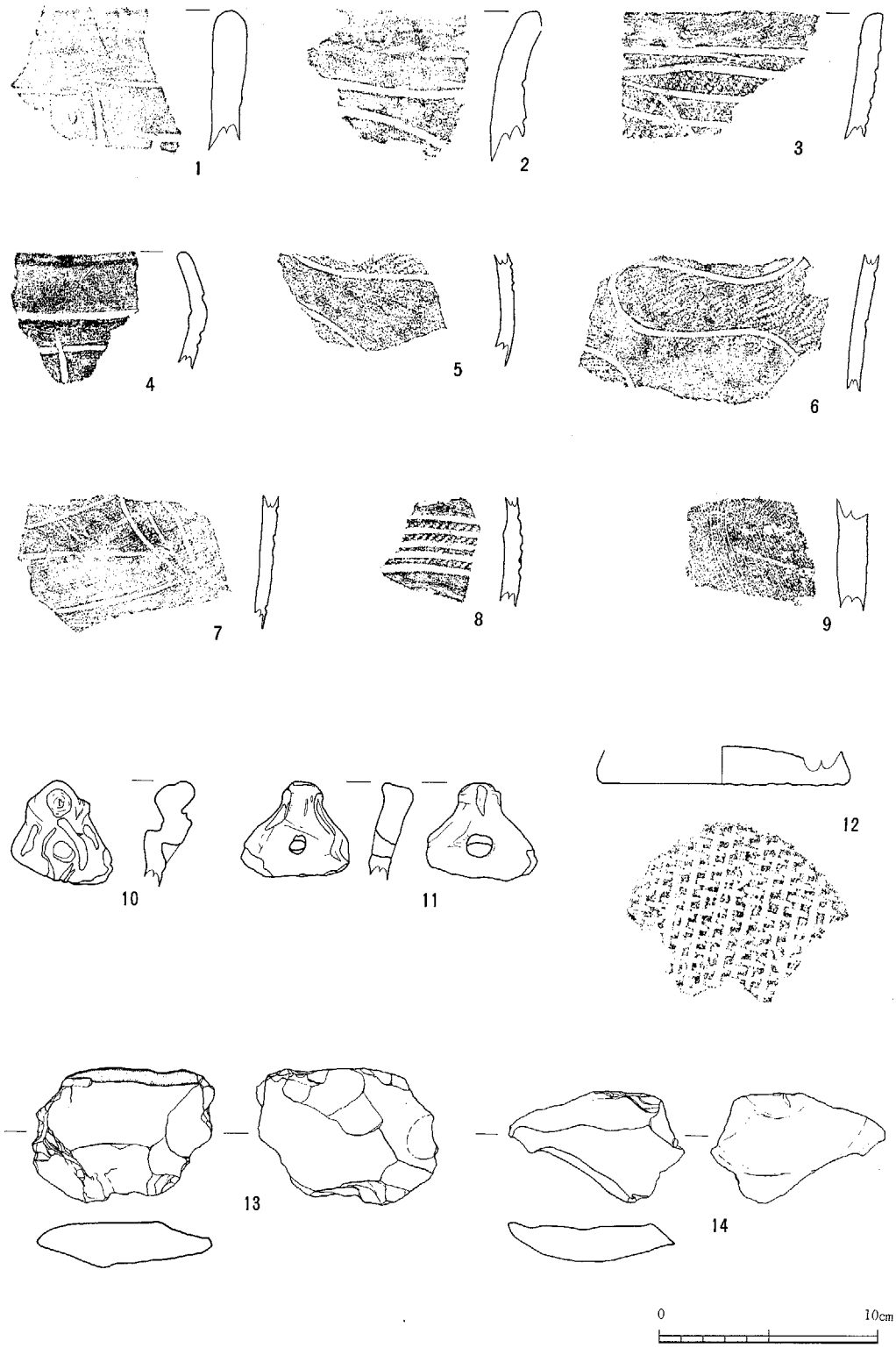
新旧関係は南東隅を58号住居址に切られる。更に近現代の暗渠が北側を分断する。

検出された遺物（第76図　図版38）

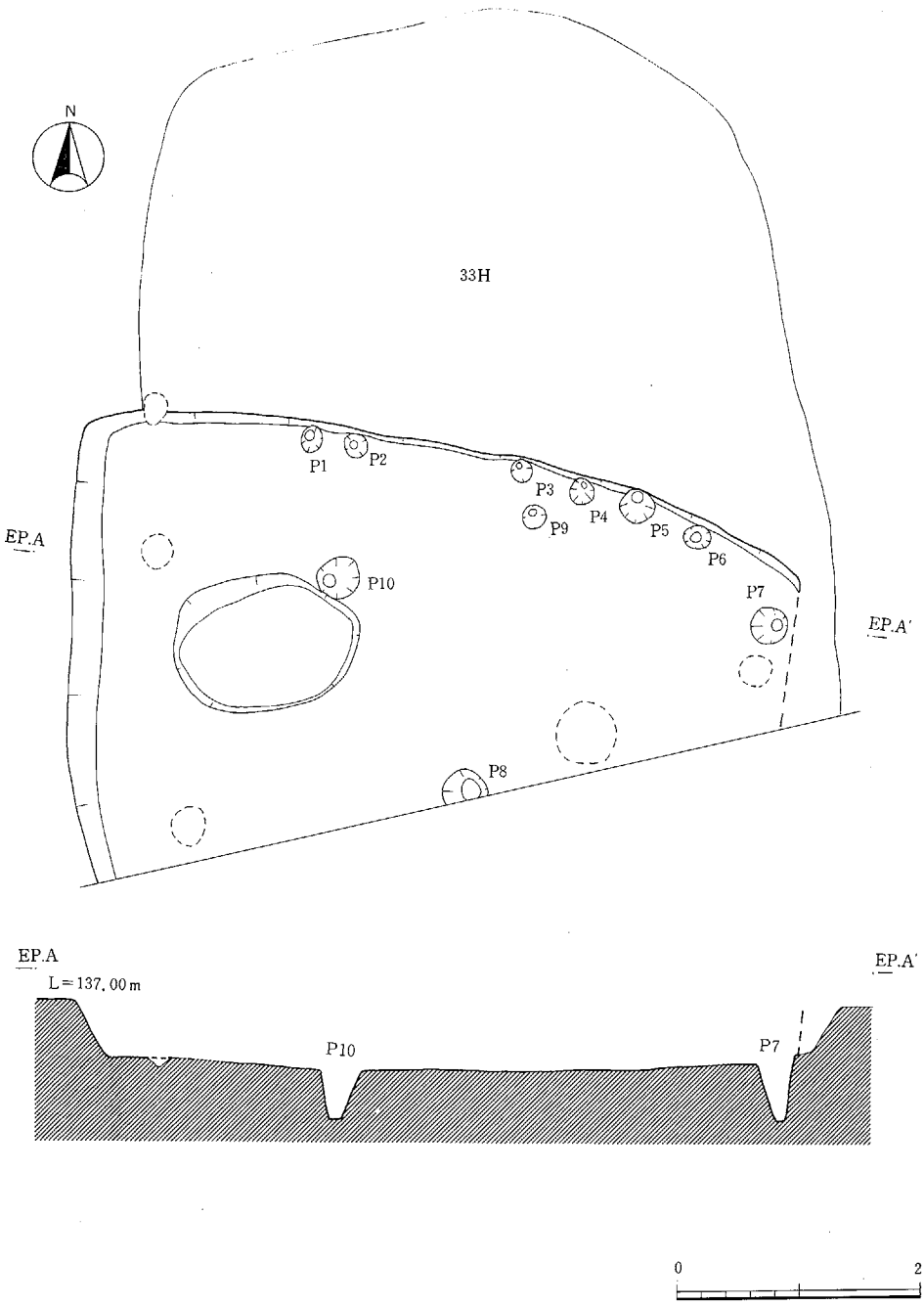
１ｆ深鉢形土器口縁部破片である。沈線間に列点を施す。２は深鉢形土器口縁部横位及び弧状沈線を施す。３はLR縄文を施し平行沈線４は口縁部は無文で隆線を巡らす。その下はRL縄文を施文する。５～９は深鉢形土器の胴部の破片である。５、６は沈線間に単節LR縄文を施文する。７は沈線で文様を構成する。８は平行沈線間に単節LR縄文を充填する。９は深鉢形土器胴部の破片である。縦の櫛描き条線を施す。10、11は深鉢形土器把手の破片である。12は深鉢形土器底部の破片である。底に網代痕がある。13、14剥片石器である。石材は共に頁岩である。13は長さ5.6cm、幅7.9cm、重さ24.5ｇ。14は長さ4.8cm、幅7.7cm、重さ25.1ｇ。


N
SP.A'
EP.D'
撹乱
EP.A
P7
P6
P1
EP.A'
P8
EP.B'
P2
a
a'
EP.B
P5
P3
EP.C'
EP.C
P4
P9
12
EP.D
SP.A
SP.A'
EP.D'
1 2 4 5
1 2 3 4 5
L=139.90m
7 6
SP.A
EP.D
L=140.00m
EP.A
L=140.00m
EP.A'
EP.B
L=140.00m
EP.B'
EP.C
L=140.00m
EP.C'
0
2m
a
L=139.50m
a'
1 2
0
1m
59号住居址
第1層 黒 褐 色 土
第2層 黒 褐 色 土
第3層 黒 褐 色 土
第4層 黒 褐 色 土
第5層 暗 褐 色 土
第6層 黒 褐 色 土
第7層 褐 色 土
炉址
第1層 黒 褐 色 土
第2層 黒 褐 色 土

第75図　59号住居址



第76図　59号住居址出土遺物



第77図　111号住居址

111号住居址（第77図　図版10）

位置　S－23グリッド／形態　方形（推定）／規模　5.06ｍ×不明／壁高　48cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。南は調査区域外に延びる。硬質部分の検出は見られなかった。／柱穴　10本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
長径cm	16	18	15	20	29	22	30	36	19	35
短径cm	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
深さcm	42	40	33	35	34	34	40	40	39	38

／炉　調査範囲内ではなかった。／その他の施設　本址に伴う土坑状の掘り込みが検出された。用途については不明である。規模は長軸156cm、短軸109cm、深さ19cm。平面は楕円形、断面は鍋底形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。上面を32号住居址に切られ、32号住居址の貼り床下より検出。残存部分では黒褐色土の基調に３層に分層される。

新旧関係

32号住居址に切られる。

遺物

検出されなかった。

備考

遺物は検出されなかったが、覆土の状況から縄文時代の所産のものと考えられる。また、32号住居址に切られているため、32号住居址より古いことは断定できる。

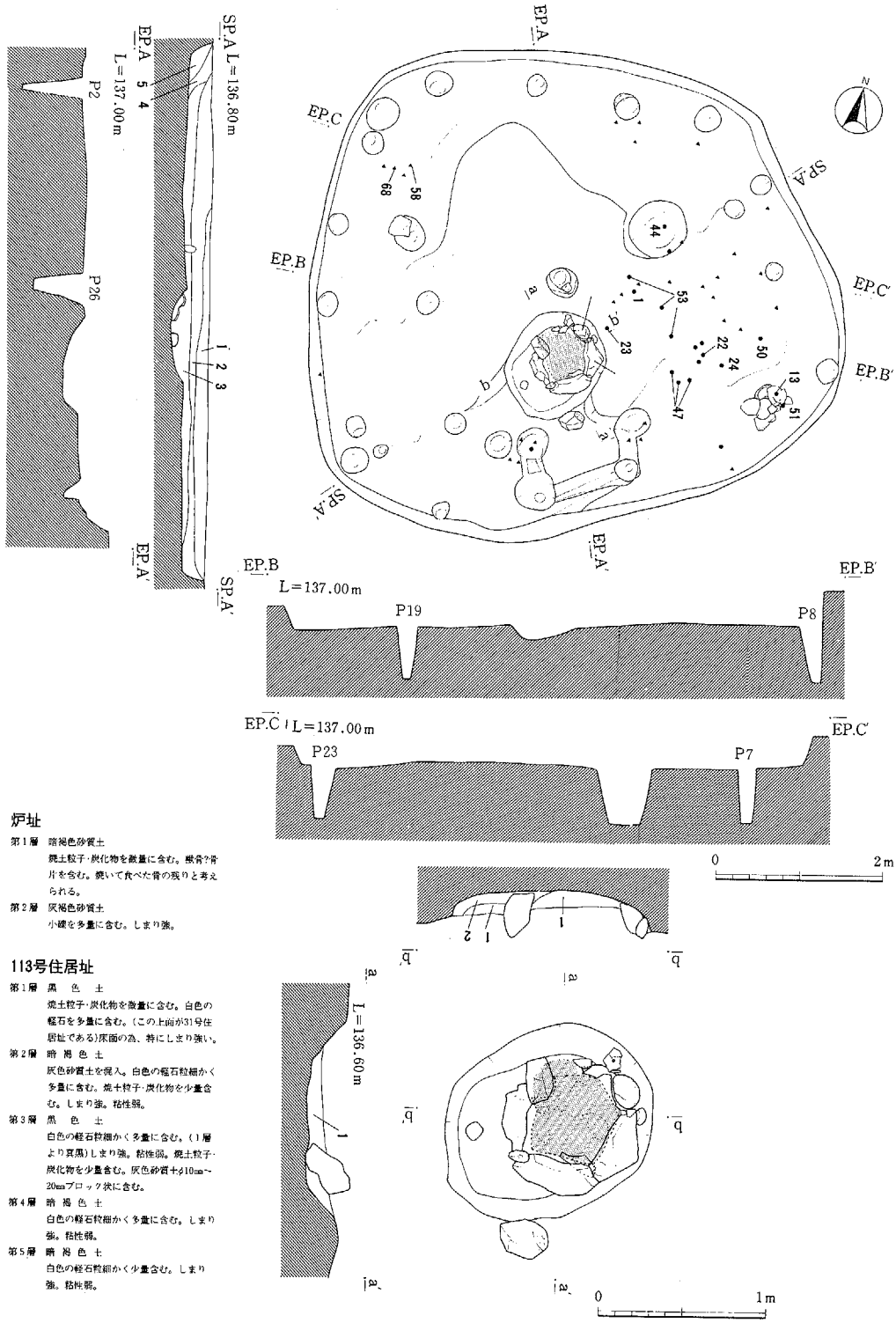
113号住居址（第78図　図版10、11）

位置　Y－15グリッド／形態　楕円形（やや方形に近い。）／規模　6.03ｍ×5.93ｍ（東西×南北）壁高　29.9cm～30cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は炉の周辺よりほぼ中央部から東、西、北側は壁柱穴付近まで延びる。／柱穴　24本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
長径cm	34	26	31	34	26	22	21	28	31	36	28	48	42	21	32	26	34	28
短径cm	30	23	29	31	－	－	－	－	－	－	－	46	38	－	－	－	32	24
深さcm	57	72	59	56	64	71	69	60	68	61	59	72	71	72	65	65	61	57

No.	19	20	21	22	24	25	26
長径cm	17	28	28	48	29	42	36
短径cm	15	26	26	34	24	36	－
深さcm	65	64	75	57	61	60	60

※P10～P13は入り口部分にあたる柱穴と考えられる。



炉址

第1層　暗褐色砂質土
焼土粒子・炭化物を微量に含む。獣骨?骨片を含む。焼いて食べた骨の残りと考えられる。

第2層　灰褐色砂質土
小礫を多量に含む。しまり強。

113号住居址

第1層　黒　色　土
焼土粒子・炭化物を微量に含む。白色の軽石を多量に含む。(この上面が31号住居址である)床面の為、特にしまり強い。

第2層　暗 褐 色 土
灰色砂質土を混入。白色の軽石粒細かく多量に含む。焼土粒子・炭化物を少量含む。しまり強。粘性弱。

第3層　黒　色　土
白色の軽石粒細かく多量に含む。(1層より真黒)しまり強。粘性弱。焼土粒子・炭化物を少量含む。灰色砂質土が10cm～20cmブロック状に含む。

第4層　暗 褐 色 土
白色の軽石粒細かく多量に含む。しまり強。粘性弱。

第5層　暗 褐 色 土
白色の軽石粒細かく少量含む。しまり強。粘性弱。

第78図　113号住居址

炉　石囲炉である。長軸104cm、短軸100cm。形態は楕円形（方形に近い）。掘り方は長軸134cm、短軸117cm、深さ17cm。平面は楕円形。断面は鍋底形を呈する。底面はよく焼けて硬質化されている。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土を基調に2層、暗褐色土を基調に3層に分層される。

遺物の出土状況

覆土、第1層、第2層中より多量に土器片が出土した。床着では土器片が全体亘って散乱して出土した。また、炉址に付近より土器片が出土した。さらに東壁寄りに岩偶と形の似た石棒の破片が出土した。

検出された遺物（第78～89図　図版26）

覆土中、床直上のものを掲載した。1～11は深鉢形土器口縁部の破片で綾杉状の沈線を施文する。

1は床着である。器形、成・整形の特徴は波状口縁で口縁部に4条の平行沈線を施し、山と谷の位置に瘤状の貼り付けをもつ。

2は覆土第2層中より出土した。波状口縁で口縁部に平行沈線で区画した間に単節RL縄文を施文し、間にミガキが入る。

3～11も覆土第2層中の出土の一括遺物である。

12は深鉢形土器口縁部の破片である。横位の平行沈線を施す。13は深鉢形土器口縁部の破片である。口縁部にボタン状の貼り付を施し、3条の平行沈線を施文する。

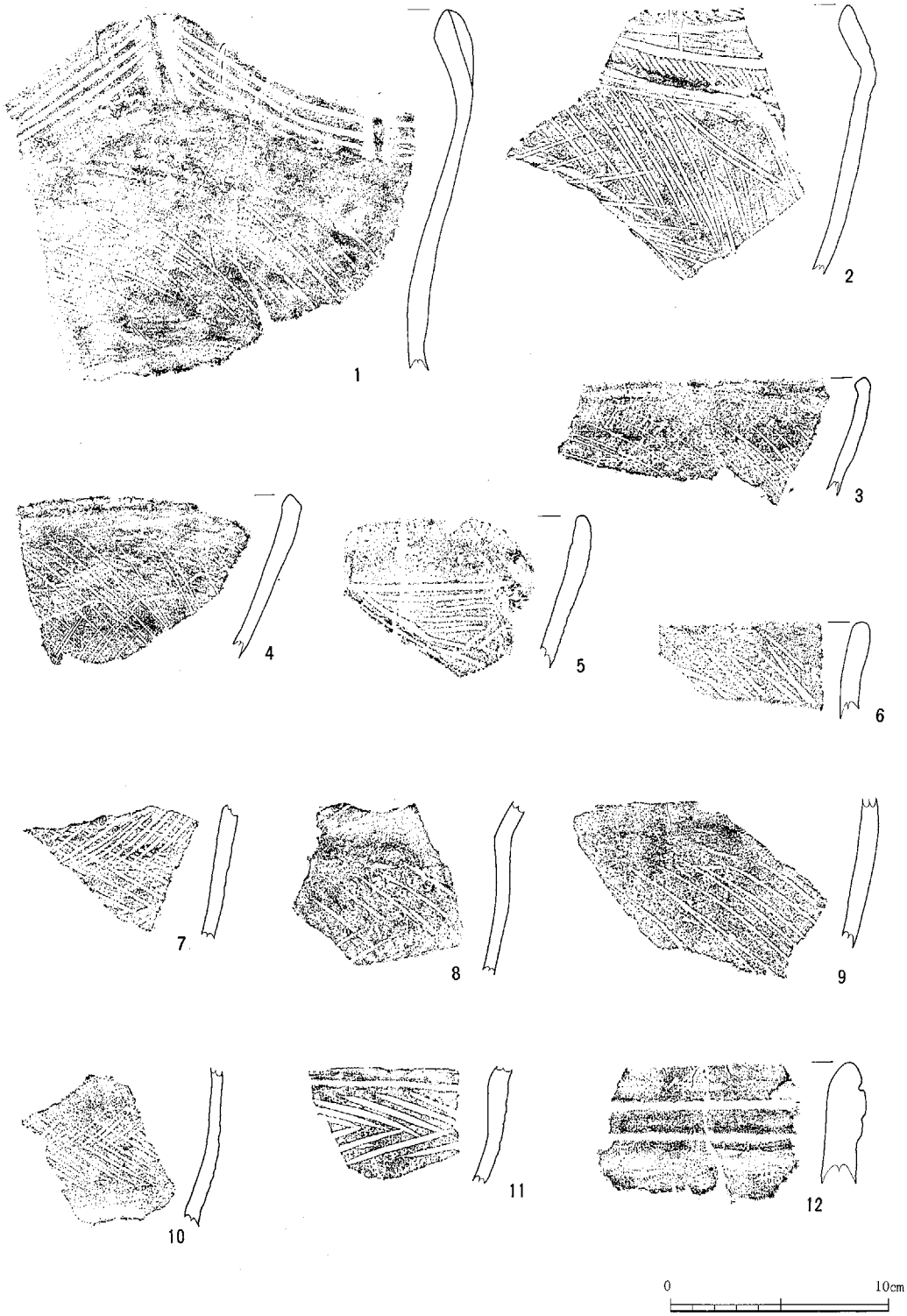
14～17は浅鉢形土器の口縁部の破片である。14～16は覆土第3層中の一括遺物、17は炉址内出土の遺物である。みな瘤状の貼り付けを施されているという特徴をもつ。14は単節LR縄文を施文し、部分的に磨り消し沈線で区画する。15は単節LR縄文を施文し、沈線で区画する。16は単節RL縄文を施文し、平行沈線で区画する。間をミガキで施す。

18は浅鉢形土器の破片。19は3条の平行沈線を施す。20は深鉢形口縁である。21、22は深鉢形土器の破片、沈線で区画された口唇部に単節LR縄文を施文する。

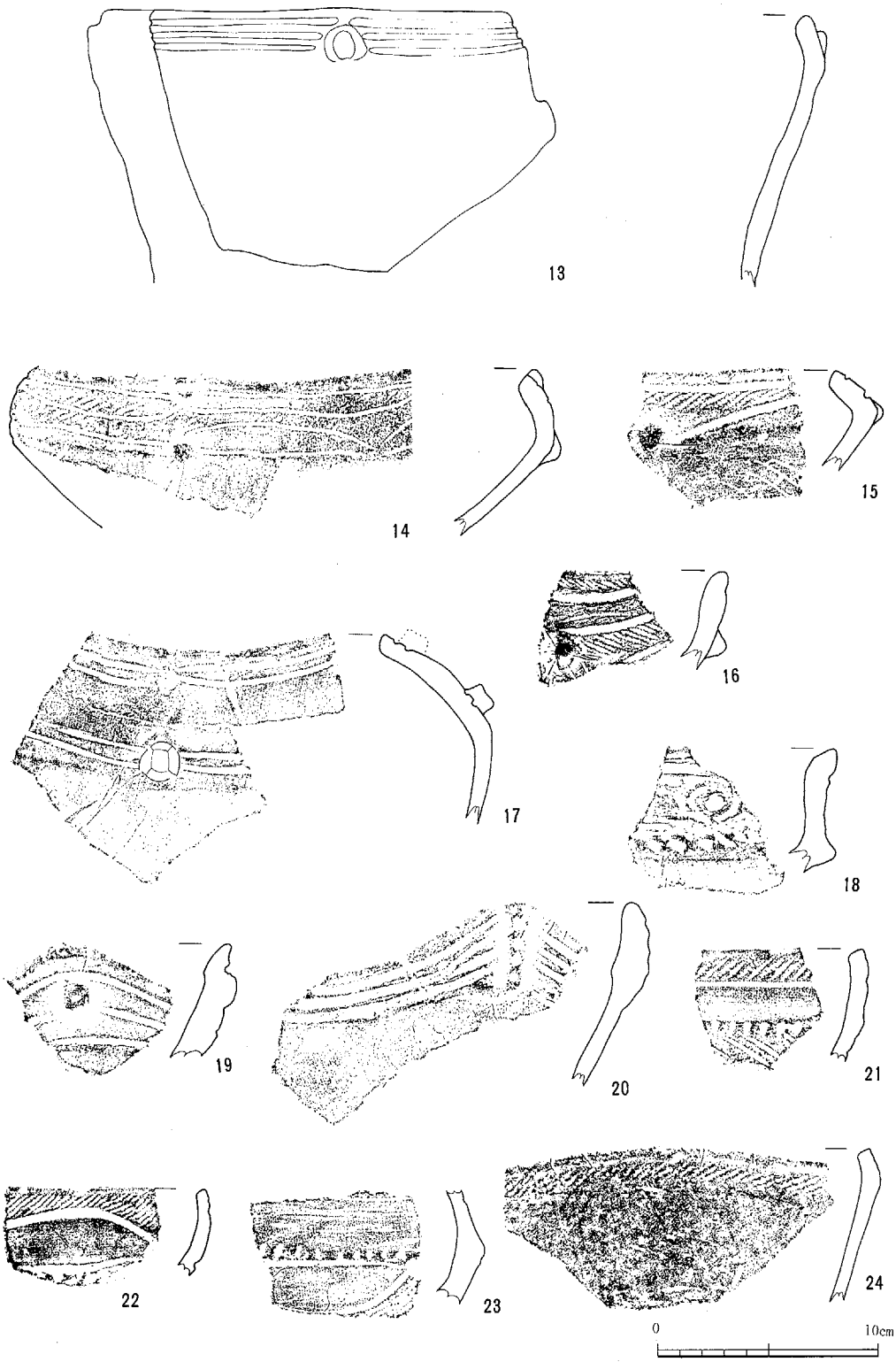
23は横位の沈線と刺突文を巡らせる。また、横位の沈線と弧状沈線の接点に刺突文を施す。24は口縁部に単節LR縄文を施文し、沈線を巡らし区画する。25～28ｆ無文の粗製土器である。29は径1.0cmの補修孔があく。器面には綾杉状を施す。30は口唇部にキザミを施し、以下条線を施文する。内面には口唇部の下に一条の沈線を巡らす。31は口縁部に指頭圧痕を施し、以下斜沈線を施す。内面には口縁部以下に一条の沈線を巡らせる。24は25～28は覆土第1層より出土した。深鉢形土器口縁部の破片である。無文の粗製土器である。

29は綾杉状の沈線を施す。径1.0cmの補修孔があく。

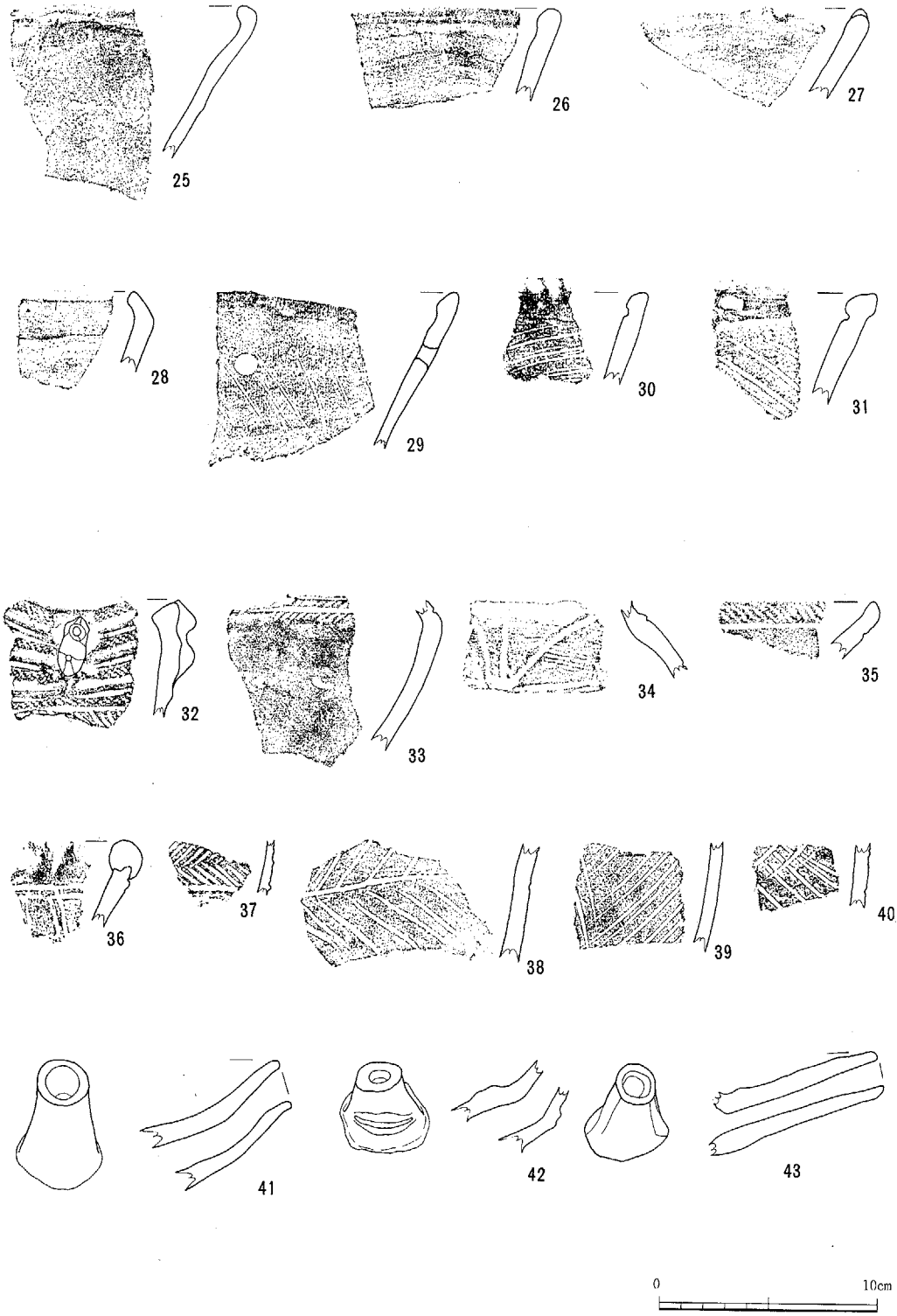
30、31は口縁部に指頭圧痕を施し、胴部には条線文を施す。内面には口縁部以下に一条の沈線を巡らせる。32は深鉢形土器である。沈線間を単節RL縄文を充填し、二分縦長コブを貼り付ける。



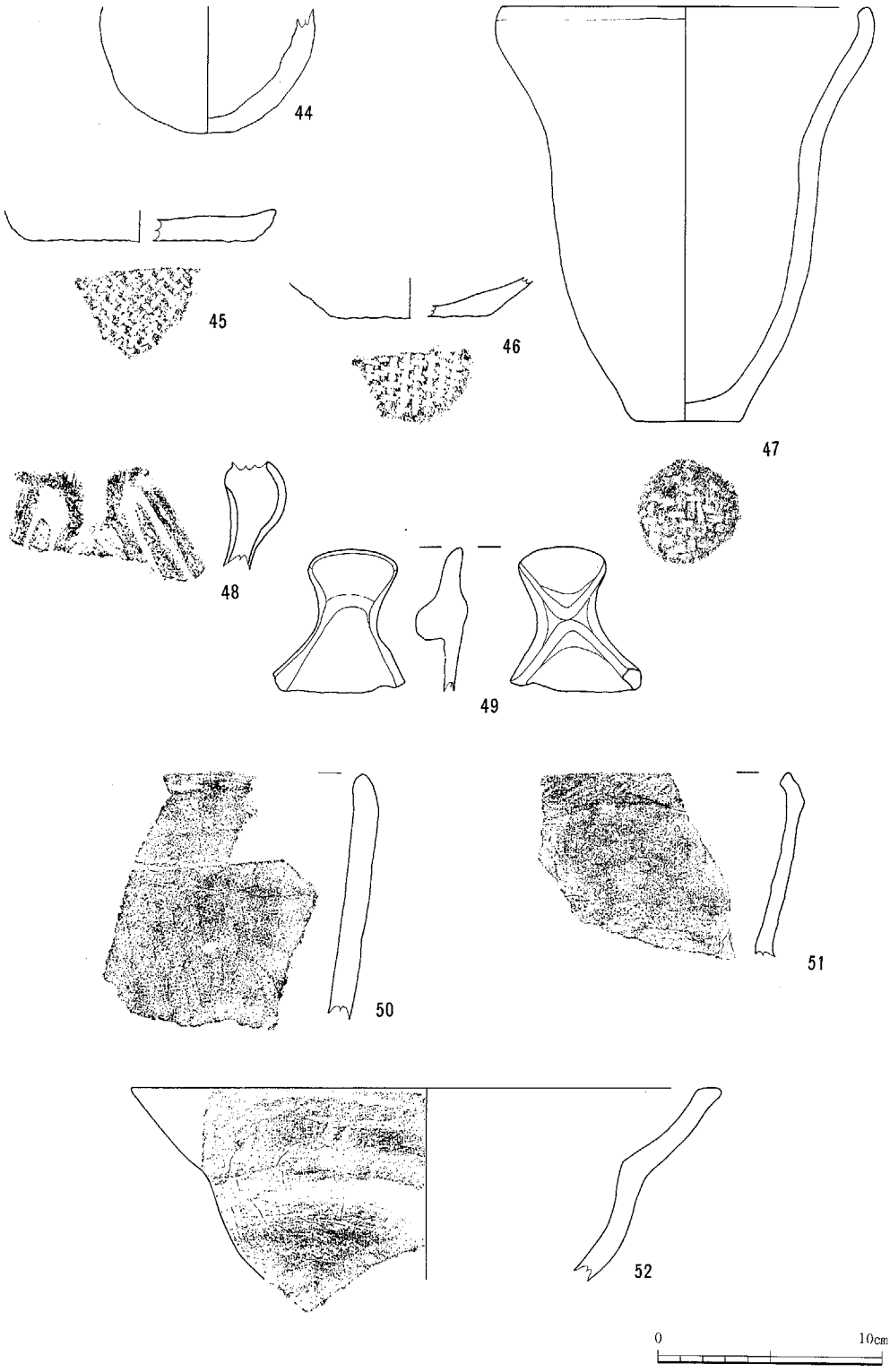
第79図　113号住居址出土遺物（1）



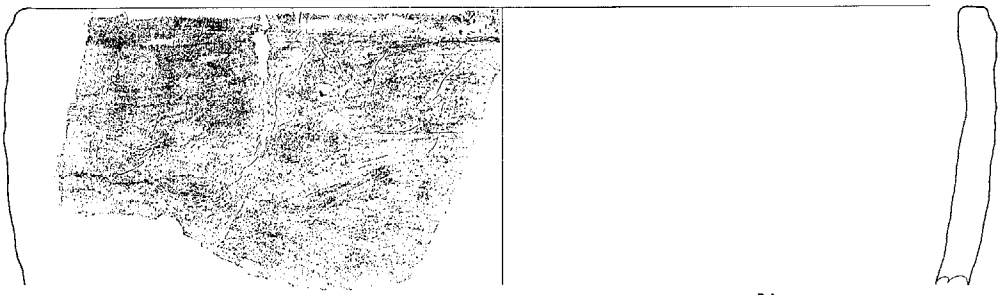
第80図　113号住居址出土遺物（２）

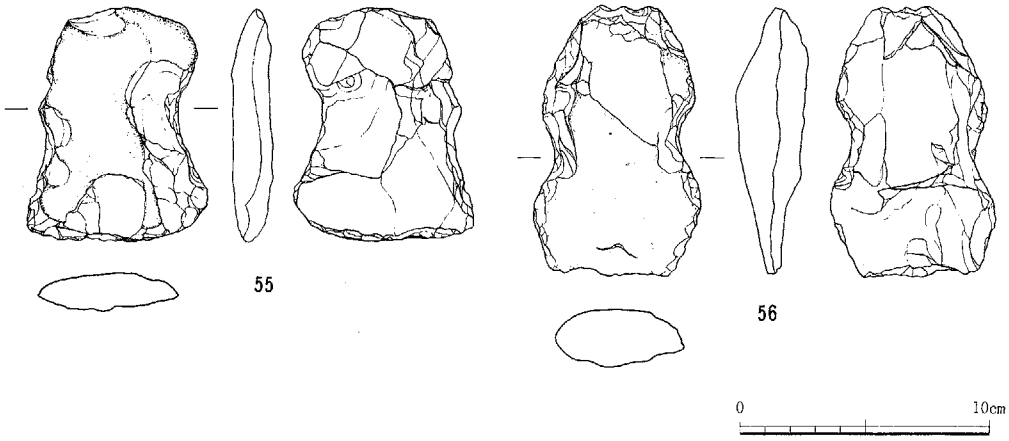


第81図　113号住居址出土遺物（3）

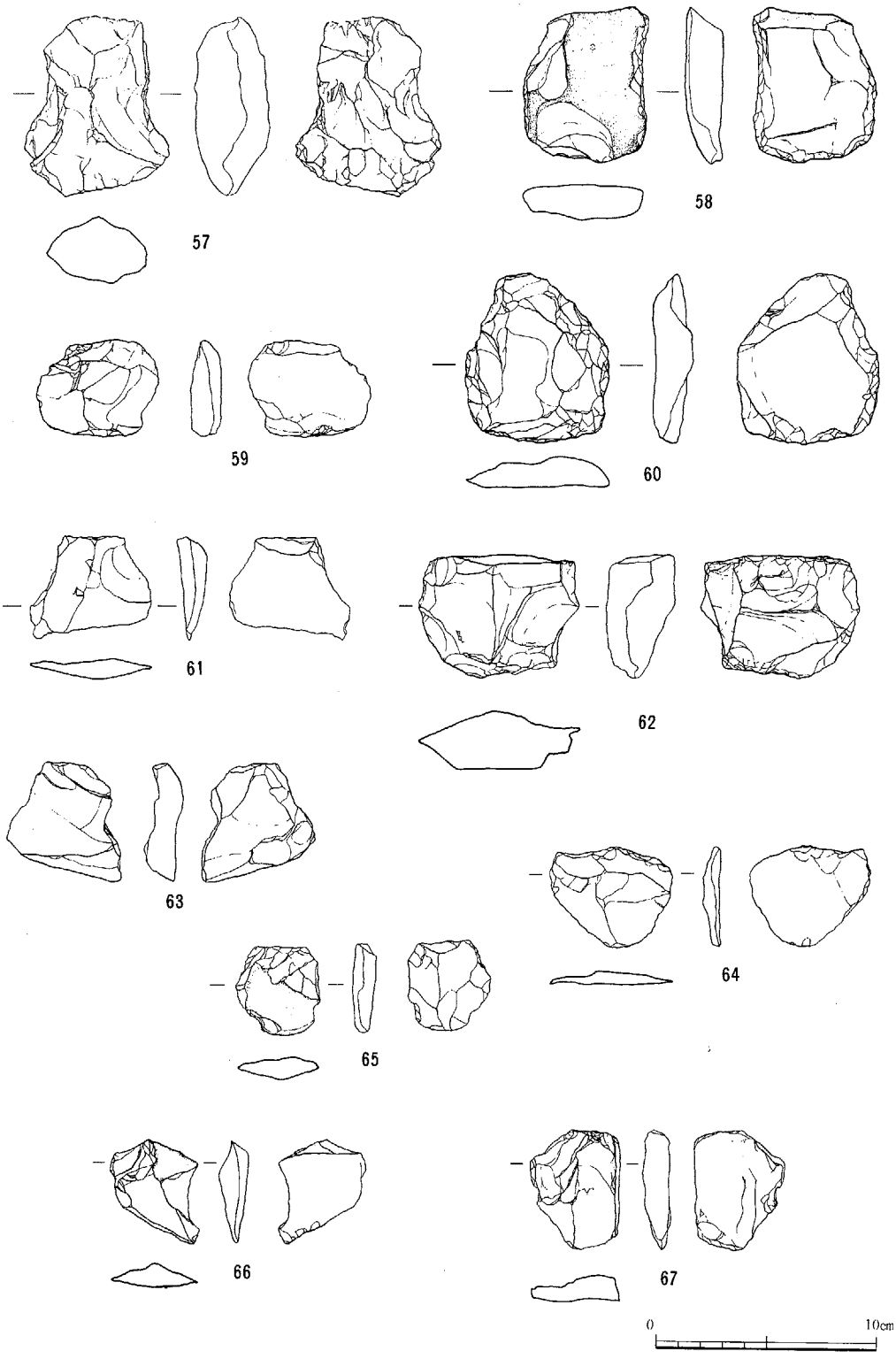


第82図　113号住居址出土遺物（4）

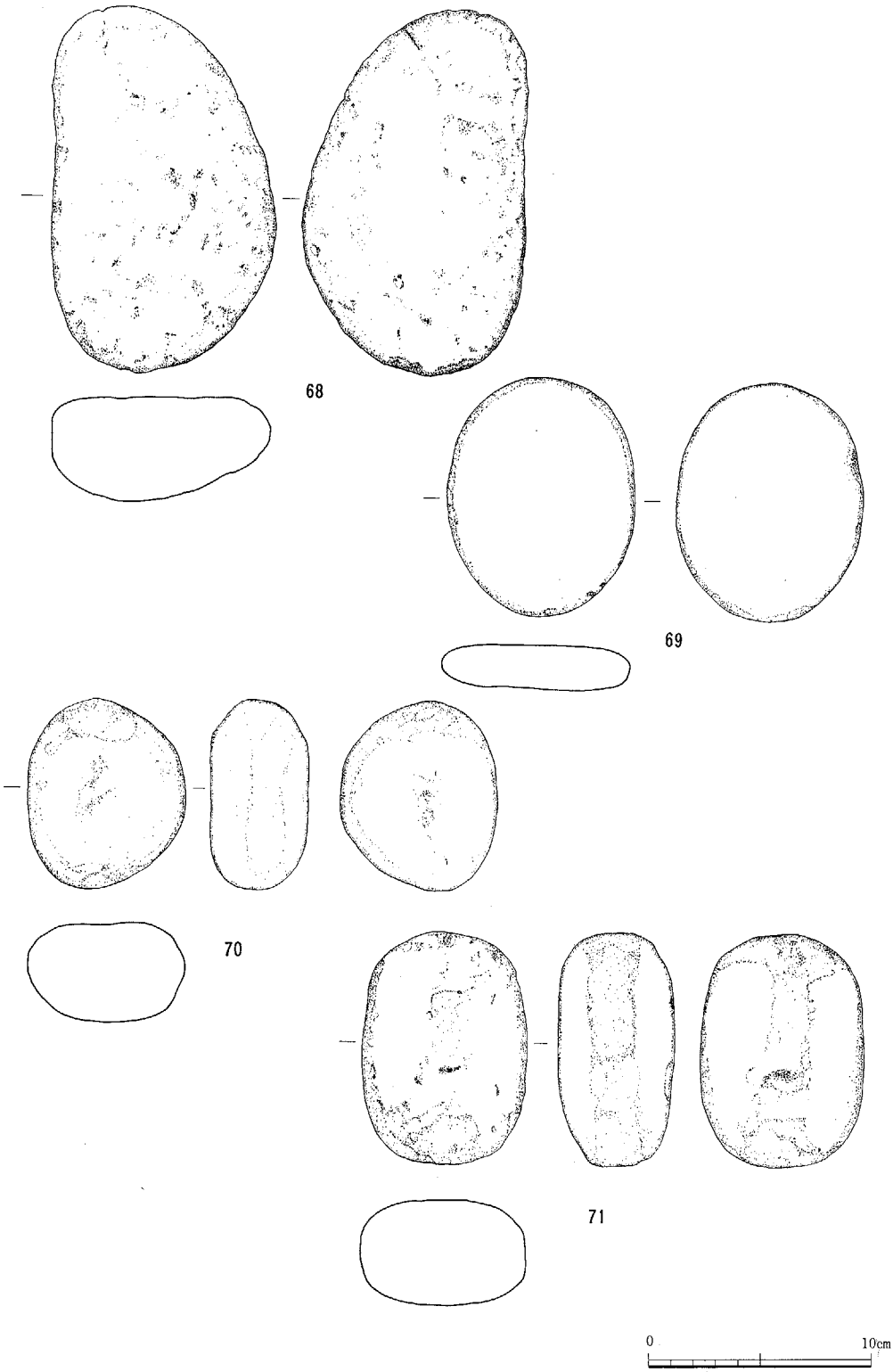




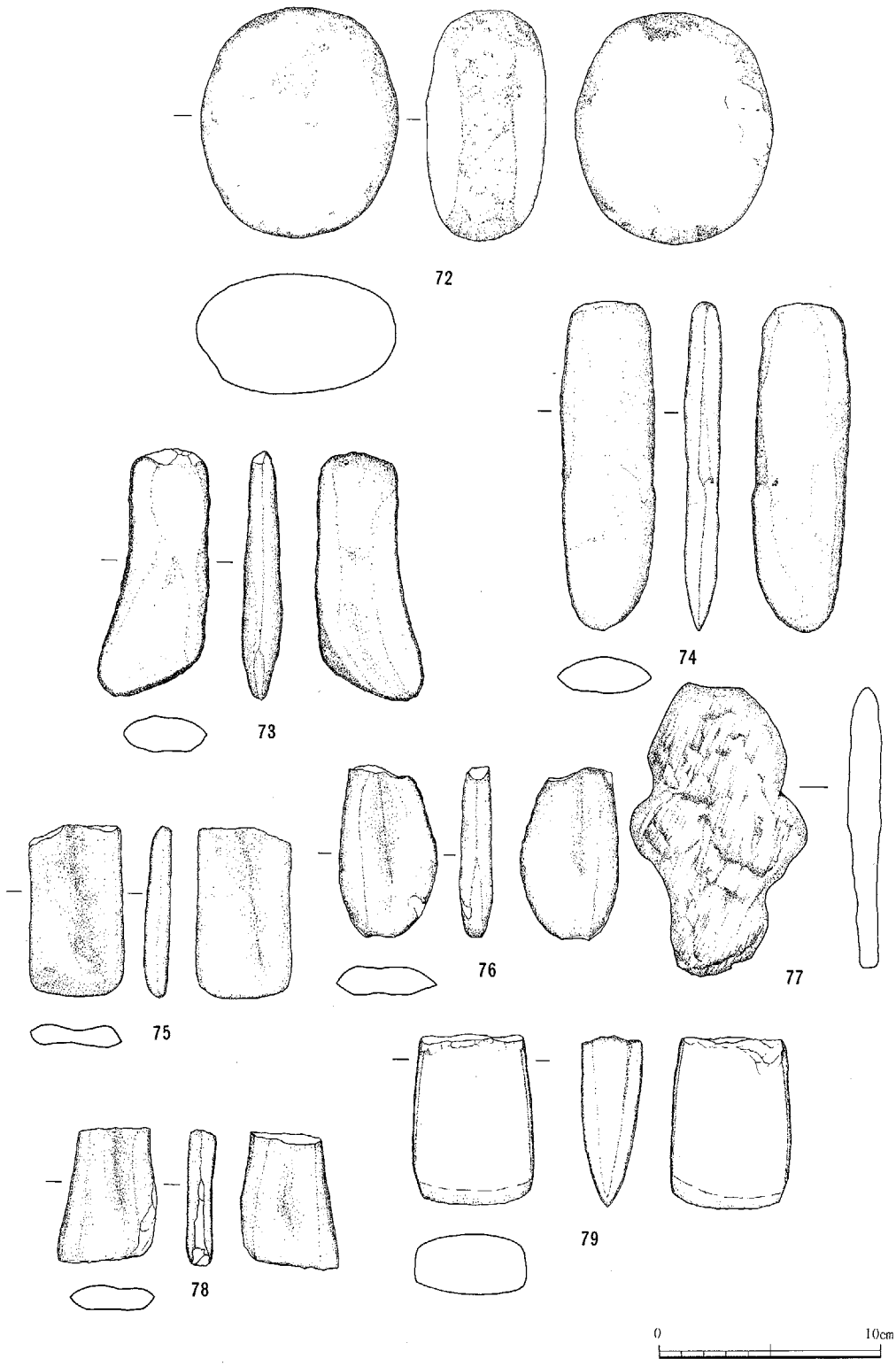
第83図　113号住居址出土遺物（5）



第84図　113号住居址出土遺物（6）



第85図　113号住居址出土遺物（7）



第86図　113号住居址出土遺物（8）

33は浅鉢形土器の破片である。口縁部に沈線を巡らせ、その間に単節LR縄文を充填する。

34はソロバン形の深鉢形土器の肩部の破片である。縦及び弧状沈線で単節RLの磨消縄文を区画する。

35は口縁部に沈線を巡らせ、単節RL縄文を充填する。

36は突起をもつ深鉢形土器の口縁の破片である。沈線による区画文を施す。37～40は深鉢

41と42は注口土器注口部の破片である。覆土第1層中より出土した一括の出土遺物である。41は径1.7cm、長さ6.4cm、42は径0.9cm、長さ4cm。43は径1.2cm、長さ6.6cm。

44は浅鉢形土器底部の破片である。器面はヘラケズリを施す。覆土第1層中より出土した。

45、46は深鉢形土器底部の破片である。底に網代痕がある。覆土第1層中より出土した。

47は覆土第3層中より出土深鉢形土器で、無文の粗製土器である。調整は内面横方向のミガキ、外面は頸部より上部が横方向のミガキ、下部が縦方向の丁寧なミガキが施されている。口径16.2cm、器高18.5cm、底径4.6cm。底に網代痕あり。胎土は砂粒を含む、焼成は良好、色調は黒褐色である。

49は深鉢形土器、波状口縁突起の破片である。

50～54は無文の粗製土器である。50、51、53、54は深鉢形土器である。52は浅鉢形土器である。51は無節L縄文を施文し、磨り消しを施す。52は復元口径26.2cm、残存高9.8cm。53復元口径24cm、残存高23.0cm。54は復元口径38.2cm、残存高11.1cm。

55、56はcm打製石斧である。両者とも覆土第1層中より出土した。55は長さ9.3cm、幅7.2cm、厚さ1.5cm、重さ129g。56は長さ10.7cm、幅6.7cm、厚さ2.3cm、重さ195g。

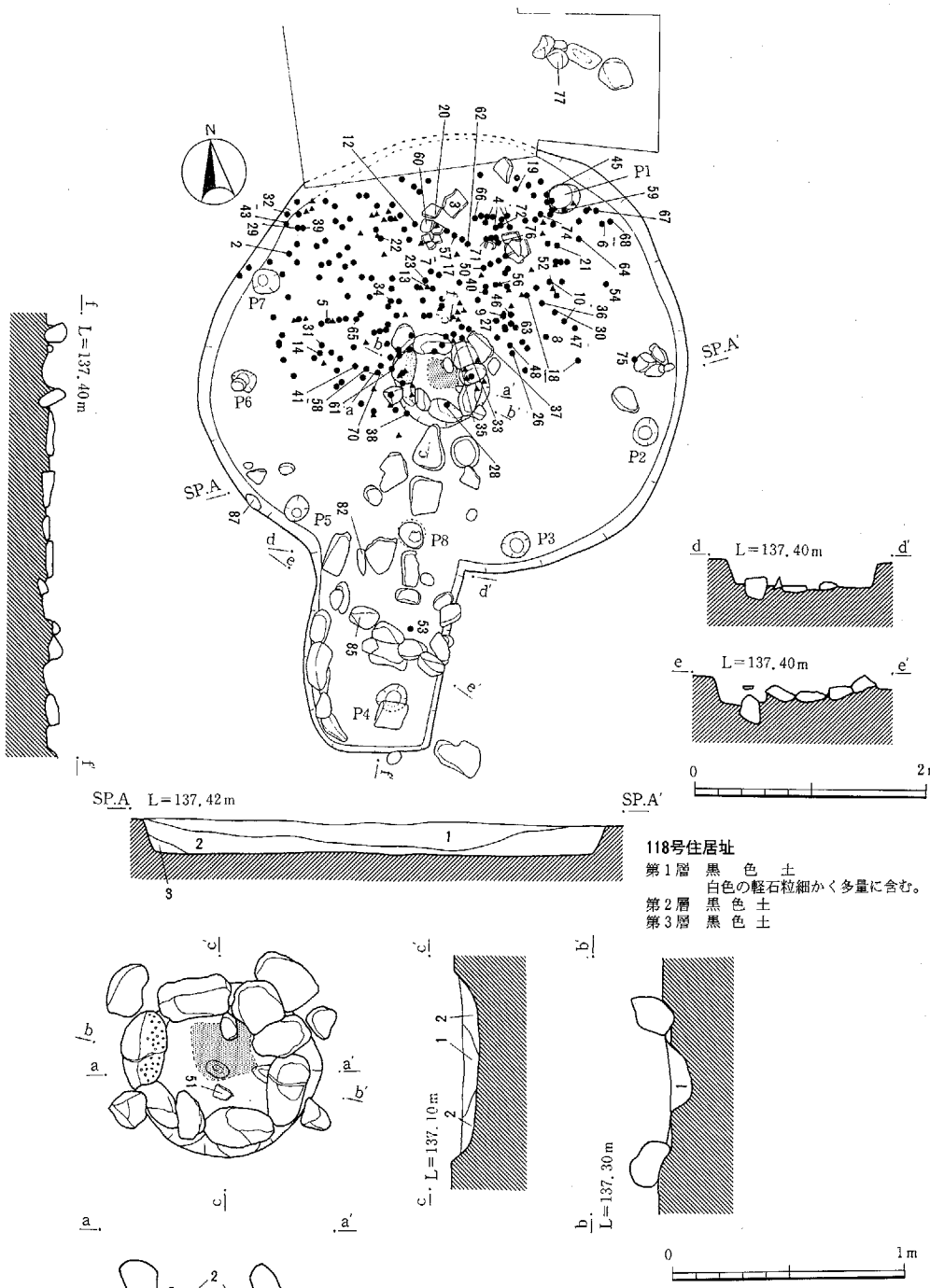
57～69は剥片石器である。覆土第1層中より出土した。石材は頁岩である。57は長さ4.6cm、幅5.5cm、厚さ0.8cm。58は長さ7.8cm、幅5.4cm、厚さ1.7cm。59は長さ4.2cm、幅5.2cm、厚さ1.2cm。60は長さ8.4cm、幅6.4cm、厚さ2.8cm。61は長さ4.2cm、幅5.4cm、厚さ1.2cm。62は長さ5.4cm、幅7.2cm、厚さ2.6cm。63は長さ5.4cm、幅4.8cm、厚さ1.2cm。64は長さ5.4cm、幅4.6cm、厚さ0.6cm。65は長さ3.9cm、幅3.8cm、厚さ0.8cm。66は長さ4.4cm、幅3.8cm、厚さ1.1cm。67は長さ5.1cm、幅4.0cm、厚さ1.2cm。

68～72は磨石である。石材は安山岩である。68は長さ16.1cm、幅9.8cm、厚さ4.6cm。69は長さ10.4cm、幅8.2cm、厚さ1.9cm。70は長さ8.2cm、幅7.0cm、厚さ4.4cm。71は長さ10.2cm、幅9.2cm、厚さ4.7cm。72は長さ10.2cm、幅8.6cm、厚さ5.4cm。

73～76、78は砂岩製の砥石である。共に床直上で出土した。火熱を受け部分的に赤色化し、硬質であるる。

77は石棒の破片と思われる。床直上で出土した。見方によっては岩偶に見えるが、基部の割口から柄のようなものがつくと考えられ形状から石棒であると推定される。全体にミガキを施す。残存の長さ12.4cm、幅7.9cm、厚さ1.4cm。石材は緑泥片岩である。

79は磨製石斧の破片である。器面は丁寧に研磨されているる石材は蛇紋岩である。残存長7.6cm、幅5.0cm、厚さ2.8cm。



第87図　118号住居址

118号住居址（第87図　図版12）

位置　Y－13グリッド／形態　柄鏡形／主軸方向　N－30°－E／規模　5.27ｍ×3.82ｍ×1.14ｍ（長×短×張り出し部）／壁高　23cm～25.7cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。全体に締まりがあり硬質である。炉を中心に張り出し部にかけて安山岩の平らな河原石が敷かれている。／柱穴　8本。うちＰ８は敷石の下に３分の１が隠れる。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
長径cm	30	25	24	25	22	21	24	26
短径cm	25	20	21	22	19	16	22	21
深さcm	26	32	35	27	29	32	27	35

炉　石囲炉である。規模は長軸46cm、短軸40cm。形態は方形を呈する。掘り方は長軸81cm、短軸75cm、深さ９cm。平面はほぼ円形、断面は鍋底形を呈する。底面は一部分はよく焼けて、硬質化されている。

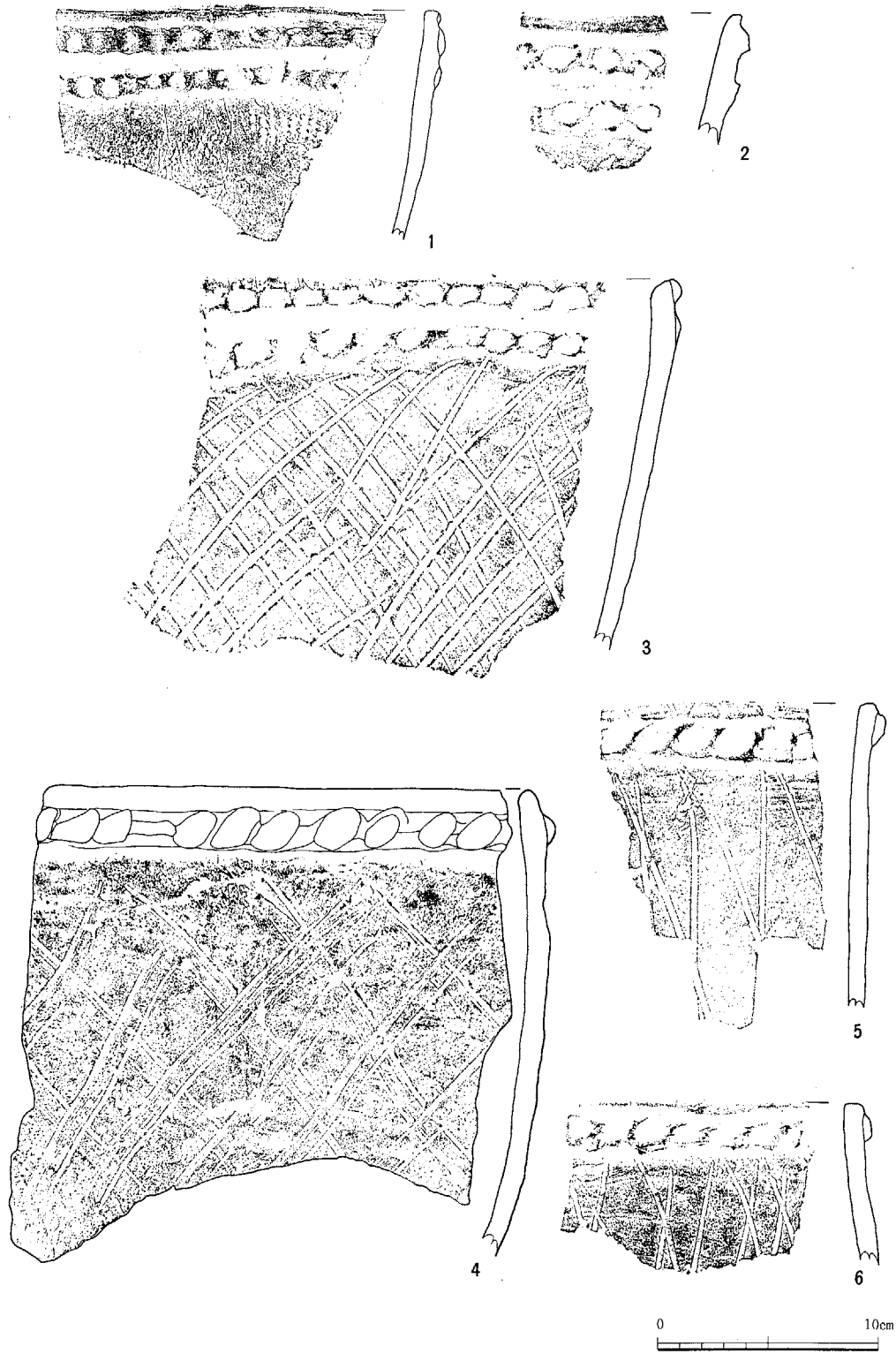
遺物の出土状況

北寄りに集中して出土した。覆土中の出土である。張り出し部では敷石上より深鉢形土器の口縁部の破片が出土した。

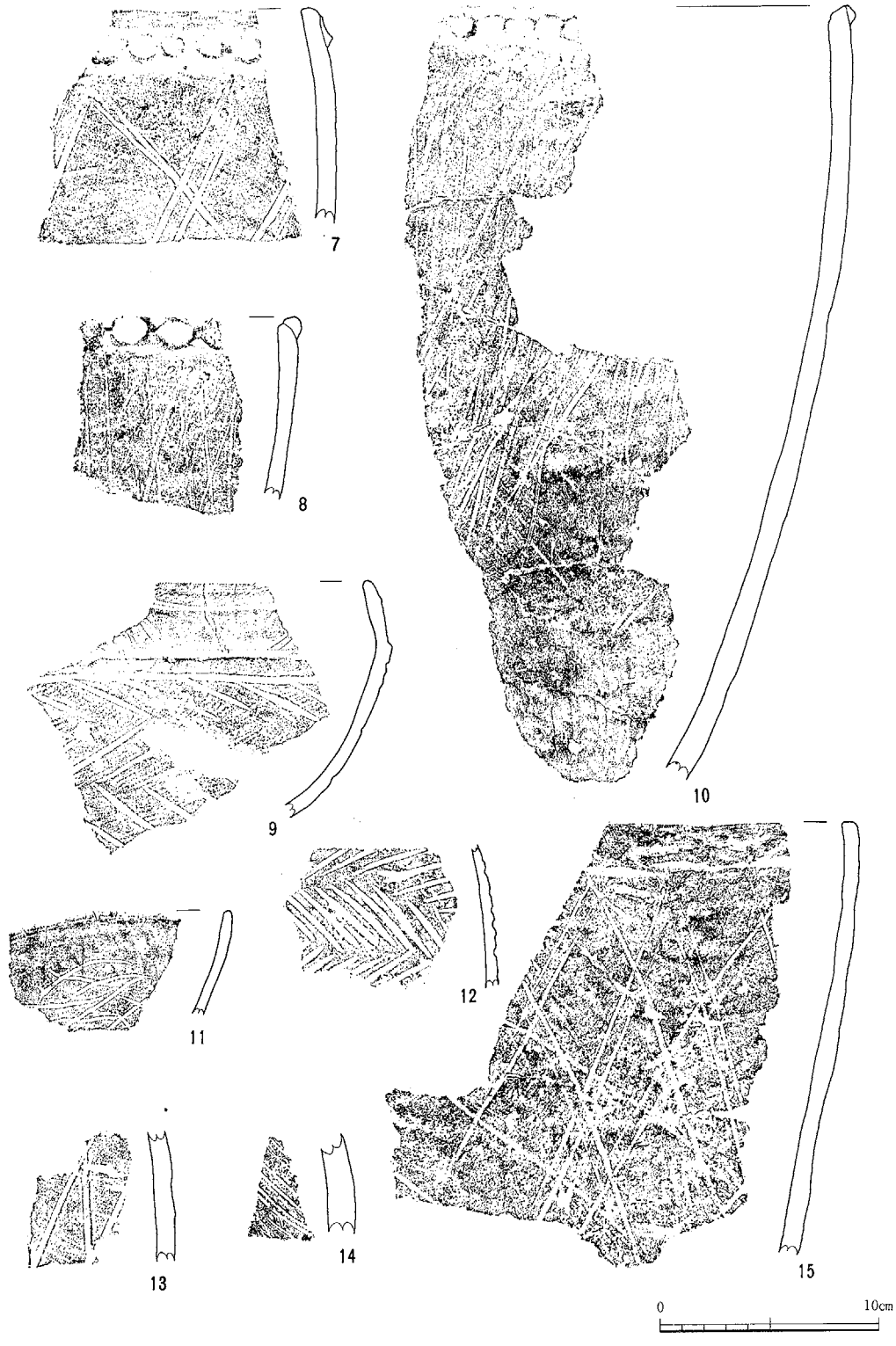
検出された遺物（第87～97図、図版26）

覆土中と床直上、炉址内より出土したものを掲載した。１～10は深鉢形土器口縁部の破片である。口縁部に指頭圧痕を施した紐線を巡らす。また、１は炉址の組み石の上より出土した。２は覆土第２層中より出土した。１、２共に指頭圧痕を施した２条の紐線を巡らす。また、胴部に単節LRの磨り消し縄文を施文する。３は覆土第１層中より出土した。口縁部は指頭圧痕を施した２条の紐線が巡る。胴部に綾杉状の沈線を施す。４～10は指頭圧痕を施した１条の紐線が巡る。４は覆土第１層中より出土した。胴部には半裁竹管による格子目状の沈線を施す。５～10は綾杉状の沈線を施す。共に覆土第１層中より出土した。９は浅鉢形土器の口縁部の破片である。11は綾杉状の沈線を施す。覆土第１層中より出土した。12は覆土第１層中より出土した。斜行沈線を交互に施す。13は深鉢形土器である。綾杉状の沈線を施す。覆土第１層中より出土。14は斜位の条線を施す。15は格子目状の沈線を施す。16～24は覆土第１層中より出土した。深鉢形土器である。平行沈線と弧状沈線で区画し、17は深鉢形土器の口縁部の破片である。

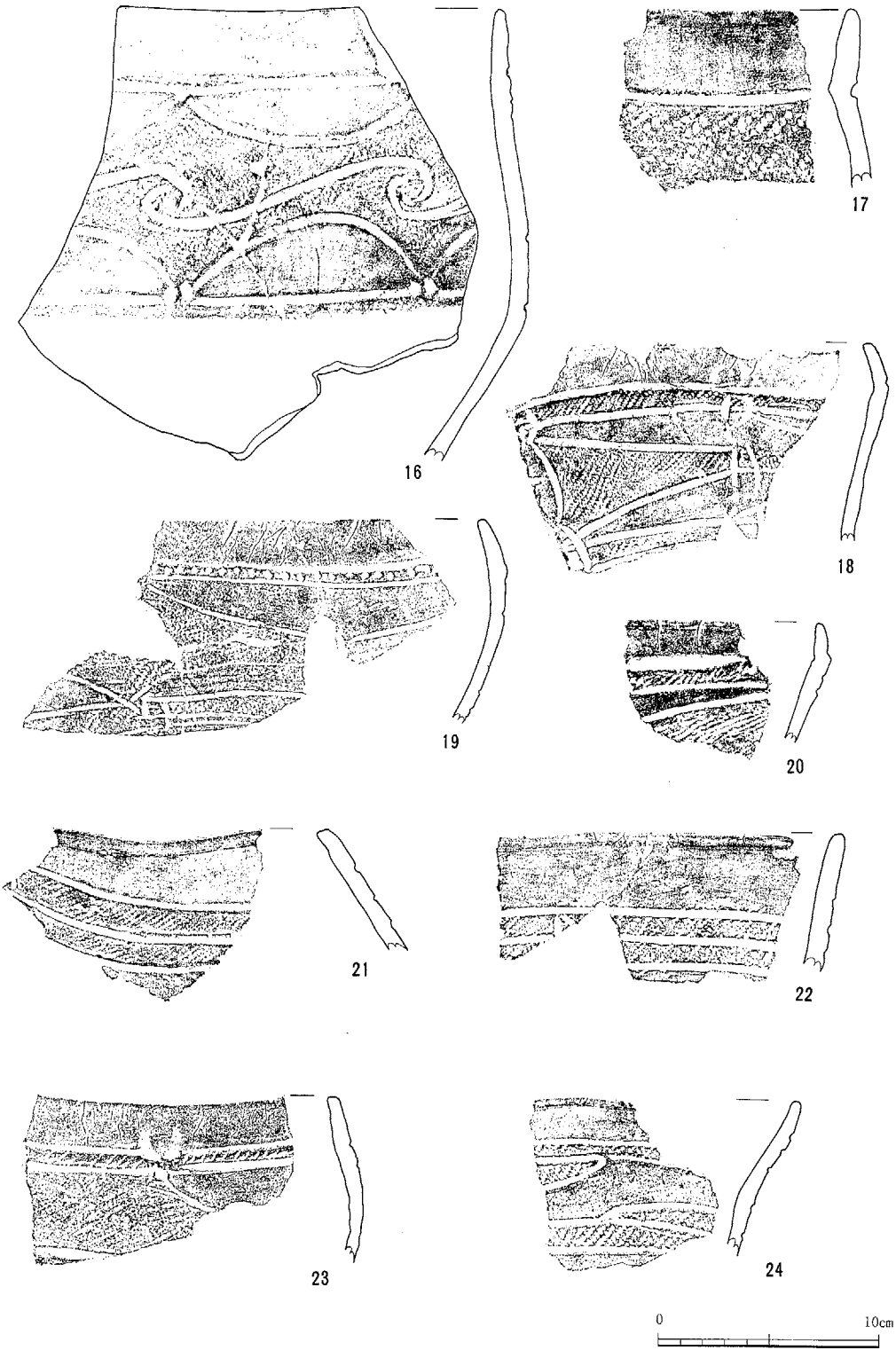
18は深鉢形土器である。平行沈線と弧状沈線で単節LRの磨り消し縄文を区画する。さらに縦位の沈線で文様を構成する。22は沈線で区画された中にLR縄文を施文する。32は斜位の沈線交互に施する。33は波状口縁の波頂部の破片である。平行沈線文の中に34は平行沈線文の中に刻目を巡らす。35は口縁部は平行沈線は36～49は平行沈線間に刻目や単節LRの磨消縄文を充填する。37は口唇部にキザミを施する。以下沈線間に刻目を充填する。38は沈線による区画文の中に単節LRの磨消縄文を充填する。40、44は口唇部に単節LR縄文を施する。49は平行沈線文と弧状沈線文の中に単節LRの磨消縄文充填し縦位の沈線で区画する。



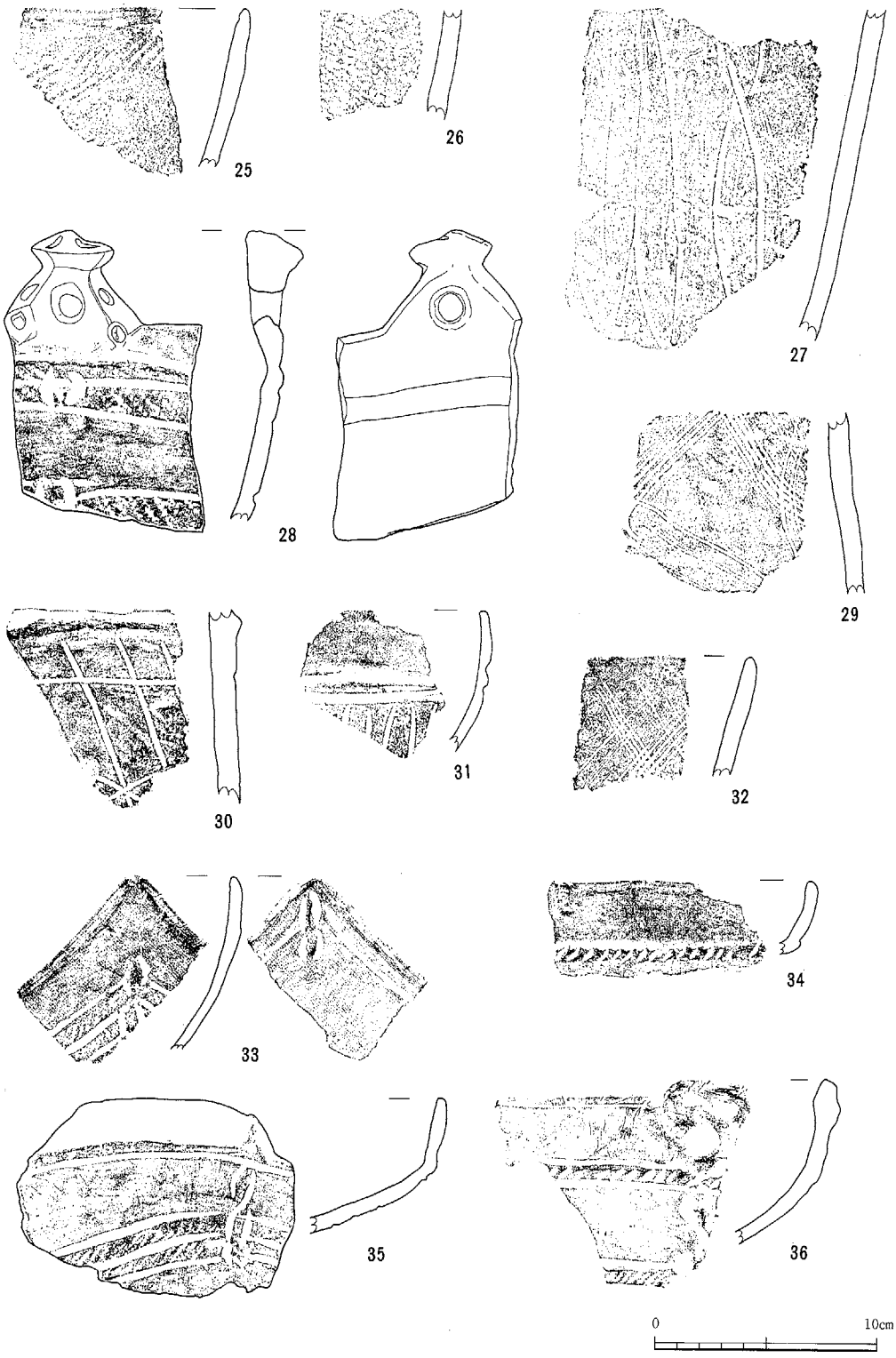
第88図　118号住居址出土遺物（1）



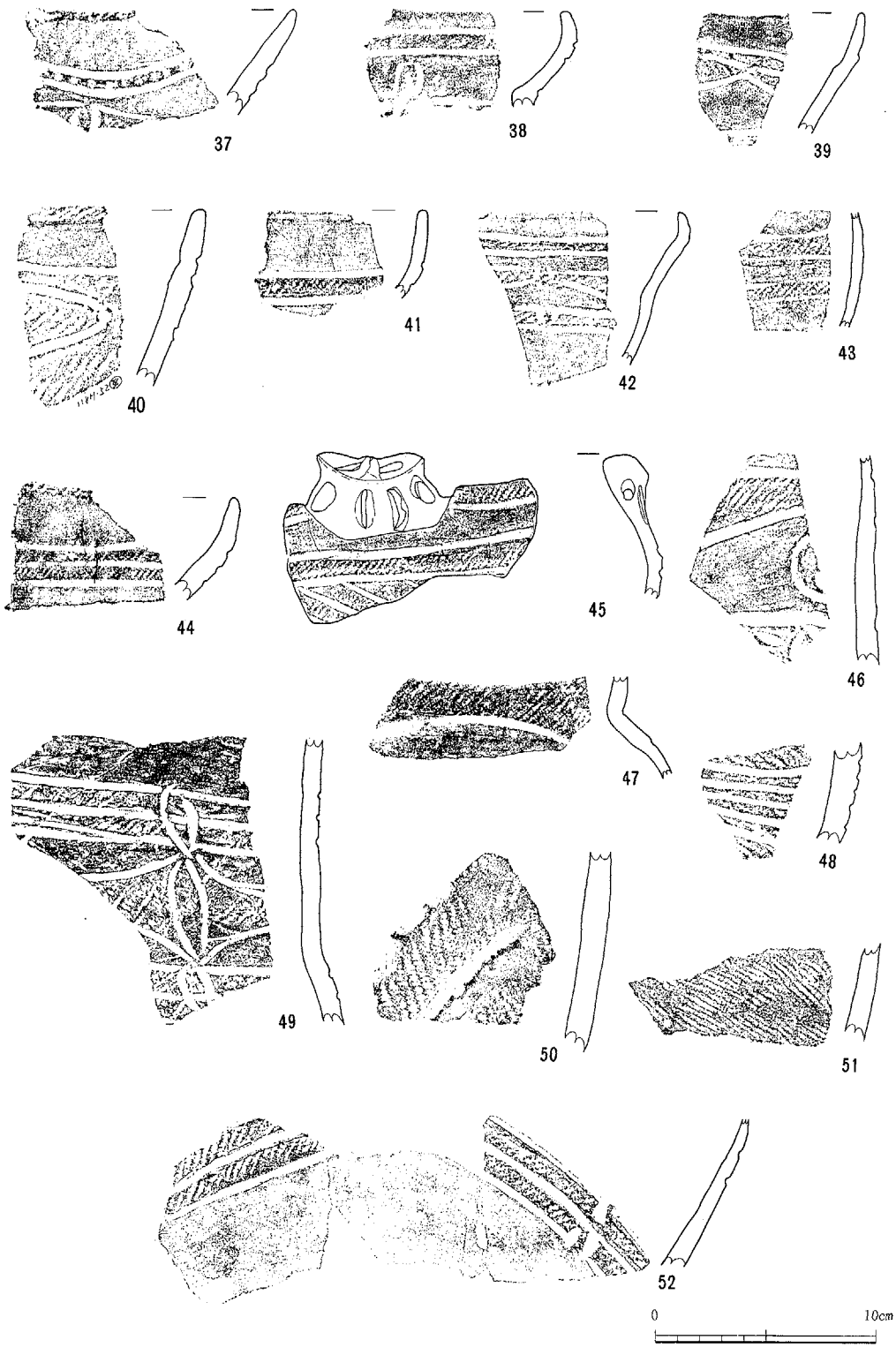
第89図　118号住居址出土遺物（２）



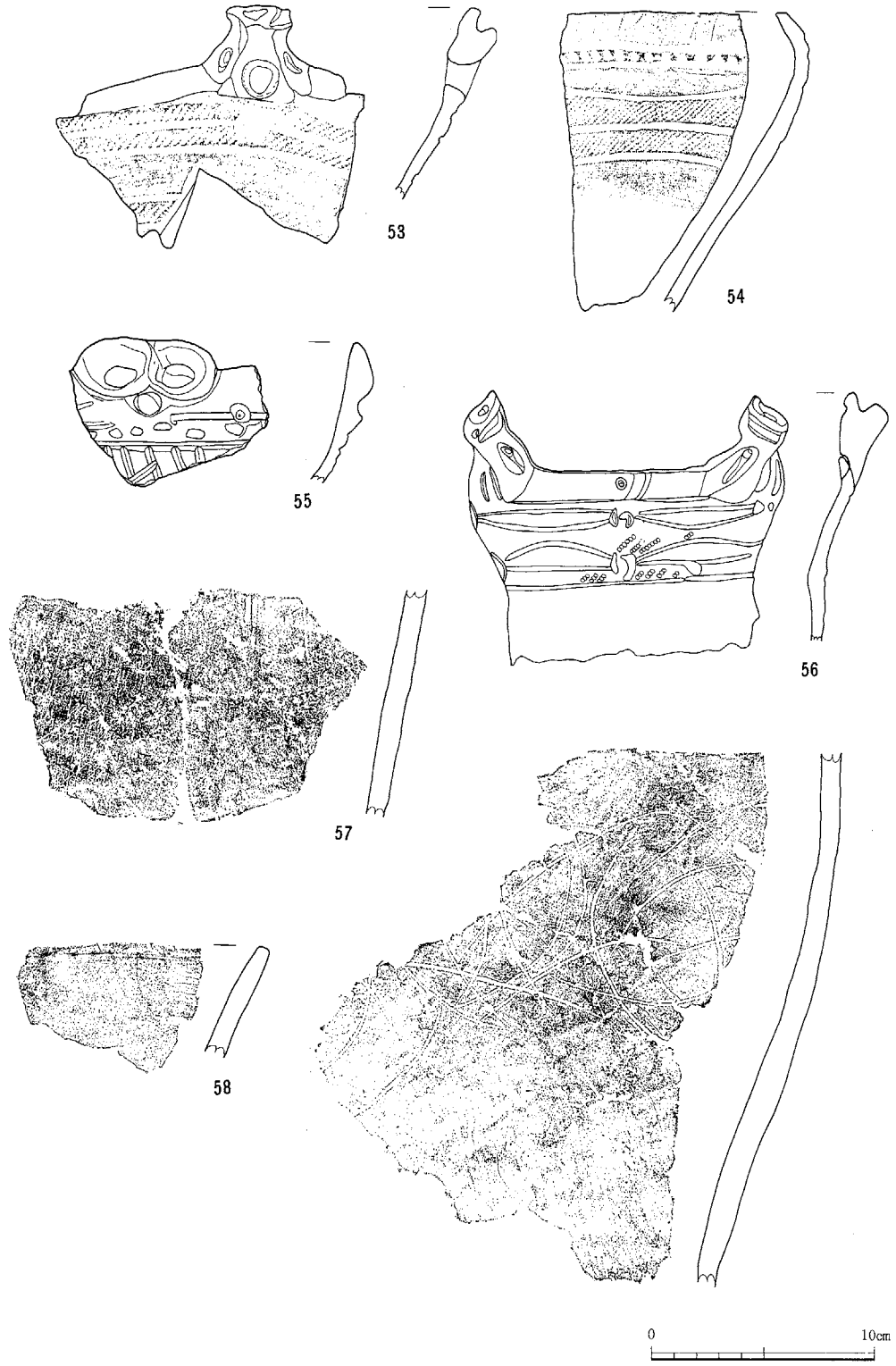
第90図　118号住居址出土遺物（3）



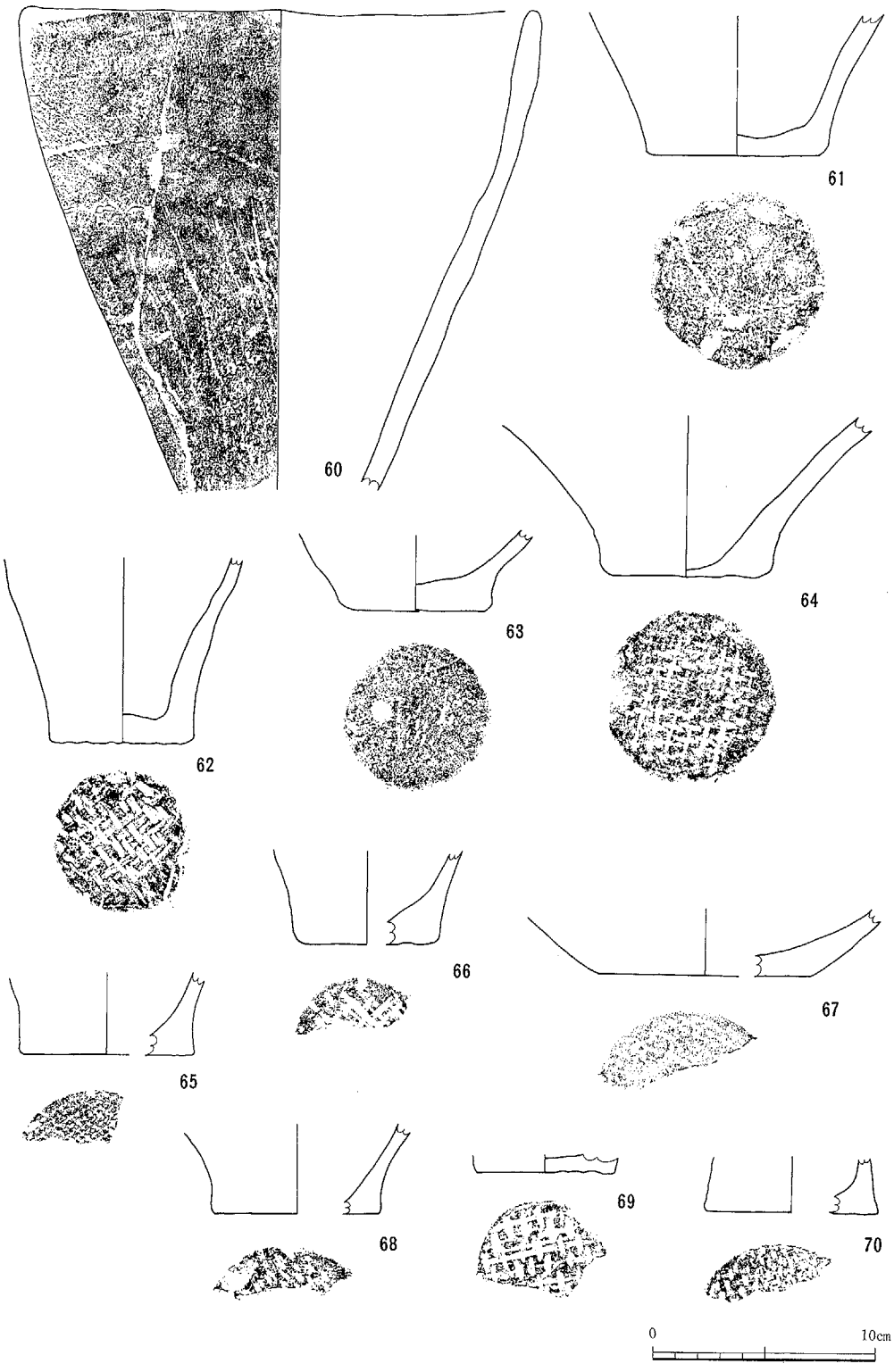
第91図　118号住居址出土遺物（4）



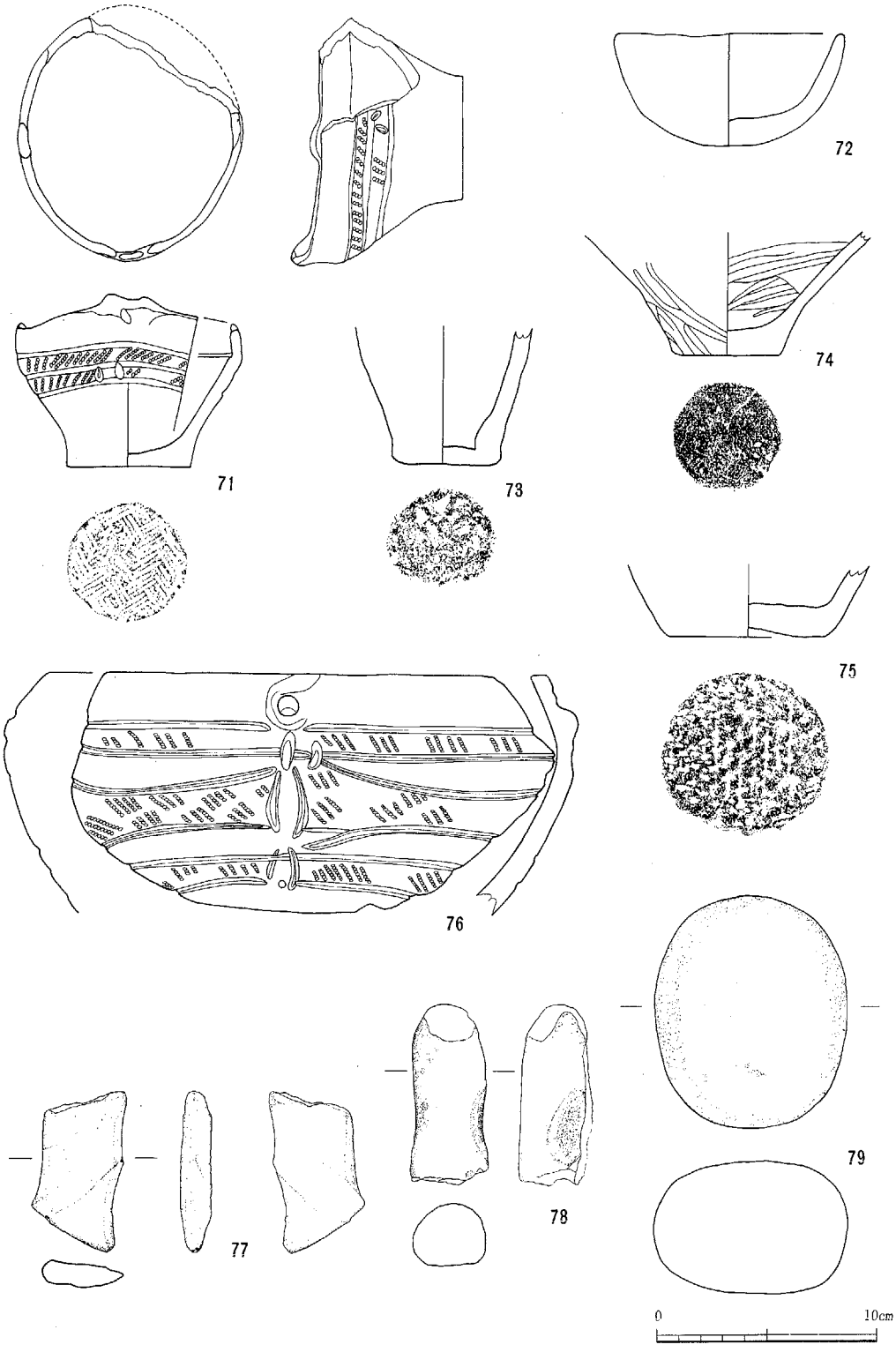
第92図　118号住居址出土遺物（５）



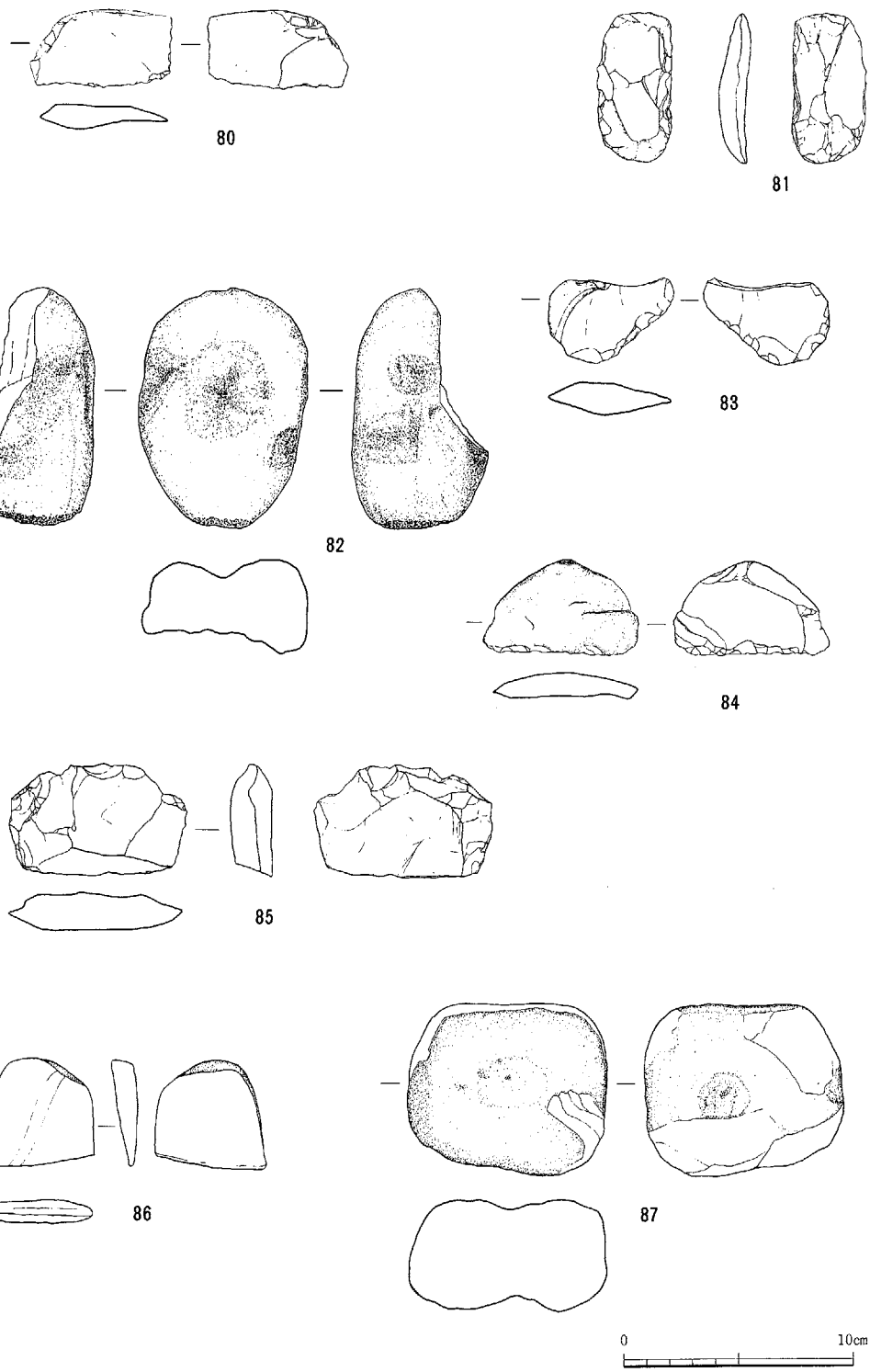
第93図　118号住居址出土遺物（6）



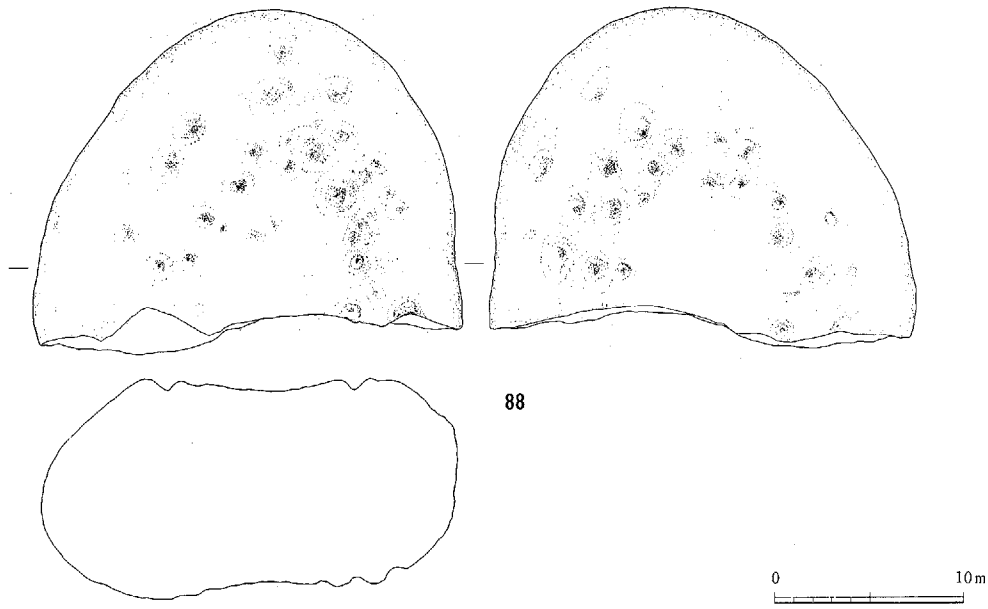
第94図　118号住居址出土遺物（7）



第95図　118号住居址出土遺物（8）



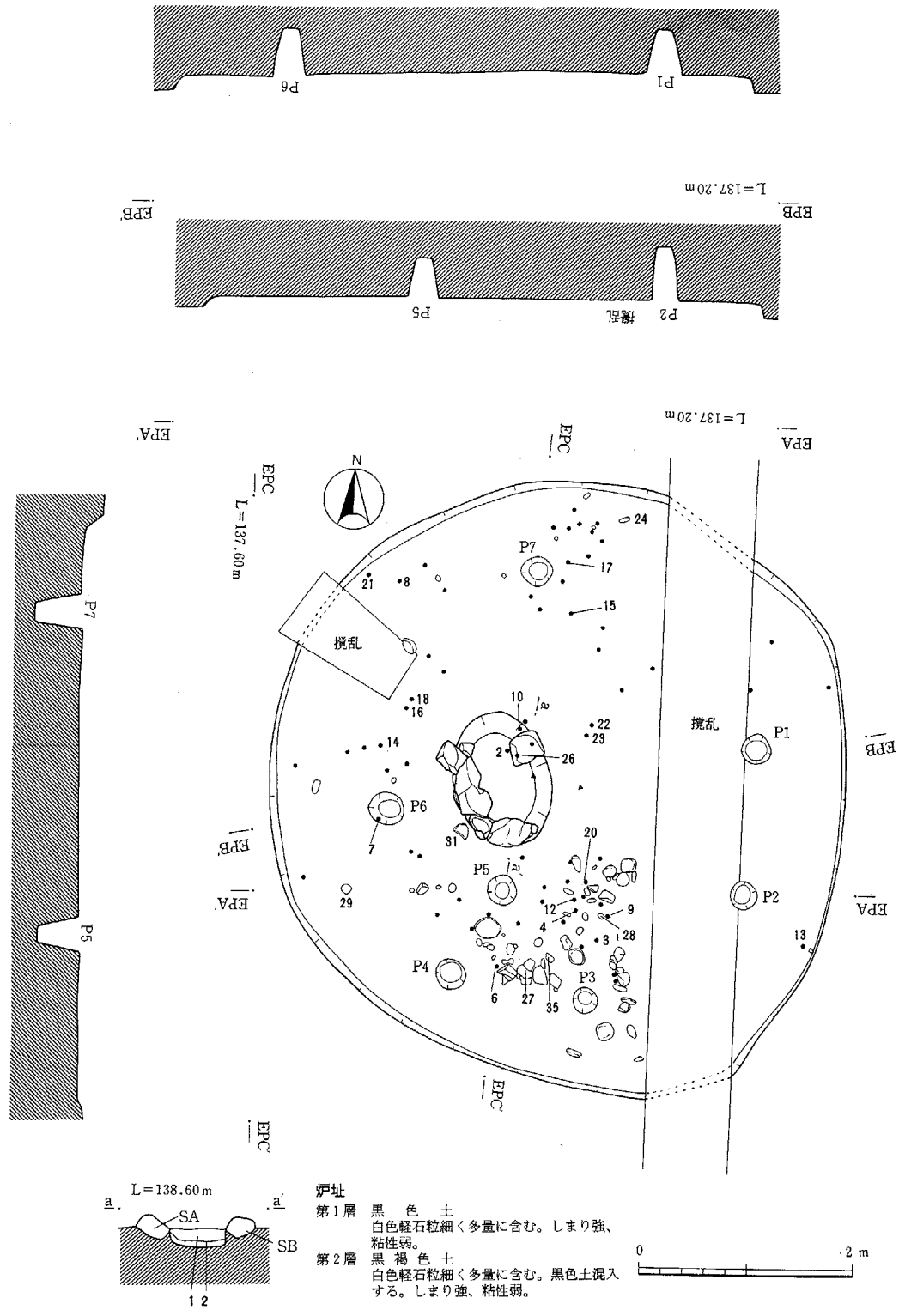
第96図　118号住居址出土遺物（９）



第97図　118号住居址出土遺物（10）

50は口縁部に単節LRの磨消縄文を施し、横位の沈線で区画する。51は単節RLの磨消縄文を施す。52は平行沈線間に単節LRの磨消縄文を充填し、縦位の沈線を施す。53、55、56は把手を有する深鉢形土器の破片である。53は覆土第２層中の床面より５cm高い位置で出土した。沈線間に単節LR縄文を施文する。55は56は３単位の把手を有すると考えられる深鉢形土器である。57は58は無文の粗製土器である。59は60は深鉢形土器で無文の粗製土器である。61～70は深鉢形土器底部の破片である。底に網代痕がある。71は小形浅鉢形土器である。底に網代痕がある。72は浅鉢形土器である。無文の粗製土器である。73、75は深鉢形土器底部の破片である。共に底部に網代痕がある。74は浅鉢形土器の底部の破片である。器面には丁寧なミガキが施されている。底部には網代痕がある。76は浅鉢形土器の口縁部の破片である。口縁部には円孔があき、体部には平行沈線と弧状沈線による区画を施す。沈線間には単節RLの磨消縄文を充填する。

77は砂岩製の砥石である。覆土第１層中より出土した。長さ7.2cm、幅3.7cm、厚さ1.0cm。78.79は磨り石である。80、81、83～86は剥片石器、81は側面を刃部として使用されている。長さ6.5cm、幅3.3cm、厚さ1.2cm、重さ29ｇ。石材は頁岩である。83は長さ3.4cm、幅5.3cm、厚さ10.4cm、重さ29ｇ。石材は頁岩である。84は長さ4.9cm、幅7.7cm、厚さ1.8cm、重さ30ｇ。石材は頁岩である。85は長さ4.8cm、幅7.6cm、厚さ1.6cm、重さ80ｇ。石材は頁岩である。86は長さ4.6cm、幅4.8cm、81は、82、87は凹石である。82は長さ10.5cm、幅7.3cm、厚さ5.6cm、重さ385ｇ。87は両面に１孔ずつあく。長さ7.4cm、幅8.6cm、厚さ4.8cm、重さ435ｇともに石材は安山岩である。88は多孔石である。炉址の組み石として使用されていたものである。保存地区に入るため掘り方調査の後、組み石は元に復元し約２分の１で割れていた一部分を取り上げて掲載した。



第98図　119号住居址

現存の長さ18.2cm、幅22.1cm、厚さ10.4cm、重さ5000ｇ。石材は安山岩である。

119号住居址（第98図　図版13）

位置　Ｙ－23グリッド／形態　楕円形／規模　5.43ｍ×5.28ｍ（東西×南北）／壁高　12cm～13.3cm。近・現代の耕作により削平を受けている。／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。北西の一部と南北を幅80cmの撹乱に切られている。硬質部分の検出はなかった。／柱穴　７本。Ｐ１・径27cm、深さ41cm。Ｐ２・径24cm、深さ43cm。Ｐ４・径27cm。Ｐ５・径26cm、深さ37cm。Ｐ６・径32cm、深さ45cm。Ｐ７・径29cm、深さ44cm。／炉　石囲炉である。全体の約３分の１が組み石が外れている。組み石は火熱を受けたよく焼けている。しかし、覆土中のおよび火床面には焼けた痕跡は認められなかった。掘り方の規模は長軸125cm、短軸91cm。深さ17cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。近・現代の耕作により削平を受け黒褐色土の単層で検出された。

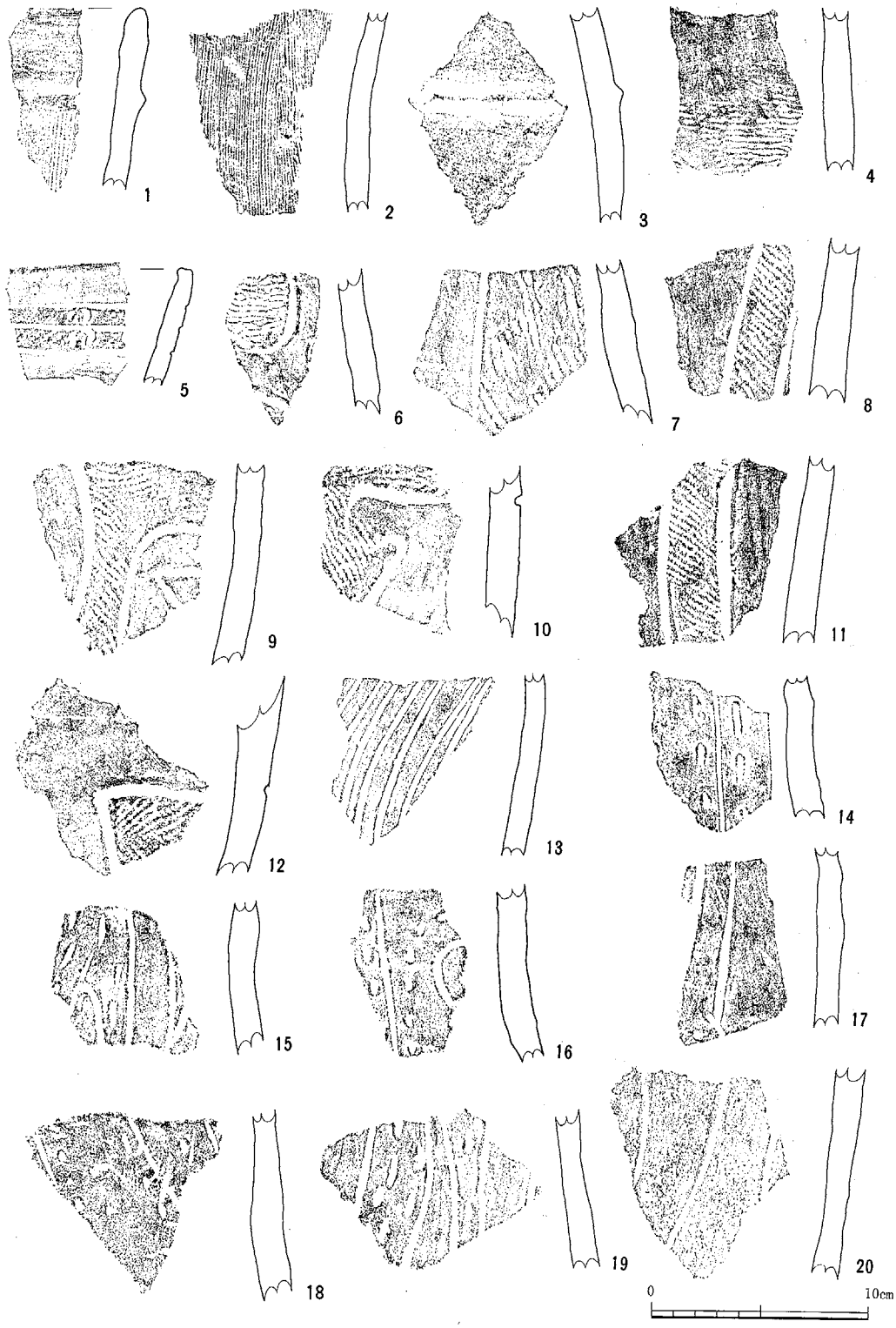
遺物の出土状況

全体に土器片が散在して出土している。また、石器の出土が若干みられる。その他、自然礫が南寄りに集中して出土した。その中の火熱を受けた礫は炉の組み石が外れて散乱したものと考えられる。実測遺物点数29点。

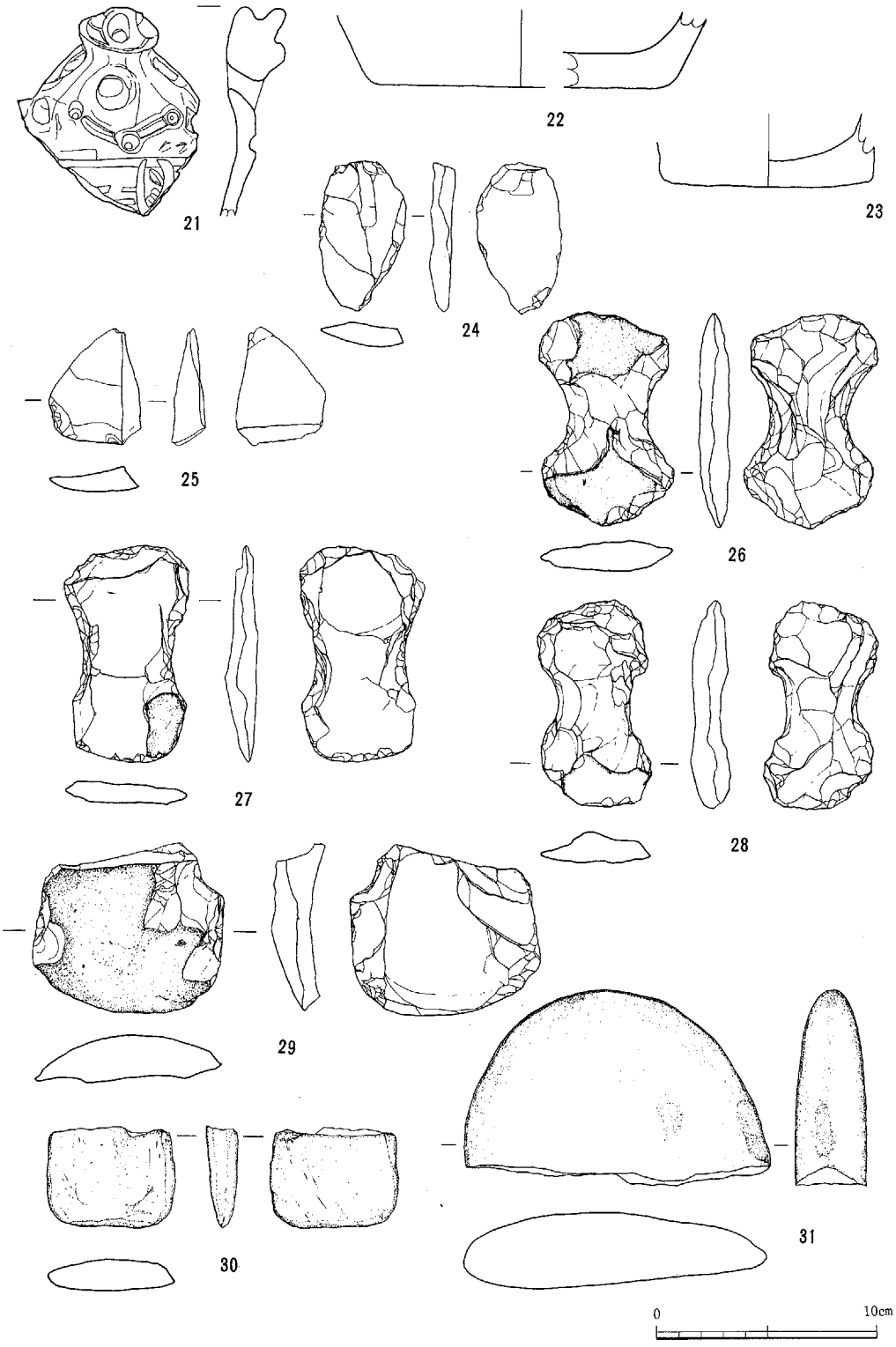
検出された遺物（第98～100図　図版39）

覆土中および床直上出土遺物の中で代表的なものを掲載した。１～３は深鉢土器の破片である。口縁部に隆帯を巡らせ胴部に直線的な条線を施す。接合はできないが胎土、焼成が似ており同一固体と考えられる。覆土中の出土である。加曽利ＥⅣ式である。４は５は覆土第１層上面より出土した。平行沈線間に単節LR縄文を施文する。加曽利Ｂ式である。

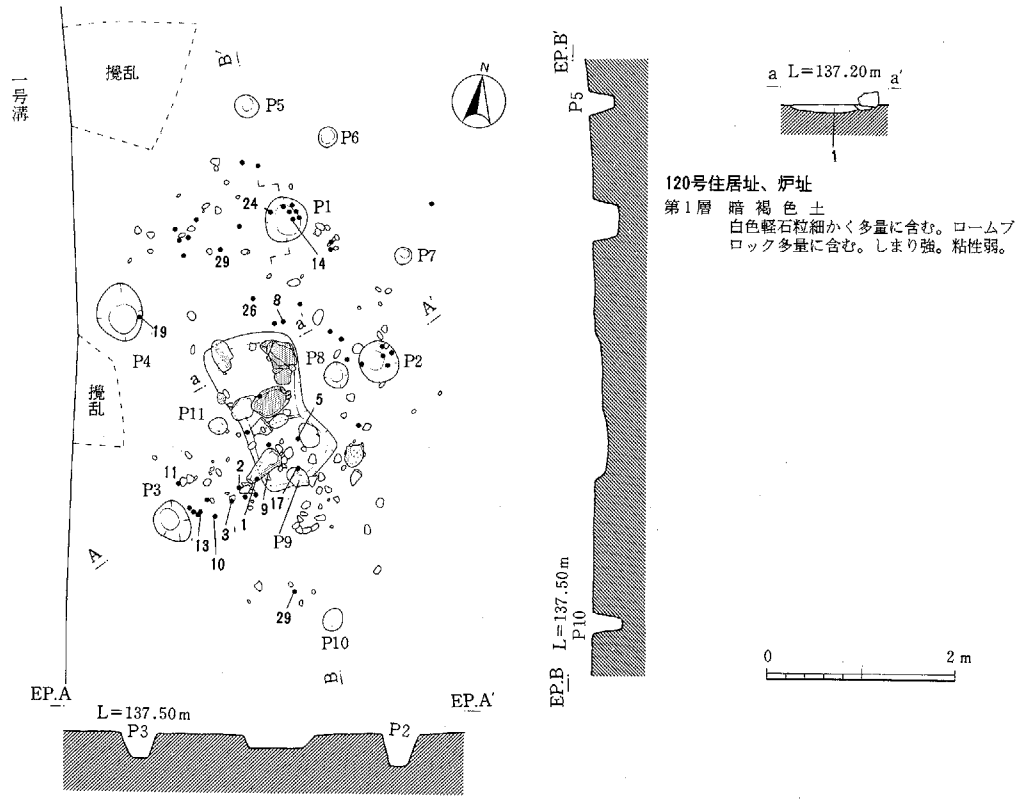
８～11は深鉢形土器の胴部の破片である。沈線で区画された内側に単節RL縄文を施文する。称名寺１式である。床着である。14～19は沈線間に列点を施す。称名寺２式である。覆土中より出土。沈線間にLR縄文を施す。口唇部には深鉢形土器底部の破片である。20は21は把手を有する深鉢形土器の破片である。22、23は深鉢形土器底部の破片である。24、25は剥片石器である。26～28は分銅形の打製石斧である。石材は26、27が頁岩、28が黒色頁岩である。26は長さ8.8cm、幅5.7cm、厚さ1.5cm、重さ95ｇ。27は長さ9.8cm、幅5.9cm、厚さ1.3cm、重さ78ｇ。28は長さ9.4cm、幅4.9cm、重さ92ｇ。29は剥片石器である。側面を刃部として使用されている。石材は頁岩である。長さ6.3cm、幅7.3cm、厚さ1.0cm、重さ171ｇ。30は砂岩製の砥石の破片である。残存長3.5cm、幅4.9cm、厚さ0.6cm、重さ40ｇ。31は丸石の破片である。石材は安山岩である。残存長7.4cm、幅13.7cm、厚さ2.4cm、重さ485ｇ。



第99図　119号住居址出土遺物（1）



第100図　119号住居址出土遺物（２）



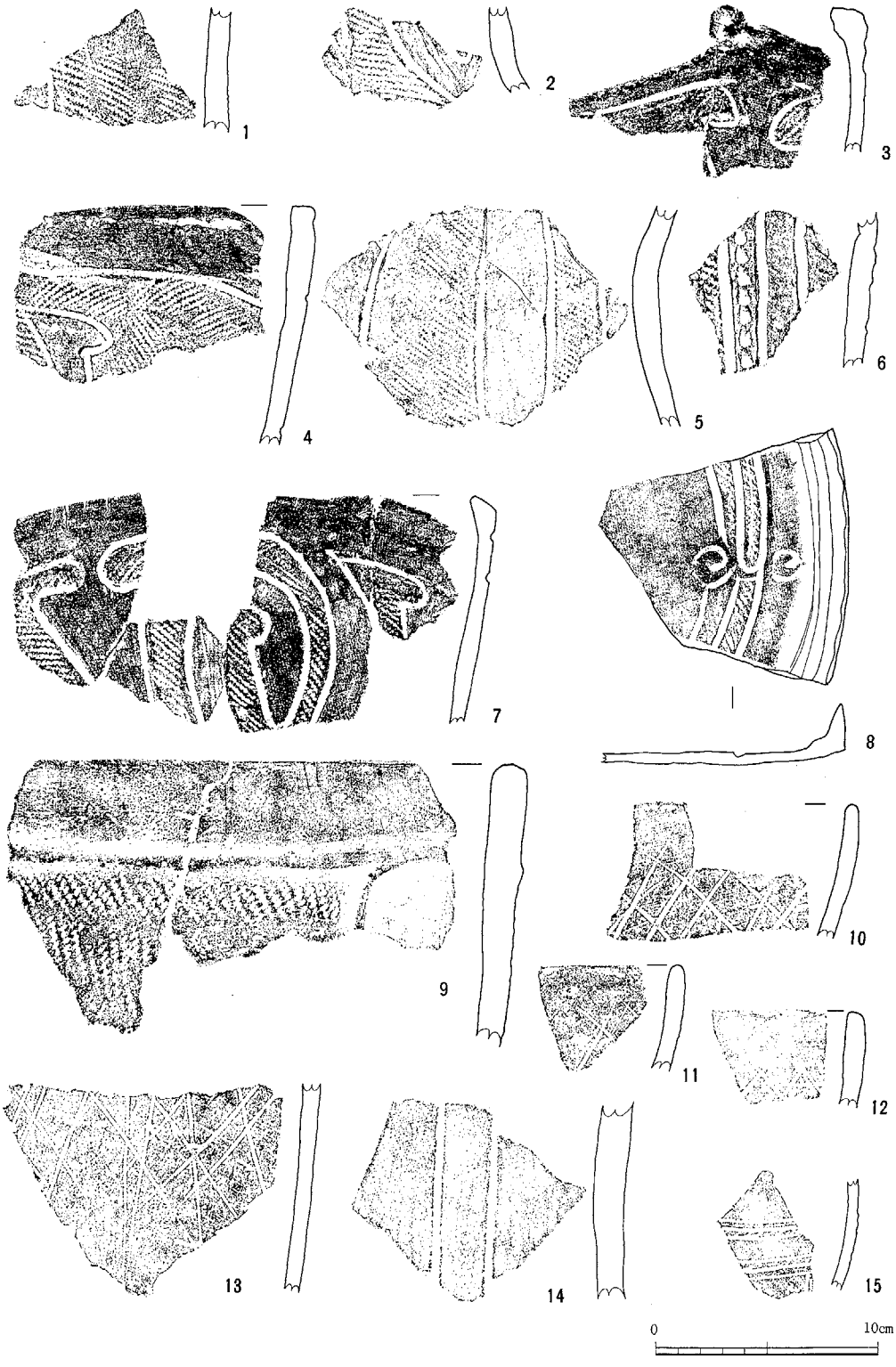
第101図　120号住居址

120号住居址（第101図　図版13）

位置　a－25グリッド／形態　不明（柱穴の位置から楕円形の可能性が考えられる。）／規模　竪穴を呈すると考えられる壁が遺存されていないのと1号溝に切られている可能性が考えられる。従って検出された柱穴検出範囲内の規模を出した。5.43m×5.28m（東西×南北）を計る。／壁高　なし。／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層面より検出された。耕作土下確認面より掘り込みが認められないのと、地山との区別がつかず範囲は不明である。西側は1号溝に切られる。／柱穴11本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
長径cm	44	42	44	61	26	20	18	27	28	24	20
短径cm	－	－	－	37	－	－	－	－	17	20	17
深さcm	25	35	27	49	28	28	25	27	33	22	30

炉　石囲炉である。遺存状態が悪く組石が外れている。掘り方から観察して複式炉の可能性が考えられる。掘り方の規模は長軸168cm、北側の短軸66cm、深さ9cm。南側の短軸72cm、深さ9cm。



第102図　120号住居址出土遺物（１）

覆土の状況

掘り込みが認められない為、覆土の観察は出来なかった。柱穴の覆土は黒褐色土を基調としていた。

遺物の出土状況

Ｐ１、Ｐ２、Ｐ４内より土器片と石器が出土した。実測遺物点数32点。

検出された遺物（第103、104図　図版40）

覆土中、床直上、炉址内出土のものを掲載した。

１、２、４～７は深鉢形土器である。沈線間にRL縄文を施文する。５は炉址内他は、床直上より出土した。

７、８は皿形土器の破片である。内側に沈線間に磨り消し縄文を施文する。

９は深鉢形土器の破片である。口縁部は無文で隆線が巡る。隆線以下は上位は縦位の単節RL縄文を施し、下位は横位の単節RL縄文を施文する。

10～12は深鉢形土器口縁部、13は胴部の破片である。格子目状の沈線を施す。

14は深鉢形土器胴部の破片である。縦位の平行沈線を施す。

15は深鉢形土器胴部の破片である。平行沈線間にキザミを施す。

16は深鉢形土器胴部の破片である。横位の沈線を縦位の沈線で区切り、単節LRの磨消し縄文を充塡する。

17～21は深鉢形土器の破片である。渦巻き状の沈線と単節LR縄文を施文する。18、19は沈線文を施す。20、21は櫛歯状工具による沈線を施す。

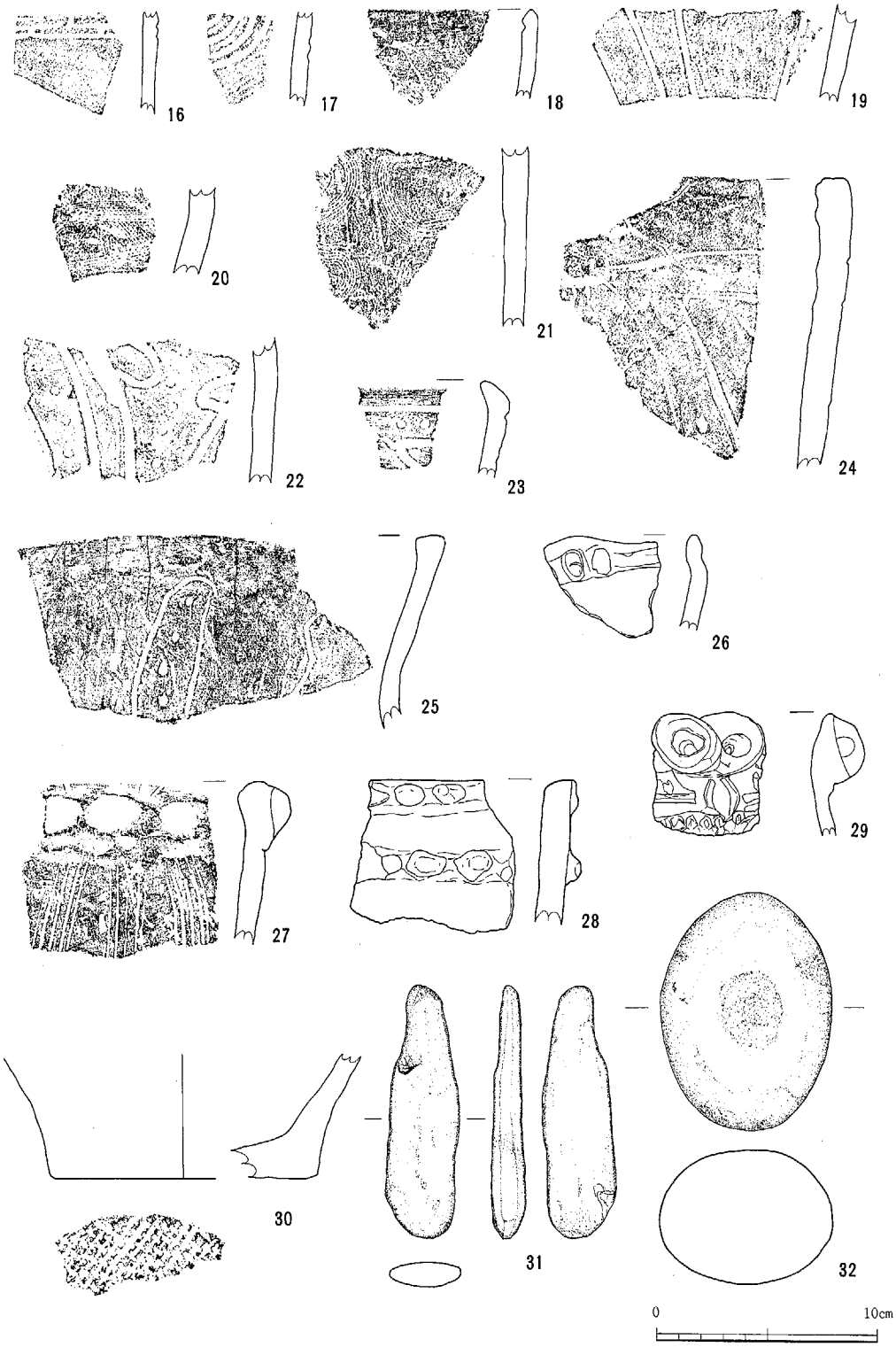
22～25は深鉢形土器の破片で沈線間に列点を施す。27は深鉢形土器口縁部の破片である。指頭圧痕を施した紐線を巡らす。胴部に縦位の櫛描きの条線を施す。28は指圧痕を施した２条の紐線を巡らす。

29は深鉢形土器の把手の破片である。

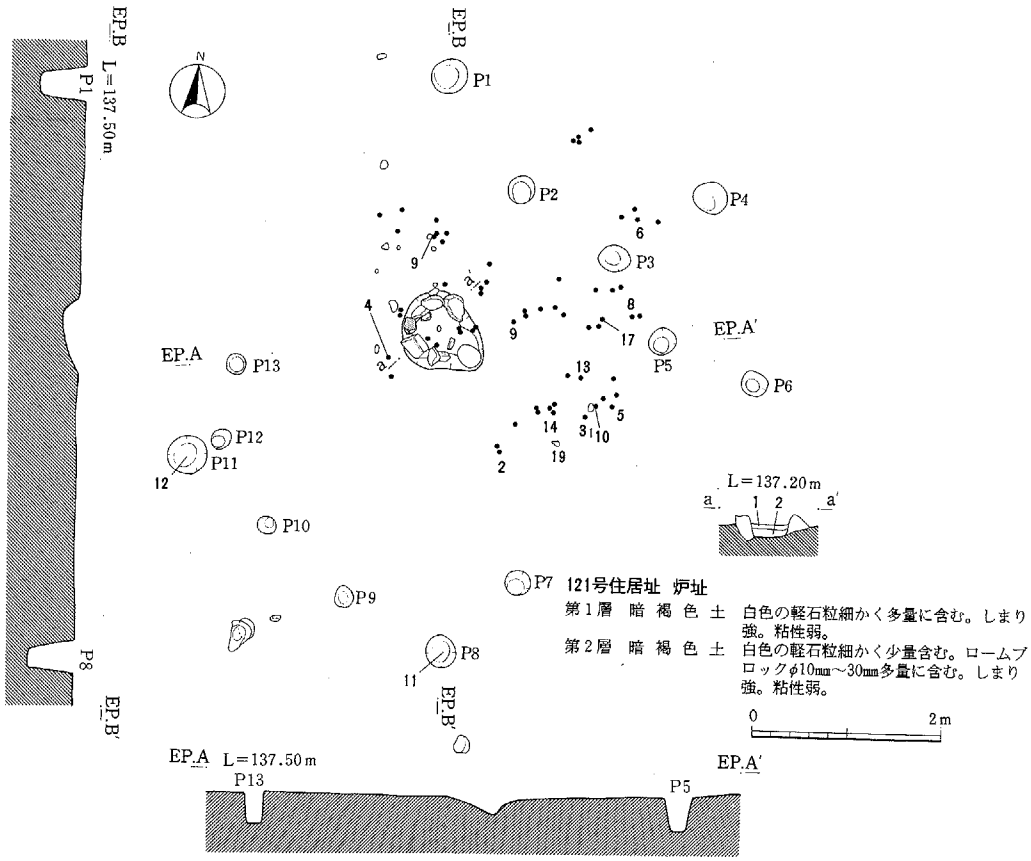
30は深鉢形土器の底部の破片である。復元底径11.7cm、底に網代痕がある。

31は磨石である。側面に使用痕がある。残存の長さ8.8cm、幅13.6cm、重さ71ｇ。

32は丸石である。表面のほぼ中央部に敲打痕が認められる。長さ11.4cm、厚さ1.1cm、重さ647ｇ。石材は安山岩である。



第103図　120号住居址出土遺物（２）



第104図　121号住居址

121号住居址（第104図　図版13）

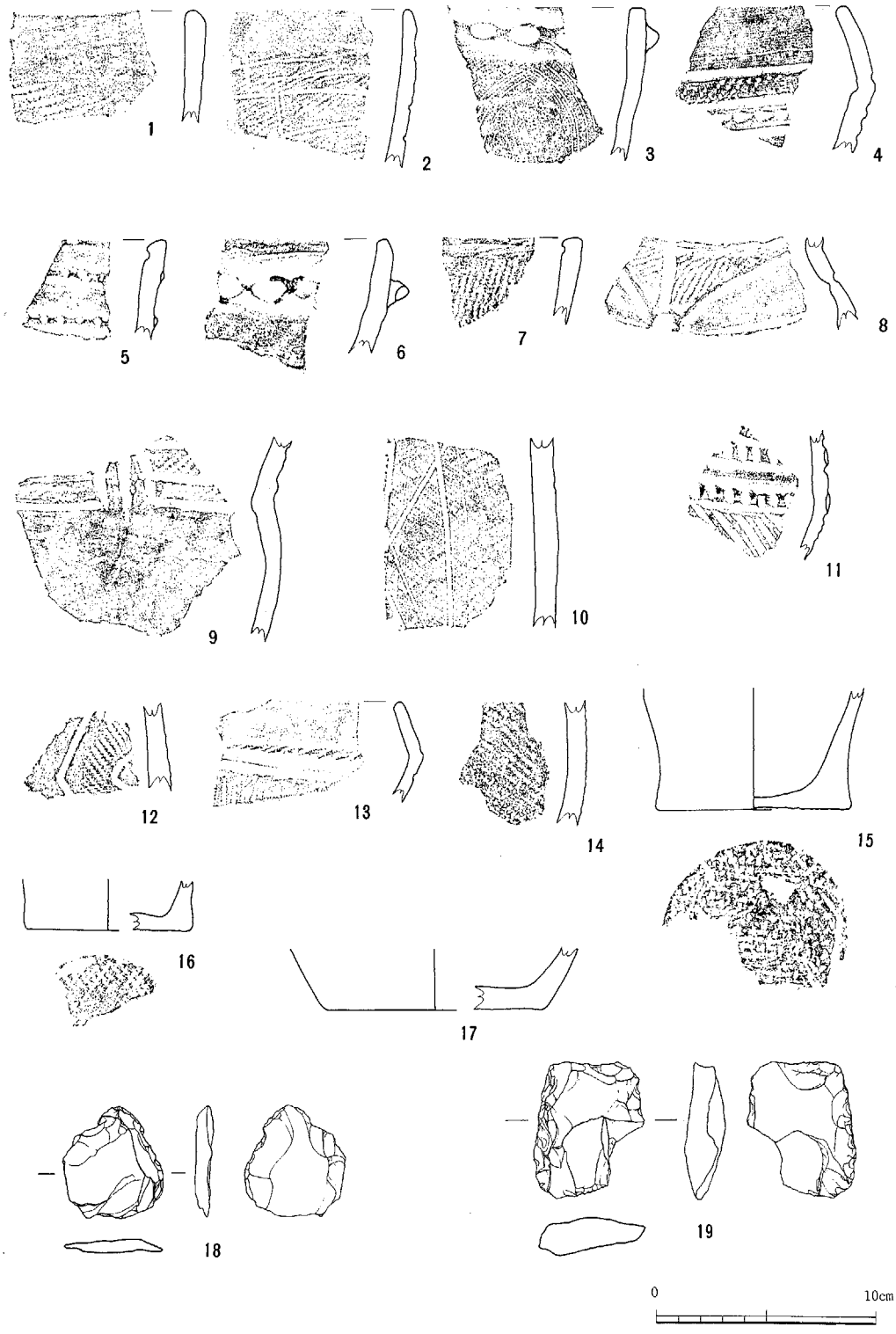
位置　a・b－25グリッド／形態　柱穴の配列から方形である可能性が考えられる。／主軸方向　N－42°－E／規模　4.24m×3.98m（柱穴の検出された範囲内）／壁高　43cm～58.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層面より検出された。地山との区別がつかず範囲は不明である。柱穴　13本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
長径cm	38	28	34	35	30	29	27	32	22	21	42	23	21
短径cm	－	－	－	－	－	－	－	－	20	17	－	19	－
深さcm	47	33	37	42	35	43	40	47	38	35	29	22	32

炉　石囲炉である。組み石は火熱を受け赤色化している。部分的に多孔石を使用されている。掘り方は長軸96cm、短軸76cm、深さ16cmを計る。ほぼ円形を呈する。よく焼けて硬質化している。

覆土の状況

120号住居址同様掘り込みが検出されなかったため覆土の観察は出来なかった。柱穴の覆土は黒褐色土を基調としている。



第105図　121号住居址出土遺物

遺物の出土状況

炉址の周囲に集中して土器片が出土した。

検出された遺物（第104～105）

1～17は深鉢形土器の破片である。1～7は口縁部の破片、9～11は胴部の破片、12はP11内より、他はすべて床直上より出土したものである。

1は単節LRの磨消し縄文を施文される。2は口縁部に指頭圧痕を施した紐線を巡らせる。胴部には櫛歯状の工具による沈線を施される。3は横位の単節ＬＲ縄文を施文し横と縦の沈線を施される。

4は平行沈線で区画された中に単節LRの磨消し縄文とキザミを施される。4は平行沈線間に単節LR縄文とキザミを施される。5は口縁部に刺突を施した2本の細い紐線を巡らせる。

6は指頭圧痕を施した紐線を巡らす。7は単節のLRの細縄文を施す。

8は肩部がくの字状に屈曲するソロバン形の深鉢形土器の破片である。弧状沈線と縦位の沈線の接点に刺突文を施す。

9は平行沈線を施し、縦位の条線で区切り、中には単節LR縄文を充塡する。

10は櫛歯状の工具による条線を施される。11は平行沈線間にキザミを施し、以下は斜位の沈線を施されている。

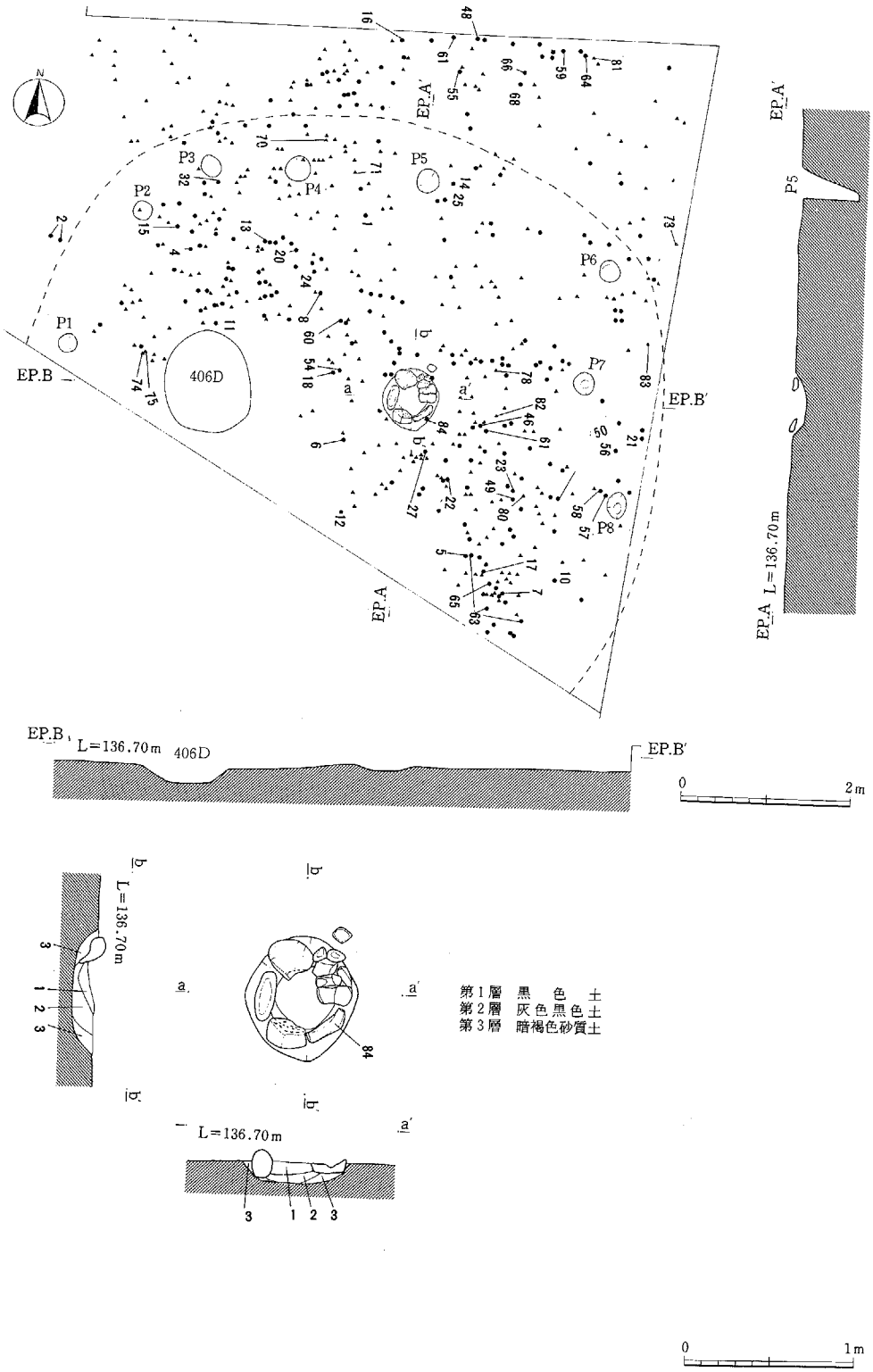
12は深鉢形土器の胴部の破片である。沈線間に単節したLR縄文を充塡する。

13は口縁部に紐線と沈線を巡らせ、以下に櫛歯状工具による縦位の条線を施す。

14は単節RL縄文を施文される。

15～17は深鉢形土器底部の破片である。器面には内外ともに丁寧なミガキが施されている。15、16の底には網代痕がある。

18、19は剥片石器である。側面を刃部として利用されている。石材は頁岩である。長さ5.0cm、幅4.4cm、厚さ0.6cm、重さ15ｇ。19は長さ5.1cm、幅5.2cm、厚さ1.4cm、重さ47ｇ。



第106図　122号住居址

122住居址（第106図　図版14）

位置　X――13グリッド／形態　柱穴の位置から楕円形を呈すると考えられる。／規模　6.9ｍ×不明ｍ／壁高　地山と覆土は黒褐色土を基調としているため見分けがつかず掘り込みは検出できなかった。／壁高　なし。／床　暗褐色土層に掘り込まれる。／柱穴　8本。検出された柱穴に対応すると考えられる南側の部分では柱穴の検出は見られなかった。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
長径cm	22	22	24	30	29	24	24	32
短径cm	—	—	—	—	—	—	—	22
深さcm	43	71	48	39	56	54	65	22

炉　北西寄りに位置する。石囲炉である。掘り方は長軸62cm、短軸51cm、深さ11cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。地山と似た黒褐色土を基調とする。

遺物の出土状況

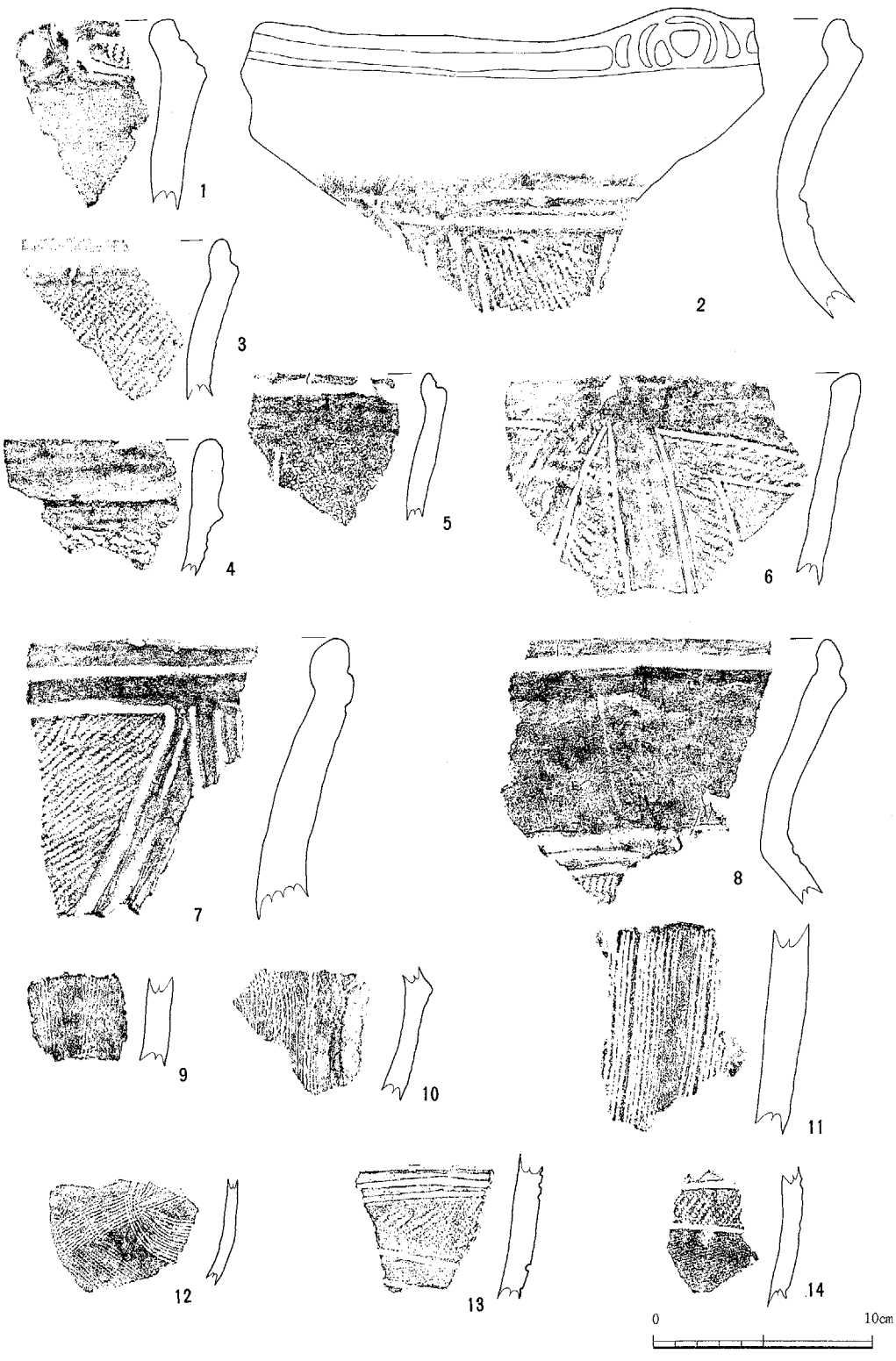
覆土中と床面より土器片が全体に亘って多量に散乱した状態で出土した。

備考　新旧関係　東壁を15号住居址、西壁を13号住居址にそれぞれ切られる。また径38cm、深さ20cmの穴は覆土の観察から本址に供なわず、本址を切っている事が判明した。

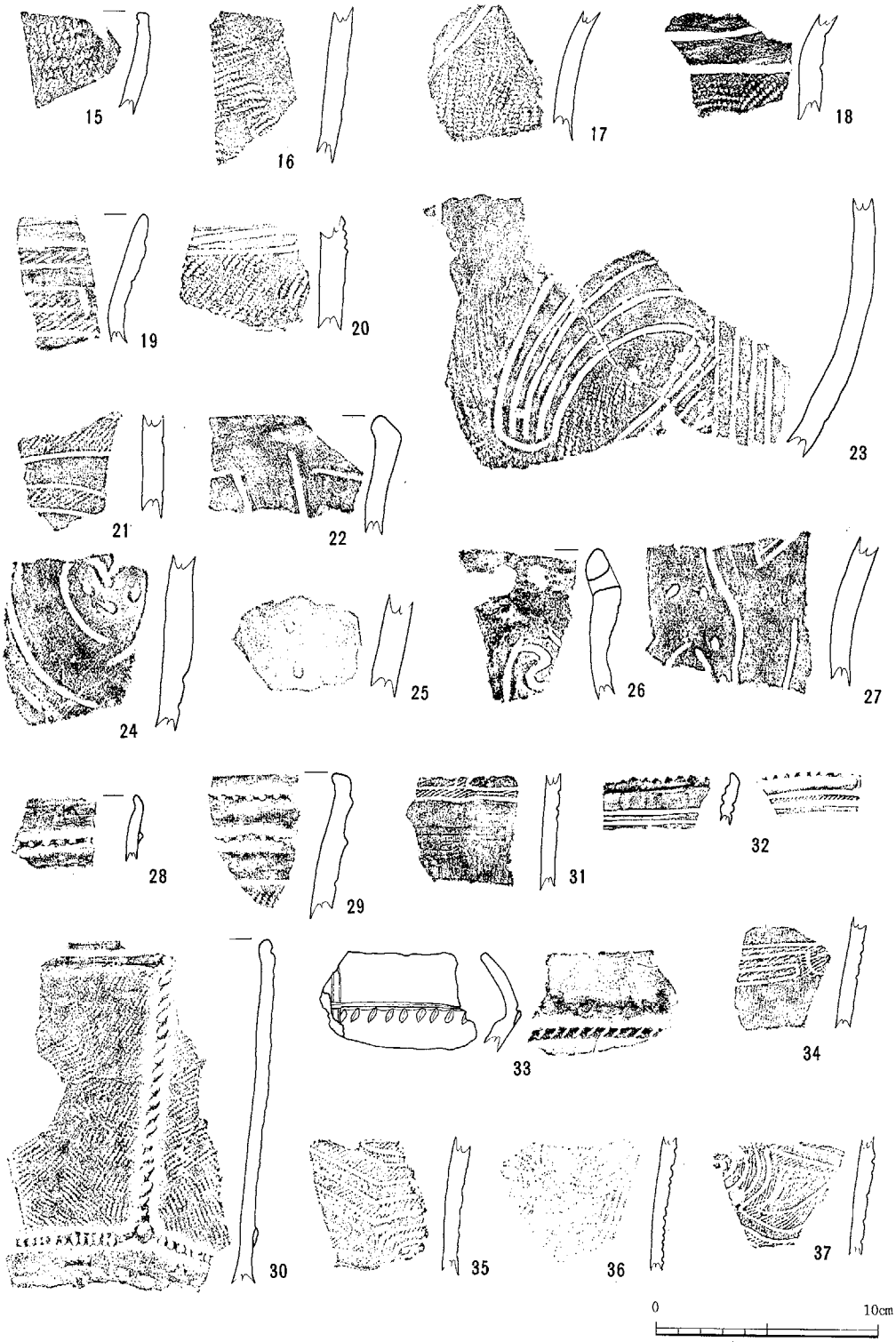
検出された遺物（第106～113図、図版27）

覆土中、床直上の出土のものを掲載した。122号住居址は確認面より覆土は薄い堆積のため、覆土中のものも床面より３～５cm高い位置で出土したものである。１～８は深鉢形土器口縁部の破片である。１は床直上より出土した。口縁部に沈線で区画しLR縄文を施す。２は床直上より出土した。くの字口縁で沈線を巡らし３は口縁部に沈線を巡らせ以下は単節LR縄文を施文する。４は口縁部は隆帯を巡らせ無文帯を構成する。以下は単節RL縄文を施文する。５は口縁部に沈線を巡らせ６は沈線による区画文内にRL縄文を施文する。７は口縁部に横位の沈線巡らす。８は口縁部沈線を巡らせる。頸部以下は平行沈線を施し、以下は沈線による区画文の中にLR縄文を区画する。９～11は深鉢形土器胴部の破片で櫛歯状工具による条線を縦位に施す。９が覆土中の出土、10、11が床直上より出土した。12は櫛歯状の工具による13、14は沈線による区画文の中にLR縄文を施文する。15～37は深鉢形土器の破片である。15、16は単節LR縄文を施す。17～20は沈線による区画文の中に単節LR縄文を施文する。24、25、27は沈線による区画文の中に列点を施す。28、29は口縁部に刺突文を施した紐線をめぐらす。37～39、42は沈線による区画文の中に単節LR縄文を施文する。40は深鉢形土器の口縁部につく把手の破片である。

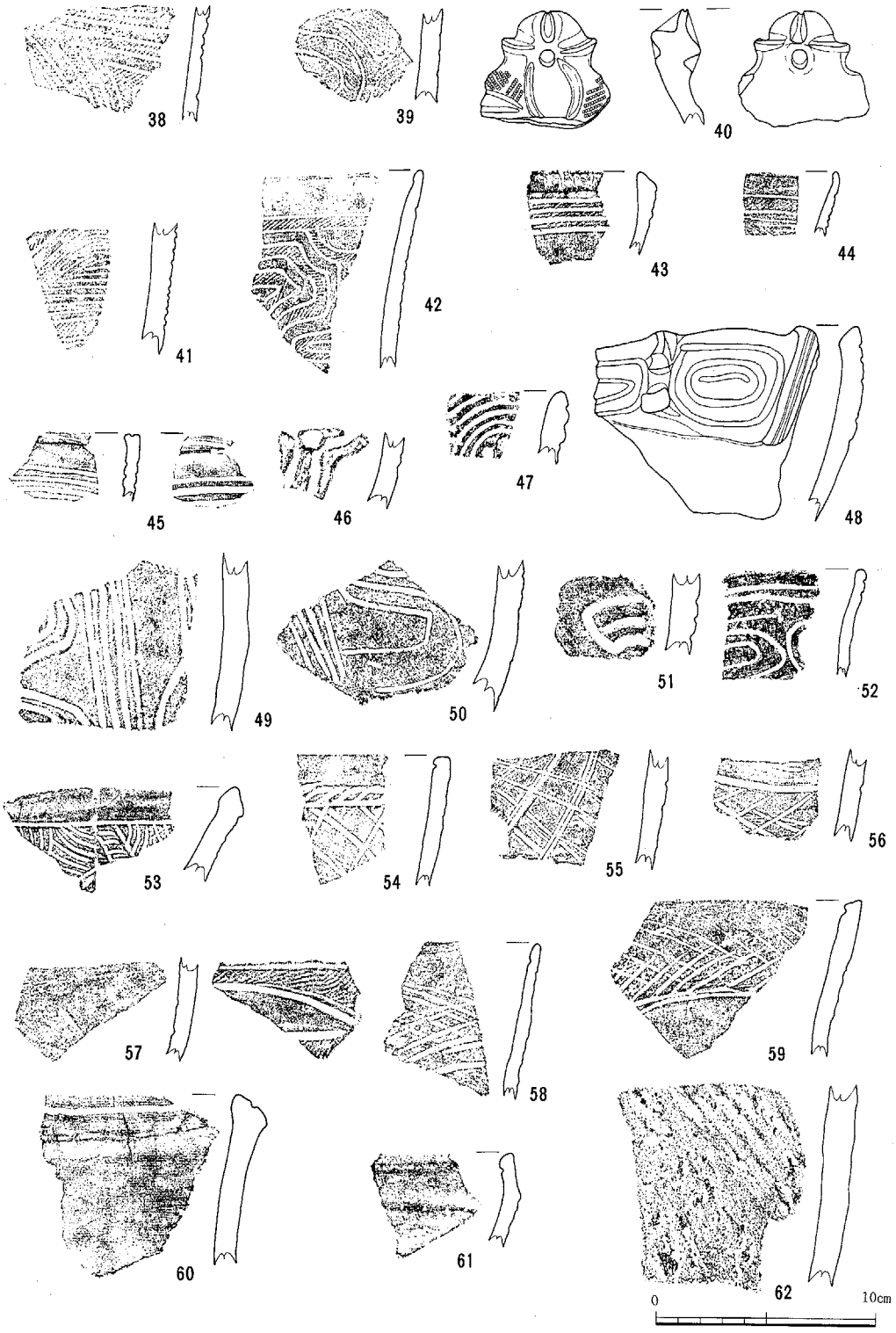
28、29は口縁部に54～56、58、59は深鉢形土器の破片、綾杉状の沈線を施す。64、65は深鉢形土器の破片である。無文の粗製土器である。66～68は深鉢形土器底部の破片である。底に網



第107図　122号住居址出土遺物（1）

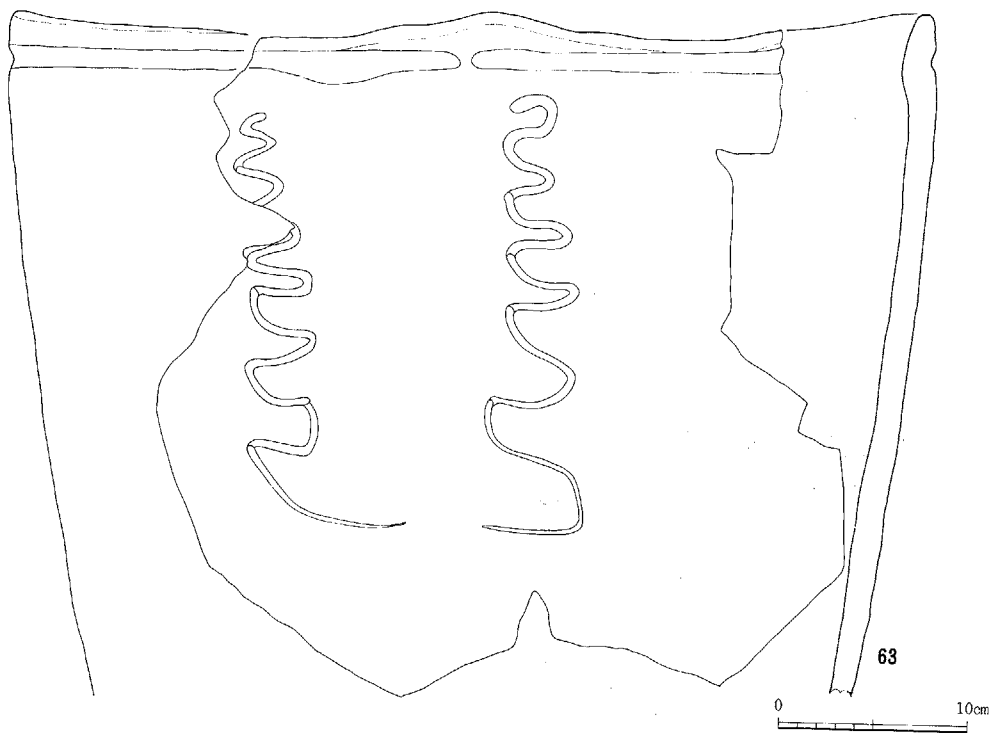


第108図　122号住居址出土遺物（２）

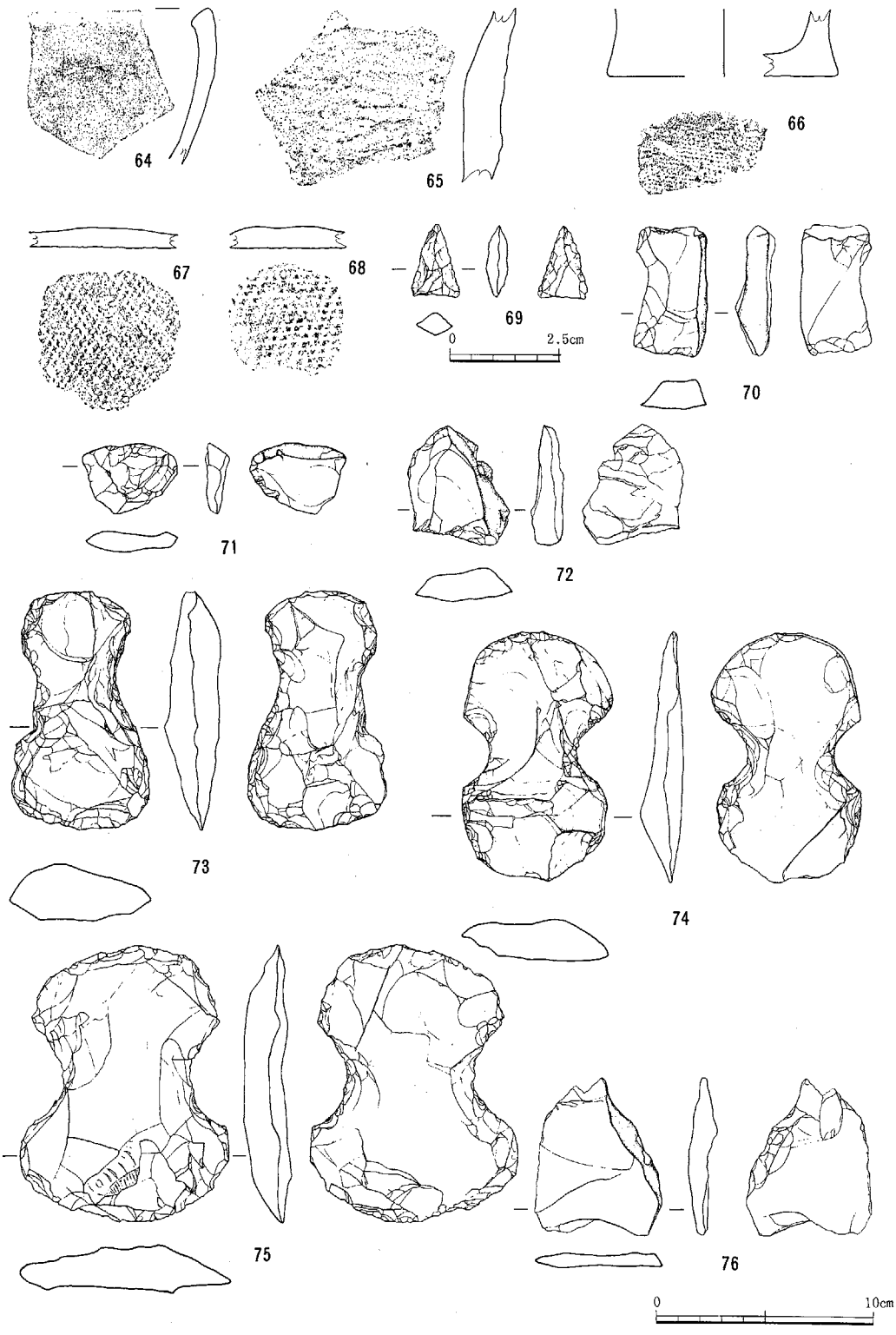


第109図　122号住居址出土遺物（３）

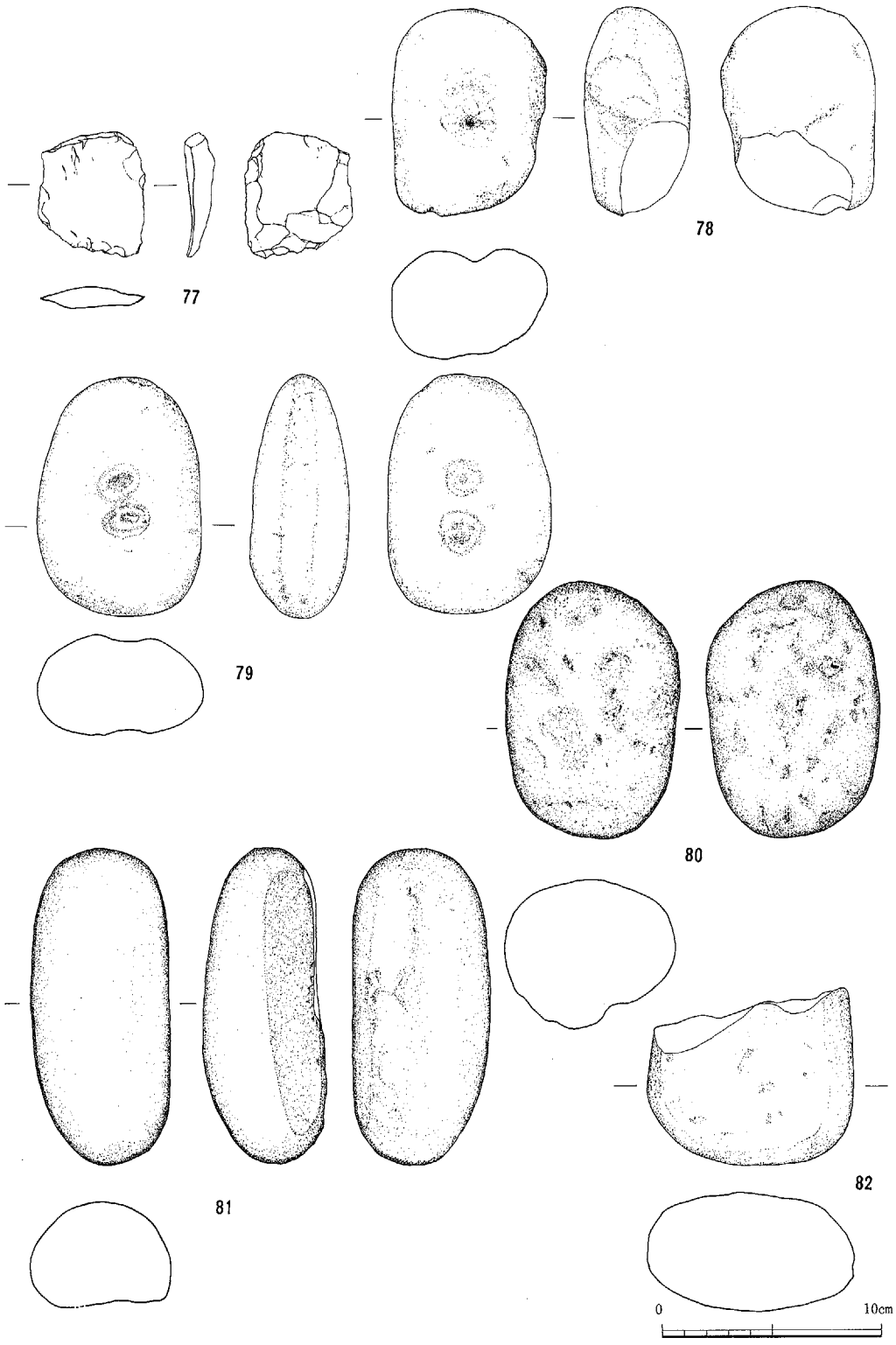
代痕が認められる。69は無茎石鏃である。石材はチャートである。長さ0.7cm、幅0.3cm、厚さ0.2cm、重さ0.6g。70～72、76、77は剥片石器である。石材は頁岩である。70は側面に自然面を残す。長さ5.1cm、幅2.2cm、厚さ0.3cm、重さ26g。71は側面を刃部として使用されている。長さ2.4cm、幅3.2cm、厚さ0.8cm、重さ101g。72は長さ5.4cm、幅4.4cm、厚さ1.3cm、重さ26.1g。76は側面を刃部として使用されている。長さ7.2cm、幅5.7cm、厚さ0.9cm、重さ26.1g。77は側面を刃部として使用されている。長さ5.4cm、幅4.7cm、厚さ0.9cm、重さ26g。73～75は分張形打製石斧である。73は長さ10.9cm、幅6.4cm、厚さ2.6cm、重さ171g。74は長さ11.4cm、幅6.1cm、厚さ1.8cm、重さ135g。75は長さ12.7cm、幅9.4cm、厚さ2.1cm、重さ280g。78、79は凹石である。石材は安山岩である。78は一部欠損している。側面を含めた4ヶ所に敲打痕が認められる。長さ9.4cm、幅6.8cm、厚さ4.8cm、重さ381g。79は両面に2ヶ所ずつ、敲打痕が認められる。また、側面の片側が磨られている。長さ10.8cm、幅7.4cm、厚さ4.2cm、重さ464g。80は軽石である。特に使用痕は認められない。製品として加工される前の原石である可能性が考えられる。長さ11.6cm、幅7.7cm、厚さ6.2cm、重さ391g。81は磨石である。側面の片側に使用痕が認められる。石材は安山岩である。82は磨石である。約2分の1を欠損する。側面の一部に使用痕が認められる。残存の長さ7.0cm、幅8.3cm、厚さ4.8cm、重さ587g。83、84は石皿の破片である。くぼみ部が比較的深い。また、裏面には多孔石にみられる大小多数の凹穴が付く。石材は安山岩である。83は床面より4cm高い位置で検出された。残存の長さ16.5cm、幅11.2cm、厚さ5.8cm、重さ1200g。84は炉の組み石として転用されていた。残存の長さ18.4cm、幅15.6、



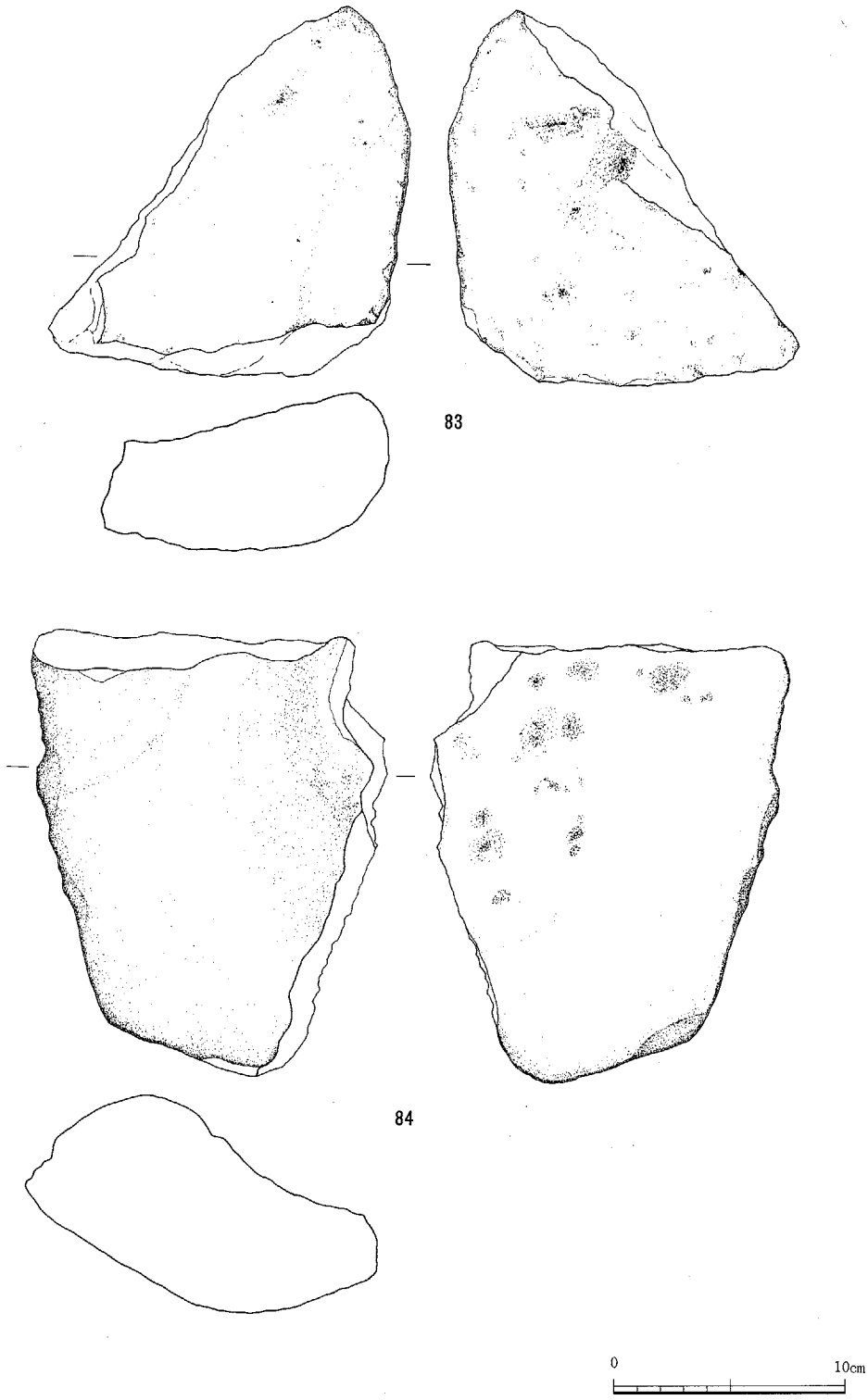
第110図　122号住居址出土遺物（4）



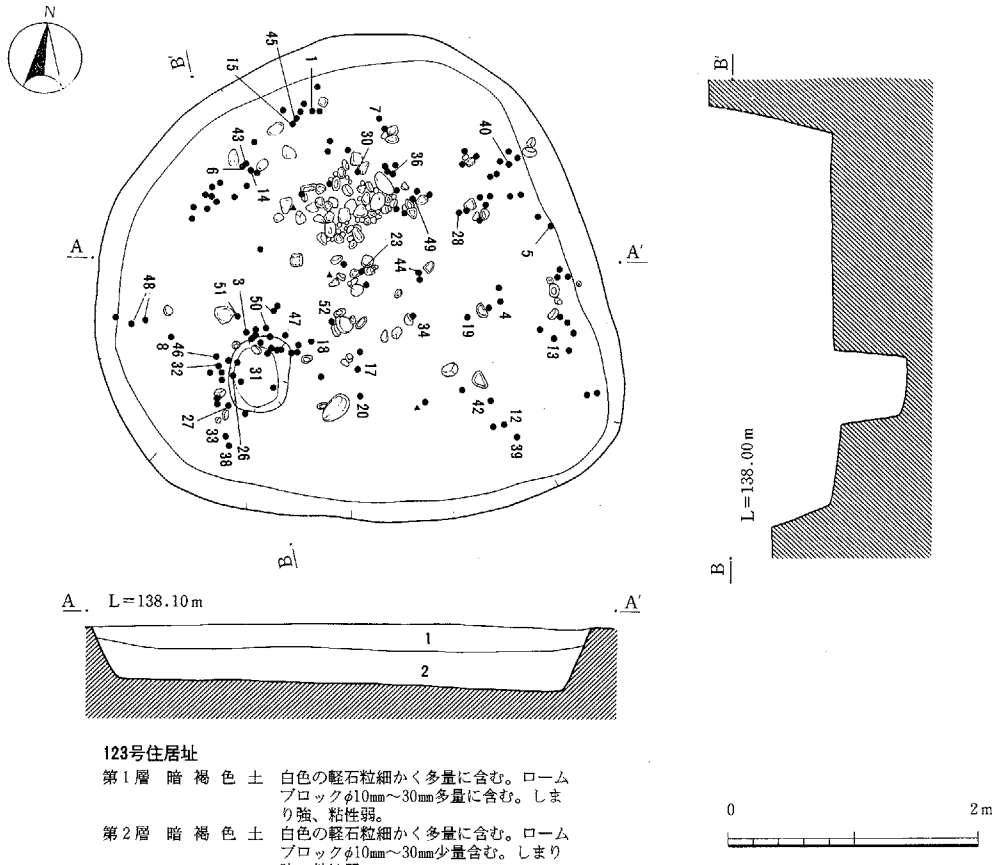
第111図　122号住居跡出土遺物（5）



第112図　122号住居址出土遺物（6）



第113図　122号住居址出土遺物（7）



123号住居址

第1層　暗褐色土　白色の軽石粒細かく多量に含む。ロームブロックφ10㎜～30㎜多量に含む。しまり強、粘性弱。

第2層　暗褐色土　白色の軽石粒細かく多量に含む。ロームブロックφ10㎜～30㎜少量含む。しまり強、粘性弱。

第114図　123号住居址

厚さ9.2cm、重さ2100ｇ。

123号住居址（第114図　図版14）

位置　W・X－24グリッド／形態　楕円形／規模3.61ｍ×3.42ｍ（東西×南北）／壁高　25.8ｍ～41.7ｍ／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は検出されなかった。／柱穴　1本。南西寄りに検出された。長軸64cm、短軸49cm、深さ23cmを計る。／炉　なし。

覆土の状況

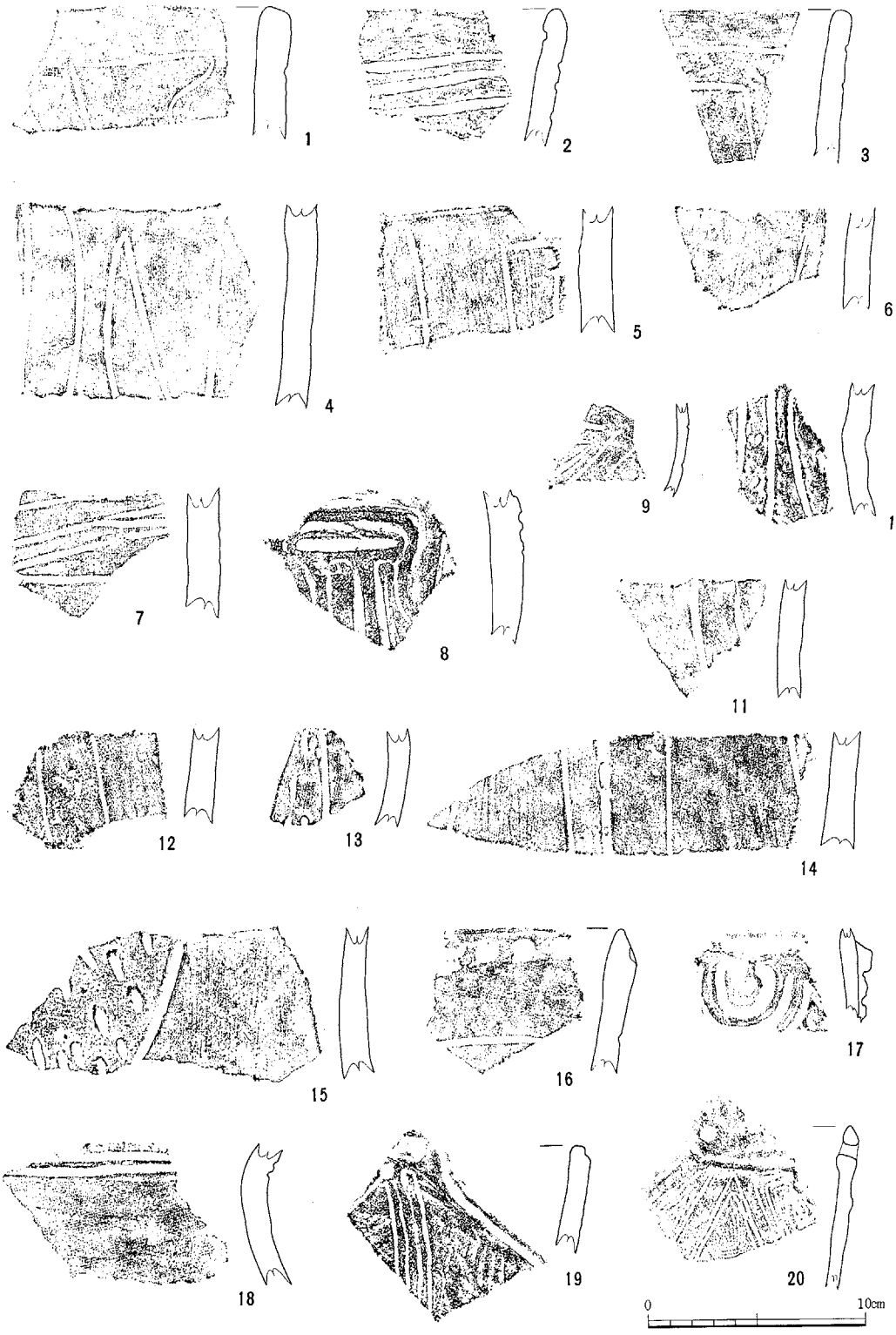
自然堆積である。暗褐色土を基調に2層に分層される。

遺物の出土状況

覆土中より注口土器の胴部上半の破片が出土した。その他多量に土器片が出土している。また、自然礫が多量に出土した。特に、北よりに集中し、中には火熱を受け赤色化したものがみられた。

備考

本址は炉址とまとまった柱穴の検出が見られないため住居址としての可能性は低いと考えられるが、火熱を受けた礫の検出がみられるのと柱穴の存在が外側の周堤帯に存在したとも考えられ住居址の可能性が考えられるため本址を住居址扱いとした。



第115図　123号住居址出土遺物（1）

検出された遺物（第115～118図、図版26）

検出された遺物は１～６が床直上より、その他は覆土中より出土した。

１～45は深鉢形土器の破片である。１、３～６、８、９は沈線による区画文を施す。

２は平行沈線文を施す。内面には口縁部下に一条の沈線を巡らす。

７は沈線文を施文する。

10～15は沈線による区画文の中に列点を充填する。

16は口縁部に指圧痕を施す。

17は頸部に沈線を巡らせ以下半円多条文内に８の字状の貼り付文を施文する。

18は頸部に平行沈線を巡らす。

19は口縁部に沈線文を巡らせ、波状の波頂部には刺突文を施す。

20、21は三角沈線文を施す。

22は沈線による区画文の中に単節LRの磨消し縄文を充填する。

23は平行沈線で単節LRの磨消し縄文を区画しＳ字状の沈線を施す。

24は平行沈線間に縦位の短沈線を充填する。25は沈線によって文様構成し文様の交差部分に貼り付を施する。貼り付は破片で不明であるが８の字状を呈するものと考えられる。

26は斜行線を施す。

27、28は単節LRの磨消し縄文を施文した後、垂下沈線を施し、刺突を施した紐線を貼り付する。

29は沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填する。

30は三角形区画文の中に単節LR縄文を充填する。

31は胴部には三角区画文を施文し、口縁部に８の字状の貼付を施す。

29～35、37は沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填する。

36は平行沈線間に爪形状の沈線を充填する。38は単節LR縄文を縦の方向の後、横位に施文する。沈線による区画文の中に単節LR縄文を施文する。

42は無文の粗製土器である。43は内外共にミガキを施す。44は器面に単節LR縄文を施文の後、口縁部に３条の沈線を巡らす。

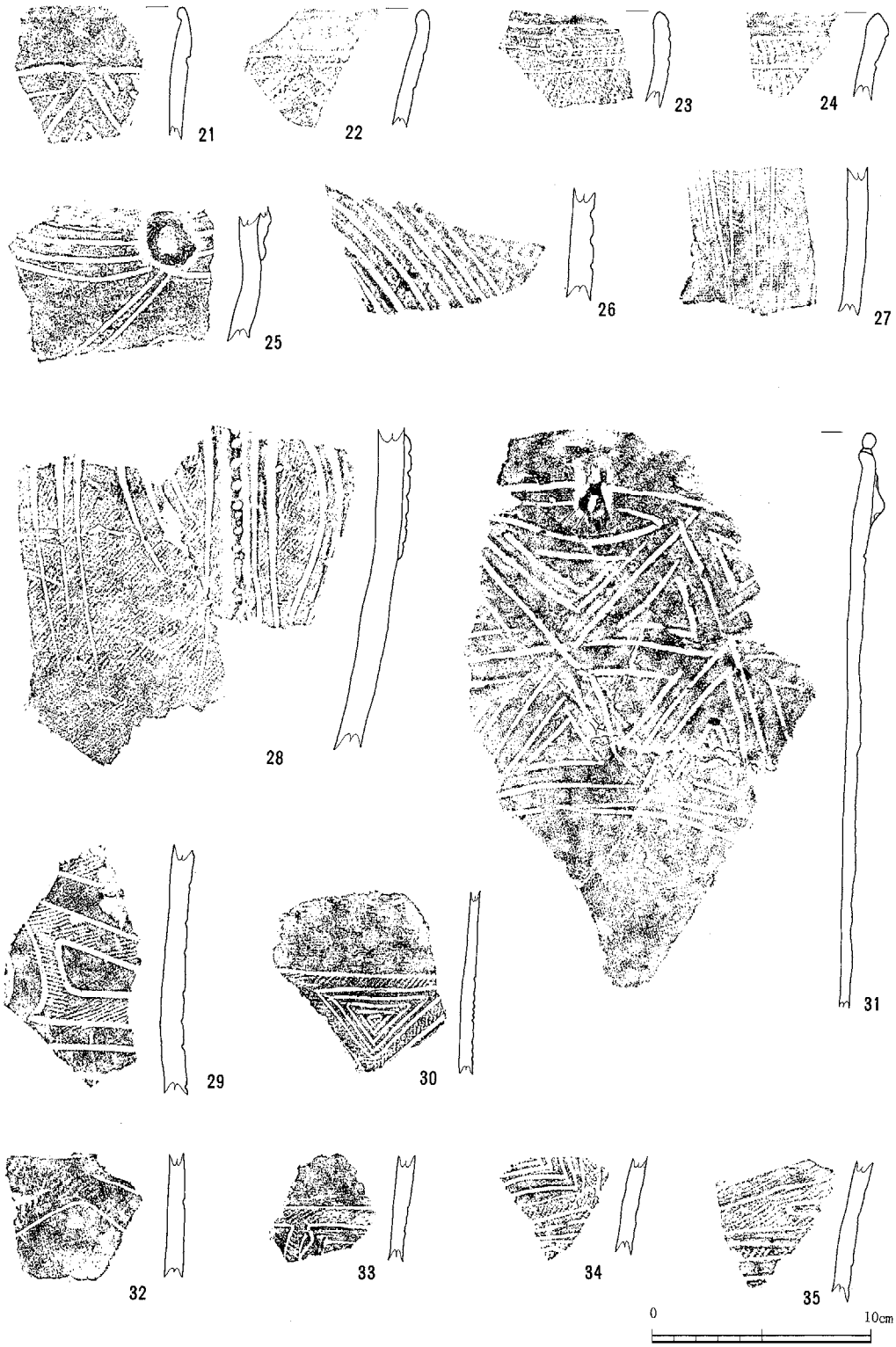
45は口縁部には並列に２つの刺突文を施し、２条の沈線を巡らす。頸部には沈線を巡らす。器面は丁寧なミガキが施される。

46、47、49、50は深鉢形土器の底部の破片である。49は底部に網代痕がある。共に器面に丁寧なミガキが施されている。

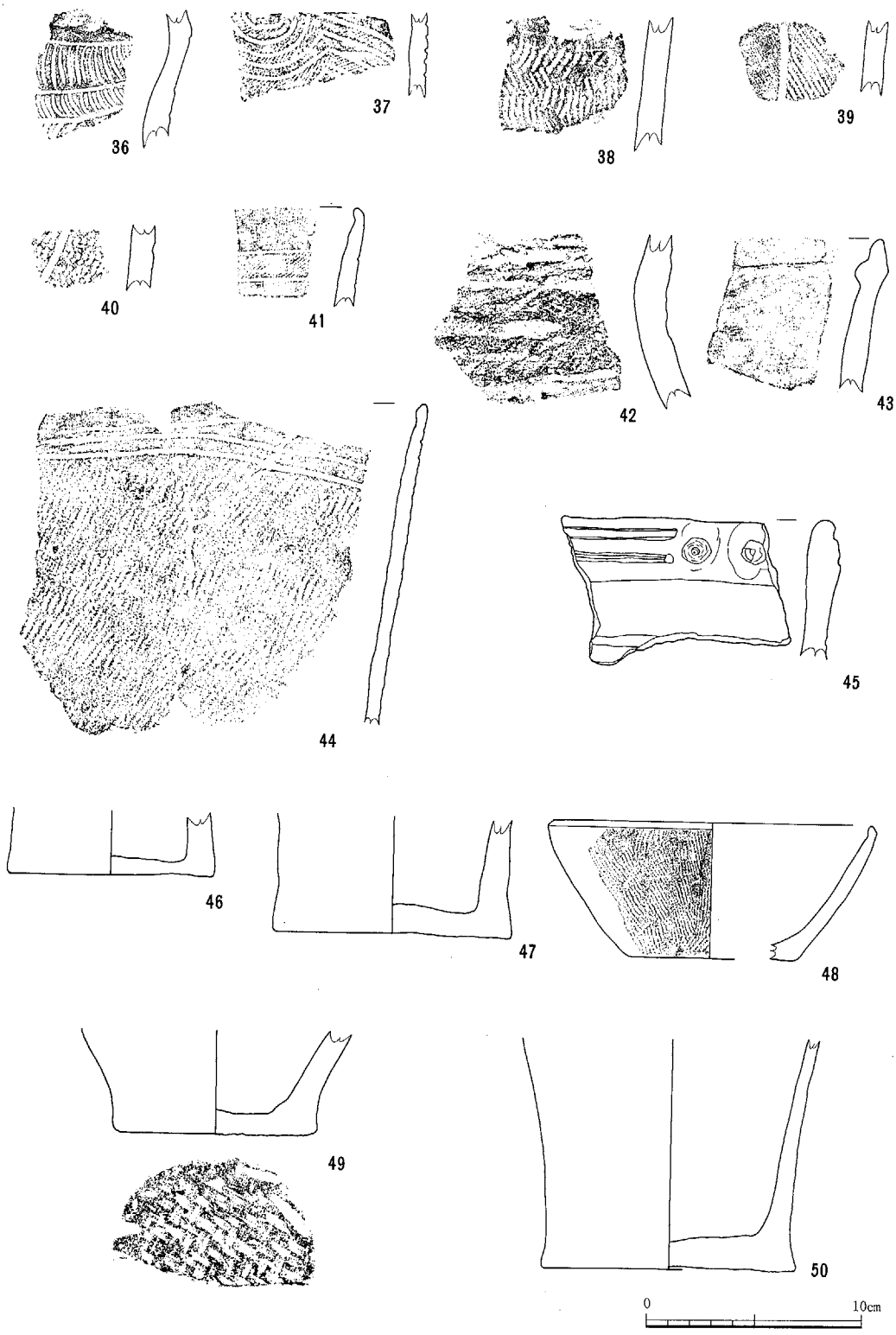
48は浅鉢形土器である。器面に単節LRの細縄文を施文する。

51は注口土器体部上半の破片である。口縁部には三角区画文を施文し、間に単節LRの磨消縄文を充填する。

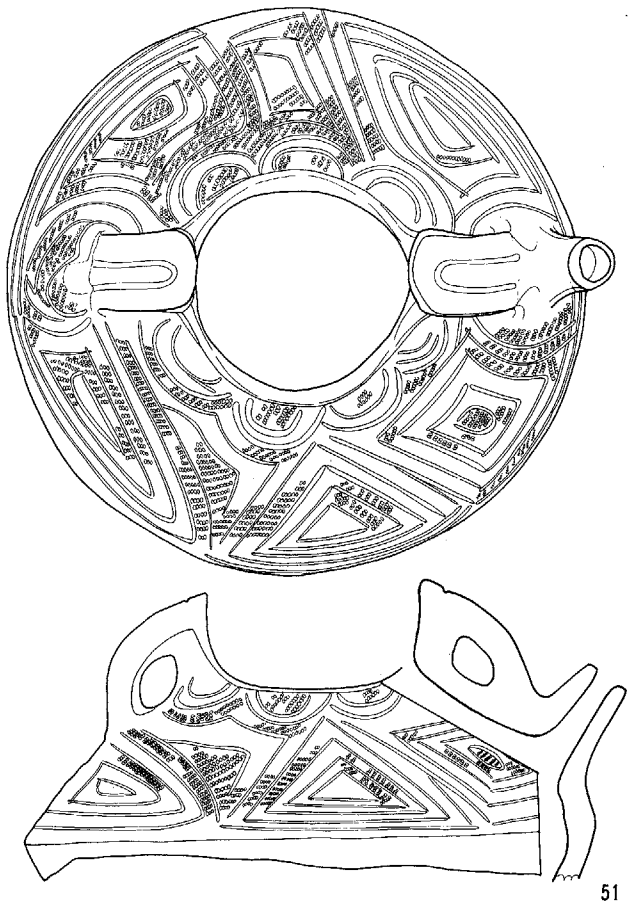
52は凹石である。敲打による凹穴が２ヶ所認められる。石材は安山岩である。



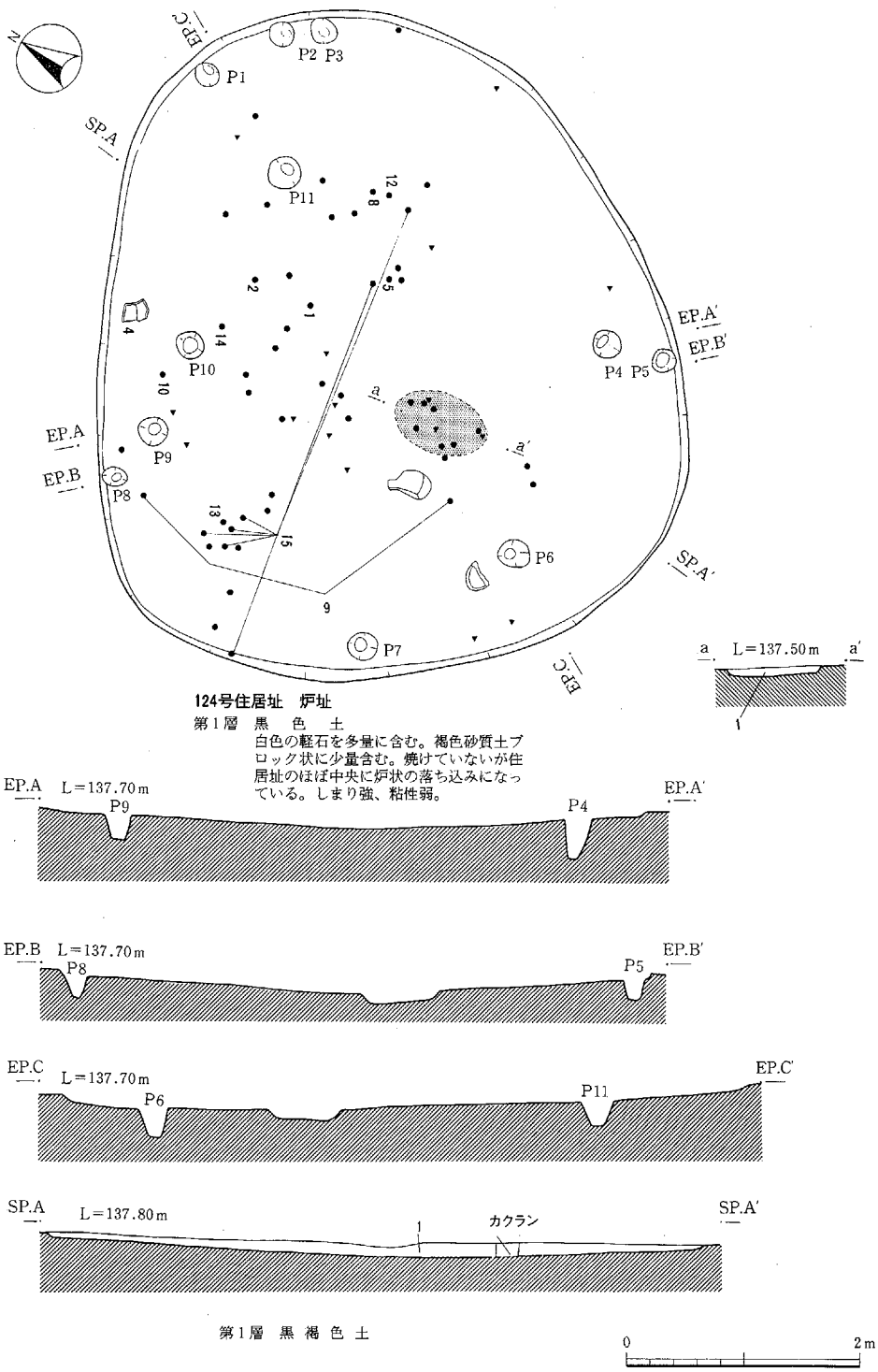
第116図　123号住居址出土遺物（２）



第117図　123号住居址出土遺物（３）



第118図　123号住居址出土遺物（4）



第119図 124号住居址

124号住居址（第119図　図版14）

位置　V－17グリッド／形態　楕円形／主軸方向　N－40°－E／規模　5.53m×4.68m（東西×南北）／壁高　5cm～7cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部は分は検出されなかった。／柱穴　11本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
長径cm	19	21	20	24	21	24	23	16	14	23	28
短径cm	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	51
深さcm	20	17	11	32	44	22	23	17	22	23	23

炉　中央部よりやや南寄りに位置する。地床炉である。掘り方は長軸83cm、短軸51cm、深さ12cmを計る。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。

覆土の状況

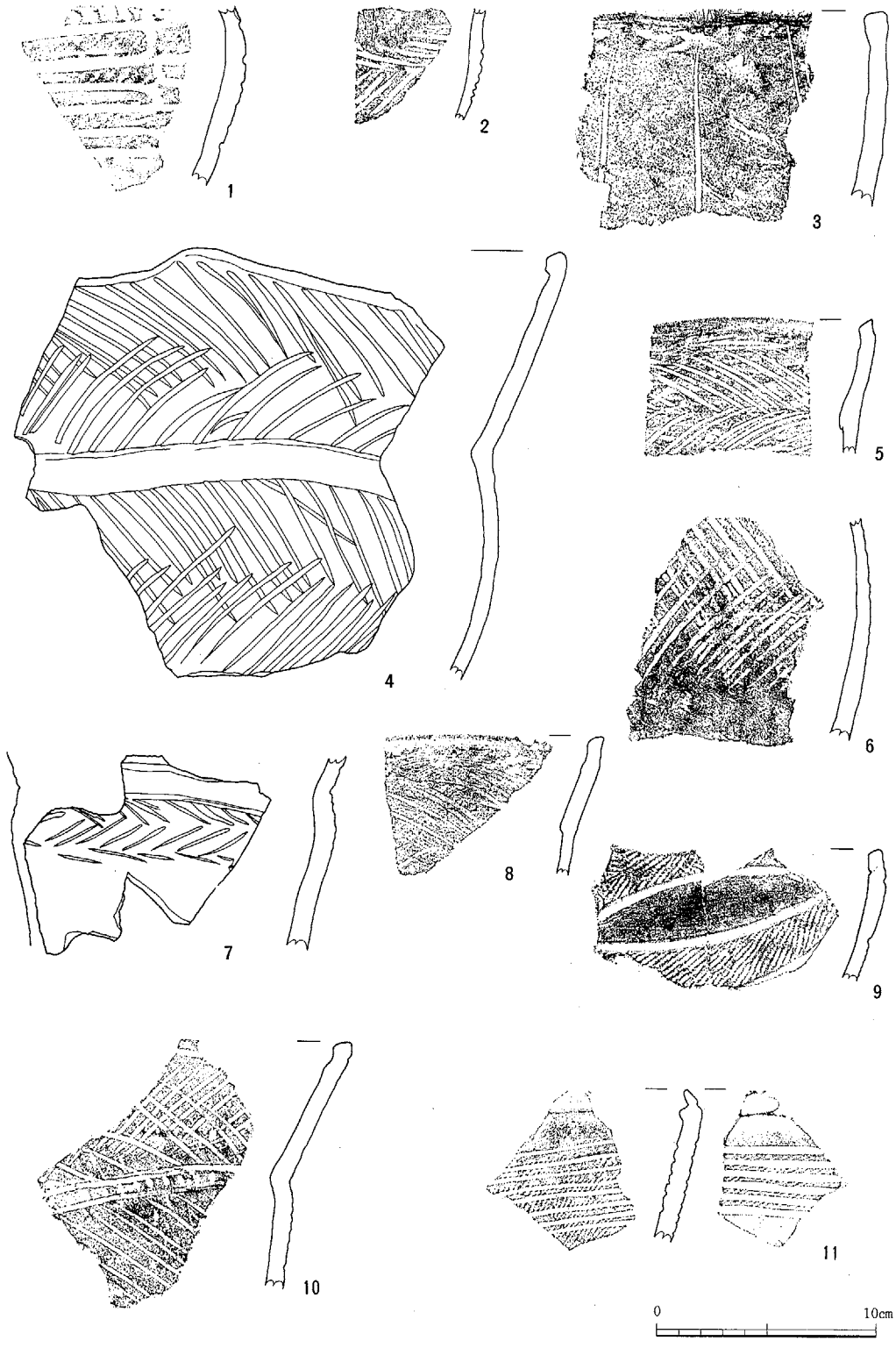
自然堆積である。黒褐色土の単層である。

遺物の出土状況

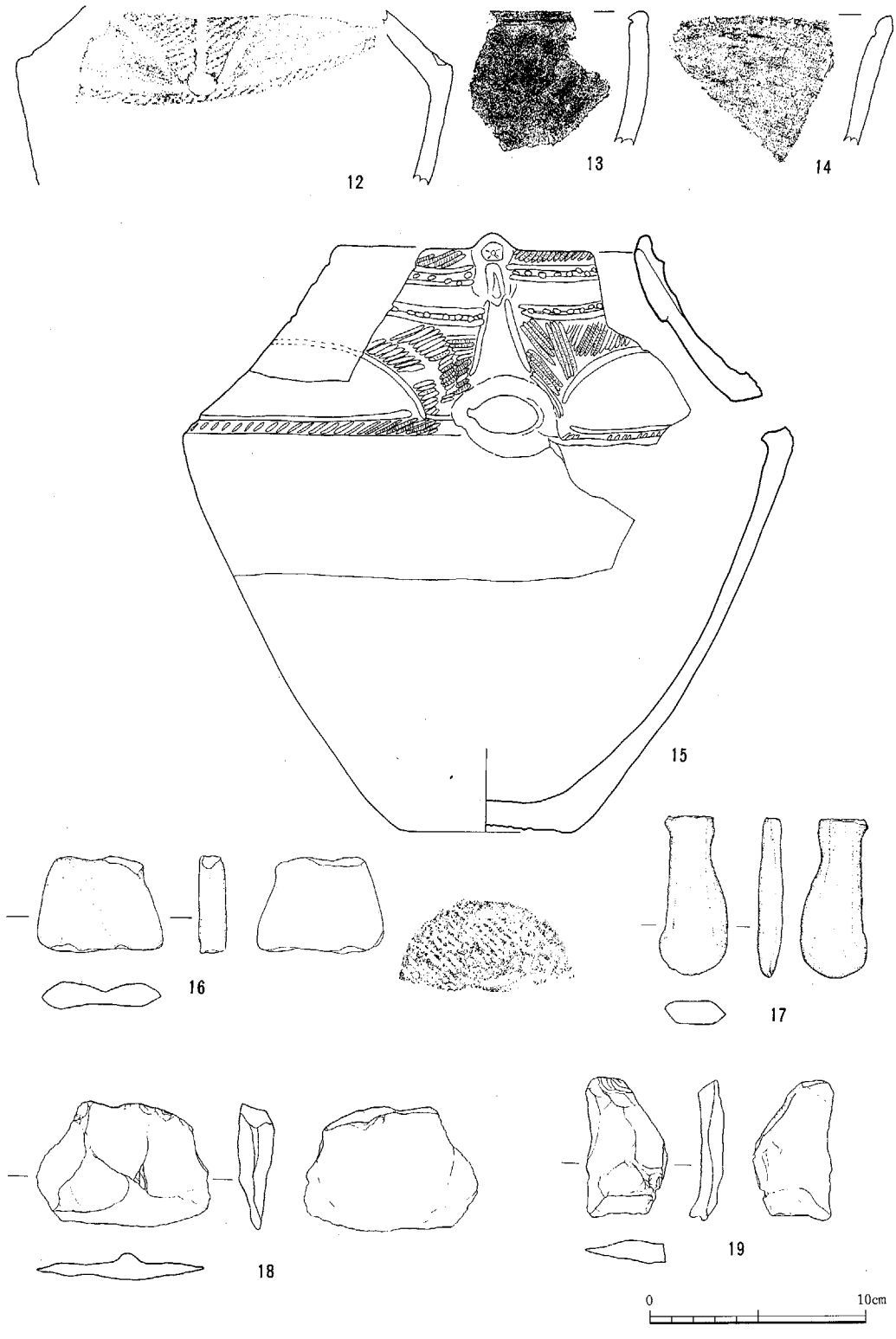
土器が全体に亘って散乱して出土した。また、自然礫が2点出土した。実測遺物点数19点。

検出された遺物（第119～121図、図版27、40、41）

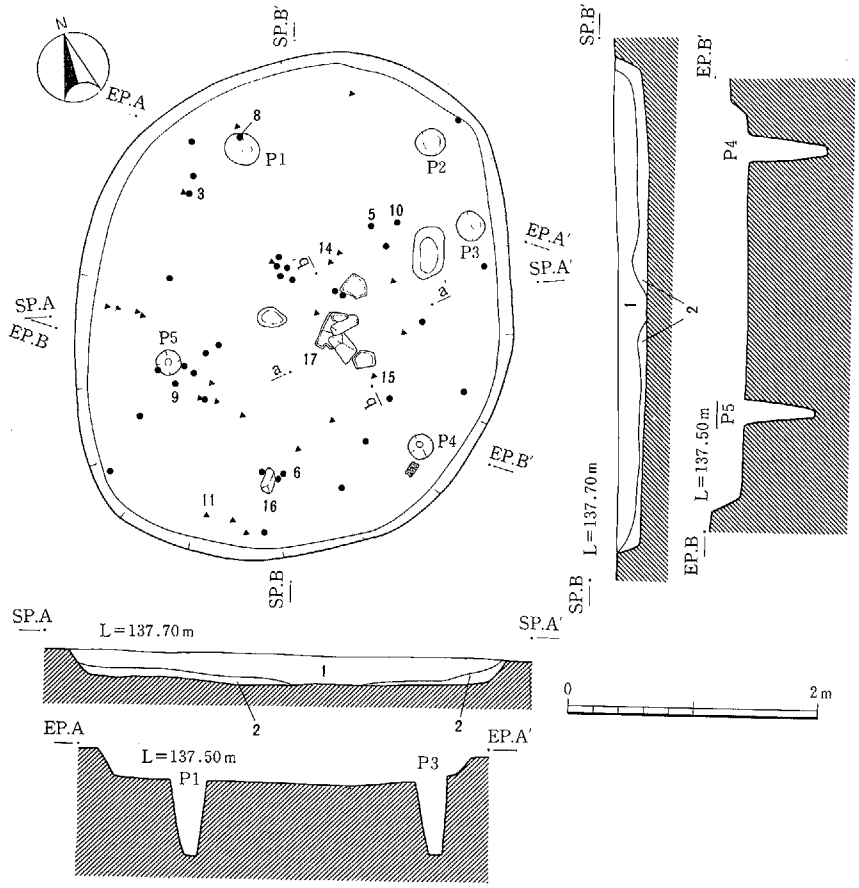
1～11は深鉢形土器の破片である。1は刺突と沈線による区画文を施す。覆土上層の出土である。3は無文の粗製土器である。床直上より出土した。2、4～8、10は綾杉状の沈線を施文し、4、7は波状口縁で頸部を無文帯で構成する。10は頸部に平行沈線を巡らす。4、10は床直上、その他は床面よりみな5～6cm高い位置で出土した。9は沈線による区画文の中にLRの細縄文を施文する。床直上より出土した。11は表裏ともに単節LR細縄文を施文し、平行沈線で区画する。覆土中の出土である。12、15はソロバン形の深鉢形土器の破片である。沈線による区画文の中に無節L縄文を施文する。15は底部に網代痕がある。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は明褐色である。床直上より出土した。13、14は無文の粗製土器である。覆土上層の出土である。16、17は砂岩製の砥石の破片である。16はV字形の溝状に研ぎ跡がみられる。長さ3.3cm、幅4.9cm、厚さ0.3cm、重さ25.1g。床直上より出土した。17は長さ6.5cm、幅2.1cm、厚さ0.9cm、重さ21g。覆土中の出土である。18、19は剥片石器である。側面を刃部として使用されている。石材は頁岩である。18は長さ4.5cm、幅7.7cm、厚さ1.3cm、重さ51g。炉址に近接して床直上より出土した。19は長さ5.5cm、幅3.0cm、厚さ0.9cm、重さ25.1g。覆土中の出土である。



第120図　124号住居址出土遺物（1）



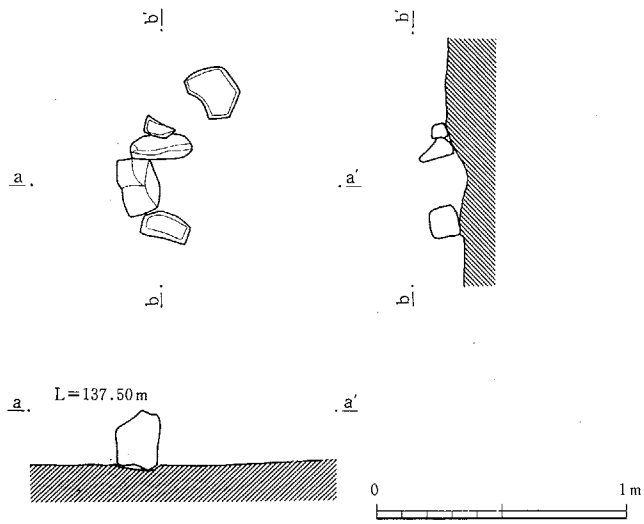
第121図　124号住居址出土遺物（２）



125号住居址

第1層　黒　色　土　白色の軽石多量に含む。焼土粒子、炭化物微量に含む。しまり強、粘性弱。

第2層　黒 褐 色 土　白色の軽石多量に含む。ロームブロック多量(φ10mm～20mm)含む。しまり強、粘性弱。



第122図　125号住居址

125号住居址（第122図　図版15）

位置　W－18グリッド／形態　楕円形／規模　3.92ｍ×3.33ｍ（南北×東西）／壁高　16.5cm～18.5cm／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。硬質部分は検出されなかった。全体に締まりがあり、硬質である。／柱穴　4本。Ｐ２～Ｐ５が主柱穴と考えられる。Ｐ１・径21cm、深さ70cm。Ｐ２・径24cm、深さ63cm。Ｐ３・径21cm、深さ57cm。Ｐ４・径20cm、深さ57cm。Ｐ５・長径29cm、短径25cm、深さ61cm。／炉　中央よりやや南東寄りに位置する。石囲炉である。遺存悪く組石は一部外れて検出された。掘り方は床面と掘り方の埋土が似ており検出はできなかった。組石の内側は火熱を受け赤色化している。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土の単層である。

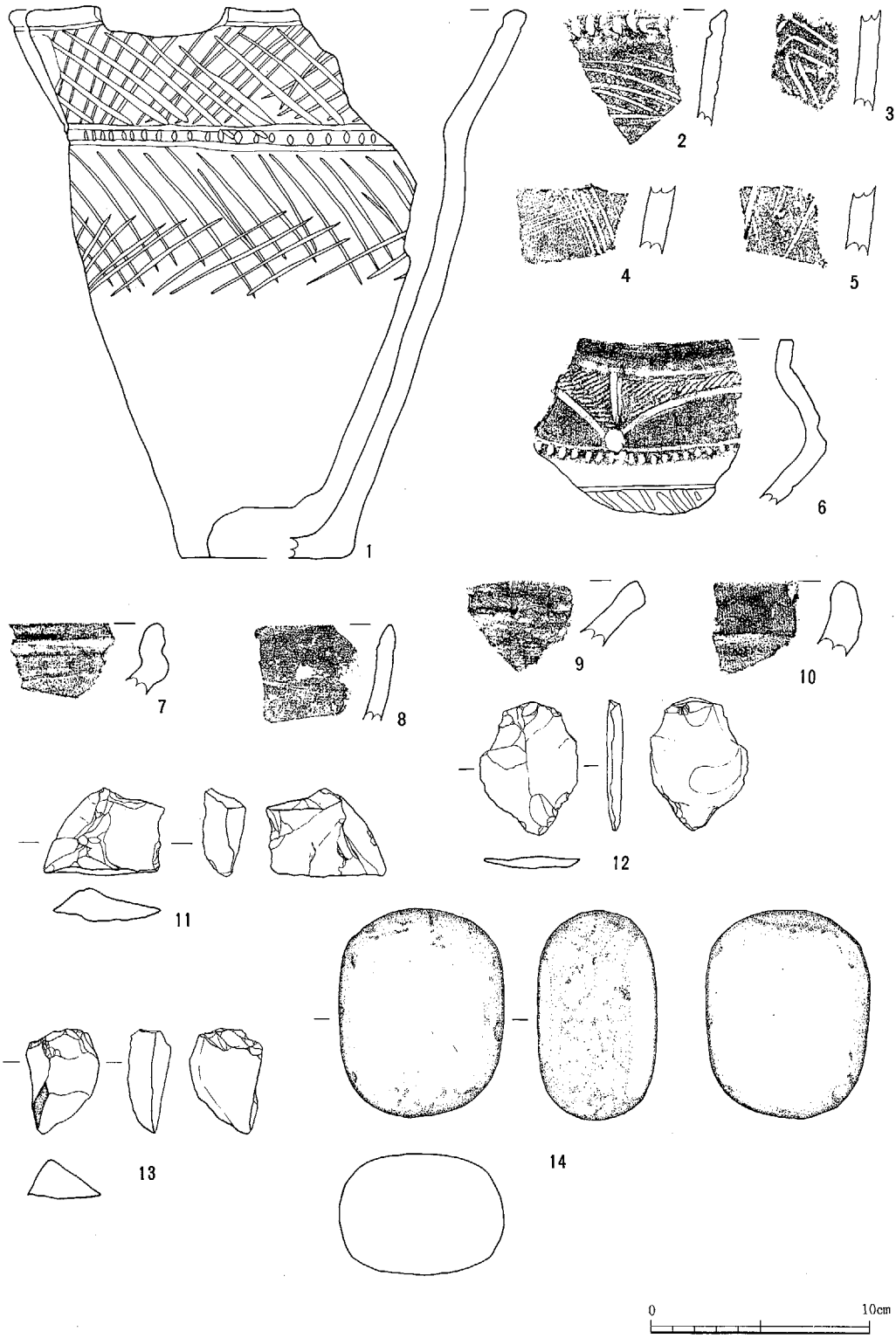
遺物の出土状況

全体に亘って散乱しているがとくに炉址付近に集中する傾向を示している。

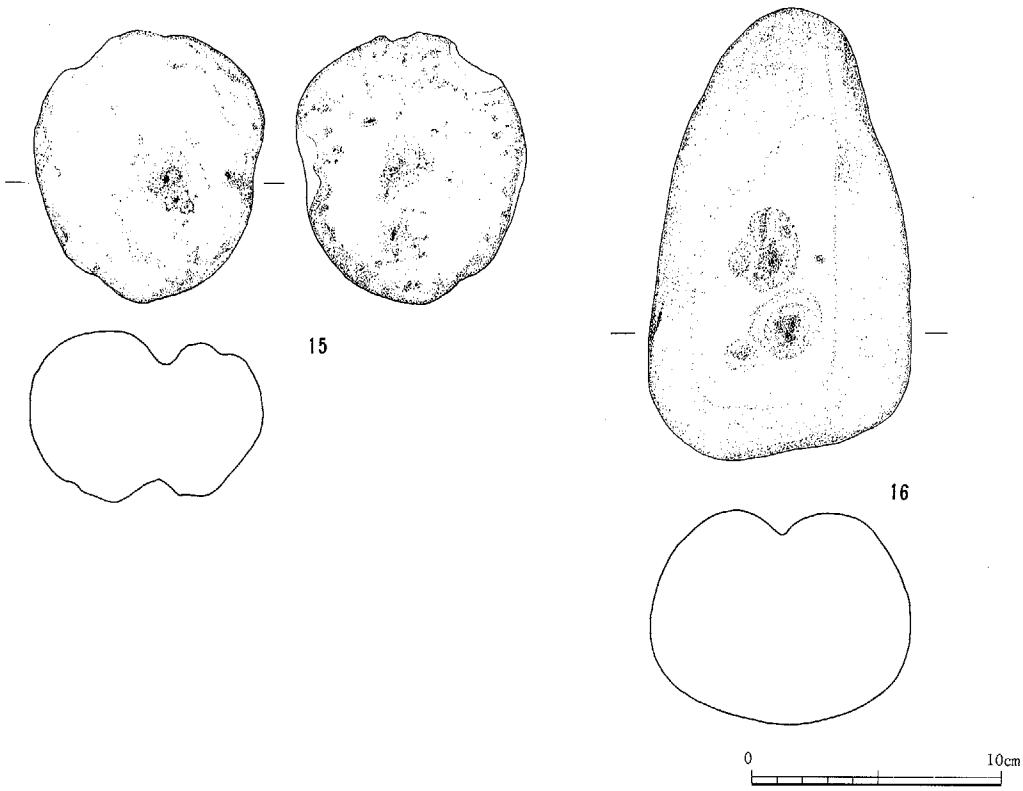
検出された遺物（第122～124図、図版27、41）

覆土中、床直上の出土のものを掲載した。１は覆土中より出土の深鉢形土器の破片である。口縁部に横位の沈線を巡らせ綾杉状の沈線を施す。頸部は平行沈線を巡らせ、沈線間にはキザミを施す。以下胴部上半は綾杉状の沈線を施す。下半は縦方向のミガキを施す。内面は口縁部横方向のミガキ、胴部は縦方向のミガキを施す。胎土は砂粒を多量に含む。焼成は良好、色調は上半黒褐色、下半は明褐色である。覆土中より出土した深鉢形土器の破片である。口縁部にキザミを施し、以下は綾杉状沈線を施文する。３～５は覆土中より出土した深鉢形土器胴部の破片である。３は沈線による区画文を施す。４はくの字口縁で口縁部に沈線を巡らし３は口縁部に沈線を巡らせ以下は単節LR縄文を施文する。４は櫛歯状の沈線を施す。５は沈線間に列点を施す。６は床直上より出土した。ソロバン玉状の形をした深鉢形土器の破片である。沈線による区画文の中に無節Ｌ縄文を施文する。７～10は深鉢形土器口縁部の破片で無文の粗製土器である。覆土中より出土した。

11～13は剥片石器である。側面を刃部として使用されている。石材は11、12が頁岩、13が黒色頁岩である。11は長さ4.5cm、幅4.4cm、厚さ3.7cm、重さ33ｇ。12は長さ5.1cm、幅3.5cm、厚さ0.5cm、重さ15ｇ。13は長さ3.9cm、幅2.5cm、重さ25ｇ。14は磨石である。石材は安山岩である。隅丸長方形を呈する。表裏共に良く使用されつるつるしている。また、片側にススが付着している。長さ8.1cm、幅0.3cm、厚さ4.4cm、重さ660ｇ。15、16は凹石である。15は石材は軽石で表裏共に敲打の凹部がある。片面には2孔ある。16は片面2孔である。石材は安山岩である。15は長さ10.9cm、幅9.2cm、厚さ6.7cm、重さ434ｇ。16は長さ17.6cm、幅10.4cm、厚さ8.1cm、重さ2100ｇ。



第123図　125号住居址出土遺物（１）



第124図　125号住居址出土遺物（２）

126号住居址（第125図　図版15）

位置　W－16グリッド／形態　柄鏡形／主軸方向　N－45°－E／規模　6.2ｍ（長軸）×5.12ｍ（短軸）×1.15ｍ（張り出し部幅）／壁高　２㎝～６㎝（確認面より僅かな掘り込みが認められた。）／壁溝　なし。／床　黒褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に締まりがあり硬質化されている。張り出し部にかけて平らな河原石が敷かれている。一部火熱を受け赤色化されている。／柱穴　10本。

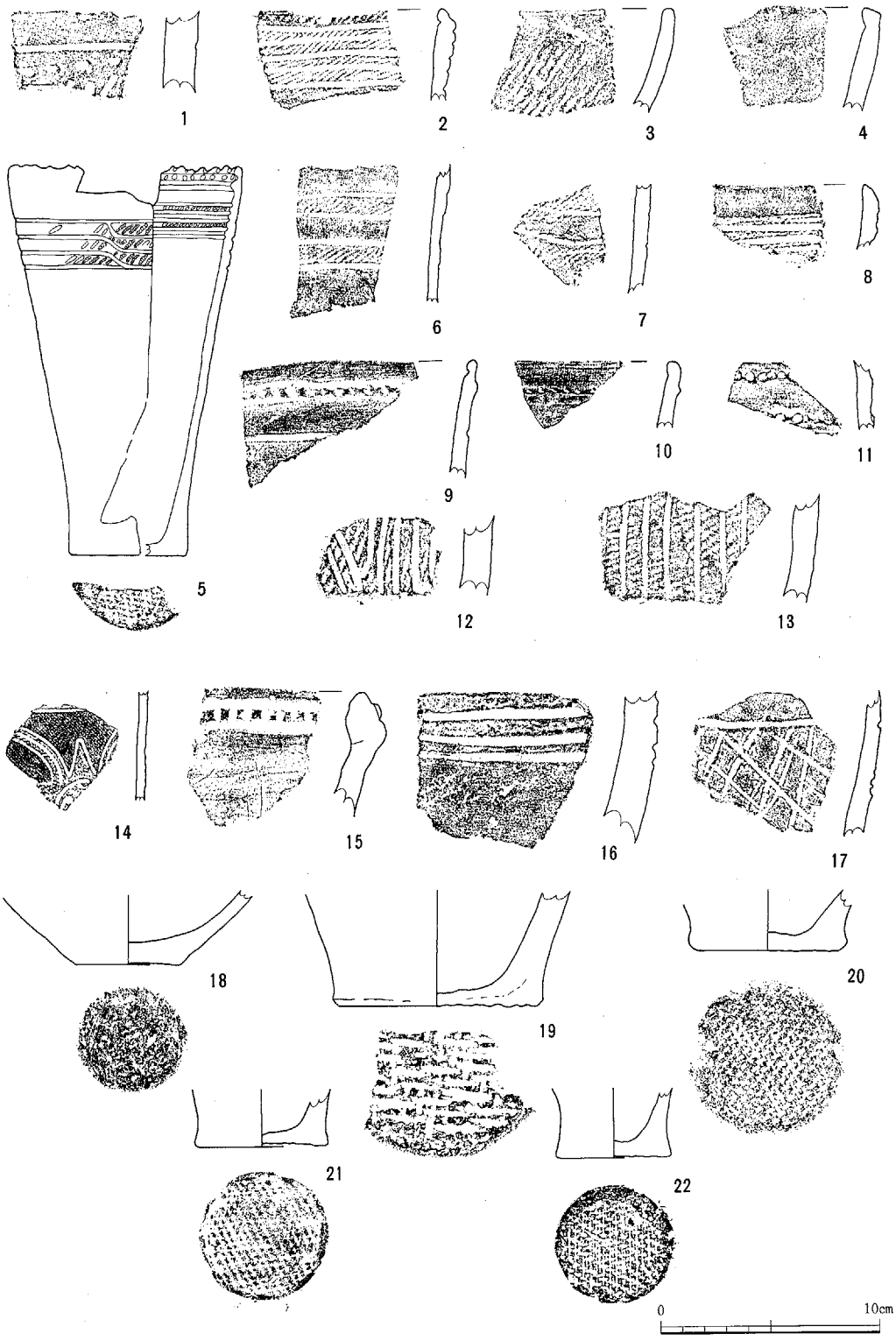
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
長径㎝	25	23	24	25	22	24	21	30	24	29
短径㎝	－	－	－	－	－	－	－	26	－	24
深さ㎝	52	57	62	65	62	53	50	27	16	27

炉　ほぼ中央部に位置する。石囲炉である。遺存悪く組石の元位置を保っているのは一ヵ所のみであった。多孔石を使用されている。その他は散乱した状態で検出された。掘り方の規模は長軸46㎝、短軸41㎝、深さ８㎝。平面は方形、断面は鍋底形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。覆土は地山と似た黒褐色土を基調とする。

第125図　126号住居址



第126図　126号住居址出土遺物（1）

遺物の出土状況

覆土中より土器が散乱して出土した。張り出し部の基部にあたる部分より埋甕が検出された。また、張り出し部にあたる敷石付近より土器片３点と石皿１点が出土した。実測遺物点数35点検出された遺物（第125～128図、図版41、42）

１～27は深鉢形土器の破片である。１は沈線による区画文の中に列点を施す。覆土中の出土である。２は単節LR縄文を施文し、平行沈線で区画する。覆土中の出土である。３は単節LR縄文を施文する。覆土中からの出土である。４は無文の粗製土器である。覆土中の出土である。５は小形の深鉢形土器である。小波状口縁を呈し沈線による区画文の中に単節LR縄文を施文する。内側は平行沈線間に刺突を施す。以下内外ともに丁寧なミガキが施されている。底に網代痕がある。６～８は沈線による区画文の中に単節LR縄文を施す。

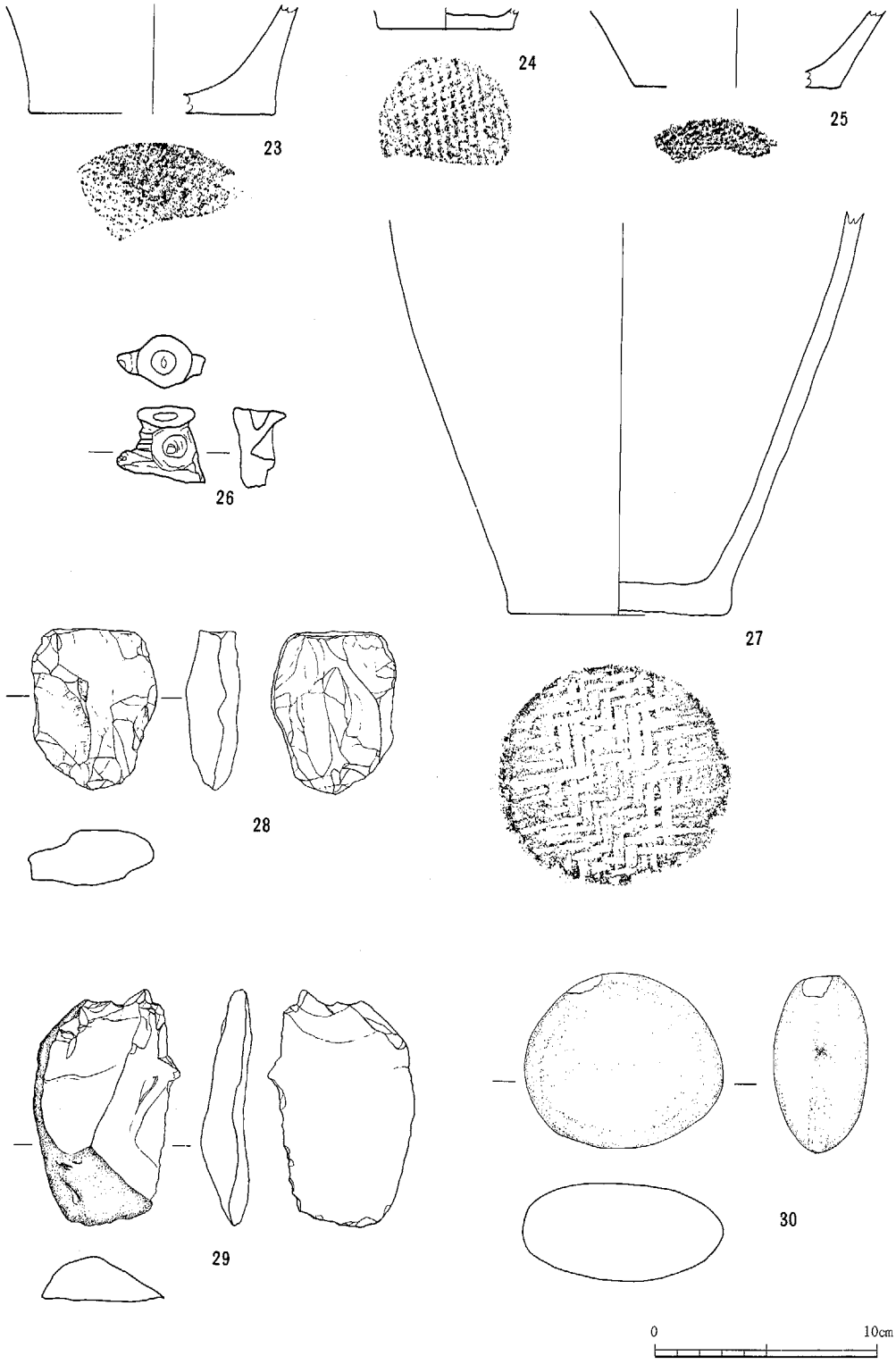
９～11は口縁部に細い紐線を巡らす。

12、13は単節LR縄文を施文し縦位の沈線を施す。14、15は口縁部にキザミ目帯を巡らす。16は平行沈線、17は沈線による格子目文を施す。

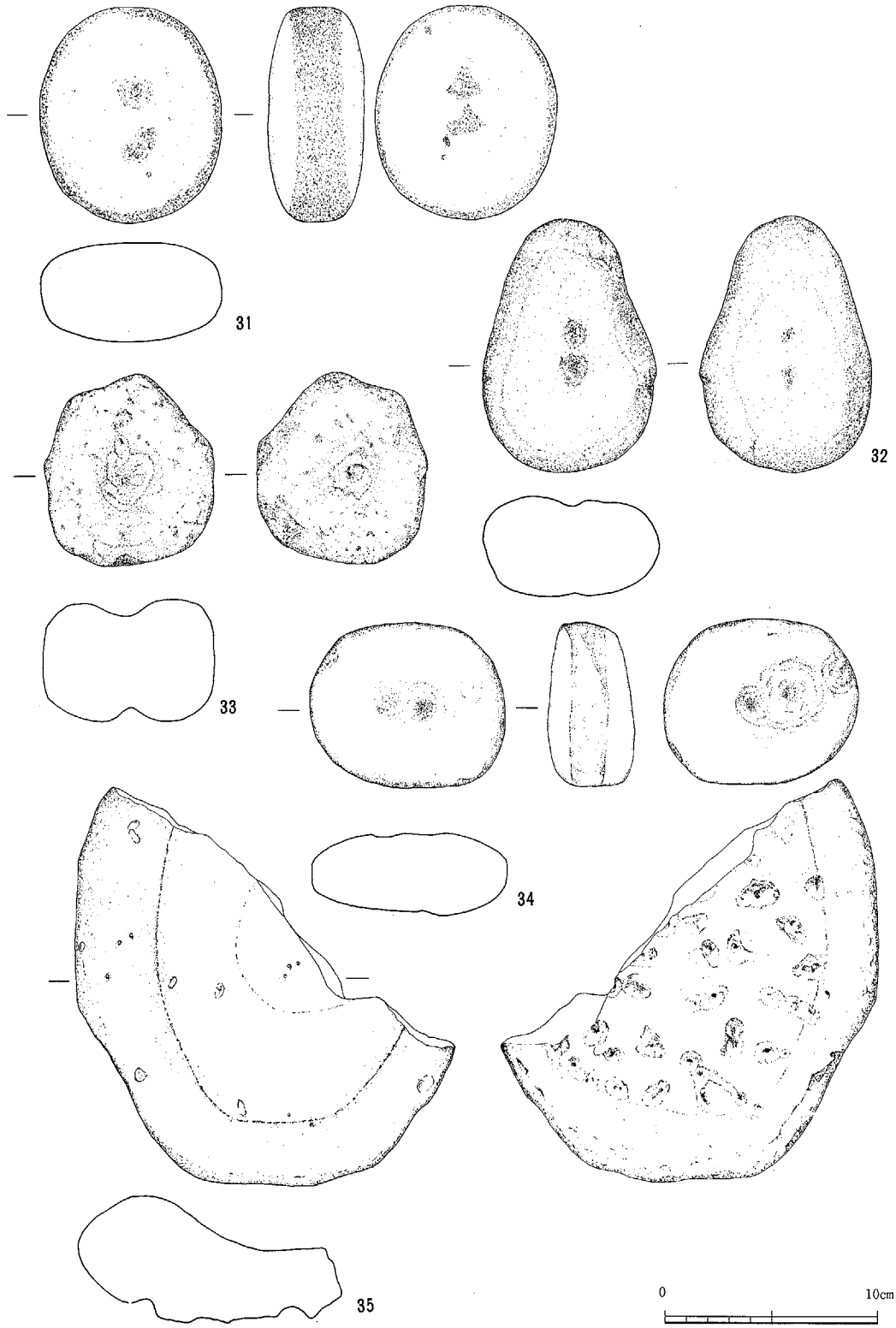
18～25は底部の破片である。18は残存高3.1cm、底径4.8cm。19は残存高5.3cm、復元底径9.2cm。20は残存高2.7cm、底径6.6cm。21は残存高2.7cm、底径5.9cm。22は残存高3.2cm、底径5.2cm、23は残存高4.9cm、復元底径10.9cm。24は残存高0.9cm、底径5.9cm。25は残存高3.4cm、復元底径9.2cm。

27は埋甕として検出された深鉢形で、無文の粗製土器である。口縁部が欠損している。内外共に丁寧なミガキが施されている。底部に網代痕あり。残存高17.4cm、底径9.8cm、胎土は砂粒を含む。焼成は良好、色調淡褐色である。20は残存高2.8cm、底径6.8cm。

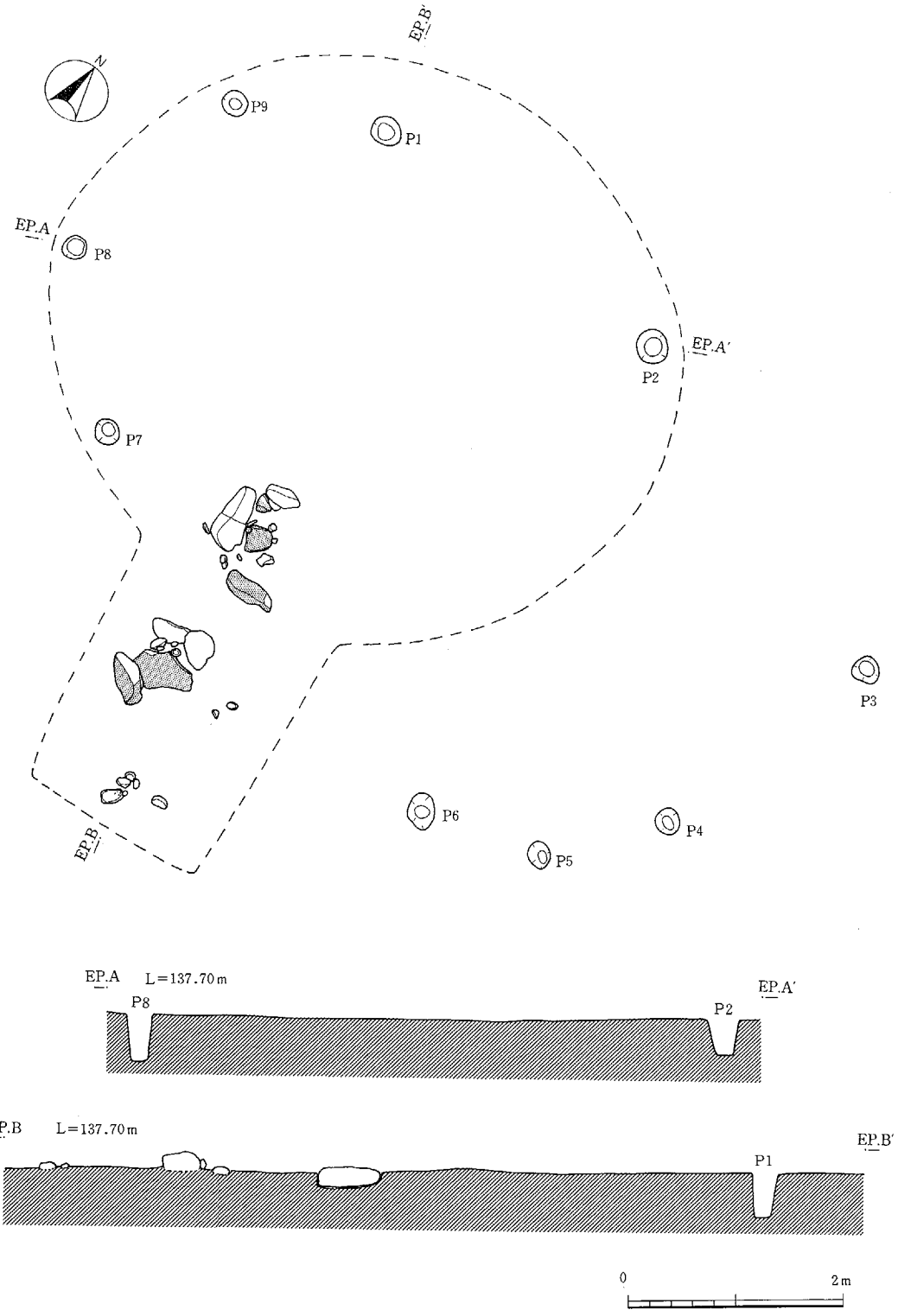
26は深鉢形土器把手の破片である。28、29は剥片石器である。側面を刃部として使用されている。石材は頁岩である。28は長さ7.2cm、幅5.4cm、厚さ2.4cm、重さ120ｇ。床直上より出土した。29は長さ10.3cm、幅5.4cm、厚さ1.9cm、重さ130ｇ。覆土中より出土した。30は磨石である。側面に擦痕が認められる。長さ5.5cm、幅3.0cm、厚さ0.9cm、重さ25.1ｇ。床直上より出土した。31～34は凹石である。石材は安山岩である。31、34は側面を磨石として併用されている。31は長さ9.1cm、幅7.3cm、厚さ3.3cm、35は石皿の破片である。残存の長さ18.8cm、幅16.6cm、厚さ5.6cm、重さ2560ｇ。



第127図　126号住居址出土遺物（２）



第128図　126号住居址出土遺物（３）



第129図　128号住居址

128号住居址（第129図　図版15）

位置　W－19グリッド／形態　柄鏡形？／主軸方向　N－45°－E／規模　6.20ｍ×5.12ｍ　1.15ｍ（南北×東西×張り出し部短軸）／壁高　確認面では掘り込みは検出されなかった。／壁溝　なし。床　褐色砂質土面である。全体に面をなしているが硬質部分は認められなかった。炉址から南側の張り出し部と考えられる部分にかけて平たい河原石が敷かれている。遺存悪く、近・現代の耕作による攪乱によって石が外れている。敷石は部分的に熱を受けたかのように赤色化している。また、埋甕の検出はみられなかった。／柱穴　９本？　Ｐ３～Ｐ６は位置から考えて本址のものと考えるのは無理があると思われる。しかし、柱穴の径と深さと覆土の状況がほぼ同一でありそれらの内側に廻る柱穴の検出がなく、Ｐ３～Ｐ６に伴う遺構の存在しない理由から本址に伴う可能性も考えられるため本址のものとして扱った。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
長径cm	30	32	27	24	26	35	27	24	25
短径cm	25	29	23	23	20	25	22	23	24
深さcm	41	30	48	50	48	34	41	42	55

※遺存状態が悪く周礫の検出はみられなかった。

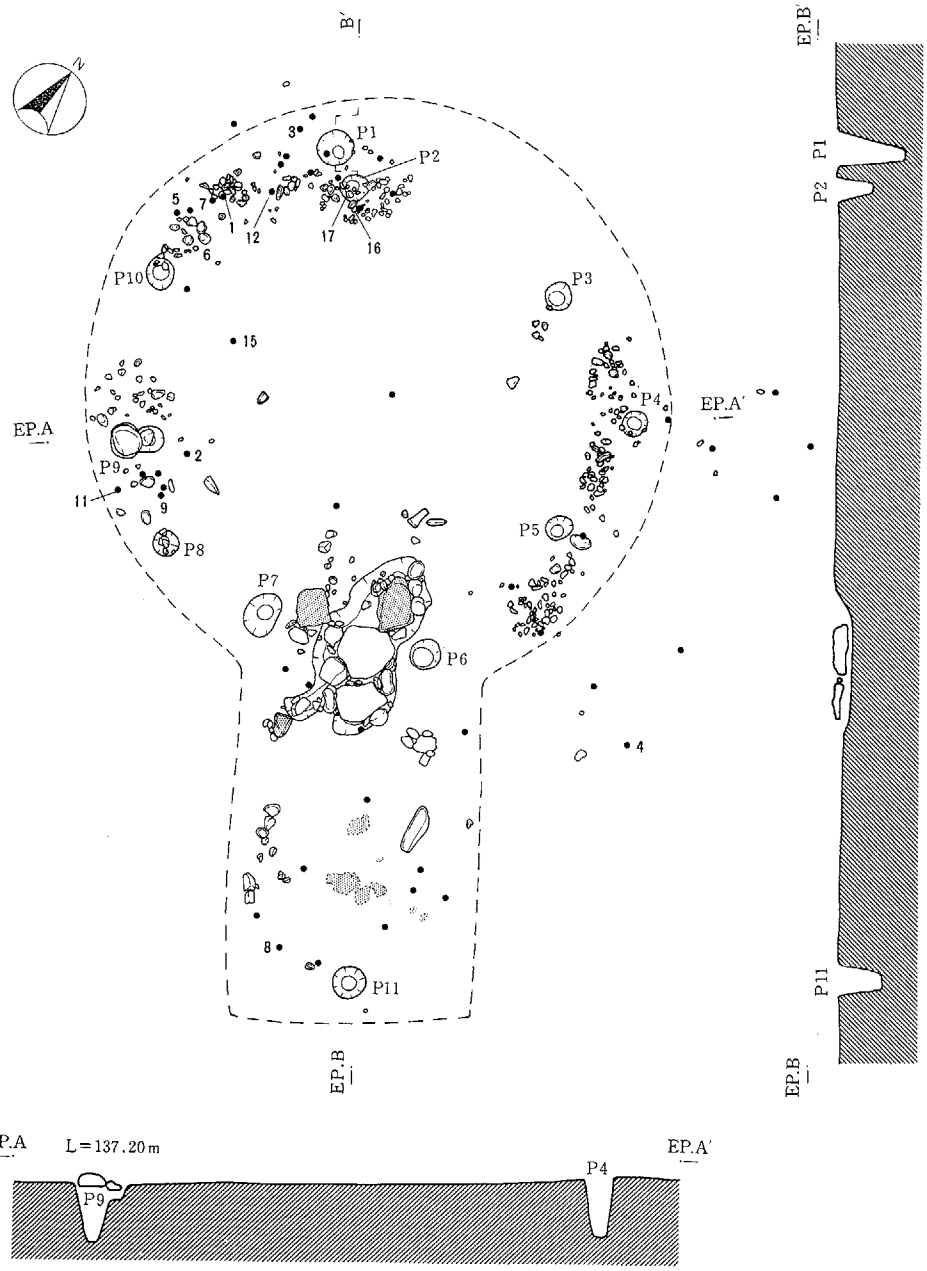
炉　方形の石囲炉である。東側の組石が外れて検出された。組石は火熱を受け部分的に赤色化している。規模は東西不明×南北76cm。掘り方は地山と覆土の区別がつかず検出できなかった。

覆土の状況

耕作土下の確認面では掘り込みが検出できず覆土の状況は不明である。

遺物の出土状況

敷石と炉址付近に土器片が若干出土した。実測可能なものは検出されなかった。



第130図　131号住居址

131号住居址（第130図　図版16）

位置　b－28グリッド／形態　柄鏡形／主軸方向　N－20°－E／規模　推定8.02ｍ（長軸）×4.31ｍ（短軸）×1.03ｍ（張り出し部幅）／壁高　耕作による攪乱の為、壁の検出はできなかった。／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分の検出は認められなかった。張り出し部には床面に敷石が検出された。敷石の範囲は長軸自然礫（河原石）を使用されている。大きめの平石の間に小礫を敷きつめられている。また敷石は部分的に熱を受けたかのように赤色化している。／柱穴　11本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
長軸cm	29	23	22	72	22	25	36	22	29	26	26
短軸cm	28	21	21	63	18	25	26	20	24	21	28
深さcm	53	29	40	34	25	41	51	41	42	36	35

※柱穴の上には小礫を主体とする周礫が検出された。

大部分の礫は床面より約10cm前後で離れている。

炉　検出されなかった。

覆土の状況

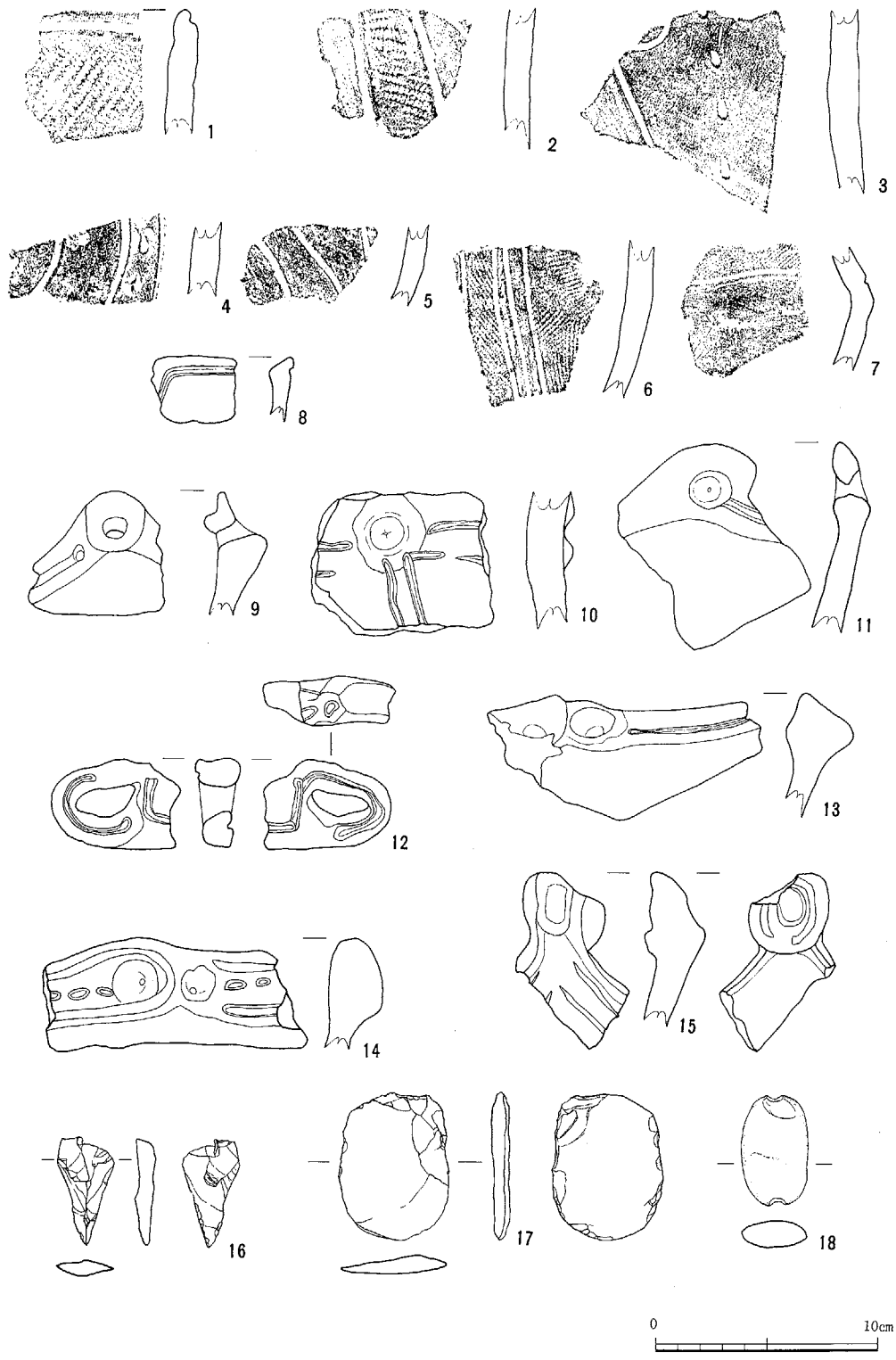
暗褐色砂質土層（縄文遺物包含層）面より覆土との見分けがつかず掘り込みは確認出来なかった。しかし、自然堆積であることは考えられる。

遺物の出土状況

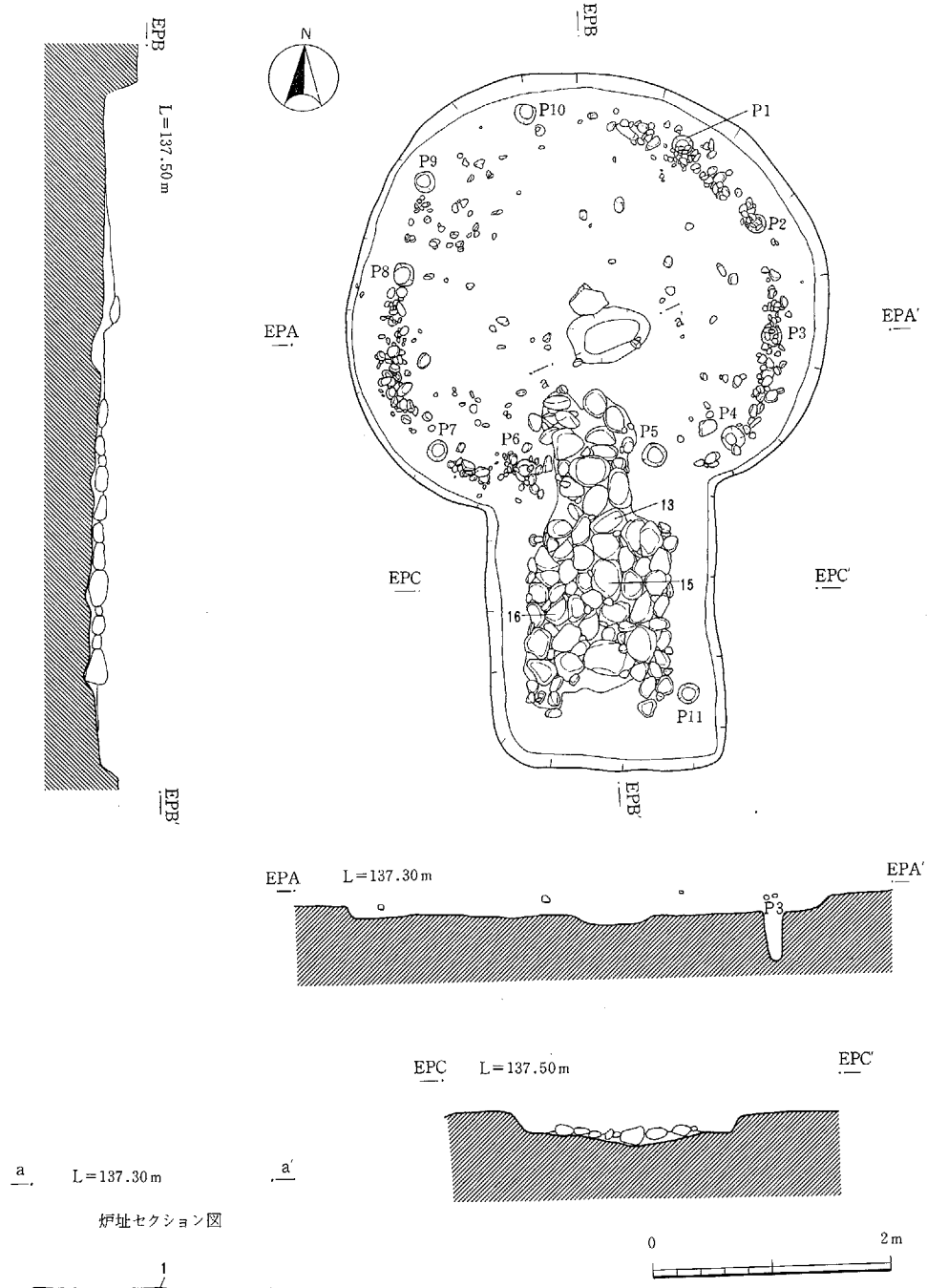
周礫の間に土器片が集中して出土した。また、多孔石１点出土した。実測遺物点数18点。

検出された遺物（第134図　図版42）

覆土中、床着のものを掲載した。１～15は深鉢形土器の破片である。１は口縁部に沈線を巡らせる。覆土中より出土した。２は沈線間に縦位の単節RL縄文を施文される。床直上より出土した。３、４は沈線による区画文の中に列点文を充填される。共に床直上より出土した。また、接合は出来ないが胎土が似ているため同一固体の可能性が考えられる。５も３、４と同様施文と思われる。周礫の間より出土した。６は垂下沈線を施しその間を縦位と横位の単節LR縄文を施文される。周礫の間より出土した。７は沈線文の区画の中にLRの磨消し縄文を施されている。周礫の間より出土した。沈線の上には８、９、11、13は口縁部に刺突文と沈線文を施される。９、11は共に床直上より出土した。13は覆土中の出土である。10は平行沈線を横位と縦位に施される。12は深鉢形土器の把手の破片である。沈線文を施される。周礫の間より出土した。14は口縁部に沈線文を施され、沈線間に棒状工具による刺突を充填される。覆土中より出土した。15は深鉢形土器の把手の破片である。周礫の間より出土した。ラッパ状を呈する。平行沈線文を施される。16は石錘である。剥片の一部を調整した簡易的なものである。長さ3.9cm、幅2.5cm、厚さ0.7cm、重さ５ｇ。石材は頁岩である。周礫の間より出土した。17は剥壁石器である。側面を刃部として使用されている。長さ5.6cm、幅4.1cm、厚さ0.8cm、重さ26.4ｇ。



第131図　131号住居址出土遺物



第1層　暗褐色土　白色軽石粒、細く少量含む。ロームブロックφ10㎜～30㎜多量に含む。しまり強、粘性弱。

第132図　132号住居址

石材は頁岩である。周礫の間より出土した。18は石錘である。長軸方向に切れ目を入れている。長さ6.5cm、幅4.9cm、厚さ1.2cm、重さ26ｇ。周礫の間より出土した。

132号住居址（第132図　図版17）

位置　ａ・ｂ－27グリッド／形態　柄鏡形／主軸方向　Ｎ－0°－Ｅ／規模　5.82ｍ（長軸）×3.86ｍ（短軸）×1.71ｍ（張り出し部幅）／壁高　48cm～52cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。硬質部分の検出は見られなかった。また、炉址より南側の張り出し部にかけて平らな河原石と多孔石が敷きつめられている。敷石の下から埋甕は検出されなかった。／柱穴　11本。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
長径cm	18	17	18	20	21	19	18	18	17	18	19
短軸cm	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	19
深さcm	47	44	40	37	39	41	37	38	39	37	28

※131号住居址同様、柱穴の上には小礫を主体とする周礫が検出された。
大部分の礫は床面より約10cm前後で離れている。

炉　ほぼ中央部寄りに位置する。掘り方の上に礫が検出されている。組石の一部であると考えられ石囲炉の可能性が考えられる。掘り方は長軸68cm、短軸45cm、深さ10cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土と褐色砂質土の２層に分かれる。

遺物の出土状況

覆土中より土器片が散乱した状態で出土した。また、敷石に多孔石が使用されたていた。実測点数16点。

検出された遺物（第132～134図　図版42、43）

１～12、14は深鉢形土器の破片である。覆土中より出土した。

１は隆帯を巡らせ以下を単節LR縄文を施文する。

２は沈線による区画文の中に単節LRの磨消縄文を充填する。３は沈線３～６は沈線間による区画文の中にLR細縄文を施す。

６、７、11は沈線による区画文を施す。

８、９、10は沈線による区画文の中に列点を充填する。さらに９は紐を縦位に貼り付けを行う。

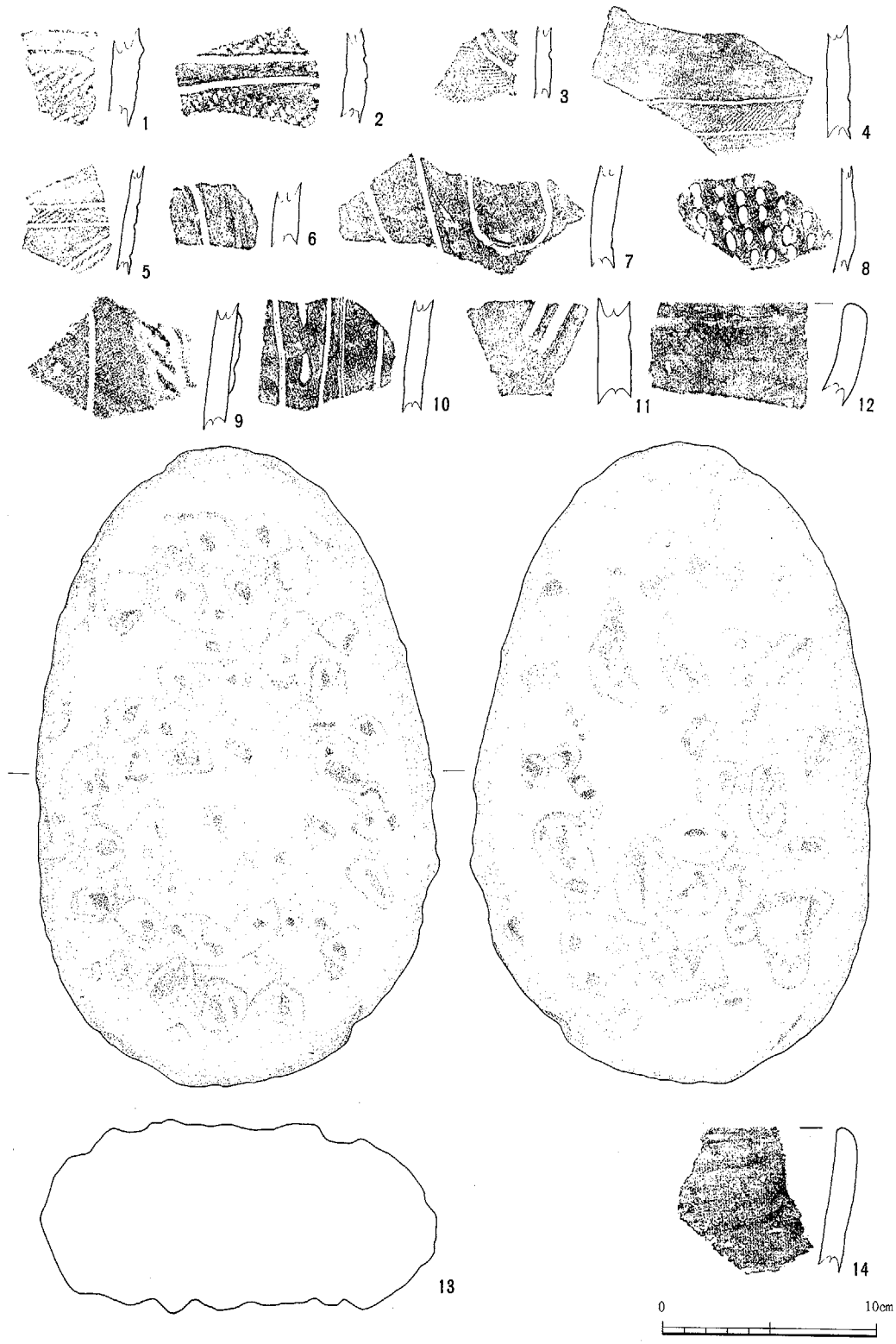
12、14は無文の粗製土器である。

13、15、16は敷石に使用された多孔石と石皿である。石材は安山岩である。

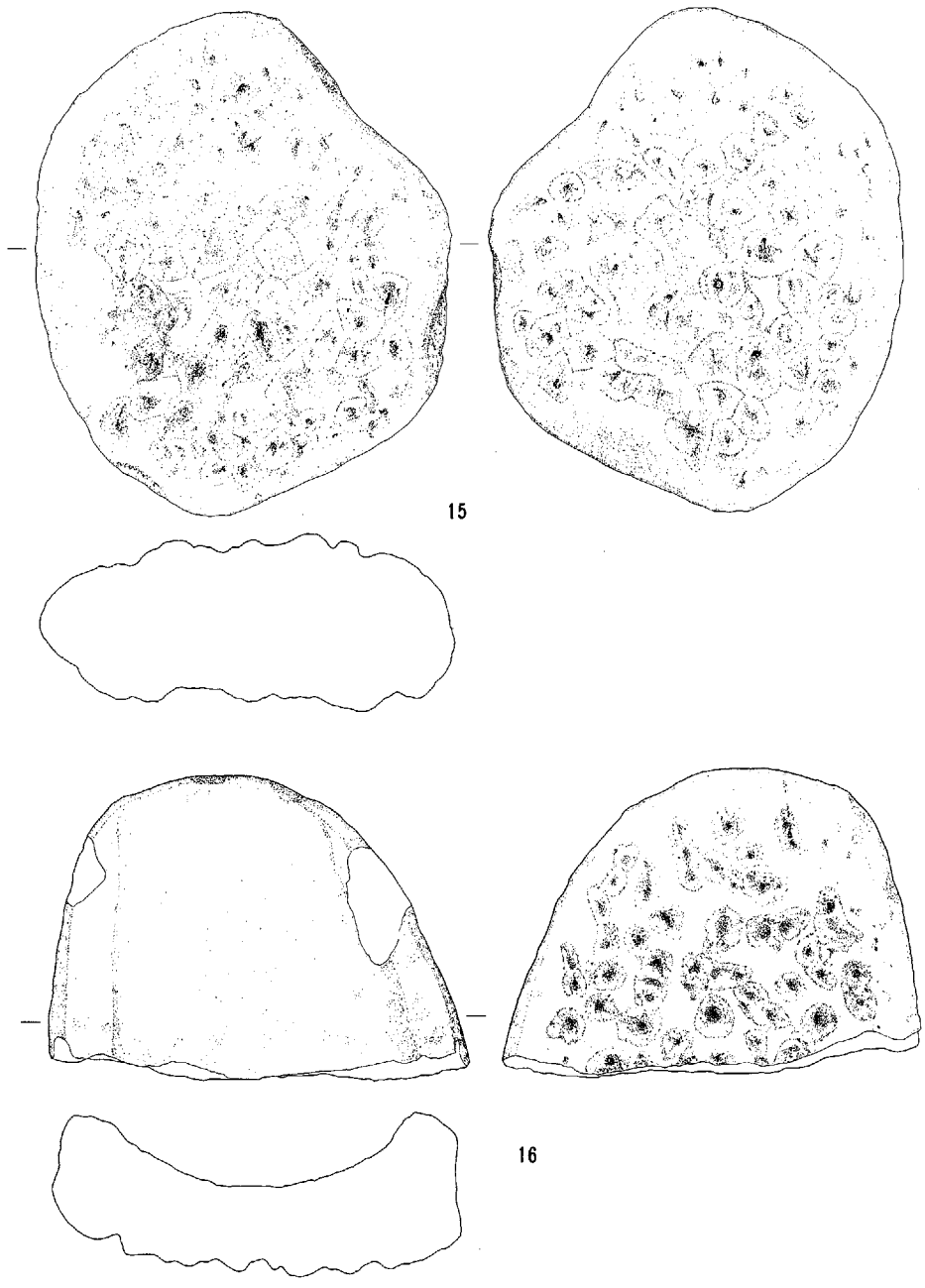
13は長さ29.4cm、幅18.4cm、厚さ8.1cm、重さ2800ｇ。

15は長さ26.8cm、幅21.7cm、厚さ8.7cm、重さ6050ｇ。

16は石皿の破片で裏面に大小多数の凹穴が付られている。石材は安山岩である。残存の長さ16.2cm、幅21.4cm、厚さ８cm、重さ4900ｇ。



第133図　132号住居址出土遺物（1）



第134図　132号住居址出土遺物（２）

3．配石遺構

配石遺構はW－13グリッド内の2基とW－15グリッド内とX～Z17・18・19グリッド内の配石群と大きく三つに分かれて検出された。特に配石群の方は住居址にとり囲まれた内側に存在する。範囲は東西30ｍ、南北は調査区域外に延びるものと考えられる。調査区では南北23ｍの範囲において検出された。調査の順序は調査期間の関係上、上部配石の調査を調査終了した地点より下部配石の調査を行っているため、遺構番号も調査の順で付している。従って上部配石と下部配石の遺構番号が多少前後している。しかし、整理調査では混乱を避けるため現地調査の番号をそのまま用いた。まずW－13グリッド内より説明を行う。

（1）遺構

①W－13グリッド

本グリッド内は黒色土の縄文後期の遺物包層に覆われている2号配石は黒色土層下の褐色砂質土層の上面より検出された。

2号配石（第138図　図版50）

調査当初、石棺形の蓋石と思われたが調査の結果、敷石を固定させる僅かな掘り込みの検出は認められたが下層には配石土坑、土坑等、遺構の検出は見られなかった。規模は長軸88cm、短軸41cmを計る。一部分多孔石を使用されている。また、一部分が火熱を受けている。

3号配石（第138図　図版50）

2号配石と隣接して検出されている。規模は長軸126cm、短軸88cm。2号配石同様、敷石を固定させる僅かな掘り込みのみで下からは遺構の検出は見られなかった。また、一部分が火熱を受けている。

②W－15グリッド

27号配石（第158図　図版58）

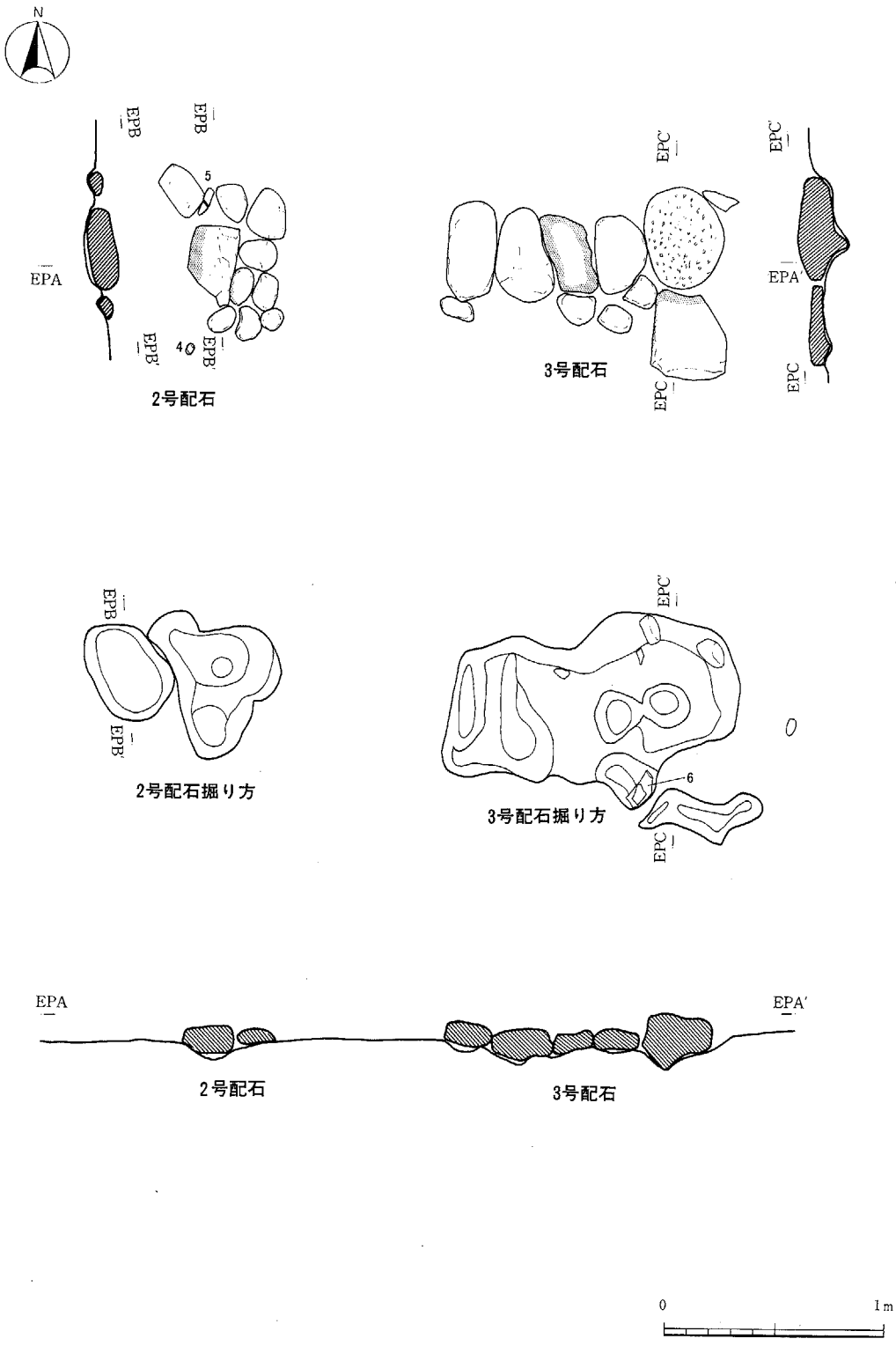
W－15グリッド内に東西2ｍ50cm、南北3ｍ40cmの範囲内に、人為的に石を敷いたかのような遺構が検出されている。遺存が悪く石がところどころ外れ散乱している。石が7箇所火熱を受けたかのように赤色化している。また、配石の間には埋甕が1基検出されている。この遺構の性格として一つ敷石住居址が考えられるが柱穴と炉址の検出は見られなかった。そのため、埋甕は屋外埋設土器として取り扱った。遺構番号は8号埋設土器である。なお、この埋設土器については4、屋外埋設土器の項で述べることにする。

③X～Z－17・18・19グリッド

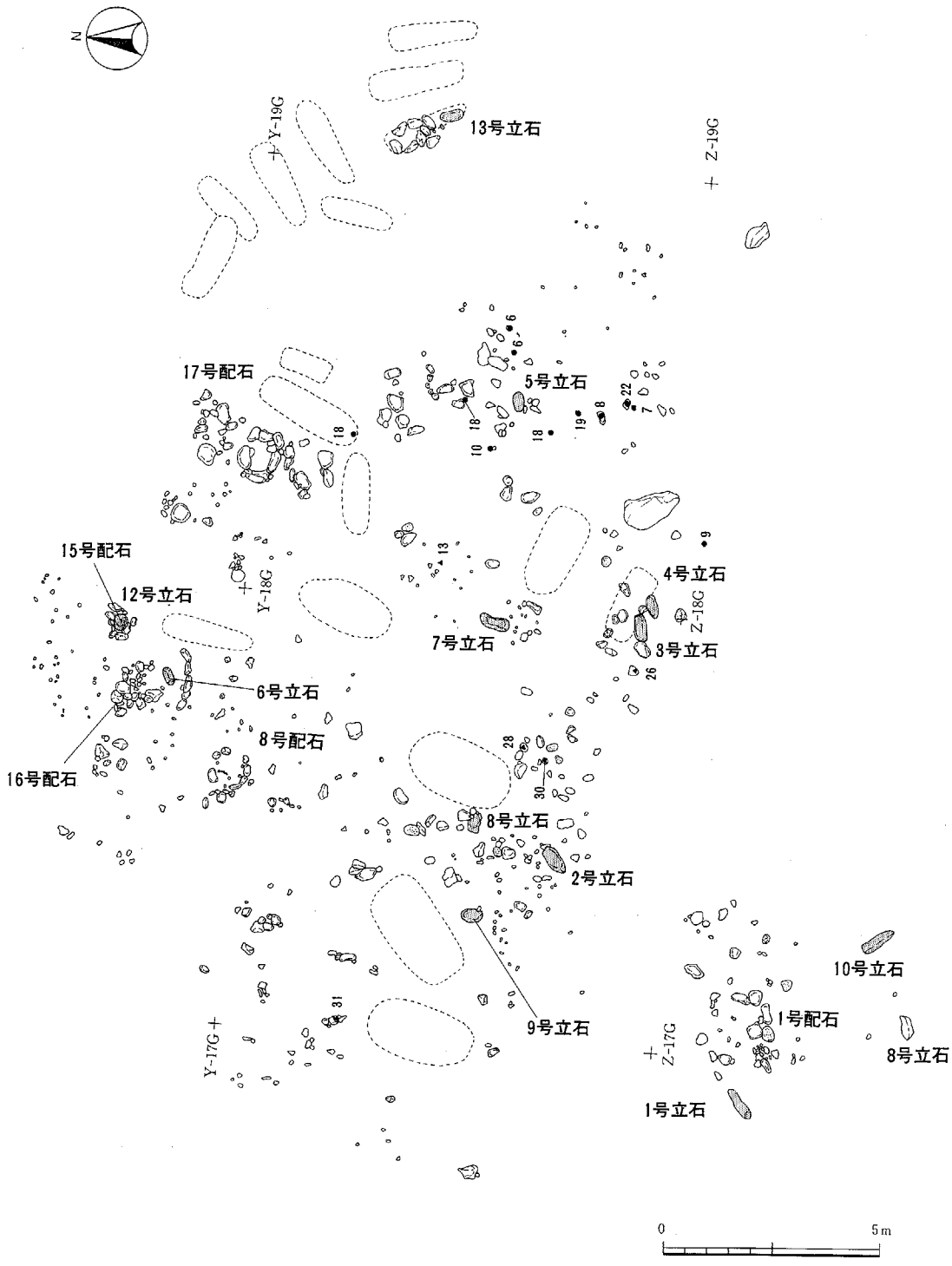
a 上部配石・立石

1号配石（第139図　図版48、50）

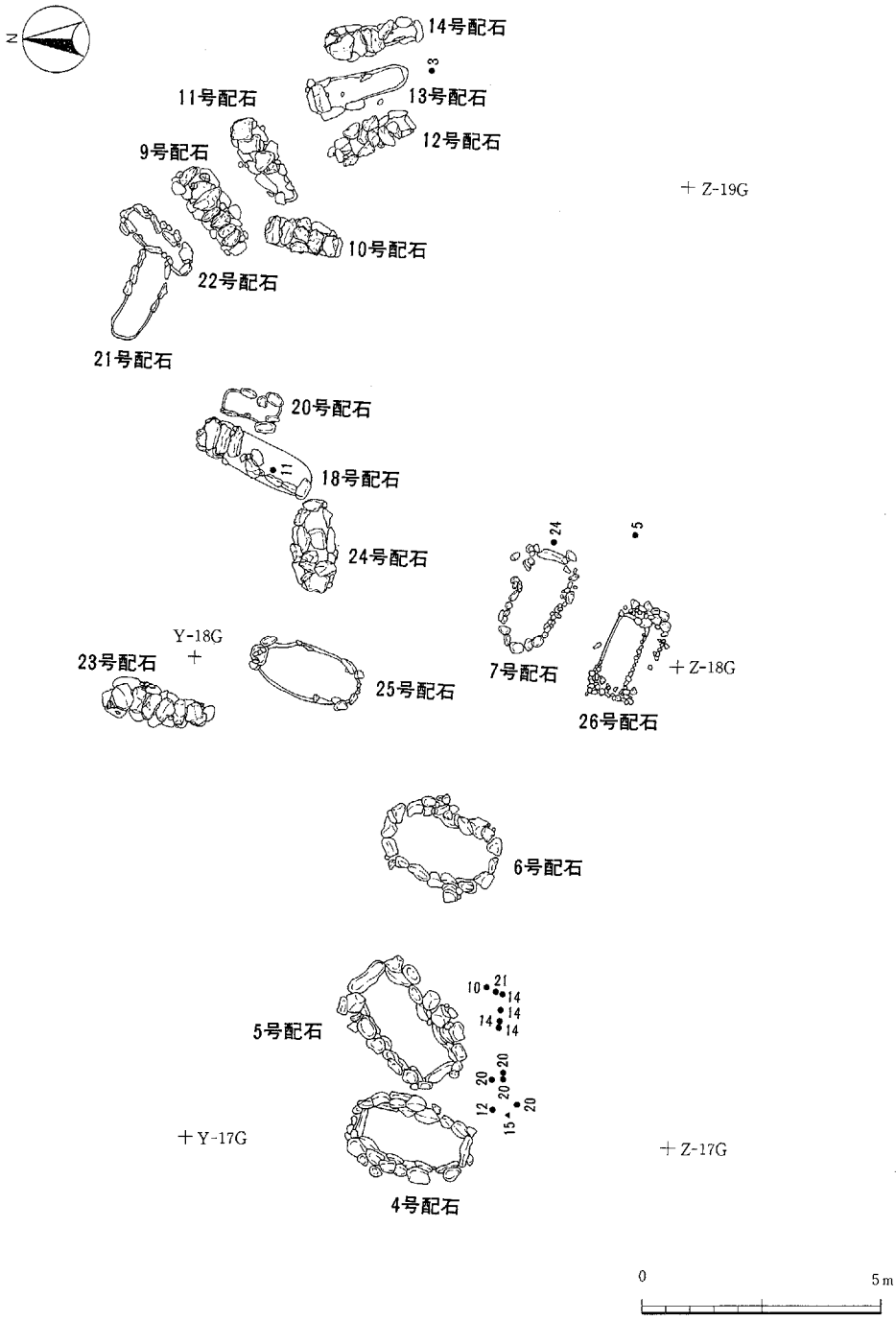
Z－17グリッドに位置する。黒色土層中に構築される。規模は長軸229cm、短軸192cm、形態はほぼ円形を呈する。組石は部分的に火熱を受けたかのように赤色を呈する。また、立石が倒れた状態で南西側に検出した。皿状の掘り込みが認められた。


N
EPB
EPB'
EPA
5
40
2号配石
EPC'
EPA'
EPC
3号配石
2号配石掘り方
6
3号配石掘り方
0
1m
2号配石
3号配石

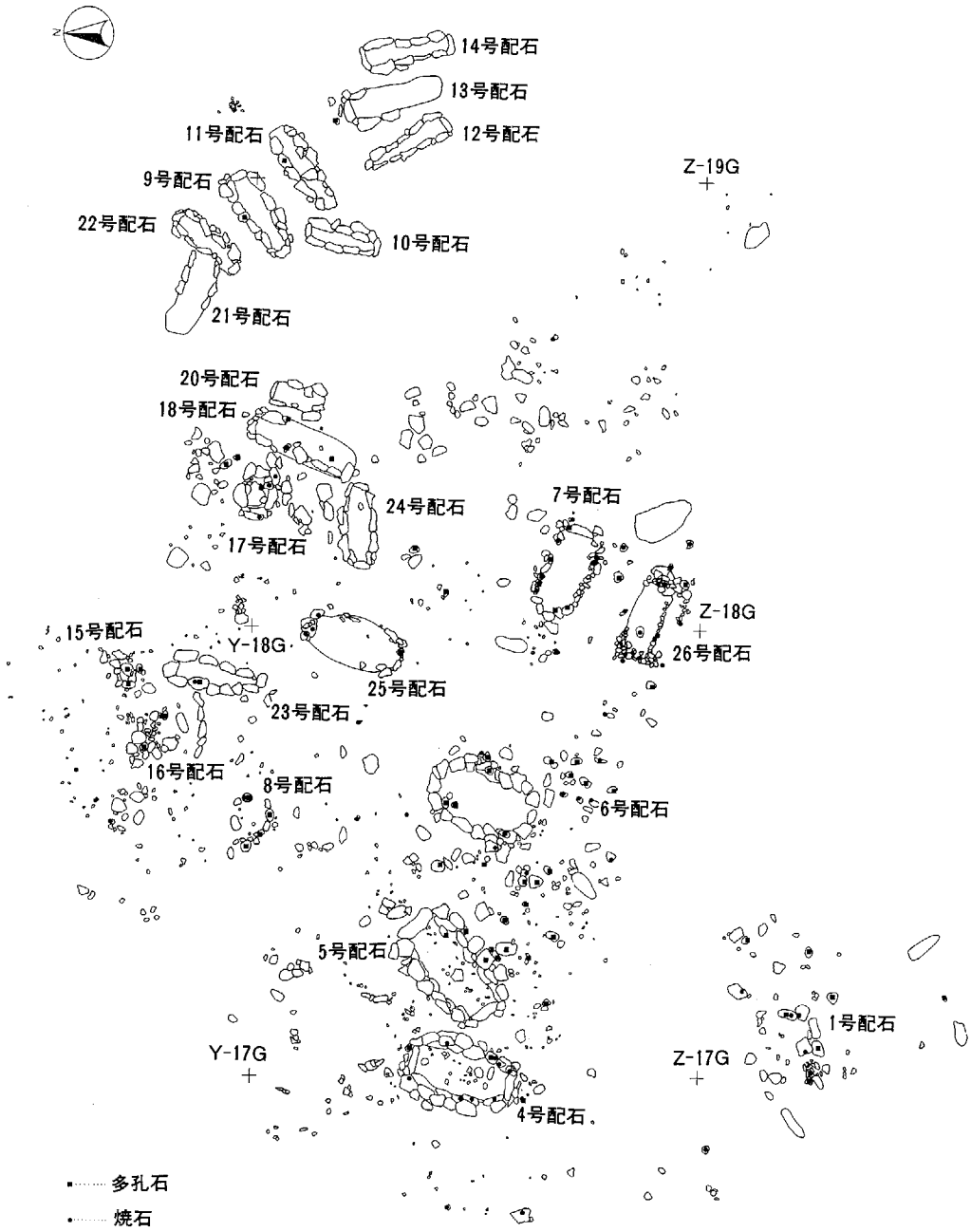
第135図　2・3号配石



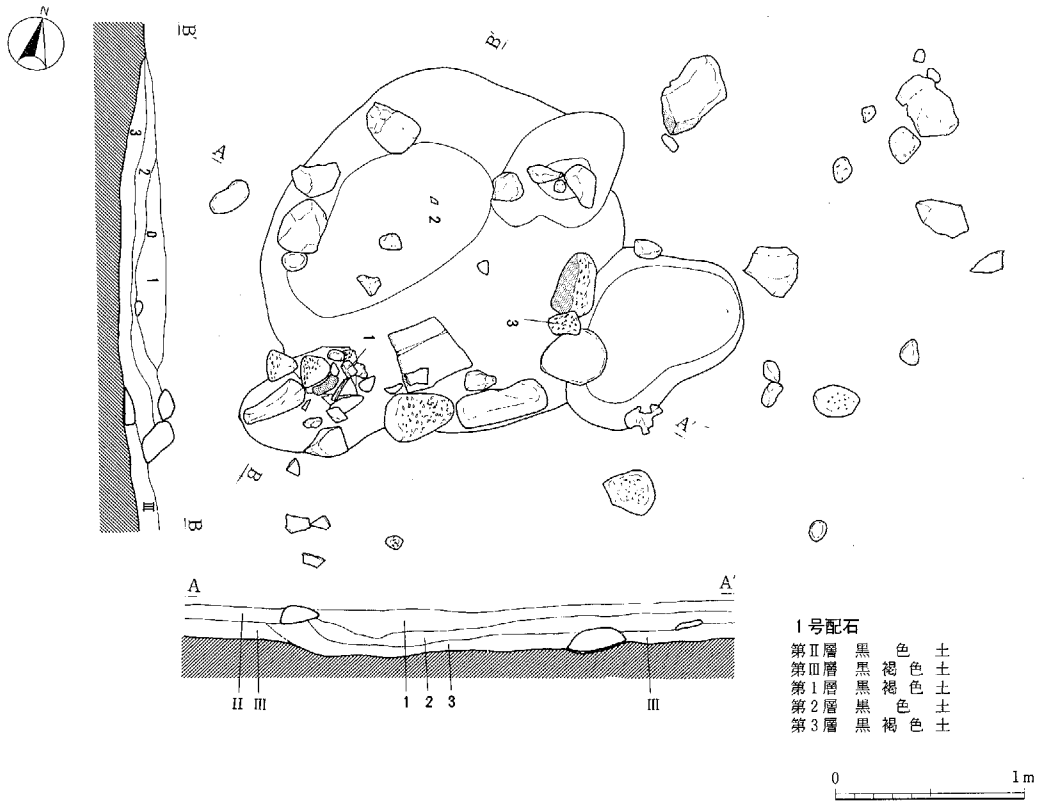
第136図　上部配石・立石全体図



第137図　下部配石全体図



第138図　多孔石・焼石分布図



第139図　1号配石

遺物は南側の側石上より三角壕形土製品がほぼ完形に近い形で1点出土した。全国的にも類例の少ない遺物である。

8号配石（第140図　図版48）

Y－17・18グリッドに位置する。褐色砂質土層中に構築される。規模は長軸71cm、短軸59cm。ほぼ円形を呈する。中央部に立石が立っていたものと考えられる。掘り方は平面は円形、断面は皿状を呈する。

15号配石（第140図　図版49）

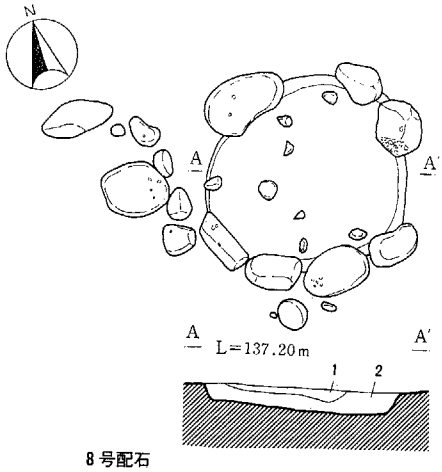
X－17グリッドに位置する。褐色砂質土層中に構築される。規模は長軸42cm、短軸34cm。中央部に立石（12号立石）が倒れている。長さは34cmを計る。配石の形態はほぼ方形を呈する。

16号配石（第140図　図版49）

X－17グリッドに位置し、暗褐色砂質土中に構築される。遺存が悪く北側の組石は後世の耕作により攪乱され散乱して検出。掘り方は攪乱が入り規模は不明であるが残存された組み石から考えて円形に廻り、立石が中央に立っていたものと考えられる。一部分多孔石を使用されている。立石（第140図参照）は長さ91cmを計る。

1号立石（第141図　図版48）

Z－16グリッド内で倒れた状態で検出された。近接する1号配石に伴うものと考えられる。長さは78cmを計る。

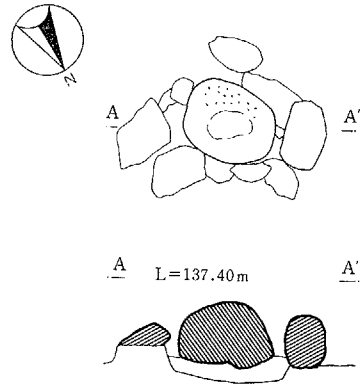


8号配石

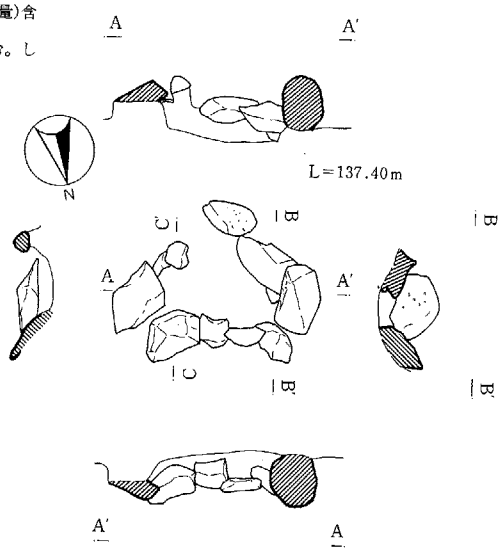
1 褐 色 土　砂粒を多量に含む。遺物(土器片少量)含む。しまり強、粘性弱。

2 暗褐色土　小礫少量含む。白色軽石多量に含む。しまり強、粘性弱。

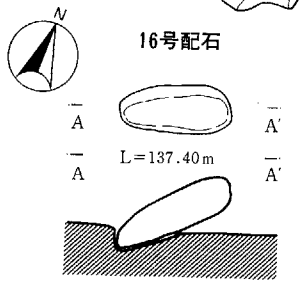
8号配石



15号配石、12号立石

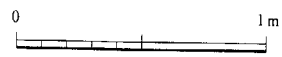


15号配石

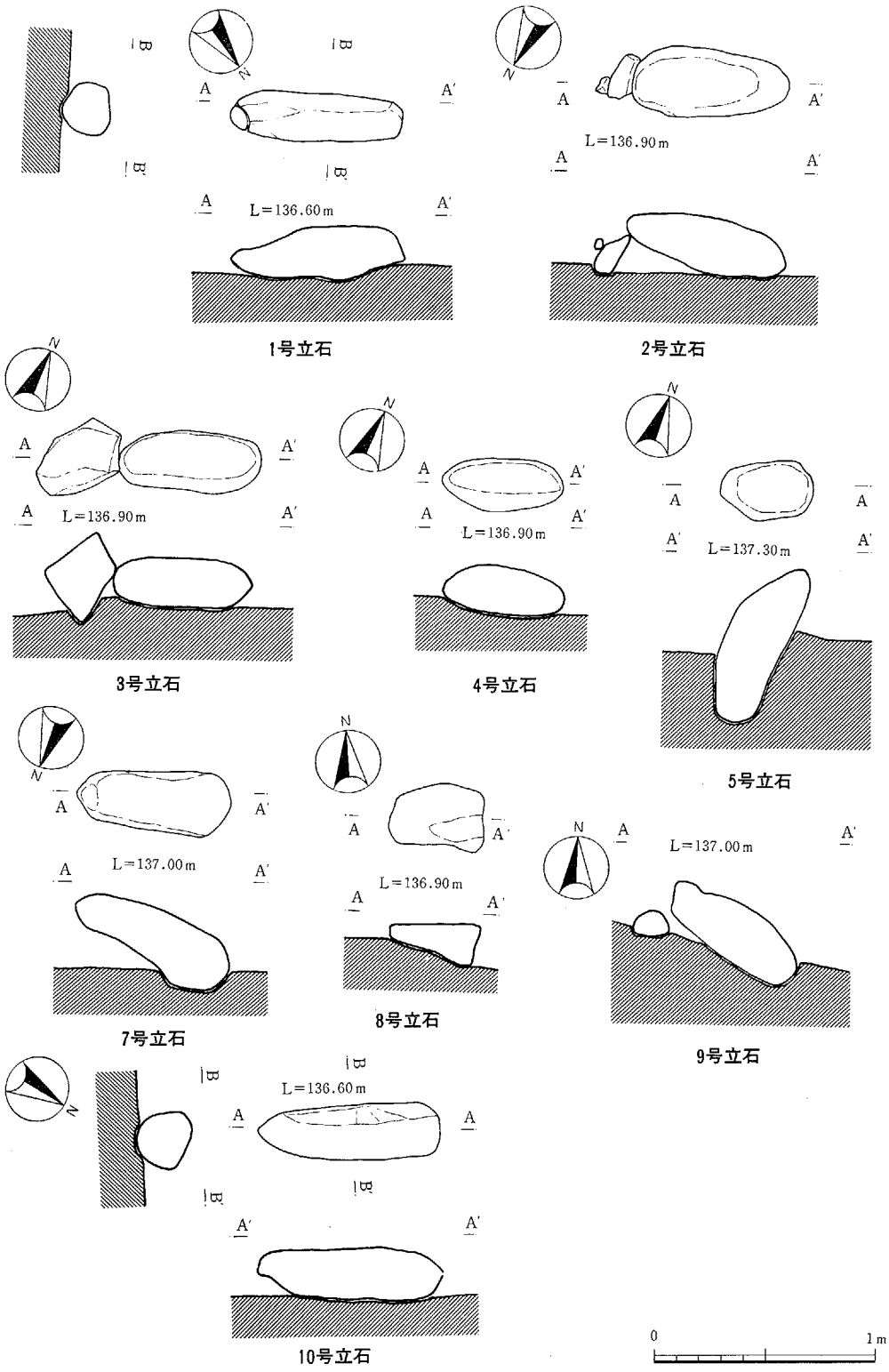


16号配石

6号立石



第140図　8・15・16号配石、6・12号立石



第141図　1・2・3・4・5・7・8・9・10号立石

2号立石（第141図　図版48）

Y－17グリッド内の南寄りに支え石と思われるものに倒れ寄りかかった状態で検出された。長さ72cmを計る。

3号立石（第141図　図版48）

Y－17グリッド内の26号配石の上より倒れた状態で検出された。長さ61cmを計る。詳細は26号配石の項を参照。

4号立石（第141図　図版48）

Y－18グリッド内の26号配石の上より倒れた状態で検出された。長さ54cmを計る。詳細は26号配石の項を参照。

5号立石（第141図　図版48）

Y－18グリッドの中央よりやや南寄りに立って検出された。立石の掘り方は覆土と地山暗褐色砂質土層）の見分けがつかず検出出来なかった。覆土は人為的な埋土と考えられる。また、周囲に礫が散乱しており、本立石に伴う配石の残骸の可能性が考えられる。立石の長さは75cmを計る。

6号立石（第140図　図版48）

X－17グリッド内の16号配石内に倒れて検出された。長さは91cmを計る。詳細は16号配石の項参照。

7号立石（第141図　図版48）

Y－17グリッド内で7号配石付近より傾いて検出された。周囲に散乱した状態で礫が検出されている。本立石の支え石の可能性が考えられる。長さ74cmを計る。掘り方は肉眼では覆土と地山の区別がつかず検出できなかった。

8号立石（第141図　図版48）

Y－17グリッド内で6号配石に近接して倒れた状態で検出された。長さ39cmを計る。

9号立石（第141図　図版48）

Y－17グリッド内で5号立石に近接して倒れた状態で検出された。長さ61cmを計る。

10号立石（第141図　図版48）

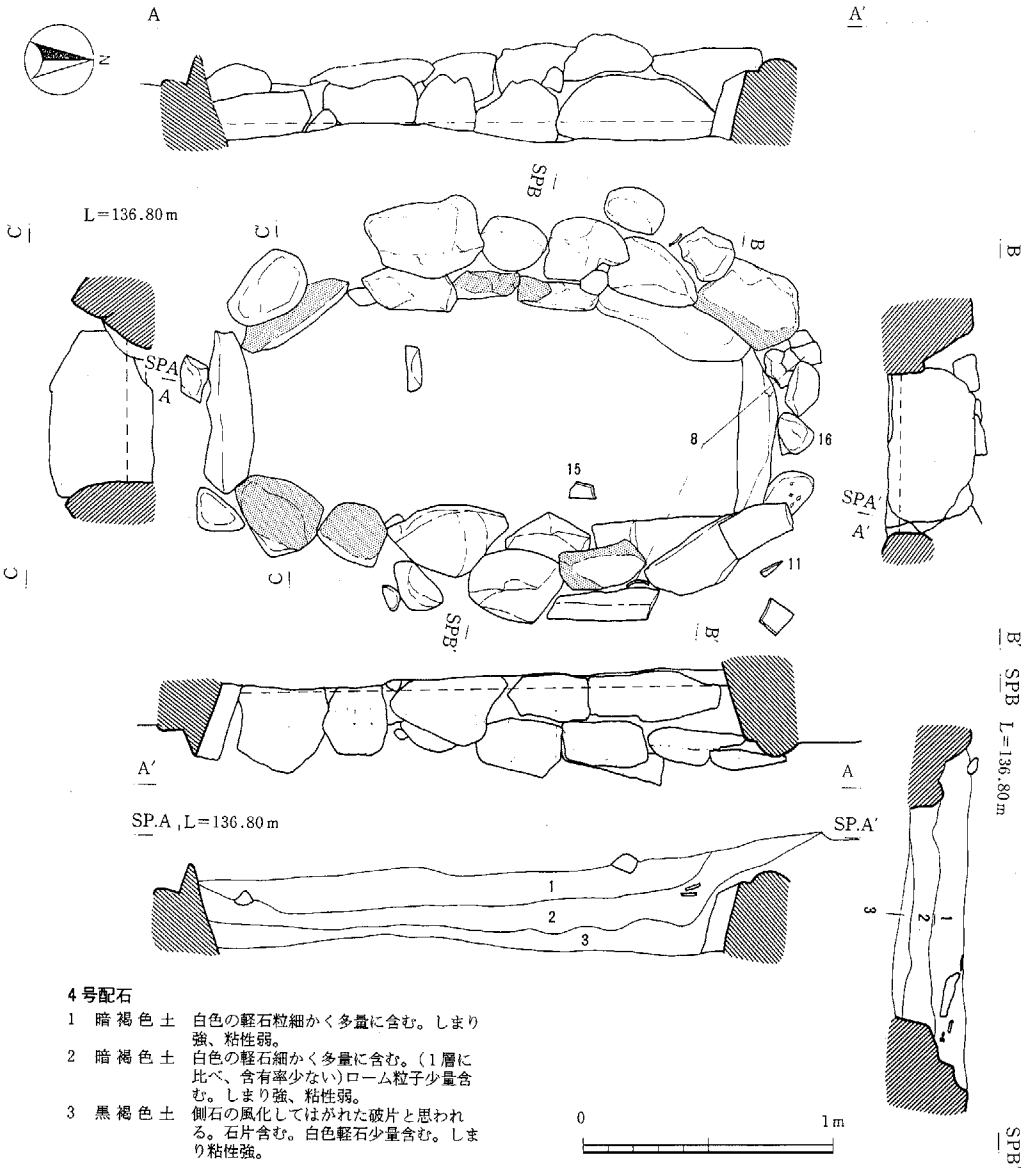
Z－17グリッド内で中央部よりやや西寄りに倒れた状態で検出された。長さ82cmを計る。尚、低台地は南側の調査区外に延びるため本立石に伴う遺構は調査区外に存在する可能性が考えられる。

b　下部配石

上部配石下層の暗褐色砂質土層上面より石棺形の配石が検出された。以下、遺構番号順に説明を行う。

4号配石（第142図　図版51）

Y－17グリッドに位置し、主軸方向はN－10°－E。暗褐色砂質土層中に構築される。規肝は長軸194cm、短軸86cm。形態は長方形を呈する。側面の石は2段に組まれている。また、部



第142図　4号配石

分的に赤くなっている。火熱を受けた赤色とは異なり赤彩を施されているかのようである。しかし、現状保存のため科学分析はおこなわれていない。そのため赤色は火熱を受けたものか、彩色されたものかは断定することはできない。

覆土の状況

地山との区別がつきにくい。人為的な埋土より自然堆積的な感じが窺える。暗褐色土（砂質土）を基調に2層と黒褐色土のあわせて3層に分層される。

遺物の出土状況

遺物は覆土第1層より多量に出土し、さらに第2層より土器片が少量出土した。また底より土器片1片出土している。また北側の側面石の上ほぼ中央部に陰石と考えられる石が意識的に

置かれた様な形で検出された。

5号配石（第143図　図版52）

Y－17グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はN－40°－E。規模は長軸207cm、短軸78cm。形態は石棺形を呈する。4号配石と同様、側面の石は2段に組まれている。

覆土の状況

地山との区別がつきにくい。人為的な埋土より自然堆積的な感じが窺える。暗褐色土（砂質）を基調に2層と黒褐色土のあわせて3層に分層される。

遺物の出土状況

遺物は覆土の上層より多量の土器片とその他、多孔石と自然礫が少量出土した。

6号配石（第144図　図版53）

Y－17グリッドに位置する。暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はN－5°－E。規模は長軸197cm、短軸74cm。形態は長方形を呈する。

覆土の状況

地山との区別がつきにくい。人為的な埋土より自然堆積的な感じが窺える。暗褐色土（砂質）を基調に2層と黒褐色土のあわせて3層に分層される。また、本址は覆土と床面の土壌サンプルを取りあげ科学分析を行った。詳細は第7章を参照。

遺物の出土状況

遺物は覆土第1層より土器片が少量出土した。

7号配石（第144図　図版54）

Y－17・18グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。側面は礫と小礫を埋め込んで構築されている。その中には多孔石が部分的に多孔石が使用されている。また小礫の中には赤色を呈するものがある。形態は長方形を呈する。

覆土の状況

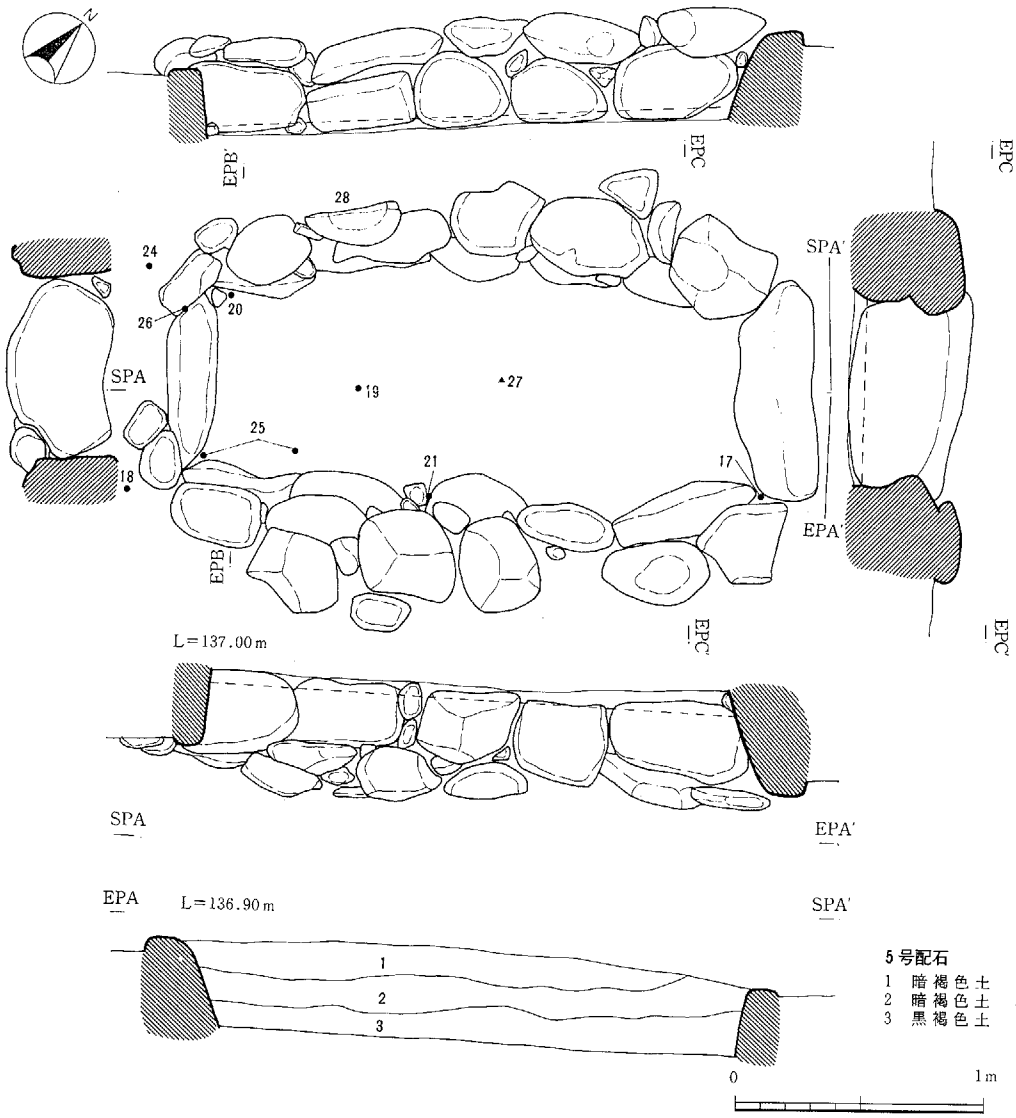
自然堆積であると考えられる。暗褐色砂質土を基調に2層と黒褐色土の合わせて3層に分層される。本址も科学分析が行われている。

遺物の出土状況

本東側の側石付近より深鉢形土器口縁部破片が1点出土した。また、直接本址に伴うかは不明であるが南東の側面石より約1ｍ離れて板状土偶の胴部の破片が1点出土した。

9号配石（第145図　図版54）

X，Y－18グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。組石に多孔石が使用されている。主軸方向はN－35°－E。規模は長軸167cm、短軸42cm。形態は長方形を呈する。蓋石をもつ。蓋石は完存していた。



第143図　5号配石

覆土の状況

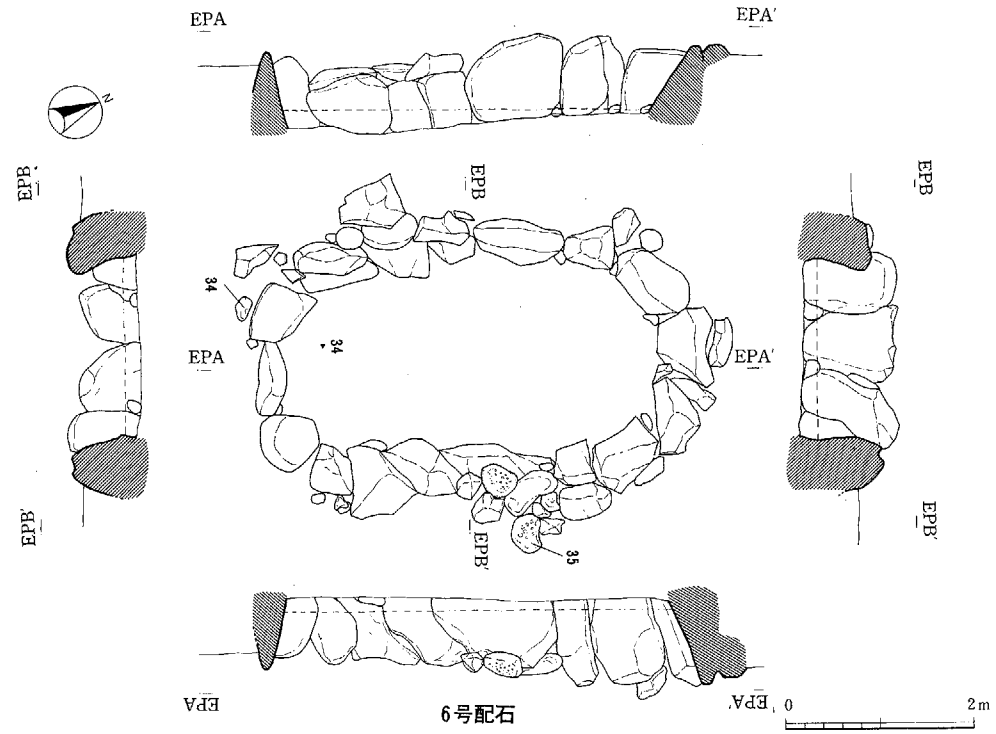
蓋石の間より流れ込んでいることが観察されることから自然堆積であると考えられる。暗褐色土（砂質）を基調に2層と灰褐色土の合わせて3層に分層される。本址も科学分析を行った。

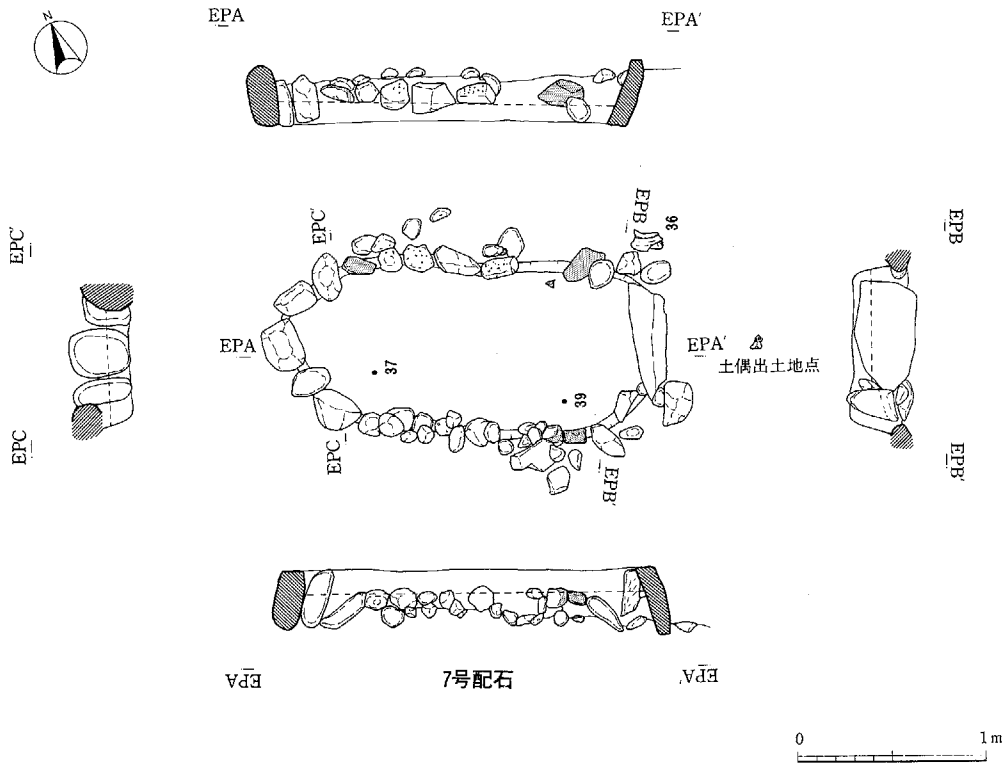
遺物の出土状況

配石内より遺物は検出されなかった。周辺より土器片が5点出土。

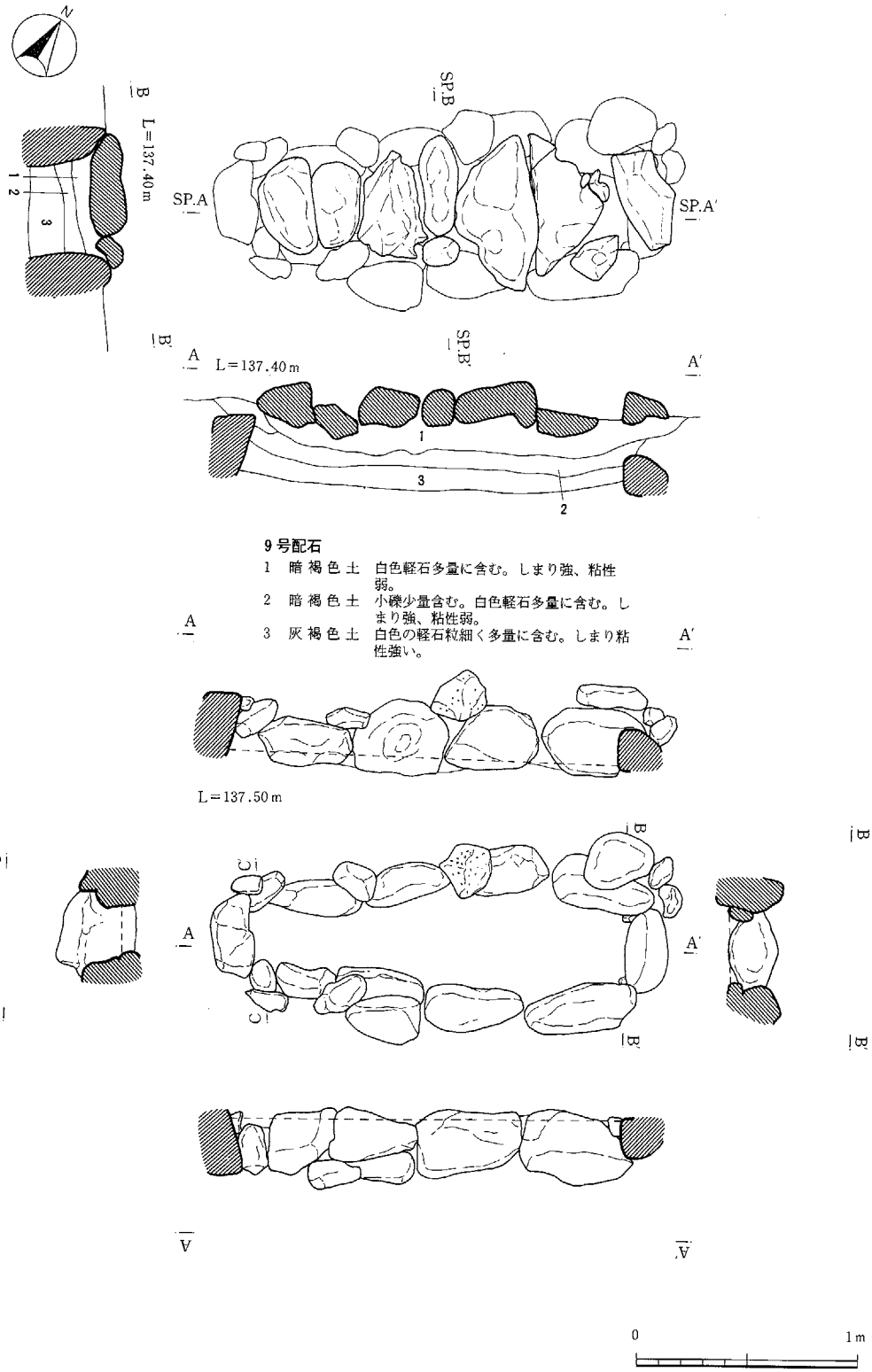
10号配石（第146図　図版54）

Y－18グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はN－5°－E。規模は長軸136cm、短軸27cm。側石の一部分に多孔石を使用されている。蓋石をもつ。形態は長方形を呈する。


EPA
EPA'
EPB
EPB'
34
33
35
6号配石
0
2m


EPA
EPA'
EPC
EPC'
EPB
EPB'
36
37
39
土偶出土地点
7号配石
0
1m

第144図　6・7号配石

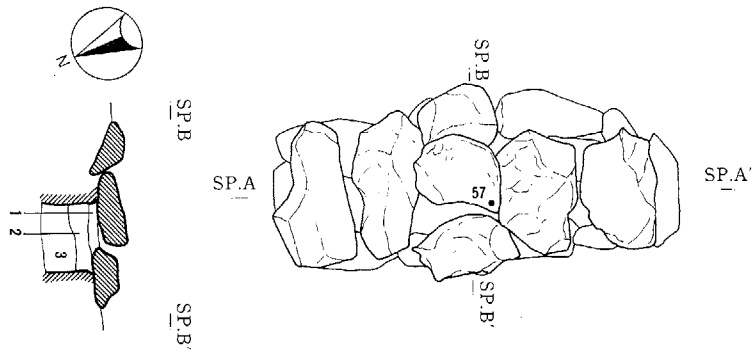


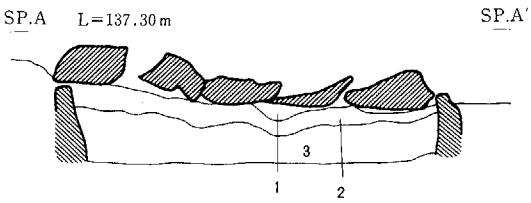
9号配石

1　暗褐色土　白色軽石多量に含む。しまり強、粘性弱。
2　暗褐色土　小礫少量含む。白色軽石多量に含む。しまり強、粘性弱。
3　灰褐色土　白色の軽石粒細く多量に含む。しまり粘性強い。

0　1m

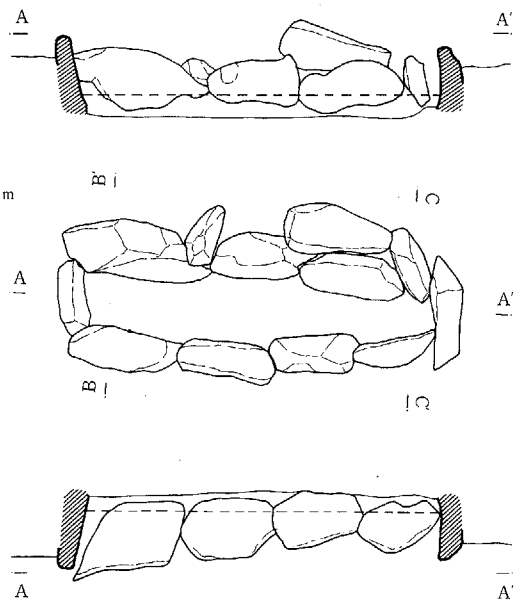
第145図　9号配石

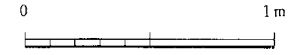




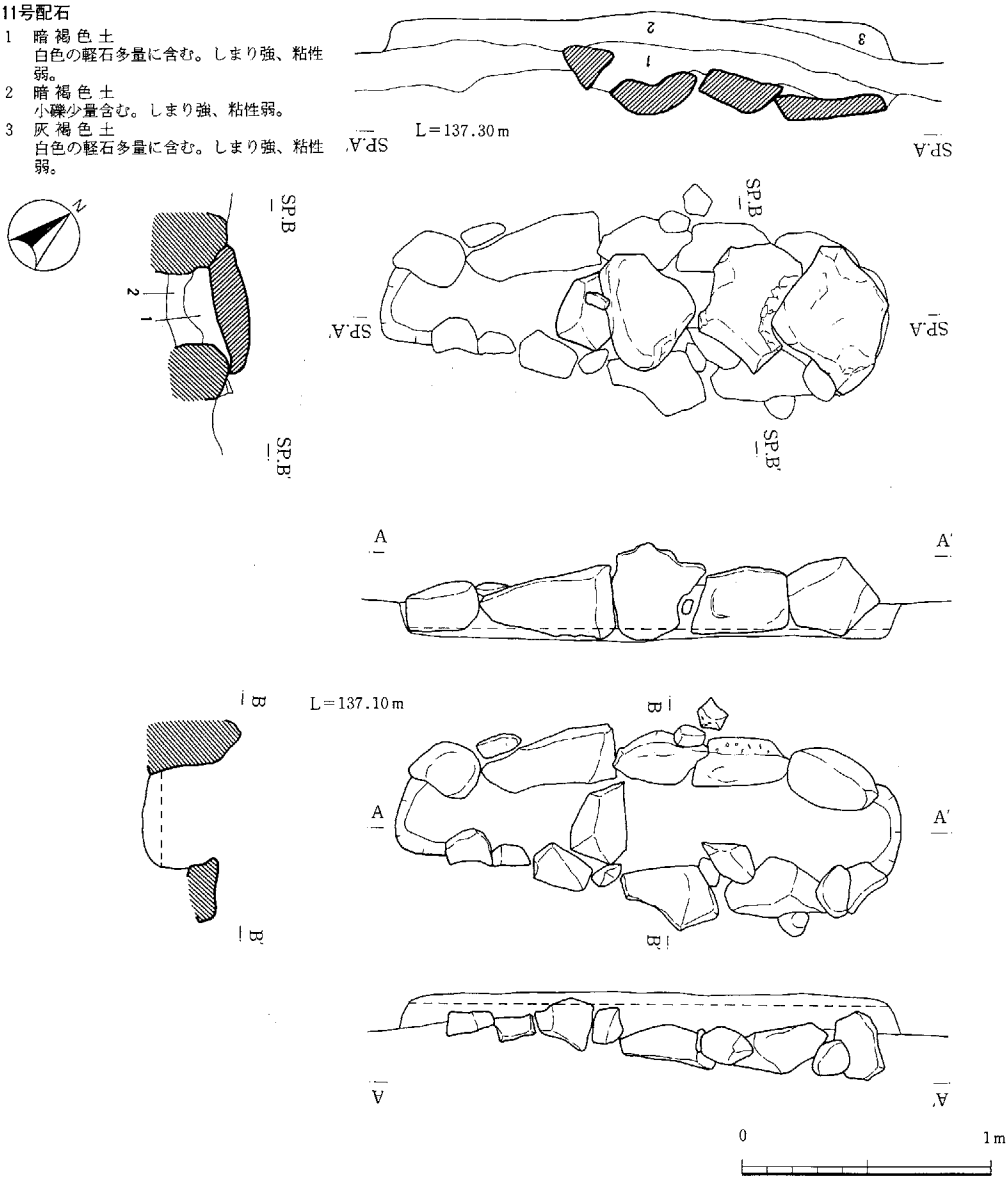
10号配石

1　暗褐色土　白色の軽石多量に含む。しまり粘性弱。
2　暗褐色土　小礫少量含む。白色軽石多量含む。側石の風化したものを含む。しまり強、粘性弱。
3　灰褐色土　白色の軽石粒細かく多量含む。小礫少量含む。しまり粘性強。





第146図　10号配石



第147図　11号配石

覆土の状況

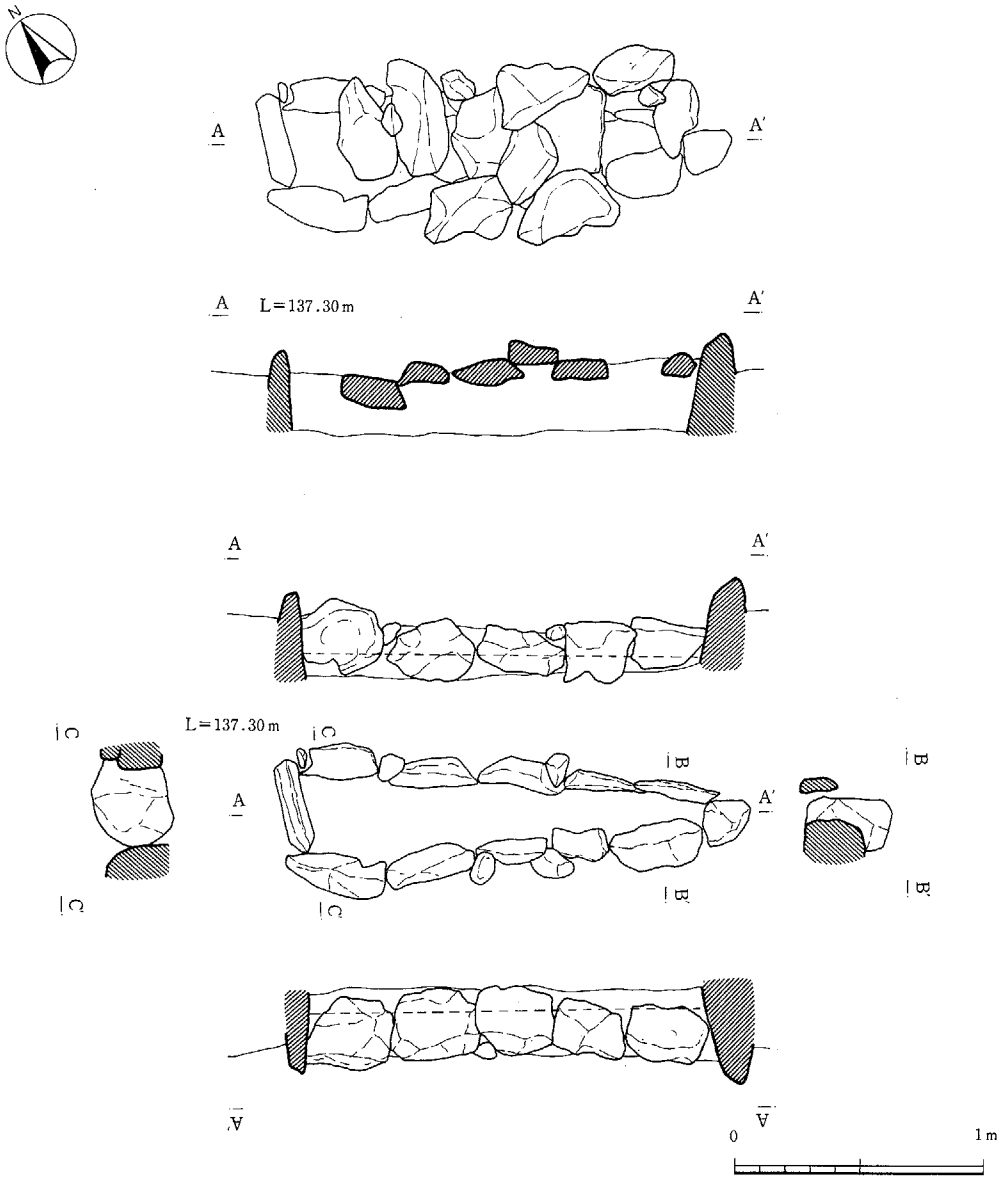
9号配石と状況が似ており自然堆積であると考えられる。暗褐色土（砂質）を基調に2層と灰褐色土の合わせて3層に分層される。

遺物の出土状況

蓋石の上より出土した。

11号配石（第147図　図版54）

Y－19グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はN－65°－E。規模は長軸193cm、短軸32cm。形態は長方形を呈する。南西側と北東側の側石は欠損し掘り方が検



第148図　12号配石

出された。蓋石をもつ。蓋石は約半分が存在していない。

覆土の状況

9号、10号配石と状況が似ており蓋石の間より流れ込んでいる。自然堆積と考えられる。暗褐色土（砂質）と灰褐色土の合わせて2層に分層される。

遺物の出土状況

遺物は検出されなかった。

12号配石（第148図　図版55）

Y－19グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はN－30°－E。規模

は長軸157cm、短軸22cm。形態は二等辺三角形を呈する。特徴は南東側の側石に最大幅をもち北西側にいくに従い細くなっている。蓋石をもつ。２カ所分の蓋石が欠落している。

覆土の状況

９号、10号、11号配石の覆土の状況と似ている。自然堆積と考えられる。暗褐色土（砂質）を基調に２層と灰褐色土層の合わせて３層に分層される。

遺物の出土状況

遺物は検出されなかった。

13号配石（第149図　図版55）

Ｙ－19グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はＮ－２°－Ｅ。全体の約３分の２は組石が外れて掘り方で検出された。また、蓋石も一部分残存するのみで遺存状態が悪い。規模は長軸186cm、短軸44cm。形態は長方形を呈する。南側の幅がやや細くなる。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土（砂質）を基調に２層に分層される。

遺物の出土状況

蓋石の周辺に少量の土器片が出土した。

14号配石（第150図　図版55）

Ｙ－19グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はＮ－２°－Ｅ。規模は長軸168cm。短軸21cm。形態は長方形を呈する。北側に最大幅をもち南側に亘って細くなる。蓋石をもつ。全体の３分の１は欠落している。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土（砂質）と黒褐色土を基調に３層の合わせて４層に分層される。

遺物の出土状況

遺物は検出されなかった。

17号配石（第151図　図版55）

Ｙ－18グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はＮ－０°－Ｅ。規模は長軸129cm、短軸73cm。形態は長方形を呈する。他の石棺形と比べ、規模が小さい。また、４号配石のように組み石が部分的に赤色を呈する。蓋石をもつ。

覆土の状況

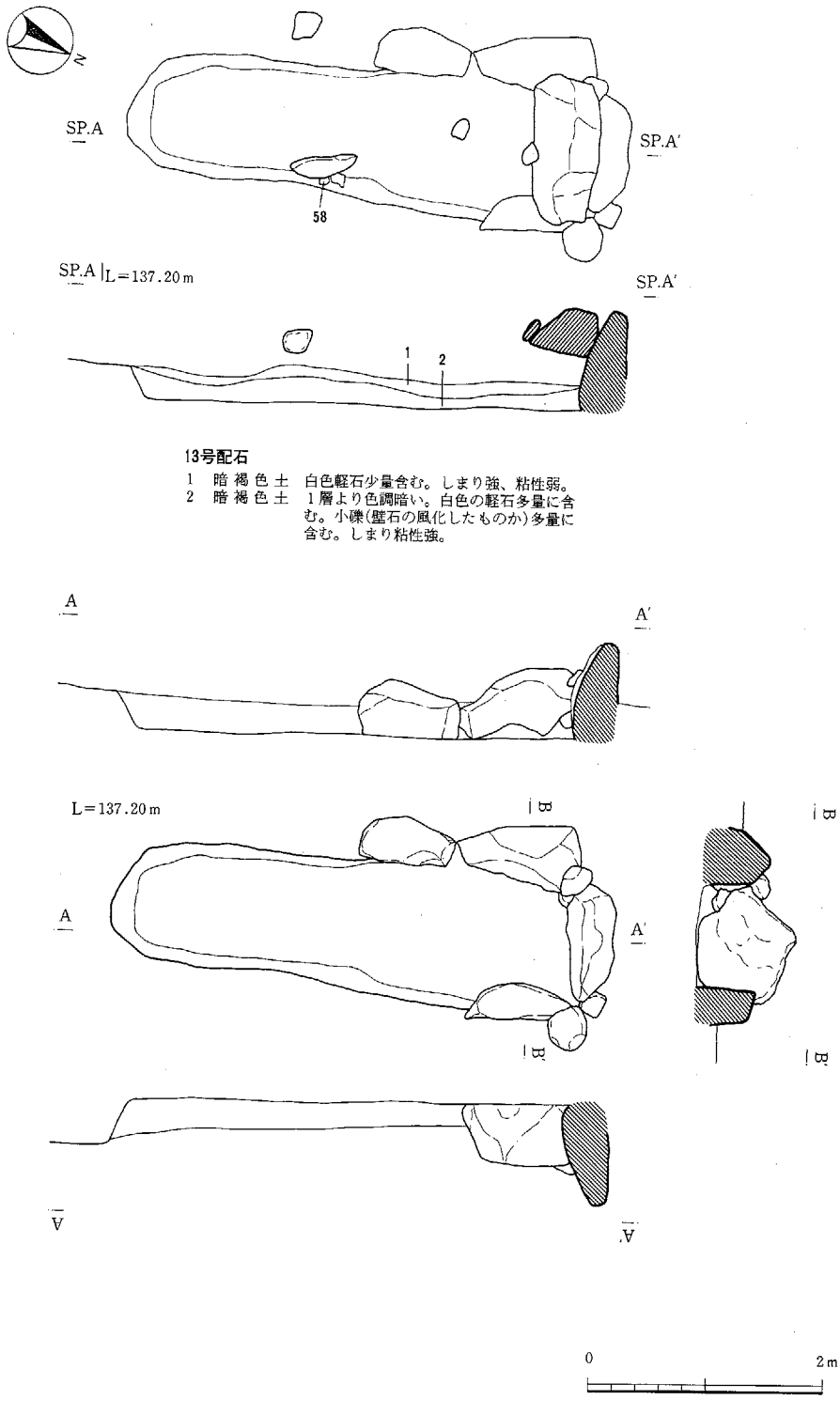
自然堆積である。暗褐色土（砂質）を基調に２層と灰褐色土の合わせて４層に分層される。

遺物の出土状況

遺物は検出されなかった。

18号配石（第152図　図版56）

Ｙ－18グリットに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はＮ－15°－Ｅ。全体の約２分の１の側面の石が外れ掘り方が露呈して検出された。規模は長軸226cm、短軸33cm。形態は長方形を呈する。蓋石は北側より３列目まで遺存した。それより南側は側面の石同様欠

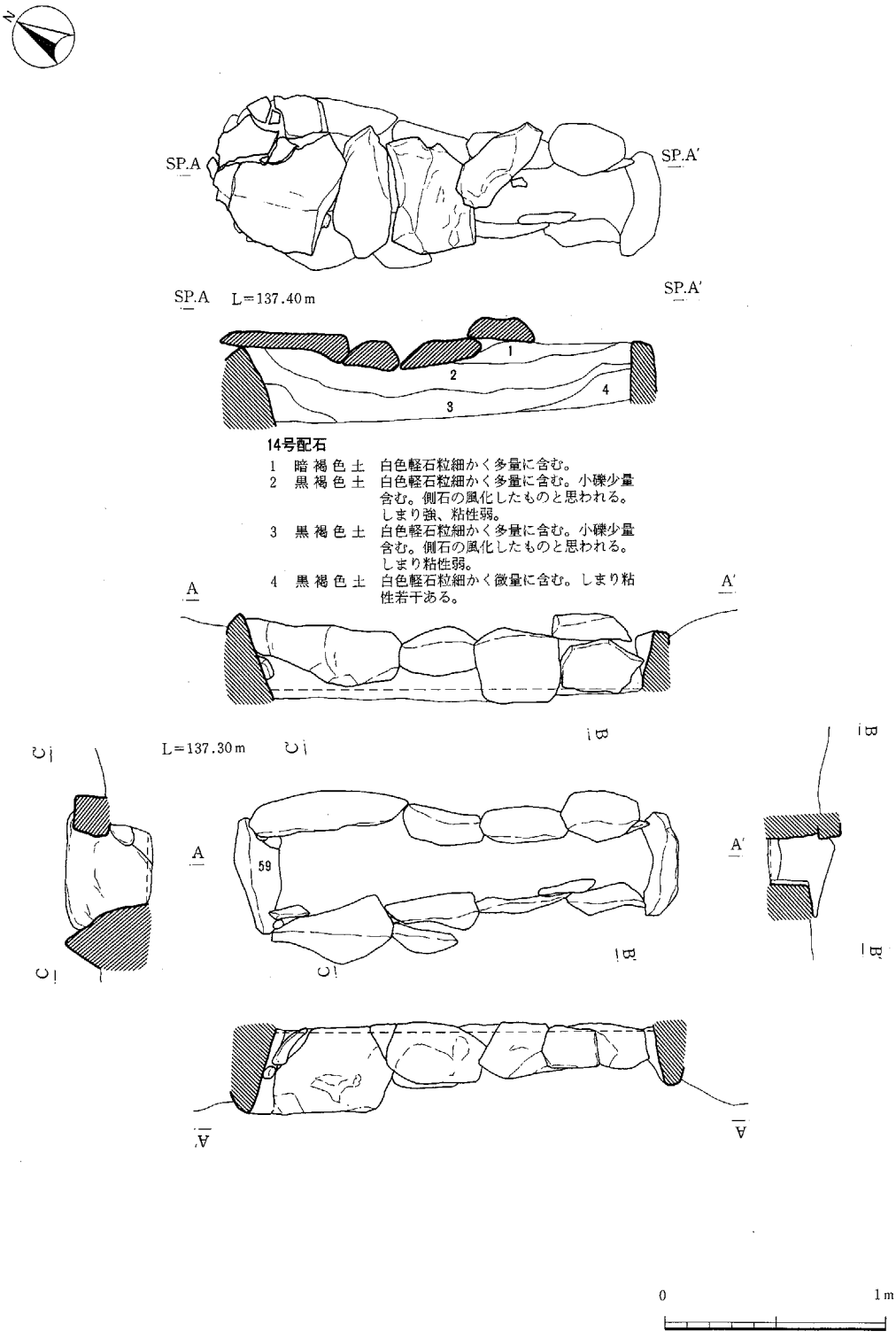


13号配石

1　暗褐色土　白色軽石少量含む。しまり強、粘性弱。
2　暗褐色土　1層より色調暗い。白色の軽石多量に含む。小礫(壁石の風化したものか)多量に含む。しまり粘性強。

0　2m

第149図　13号配石


SP.A
SP.A'
SP.A L=137.40m
SP.A'
1
2
3
4
14号配石
1 暗褐色土 白色軽石粒細かく多量に含む。
2 黒褐色土 白色軽石粒細かく多量に含む。小礫少量含む。側石の風化したものと思われる。しまり強、粘性弱。
3 黒褐色土 白色軽石粒細かく多量に含む。小礫少量含む。側石の風化したものと思われる。しまり粘性弱。
4 黒褐色土 白色軽石粒細かく微量に含む。しまり粘性若干ある。
A
A'
B
B'
C
C'
L=137.30m
59
0
1m

第150図　14号配石

落していた。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土（砂質）を基調に2層に分層される。

遺物の出土状況

覆土上面より土器片が3出土した。

20号配石（第152図　図版56）

Y－18グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はN－15°－E。遺存が悪く側面の石が一部分残るのみで他の石は外れた状態で検出された。従って、ほとんどが掘り方の検出であった。規模は108cm、短軸41cm。形態は長方形を呈する。17号配石同様、規模が小さい。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土（砂質）単層である。

遺物の出土状況

遺物は検出されなかった。

21号配石（第153図　図版56）

X－28グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はN－95°－E。規模は長軸174cm、短軸53cm。形態は長方形を呈する。西側寄り（全体の約3分の1）の組石が欠落して、掘り方が露呈して検出された。蓋石は検出されなかった。新旧関係は22号配石を切っている。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土（砂質）を基調に2層に分層される。

遺物の出土状況

覆土第1層中より土器片が3点出土した。

22号配石（第153図　図版56）

X－18グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はN－65°－E。規模は長軸148cm、短軸31cm。形態は長方形を呈する。南西側を22号配石に切られる。蓋石は検出されなかった。

覆土の状況

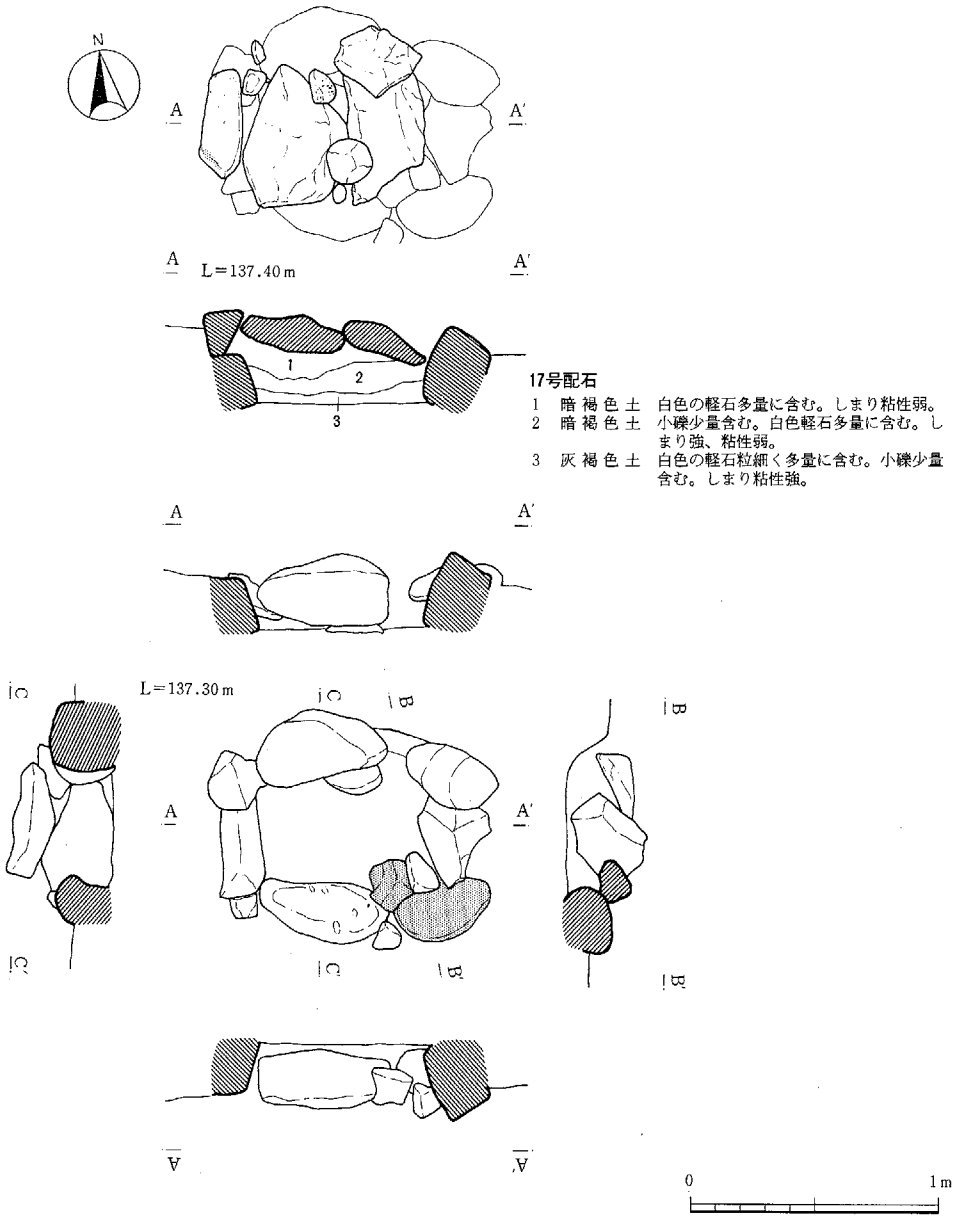
自然堆積である。暗褐色土（砂質）を基調に2層に分層される。

遺物の出土状況

遺物は検出されなかった。

23号配石（第154図　図版56、57）

X－17グリッドに位置し、暗褐色砂質土層中に構築される。主軸方向はN－17°－E。規模は長軸181cm、短軸41cm。形態は長方形を呈する。南側に亘って幅がやや細くなっていく特徴をもつ。蓋石は多少ずれて検出されたがほぼ完存していると考えられる。



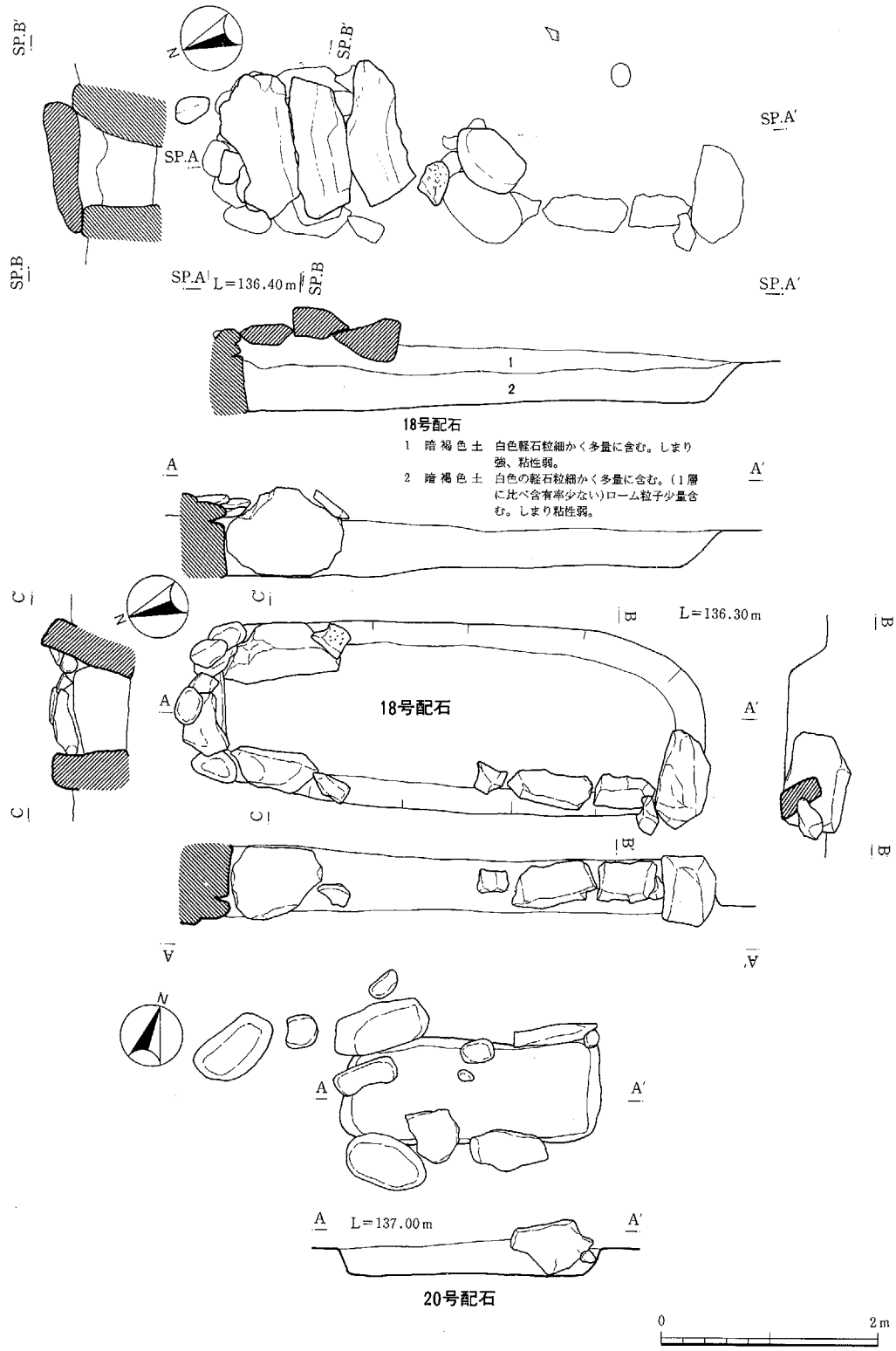
第151図　17号配石

覆土の状況

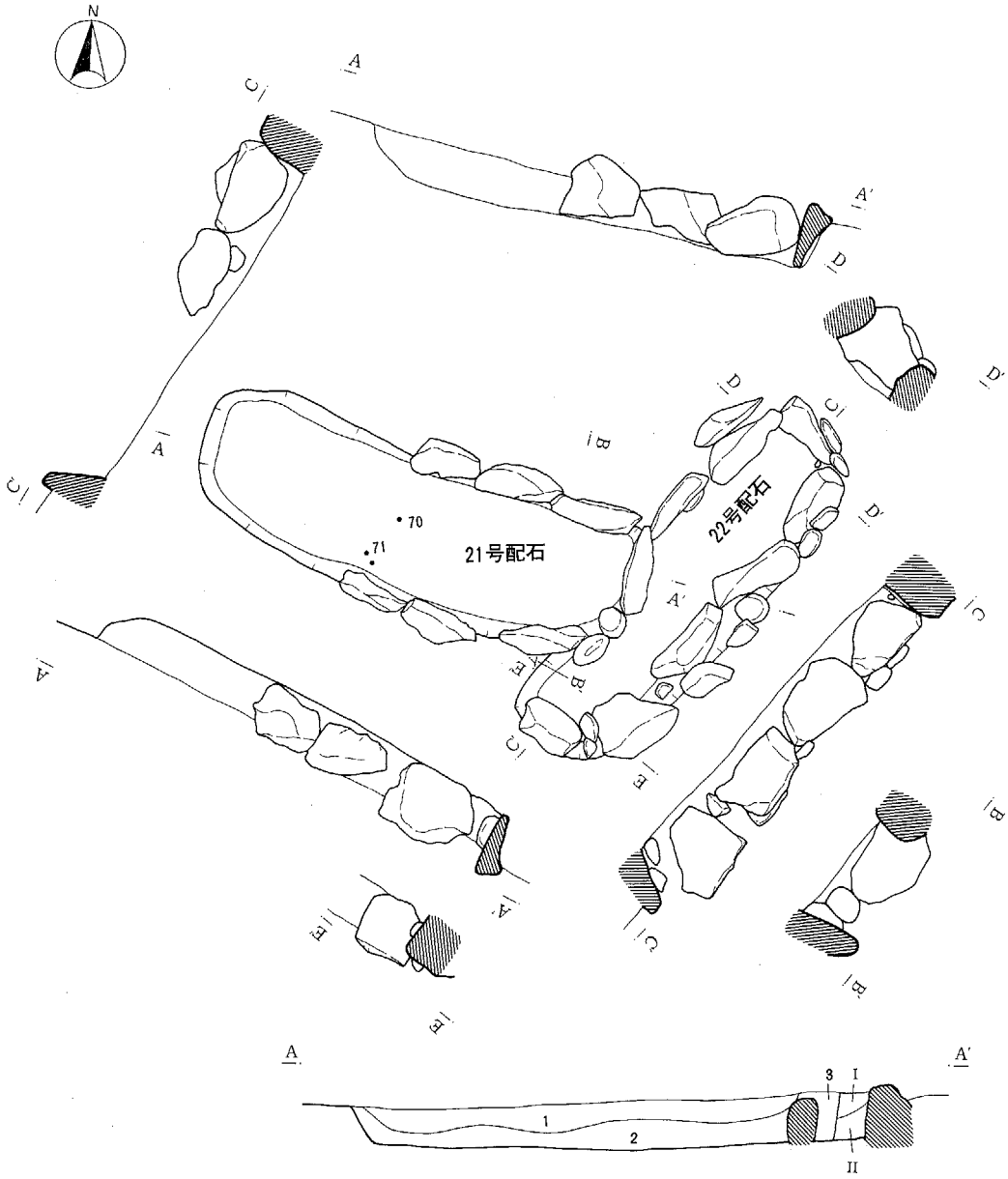
9，10，11号配石の状況と似ている。自然堆積であると考えられる。暗褐色土（砂質）を基調に2層と灰褐色土の合わせて3層に分層される。

遺物の出土状況

深鉢形土器の破片が蓋石の上と側面の石からと蓋石と側面の石に挟まれた状態で出土した。



第152図　18・20号配石



21号配石

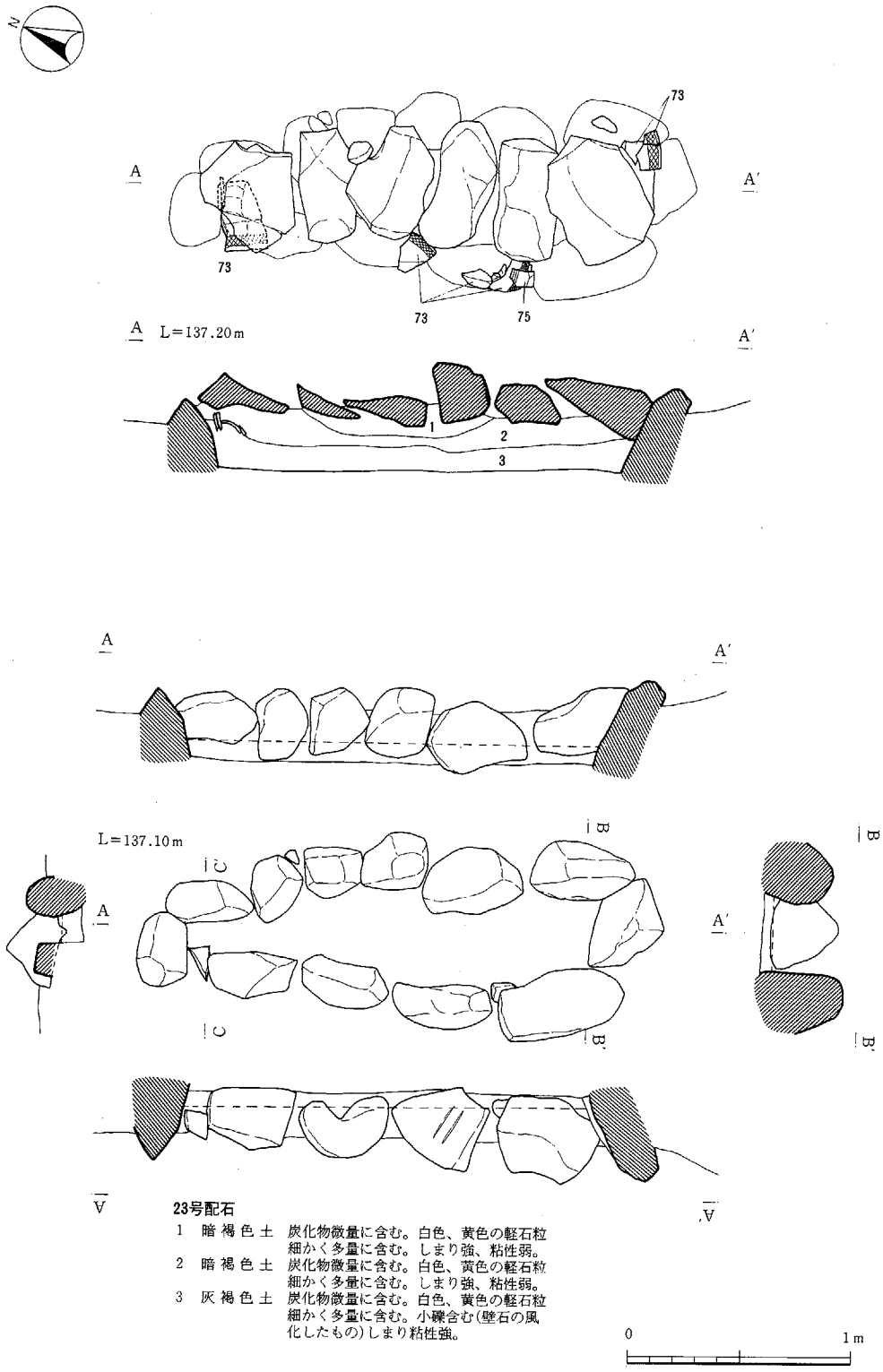
1	暗褐色土	白色軽石粒細く多量含む。褐色砂質土、ブロック状に含む。しまり強粘性弱。
2	暗褐色土	小礫少量含む。石片含む。側石の風化したものと思われる。褐色砂質土ブロック状に少量含。
3	褐色砂質土	褐色砂質土状ブロックを多量に含む。人為的な埋土である。しまり強、粘性弱。

22号配石

I	暗褐色土	白色軽石粒細く多量に含む。褐色砂質土ブロック状に少量含む。焼土粒子微量。しまり強、粘性弱。
II	暗褐色土	1層より色調暗い。白色の軽石粒細く多量に含む。褐色砂質土ブロック状(φ10㎜)少量含む。しまり強、粘性弱。

0 2m

第153図　21・22号配石



23号配石

1	暗褐色土	炭化物微量に含む。白色、黄色の軽石粒細かく多量に含む。しまり強、粘性弱。
2	暗褐色土	炭化物微量に含む。白色、黄色の軽石粒細かく多量に含む。しまり強、粘性弱。
3	灰褐色土	炭化物微量に含む。白色、黄色の軽石粒細かく多量に含む。小礫含む(壁石の風化したもの)しまり粘性強。

0 1m

第154図　23号配石

破片は2個体である。

24号配石（155図　図版57）

Y－18グリッドに位置し、綛褐色砂質土層に構築される。主軸方向はN－90°－W。規模は長軸172cm、短軸50cm。形態は長方形を呈する。蓋石は遺存が悪く全体の約4分の1が欠落して検出された。また配石内に転落しているものもあった。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土（砂質）を基調に2層と灰褐色土の合わせて3層に分層される。

遺物の出土状況

遺物は検出されなかった。

25号配石（第156図　図版57）

Y－17・18グリッドに位置し、暗褐色砂質土層に構築される。主軸方向はN－15°－E。規模は長軸194cm、短軸102cm。全体の約4分の3の組石が欠落する。北側の組石の内側が赤くなっている。また残存している組石は北側の側石を除き外れ、掘り方がほとんど露呈された状態で検出された。形態は掘り方の規模と主軸方向から推定して11号配石、23号配石と形態が似ているものと考えられる。蓋石は検出されなかった。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土（砂質）を基調に2層に分層される。

遺物の出土状況

側面石と掘り方の壁面と床直上より深鉢形土器の破片が散乱して出土した。復元の結果同一の個体であった。

26号配石（第157図　図版58）

本址は上部配石の真下より検出されたため上部配石と下部配石を分けずに遺構番号は同一に扱った。そのためこの項で説明を行う。

Y－17・18グリッドに位置し、上部配石は遺存悪く一部組石が残るのみでほとんど組み石は散乱して検出された。そのため規模は不明である。立石は2基、同じ角度で並んで倒れた状態で検出された。立石の長さは3号立石は61cm、4号立石は54cmを計る。

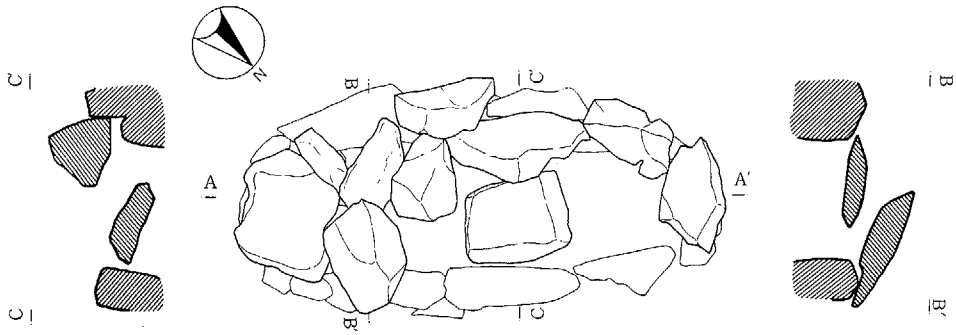
下部配石は3，4号立石の真下より検出された。暗褐色砂質土層中に構築される。側面の石は7号配石同様、小礫を埋め込んで構築され小礫の中には赤色を呈するものがある。また、上部配石には多孔石が一部分使用されている。主軸方向はN－105°－E。規模は長軸139cm、短軸58cm。形態は長方形を呈する。

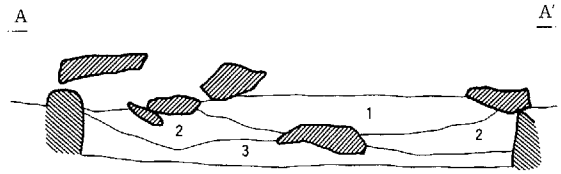
覆土の状況

肉眼では見分けがつきにくいが、人為的な埋土の上に自然堆積土が載っているものと思われる。暗褐色土を基調に2層に分層される。

遺物の検出状況

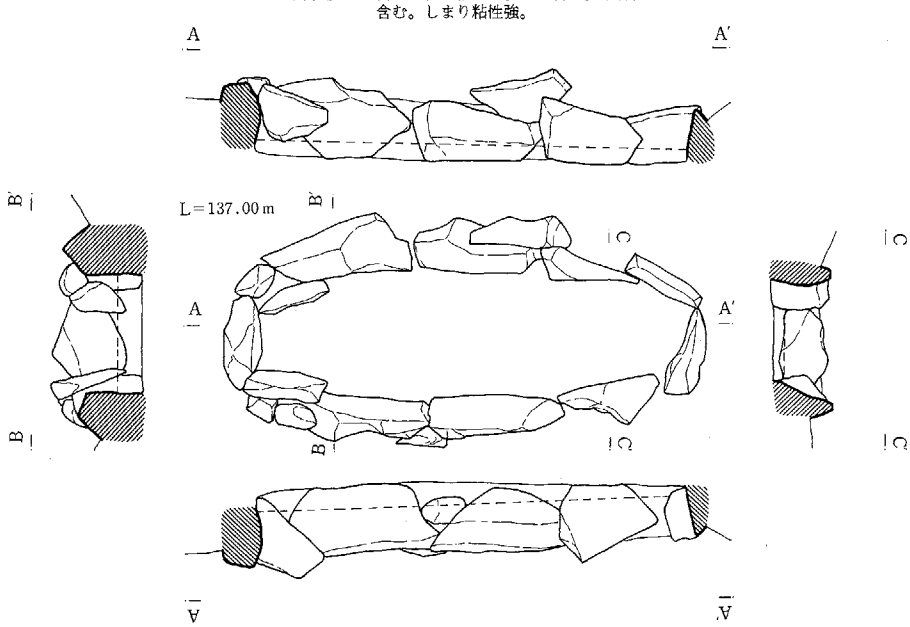
組石の中に多孔石が使用されている。土器片は覆土の上面より細片が一片出土した。



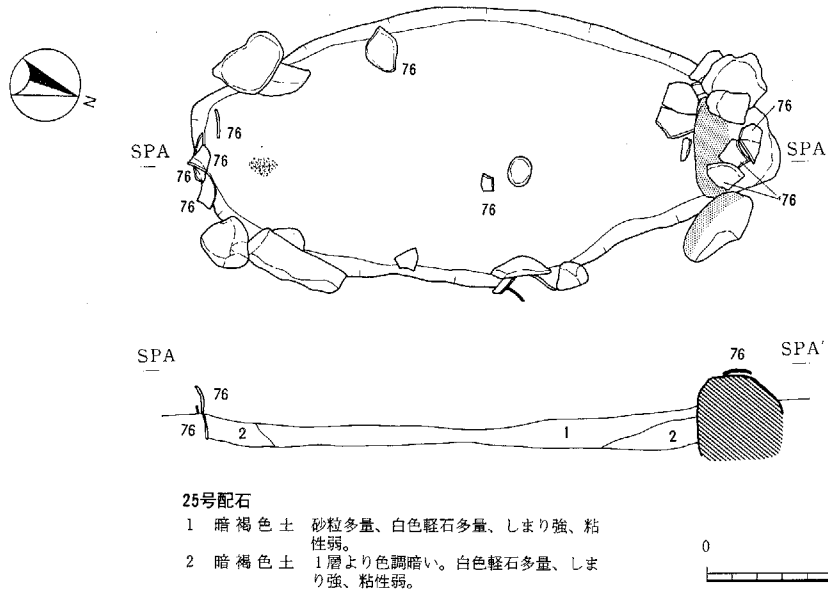


24号配石

1　暗褐色土　白色の軽石多量に含む。しまり粘性弱。
2　暗褐色土　小礫少量含む。白色軽石多量に含む。しまり粘性弱。
3　灰褐色土　白色の軽石細かく多量に含む。小礫少量含む。しまり粘性強。



第155図　24号配石



第156図　25号配石

(2)検出された遺物（第160～169図　図版59）

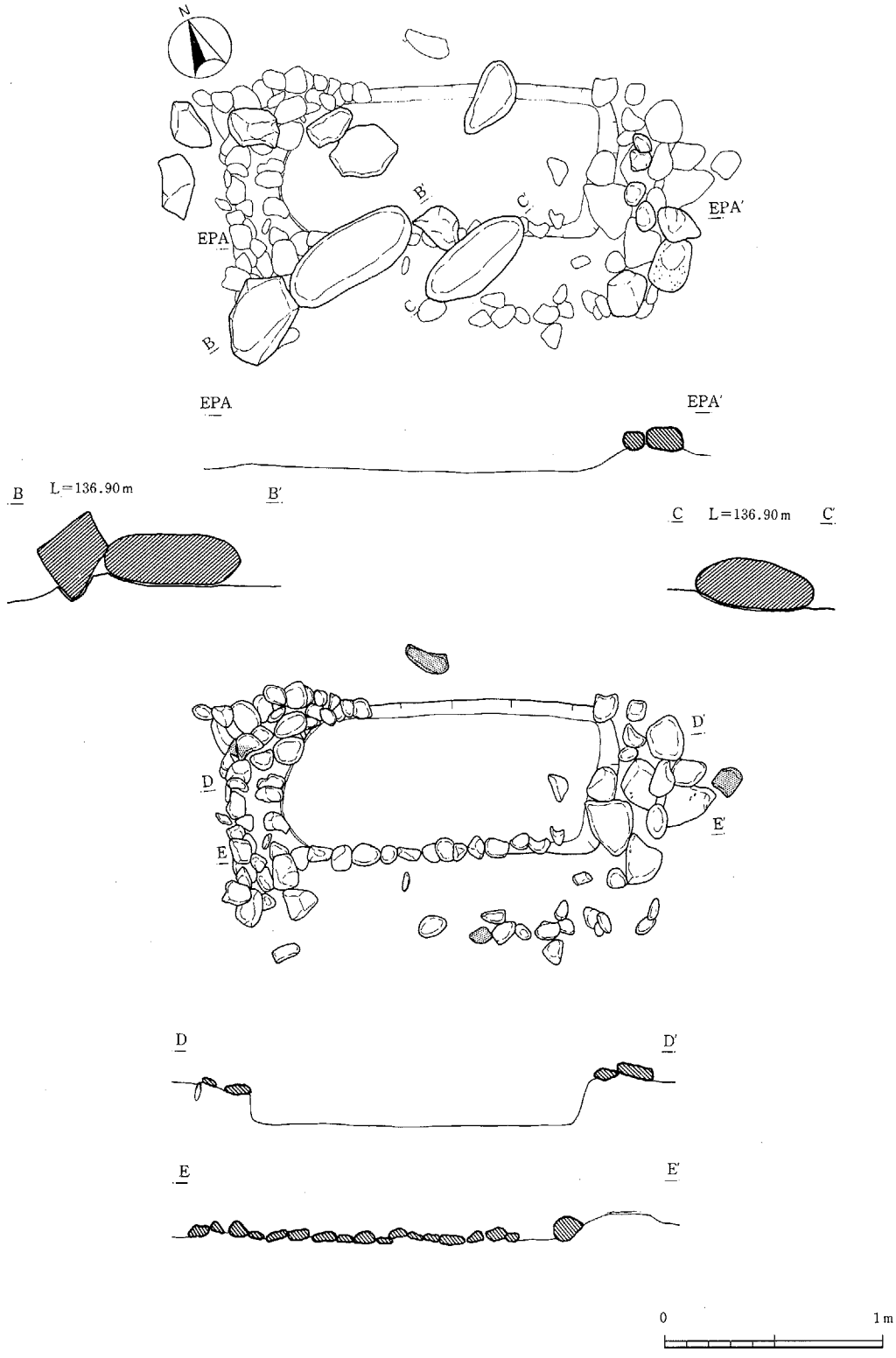
配石遺構は上部、下部に分けて説明したが遺物は混乱を避けるため現地で付けた遺構番号順に説明した。見ずらい点、御了承願いたい。

1～3は1号配石内から出土したものである。1は三角壕形土製品である。南側の組石上より出土した。長さ9.6cm、高さ5.9cm。正面形は不整長方形である。側面形は二等辺三角形である。正面形の長軸方向に径0.7cm～0.8cmの孔がある。孔の位置は側面形の中心よりやや外れる。文様は稜線とほぼ平行に正面は方形の二重の沈線を施文し平行して内外に刺突に施される。底面は長方形の二重の沈線を施文される。短軸方向の両脇に刺突を施される。胎土は砂粒を含む。焼成は良好である。黒斑がある。色調は明褐色。2は深鉢形土器の破片である。配石内の覆土第2層中より出土した。3は多孔石破片である。石材は安山岩である。敲打による突孔があく。組石の1部として使用されたものの1つと考えられる。残存長17.4cm、幅10.8cm、厚さ45cm。

4、5は2号配石内と付近から出土したものである。4は剥片石器である。側面を刃部として使用されている。石材は頁岩である。配石付近の遺構検出面より出土した。長さ7.8cm、幅4.3cm、厚さ1.6cm、重さ58g。5は磨石である。

6、7は共に3号配石の下より出土したものである。6は沈線による区画文を施する。7は凹石である。敲打による突孔が計3カ所ある。一部欠損する。石材は安山岩である。残存の長さ8.8cm、幅7.5cm、厚さ5.3cm、長と356g。

8～16は4号配石内より出土したものである。8～15は深鉢形土器の破片である。8、9、12、14は口縁部の破片で無文の粗製土器である。8は配石の間より出土した。9、12、14は配石内の覆土第1層中より出土した。10は口縁部の破片で口縁部にキザミ目を施す。8の字状のボタン瘤を貼付する。覆土第1層中より出土した。11は沈線による区画文の中に単節RL縄文



第157図　3・4号立石（上部）、26号配石（下部）

第158図　27号配石

を充填する。覆土第1層中より出土した。4号配石付近の遺構検出面より出土した。15は沈線文を施す。床直上より出土した。16は陰石と思われる。石材は安山岩である。北側の側面石の上より出土した。長さ16.1cm、幅12.5cm、厚さ5.0cm、重さ1200g。

17～28は5号配石より出土したものである。17、18は綾杉状の沈線を施す。覆土第1層中より出土した。19は平行沈線による区画文の中にRL縄文を施文する。覆土第1層中より出土した。20は沈線間にRL縄文を施文する。覆土第1層中より出土した。21、22は深鉢形土器口縁部の破片で無文の粗製土器である。24は浅鉢形土器の口縁部の破片である。平行連孤文の中に単節LR縄文を充填する。以下にキザミ目帯を巡らす。中央部分に瘤を貼付する。覆土第1層中より出土した。25は深鉢形土器口縁部の破片である。波状口縁を呈する。沈線による区画文の中に単節RL縄文を充填する。覆土第2層中より出土した。26は深鉢形土器の破片である。波状口縁を呈する。綾杉状の沈線を施す。覆土第2層中より出土した。27は打製石斧である。長さ9.8cm、幅4.9cm、厚さ2.4cm、重さ60g。覆土第2層中より出土した。

29～35は6号配石内と配石付近より出土したものである。29は口縁部の単節LR縄文を施文する。覆土第1層中より出土した。30は櫛歯状の沈線を施す。31は綾杉状の沈線を施す。覆土第1層中より出土した。32は深鉢形土器の底部の破片である。底に網代痕がある。覆土第1層中より出土した。33は単節LR縄文を施す、以下に沈線を巡らし綾杉状の沈線を施文する。単節LR縄文は覆土第1層中より出土した。34は凹石である。敲打による突孔が2ケ所認められる。石材は安山岩である。長さ15.1cm、幅6.5cm、厚さ7.6cm、重さ1200g。南側の側面石の付近より出土した。35は石皿の破片である。表面と裏面に敲打による突孔が多数あく。北東寄りの側面石に近接して出土した。

36～39は7号配石内より出土したものである。尚、東側より出土している土偶については配石より約1.0m離れているため配石周辺の出土遺物として取り扱った。遺物実測図と説明については配石周辺の出土遺物の項で述べた。36、37は深鉢形土器口縁部の破片である。共に綾杉状の沈線を施す。36は覆土第1層中より出土した。37は配石の北東隅付近より出土した。38、39は深鉢形土器口縁部の破片である。無文の粗製土器である。共に覆土第1層中より出土した。

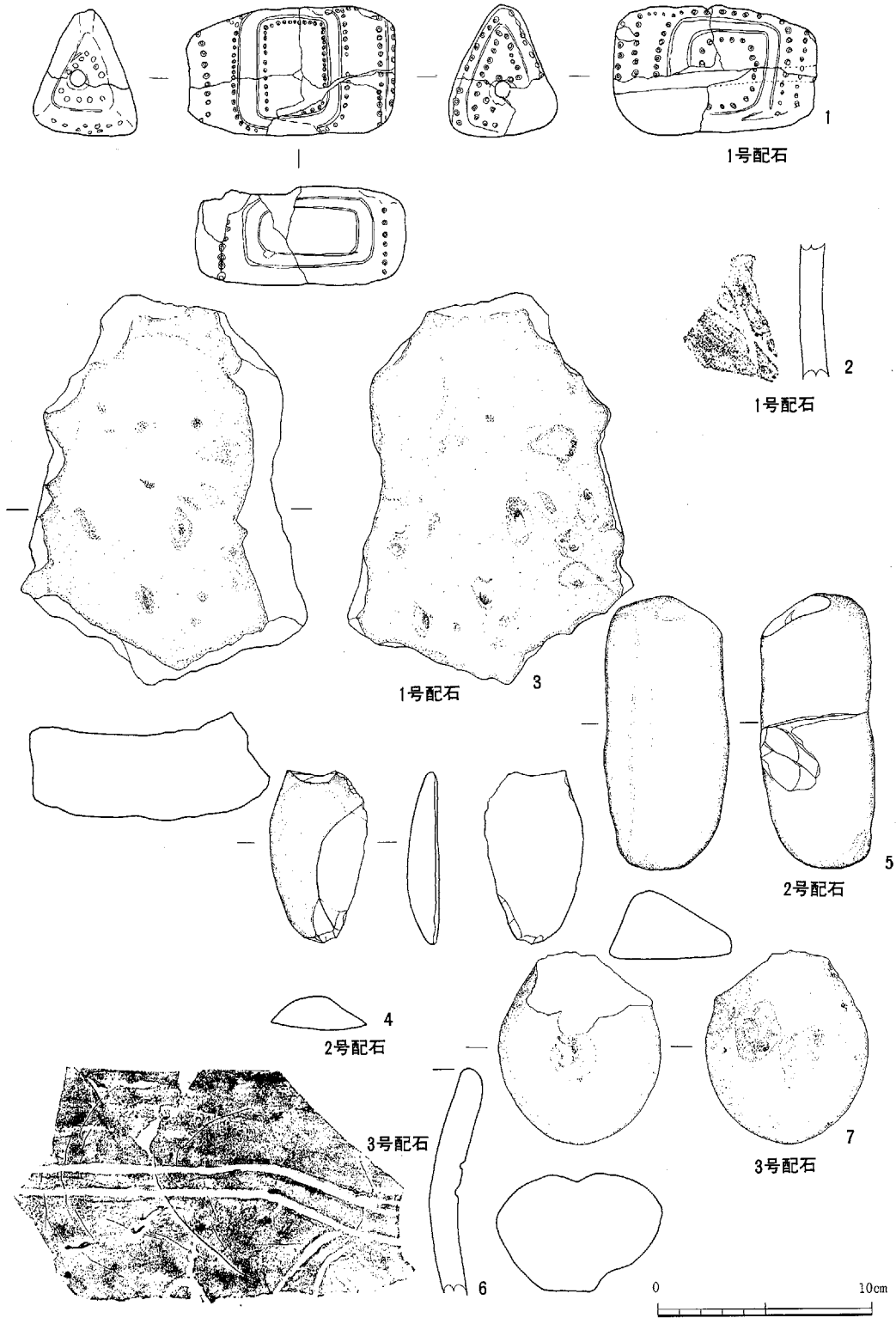
40～51は上部の8号配石内覆土中より出土した。40～45は無文の粗製土器である。46は深鉢形土器の破片である。47は横位の平行沈線を施す。48は櫛歯状の沈線を施す。49はキザミと横位の沈線を施す。50は綾杉状の沈線を施す。51は沈線文を施す。

52～56は9号配石の周囲より出土したものである。深鉢形土器口縁部の破片である。無文の粗製土器である。54は沈線を施す。精製土器の出土は見られなかった。

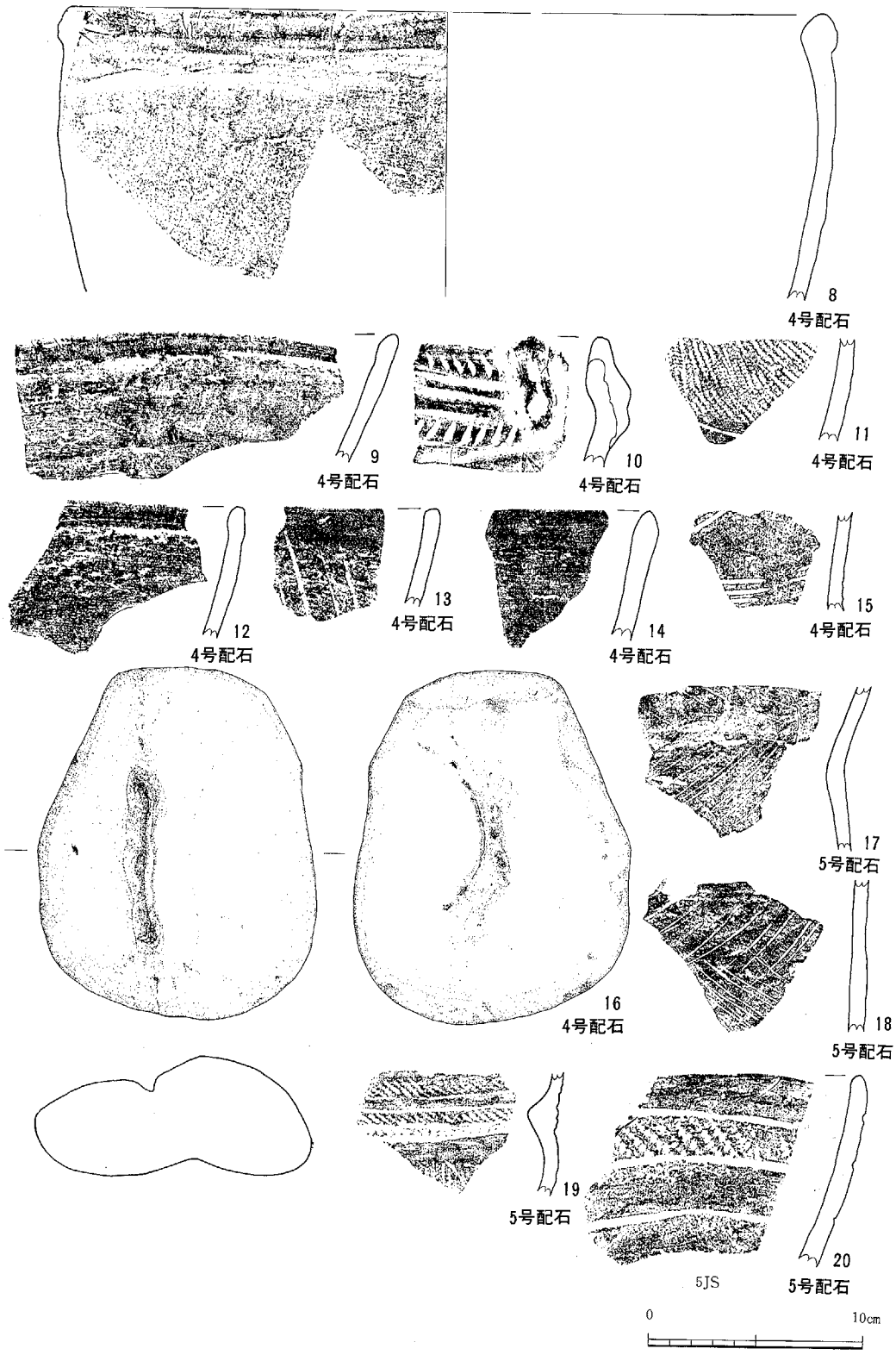
57は10号配石の蓋石の上より出土したものである。沈線による区画文を施し、単節LRの細縄文を施す。

58は13号配石の側面石の間より出土したもので、深鉢形土器の把手の破片である。

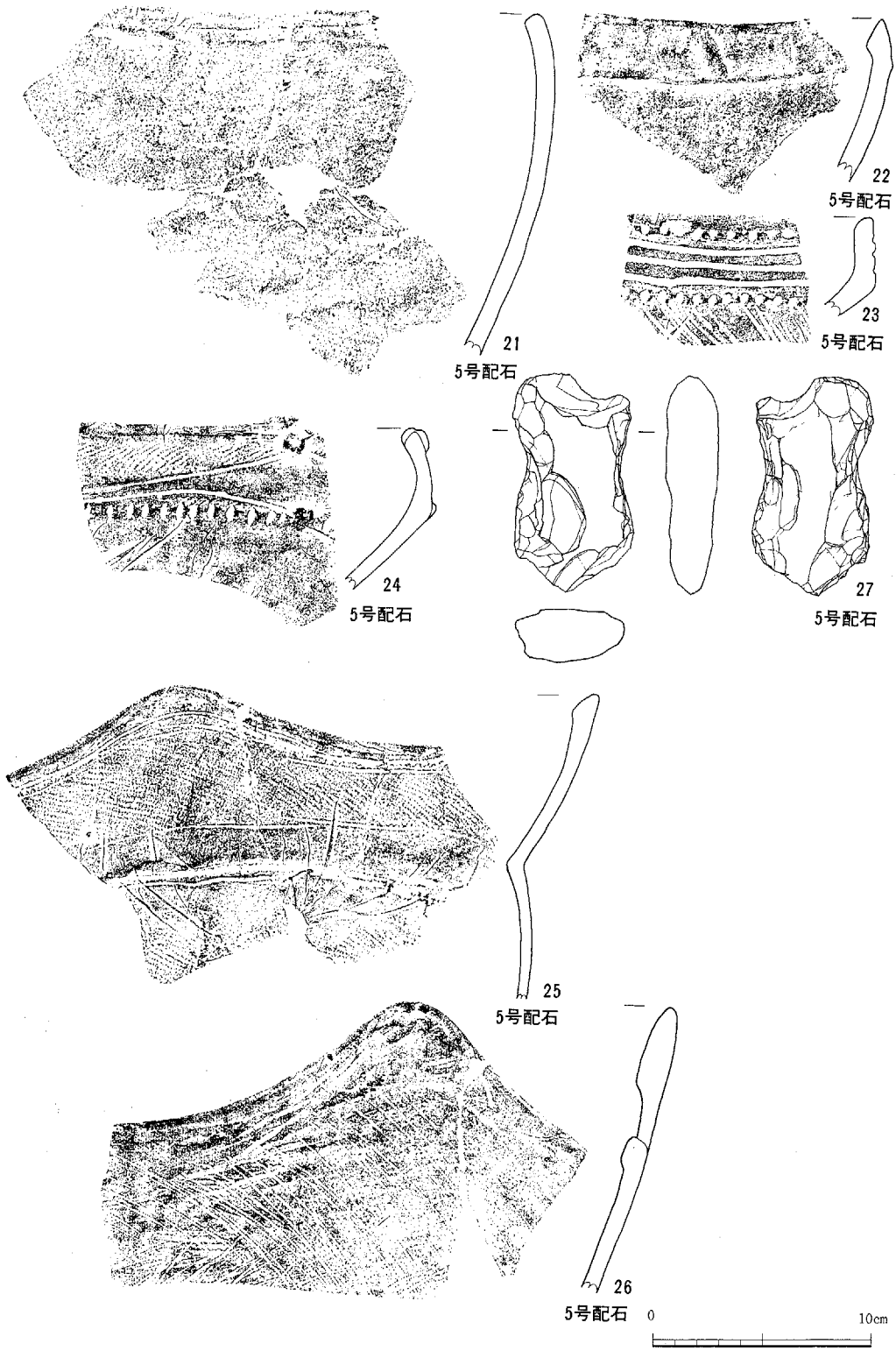
59は14号配石の北東隅より出土した。北と東側の組石を支える補強のために使用された凹石からの転用と考えられる。石材は安山岩である。両面に2孔ずつ敲打による突孔が長さ9.3cm、



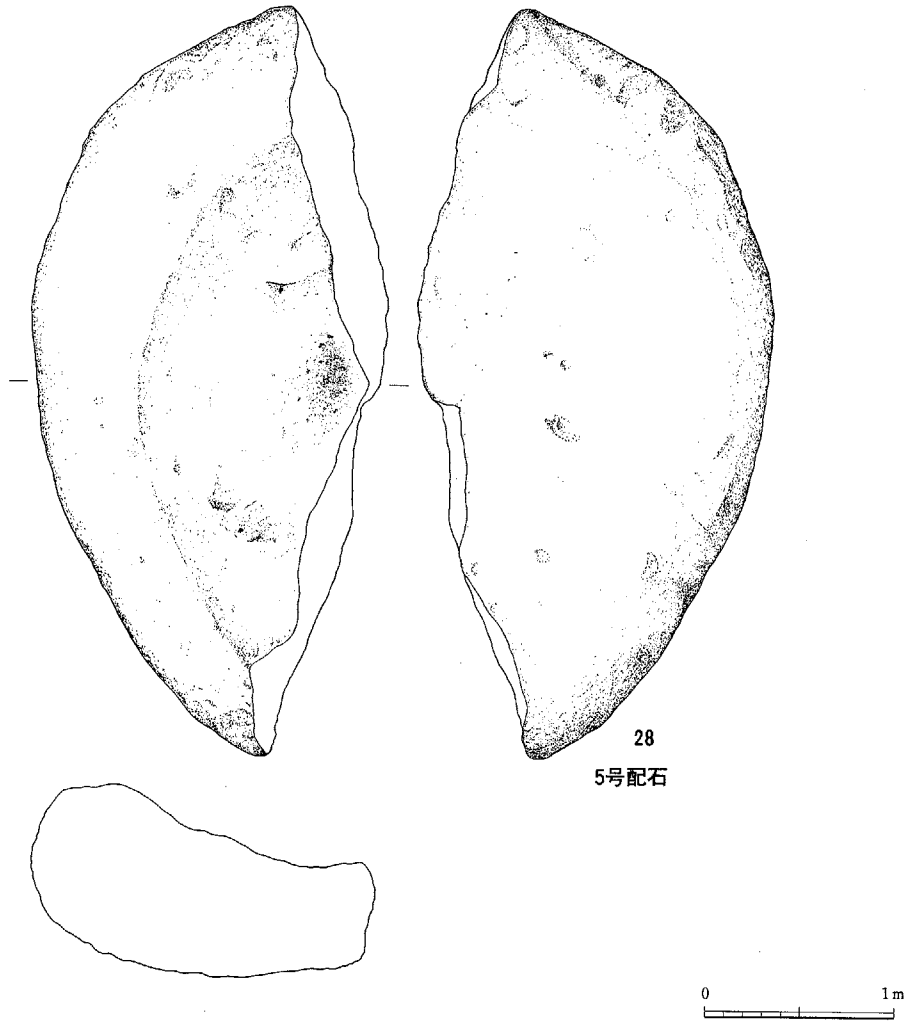
第159図　1・2・3号配石出土遺物



第160図　4・5号配石出土遺物



第161図　5号配石出土遺物（1）



第162図　5号配石出土遺物（2）

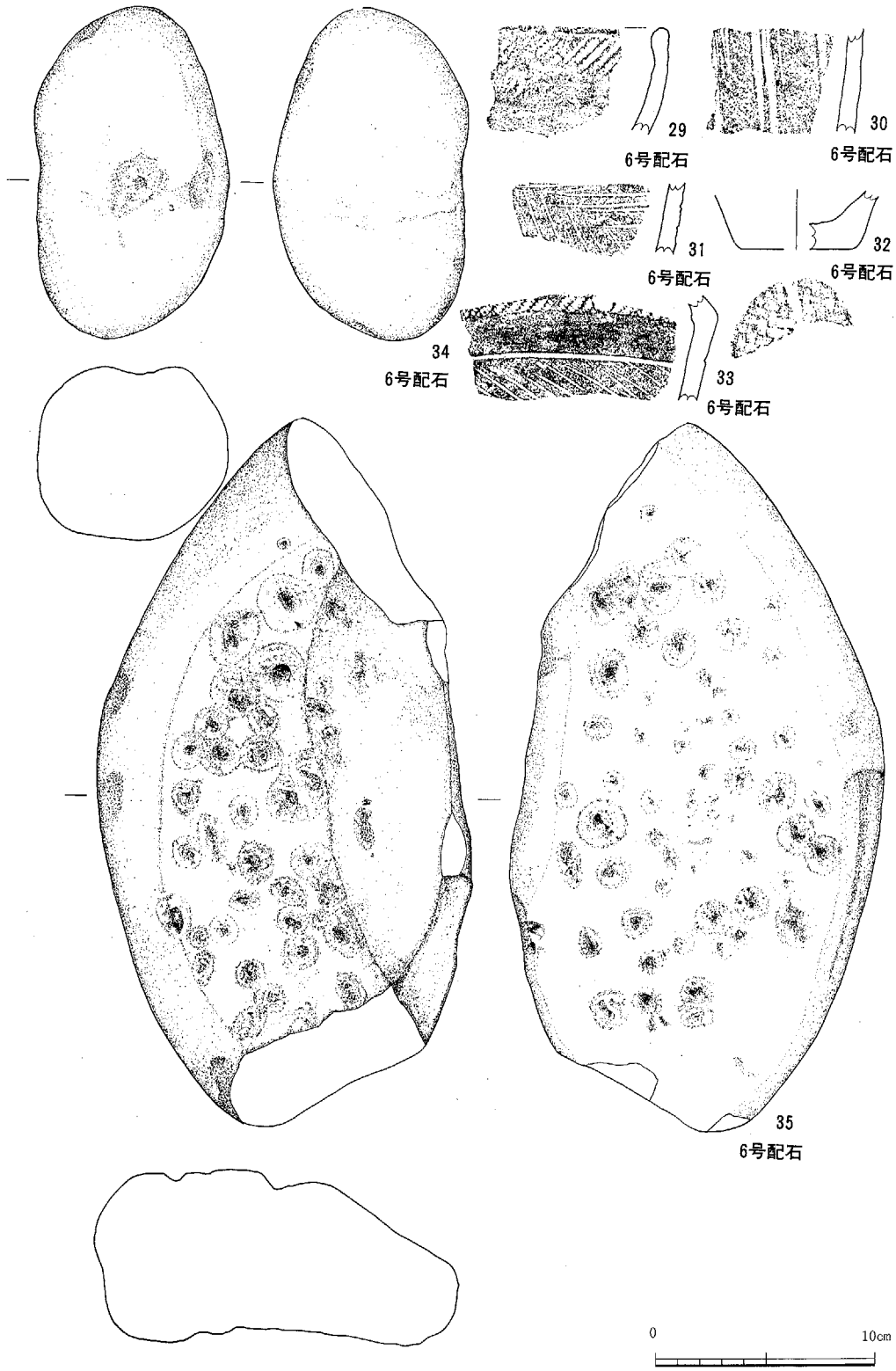
幅10.7cm、厚さ3.9cm、長さ434ｇ。

60～66は上部15号配石より出土した。共に覆土中出土したものである。60、61～63は深鉢形土器口縁部の覇片である。60は口縁部に平行沈線を巡らせ以下に単節LRの磨り消し縄文を施文する。61は無文の粗製土器である。62は口縁部にボタン状の貼付を施す。63は縦位と横位に櫛歯状の沈線を施す。64は細片の為、単節LR縄文を施文し、櫛歯状の沈線を施す。65は無文の粗製土器である。66は横位の単節LR縄文を施文する。

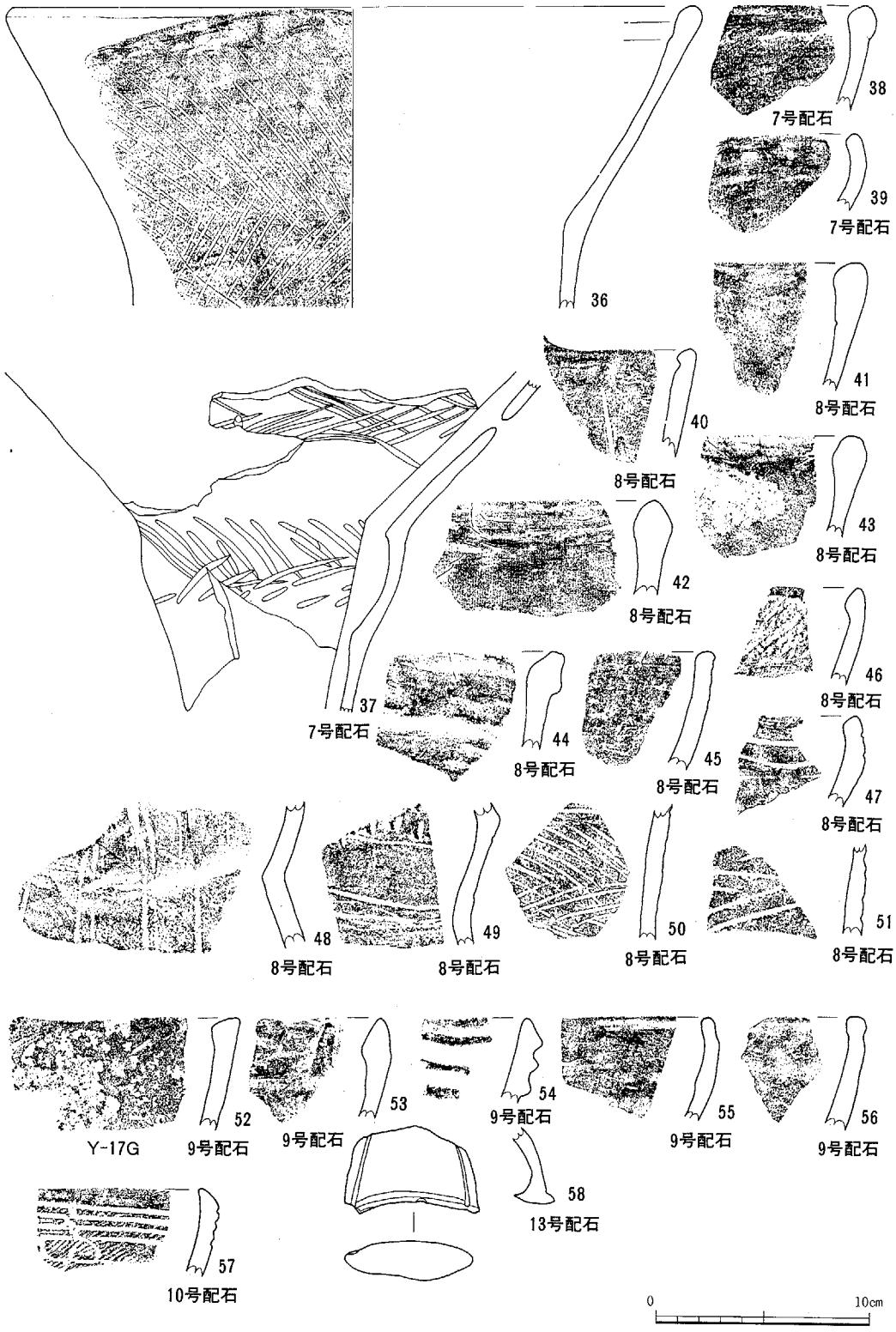
67～69は18号配石の覆土第1層中より出土したものである。67～68は深鉢形土器である。67は無文の粗製土器である。68は沈線間に単節LR縄文を充填させる。69は横位の沈線を施す。

70、71は21号配石の覆土第1層中より出土したものである。沈線間に単節RL縄文を充填する。

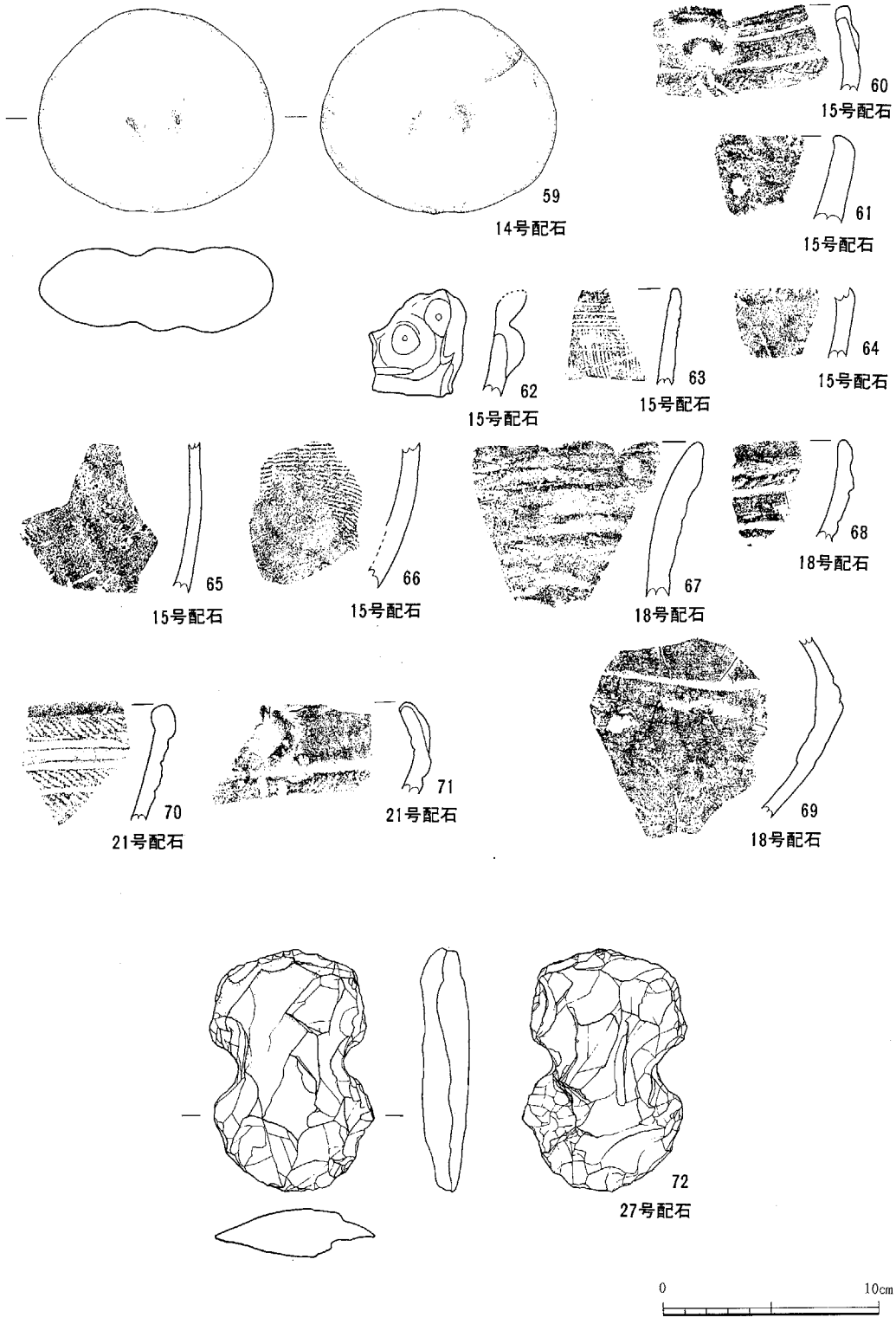
73～75は23号配石内より出土したものである。73は深鉢形土器の破片である。口縁部の平行



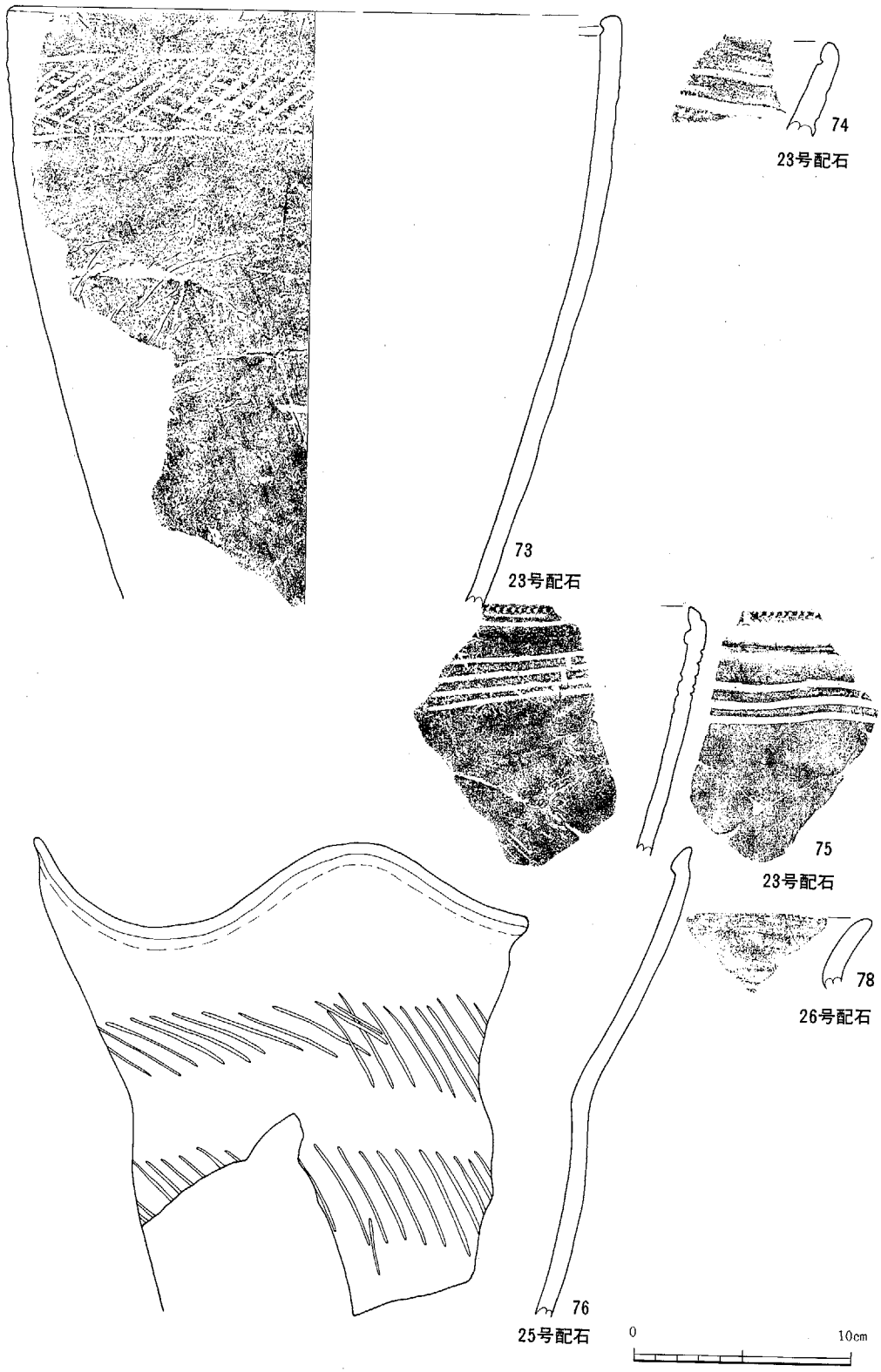
第163図　6号配石出土遺物



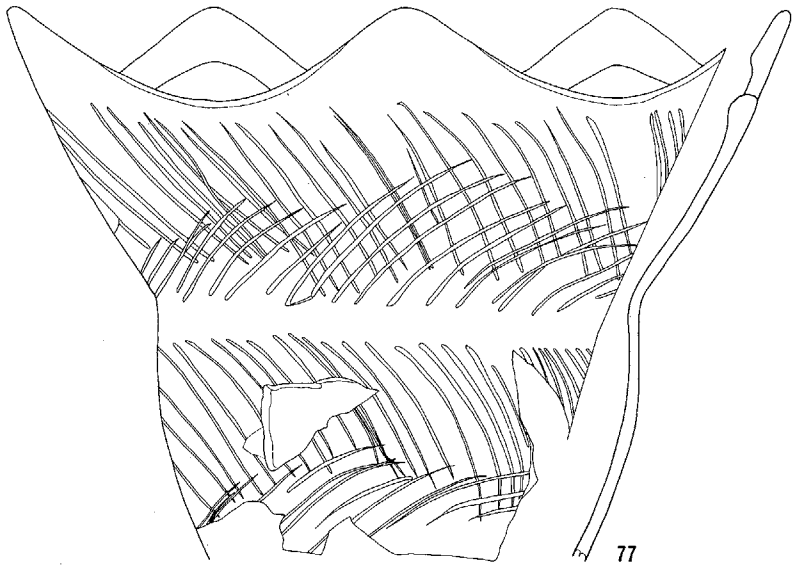
第164図　7・8・9・10・13号配石出土遺物



第165図　14・15・18・21・27号配石出土遺物



第166図　23・25・26号配石出土遺物



第167図　25号配石出土遺物

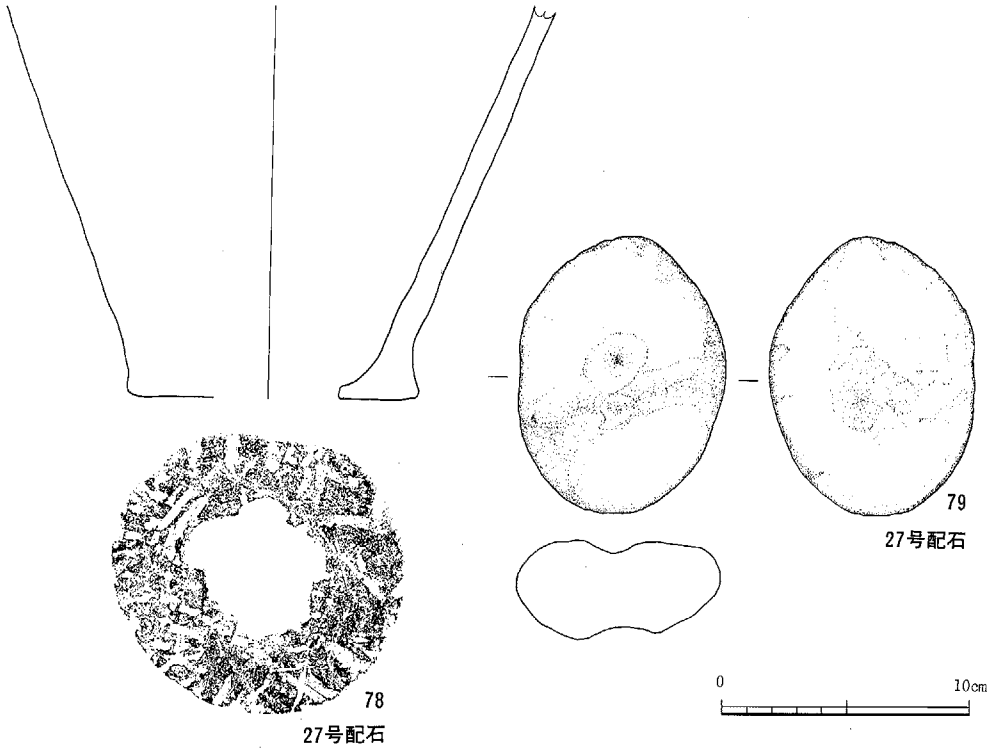
沈線間に格子目状の沈線を施す。蓋石と側面石に挟まれた状態で南北と東側に破片が分散して出土した。74は横位の沈線を施す。覆土第1層中より出土した。75は深鉢形土器の破片である。表裏に口唇部にキザミを施し、平行沈線を巡らす、以下は表は平行沈線を巡らせ縦位の沈線で段状に区画する。裏は口縁部に隆起帯を巡し、以下に平行沈線を巡らす。北東寄りの73の破片の上より出土した。

76、77は25号配石より出土した。深鉢形土器の破片である。76、77は破状口縁である。胴部に綾杉状の沈線を施す。南側と北の側面石上、東西、中央部と破片で分散した状態で出土した。78は26号配石より出土した。無文の粗製土器である。覆土第1層中より出土した。

72、78、79は27号配石より出土した。72は打製石斧である。分胴形を呈する。石材は頁岩である。表面の一部に自然面を残す。長さ11.1cm、幅7.3cm、厚さ2.2cm、重さ191g。配石の間より出土した。78は配石内より出土した埋甕である。配石の遺存状態が悪い為、配石に伴うものか不明である点が考えられるため、単独の屋外埋設土器の可能性が考えられたため、現地の調査では8号屋外埋設土器として取り扱った。本誌でも屋外埋設土器の項で説明する。（P．233参照）79は凹石である。石材は安山岩である。両面共に2孔ずつ敲打による突孔が認められる。長さ11.2cm、幅8.1cm、厚さ3.9cm、重さ432g。配石の間より出土した。

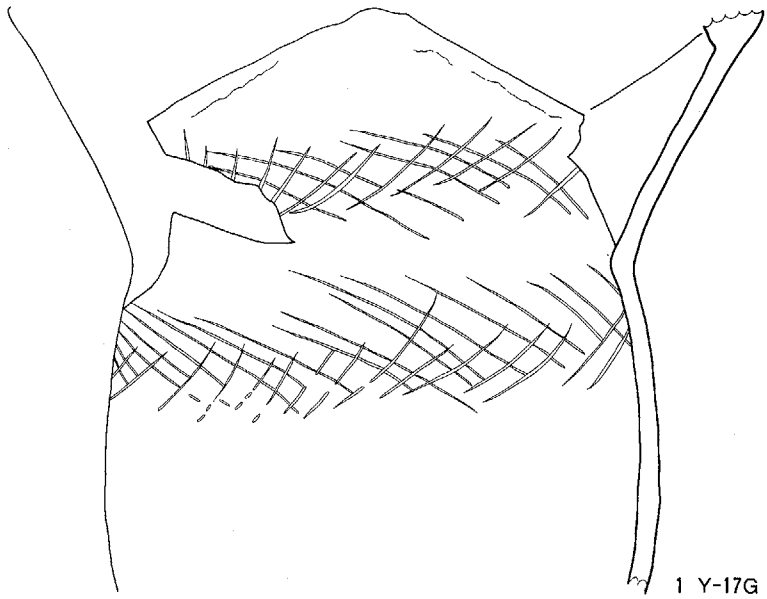
（3）配石周辺から検出された遺物（第169～177図　図版60、61）

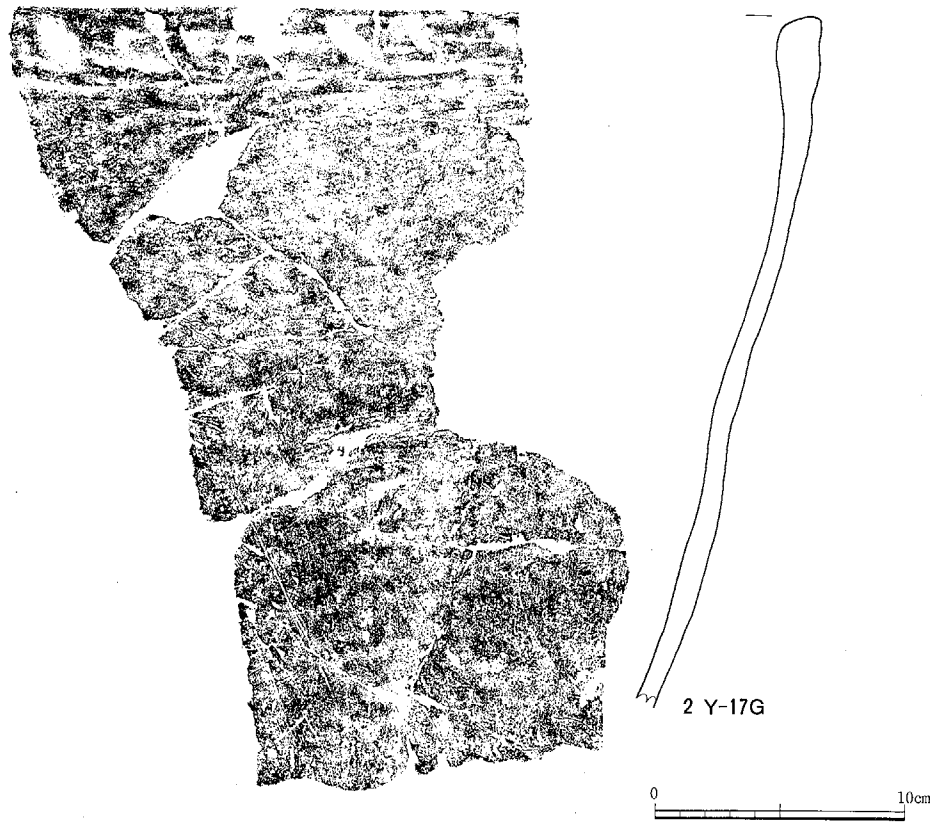
配石遺構の検出面と同レベルで周辺より多量に遺物が出土した。これらの遺物が配石遺構の時期的な関連性があると考えられ、本項で説明を行う。尚、紙面に限りがあるため、代表的なものを掲載した。また、出土位置については第136、17図を参照して頂きたい。



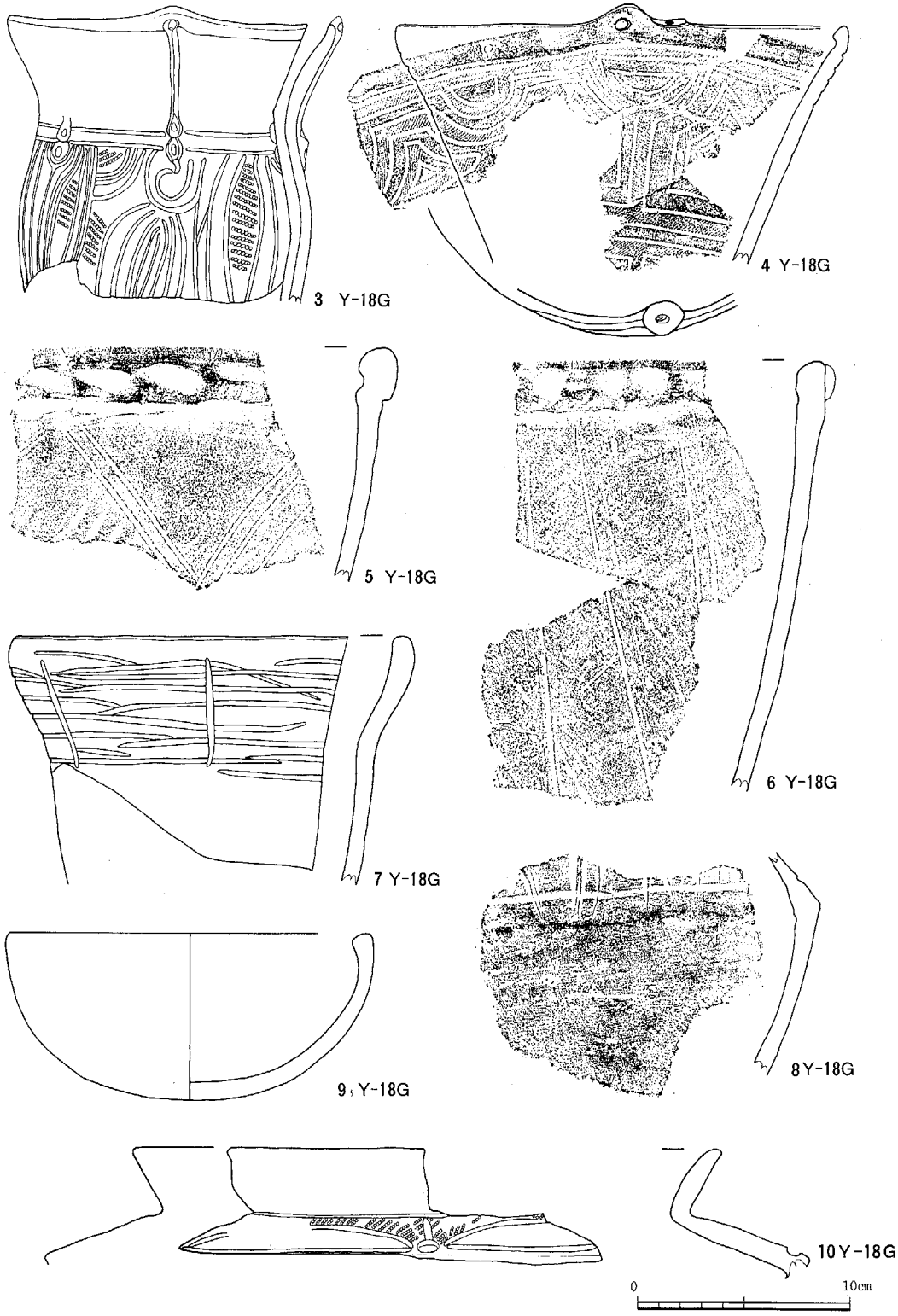
第168図　27号配石出土遺物

1～8、10、11、18、20～22は深鉢形土器の破片である。1は綾杉状の沈線を施す。2は無文の粗製土器である。共にY－17グリッド内の下部配石検出面より出土した。3は3単位の波状口縁で円形竹管による刺突文が施され、縦位の紐線を貼付する。頸部には6単位の8の字状の貼付を施し、胴部には沈線文間に単節RLの磨消縄文を充填する。Y－18グリッド内の下部配石内より出土した。4は沈線による区画文の中にLR縄文を充填する。5、6は口縁部に指頭圧痕を施した紐線を巡らす。櫛歯状工具による条線を施す。共にY－18グリッド内の下部配石検出面より出土した。7は横位の沈線、縦位の沈線で区切る。Y－18グリッド内の下部配石検出面より出土した。8は沈線を巡らす。Y－18グリッド内の上部配石検出面より出土した。10はくの字状に肩部が張り出すソロバン形の深鉢形土器口縁部の破片である。弧状に区画された沈線文の中に単節LRの磨消縄文を充填する。また、縦及び弧状沈線の接点に刺突文を施す。Y－18グリッド内の上部配石検出面より出土した。11は口縁部に3単位の突起を貼付する。沈線により区画文の中にケズリを施される。胴部下半は無文である。Y－17グリッド内の下部配石面より出土した。18は口縁部に指頭圧痕を施された紐線を2重に巡らせその間に格子目文を充填する。胴部には櫛歯状の工具による条線を施す。胎土は砂粒を含み、色調は暗褐色、焼成は良好である。下部配石検出面より出土した。20は櫛歯状の工具による条線を施される。21は胴部上半に綾杉状の沈線を施されるものと思われる。9、12、14、19は浅鉢形土器である。9、14は無文の粗製土器である。Y－18グリッド内の下部配石面より出土した。12は平行沈線で区

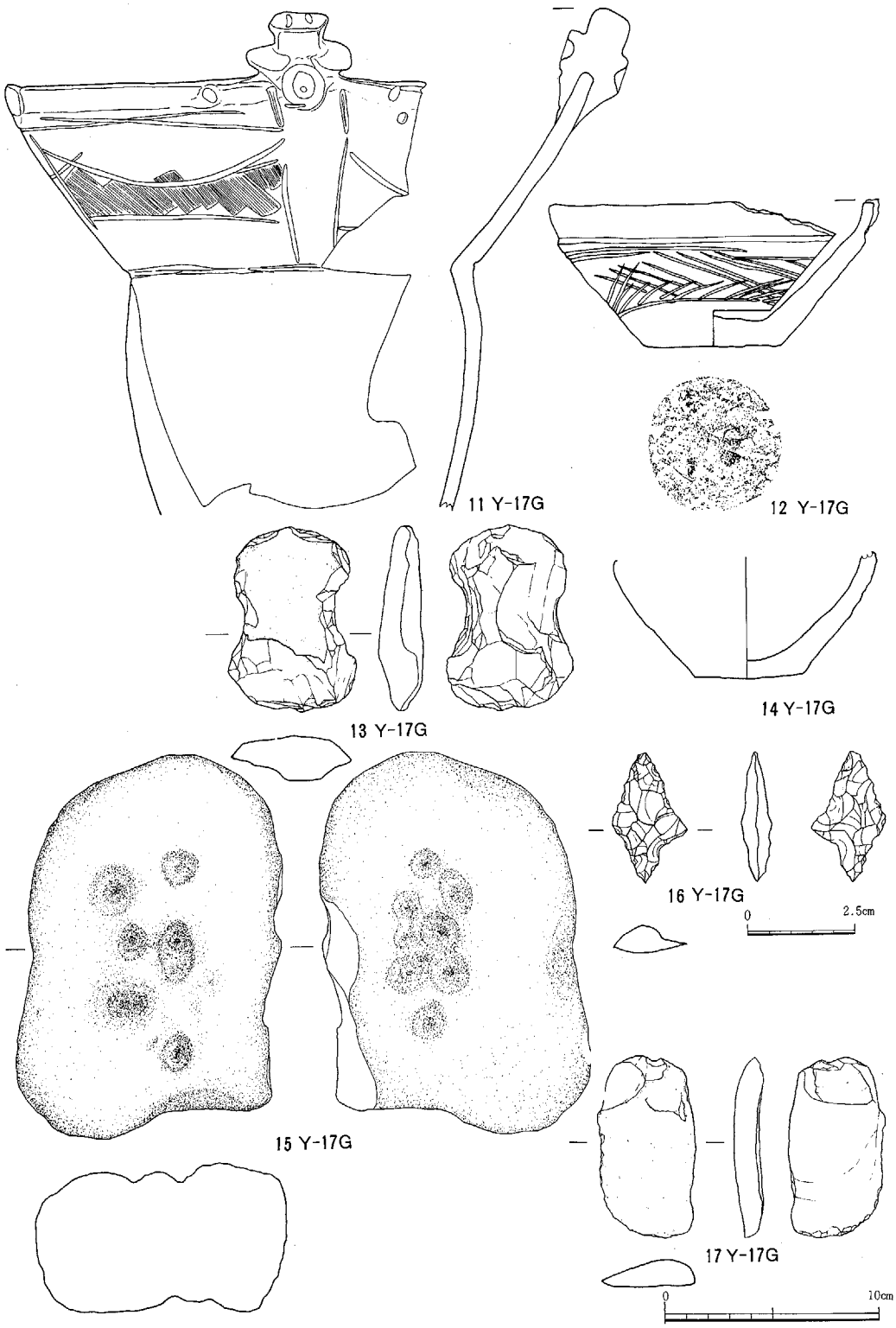




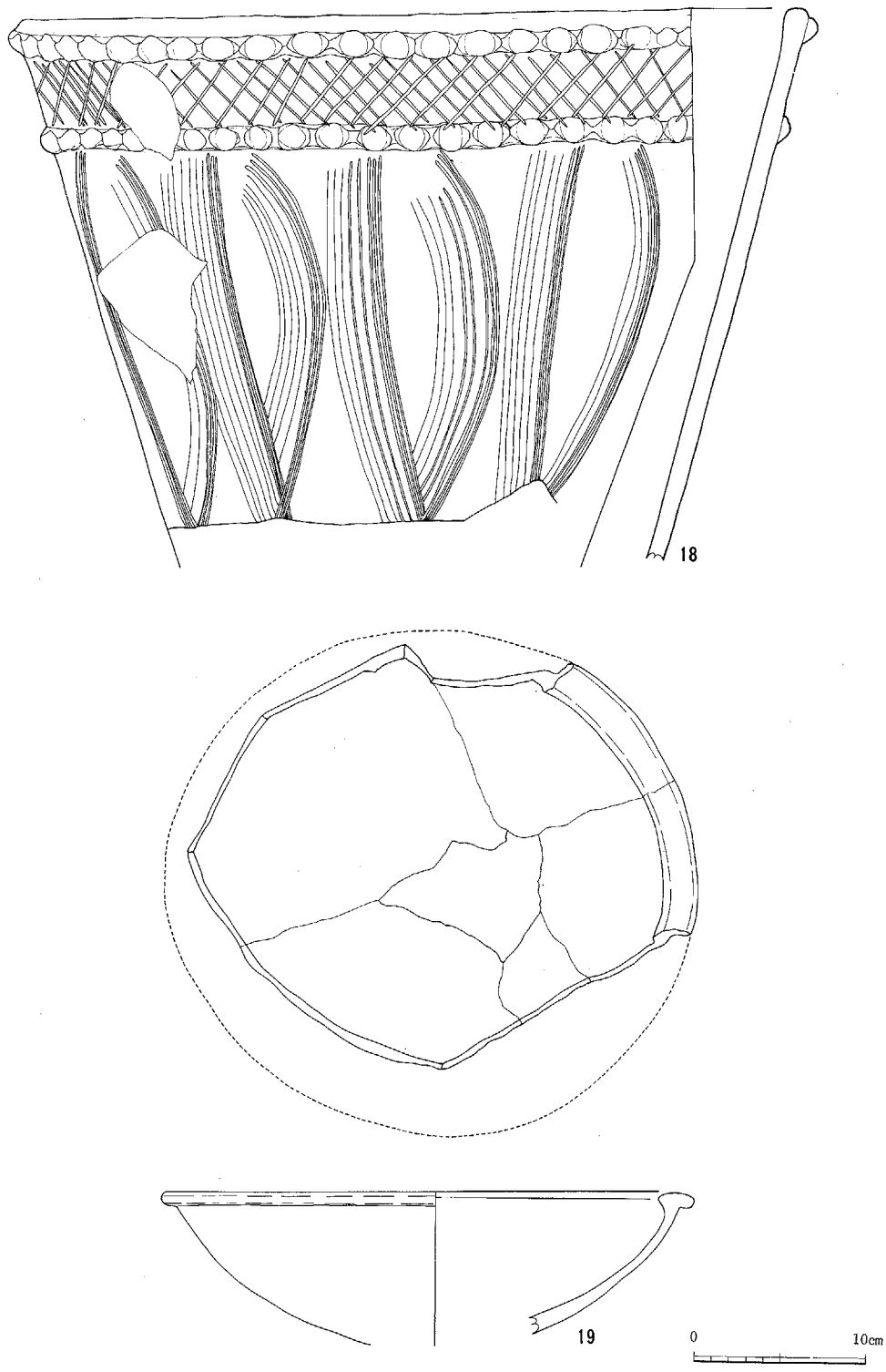
第169図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（1）



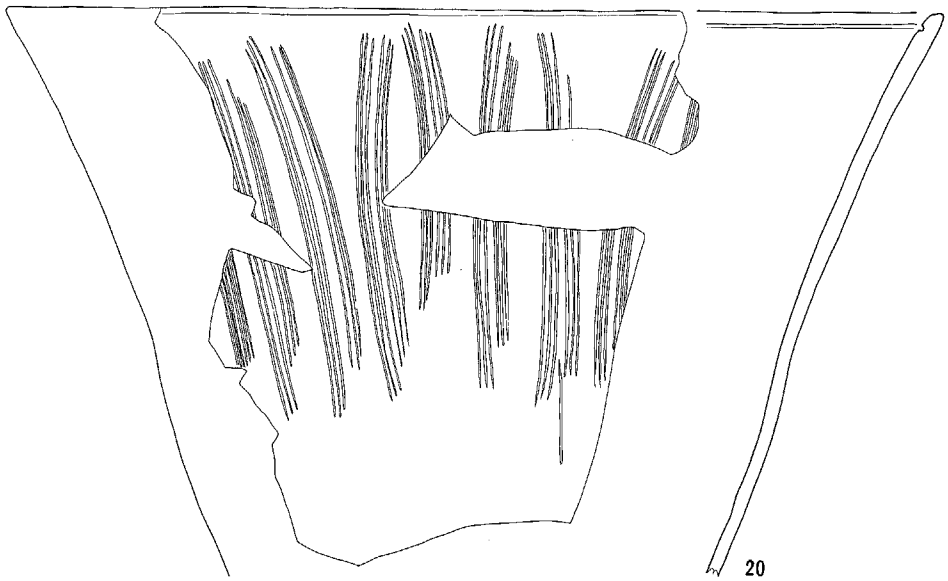
第170図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（2）

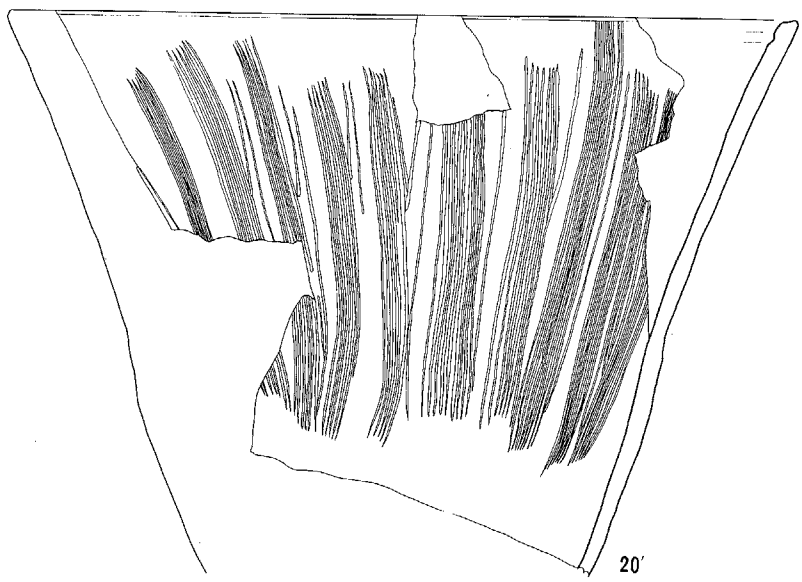


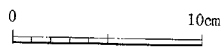
第171図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（3）



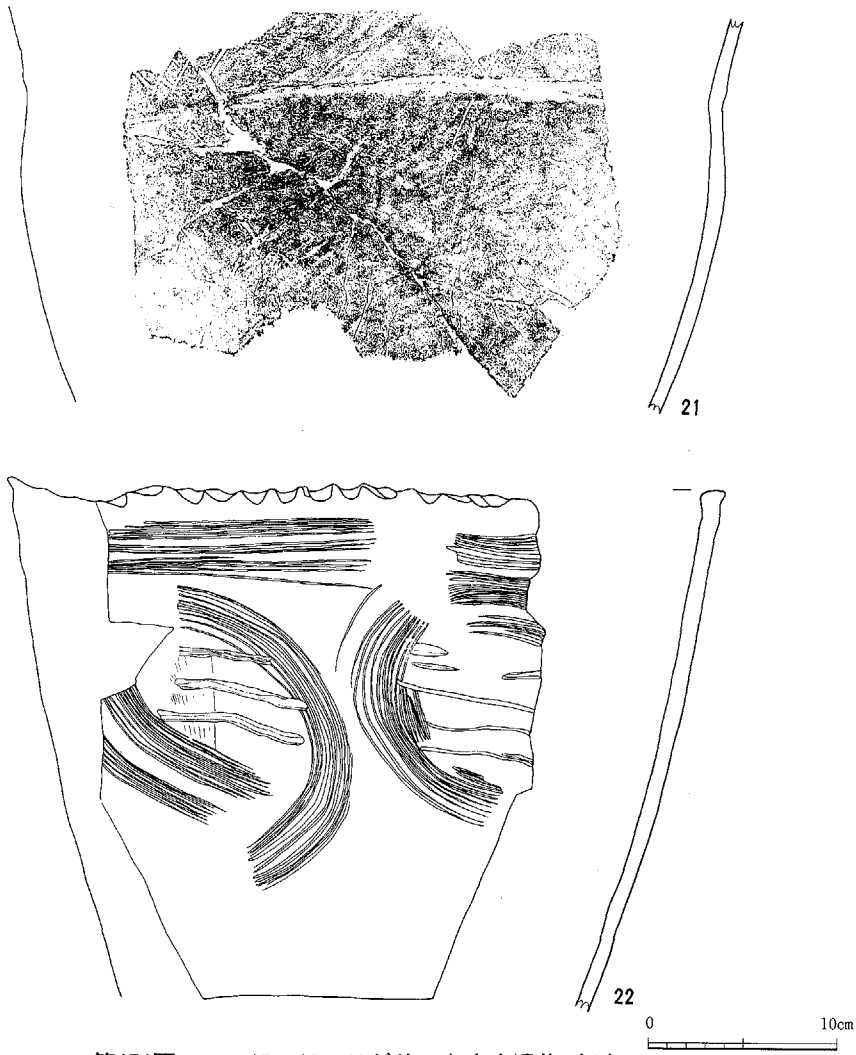
第172図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（4）







第173図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（5）

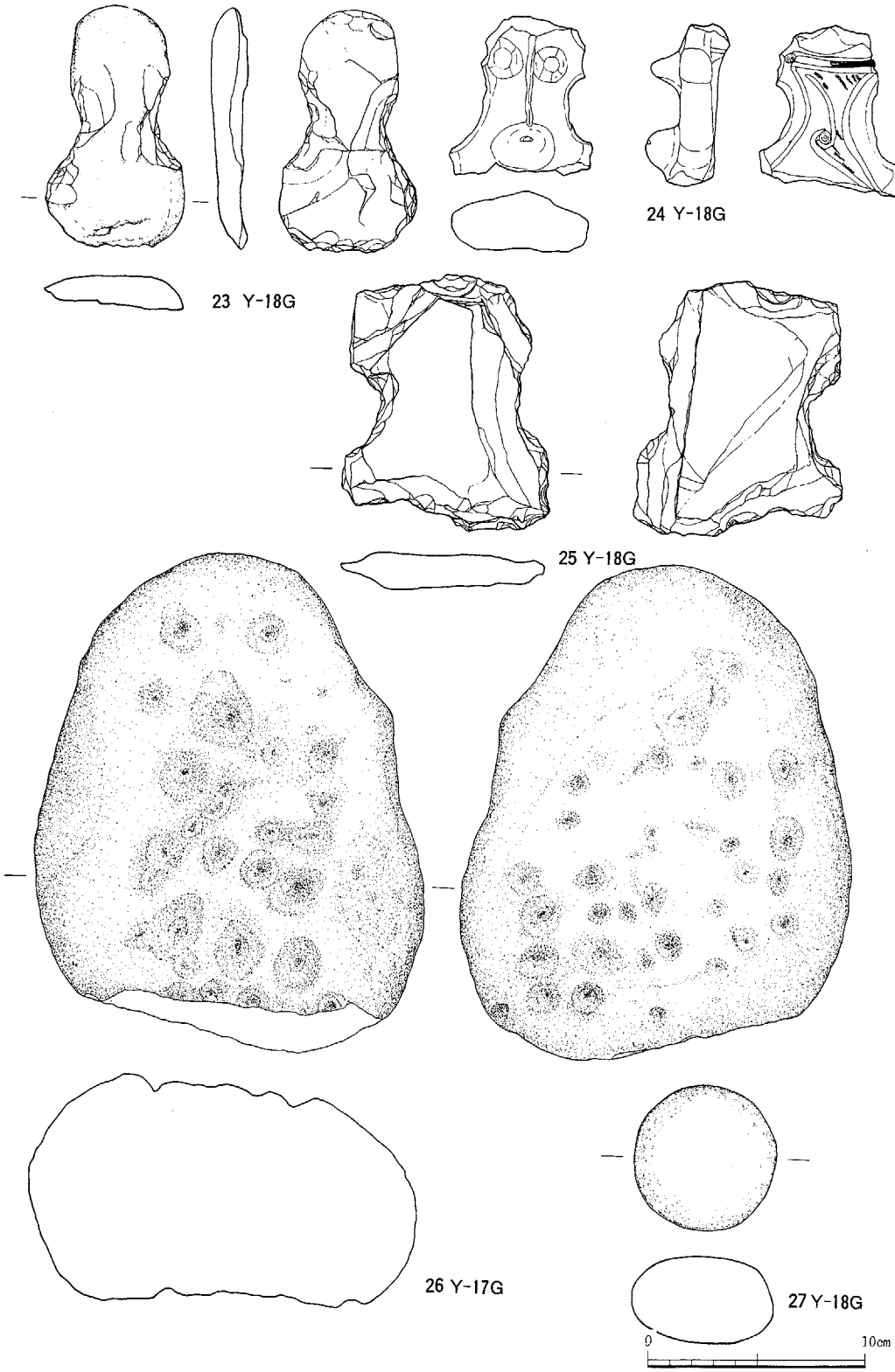


第174図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（6）

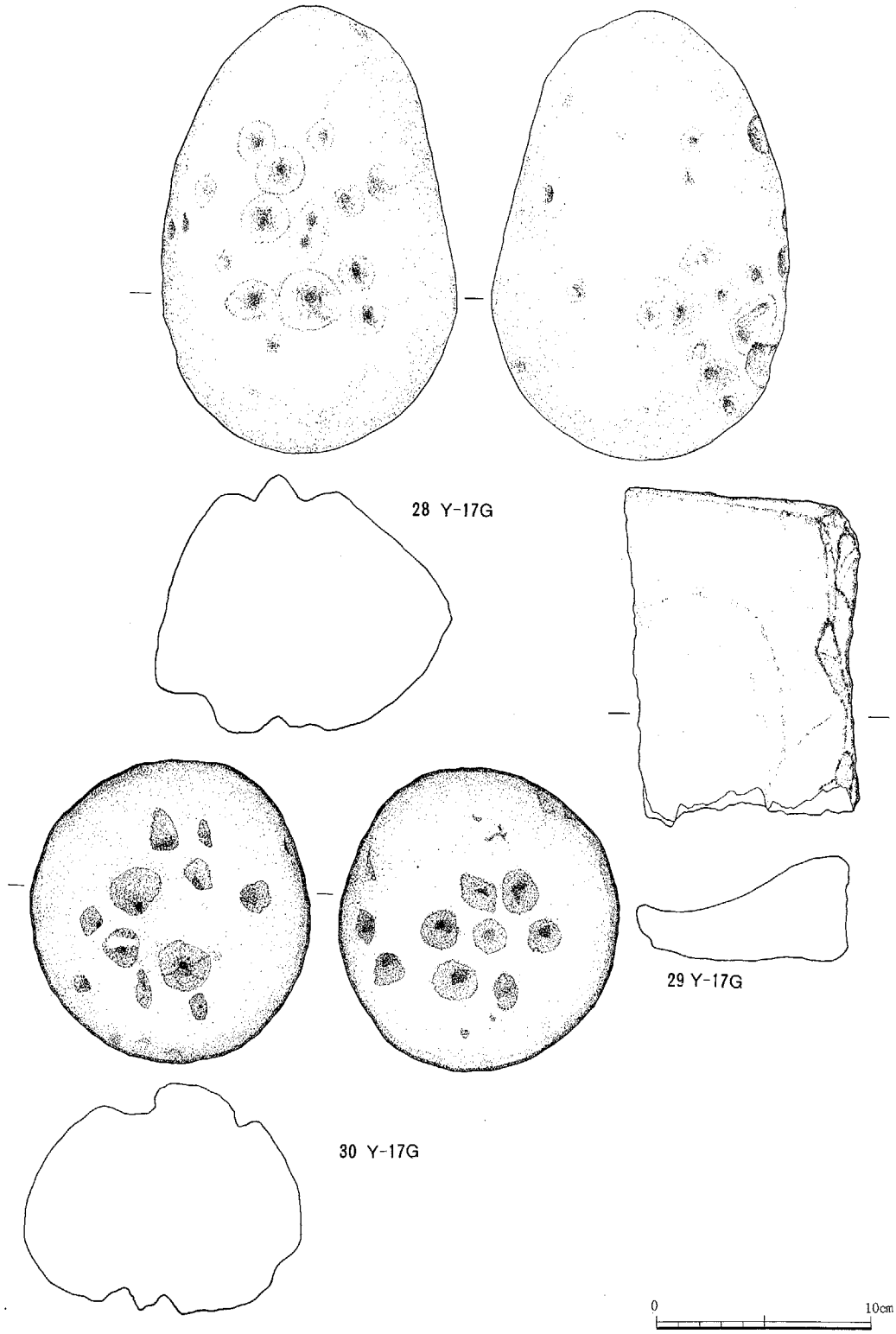
画した中に綾杉状の沈線を施す。19は口縁部に鍔が巡る。体部は半球状に内彎する。内外共に丁寧なミガキが施される。Y－18グリッド内の下部配石検出面より出土した。

24は板状土偶の胴部の破片である。Y－18グリッド内より7号配石の東側約1ｍ離れた地点で出土した。表面は中央部に沈線を施し胸部に乳房の表現と腹部のふくらみで妊婦の表現をする。へその部分は刺突で表現される。背面は平行沈線及び孤状沈線の接点に刺突を施される。また、沈線による区画文の中には単節RLの紐縄文を施文し、磨消しを施される。器面には丁寧なミガキが施される。残存長7.4cm、幅6.2cm、厚さ2.6cm、重さ115ｇ。胎土は砂粒を含む、焼成は良好、色調は黒褐色土である。

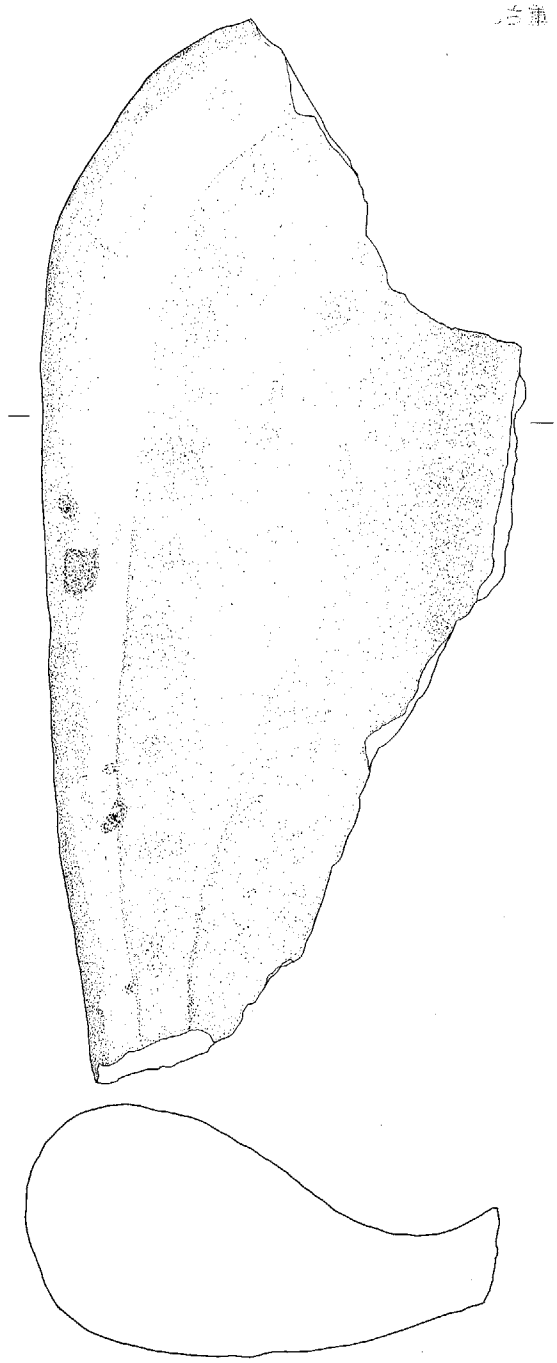
13、23、25は打製石斧である。共に上部配石検出面より出土した。13は長さ8.2cm、幅5.0cm、厚さ2.0cm、重さ110ｇ。石材は頁岩である。Y－17グリッド内の上部配石検出面より出土した。23は石材は黒色頁岩である。長さ8.5cm、幅5.6cm、厚さ2.1cm、重さ135ｇ。25は石材は黒色頁岩である。長さ11.6cm、幅8.4cm、厚さ1.5cm、重さ254ｇ。16は有茎石鏃である。長さ3.0cm、



第175図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（7）



第176図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（8）



31 Y-17G

0 10cm

第177図　Y－17・18・19グリッド出土遺物（9）

幅1.7cm、厚さ0.6cm、重さ3.0ｇ。

17は剥片石器である。石材は頁岩である。長さ8.3cm、幅4.4cm、厚さ1.2cm、重さ61ｇ。Ｙ－17グリッド内の上部配石検出面より出土した。15、26、28、30は多孔石である。石材は安山岩である。15は長さ17.4cm、幅11.5cm、厚さ11.3cm、重さ1990ｇ。26は長さ22.8cm、幅17.6cm、厚さ10.2cm、重さ5100ｇ。28は長さ20.6cm、幅13.1cm、厚さ11.2cm、重さ3200ｇ。30は長さ13.8cm、幅12.8cm、厚さ12.7cm、重さ2000ｇ。29、31は石皿の破片である。共にＹ－17グリッド内の上部配石より出土した。29は石材は緑泥片岩である。残存の長さ14.4cm、幅9.6cm、厚さ4.8cm、重さ1200ｇ。Ｙ－17グリッド内の上部配石検出面より出土した。31は石材は安山岩である。残存の長さ42.2cm、幅18.4cm、厚さ9.2cm、重さ7900ｇ。Ｙ－17グリッド内の上部配石検出面より出土した。

4．集石（第178図　図版58）

配石遺構と集石遺構の名称の区別について研究の現段階では議論を呼んでいる状態であるが本遺跡では小礫が人為的に集められ並べてあるものを配石遺構と区別して集石遺構と呼称した。

本項ではその集石遺構と呼称した遺構について説明を行う。

1号集石（第178図　図版58）

Ｙ－23グリッド内、第Ⅲ層暗褐色土層（縄文遺物包含層）下より検出された。試掘調査の段階で集礫の存在に気が付かずトレンチ部分では切ってしまっている。トレンチ内の円形状に並んでくる河原石の検出により遺構の存在が認められトレンチの拡張を行い調査したところ本址が検出された。小礫の残存状態からみて環状に巡るものと考えられる。その内側に偏平な河原石が人為的に並べられている。また、その間に耕作による攪乱が入り、定かでないが当時は円形状に石が並べられていたと考えられる。環状に廻る集石の規模は径約11.7ｍを計る。小礫群と配石状遺構の下からは遺構の検出は見られなかった。従って、本址の性格は不明である。

遺物の出土状況

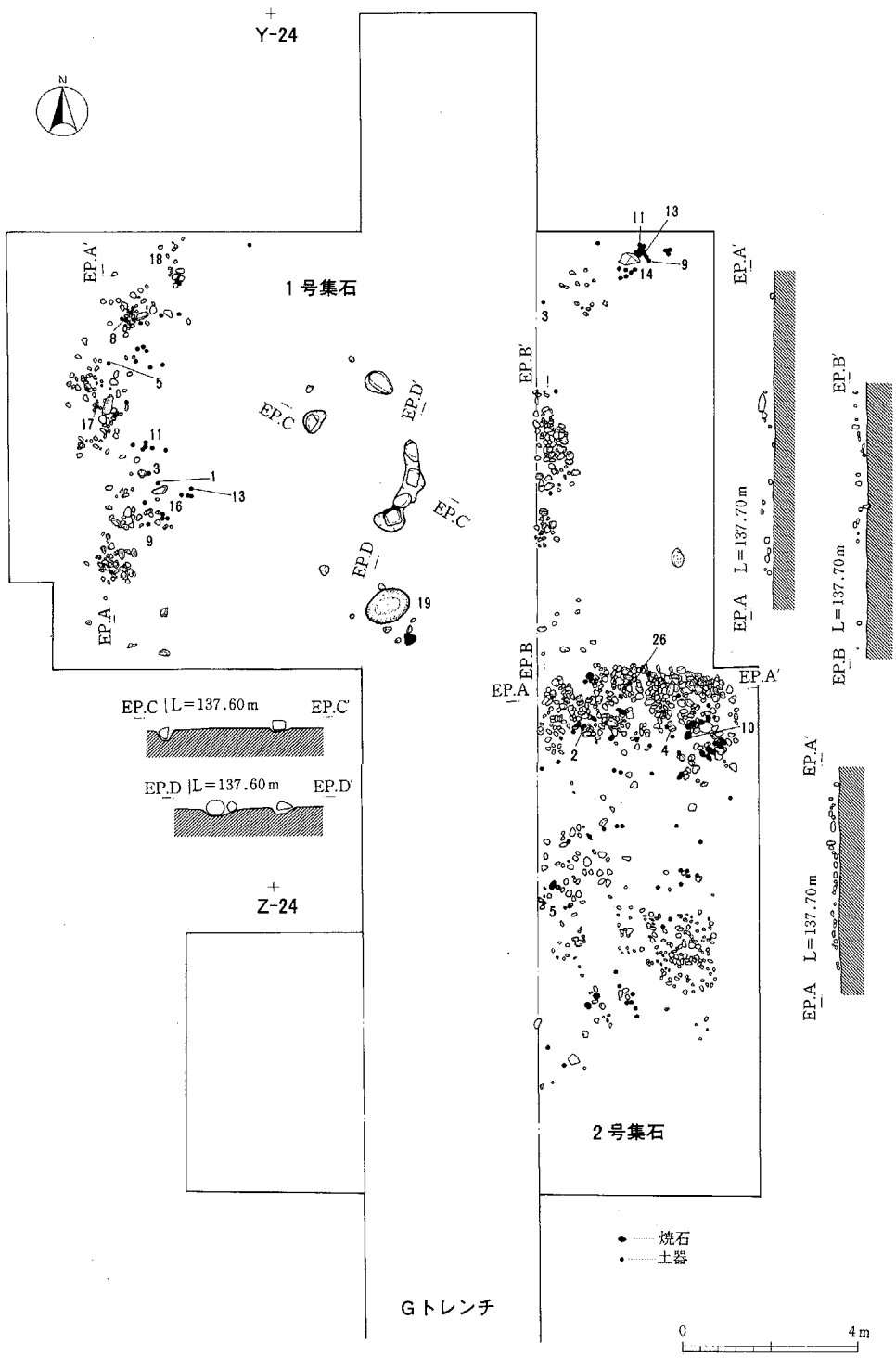
小礫群の間に土器片と配石状の遺構の付近より手水鉢状の石皿？が出土した。実測遺物点数19点。

備考

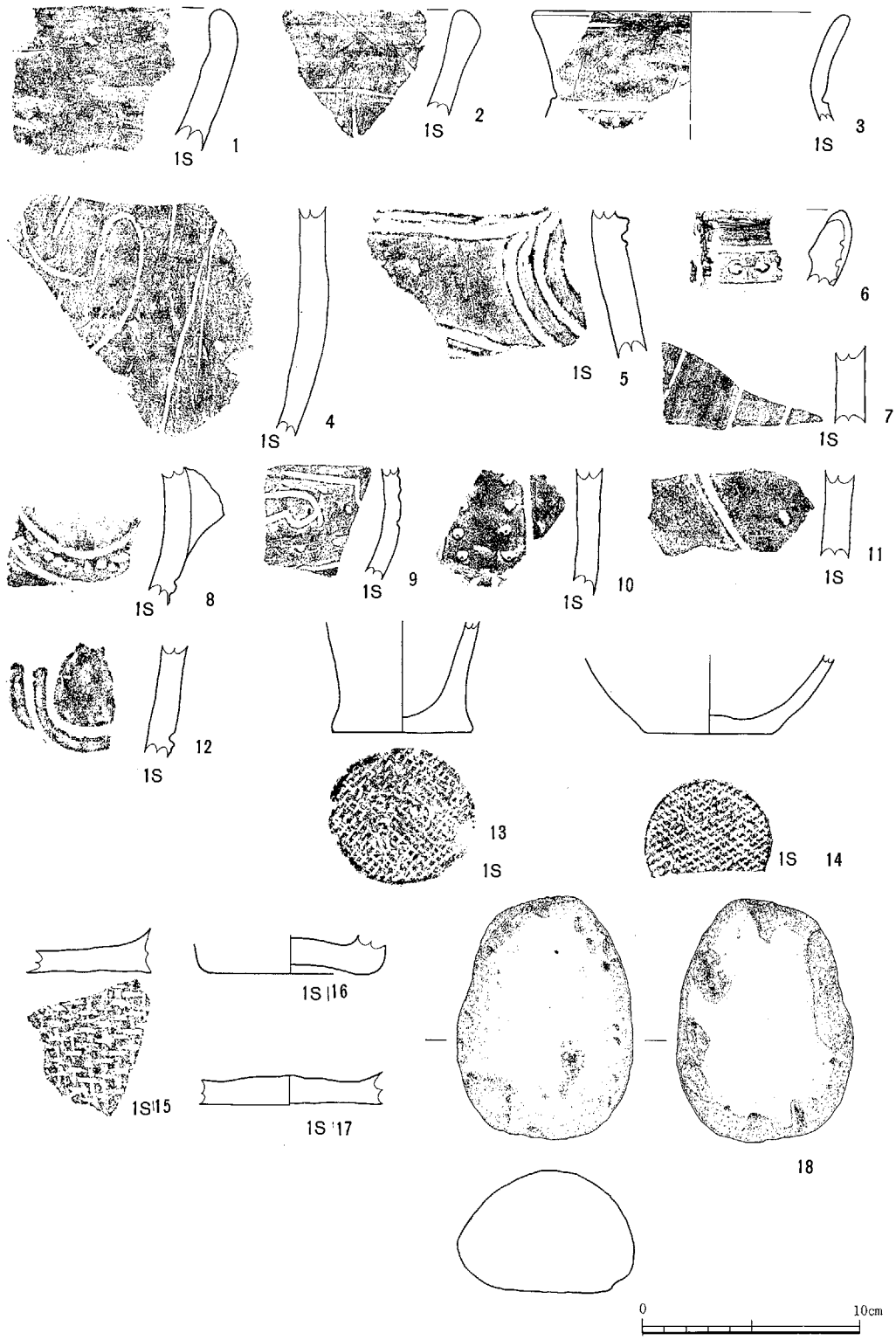
小礫群の内側より検出された配石状の遺構を配石遺構として番号を付したいところだが集石の内側に存在し、直接関連する遺構と考えられるため１つの遺構として総称して１号集石と呼称した。また、調査当初は柄鏡形敷石住居址の周礫としてとらえていたが内側に炉址と思われる配石の内側は焼けた痕跡と礫群の下、遺構内や周辺に柱穴の検出が見られないため、さらに敷石の検出等がないため敷石住居址及び住居址の可能性は薄いと考えられる。

検出された遺物（第179、180図　図版85）

１～13、15～17は深鉢形土器の破片である。14は浅鉢形土器の破片である。小礫群の間より出土したものである。１、２は口縁部に無文帯を構成し、沈線による区画文を施す。胎土はともに砂粒を含み、焼成は良好、色調は白味が強い淡褐色である。


Y-24
N
1号集石
2号集石
Z-24
Gトレンチ
EP.A'
EP.B'
EP.C'
EP.D'
EP.A
EP.B
EP.C
EP.D
EP.A L=137.70m
EP.B L=137.70m
EP.A L=137.70m
EP.C L=137.60m
EP.D L=137.60m
焼石
土器
0
4m

第178図　1・2号集石



第179図　1号集石出土遺物（1）

3は口縁部に無文帯を構成し、以下沈線を頸部に巡らせ、胴部は沈線による区画文の中に列点を充填する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は暗褐色である。4、5、7、12は沈線による区画を施す。5、12は胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調、暗褐色そして、施文方法が似ており、同一個体であると考えられる。4、5が明褐色を7、12、6、8、11は沈線による区画文の中に列点を充填する。10は沈線による区画文の中に刺突文を充填する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は黒褐色である。

13～17は底部の破片である。13は小形深鉢形土器の底部破片、14は浅鉢形土器底部の破片である。15～17は深鉢形土器底部の破片である。13～15には底に網代痕がある。共に器面には丁寧なミガキが施されている。18は磨石である。表裏共に使用を受け研磨されている。石材は安山岩である。長さ11cm、幅8cm、厚さ5.5cm、重さ573g。19石皿と思われる。手水鉢状を呈する。石材は安山岩である。長さ48.6cm、幅35.6cm、厚さ25.4cm、重さ35.2kg。

2号集石（第178図　図版58）

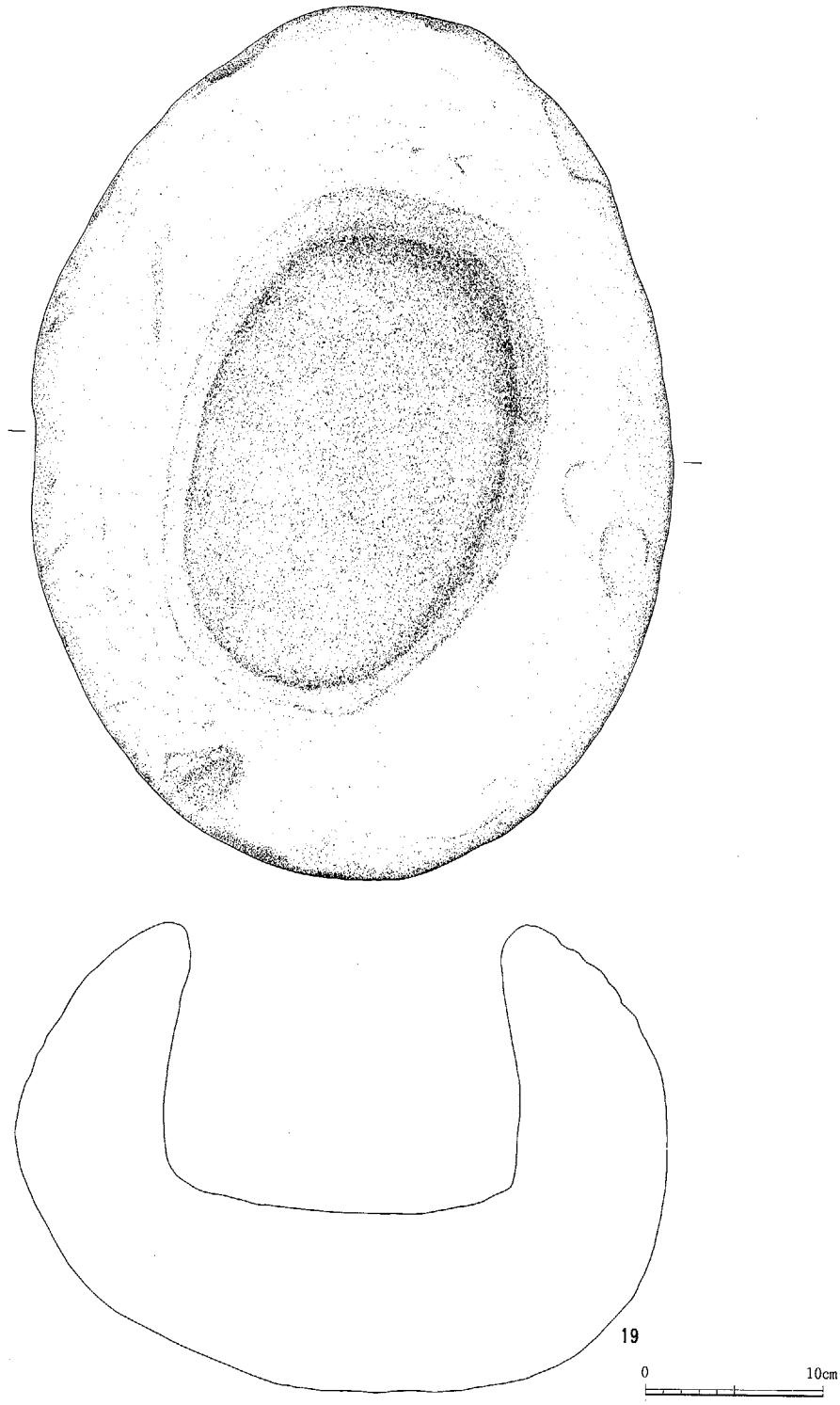
Y－23、24グリッド内、第Ⅲ層暗褐色土層（縄文遺物包含層）下より検出された。1号集石同様、試掘時において集石の存在に気付かずトレンチ内で切っている。1号集石の存在から近接して遺構の検出が考えられたため、トレンチを東西拡張して調査した結果、東側に小礫群が検出された。これを2号集石と呼称した。尚、2号集石はさらに東側へ延びる可能性が考えられたが、調査範囲より東側は1号溝に切られる（第2図　グリッド設定図・縄文遺物包含層試掘トレンチ設定図参照）さらに1号溝東側を調査した結果、集石の検出はみられなかった。従って1号溝の部分が範囲の可能性が考えられ、外側の小礫群は環状に廻るものと思われる。検出された規模は東西約9m20cm、南北約4m50cmを計る。また、外側の周礫とみられる礫群の幅は約1m90cmを計る。礫群の中には火熱を受け赤色化されたものが見られる。

遺物の出土状況

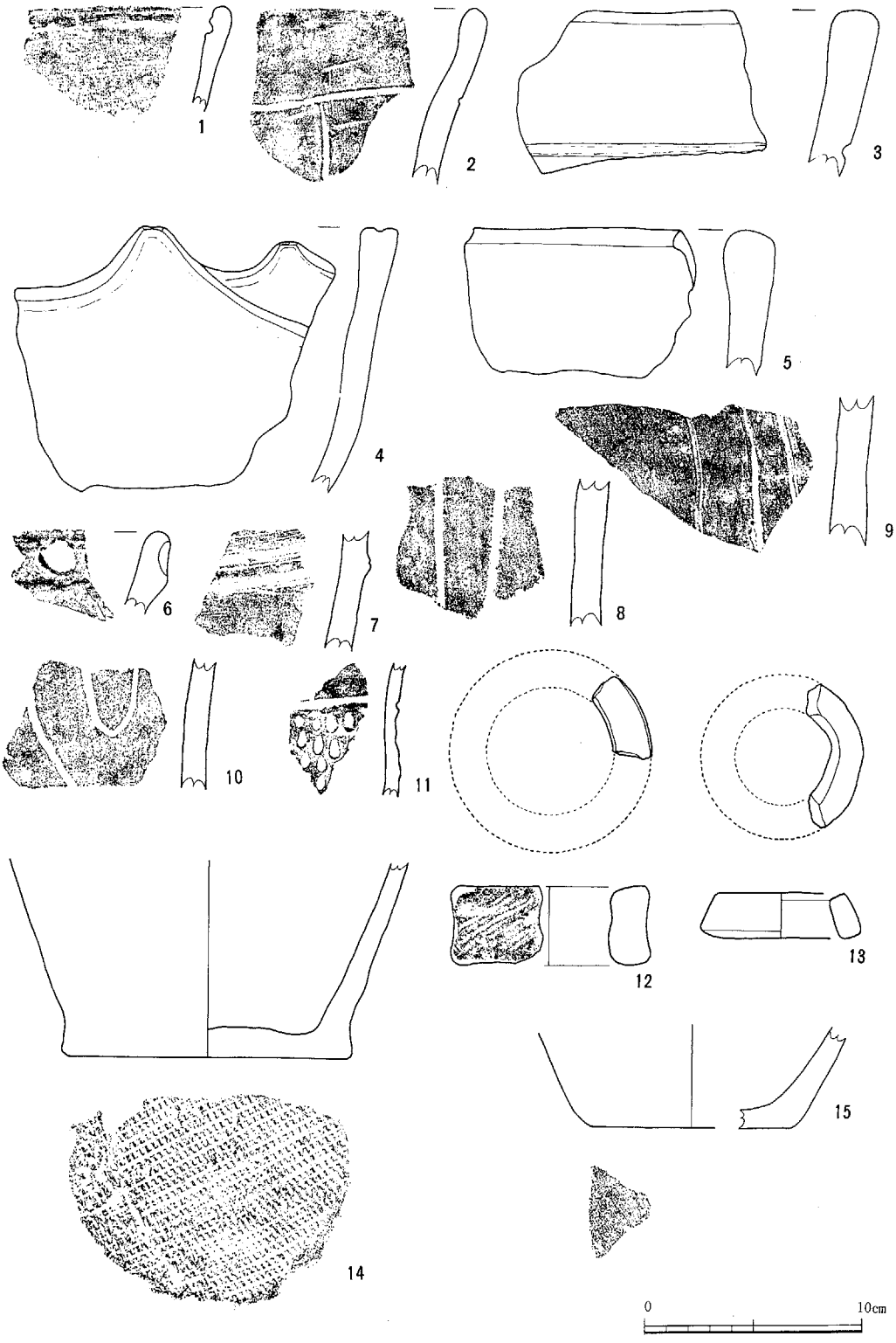
集石の間より検出された。実測遺物点数18点。

検出された遺物（第181、182図）

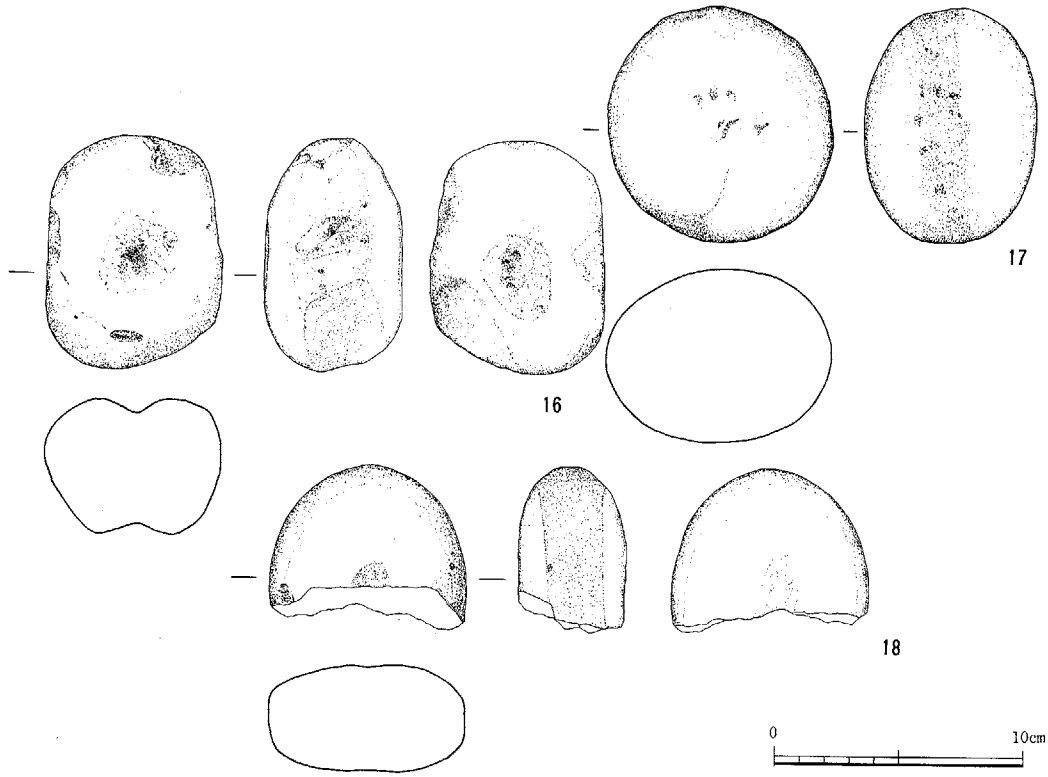
1～11、14、15は深鉢形土器の破片である。1、3、5は口縁部に文帯を構成する。1は内面に横位の沈線を巡らせる。3は口辺部に横位の沈線を巡らせる。2、8、10は沈線による区画文を施す。4は波状口縁である。器面は内外共に丁寧なミガキが施される。6は口縁部に指頭圧痕を施す。7は隆起線を巡らせ、2本の沈線を施す。11は沈線による区画文の中に列点を充填させる。14、15は底部破片である。共に網代痕がある。12、13は土製の耳飾りである。12は単節LR縄文を施文する。復元径9.1cm、高さ3.6cm。13は復元径7.4cm、高さ2.0cm。16、18は凹石である共に磨石と併用されている。石材は安山岩である。16は敲打による凹みが3面に1ケ所ずつ認められる。長さ9.2cm、幅6.9cm、厚さ5.4cm、重さ475g。16は破片である。摩耗痕が両面に認められる。また、敲打による凹みが3ケ所認められる。さらに、側面に敲打による平坦面が形成される。残存の長さ5.6cm、幅7.8cm、厚さ4.2cm、重さ254g。17は磨石である。ほぼ円形を呈する。長さ9.4cm、幅9.0cm、厚さ6.9cm、重さ1000g。



第180図　1号集石出土遺物（2）



第181図　2号集石出土遺物（1）



第182図　2号集石出土遺物（2）

5．屋外埋設土器（埋甕）

本項では遺構外に検出された単独の埋甕を遺構内より検出された埋甕と区別するため屋外埋設土器と呼称し説明を行う。

1号埋設土器（第183図　図版62）

X－16グリッドに位置する。口縁部を上に正位で埋設されている。南側の半分は割れて散乱して検出された。掘り方の規模は上幅・径33cm。下幅・径20cm、深さ18cmを計る。

2号埋設土器（第183図　図版62）

Z－21グリッドに位置する。横位で埋設されている。南側の半分は割れて内側に散乱して検出された。掘り方の規模は上幅・長径72cm、短径68cm。下幅・長径38cm、短径34cm。深さ21cmを計る。

3号埋設土器（第183図　図版62）

X－25グリッドに位置する。正位で埋設されている。底部も残存し完形である。覆土中に自然礫が2点出土した。掘り方の規模は上幅・長径37cm、短径34cm。下幅・長径22cm、短径18cm、深さ26cmを計る。

4号埋設土器（第183図　図版62）

Z－24グリッドに位置する。正位で埋設されている。掘り方の規模は上幅・長径43cm、短径38cm。下幅・長径32cm、短径29cm、深さ11cm。

5号埋設土器（第183図　図版63）

Y－20グリッドに位置する。正位で埋設されている。底部は欠損している。掘り方の規模は上幅・長径46cm、短径44cm。下幅・長径14cm、短径11cm、深さ36cmを計る。

6号埋設土器（第183図　図版63）

Y－21グリッドに位置する。正位で埋設されている。土圧により押し潰された状況である。また、127号住居址（古墳時代）が近接して検出されている。掘り方の規模は上幅・長径39cm、短径37cm。下幅・長径29cm、短径24cm、深さ19cmを計る。

7号埋設土器（第183図　図版63）

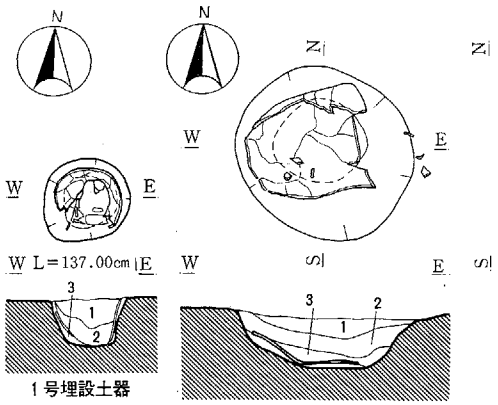
V－20グリッドに位置する。正位で埋設されている。極めて遺存状態が悪い。掘り方の規模は上幅・長径63cm、短径61cm。下幅・長径48cm、短径46cm、深さ29cmを計る。

8号埋設土器（第183図　図版63）

W－15グリッドに位置する。配石群の中にある。配石は柄鏡形敷石住居の残存したものか？しかし炉址の掘り込み、柱穴等の検出は見られなかった。本土器も正位で埋設されている。掘り方の規模は上幅・長径26cm、短径24cm。下幅・長径14cm、短径10cm、深さ24cmを計る。

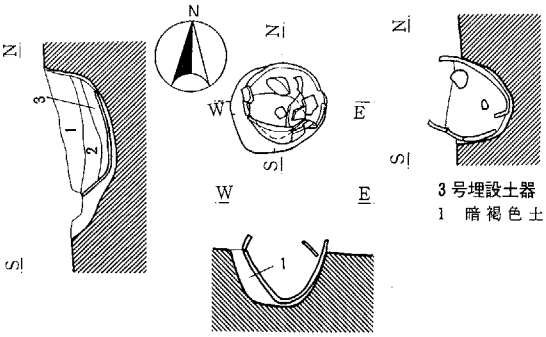
9号埋設土器（第183図　図版63）

Y－20グリッドに位置する。横位で埋設されている。近・現代の耕作により削平を受け上面約2分の1が欠損する。掘り方の規模は上幅・長径69cm、短径38cm。下幅・長径58cm、短径24cm、深さ（残存の深さ）9cmを計る。



1号埋設土器

1　黒褐色土
2　暗褐色土
3　暗褐色土

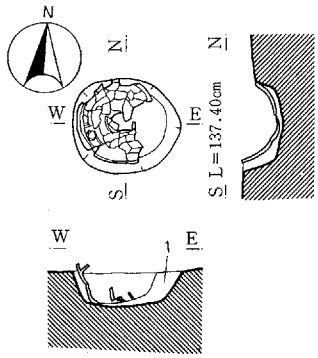


2号埋設土器

1　暗褐色砂質土　黄色軽石粒細かく多量に含む。褐色砂質土ブロック状に含む。しまり強。
2　暗褐色砂質土　1層より軽石粒大きい。褐色砂質土ブロック状に含む。しまり強。
3　灰褐色砂質土　黄色軽石微量に含む。しまり強。

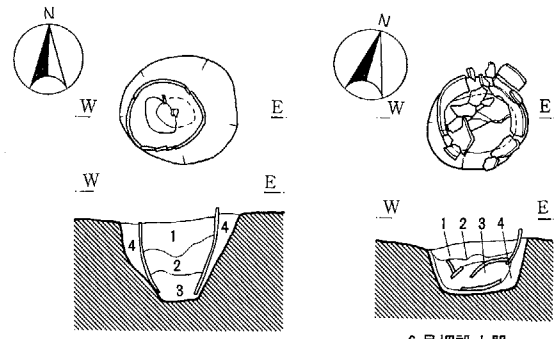
3号埋設土器

1　暗褐色土



4号埋設土器

1　暗褐色土　白色軽石粒細かく多量に含む。黒褐色土ブロック含む。しまり強、粘性弱。

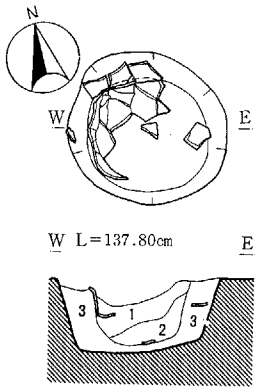


5号埋設土器

1　黒褐色土
2　黒褐色土
3　黒褐色土
4　褐色土

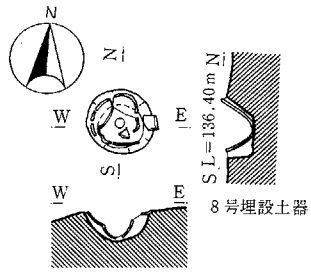
6号埋設土器

1　暗褐色土　白色軽石粒細かく多量に含む。オレンジ色の軽石微量に含む。しまり強、粘性弱。
2　暗褐色土　白色軽石粒細かく多量に含む。オレンジ色の軽石粒大少量。しまり強、粘性弱。
3　褐色土　灰色砂質土混入。白色軽石粒細かく多量に含む。しまり強、粘性弱。
4　褐色土　3層より色調明るい。ロームブロックφ10mm～30mm多量に含む。しまり強。

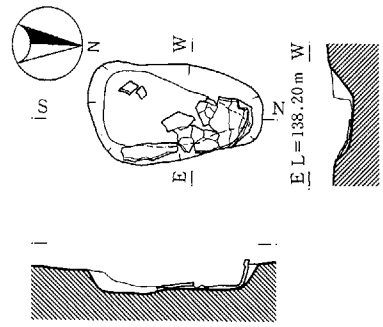


7号埋設土器

1　黒色土　白色軽石粒細かく多量に含む。黒褐色に混入する。しまり強、粘性弱。
2　黒褐色土　白色軽石粒細かく多量に含む。オレンジ色の軽石微量に含む。しまり強、粘性弱。
3　褐色砂質土　粘土ブロックを含む。しまり強。（人為的な埋土）

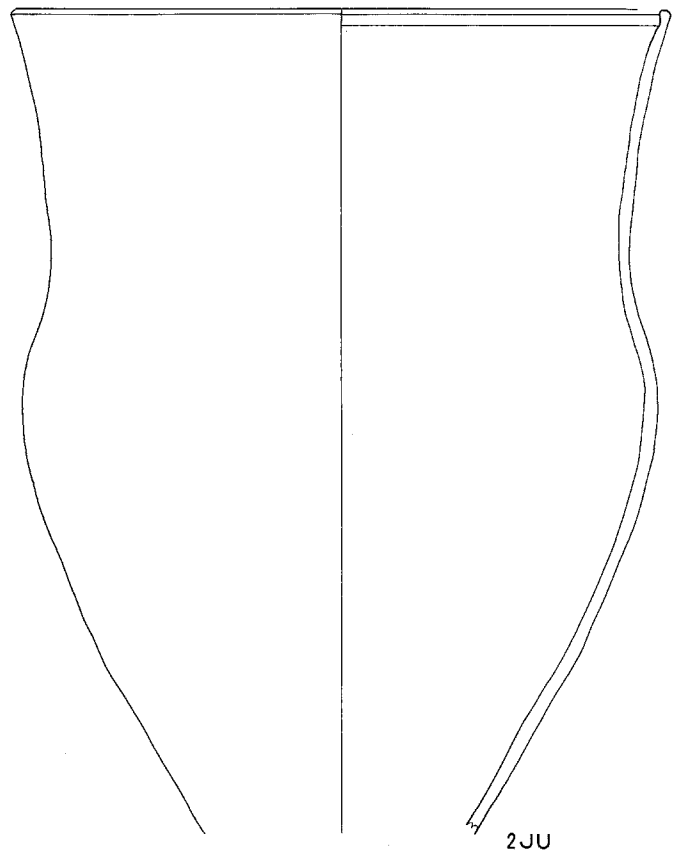


8号埋設土器



9号埋設土器

第183図　屋外埋設土器



第184図　1・2号埋設土器

b．検出された遺物

1号埋設土器（第184図　図版62）

深鉢形で無文の粗製土器である。口縁部と底部が欠損している。半分は割れて散乱して検出されたが復元の結果、完形にはならなかった。残存高18.6cm。胎土は砂粒を含む。焼成は良好。内外に黒斑がある。色調は内面は淡褐色、外面は淡褐色と淡赤褐色の混合である。調整は内面はヘラケズリのちミガキ。外面はヘラケズリのちナデで調整されている。

2号埋設土器（第184図　図版62）

深鉢形で無文の粗製土器である。全体の約2分の1の残存である。底部は欠損している。底部は意図的に外された可能性が考えられる。器形の特徴はキャリパー形を呈する。口径33.6cm。胎土は砂粒を含む。内外に黒斑あり。焼成は極めて良好である。色調は淡褐色。調整は内外共に丁寧なミガキが施されている。

3号埋埋土器（第185図　図版62、64）

深鉢形で無文の粗製土器である。復元口径27.4cm、器高37.1cm、底径7.4cmを計る。器形の特徴は胴部上半に最大径を持ち下半は細くなっている。器肉は厚い。胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好、内外に黒斑あり。色調は内面暗褐色、明褐色混合。外面暗褐色である。残存率は全体の4分の3である。

4号埋設土器（第185図　図版62）

浅鉢形土器である。残存高22.9cm、復元底径11.7cmを計る。器形の特徴は胴部は球状に内彎する。底部は平底である。文様構成は平行沈線による入り組み文を施文する。器肉は厚い。胎土は砂粒を多量に含む。焼成は良好。色調は淡赤褐色である。調整は内外ミガキが施されている。残存率は全体の約3分の2である。

5号埋設土器（第186図　図版63、64）

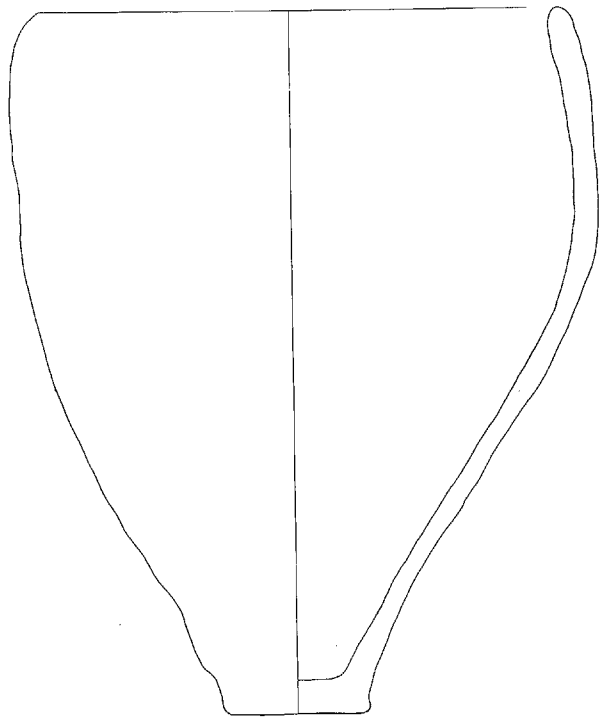
深鉢形土器である。残存高38cm。口縁部、底部は欠損している。胴部は最大径をほぼ中央部分に持ち下半は細くなる。器肉は厚い。胴部は中央にかけて縦の平行沈線の区画した中に列点を施文する。胎土は砂粒を含む。焼成は良好。内外に黒斑あり。色調は淡赤褐色、淡黄褐色の混合。調整は内外共に丁寧なミガキを施される。

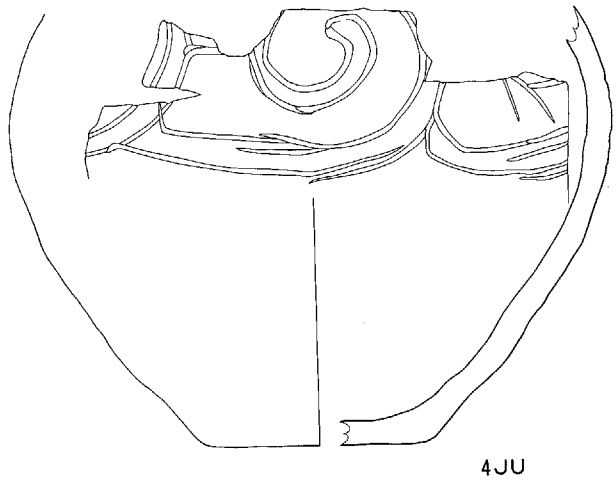
6号埋設土器（第187図　図版63）

深鉢形土器である。風化を受け器質はもろい。また、遺存度が悪く欠損部分が多いため復元は不可能であった。整、成形の特徴は口唇部に一重の沈線巡らし、胴部に縦位の沈線を施文する粗製土器である。胎土は砂粒を多量に含む。焼成は粗。内外に黒斑あり。色調は淡褐色。調整はヘラケズリのちミガキで施す。

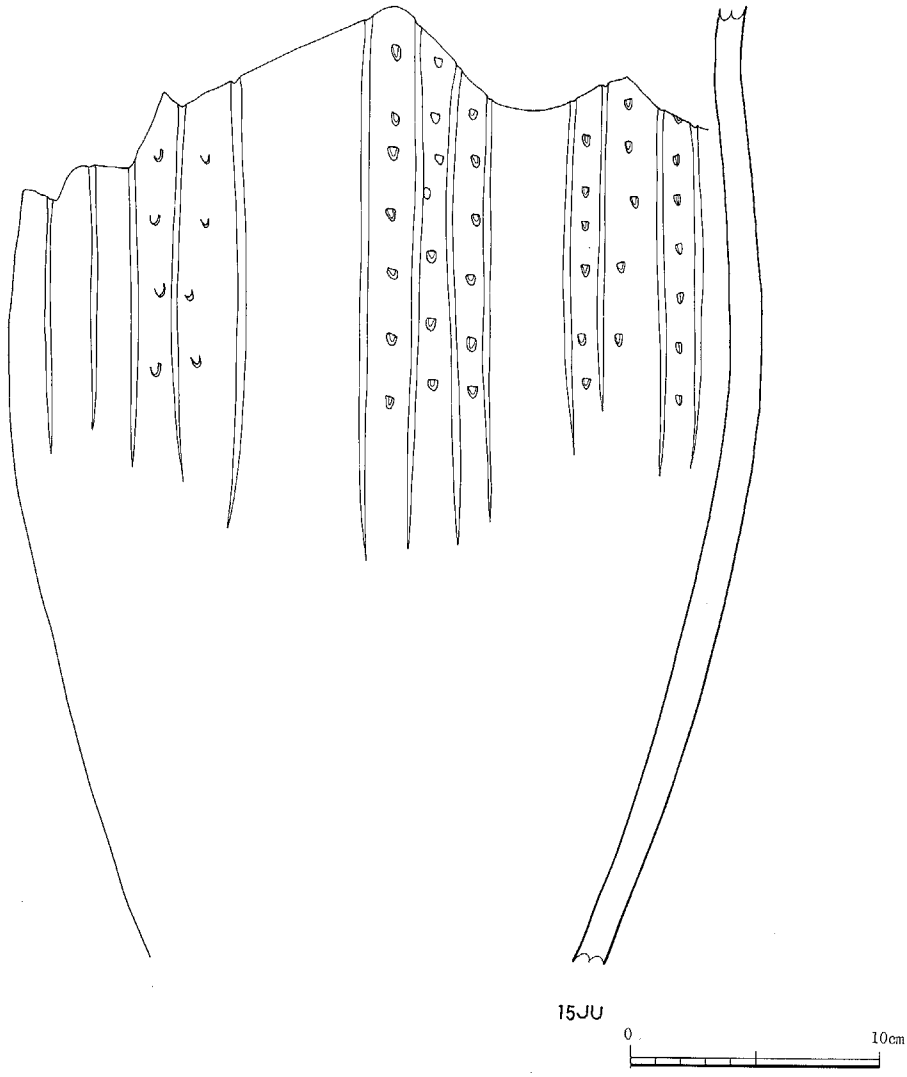
7号埋設土器（第188図　図版63、64）

1は深鉢形土器である。口縁部2分の1の残存である。口縁部に一重の沈線を巡らす。頸部には半截竹管による沈線を横位に施した後、縦位に施す。内外ともミガキで調整が行われている。法量は口径86cm、残存高15.4cmを計る。胎土は砂粒、石英を含む。焼成は良好、外面の一





第185図　3・4号埋設土器



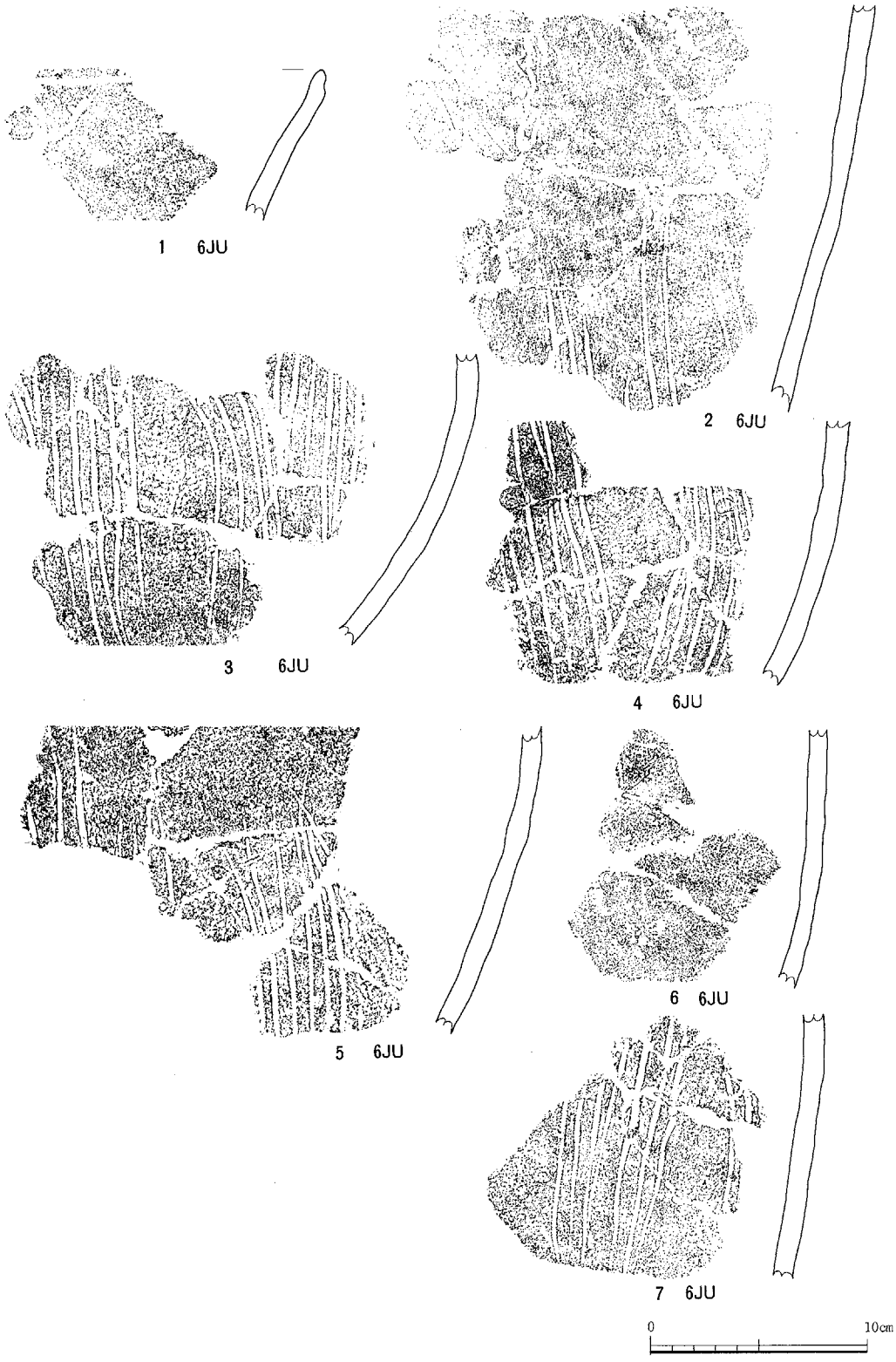
第186図　5号埋設土器

部に黒斑あり。色調は明褐色である。2は1の埋設土器内の覆土中より出土したものである。口縁部がくの字状に外反する深鉢形土器である。口縁部の内外に一重の沈線を巡らす。内面には沈線の間に直列で2つの刺突を施す。また、口縁部より胴部にかけてY字状の貼付を施す。

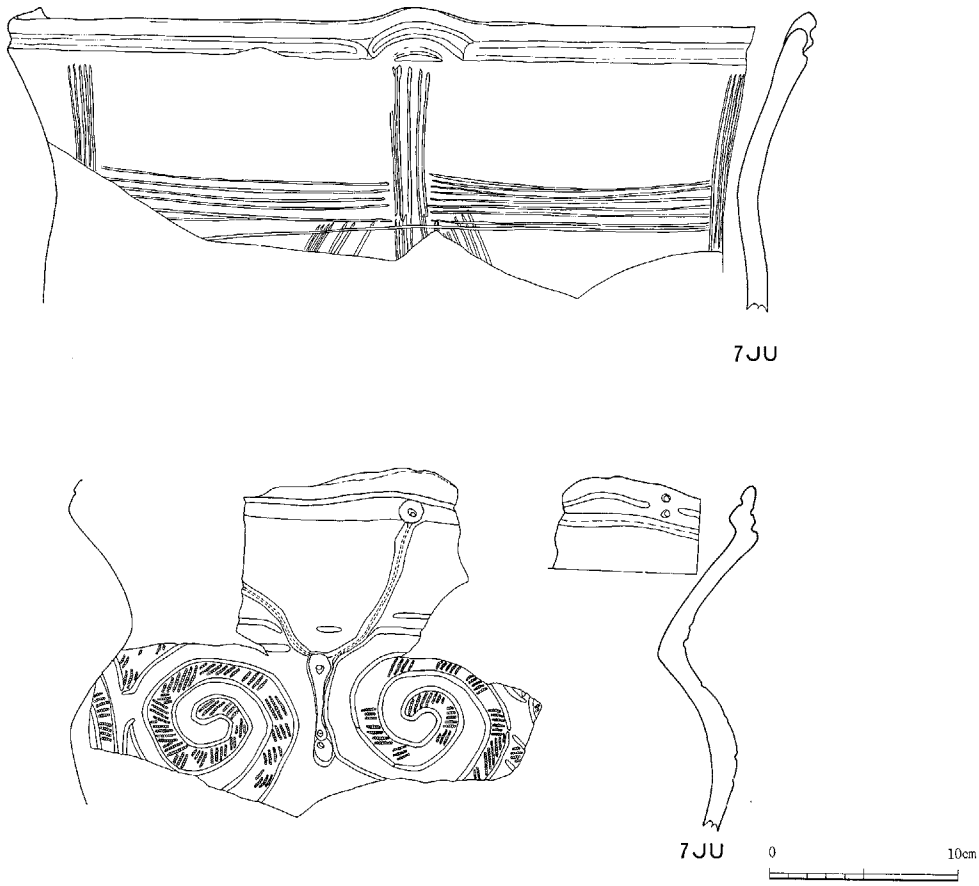
法量は復元口径34cm、残存高17.3cm。胎土は緻密、石英を少量含む。焼成は良好。色調は内外とも暗褐色と淡褐色の混合である。

8号埋設土器（第169図　図版63）

深鉢形土器である。胴部下半3分の1の残存である。遺存部分より粗製土器と考えられる。胴部は内外ともヘラケズリのみミガキで調整されている。底部はナデで調整されているが僅かに網代痕を残す。また、底部に径4.9cmの孔が意図的にあけられている。法量は残存高は15.1cm、底径11.1cmを計る。胎土は緻密。内外に黒斑あり。焼成は良好。色調は淡橙褐色である。



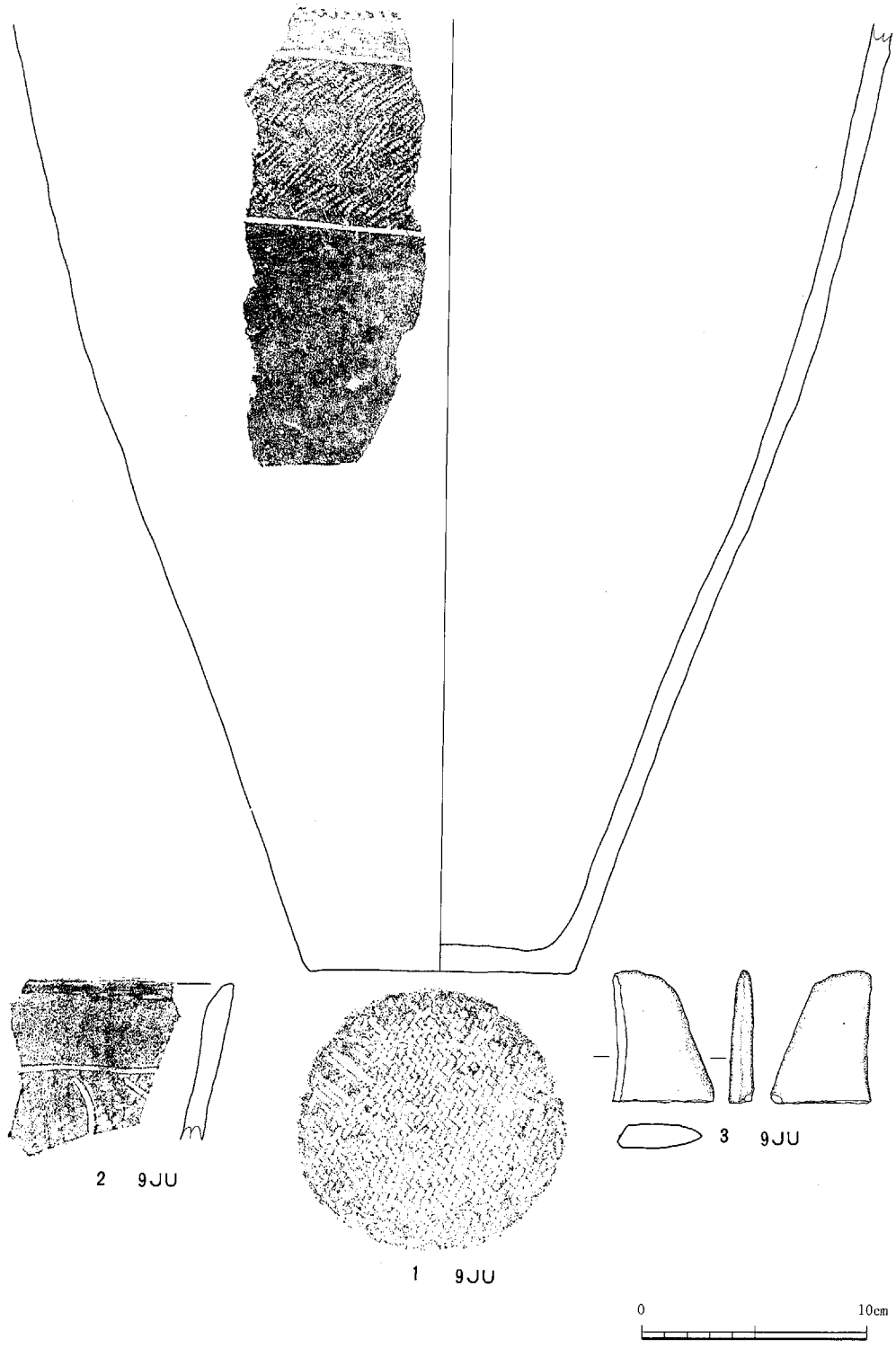
第187図　6号埋設土器



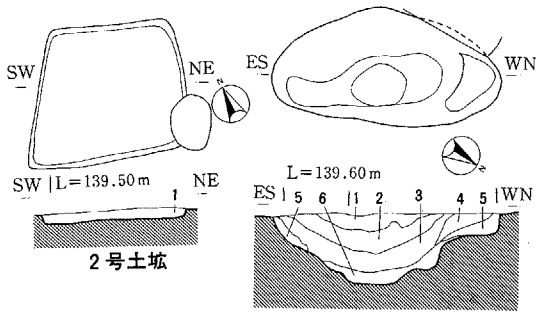
第188図　7号埋設土器

9号埋設土器（第189図　図版63）

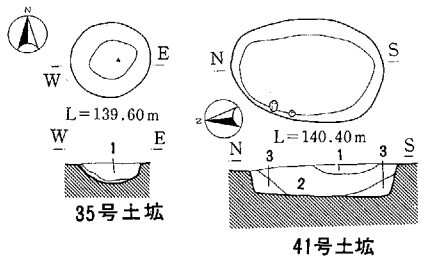
深鉢形土器である。復元の結果、全体の3分の1の残存であることが判明した。口縁部に隆帯を巡らしキザミを施す。平行沈線の区画の中に単節LRの縄文を施文し、部分的に磨消されている。胴部下半は無文である。底部には網代痕がある。法量は残存高36.4cm、底径11.4cm。胎土は砂粒を含む。焼成は良好、外面の一部に黒斑がある。色調、内面は暗褐色、外面は暗褐色と淡褐色の混合である。内外ともミガキで調整されている。



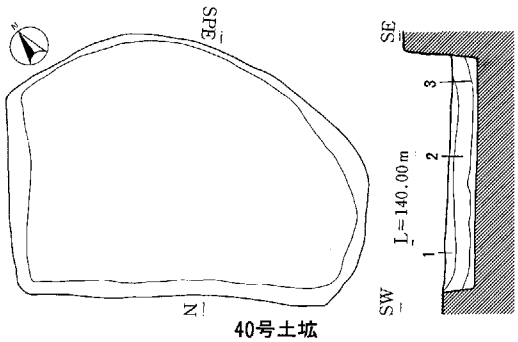
第189図　9号埋設土器



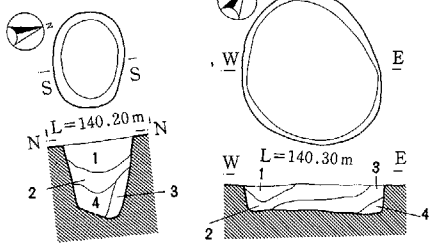
2号土坑　15号土坑



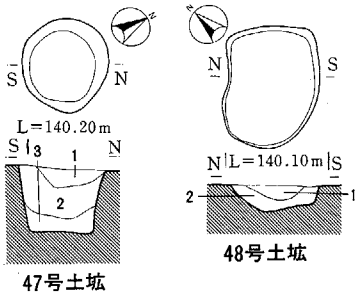
35号土坑　41号土坑



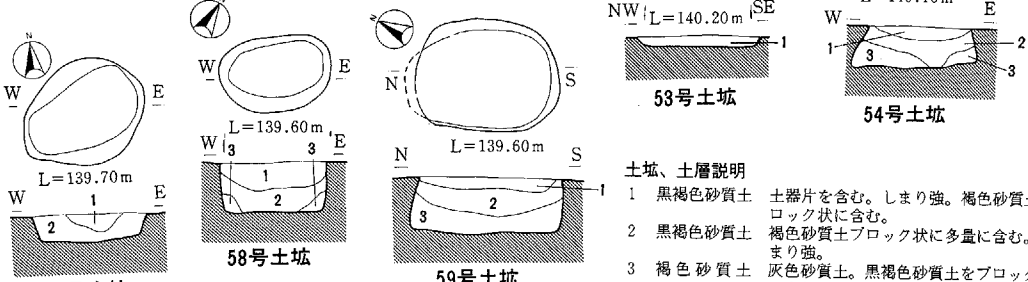
40号土坑



42号土坑　46号土坑



47号土坑　48号土坑　49号土坑　50号土坑　51号土坑



57号土坑　58号土坑　59号土坑　53号土坑　54号土坑

土坑、土層説明

1	黒褐色砂質土	土器片を含む。しまり強。褐色砂質土ブロック状に含む。
2	黒褐色砂質土	褐色砂質土ブロック状に多量に含む。しまり強。
3	褐色砂質土	灰色砂質土。黒褐色砂質土をブロック状に含む。しまり強。
4	黒色砂質土	褐色砂質土ブロック状に少量含む。しまり強。
5	褐色砂質土	黒色砂質土混入。しまり強。
6	黒褐色砂質土	土器片を含む。しまり強。黄色砂質土ブロック状に少量含む。

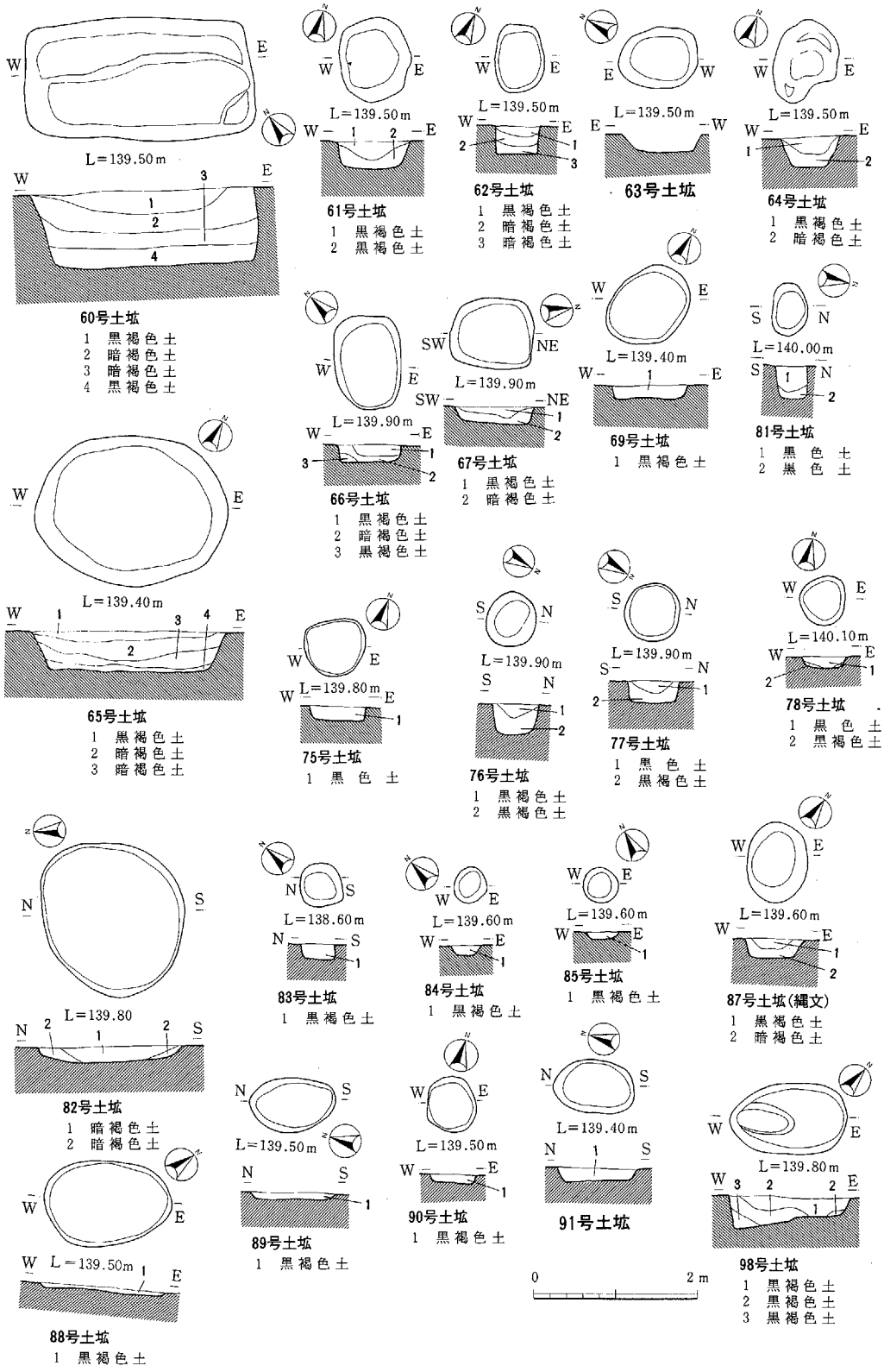
0　2m

第190図　縄文時代土坑（1）

縄文時代土坑一覧表（1）

（単位m）

番号	位置	形態	上幅 下幅	長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
2	M-12	楕円形		0.58×0.43 0.14×0.10	0.10	N-12°-E	有	皿形
15	M-14 N-14	(長) 楕円形		2.40×1.22 0.58×0.46	1.12～ 0.73	N-31°-W	無	鍋底形
35	N-20	円形		0.84×0.80 0.52×0.40	0.20	——	有	鍋底形
40	N-23	不整形		3.78×2.56 3.38×2.36	0.30	N-47°-W	無	鍋底形
41	J-28	楕円形		1.60×1.08 1.42×0.82	0.32	N-85°-W	無	鍋底形
42	J-30	楕円形		1.00×0.75 0.82×0.57	0.48～ 0.84	N-77°-W	無	鍋底形
46	K-29・30	楕円形		1.64×1.48 1.52×1.38	0.28	N-45°-W	無	鍋底形
47	K-30	楕円形		1.00×0.90 0.74×0.68	0.66～ 0.72	——	無	鍋底形
48	K-31	(不整) 楕円形		1.30×0.97 1.20×0.87	0.19	N-47°-E	無	鍋底形
49	K-32	楕円形		1.60×1.08 0.32×.031	0.62	N-37°-W	無	鍋底形
50	K-29	楕円形		0.70×0.56 0.56×0.46	0.06	N-65°-W	無	皿形
51	K-30	楕円形		0.80×0.72 0.64×0.60	0.44	N-36°-W	無	鍋底形
53	L-28・29	円形		1.34×1.30 1.22×1.16	0.09	——	無	鍋底形
54	L-29	楕円形		1.41×1.10 1.30×1.21	0.43	N-18°-E	無	フラスコ形
57	M-31	楕円形		1.40×1.09 1.20×0.70	0.30	N-68°-E	無	鍋底形
58	N-30	楕円形		1.18×0.80 1.00×0.56	0.52	N-45°-E	無	鍋底形
59	N-30・31	楕円形		1.60×1.18 1.43×1.02	0.60	N-28°-W	無	フラスコ形
60	N-31 O-31	長方形		2.72×1.52 2.44×0.74	0.70	N-59°-W	有	鍋底形
61	N-31・32	楕円形		1.04×0.90 0.70×0.66	0.35	N-9°-W	無	鍋底形
62	N-32	楕円形		0.84×0.58 0.68×0.50	0.34	N-28°-W	無	鍋底形
63	N-32 O-32	楕円形		0.98×0.75 0.72×0.44	0.24	N-34°-W	無	鍋底形
64	O-31	不整形		1.04×0.74 0.41×0.30	0.38	N-5°-W	無	鍋底形
65	O-31	楕円形		2.34×1.85 1.90×1.52	0.48	N-63°-E	無	鍋底形
66	M-29・30	(隅丸) 長方形		1.14×0.82 1.00×0.68	0.21	N-45°-E	無	鍋底形
67	M-30	長方形		1.01×0.88 0.86×0.71	0.16～ 0.24	N-8°-E	無	鍋底形
69	N-32	楕円形		1.12×0.85 0.95×0.75	0.16	N-23°-E	無	鍋底形
75	M-32	(不整) 円形		0.74×0.63 0.70×0.64	0.18	——	無	鍋底形

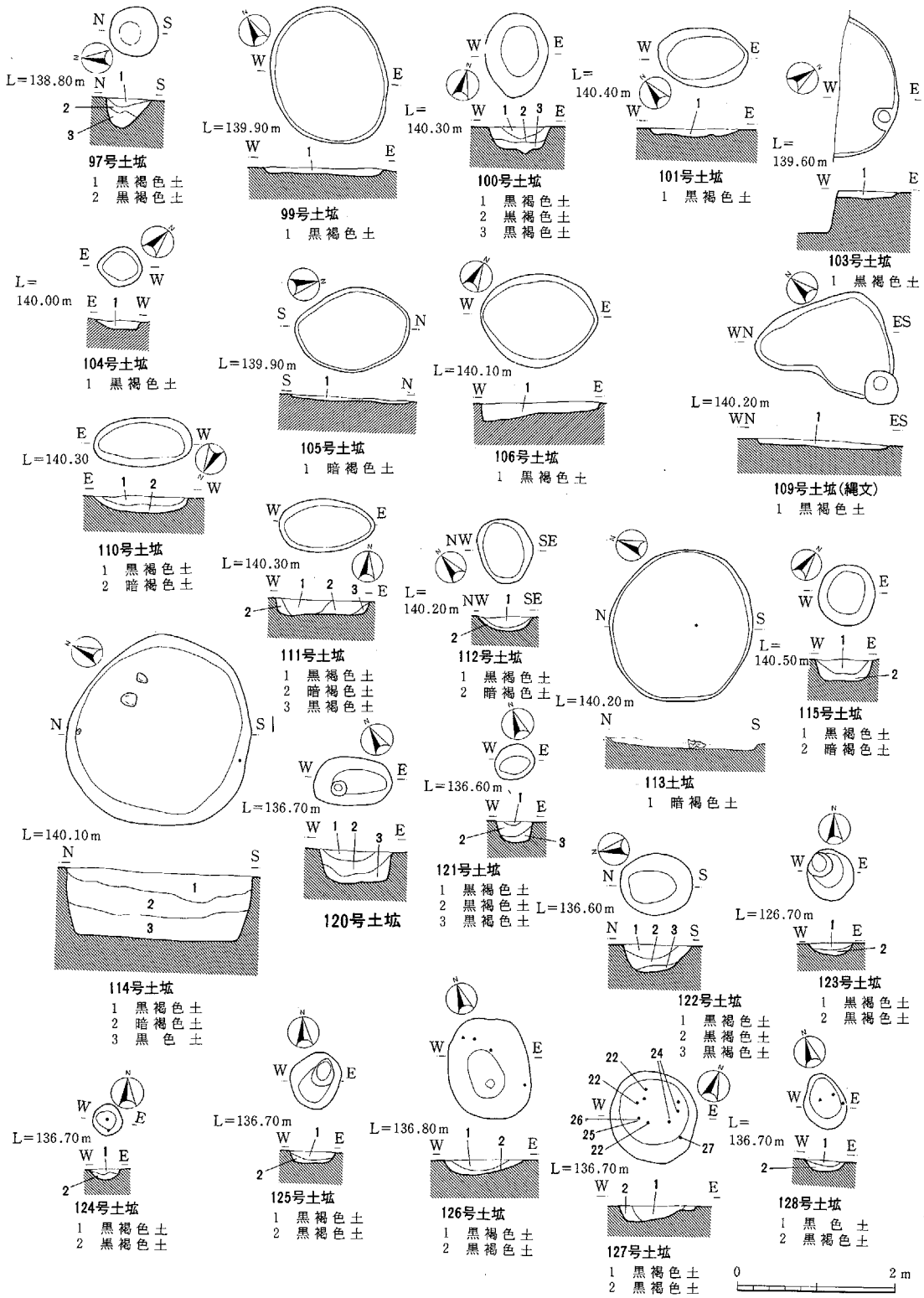


第191図　縄文時代土坑（2）

縄文時代土坑一覧表（2）

（単位m）

番号	位置	形態	上幅 下幅 長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
76	M-32	楕円形	0.66×0.60 0.48×0.33	0.38	N-65°-E	無	鍋底形
77	M-32	円形	0.70×0.68 0.62×0.54	0.28	——	無	鍋底形
78	M-30	楕円形	0.60×0.54 0.48×0.45	0.13	N-14°-W	無	鍋底形
81	L-31	楕円形	0.64×0.42 0.47×0.34	0.42	N-79°-E	無	鍋底形
82	L-31	楕円形	1.92×1.72 1.85×1.57	0.20	N-63°-E	有	皿形
83	N-31	(不整) 円形	0.53×0.50 0.42×0.34	0.19	——	無	鍋底形
84	N-31	円形	0.42×0.40 0.32×0.25	0.11	——	無	鍋底形
85	N-31	円形	径0.42 0.31×0.28	0.10	——	無	鍋底形
87	N-31	楕円形	0.99×0.72 0.67×0.51	0.23	N-34°-W	無	鍋底形
88	N-31 O-31	楕円形	1.56×1.06 1.43×0.97	0.06	N-38°-E	無	鍋底形
89	N-32 O-32	楕円形	1.04×0.68 0.92×0.54	0.08	N-19°-W	無	鍋底形
90	N-32	不整形	0.68×0.58 0.60×0.52	0.08～ 0.12	N-31°-W	無	鍋底形
91	O-31	楕円形	0.98×0.64 0.80×0.42	0.14～ 0.20	N-12°-W	無	鍋底形
97	L-31	円形	0.62×0.60 0.30×0.25	0.38	——	無	U字形
98	L-31	楕円形	1.45×0.87 0.64×0.26	0.24～ 0.40	N-51°-E	無	鍋底形
99	L-31	楕円形	1.74×1.44 1.64×1.33	0.08	N-20°-E	無	鍋底形
100	J-29	楕円形	1.05×0.80 0.62×0.48	0.28～ 0.36	N-16°-W	無	鍋底形
101	J-29	楕円形	1.14×0.75 0.97×0.54	0.06～ 0.11	N-45°-W	無	鍋底形
103	M-32 N-32	推定 楕円形	1.79+α×0.76+α 1.67+α×0.70+α	0.09	——	無	鍋底形
104	J-31	円形	0.54×0.52 0.44×0.36	0.12	——	無	鍋底形
105	J-31	楕円形	1.43×1.06 1.34×0.98	0.05	N-13°-E	無	皿形
106	J-31	楕円形	1.48×1.18 1.42×0.97	0.88～ 0.22	N-64°-E	無	鍋底形
109	L-29	不整形	1.65×0.85 1.59×0.71	0.08	N-43°-W	無	鍋底形
110	K-29	楕円形	1.20×0.62 1.04×0.46	0.20	N-62°-E	無皿形	
111	K-29	楕円形	1.20×0.66 1.08×0.52	0.18～ 0.23	N-87°-E	無	鍋底形
112	K-29	楕円形	0.83×0.66 0.72×0.48	0.19	N-21°-E	無	皿形
113	K-29 L-29	円形	1.90×1.82 1.82×1.72	0.18	——	無	鍋底形

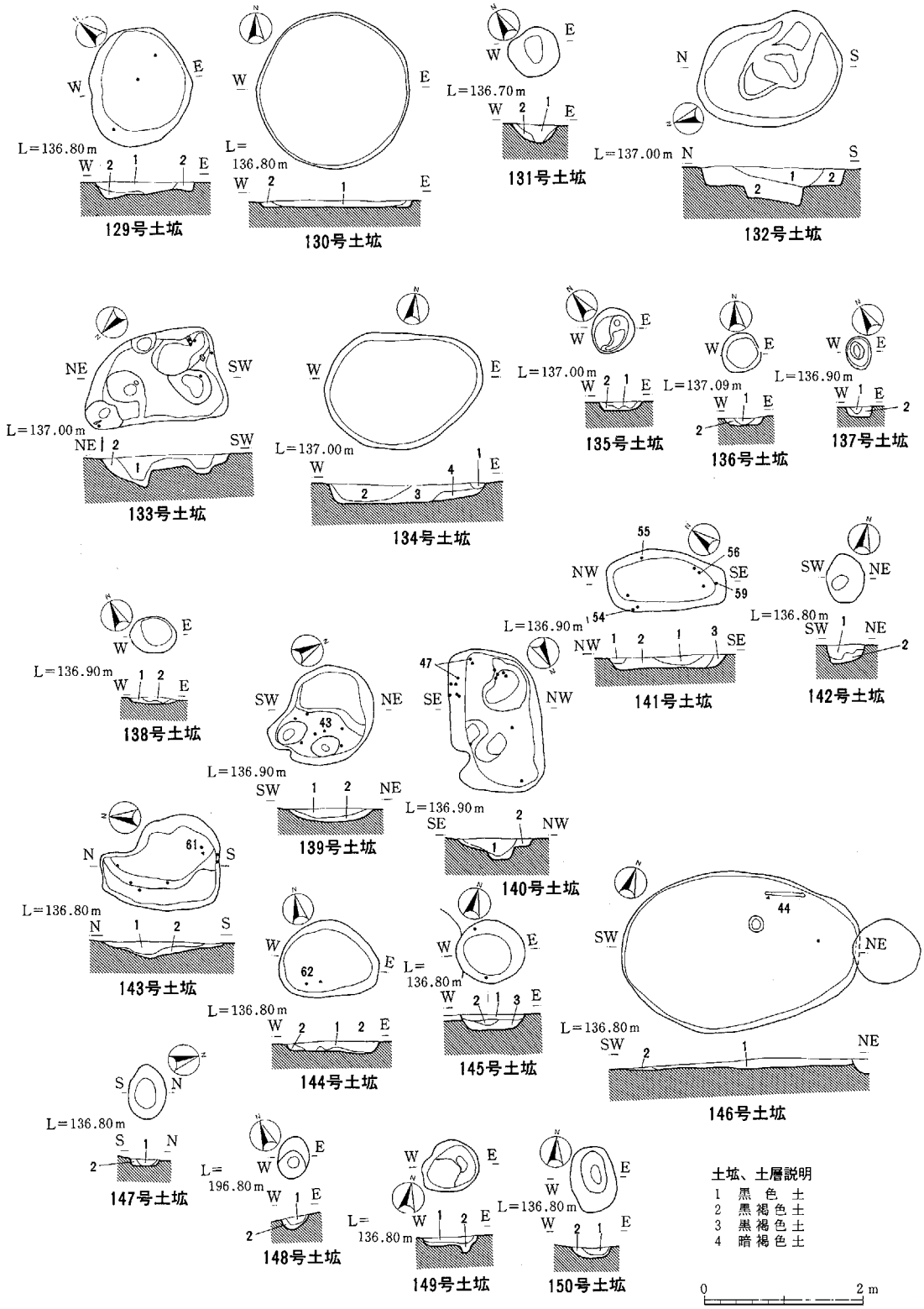


第192図　縄文時代土坑（3）

縄文時代土坑一覧表（3）

（単位m）

番号	位置	形態	上幅 下幅	長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
114	K-28・29 L-28・29	楕円形		2.42×2.30 2.08×2.04	0.85	N-67°-E	無	鍋底形
115	L-28	円形		0.76×0.72 0.60×0.54	0.27	——	無	鍋底形
120	e-28	楕円形		0.94×0.61 径0.09	0.44	N-58°-W	無	鍋底形
121	e-28	楕円形		0.48×0.42 0.40×0.20	0.28	N-66°-W	無	鍋底形
122	e-27・28	楕円形		0.90×0.79 0.60×0.29	0.36	N-12°-E	有	鍋底形
123	b-20	楕円形		0.66×0.44 0.22×0.16	0.16	N-18°-W	無	鍋底形
124	b-20	円形		0.20 0.15	0.14	——	無	鍋底形
125	b-20	楕円形		0.72×0.58 0.27×0.16	0.14	N-20°-E	無	鍋底形
126	a-20	楕円形		1.30×1.02 0.62×0.40	0.19	N-3°-W	有	皿形
127	a-20 b-20	楕円形		1.20×0.82 1.08×0.86	0.06～ 0.21	N-37°-W	有	鍋底形
128	b-20	楕円形		0.72×0.53 0.50×0.37	0.14	N-1°-W	無	鍋底形
129	a-20 b-20	楕円形		1.52×1.27 1.25×1.02	0.08～ 0.22	N-60°-E	有	鍋底形
130	f-31	円形		1.98×1.92 1.90×1.82	0.08	——	有	鍋底形
131	f-31	(不整) 円形		0.63×0.60 0.33×0.21	0.23	——	有	鍋底形
132	c-26	(不整) 楕円形		1.90×1.32 0.44×0.12	0.24～ 0.46	N-1°-W	有	鍋底形
133	c-25	不整形		1.60×1.14 1.20×1.00	0.11～ 0.38	N-48°-E	有	鍋底形
134	b-24 c-24	楕円形		2.00×1.52 1.84×1.33	0.24	N-68°-E	無	鍋底形
135	c-34	円形		0.56×0.53 0.08×0.06	0.11	——	有	鍋底形
136	c-23	円形		径0.48 0.39×0.37	0.09	無	——	鍋底形
137	c-23	楕円形		0.42×0.32 0.14×0.08	0.14	N-17°-E	無	鍋底形
138	c-23	楕円形		0.60×0.46 0.42×0.34	0.07	N-66°-W	無	皿形
139	a-20	(不整) 楕円形		1.42×1.10 0.16×0.08	0.16	N-10°-W	有	皿形
140	a-20	(不整) 長方形		1.80×1.12 0.50×0.27	0.10～ 0.28	N-36°-E	有	鍋底形
141	a-20	楕円形		1.50×0.77 1.24×0.55	0.14	N-40°-W	有	鍋底形
142	a-20	楕円形		0.62×0.48 0.22×0.16	0.23	N-19°-W	無	鍋底形
143	a-20 b-20	不整形		1.46×1.14 1.26×0.60	0.06～ 0.22	N-8°-W	有	鍋底形
144	a-19	楕円形		1.23×1.08 1.10×0.77	0.10～ 0.14	N-71°-W	有	鍋底形

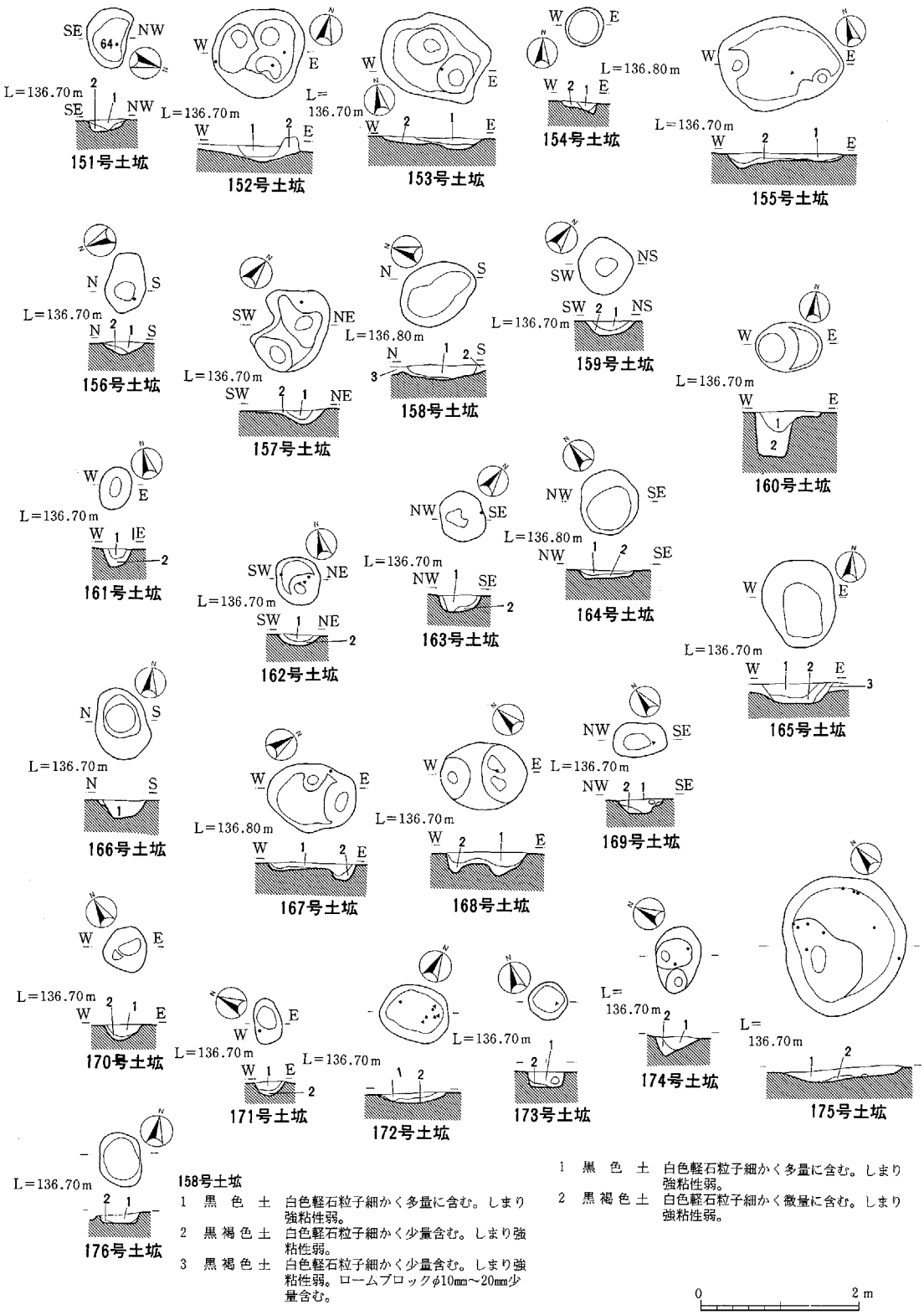


第193図　縄文時代土坑（4）

縄文時代土坑一覧表（4）

（単位m）

番号	位置	形態	上幅 下幅	長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
145	b-21	楕円形		2.98×2.00 0.63×0.50	0.19	N-71°-W	無	鍋底形
146	b-20・21	楕円形		0.88×0.81 0.58×0.52	0.08	N-71°-W	有	鍋底形
147	a-19	楕円形		0.70×0.46 0.36×0.26	0.01	N-77°-W	無	鍋底形
148	a-19	楕円形		0.43×0.38 径0.14	0.16	N-31°-E	無	U字形
149	a-19	楕円形		0.76×0.64 0.20×0.10	0.12～ 0.22	N-48°-E	無	鍋底形
150	a-19	楕円形		0.82×0.56 0.24×0.11	0.16	N-17°-W	無	鍋底形
151	a-19	(不整) 楕円形		0.75×0.50 0.50×0.36	0.16	N-75°-E	有	鍋底形
152	a-19	(不整) 円形		1.14×1.12 0.34×0.18	0.16	——	有	その他
153	a-19	(不整) 楕円形		1.30×1.04 0.22×0.19	0.08～ 0.15	N-58°-W	無	鍋底形
154	a-19	円形		0.48×0.47 0.40×0.35	0.07～ 0.14	——	無	鍋底形
155	a-19	楕円形		1.60×1.16 1.15×0.90	0.08～ 0.20	N-76°-W	無	鍋底形
156	a-19	楕円形		0.77×0.50 0.24×0.23	0.16	N-57°-W	有	鍋底形
157	a-19	不整形		1.13×0.70 0.24×0.16	0.03～ 0.19	N-12°-W	無	皿形
158	a-19	楕円形		1.00×0.76 0.85×0.38	0.16	N-40°-W	無	鍋底形
159	a-19	楕円形		0.72×0.67 0.27×0.23	0.18	N-25°-W	無	鍋底形
160	a-19	楕円形	東 西	0.84×0.64 0.44×0.24 0.36×0.32	0.05～ 0.58	N-45°-E	無	鍋底形
161	a-19	楕円形		0.55×0.40 0.24×0.12	0.24	N-28°-E	無	U字形
162	a-19	楕円形		0.65×0.56 0.15×0.10	0.14	N-20°-W	無	皿形
163	a-19	楕円形		0.62×0.54 0.27×0.11	0.21	N-57°-W	有	鍋底形
164	a-19	楕円形		0.82×0.72 0.55×0.48	0.09	N-36°-E	無	鍋底形
165	a-19	楕円形		1.10×0.92 0.68×0.47	0.25	N-19°-W	無	鍋底形
166	a-19	楕円形		0.90×0.63 0.36×0.34	0.06～ 0.23	N-17°-W	無	鍋底形
167	a-19	楕円形		1.10×0.88 0.26×0.12	0.06～ 0.21	N-33°-W	無	鍋底形
168	a-19	楕円形		1.08×0.84 0.21×0.12	0.12～ 0.28	N-44°-W	有	鍋底形
169	a-19	楕円形		0.67×0.43 0.30×0.20	0.08～ 0.19	N-53°-W	無	鍋底形
170	a-19	(不整) 円形		0.56×0.51 0.28×0.16	0.20	——	無	U字形
171	a-19	楕円形		0.55×0.34 0.24×0.10	0.17	N-65°-E	無	U字形

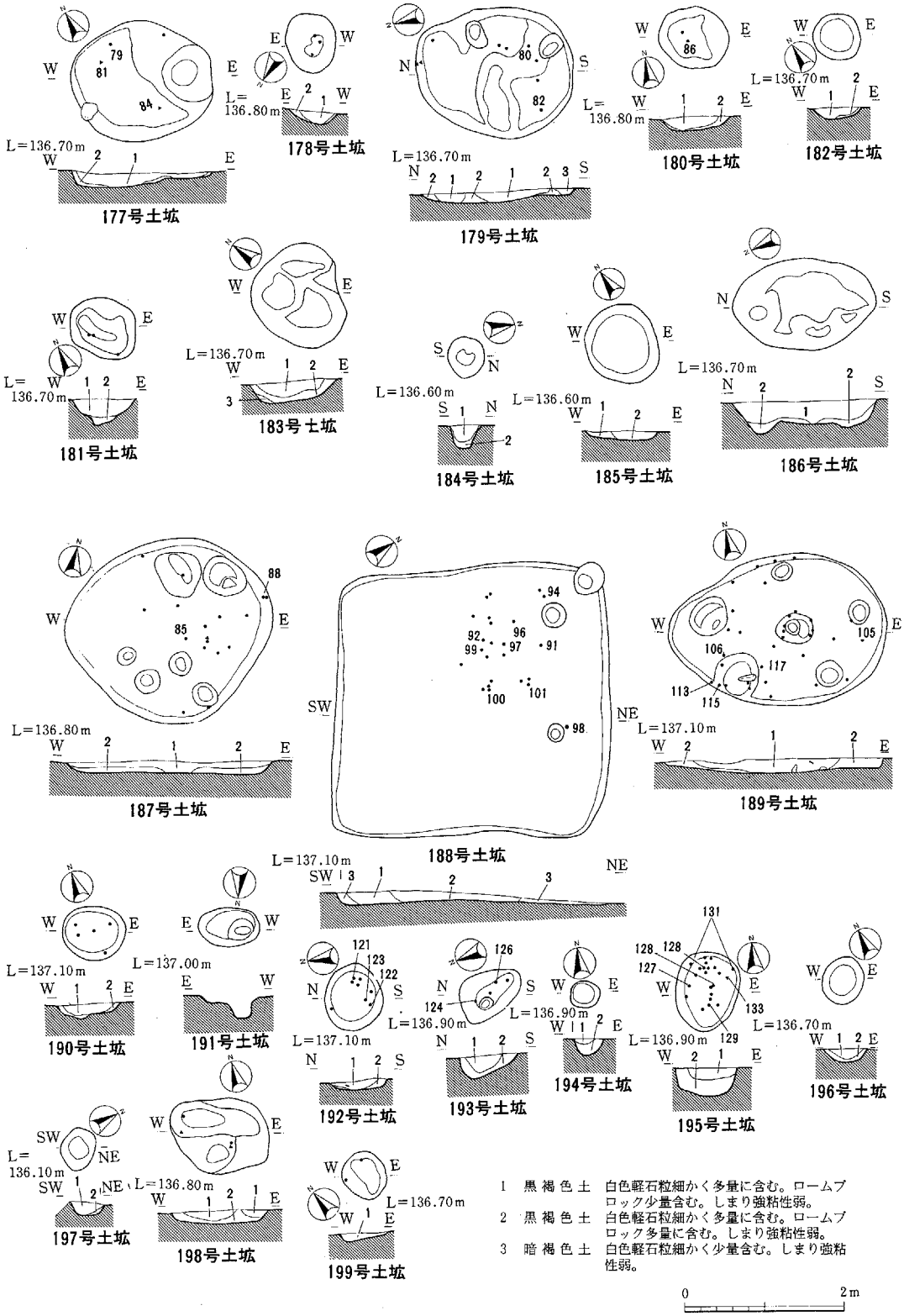


第194図　縄文時代土坑（5）

縄文時代土坑一覧表（5）

（単位m）

番号	位置	形態	上幅×長軸 下幅×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
172	a-18	楕円形	0.86×0.70 0.72×0.48	0.13	N-64°-E	有	皿形
173	a-18	円形	0.50×0.48 0.38×0.33	0.20	——	無	鍋底形
174	a-19	楕円形	0.84×0.57 0.14×0.08	0.24	N-23°-W	無	V字形
175	a-19	楕円形	1.78×1.52 0.32×0.20	0.10～ 0.15	N-46°-E	有	皿形
176	Z-18	楕円形	0.72×0.50 0.50×0.41	0.12	N-62°-W	無	鍋底形
177	Z-18	楕円形	1.76×1.52 1.34×0.70	0.06～ 0.22	N-28°-W	有	鍋底形
178	Z-18	楕円形	0.74×0.60 0.28×0.14	0.15	N-55°-W	無	鍋底形
179	a-18	楕円形	1.92×1.64 0.23×0.12	0.08～ 0.14	N-12°-E	有	鍋底形
180	a-18	楕円形	0.90×0.78 0.65×0.57	0.16	N-76°-W	有	鍋底形
181	a-18	楕円形	0.92×0.72 0.50×0.11	0.22～ 0.34	N-23°-W	無	その他
182	a-18	円形	0.60×0.58 0.41×0.39	0.15	——	無	鍋底形
183	a-18	不整形	1.25×1.09 0.41×0.36	0.26	N-4°-E	無	鍋底形
184	a-19	楕円形	0.51×0.46 0.22×0.13	0.06～ 0.30	N-81°-W	無	U字形
185	a-18	楕円形	1.02×0.88 0.75×0.70	0.10	N-16°-E	無	鍋底形
186	Z-18 a-18	楕円形	1.82×1.16 1.10×0.53	0.24～ 0.40	N-25°-E	有	鍋底形
187	Z-19 a-19	（不整） 楕円形	2.58×2.36 0.38×0.30	0.14	N-77°-E	有	鍋底形
188	a-22 b-22	長方形	3.46×3.34 3.26×3.19	0.15	N-36°-E	有	鍋底形
189	a-21	楕円形	2.76×1.92 0.12×0.11	0.16	N-78°-W	有	鍋底形
190	a-22	楕円形	0.80×0.68 0.66×0.52	0.12～ 0.19	N-70°-W	無	鍋底形
191	C-23・24	楕円形	0.73×0.48 0.20×0.10	0.09～ 0.29	N-84°-E	無	鍋底形
192	a-21	楕円形	0.85×0.73 0.62×0.54	0.12	N-79°-W	有	鍋底形
193	c-22	楕円形	0.82×0.56 0.12×0.08	0.29	N-9°-W	有	U字形
194	b-22	楕円形	0.37×0.32 0.24×0.23	0.22	N-83°-W	無	U字形
195	b-22	楕円形	1.02×0.76 0.88×0.62	0.36	N-16°-E	有	鍋底形
196	b-22	楕円形	0.62×0.52 0.39×0.34	0.18	N-34°-E	有	鍋底形
197	h-34	楕円形	0.54×0.42 0.30×0.14	0.18	N-53°-W	無	鍋底形
198	Z-19	楕円形	1.31×1.00 0.56×0.22	0.15	N-36°-W	無	鍋底形

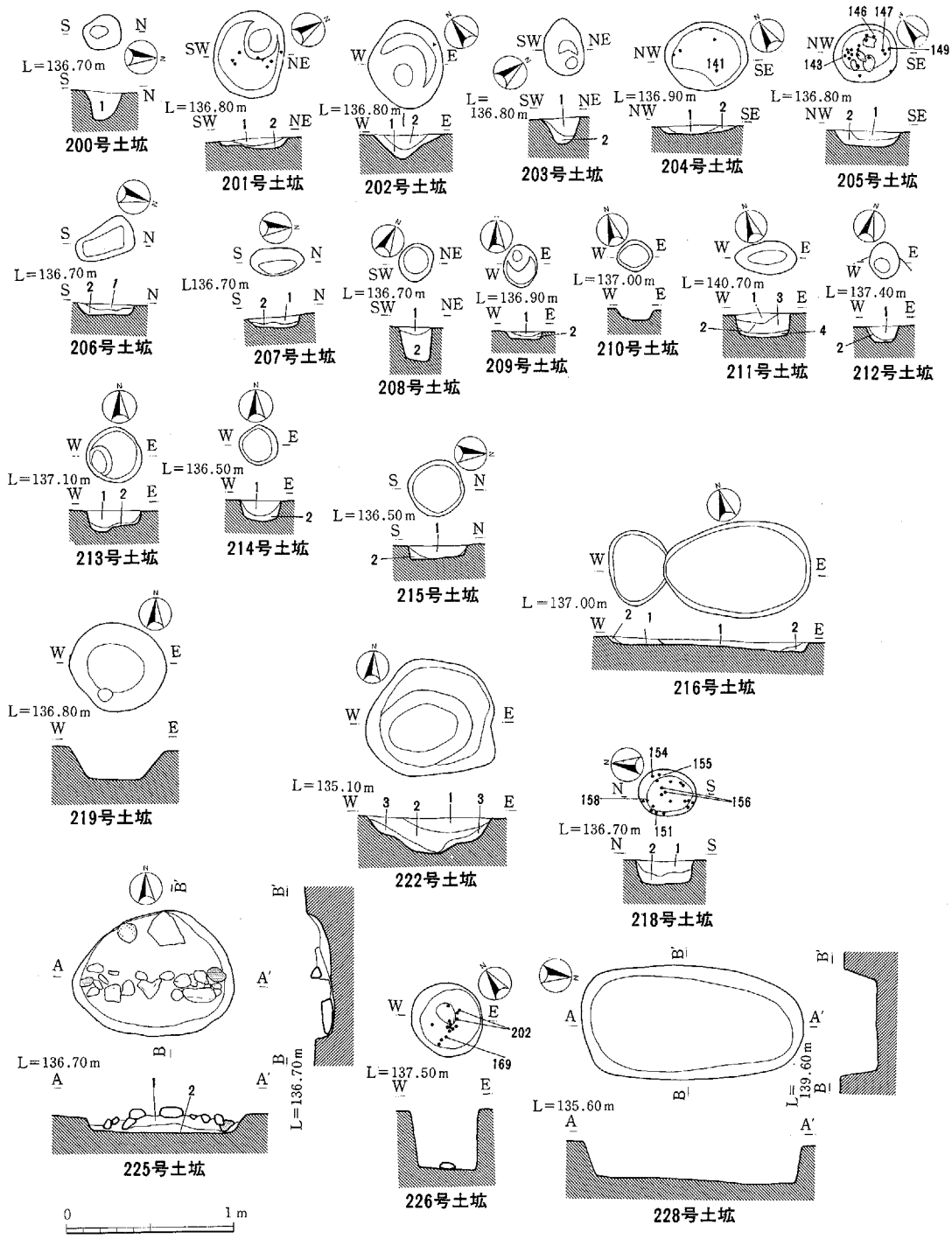


第195図　縄文時代土坑（6）

縄文時代土坑一覧表（6）

（単位m）

番号	位置	形態	上幅 下幅	長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
199	a-19	楕円形		0.62×0.55 0.47×0.25	0.10	N-36°-W	有	鍋底形
200	a-19	円形		0.44×0.42 0.17×0.10	0.34	——	無	U字形
201	Z-19	楕円形		1.04×0.86 0.33×0.25	0.05～ 0.10	N-32°-W	有	鍋底形
202	Z-19	楕円形		1.06×0.88 0.26×0.21	0.30	N-57°-E	有	V字形
203	Z-18・19	楕円形		0.68×0.48 0.15×0.10	0.32	N-38°-W	有	U字形
204	c-22・23	楕円形		1.00×0.84 0.80×0.60	0.10	N-65°-W	有	鍋底形
205	b-22	楕円形		0.78×0.70 0.58×0.50	0.19	N-54°-W	有	鍋底形
206	b-21	(隅丸) 長方形		0.72×0.38 0.52×0.20	0.12	N-35°-W	無	鍋底形
207	b-20	楕円形		0.62×0.32 0.45×0.16	0.14	N-2°-E	無	鍋底形
208	b-20・21	楕円形		0.46×0.40 0.32×0.28	0.42	N-22°-W	無	鍋底形
209	b-20	楕円形		0.52×0.40 0.13×0.12	0.09	N-6°-W	無	鍋底形
210	b-21	楕円形		0.43×0.38 0.34×0.27	0.15	N-85°-W	無	鍋底形
211	b-21	楕円形		0.74×0.40 0.45×0.16	0.28	N-74°-W	無	鍋底形
212	a-22	楕円形		0.45×0.38 0.20×0.18	0.20	N-21°-W	有	鍋底形
213	Z-16	円形		0.7×0.69 0.57×0.57	0.18～ 0.26	——	有	鍋底形
214	Z-16	円形		0.47×0.45 0.42×0.35	0.25	——	無	鍋底形
215	Z-16	円形		0.67×0.69 0.58×0.56	0.16	——	無	鍋底形
216	c-26	楕円形		0.89×0.72 0.80×0.64	0.23～ 0.15	N-2°-W	無	鍋底形
217	c-26	楕円形		1.76×1.16 1.68×1.04	0.15	N-75°-W	無	鍋底形
218	Y-14・15	楕円形		0.68×0.56 0.54×0.42	0.18～ 0.28	N-7°-W	有	鍋底形
218	X-13	楕円形		1.02×0.96 0.65×0.58	0.62	N-65°-W	有	鍋底形
222	T-17	楕円形		1.51×1.39 0.83×0.56	0.16～ 0.45	N-84°-E	有	鍋底形
225	X-13	楕円形		0.92×0.80 0.82×0.68	0.21	N-87°-W	有	鍋底形
226	d-25	円形		0.91×0.87 0.73×0.68	0.18	——	有	鍋底形
228	K-26	(長) 楕円形		2.66×1.38 2.40×1.10	0.41～ 0.51	N-3°-W	有	鍋底形
239	J-25	円形		0.50×0.49 0.36×0.34	0.54	——	有	U字形
240	J-24	(不整) 円形		0.74×0.70 0.54×0.51	0.4	——	無	鍋底形

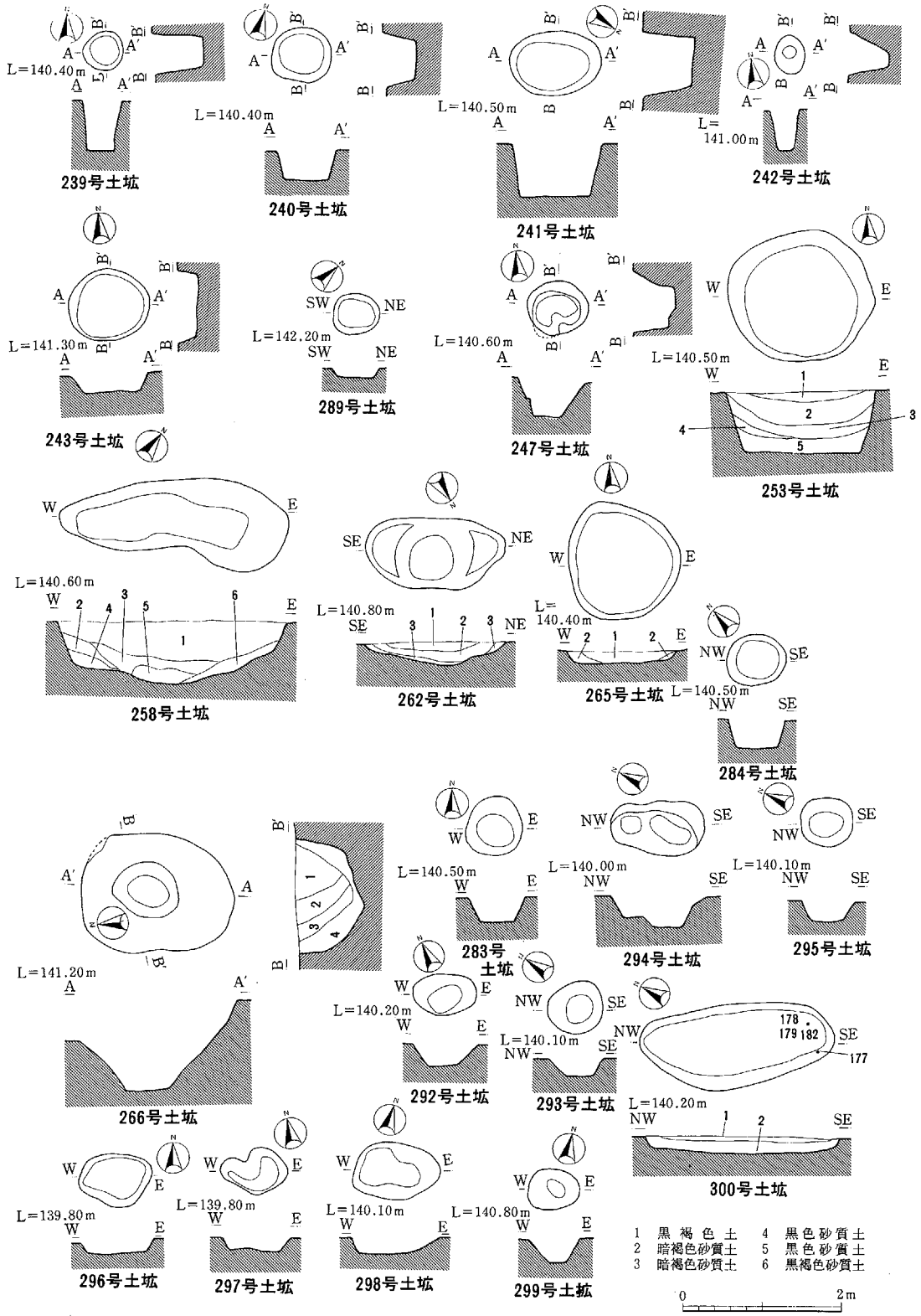


第196図　縄文時代土坑（7）

縄文時代土坑一覧表（7）

（単位m）

番号	位置	形態	上幅 下幅	長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
241	I-24	楕円形		1.16×0.80 0.91×0.58	0.60	N-64°-E	無	逆台形
242	H-24	楕円形		0.50×0.38 0.19×0.16	0.52	N-8°-E	無	U字形
243	H-24	楕円形		1.02×0.89 0.82×0.77	0.62	N-85°-W	無	鍋底形
247	I-23 J-23	楕円形		0.77×0.68 0.50×0.21	0.41	N-77°-W	無	逆台形
253	J-22	楕円形		1.88×1.66 1.46×1.39	0.78	N-4°-E	無	鍋底形
258	J-21 K-21	不整形		2.82×0.85 2.13×0.52	0.60～ 0.80	N-53°-W	有	鍋底形
262	J-21	楕円形		1.76×0.90 0.56×0.54	0.18～ 0.30	N-57°-W	無	皿形
265	J-20 K-20	楕円形		1.56×1.42 1.33×1.24	0.14	N-19°-W	無	鍋底形
266	L-19	楕円形		1.92×1.52 0.54×0.36	0.64～ 0.86	N-7°-E	有	鍋底形
283	H-16	（不整） 円形		0.75×0.72 0.48×0.40	0.31	——	無	鍋底形
284	H-16	楕円形		0.74×0.65 0.52×0.48	0.37	N-45°-W	無	鍋底形
289	I-15	楕円形		0.58×0.51 0.46×0.35	0.19	N-44°-E	無	鍋底形
292	H-15	楕円形		0.80×0.52 0.52×0.28	0.30	N-66°-W	無	鍋底形
293	H-14	（不整） 円形		0.72×0.70 0.38×0.32	0.24	——	無	鍋底形
294	H-14	楕円形		1.18×0.71 0.54×0.22	0.27～ 0.39	N-33°-W	無	鍋底形
295	H-14	楕円形		0.67×0.61 0.44×0.30	0.28	N-21°-W	無	鍋底形
296	H-14	不整形		0.90×0.68 0.72×0.48	0.15	N-87°-E	無	鍋底形
297	H-14	不整形		0.85×0.60 0.60×0.16	0.14～ 0.19	N-75°-W	無	鍋底形
298	I-14	楕円形		1.10×0.72 0.73×0.44	0.22	N-74°-E	無	鍋底形
299	I-13・14	楕円形		0.64×0.50 0.24×0.18	0.30	N-11°-W	無	逆台形
300	I-14	（長） 楕円形		2.46×1.08 2.30×0.78	0.22	N-24°-W	有	鍋底形
327	R-8	（長） 楕円形		1.76×0.90 1.63×0.76	0.42	N-56°-E	無	鍋底形
328	O-12	楕円形		2.05×1.60 1.06×0.78	0.40～ 0.66	N-5°-E	無	鍋底形
343	S-18	楕円形		2.35×2.03 2.08×1.78	0.25～ 0.40	N-51°-W	無	皿形
345	T-21	円形		2.18×2.16 2.02×1.98	0.36	——	有	鍋底形
346	V-21	楕円形		1.15×1.02 0.90×0.80	0.44	N-19°-W	有	鍋底形
347	Z-30	楕円形		0.40×0.36 0.28×0.24	0.12	N-89°-W	無	鍋底形

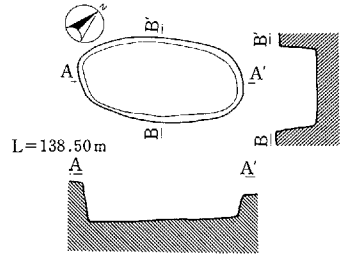


第197図　縄文時代土坑（8）

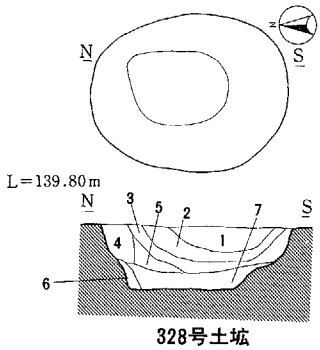
縄文時代土坑一覧表（8）

（単位m）

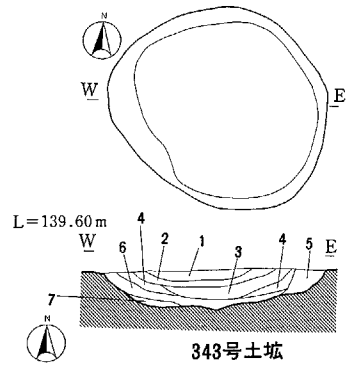
番号	位置	形態	上幅 下幅 長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
348	a-30	楕円形	1.44×1.16 1.32×1.08	0.14	N-32°-W	有	鍋底形
349	b-30	円形	0.60×0.58 0.35×0.34	0.28	——	有	U字形
350	b-29	楕円形	0.70×0.64 0.58×0.42	0.30	N-51°-W	無	鍋底形
351	b-29	楕円形	1.07×0.92 0.95×0.74	0.19	N-27°-W	有	鍋底形
352	c-29	楕円形	0.62×0.56 0.50×0.42	0.15	N-3°-W	無	鍋底形
353	c-29	不整円形	0.67×0.65 0.58×0.57	0.22	——	有	鍋底形
354	C-28	楕円形	1.25×0.90 0.82×0.52	0.17～ 1.37	N-24°-E	有	鍋底形
355	a-26	楕円形	1.40×1.10 1.26×0.96	0.13	N-3°-E	有	鍋底形
356	Y-26	楕円形	1.80×1.34 1.60×1.16	0.14～ 1.18	N-1°-E	有	鍋底形
357	Y-26 Z-26	楕円形	0.86×0.64 0.62×0.44	0.32	N-1°-E	有	鍋底形
358	Z-26	楕円形	0.96×0.60 0.41×0.31	0.11～ 0.28	N-69°-W	有	鍋底形
359	a-26	楕円形	0.41×0.37 0.15×0.12	0.14～ 0.22	N-27°-E	無	鍋底形
360	b-26	不整円形	0.45×0.43 0.31×0.26	0.25	——	有	鍋底形
361	X-25	楕円形	1.42×1.35 1.10×1.04	0.28	N-60°-E	無	鍋底形
362	X-25	楕円形	1.20×0.96 0.80×0.62	0.34	N-71°-W	無	鍋底形
363	Y-25	楕円形	2.44×1.72 1.84×1.18	0.40	N-39°-W	有	鍋底形
364	Y-25	楕円形	0.80×0.70 0.60×0.53	0.40	N-1°-E	無	鍋底形
365	Y-25	楕円形	1.42×1.08 0.98×0.94	0.22	方位なし	有	鍋底形
366	Y-25	楕円形	0.60×0.54 0.39×0.36	0.12～ 0.17	N-58°-E	有	鍋底形
367	Y-25	楕円形	1.48×1.01 1.10×0.66	0.14～ 0.26	N-8°-W	有	鍋底形
368	Y-25	楕円形	0.43×0.39 0.30×0.25	0.12～ 0.18	N-43°-W	有	U字形
369	Y-25	楕円形	0.60×0.50 0.39×0.36	0.30～ 0.36	N-43°-E	有	V字形
370	X-20	楕円形	0.61×0.49 0.46×0.27	0.48	N-7°-W	無	フラスコ形
371	X-20	円形	0.42×0.41 0.26×0.21	0.48	——	無	フラスコ形
372	X-20	楕円形	0.54×0.49 0.46×0.36	0.33	N-39°-W	無	鍋底形
373	X-20	円形	0.94×0.91 0.78×0.76	0.37～ 0.45	——	有	鍋底形
374	Y-20	楕円形	1.00×0.90 0.21×0.12	0.17	N-85°-W	無	鍋底形



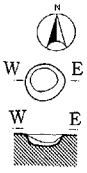
327号土坑



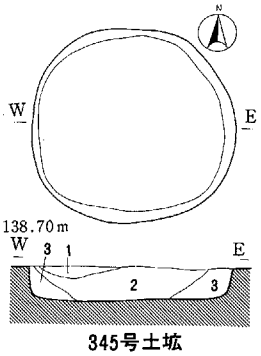
328号土坑



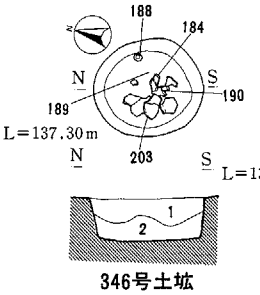
343号土坑



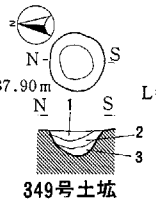
347号土坑



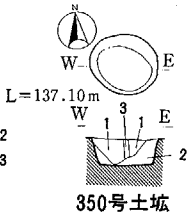
345号土坑



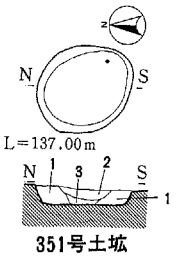
346号土坑



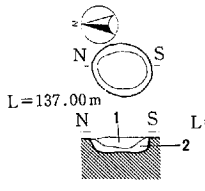
349号土坑



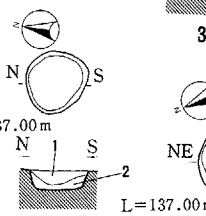
350号土坑



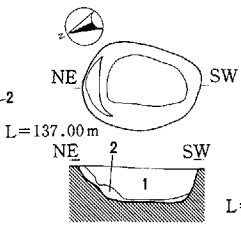
351号土坑



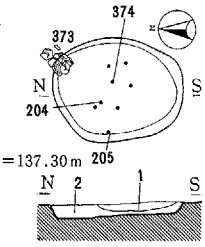
352号土坑



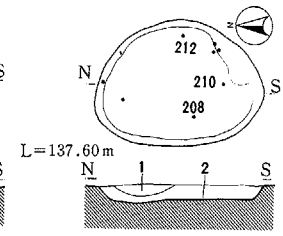
353号土坑



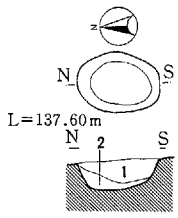
354号土坑



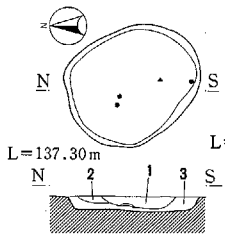
355号土坑



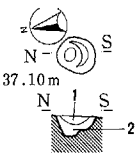
356号土坑



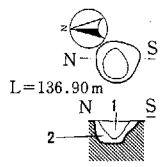
357号土坑



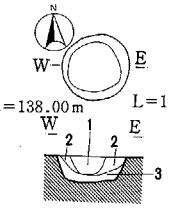
348号土坑



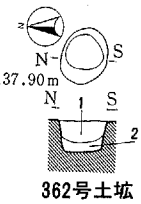
359号土坑



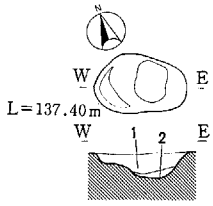
360号土坑



361号土坑



362号土坑



358号土坑

土坑、土層説明

1 暗褐色土 白色軽石粒細かく多量に含む。小礫多量に含む。
2 暗褐色土 白色軽石粒細かく多量に含む。黄褐色土ブロック多量に含む。
3 暗褐色土 白色軽石粒細かく多量に含む。黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロック、少量含む。
4 暗褐色土 白色軽石粒細かく多量に含む。黄褐色土ブロック多量に含む。
5 黒褐色土 白色軽石粒細かく多量に含む。
6 暗褐色土 白色軽石粒細かく多量に含む。
7 暗褐色土 白色軽石粒細かく少量に含む。6層より明るい。

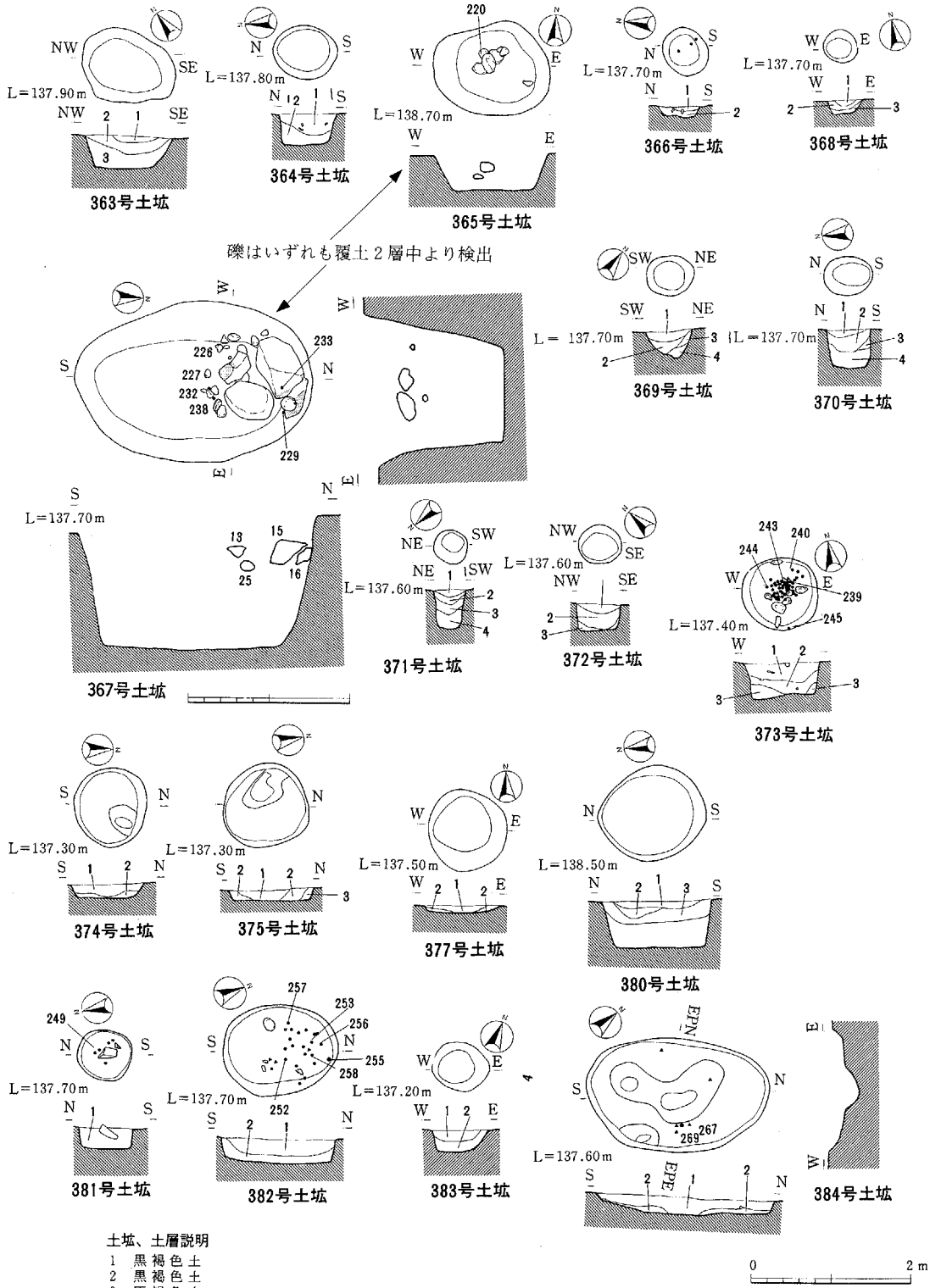
0 2m

第198図 縄文時代土坑（9）

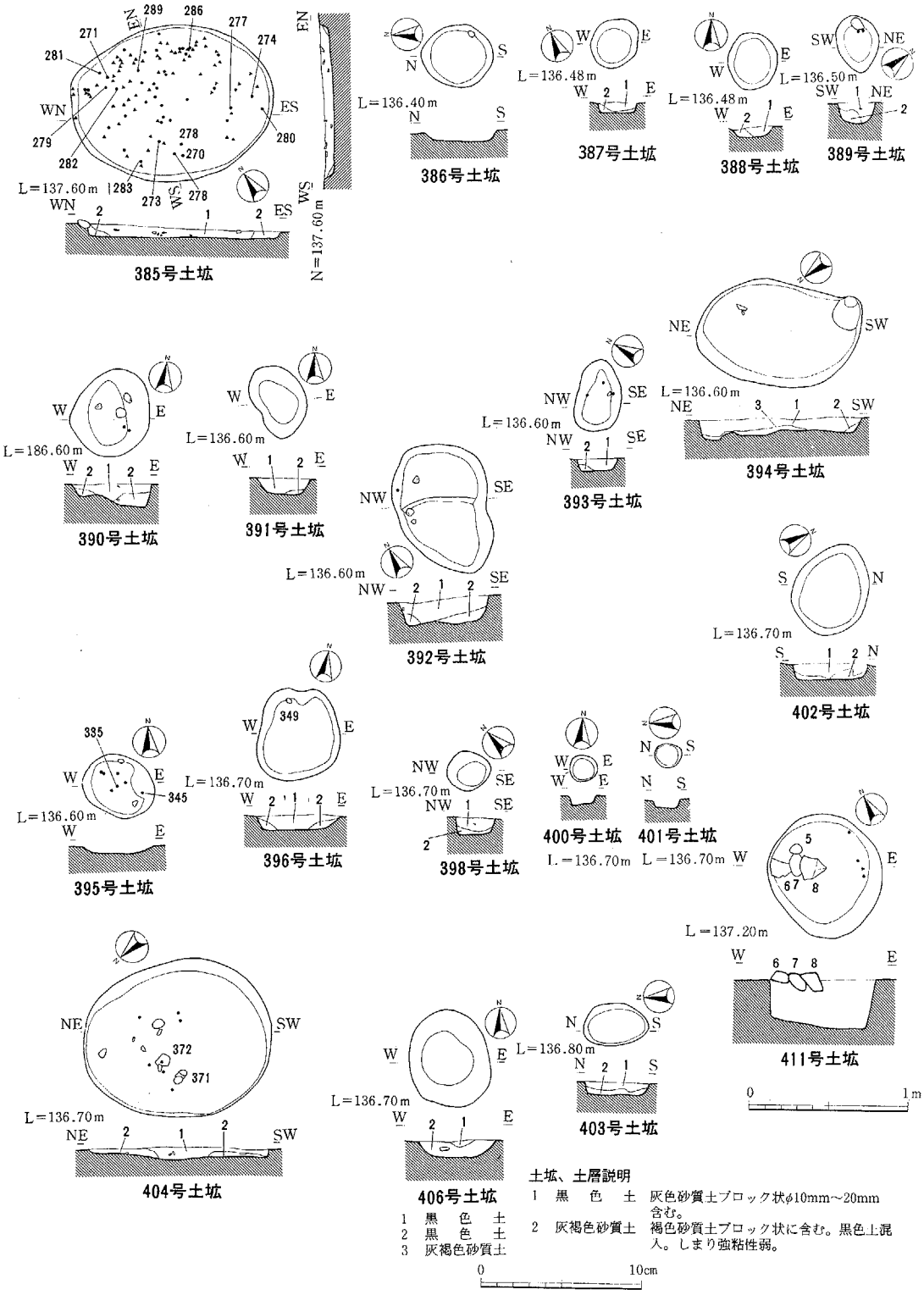
縄文時代土坑一覧表（9）

（単位m）

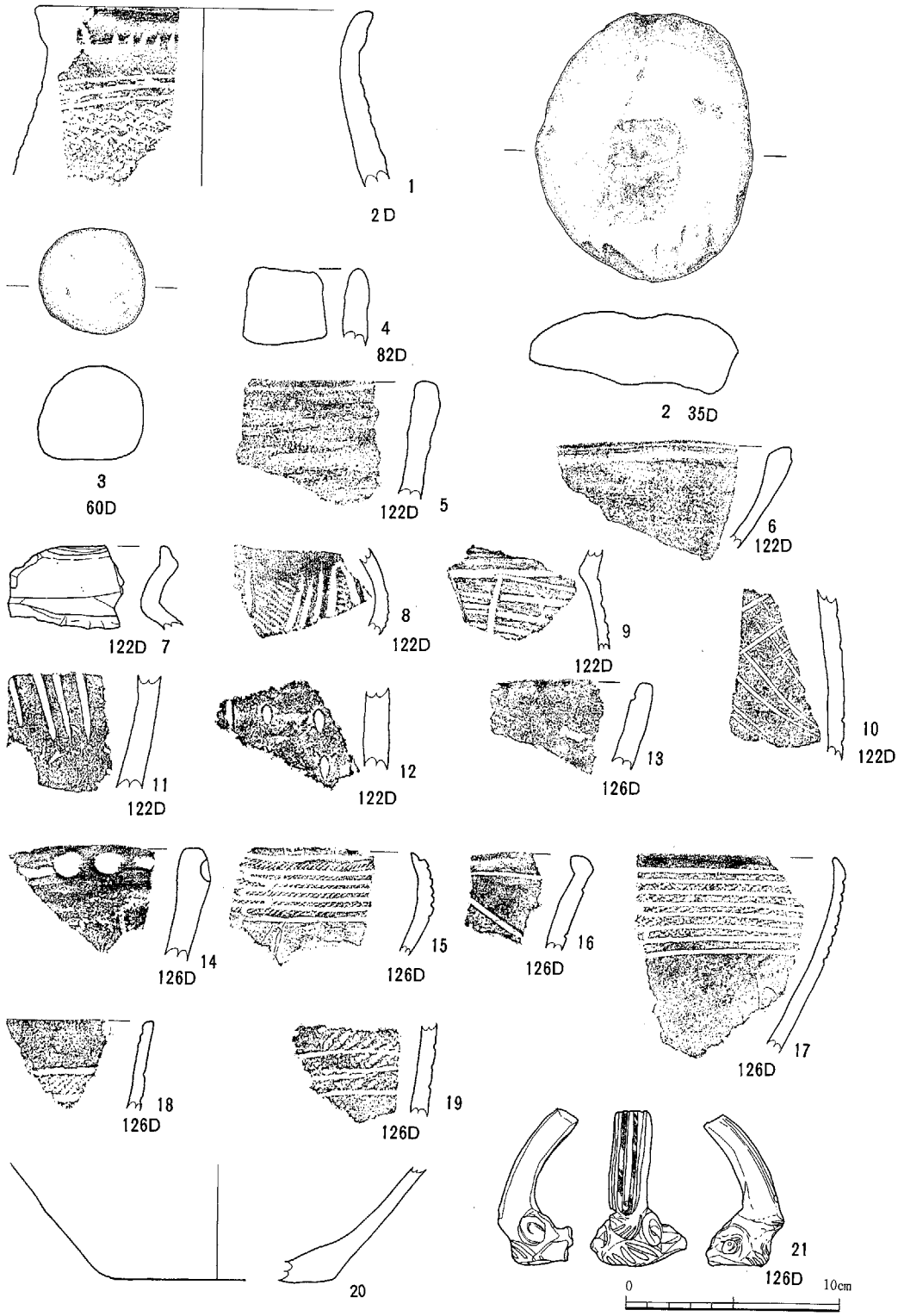
番号	位置	形態	上幅 下幅 長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
375	Y-20	楕円形	1.06×1.01 0.38×0.26	0.13	N-22°-W	無	鍋底形
377	Y-17	円形	1.03×1.00 0.68×0.66	0.19	——	無	鍋底形
380	W-22	楕円形	1.36×1.18 1.12×1.00	0.56	N-7°-E	有	鍋底形
381	Y-24	円形	0.68×0.64 0.60×0.58	0.27	——	有	鍋底形
382	Y-24	楕円形	1.41×1.12 1.29×0.94	0.31	N-20°-E	有	鍋底形
383	b-28	楕円形	0.71×0.61 0.49×0.42	0.30	N-71°-E	無	鍋底形
384	W-18	楕円形	2.24×2.10 0.44×0.18	0.11～ 0.23	N-38°-E	有	鍋底形
385	W-18・19	楕円形	2.46×1.93 2.32×1.80	0.14	N-58°-W	有	鍋底形
386	V-12	楕円形	0.88×0.80 0.70×0.64	0.13	N-1°-E	無	鍋底形
387	V-12	楕円形	0.66×0.58 0.44×0.42	0.11	N-66°-E	有	鍋底形
388	V-12	楕円形	0.70×0.61 0.55×0.44	0.10	N-1°-E	有	鍋底形
389	V-12	楕円形	0.70×0.51 0.44×0.32	0.24	N-56°-W	有	鍋底形
390	V-13	楕円形	1.10×0.96 0.81×0.47	0.14～ 0.30	N-12°-E	有	鍋底形
391	W-12	(不整) 楕円形	0.92×0.64 0.60×0.36	0.21	N-14°-W	無	鍋底形
392	W-12	不整形	1.74×1.16 0.91×0.75	0.28～ 0.32	N-6°-E	有	鍋底形
393	W-12	楕円形	0.90×0.59 0.68×0.34	0.14	N-65°-E	有	鍋底形
394	W-12・13	(不整) 楕円形	2.04×1.32 0.16×0.12	0.14～ 0.26	N-38°-E	有	鍋底形
395	W-13	楕円形	0.90×0.72 0.70×0.62	0.10	N-63°-W	有	皿形
396	W-12	不整形	1.22×1.00 1.14×0.84	0.17	N-20°-E	有	鍋底形
398	W-12	楕円形	0.54×0.49 0.36×0.29	0.22	N-45°-W	有	鍋底形
400	W-13	円形	0.34×0.32 0.28×0.27	0.08～ 0.11	——	無	鍋底形
401	W-13	円形	0.32×0.30 0.26×0.24	0.10	——	無	鍋底形
402	W-12	楕円形	1.20×0.94 0.96×0.75	0.20	N-45°-W	有	鍋底形
403	W-12	楕円形	0.80×0.52 0.70×0.42	0.14～ 0.17	N-3°-E	有	鍋底形
404	W-13	楕円形	2.34×1.94 2.20×1.76	0.04～ 0.14	N-45°-E	有	鍋底形
405	W-13 X-13	楕円形	0.69×0.60 0.52×0.43	0.24～ 0.36	N-5°-E	有	皿形
406	X-13	楕円形	1.20×1.00 0.68×0.64	0.20	N-5°-W	無	鍋底形
411	Y-24	楕円形	1.56×1.46 1.24×1.22	0.46～ 0.64	——	無	鍋底形



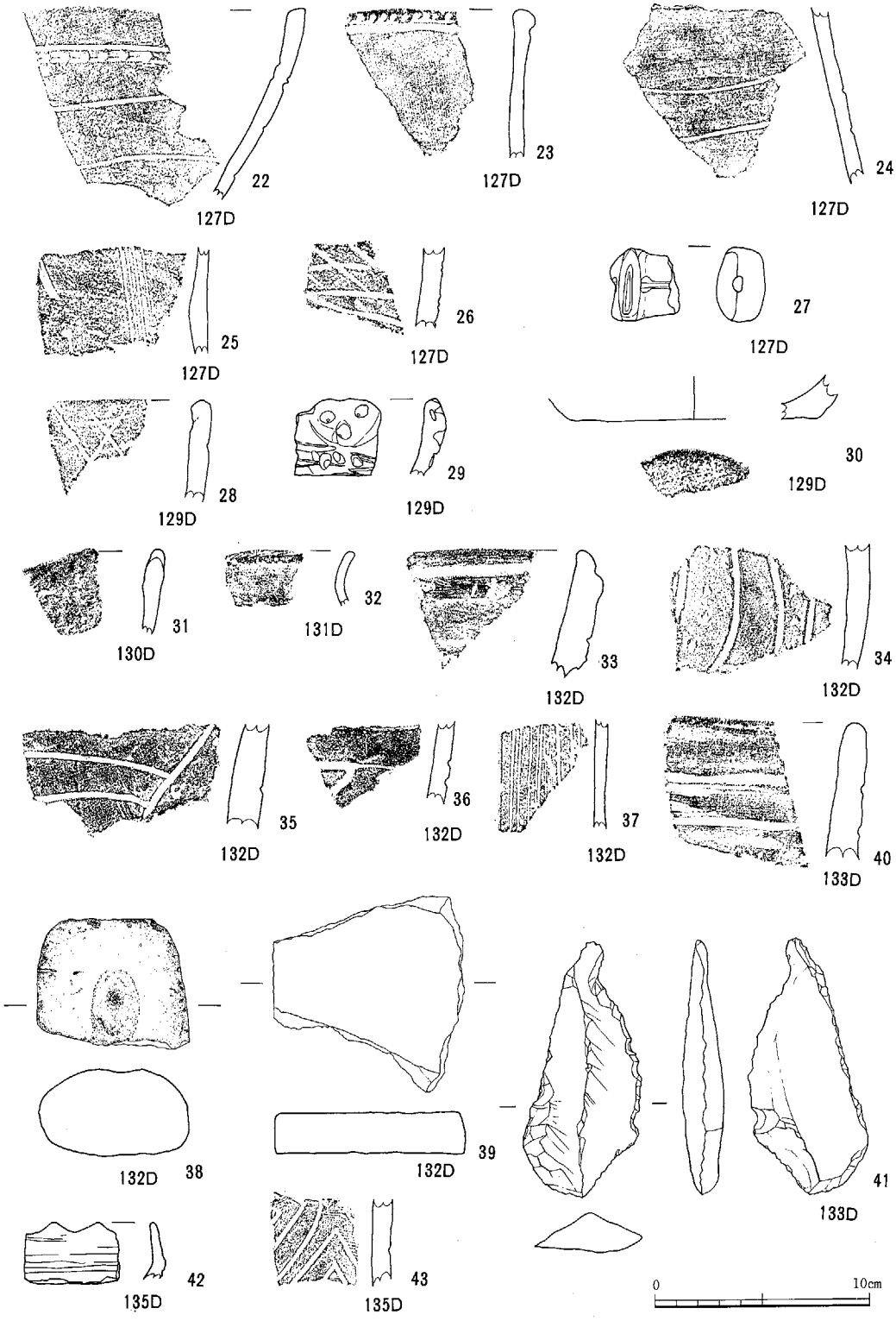
第199図　縄文時代土坑（10）



第200図　縄文時代土坑（11）



第201図　縄文時代土坑出土遺物（1）



第202図　縄文時代土坑出土遺物（２）

検出された遺物（第202～221図　図版69）

本項では土坑内より出土した遺物をまとめた。

1は2号土坑内覆土第1層中より出土した。深鉢形土器の破片である。口縁部にキザミを施し、以下を3条の平行沈線を施す。胴部には山形の沈線を施す。胎土は砂粒を含み、焼成良好、色調白味の強い暗褐色である。

2は35号土坑内覆土1層中より出土した。凹石である。石材は安山岩である。1面のみに敲打による凹みが2ヶ所認められる。長さ12.3cm、幅10.0cm、厚さ3.2cm。

3は60号土坑内覆土第1層中より出土した。磨石である。長さ5.0cm、幅4.9cm、厚さ4.4cm。

4は82号土坑の覆土第1層中より出土した。深鉢形土器口縁部の破片である。口縁部は無文帯を構成する。

5～12は122号土坑の覆土中より一括で出土した深鉢形土器の破片である。称名寺、堀之内、加曾利B式が一括で採取された。5～7は口縁部の破片である。口縁部に無文帯を構成する。8は胴部の破片である。弧状沈線および垂下沈線を施し、沈線間に単節RLの細縄文を充填する。9は胴部の破片、横位の条線を施し、縦位の沈線で区切る。10は胴部の破片である。綾杉状の沈線を施す。11は条線文を施す。12は沈線による区画文の中に列点を充填させる。

13～21は126号土坑の覆土中より出土した。13～20は深鉢形土器の破片である。13は口縁部破片である。単節RLの磨消し縄文を施文する。14は口縁部に指頭圧痕を巡らす。以下は一部分からみて櫛歯状の工具で条線を施すものと思われる。15は平行沈線は施し、S字状の沈線を重ねて施し、縦に区切られる。沈線間には16は沈線による区画文を施す。17～19は平行沈線間に単節LR縄文を充填する。20は底部の破片である。内外共に丁寧なミガキが施される。

21は注口土器の把手の破片と思われる。把手の外側に沈線を施し、その中に単節LRの磨消し縄文を施文する。以下装飾的に刺突と沈線を施す。

22～27ははは129号土坑内覆土中より出土した。22～26は深鉢形土器の破片である。22は平行沈線間に刺突文を施す。以下横位の沈線を施す。25は胴部破片である。櫛歯状の工具による条線を施す。26は胴部分の破片である。綾杉状の沈線を施す。27は釣手をもつ浅鉢形土器の釣手部分の破片と思われる。

28～30は129号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。28は綾杉状の沈線を施す。29は口唇部に付く、30は底部の破片である。底に網代痕がある。

31は130号土坑より出土した。波状口縁で無文の粗製土器である。

32は131号土坑より出土した。無文の粗製土器である。

33～39は132号土坑より出土した。深鉢形土器である。33は口縁部に沈線を巡らす。34は沈線による区画文の中に列点を充填する。35、36は沈線による区画文を施す。37は櫛歯状の工具による沈線を施す。38は凹石の破片である。石材は安山岩である。2面に敲打による凹みがある。残存長5.7cm、幅6.9cm、厚さ4.0cm、重さ211g。39は石板である。人為的に加工された偏

平な石である。石材は安山岩である。住居址等の敷石に使われているものに似ている。

40、41は133号土坑の覆土中より出土した。40は深鉢形土器口縁部の破片である。口縁部に平行沈線を巡らす。41は縦型石匙である。石材は頁岩である。長さ11.6cm、幅5.0cm、厚さ1.8cm、重さ92g。

42、43は135号土坑より出土した。口縁部小さい波状口縁を呈する。沈線による区画文の中に縦位の単節LR磨消し細縄文を充塡する。

44は146号土坑内覆土中より出土した。石棒である。石材は緑泥片岩である。土坑の底より約10cm高い位置で出土した。長さ48.6cm、幅5.1cm、厚さ5.2cm、重さ1000g。

45、46は139号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。45は無文の粗製土器である。内面はヘラナデ、外面はヘラケズリののちナデを施し、斜位の沈線を施す。

47～52は140号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。47は櫛歯状の工具による沈線を施す。48、49は口縁部にキザミを施し、胴部には綾杉状の沈線を施す。50は沈線文を施す。

53～59は141号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。53は櫛歯状の工具による条線を施す。54は綾杉状の沈線を施す。55は横位に沈線を巡らせ、対角状に沈線を施す。56は甕形土器口縁部の破片である。口縁部は無文帯を呈する。

59は口縁部に沈線を巡らせ、区画された中に単節RLの細縄文を充塡する。また以下には沈線間にキザミを充塡させる。

60、61は143号土坑より出土した。60は沈線にキザミを充塡させる。61は沈線で区画された中に単節LRの細縄文を施す。

62は144号土坑より出土した。深鉢形土器の佳片である。口縁部は無文帯を構成するものと思われる。

63は145号土坑の中央部より正位で出土した。深鉢形土器の破片である。口縁部に横位に紐線を巡らせ、以下縦位に垂下させる。また中には単節LRの磨消縄文を充塡する。胎土は砂粒を含み、焼成は良好である。色調は橙褐色である。

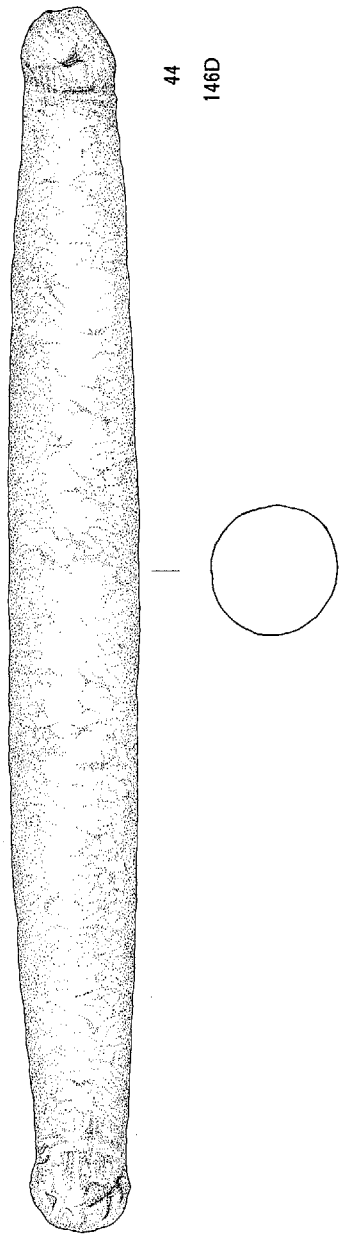
64は151号土坑より出土した。深鉢形土器口縁部の破片である。櫛歯状工具による弧状の沈線を施す。

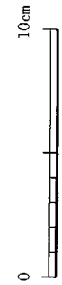
65、67は152号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。65は縦位の沈線を施す。67は櫛歯状の沈線を施す。66は156号土坑より出土した。深鉢形土器口縁部の破片である。無文の粗製土器である。胎土に砂粒を多量に含む。焼成は良好である。

68は163号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。縦位の平行沈線を施す。

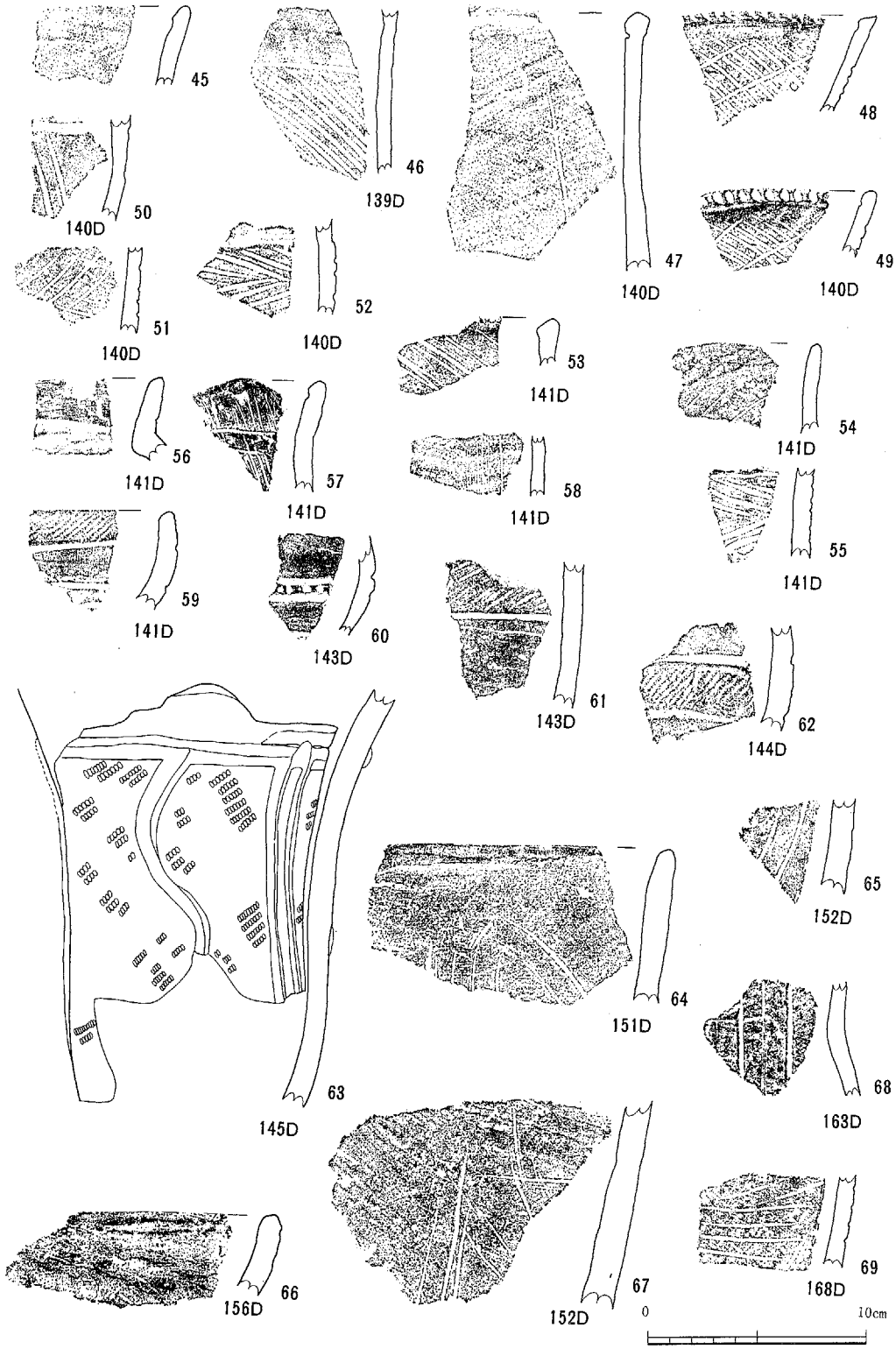
69は168号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。沈線を施す。

70～75は172号土坑より出土した。70～74は深鉢形土器の破片である。70は口縁部に平行沈線を巡らせ単節LRの細縄文を充塡する。71は外面は綾杉状の沈線を施す。内面には口縁部に沈線を巡らせ刺突文を充塡する。73は口縁部がくの字状に外反する。頸部に沈線を巡らせる。74は平行沈線を施す。75は注口土器の注口部の破片である。沈線による区画文の中に単節LR

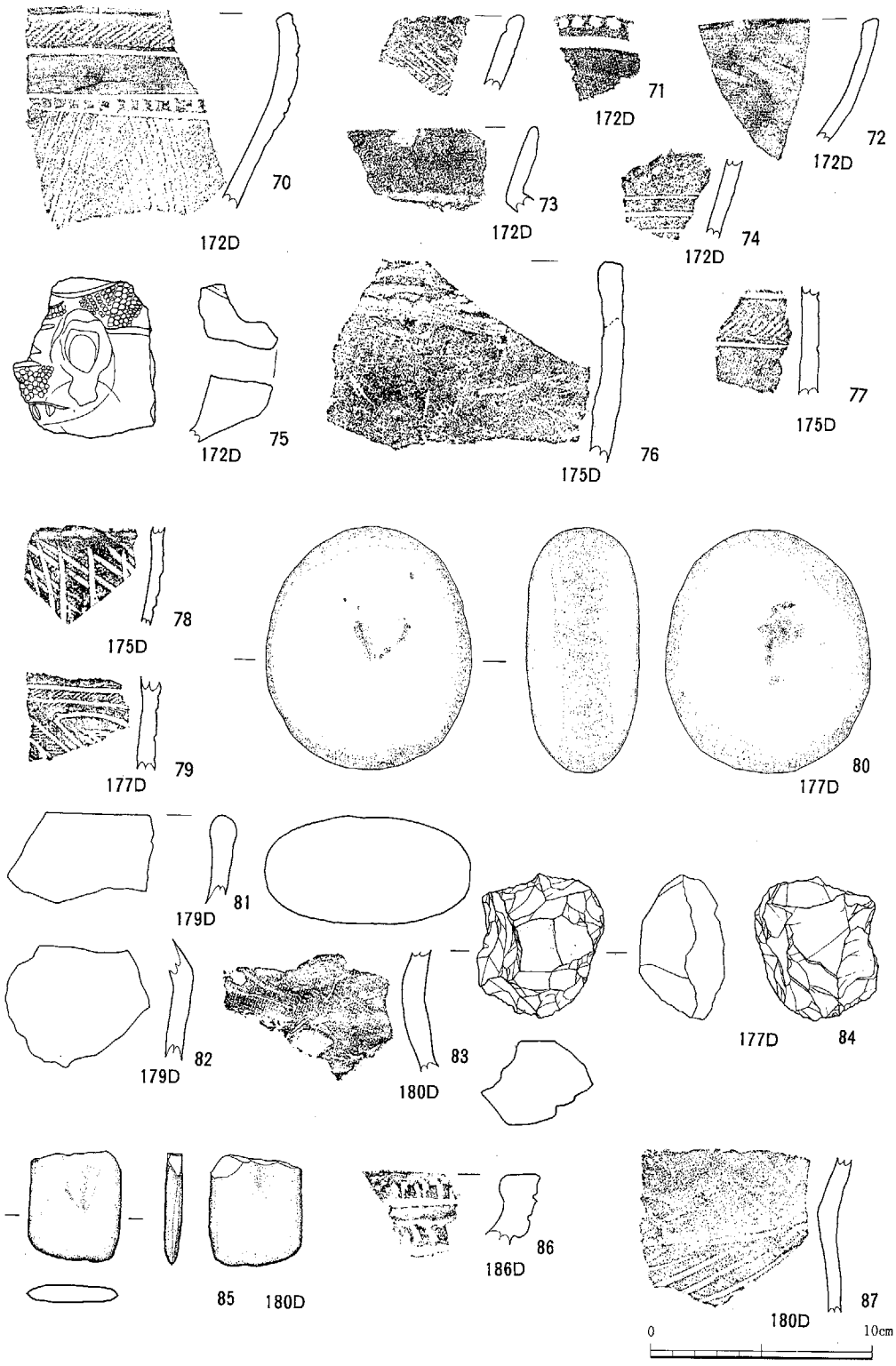




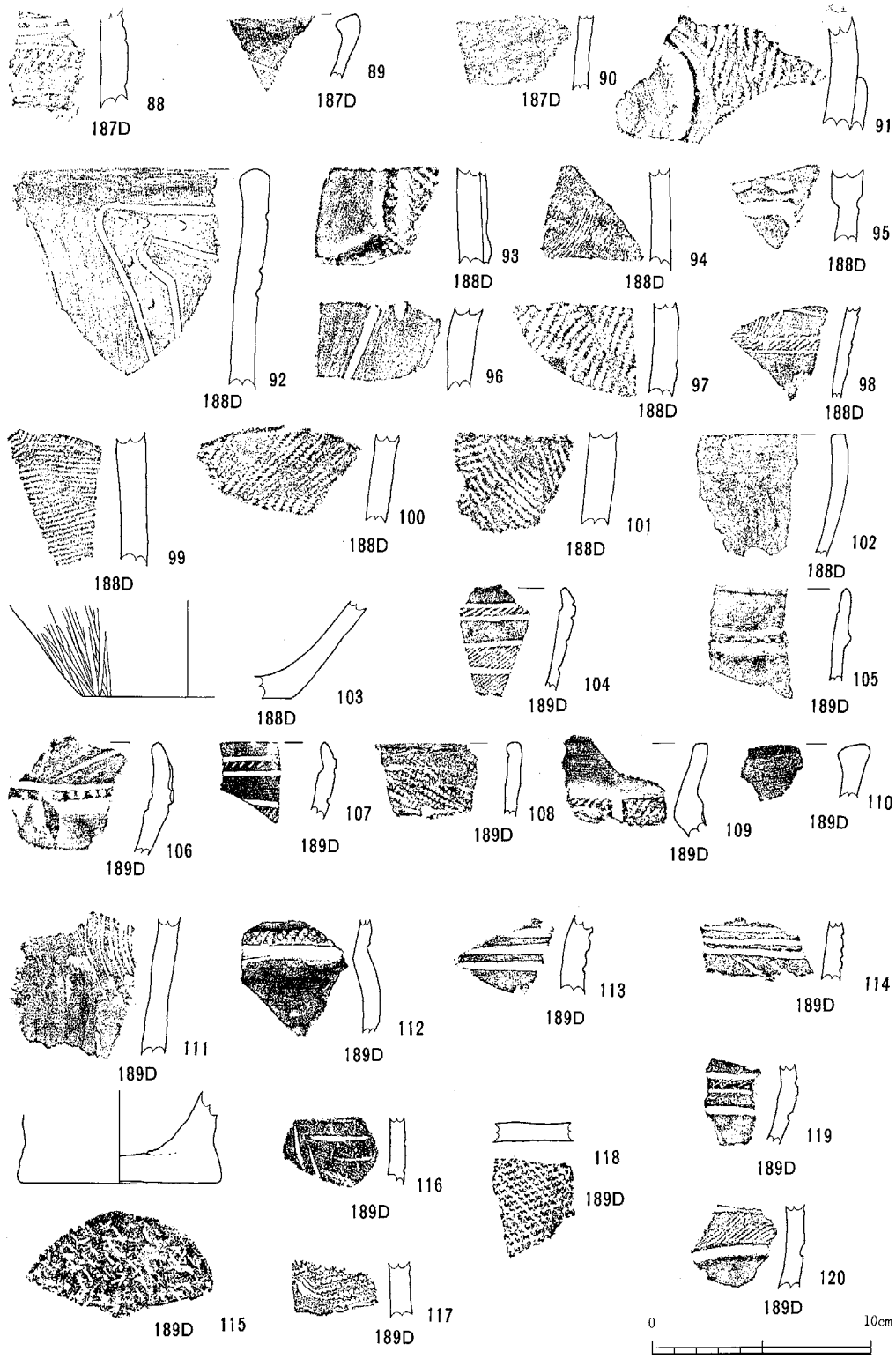
第203図　縄文時代土坑出土遺物（３）



第204図　縄文時代土坑出土遺物（4）



第205図　縄文時代土坑出土遺物（５）



第206図　縄文時代土坑出土遺物（6）

の縄文を縦位と横位に充塡する。

76～78は175号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。76は無文の粗製土器である。77は沈線間に単節RL縄文を充塡する。78は綾杉状の沈線を施す。

79、80、84は177号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。79は沈線による区画文の中に単節LR縄文を充塡する。80は磨石である。石材は安山岩である。長さ10.8cm、幅9.1cm、厚さ4.7cm。84は剥片石器である。石材は頁岩である。側面を刃部として使用されている。

81、82は179号土坑より出土した。深鉢形土器の破片で、無文の粗製土器である。外面ヘラケズリのちナデ、内面ヘラナデを施している。

83、85は180号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。83は無文の粗製土器である。85は砥石である。石材は砂岩である。中央部に使用痕のV字状の溝が入る。86は186号土坑より出土した。深鉢形土器である。86は沈線間にキザミを施す。

87～90は187号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。87は頸部以下に綾杉状の沈線を施す。88は横位の平行沈線を施し、間には斜行沈線を施す。89は細片で明確でないが沈線を施すものと思われる。90は無文の粗製土器である。ヘラケズリのちナデで調整される。

91～101は188号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。91は懸垂文を施し、間には単節LR縄文を施す。92、95、96は沈線による区画文の中に列点を充塡させる。93は紐線の貼り付を施し、間に単節RL縄文を充塡する。94は櫛歯状の工具による弧状の条線を施す。97、100、101は単節LR縄文を施文する。98は沈線による区画文の中に縦位と横位に単節LR縄文を施文する。99は縦位の単節RL縄文を施文する。

102～120は189号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。102は無文の粗製土器である。ヘラケズリのちナデで調整されている。103は底部の破片である。器面の外側にはミガキが施される。内面はナデで調整されている。104、107は沈線間に単節LR縄文を充塡させる。105は口縁部に刺突を施した細い紐線を巡らせる。105は口縁部に沈線を施す。以下平行沈線を巡らせ、沈線間にはキザミを施す。108は単節RLの磨消し縄文を施す。109は沈線間に単節LR縄文を充塡させる。110は無文の粗製土器である。111は櫛歯状の工具による弧状条線を施す。

112は単節LRの磨消し縄文を沈線間に充塡するものと思われる。113、114、119は平行沈線を施す。また、114は以下に斜行沈線を施すものと思われる。115、118は底部の破片である。底に網代痕がある。116は綾杉状の沈線を施す。117は縦位の単節RL縄文を施文する。119は平行沈線を巡らせる。120は沈線間に単節LRの細縄文を施す。

121～123は192号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。小さい波状口縁である。波状の頂部に刺突文を施す。以下沈線による区画文の中に単節LR充塡する。122は単節LR縄文を縦位に施文する。123は底部の破片である。底に網代痕がある。

124～126は193号土坑より出土した。124、125は深鉢形土器の破片である。平行沈線間に単節LR縄文を充塡する。126は注口部の破片である。器面は丁寧なミガキが施されている。径1.6mを計る。

127～132は195号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。127は口縁部に縦と横位の沈線を施し、以下沈線による区画文を充填させるものと思われる。128は口縁部の頂部に突起を貼り付し、沈線による区画文の中に単節LRの磨消し縄文を充填する。129は平行沈線間にキザミを施し、以下縦位の沈線を施す。130は平行沈線間にキザミを施す。131は口唇部にキザミを巡らせ、口縁部に規則的な間隔で刺突文を施す。以下沈線による区画文の中に単節LRの磨消し縄文を充填させる。132は磨石である。側面の一部分が欠損する。石材は安山岩である。長さ9.9cm、幅7.9cm、厚さ5.2cm。

133は196号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。綾杉状の沈線を施す。

134は199号土坑より出土した。深鉢形土器底部の破片である。底に網代痕がある。

135、136は201号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。135は無文の粗製土器である。ヘラケズリのちナデが施されている。136は底部の破片である。底に網代痕がある。

137、140、142は203号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。139は波状口縁である。斜行沈線を施す。140は沈線間に単節LR縄文を充填する。142は分銅形の打製石斧である。石材は頁岩である。

141は204号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。単節LRの磨消し縄文を施す。

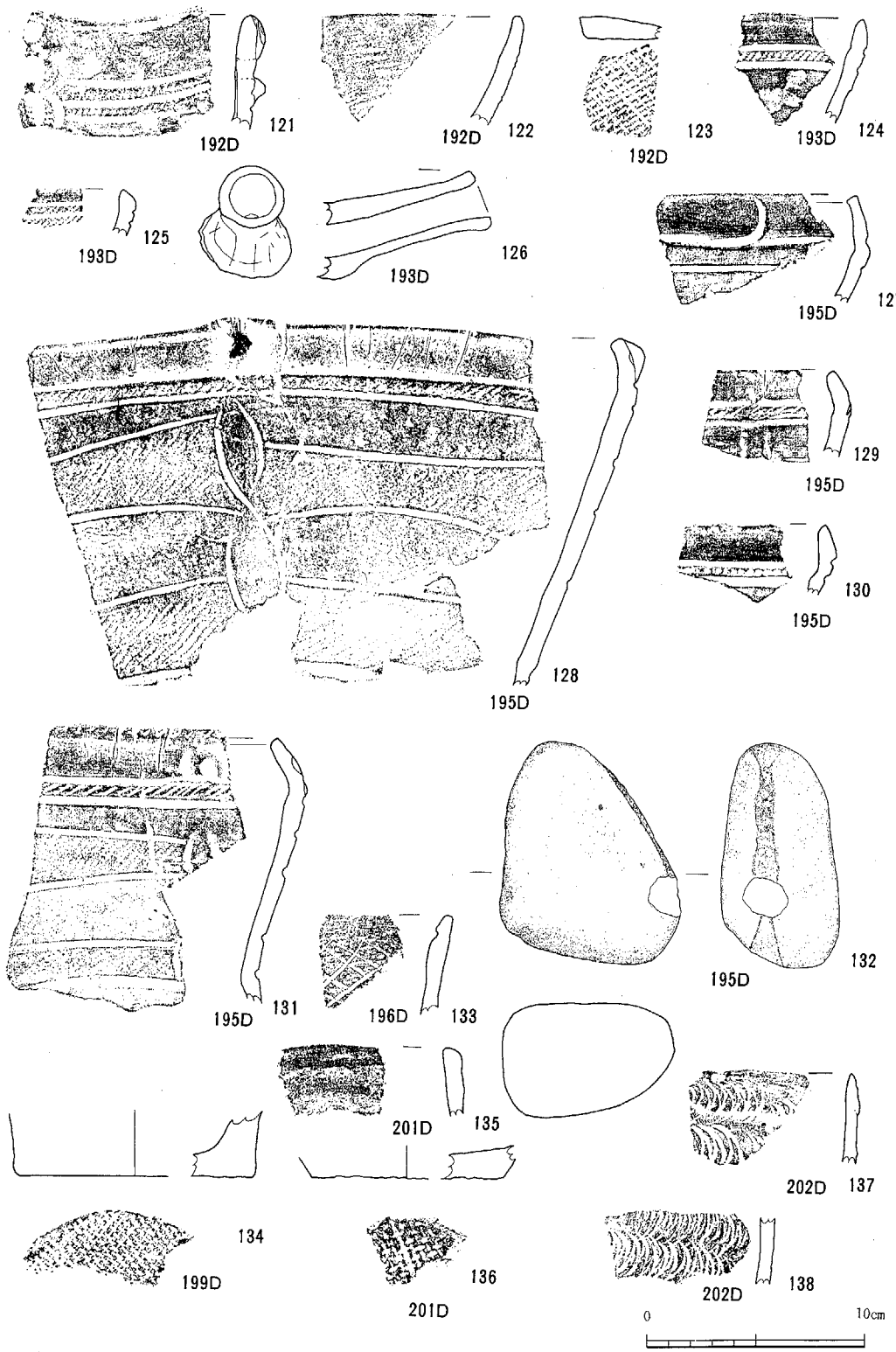
143～149は205号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。143は口縁部に指頭圧痕を施した紐線を巡らせる。以下胴部には櫛歯状の弧状の条線を施す。144は沈線間に単節LRの磨消し縄文を施す。146は櫛歯状の工具による縦位の条線を施す。147は横位の沈線で区画し以下綾杉状の沈線を施す。148は底部の破片である。底には網代痕がある。器面は内外共に丁寧なミガキが施されている。149は深鉢形土器の把手が付く破片である。

150は212号土坑より出土した。磨石の破片である。石材は安山岩である。残存長4.6cm、幅6.1cm、厚さ1.7cm。

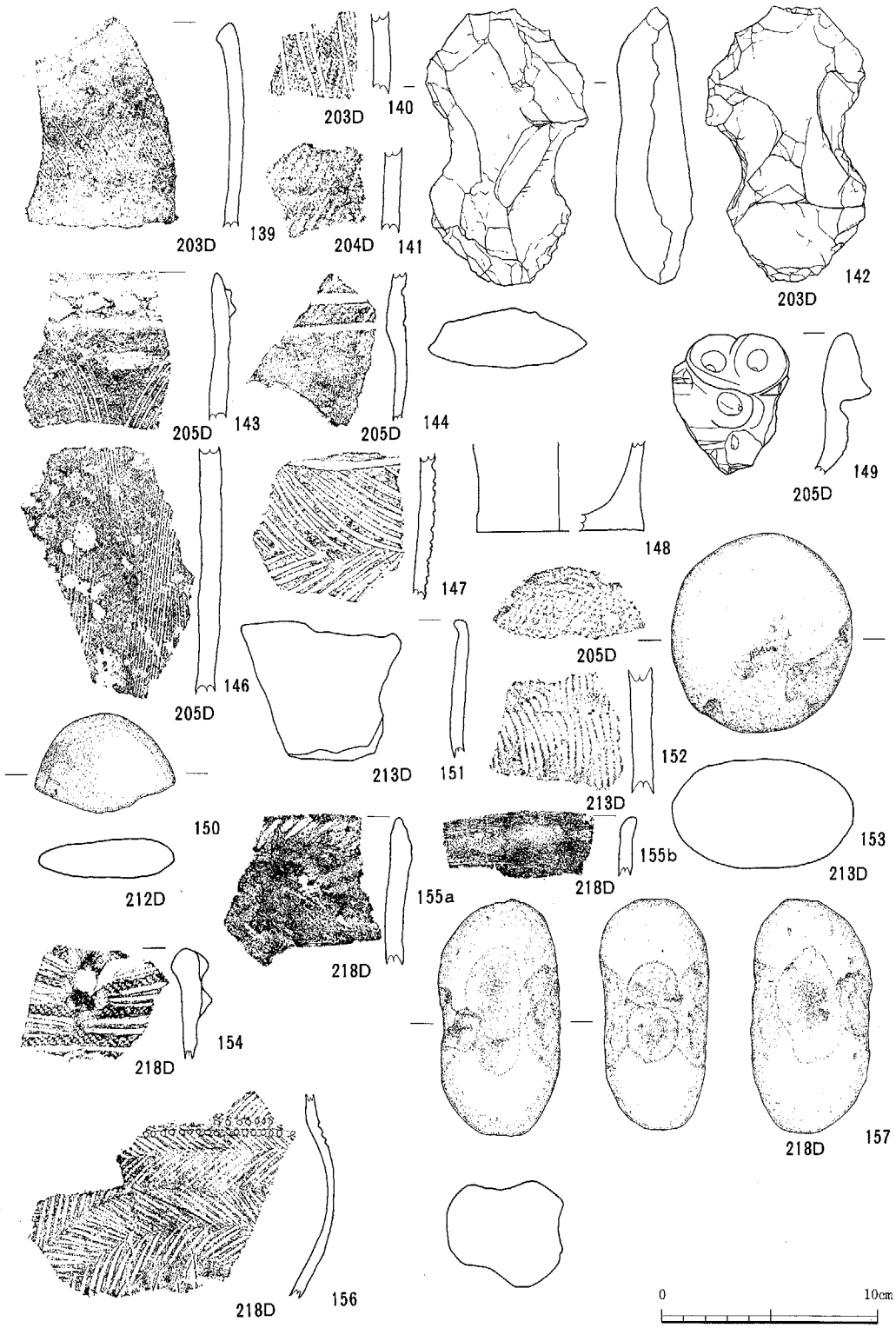
151～153は213号土坑より出土した。深鉢形土器の破片と磨石である。151は無文の粗製土器である。152は単節LR縄文を施文する。153は磨石である。石材は安山岩である。敲打による凹みが1ヶ所認められる。長さ9.1cm、幅8.4cm、厚さ5.0cm、重さ530ｇ。

154～158は218号土坑より出土した。深鉢形土器の破片と凹石である。154は横割りのコブを貼付し、沈線間に単節RL縄文を施文する。155ａは刻目を口縁部にめぐらす。155ｂは無文の粗製土器である。156は綾杉状の沈線を施し、頸部には沈線間にキザミを施す。157、158は凹石である。157は4面に2ヶ所ずつ敲打による凹みが認められる。石材は安山岩である。長さ10.9cm、幅5.3cm、厚さ4.8cm、重さ371ｇ。158は凹石の破片である。敲打による凹みが1ヶ所に認められる。また、火熱を受け部分的に赤色化している。石材は安山岩である。残存長9.3cm、幅7.8cm、重さ631ｇ。

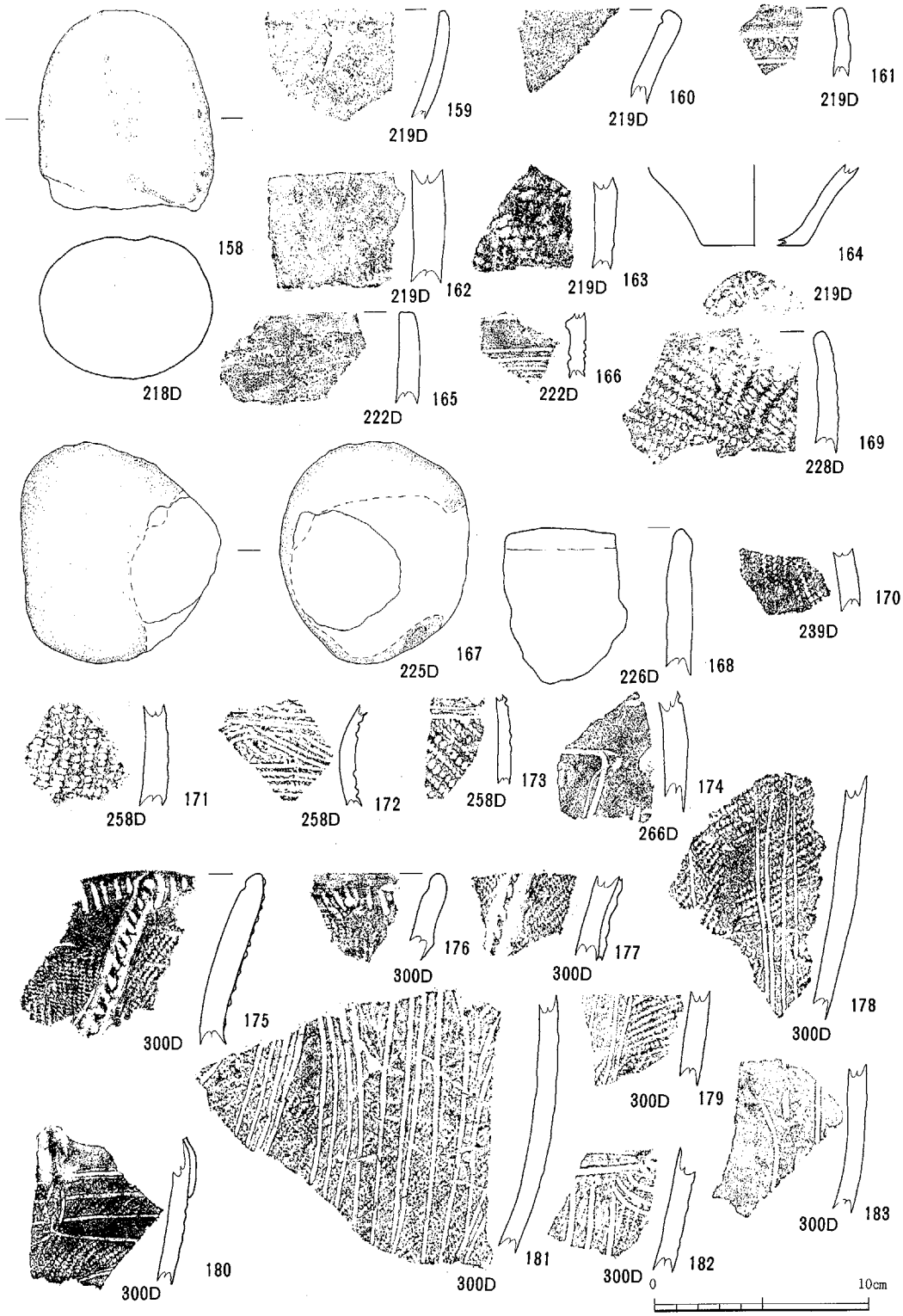
159～164は219号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。159、160は無文の粗製土器である。162は櫛歯状工具による条線を施す。163は単節LRの磨り消し縄文を施す。164は底部の破片である。底に網代痕がある。



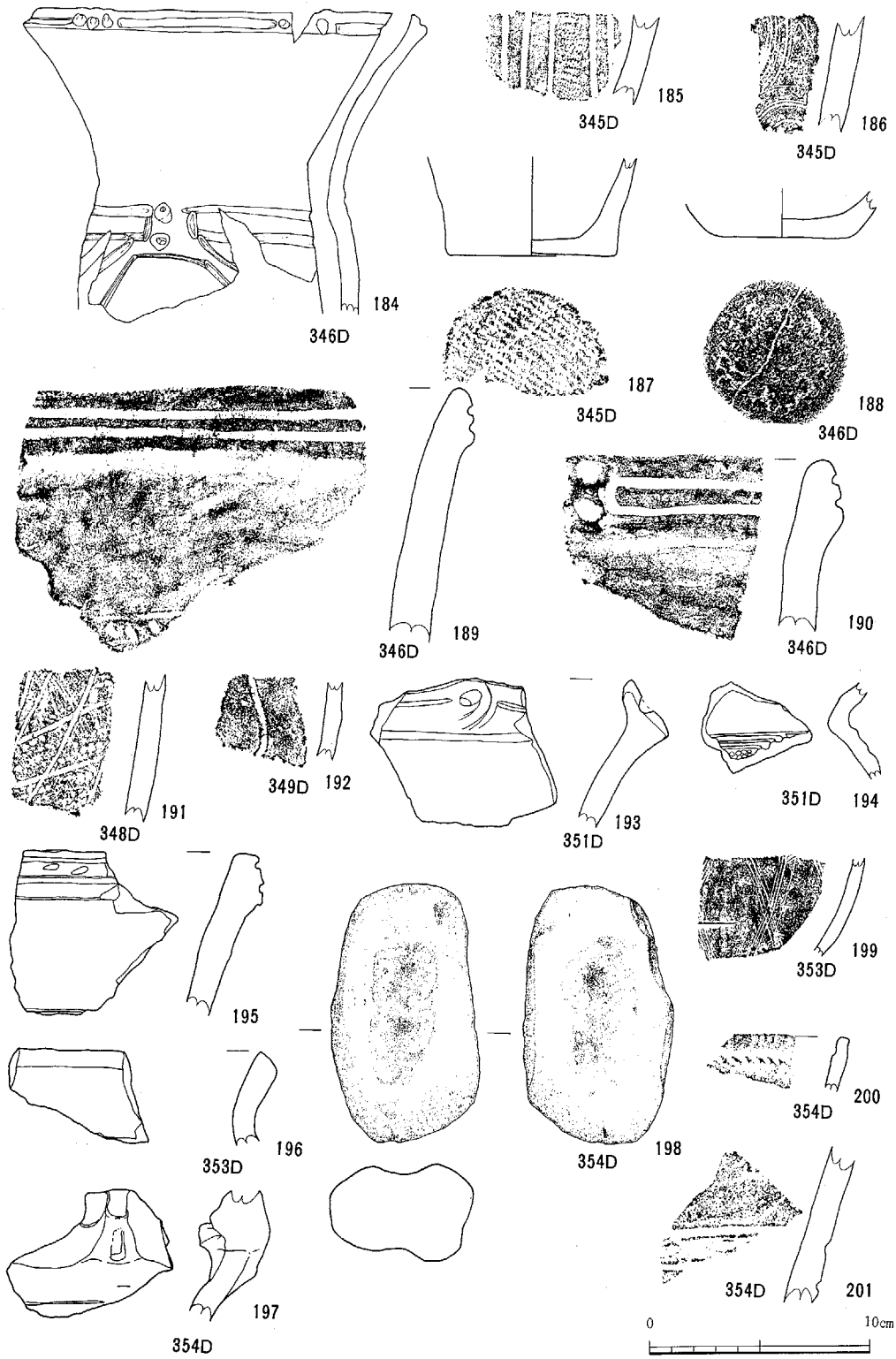
第207図　縄文時代土坑出土遺物（7）



第208図　縄文時代土坑出土遺物（8）



第209図　縄文時代土坑出土遺物（9）



第210図　縄文時代土坑出土遺物（10）

165、166は222号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。165は無文の粗製土器である。ヘラケズリのちナデで調整している。166は平行沈線を施す。

167は225号土坑より出土した。磨石である。一部欠損する。石材は安山岩である。長さ10.3cm、幅9.1cm、重さ641g。

168は226号土坑より出土した。深鉢形土器口縁部の破片である。無文の粗製土器である。ヘラケズリのちナデで調整されている。

169は228号土坑より出土した。深鉢形土器口縁部の破片である。単節LR縄文を横位と縦位に施文する。

170は239号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。単節LRの細縄文を施文する。

171～173は258号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。171は単節LR縄文を施文する。172は斜位と横位に条線を施し、条線間に単節LR縄文を充填する。173は横位の沈線を巡らせ以下に単節LR縄文を充填する。

174は266号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。沈線による区画文を施す。

175～183は300号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。称名寺2式と堀之内1式が一括で出土した。175は口縁部にキザミを巡らせ刺突を施した紐線を縦位に貼付し、単節LR縄文を施文する。176、177も同様に176は口縁部にキザミを巡らせ、単節LR縄文を施文する。177は刺突を施した紐線を縦位に貼り付し、単節LR縄文を施文する。178、179、181は胎土、焼成、色調が共に似ており、接合はできないが同一固体と考えられる。単節LRの磨消縄文を施し、縦位の条線を施す。181はコブ状の貼り付を施し、以下沈線による区画文を施す。また、区画文の中には単節LRの磨消し縄文を施文する。182は単節LRの磨消し縄文を施し、横位に沈線を巡らせ、以下弧状と縦位の条線を施す。183は沈線による区画文の中に列点を充填する。

185～187は345号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。185は沈線間に縦位の単節LR縄文を充填する。186は櫛歯状の工具による弧状の条線を施す。187は底部の破片である。底には網代痕がある。残存高4.6cm、底径6.7cm。

184、188～190は346号土坑より出土した。深鉢形土器である。184は口縁部がくの字状に外反する。口縁部には3単位に間隔をおいて3つずつ刺突文を並列に施し、その間には沈線を巡らせる。以下口縁部には無文帯で構成し、丁寧なミガキが施される。頸部以下は3単位に間隔をおいて2つずつ刺突文を直列に施す。ちょうど口縁部の刺突文の間に入るように交互に施されている。また、その間には沈線による区画文を施す。以下斜位や弧状の沈線による文様帯を構成する。胎土に砂粒を含む。焼成は良好、色調は暗褐色である。188は底部の破片である。底には網代痕がある。残存高1.8cm、底径6.3cm。189は口縁部に平行線を巡らせ、頸部には沈線間にキザミを巡らせる。190は口縁部にボタン状の貼付を施し、間には平行沈線を巡らせる。

191は348号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。単節LRの磨消し縄文を施し、のち綾杉状の沈線を施す。

192は349号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器胴部の破片である。沈線による区画文を施すものと思われる。

193、194は351号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器口縁部の破片である。193は口縁部に刺突文を施し、間に沈線を巡らせる。頸部以下に平行沈線を巡らせ沈線間に単節LR縄文を充填する。

195、196、199は353号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器口縁部の破片である。195は口縁部に平行沈線を巡らせ、間に刺突文を施す。196は無文の粗製土器である。ヘラケズリのちナデで調整されている。199は櫛歯状の工具による条線を交互に斜の方向に施す。

197、198～201は354号土坑の覆土中より出土した。197は橋状把手の付く深鉢形土器口縁部の破片である。把手の上部分が欠損している。把手には刺突を施し、以下沈線による区画文を施すものと考えられる。198は凹石である。3面に敲打による凹みが2ヶ所ずつ認められる。石材は安山岩である。長さ11.5cm、幅6.6cm、厚さ4.3cm。200は深鉢形土器口縁部の破片である。刺突を施した紐線を巡らせる。201は深鉢形土器胴部の破片である。沈線間にキザミを施す。

204、205は355号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器の破片である。204は隆線文を施す。また、隆起線の接点には刺突文を施す。205は口縁部に指頭圧痕を巡らせる。

206～212は356号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器口縁部の破片である。206は器面には沈線による区画文を施す深鉢形土器口縁部の破片と思われる。207は沈線による区画文の中にキザミを充填する。208は単節LRを施文し、横位の沈線で区画する。209は刺突を施した紐線を貼付し、三角区画文を施す。

213は357号土坑の覆土中より出土した。注口土器の注口部分の破片である。注口の先端は欠損している。沈線による区画文を施すものと思われる。

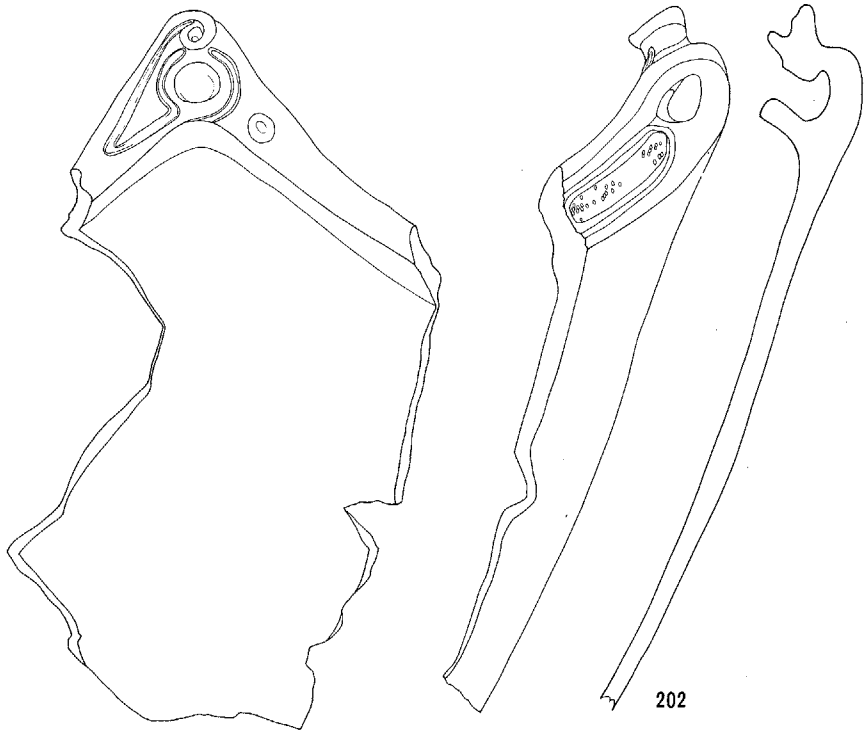
214、216、217は358号土坑の覆土中より出土した。214は深鉢形土器に付く把手の破片と思われる。刺突を装飾的に施す。216は深鉢形土器底部の破片である。底に網代痕がある。器面には内外共に丁寧ミガキが施している。残存高3.8cm、底径7.6cm。217は沈線による区画文を施す。

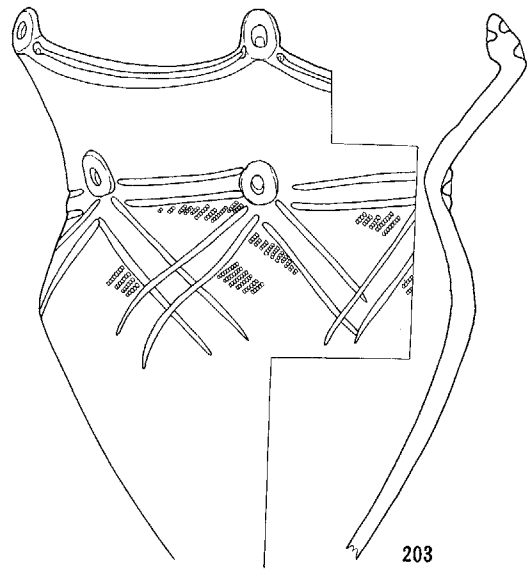
215、221は360号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器の破片である。215は沈線による区画文の中に列点を充填する。221は底部の破片である。器面は内外共に丁寧なミガキが施されている。

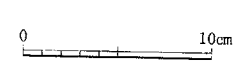
218、219、222は363号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器の破片である。218は沈線文を施す。219は平行沈線間に単節LR縄文を充填する。222は沈線による区画文を施し、間に刺突文を充填する。

220は365号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器胴部の破片である。単節RL縄文を施文する。

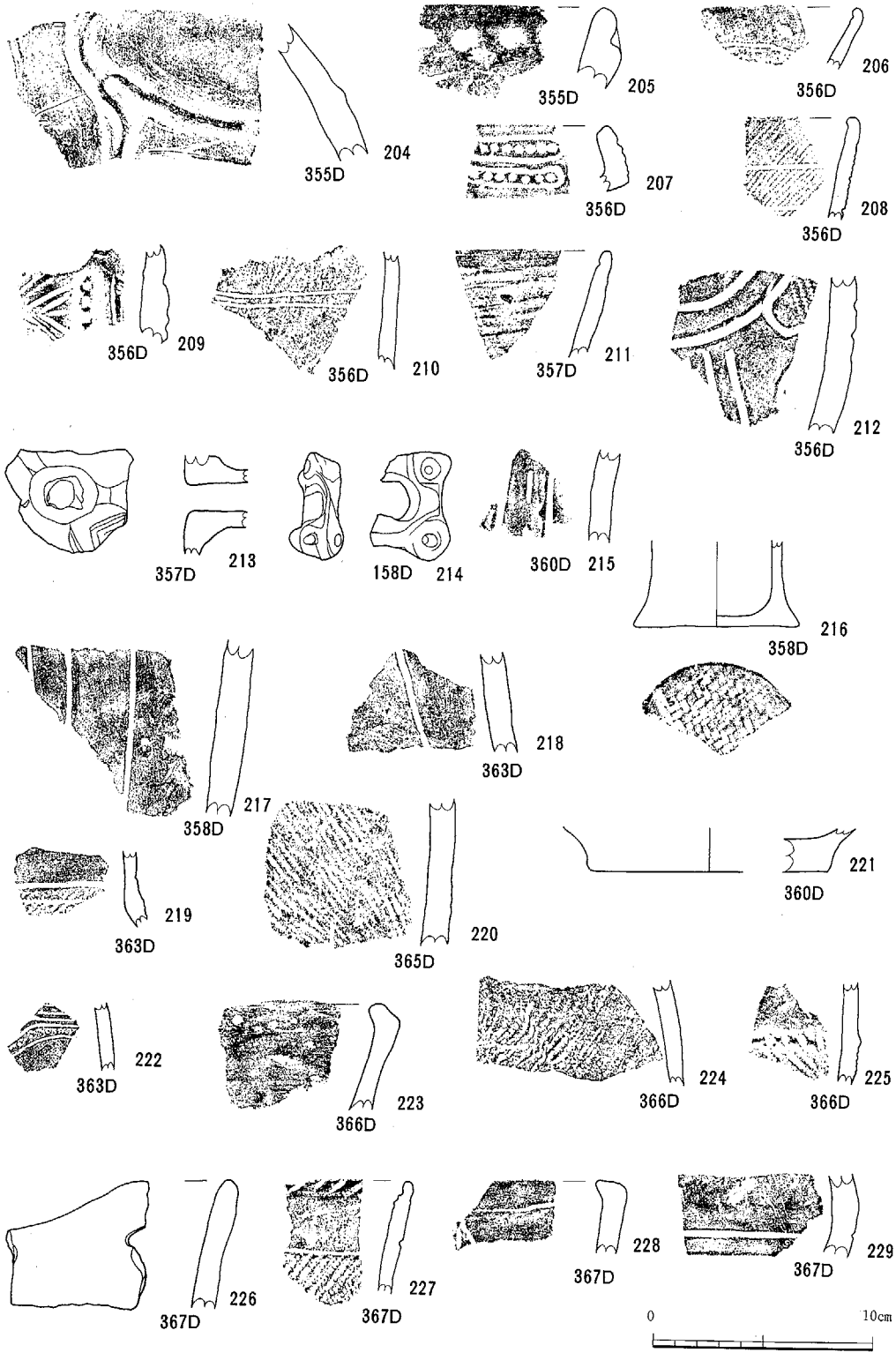
223～225は366号土坑の覆土中より出土した。223は無文の粗製土器である。器面は内外共に







第211図　縄文時代土坑出土遺物（11）



第212図　縄文時代土坑出土遺物（12）

ヘラケズリのちナデが施されている。224は単節LRの磨消し縄文を施す。225はキザミ帯を巡らせ、以下単節RL縄文を施す。

226～233は367号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器の破片である。226は無文の粗製土器である・波状口縁で円孔があく。227は口縁部にキザミを巡らせる。さらに、口縁部と胴部との間に横位の沈線を巡らせ区画する。以下単節LRの磨消し縄文を施文する。228、229は沈線文を施す。230は横位単節LRの磨消し縄文を施文したのち斜行条線を施す。231は縦位LRの磨消し縄文を施文したのち斜行沈線と弧状沈線を施す。232は平行沈線間に単節LR縄文の充填と無文帯を構成する。233は底部の破片である。底には網代痕がある。

234は368号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。平行沈線間に単節LRの磨消し縄文を施文する。

235～237は369号土坑より出土した。235は沈線による区画文の中に列点を施す。236は沈線斜行条線を施す。

238は376号土坑より出土した。深鉢形土器底部の破片である。器面は内外共に丁寧なミガキが施される。

239～245は373号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。239は単節LRのち磨消し縄文を施文する。240は単節LR縄文で施文したのち横位の沈線と斜行沈線で区画する。241は深鉢形土器胴部下半の破片である。底には網代痕がある。器面は無文の粗製土器で内外共に丁寧なミガキが施されている。242は沈線による区画文の中に列点を充填する。

246～248は380号土坑より出土した。246は平行沈線間に単節RL縄文を充填と無文帯を構成する。247は沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填する。248は特殊把手。

249は381号土坑より出土した。縦位の沈線を施す。

251～265は382号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。251は表は無文で裏面には平行沈線を施す。252は平行沈線を施す。253は縦位の単節LR縄文を施しのち垂下沈線を施す。

254は指頭圧痕を施した紐線を巡らせる。255は縦位の単節LR縄文を施す。256は斜位に隆帯を施す。257は平行沈線を施す、沈線間には単節LR縄文を充填する。258は縦位の単節LR縄文を施したのち、垂下沈線を施す。259は縦位の単節LR縄文を施す。260は横位の単節LR縄文を施文する。261は櫛歯状工具による弧状の条線を施す。263は深鉢形土器底部の破片である。石材は安山岩である。264は一面に敲打による凹みが認められる。長さ12.1cm、幅8.2cm、厚さ5.6cm。265は3面に2ヶ所ずつ凹みが認められる。長さ12.9cm、幅8.2cm、厚さ5.6cm。

266～269は384号土坑より出土した。266は土製円盤である。267、268は深鉢形土器の破片である。267は単節RLを施文する。268は綾杉状の沈線を施す。269は剥片石器である。石材は頁岩である。長さ4.9cm、幅7.2cm、幅1.8cm。

270～286は385号土坑より出土した。深鉢形土器の破片である。270、274は無文の粗製土器の破片である。器面はヘラケズリのちナデで調整されている。271は口唇部にキザミを施し、以下は渦巻き状の隆帯を施す。272は8の字のボタン状の貼り付を施し、キザミを充填した平

行沈線を施す。273は平行沈線を施す。275は平行沈線を巡らせ、キザミを充填する。276は櫛歯状の条線を横位に施す。277は条線文を施す。278は沈線による区画文の中に単節LRの磨消し細縄文を施す。280は平行沈線を施し、沈線間には単節LRの細縄文を充填する。281は平行沈線を施し、間には刺突を施したつまみ状の突起を施す。282、285は沈線による区画文の中に列点を充填する。胎土、焼成、色調とも似ており、接合は出来ないが同一固体と思われる。

283、286は格子目状の沈線を施す。

284、287は386号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器の破片である。284は単節LR細縄文を施す。287は口唇部に細かいキザミを施す。以下、平行沈線間に単節LRの磨消し縄文を充填する。

288～291は387号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器の破片である。288は胴部分の破片である。単節LR縄文を施す。289は底部分の破片である。底は網代痕が認められる。290は沈線で区画を施し、区画内に単節RL縄文を施文する。291は垂下沈線を施す。

292～295は388号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器の破片である。292は口唇部は無文帯を構成し、以下単節LR縄文を施文する。293、295は口縁部に平行沈線を巡らせる。294は表面は平行沈線で区画し単節LRの充填縄文と無文帯を構成する。裏面は沈線間に単節LR縄文を充填する。

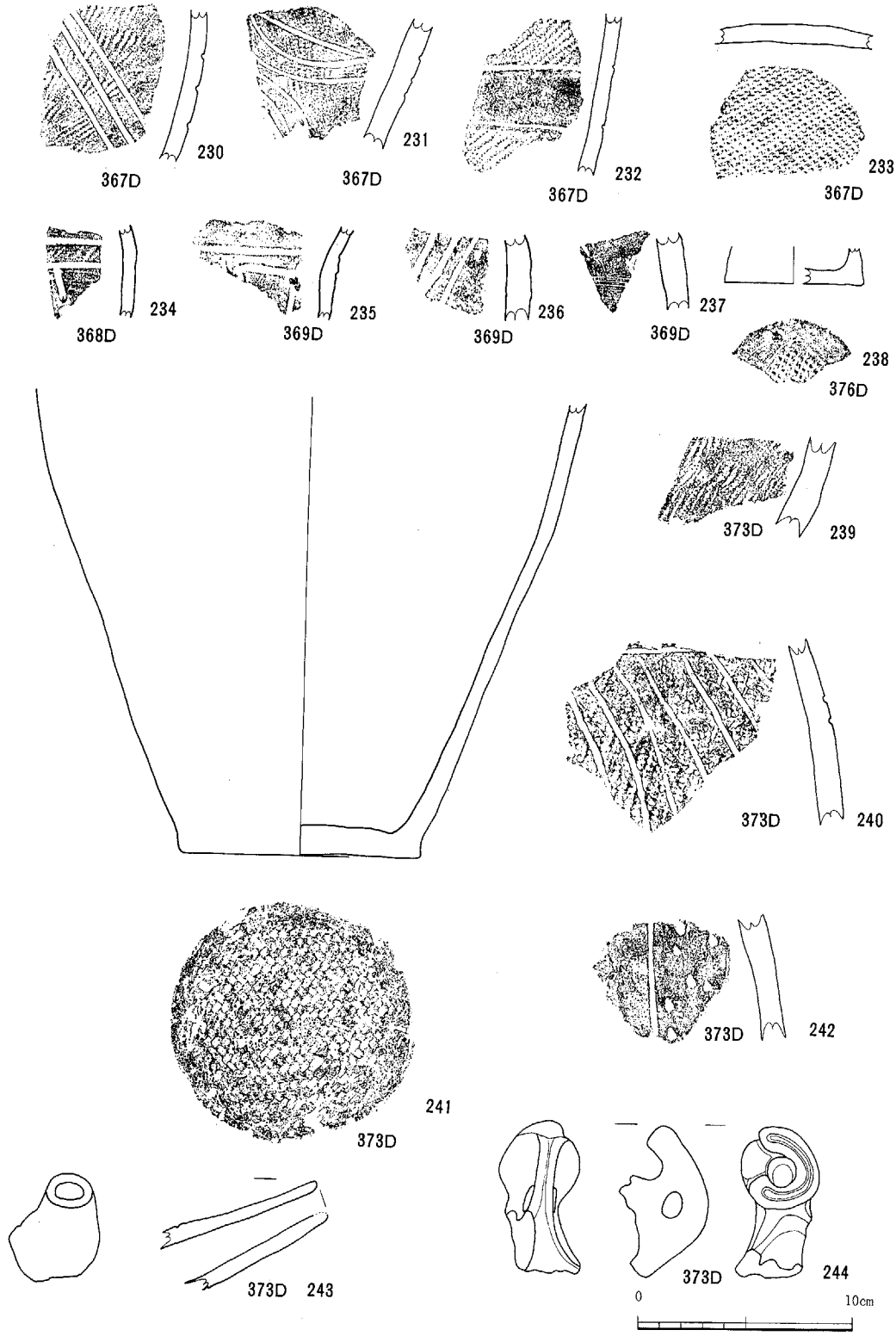
296は389号土坑の覆土中より出土した。浅鉢形土器口縁部の破片である。体部に平行沈線を巡らせ、単節RLの磨消し縄文を充填する。

297～306は390号土坑の覆土中より出土した。297は浅鉢形土器の破片である。298は平行沈線で区画し中に単節LR縄文を施文する。299は櫛歯状の工具による斜位の条線を施す。300は単節RL縄文を施文する。301は平行沈線で単節RLの磨消し縄文を施す。302は櫛歯状の条線を施す。区画する。303は沈線間に単節LR縄文を充填する。304は縦位と斜位の沈線を施す。305は橋状把手の破片である。306は口縁部に沈線を巡らせ以下櫛歯状の工具による沈線を施す。

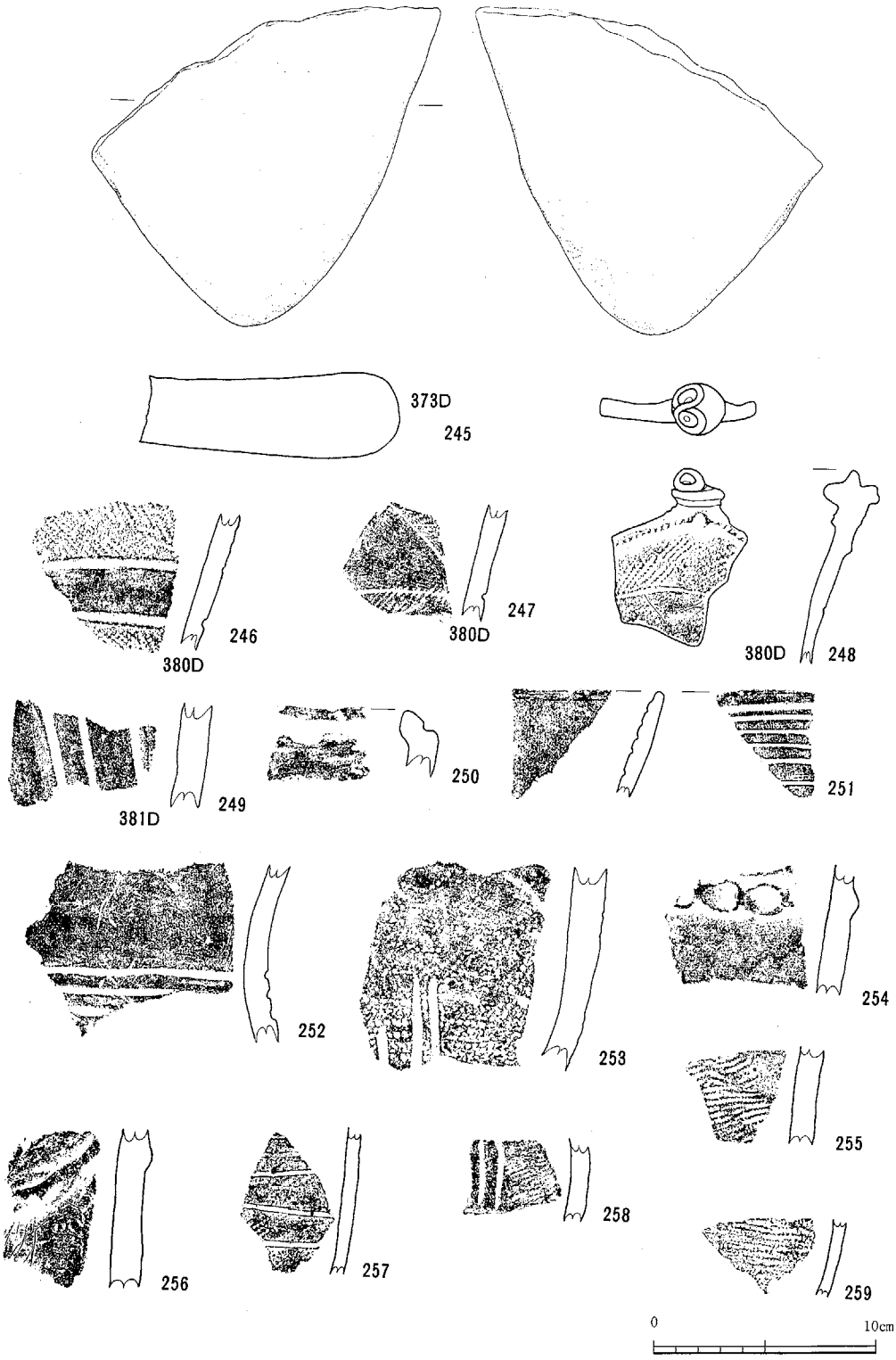
307～316は392号土坑の覆土中より出土した。307は口縁部に沈線を巡らせる。以下単節LR縄文を施文し、平行沈線を縦位の沈線で段状の区画を施す。308は平行沈線で区画し多条の刺突を施す。309は頸部に沈線を巡らせ以下綾杉状の沈線を施文する。311はは石錘である。長さ4.8cm、幅2.2cm、厚さ0.9cm。313は底部の破片である。314、315は沈線間に単節LR縄文を充填する。316は単節LR縄文を施し、横位の沈線で区画する。

317、320～334は394号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器の破片である。317は底部の破片である。底に網代痕がある。

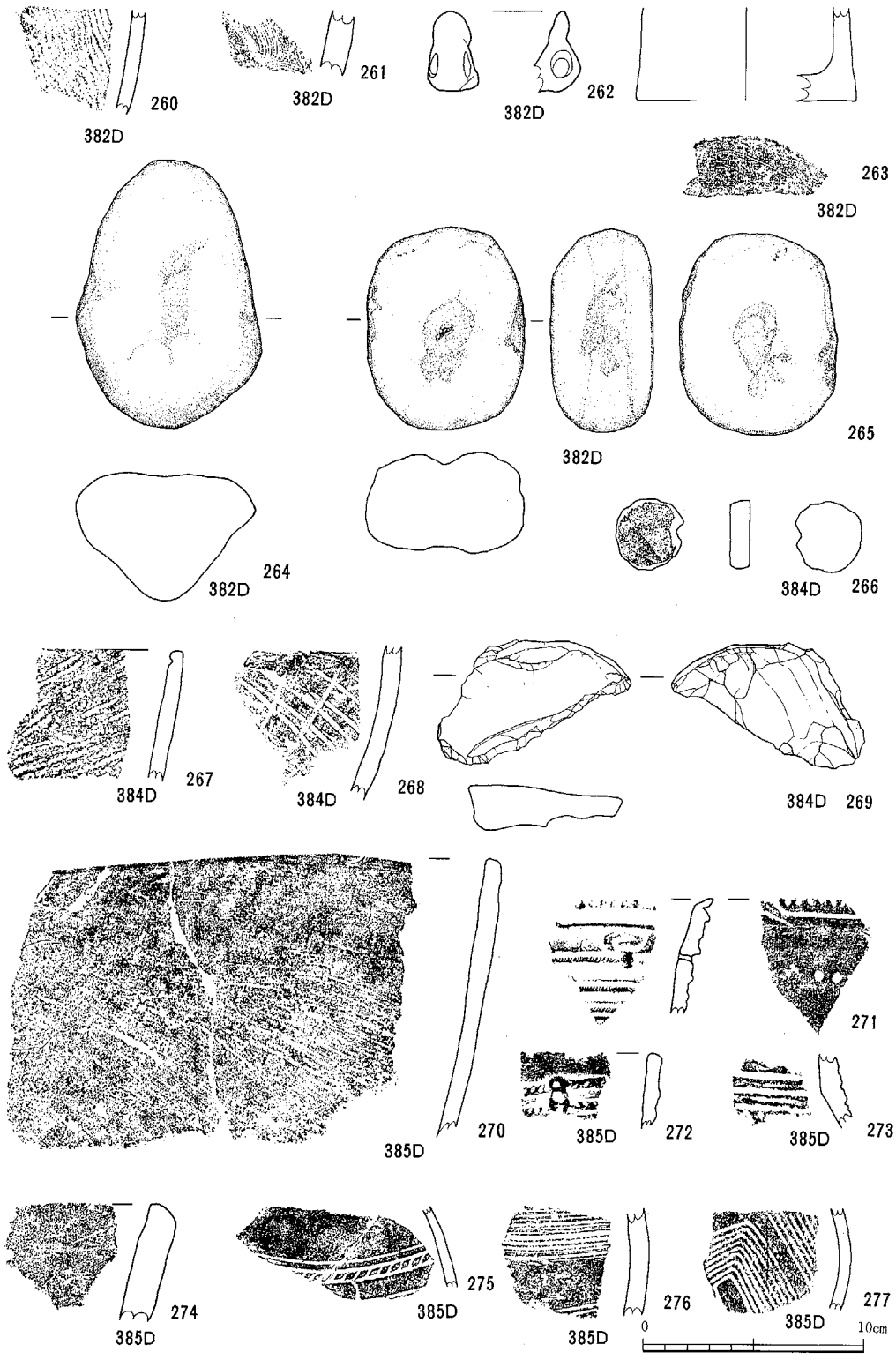
318～345は395号土坑の覆土中より出土した。318は深鉢形土器の破片である。表面は無文で裏面は平行沈線を施す粗製土器である。器面は表裏共に丁寧なミガキが施されている。319は口縁部にキザミを巡らせ、平行沈線間に充填単節LR縄文と無文帯を構成する。320は単節LRの磨り消し縄文を施文する。321は沈線による区画文の中に単節LR縄文を施文する。322は口唇部は山形のキザミを施し、以下表面は無文で裏面は刺突文と隆帯を巡らせる粗製土器である。



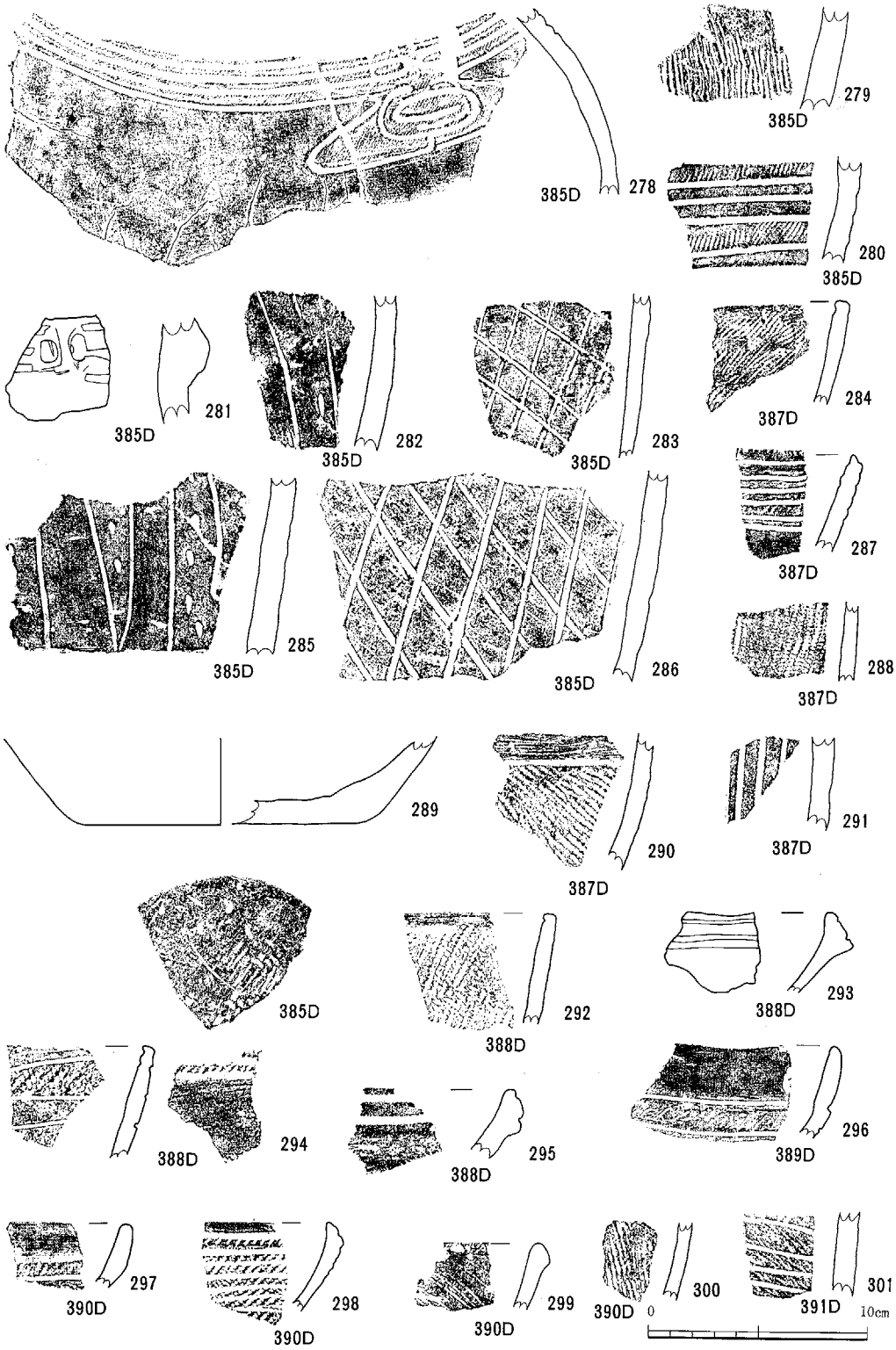
第213図　縄文時代土坑出土遺物（13）



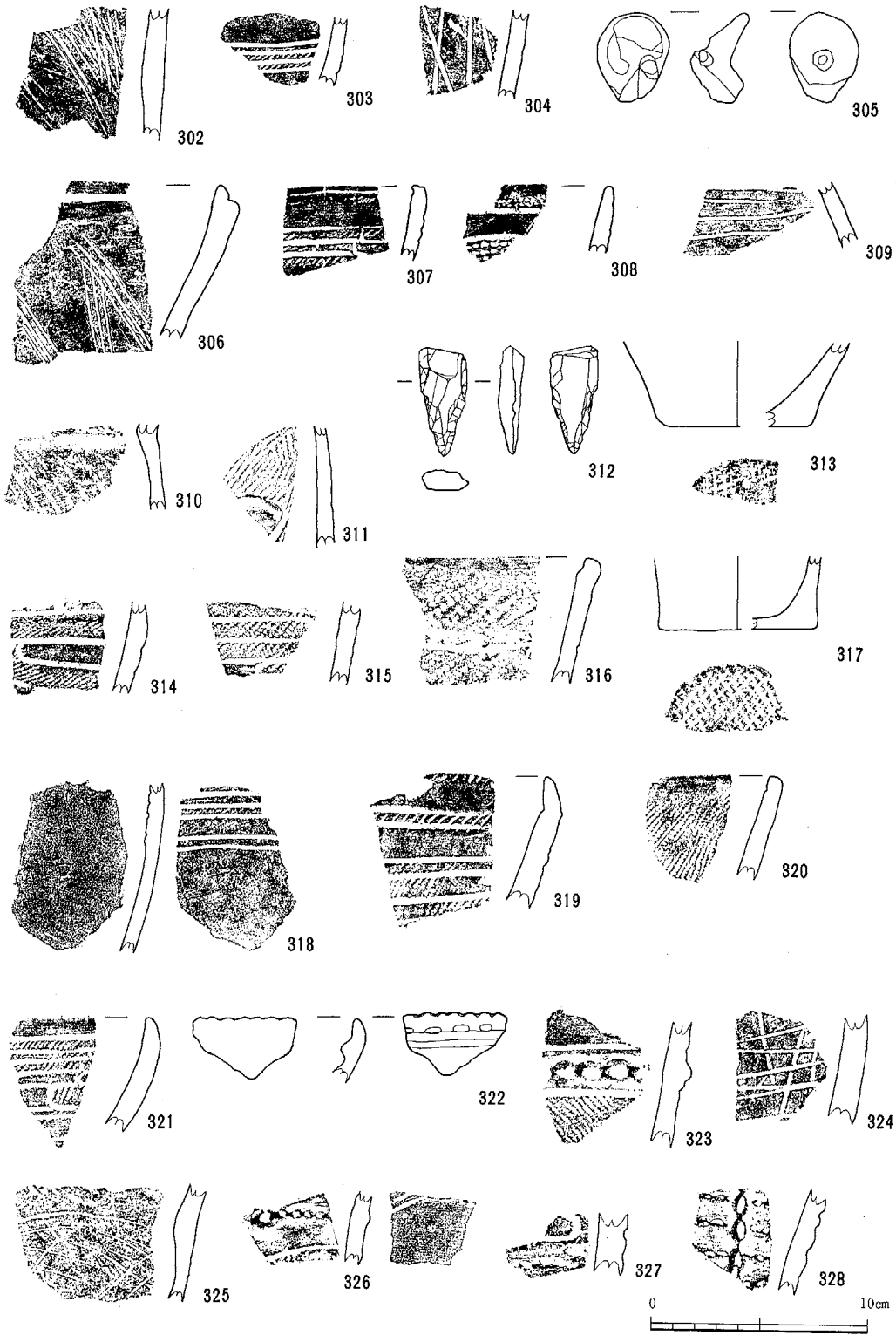
第214図　縄文時代土坑出土遺物（14）



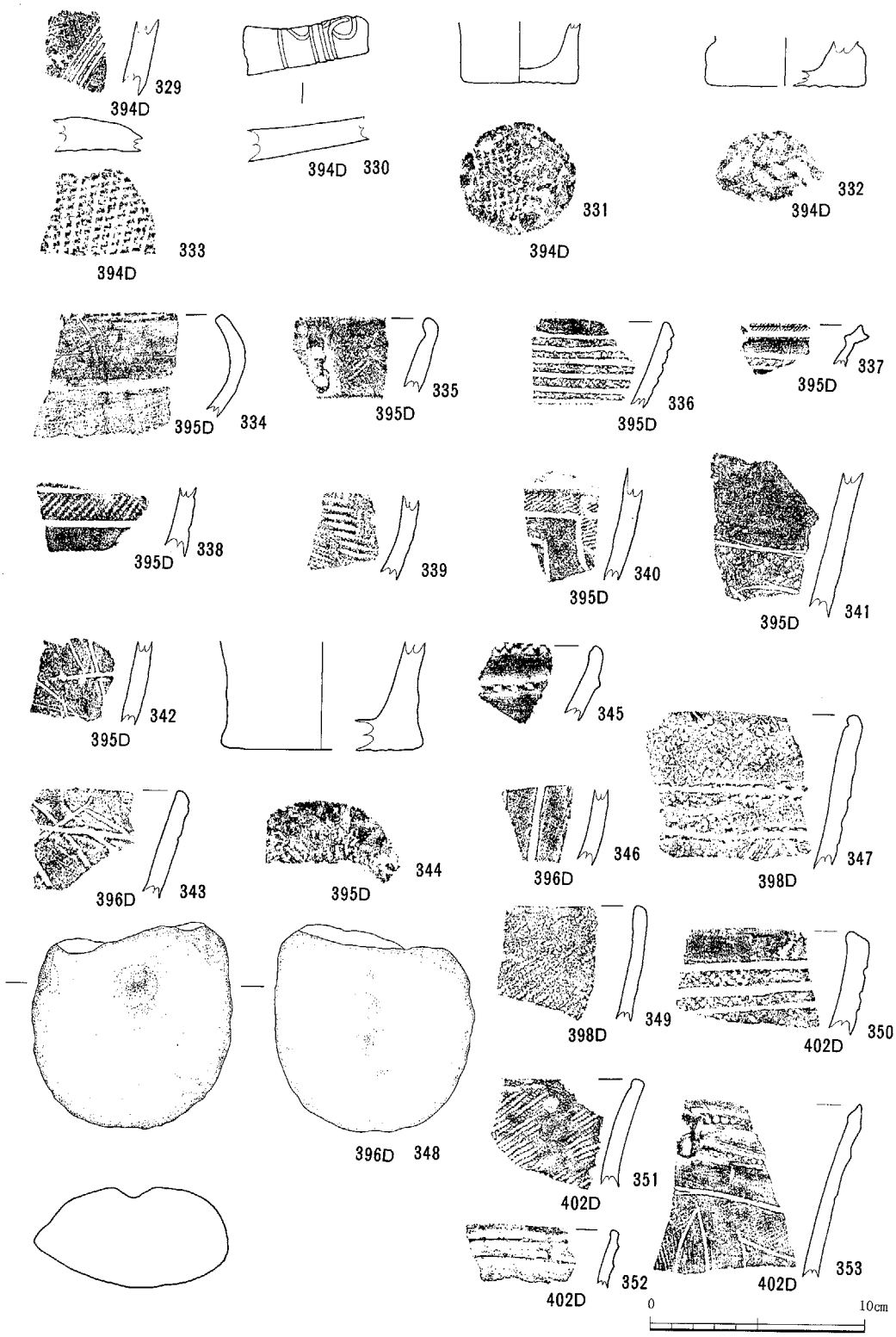
第215図　縄文時代土坑出土遺物（15）



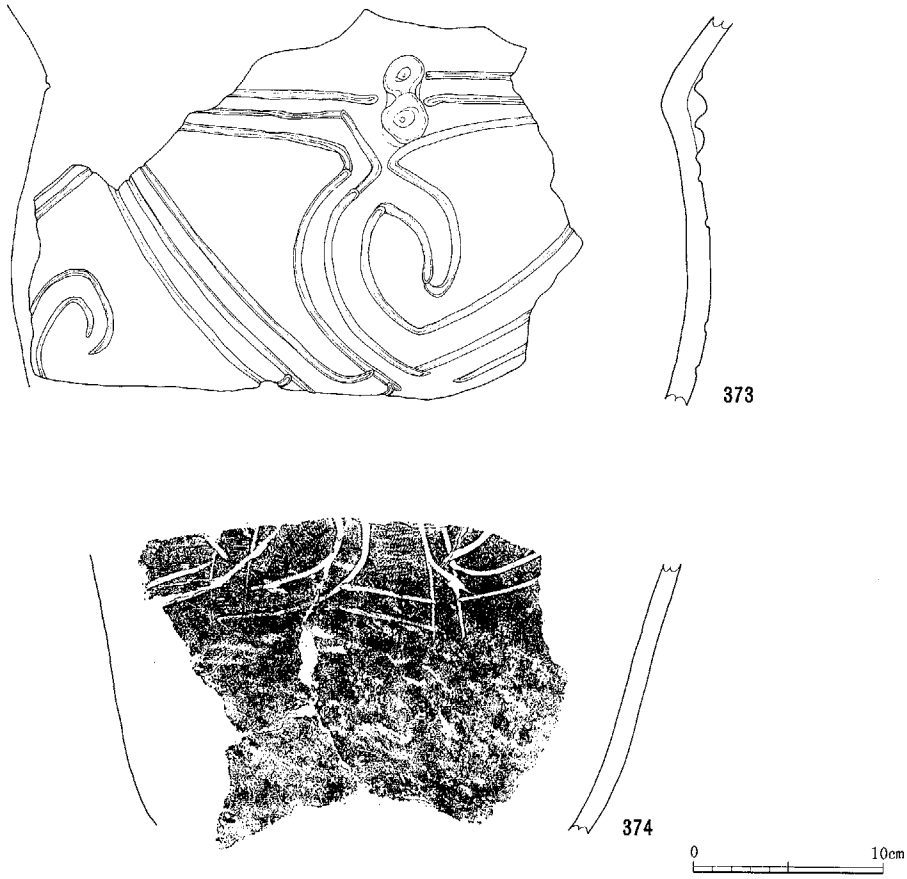
第216図　縄文時代土坑出土遺物（16）



第217図　縄文時代土坑出土遺物（17）



第218図　縄文時代土坑出土遺物（18）



第219図　縄文時代土坑出土遺物（19）

323は平行沈線間にキザミを充填し、以下単節RL縄文を施文する。324、325は綾杉状の沈線を施す。326は表は刺突文を施した細い紐線を巡らせる。以下沈線間には単節の充填縄文が施されると思われる。器面は表裏共に、丁寧なミガキが施されている。327は沈線による区画文と刺突文を施す。328は刺突文を施した紐線を横に数条巡らせ、縦の刺突文を施した紐線で区画する。329は櫛歯状の工具による条線を施す。330は注口土器の注口部の破片と思われる。331～333は深鉢形土器底部の破片である。底には網代痕がある。334は浅鉢形土器口縁部の破片である。335は８の字のボタン状貼り付を施す。336は多条の平行沈線を施し、沈線間に単節LRの磨消し縄文を充填する。337は口縁部に沈線を巡らせ区画し区画内には単節LRの磨消し縄文を充填する。以下には平行沈線を巡らせ、沈線間にはキザミを充填する。338は平行沈線を施し、沈線間には単節LRの磨消し縄文を充填する。339は縦位の単節LRの磨消し縄文を充填する。340は沈線による区画文の中に単節LRの磨消し細縄文を充填する。341は沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填する。342は沈線を不規則的に施す。343は横位の沈線と綾杉状の

沈線を施す。344は底部の破片である。底には網代痕がある。器面は内外共に丁寧なミガキが施されている。345は口唇部にキザミを巡らせ以下口縁部には刺し突文を施した細い紐線を巡らせる。

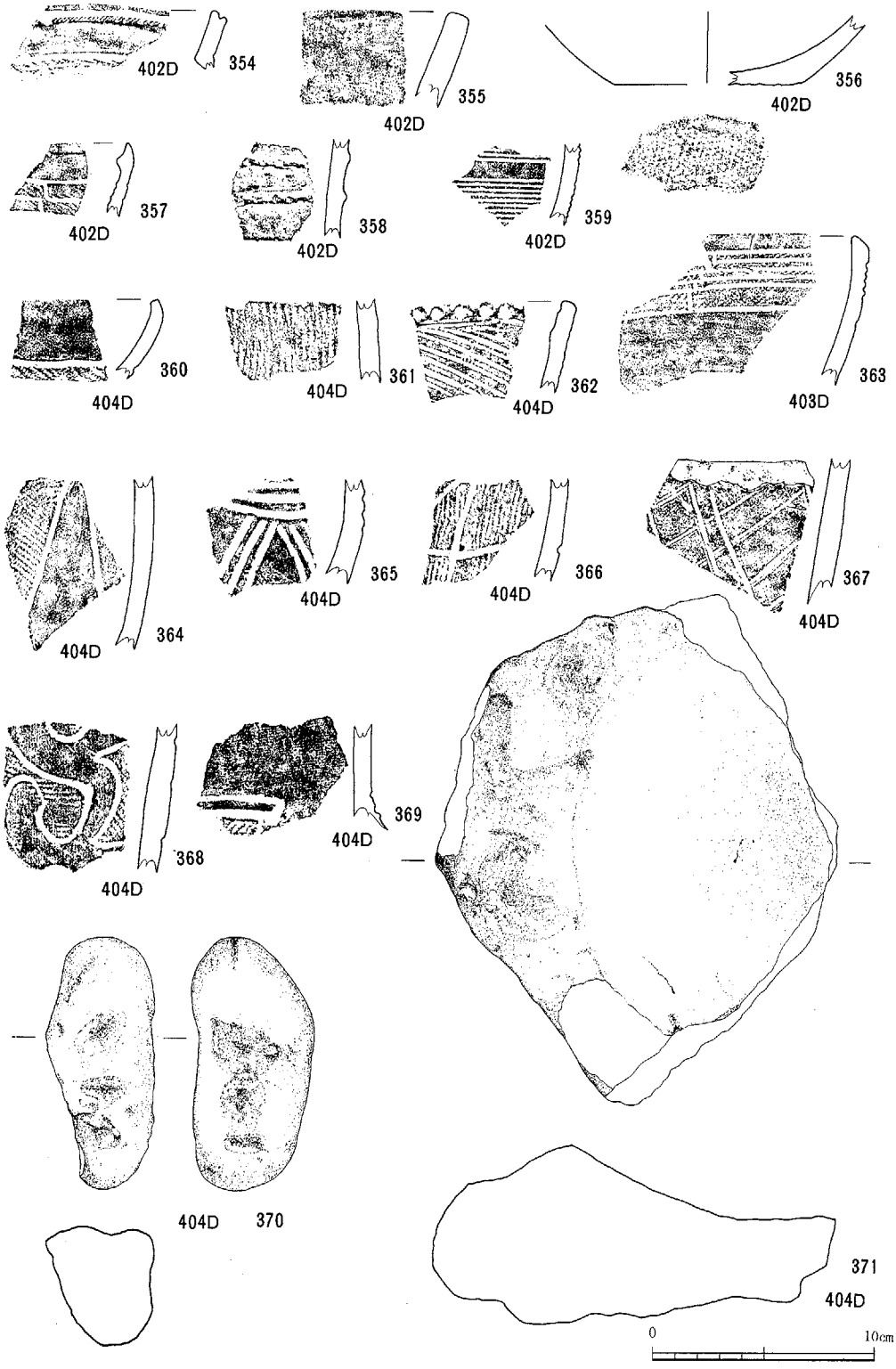
346、347は396号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器の破片である。346は垂下沈線を施す。347は単節LRの磨消し縄文を施し、平行沈線で区画する。

348～350は398号土坑の覆土中より出土した。348は凹石である。一部欠損する。石材は安山岩である。敲打による凹み穴は2面で計3ヶ所に認められる。残存長さ9.1cm、幅8.8cm、厚さ4.6cm。

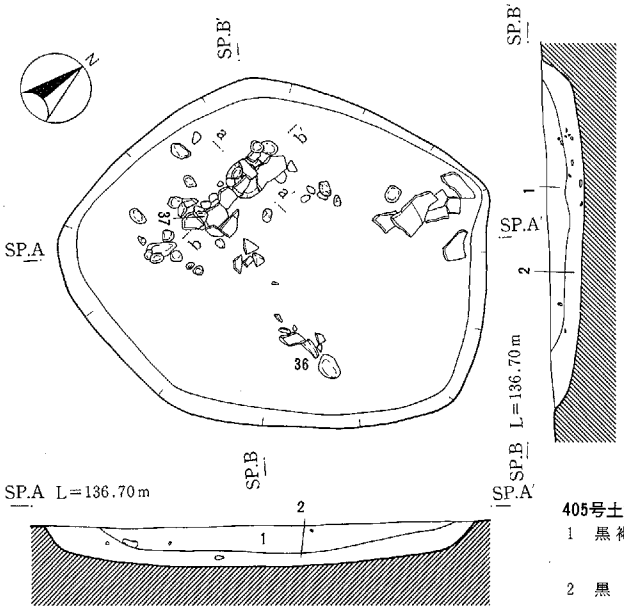
351～360は402号土坑の覆土中より出土した。深鉢形土器の破片である。351は単節LR縄文を施し、縦位に磨消し無文帯を構成する。352、353は口縁部に刺突文を施した細い紐線を2重に巡らせ間に8の字のボタン状の貼り付を施す。さらに353は以下沈線による区画文の中に単節LRの磨消し縄文を充填する。354は口唇部に沈線を巡らせ、隆起した部分に単節LRの細縄文を充填する。355は無文の粗製土器である。器面はヘラケズリのちナデで調整されている。357は平行沈線を縦位の沈線で段状の区画を施す。区画文の中には単節LR縄文を充填する。358は刺突文を施した細い紐線を2重に巡らせる。359は細かい多条の沈線を施す。360は浅鉢形土器口縁部の破片である。体部に横位の沈線で区画し、単節RL縄文を充填する。

361～371は404号土坑より出土した。361～369は深鉢形土器の破片である。361は縦位の単節LR縄文を施文する。362は口縁部に指頭圧痕を巡らせ、以下に斜行沈線を施す。363は平行沈線を縦位の沈線で段状の区画を施す。区画文の中には単節LRの細縄文を充填する。364は沈線による区画文の中に単節RL縄文を充填する。365は沈線による区画文の中に単節RL縄文を施す。367は単節LRの細縄文を縦位と横位の沈線で区切る。368は櫛歯状の沈線を斜位に施す。

369は沈線による区画文の中に縦位の単節LR縄文を充填する。370は沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填する。371は凹石である。石材は安山岩である。一部分欠損する。敲打による凹みが2面に7ヶ所認められる。長さ11.1cm、幅4.8cm、厚さ4.9cm。371は石皿の破片である。石材は安山岩である。かなり使い込まれている。残存長23.1cm、幅19.0cm、厚さ8.0cm。



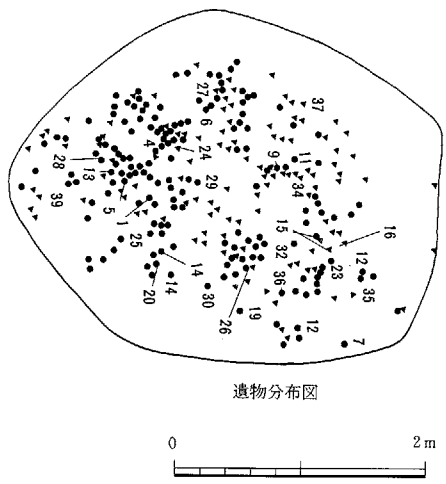
第220図　縄文時代土坑出土遺物（20）

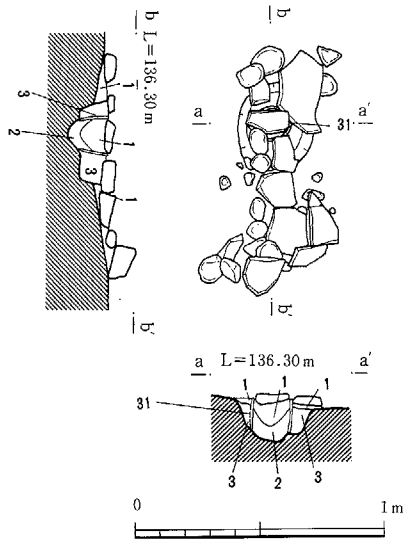


405号土坑

1　黒褐色土　白色の軽石粒細く多量含む。土器片、石器多量に含む。褐色砂質土ブロック状に少量含む。しまり強、粘性弱。

2　黒　色　土　褐色砂質土。ブロック状φ10㎜～20㎜多量含む。白色軽石粒細かく少量含む。





埋甕

1　黒　色　土　砂粒少量、しまり強、粘性弱。

2　黒　色　土　砂粒微量、しまり強、粘性弱。

3　灰色砂質土　褐色砂質土混入、しまり強(埋土)。

第221図　405号土坑

405号土坑（第222図　図版68、土坑一覧表15）

本址は床面より敷石の検出がみられ、発掘調査途中の段階では敷石住居址の可能性が考えられた。しかし、柱穴と炉址の検出が見られなかった為、土坑として取り扱った。尚、表だけでは説明不足のため、本項を使って説明を行う。部分的に表と重複するが御了承願いたい。

／位置　W－13、X－13グリッド／形態　平面は楕円形、断面は鍋底形を呈する。

／主軸方向　N－5°－E／規模　上幅69cm×60cm、下幅52cm×43cm（東西×南北）、深さ24cm～36cm。／床　床面より敷石状の組石が2箇所に別れて検出されている。他の箇所は石が移動したかのように散乱している。規模（最大幅）は東寄りのもの、長軸78cm、短軸21cm。西寄りのもの、長軸99cm、短軸58cm。敷石の下より埋甕（埋設土器）が検出された。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土と黒色土の2層に分層される。

遺物の出土状況

覆土中より土器片、石器が多量に出土した。また、敷石下より埋甕が1点出土した。実測遺物点数39点。

検出された遺物（第223～225図　図版69、70）

覆土中より多量に出土しているが紙面に限りがあるため代表的になものを掲載した。

1～33は深鉢形土器の破片である。

1は口縁部に平行沈線を施され以下を沈線による区画文を施文される。覆土第1層より出土した。

2は口縁部に指頭圧痕を施される。覆土第1層の出土である。

3は口縁部に把手を貼付し表裏に沈線文を施される。覆土第1層の出土である。

4は口縁部に沈線による区画文を施し、中に単節LR縄文を充填される。床直上より出土した。

5は口縁部に沈線を施され以下を単節LR縄文を施文される。覆土第1層より出土した。

6は沈線による区画文の中に単節LR縄文を施文する。床直上より出土した。

7は口縁部にボタン状の貼付を施され口縁部は無文帯を構成される。床直上より出土した。

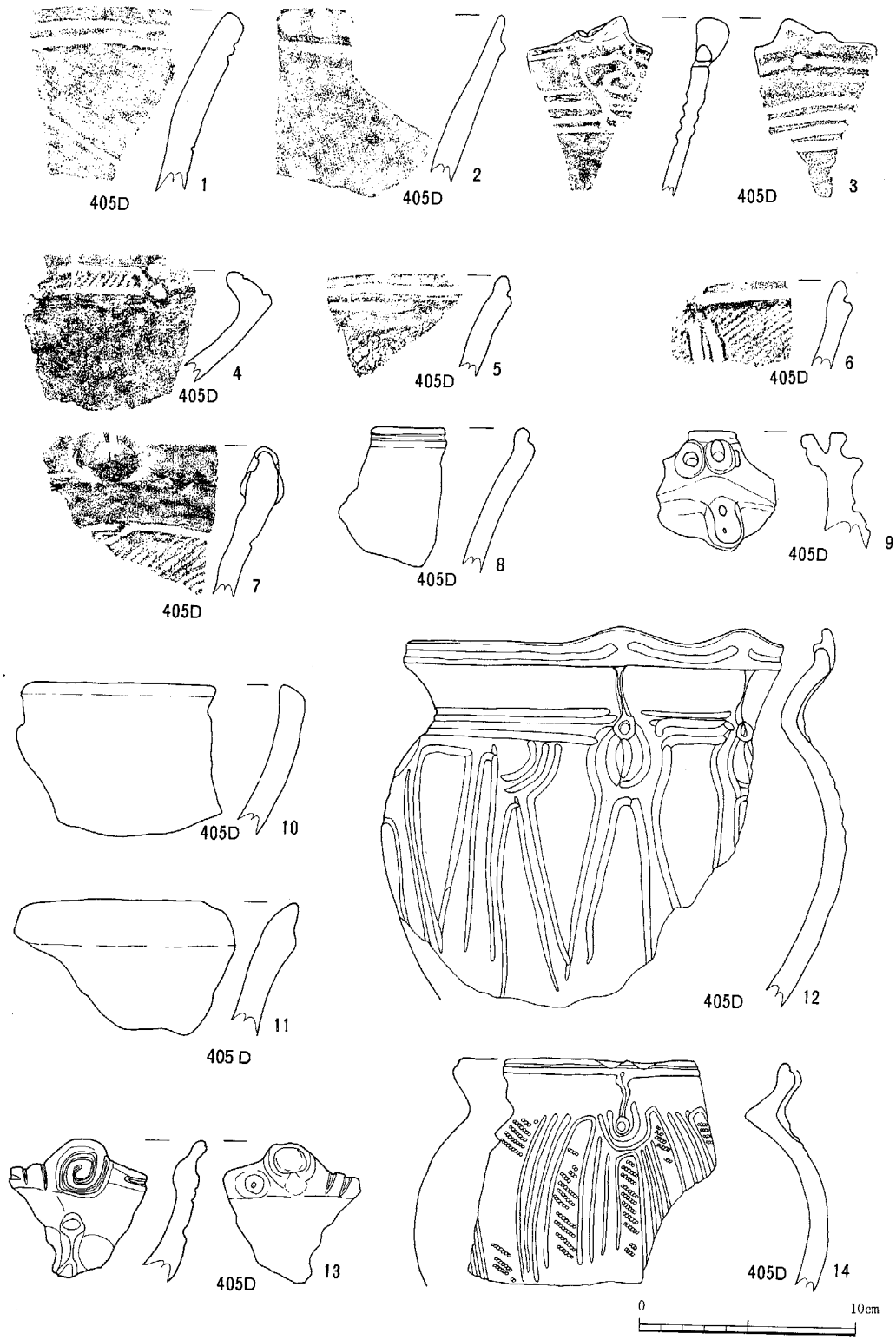
8は口縁部に沈線を巡らす。覆土第1層より出土した。

9はボタン状の貼付を2つ施されている。床直上より出土した。

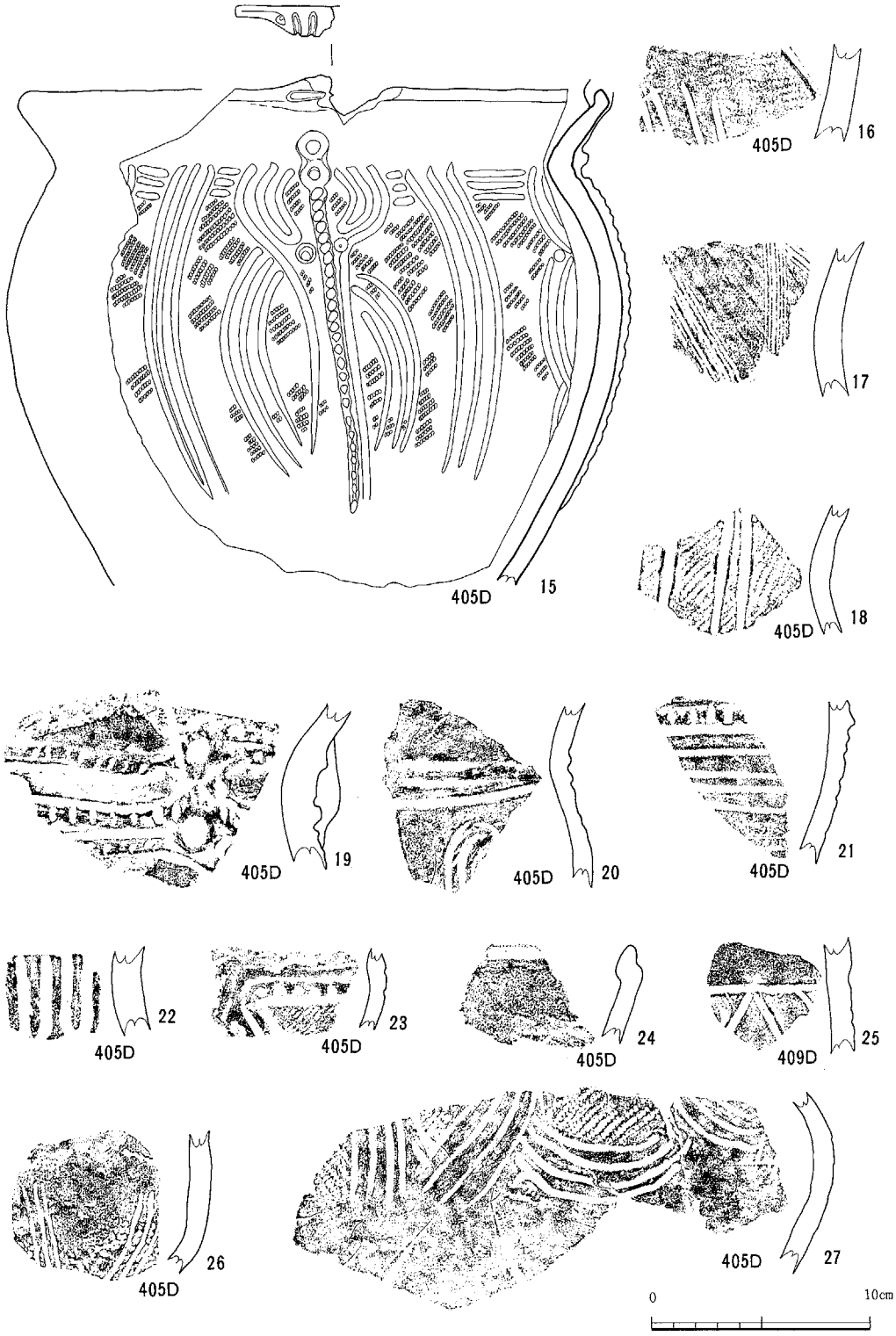
10、11は無文の粗製土器である。覆土第2層より出土した。

12、14は口縁部に沈線を巡らし、間隔をおいて粘土紐を巡らす。頸部にボタン状の貼り付を施され胴部は沈線による区画文を施される。さらに14は単節RLの磨消し縄文を施文される。12は床直上、14は覆土第1層より出土した。13は口縁部に渦巻き文を施された把手を貼り付する。覆土第1層より出土した。15は口縁部は16は沈線間を覆土第2層より出土した。

17は櫛歯状の沈線を施される。覆土第1層より出土した。18は沈線間に単節LR縄文を施文



第222図　405号土坑出土遺物（1）



第223図　405号土坑出土遺物（２）

する。覆土第1層より出土した。ボタン状の貼付を施され、以下を指頭を加えた粘土紐を貼付されるその紐線を中心に沈線文が構成され、間に単節LRの磨消し縄文が施文される。

19は沈線頸部にボタン状の貼付と平行沈線を施され、沈線間をキザミで充填される。覆土第1層より出土した。

20は沈線による区画文を施す。21は平行沈線間に刻みを施す。覆土第1層より出土した。

22は沈線による区画文を施されている。覆土第1層より出土した。

23は櫛歯状の沈線を施されている。覆土第1層より出土した。

24は口縁部に沈を巡らす。覆土第2層より出土した。

25は沈線文を施す。覆土第1層より出土した。

26は単節LRの磨消し縄文と多条沈線を施される。覆土第1層より出土した。

27は多条沈線間にLR縄文を充填させる。覆土第2層より出土した。

28は集合沈線間に縦位の単節LRの磨消し縄文を充填させる。覆土第1層より出土した。29は沈線による区画文を施される。床直上より出土した。

30は懸垂文を施し、間には単節LR縄文を充填する。覆土第1層より出土した。

31は敷石の下より検出された埋甕である。頸部に刺突文と平行沈線文を施される。

32は無文の粗製土器である。キャリパー形の深鉢形土器である。覆土第2層より出土した。

33は沈線による区画文の中に単節LR縄文を施文する。覆土第1層より出土した。

34は定角式磨製石斧の基部破片である。石材は玄武岩である。残存の長さ6.2cm、幅5.1cm、長さ3.0cm、重さ151g。床直上より出土した。

35は剥片石器である。側面を刃部として使用されている。石材は頁岩である。長さ7.6cm、幅4.6cm、厚さ1.6cm、重さ52g。床直上より出土した。

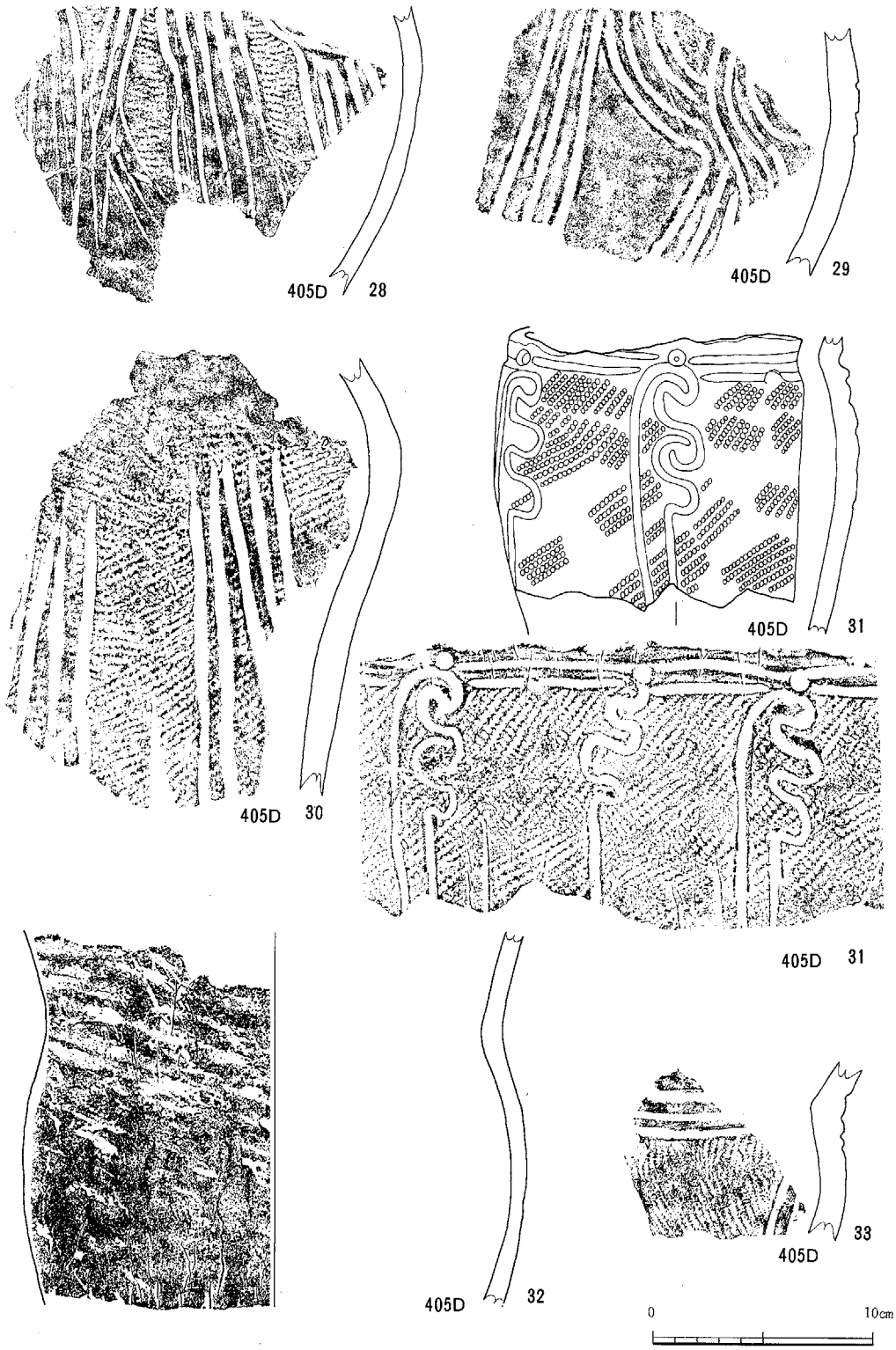
36は敷石として使用された石材の破片である。石材は安山岩である。残存の長さ15.9cm、幅7.7cm、厚さ2.9cm、重さ718g。

37～39は凹石である。石材は安山岩である。

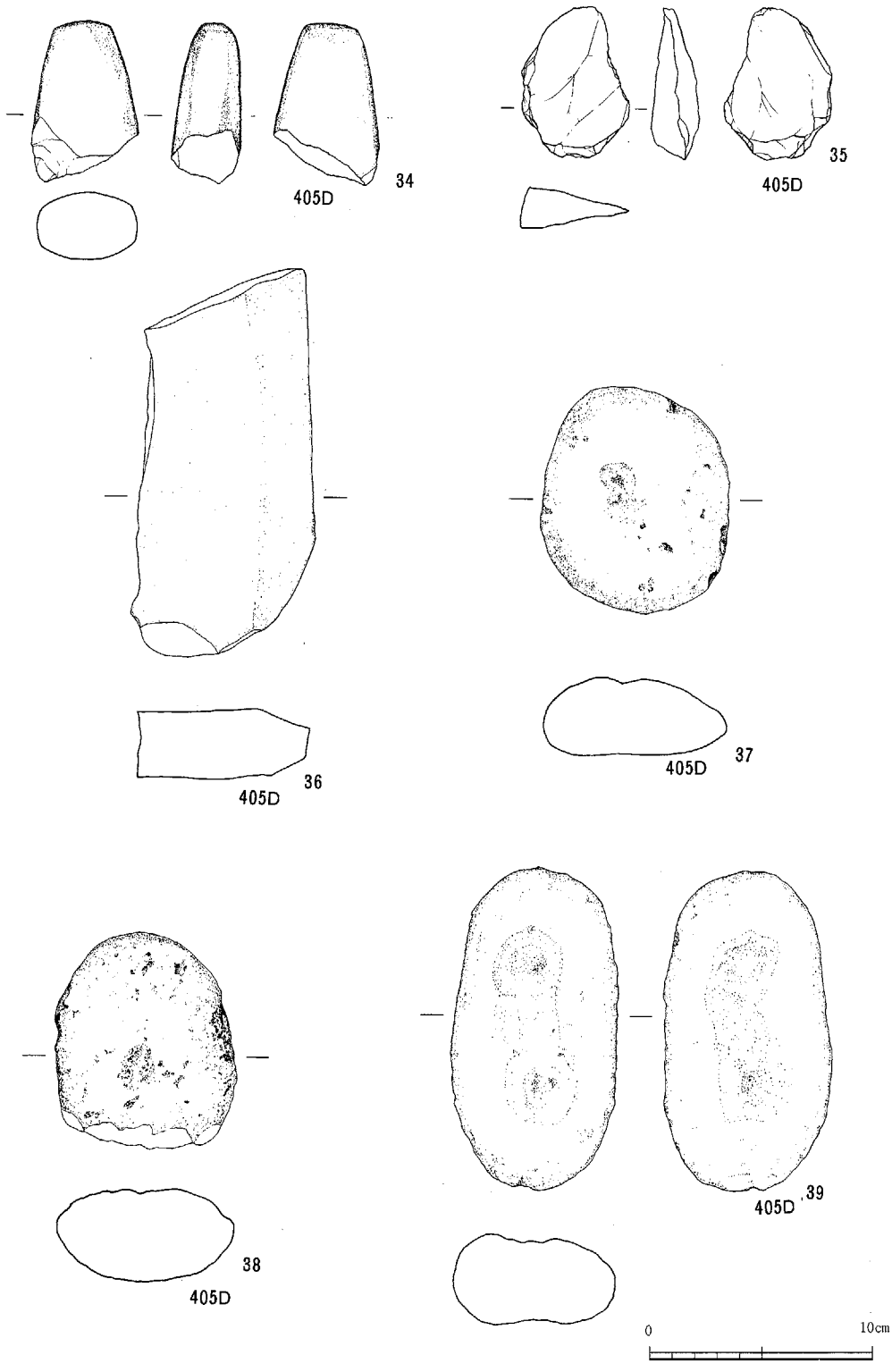
37は長さ9.9cm、幅8.1cm、厚さ3.1cm、重さ330g。敷石の上より出土した。

38は長さ9.5cm、幅7.8cm、厚さ4.1cm、重さ324g。覆土第1層より出土した。

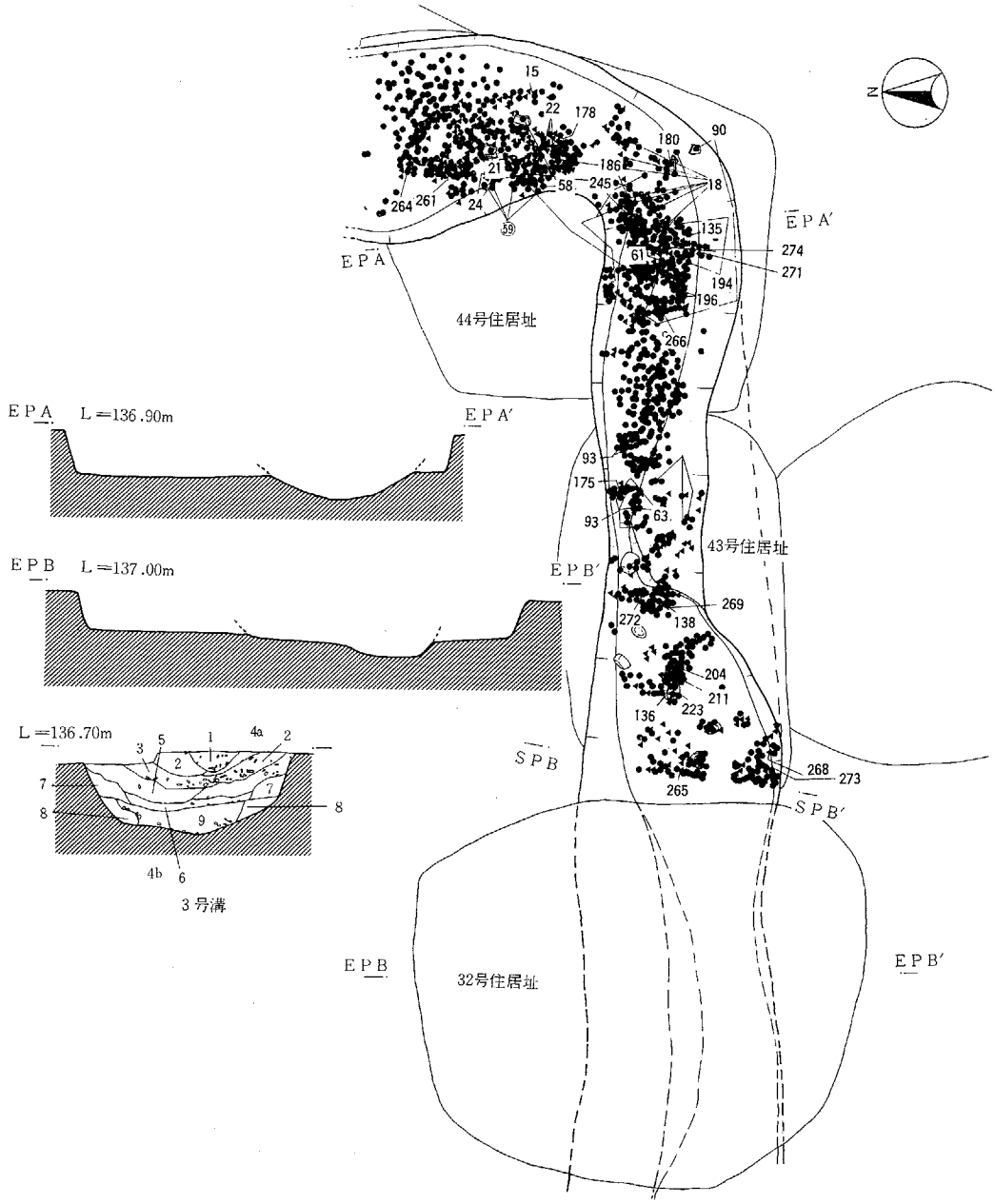
39は長さ14.2cm、幅7.2cm、厚さ3.7cm、重さ461g。覆土第1層より出土した。



第224図　405号土坑出土遺物（3）



第225図　405号土坑出土遺物（4）



3号溝土層説明

第1層	暗褐色土	遺物を多量に含む。
第2層	暗褐色土	遺物を多量に含む。
第3層	暗褐色土	遺物を多量に含む。
第4層	黒褐色	
第5層	黒褐色砂質土	
第6層	黒褐色土	
第7層	黒褐砂質土	
第8層	暗褐色砂質土	
第9層	暗褐色砂質土	遺物を多量含むとともに、白色の軽石粒を含んだ層である。

第226図　3　号　溝

7．溝（3号溝　第226図　図版72）

3号溝はV～X13～15グリッド内より検出された。北側と西側は調査区外へ延びる。本址は人為的に構築された溝でなく自然の河川址であるが、覆土中より多量の土器片や石器が出土しているのと、43、44号住居址を切り、また32号住居址に切られる時期的な問題があり、当時の河川の流路や、溝の埋没後の時期の解明の1資料として重要であると考えられるためこの頁で取り挙げた。

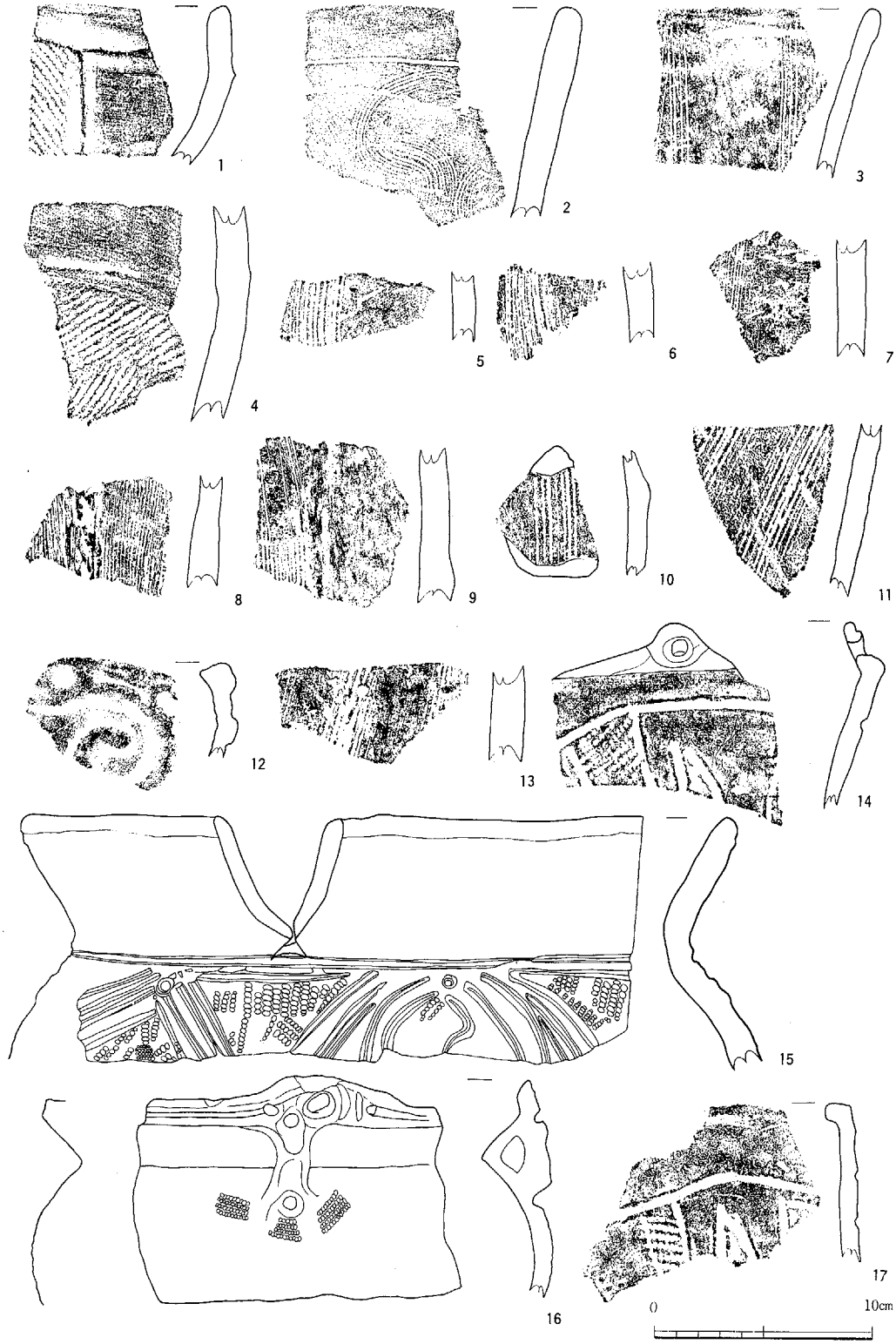
規模　検出部分長23.2m、幅2.2～3.2m深さは確認面より0.8m。北から西へと緩やかに傾斜する。

覆土の状況　自然堆積である。覆土中に多量に土器片を含む。特に3層より多量に含む。

検出された遺物（第226～259図　図版24、25、33、34）

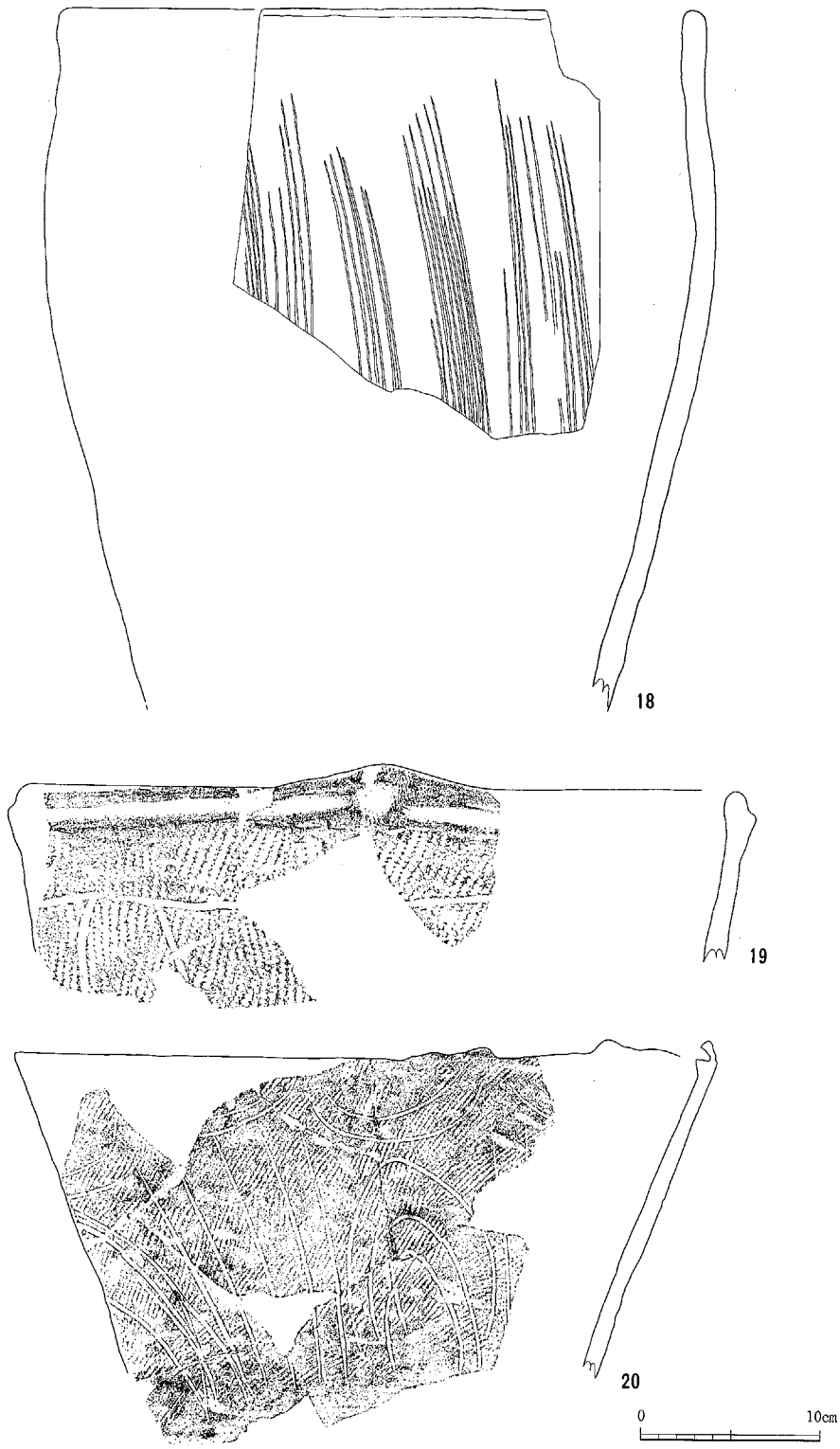
検出された遺物は称名寺2式から堀之内2式までの土器片が多量に出土した。大半が深鉢形土器の破片である。その他、浅鉢形土器、注口土器の破片が若干出土した。また、土器片に比べると数が少ないが石器が出土した。掲載順は版組の関係上、土器は時期的に前後する部分があるが御了承戴きたい。また、紙面に限りがあるため覆土第3層中より出土したもの以外について出土層位を明記した。

1、4は深鉢形土器の破片である。口縁部に隆帯を巡らし、以下を1は単節RL、覆土第1層より出土した。単節LRで施文する。覆土第2層より出土した。2は口縁部に沈線を巡らし無文帯を構成する。以下を弧状に櫛歯状の沈線を施される。懸垂文を施される。3、5～11、13は深鉢形土器の破片である。覆土第1層中より出土した。3、5～11、13は櫛歯状の沈線を施される。12は刺突文と渦巻き文を施されている。13は14は沈線による区画文の中に縦位のRL縄文を施文される。15は頸部に沈線を巡らせ、間隔をおいて刺突を施される。胴部は沈線による条線で区画文を施し、単節LRの磨消し縄文を施文する。16は口縁部に沈線を巡らせ17は沈線による区画文の中に単節RL縄文を充填される。18は櫛歯状の沈線を施され、以下は単節LR縄文を施文し、沈線で区画される。19は口縁の波頂部に刺突文を施し口縁部に沈線文を巡らせる。20は単節LR縄文を施文し、弧状沈線、垂下沈線文の間にRL磨消縄文を施される。21は口縁の波頂部に刺突文を2ヶ所施し、間にはキザミを施す。胴部は多条沈線文の間に単節LR縄文充填する。器形はキャリパー形を呈する。22は口縁の波頂部に刺突文を2ヶ所ずつ施し、口縁部には沈線を巡らせる。胴部は多状沈線及び入組み文を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は暗褐色である。23は口縁部に指頭圧痕施す。胴部は入組み文を施す。24は頸部は間隔をおいて刺突を施し平行沈線を巡らせる。胴部は多条沈線と沈線による区画文を施し間は横位と縦位の単節LR縄文を充填する。25は波状口縁で口縁部に沈線を巡らせ区画の中には単節RL縄文を充填する。また、中央部には刺突文を施す。26は口縁部に指頭圧痕を巡らせ以下は櫛歯状の沈線を施される。27は沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填される。28は口縁部にボタン状の貼付を施し、沈線を巡らせる。胴部はLR縄文を施文される。把手を施文する。29は口縁部は縄文を30は沈線を巡らし、以下垂下沈線を施される。31は渦巻き文と平行沈線に



第227図　3号溝出土遺物（1）

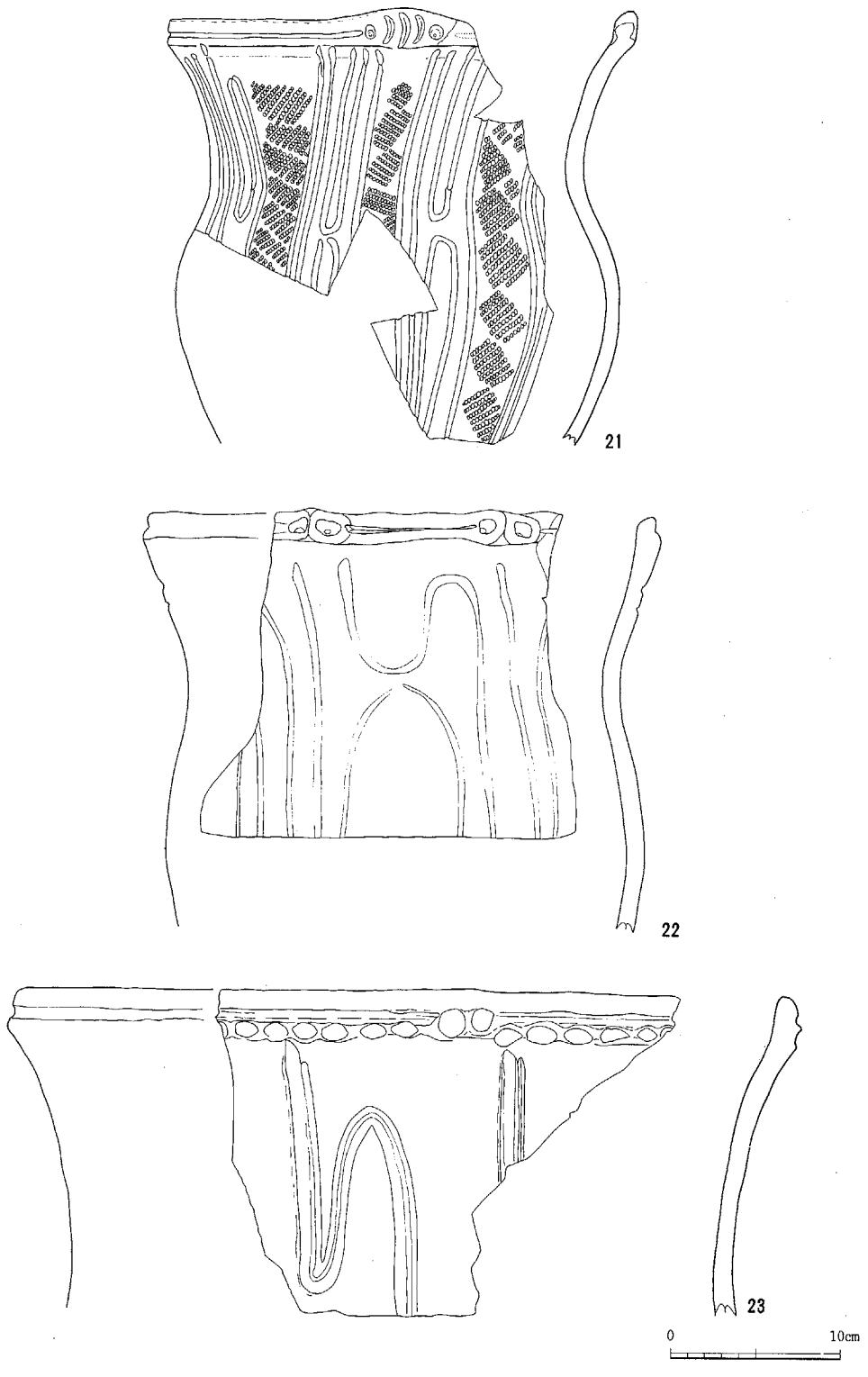
よる区画文を施し、単節LR縄文を施す。32は刺突文を施した紐線を垂下させ、沈線による区画文の中には単節RL縄文を充填する。33～35は沈線による区画文の中に縦位や横位の単節LR、RL縄文を充填する。56は沈線による区画文を施す。57は沈線による区画文の中に櫛歯状の工具による条線を充填する。58、59は口縁部の波頂部に刺突文を施し口縁部には沈線を巡らす。58は胴部に単節LRを地文とし、その上に沈線による区画文を施す。59は胴部に垂下沈線を施す。60は口縁の波頂部に刺突を施し口縁部には沈線を巡らせる。61は沈線による区画文の中に列点を充填する。62は口縁の波頂部に刺突を施し、胴部は沈線による区画文の中に列点を施す。63は深鉢形土器口縁部の破片である。波状口縁で波頂部に刺突文を施し口縁部には沈線を巡らす。64～89、94～100、104は沈線による区画文の中に列点を充填する。共に覆土第1層より出土した。91、113はボタン状の貼り付から刺突文を施された紐線を垂下する。114は口縁部に刺突文と沈線を巡らせる。頸部には8の字状の貼り付と平行沈線を巡らす。胴部には渦巻き文と平行沈線を施される。115、116は口縁部に平行沈線を巡らし中にキザミを充填させる。117は口縁部に沈線による区画文を施し以下刺突文を巡らせる。118は口縁の波頂部に刺突文を施し、その周囲をC字状の沈線を施す。さらに沈線刺突文を施す。119は口縁部に刺突文と沈線を巡らせる。波頂部には縦位の三条の条線を施す。120は口縁部に刺突を施された紐線を巡らせる。121は口縁の波頂部に刺突文を施し、以下刺突を巡らせる。胴部は沈線による区画文を施す。122はくの字状に外反する深鉢形土器口縁部の破片である。口縁部に沈線を巡らせ波頂部に刺突文を施す。123は刺突文を巡らせ胴部は沈線による区画文を施す。124は刺突文を施された紐線2条巡らせる。125は刺突文と沈線による区画文を施し、区画文の中には単節LR縄文を充填する。以下弧状沈線を施す。126は口縁の波頂部に刺突文と沈線文を施す。また、口縁部には沈線による区画文を施し、以下は刺突文を巡らせる。127は波頂部に縦位の沈線を施し、口縁部は沈線による区画文を巡らせ、中に刺突文を充填する。128は波頂部林ボタン状の貼付と中央には円孔をあける。口縁部は沈線文を巡らせる。器面は内面がナデ、外面がヘラケズリで施されている。129は口縁部に沈線文を施し、以下平行沈線文を巡らせ、刺突文を充填する。130は8の字状の貼り付を施し、刺突文と平行沈線文を施されている。131は8の字状の沈線を施し、以下沈線による区画文の中に列点を充填する。132は懸垂文を施し間には縦位に刺突文を充填させる。133は刺突文を施された紐線を垂下させる。間には刺突文を施す。134は胴部には刺突文を施された紐線を垂下させる。方形状の区画文の中に斜位の条線を施す。地文には単節LR縄文を施す。135は小形深鉢形土器である。口縁は波状口縁である。4単位の波頂部には円孔があく。胴部には貼り付文と沈線による区画文を施す。底部には若干網代痕が認められる。136は浅鉢形土器の破片である。口縁部に沈線による区画文をボタン状の貼り付を施し口縁部には沈線による区画文の中に刺突文を充填する。137は8の字状の貼り付を施し沈線を平行沈線文を施す。138は深鉢形土器の口縁部破片である。胴部には沈線文を施す。139は浅鉢形土器である。口縁部の破片である。横位と斜位の沈線で文様帯を構成される。140～173は深鉢形土器の破片である。140は口縁部に8キザミを施した紐線を巡らし、以下胴部には沈線による区画文



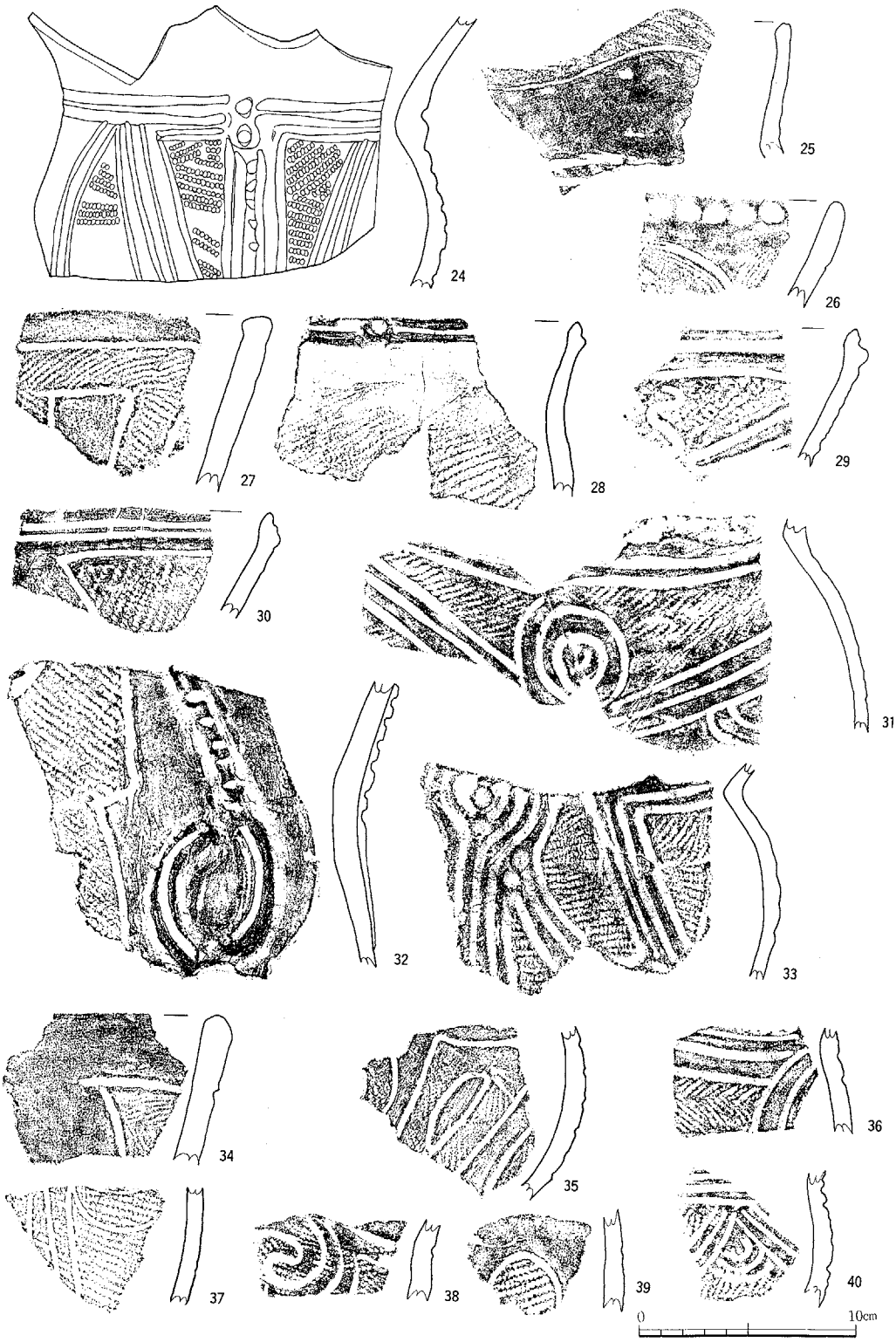
第228図　3号溝出土遺物（2）

の中にLR縄文を施文する。145は口縁部に沈線を巡らす。146は口縁の波頂部に刺突文を施す。胴部には沈線文を施す。146は口縁部に沈線文を巡らす。148は沈線による区画文を施す。149は口縁部に沈線文を巡らせる。胴部には条線による区画文を施す。150は口縁部に沈線文を巡らす。胴部は縦位と横位の条線で文様体を構成する。151、153は口縁部に平行沈線文を巡らす。152は口縁部に5条の平行沈線を施し、縦位の段状沈線で区画する。154は口縁部に平行沈線文を施す。155、156は口縁部に平行沈線を巡らす。胴部は沈線による文様を構成する。157～164は口縁部に沈線文を巡らす。さらに106～162、164は口辺部に平行沈線文を巡らす。以下161は沈線文を巡らし胴部との区画を施す。胴部は沈線による区画文を施す。163は胴部以下に単節LR縄文を施した後に多条沈線を施す。166は波状口縁である。167は波状口縁の破片である。口縁部に平行沈線を施す。168は口縁部に刺突文と平行沈線を施す。169は刺突文と横位沈線文、半円弧状沈線文、下垂沈線文等で文様を構成されている。170は口縁部には中心孔入円文と弧状連続文を施し、横位の沈線文を巡らせる。171は口縁部に8の字状の貼付を施し、3条の横位の沈線文を施す。172は口縁部には平行沈線文の中に列点文を施す。波頂部にはボタン状の貼り付を施す。173は波頂部に刺突文を施す。口縁部と胴部を横位の沈線で区画し、胴部は連続S字状の沈線を施す。174は中心孔入円文を施し、弧状沈線がこれを囲む。両端にボタン状貼り付文を施す。平行沈線と渦巻き状沈線文で文様体を構成する。175は器形はキャリパー形を呈する。ほぼ完形に近い。口縁部は指頭圧痕を施す。胴部は沈線による区画文を上半に施し下半は無文帯を構成する。器面は内外共に丁寧なミガキが施されている。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は暗褐色である。176は沈線平行沈線文と刺突文を施す。177～193は沈線による区画文を施す。234～238は注口土器注口部の破片である。共に器面は丁寧なミガキが施されている。194は沈線を横位と斜位に施し、格子目状の文様を構成する。195は4単位の把手が付く浅鉢形土器口縁部の破片である。把手部分は破片の状況から円孔があくものと思われる。196～200は櫛歯状工具による沈線文を施す。201～203は綾杉状沈線を施す。204～211は無文の粗製土器である。211は底に網代痕が若干認められる。213～229は把手の付く深鉢形土器の破片である。212、230～232は浅鉢形土器口縁の波頂部破片である。波頂部には円孔があく。230は口縁部に沈線による区画文を施し単節LRの磨消し縄文を充填する。231は波頂部に円孔を囲むようにC字状の沈線を施す。口縁部には区画文を施す。233は深鉢形土器の口縁部破片である。波状口縁を呈し、波頂部には刺突文が施される。口縁部には沈線文が施される。234～238は注口土器の注口の破片である。240～248は深鉢形土器底部の破片である。241～243は底に網代痕がある。器面は内外共に丁寧なミガキが施されている。249は手づくね土器である。口径6.1cm、器高5.7cm、底径3.9cm。

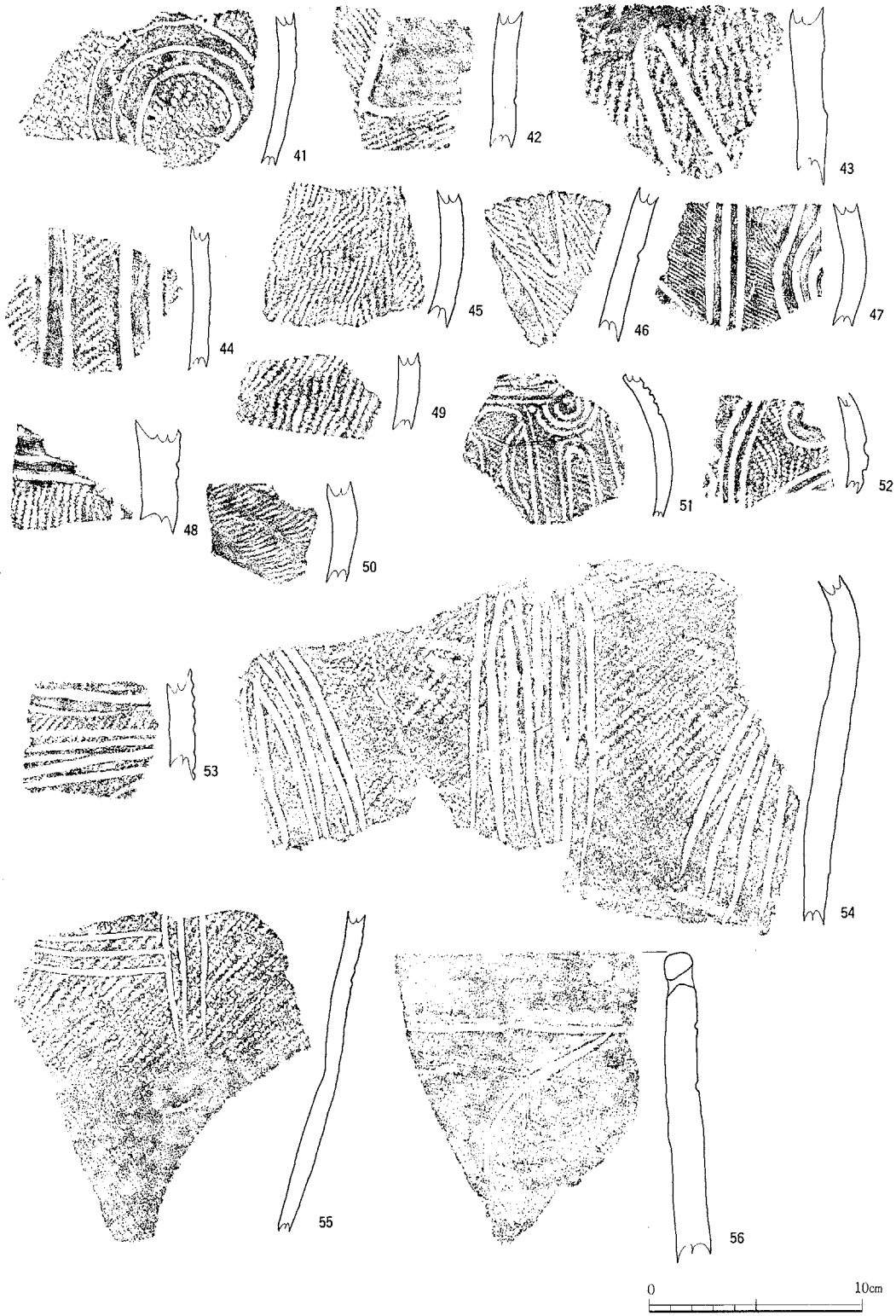
250、251、254～256は分銅形の打製石斧である。250は長さ11.9cm、幅7.6cm、厚さ2.3cm、重さ309g。石材は頁岩である。251は長さ8.4cm、幅6.8cm、重さ90g。剥片の一部調整してい



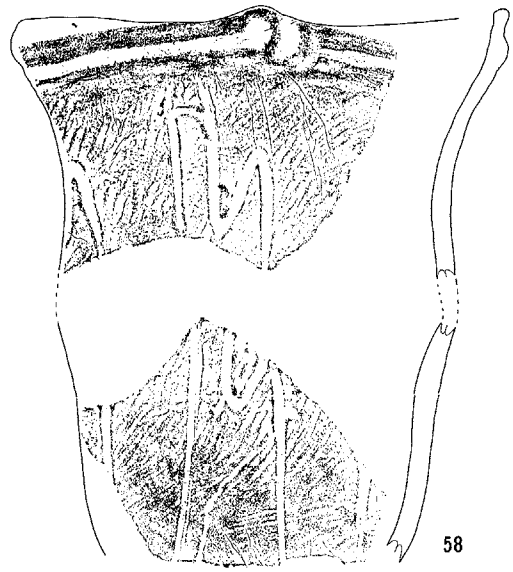
第229図　3号溝出土遺物（3）

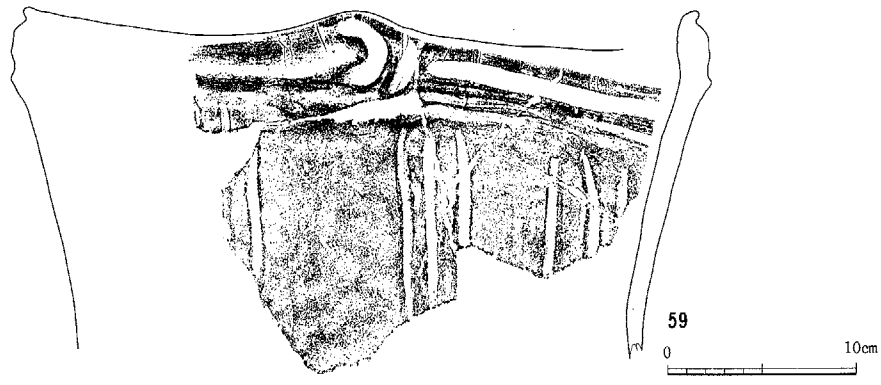


第230図　3号溝出土遺物（4）

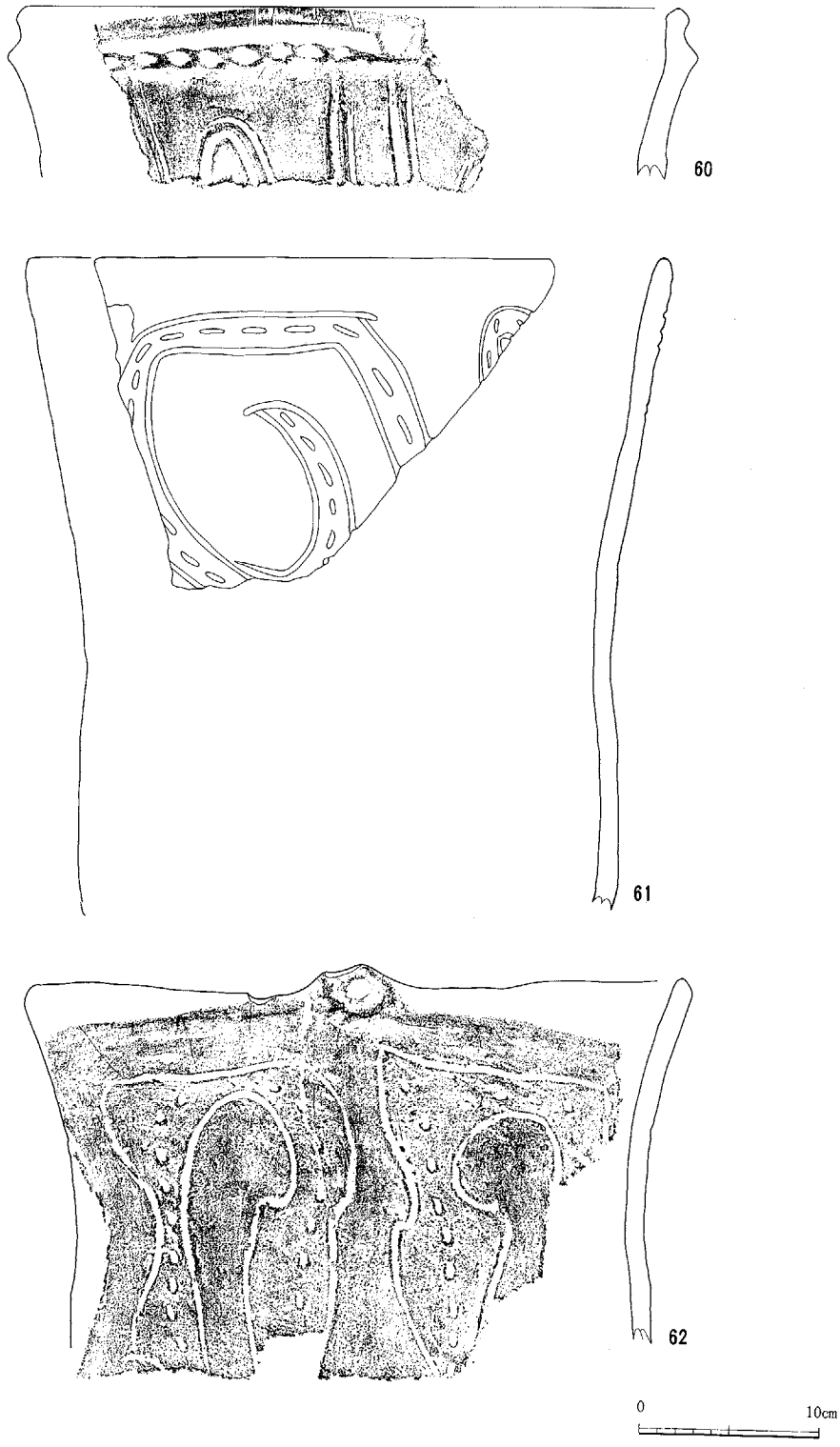


第231図　3号溝出土遺物（5）

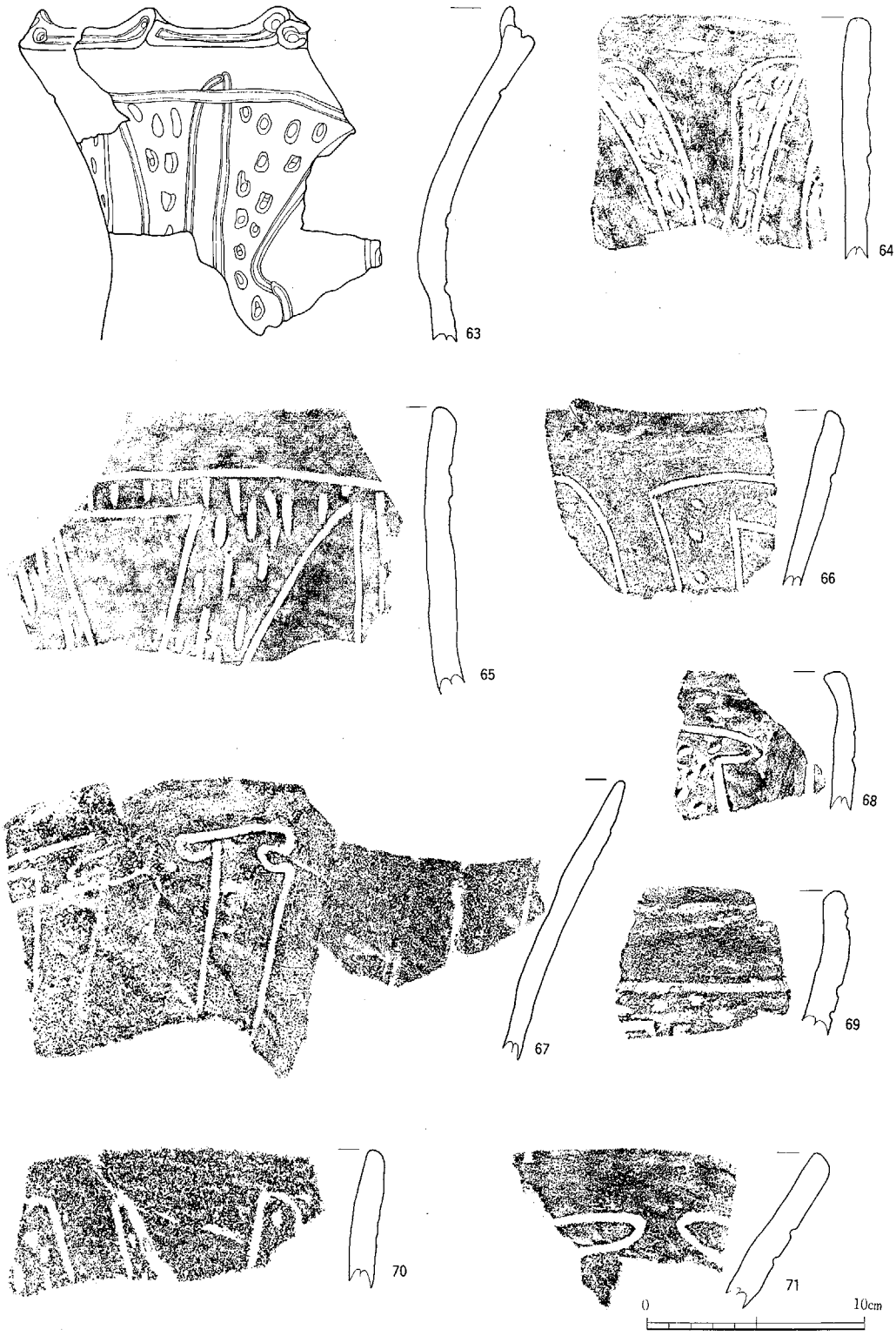




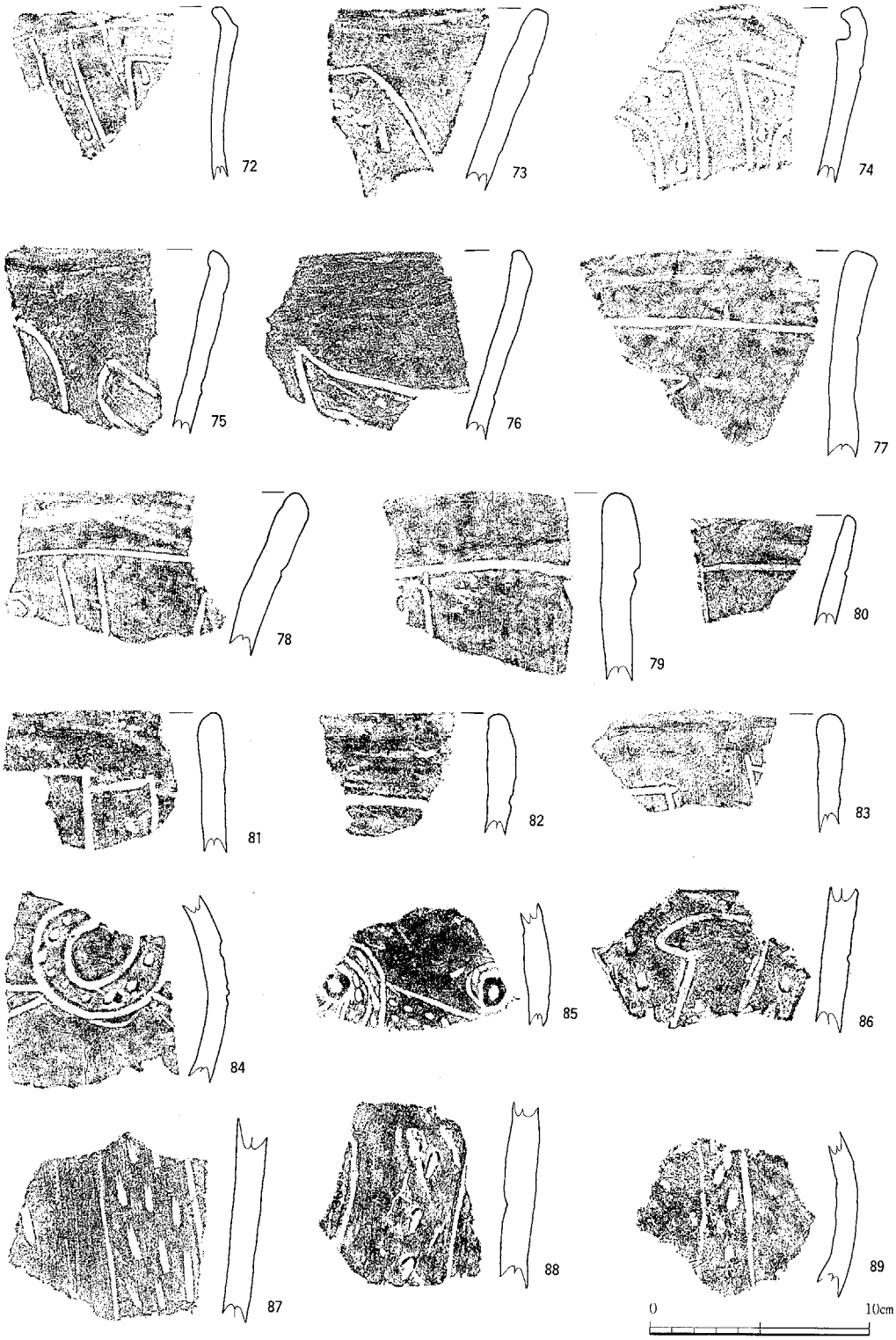
第232図　3号溝出土遺物（6）



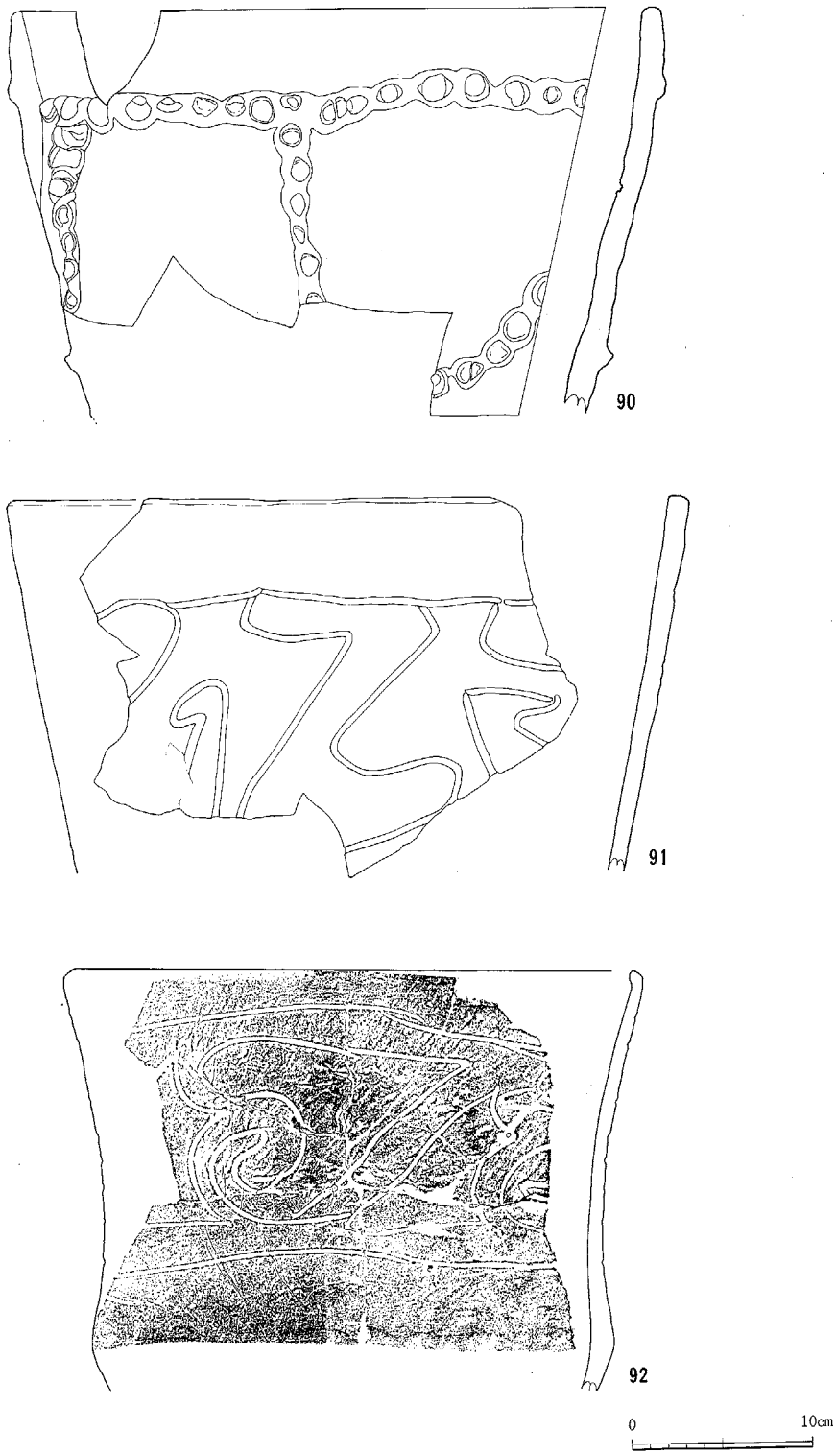
第233図　3号溝出土遺物（7）



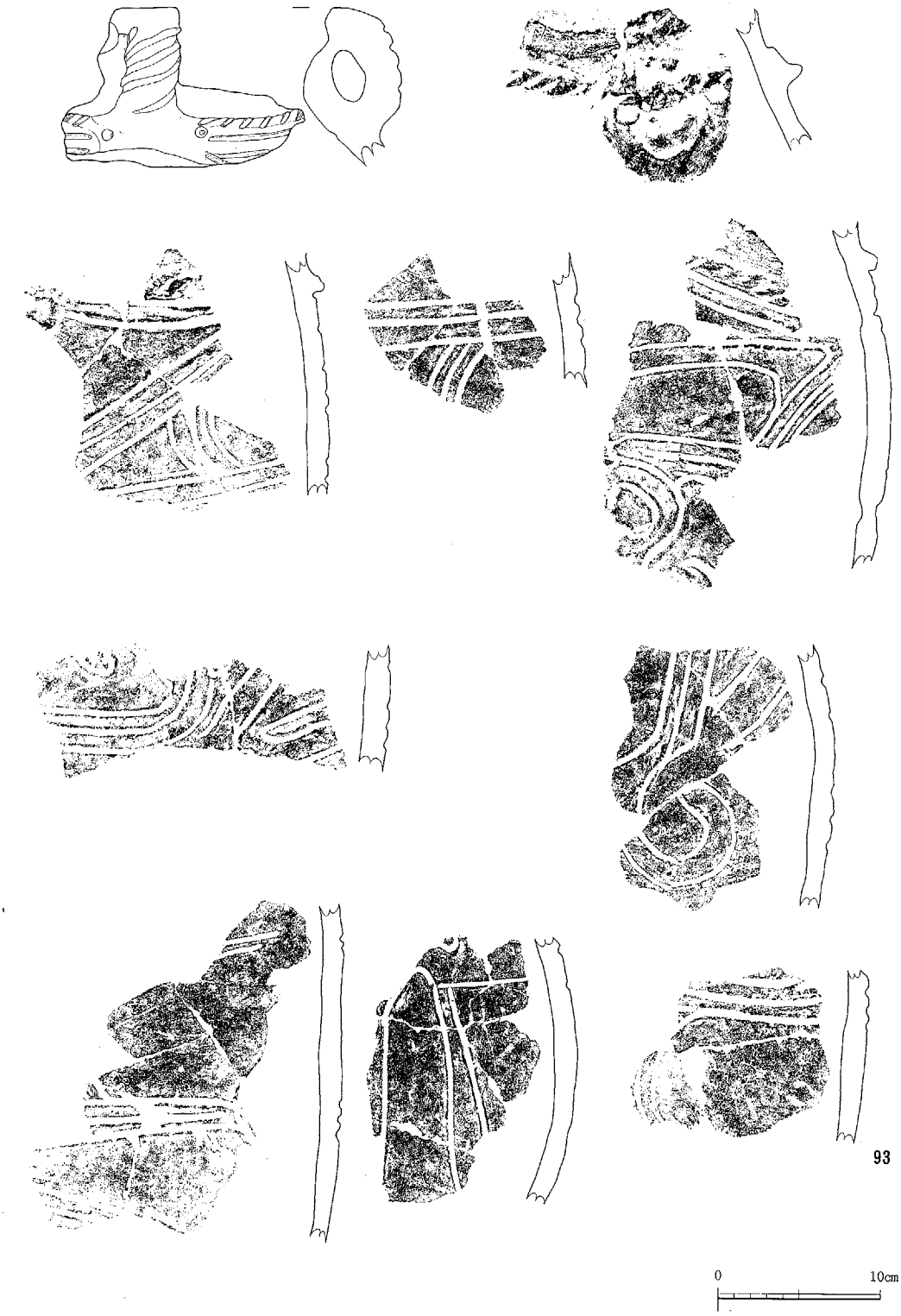
第234図　3号溝出土遺物（8）



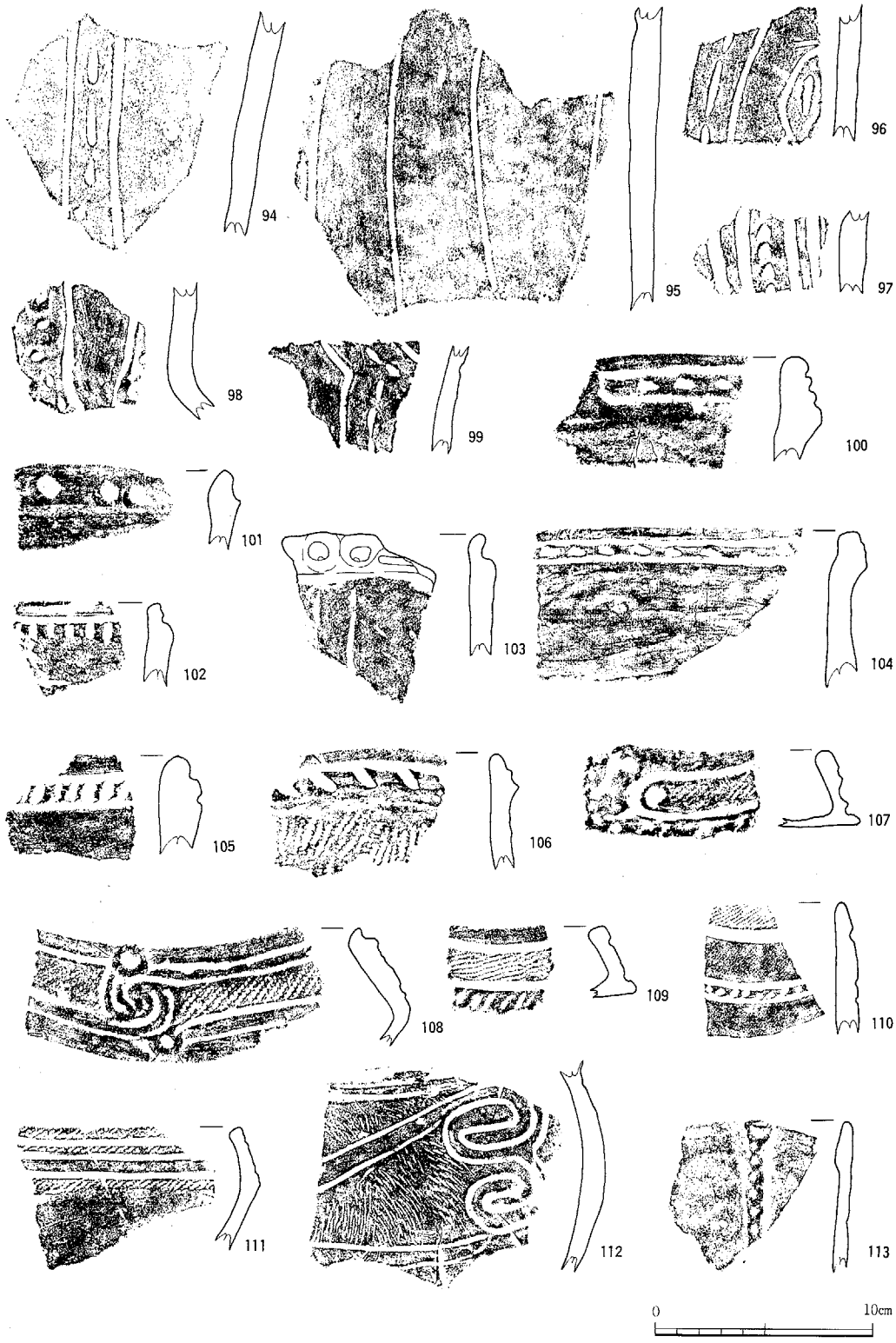
第235図　3号溝出土遺物（9）



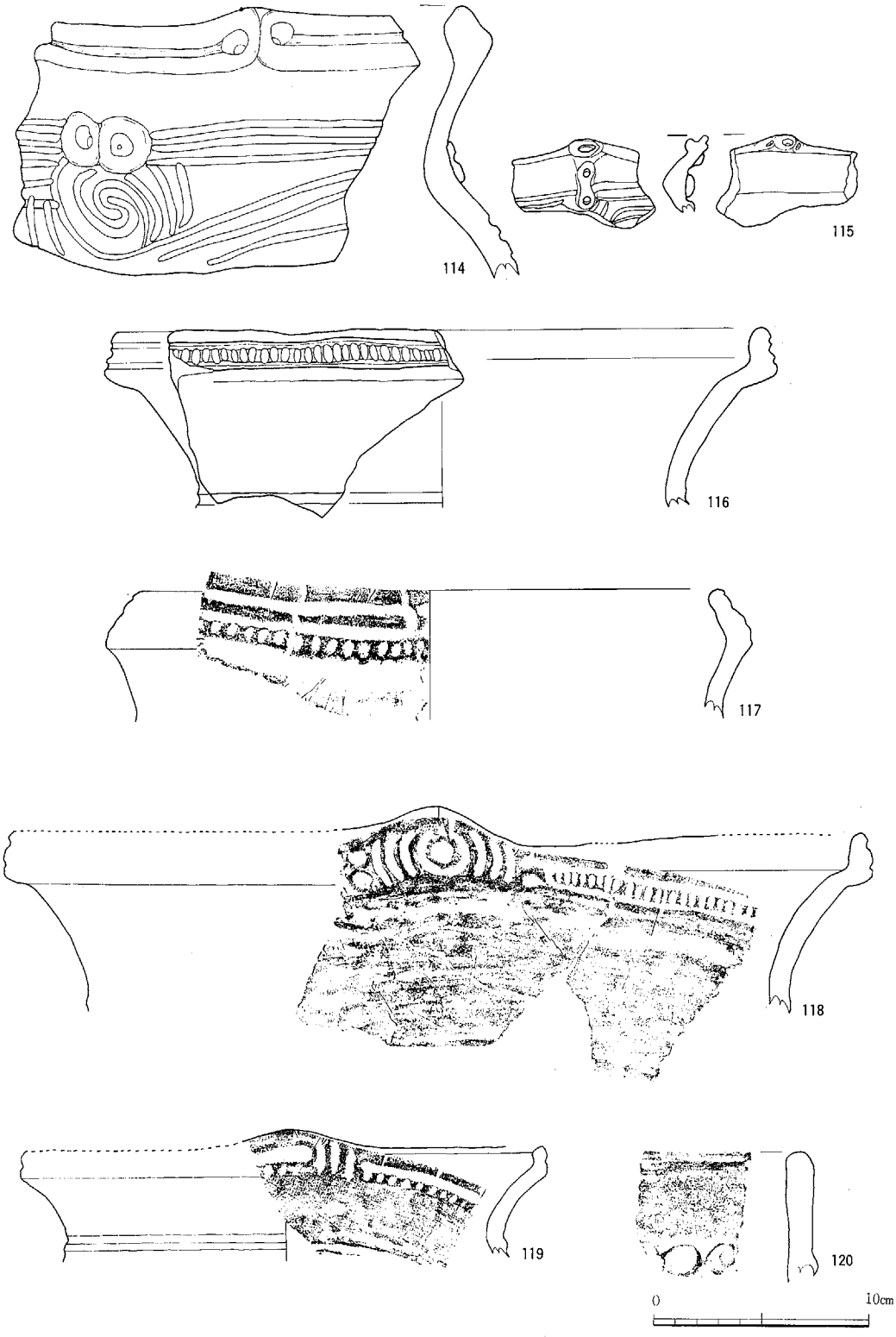
第236図　3号溝出土遺物（10）



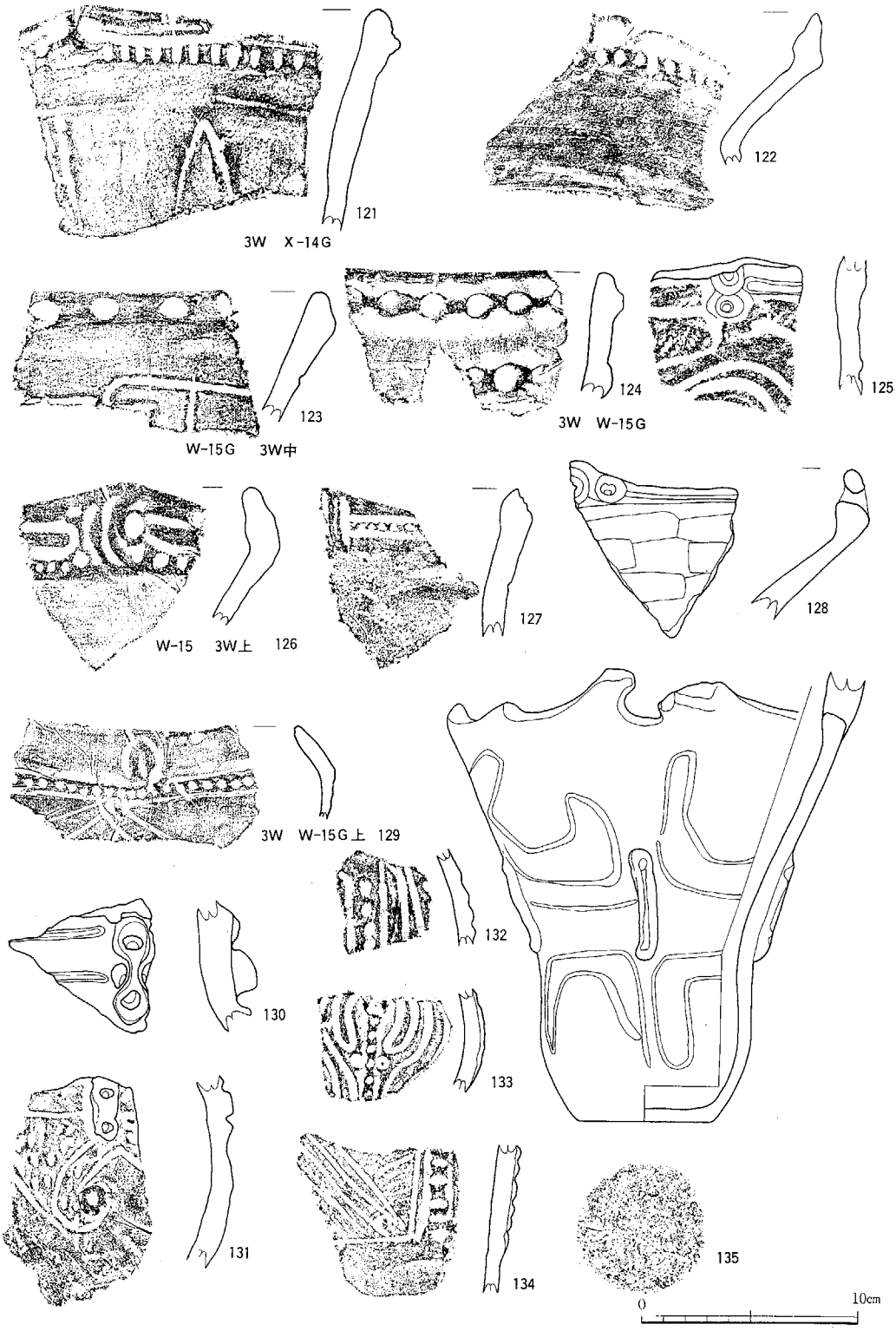
第237図　3号溝出土遺物（11）



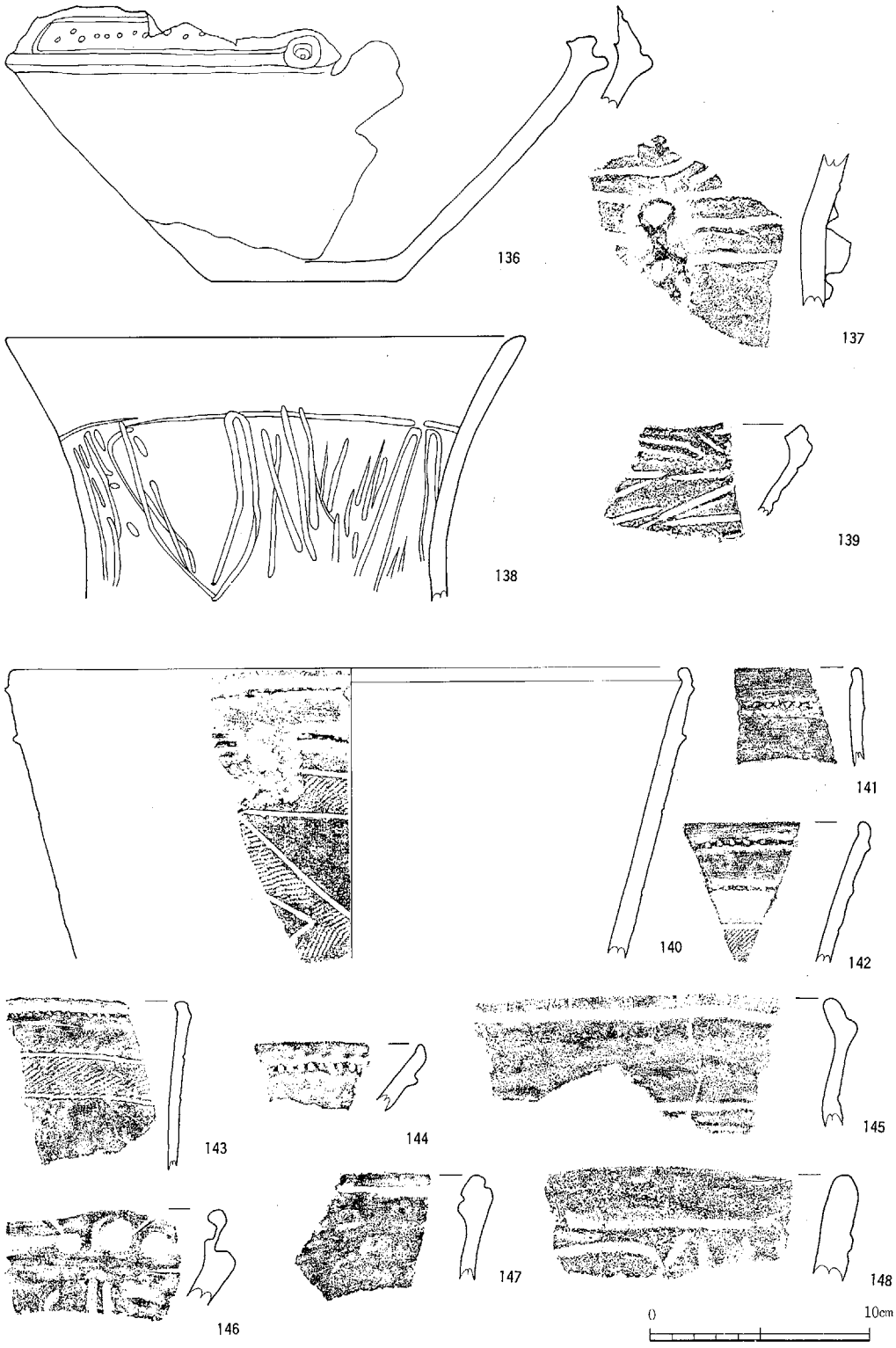
第238図　3号溝出土遺物（12）



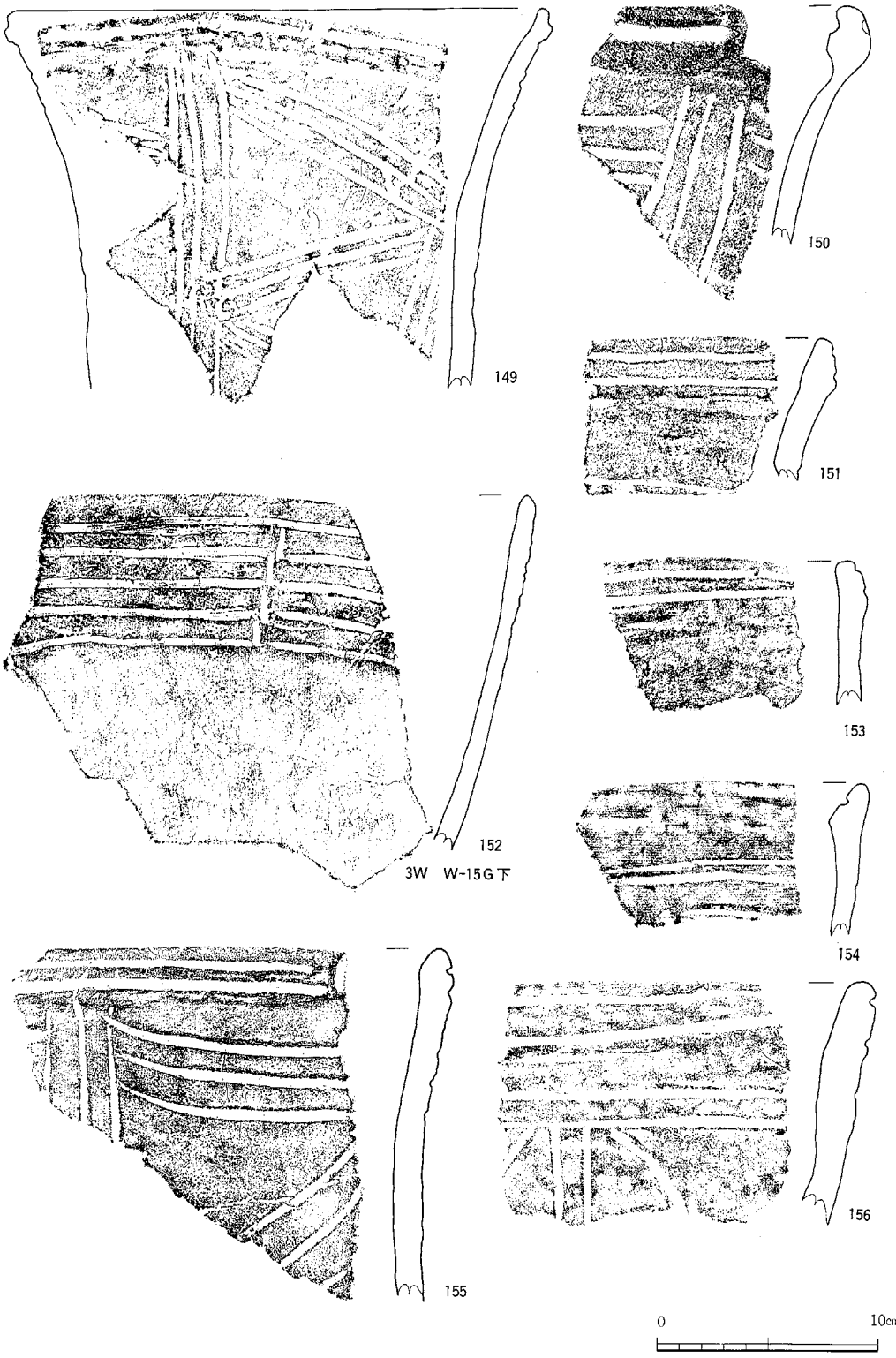
第239図　3号溝出土遺物（13）



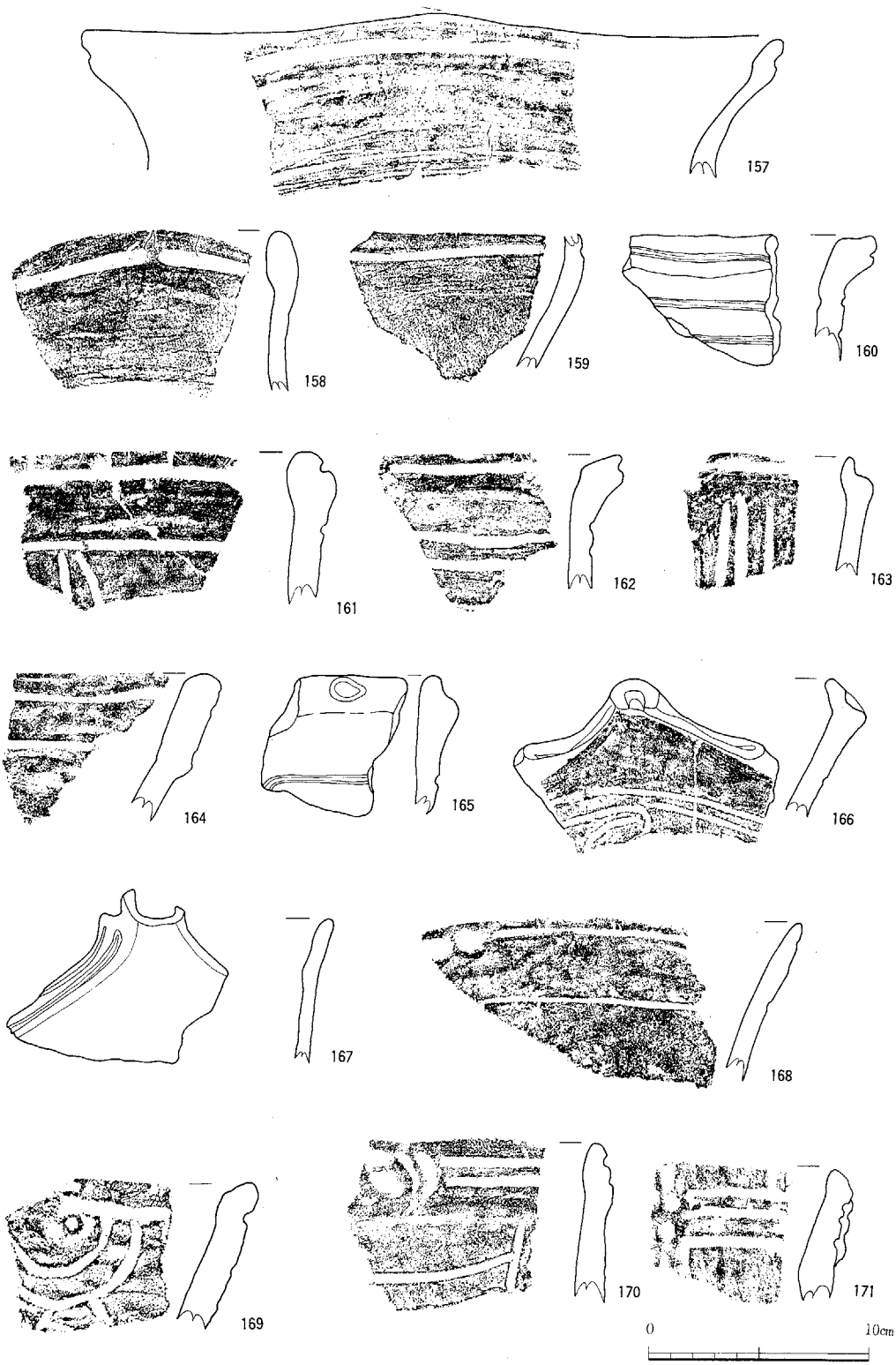
第240図　3号溝出土遺物（14）



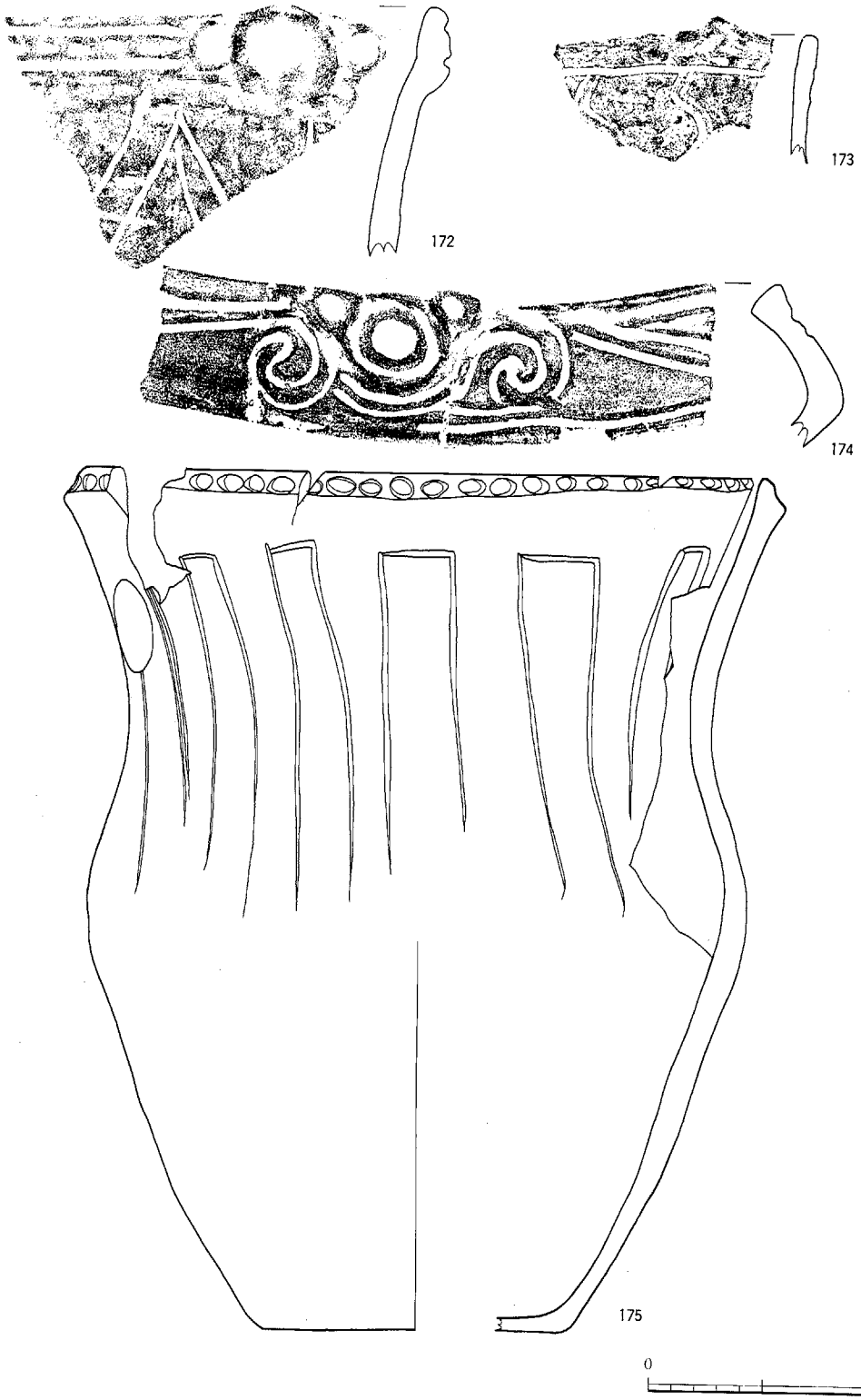
第241図　3号溝出土遺物（15）



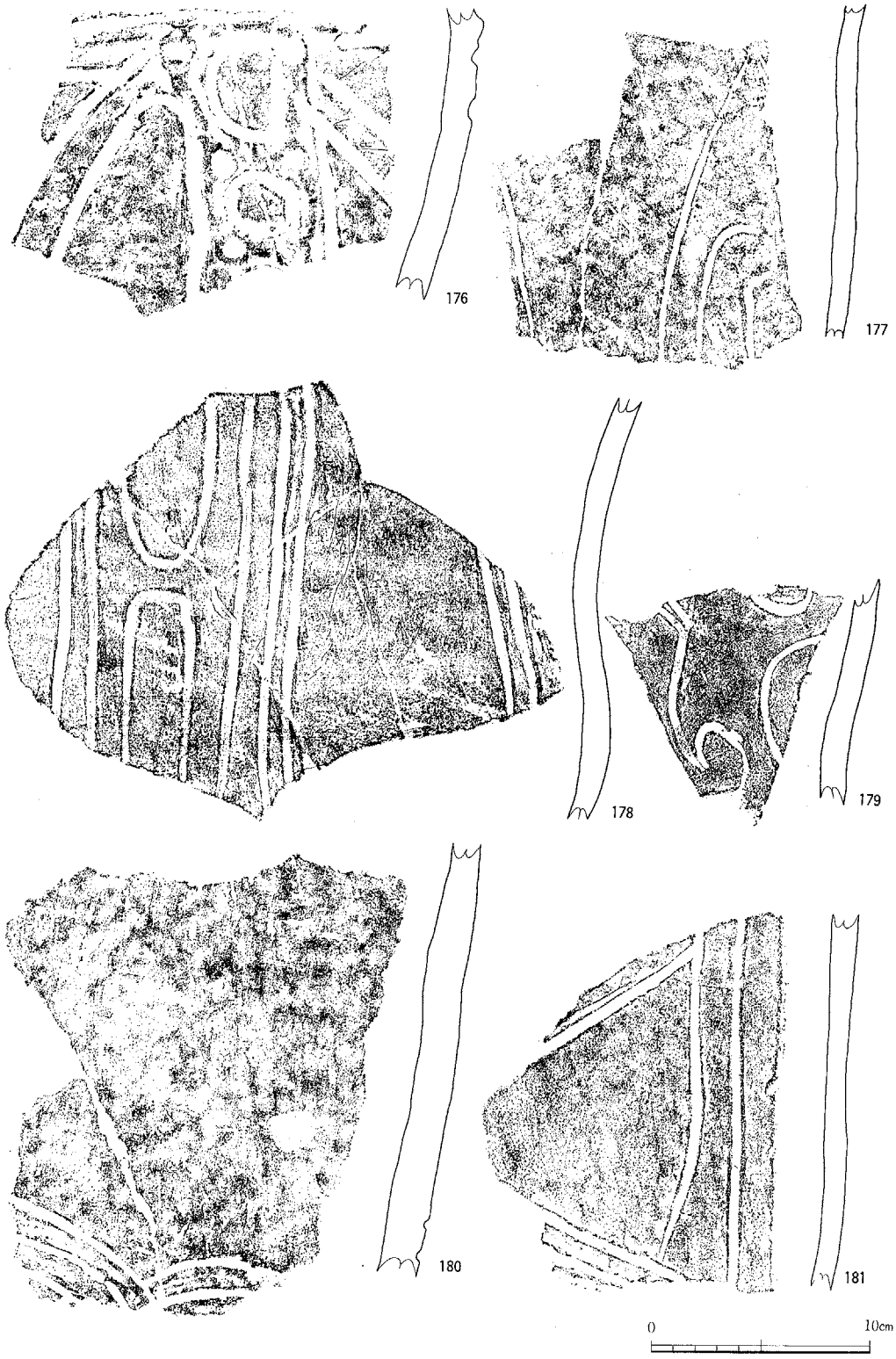
第242図　3号溝出土遺物（16）



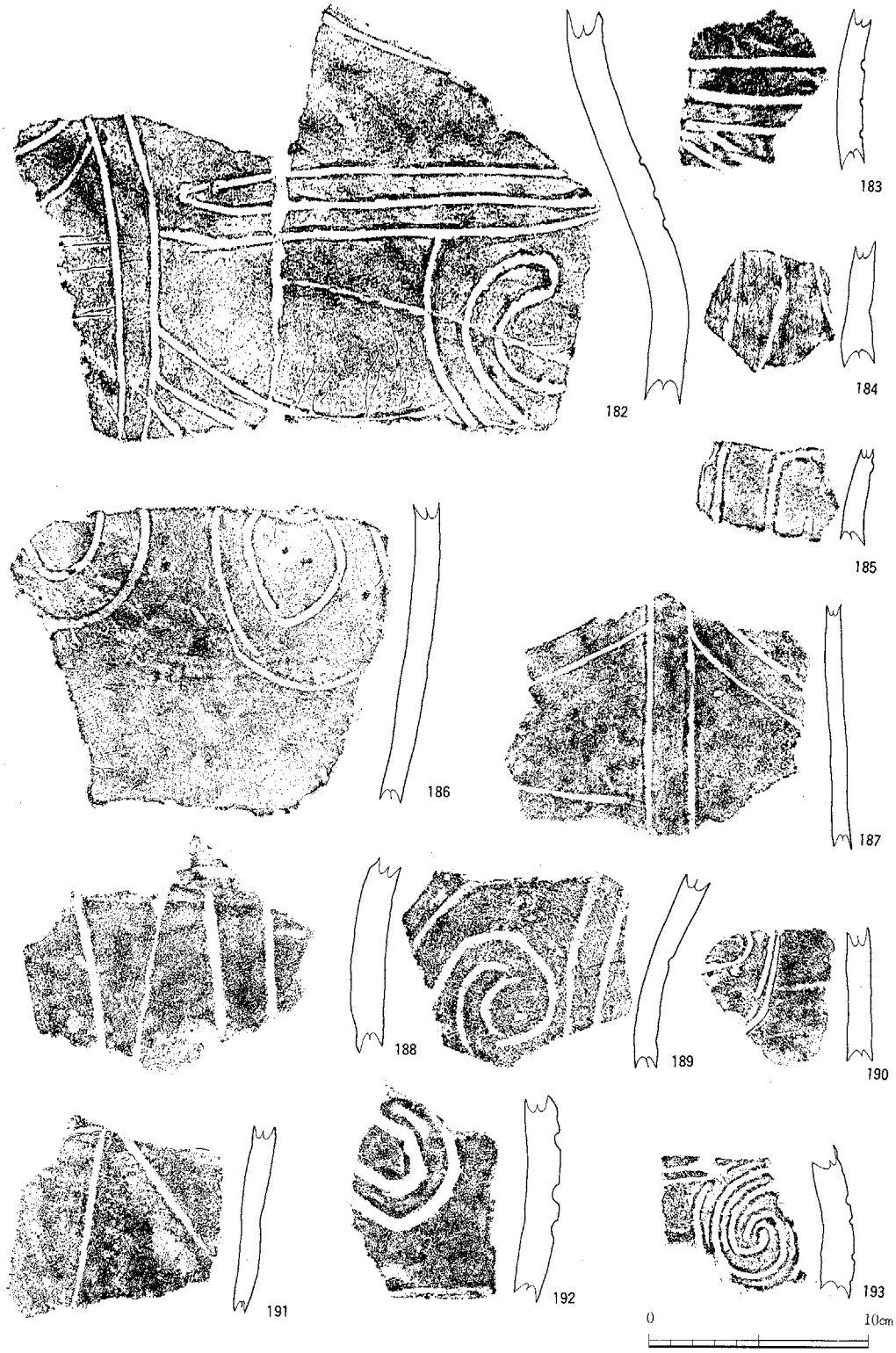
第243図　3号溝出土遺物（17）



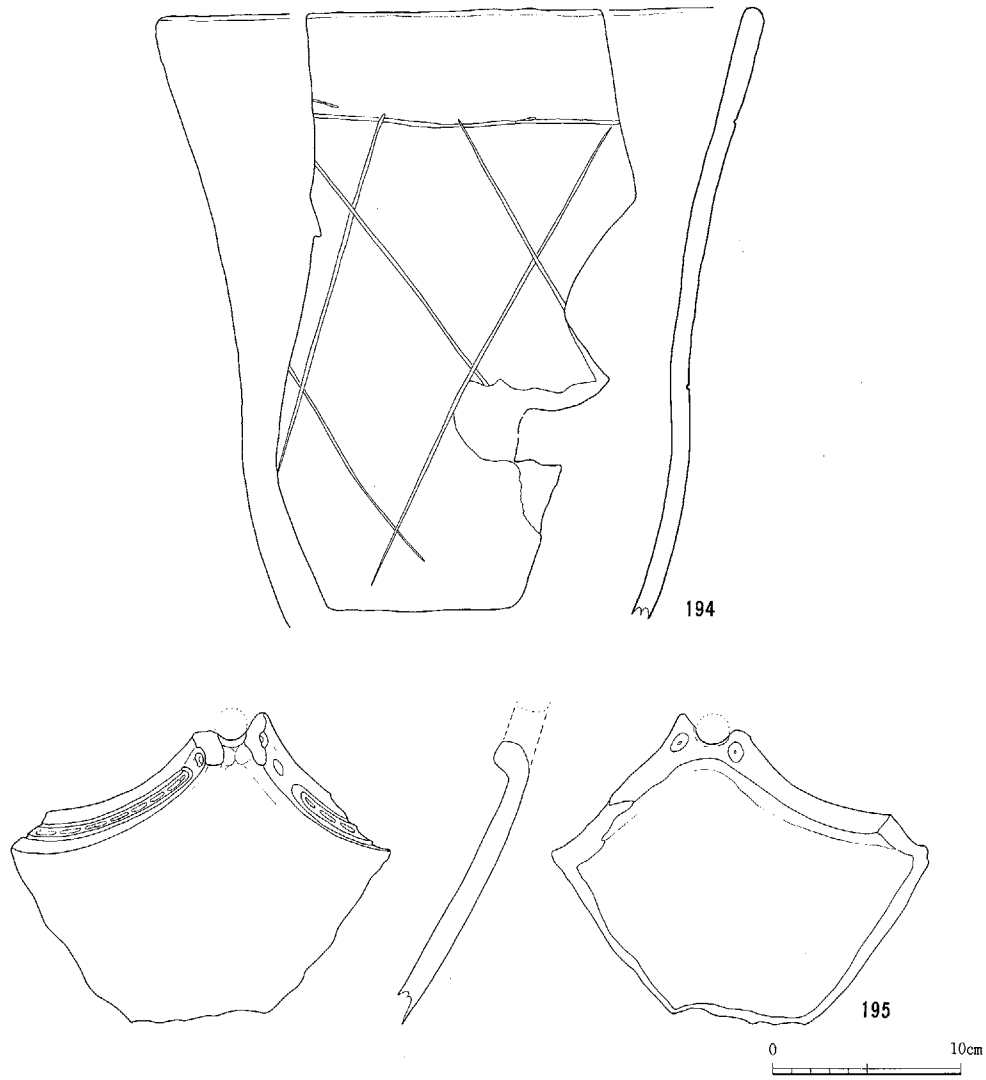
第244図　3号溝出土遺物（18）



第245図　3号溝出土遺物（19）

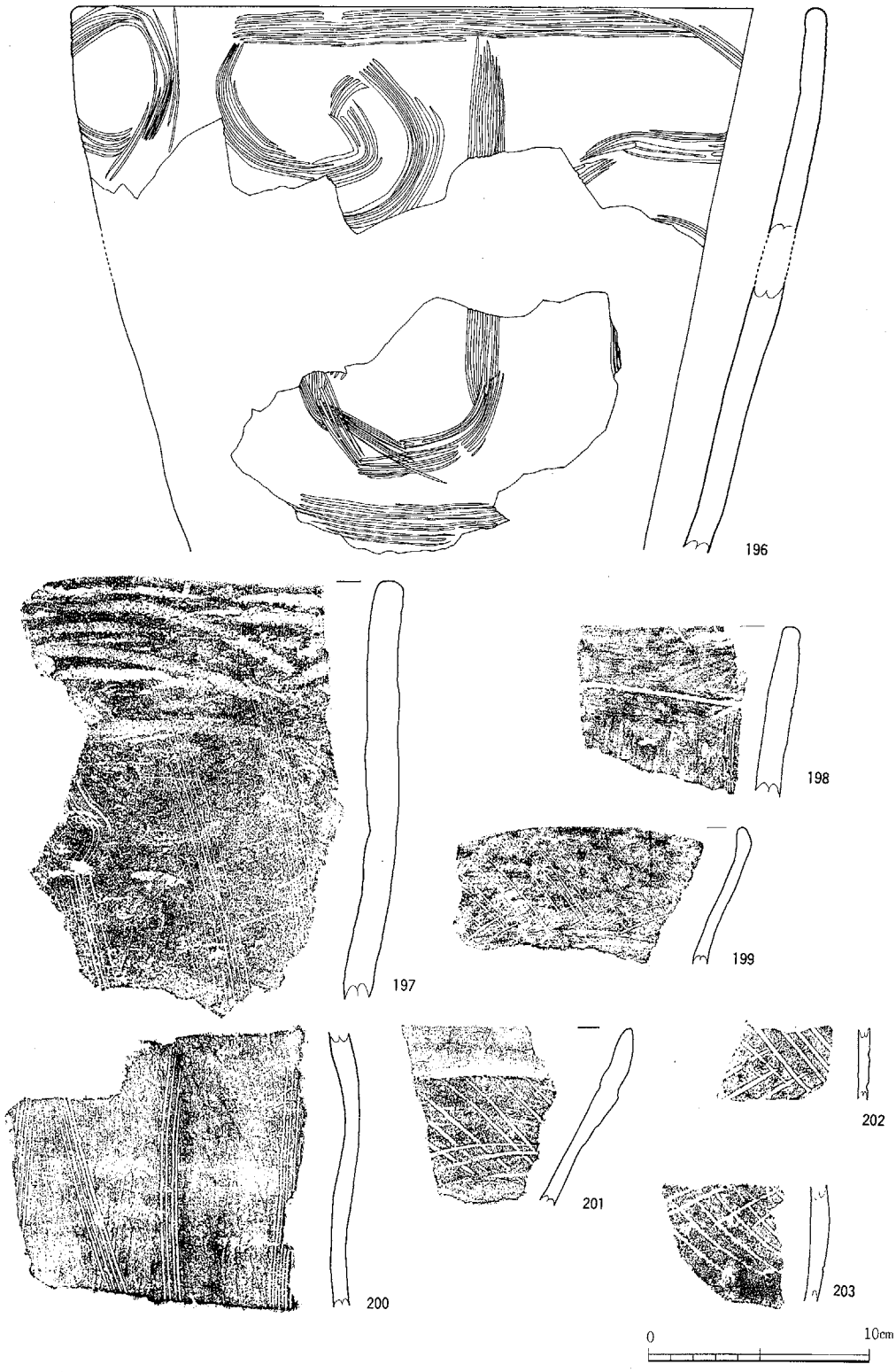


第246図　3号溝出土遺物（20）

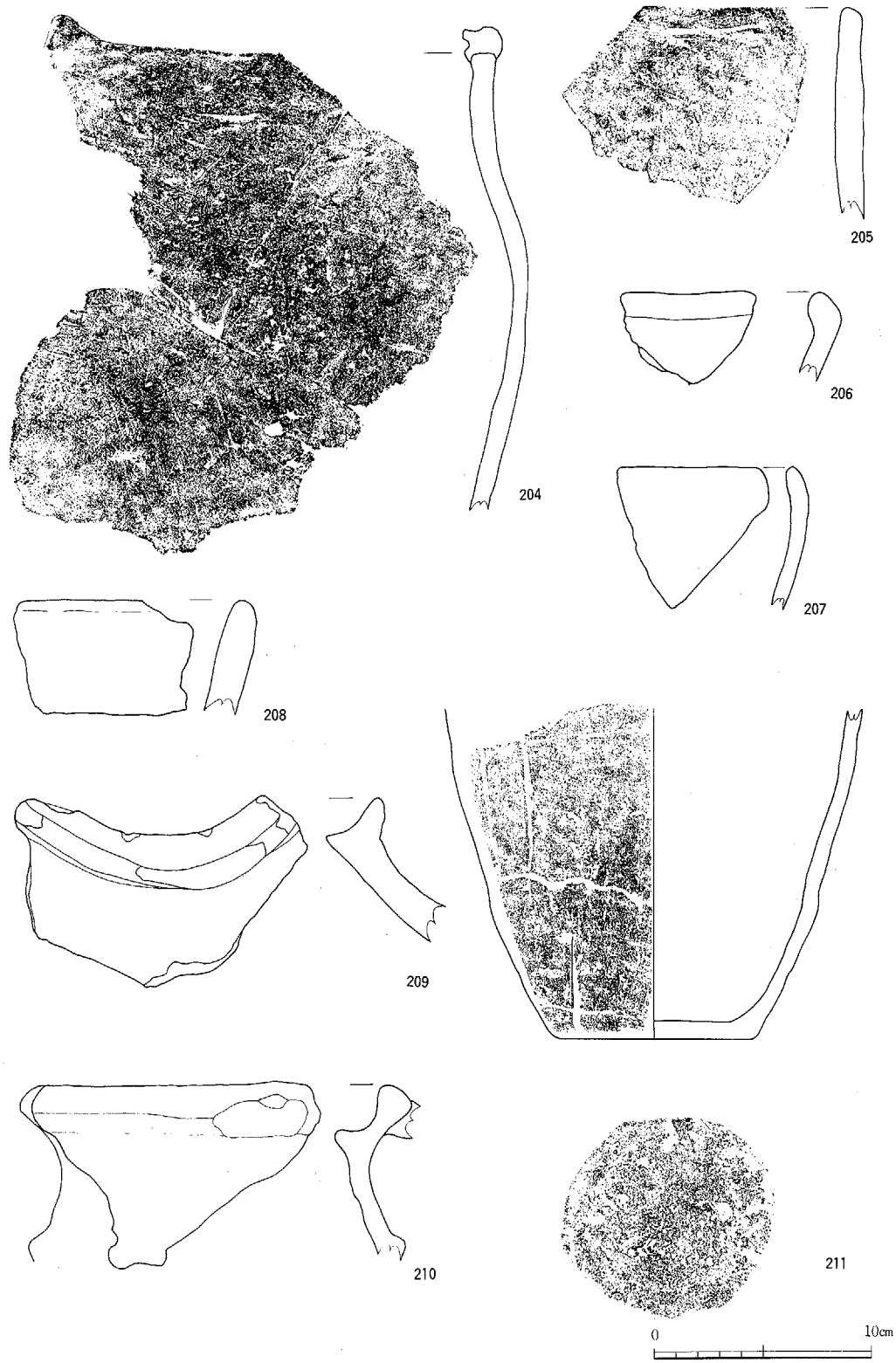


第247図　3号溝出土遺物（21）

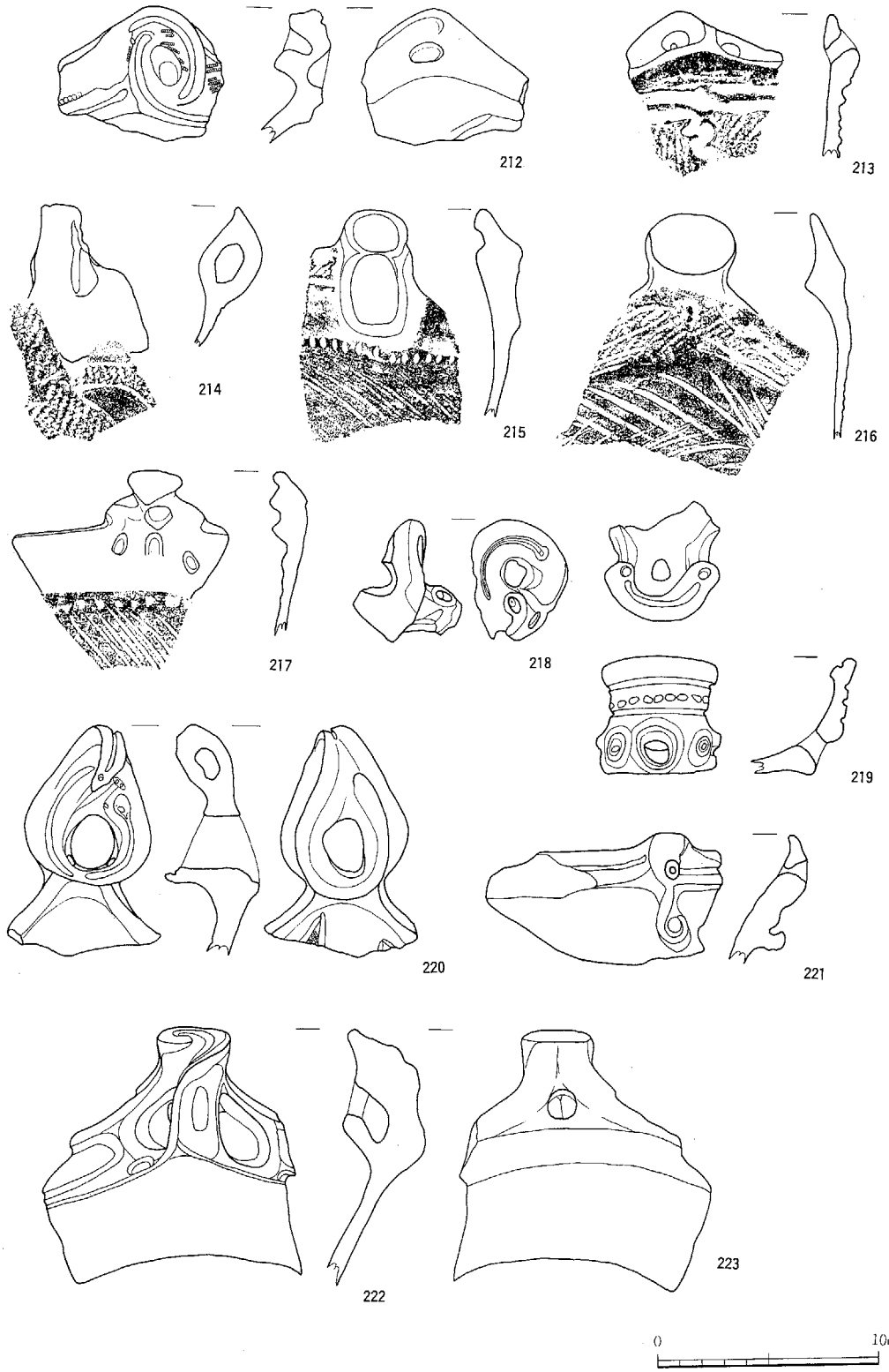
る。石材は頁岩である。254は長さ6.4cm、幅5.1cm厚さ2.1cm、重さ101ｇ。255は長さ12.5cm、幅6.7cm、厚さ2.9cm。石材は頁岩である。256は全体の約２分の１は欠損している。残存長76cm、幅7.1cm厚さ2.2cm、重さ119ｇ。石材は頁岩である。252は長さ7.8cm、幅７cm、厚さ3.8cm、重さ295ｇ。石材は頁岩である。253は石鏃である。石材頁岩である。長さ13.1cm、幅4.2cm、厚さ2.2cm、重さ196ｇ。257はミニチュアの磨製石斧である。258、259、262～272、274は凹石である。258、261は磨石と併用されている。石材は安山岩である。長さ12.5cm、幅7.7cm、厚さ4.9cm、重さ775ｇ。259は石材は安山岩である。長さ10.5cm、幅6.1cm、重さ365ｇ。261は磨石と併用されている。石材は安山岩である。長さ8.4cm、幅6.9cm、厚さ4.4cm、重さ410ｇ。261は長さ8.5cm、幅7.7cm、厚さ4.8cm、重さ414cm。262は約２分の１が欠損している。石材は安山岩である。残存の長さ4.4cm、幅6.8cm、厚さ4.0cm、重さ277ｇ。263は約３分の１が欠損して



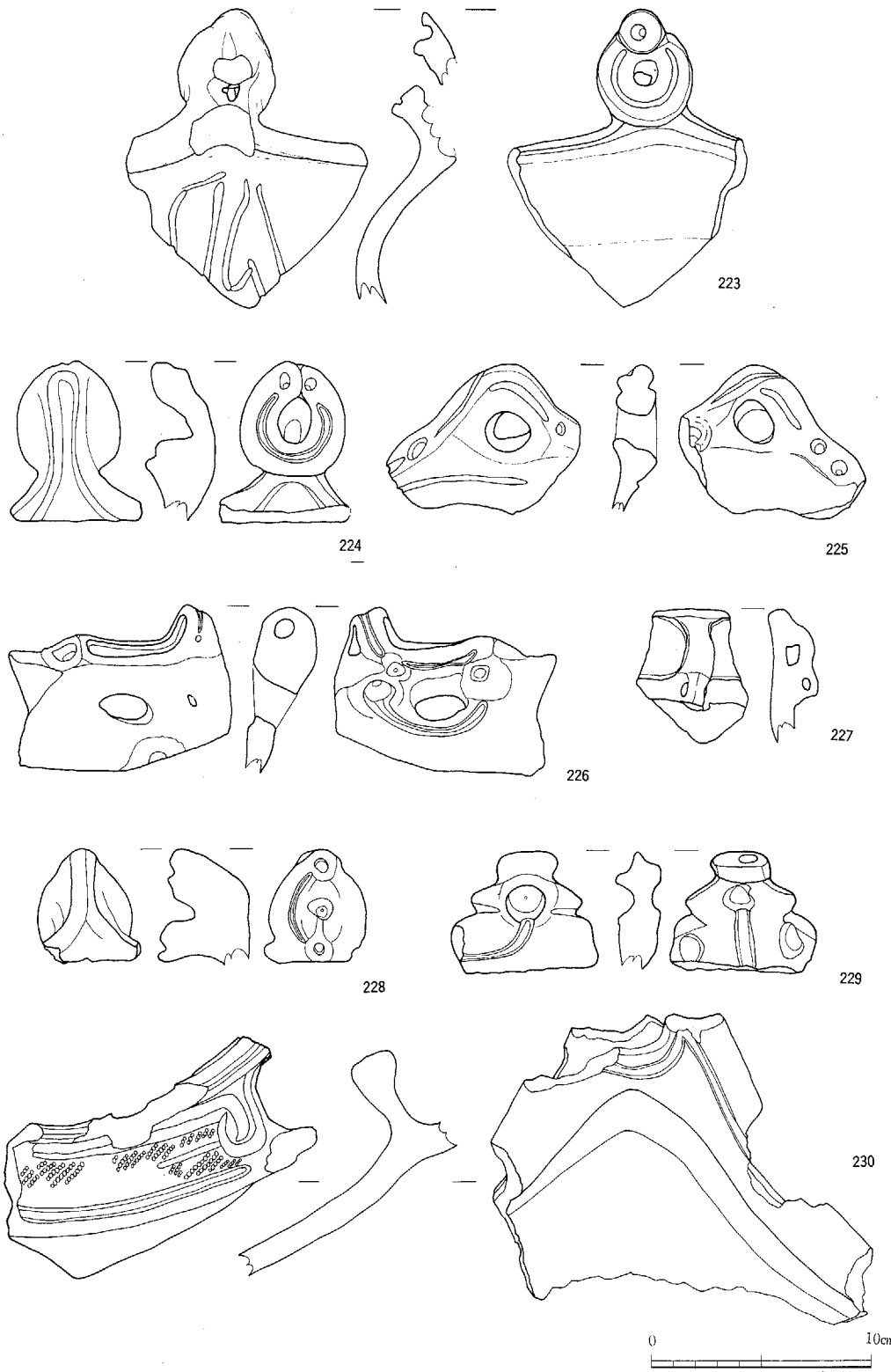
第248図　3号溝出土遺物（22）



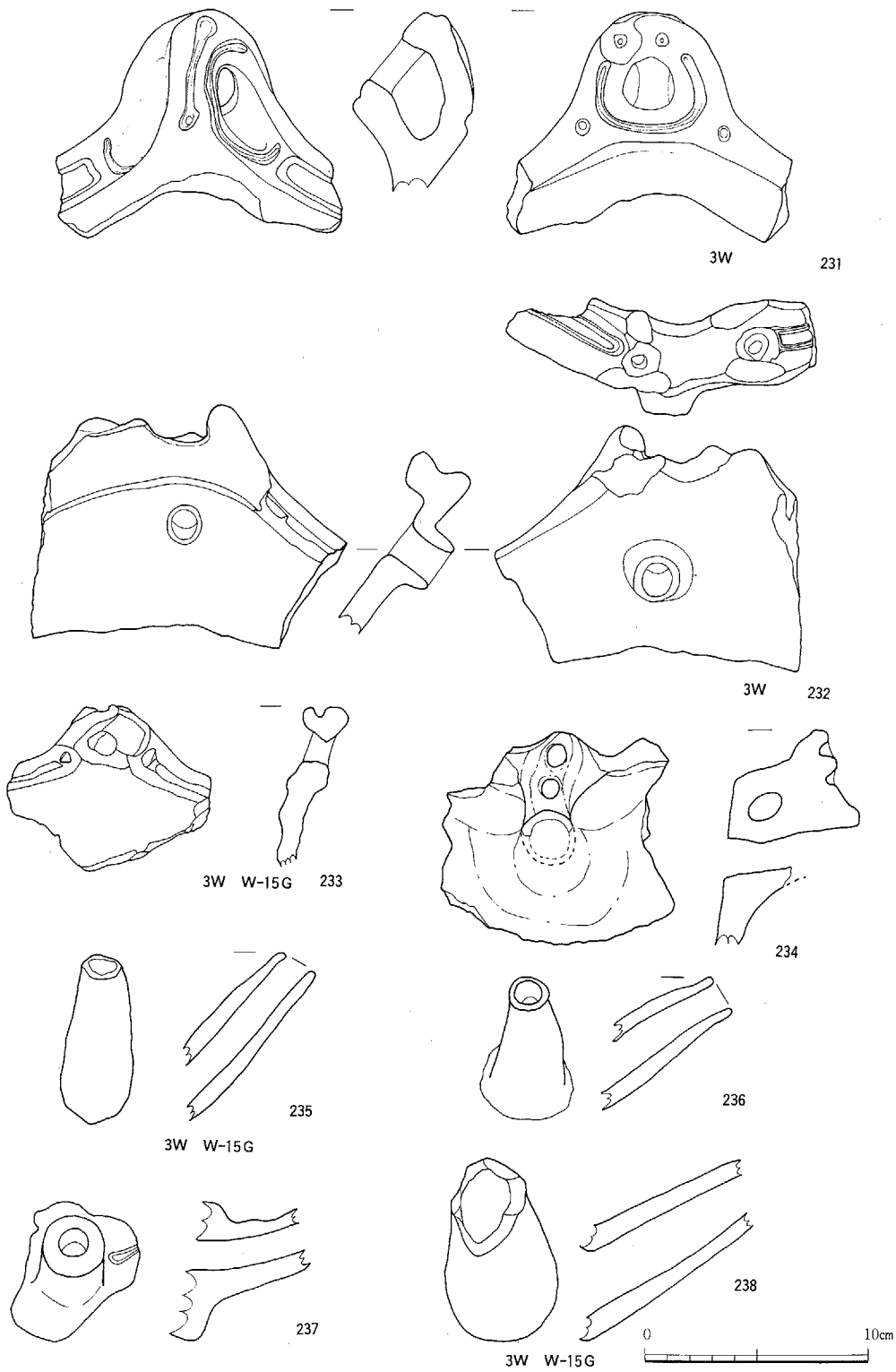
第249図　3号溝出土遺物（23）



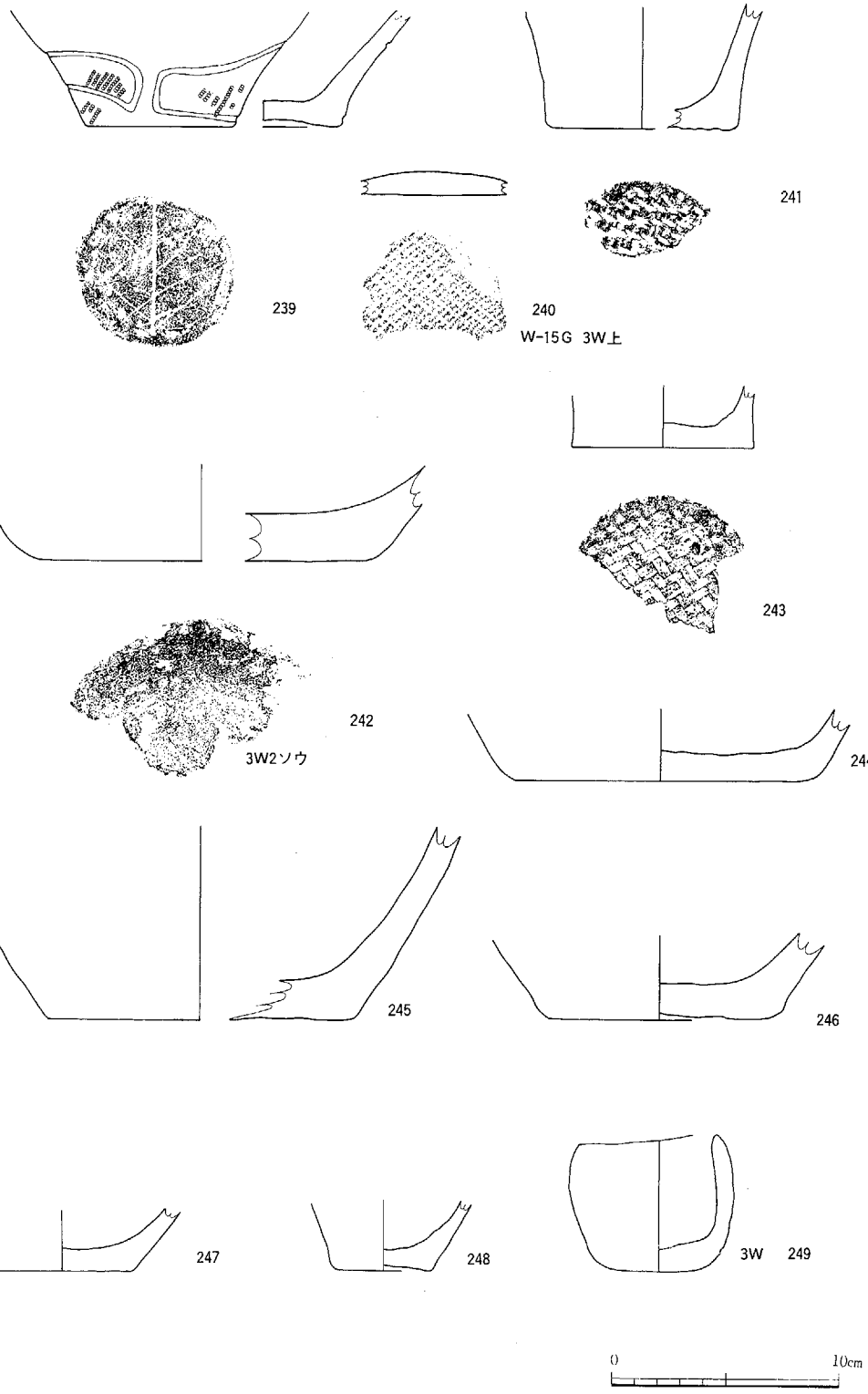
第250図　3号溝出土遺物（24）



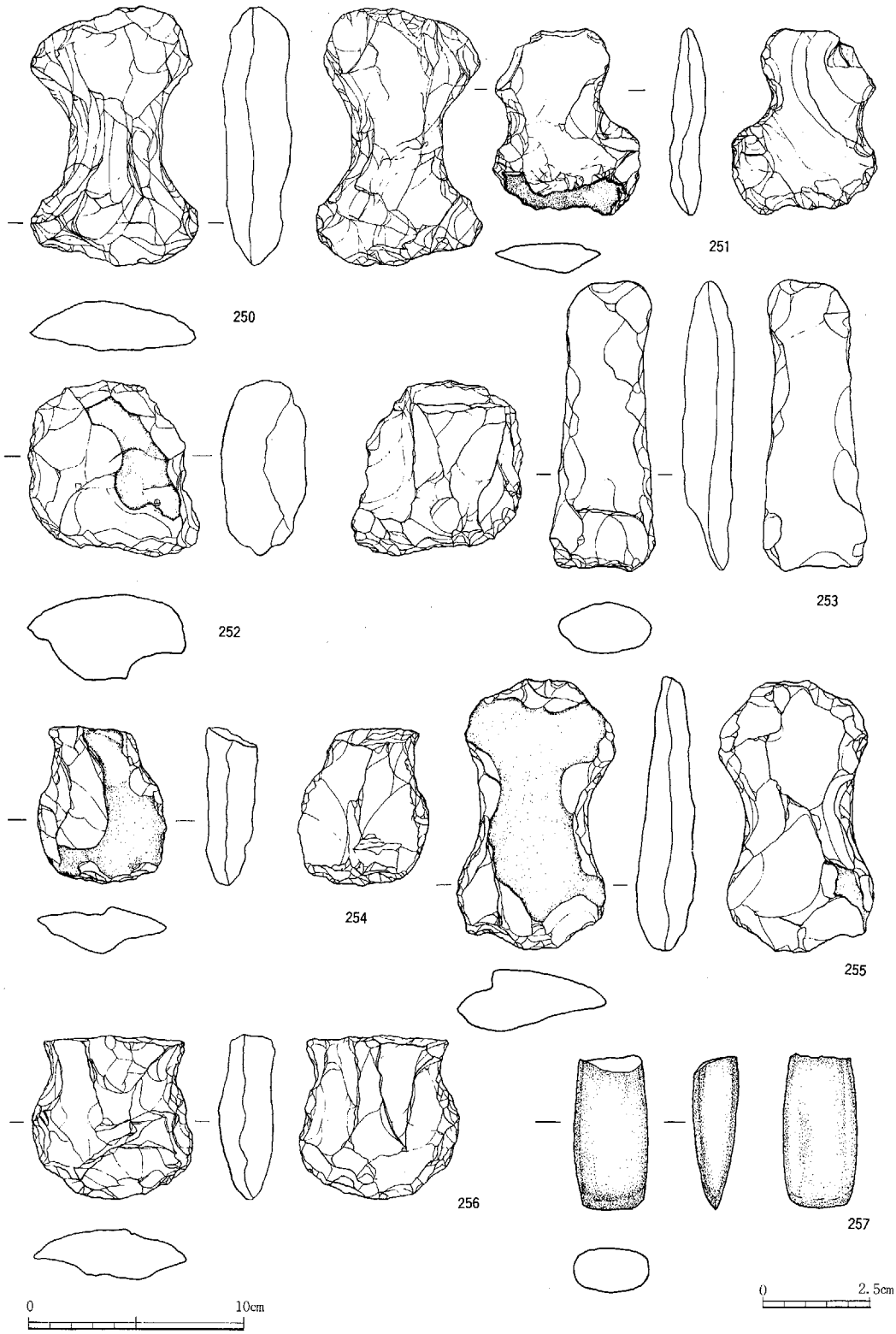
第251図　3号溝出土遺物（25）



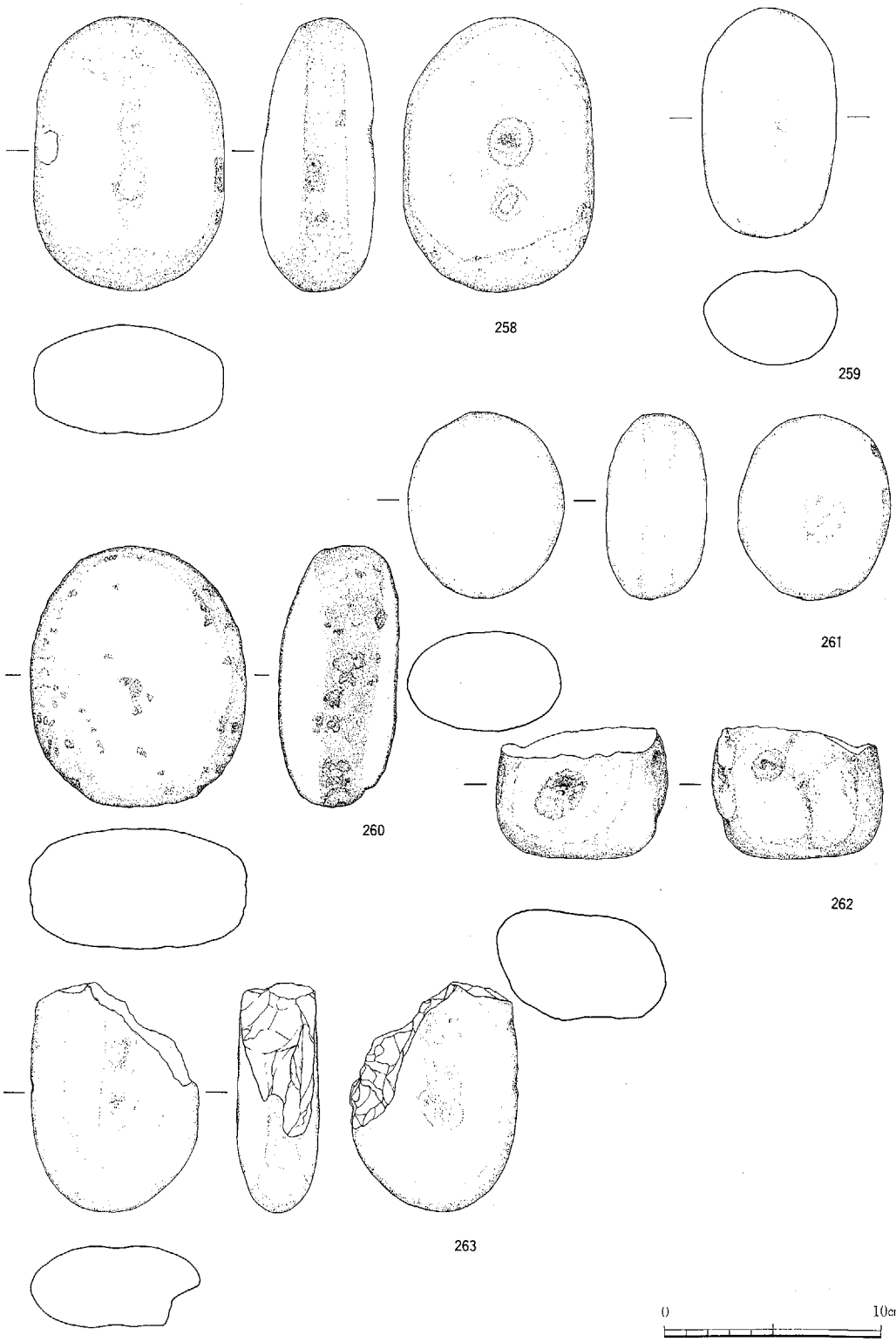
第252図　3号溝出土遺物（26）



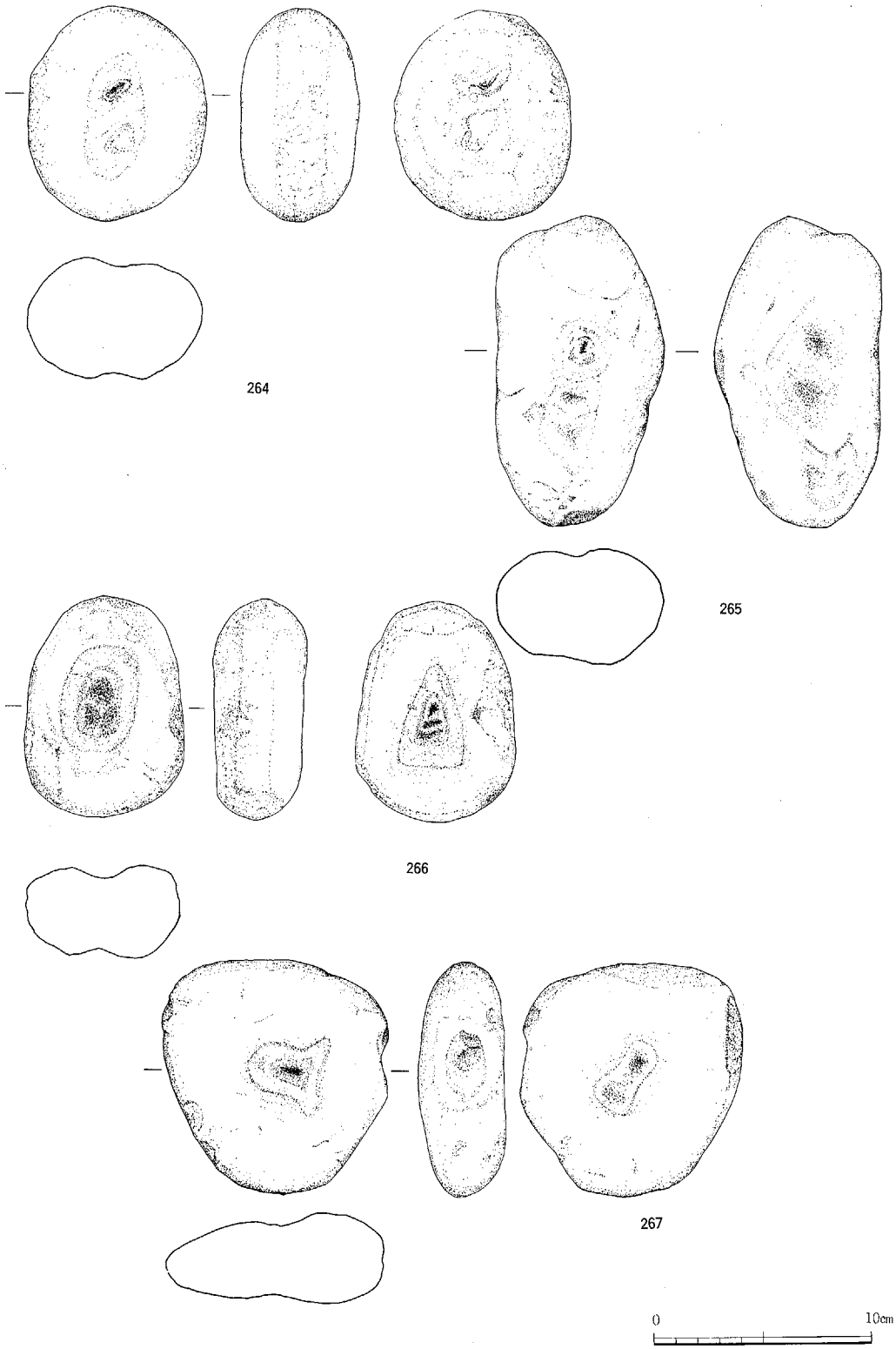
第253図　3号溝出土遺物（27）



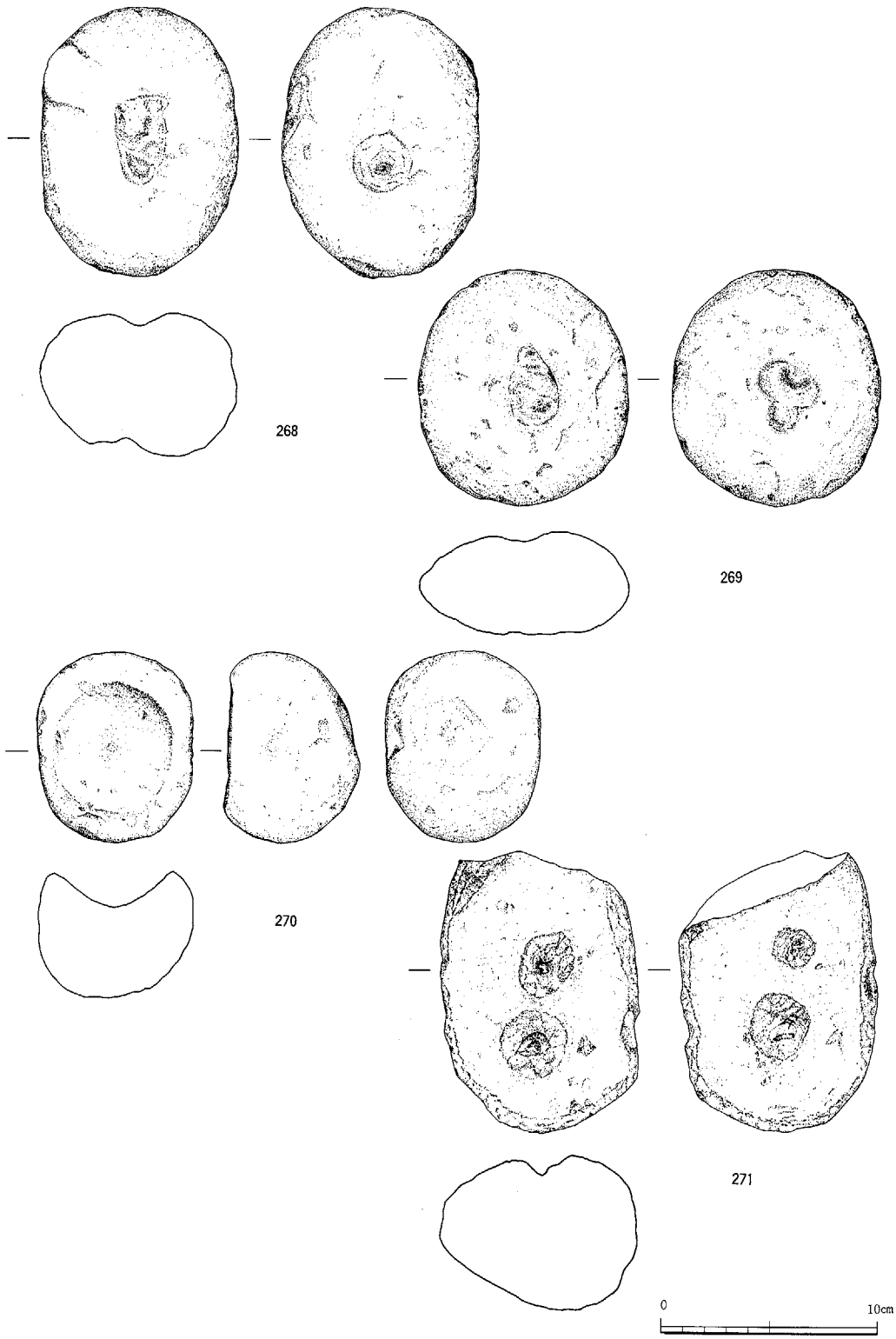
第254図　3号溝出土遺物（28）



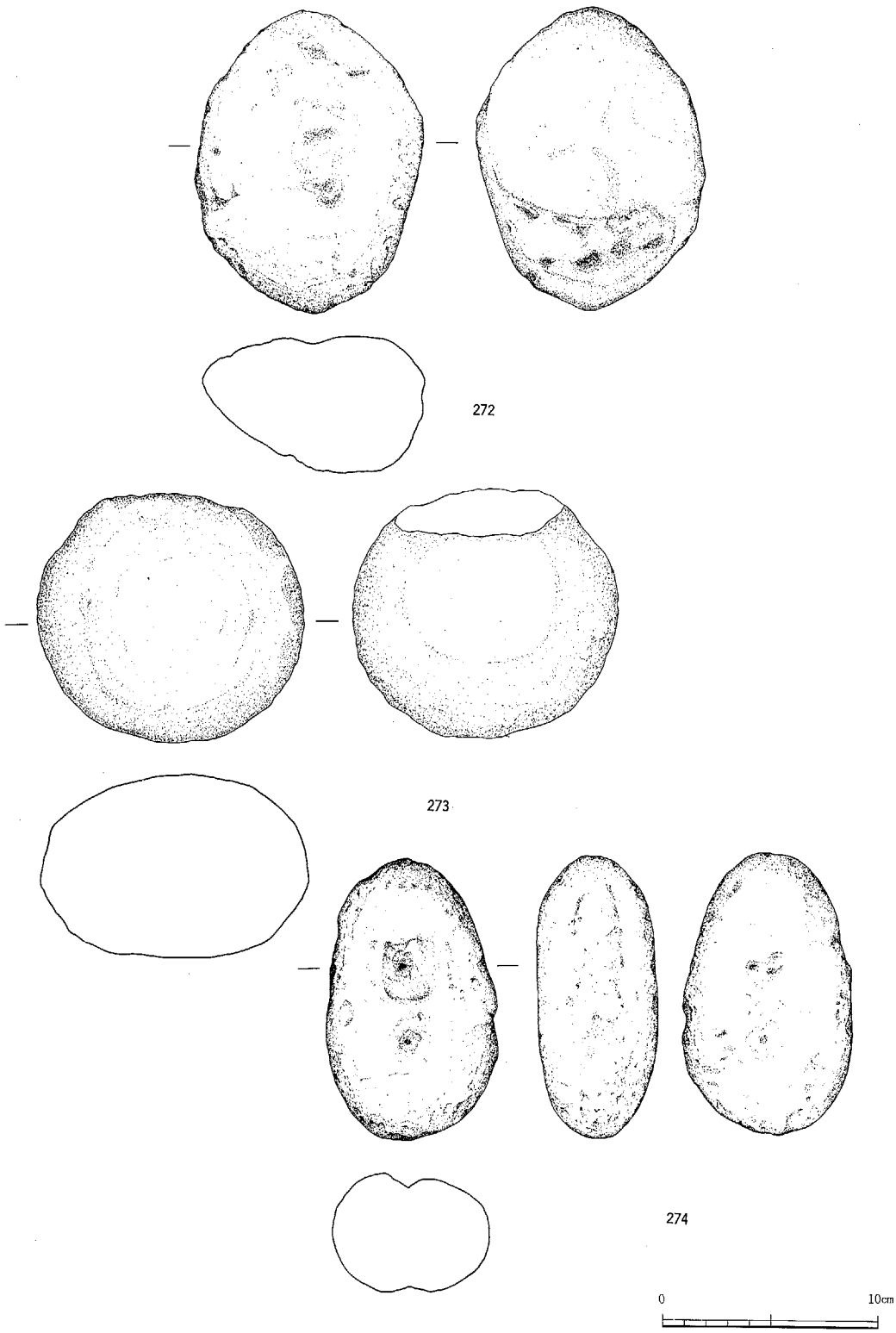
第255図　3号溝出土遺物（29）



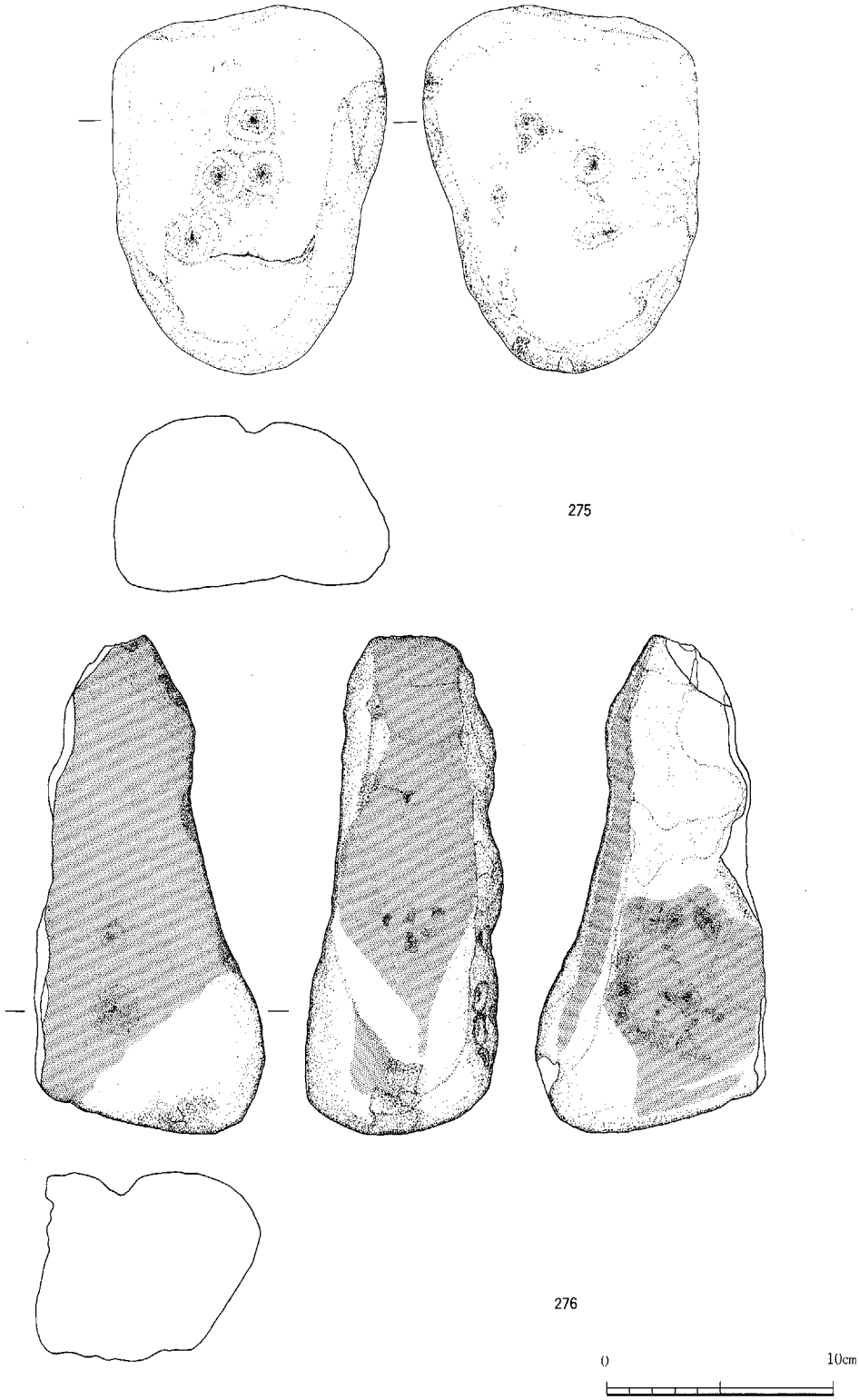
第256図　3号溝出土遺物（30）



第257図　3号溝出土遺物（31）



第258図　3号溝出土遺物（32）



第259図　3号溝出土遺物（33）

いる。残存の長さ10.2cm、幅7.6cm、厚さ3.8cm、重さ455ｇ。264は石材は安山岩である。長さ9.6cm、幅8.0cm、厚さ5.2cm、重さ516ｇ。265は長さ14.2cm、幅7.6cm、厚さ5.4cm、重さ730ｇ。266は長さ10.1cm、幅7.1cm、厚さ4.2cm、重さ420ｇ。267は長さ10.6cm、幅9.9cm、厚さ4.0cm、重さ530ｇ。268は長さ12.3cm、幅9.0cm、厚さ6.5cm、重さ765ｇ。269は長さ10.8cm、幅9.6cm、厚さ4.5cm、重さ536ｇ。270は長さ8.8cm、幅7.0cm、厚さ5.6cm、重さ2262ｇ。271は約４分の１が欠損する。残存の長さ12.8cm、幅9.0cm、厚さ7.0cm、重さ1000ｇ。272は長さ13.9cm、幅10.4cm、厚さ6.2cm、重さ770ｇ。274は長さ12.8cm、幅7.7cm、厚さ5.4cm、重さ637ｇ。260、273は磨石である。石材は安山岩である。260は長さ11.8cm、幅9.8cm、厚さ5.4cm、重さ689ｇ。273は一部欠損している。残存の長さ11.4cm、幅12.4cm、厚さ12.4cm、重さ1800ｇ。275、276は多孔石である。共に石材は安山岩である。275は長さ15.9cm、幅11.9cm、厚さ7.4cm、重さ2000ｇ。276は欠損している。また、火熱を受け赤色化されている。石材は安山岩である。長さ21.4cm、幅9.7cm、厚さ7.8cm、重さ1900ｇ。

８．グリッド内出土遺物

縄文時代の遺構外出土の遺物は東端部（Ｌ・Ｍ－31グリッド内）と南端部のⅤグリッド以南より集中して出土した。特に南端部のものは膨大な出土量である。尚、紙面に限りがあるため代表的なものと特殊遺物を中心に掲載した。掲載順は土器、土製品、石器の順である。また、土器については時期的別に分類した。分類は以下の通りである。

第１群　前期土器群
第２群　中期土器群
第３群　称名寺１式土器
第４群　称名寺２式土器
第５群　堀之内１式土器
第６群　堀之内２式土器
第７群　加曾利Ｂ１式土器
第８群　加曾利Ｂ２式土器
第９群　加曾利Ｂ３式土器・高井東式土器
第10群　安行式土器・新地式土器

第１群（第260図１～７　図版74）

前期土器群を一括した。１表裏に施文する。表面は条痕文、裏面は櫛歯状の沈線を施す。２、６は横位の浮線を施す。間には単節LRの磨消し縄文を施文する。色調は赤褐色を呈し、胎土には砂粒を含む。８は十三菩提式土器である。集合沈線と三角形の印刻文を施す。

第２群（第260図　図版74）

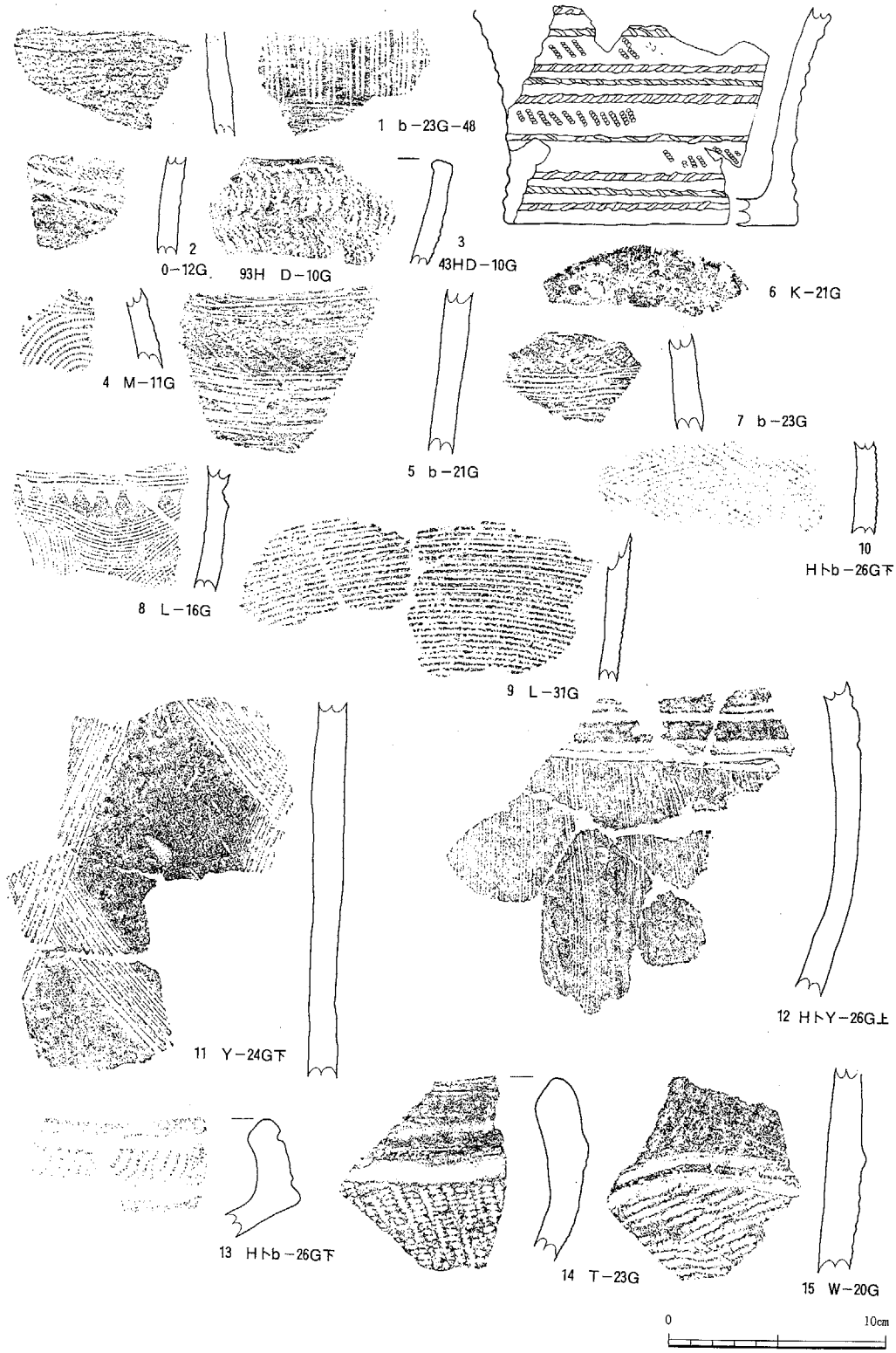
縄文中期の土器を一括した。11、12は櫛歯状工具による沈線文を施す。13は浅鉢形土器口縁部破片である。

第３群（第264～266図55～98　図版74）

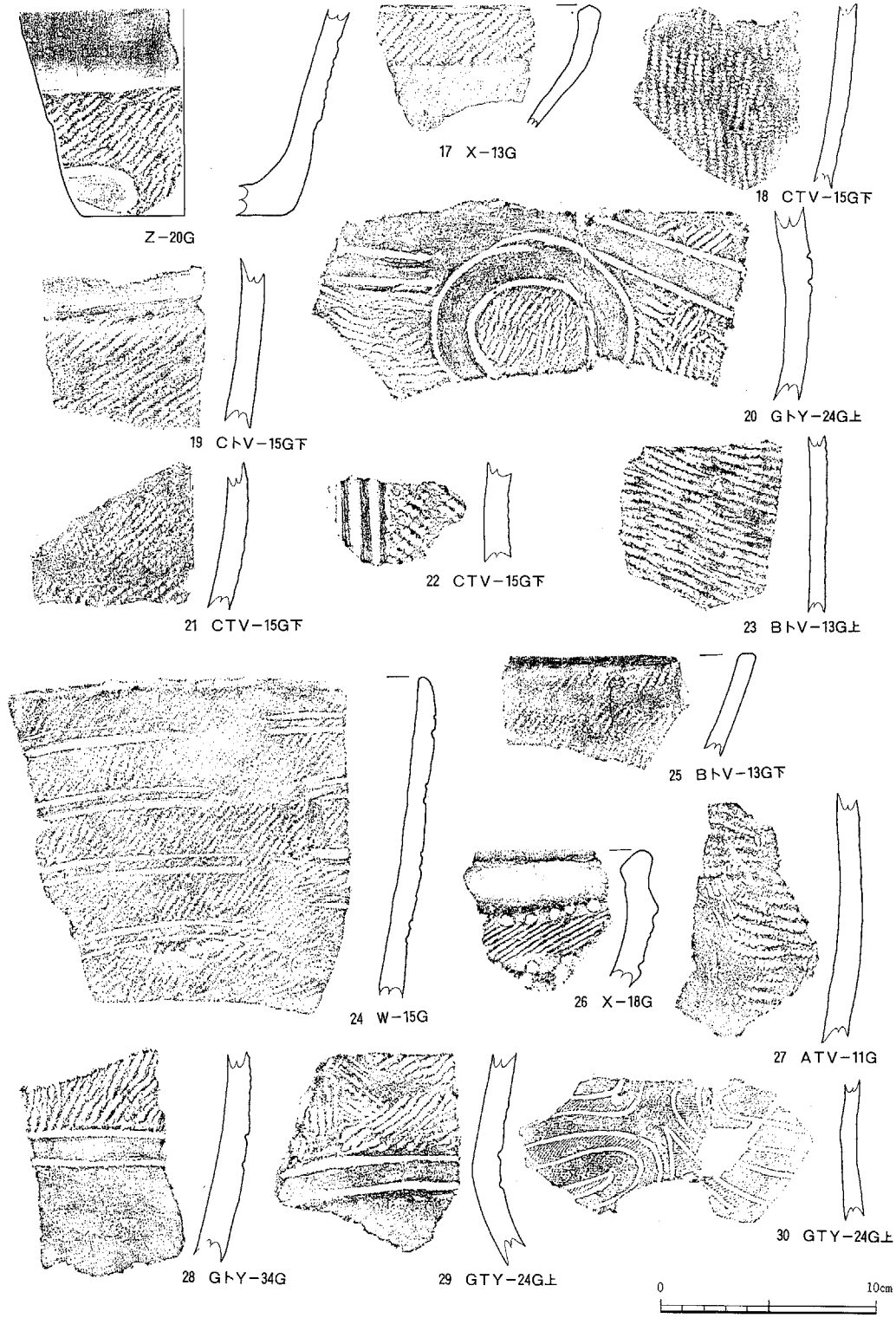
称名寺１式土器を一括した。沈線による区画文の中に充填縄文を施すもの、ケズリを施し、無文帯を構成する。

第４群（第263、264図）

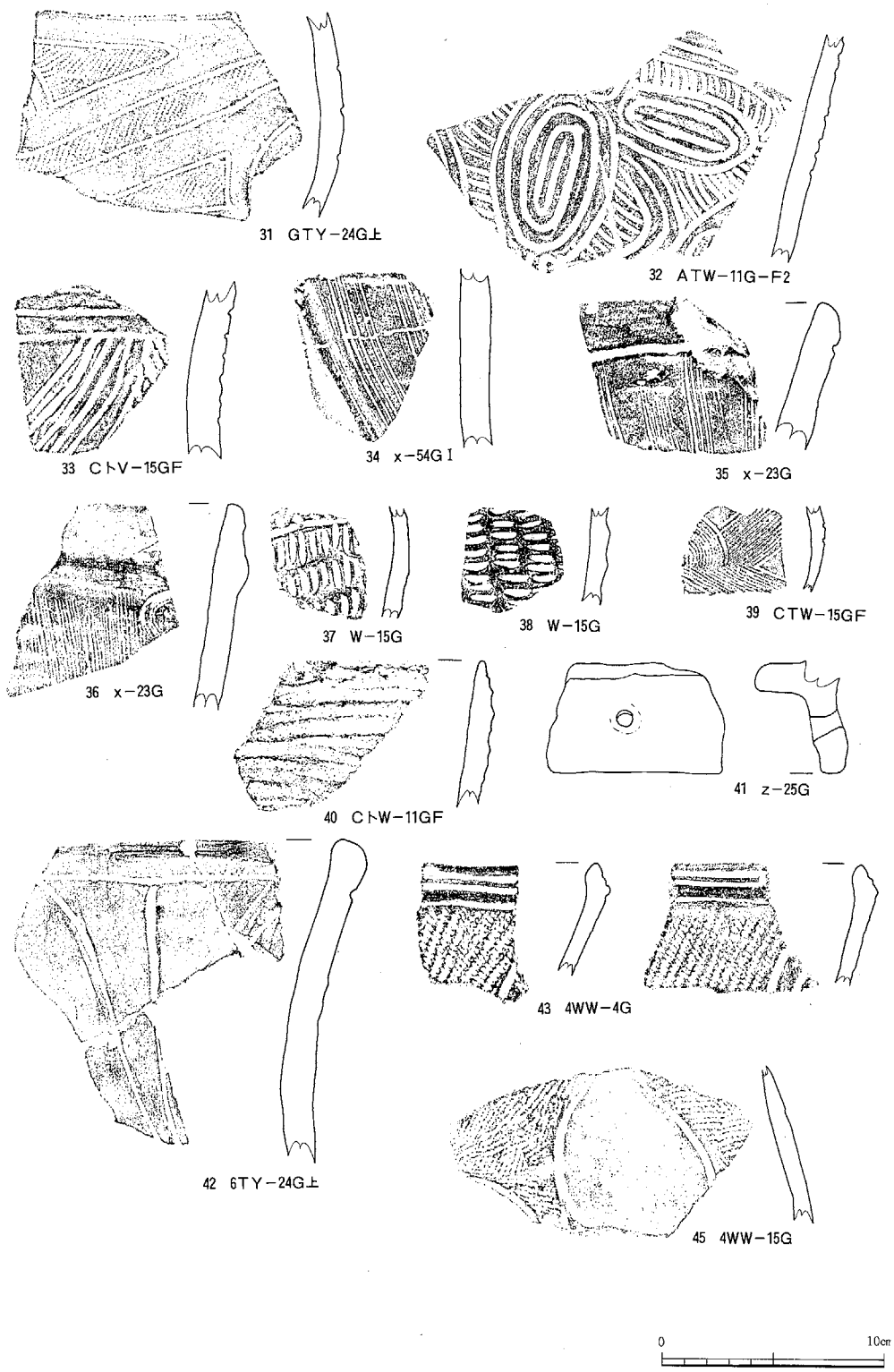
称名寺２式土器を一括した。区画文の中に列点を充填する。



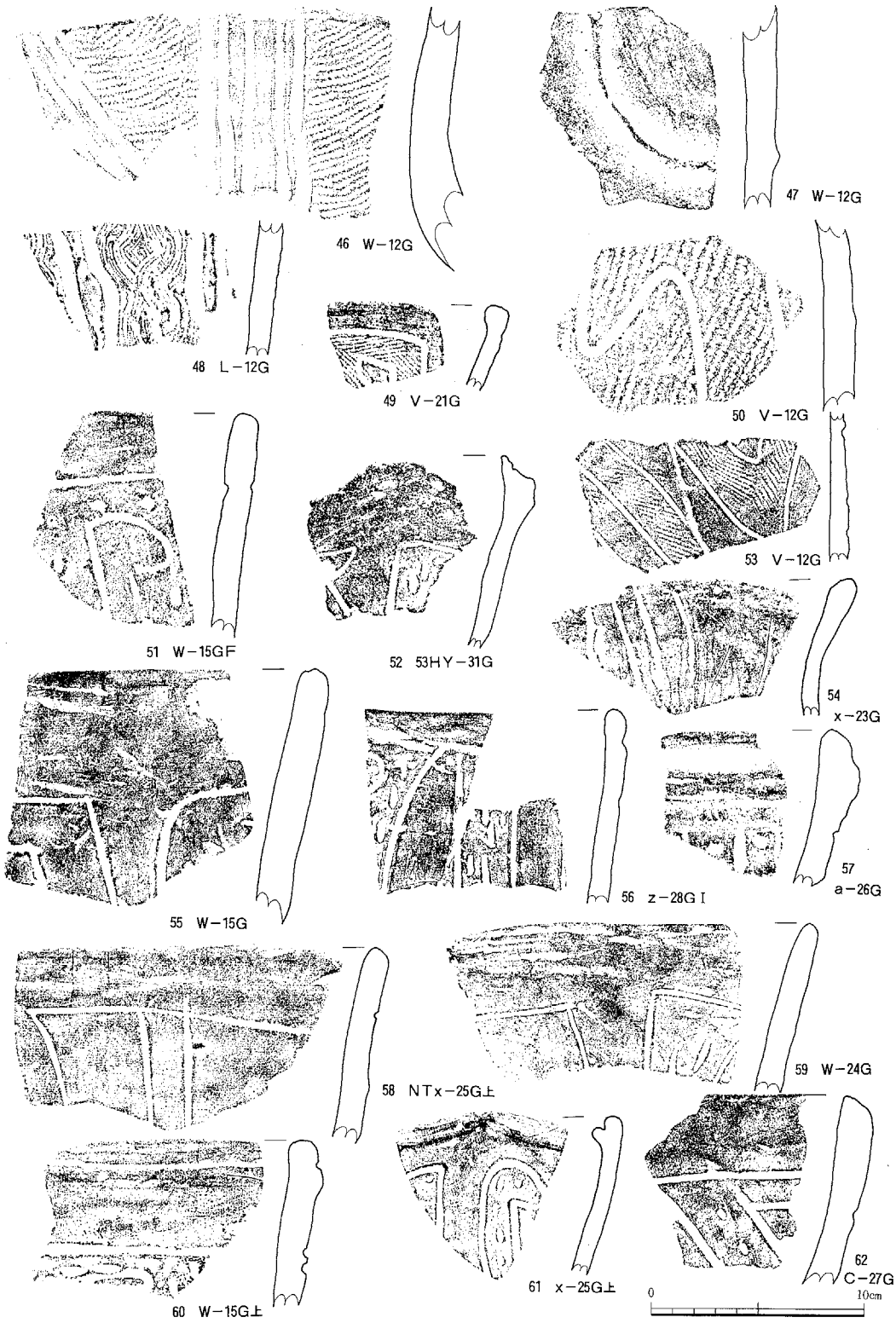
第260図　グリッド出土遺物（1）



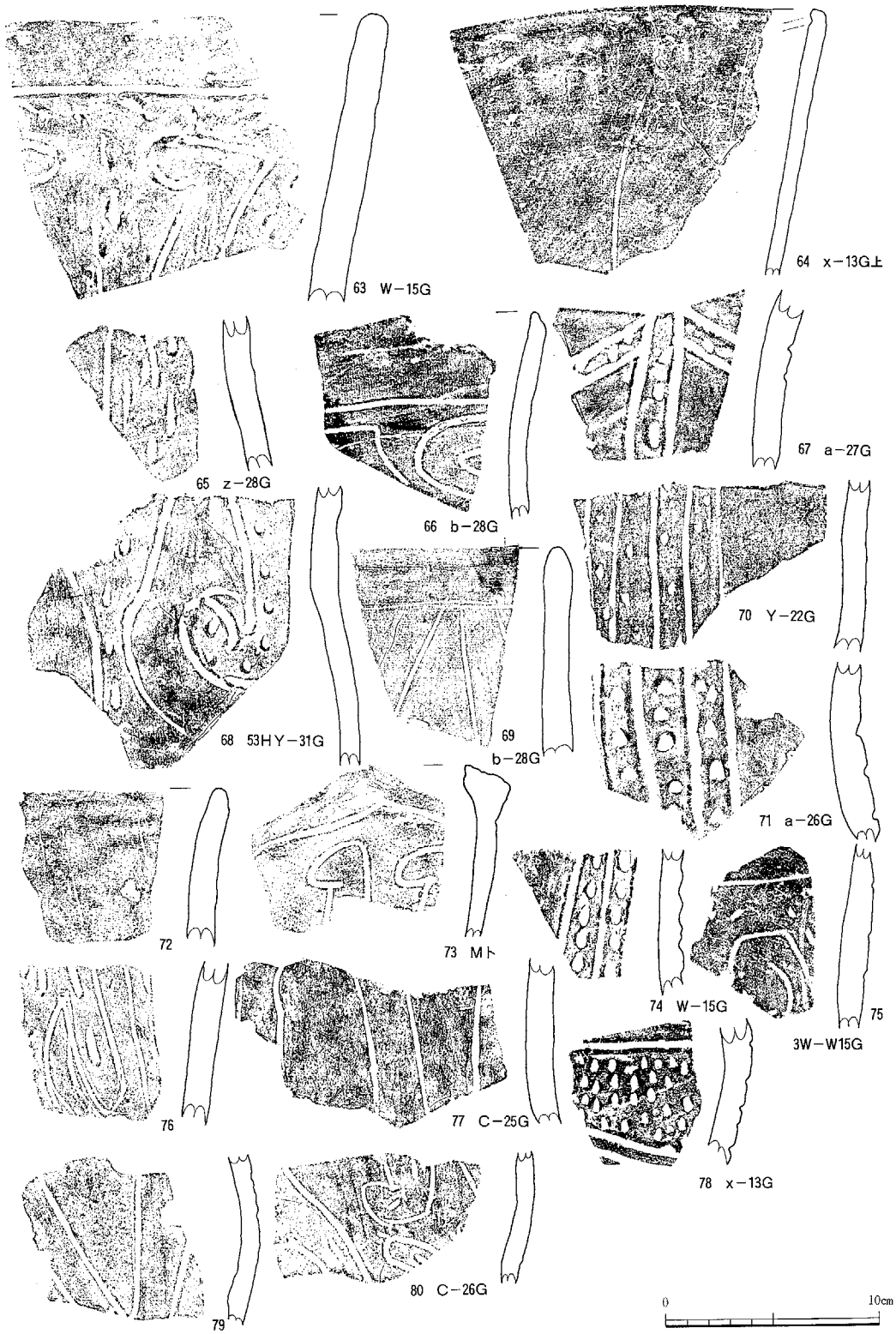
第261図　グリッド出土遺物（2）



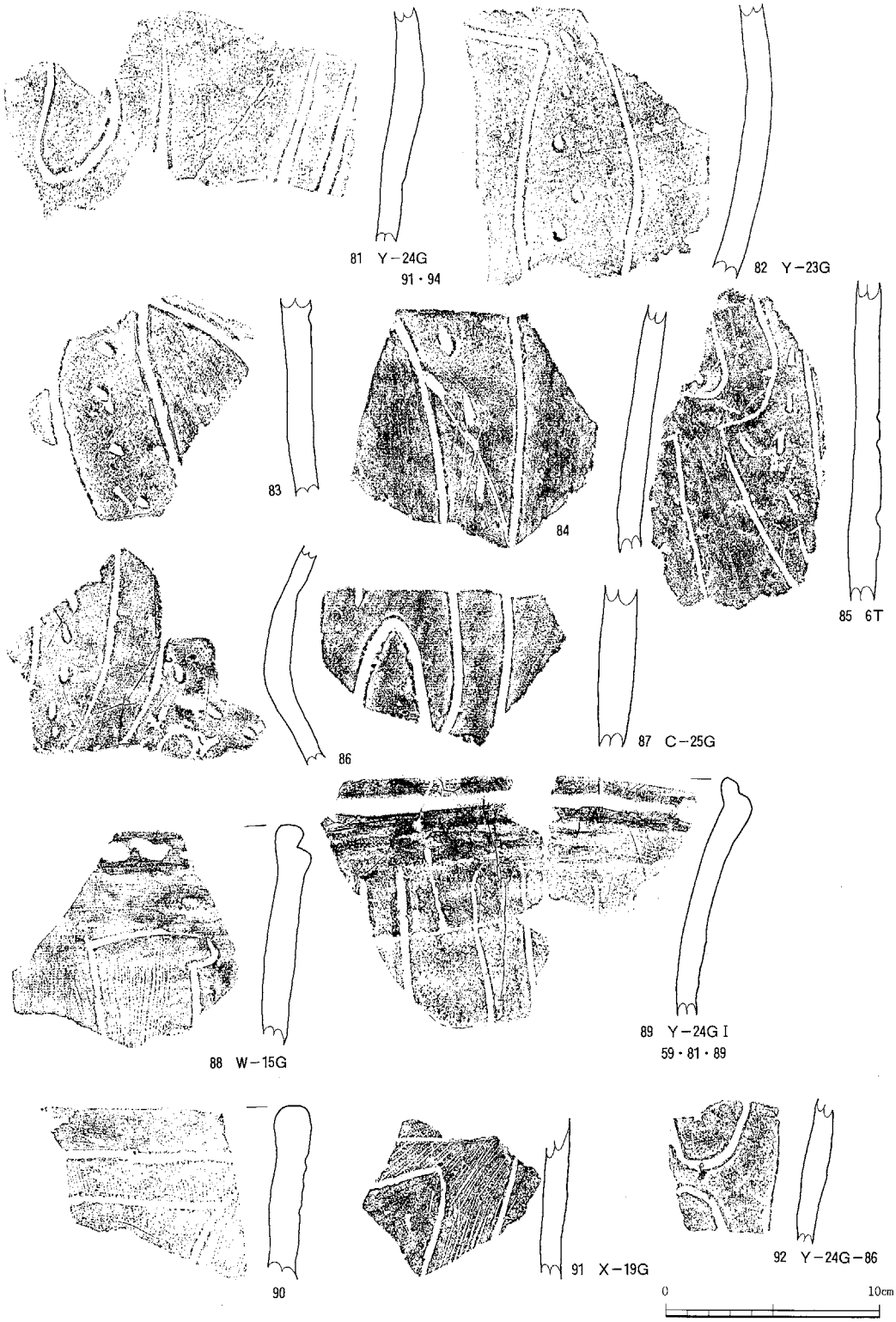
第262図　グリッド出土遺物（3）



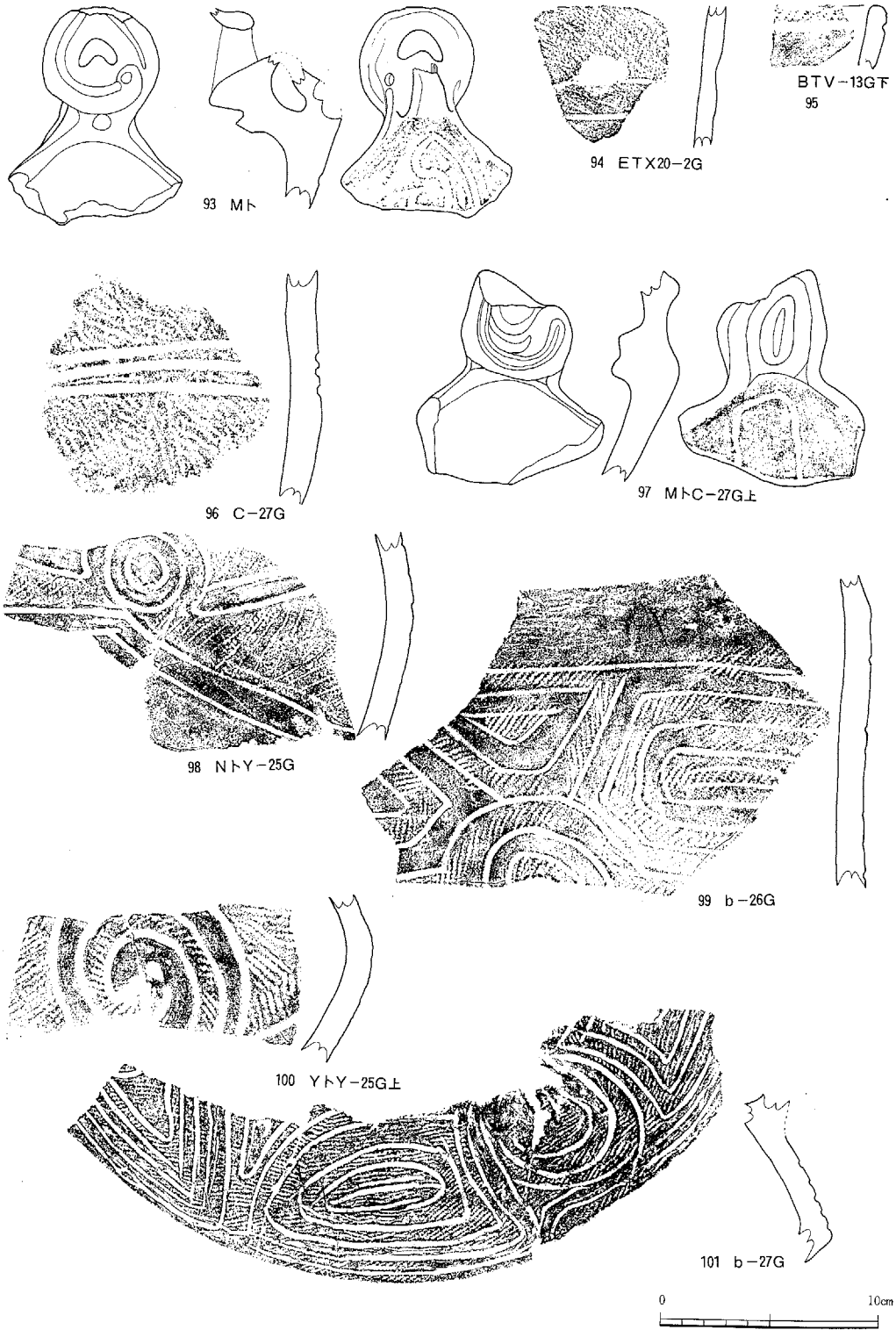
第263図　グリッド出土遺物（4）



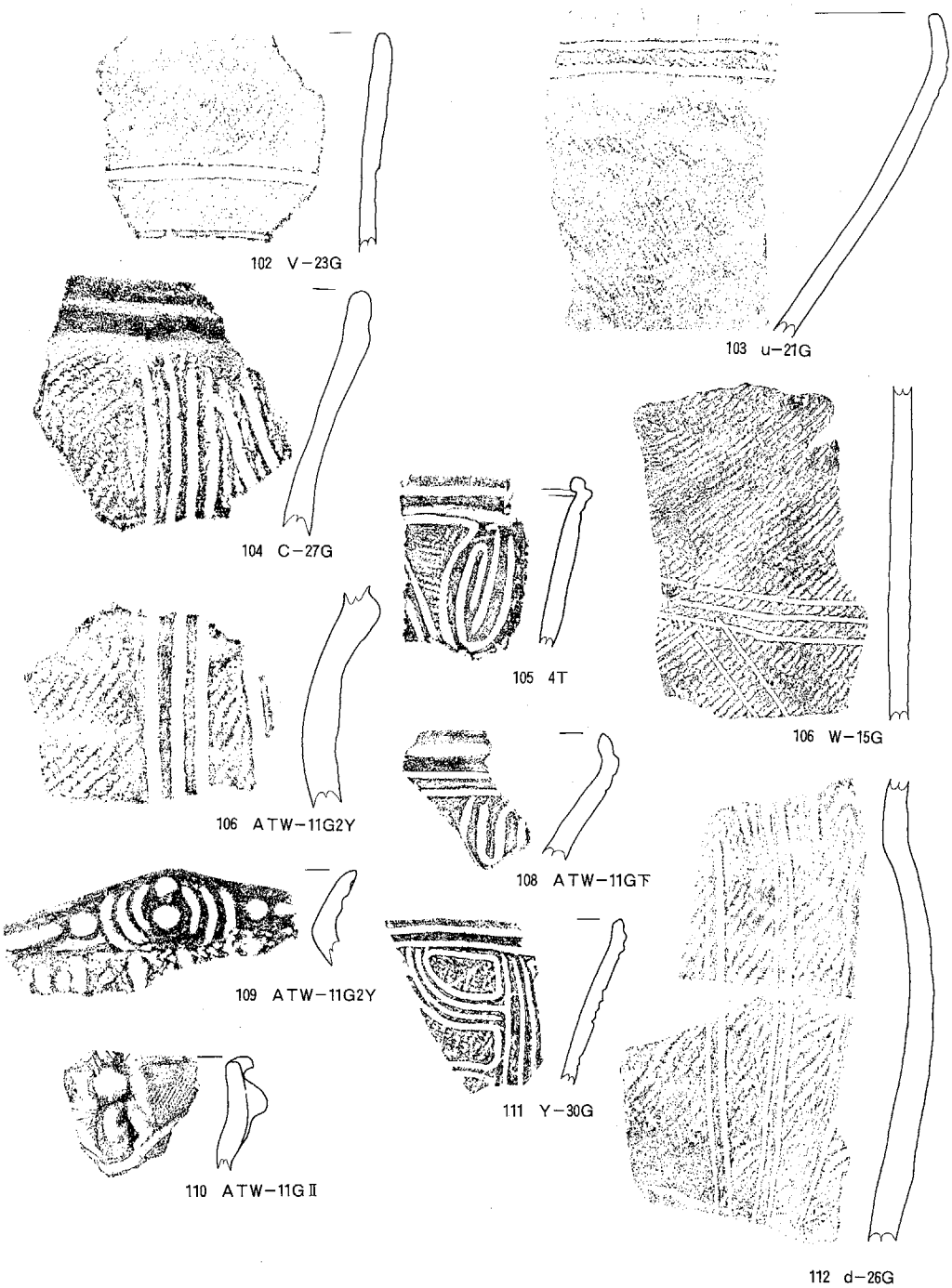
第264図　グリッド出土遺物（5）



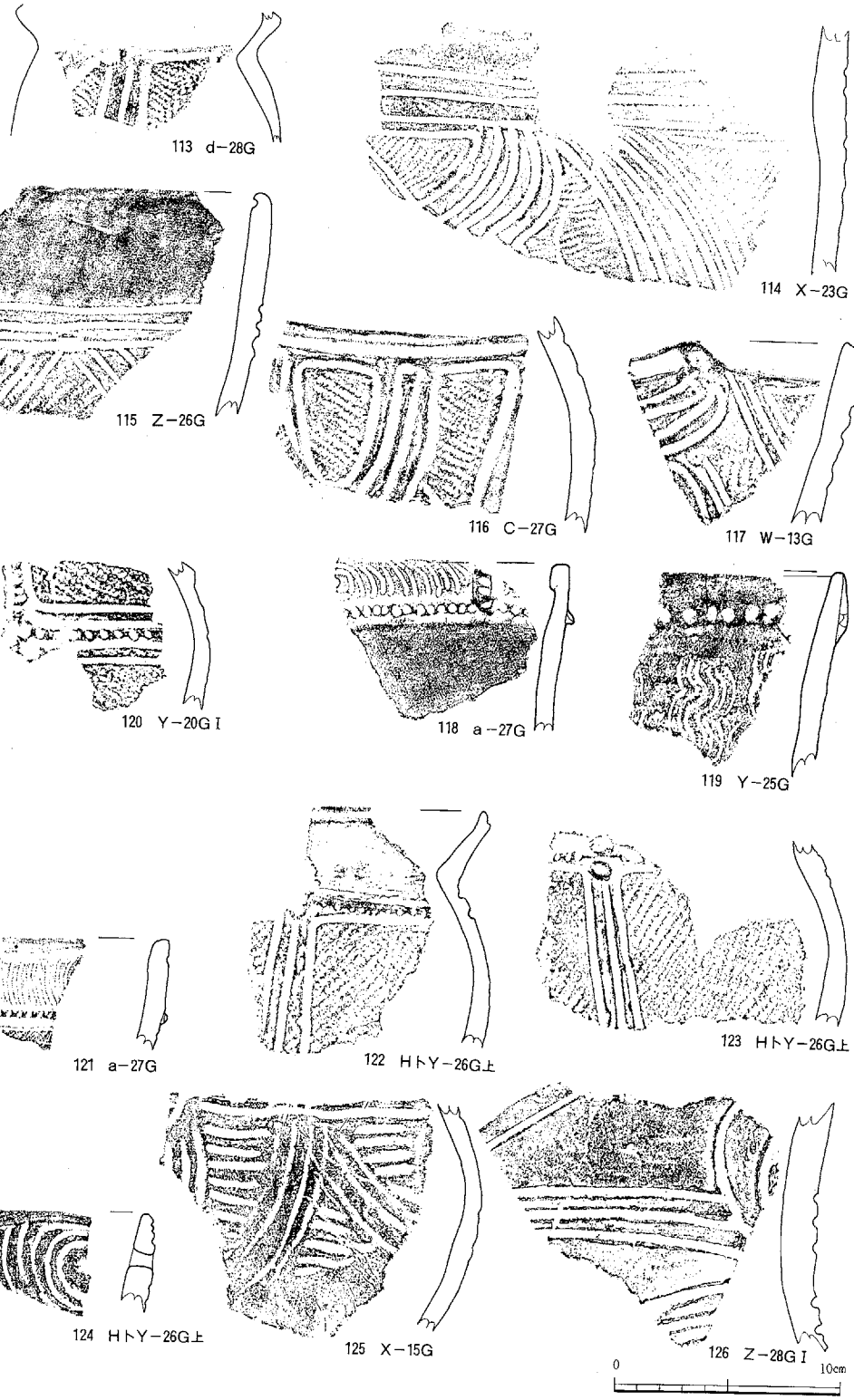
第265図　グリッド出土遺物（6）



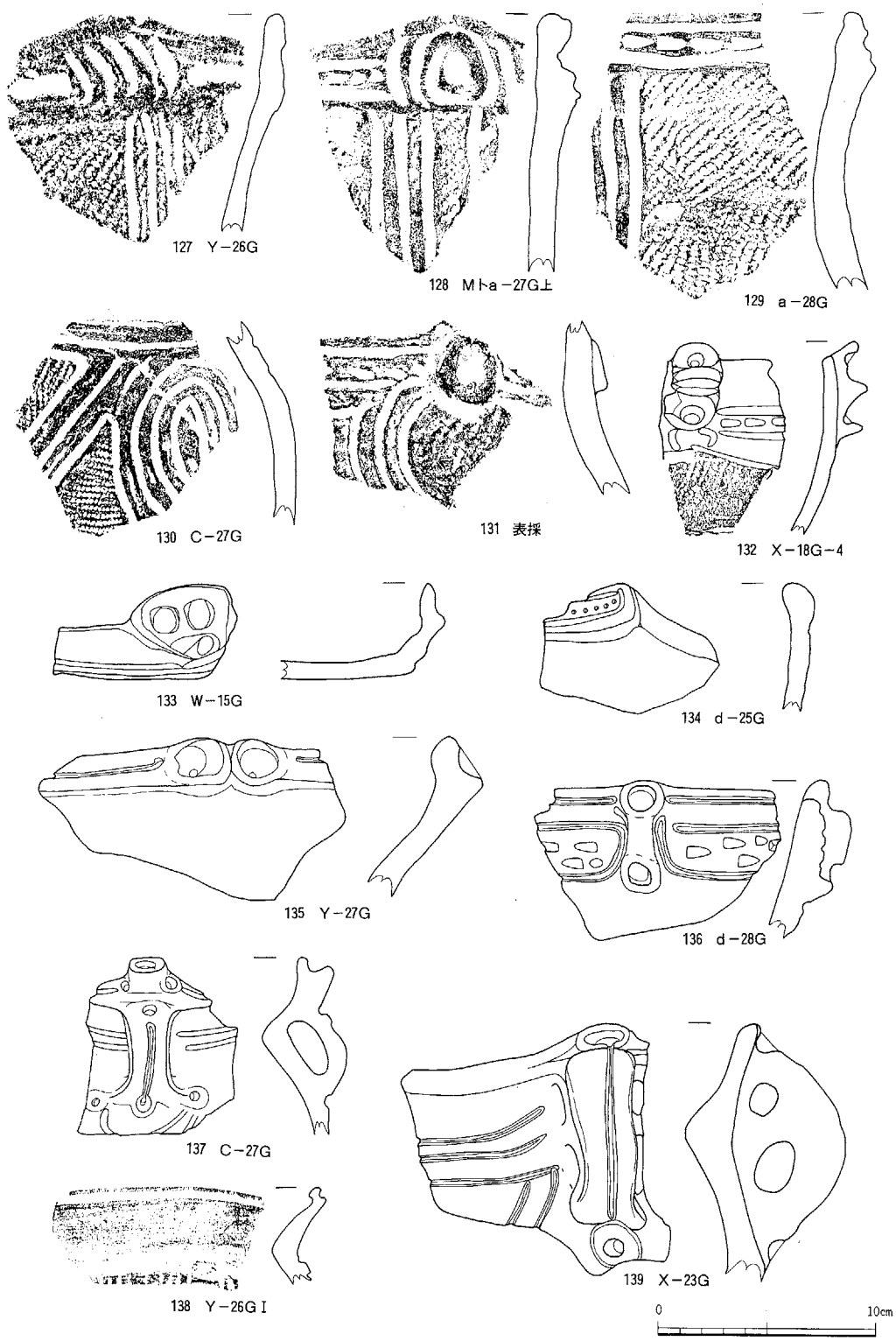
第266図　グリッド出土遺物（7）



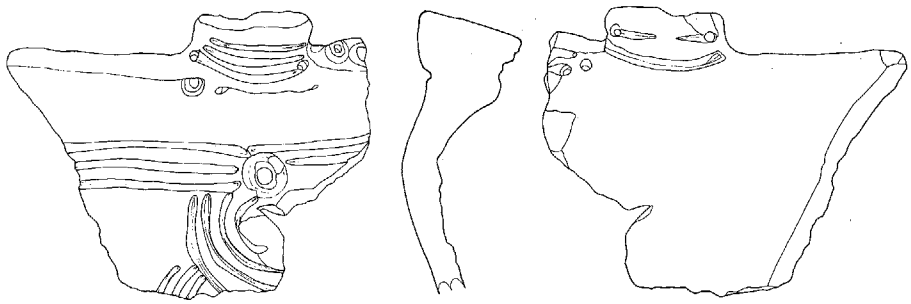
第267図　グリッド出土遺物（8）



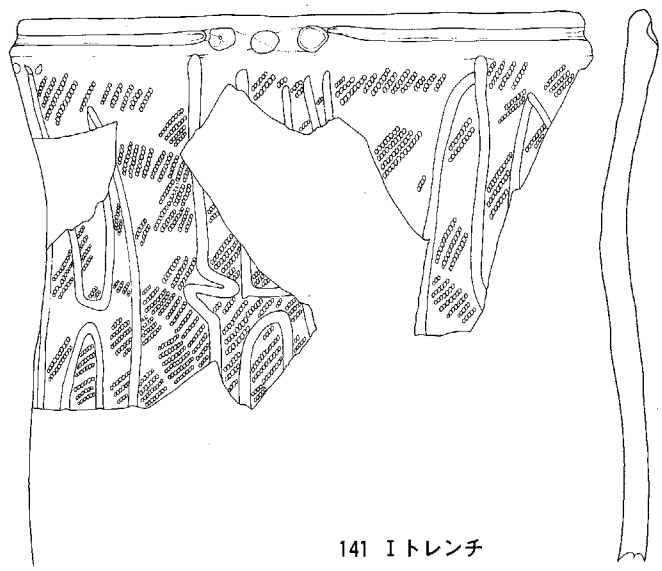
第268図　グリッド出土遺物（9）



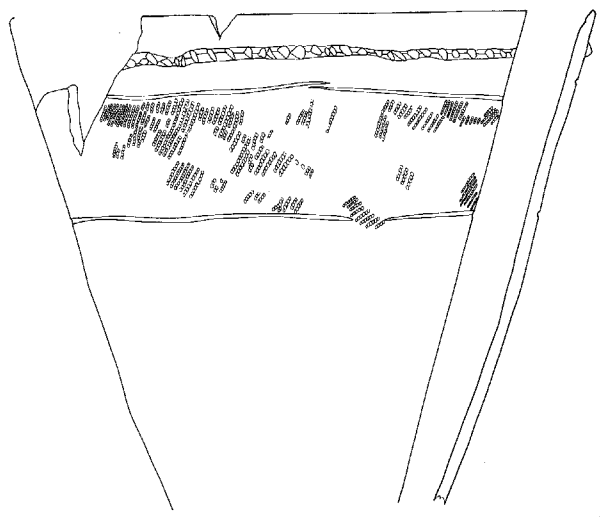
第269図　グリッド出土遺物（10）



140 W-18G



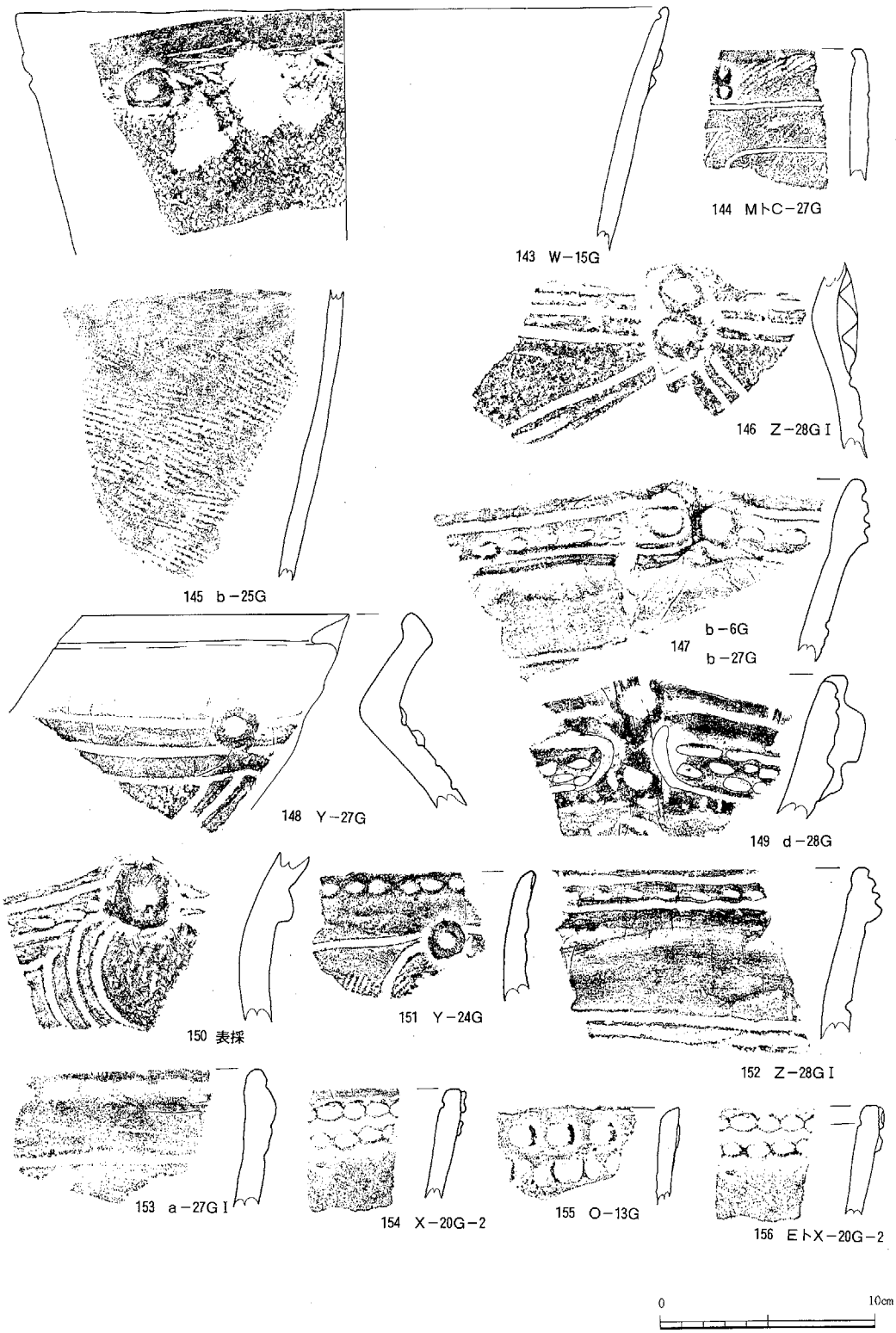
141 Ⅰトレンチ



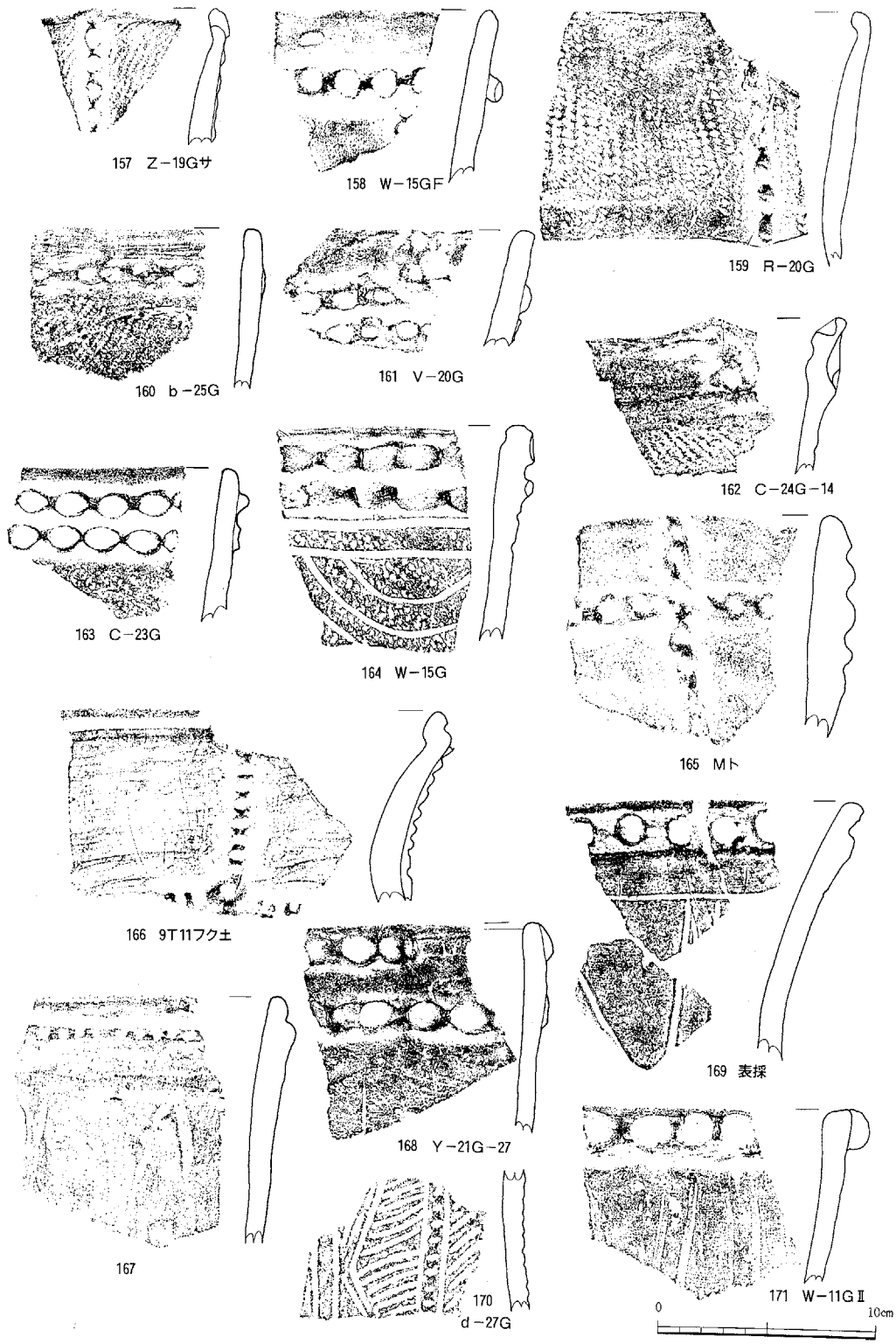
142 GTZ-26G上

0 10cm

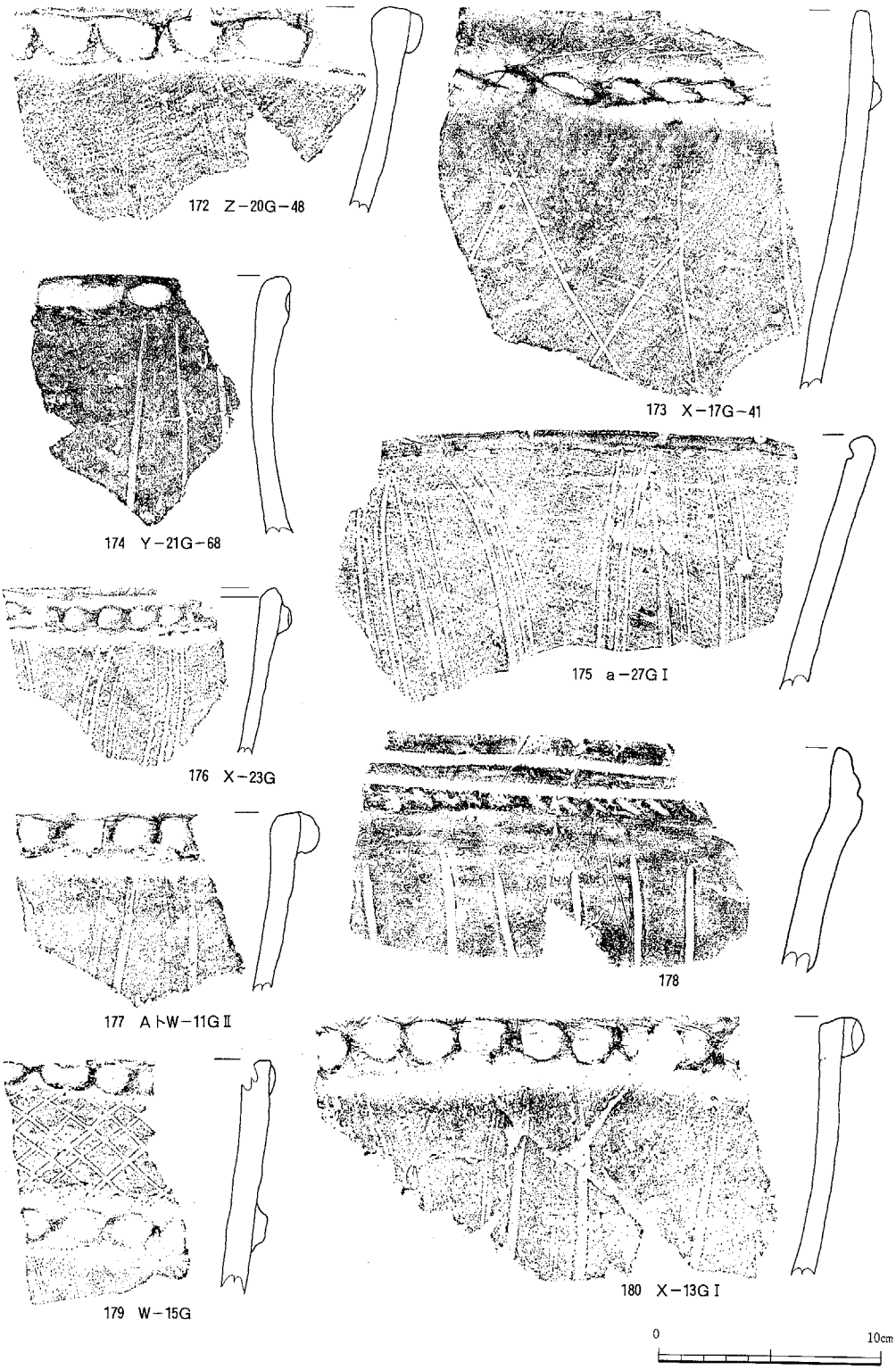
第270図　グリッド出土遺物（11）



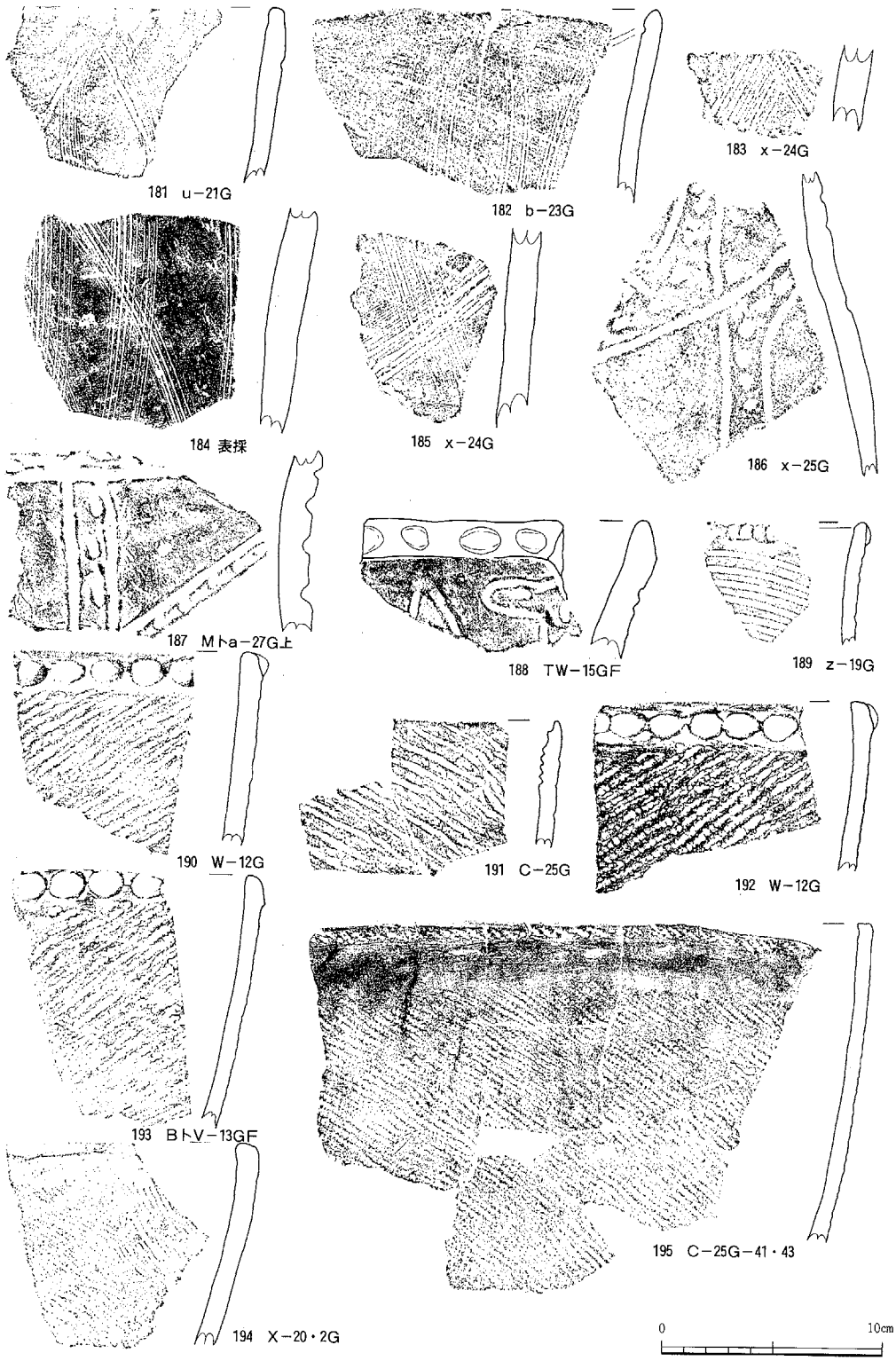
第271図　グリッド出土遺物（12）



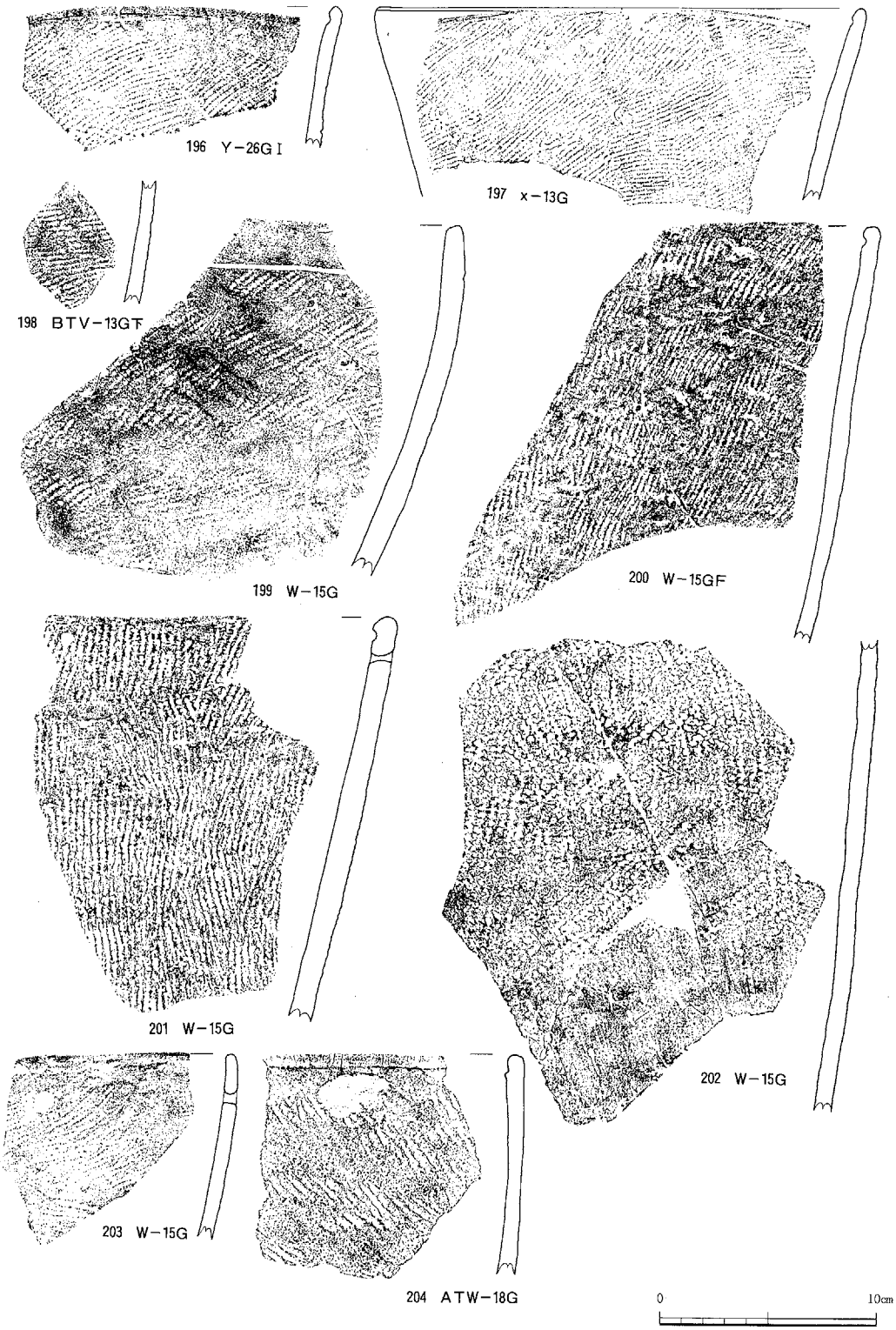
第272図　グリッド出土遺物（13）



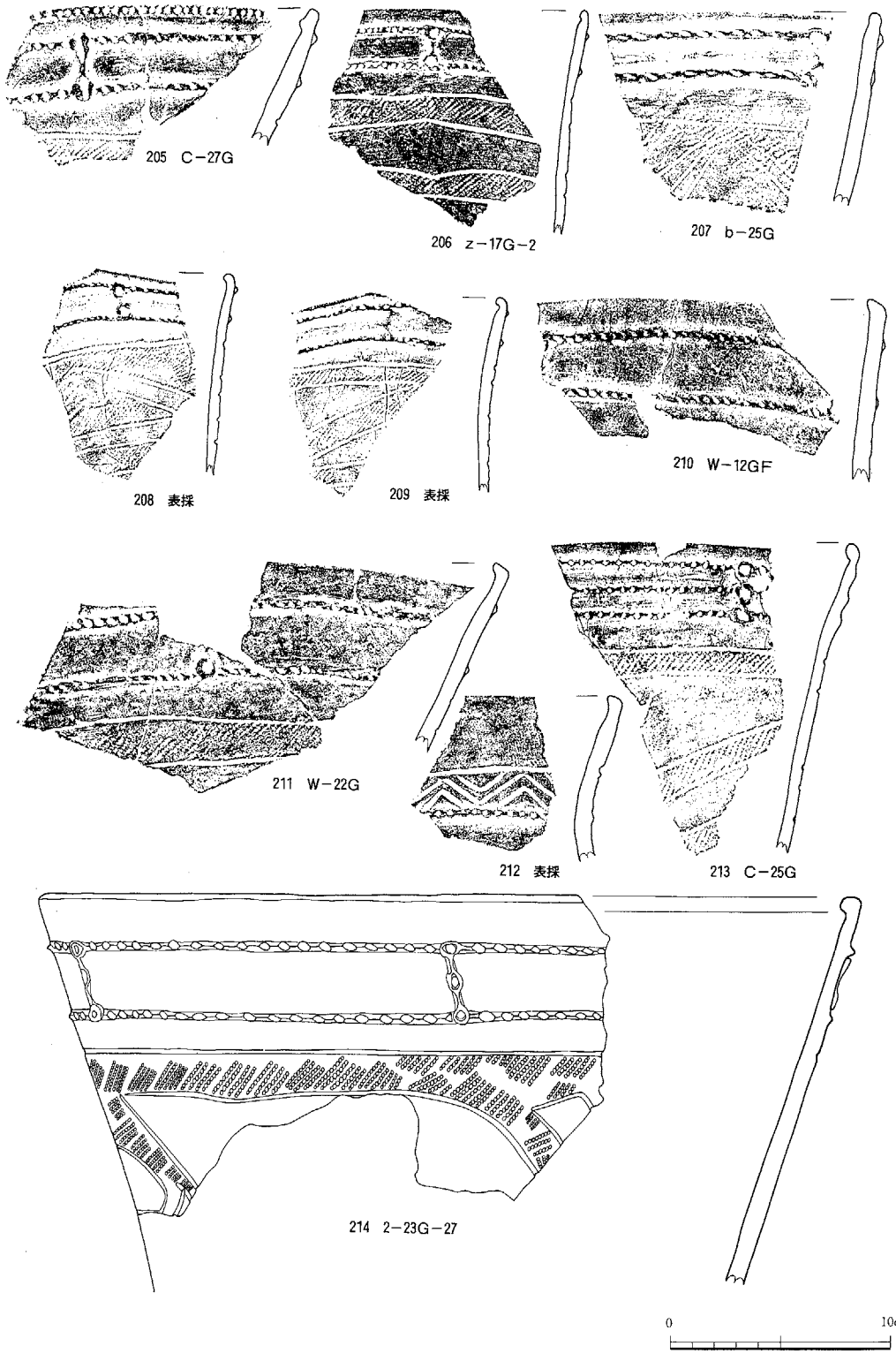
第273図　グリッド出土遺物（14）



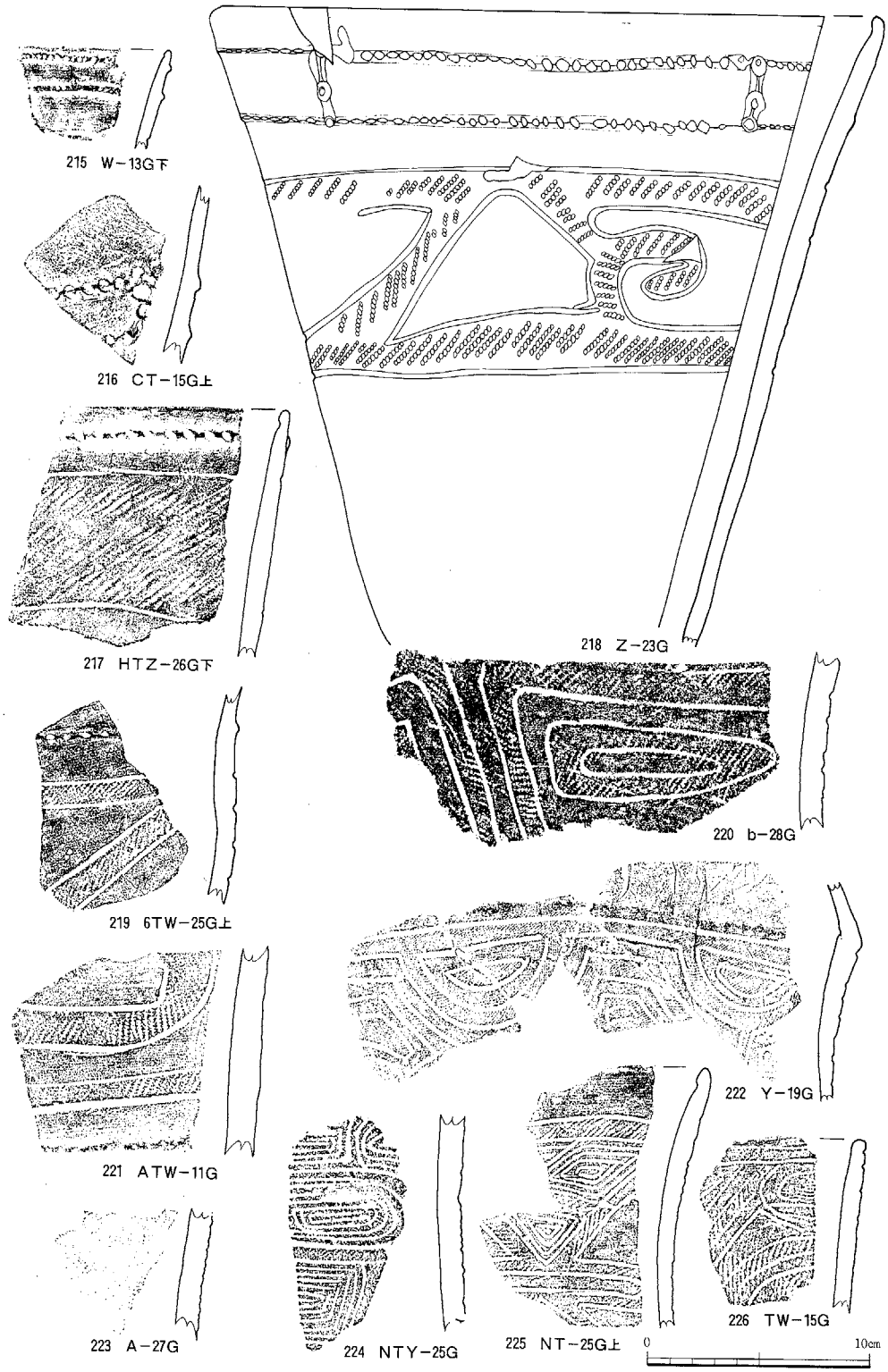
第274図　グリッド出土遺物（15）



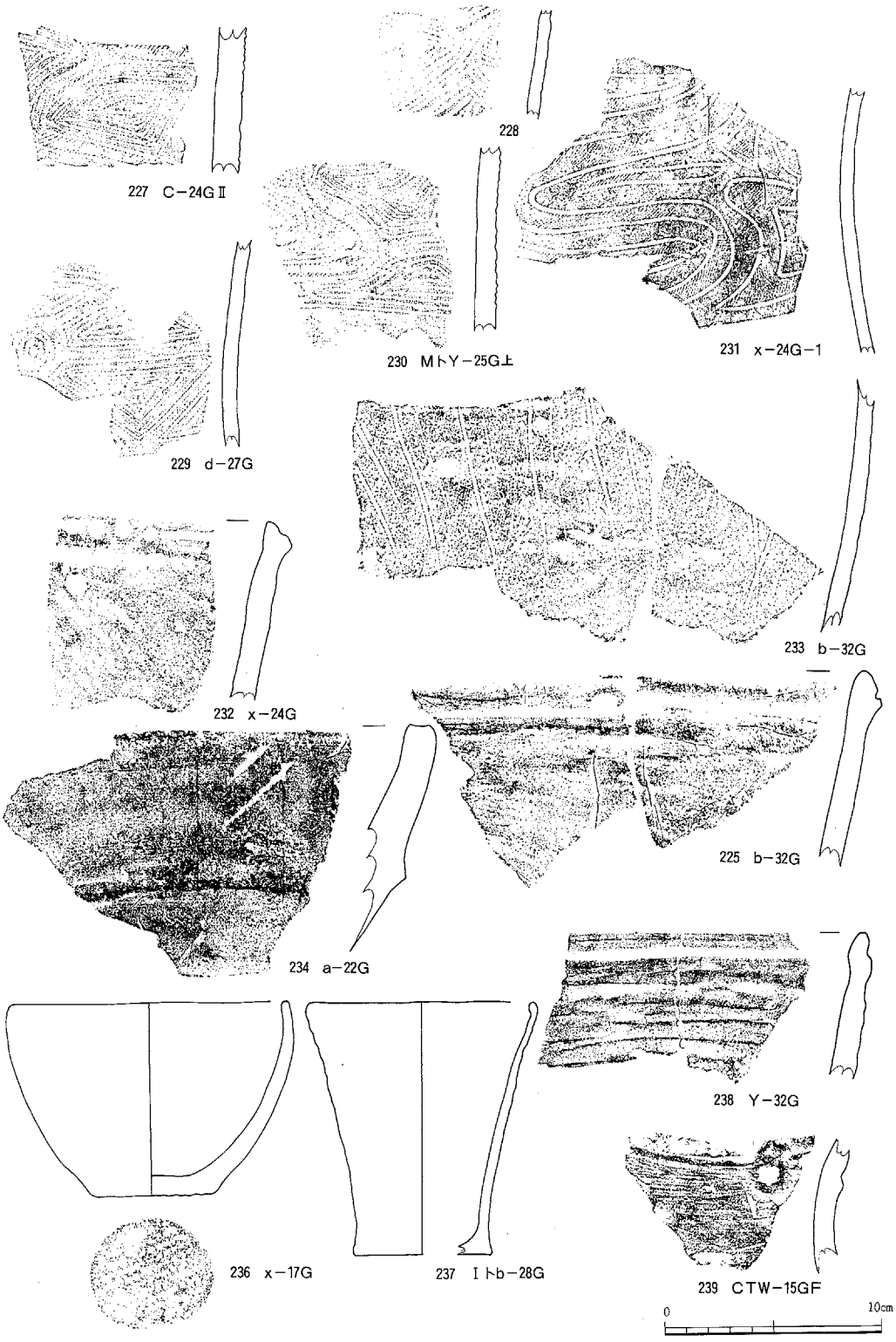
第275図　グリッド出土遺物（16）



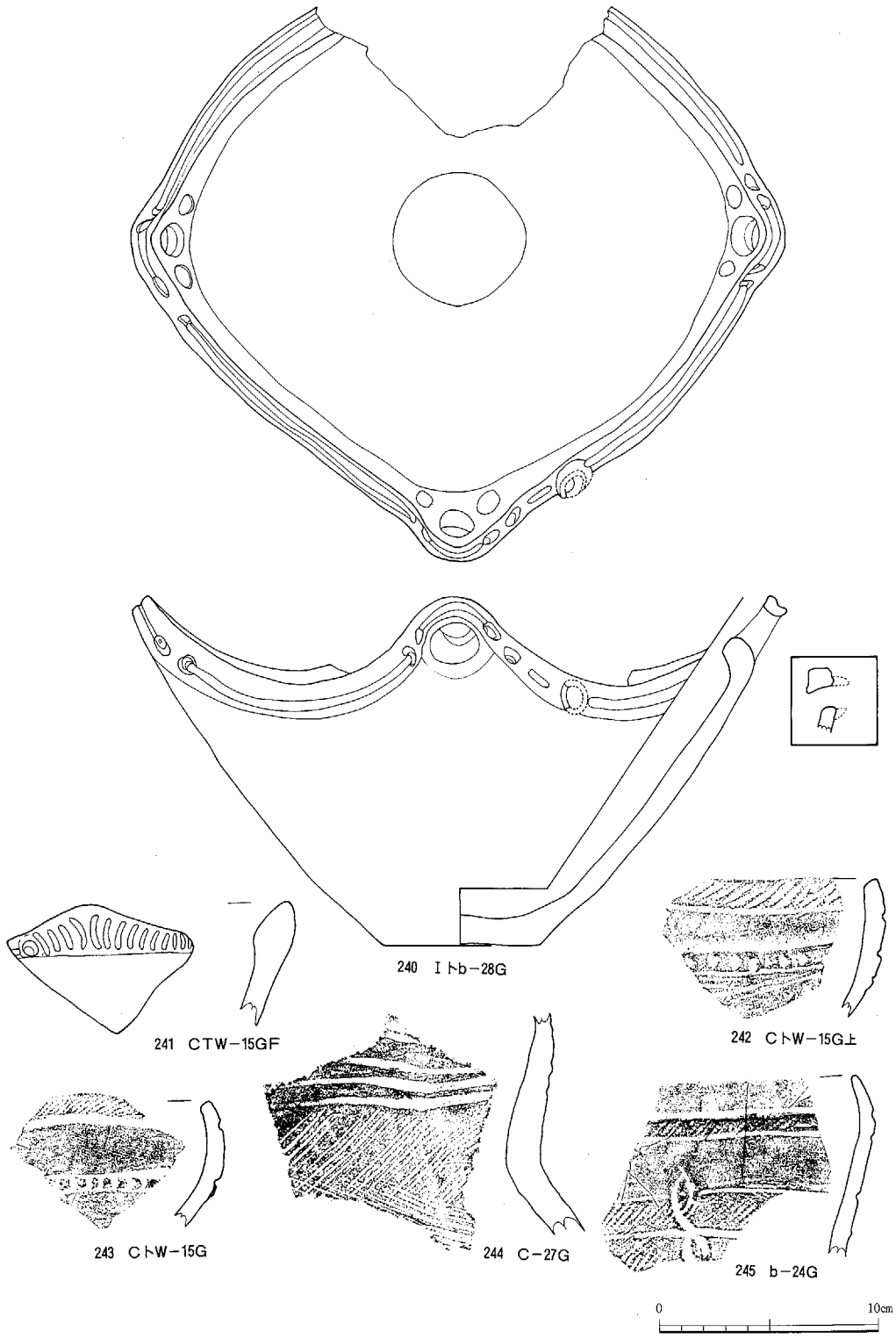
第276図　グリッド出土遺物（17）



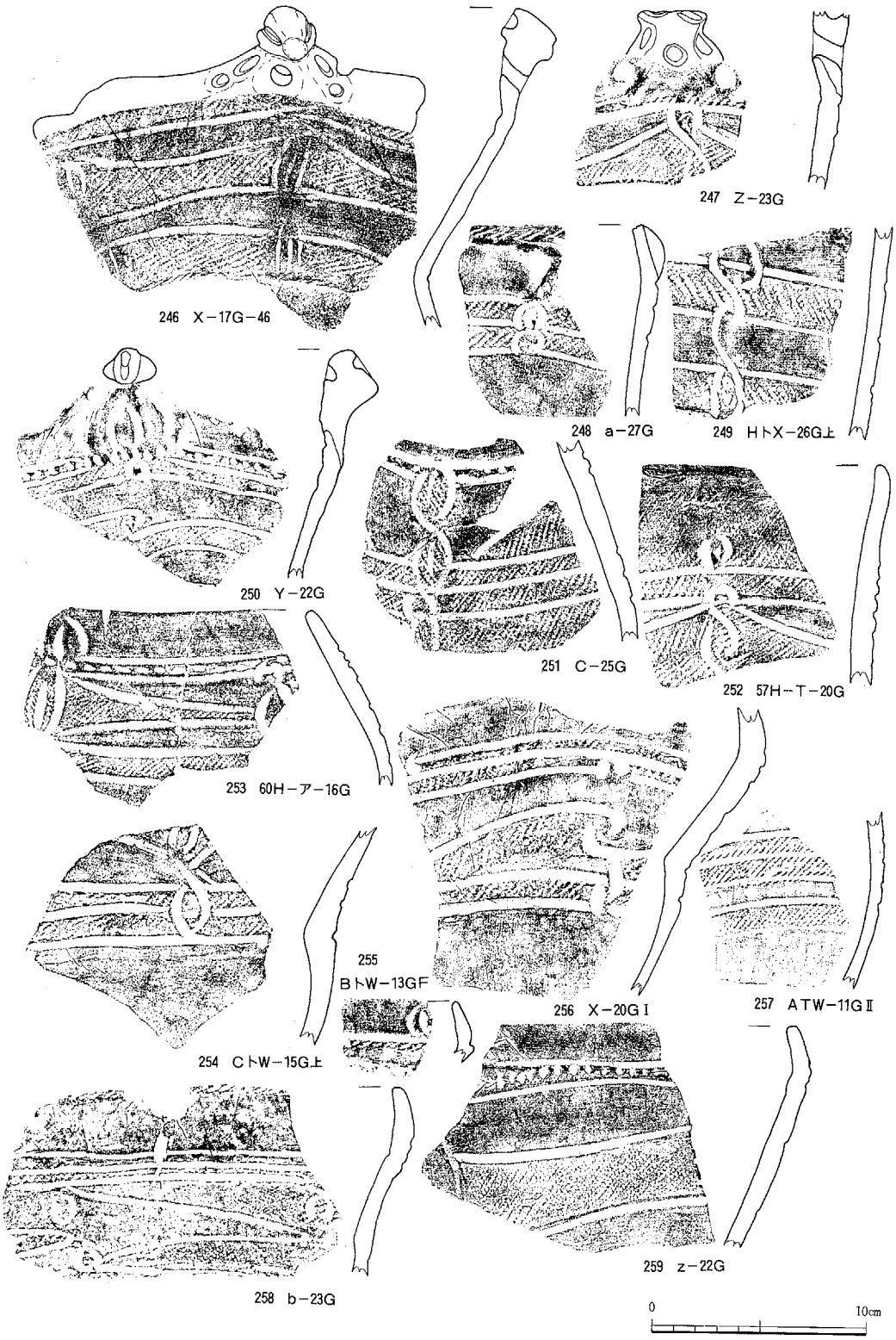
第277図　グリッド出土遺物（18）



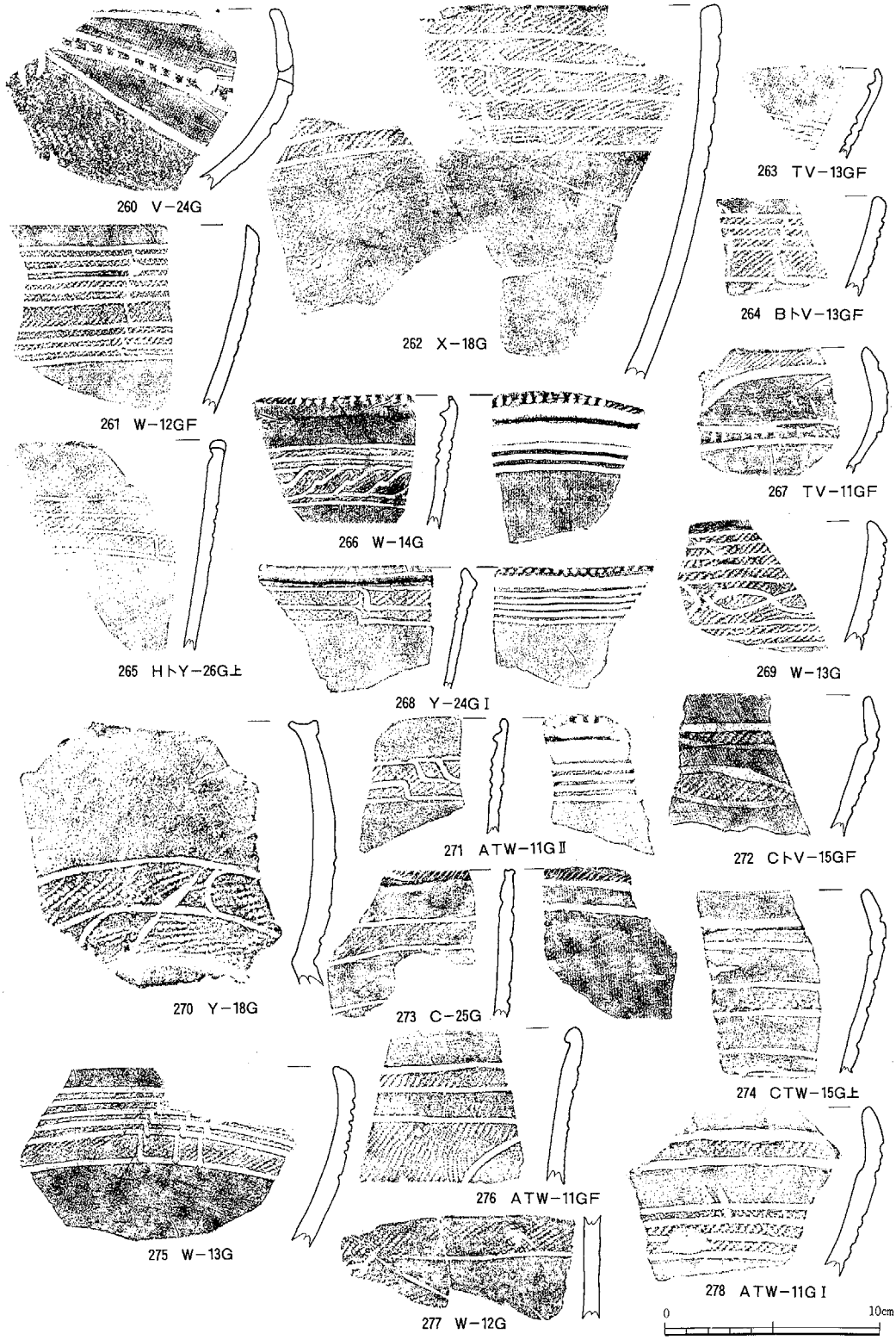
第278図　グリッド出土遺物（19）



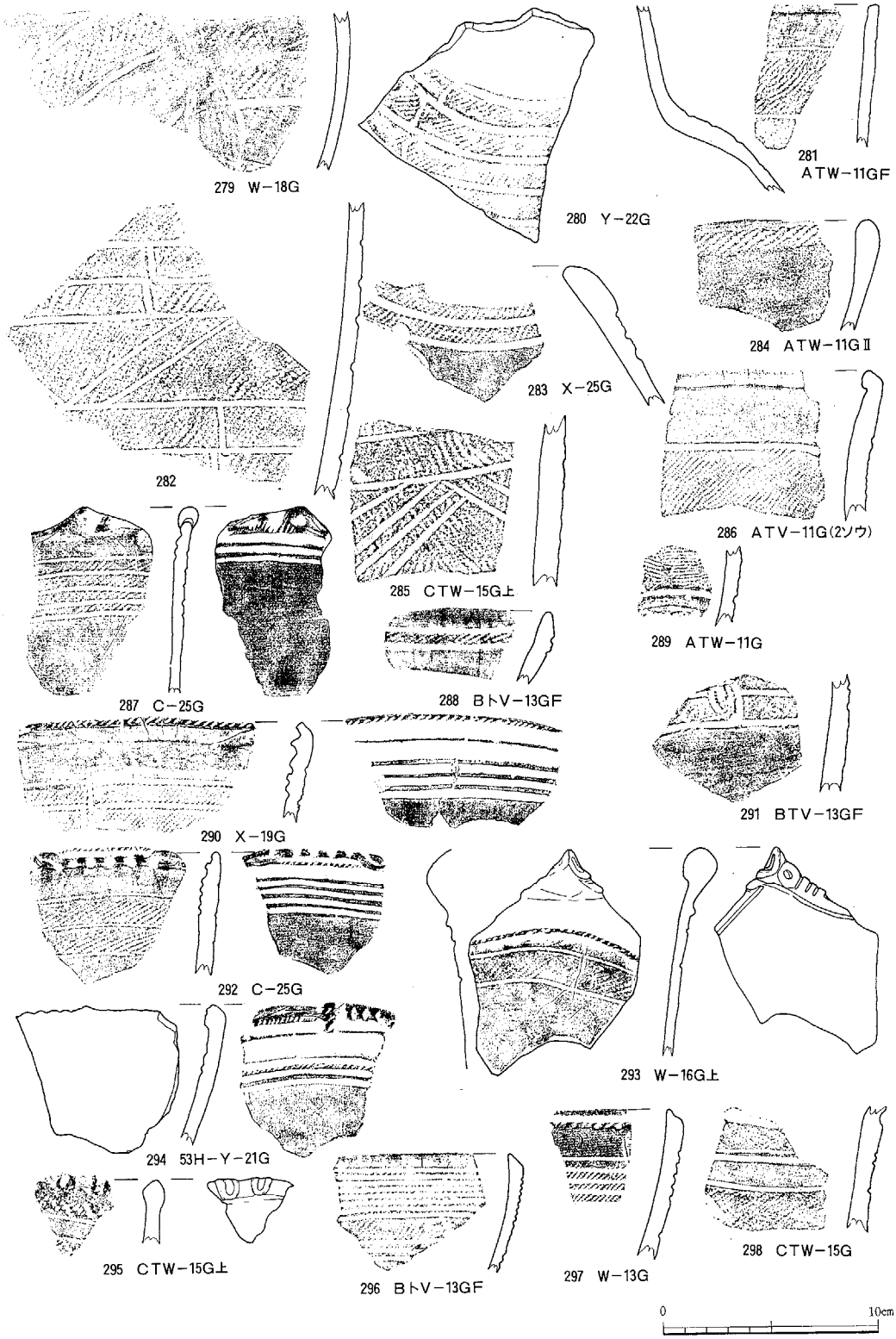
第279図　グリッド出土遺物（20）



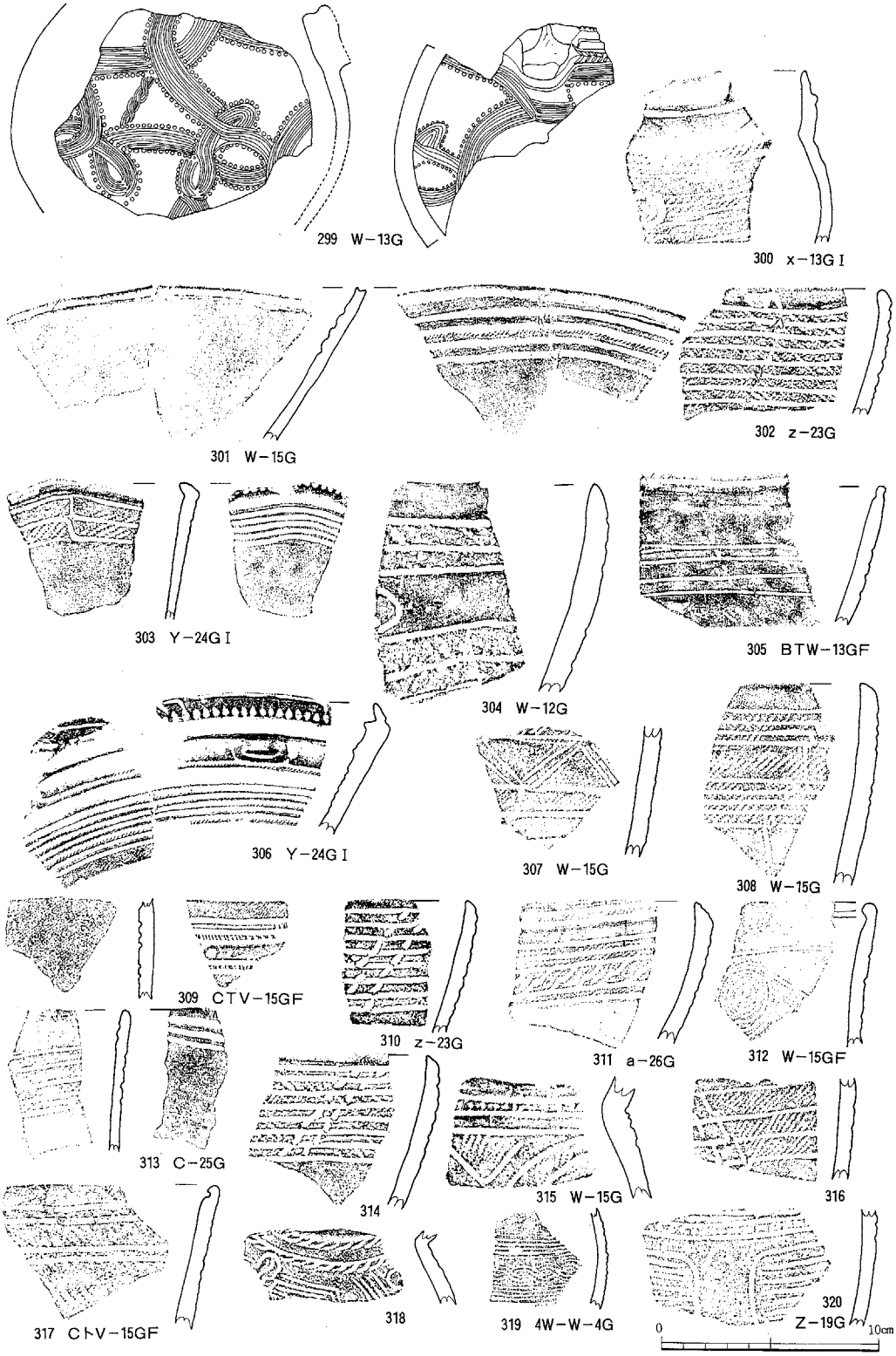
第280図　グリッド出土遺物（21）



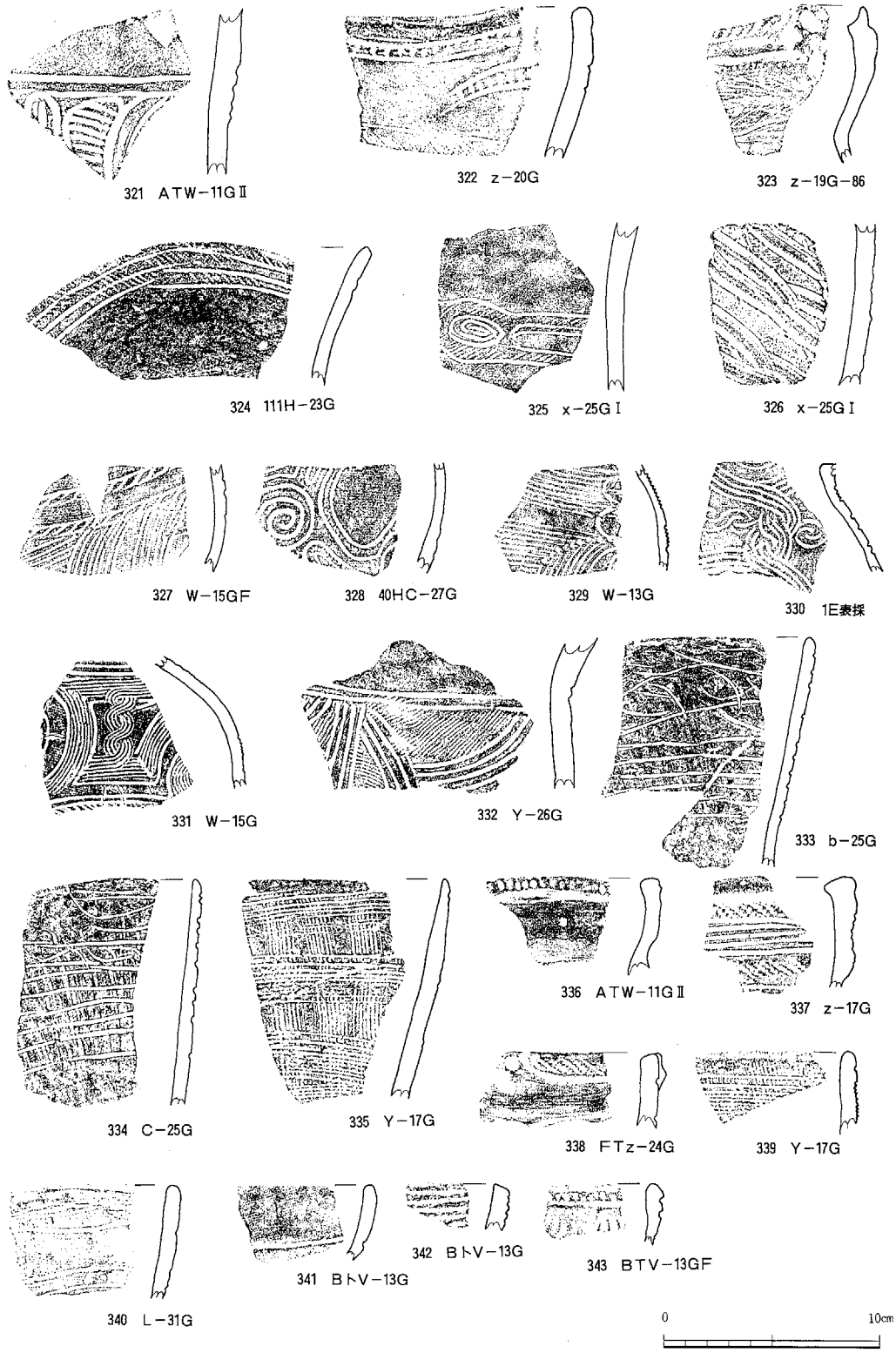
第281図　グリッド出土遺物（22）



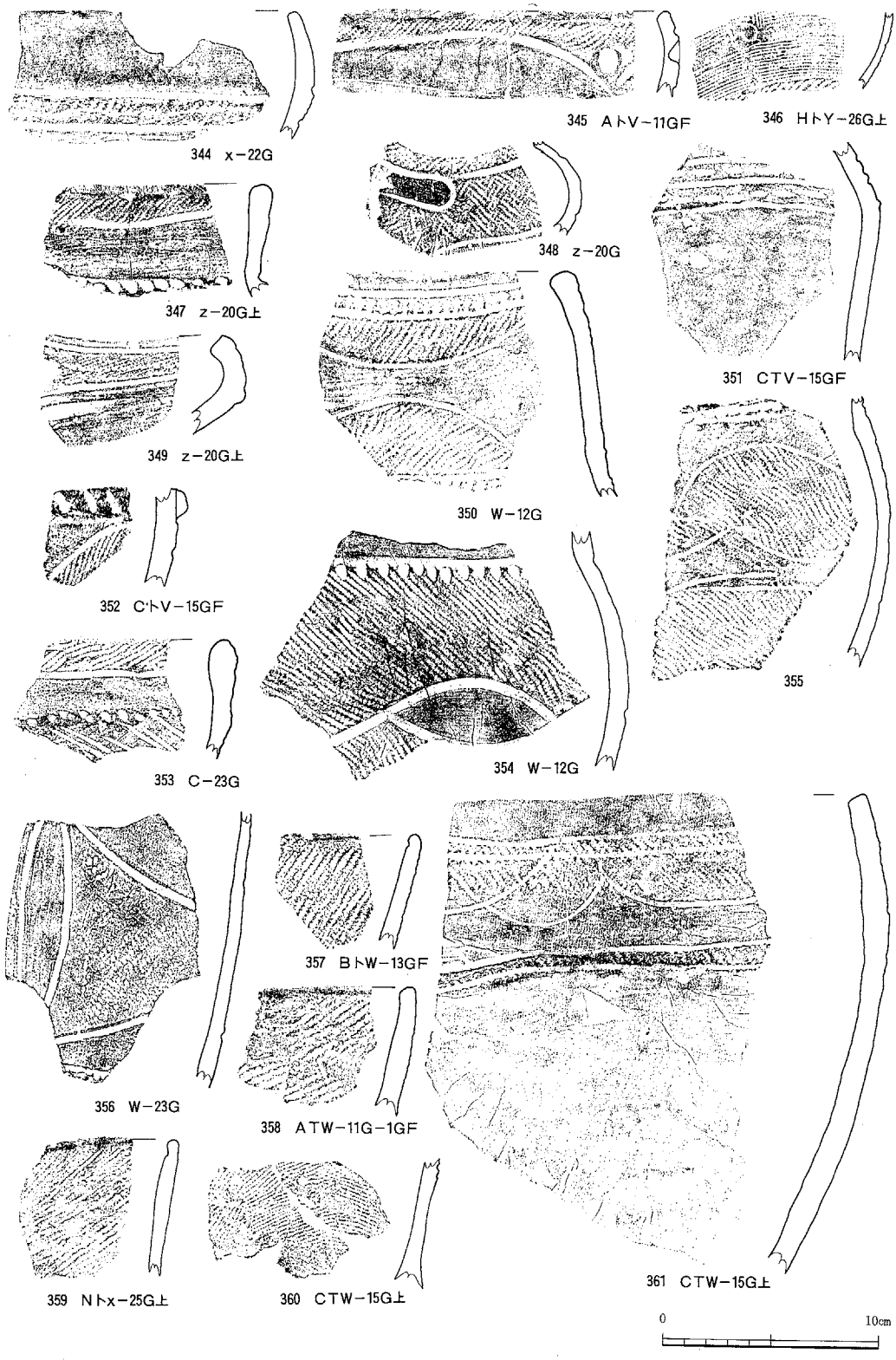
第282図　グリッド出土遺物（23）



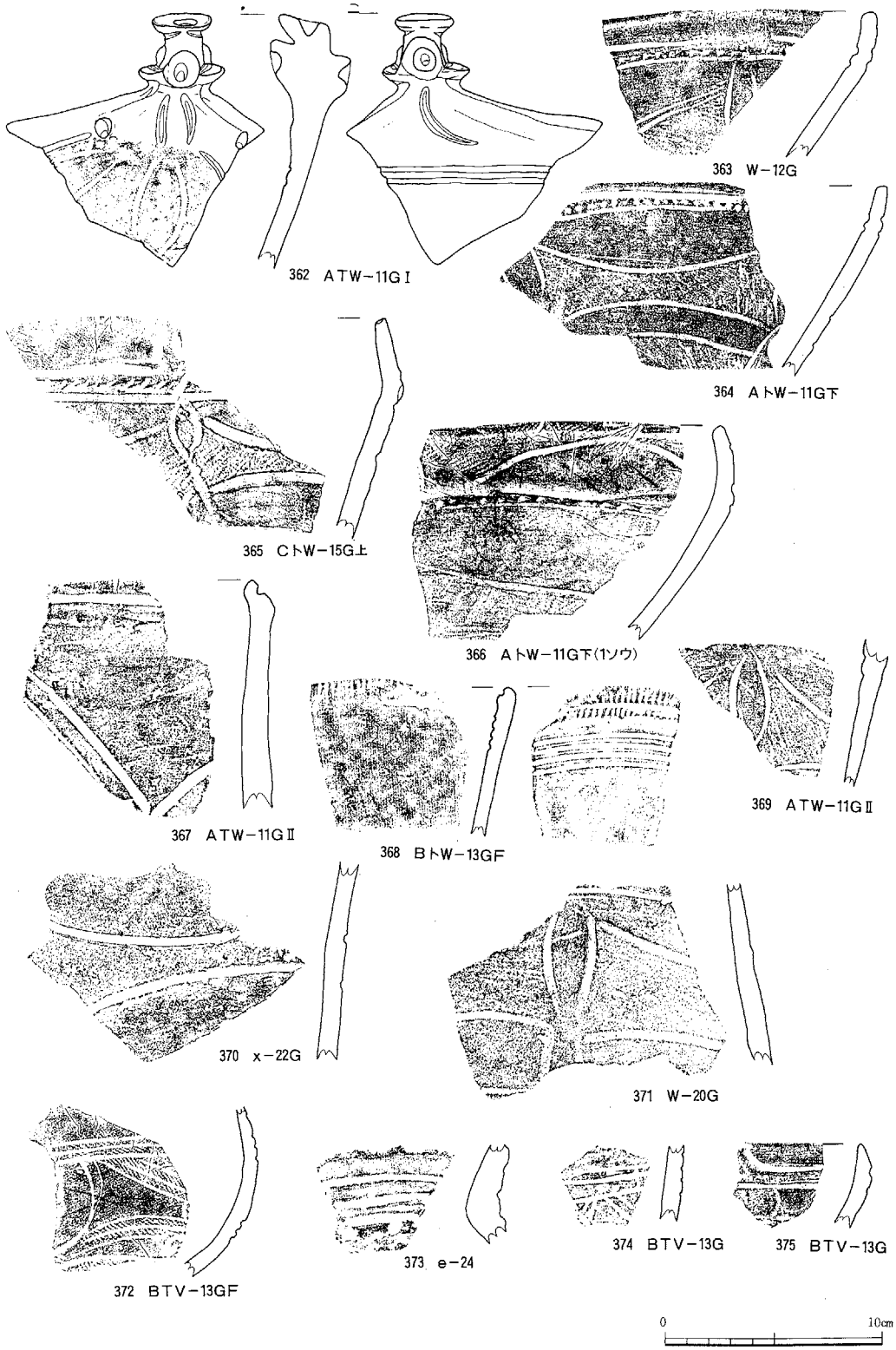
第283図　グリッド出土遺物（24）



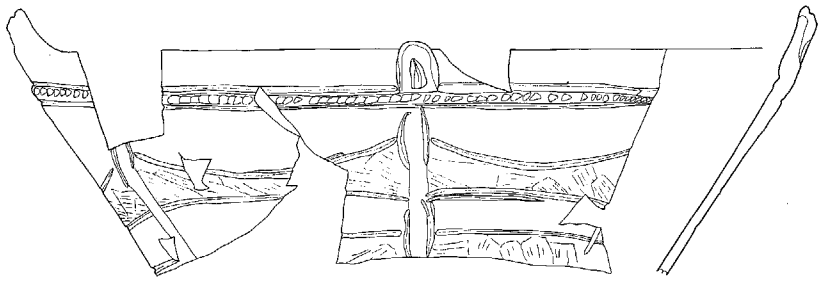
第284図　グリッド出土遺物（25）



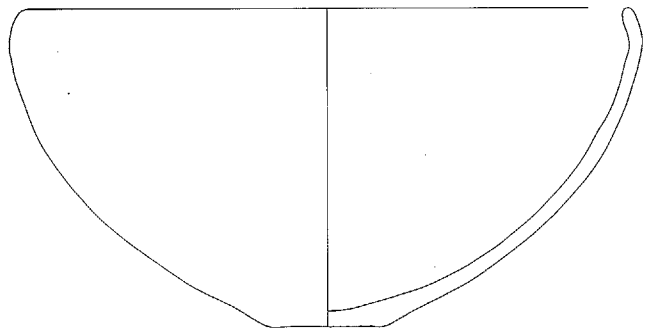
第285図　グリッド出土遺物（26）

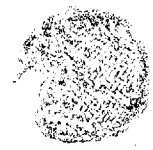


第286図　グリッド出土遺物（27）

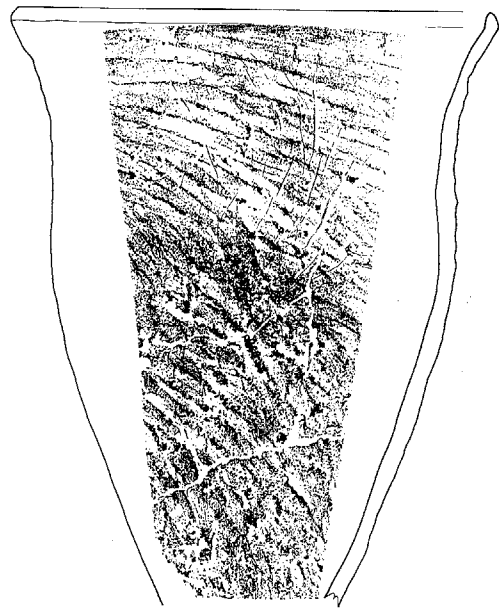


376 NTX-25GI





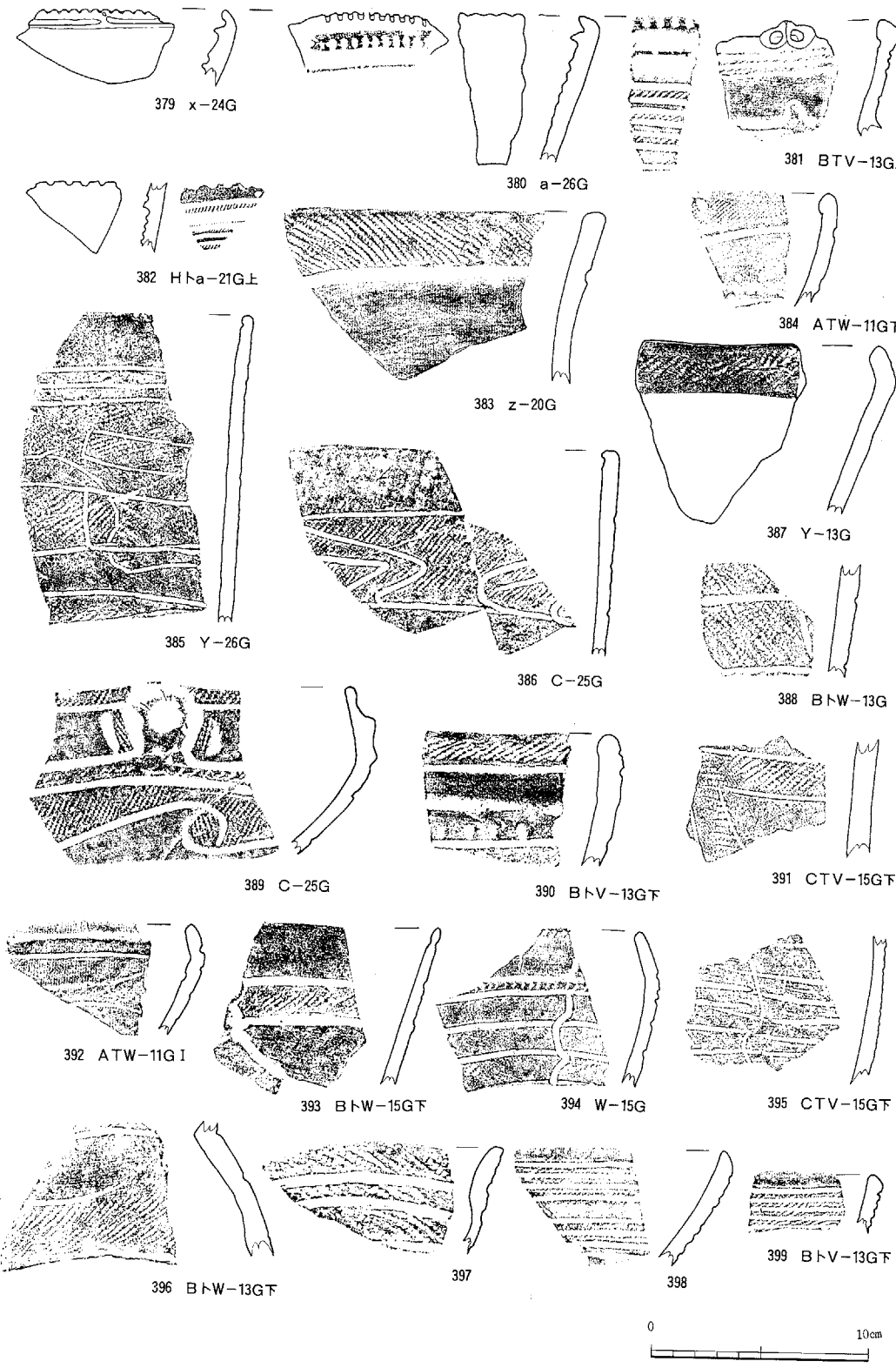
X-17G-47 377



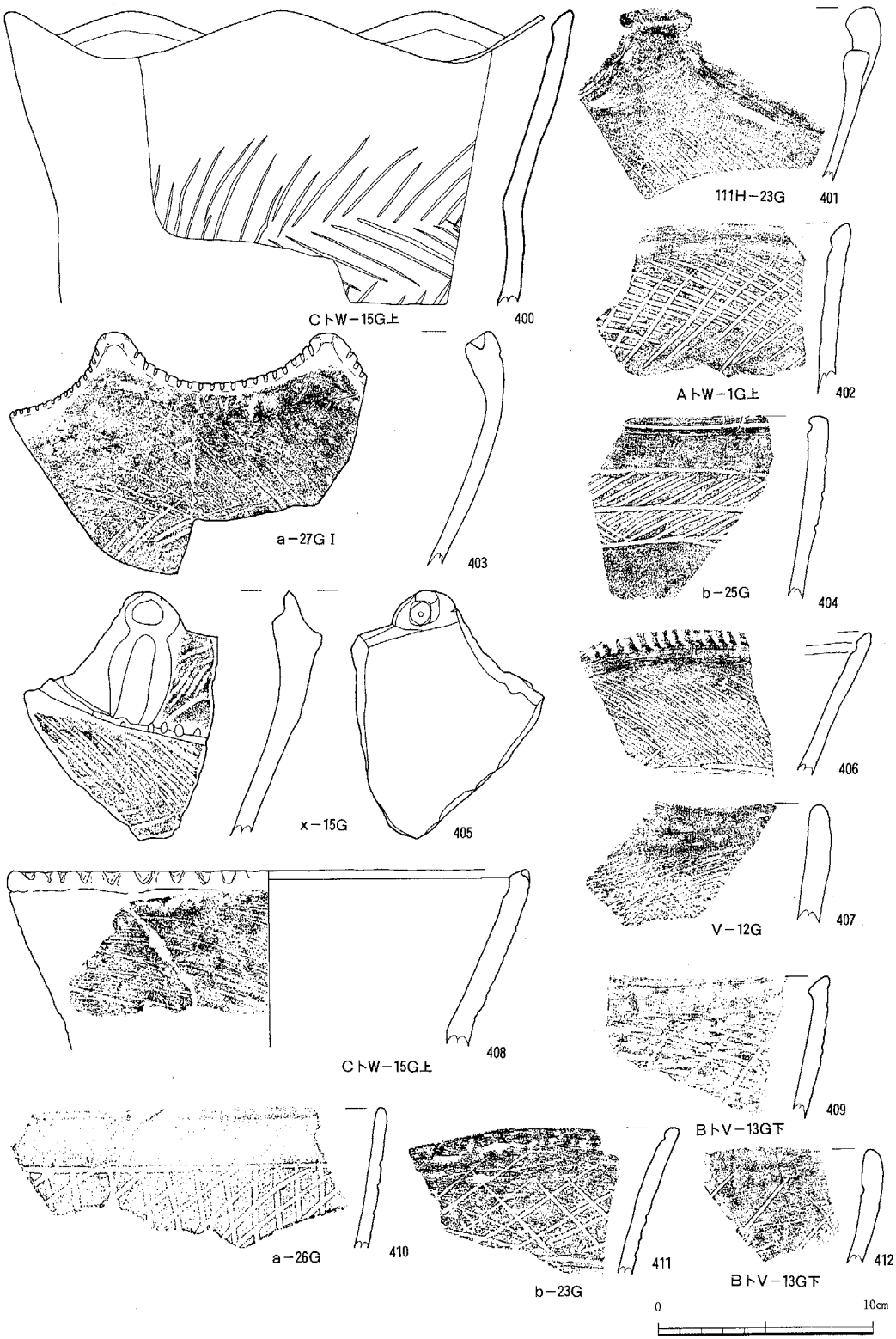
0 10cm

3T 378

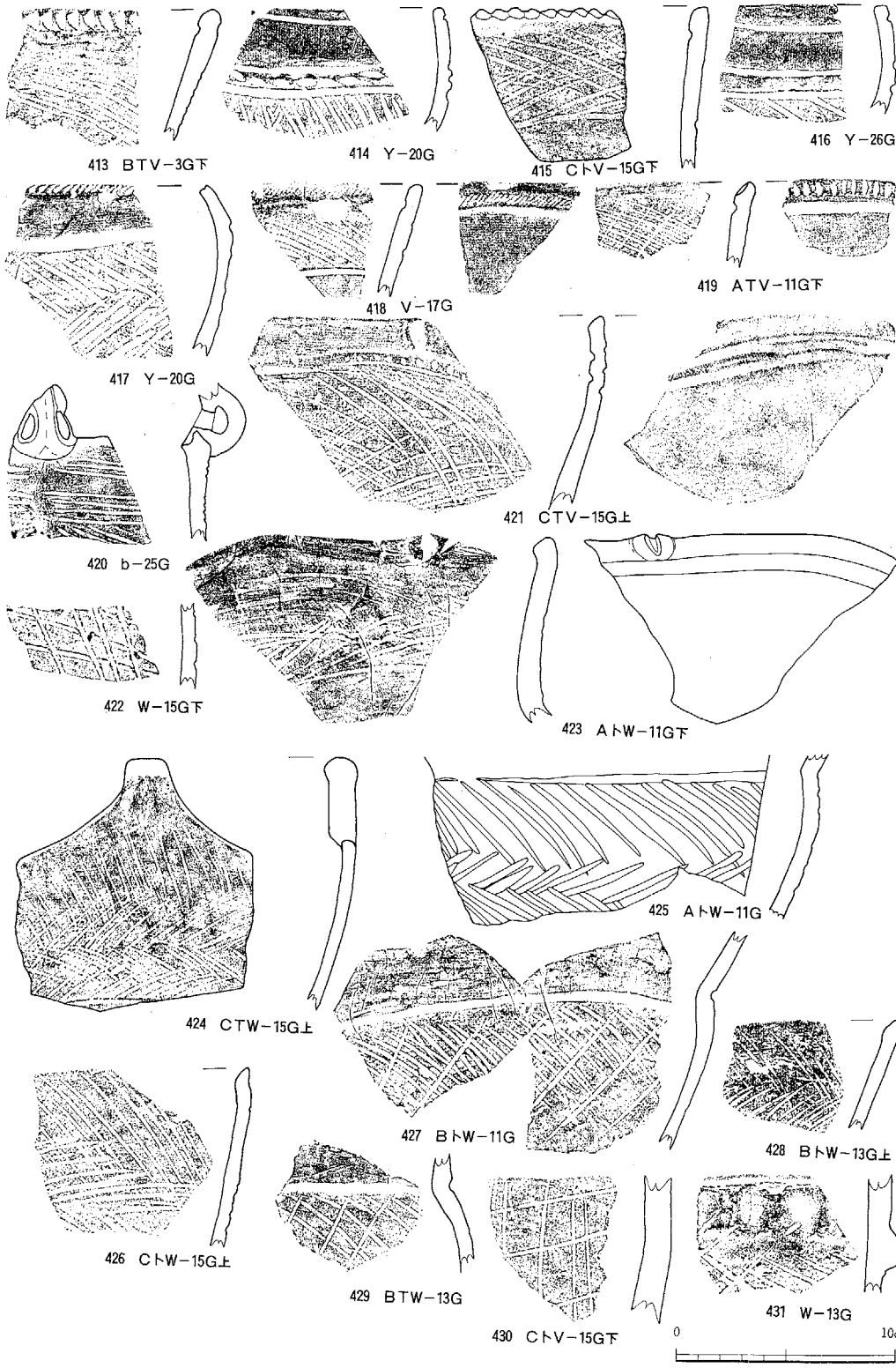
第287図　グリッド出土遺物（28）



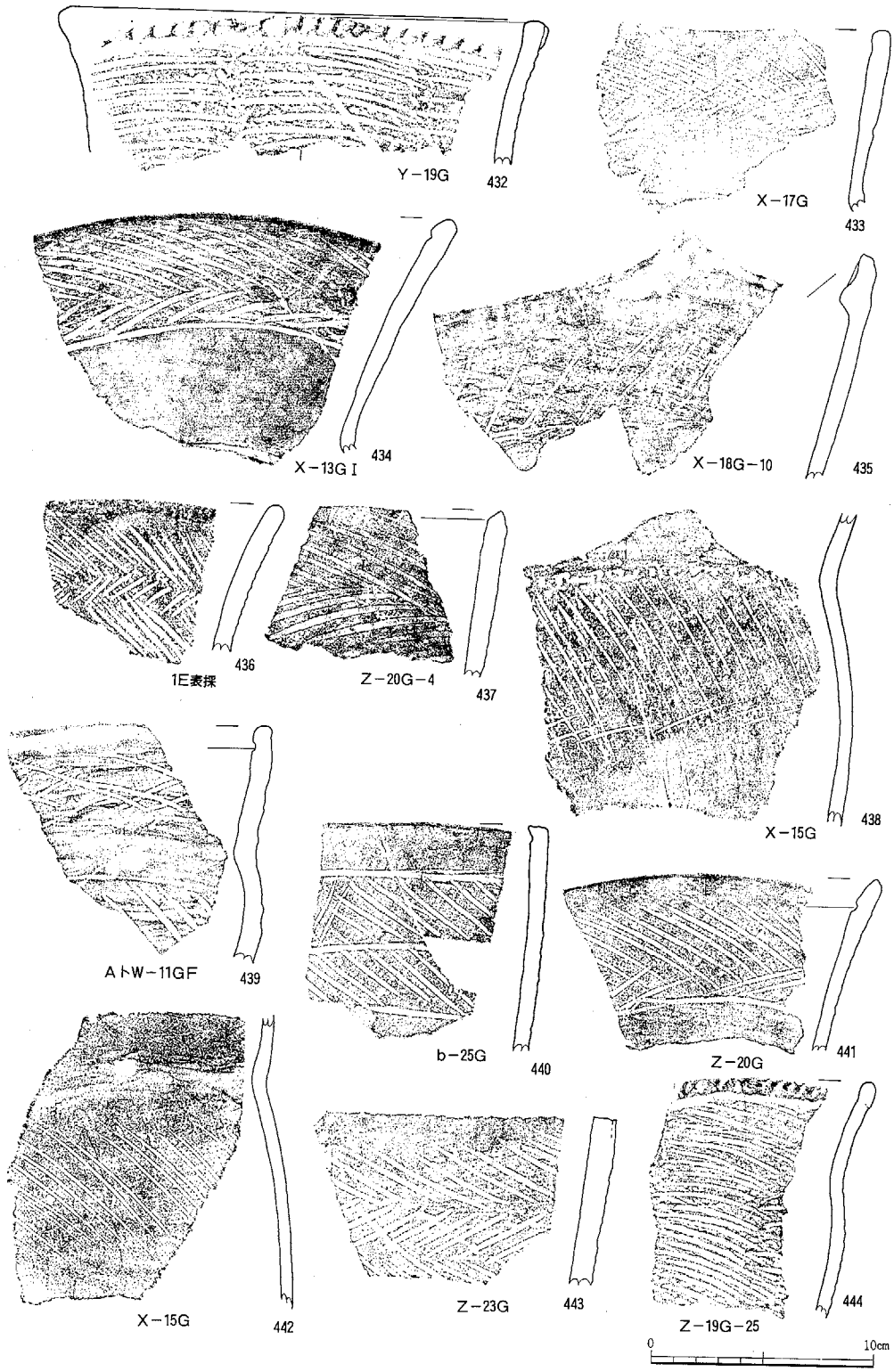
第288図　グリッド出土遺物（29）



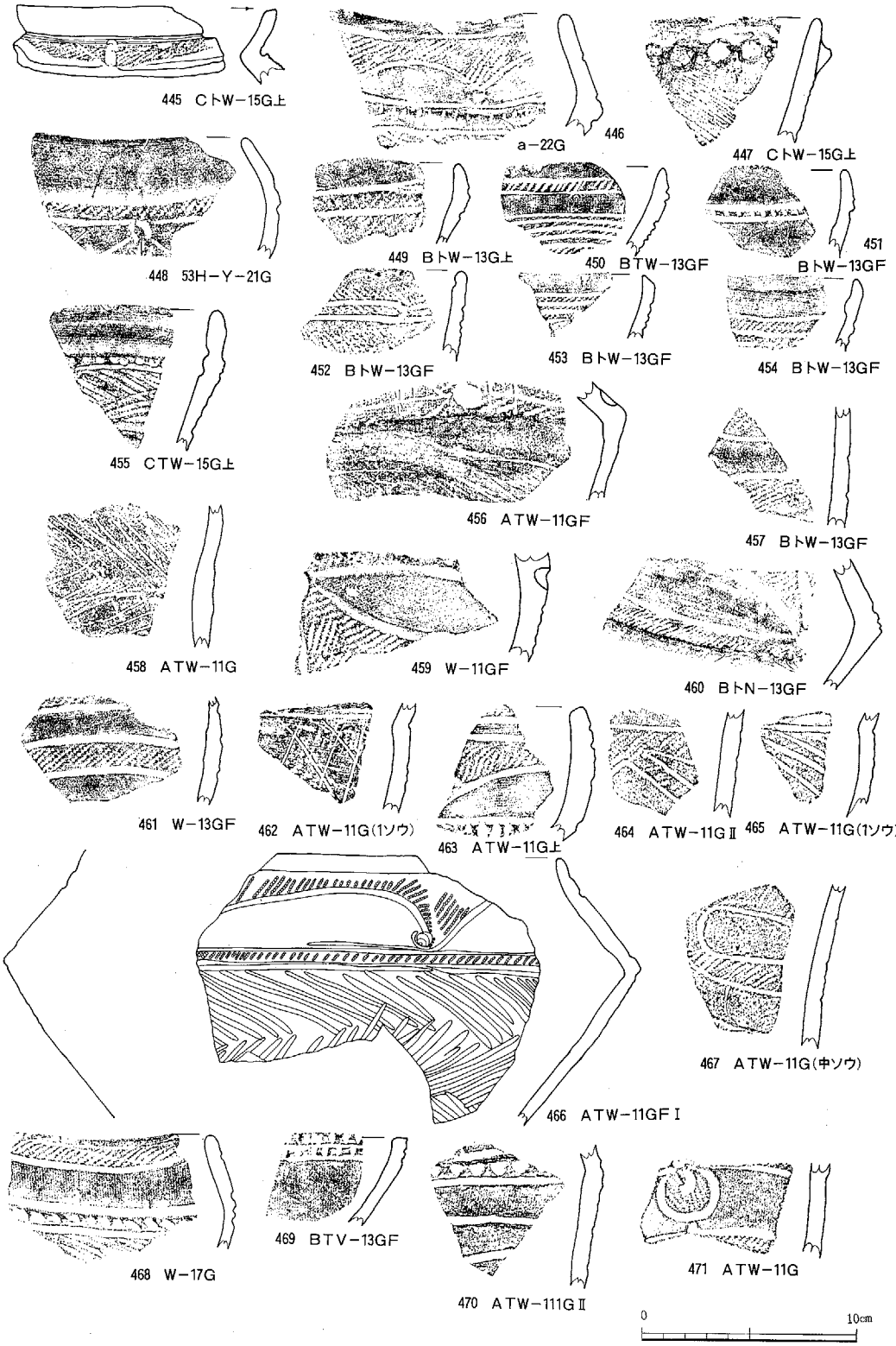
第289図　グリッド出土遺物（30）



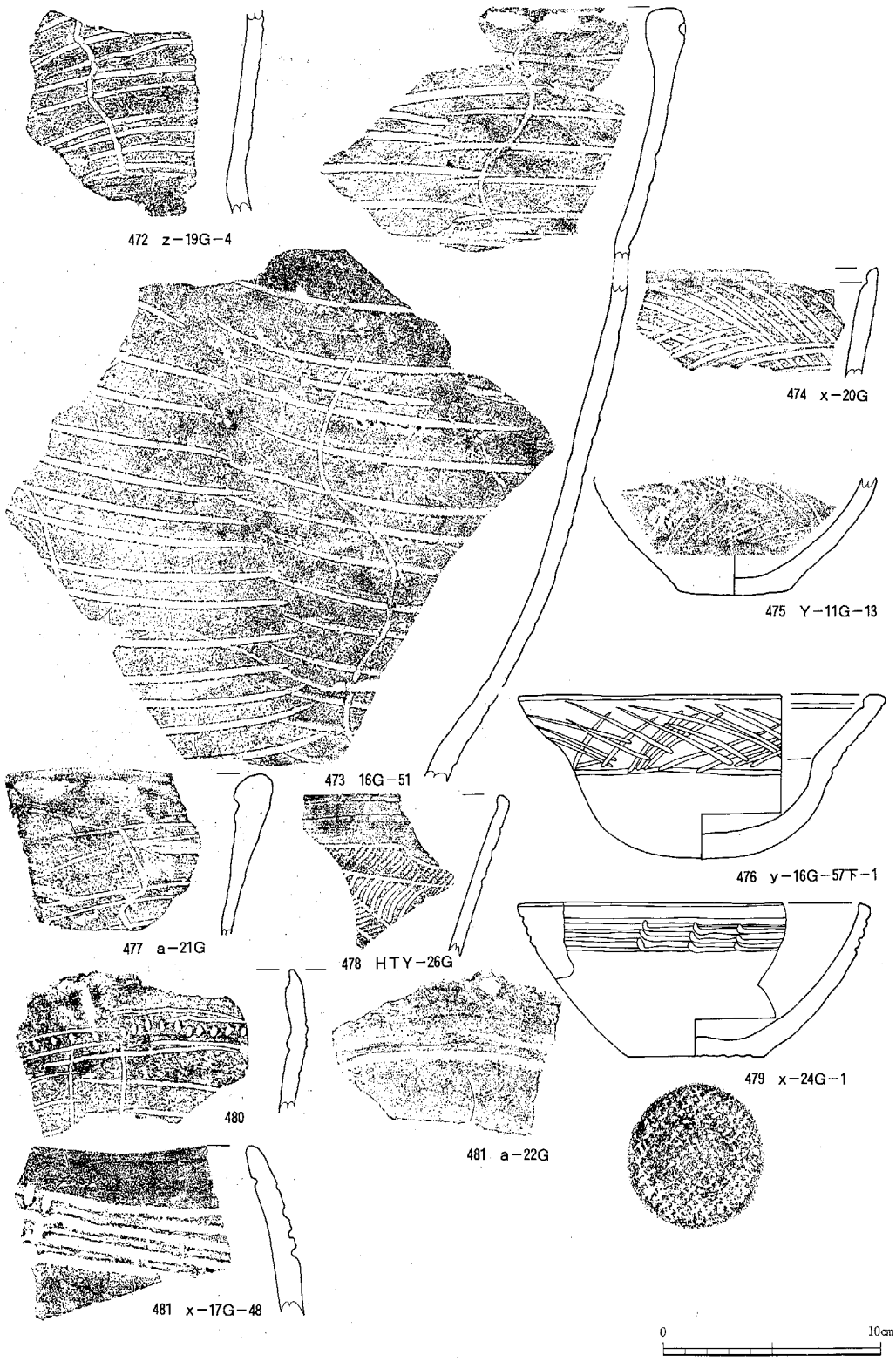
第290図　グリッド出土遺物（31）



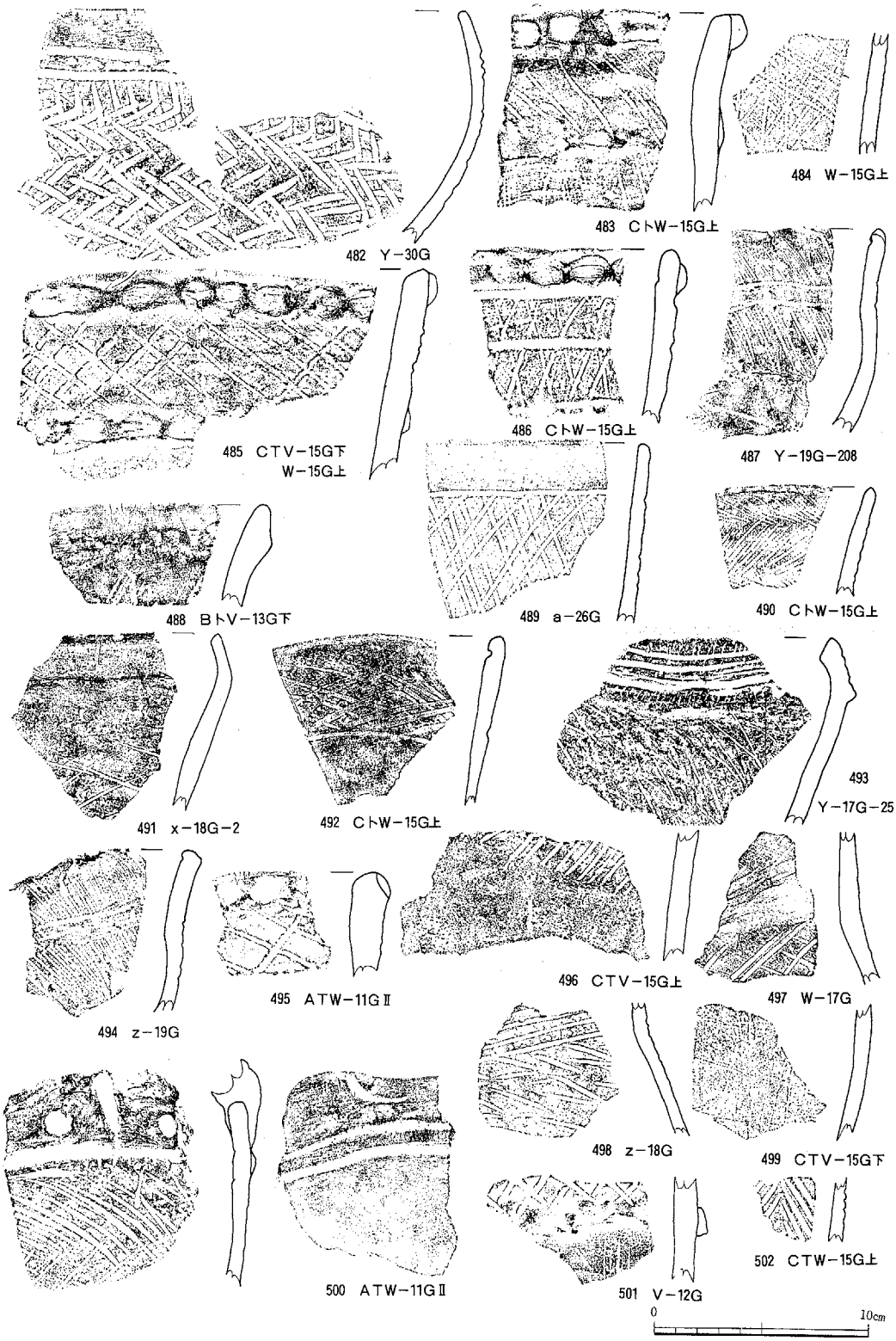
第291図　グリッド出土遺物（32）



第292図　グリッド出土遺物（33）



第293図　グリッド出土遺物（34）



第294図　グリッド出土遺物（35）

第５群（第266図　図版98～第275図）

堀之内１式土器を一括した。本遺跡の主体を占める土器群である。地文に縄文を施文する。沈線による懸垂文を施すものや渦巻き文を施す。243は浅鉢形土器である。復元の結果、完形に近い状態となった。波状口縁で完存はしていないが４単位の把手がつくものと思われる。口縁部に沈線を巡らし、間には刺突文を施す体部は内外共に丁寧なミガキが施される。

第６群（第276図205～第278図231）

堀之内２式土器を一括した。地文に縄文を施文し、幾何学な構図をとる。三角形や菱形、平行沈線で文様を施す。充填縄文と無文帯を構成する。

第７群（第279図243～第284図346）

加曾利Ｂ１式を一括した。本遺跡の主体を占める土器群である。平行沈線による区画文の中に単節LR縄文を充填する。

第８群（第280図259、第285図347～第288図399）

加曾利Ｂ２式を一括した。本遺跡の主体を占める土器群である。文様は沈線文が多用される。口縁部と胴部の境に平行沈線を巡らせその中にはキザミを施すもの。連弧文の中に単節LR、RL縄文を充填する。

第９群（第289図400～第298図579）

加曾利Ｂ３式を一括した。本遺跡の主体を占める土器群である。綾杉状の沈線を施す。　第10群（第300図、第301図　図版75、76）

安行式、新地式土器を一括した。589は新地１式である。瘤が付き微隆文を施す。

588～612は安行式の深鉢形土器、口縁部の破片を集めた。

その他（第302図～第306図）

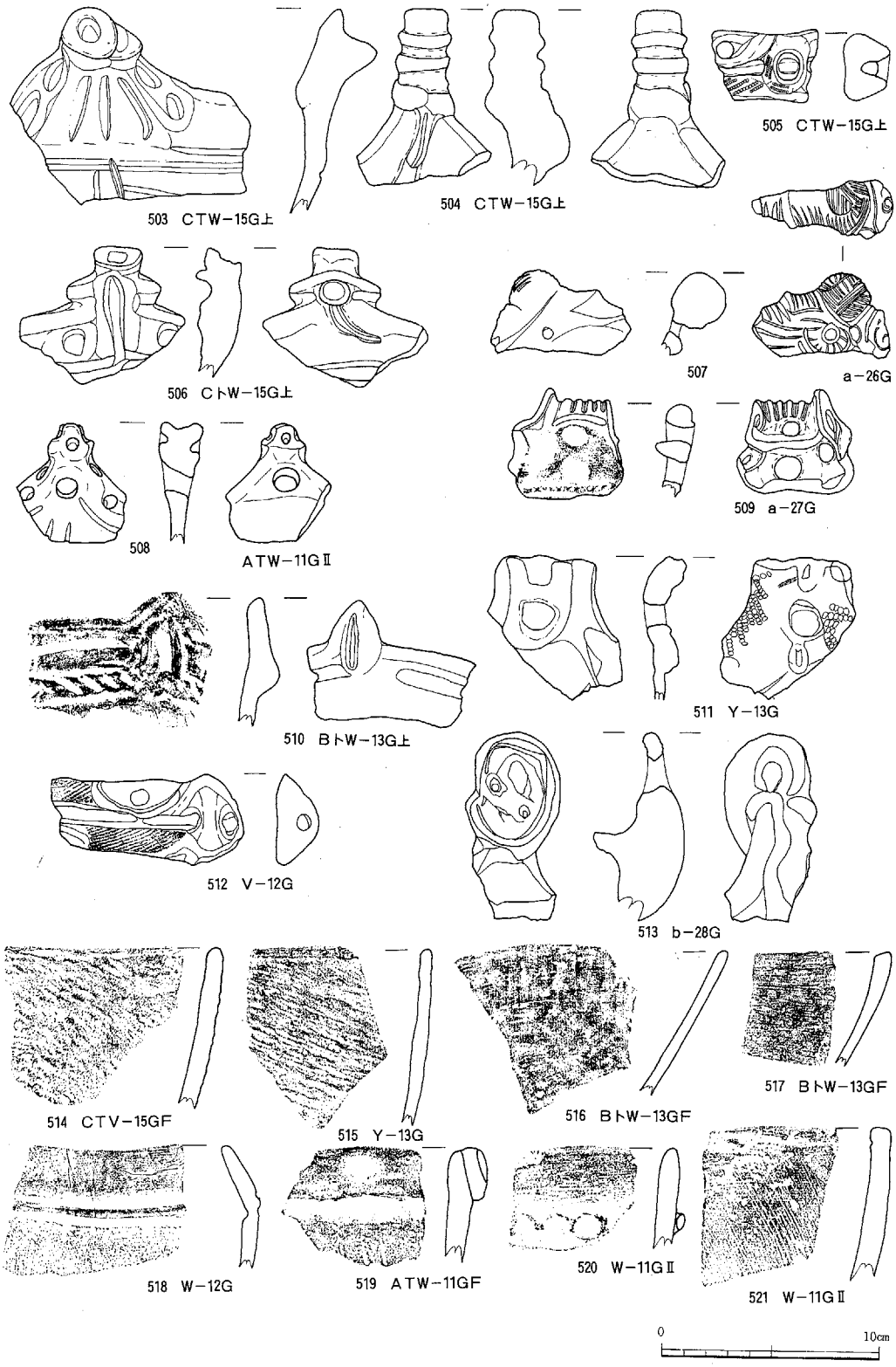
613～629は底部の圧痕を集めた。631～653、654は注口土器とその破片を集めた。662は盤である。658～661、663～665は特殊突起を集めた。667～673は土製円盤を集めた。674～689は赤彩土器を集めた。

土偶（第308、309図　図版78、79）

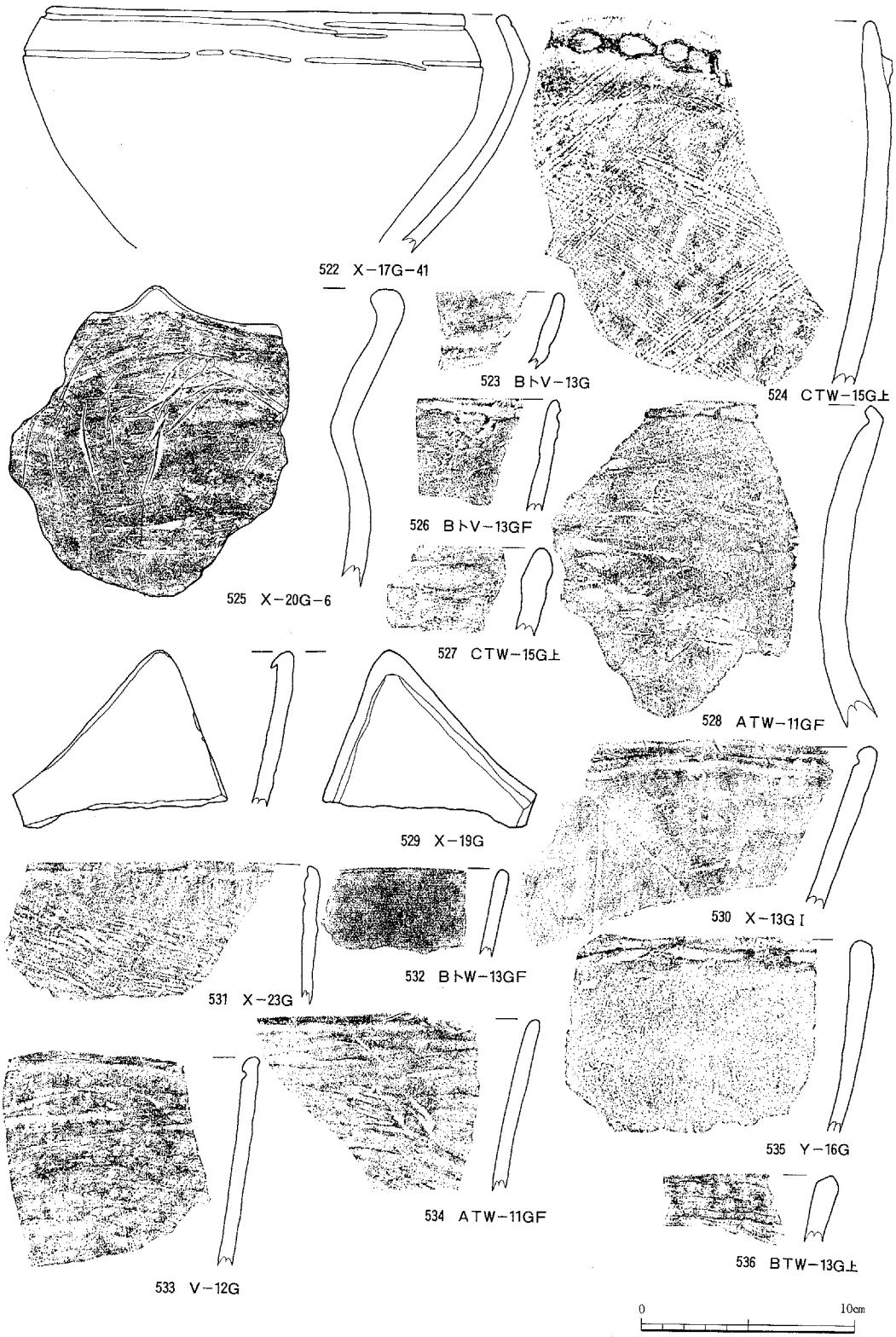
690は板状土偶胴部の破片である。幅8.7cm、厚さ3.3cm、残存高7.9cm。頭部、手、脚部が欠損する。正面、側面、背面に沈線による区画文を施される。胎土に砂粒を含む。焼成は良好、色調は暗褐色である。Ｚ－26グリッド内より出土した。691は筒形土偶頭部破片である。残存高8.3cm、幅4.8cm、頭には隆帯で立体的な髪形を施され、顔は沈線で輪部を整え、眉毛、鼻を貼り付し、目は沈線で描き眼球内に単節LR縄文を施文される。口は円形に突孔される。表面、裏面ナデ、側面はミガキが施される。胎土に砂粒を含む。焼成は良好である。色調は黒褐色、暗褐色混合である。Ｙ－26グリッド内より出土した。

692は胴部破片である。残存長6.8cm、幅3.0cm。ひざにあたる部分は胎土に砂粒を多量に含む。焼成は良好、色調は暗褐色を呈する。

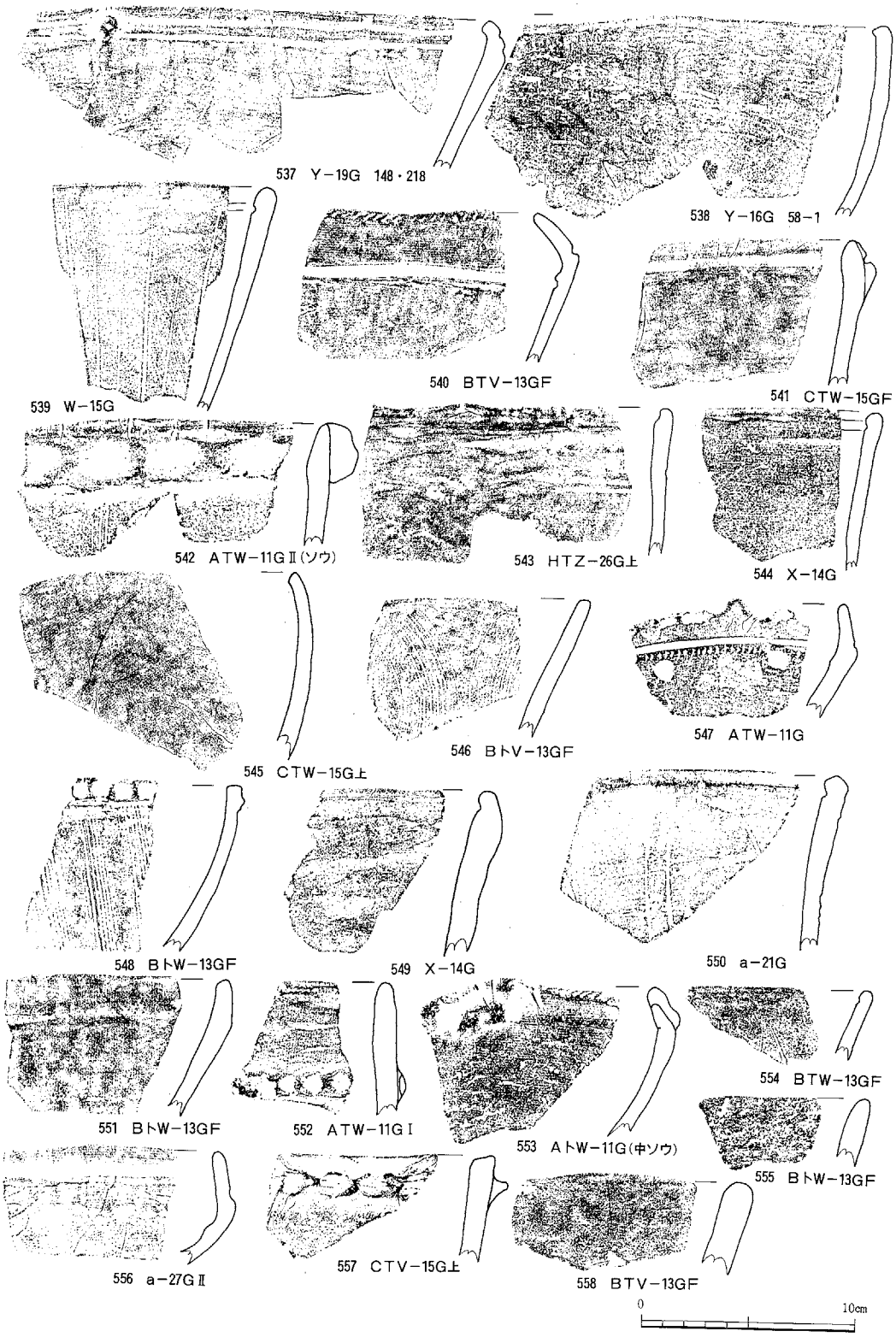
693は板状土偶胴部破片である。残存長8.8cm、幅8.6cm。頭頂部、手足欠損。顔は耳の位置



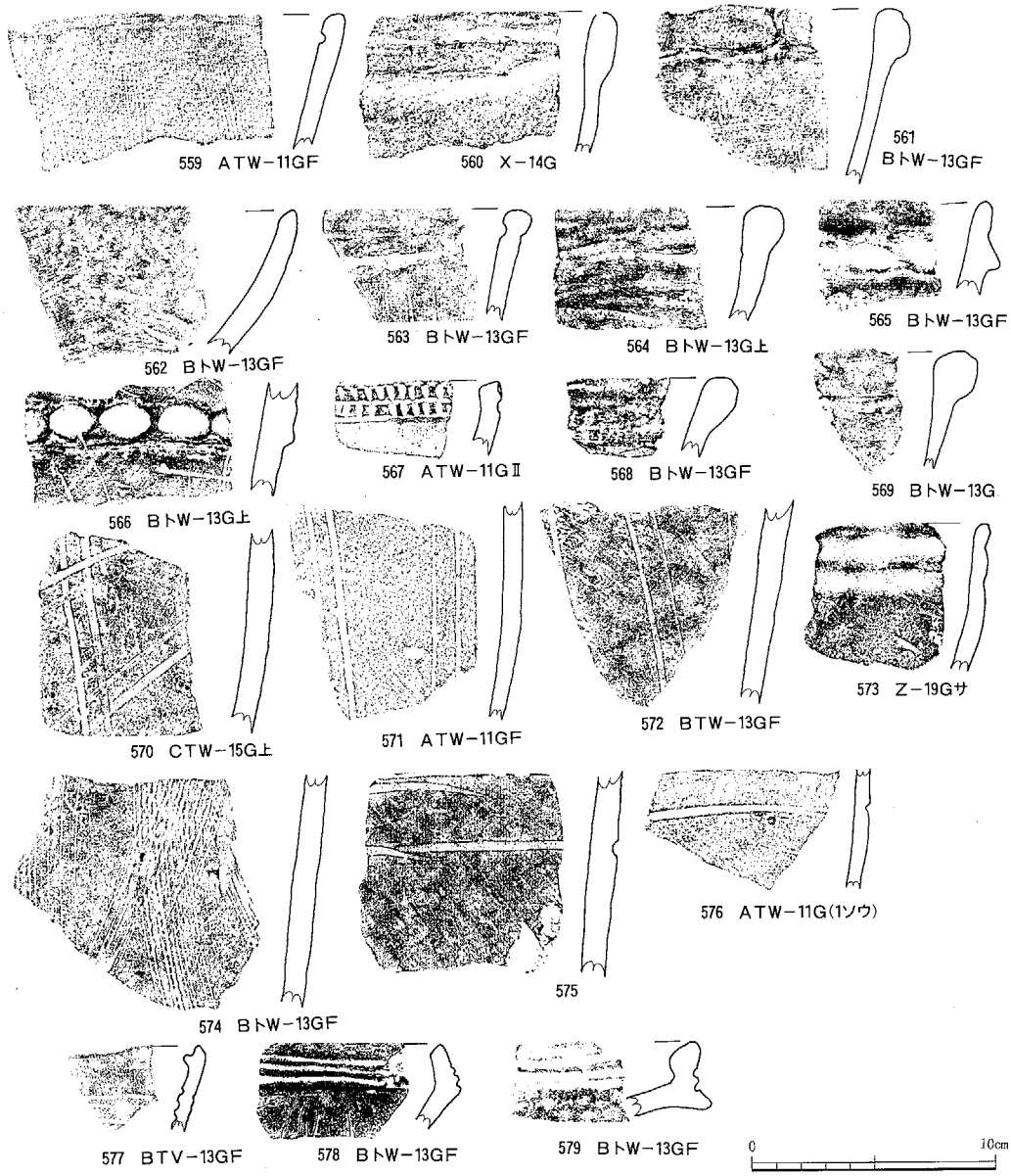
第295図　グリッド出土遺物（36）



第296図　グリッド出土遺物（37）



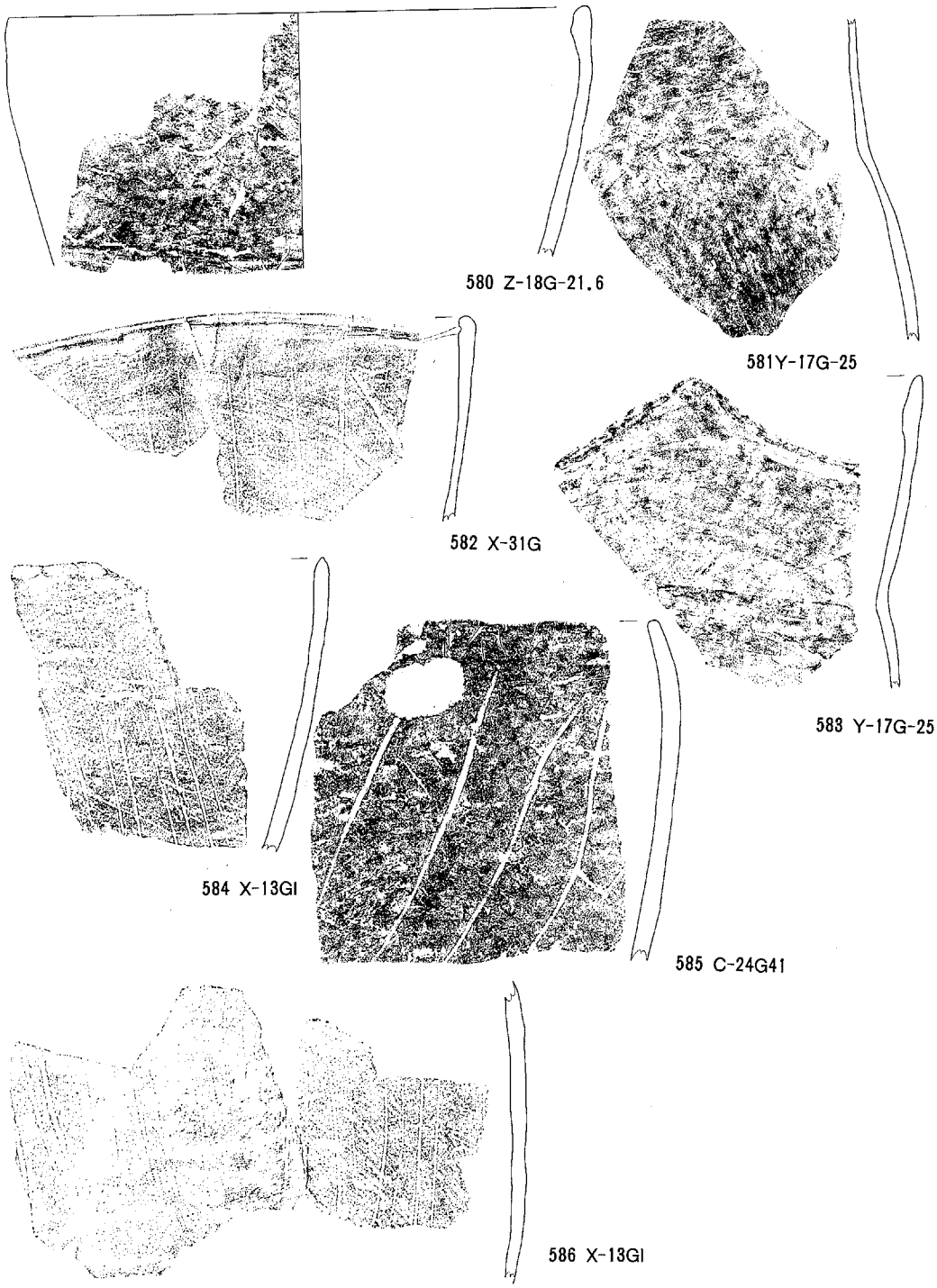
第297図　グリッド出土遺物（38）



第298図　グリッド出土遺物（39）

から考えて獣の顔を表現しているように窺える。また、頭頂部と頭部背面の剥離の状態から考えて691と同様に立体的な髪形が貼り付されていた可能性が考えられる。胸部は乳房を貼り付で表現されている。また乳房の間には１本の沈線を施される。背面は沈線で鎖形の文様を構成されている。胎土は砂粒を含む。焼成は良好、色調は白味の強い淡褐色である。W−13グリッドより出土した。

694～697は山形土偶である。642は頭部の破片、残存長5.5cm、幅6.2cm、厚さ2.4cm。横長の楕円形を呈する。顔は輪郭を縁どり696は胴部上半の破片である。頭部、手、足が欠損する。



第299図　グリッド出土遺物（40）

胸部には欠損しているが乳房の表現が部分的に認められる。腹部には刺突が交差して施される。色調は赤褐色、淡褐色混合。697は脚部の破片である。正面はひざにあたる部分に瘤状の貼り付を施し、裏面は細かい刺突文を施される。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は暗褐色、褐色の混合。Y－13グリッドか内より出土した。

698は円錘状の土偶胴部の破片である。残存長8.7cm、幅4.6cm、表面は腹部の中央に沈線を施し、下部に径0.2cm、背面は中央に沈線を施し中央よりやや下部に刺突文を1点施文する。胎土に砂粒を含む。焼成は良好、色調は暗褐色、淡褐色混合。縄文包含層試掘Cトレンチ V－Ⅱ層より出土した。

699は脚部の割れ口の角度から考えてうずくまる土偶であると考えられる。正面はへそに相当する位置に径0.5cmの刺突が施される。脚部の間（局部にあたる部分）に径0.3cmの刺突は沈線を施される。腰部に沈線を巡らす。背面は細い平行沈線を施文された上にさらに内外ともミガキの後に文様を施される。内外ともにミガキの後に文様を施文される。胎土は石英に砂粒を含む。焼成は良好、色調は黒褐色。Y－21グリッド内より出土した。

700～704は脚部の破片である。700は残存長2.8cm、幅4.4cm、安定感のあるおおきな脚である。a－21グリッド内より出土した。胎土に砂粒を含む。焼成は良好である。701は残存長2.8cm、安定感のある大きな足である。702は残存長5.2cm、幅4.7cm、安定感のある大きな脚である。703は残存長3.9cm、幅2.4cm、704は残存長4.2cm、幅2.2cm。

その他の土製品（第308図　図版80）

705、707は貝輪を模倣した土製品である。709～711は耳栓である。712と713は有溝砥石の土製模造品である。714・715・716・717は石皿を模倣したと思われるミニチュア土器である。718は浅鉢形土器を模倣したミニチュア土器である。719は双口土器の破片である。平行沈線を施す。722は土盤である。722は蓋の破片である。ボタン状の貼付を付し、渦巻き文と弧状沈線を施す。さらに間に刺突文を施す。

石器（第309～328図　図版81～85）

723～739は石鏃である。うち723～738が無茎石鏃、739は有茎石鏃である。石材はチャート。

740～744、778、779、784は石錐である。石材は頁岩である。

745～766は打製石斧である。石材は頁岩である。764はハンマー・ストーンである。石材は結晶質石灰岩である。

798は石包丁である。

799、800は石鏃である。石材は頁岩である。

803～807、810は石錘である。石材は頁岩である。

808、809、811～818は砥石である。820～823は石棒の破片である。824は862～865は石皿である。862はよく使用され穴があく。長さ43cm、幅24.2cm、厚さ1.0cm～3.0cm。重さ9650ｇ。864は敲打による凹穴が表裏共に認められる。

876、899、901、903、908、908、912、913、916、917～919は多孔石である。両面に敲打に

よる凹みが多数認められる。石材は安山岩である。916は長さ32.9cm、幅21.8cm、厚さ12.2cm、重さ9000ｇ。

858、898、900、902、904、905、906、909、910は石皿である。858には裏面に敲打による凹みがある。長さ18.1cm、幅12.4cm、厚さ4.2cm。

860～873、875、877、879は凹石である。

863、869、878、880は磨石である。

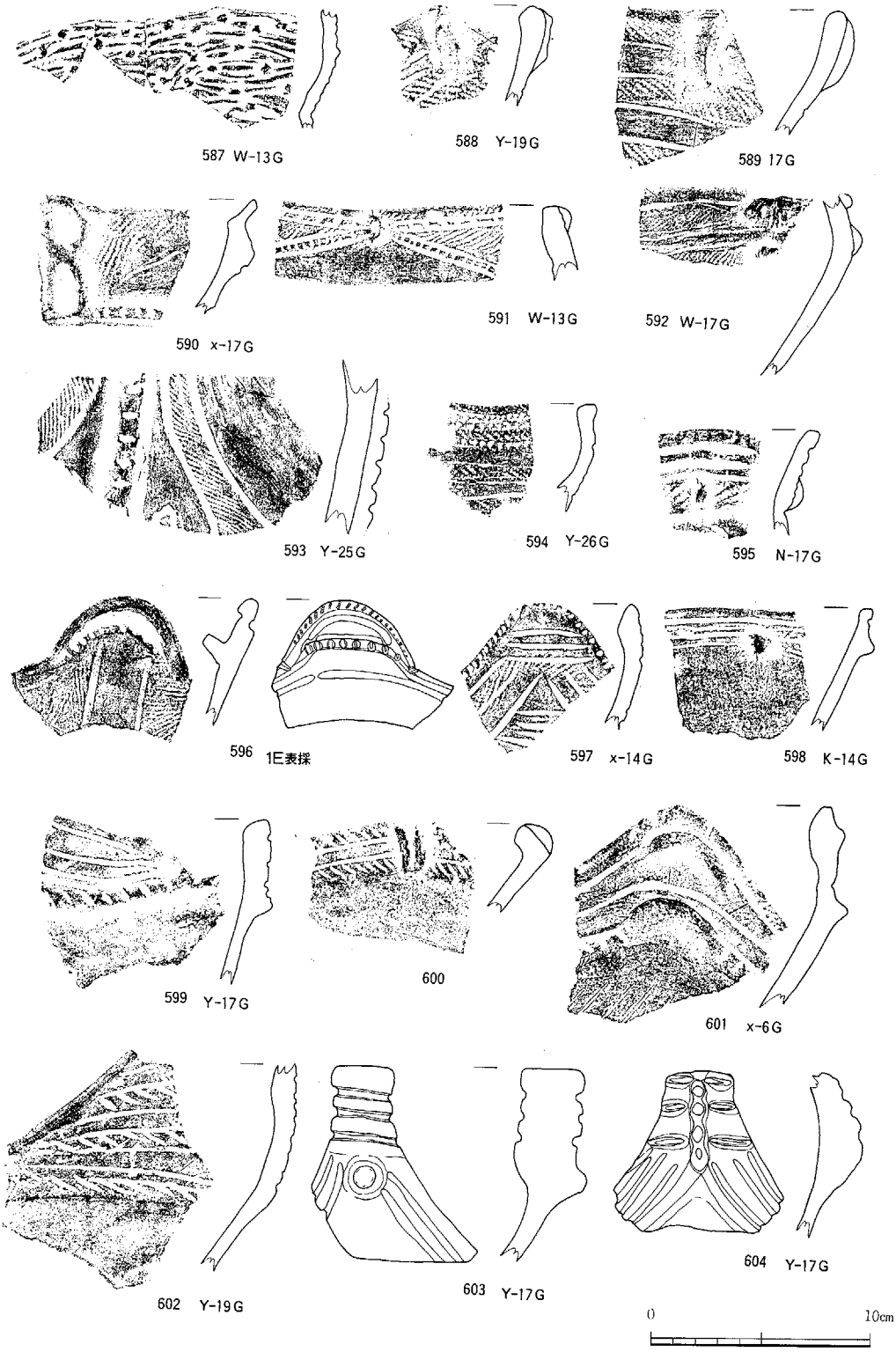
881～886は軽石製品である。器面は丁寧に研磨されている。886は欠損しているが円孔が認められる。

887、889は匂玉である。石材は安山岩である。888はミニチュアの石棒である。長さ4.6cm、幅1.1cm、厚さ0.5cm。石材はチャートである。いずれもW－15グリッド内の縄文遺物包含層第1層中（黒色土）より出土した。

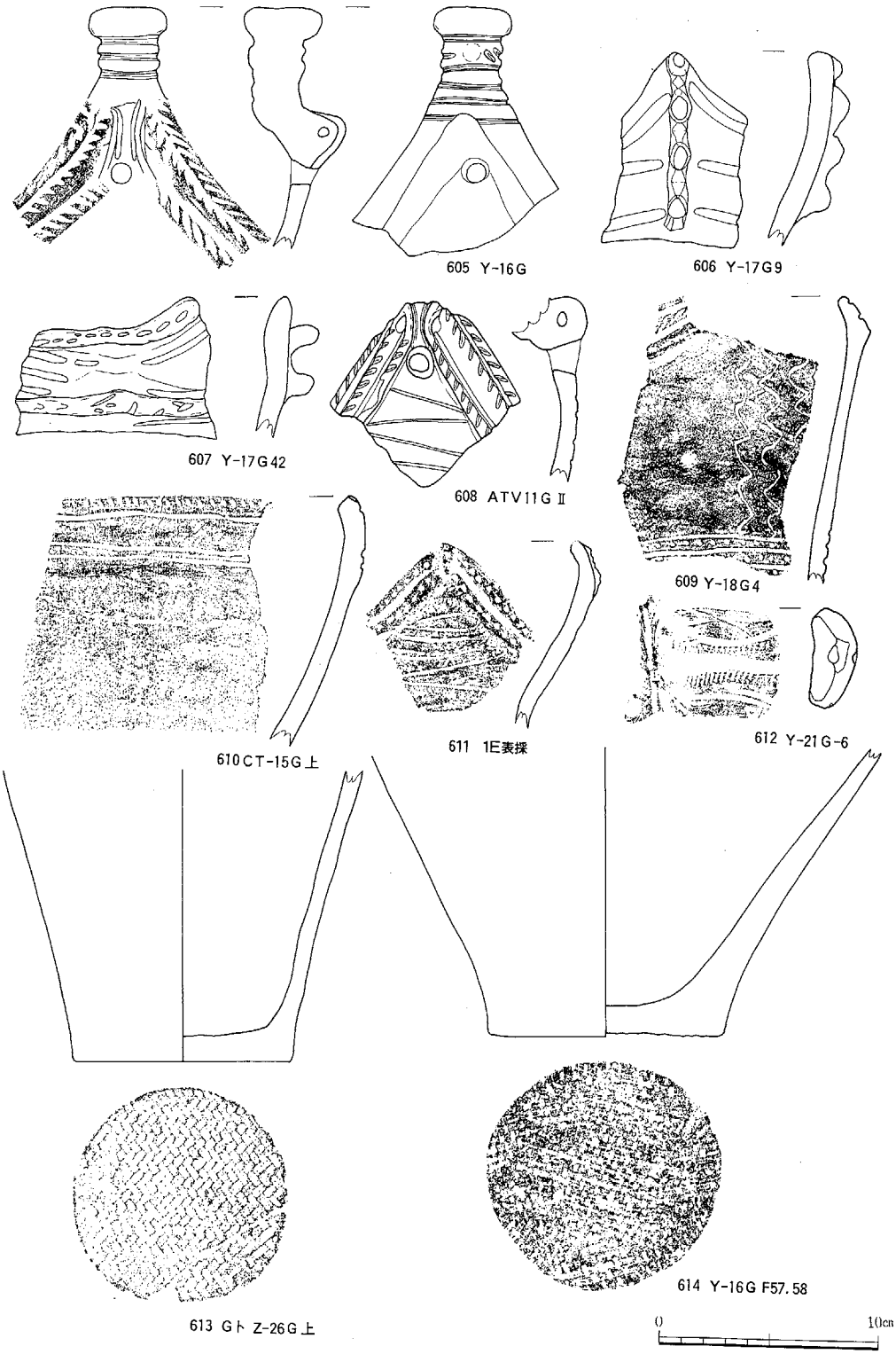
914は磨石である。

石材は安山岩である。

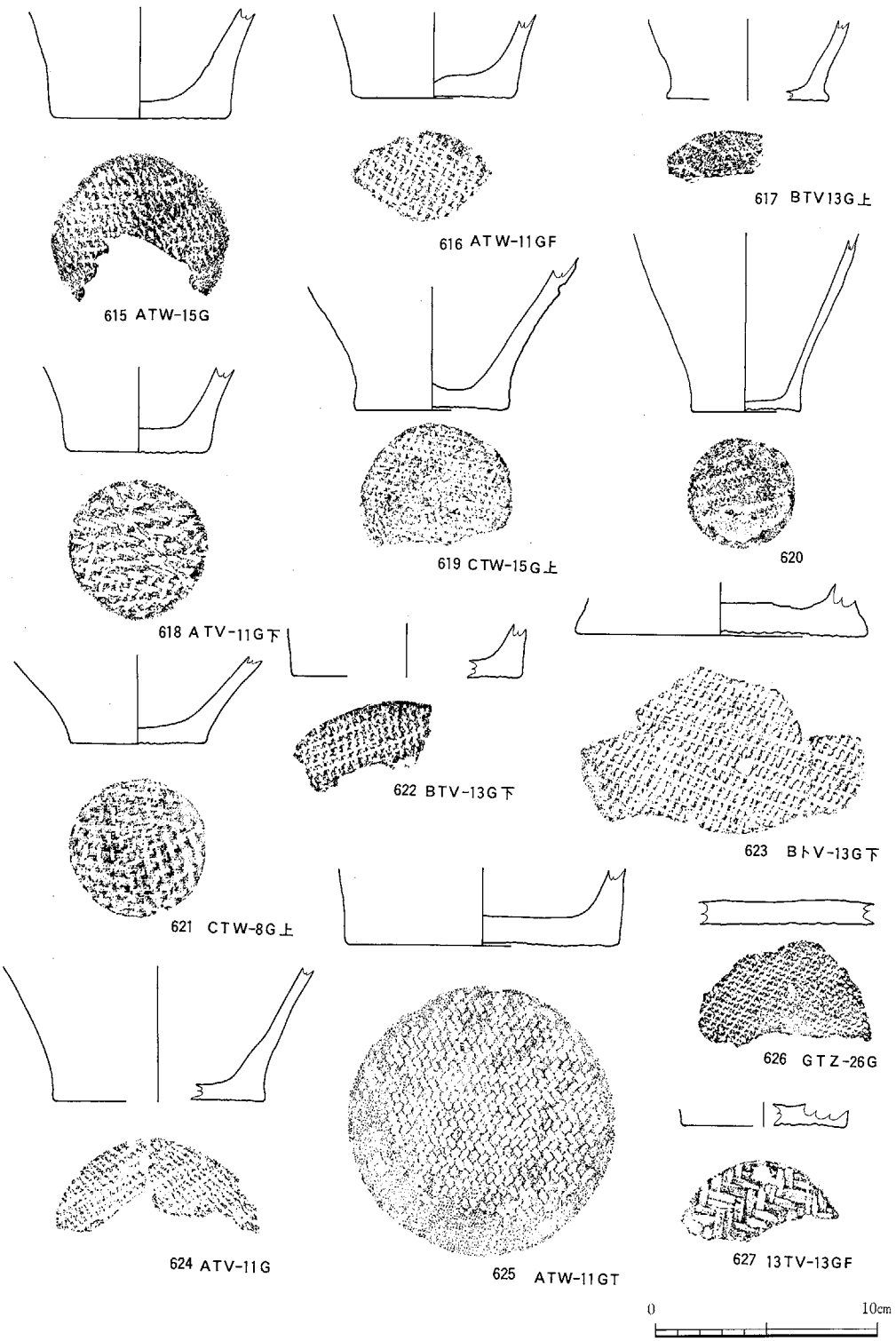
897は石核である。石材は頁岩である。



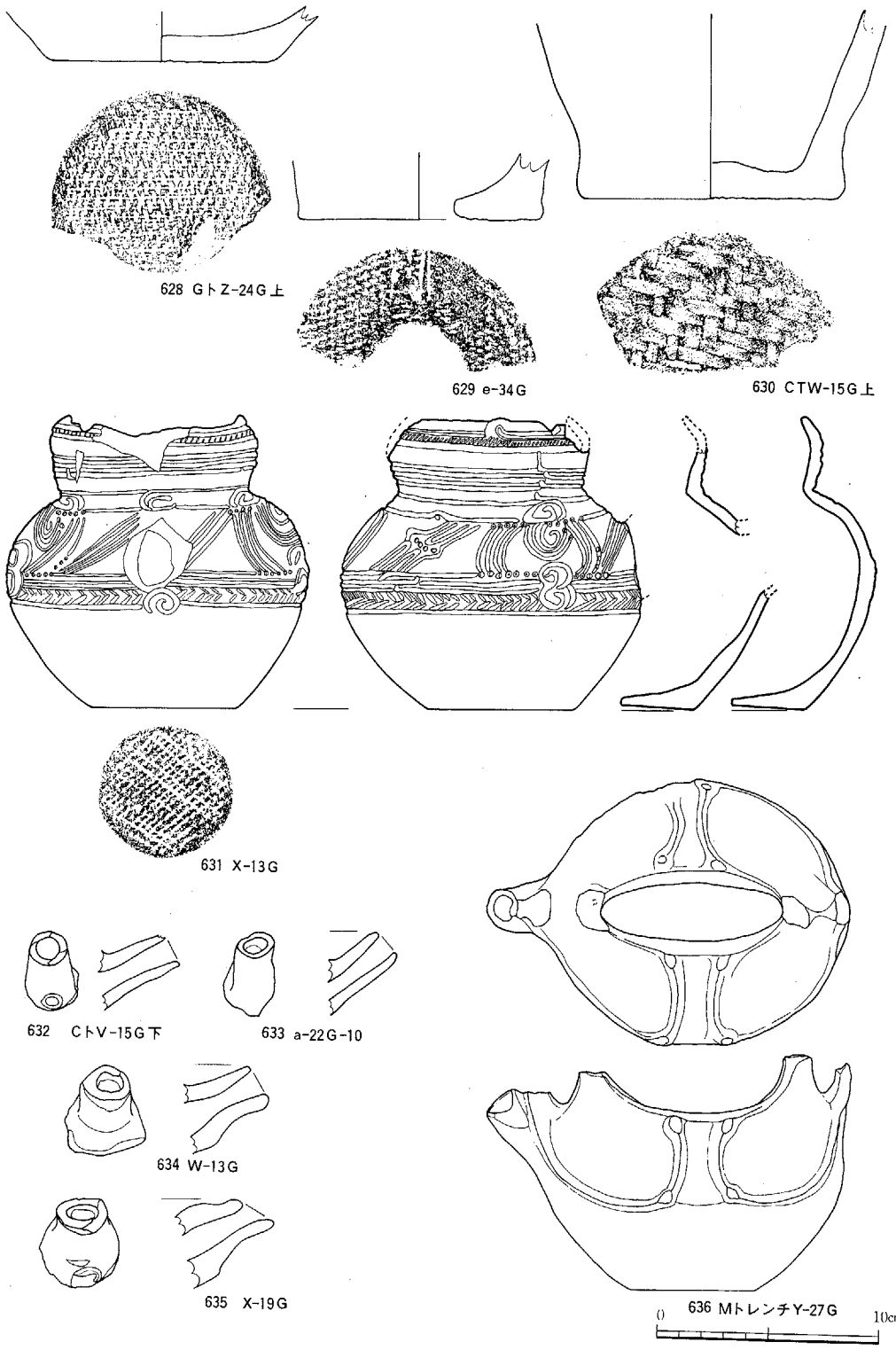
第300図　グリッド出土遺物（41）



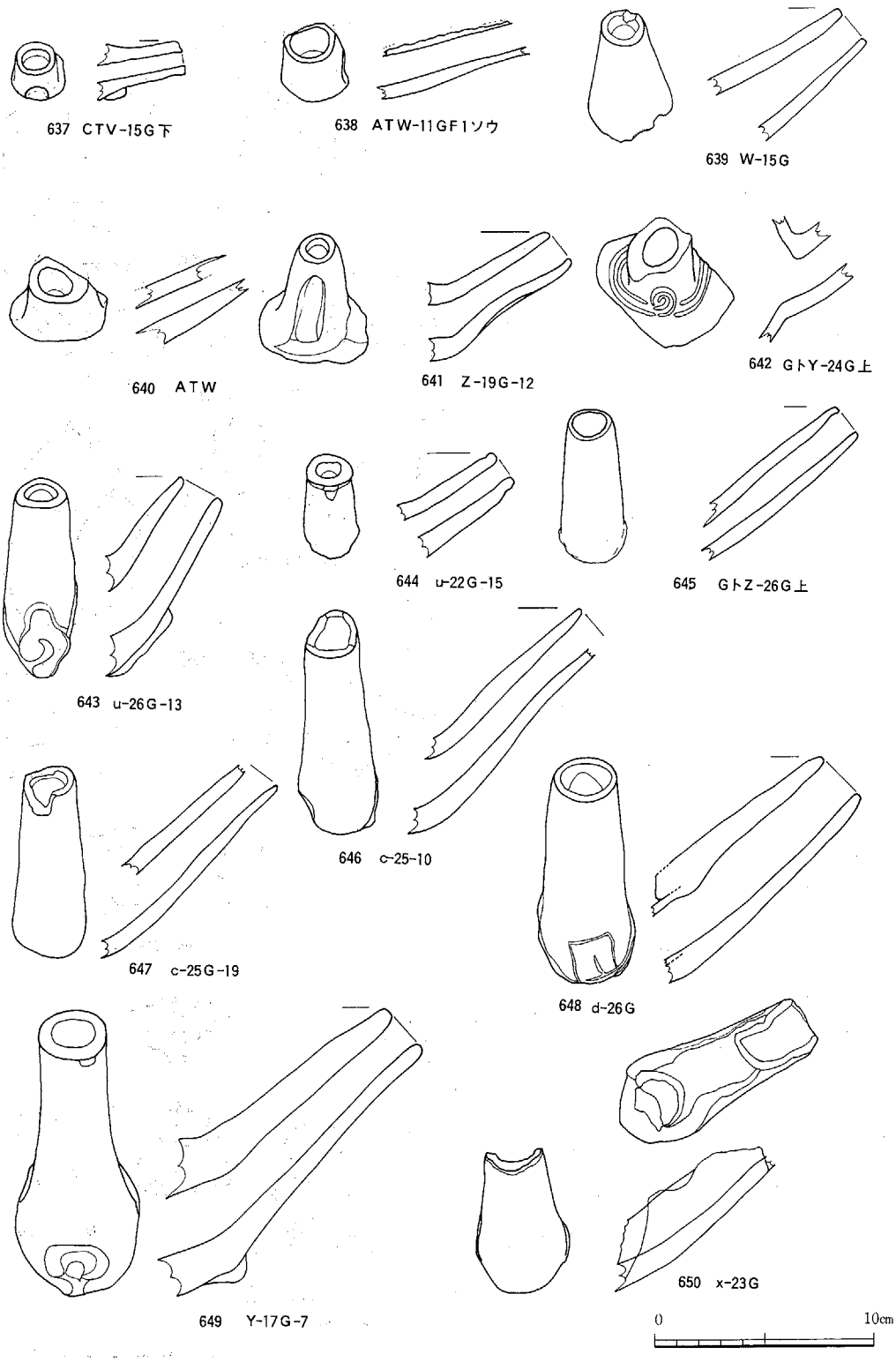
第301図　グリッド出土遺物（42）



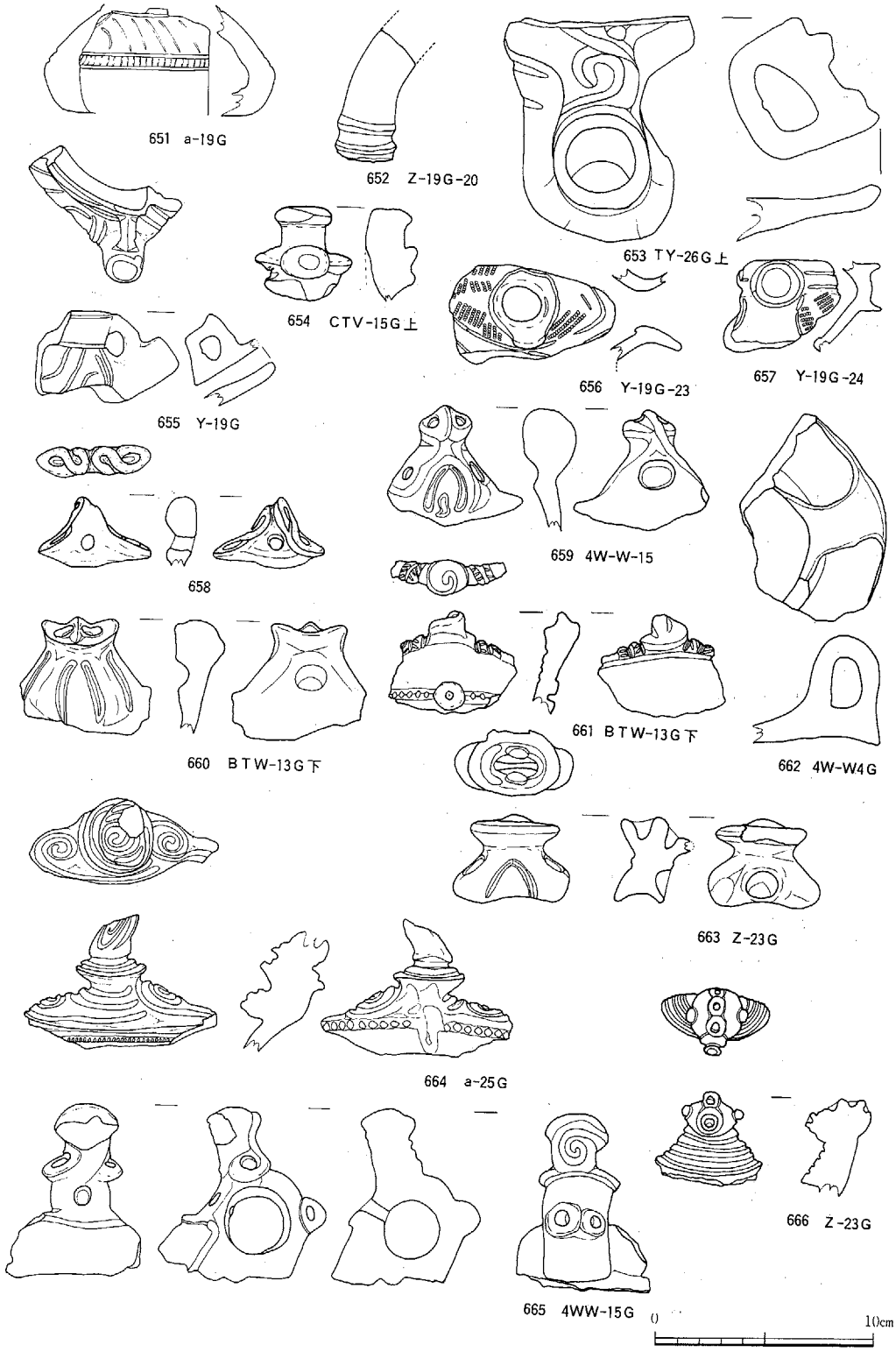
第302図　グリッド出土遺物（43）



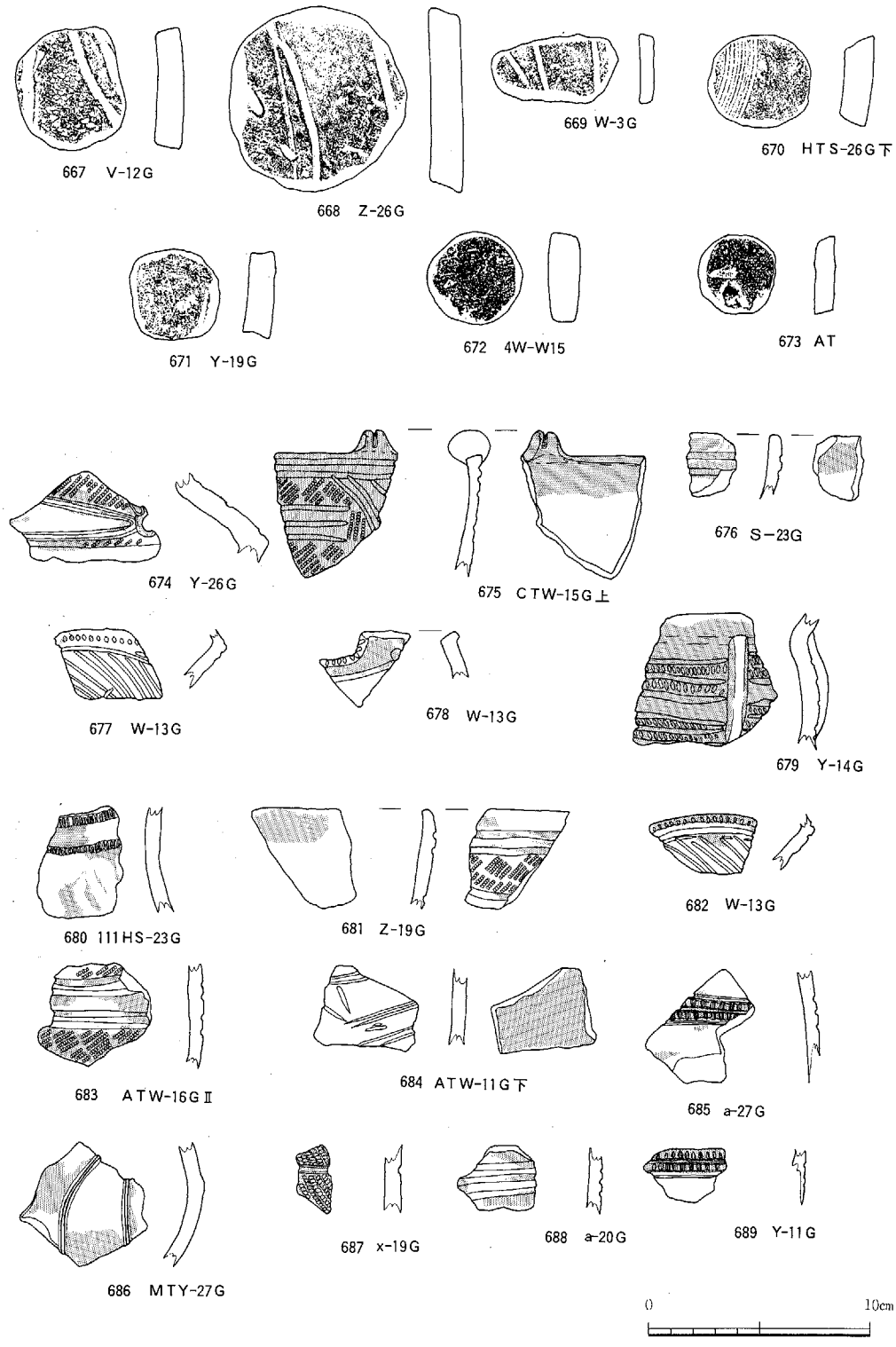
第303図　グリッド出土遺物（44）



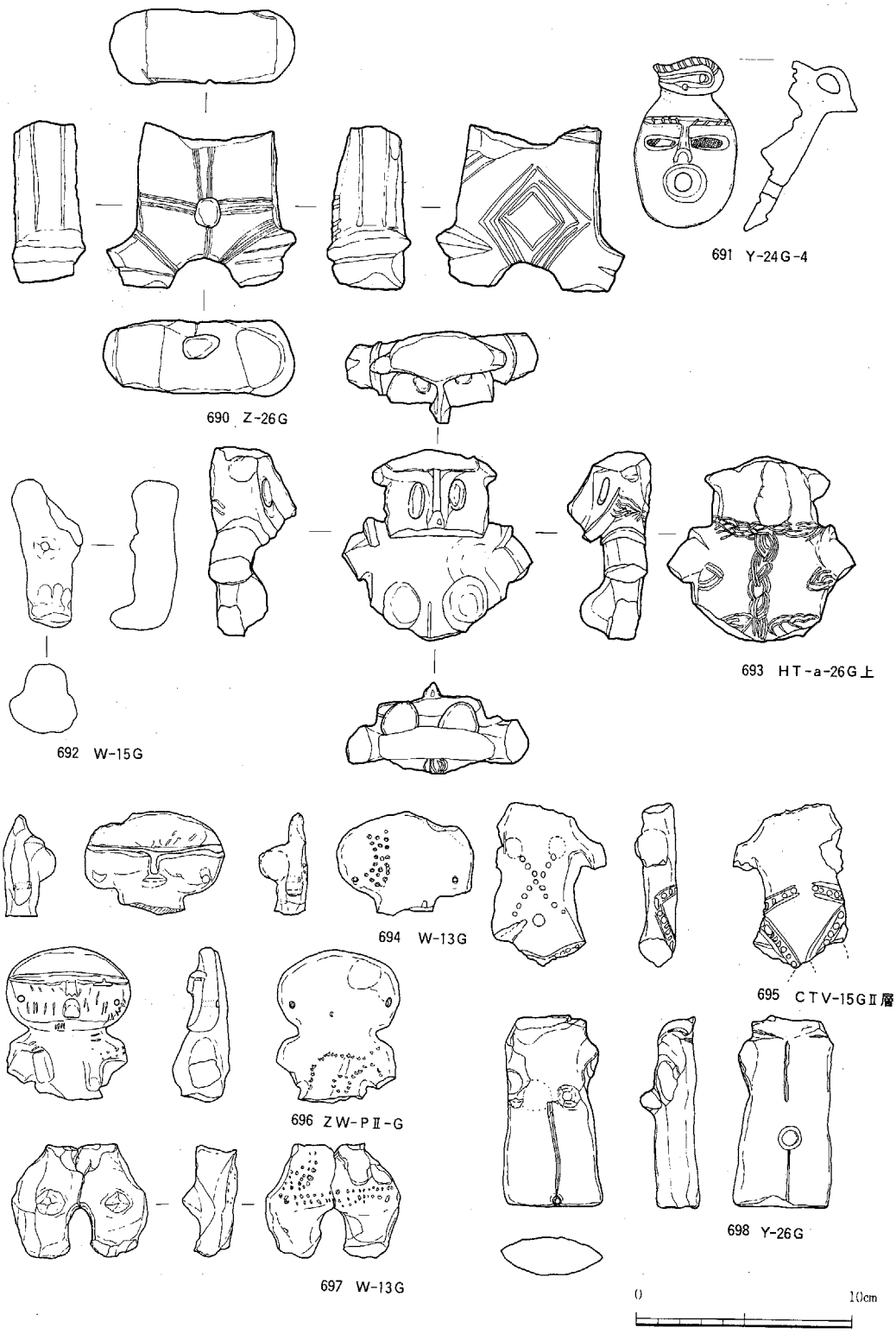
第304図　グリッド出土遺物（45）



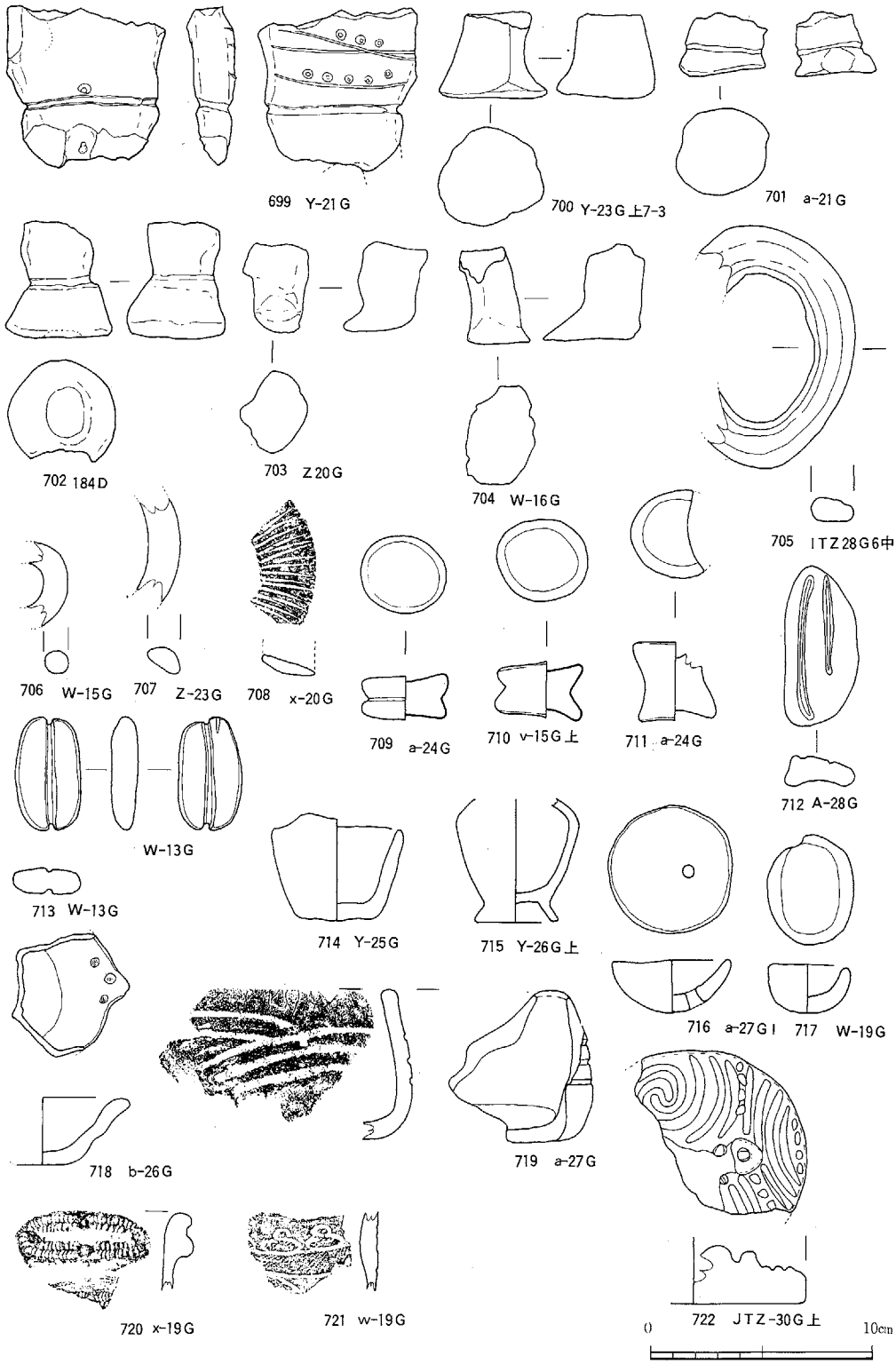
第305図　グリッド出土遺物（46）



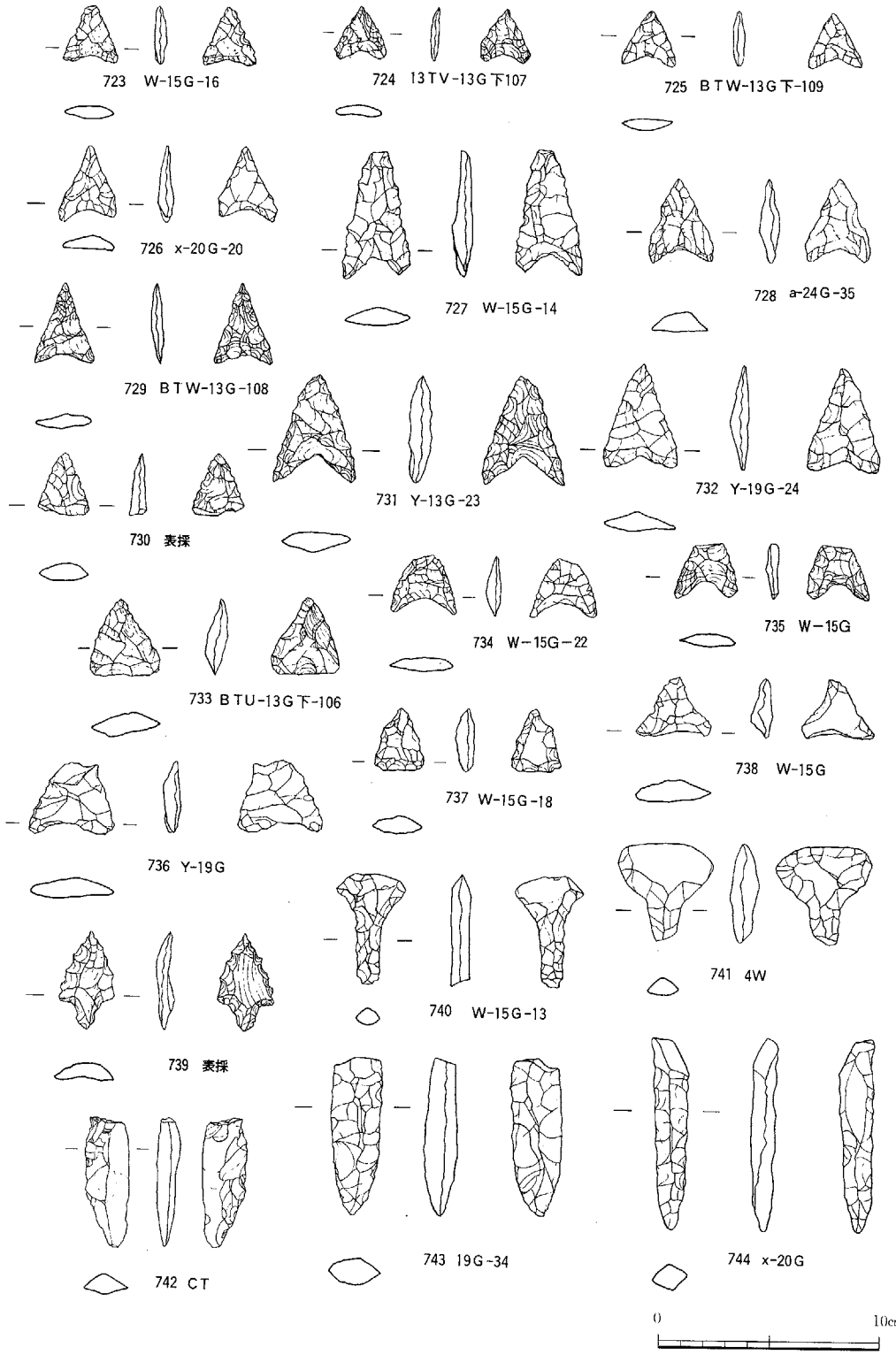
第306図　グリッド出土遺物（47）



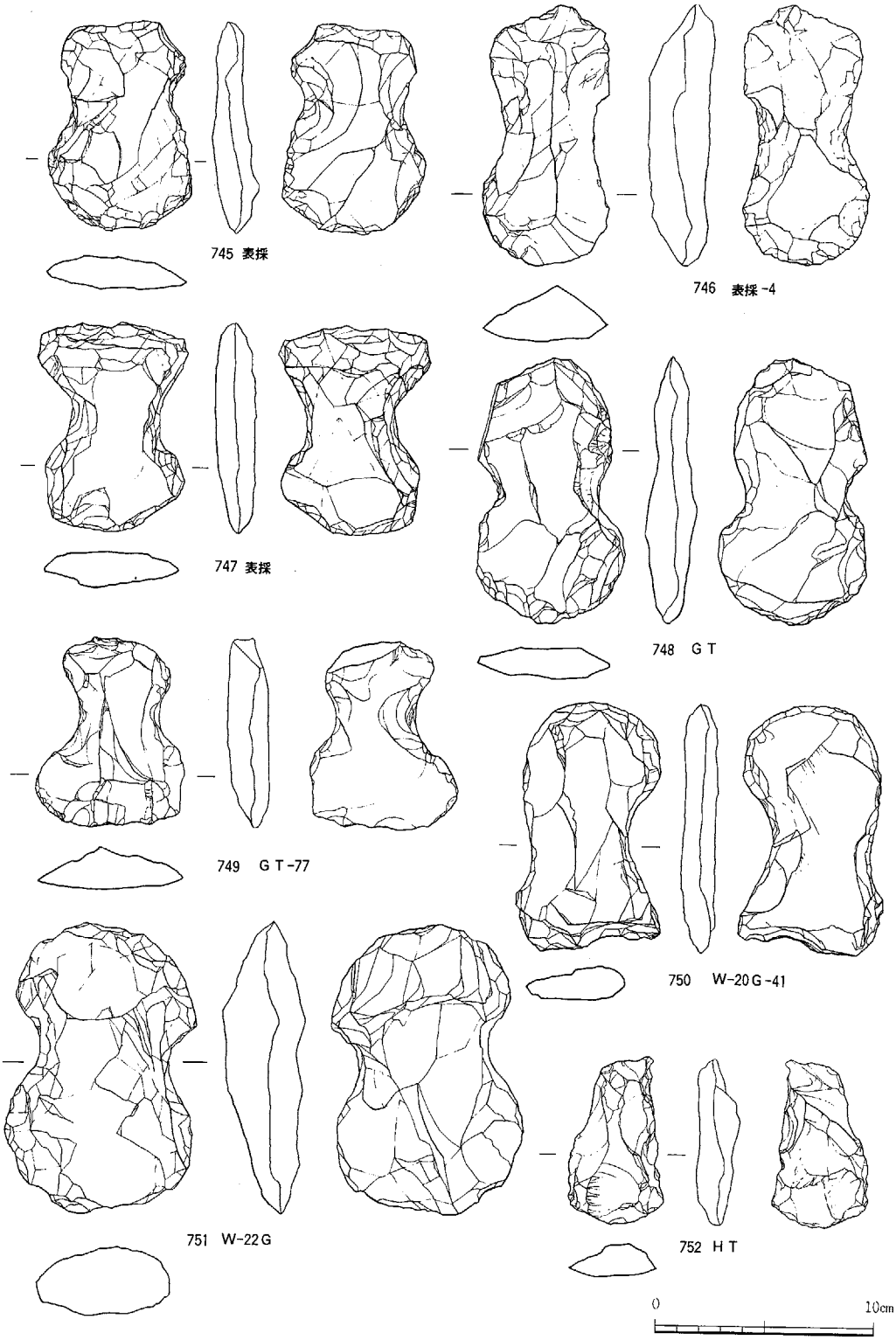
第307図　グリッド出土遺物（48）



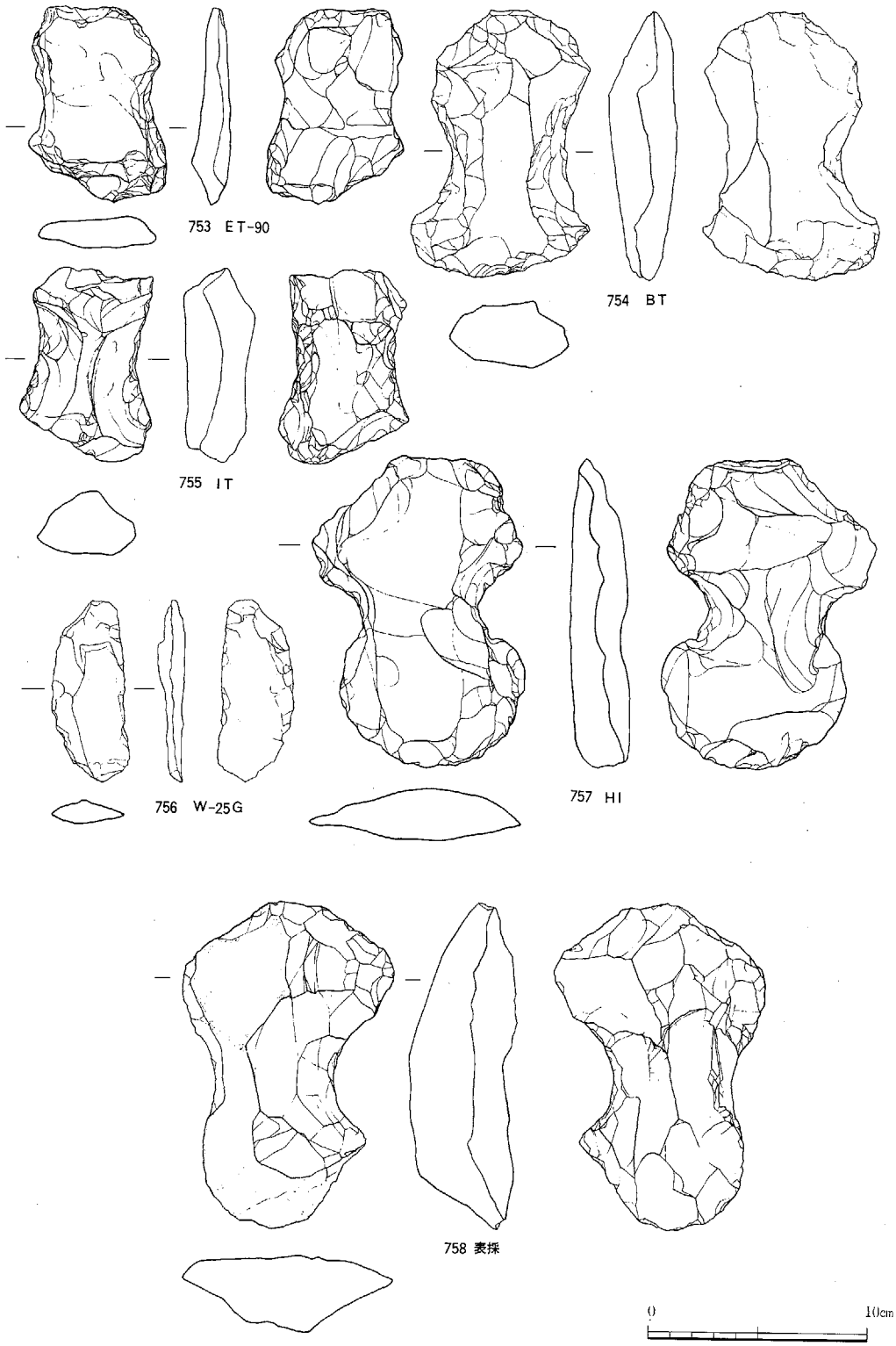
第308図　グリッド出土遺物（49）



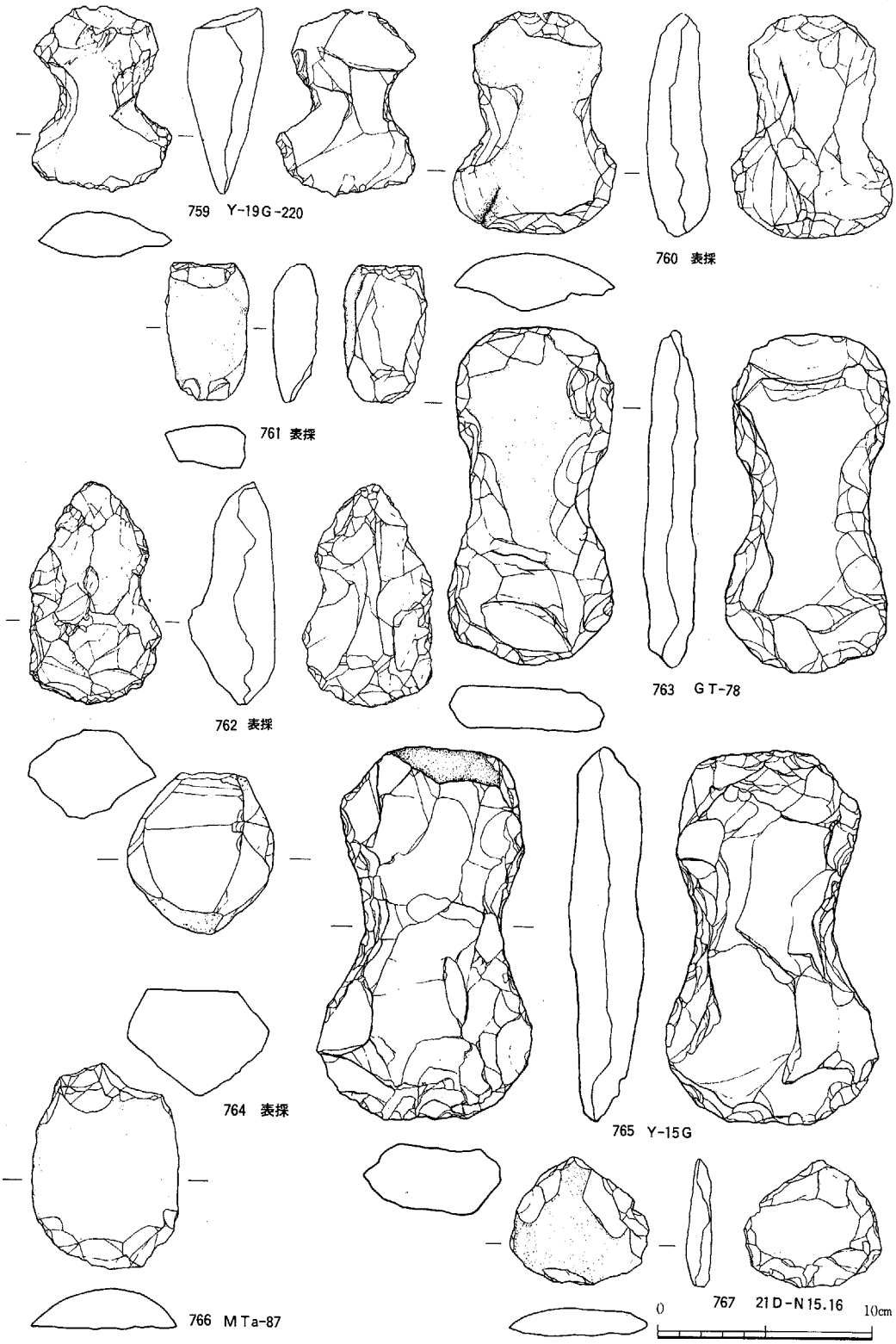
第309図　グリッド出土遺物（50）



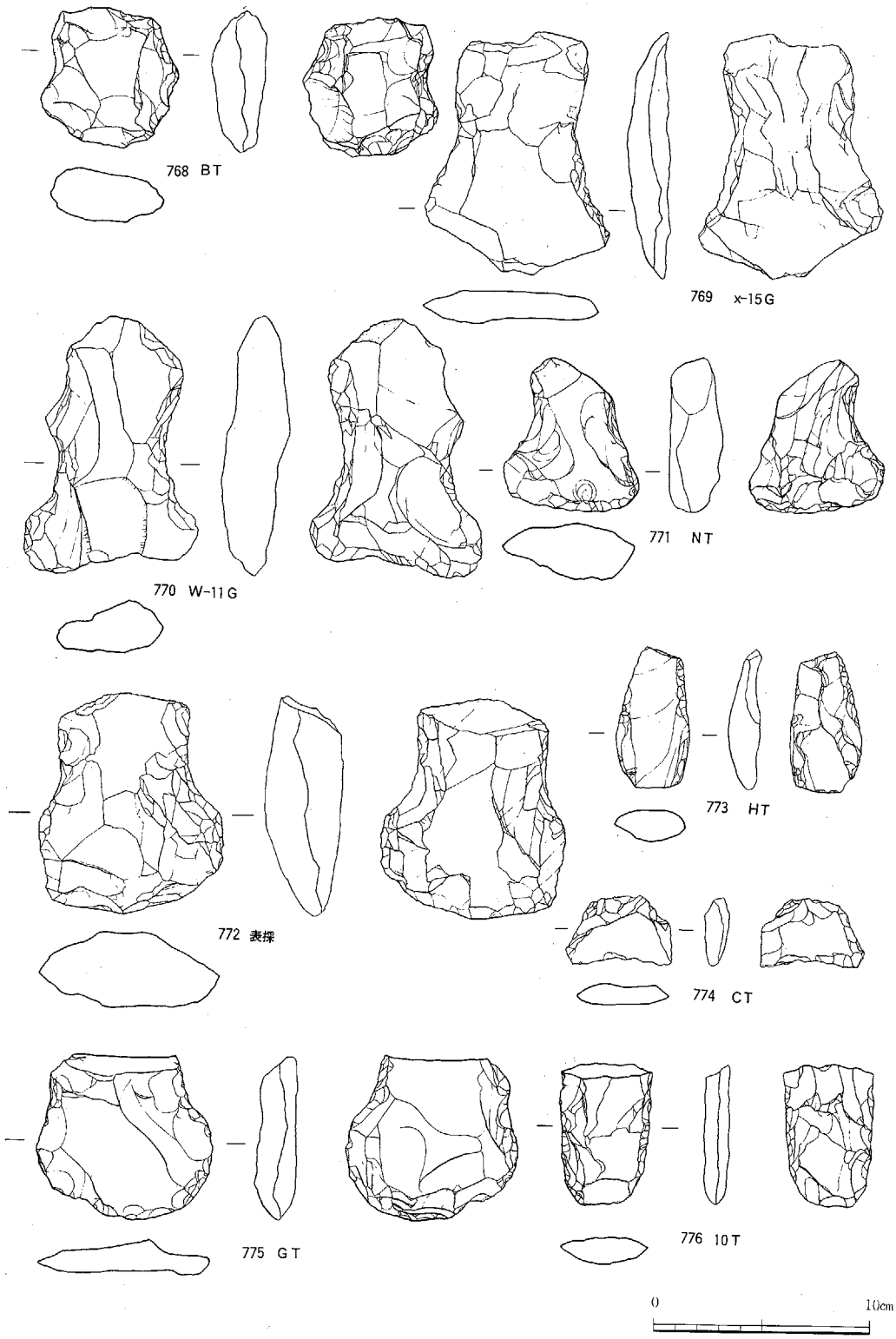
第310図　グリッド出土遺物（51）



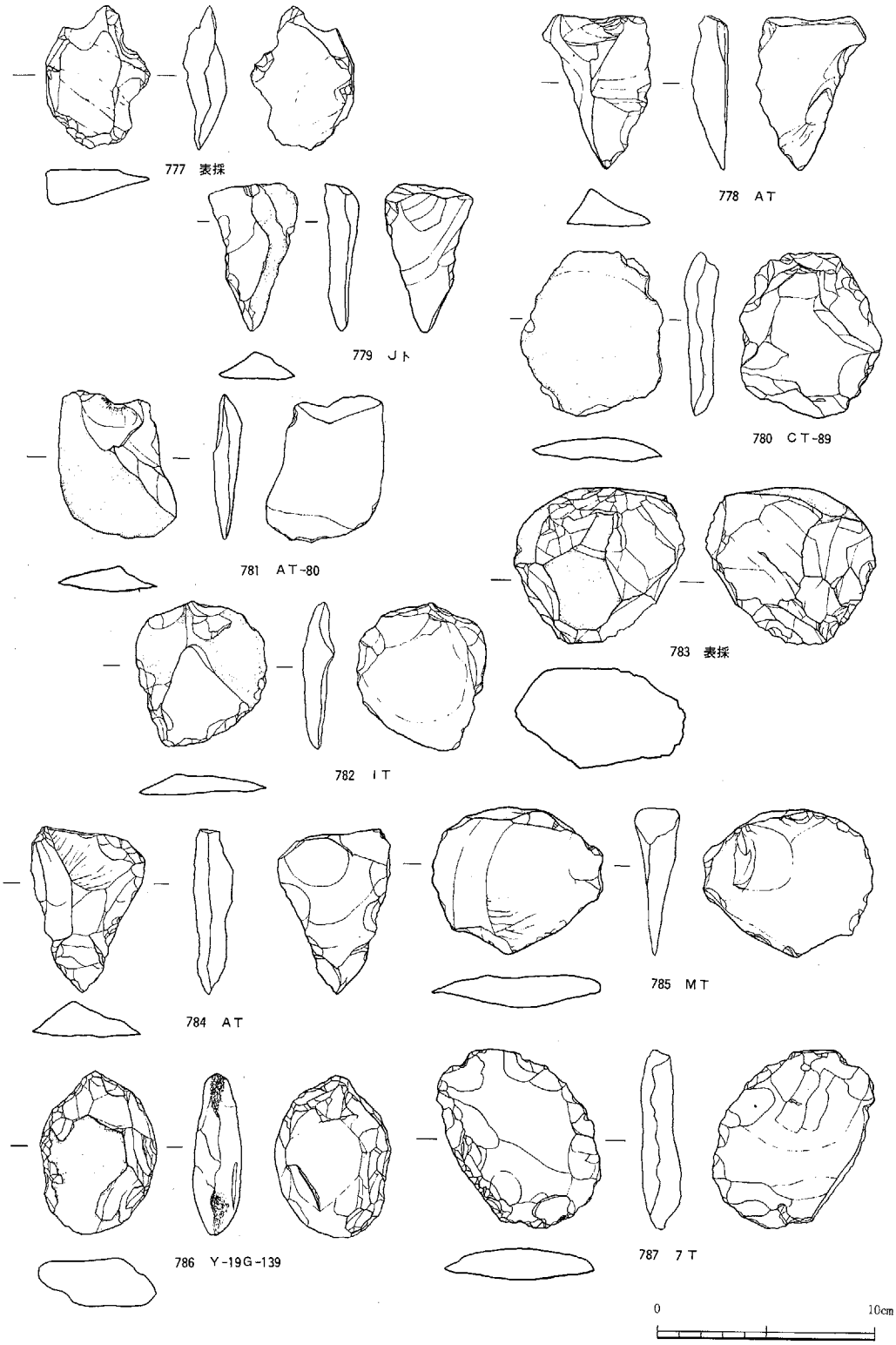
第311図　グリッド出土遺物（52）



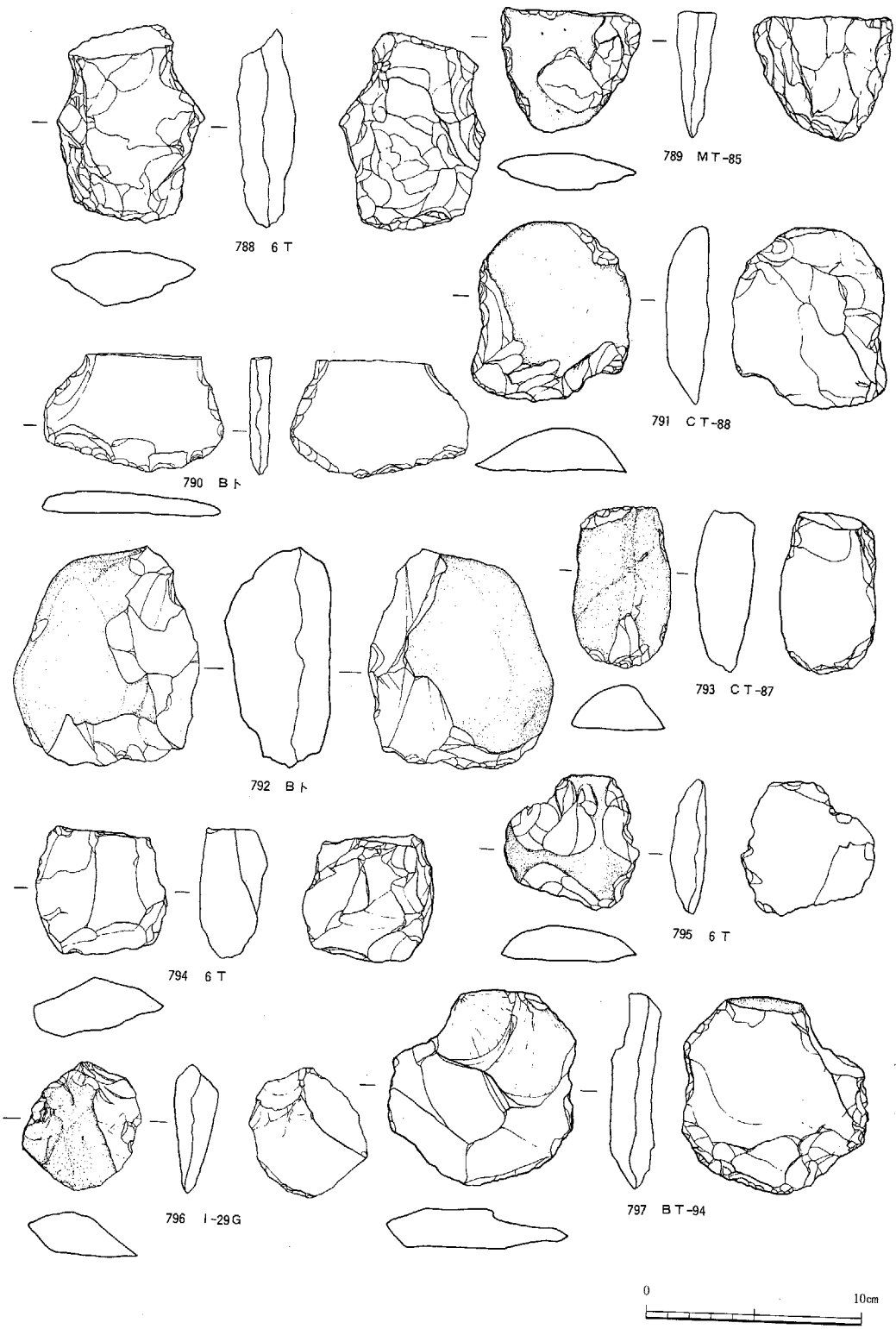
第312図　グリッド出土遺物（53）



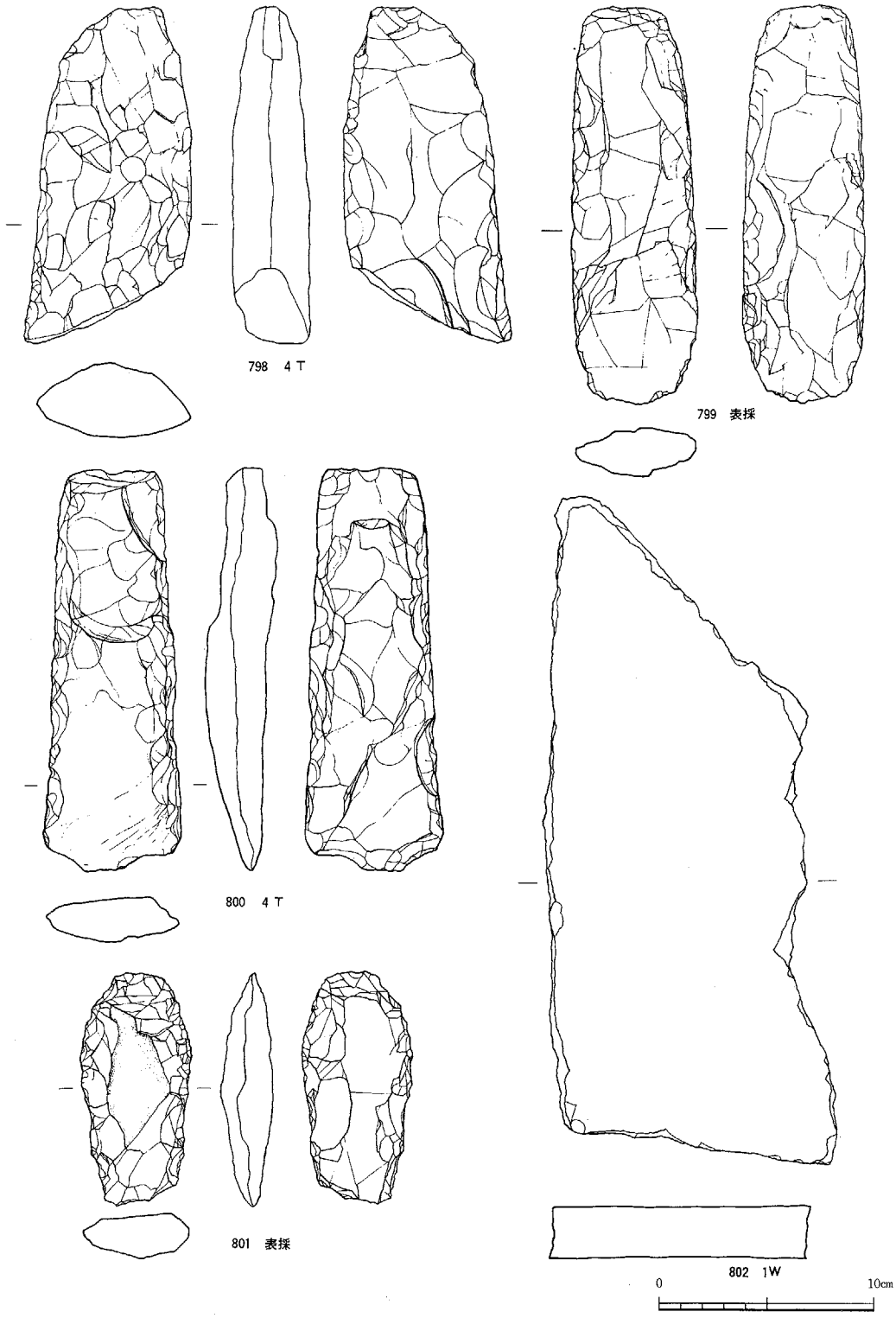
第313図　グリッド出土遺物（54）



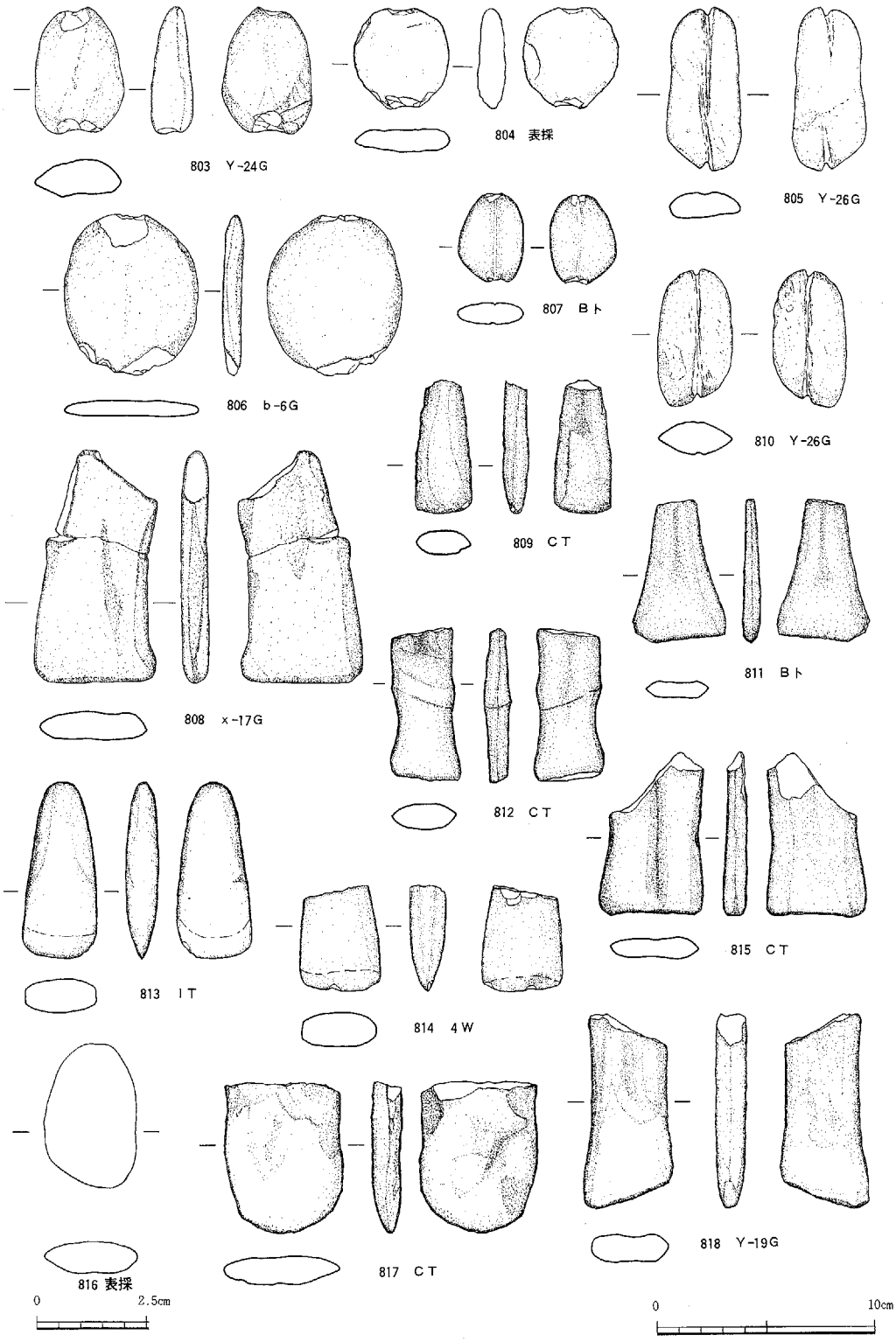
第314図　グリッド出土遺物（55）



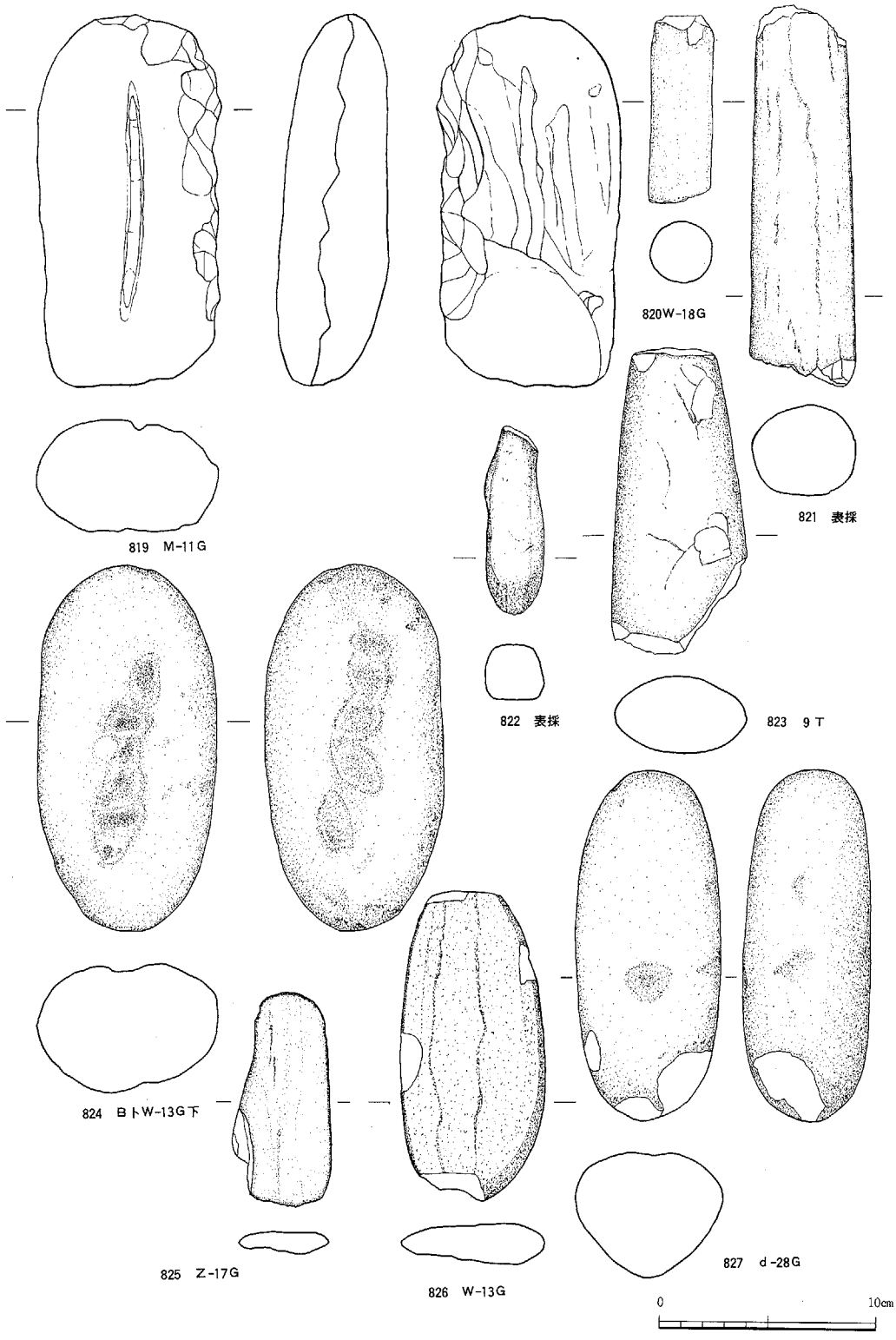
第315図　グリッド出土遺物（56）



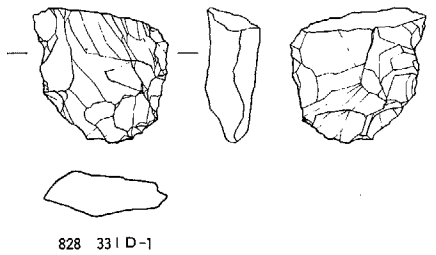
第316図　グリッド出土遺物（57）



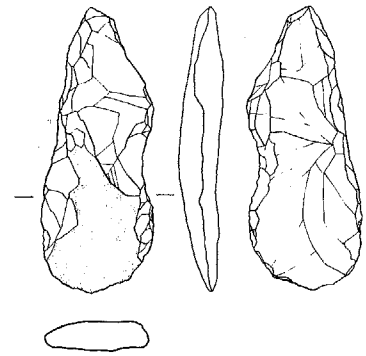
第317図　グリッド出土遺物（58）



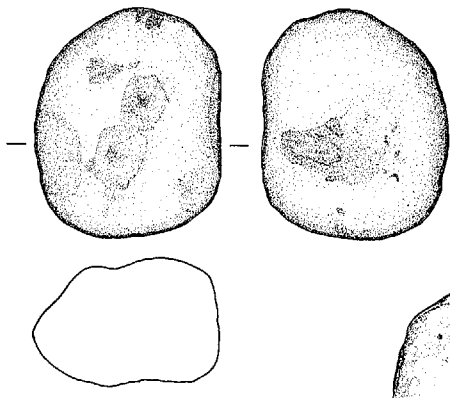
第318図　グリッド出土遺物（59）



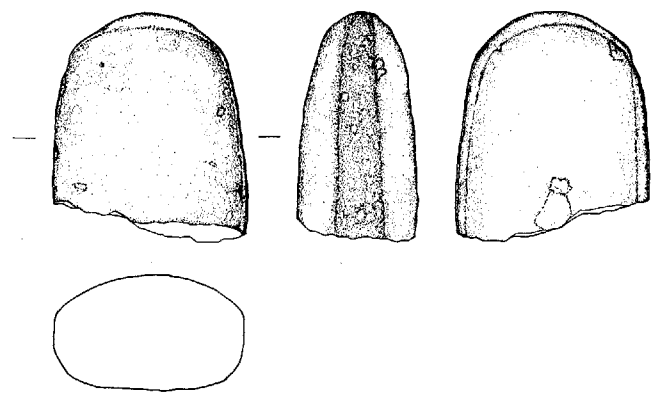
828 331D-1



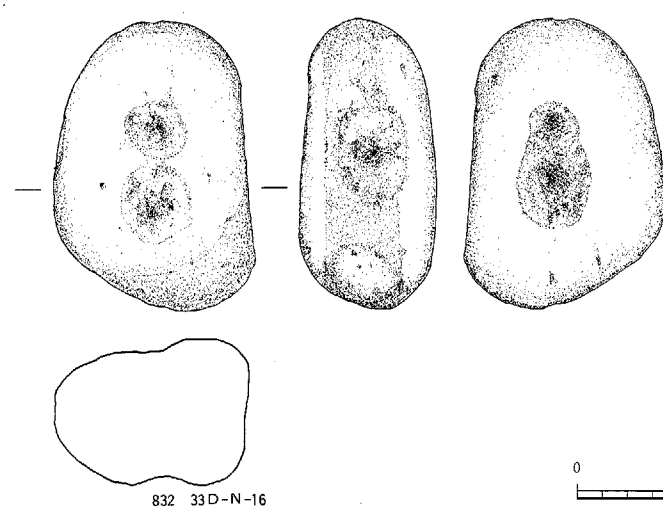
829 8D-M-14



830 21D-N1516



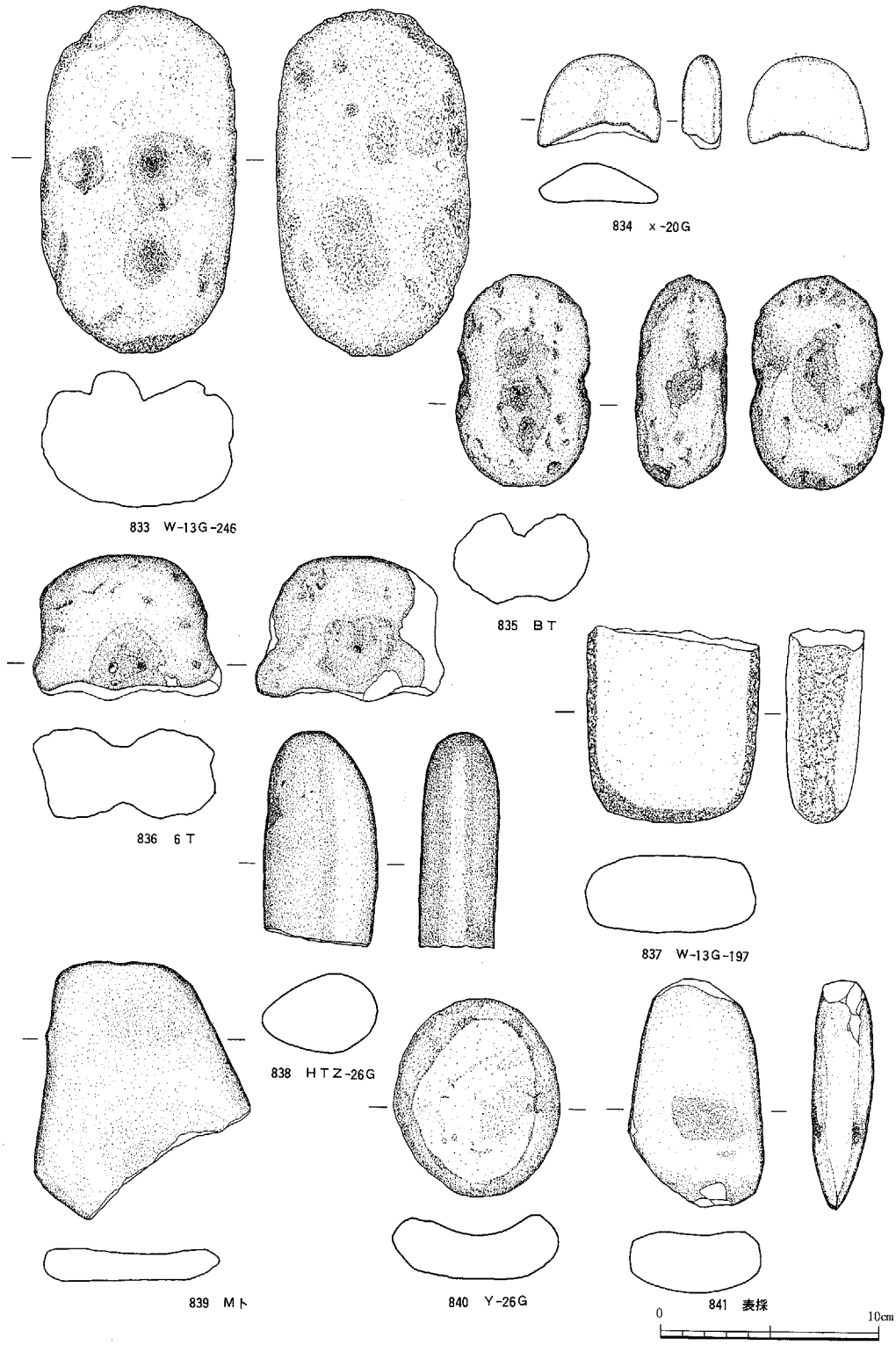
831 305D-1



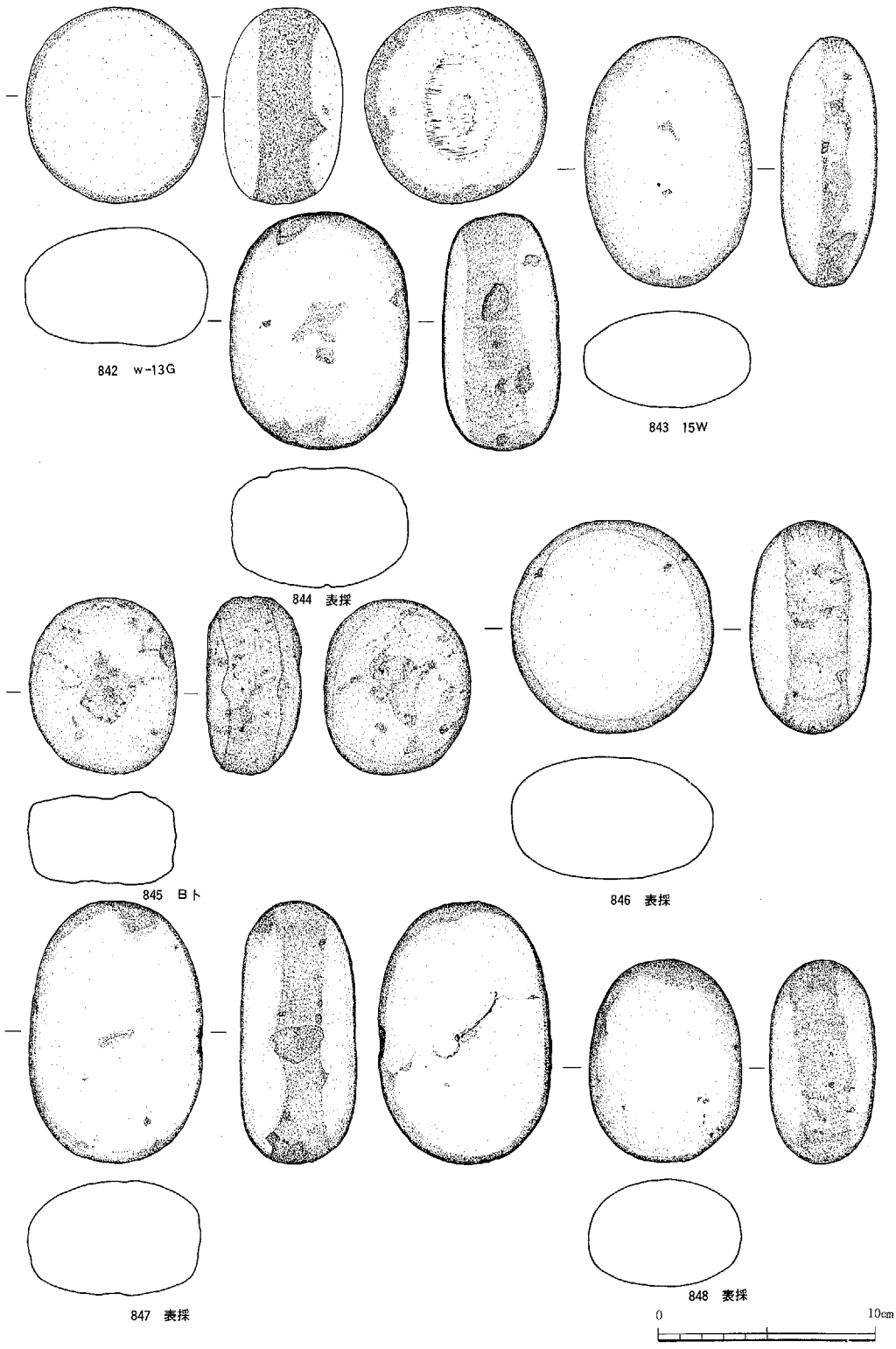
832 33D-N-16

0 10cm

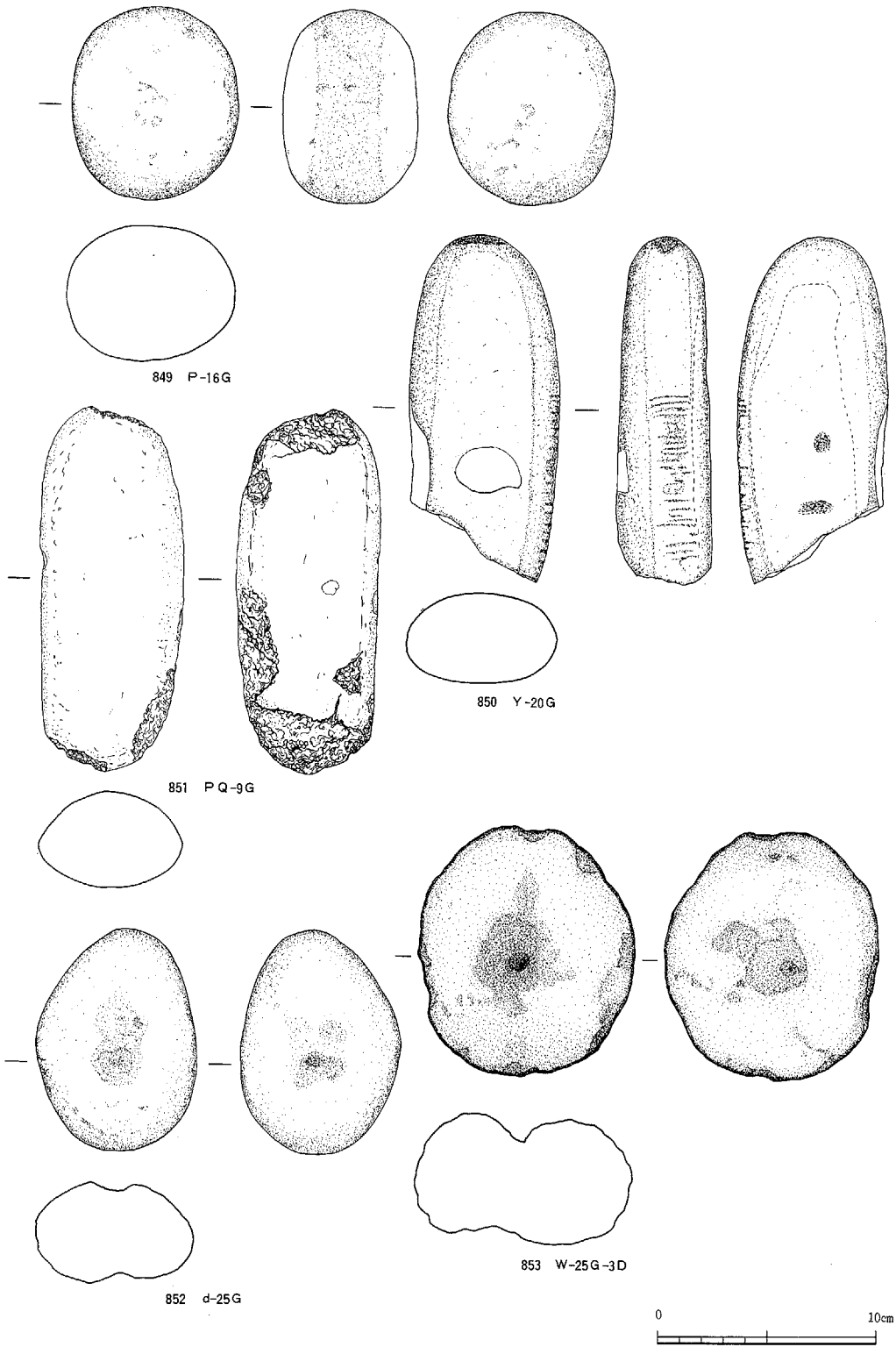
第319図　グリッド出土遺物（60）



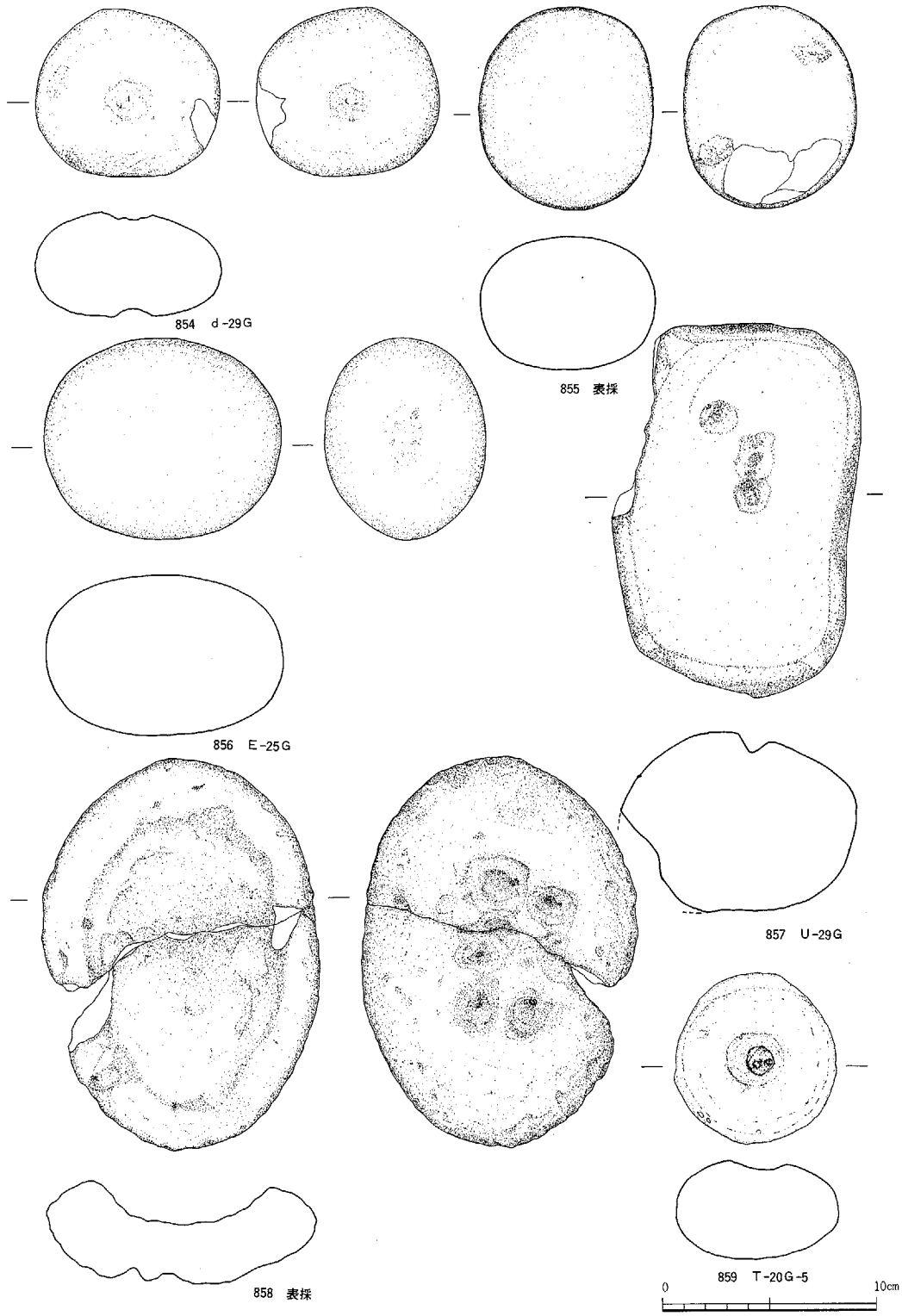
第320図　グリッド出土遺物（61）



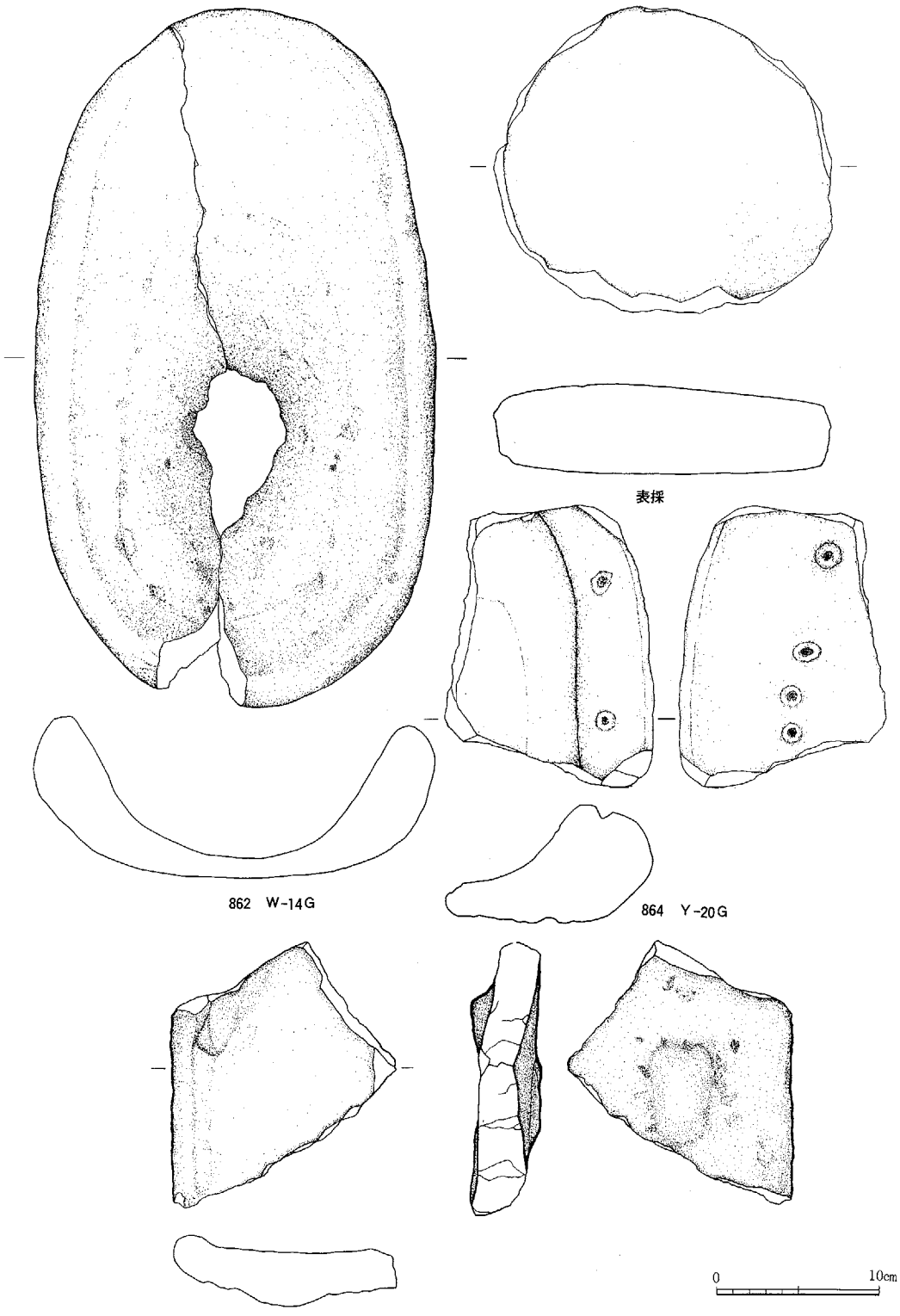
第321図　グリッド出土遺物（62）



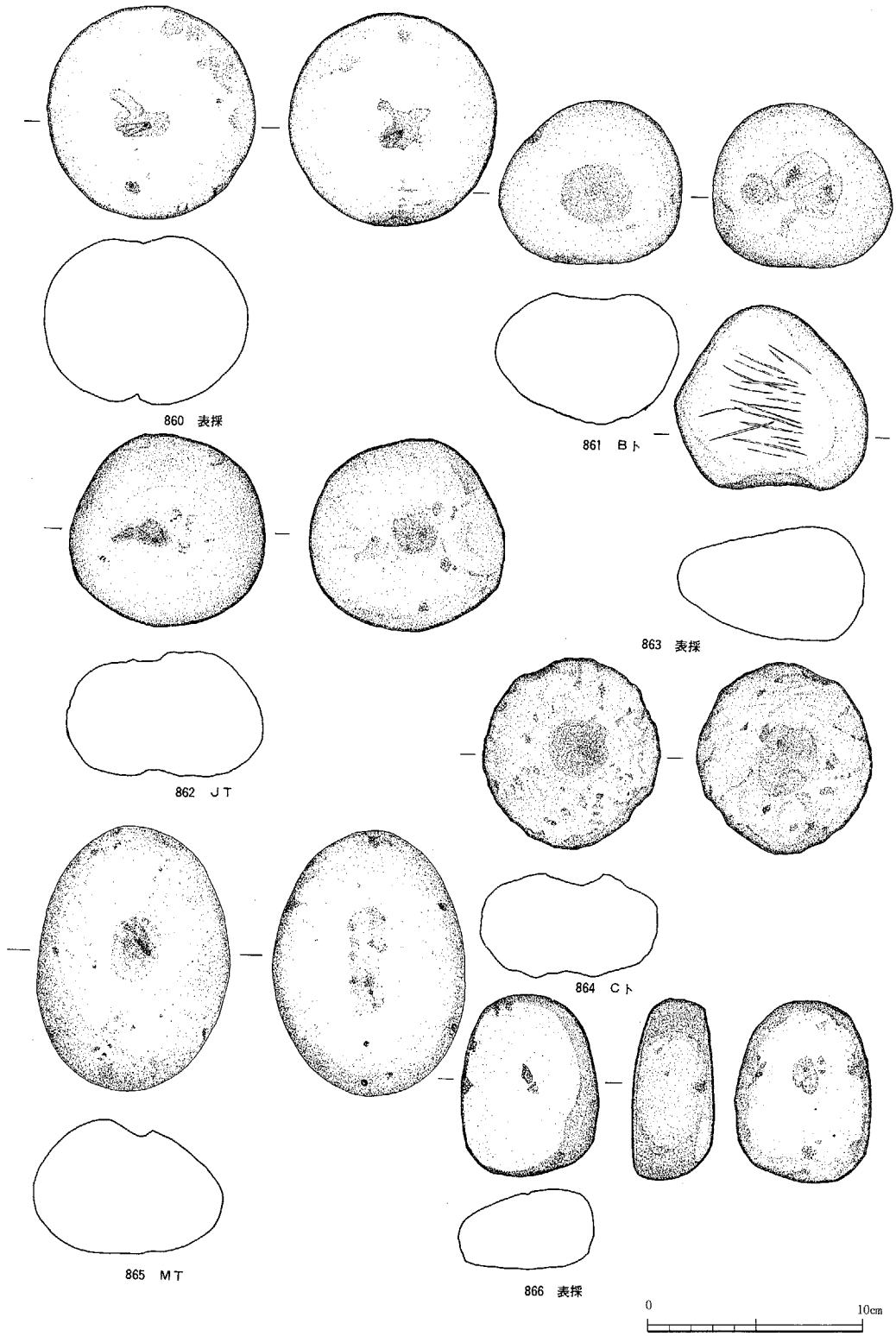
第322図　グリッド出土遺物（63）



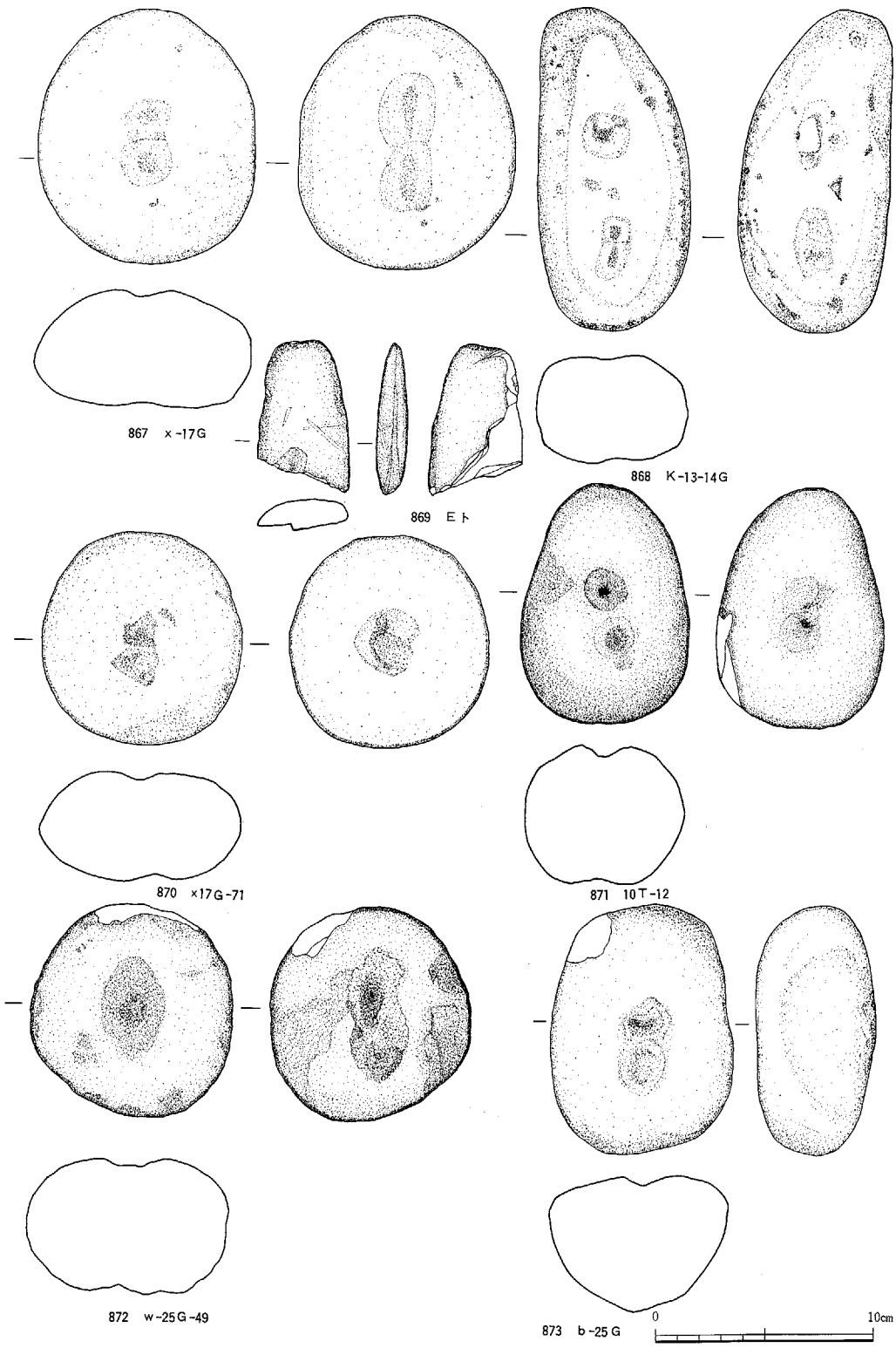
第323図　グリッド出土遺物（64）



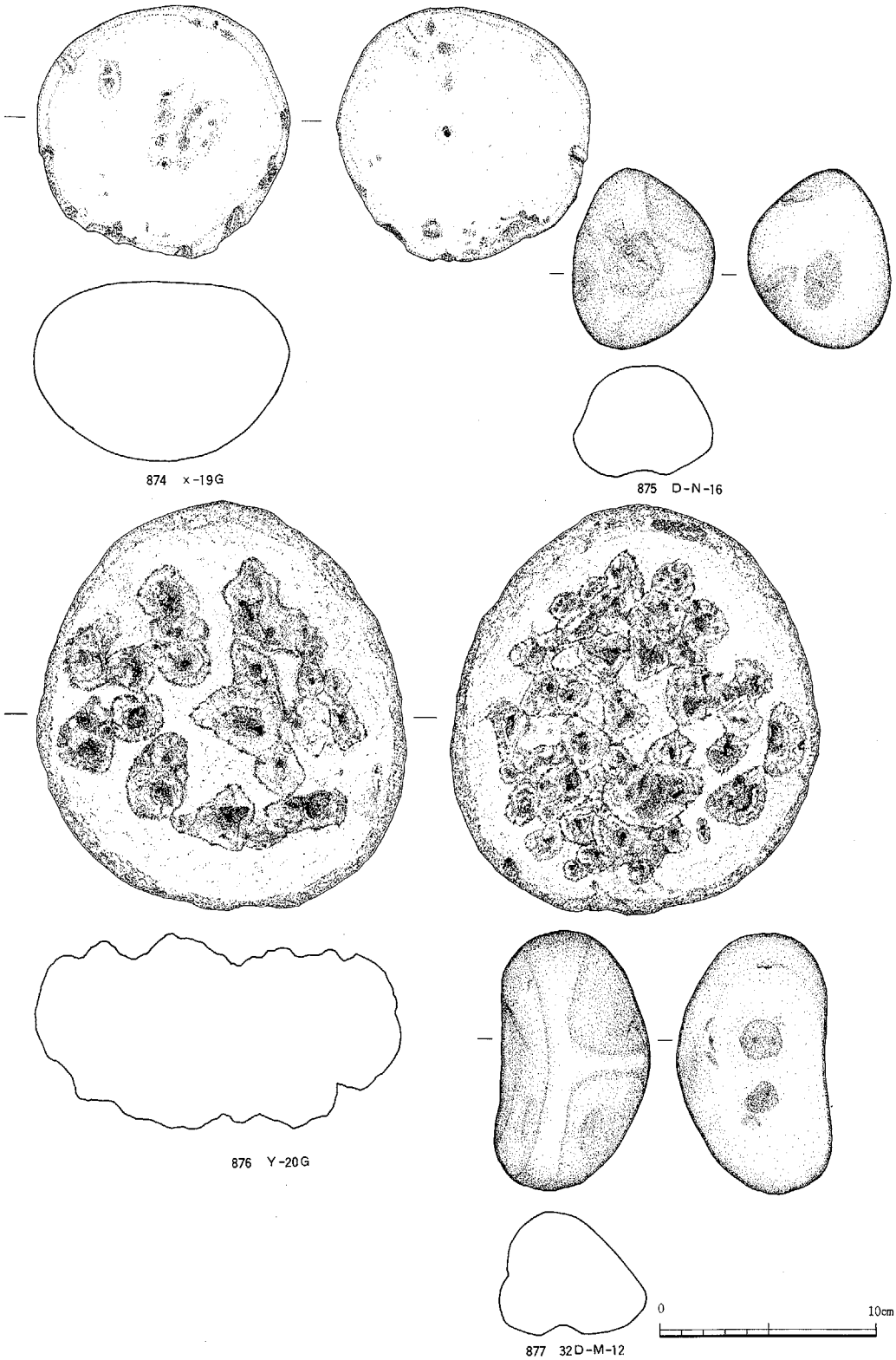
第324図　グリッド出土遺物（65）



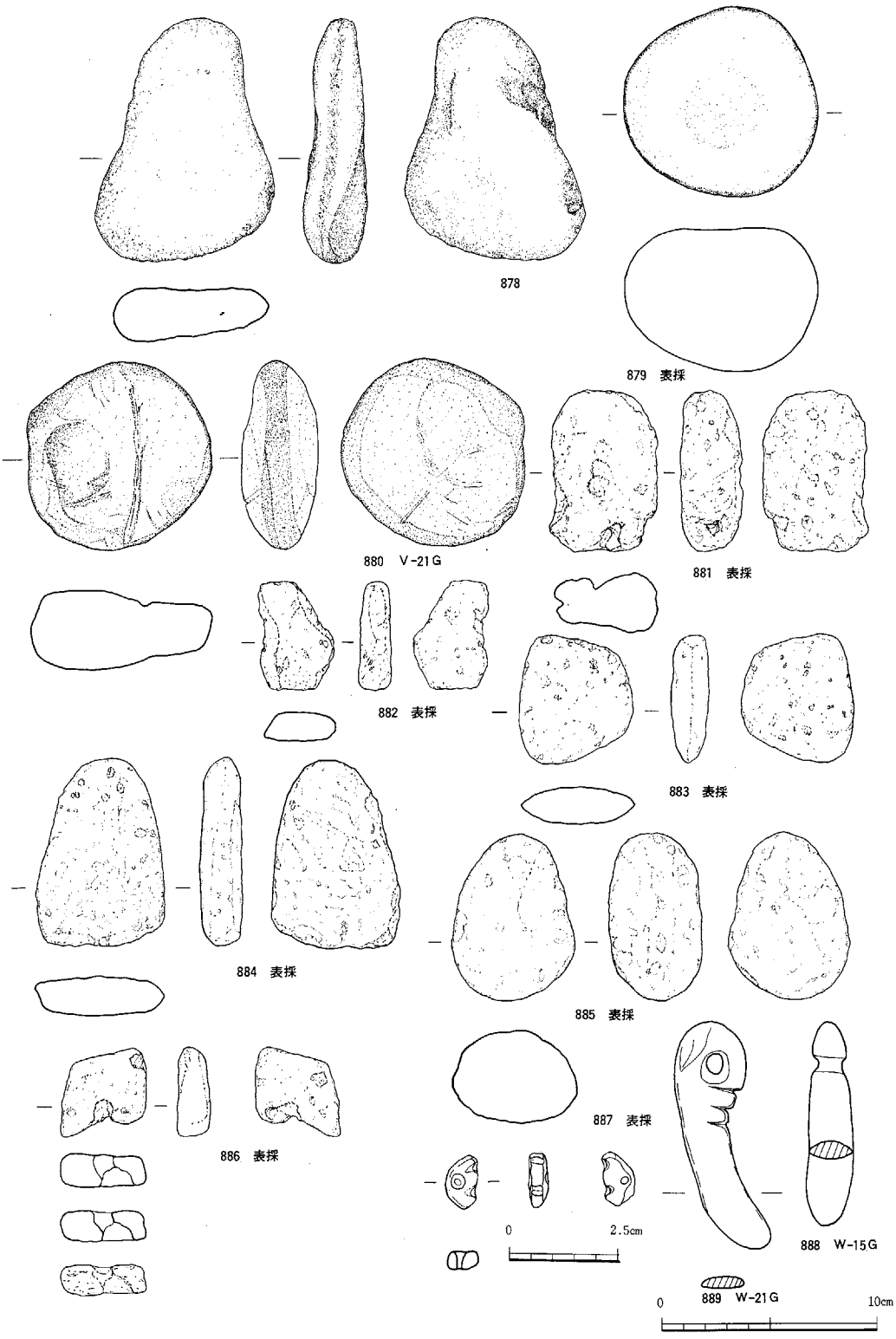
第325図　グリッド出土遺物（66）



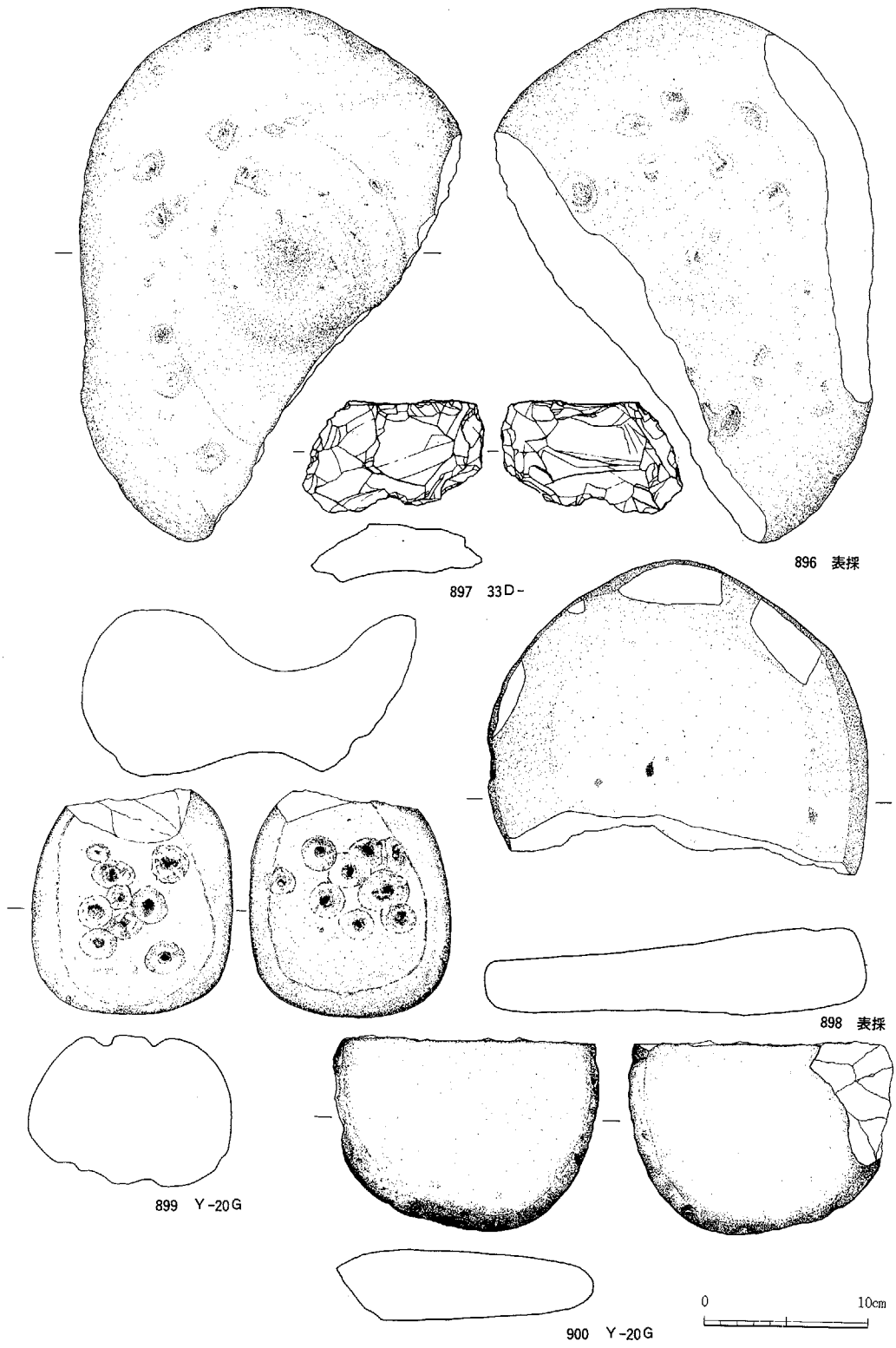
第326図　グリッド出土遺物（67）



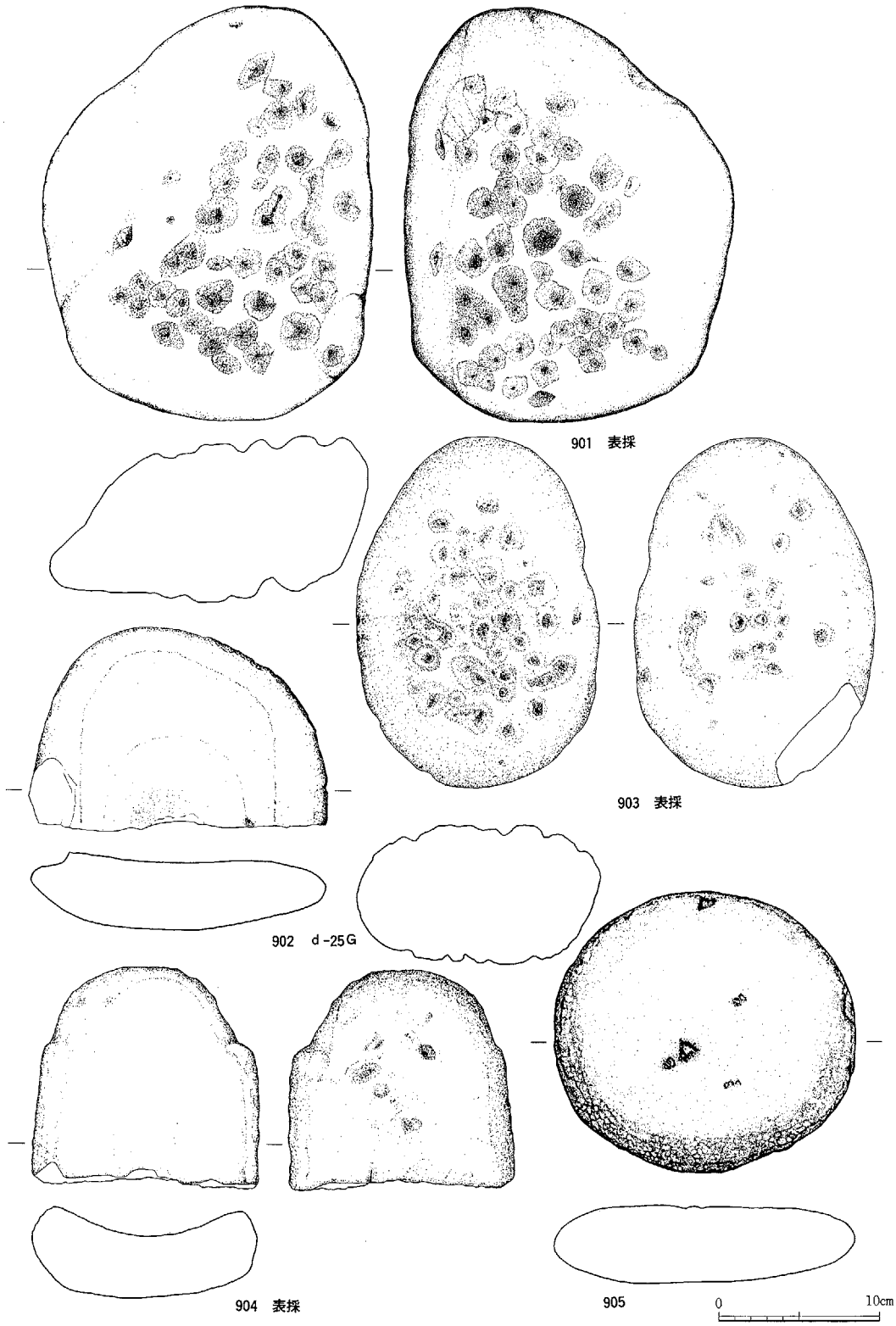
第327図　グリッド出土遺物（68）



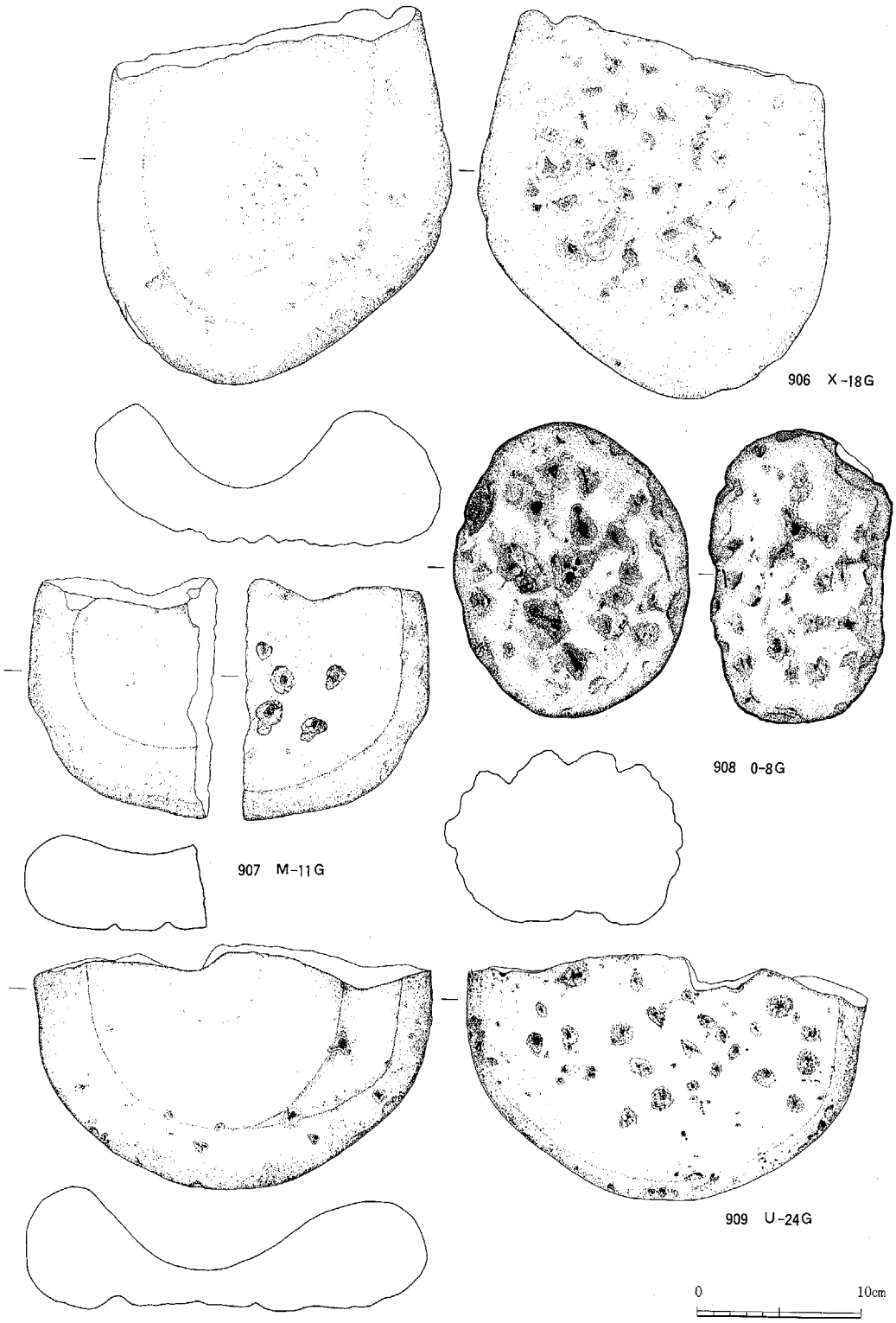
第328図　グリッド出土遺物（69）



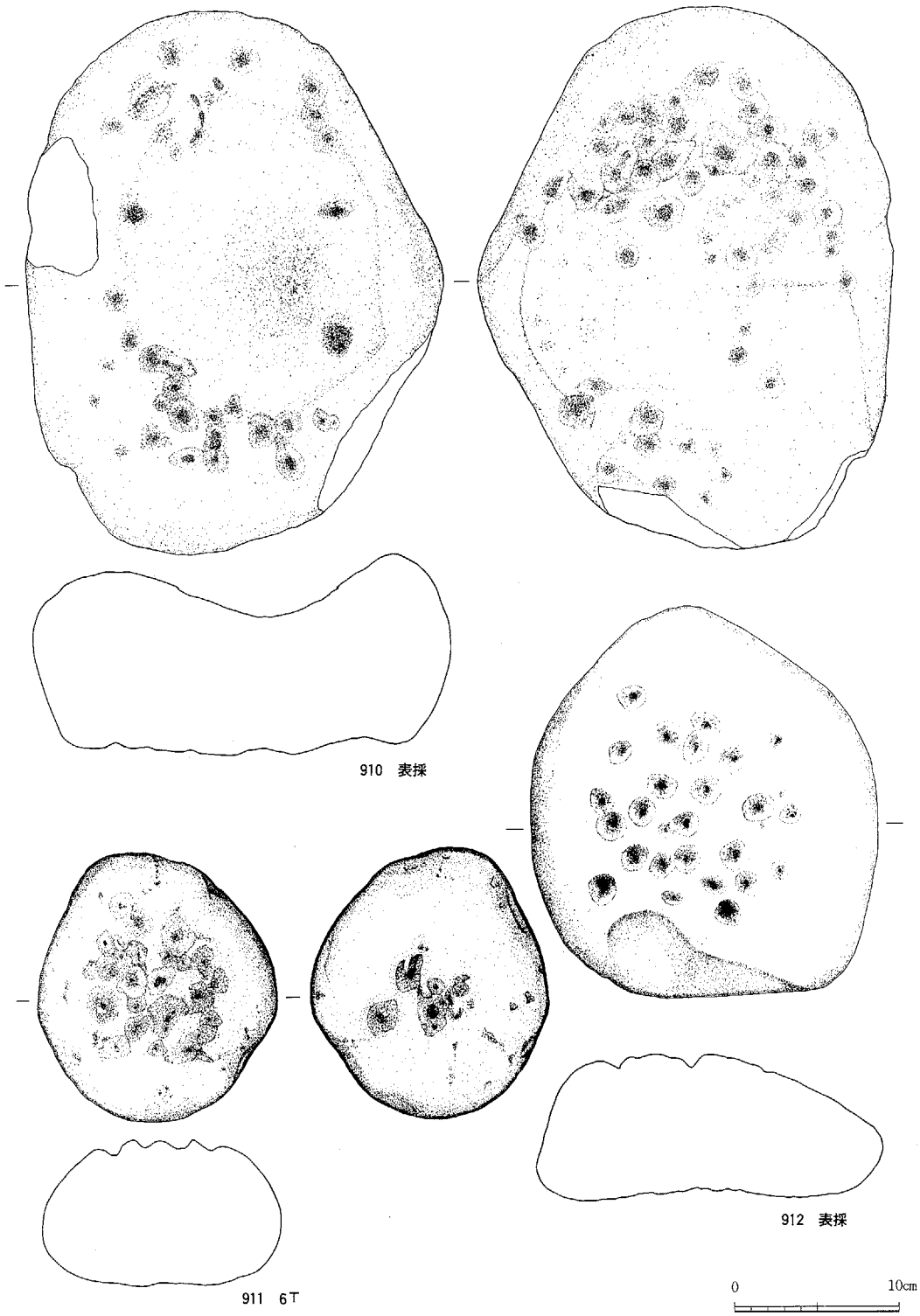
第329図　グリッド出土遺物（70）



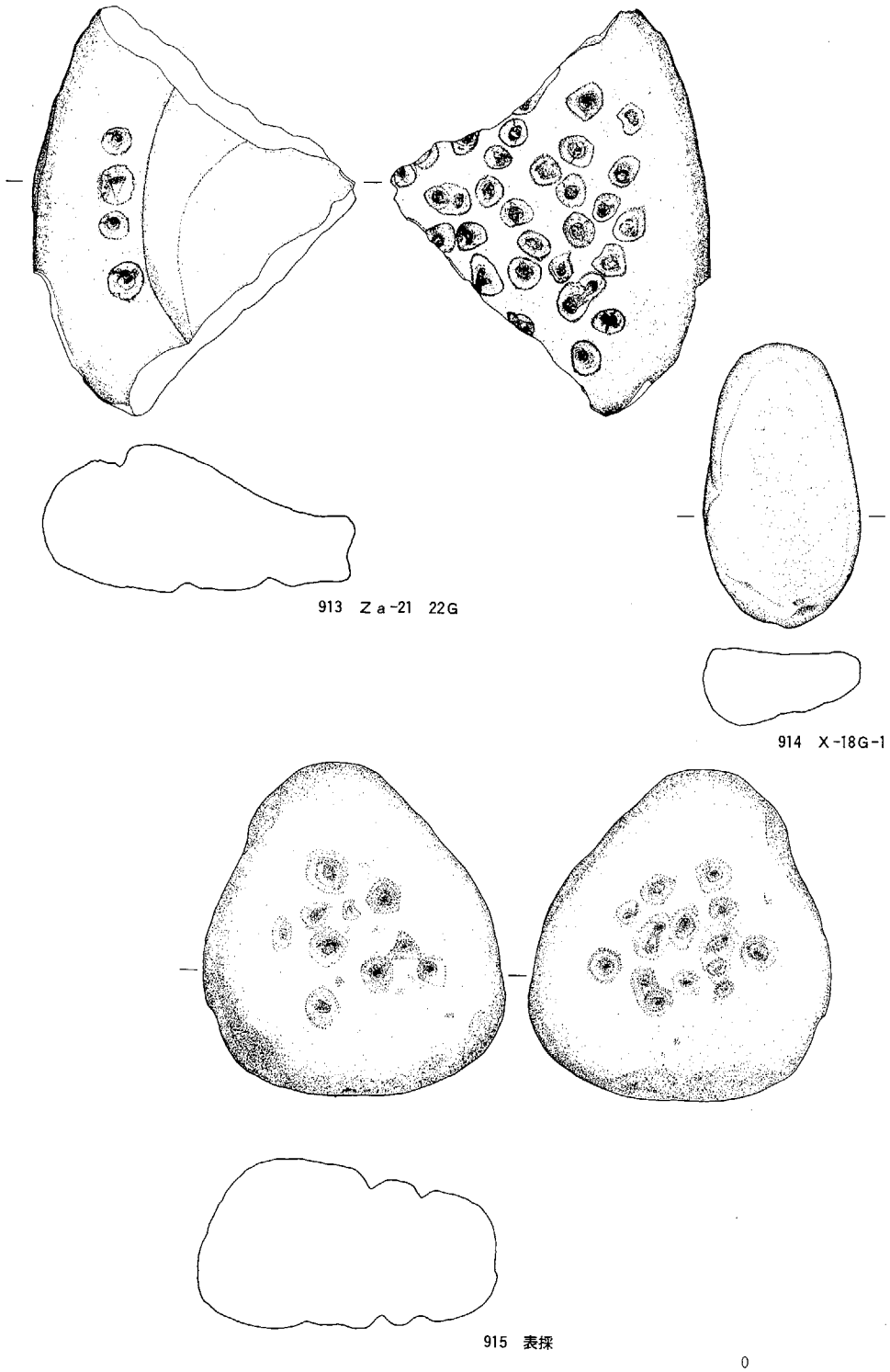
第330図　グリッド出土遺物（71）



第331図　グリッド出土遺物（72）

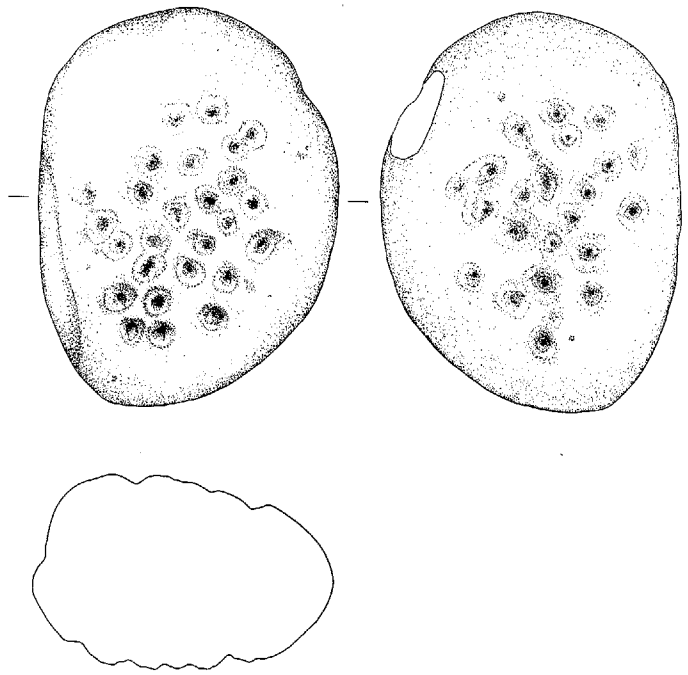


第332図　グリッド出土遺物（73）

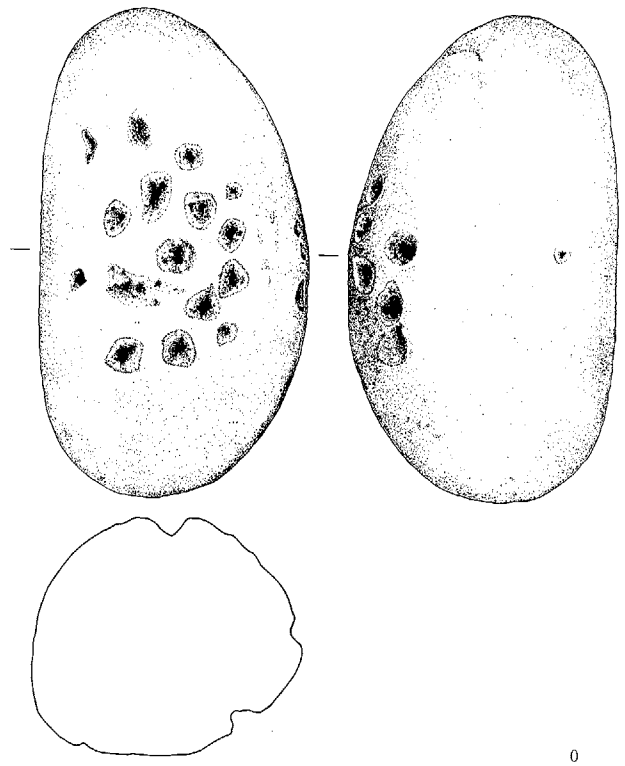


第333図　グリッド出土遺物（74）

第334図　グリッド出土遺物（75）



918　表採



919　表採

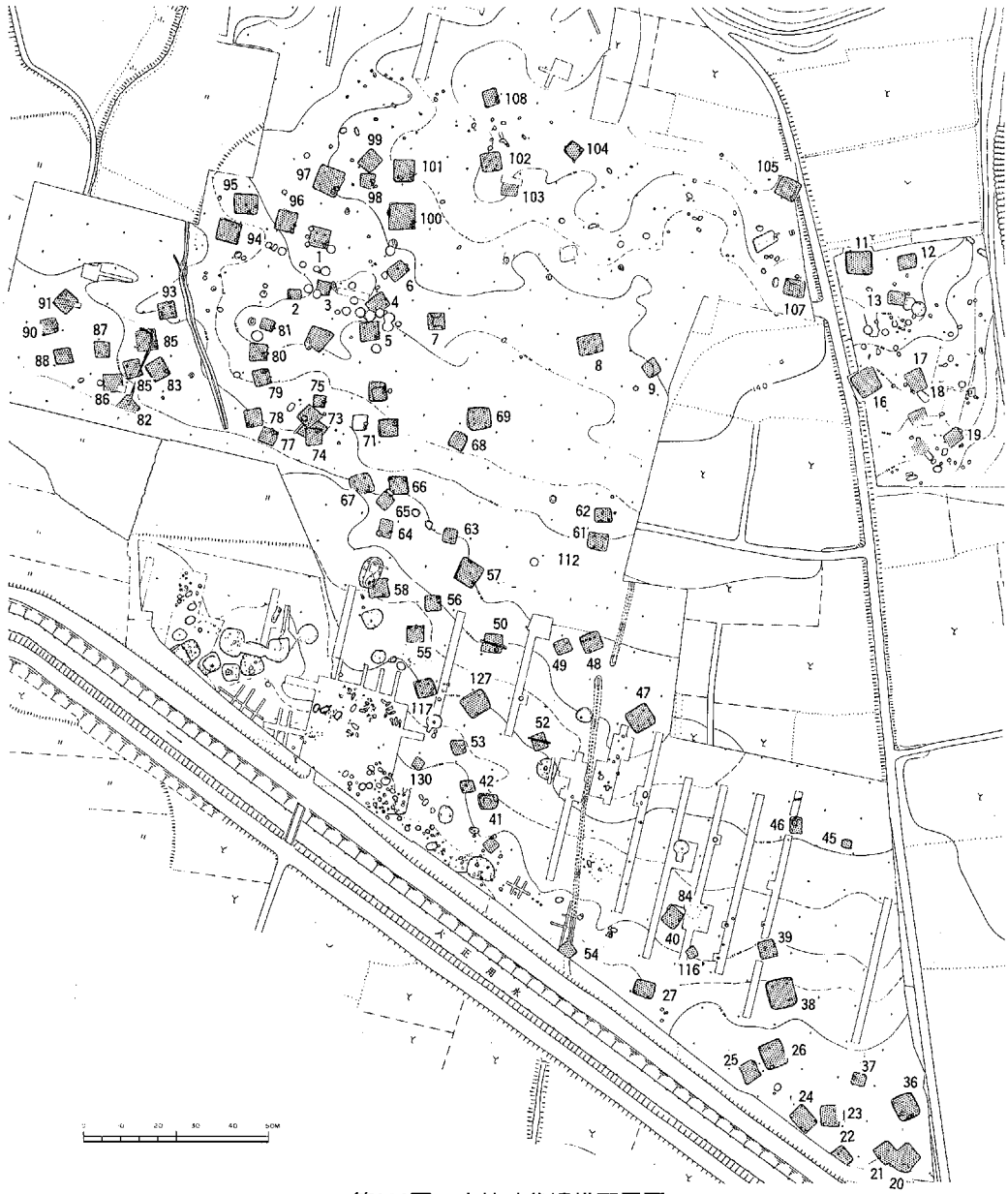
0　10cm

第335図　グリッド出土遺物（76）

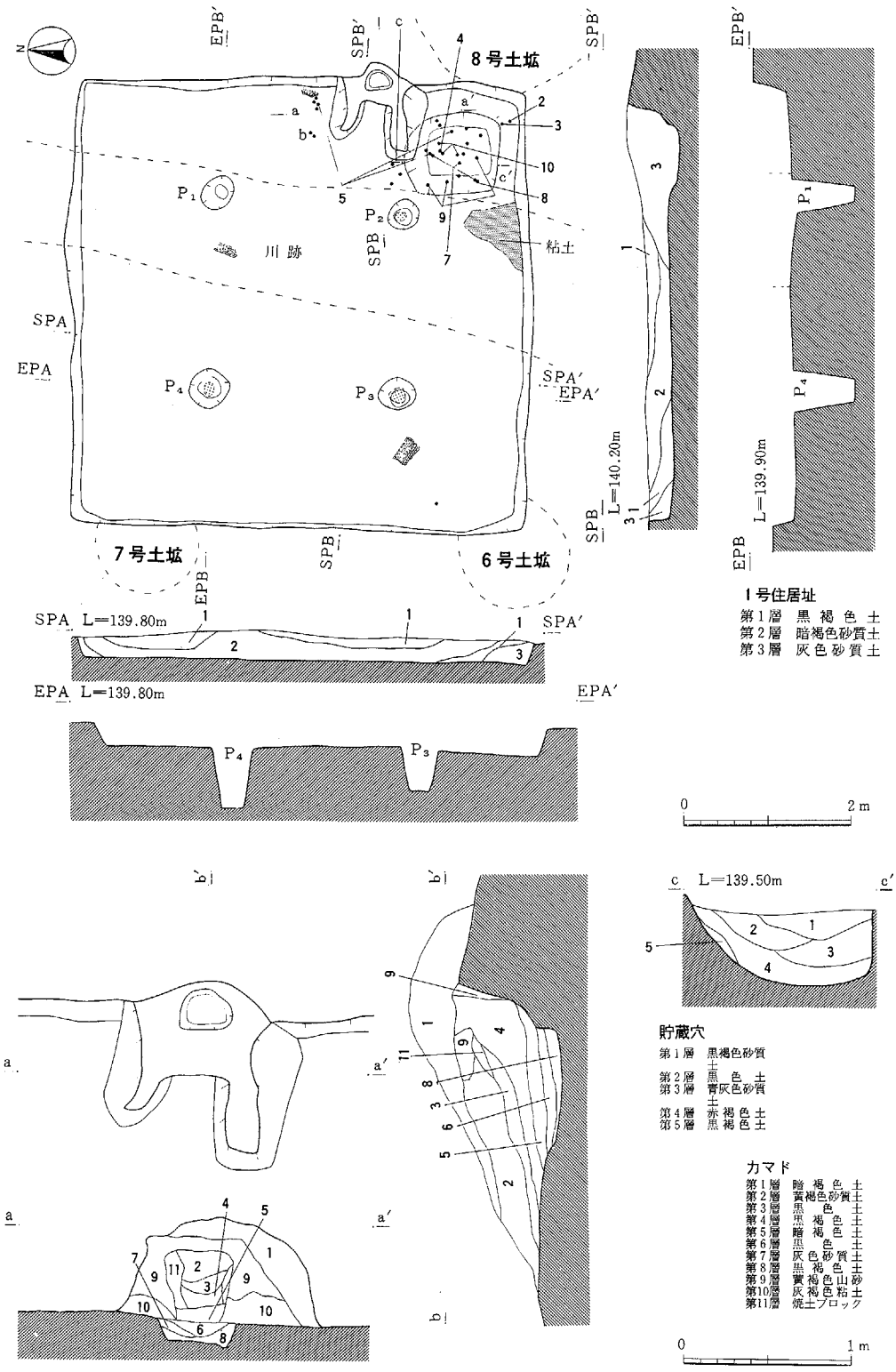
第2節　古墳時代

1．古墳時代の概観

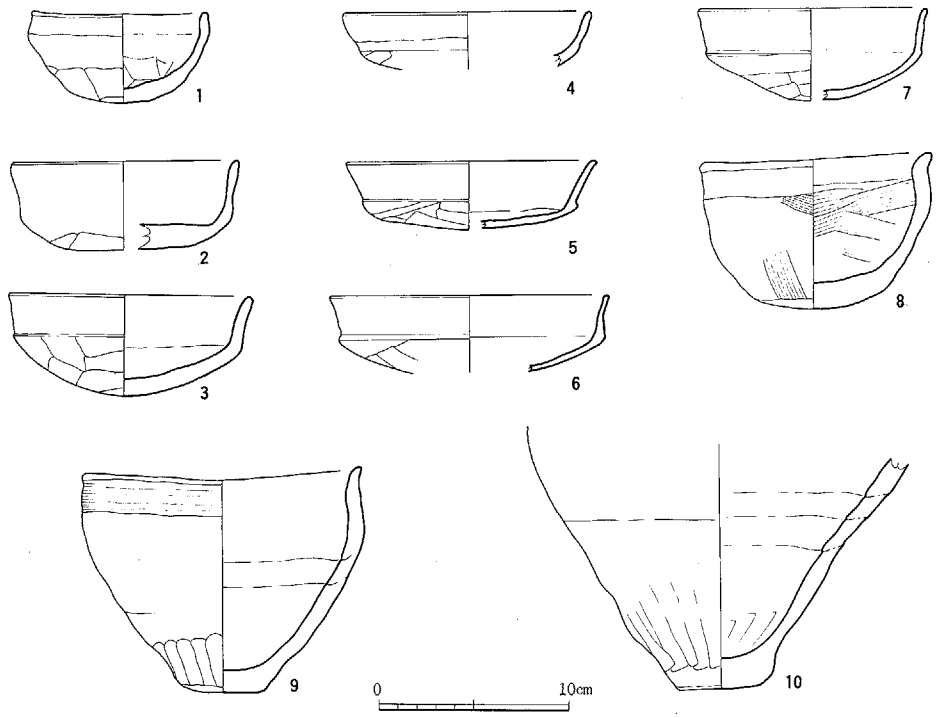
遺構は住居址107軒、土坑44基が検出された。検出状況は南西部の一部分を除きほぼ全域に亘って検出されている。時期は住居址・土坑共に前期と後期に属する。検出状況は東寄りに前期の所産のものが集中し、後期の所産のものが西寄りに分布する傾向を示している。また、一部の遺構は縄文時代の遺構を切っている。



第336図　古墳時代遺構配置図


8号土坑
7号土坑
6号土坑
川跡
粘土
P1
P2
P3
P4
SPA
SPA′
EPA
EPA′
SPB
SPB′
EPB
EPB′
SPA L=139.80m
EPA L=139.80m
L=140.20m
L=139.90m
L=139.50m
1号住居址
第1層 黒褐色土
第2層 暗褐色砂質土
第3層 灰色砂質土
0 2m
貯蔵穴
第1層 黒褐色砂質土
第2層 黒色土
第3層 青灰色砂質土
第4層 赤褐色土
第5層 黒褐色土
カマド
第1層 暗褐色土
第2層 黄褐色砂質土
第3層 黒色土
第4層 黒褐色土
第5層 暗褐色土
第6層 黒色土
第7層 灰色砂質土
第8層 黒褐色土
第9層 黄褐色山砂
第10層 灰褐色粘土
第11層 焼土ブロック
0 1m

第337図　1号住居址



第338図　1号住居址出土遺物

1号住居址（第337・338図　図版86・87・112　表1）

位置　L－11グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.90m×5.00m（東西×南北）／壁高　33cm～46cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に締まりがあり硬質である。／柱穴　4本。P1・柱痕の検出あり。径18cmを計る。掘り方径38cm、深さ58cm。P2・柱痕の検出あり。径18cm、掘り方径38cm、深さ58cm、P3・柱痕の検出あり。径34cm、深さ57cm。P4・長径40cm、短径36cm、深さ58cm。／カマド　東壁中央に位置する。天井部は僅かに遺存しているが架け口部分は欠損している。構築材は山砂を混入した粘土である。煙道部は地山を半円形に掘り込まれている。傾斜は70°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方・長軸83cm、短軸44cm、深さ6cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　南東隅に位置する。長軸110cm、短軸96cm、深さ48cmを計る。長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土、暗褐色砂質土、灰色砂質土の3層に分層される。

遺　物

南西隅寄り床直上で土師器坏1点、正位の状態で出土している。その他、土師器破片が床着で3点出土。貯蔵穴の覆土中より5点、土師器坏の破片が出土。覆土の観察からカマド側から流れ込んでいる事が判明した。すなわち、遺物はカマドからの転落が考えられる。実測遺物点数10点。

表１　１号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置遺存度
1	土師器坏	口径 9.4 底径 3.4 器高 4.8	口縁部は短く内傾し、体部は内反気味に開く。底部は丸く納める。	体部外ヨコナデ 〃 内ヘラナデツケ 底部ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎良好	茶褐色	床着
2	土師器坏	復口12.1 残存 4.6	口縁部は外傾し、体部は内傾気味となる。底部は平坦面を成す。	口縁部内外ヨコナデ 〃 外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎良好	赤褐色	床着
3	土師器坏	口径11.8 底径 器高 5.3	口縁部は外反し、体部に稜を付ける。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 〃 外ヘラケズリ	石粒含む	酸化炎良好	赤褐色	床着
4	土師器坏	口径12.6 残存 2.7	口縁部は内傾気味に開き、体部は緩やかな稜を付ける。	口縁部内外ヨコナデ 〃 外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	赤褐色	床着
5	土師器坏	口径13.3 残存 3.5	口縁部は外傾し、体部下位に稜を付ける。底部は丸く納める。	体部外ヨコナデ 〃 内ナデ 〃 外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	床着
6	土師器坏	口径14.7 残存 4.1	口縁部は外反し、体部に稜を付ける。底部は丸く納める。	体部内外ナデ 底部外ヘラケズリ 〃 内ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎良好	橙褐色	床着
7	土師器杯	口径12.1 残存 4.8	口縁部は外反し、体部に稜を付ける。底部は丸く納める。	体部内外ナデ 〃 外ヘラケズリ 〃 内ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎	炎橙褐色	床着
8	土師器碗	口径12.8 底径 3.7 器高 7.7	口縁部は短く外反し、体部は内反気味に開く。底部は丸く納める。	口縁部内外木ロナデ 体部内外ヘラケズリのみ木ロナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
9	土師器鉢	口径14.4 底径 5.0 器高12.0	口縁部は短く外反し、体部は内反気味に開く。底部は尖り気味の平底。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリのちヘラナデ内ナデ	石粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
10	土師器甕	底径 4.7 残存14.0	底部は尖り気味の平底。	胴部内外ナデ 〃 外粗いヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎	黒褐色	床着

２号住居址（第339・340図　図版87・112　表２）

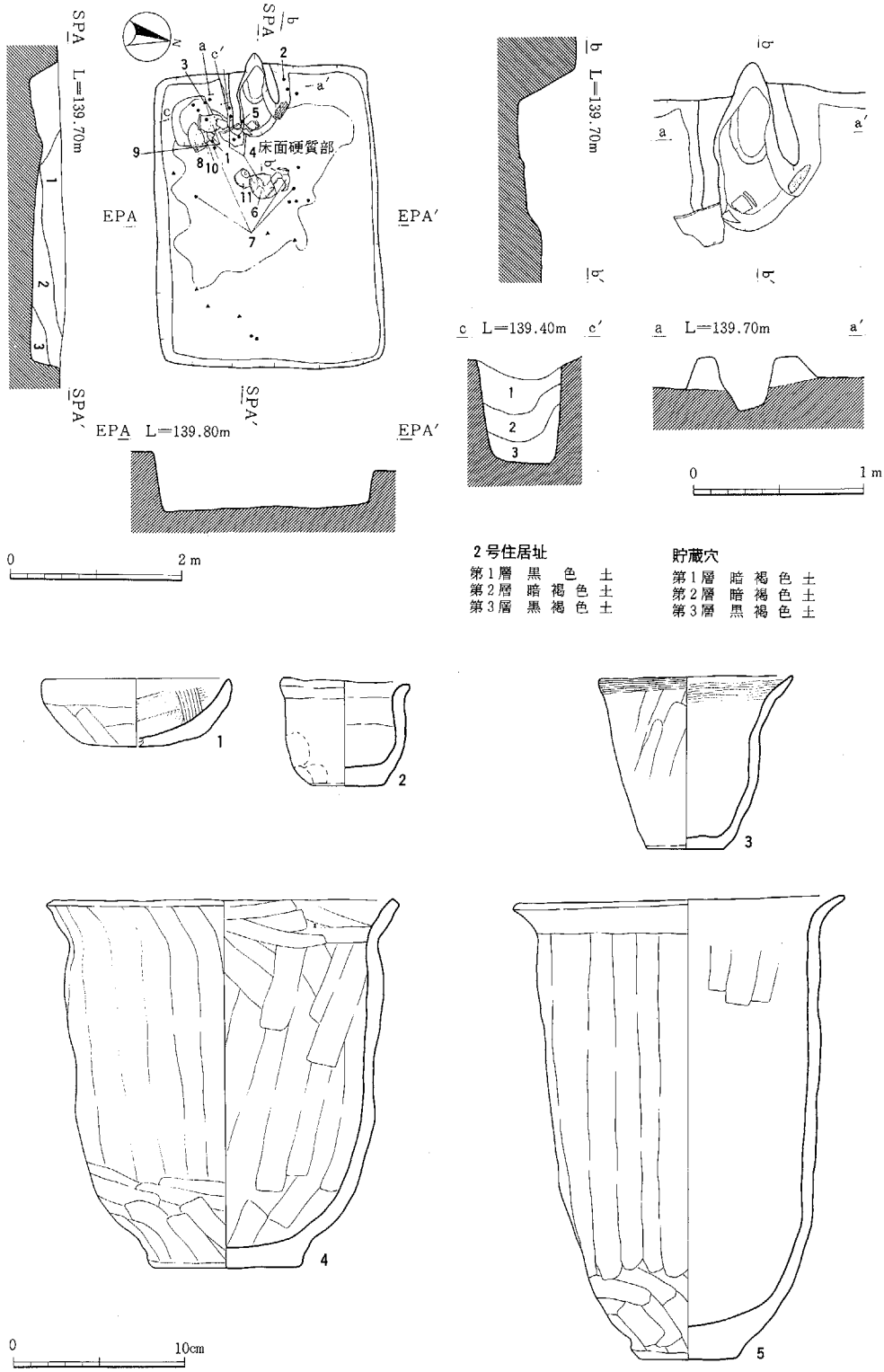
位置　W－13グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－110°－W／規模　3.30ｍ×2.37ｍ（東西×南北）／壁高22cm～34cm。/壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は中央部よりカマド南方部と貯蔵穴に接する範囲で検出されている。／柱穴なし。／カマド西壁中央に位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を短く三角形に掘り込まれている。傾斜40°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。長軸48cm、短軸78cm、深さ13cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　長軸54cm、短軸49cm、深さ60cm。楕円形を呈する。

覆土の状況

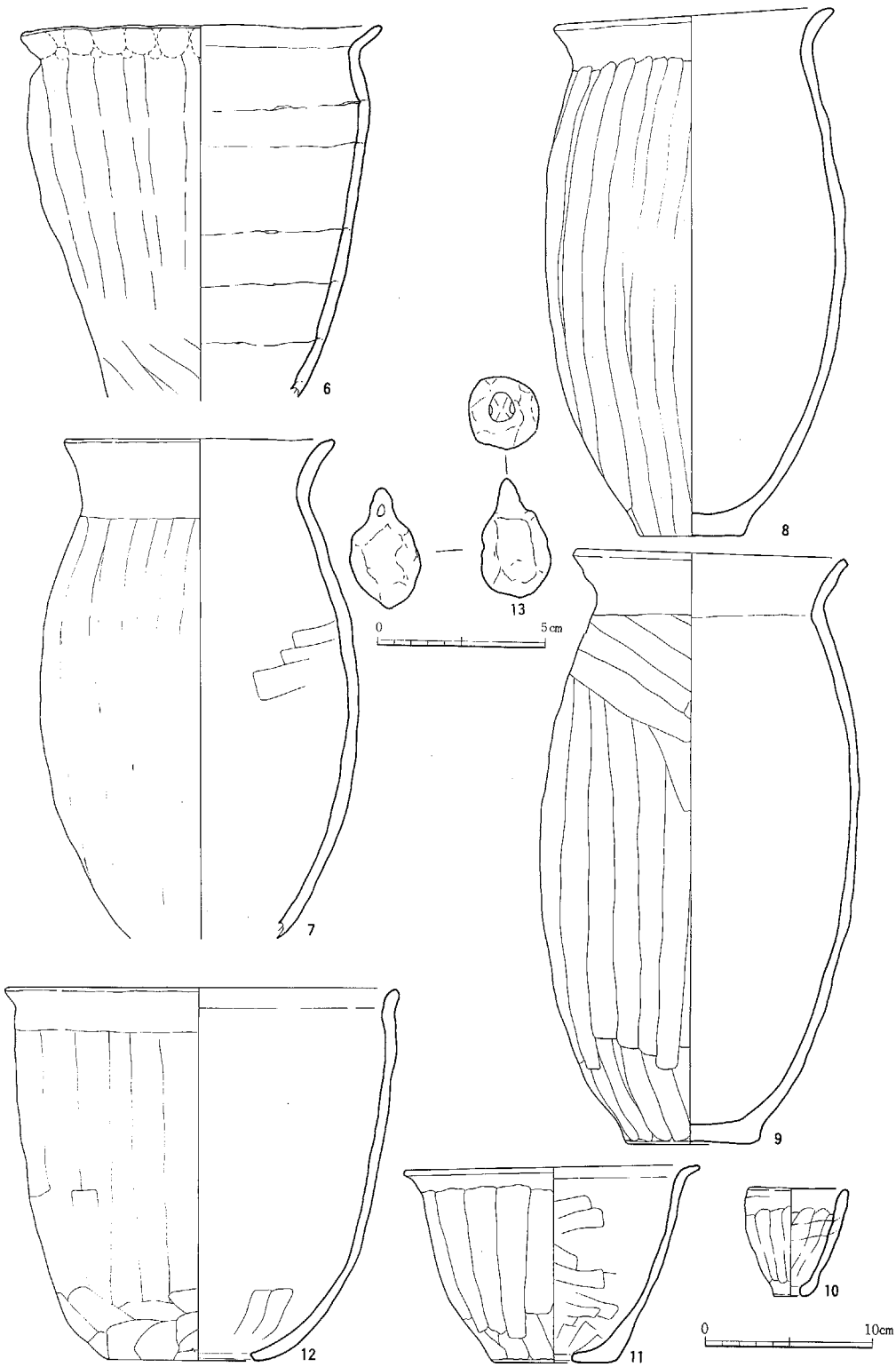
自然堆積である。黒褐色土２層、暗褐色土層１層の合わせて３層に分層される。

遺　物

床面の中央部とカマド付近に集中して出土。貯蔵穴内のものはカマドから転落したような状況で検出している。甕形土器７点、甑３点。カマド内より手づくねの甑１点、土錘が１点、炭化材１点出土。実測遺物13点。



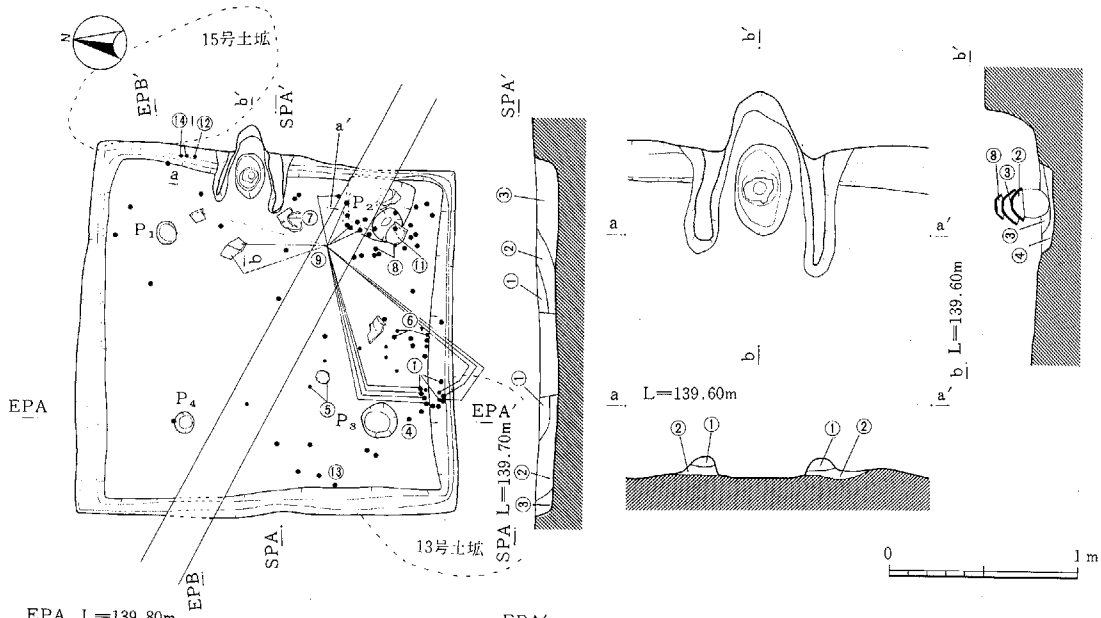
第339図　2号住居址・出土遺物(1)

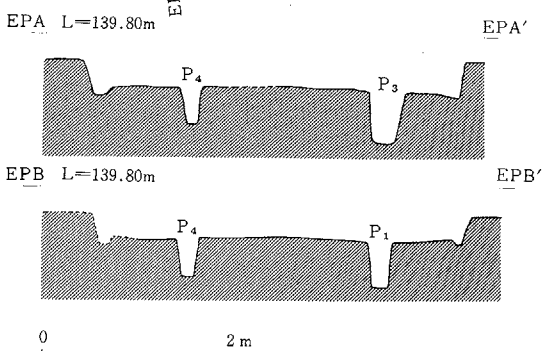


第340図　2号住居址出土遺物(2)

表2　2号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径10.8 残存 4.0	体部は内反気味に開き、直立気味の口縁部に連続する。底部は平底。	口縁部内外木ロナデツケ 体部外ヘラケズリ	砂粒を含む	酸化炎	赤褐色	床着
2	土師器 小形甕	口径 7.2 底径 3.9 器高 6.4	口縁部は短く外反し、体部は直立気味となる。底部は平底。	口縁部内外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
3	土師器 甑	口径11.3 底径 4.5 器高10.1	口縁部は外反し、体部は開く。底部は平底。	口縁部内外木ロナデ 体部外ケズリのち木ロナデ	砂粒を含む	酸化炎	橙褐色	床着
4	土師器 甕	口径19.8 底径 8.3 器高21.5	口縁部は外傾し、胴部は直立気味となる。底部は突出した平底。	口縁部外指圧 胴部内外ヘリケズリ	砂石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
5	土師器 長胴甕	口径19.3 底径 5.4 器高27.0	口縁部は外反し、胴部は長胴化する。底部は突出した平底。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリのちナデ 口縁部内タテヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	橙褐色	床着
6	土師器 長胴甕	口径21.3 残存22.4	口縁部は短く外傾し、体部は開く。	口縁部外指圧 胴部外ヘラケズリ	砂粒石石粒含む	酸化炎	明褐色	床着
7	土師器 長胴甕	口径15.8 残存29.8	口縁部は外反し、胴部は長胴化する。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内木ロナデ	石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着
8	土師器 甕	口径16.5 底径 6.0 器高31.0	口縁部は外反し、胴部は長胴化する。底部は平底。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	明褐色	床着
9	土師器 甕	口径16.1 底径 7.9 器高35.3	口縁部は外反し、胴部は長胴化する。底部は平底。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヨコヘラナデ	石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
10	土師器 甑	口径 5.6 底径 1.2 器高 5.9	小型の甑。胴部は開き、底部は突出気味の平底で穿孔されている。	口縁部内外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	褐色	床着
11	土師器 甑	口径17.5 底径 2.7 器高11.5	口縁部は短く外反し、胴部は開く。底部は平底で穿孔されている。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ内ヘラ工具ナデ、穿孔は調整後	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	床着
12	土師器 甑	口径23.0 底径 9.0 器高22.1	寸胴型の胴部に短く外傾するロ縁が付く。底部は大きく穿孔されている。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリのちナデ	石粒含む	酸化炎	赤褐色 部分的 黒褐色	床着
13	土鈴 手づくね	器高 4.8 幅 2.7	内部空洞 内部に小石状のものが入る	———	細かい砂粒多く含む	酸化炎	黒褐色	床着



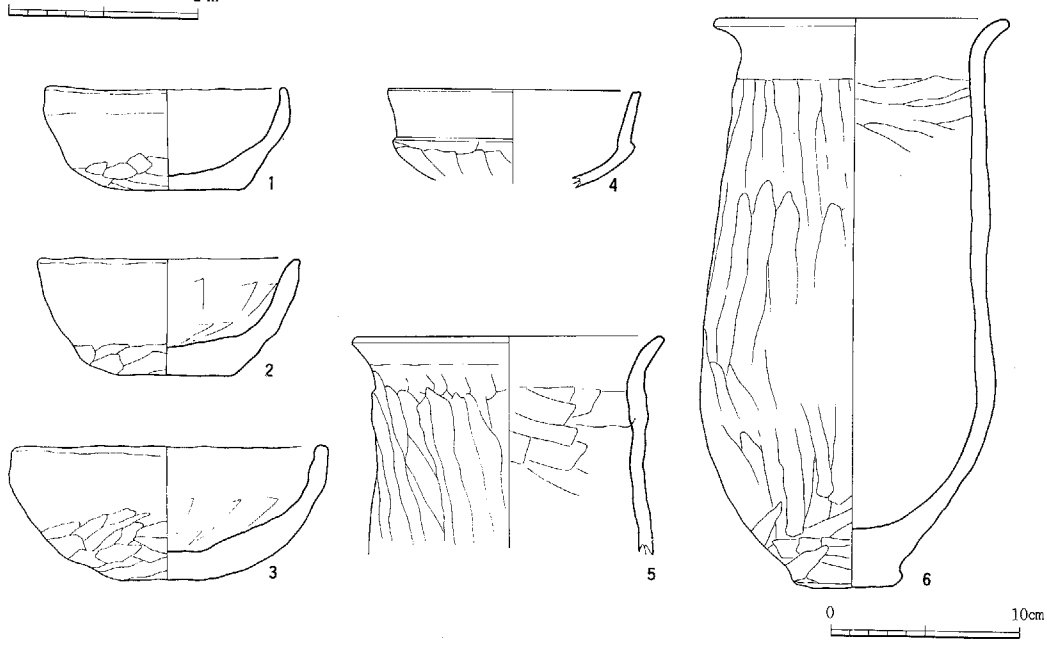


3号住居址

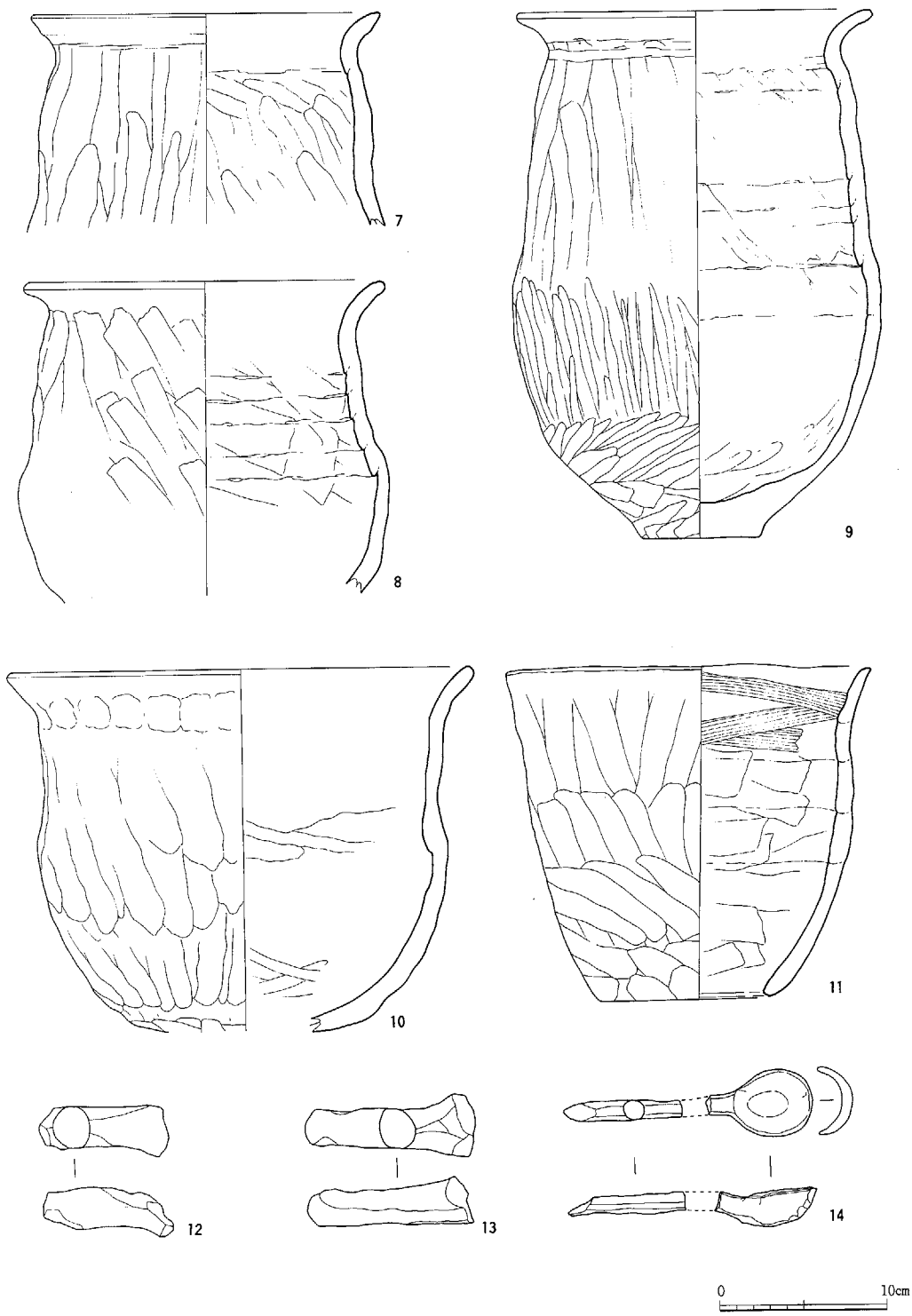
第1層	黒褐色土	褐色砂質土混入。白色の軽石(F.P)少量含む。しまり強。(砂質)
第2層	暗褐色土	褐色砂質土多量に混入する。白色の軽石少量含む。しまり強。(砂質)
第3層	暗褐色土	ローム粒子少量含む。しまり強。粘性若干あり。

カマド

1	暗黄褐色山砂	しまり強。
2	灰褐色粘土	黒色土混入。灰色砂質土混入。
3	黒色土	焼土粒子、炭化物多量に含む。灰色砂質土混入。しまり強。
4	灰色砂質土	褐色砂質土ブロック状に含む。しまり強。



第341図　3号住居址・出土遺物(1)



第342図　3号住居址出土遺物(2)

表3　3号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 埦	口径13.0 底径 6.7 器高 6.0	口縁部は内傾し、体部は開く。底部は平底。	口縁部内外ヘラナデツケ体部 内部内外ヘラケズリのちナデ　底部ナデ	砂粒多量に含む	酸化炎	淡褐色	床着 3/4
2	土師器 埦	口径14.0 底径 6.0 器高 6.2	口縁～体部は内反気味に開き、平底。	口縁部内外木ロナデ 体部内外ナデ 底部ヘラケズリ	砂粒を含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド 完形
3	土師器 埦	口径16.3 底径 4.5 器高 6.2	口縁～体部は内反気味に開き、底部は丸く納める。	口縁部内外ヘラナデ 体部内外ナデ 底部ヘラケズリ	砂粒を含む	酸化炎 良好	淡褐色 (白味が強い)	カマド ほぼ完形
4	土師器 坏	口径13.2 残存 5.0	口縁部は外傾し、体部は稜を付ける。底部は丸く納めるもの。	口縁部内外ヨコナデ 体部内ヨコナデ 〃　外ヘラケズリ	砂粒を含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
5	土師器 甕	口径16.4 残存11.5	口縁部は短く外傾し、胴部は長胴となる。	口縁部内ナデ 〃　外木ロナデ 胴防外ケズリ	砂粒を含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
6	土師器 甕	口径15.6 底径 5.0 器高30.0	口縁部は短く外傾し、胴部は長胴となる。底部は突出気味の平底。	口縁部内外ナデ 胴部外ケズリ 〃　内ヘラナデツケ	砂粒を含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
7	土師器 甕	口径20.5 残存12.6	口縁部は短く外反し、胴部は下膨れとなる。	口縁部内外木ロナデ 胴部外木ロナデツケ 〃　内ケズリ風のナデツケ	砂粒を含む	酸化炎 良好	明褐色	床着
8	土師器 甕	口径11.3 残存18.8	口縁部は短く外反し、胴部は下膨れとなる。	口縁部内外木ロナデ 胴部内外木ロナデツケ	砂粒を含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴
9	土師器 甕	口径21.4 底径 6.5 器高31.0	口縁部は短く外反し、胴部は内傾し下膨れ、底部は突出気味の平底。	口縁部内外ナデ、胴部外幅広木ロナデツケのち棒状ナデツケのちヘラケズリ	砂粒を含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
10	土師器 甑	口径27.6 残存21.4	口縁部は短く外反し、胴部は下膨れとなる。底部は穿孔するもの。	口縁部内木ロナデ 胴部内指ナデツケ	砂粒を含む	酸化炎	淡褐色	床着
11	土師器 甑	口径21.6 残存19.6	口縁～胴部は開き、底部は大きく穿孔される。	口縁部ナデ 体部外ヘラケズリ内ハケ内面輪積痕残す	砂粒多量に含む 〃　荒い	酸化炎	明褐色	床着
12	土製品 匙	残存 3.8 径　1.3	柄杓状土製品の柄の部分である。押圧により丸く仕上げている。	外ナデ	砂粒を含む	酸化炎	明褐色	床着
13	土製品 匙	残存 5.0 径　1.1	柄杓状土製品の柄の部分である。押圧により丸く仕上げている。	内外ナデ	砂粒を含む	酸化炎	橙褐色	床着約⅓
14	土製品 匙	残存13.2 径　1.2	柄杓状土製品のほぼ完形に近い物である。	内外ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡橙褐色	床着

3号住居址（第341・342図　図版88・89・113　表3）

位置　N－14グリッド／形態　方形／主軸方向　N－90°－E／規模　3.55m×3.40m（東西×南北）／壁高　28cm～33.5cm／壁溝　全周する。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に締まりがあり硬質である。なお、北西から南東にかけて近・現代の暗渠によって分断される。／柱穴　4本。P1は貯蔵穴に重複して検出。覆土の観察では切り合いが認められないため、同時期のものと考えられる。P1・径37cm、深さ60cm。貯蔵穴と重複する。P2・径37cm、深さ62cm。P3・径37cm、深さ60cm。P4・径36cm、深さ59cm。／カマド　東壁中央部よりやや北側に位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を短く半円形に掘り込んでいる。傾斜は87°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の内側におさまる。長軸48cm、短軸32cm、深さ6cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　南東隅に位置する。北側半分の上面を近・現代の暗渠に切られる。長軸76cm、短軸74cm、深さ64cm、方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に2層と暗褐色土の3層に分かれる。

遺　物

カマド付近と貯蔵穴内とP1付近より出土した。カマド付近には土製匙が1点出土。実測点数14点。

新旧関係

13・15号土坑を切る。また、近・現代の暗渠に切られる。

4号住居址（第343～345図　図版90・113・114　表4）

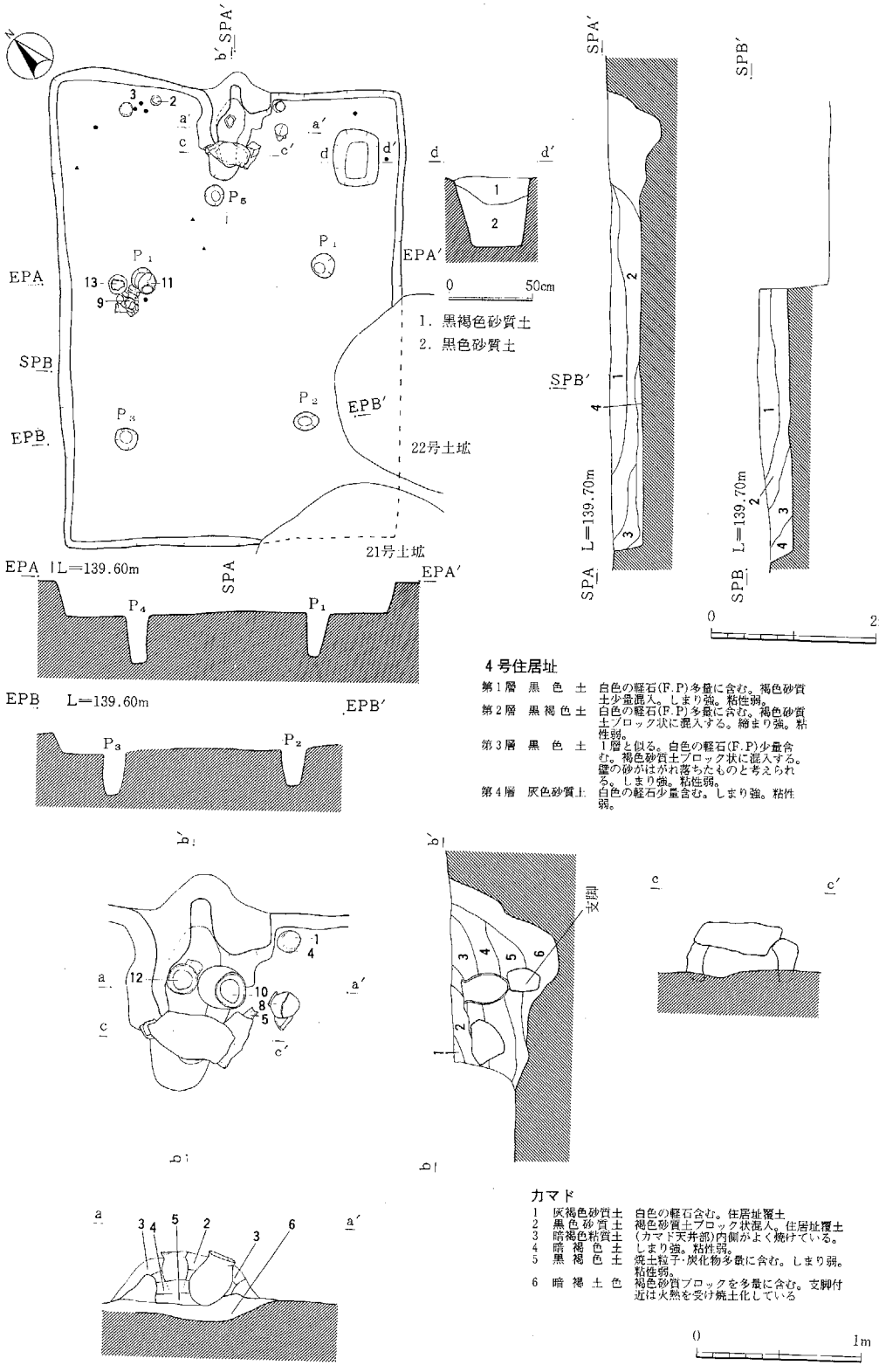
位置　N－15・16グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.56m×44.03m（南北×東西）／壁高　36cm～41cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に締まりがあり硬質である。／柱穴　5本。P1・径39cm、深さ43cm。P2・長径31cm、単径24cm、深さ46cm。P3・径29cm、深さ50cm。P4・径39cm、深さ42cm。P5・径24cm、深さ28cm。カマド　北東壁中央部に位置する。前方部の焚口にあたる部分の天井部と袖は石を使用している。後方は粘土で構築されている。甕形土器が2個体並列でカマドに架けられた状態で検出した。支脚は石を使用されている。煙道部は地山を短く円形に掘り込まれている。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。長軸94cm、短軸90cm、深さ4cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。その上を土師器坏が伏せた状態で検出されている。また、両袖の先端を破片（同一固体）で補強されている。／貯蔵穴　南東隅に位置する。長軸54cm、短軸48cm、深さ57cmを計る。隅丸長方形を呈する。

遺　物

カマドの西側より坏が床着1点。P4の直上及び床着破片6点出土した。実測遺物は14点である。

新旧関係

21号土坑・22号土坑にそれぞれ切られる。



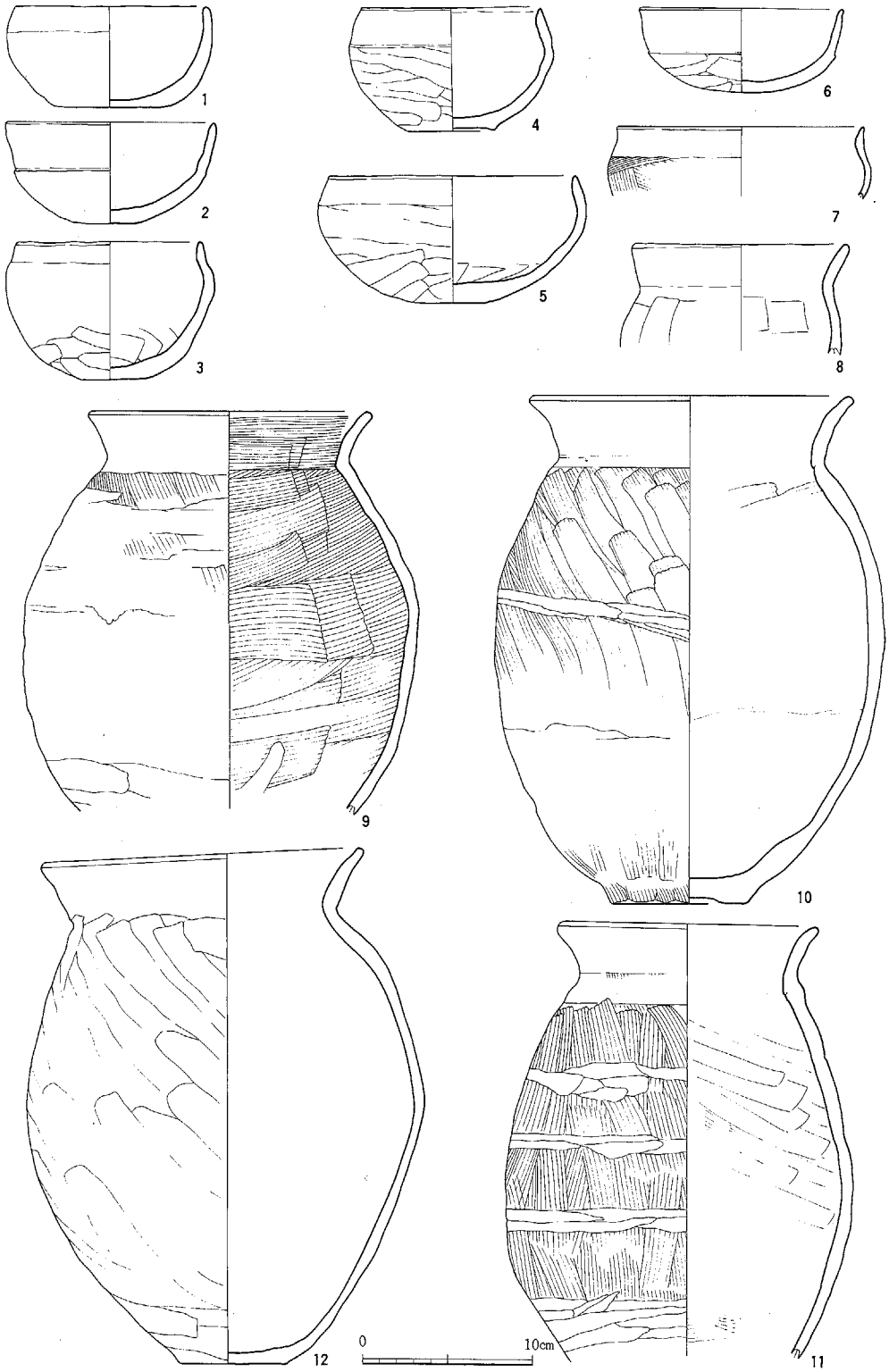
4号住居址

第1層	黒色土	白色の軽石(F.P)多量に含む。褐色砂質土少量混入。しまり強。粘性弱。
第2層	黒褐色土	白色の軽石(F.P)多量に含む。褐色砂質土ブロック状に混入する。締まり強。粘性弱。
第3層	黒色土	1層と似る。白色の軽石(F.P)少量含む。褐色砂質土ブロック状に混入する。壁の砂がはがれ落ちたものと考えられる。しまり強。粘性弱。
第4層	灰色砂質土	白色の軽石少量含む。しまり強。粘性弱。

カマド

1	灰褐色砂質土	白色の軽石含む。住居址覆土
2	黒色砂質土	褐色砂質土ブロック状混入。住居址覆土
3	暗褐色粘質土	(カマド天井部)内側がよく焼けている。
4	暗褐色土	しまり強。粘性弱。
5	黒褐色土	焼土粒子・炭化物多量に含む。しまり弱。粘性弱。
6	暗褐土色	褐色砂質ブロックを多量に含む。支脚付近は火熱を受け焼土化している

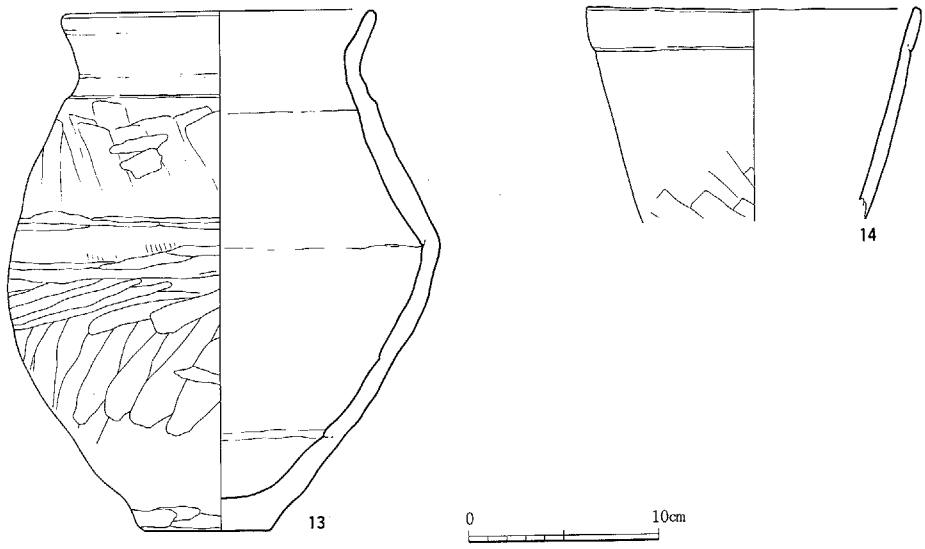
第343図　4号住居址



第344図　4号住居址出土遺物(1)

表4　4号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 埦	口径10.8 底径 6.2 器高 6.1	口縁～体部は内反気味に開き、底部は平底となる。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリのちナデ	細かない砂粒を含む	酸化炎	灰褐色	床着
2	土師器 坏	口径12.4 底径 3.5 器高 5.9	口縁部は外傾し、体部は稜を付ける。底部は丸く納め小さな平底となる。	口縁部内外ナデ 体部外ヨコナデ	石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
3	土師器 埦	口径10.7 底径 3.8 器高 8.1	口縁部は短く内傾し、体部は内反気味に開く。底部は平底となる。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ	細要い砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
4	土師器 埦	口径10.4 底径 4.7 器高 7.3	口縁部は内傾し、体部は丸く納める。底部は上げ底となる。	口縁部内外ナデ、体部外ヘラケズリのちナデ 内ヘラケズリのちヘラミガキ	細かい砂粒石粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着
5	土師器 坏	口径14.4 底径 4.5 器高 7.5	口縁部は内傾し、体部は丸く納める。底部は平底となる。	口縁部内外ナデ 体部内外ヘラケズリのちナデ	細かい砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド
6	土師器 坏	口径11.8 底径 8.0 器高 5.0	口縁部は外傾し、体部は稜を付ける。底部は丸く納める。	口縁部内外ナデ 体部外ヨコナデ 底　ヘラケズリ	石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
7	土師器 坏	口径14.4 残存 4.2	体部は内反気味に開き、口縁部は一度内反しさらに開く。	口縁部内外ナデ 体部外ハケメ	砂粒を含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
8	土師器 甕	口径11.8 残存 6.6	口縁部は外傾し、胴部は余り張らないもの。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリのちナデ 胴部内ヨコ方向のケズリ	細かい砂粒を含む	酸化炎	赤褐色	カマド
9	土師器 甕	口径16.6 残存23.7	口縁部は外反し、胴部は最大径中位となる。	口縁部内ハケメ 胴部外ナデのちハケメのちナデのちケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着
10	土師器 甕	口径18.7 底径 7.7 器高29.9	口縁部は外反し、胴部は最大径中位となる。底部は突出気味の輪台。	口縁部内外ナデ 胴部外ハケメ、内木口ナデツケのちハケメ	砂粒石粒を含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド
11	土師器 甕	口径15.0 残存25.4	口縁部は外反し、胴部は最大径下位となり下膨れとなる。	口縁部内外ナデ 胴部外ハケメのち部分的にヨコケズリ	砂粒石粒を含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
12	土師器 甕	口径18.6 底径 7.3 器高29.9	口縁部は外傾し、胴部は最大径中位となり、底部は平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリのちナデ	砂粒石粒を含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド
13	土師器 甕	口径16.0 底径 5.6 器高27.4	口縁部は外傾し、胴部は最大径中位となる。底部は突出気味の平底。	口縁部内外ナデ 胴部外ナデツケのちケズリ 底部ナデ	砂粒石粒を含む	酸化炎 良好	黄褐色	床着
14	土師器 甑	口径14.6 残存11.2	口縁～胴部は直線的に開き、口縁は折り返される。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	細かい砂粒含む	酸化炎	褐色	床着



第345図　4号住居址出土遺物（2）

5号住居址（第346図　図版90・114　表5）

位置　N・O－15・16グリッド／形態　方形／主軸方向　N－70°－E／規模　5.00m×4.97m／壁高　25cm～29cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に締まりがあり硬質である。／柱穴　4本。P1・径26cm、深さ74cm、P2・径26cm、深さ52cm、P3・柱痕の検出あり。／カマド　東壁の中央部よりやや南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込まれている。傾斜は60°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。長軸110cm、短軸61cm、深さ5cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　南東隅に位置する。長軸58cm、短軸44cm、深さ61cm。長方形を呈する。

覆土の状況

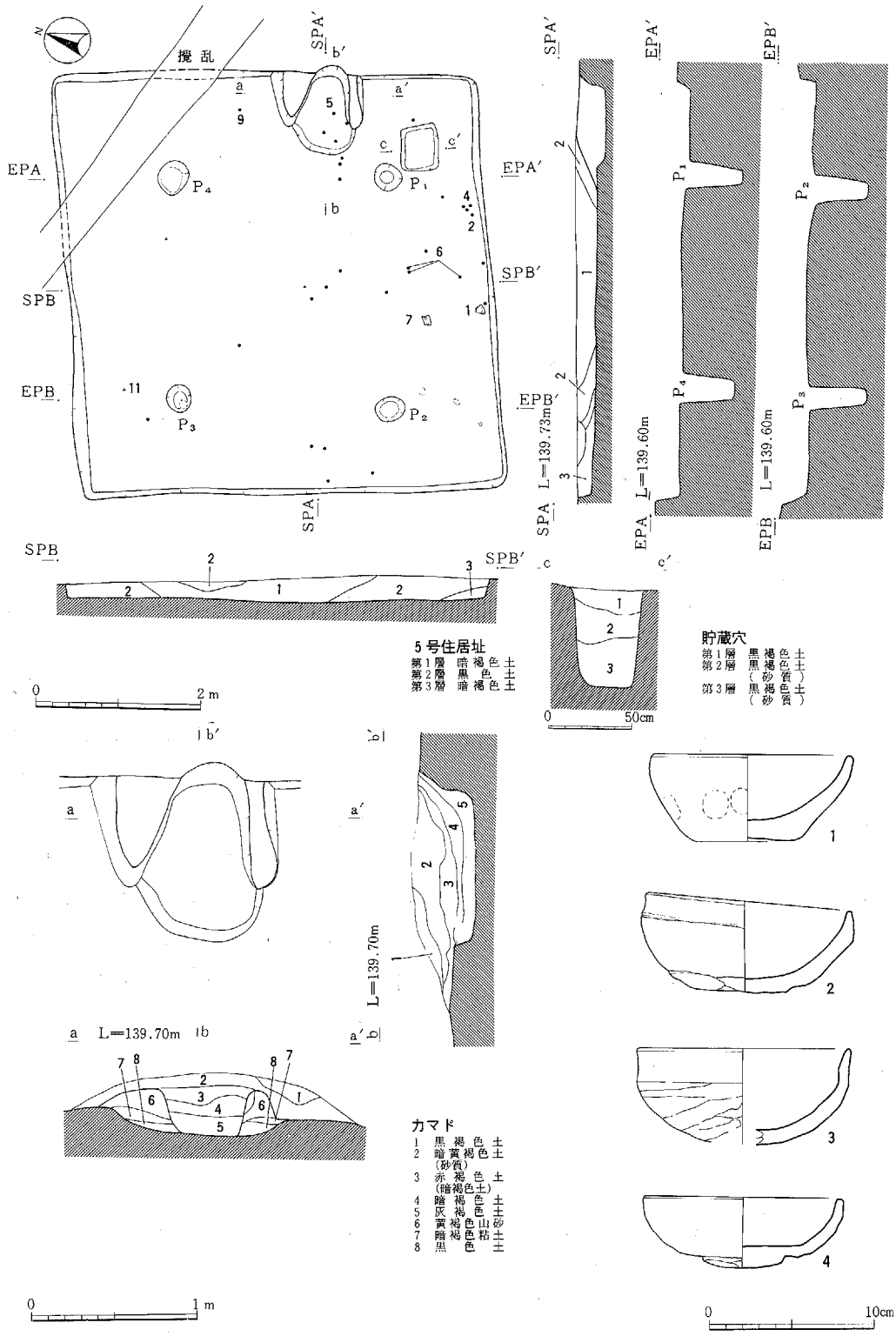
自然堆積である。黒褐色土を基調に4層に分層される。

遺　物

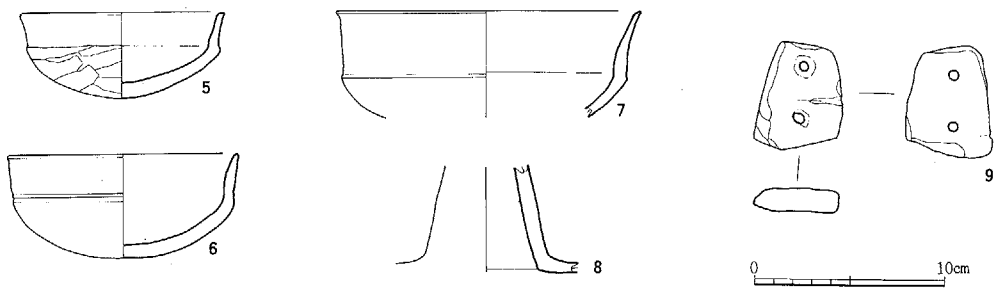
カマド付近と、南半分に集中して出土。土師器破片3点。（床着1点。）その他、自然礫1点。粘土魂が3固体。それぞれ床着で出土。また、貯蔵穴内より甕と坏の破片が出土。実測遺物、総点数9点。

新旧関係

北西から南東へと幅48cm、深さ40cmの近・現代の暗渠に切られる。



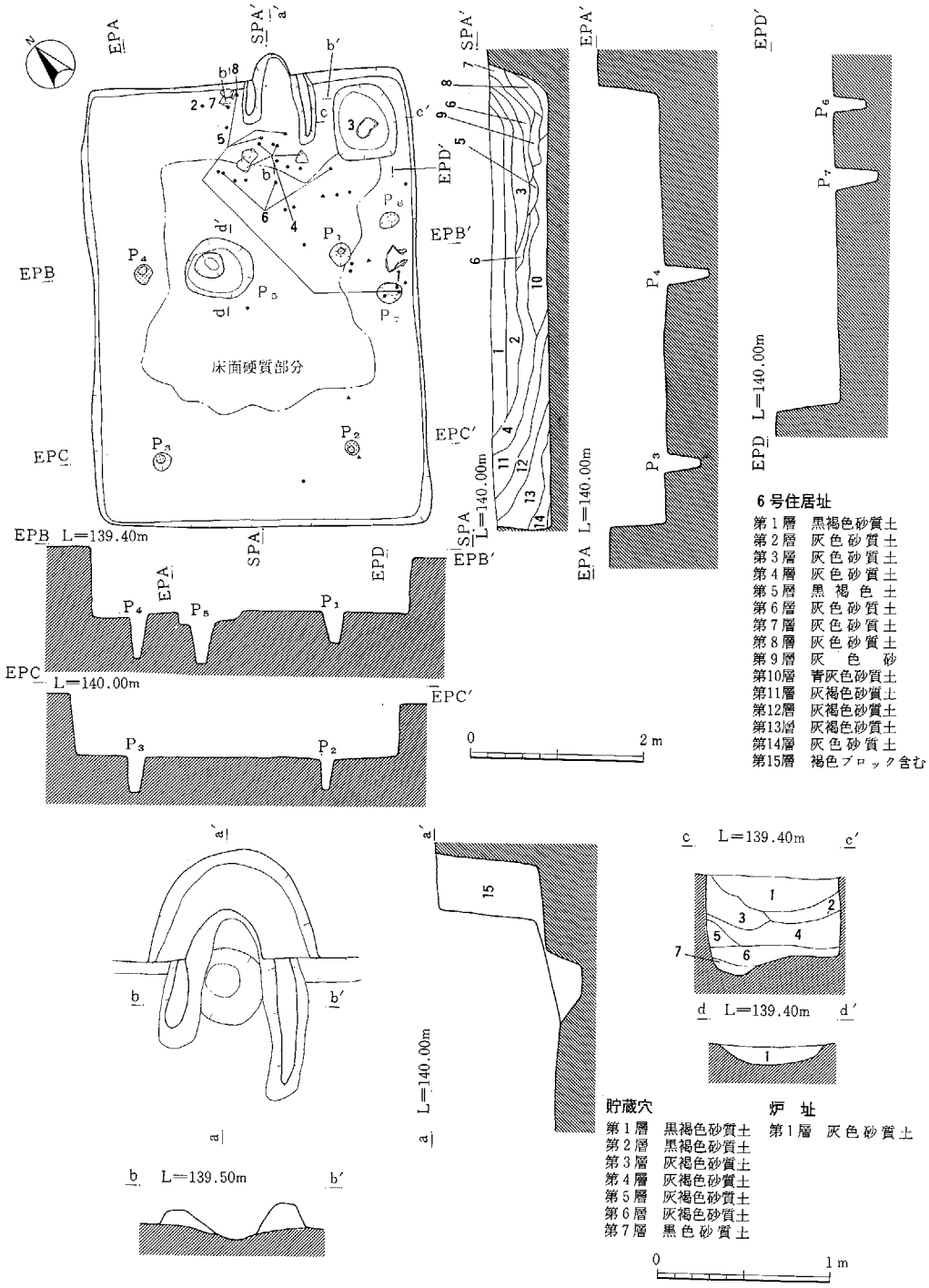
第346図　5号住居址・出土遺物(1)



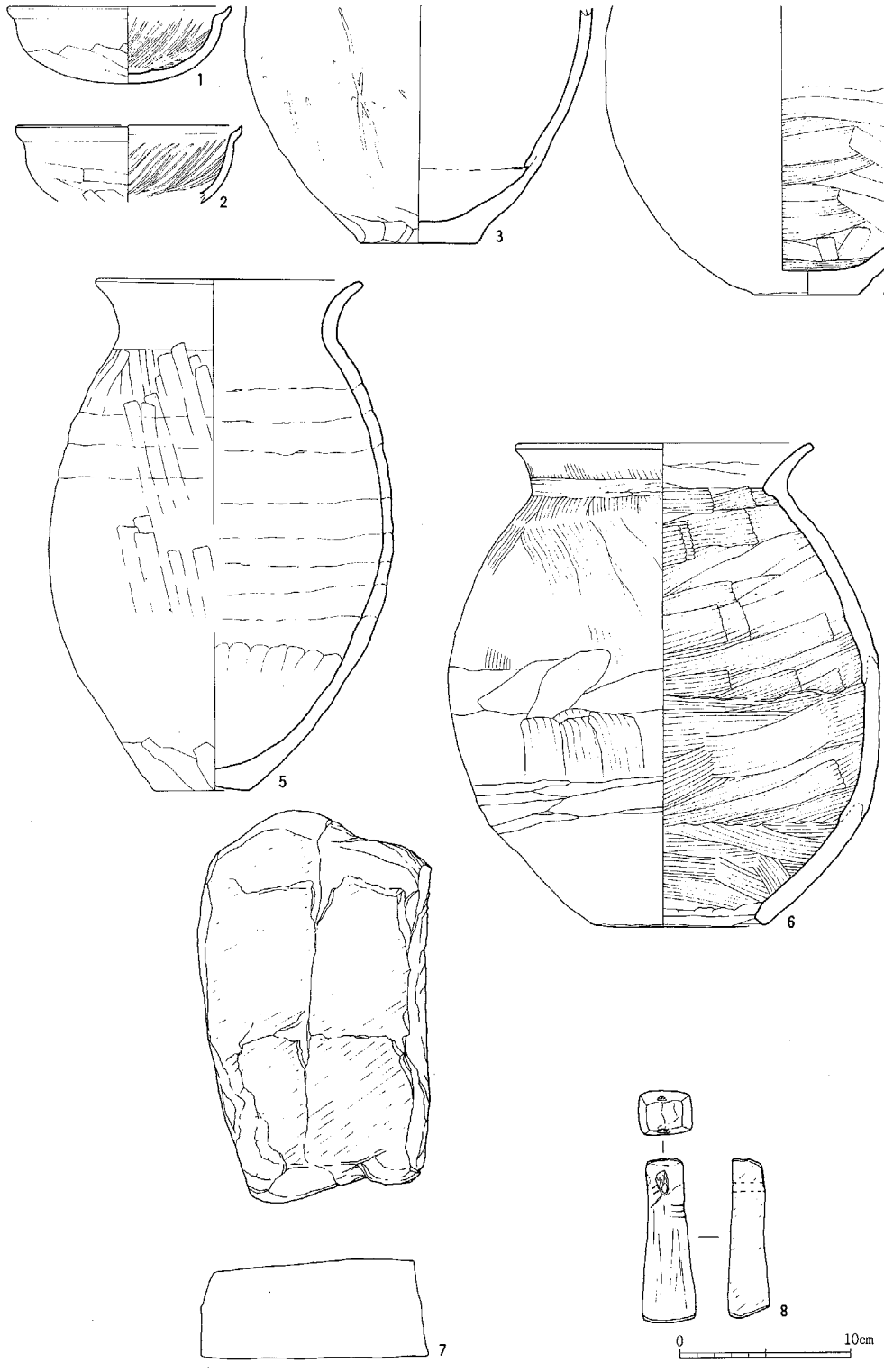
第347図　5号住居址出土遺物(2)

表5　5号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径12.2 底径 6.2 器高 5.3	口縁～体部は内反気味に開き、底部は平底で上げ底気味になる。	口縁部内外ナデ	砂粒石粒を含む	酸化炎	淡褐色	床着
2	土師器 坏	口径12.6 底径 7.5 器高 5.6	口縁部は短く、体部は稜を付け内反気味に開く。底部は平底。	口縁部内外ナデ 体部外指圧 底部ヘラケズリ	石粒を多量含む	酸化炎	淡褐色	床着
3	土師器 坏	複口12.5 残存 5.7	口縁は外傾し、体～底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヨコ方向のヘラケズリ、内ナデ	砂粒石粒を含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
4	土師器 坏	口径12.0 底径 5.8 器高 4.2	口縁～体部は内反気味に開き、底部は突出する平底。	口縁部内外ナデ 底部ヘラケズリ	砂粒石粒を含む	酸化炎	黒褐色	床着
5	土師器 坏	口径10.5 底径 3.4 器高 4.5	口縁は外傾し、体～底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒を含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
6	土師器 坏	口径12.6 底径 3.4 器高 5.5	口縁は外傾し、体部は稜を付け、体～底部は丸く納めるもの。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリのちヘラナデ、内ナデ	細かい石粒を多量	酸化炎 良好	橙褐色	床着
7	土師器 坏	複口14.8 残存 4.3	脚部は内部に稜を付け、筒状からラッパ状に開く。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 内ナデ	砂粒石粒を含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
8	土師器 高坏 台破片	 残存 5.5	不明土製品で頭部は丸く柱状部はくびれる。頂部は穴があく。	胴部内外ヨコナデ 〃 内ヘラケズリのちナデ	細かい砂粒を含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
9	有孔円板	長さ 5.4 幅 4.0 厚さ 1.2	滑石製の石製品である。対になる孔が穿たれてある。	———	——	—	—	覆土中 完形


床面硬質部分
EPB L=139.40m
EPC L=140.00m
SPA L=140.00m
EPA L=140.00m
EPD L=140.00m
a L=140.00m
b L=139.50m
c L=139.40m
d L=139.40m
0 2 m
0 1 m
6号住居址
第1層 黒褐色砂質土
第2層 灰色砂質土
第3層 灰色砂質土
第4層 灰色砂質土
第5層 黒褐色土
第6層 灰色砂質土
第7層 灰色砂質土
第8層 灰色砂質土
第9層 灰色砂
第10層 青灰色砂質土
第11層 灰褐色砂質土
第12層 灰褐色砂質土
第13層 灰褐色砂質土
第14層 灰色砂質土
第15層 褐色ブロック含む
貯蔵穴
第1層 黒褐色砂質土
第2層 黒褐色砂質土
第3層 灰褐色砂質土
第4層 灰褐色砂質土
第5層 灰褐色砂質土
第6層 灰褐色砂質土
第7層 黒色砂質土
炉址
第1層 灰色砂質土

第348図　6号住居址



第349図　6号住居址出土遺物

6号住居址（第348・349図　図版87・114　表6）

位置　M－16グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.94m×3.50m／壁高　68cm～70cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は中央部よりカマドの前方部と貯蔵穴の手前の範囲で検出。／柱穴　7本。P1～P4が主柱穴に相当する。P5はP1とP4の間に位置するため、支柱穴かと思われる。また、東壁寄りのP6とP7は入口部分の柱穴に相当する可能性が考えられる。P1・径36cm、深さ40cm　P2・径18cm、深さ34cm　P3・径21cm、深さ40cm　P4・径22cm、深さ50cm　P5・上径79cm、下径34cm、中段深さ9cm、下段の深さ46cm　P6・径24cm、深さ51cm　P7・径29cm、深さ47cm　／カマド北壁やや東寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込んでいる。傾斜は40°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。／貯蔵穴なし。114号住居址によって破壊された可能性が考えられる。

覆土の状況

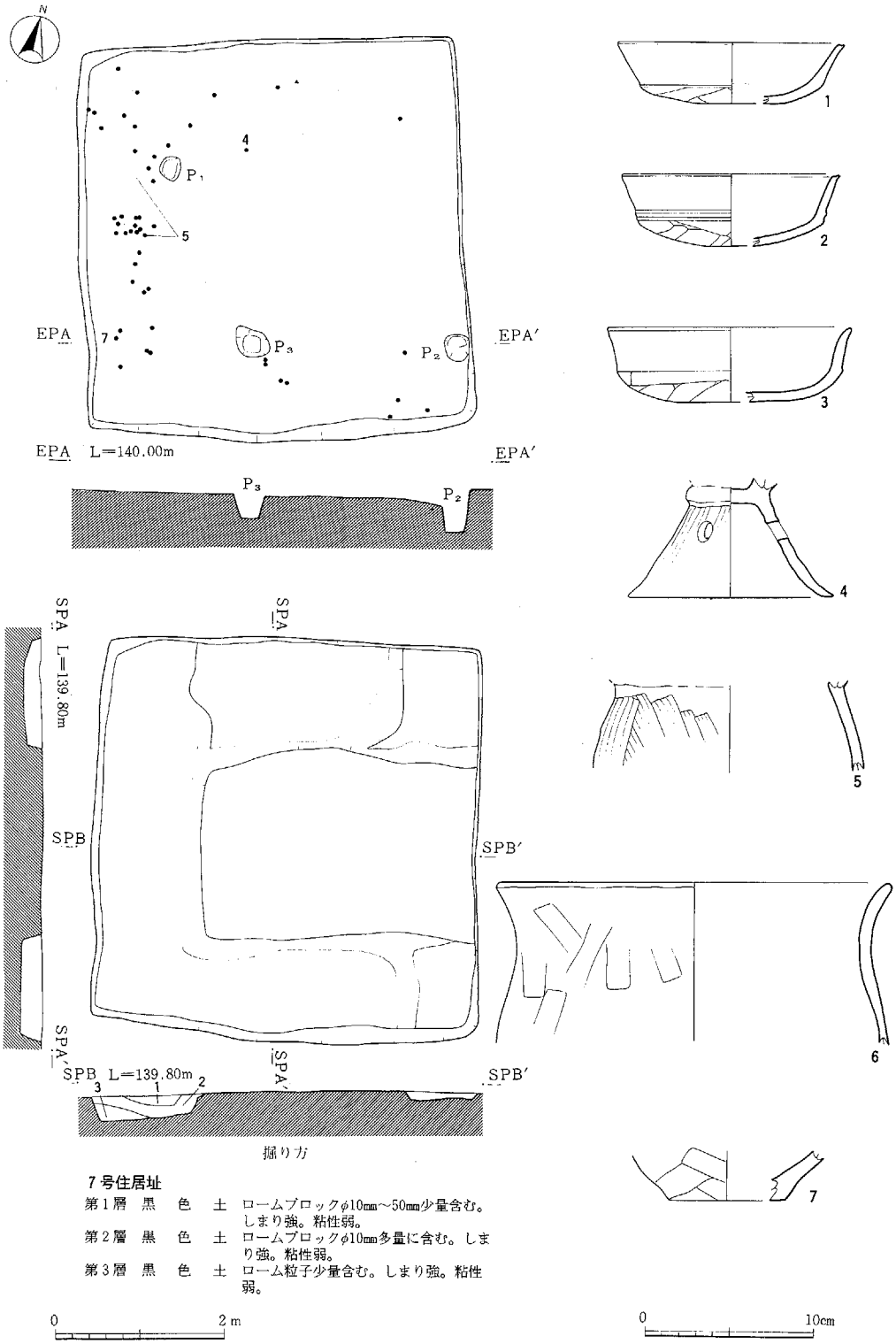
自然堆積である。黒褐色砂質土と灰色砂質土を基調に9層と灰褐色土砂質土を基調に3層、青灰色砂質土の細かく分けると14層に分層される。本遺跡の他の同時期の住居址に比べ掘り込みが深く土層が細かく分けられるが大きく分けると4層に分層される。

遺　物

カマドと貯蔵穴の手前に集中して検出されている。実測遺物8点。

表6　6号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置遺存度
1	土師器坏	口径13.1 底径 5.1 器高 4.5	口縁部は短く外反し、体～底部は丸く内に稜を付ける。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 内ナデのちミガキ	石粒を多量に含む	酸化炎良好	赤褐色	床着
2	土師器坏	口径13.2 残存 4.5	口縁部は短く外反し、体～底部は丸く内に稜を付ける。	口縁部内外ナデ 体部外ナデのちヘラケズリ 〃 内ヘラミガキ	砂粒石粒を含む	酸化炎良好	赤褐色	床着
3	土師器甕	底径 6.9 残存13.7	胴部は最大径を中位に取り、底部は平底となる。	胴部外ケズリのちミガキ	砂粒を含む	酸化炎	暗褐色	床着
4	土師器甕	底径 6.0 残存16.9	胴部は最大径を中位に取り、底部は平底となる。	胴部外ヘラケズリのちヘラナデ、内ヨコ方向のハケメ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡橙褐色	床着
5	土師器甕	口径15.2 底径 5.5 器高29.8	口縁部は外反し、胴部は最大径を中位に取り、底部は平底となる。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラナデのちヘラケズリ	砂粒を含む	酸化炎良好	褐色	床着
6	土師器甑	口径17.2 底径 9.6 残器高 28.1	口縁部は「くの字」に外反し、胴部は球形となる。底部は穿孔。	口縁部内外ナデ 胴部外ハケメのちナデのちケズリ	砂粒石粒を含む	酸化炎良好	淡褐色	床着
7	石製品砥石	高さ23.0 幅 13.0 厚さ 5.8	安山岩製の砥石である。上面擦痕が著しい。	調整加表面にミガキがかかる	石材安山岩	—	—	床着
8	砥石	長さ 9.2 幅 3.0	凝灰岩製の砥石である。四面擦痕が著しく、持ち運び用の穿孔がある。	———	凝灰岩	—	—	床着



7号住居址

第1層	黒	色	土	ロームブロックφ10㎜～50㎜少量含む。しまり強。粘性弱。
第2層	黒	色	土	ロームブロックφ10㎜多量に含む。しまり強。粘性弱。
第3層	黒	色	土	ローム粒子少量含む。しまり強。粘性弱。

第350図　7号住居址・出土遺物

7号住居址（第350図　図版90　表7）

位置　N－17グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.58m×4.46m／壁高　6cm（僅かに掘り込みが遺存する。）8cm（掘り方）／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。中央部が地山で周囲を黒色土の貼り床で整地されている。／柱穴　3本。P1・径32cm、深さ46cm。P2・径38cm、深さ28cm。P3・径32cm、深さ32cm。／炉　なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

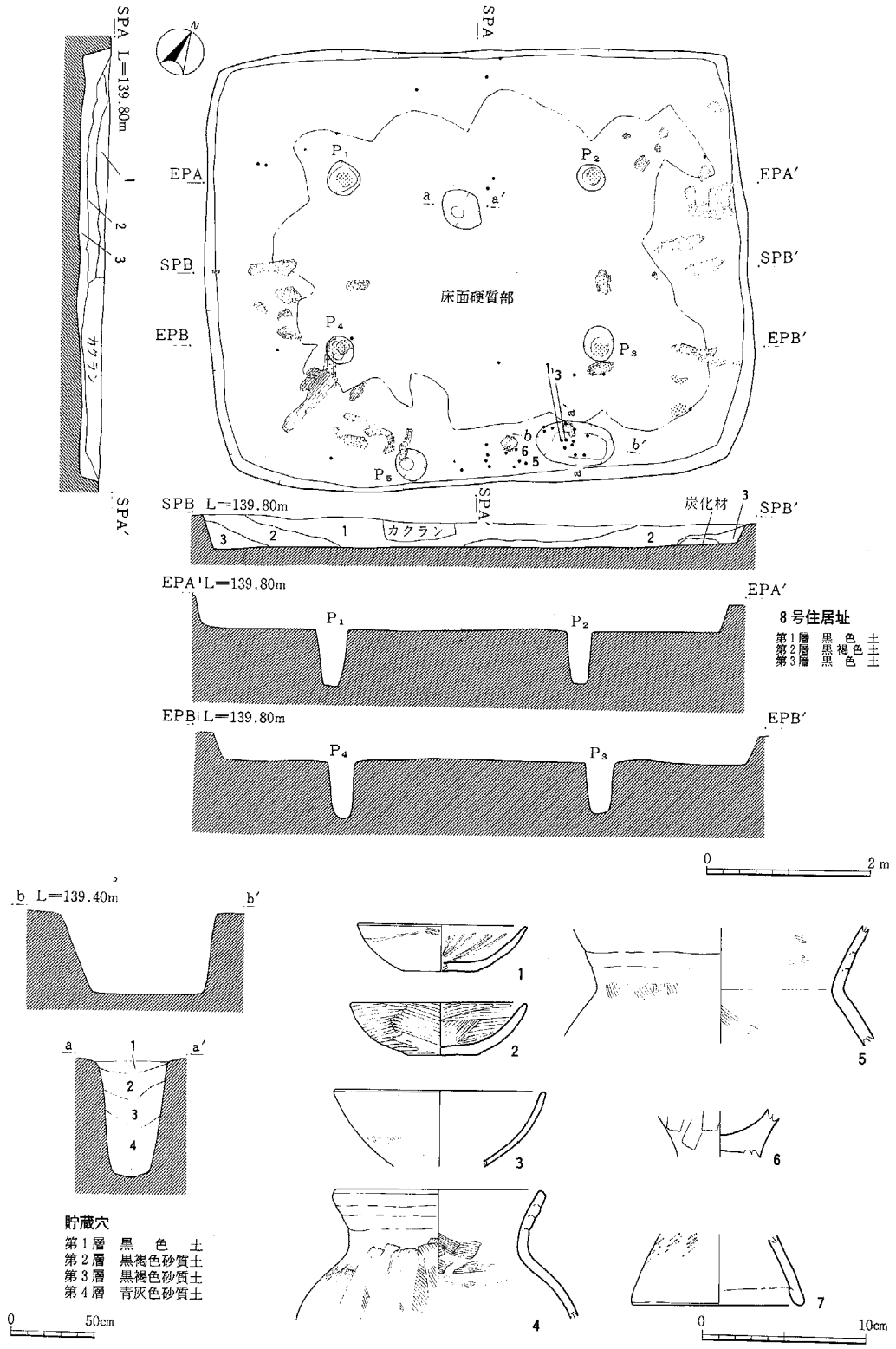
僅かに遺存している覆土から観察して自然堆積であることが窺える。また床面にコの字状に検出している黒色土層は人為的な埋土であることが堆積状況から判明した。

遺　物

西寄りに集中する傾向を示している。床直上で土師器破片50点、自然礫1点。貼り床下より1点出土。実測遺物総点数7点。

表7　7号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置遺存度
1	土師器坏	復口13.6 残存 3.5	口縁部は外傾し、体部は下位に稜を付ける。底部は丸みを帯びた平底。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎良好	赤褐色	覆土中
2	土師器坏	復口13.0 残存 4.3	口縁部は外傾し端部は稜をなす。体部は下位に稜を付ける。底部は丸底。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	外橙褐	覆土中
3	土師器坏	復口14.5 残存 4.5	口縁部は外傾し、体部は下位に稜を付ける。底部は平底。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	赤褐色	覆土中
4	土師器高坏	復底12.1 残存 6.5	脚部は裾広がりとなり、3個の円形透かしが穿たれている。	胴部外タテ方向のヘラガキ内ヨコ方向のナデ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	赤褐色	床着
5	土師器甕胴部	残存 5.2	胴部は余り張らない。	胴部外タテ方向のハケメ 〃 内ヘラケズリのちナデ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	橙褐色	床着
6	土師器甕	復口23.2 残存 9.5	口縁部は直立気味に外反する。	口縁部内外ナデ 胴部外タテ方向のヘラケズリ内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	薄橙褐色	床着
7	土師器甕底部	底径 6.7 残存 3.5	平底となるもの。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	黒褐色	床着



第351図　8号住居址・出土遺物

8号住居址（第351図　図版91　表8）

位置　M，N－21・22グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.78m×4.70m／壁高　29cm～33cm。／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に硬質化され、貯蔵穴に接する部分と外側まで及ぶ。／柱穴　7本。P1～P4が主柱穴に相当する。P5は当初、位置からみて炉址の可能性が考えられたが、調査の結果、柱穴であることが判明した。P1・径40cm、深さ62cm。P2・径cm、深さcm。P3・径cm、深さcm。P4・径cm、深さcm。P5・径cm、深さcm。P6・径cm、深さcm。P7・径cm、深さcm。／炉　なし。／貯蔵穴　南東壁寄りに位置する。長軸94cm、短軸54cm、深さ59cmを計る。隅丸長方形を呈する。

覆土の状況

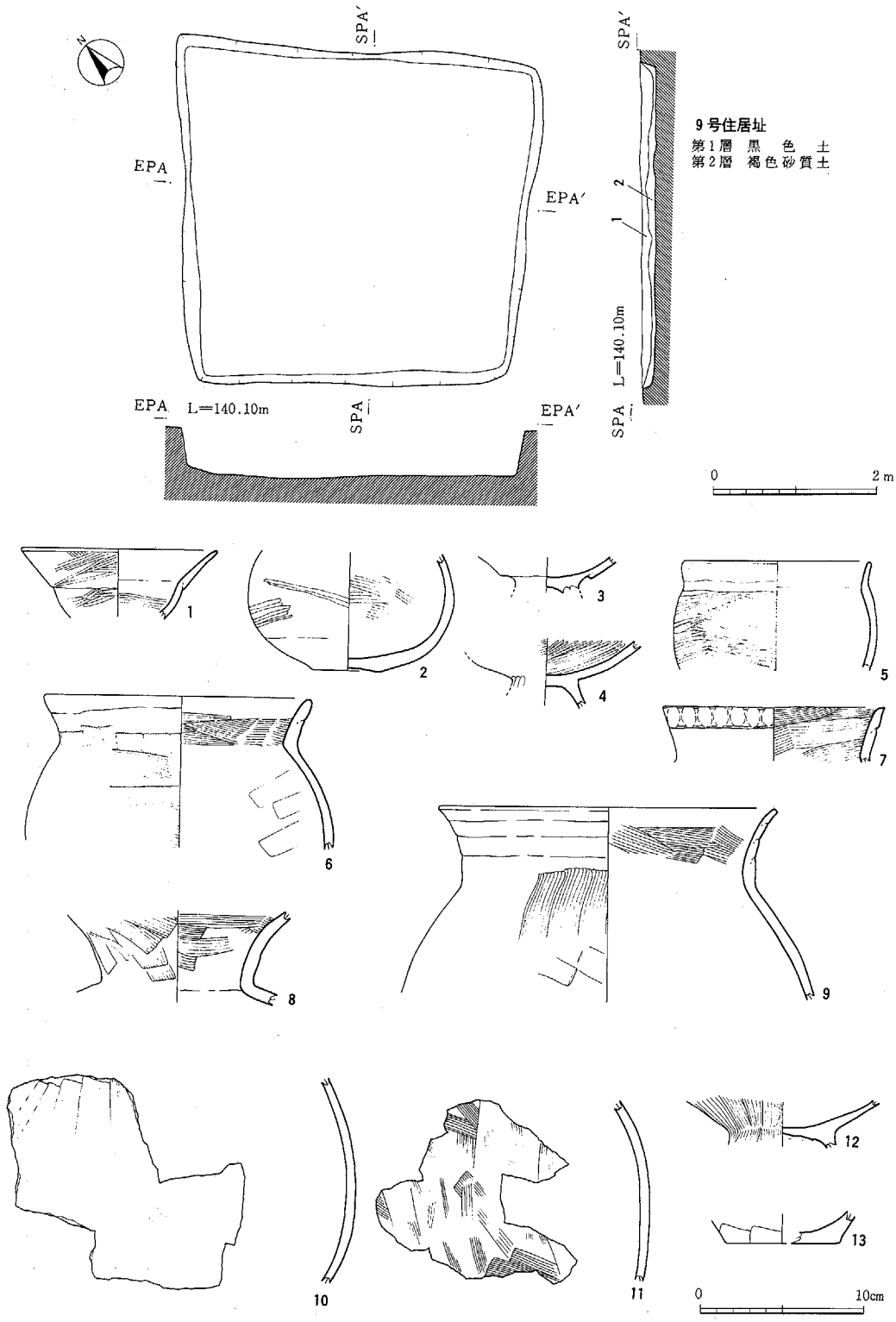
自然堆積である。

遺　物

主柱穴をコの字状に囲むように炭化材が検出されている。焼失家屋である。土器片（土師器台付き甕、高坏、器台）は全体に散在して検出。特に貯蔵穴周辺に集中している。実測遺物点数7点。

表8　8号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置遺存度
1	土師器坏	口径10.6 底径 4.0 残存 2.8	口縁～体部は内反気味に開き、底部は平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部内外ヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	橙褐色	床着
2	土師器坏	口径10.6 器高 3.1 底径 4.2	口縁～体部は内反気味に開き、底部は平底となる。	内外ミガキ	砂粒含む	酸化良好	橙褐色	覆土中
3	土師器坏	復口13.0 残存 4.7	口縁～体部は内反気味に開く。	外タテのハケメのちナデ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎良好	暗褐色	床着
4	土師器甕	復口12.3 残存 7.9	口縁部は「くの字」に外傾し輪積み痕が残る。	内外ヨコナデ 胴部外タテのハケ目のちタテミガキ 内ヨコのイケメのちナデ	砂粒含む	酸化炎良好	淡褐色	床着
5	土師器甕	残存 7.0	口縁部は「くの字」に外傾し輪積み痕が残る。	口縁部分ナデ内ハケメのちナデ胴部内外ハケメのちナデ	石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
6	土師器台付甕底部	残存 3.0	脚部は裾広がりとなるもの。	胴部外ハケメのちナデ 内ナデ	石粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
7	土師器台付甕	復底10.5 残存 4.2	脚部は丸く納め、端部は折り返し痕が顕著。	外面キザミのちナデ 内面ナデ	砂粒含む	酸化炎良好	明褐色	貯蔵穴



第352図　9号住居址・出土遺物

9号住居址（第352図　図版91　表9　）

位置　N－23グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　3.60ｍ×3.58ｍ（南北×東西）／壁高　68cm～70cm／壁溝　なし。／床　灰色砂質土層に掘り込まれる。特に硬質化された所は検出されていない。／柱穴　なし。／炉なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

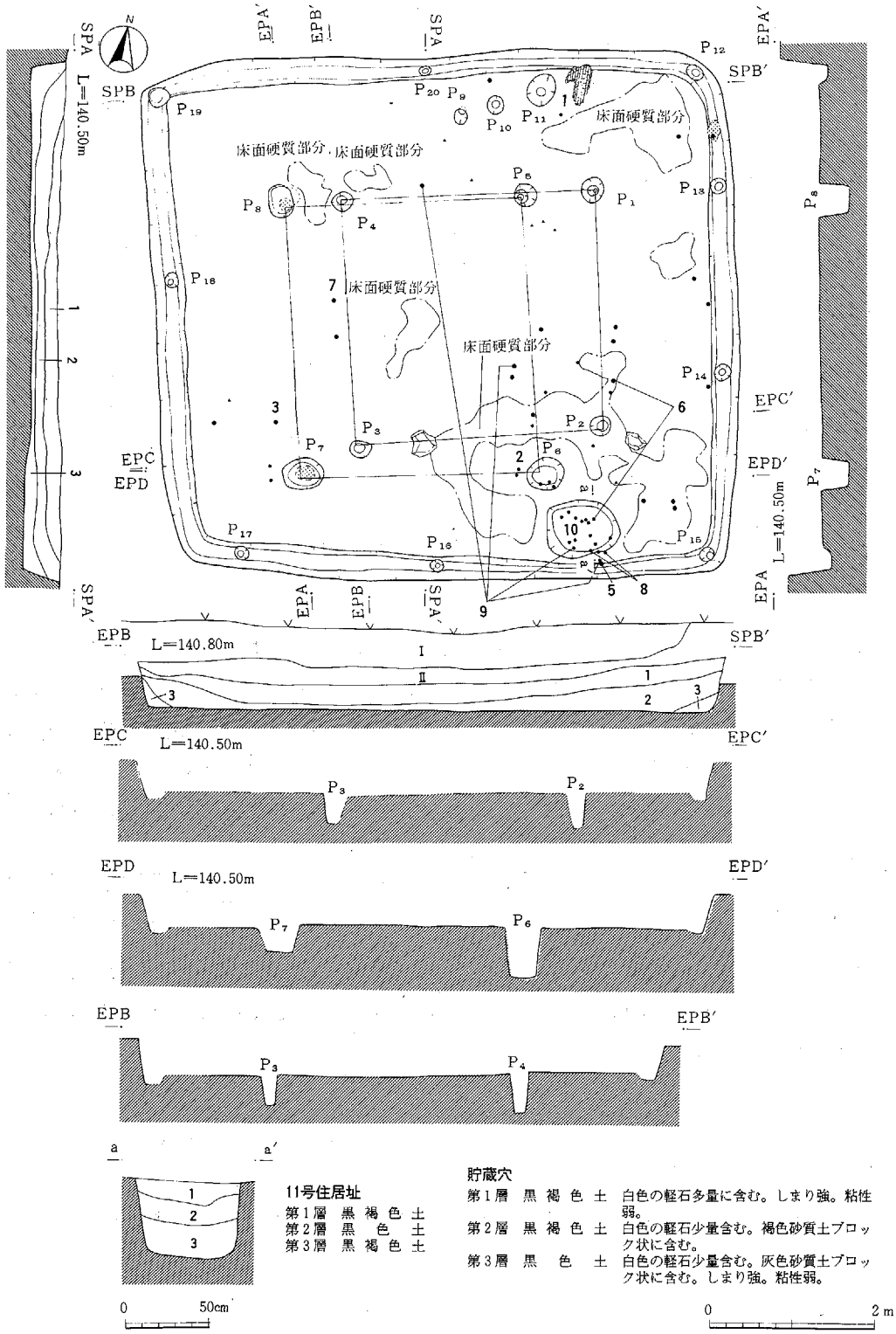
自然堆積である。黒色土と黒褐色土の2層に分層される。

遺　物

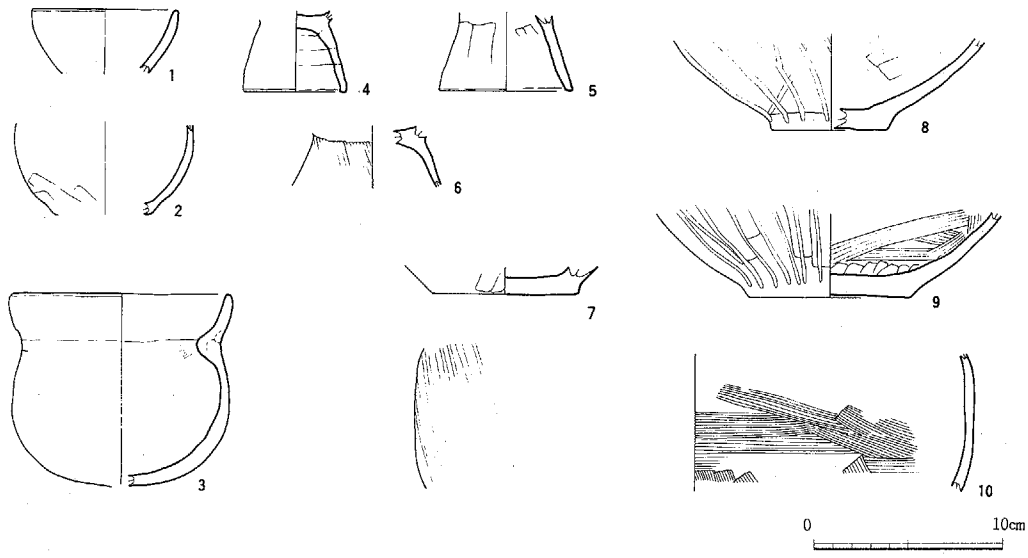
覆土中に台付甕・甕・高坏の破片が検出している。実測遺物点数13点。

表9　9号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坩	口径11.8 残存 4.2	口縁部は外反し、体部との境はくびれ、体部は丸く納める。	体部外面ハケ目調整後ナデ	細かい砂粒を含む	酸化炎	明褐色 内色 灰褐色	覆土中
2	土師器 坏	底径 4.2 残存 7.2	胴部は球形を呈し、底部は上げ底となる。	体部外ミガキ 〃 内ヨコナデ	細かい砂粒を含む	酸化炎	褐色	覆土中
3	土師器 高坏 底部	残存 2.2	坏部は下位に稜を付け外反する。	体部外ハケメのちナデ 〃 内ナデ	砂粒石粒を含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
4	土師器 高坏 底部	残存 4.2	坏部は丸く納め脚部は裾広がりとなる。	体部外ヨコ方向のハケメのちミガキ 〃 内丁寧なミガキ	砂粒石粒を含む	酸化炎	褐色	覆土中
5	土師器 坏	口径11.4 残存 6.6	口縁部は短く直立し胴部は球形となる。	体部外丁寧なミガキ 〃 内ナデ	細かい砂粒を含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
6	土師器 甕	口径16.2 残存 9.0	口縁部は「くの字」に外反し、内部に稜を付ける。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外タテのハケメのちヨコのハケメ内ヘラケズリ	砂粒石粒を含む	酸化炎	黒褐色	覆土中
7	土師器 甕	口径13.6 残存 3.2	口縁部は外傾、端部は面をなす。外周押圧痕が顕著である。	口縁部外指頭圧痕が残る 〃 内ヨコ方向のハケメ	砂粒を含む	酸化炎	褐色	覆土中
8	土師器 甕	残口径 13.4 残存 5.6	口縁部は「くの字」に外反し、内部に稜を付ける。	胴部内外ハケメ	砂粒石粒を含む	酸化炎	赤褐色	覆土中
9	土師器 甕	口径26.0 残存12.1	口縁部は外反し、輪積み痕を残す。	胴部外タテ方向のハケメのちヘラミガキ内ヨコ方向のハケメのちナデ	細かい砂粒を含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
10	土師器 甕 胴部	残存 9.6	胴部は球形を呈する。	胴部外ハケメのちヘラケズリ 〃 内ヘラケズリのちナデ	砂粒石粒を含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
11	土師器 甕 胴部	残存10.9	胴部は球形を呈する。	外タテのハケメのちナナメのハケメ 内ヘラナデ	砂粒を含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中
12	土師器 合付甕 底部	残存 2.9	合付甕の脚部	胴部外タテ方向のハケメ 〃 内ヨコナデ	砂粒石粒を含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
13	土師器 甕 底部	残存高 1.9 底径7.0	平底となるもの。	外ヘラケズリ 内ヘラナデ	砂粒を含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中



第353図　11号住居址



第354図　11号住居址出土遺物

11号住居址（第353・354図　図版91表10）

位置　J－28グリッド／形態　方形／主軸方向　N－40°－E／規模　6.15ｍ×5.56ｍ（東西×南北）／壁高　39cm～55cm／壁溝　全周する。幅14cm～24cmを計る。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。硬質部分は貯蔵穴の周りと中央部の一部Ｐ４とＰ８の間、北東隅と東壁寄りの一部分に硬質化が認められる。／柱穴　20本。主柱穴はＰ１～Ｐ８が相当する。４本ずつ２組くめ、主柱の立て替えが考えられる。柱痕はＰ７とＰ８より検出する。径18cmを計る。新旧関係はＰ１～Ｐ４が新しい。他に支柱２本、壁柱穴９本検出。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
長径cm	32	24	26	25	26	44	49	41	19	20	43	22	19	20	17	16	14	19	24	14
短径cm	28	－	21	－	－	39	38	29	15	－	31	16	－	－	－	－	－	16	－	12
深さcm	52	43	36	49	51	55	45	48	45	20	69	21	13	14	20	25	25	26	23	22

／炉　なし。／貯蔵穴　南東隅寄りに位置する。長軸88cm、短軸67cm、深さ50cmを計る。隅丸長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土基調に２層、黒色土の合わせて３層に分層される。

遺　物

全体に散在して出土している。特に貯蔵穴内より集中して出土した。実測遺物点数10点。

表10　11号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置遺存度
1	土師器坏	口径 7.6 残存高 3.4	口縁～体部は内反気味に開く。	内外ミガキ	砂粒を含む	酸化炎	明褐色	床着
2	土師器埦	残存 4.9	胴部球形となるもの。	外面ヘラケズリの後ミガキ 内面ナデ	砂粒細かい石粒を含む	酸化炎良好	褐色	床着
3	土師器小形甕	復口11.4 器高10.1	口縁部は内反気味に開き、胴部は内部で稜を付け、球形を呈する。	内外ナデ	多量の石粒石砂含む	酸化炎良好	黒褐色	床着
4	土師器台付甕脚台	残存高 4.4 底径 5.4	丸く納めるもの。	外面タテ方向のヘラケズリノ後ナデ 内面ナデ輪積痕を残す	砂粒石粒を残す	酸化炎良好	暗橙色	床着
5	土師器台付甕脚部	残存高 4.0 底径 7.0	裾広がりとなるもの。	外面タテ方向のヘラナデ 内面ヨコナデ	石粒砂粒を含む	酸化炎良好	赤褐色	貯蔵穴
6	土師器台付甕脚部	残存高 3.6	脚部は裾広がりとなるもの。	外面のタテのハケ目 内面ヘラナデ	砂粒を含む	酸化炎良好	暗褐色	床着
7	土師器甕	残存高 1.5 底径 7.6	平底となるもの。	脚部ナデ	底部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	明褐色 床着
8	土師器甕底部	残存高 4.8 底径 6.2	胴部は球形を呈し、底部は突出した平底となる。	外面ミガキ 内面ヘラ削りの後ナデ	細かい石粒砂粒を多量に含む	酸化炎良好	黒褐色	床着
9	土師器甕底部	残存高 4.3 底径 8.6	胴部は球形を呈し、底部は平底となる。	胴部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面ハケ目 底部外面ヘラ削り後ヘラナデ 内面	砂粒含む	酸化炎良好	赤褐色	貯蔵穴
10	土師器甕胴部	残存高 7.3	胴部は球形となる。	胴部外面ヘラミガキ 内面上部ヘラナデ 下部ハケ目(ヨコ方向)	砂粒含む	酸化炎	淡橙褐色	貯蔵穴

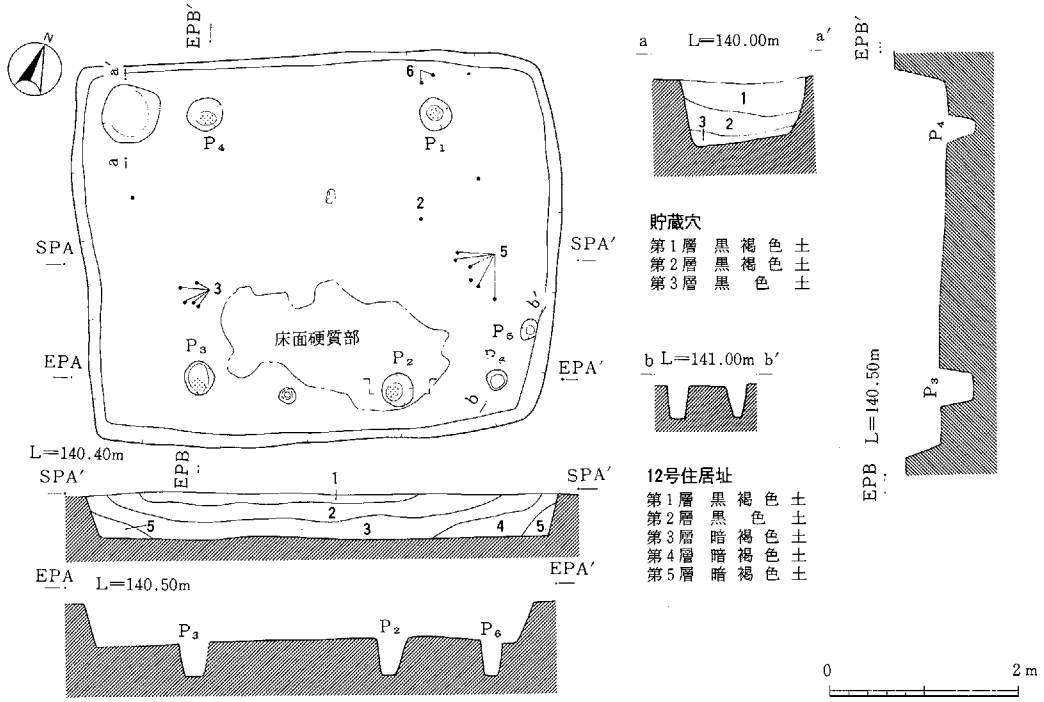
12号住居址（第335図　図版91・92　表11）

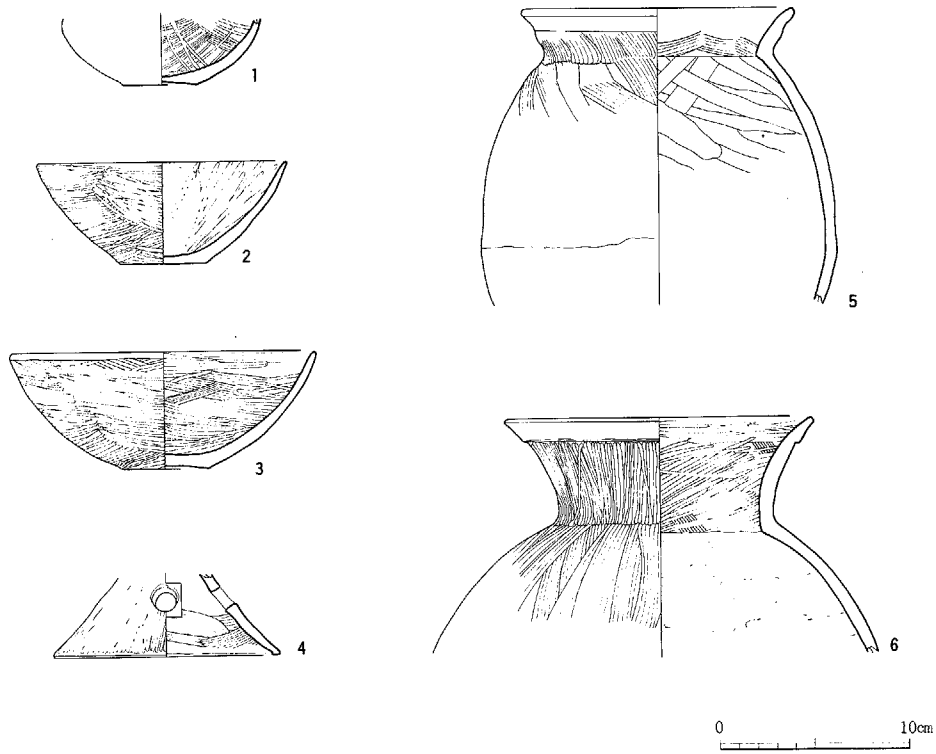
位置　Ⅰ－29グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.56ｍ×3.50ｍ（東西×南北）／壁高　34cm～41cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。Ｐ２とＰ３の間から、内側にかけて硬質化されている。

／柱穴　６本。Ｐ１・柱痕の検出あり。径12cmを計る。掘り方34cm、深さ55cm。Ｐ２・柱痕の検出あり。径14cmを計る。掘り方長径36cm、短径32cm、深さ39cm。Ｐ３・柱痕の検出あり。径16cmを計る。掘り方長径36cm、短径34cm、深さ36cm、Ｐ４・柱痕の検出あり。径16cmを計る。掘り方長径38cm、短径34cm、深さ49cm、Ｐ５・柱痕の検出あり。径16cmを計る。掘り方径24cm、深さ32cmを計る。／炉　なし。／貯蔵穴　北西隅に位置する。長径32cm、短径29cm、深さ56cm、楕円形を呈する。

遺　物

東壁と西壁寄りに土師器の破片が集中して出土した。実測遺物点数６点。





第355図　12号住居址・出土遺物

表11　12号住居址出土遺物観察表

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	底径 3.9 残存 3.8	口縁部は素縁で、体部は内反気味に開き、底部は上げ底となる。	体部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	覆土中
2	土師器 坏	復口13.2 底径 4.5 器高 5.3	口縁部は素縁で、体部は内反気味に開き、底部は平底となる。	体部外ヘラケズリのちミガキ内ミガキ暗文を残す 〃　底部ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎	黒褐色	床着
3	土師器 坏	口径16.2 底径 4.6 器高 6.1	口縁部は素縁で、体部は内反気味に開き、底部は上げ底となる。	体部外ハケメのちヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
4	土師器 高坏	底径11.4 残存 4.3	脚部は裾広がりとなり、端部は面をなす。透かし孔を複数有する。	体部外ヘラケズリのちミガキ 〃　内ヨコ方向のハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中
5	土師器 甕	復口14.0 残存15.5	口縁部は「くの字」状に外反する。	口縁部外ハケメ 胴部外ハケメのちナデツケ 内ヘラケズリのち雑なミガキ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
6	土師器 甕	口径15.9 残存12.4	口縁部は折り返され、胴部は中位に最大径を有す球形となるもの。	口縁部内外ナデ 胴部外ハケメのち雑なミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着

13号住居址(第354図　図版92表12・13)

位置　J－29グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－80°－E／規模　4.17ｍ×3.05ｍ／壁高　17.5ｍ～18ｍ／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。／柱穴　4本。P1・径44cm、深さ54cm。P2・径34cm、深さ52cm。P3・径40cm、深さ48cm。P4・径34cm、深さ46cm。／炉　中央部よりやや北西寄りに位置する。長軸46cm、短軸43cm、深さ10cmを計る。平面はほぼ円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土1層、暗褐色土2層、黒褐色土1層の合わせて4層に分層される。

新旧関係

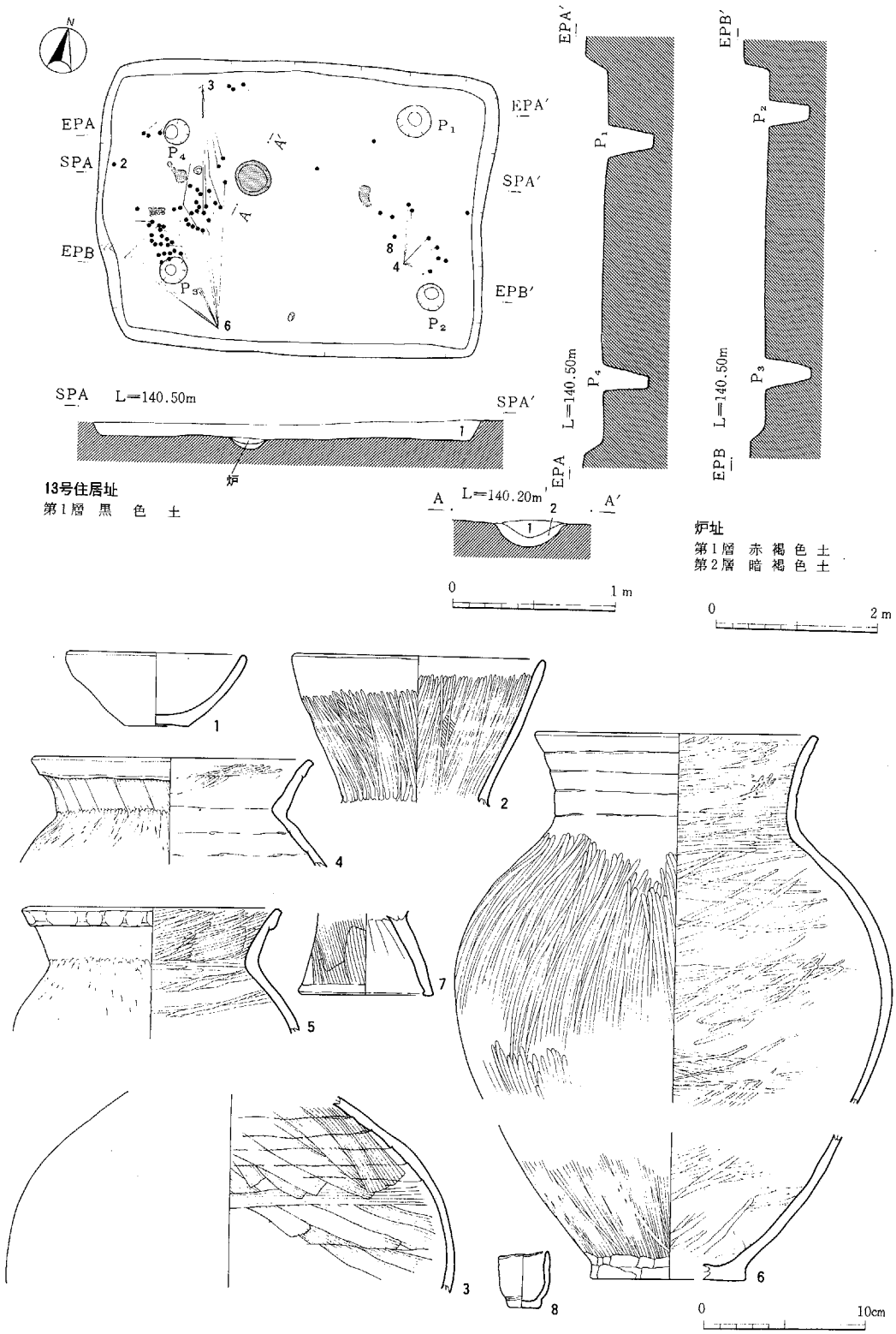
14号住居址を切る。

遺　物

土師器坏、台付き甕、甕の破片が西側と東側に分布している。特に炉址とP3とP4の間に集中して出土した。実測点数8点。

表12　13号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径10.2 底径 3.9 器高 4.5	口縁部は素縁で、体部は内反気味に開く。	体部内外ミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎	赤褐色	覆土中
2	土師器 甕	口径15.4 残存 8.9	口縁部は内反気味に開き、ひさご型となるもの。	口縁部内外ナデ ヘラケズリのちミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
3	土師器 甕	残存12.1	胴部は中位に最大径を有す球形となるもの。	外面ハケ目調整のちミガキ 内面ハケ目	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡橙褐色	床着



第356図　13号住居址・出土遺物

表13　13号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
4	土師器 甕	口径16.6 残存 6.0	口縁部は折り返され、「くの字」形に短く外傾する。	外口縁ナデ口辺タテのハケ目胴部ナデ 内面ヨコナデヘラ削りのちナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	茶褐色	床着
5	土師器 甕	口径15.1 残存 7.9	口縁部は折り返され押圧され、「くの字」形に短く外傾する。	口縁部外指ナデ 口辺部ナデ胴部外タテのミガキ内ヨコミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎	赤褐色	覆土中
6	土師器 甕	口径16.9 底径 9.4 復器高 36.7	単口縁で輪積み痕を残し直立気味に外反し、胴部は肩が貼り、平底となる	口縁部内ヨコナデ外ナデ 胴部外内ヘラケズリのちミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着
7	土師器 台付甕	底径 8.0 残存 5.2	脚部は裾広がりで、端部は面をなす。	外タテのハケ目下部ヨコナデ 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
8	土師器 甕 ミニチュア	口径 3.2 底径 1.8 器高 3.5	体部は直立気味で突出する平底を有す。	指ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着

16号住居址(第357・358図　図版92　表14)

位置　M－29グリッド／形態　方形／主軸方向　N－40°－W／規模　6.00ｍ×5.73ｍ（東西×南北）／壁高　53cm～55.5cm／壁溝　南東隅と南西隅の一部に検出。規模は幅cm、深さcmを計る。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴の内側を中心に硬質化され、東側はＰ８と貯蔵穴付近まで及ぶ。

柱穴　11本。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当する。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
長径cm	28	18	21	27	28	22	34	26	22	18	30
短径cm	—	—	—	—	24	—	—	—	—	—	26
深さcm	49	61	39	37	32	34	31	35	37	40	40

※Ｐ１、Ｐ５より柱痕が検出されている。規模はＰ１・径10cm、Ｐ５・径12cmを計る。

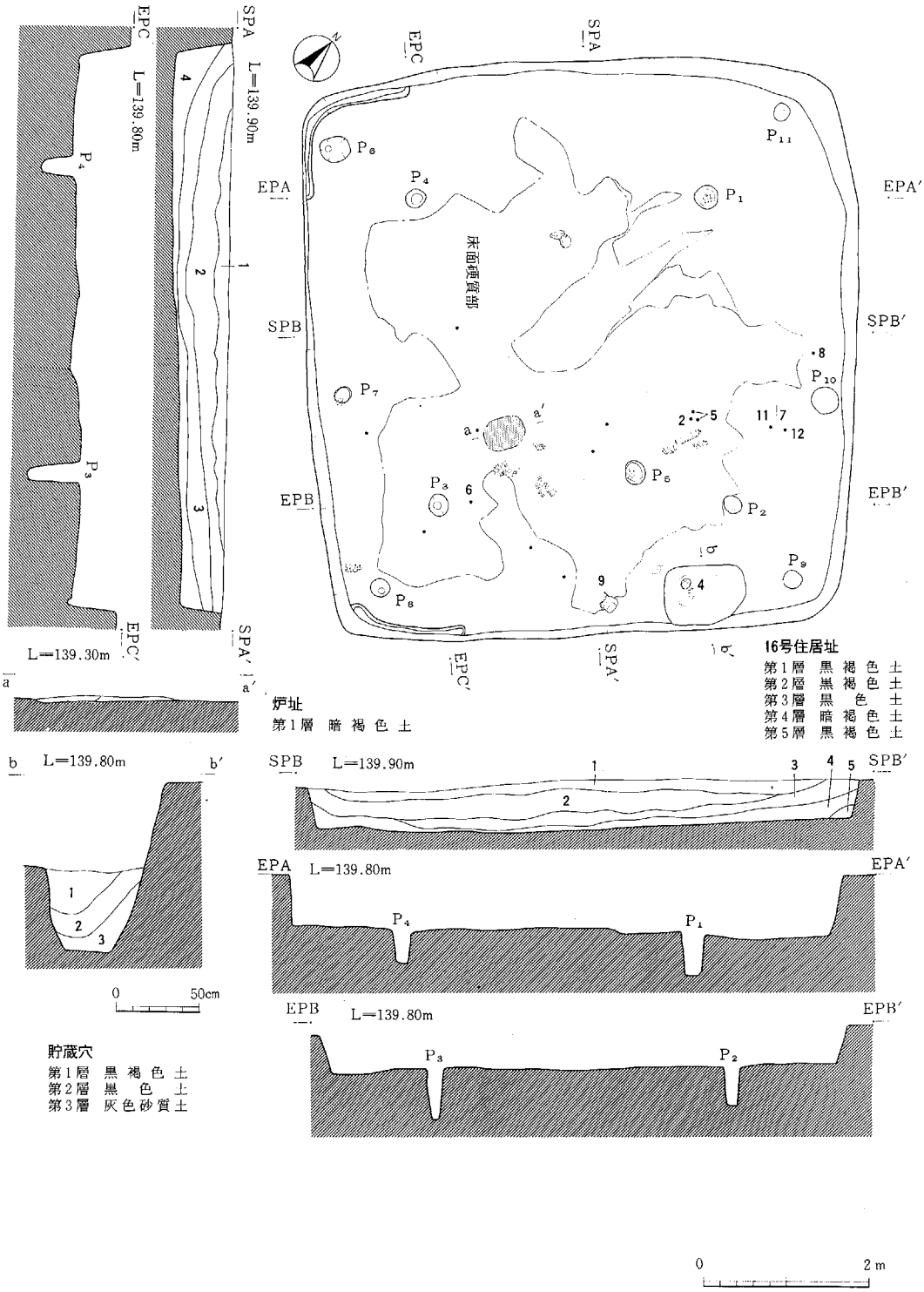
／**炉**　中央部より南西側寄りに位置する。長軸49cm、短軸36cm、深さ６cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　南壁に近接して南東隅寄りに位置する。規模は上幅・長軸99cm、短軸72cm、下幅・長軸54cm、短軸32cm、深さ49cm。隅丸長方形を呈する。

覆土の状況

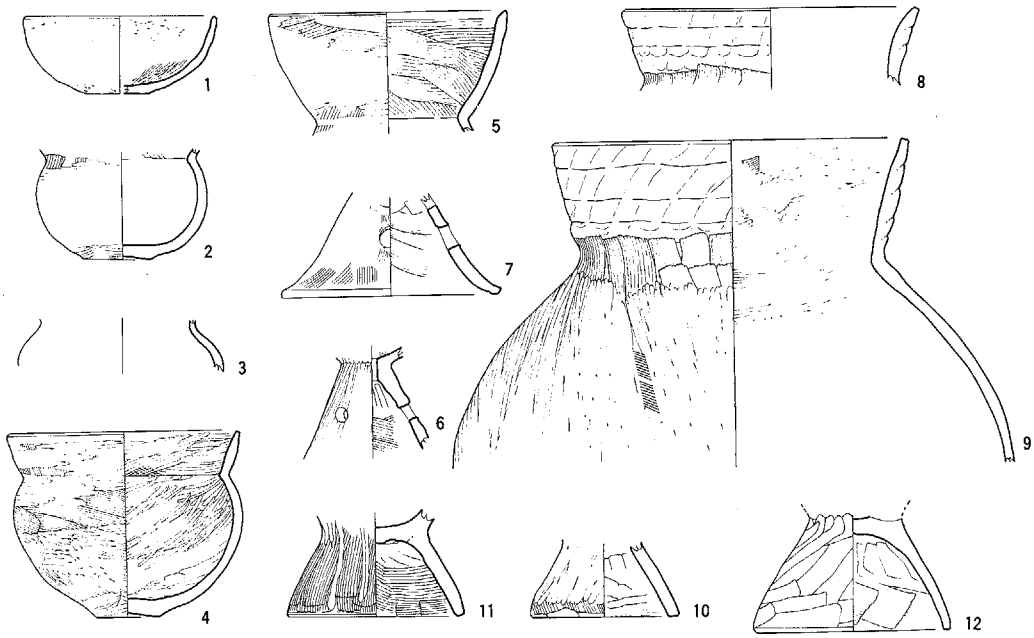
自然堆積である。黒褐色土を基調に３層と黒色土、暗褐色土を合わせて５層に分層される。

遺　物

東寄りに集中して出土している。炭化材の検出状態も同様である。遺物は土師器坏、甕、小形甕、台付き甕の脚部破片等である。実測点数12点。



第357図　16号住居址



第358図　16号住居址出土遺物

表14　16号住居址出土遺物観察表 (1)

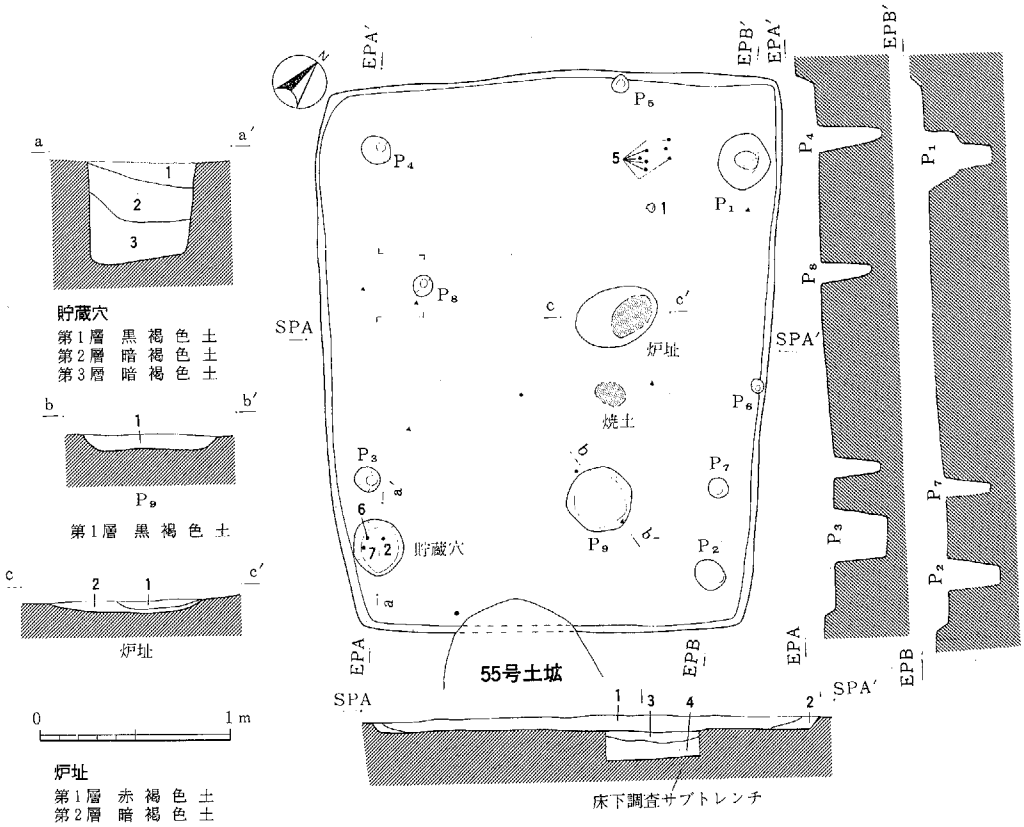
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径10.0 底径 2.4 残存 4.1	口縁部は素縁で体部は内反気味に開き、平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリのちヘラナデ内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
2	土師器 小形甕	底径 3.8 残存 5.8	胴部最大径は中位で偏球形となる。底部は上げ底気味となる。	胴部外ハケメのちミガキ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着
3	土師器 甕	残存 2.7	頸部のくびれは緩やかに丸みをもつ。	胴部外ミガキ 〃 内ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中
4	土師器 甕	口径12.1 底径 3.2 残存 9.7	口縁部は外傾し、胴部最大径は上位に有す。底部は上げ底となる。	胴部ハケメのち丁寧なミガキ内ヘラケズリのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴
5	土師器 壷	口径12.3 残存 6.4	口縁部は内反気味に開き、ひさご状となるもの。	内ハケメ 外ハケメのちナデ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	床着

表15　16号住居址出土遺物観察表(2)

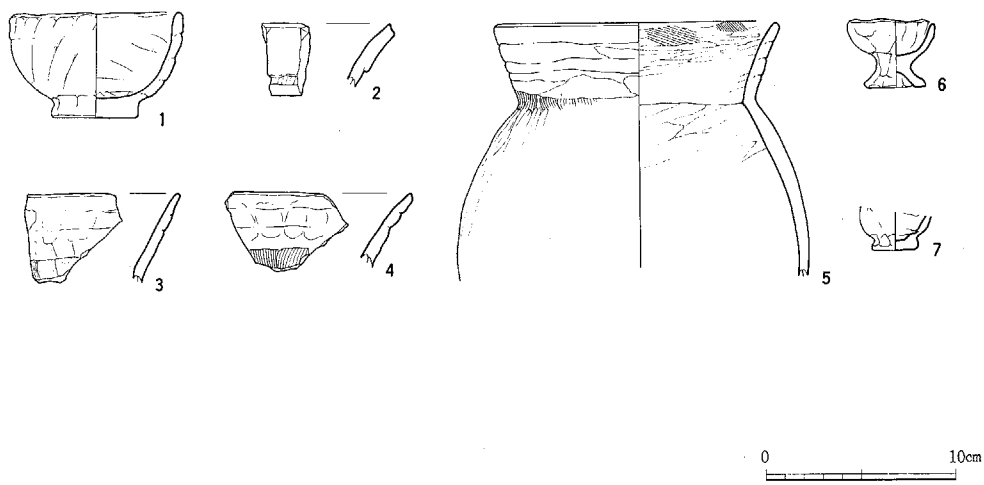
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
6	土師器 器台 脚部	残存 5.9	脚部は裾広がりで透かし孔を有す。	内ハケメのちミガキ 外タテ方向のミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
7	土師器 高坏 脚部	底径11.4 残存 5.3	脚部は裾広がりで多段、複数の透かし孔を有す。	内上ヘラケズリ下ハケ目のちナデ 外ハケメのちナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡橙色	床着
8	土師器 甕	口径15.3 残存 4.2	単口縁で輪積み痕・押圧痕を残し、直立気味に外反する。	口唇部ハケメ、胴部外輪積痕のち指圧タテ方向のハケメ内ハケメのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
9	土師器 甕	口径18.6 残存17.2	単口縁で輪積み痕・押圧痕を残し、直立気味に外反する。	口唇部ハケメ、胴部外輪積痕のち指圧ハケメのちヘラミガキ内雑ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
10	土師器 台付甕	底径 7.6 残存 4.0	脚部は裾広がりで、端部は面をなす。	胴部外ヘラケズリのちミガキのちタテ方向のハケメ部分的にヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
11	土師器 台付甕	底径 9.0 残存 5.5	脚部は丸みを帯びて裾広がりとなる。	胴部外タテ方向のハケメ 〃 内ナデのちヨコ方向のハケメ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
12	土師器 台付甕	底径10.1 残存 6.0	脚部は丸みを帯びて裾広がりとなり、端部は面をなす。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヨコ方向のハケメのちミガキ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	床着

17号住居址(第358図　図版92・114　表16)

位置　L・M－30グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－26°－W／規模　5.52ｍ×4.55ｍ(南北×東西)／壁高　12cm～16cm。南壁の一部を55号土坑に切られる。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。全体に締まりがあり硬質である。／柱穴　8本。Ｐ1～Ｐ4が主柱穴に相当する。Ｐ1・2段に亘って掘られている。上幅径59cm、下幅径22cm、深さ54cm。Ｐ2・径22cm、深さ54cm。Ｐ3・径26cm、深さ48cm。Ｐ4・径28cm、深さ59cm。Ｐ5・径18cm、深さ69cm。Ｐ6・径14cm、深さ39cm。Ｐ7・径29cm、深さ46cm。Ｐ8・径24cm、深さ49cm。Ｐ9・長径70cm、短径68cm、深さ8cm。Ｐ9は平面はほぼ円形を呈する。断面は皿状を呈する。形態から炉の可能性が考えられるが焼けた痕跡は見られない。また、貯蔵穴としては掘り込みが浅すぎるため柱穴に関するものとした。／炉　焼土が2箇所に認められる。中央部より東寄りに位置する。掘り方は楕円形呈する土坑状の掘り込みの覆土中に掘り込まれる。大きいほうは長軸50cm、短軸34cm、深さ4cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。小さい方は堀り込みが認められず焼上が浮いており、炉址としての性格はうすい。／貯蔵穴　南西隅に位置する。貯蔵穴・長軸58cm、短軸50cm、深さ52cm。楕円形を呈する。



17号住居址
第1層 黒 色 土
第2層 黒 褐 色 土
第3層 暗 褐 色 土 (帖り床)ロームブロック多量に含む
第4層 暗 褐 色 土 地山(砂質)



第359図　17号住居址・出土遺物

覆土の状況

自然堆積である。黒色土、黒褐色土、暗褐色土を基調に2層の合わせて4層に分層される。

遺　物

赤井戸系の甕の破片が床着で全体に亘って散乱している。さらに貯蔵穴内より手づくねの甕と高坏が出土した。実測遺物点数7点。

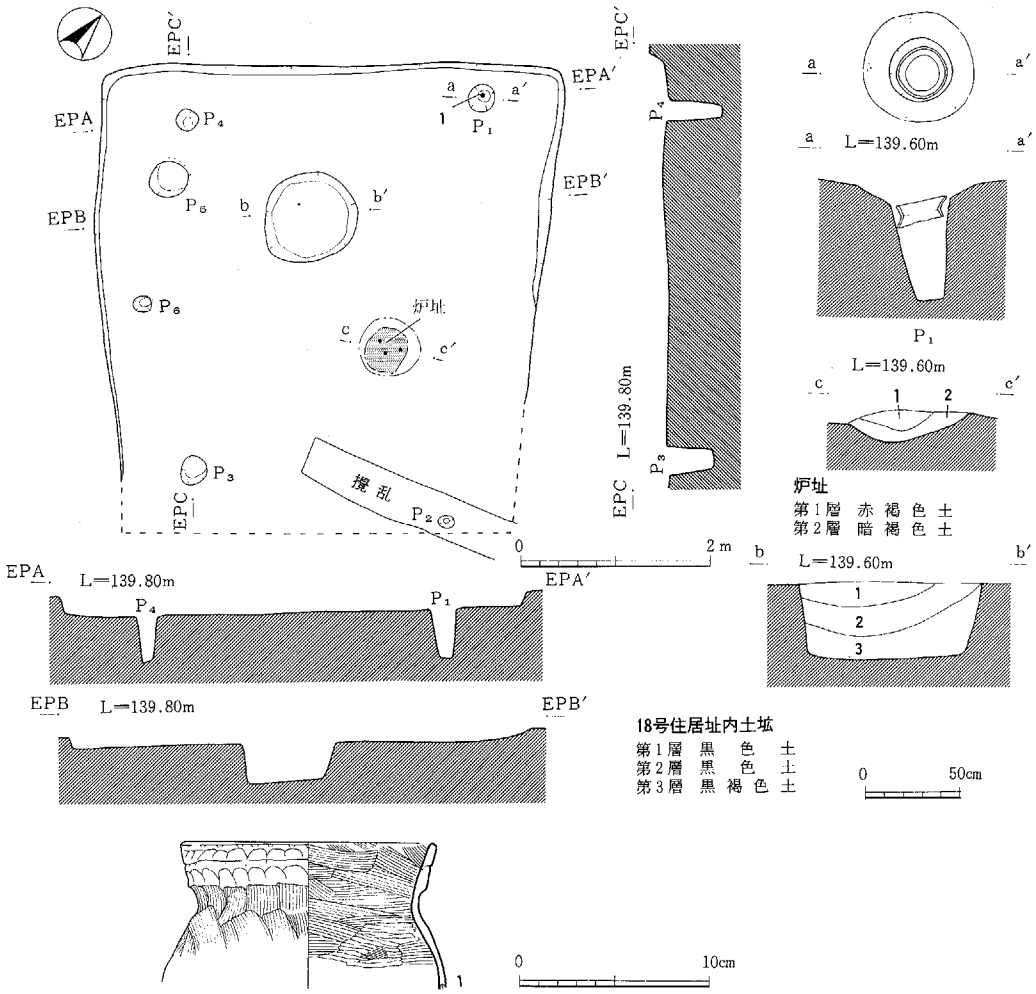
※赤井戸系の土器を弥生後期の所産とする説もあるが周囲の住居址からは石田川期の古式土師と赤井戸系の土器が共伴して出土しているため本址も古墳時代の住居址として取り扱った。

表16　17号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 埦	口径 8.8 底径 4.4 器高 5.4	口縁部は押圧痕が残り、体部は内反気味に開き、底部は分厚く突出する。	体部外ハケメのちヘラナデ指圧内ハケメのちヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
2	土師器 甕	残存3.8	口縁部は折り返され、端部は凹状に面をなす。	二重口縁、口縁部外タテのハケメ内ヨコのハケメ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	暗赤褐色	貯蔵穴
3	土師器 甕	残存4.7	口縁部は外傾し、輪積み痕・押圧痕を残す。	口縁部内ヨコナデ外指圧胴部外ハケメ調整	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
4	土師器 甕	残存4.2	口縁部は外傾し、輪積み痕・押圧痕を残す。	口縁部外輪積痕、指圧胴部外タテ方向のハケメ 内ヨコ方向のハケメのちナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中
5	土師器 甕	口径14.7 残存13.0	口縁部は外傾し、輪積み痕を残し、胴部は最大径を中位に有す。	口縁部内ハケメのちミガキ外ナデのちヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
6	土師器 手づくね ミニ坏	口径 4.6 底径 3.1 器高 3.6	高坏の土製品。坏部は椀状で脚部は開き端部は面をなす。	手指ナデ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	床着
7	土師器 手ずくね ミニ甕	口径 3.5 底径 2.1 器高 3.8	甕の土製品。口縁部は短く直立し、底部は突出する平底となる。	手指ナデ	砂粒含む	酸化炎	褐色	床着

18号住居址(第360図　図版92　表17)

位置　M・N－30・31グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－30°－W／規模　4.70m×4.32m（南北×東西）／壁高　全体に亘って近・現代の耕作により削平され掘り込みが浅い。0cm～20cm。／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。南壁が近・現代の耕作の削平により消滅している。しかし、全体に締まりがあり硬質化されている為範囲をつかむことが出来た。／柱穴　6本。P1～P4が主柱穴に相当すると考えられる。P1・径28cm、深さ49cm。また、P1内より柱の支えに転用されたと考えられる土師器甕形土器の口縁部の破片が検出された。径18cmを計る。P2・攪乱により上部を切られる。残存径18cm。床面より深さ49cm。P3・径26cm、深さ49cm。P4・径22cm、深さ49cm。P5・径41cm、深さcm。P6・径18cm、深さcm。／炉　中央部よりやや東寄りに位置する。よく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸64cm、短軸62cm、深さ17cm。平面ははぼ円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　中央部よりやや北寄りに位置する。長軸99cm、短軸92cm、深さ39cm。ほぼ円形を呈する。



第360図　18号住居址・出土遺物

覆土の状況

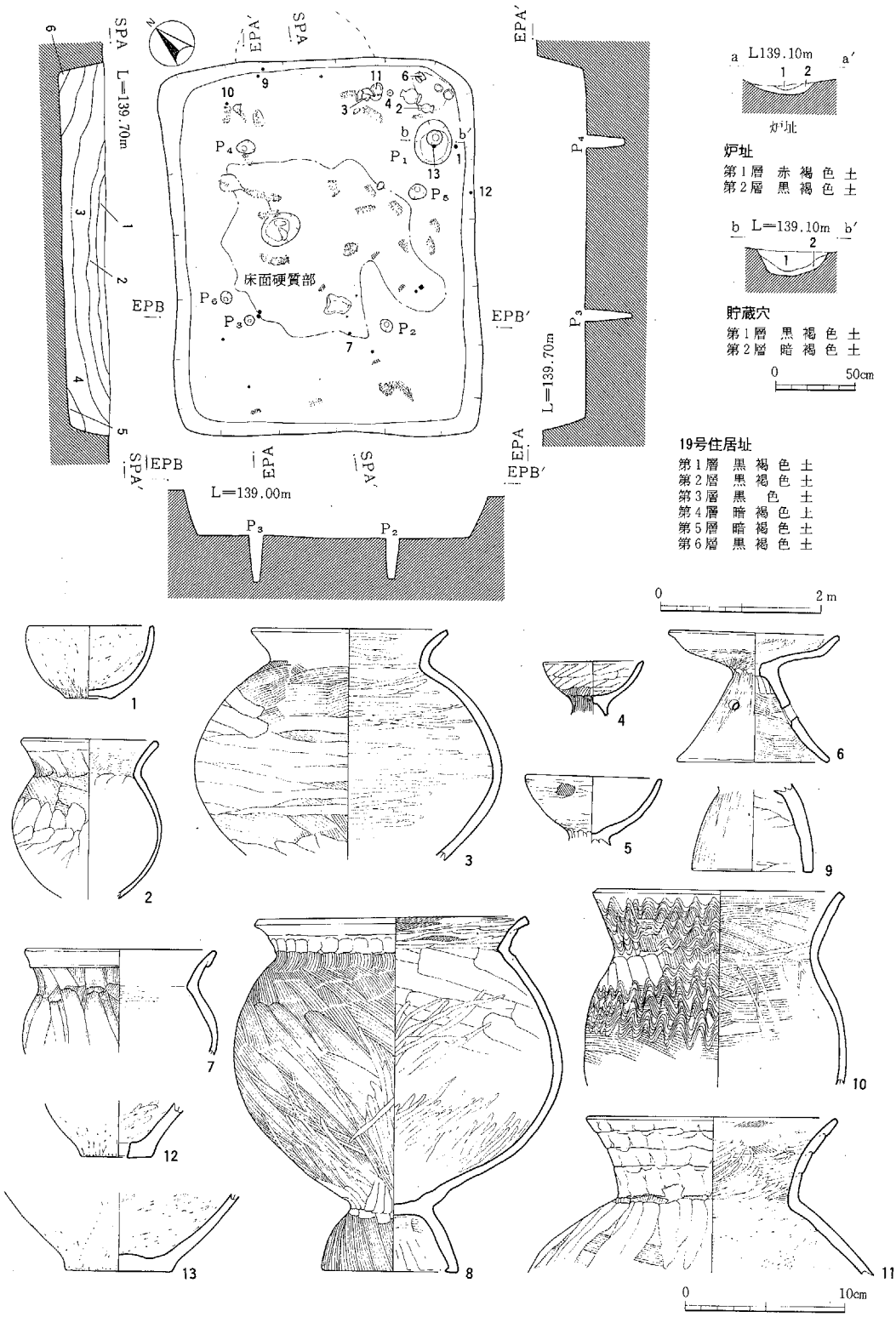
自然堆積である。黒色土と黒褐色土の2層に分層される。

遺　物

炉址内より土師器甕の細片が3点出土。さらにP1より柱の補強としての転用と考えられる土師器甕の口縁部が出土した。なお炉址内出土のものは細片のため図化できなかった。実測遺物点数1点。

表17　18号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 甕	口径13.0 残存 7.8	口縁部は外傾し、輪積み痕・押圧痕を残す。	口縁部外指圧 胴部外ハケメ 〃 内ハケメ部分ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着



第361図　19号住居址・出土遺物

表18　19号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 埦	口径 7.8 底径 2.8 器高 4.5	口縁部は素縁で内反気味に開き、底部はあげ底気味となる。	口縁部内外ヘラミガキ 体部外ハケメ痕はみられない	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡黄褐色	床着
2	土師器 甕	口径 8.1 残存 9.8	口縁部は短く外反し、胴部は球形となる。	口縁部内外ハケメのちヘラケズリ風ナデ胴部外ナデツケ内木ロナデツケ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡橙褐色	床着
3	土師器 甕	口径12.2 残存14.2	口縁部は短く外反し、胴部は偏球形となる。	口縁部内ヘラミガキ 胴部外ハケメのちナデツケ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着
4	土師器 高坏 ミニチュア	口径 6.2 残存 3.5	高坏の土製品。坏部は椀状となる。	口縁部内外ナデツケ 体部外木ロナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
5	土師器 小形高坏	口径 8.4 残存 4.1	高坏の土製品。坏部は椀状となり、脚部は柱状となる。	体部外ハケメのちヘラミガキ 〃 内ヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡黄褐色	床着
6	土師器 高坏	口径10.6 底径 9.7 器高 7.9	受け部は浅く、脚部は裾広がりとなり、透かし孔を有する。	体部内外ヘラミガキ 揚部内ヘラケズリのちハケメ、円形の穿孔3つ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
7	土師器 小形甕	口径11.5 残存 6.5	口縁部は折り返し外反する。胴部は最大径を上位にとる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外面ハケ目 〃 内ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	外面赤褐色 内面褐色	床着
8	土師器 台付甕	口径16.7 底径 8.4 器高21.7	口縁部は外反し端部は面をなし、胴部は最大径を上位に、脚部は丸い。	口辺部指ナデ内ヨコハケ目ナデ 胴部外ハケ目内上ナデ中央外タテハケ目内ヨコナデ	砂粒石粒多量含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
9	台付甕 土師器	底径 7.3 残存 4.9	脚部は丸みを帯び端部は面をなす。	胴部外ミガキ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
10	土師器 甕	口径15.0 残存11.4	口縁部は直立気味に外反し、端部は面をなす。胴部は余り張らない	胴部外ヘラケズリのちハケメのち櫛描波状文内ハケメのちヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
11	土師器 甕	口径15.6 残存 9.5	口縁部は輪積痕・押圧痕を残し外反する。胴部は偏球形となるもの。	口縁部内ハケメのちヘラミガキ 胴部外ハケメのちナデツケ	石粒多量に含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
12	土師器 甑	 復底 4.4 残存 3.4	口縁～胴部は外傾する。口縁径は底径の3倍以上有し単孔となるもの。	胴部外ミガキ 〃 内ナデのちミガキ 底部に穿孔あり	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
13	土師器 甕	 底径 6.6 残存 4.8	底部は浅く突出し平底となる。	胴部外タテのミガキ 〃 内丁寧なミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着

19号住居址(第361図　図版93・114・115　表18)

位置　N－31グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.04ｍ×3.13ｍ（東西×南北）／壁高　44.5cm～51.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に南側にかけて一部が南壁寄りに延びる。また、炭化材が、検出されている。検出状況から観察して焼失家屋の可能性が考えられる。／柱穴　5本。（貯蔵穴内にも柱穴状の掘り込みが検出されているが、切り合いが認められないため貯蔵穴の一部として取り扱った。）Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当する。Ｐ１・径21cm、深さ49cm。Ｐ２・径14cm、深さ54cm。Ｐ３・径12cm、深さ54cm。Ｐ４・径21cm、深さ50cm。Ｐ５・径22cm、深さ42cm。掘り方の径は小さい。ほぼ柱の径と変わらないのではないかと考えられる。／炉　中央部より北寄りに位置する。長軸48cm、短軸40cm、深さ４cm。平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。地床炉である。／貯蔵穴　南東隅寄りに位置する。柱穴状の掘り込みと重複する。覆土の観察から切り合いは認められなかった。長軸53cm、短軸47cm、深さ21cm。楕円形を呈する。柱穴状の掘り込みは径21cm、貯蔵穴底面より深さ24cm。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色を基調に３層、黒色土と暗褐色土を基調に２層の合わせて６層に分層される。

遺　物

土師器台付き甕、甕、坏の破片が全体に亘って散乱して出土した。また、南東隅には集中する形で台付き甕、小形台付き甕、器台が横位で出土した。全体的に遺物は、やや西寄りに散らばる傾向を示す。土師器（台付き甕・高坏・器台等）の破片25点出土した。その他、自然礫２点（床着）と炉址内より２点出土した。炉址内のものは火熱を受けている。焼石として使用した可能性が考えられる。実測遺物点数13点。

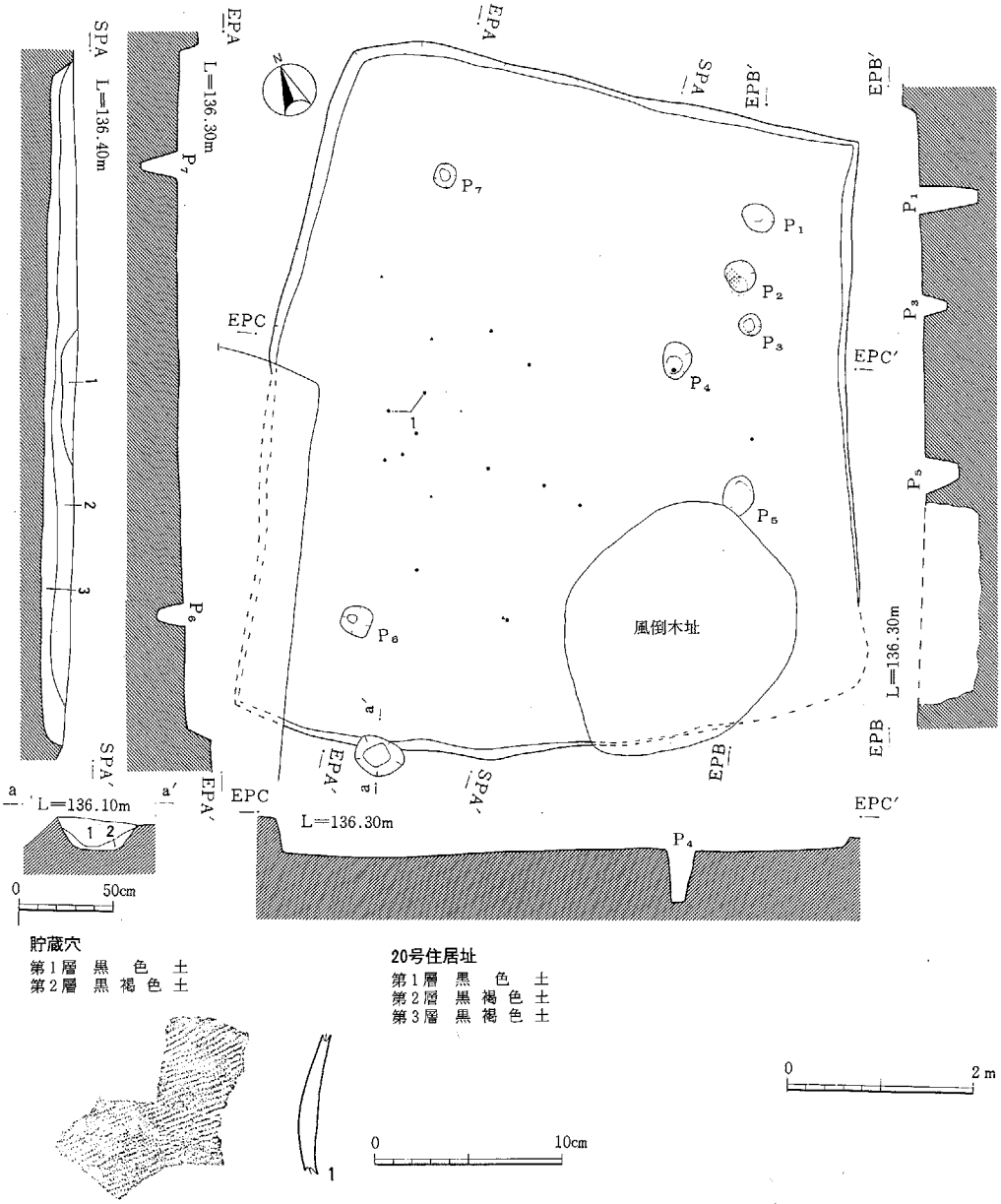
20号住居址（第362　図版93　表19）

位置　G－35グリッド／形態　不整長方形／主軸方向　N－30°－E／規模　7.06ｍ×5.35ｍ（南北×東西）／壁高　30cm～36cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に亘って硬質化されている。／柱穴　７本。Ｐ１・Ｐ６・Ｐ７が深さと直角の方向からみて主柱穴と考えられ、残りの１本は風倒木によって破壊されたものと思われる。Ｐ１・径39cm、深さ32cmを計る。Ｐ２・径32cm、深さ34cm、柱痕が検出している。径18cmを計る。Ｐ３・径24cm、深さ47cmを計る。Ｐ４・径41cm、深さ33cm。Ｐ５・長径は風倒木址に切られ不明。短径36cm、深さ38cm。Ｐ６・径31cm、深さ32cm。Ｐ７・径24cm、深さ31cmを計る。／炉　なし。／貯蔵穴なし。

覆土の状況　自然堆積である。黒褐色土を基調に２層に分層される。

遺　物　覆土中より土師器の細片が15点出土している。胴部の細片の為、実測不可能であった。実測遺物点数１点

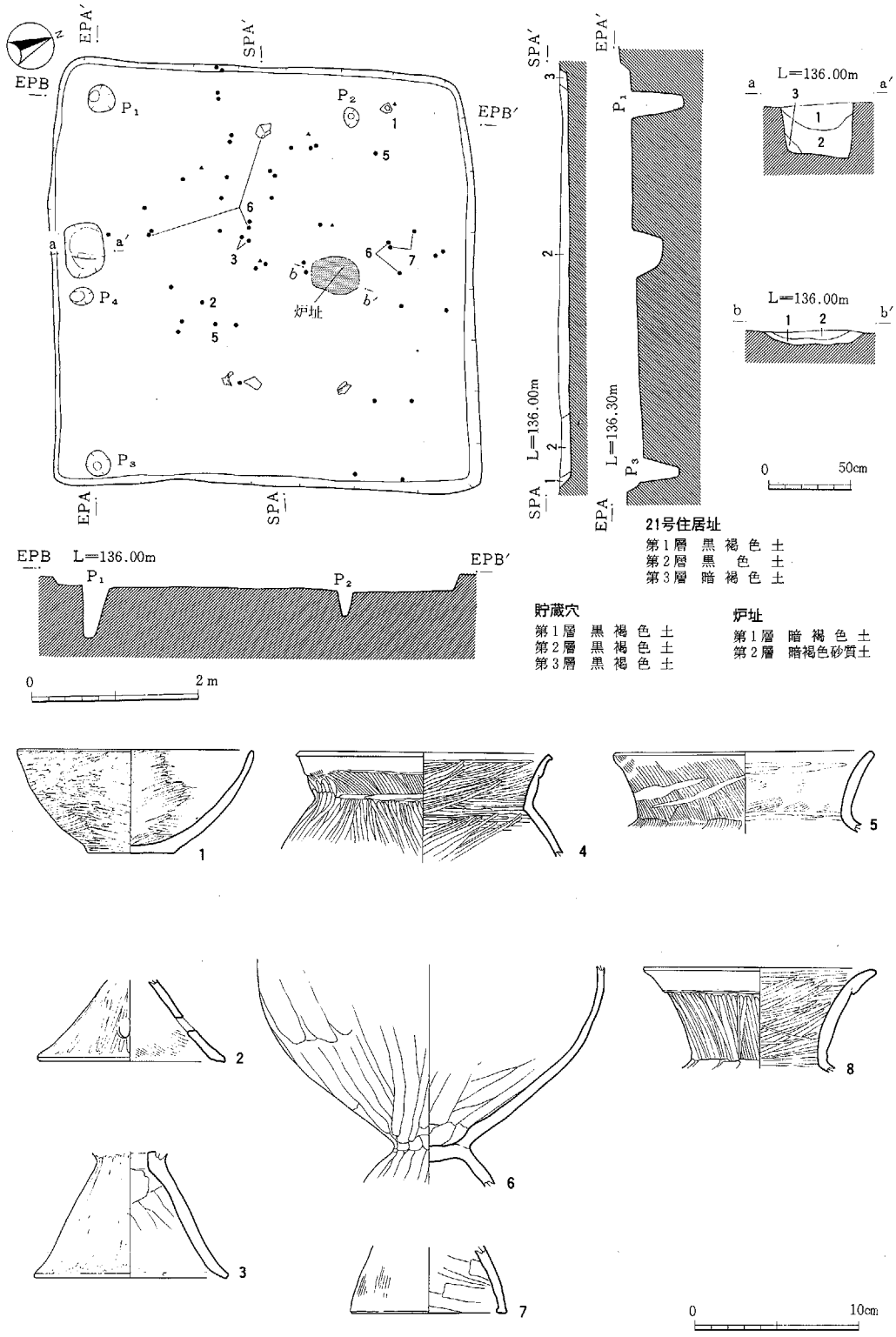
備　考　新旧関係は南西側を21号住居址切られ、南東寄りを風倒木により切られる。本住居址に伴う遺物の検出が見られない為、明確な時期は不明であるが覆土の状況や覆土中出土の遺物から古墳時代の所産のものと考えられ、21号住居址より古い事は断定できる。



第362図　20号住居址・出土遺物

表19　20号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 甕	残存長 7.3cm	———	単節ＬＲの斜行縄文を施す	砂粒石粒含む	酸化炎	暗褐色	床着



第363図　21号住居址・出土遺物

21号住居址（第363図　図版93　表20）

位置　ｇ－34グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－W／規模　5.03ｍ×4.50ｍ（東西×南北）／壁高　25cm～34cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に亘って面をなしているが硬質部分は検出されなかった。／柱穴　4本。主柱穴はＰ１～Ｐ３が考えられる。Ｐ１と対角線上に柱穴の検出が考えられたが調査の結果、検出はみられなかった。Ｐ１・径32cm、深さ60cm。Ｐ２・径18cm、深さ30cm。Ｐ３・径29cm、深さ28cm。Ｐ４・径28cm、深さ32cm。以上のように深さは一定ではない。／炉　中央部より北寄りに位置する。長径56cm、短径46cm、深さ４cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。地床炉である。／貯蔵穴　西壁寄りのほぼ中央寄りに位置する。２段に亘って掘られている。長軸64cm、短軸46cm、深さ上段20cm、下段36cmを計る。隅丸長方形を呈する。

新旧関係　20号住居址を切る。

覆土の状況

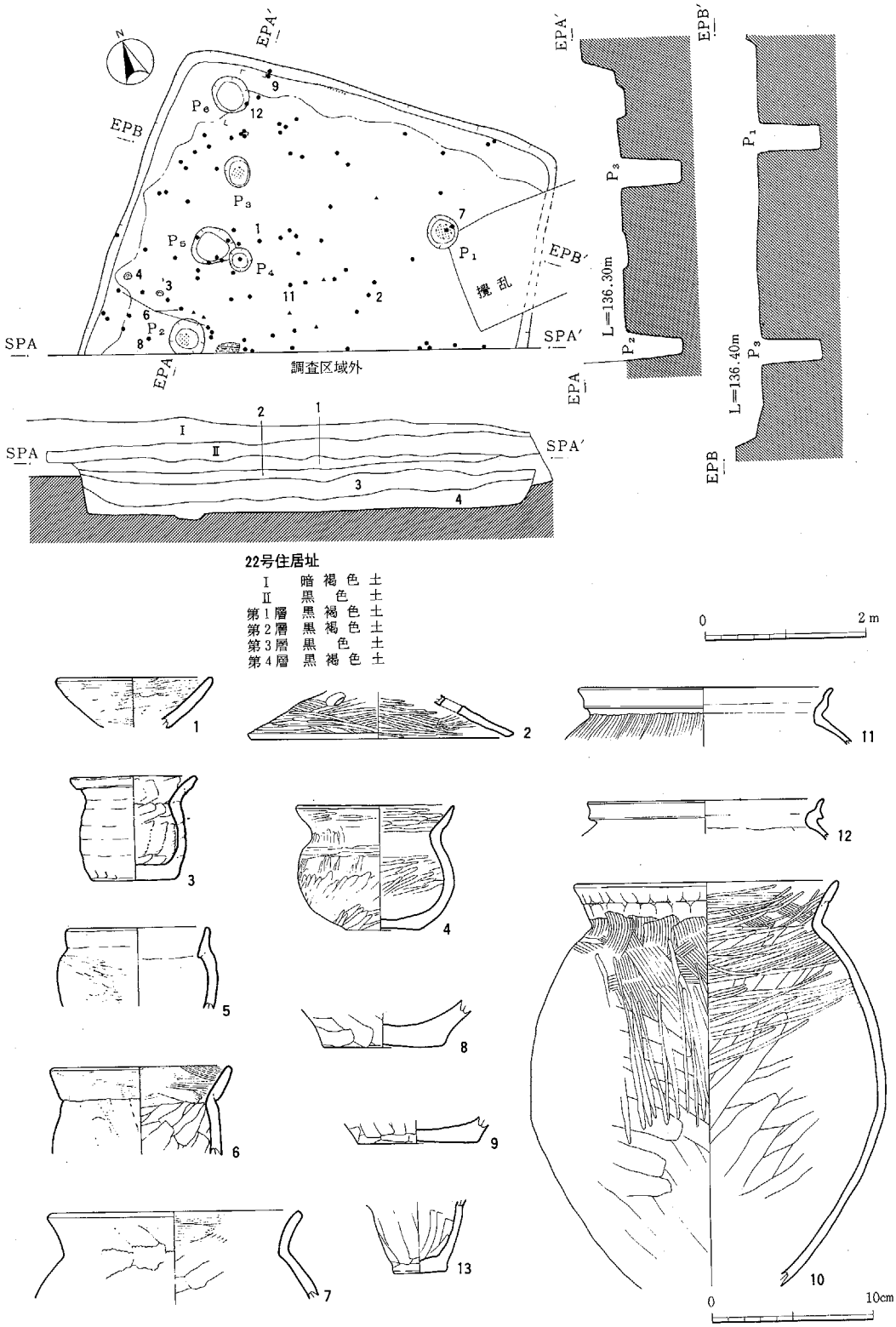
自然堆積である。黒褐色土、黒色土、暗褐色土の３層に分層される。

遺　物

中央部よりやや北寄りに集中する傾向を示している。実測遺物点数８点。

表20　21号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 埦	口径14.3 底径 5.2 器高 6.2	口縁部は素縁で体部は内反気味に開き、底部は平底となる。	体部内外ミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	淡褐色	覆土中 全体の約$\frac{1}{2}$の残存
2	土師器 器台	底径11.2 残存 5.0	脚部は裾広がりとなり、透かし孔を有す。	脚部外タテ方向のミガキ 内ハケメのちナデで消す	砂粒含む	酸化炎良好	暗褐色	床着 脚部破片
3	土師器 器台	底径10.6 残存 7.7	脚部は裾広がりとなり、端部でさらに外反気味となる。	脚部外タテ方向のミガキ 内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎良好	明褐色	床着 脚部破片
4	土師器 甕	口径15.4 残存 6.3	口縁部は折り返され外傾する。	頸部内外ハケメのちヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	明褐色	床着
5	土師器 甕	復口16.0 残存 4.9	口縁部は外反するもの。	頸部内外ハケメのちヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	黒褐色	床着
6	土師器 台付甕	残存13.3	胴部は中位が最大径となり、脚部は丸みを帯びる。	体部外ヘラケズリ 内木ロナデ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	赤褐色	床着 胴部下半破片
7	土師器 器台	底径 9.4 残存 4.1	脚部は丸みを帯びるもので、端部は面をなす。	脚部外ハケメのちナデ 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	暗赤褐色	床着 脚部破片
8	土師器 甕	復口14.2 残存 6.4	口縁部は折り返され外反する。	口縁～頸部丁寧なミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	橙褐色	覆土中



第364図　22号住居址・出土遺物

22号住居址（第364図　図版93・94　表21・22）

位置　G・H－33グリッド／**形態**　調査区域外に延びているが、柱穴の位置からみて方形である事が推定される。／**主軸方向**N－45°－E／**柱穴**4本。主柱穴はP1～P3が相当すると考えられる。P1・柱痕が検出されている。径17cmを計る。掘り方径38cm、深さ76cm。P2・柱痕が検出されている。径18cmを計る。掘り方径38cm、深さ76cm。P3・柱痕が検出されている。径18cmを計る。掘り方32cm、深さ76cm。P4・径28cm、深さ22cm。／**炉**　遺構は調査区域外に延びているため検出されている範囲内においては見られなかった。／**貯蔵穴**　調査範囲においては見られなかった。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に3層と黒色土の合わせて4層に分層される。

遺　物

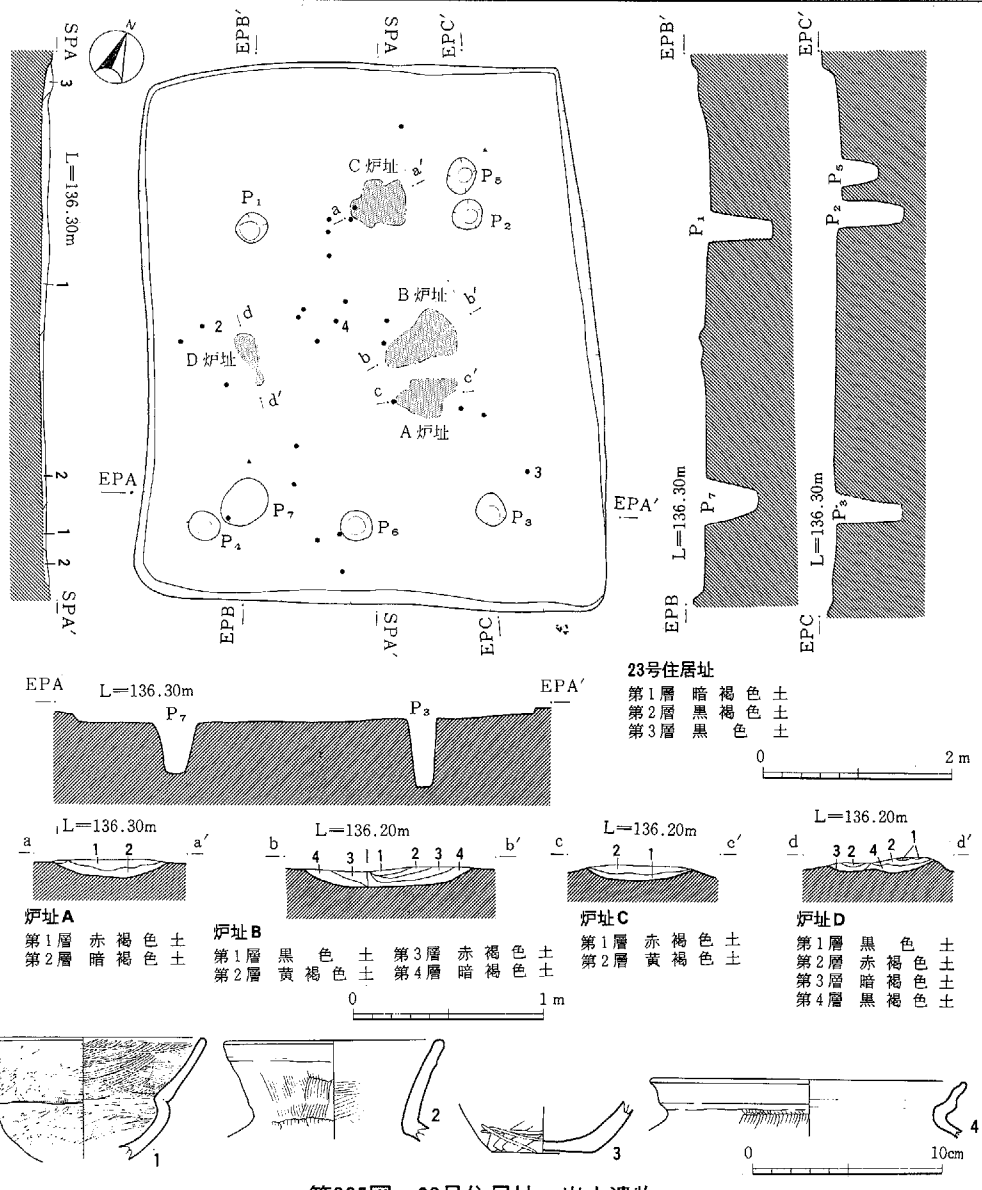
西寄りに集中する傾向を示す。土師器台付き甕、高坏、小形高坏の破片が床着で出土した。実測遺物点数13点。

表21　22号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 器台	底径 9.5 残存 3.0	口縁部は素縁で外傾する。底部は平底となるもの。	胴部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 脚部破片
2	土師器 器台	復底15.7 残存 3.0	脚部は大きく開き、端部は面をなす。透かし孔を有す。	脚部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 脚部破片
3	土師器 甕 ミニチュア	口径 7.8 底径 4.8 器高 6.4	土製品。口縁部は折り返されて外反し、胴部は寸胴で平底となる。	口縁部内外ヘラナデ 胴部外指圧のちナデ 内木口ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中 ほぼ完形
4	土師器 甕	口径 9.8 底径 4.5 残存 7.7	口縁部は内反気味に外傾し、胴部は偏球形となる。底部は平底で凹む。	口縁～胴部内外ハケメのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 完形
5	土師器 甕	口径 8.8 残存 4.9	口縁部は短く直立し内に稜を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ミガキ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 胴部上半 $\frac{1}{4}$残存
6	土師器 甕	口径10.9 残存 5.5	口縁部は折り返され外傾する。胴部は余り張らない。	口縁部内外ハケメ 胴部外ハケメのちナデ 内ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	床着 灰褐色	口縁～胴部上半
7	土師器 甕	口径15.5 残存 5.4	口縁部は外反するもの。	口縁部内外ハケメ、頸部ヨコ方向ハケメのちタテのハケメ内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 口縁～胴部上半
8	土師器 甕	底径 7.2 残存 3.0	厚手で平底となるもの。	胴部外ヘラケズリ 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着 底部破片
9	土師器 甕	底径 7.4 残存 1.4	平底となるもの。	胴部ヘラケズリ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中 底部破片

表22　22号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
10	土師器 甕	口径16.1 残存24.4	口縁部は輪積痕・押圧痕が残り外傾する。胴部は最大径中位となる。	口縁部内ハケメのちミガキ外指圧、胴部内外ヘラケズリのちハケメのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 全体の約 1/3残存
11	土師器 甕	口径15.7 残存 3.7	口縁部は「S字」状で薄手となる。	口縁部内ヨコナデ 胴部外ハケメ 外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中 口縁～胴部上半
12	土師器 甕 台付	口径14.6 残存 2.1	口縁部は「S字」状となる。	口縁部内外ヨコナデ 頸部外タテのハケメ 内指圧	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着 口縁の約 1/6残存
13	土師器 甕 ミニチュア	底径 3.2 残存 4.3	土製品。口縁部は短く外傾し、平底となる。	胴部外ヘラケズリ 内木ロナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 胴部上半 1/2残存



第365図　23号住居址・出土遺物

23号住居址（第365図　図版94・115　表23）

位置　f－32グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－10°－W／規模　5.14m×4.26m（南北×東西）／壁高　7cm～10.3cm／壁溝　検出なし。／床　褐色砂質土に掘り込まれる。全体に締まりがあり硬質である。／柱穴　6本。P1～P4が主柱穴に相当すると考えられる。P1・径34cm、深さ52cm。P2・径32cm、深さ56cm。P3・径34cm、深さ62cm。P4・径32cm、深さ54cm。P5・径32cm、深さ13cm。P6・長径38cm、短径29cm。深さ41cm。／炉・カマド地床炉4基。炉A・長軸64cm、短軸34cm、小判形を呈する。深さ8cm、掘り込みは皿状を呈する。炉B・長軸89cm、短軸38cm、小判形を呈する。深さ9cm。掘り込みは皿状を呈する。炉C・長軸64cm、短軸38cm、楕円形を呈する。深さ9cm。掘り込みは皿状を呈する。炉D・長軸58cm、短軸14cm、瓢箪形を呈する。深さ4～8cm。皿状を呈する。4基共によく焼けており、硬質化している。貯蔵穴　北東寄りP4に近接して位置する。長軸54cm、短軸44cm、深さ54cm。楕円形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土、黒褐色土、黒色土の合わせて3層に分層される。

遺　物

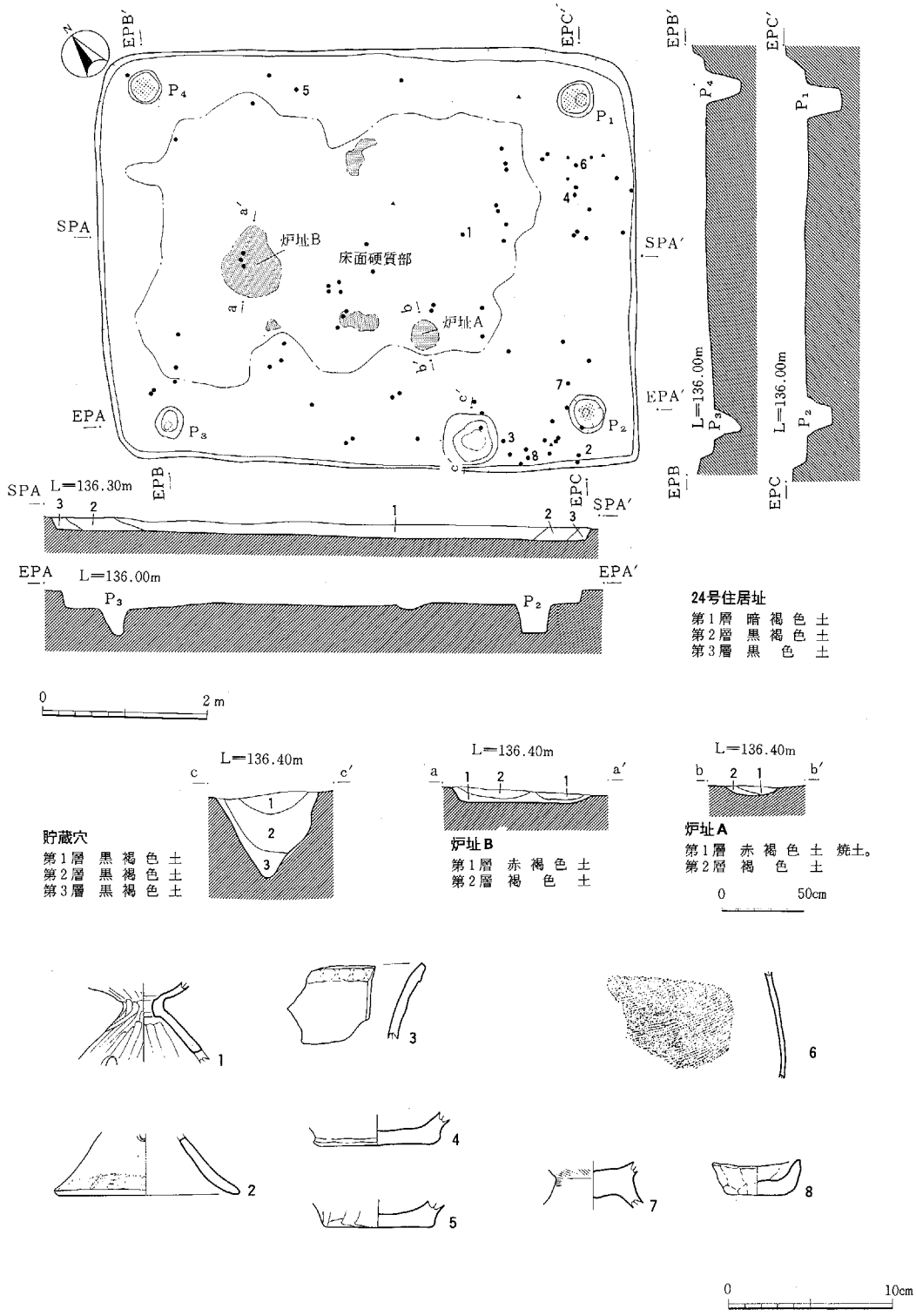
中央よりやや北寄りに集中する傾向を示す。また貯蔵穴内より出土している。総点数・土師器46点、うち床着35点、貯蔵穴内5点。P1内より1点。自然礫が、床着で3点、貯蔵穴内より1点出土している。実測遺物点数4点

備　考

当初、柱穴間の距離と直角方向からみてP1より西側の位置に主柱穴の存在を考えたが、調査の結果、検出はなかった。また、P1と対応するものと考えていた楕円状の掘り込みは他の柱穴と比べ底面の柱状の踏み固めが認められず遺物が集中して出土していた事から、貯蔵穴として取り扱った。

表23　23号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坩	口径13.0 残存 6.6	鉢形のもので、口縁部は内反気味に開き内稜となる。体部は偏球形。	体部外ハケメのちミガキ 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 $\frac{1}{2}$残存
2	土師器 甕	口径11.4 残存 5.1	口縁部は外傾する。	口縁部内外ナデ 胴部外内ハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 口縁部$\frac{1}{4}$ 残存
3	土師器 甕	底径 5.0 残存 2.5	口縁部は「S字形」となり器肉は薄い。	胴部外ヘラケズリのちミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 底部
4	土師器 甕	口径16.4 残存 3.0	底部は平底となる。	口縁部内外ナデ 頸部外ハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中 頸部破片



第366図　24号住居址・出土遺物

24号住居址（第366図　図版94　表24）

位置　g－32グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－85°－E／規模　5.86ｍ×4.86ｍ（東西×南北）／壁高　19.5ｍ～20ｍ／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分はほぼ柱穴間の内側に限定される。／柱穴　4本。主柱穴に相当する。P1・柱痕が検出している。径28cmを計る。掘り方径41cm、深さ40cm。P2・柱痕が検出している。径18cmを計る。掘り方径44cm、深さ34cm。P3・柱痕の検出なし。掘り方径39cm。P4・柱痕が検出している。径24cmを計る。掘り方径43cm、深さ44cm。／炉　地床炉2基。炉A・径34cm、円形を呈する。深さ4cm。掘り込みは皿状を呈する。炉B・長軸84cm、短軸72cm楕円形を呈する。深さ9cm、掘り込みは皿状を呈する。／貯蔵穴　上幅・長軸66cm、短軸64cm。中幅・長軸44cm、短軸44cm。下幅・長軸30cm、短軸24cm。深さ55cm。平面形は隅丸方形を呈する。断面形は2段掘り逆台形を呈する。

覆土の状況

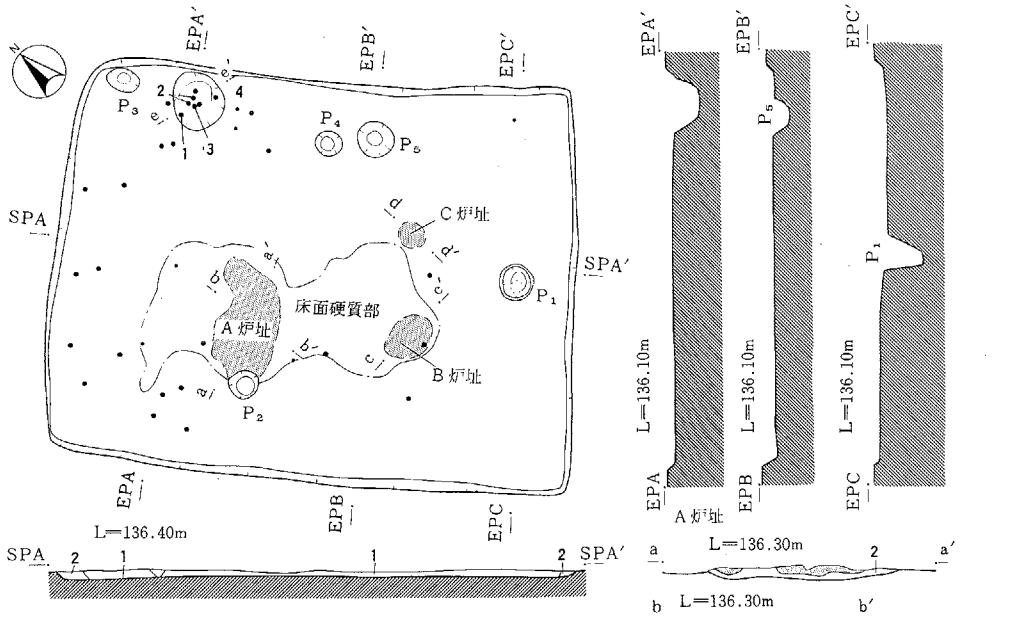
自然堆積である。暗褐色土、黒褐色土、黒色土の3層に分層される。

遺　物

南東寄りに集中する傾向を示す。土師器台付き甕、高坏の破片が出土した。その他、自然礫3点床着で出土。実測遺物点数8点。

表24　24号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 器台	残存 4.9	受部は横に広がる。脚部は内反気味にひろがり、透かし孔を有する。	体部内ミガキ 脚部外ケズリのちミガキ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 脚部下半欠損 1/2残存
2	土師器 器台	復底11.0 残存 3.7	脚部は裾広がりで、透かし孔を有する。	脚部外ミガキ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 脚部破片 1/4残存
3	土師器 台付甕	残存4.6	口縁は外反し折り返された端部は押圧痕を有する。	口縁部外指圧ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着 口縁部破片
4	土師器 甕	底径 6.6 残存 1.4	底部は平底となる。	胴部外ヘラケズリ 内ヘラケズリのちナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着 底部破片
5	土師器 甕 底部	底径 6.6 残存 1.5	底部は平底となる。	胴部外ヘラケズリ 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 底部破片
6	土師器 甕 胴部	残存高 6.6	胴部片	外ヨコのハケメ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色 床着	胴部破片
7	土師器 台付甕 脚部	残存 2.5	脚部片	脚部外ハケメのちナデ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
8	土師器 手づくね	口径 5.4 底径 3.7 器高 1.7	体部は短く開き、底部は平底となる。	指ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着



25号住居址
第1層 暗 褐 色 土
第2層 黒 褐 色 土

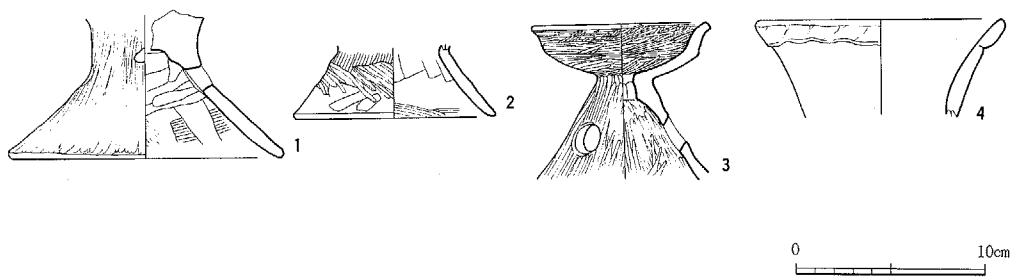
炉址A
第1層 赤 褐 色 土
第2層 暗褐色砂質土

炉址B
第1層 赤 褐 色 土
第2層 暗褐色砂質土

炉址C
第1層 赤 褐 色 土
第2層 暗褐色砂質土

貯蔵穴
第1層 黒 色 土
第2層 黒 褐 色 土
第3層 ロームブロック

1 黒褐色砂質土 褐色砂質土愛ロック状に含む。しまり強。
2 暗褐色砂質土 しまり強。



第367図 25号住居址・出土遺物

25号住居址（第367図　図版94・115　表25）

位置　F－30グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－W／規模　5.43ｍ×4.14ｍ（南北×東西）／壁高　55cm～105cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は炉址の周辺に認められる。／柱穴　5本。P1・長径34cm、短径24cm、深さ24cm。P2・径38cm、深さ13cm。P3・径39cm、深さ42cm。P4・柱痕が検出している。径14cmを計る。掘り方径38cm、深さ53.5cm。P5・径40cm、深さ23cm。P1、P4、P5が直角線上にあり主柱穴と考えられる。／炉・カマド　地床炉3基検出。炉A・長軸114cm、短軸64cm。楕円形を呈する。深さ7cm。掘り方は皿状を呈する。炉B・長軸54cm、短軸42cm。楕円形を呈する。深さ6cm。掘り方は皿状を呈する。炉C・長軸28cm、短軸24cm。ほぼ円形を呈する。深さ6cm。掘り方は皿状を呈する。／貯蔵穴　長軸62cm、短軸56cm、深さ26cm。楕円形を呈する。3基共によく焼けており硬質化されている。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土、黒褐色土、黒色土の3層に分層される。

遺　物

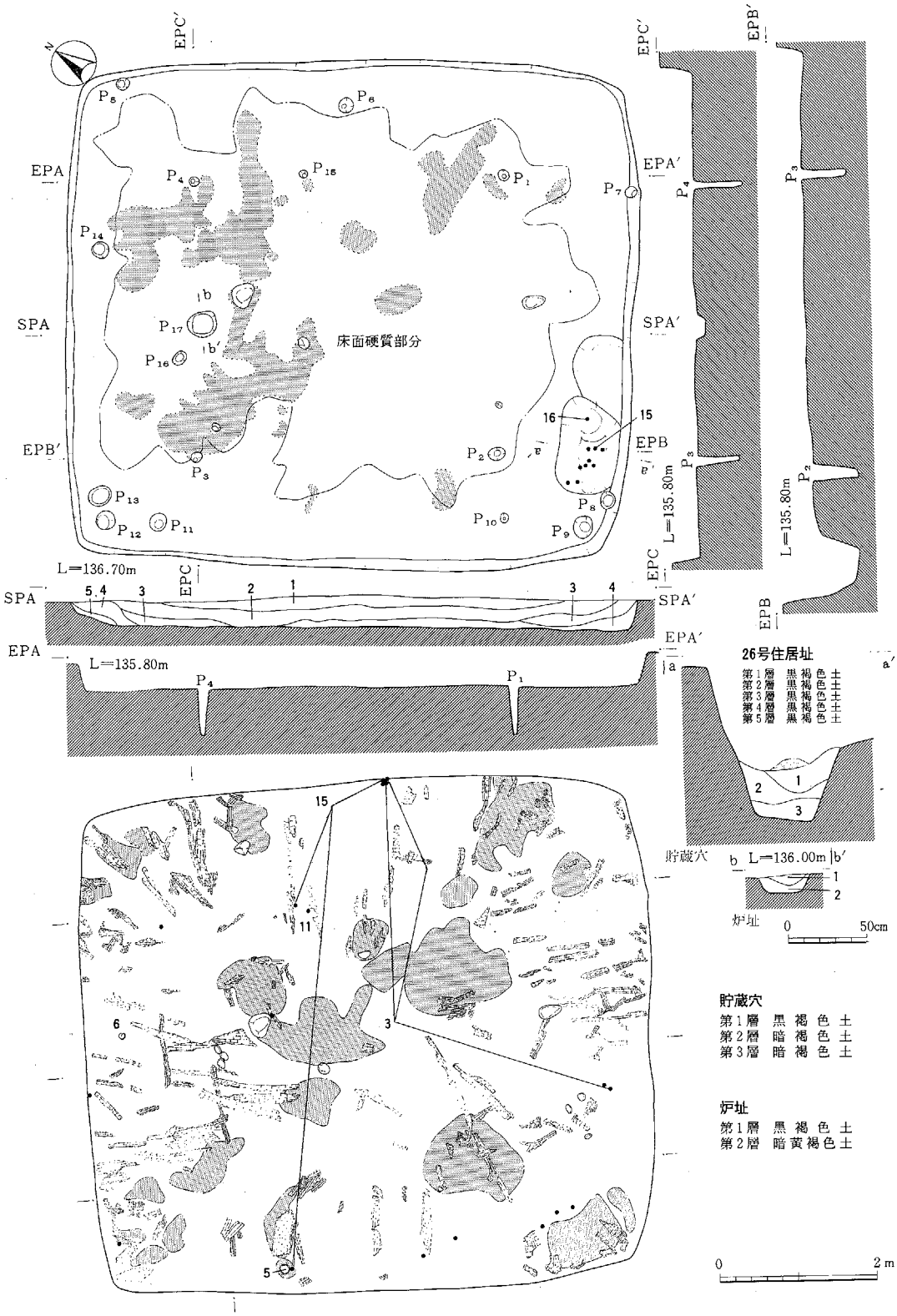
全体的に土師器台付き甕、高坏等の破片が散乱して出土している。また、貯蔵穴内より土師器破片7点出土した。実測遺物点数4点。

備　考

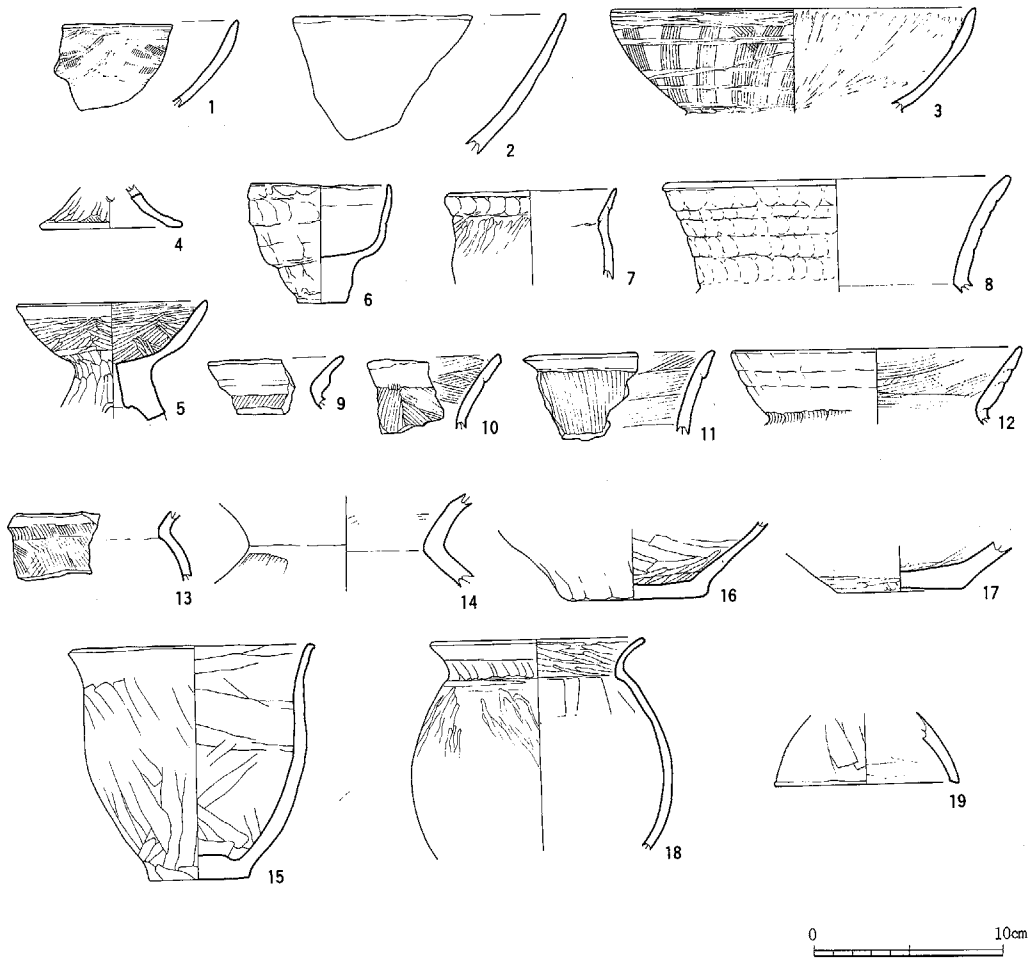
炉AはP5に切られる。同時期に付随していたとは考えにくい。P5の構築以前に使用されたものと考えられる。しかし、調査では以前のものと考えられる柱穴の検出はなかった。

表25　25号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 高坏	底径14.0 残存 7.4	脚部は筒状より裾広がりとなるもので透かし孔を有する。	脚部外タテ方向のミガキ 〃 内ヨコ方向ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	貯蔵穴 脚部$\frac{1}{4}$残存
2	土師器 台付甕	底径10.3 残存 3.7	脚部は裾広がりとなるもの。	脚部外ケズリのちミガキ 〃 内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴 脚部破片
3	土師器 器台	口径 9.1 残存 8.5	受け部は外稜を有し外反する。脚部は裾広がりとなり透かし孔を有する。	体部内外ミガキ 脚部外タテ方向のミガキ 内ヨコのミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴
4	土師器 甕	口径12.7 残存 5.1	口縁部は外反し、折り返された端部は押圧痕を有する。	口縁部内外ナデ 外指ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴 口縁破片



第368図　26号住居址



第369図　26号住居址出土遺物

26号住居址（第368・369図　図版94・115　表26）

位置　e・f－32グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－W／規模　6.53ｍ～5.54ｍ（東西×南北）／壁高　30cm～37cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に北側と西側は支柱穴付近まで及ぶ。床面上には多くの炭化材と焼土が検出されている。焼失家屋である。細かく観察すると炭化材はそれぞれ中心に向かって一定の方向を示し放射状を呈する。これは上屋の基本構造を示しているものと考えられる。／柱穴　17本。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当する。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
長径cm	13	13	17	13	14	20	14	21	28	13	24	24	29	24	10	19	37
短径cm	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	32
深さcm	61	62	57	56	14	61	27	20	24	18	17	18	20	35	60	13	7

表26　26号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 鉢形	残存 4.5	体部は内反気味に開く。	口縁部内ナデ 外ハケ目のちナデで消す 体部下半ヘラケズリ痕残す	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 1/4残存
2	土師器 鉢形	口径21.3 残存高 7.4	体部は内反気味に開く大振りのもので有る。	内ヨコ方向のミガキ 外ヘラケズリの後ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 1/4残存
3	土師器 高坏	口径19.1 残存 5.5	体部は内反気味に開き、底部は平底となる様相を呈す。	口縁部内ナデ外ミガキ 体部外ハケメのちミガキ 〃 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	貯蔵穴
4	土師器 高坏	底径 7.1 残存 1.9	脚部は裾広がりとなり、端部でさらに開く。透かし孔を有する器台である	脚部外ハケメのちミガキ 〃 内雑なミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 1/3残存
5	土師器 器台	口径 9.8 残存 6.2	受け部は椀状で、脚部は裾広がりとなる。	口縁部内外ナデ 体部外内ヨコミガキ 脚部外タテミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 3/4残存
6	土師器 手ね	口径 7.2 底径 2.4 器高 6.2	体部は垂直気味になり、底部は異様に突出した平底となる。	指ナデ	砂粒含む	酸化炎	明褐色	床着
7	土師器 甕	口径 8.9 残存 4.8	口縁部は短く開き、端部を折り返す。胴部は張らない。	口縁部内ナデ外指圧痕 胴部外部分的ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 1/4残存
8	土師器 甕	口径18.0 残存 6.0	口縁部は内稜を有し外反する。輪積み痕と押圧痕を残す。	口縁部内雑なミガキ 外指圧痕	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中 1/2残存
9	土師器 甕	残存高 2.9	口縁部は「S字形」に外反する。	口縁部内外ヨコナデ 頸部内ナデ 外タテのハケ目	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中
10	土師器 甕	残存高 3.9	口縁部は外反し、折り返されるもの。	口縁部内内ヨコのハケ目 外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
11	土師器 甕	口径23.2 残存高 4.5	口縁部は外反し、折り返されるもの。	口縁部外ヨコナデ 内ナナメのハケ目 口辺部外タテ内ヨコのハケメ	砂粒含む	酸化炎	暗褐色	床着
12	土師器 甕	口径15.3 残存 3.9	口縁部は内反気味に開き、輪積み痕・押圧痕が残る。	口縁部内タテのハケメ 外指圧痕、頸部外ハケメ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
13	土師器 坩	残存高 3.5	口縁部は内稜を有し外反する。	外面ハケ目 内面ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
14	土師器 甕	残存 4.9	口縁部は内稜を有し外反する。	胴部外ハケメのち雑なミガキ内ハケメのちヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中
15	土師器 甕	口径12.6 底径 5.2 器高12.3	体部は張らず、口縁部はわずかに開く。底部は平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	貯蔵穴
16	土師器 甕	底径 6.6 残存 3.9	底部は平底となる。	胴部内外ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	褐色	貯蔵穴
17	土師器 甕	底径 6.5 残存 2.5	底部は平底となるものでわずかに上げ底となる。	胴部外ヘラケズリのちナデ、内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着
18	土師器 甕	口径11.1 残存11.2	口縁部は内稜を有し外反する。胴部は中位に最大径をとり球形を呈する。	口縁部内外ナデ、胴部外ヘラナデのち雑なミガキ内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着
19	土師器 台付甕	底径 9.5 残存 3.7	脚部は内反気味に開き、端部を面となす。	脚部外ハケメ 内木ロナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中

貯蔵穴　南西寄りに位置する。２段に亘って掘られている。上幅・長軸126cm、短軸74cm。中幅・長軸64cm、短軸31cm、下幅・長軸42cm、短軸29cm、深さ56cm～69cm。隅丸長方形を呈する。近接して覆土の状況から切り合いがなく付随すると考えられる踊り場状の掘り込みが検出されている。規模は上幅・長軸96cm、短軸54cm、下幅・長軸96cm、短軸41cm、深さ13cmを計る。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土と暗褐色土基調に２層の合わせて３層に分層される。

遺　物

土師器台付き甕、高坏の破片が全体に散乱して出土した。さらに砥石が１点床着で出土した。実測遺物点数19点。

27号住居址（第370・371図　図版94・115　表27・28）

位置　ｄ－27グリッド／形態　長方形／主軸方向　Ｎ－90°－Ｅ／規模　6.70ｍ×5.74ｍ／壁高　23.5cm～35cm／壁溝　検出なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に硬質化されている。貯蔵穴Ａ付近が一段高く段状になっている。入り口部の可能性が考えられる。柱穴７本。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当する。Ｐ１・径28cm、深さ44cm。Ｐ２・径21cm、深さ43cm。Ｐ３・径28cm、深さ44cm。Ｐ４・径24cm、深さ44cm。Ｐ５・径22cm、深さ19cm。Ｐ６・径18cm、深さ19cm。Ｐ７・径26cm、深さ23cm。／炉　長軸66cm、短軸46cm、深さ10cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。地床炉である。／貯蔵穴　南東隅と南西隅の２カ所に検出。南東隅に位置する貯蔵穴Ａは長軸58cm、短軸42cm、深さ32cm、楕円形を呈する。南西隅に位置する貯蔵穴Ｂは長軸76cm、短軸65cm、深さ11cm。不整長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土と黒褐色土基調に２層の合わせて３層に分層される。

遺　物

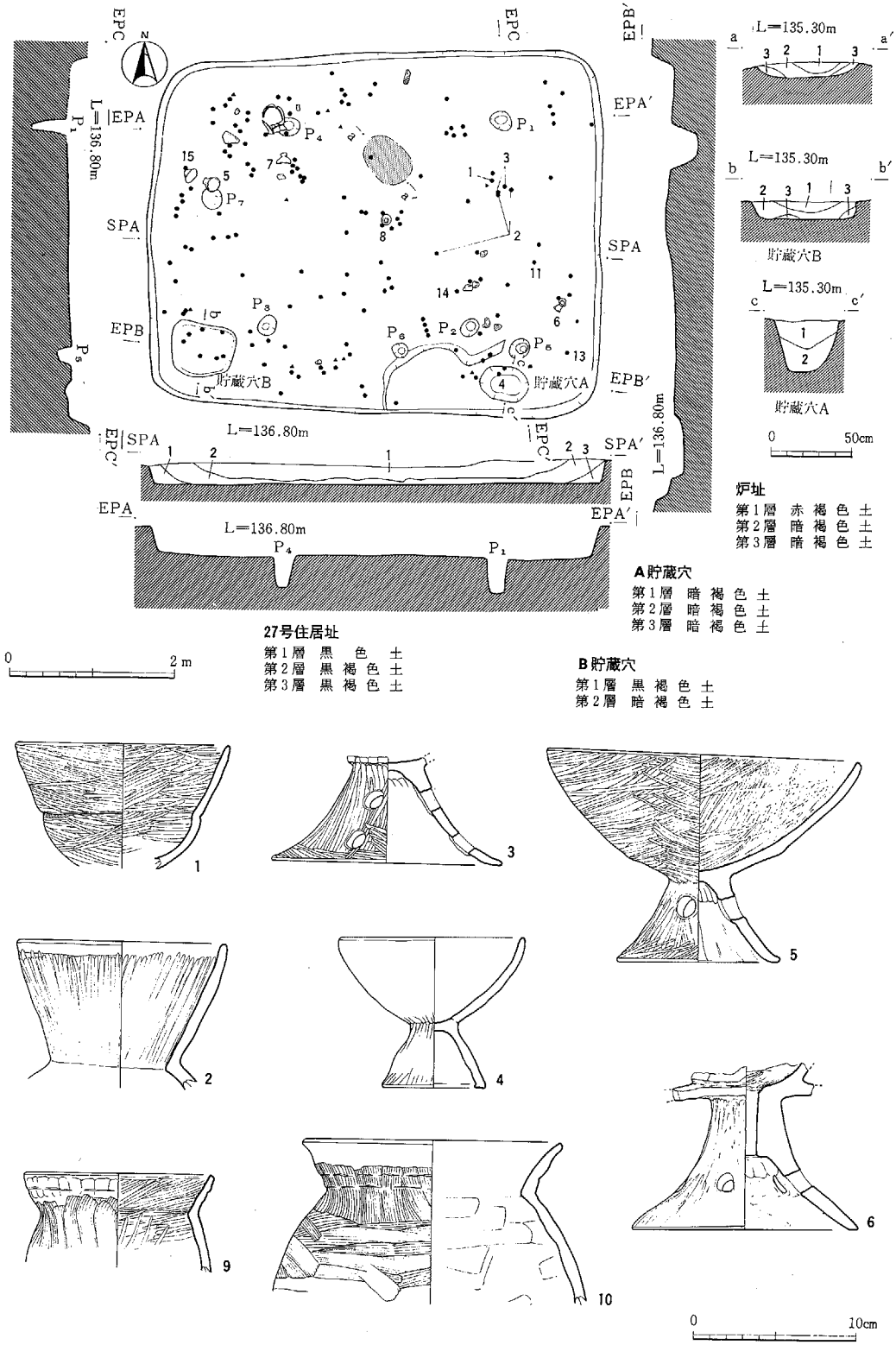
全体に土師器高坏、坏、器台、甑、甕の破片が散乱した状態で出土した。そのほか、床着で自然礫が出土した。実測遺物点数16点。

備　考

貯蔵穴Ｂは掘り込みが浅いので貯蔵穴とするのは疑問であるが形態及び位置的なものから可能性が考えられ便宜上貯蔵穴として取り扱った。

表27　27号住居址出土遺物観察表(1)

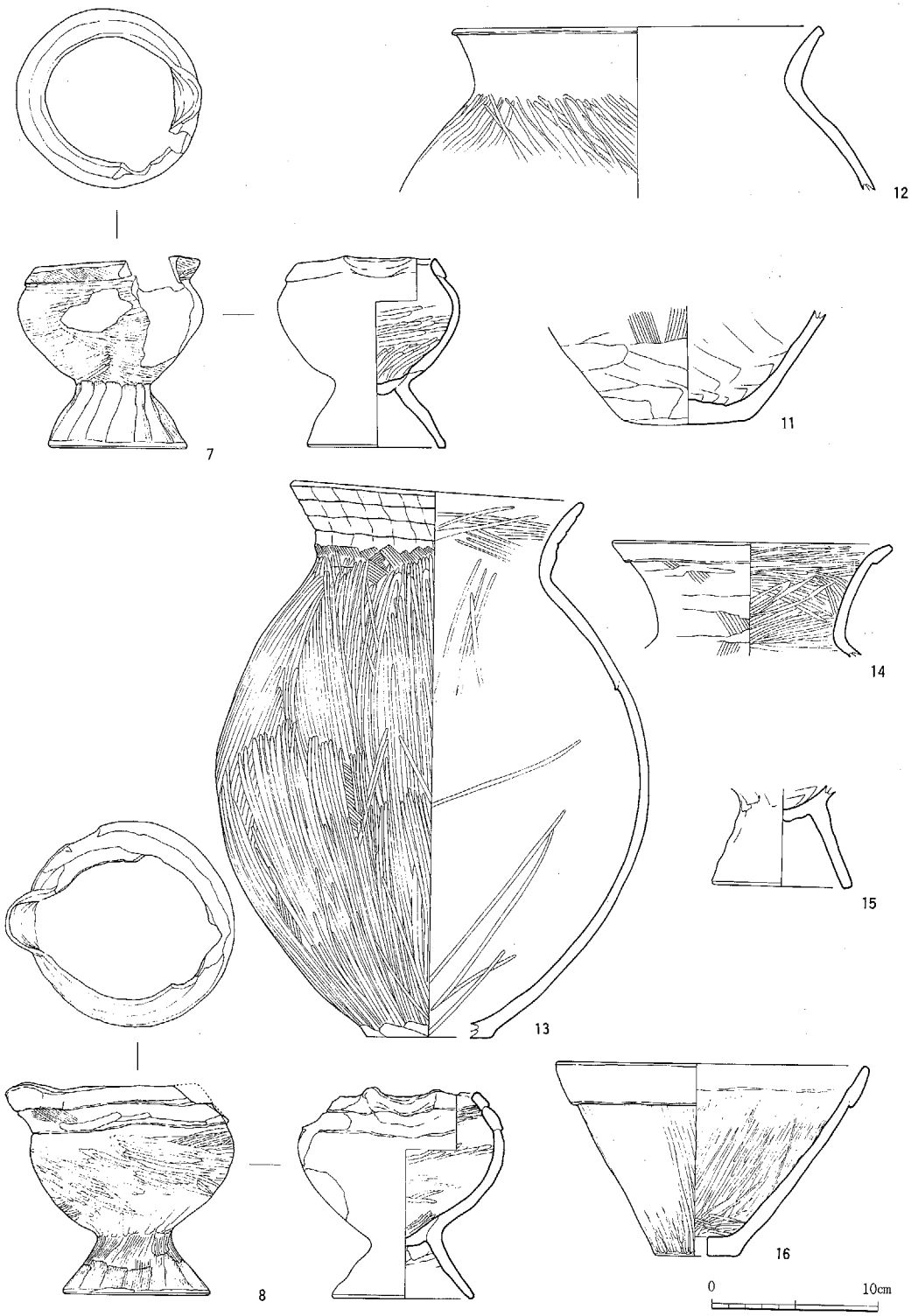
番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坩	口径13.0 残存 7.6	口縁部は内反気味に開き胴部はひさご状となる。	体部外内丁寧なミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着
2	土師器 壷	口径12.5 残存 8.5	口縁部は内反気味にわずかに開き、内稜となる。	口縁部内外ナデ 頸部外内丁寧なミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 口縁部破片



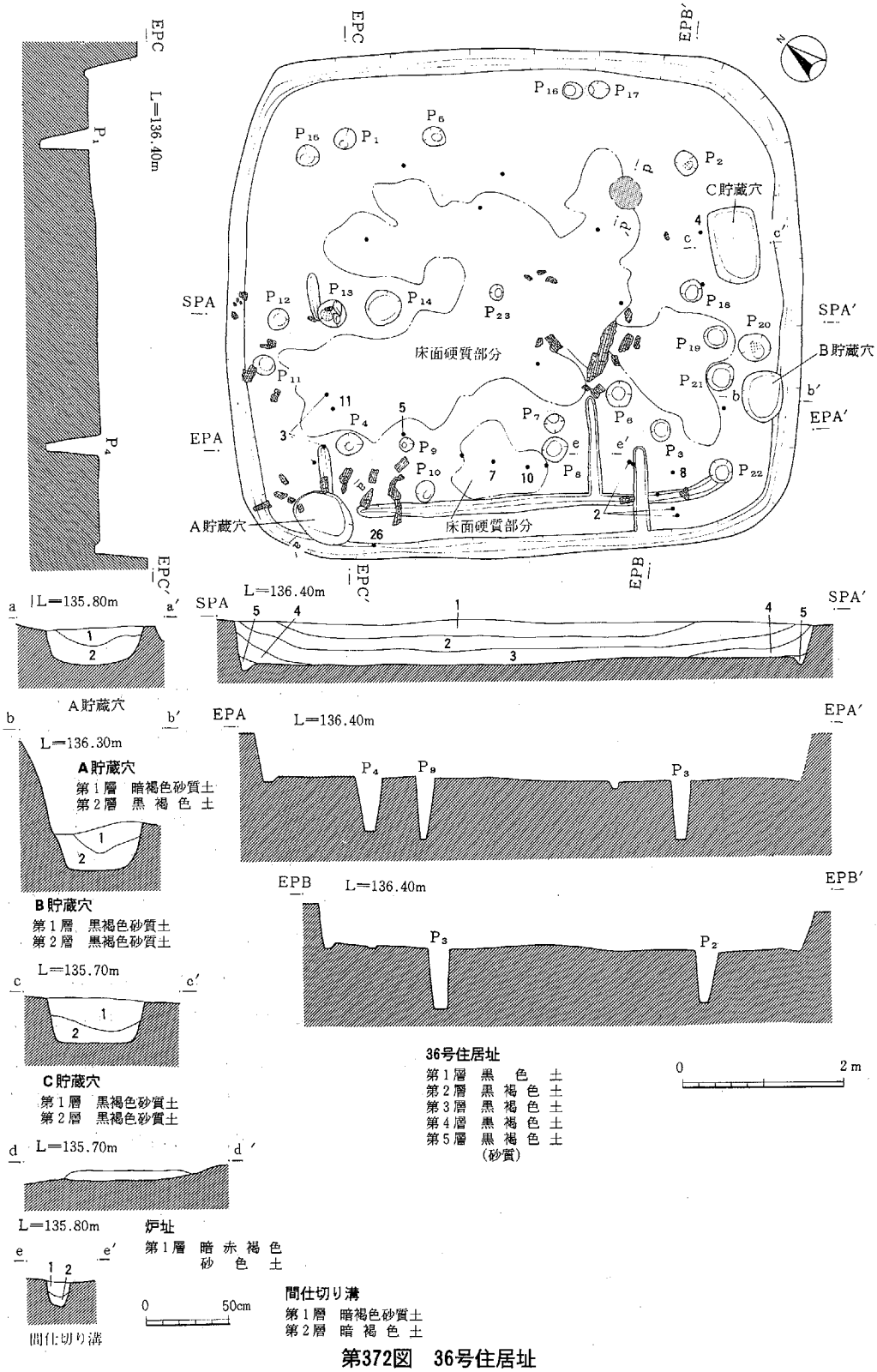
第370図　27号住居址・出土遺物(1)

表28　27号住居址出土遺物観察表(2)

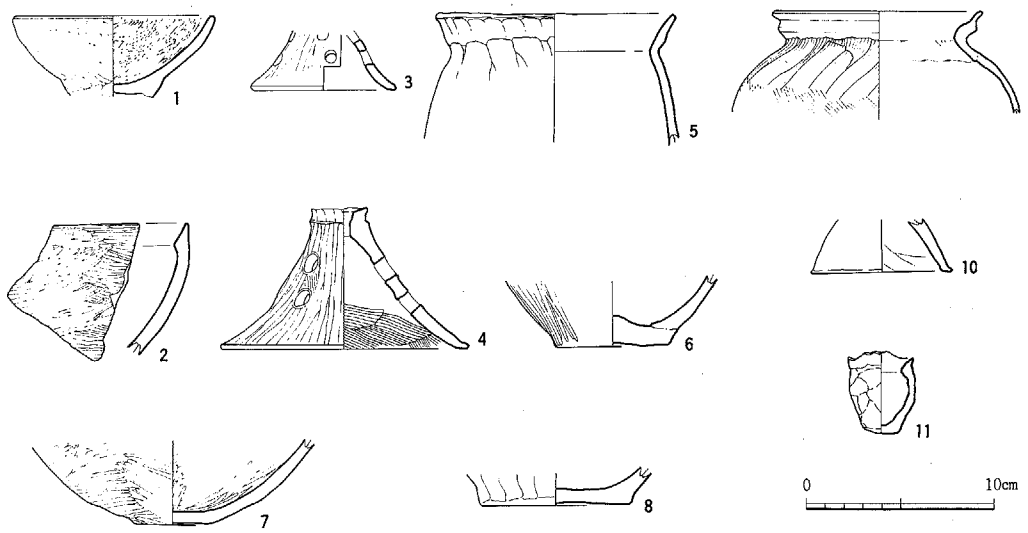
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
3	土師器 器台	底径13.3 残存 6.3	脚部は裾広がりとなり、2段に亘り透かし孔を有する。	脚部外ヘラミガキのち斜ヘラミガキ 内ケズリのちナデツケ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着
4	土師器 高坏	口径11.0 底径 6.1 器高 9.1	坏部は椀状で口縁端部がわずかに内反する。脚部は開き端部は面をなす。	体部外ヘラケズリのちナデ 脚部外ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
5	土師器 高坏	口径19.2 底径10.0 器高12.6	坏部は椀状を呈する。脚部は裾広がりとなり、透かし孔を有する。	口縁部内外ミガキ 脚部外斜ミガキ 内ナデ	石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
6	土師器 異形器台	底径13.3 残存 9.9	受け部下に鍔が付くもので、脚部は裾広がりとなり透かし孔を有する。	脚部外ミガキ 内ナデツケ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡橙褐色	床着
7	土師器 台付片口	口径 8.3 底径 8.3 器高11.4	台付きの片口鉢で、口縁部に輪積み痕を残す。脚部は裾広がりとなる。	体部外ハケメのちヘラミガキ内ヘラミガキ脚部外タテ方向のハケ内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
8	土師器 台付片口	口径11.8 底径 8.4 器高12.6	台付きの片口鉢で、口縁部に輪積み痕を残す。脚部は裾広がりとなる。	口縁部外ハケメのちナデ 体部内外ミガキ、脚部外タテ方向のハケ内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
9	土師器 甕	口径11.2 残存 5.7	口縁部は外傾し、輪積み痕を残す。	口縁部外指圧、胴部外タテ方向のハケ、内ヘラケズリのちミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
10	土師器 甕	口径15.5 残存 9.8	口縁部は外反し、内稜となる。輪積み痕を残す。	口縁部内外ヨコナデ頸部外タテ方向のハケメ胴部外ヘラケズリ内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着
11	土師器 甕	底部 7.0 残存 6.9	底部は平底であるが、わずかに突出する。	胴部外タテのハケメ残すのちヘラケズリ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着 底部破片
12	土師器 甕	口径21.8 残存10.0	口縁部は外反し、端部は面をなす。	口縁部外ヨコナデ内木口ナデ、頸部外指圧、胴部外ミガキ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着
13	土師器 甕	口径17.0 復底 7.5 器高35.4	口縁部は外反し輪積み痕を残す。胴部は中位に最大径を有し平底に続く。	口縁内ハケ目のちミガキ外指ナデ胴内ヘラナデミガキ外ハケ目ミガキ底部ヘラケズリ	砂粒を多含む石英少量含む	酸化炎 良好 外面に黒斑あり	淡褐色 橙褐色 混合	床着
14	土師器 壺	口径16.6 残存 7.0	口縁部は外反し先端を折り返される。	口縁部内外ヨコナデ頸部外ハケメのちナデ内ミガキ	石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 口縁部破片
15	土師器 台付甕 脚部	底径 8.1 残存 6.0	脚部は外傾し、端部は面をなす。	胴部外ヘラケズリのちナデ 内ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
16	土師器 甑	口径18.5 底径 4.8 器高11.6	口縁部は折り返され、体部は外傾する。径の小さい底部は単孔を有す。	口縁部内外ナデ 胴部内外ミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着



第371図　27号住居址出土遺物(2)



第372図　36号住居址



第373図　36号住居址出土遺物

36号住居址（第372・373図　図版95　表29）

位置　f－34・35グリッド／形態　隅丸方形／主軸方向　N－45°－W／規模　拡張前5.18m×4.62m（南北×東西）拡張後・6.58m×5.76m（南北×東西）／壁高　53cm～56cm。／壁溝　拡張前・北側と西側の一部に検出。幅13cm～16cm、深さ3cm～5cm。北側のものは東側へ繋がり、西側のものは南側の壁溝へ繋がると考えられるが、貼り床を剝がして調査した結果、顕著でなかった。拡張後・全周する。幅8cm～16cm、深さ5cm～7cm。拡張前の検出状況から、北側と西側の拡張と考えられる。／床　褐色砂質土に掘り込まれる。硬質化された部分は2カ所検出している。1つめは主柱穴間線（P1～P4）を中心に北はP13・P14・P4を避けるかのようにP11付近まで延びる。南はP21の周辺まで延びる。2つめは拡張前の壁溝に接するように検出している。P3・P6に近接してそれぞれ間仕切り溝が検出している。内側のものが拡張前のものと考えられる。内側の間仕切り溝・長さ1.17m、上幅14cm、下幅8cm、深さ6cm、外側の間仕切り溝・長さ1.02m、上幅17cm、下幅12cm、深さ15cm。／柱穴　22本。P5とP6が拡張前の主柱穴に相当すると考えられる。P1～P4が拡張後の主柱穴に相当すると考えられる。

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
長径cm	13	13	17	13	14	20	14	21	28	13	24	24	29	24	10	19	37	28	28	39	55	30
短径cm	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	32	—	—	—	—	—
深さcm	61	62	57	56	14	61	27	20	24	18	17	18	20	35	60	13	7	68	68	4	58	68

※P2、P20は柱痕の検出あり。P2・径18cm、P20・径13cmを計る。

炉　径39cm、深さ4cm、平面形は円形、断面形は皿状を呈する。地床炉である。／貯蔵穴　3基検出。貯蔵穴A・長軸78cm、短軸59cm、深さ21cm。楕円形を呈する。貯蔵穴B・長軸64cm、短軸49cm、深さ31cm。隅丸長方形を呈する。貯蔵穴C・長軸94cm、短軸49cm、深さ22cm。長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土と黒褐色土基調に4層の合わせて5層に分層される。

遺　物

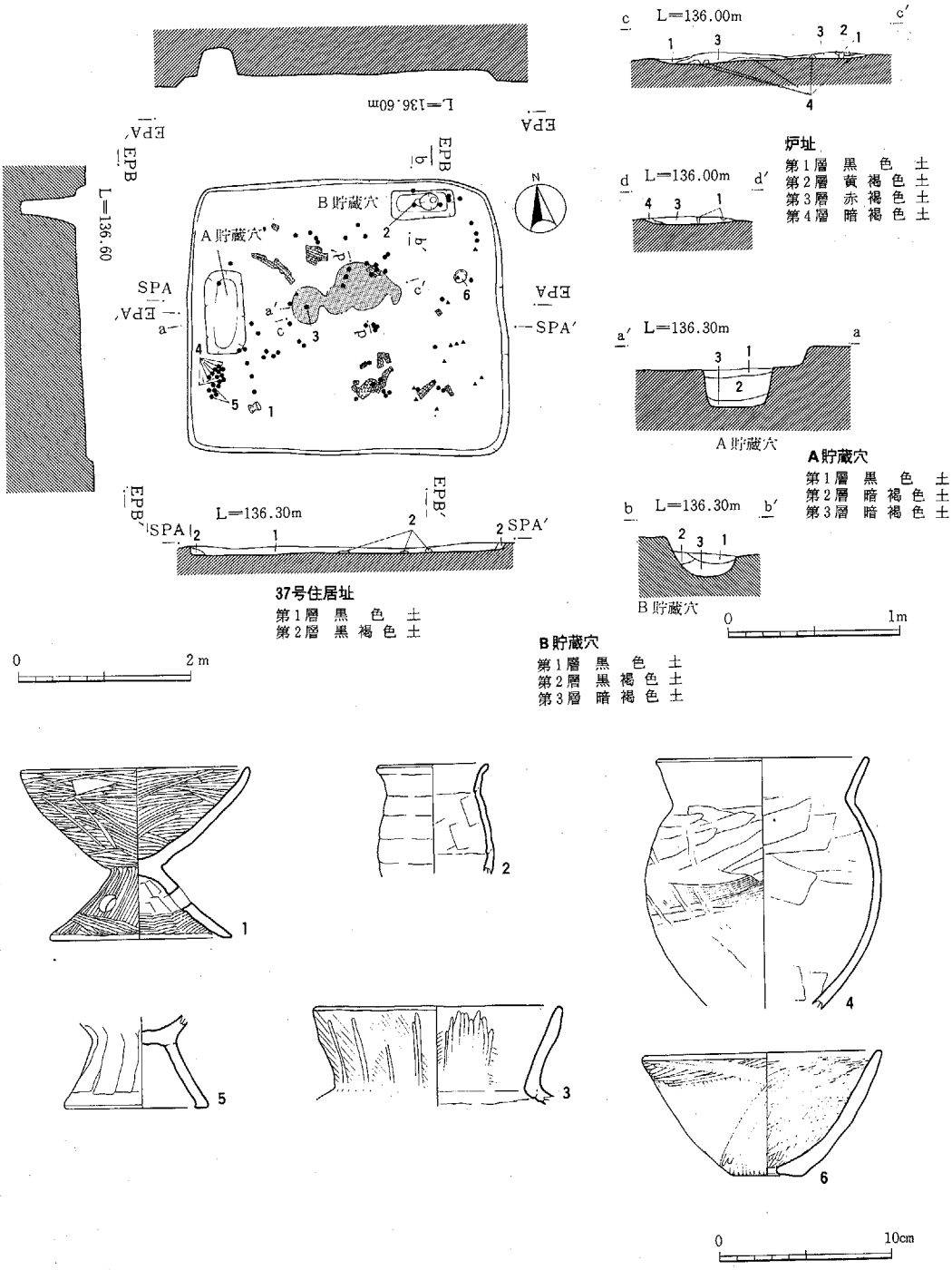
やや西寄りに散らばる傾向を示す。土師器（台付き甕・高坏・器台等）の破片25点出土した。その他、自然礫1点（床着）が出土した。実測遺物点数11点。

備　考

中央部と北西側に炭化材が集中して検出している。検出状況から観察して焼失家屋の可能性が考えられる。

表29　36号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 高坏	口径10.5 残存 4.3	体部は内反気味に開き、底部は平底となる。	体部外ナデ 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 脚部欠損
2	土師器	口径 残存6.7	容量の深いもので口縁部は内稜となり短い。	口縁部内外ヨコ方向のミガキ、胴部外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中 全体の約$\frac{1}{5}$残存
3	土師器 器台	底径 7.4 残存 2.9	脚部は2段に亘り透かし孔を有する。	脚部外ヘラナデ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	明褐色	覆土中
4	土師器 器台	底径13.3 残存 7.4	受け部は欠損。脚部は裾広がりとなり、2段に亘って透かし孔を有する。	脚部外ヘラケズリ部分的にハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 脚部破片
5	土師器 甕	口径12.4 残存 6.9	口縁部は短く外傾する。	口縁部内木ロナデ外指圧 胴部外内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
6	土師器 底部	底径 5.9 残存 3.4	底部は平底となり、わずかに上げ底となる。	胴部外タテ方向のミガキ 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	灰褐色	床着
7	土師器 底部	底径 3.8 残存 4.5	底部は平底でわずかに上げ底となる。	胴部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着
8	土師器 底部	底径 7.8 残存 1.8	底部は平底となり、わずかに上げ底となる。	胴部外ヘラケズリ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 底部$\frac{2}{3}$残存
9	土師器 甕	口径10.9 残存 5.5	口縁部は「S字形」となるもの。	口縁部内外ナデ、胴部外ハケメ内ハケメのちナデ指圧	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
10	土師器 台付甕	底径 7.4 残存 2.8	脚部は内反気味に開き、端部は面をなす。	脚部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中 脚部破片
11	土師器 甕 ミニチュア	口径 3.5 底径 2.0 器高 4.2	甕形の土製品で底部は突出する。	指ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 完形手づくね



第374図　37号住居址・出土遺物

37号住居址（第374図　図版95・115　表30）

位置　E－33グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　3.42ｍ×2.96ｍ／壁高10cm～13cm／壁溝　検出なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に固く締まっている。／柱穴　1本。径45cm、深さ66cm。貯蔵穴B内より重複して検出。／炉　1基。長軸2.50ｍ、短軸1.12ｍ、深さ9cm。平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。地床炉である。／貯蔵穴2基検出。貯蔵穴A・長軸96cm、短軸47cm、深さ31cm。長方形を呈する。貯蔵穴B・長軸73cm、短軸33cm、深さ23cm。長方形を呈する。

覆土の状況

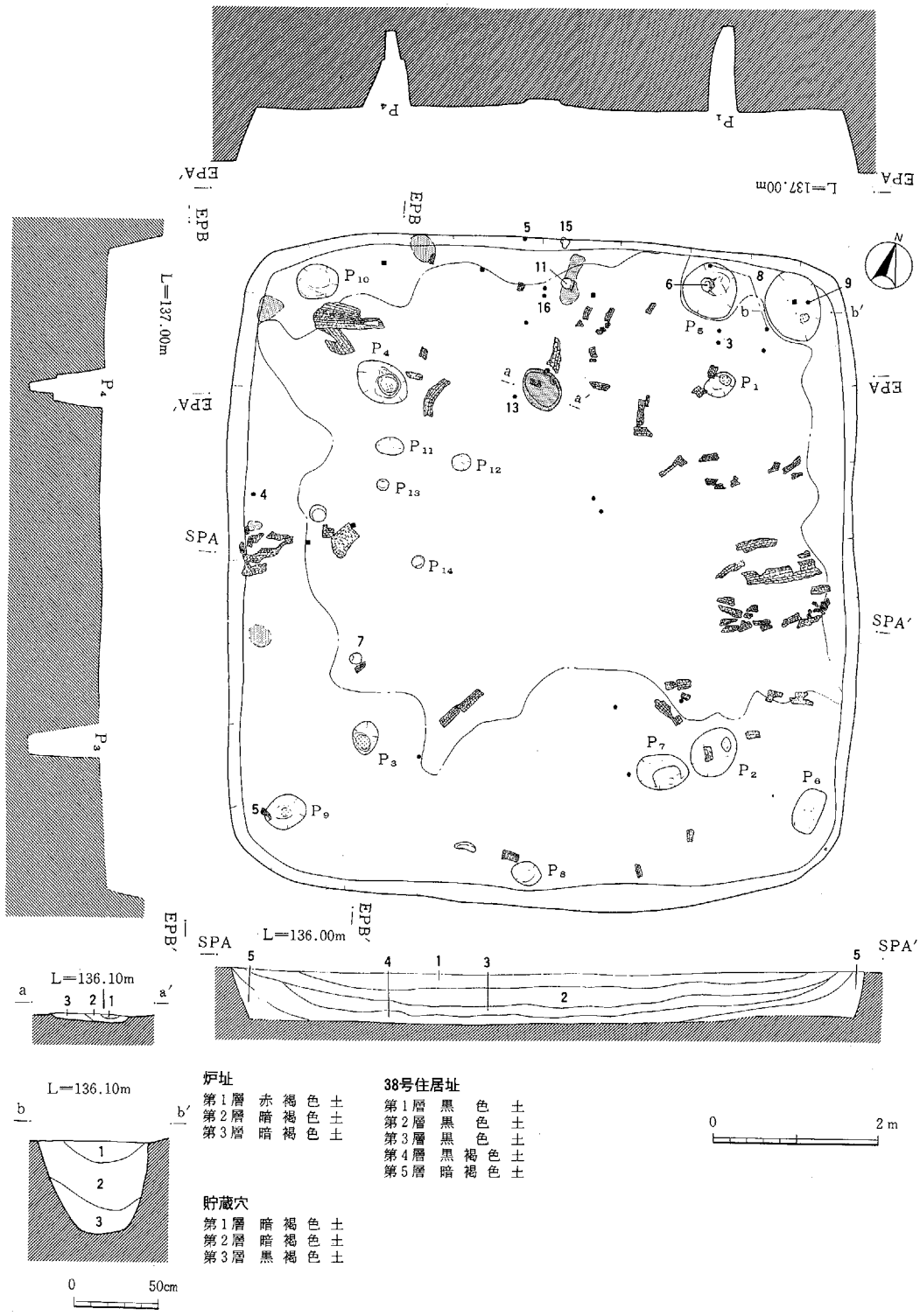
自然堆積である。黒色土と黒褐土の2層に分層される。

遺　物

やや中央寄りに集中する傾向を示す。完形の高坏が1点床着で出土している。土器はほとんどが破片で総点数83点。（床着32点）。その他に縄文時代の所産のものと思われる磨石が1点覆土中より出土している。実測遺物点数6点。

表30　37号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 高坏	口径13.1 底径10.4 器高 9.9	坏部は内反気味に開き、脚部は裾広がりとなり透かし孔を有す。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ケズリのちミガキ 脚部外ミガキ内ナデのちハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
2	土師器 甕 小形	口径 6.4 残存高 6.4	張りの無い胴部より口縁部は開く。胴部は輪積み痕を残す。	外ナデ 内ヘラケズリ	砂粒を含む	酸化焔 良好	淡褐色 (白味が強い)	床着
3	土師器 甕	口径14.4 残存高 5.8	口縁部は「くの字」形に外反し内稜を有す。	内外ハケ目のちナデで部分的に消す	砂粒を含む	酸化焔 良好	明褐色 外面に黒斑あり	覆土中
4	土師器 甕	口径12.2 残存14.3	口縁部は「くの字」形に外反し内稜を有し、胴部上位が張る。	口縁部内外ナデ 胴部外ハケメのヘラケズリ内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着 $\frac{2}{3}$残存
5	土師器 甕	 底径 8.0 残存 5.4	「ハの字」形に広がる脚部は端部で面を成す。	脚部外ハケメ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
6	土師器 甑	口径13.7 底径 3.8 器高 7.1	胴部は内反気味に開き、小径の底部に単孔を有す。	口縁部内外ナデ 胴部外内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着



第375図　38号住居址

38号住居址（第375・376図　図版95・115　表31・32）

位置　c・d－33・34グリッド／形態　方形／主軸方向　N－10°－E／規模　6.81m×6.41m／壁高　47.5cm～62cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴間線上内を中心には北は貯蔵穴とP5・P8付近まで延びる。南はP3・P4を柱穴間線上の外まで及ぶ。床面上には炭化材と焼土の検出がみられる。焼失家屋と考えられる。細かく観察すると炭化材はそれぞれ中心部に向かって一定の方向を示している。／柱穴　14本。P1～P4が主柱穴に相当する。

No.	1	2	3	4	5	6上	下	7上	下	8	9	10	11	12	13	14
長径cm	31	56	41	66	54	57	24	66	22	37	49	51	66	24	14	14
短径cm	－	54	31	48	－	34	16	42	25	29	24	41	－	－	－	－
深さcm	83	83	83	88	46	－	21	－	70	17	27	34	41	27	18	22

※P2、P3、P4、P9には柱痕が検出されている。P2・径14cm、P3・径18cm。P9・径10cmを計る。またP6、P7は2段に亘って掘られている。

／炉　1基検出。P1とP4の柱穴間線上に位置する。長軸56cm、短軸42cm、深さ7cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。あまり焼けていない。地床炉である。／貯蔵穴　北東隅に位置する。長軸88cm、短軸67cm、深さ64cm。楕円形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土3、黒褐色土暗紘色土の合わせて5層に分層される。

遺　物

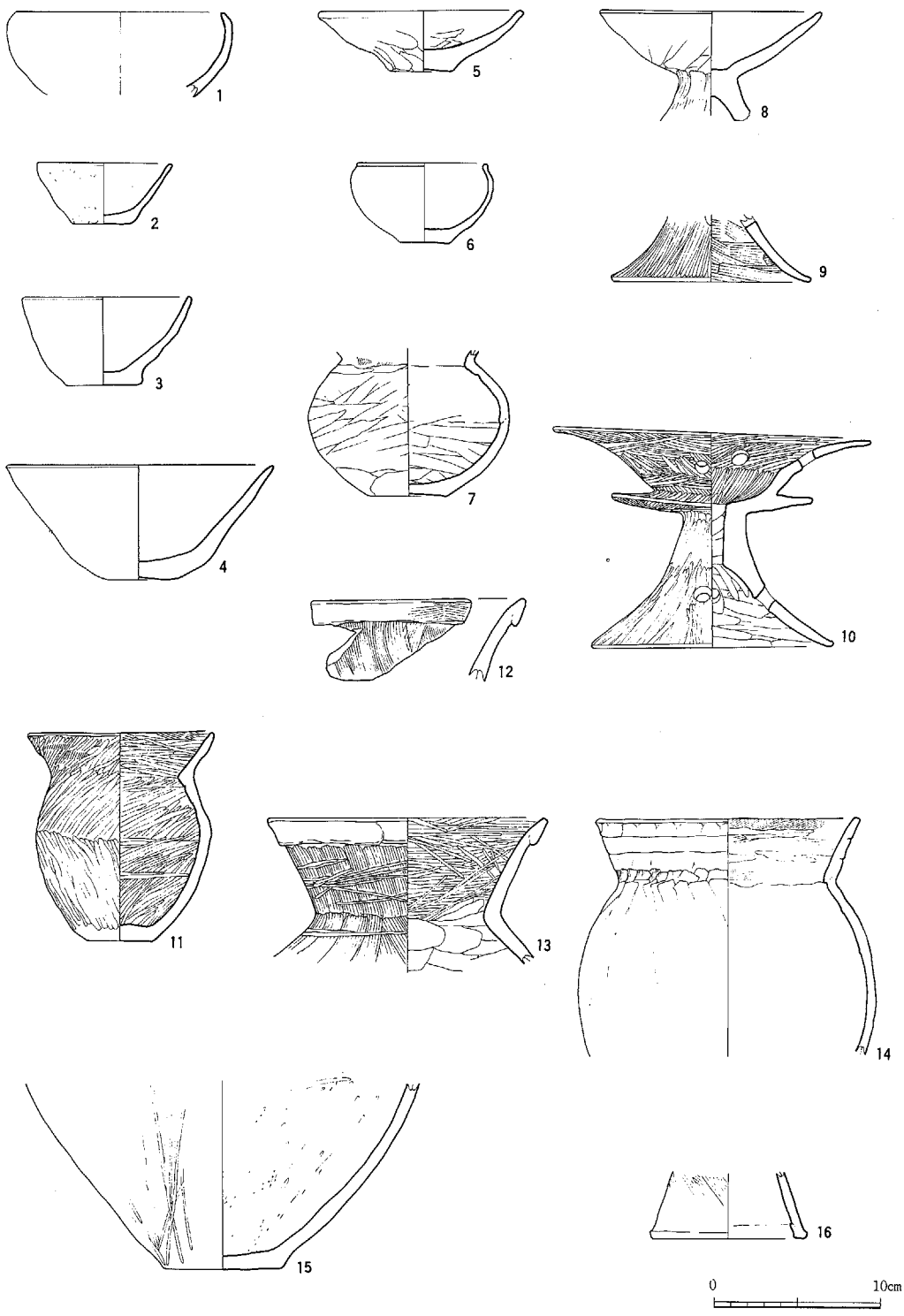
床着で土師器の破片（坏、高坏、甕）が全体に亘って散乱して出土した。その他、土師器高坏、壷の破片が覆土中より出土した。実測遺物点数16点。

表31　38号住居址出土遺物観察表(1)

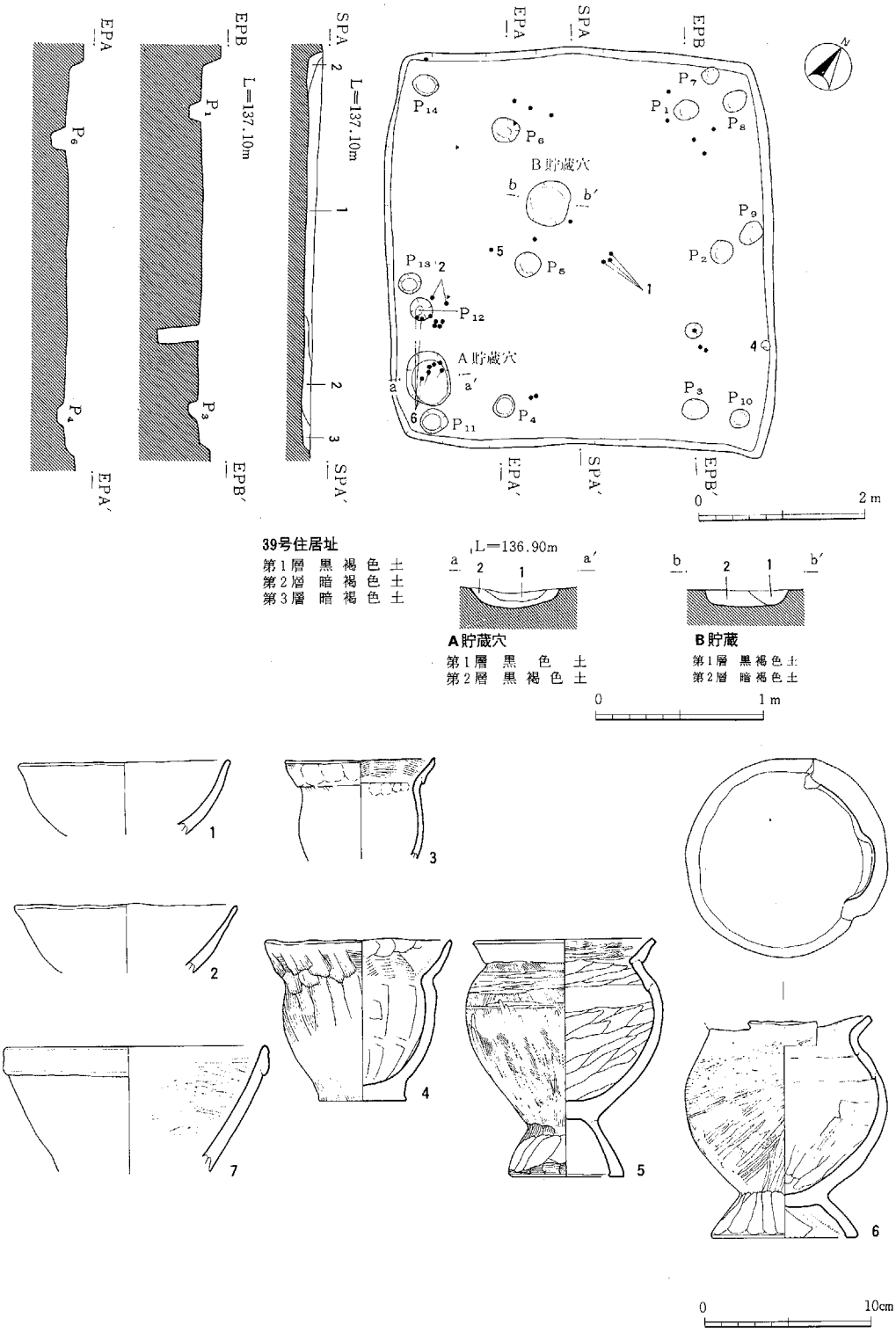
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	復口12.6 残存 5.0	内反気味に開く体部は口縁部でさらに内反する。	口縁部内外ナデ 胴部外指圧のちヘラケズリ、内ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎	暗赤褐色	覆土中
2	土師器 坏	口径 8.0 底径 3.5 器高 3.5	体部は外傾し、底部は平底となる。	体部外ヘラミガキ 外ナデのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
3	土師器 坏	口径 9.8 底径 4.3 器高 5.3	体部は外傾し、底部は平底となりやや突出する。	口縁部内ハケメのちヘラミガキ 外ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	床着
4	土師器 坏	復口15.8 底径 4.5 器高 6.8	体部は外傾し、底部は平底となるが、やや上げ底気味になる。	体部内外ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着
5	土師器 坏	復口12.3 底径 3.5 器高 3.5	体部は外傾し、底部は平底となりやや突出する。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着

表32　38号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
6	土師器 坏	復口 7.8 底径 3.0 器高 4.7	内反気味に開く体部は口縁部でさらに内反し、底部は突出する平底となる	体部外ヘラケズリのちヘラミガキ 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡橙褐色	床着
7	土師器	底径 4.5 残存 8.8	口縁部は内稜を有し、胴部は偏形で底部は上げ底となる。	頸部外ハケメのちナデ 胴部外ナデのちハケメ風ヘラナデのちケズリ 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
8	土師器 高坏	口径 1.2 残存 6.5	坏部は内反気味に浅く開き、脚部は裾広がりとなる。	口縁部内外ナデ、体部外ヘラケズリ胴部外タテ方向のハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
9	土師器 高坏	底径11.5 器高 3.8	脚部は裾広がりとなり、透かし孔を有す。	脚部外ミガキ 内ヨコ方向のハケメ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	床着
10	土師器 器台	口径19.0 底径14.0 器高12.7	受け部の下に鍔状の突帯を有し、脚部は裾広がりとなり透かし孔を有す。	体部内外ミガキ 脚部外ミガキ内ナデのちヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
11	土師器 甕	口径11.0 底径 4.0 器高12.4	口縁部は「くの字」状に開き内稜する。胴部は上位が張り、平底となる。	口縁部内外共にハケメのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着
12	土師器 壷	口径15.8 (復元) 残存高 5.0	口縁部は折り返される。	口縁部内外ハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 口縁部破片
13	土師器 甕	復口16.8 残存 8.5	口縁部は折り返され、「くの字」状に外傾する。	口～頸部外タテ方向のハケメ部分的にミガキ、内ヘラケズリのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
14	土師器 甕	復口15.7 残存14.0	口縁部は輪積み痕を残し外傾する。	口縁部内ハケメのちミガキ外指圧、頸～胴部外ハケメのちヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
15	土師器 甕	底径 6.7 残存11.0	胴部下端が狭まり平底となるもの。	胴部外木ロナデツケのちヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
16	土師器 台付甕	底径 9.4 残存 4.0	脚部 ハの字状に開く	脚部外ハケメのちナデ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡橙褐色	床着 脚部破片



第376図　38号住居址出土遺物



第377図　39号住居址・出土遺物

39号住居址（第377図　図版95　表33）

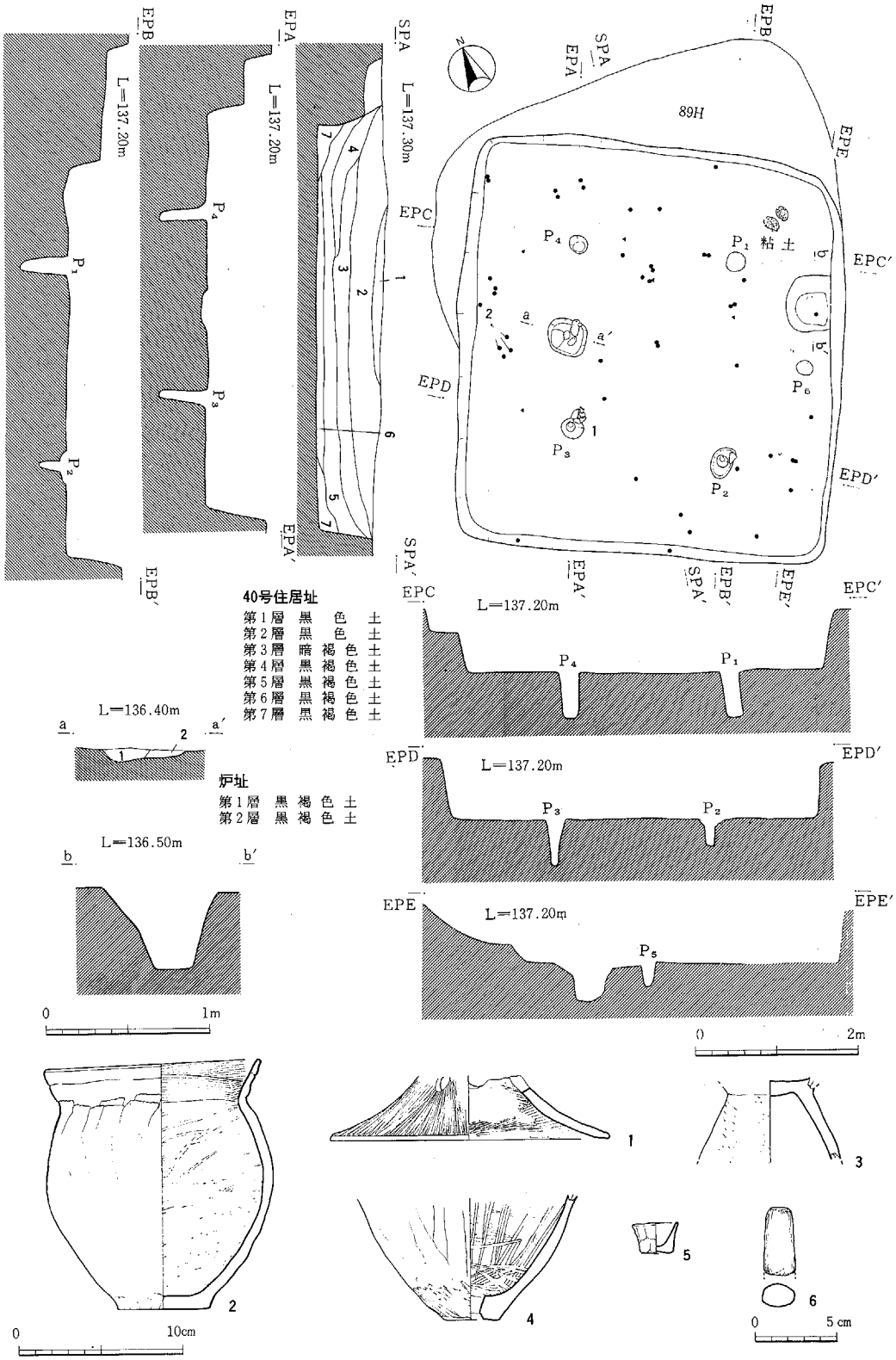
位置　c－39グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－W／規模　4.48m×4.10m。／壁高　14.5cm～16cm。／壁溝　なし。／床　全体に面をなしているが、特に硬質化された部分はみられない。／柱穴　14本。P1～P4が主柱穴に相当すると考えられる。P1・径28cm、深さ16cm。P2・径27cm、深さ10cm。P3・径31cm、深さ8cm。P4・径32cm、深さ18cm。P5・径21cm、深さ13cm。P6・径29cm、深さ10cm。P7・径31cm、深さ44cm。P8・径26cm、深さ18cm。P9・径22cm、深さ7cm。P10・径24cm、深さ47cm。P11・径26cm、深さ16cm。P12・径29cm、深さ17cm。P13・径26cm、深さ12cm。P14・径32cm、深さ4cm。／炉　中央部よりやや北西寄りに炉址状の掘り込みが認められる。しかし、焼土の痕跡がないため、断定出来ない。規模は長径55cm、短径49cm、深さ7cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　南東隅に長軸66cm、短軸49cmの隅丸長方形の深さ10cmの浅い掘り込みが検出されている。掘り込みが浅い為、機能的には貯蔵穴と認められにくいが位置と形態から可能性が考えられる。

遺　物

全体に土器片が散乱して出土している。総点数33点。（床着12点。）その他、貯蔵穴状の穴より土器片6点出土している。実測遺物点数7点

表33　39号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	復口12.4 残存 4.2	口縁部は内反気味に開き端部でさらに内反する。	体部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 口縁部$\frac{2}{3}$ 残存
2	土師器 坏	口径13.1 残存 4.0	口縁部は内反気味に開く。	体部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	床着 口縁部$\frac{1}{4}$ 残存
3	土師器 甕	復口 8.9 残存 6.0	口縁部は折り返されるか小型の甕。	口縁部内外ヨコ方向のハケメ頸部外指圧、胴部外ハケメ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
4	土師器 甕	口径11.0 底径 5.0 器高 9.5	口縁部は内反気味に開き、張りの無い胴部より平底となる。	頸部内外ハケメ、胴部外ハケメのちナデ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
5	土師器 台付甕	復口10.7 底径 5.8 器高14.0	口縁部は短く開き、上位に張りを持つ胴部より連続する脚部は丸く納める。	口縁部内ハケメのちミガキ外ナデ胴部外ハケメのちミガキ内ヘラナデツケ	砂粒含む	酸化炎	明褐色	床着 全体の$\frac{2}{3}$ 残存
6	土師器 台付甕	口径12.8 底径 8.0 器高12.9	口縁部は片口を形成し、上位に張りを持つ胴部より連続する脚部は開く。	頸部内外ハケメのちミガキ、胴部外ハケメのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗赤褐色	床着 全体の約$\frac{1}{2}$残存
7	土師器 甑	口径 15.6 残存 7.5	口縁部は折り返され、小径の底部に単孔を有すもの。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外木ロナデツケ内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中



第378図　40号住居址・出土遺物

40号住居址（第378図　図版96・115　表34）

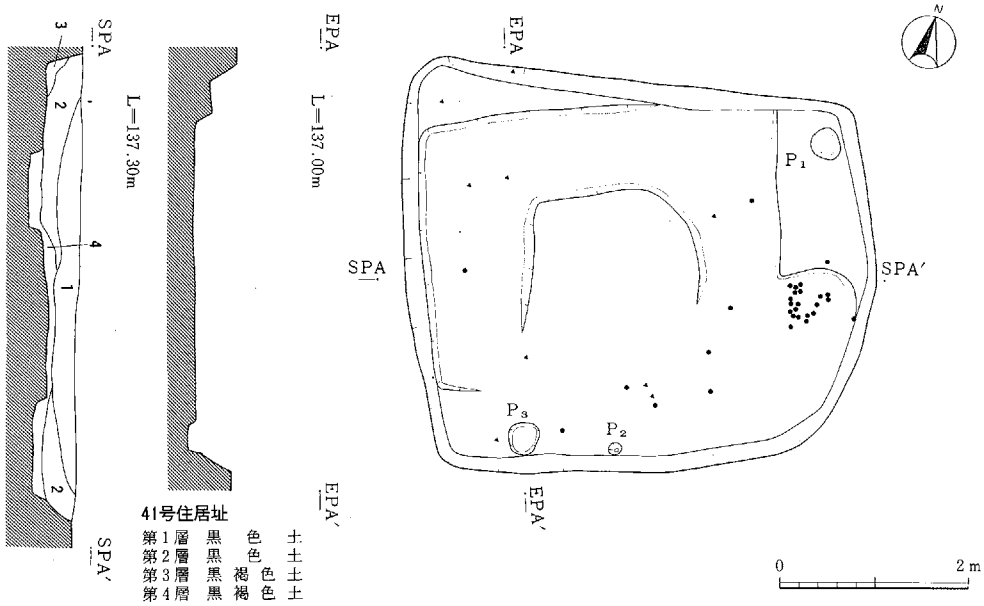
位置　B－27グリッド／形態　方形／主軸方向　N－70°－E／規模　4.44ｍ×4.25ｍ／壁高65.5cm～75.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に面をなしているが、とくに硬質化された部分は認められない。／柱穴　5本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径24cm、深さ59cm、P2・長径37cm、短径28cm、深さ58cm。P3・径22cm、深さ58cm。P4・径28cm、深さ58cm。P5・径20cm、深さ31cm。／炉・カマド　地床炉1基。中央より西寄りに位置する。長径48cm、短径44cm、深さ7cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　北東寄りに位置する。長軸69cm、短軸53cm、深さ47cm。長方形を呈する。小ブロック状の焼土が認められるがあまり使用した痕跡がない。

遺　物

全体に土器片が散乱して出土している。総点数45点。（床着16点）その他、自然礫12点（床着3点、炉址内より6点出土。）また、床面の南東隅寄りに粘土が検出している。実測遺物点数6点

表34　40号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 高坏 脚部 破片	底径17.0 残存 3.7	受け部は短く内反し、脚部は裾広がりとなる。透かし孔を有す。	脚部外タテのミガキ 内ヨコのミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 脚部破片 先端一部 欠損
2	土師器 甕	口径13.2 底径 5.5 器高15.0	短く外傾する口縁部は輪積み痕を残し中位に張りを持つ胴部は平底となる	頸部外ハケメ、胴部外ナデツケ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 全体の$\frac{3}{4}$ 残存
3	土師器 台付甕	残存 4.8	脚部は丸く納めるもの。	脚部外ハケメのちナデ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中 脚部$\frac{2}{3}$残存
4	土師器 甑	底径 3.3 残存 7.5	胴部は丸く納め底部に単孔を有す。	胴部外ヘラケズリ風木ロナデツケのちヘラミガキ、内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中 胴部下半 のみ残存
5	土師器 手づくね	口径 2.8 底径 2.0 器高 1.8	口縁～体部は外傾し、底部は平底となる。	指ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 口縁部若干欠損はぼ完形
6	砥石 破片	長さ 4.2 幅 1.7 厚さ 1.4	棒状に研磨した物である。用途不明。	棒状を呈する 全体に亘り使用される	——	—	—	覆土中 破片



第379図　41号住居址

41号住居址（第379図　図版33・96）

位置　Z・A－21・22グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.40×4.03m／壁高　42cm～46cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。中央部と南側と北側の一部が地山でその周囲をコの字状に黒色土の貼り床で整地している。全体に面をなしているが、とくに硬質化された部分は認められない。／柱穴状のものが3本検出。P1・径29cm、深さ8cm。P2・径29cm、深さ7cm。P3・径37cm、深さ20cm。深さはいずれも浅い。／炉・カマド　なし。／貯蔵穴　なし。

遺　物

全体に土器片が散乱して出土している。総点数29点(床着8点)その他、自然礫9点(床着4点)

42号住居址（第380図　図版96・115　表35）

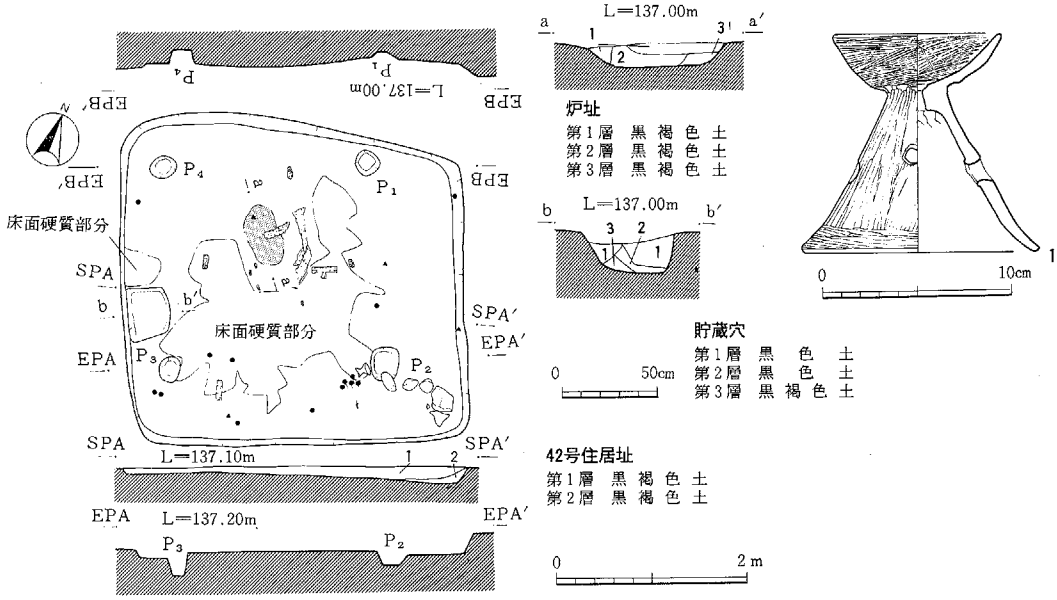
位置　Z－21グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　3.20m×3.12m／壁高　4cm～14cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質化した部分は炉址の周囲をコの字状に囲むように主柱穴線上内南寄りの部分と貯蔵穴の北側の一部に認められる。／柱穴・4本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径28cm、深さ7cm。P2・長径37cm、深さ10cm。P3・径27cm、深さ12cm。P4・径28cm、深さ15cm。深さは10cm前後と浅い。／炉・カマド　地床炉1基。中央よりやや北寄りに位置する。長径64cm、短軸34cm、深さ12cm平面は楕円形を呈する。断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　西壁中央よりやや南寄りに位置する。長軸54cm、短軸44cm、深さ22cm。長方形を呈する。

遺　物

全体に土器片が散乱して出土している。P２付近より完形に近い器台１点が、床着で出土している。総点数15点。（床着14点）その他、自然礫４点（床着２点）。床面のほぼ中央部、炉址付近とP３付近に炭化材が検出している。実測遺物点数１点

備　考

南東隅に人為的に組まれたと考えられる組石が検出している。内側が焼けていて、炉としての性格が考えられるが床面が焼けていないため、断定できなかった。



第380図　42号住居址・出土遺物

表35　42号住居址出土遺物観察表

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 器台	口径 8.6 底径12.0 器高11.5	脚部は大きく裾広がりとなるもので、透かし孔を有す。	体部内外ミガキ 脚部外ミガキ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着

45号住居址（第381図）

位置　Y－31グリッド／形態　方形／主軸方向　N－90°－E／規模　2.21ｍ×1.82ｍ／壁高45cm～48cm。/壁溝　なし。／床　全体に面をなしているが、特に硬質部分はみられない。／柱穴　なし。／炉　なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

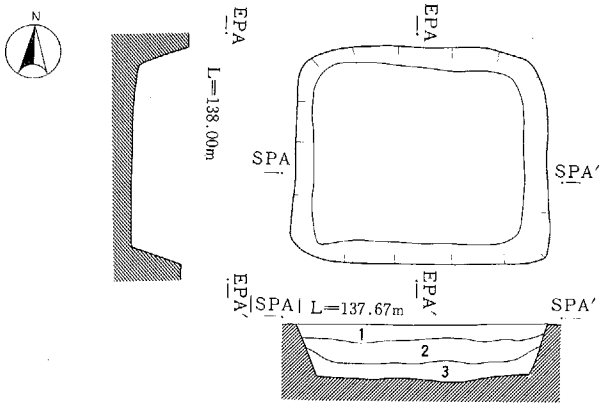
自然堆積である。黒褐色土と暗褐色土２層の３層に分層される。

遺　物　なし。

備　考

覆土の状況と形態から古墳時代の所産ものと考えられるため本時代にいれた。また、炉址が

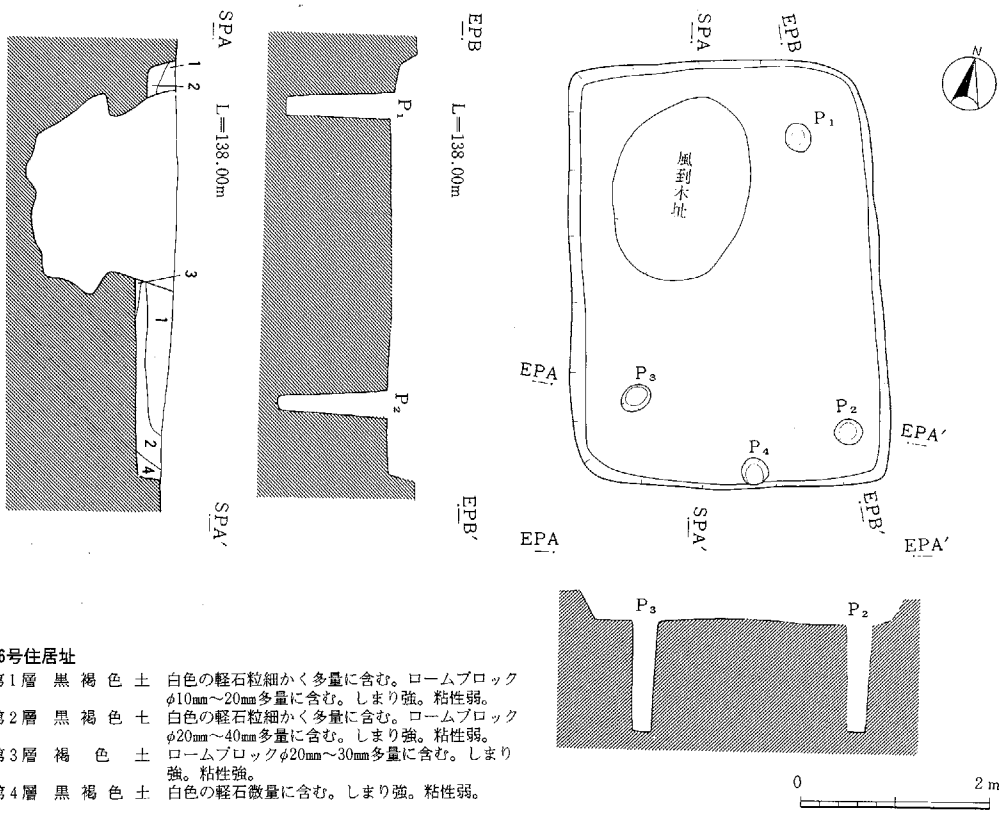
ないために倉庫のような性格が考えられる。従って、本址は住居址とは考え難いが当該期の住居址の形態から可能性が考えられるため住居址として取り扱った。周辺の遺跡の類例では荒砥前原遺跡、荒砥二之堰でみられる。



45号住居址

第1層　黒　色　土　(縄文の覆土と色調異なる)白色の軽石(F．P)を多量に含む。しまり弱。粘性弱。
第2層　暗　褐　色　土　褐色砂質土ブロック状φ10㎜～30㎜多量に含む。しまり強。粘性弱。
第3層　暗　褐　色　土　褐色砂質土ブロック状φ20㎜～50㎜多量に含む。ロームブロックφ40㎜～50㎜少量含む。しまり強。粘性弱。

第381図　45号住居址



46号住居址

第1層　黒 褐 色 土　白色の軽石粒細かく多量に含む。ロームブロックφ10㎜～20㎜多量に含む。しまり強。粘性弱。
第2層　黒 褐 色 土　白色の軽石粒細かく多量に含む。ロームブロックφ20㎜～40㎜多量に含む。しまり強。粘性弱。
第3層　褐　色　土　ロームブロックφ20㎜～30㎜多量に含む。しまり強。粘性強。
第4層　黒 褐 色 土　白色の軽石微量に含む。しまり強。粘性弱。

第382図　46号住居址

46号住居址（第382図　図版96）

位置　Y－30グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－20°－W／規模　4.88ｍ×2.67ｍ／壁高　18.5cm～26cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に締まりがあり硬質である。／柱穴・４本。Ｐ１～Ｐ３が主柱穴に相当するものと考えられる。Ｐ１・径27cm、深さ114cm。Ｐ２・径28cm、深さ112cm。Ｐ３・径29cm、深さ113cm。Ｐ４・径29cm、深さ115cm。深さは113cm前後と深い。／炉・カマド　なし。／貯蔵穴　なし。

遺　物

覆土中に土師の細片が若干量出土。

備　考

234号土坑（風倒木址）に切られる。主柱穴の残り一本と炉址は234号土坑の位置に存在した可能性が考えられる。

47号住居址（第383・384図　図版35・96・97・115　表36・37）

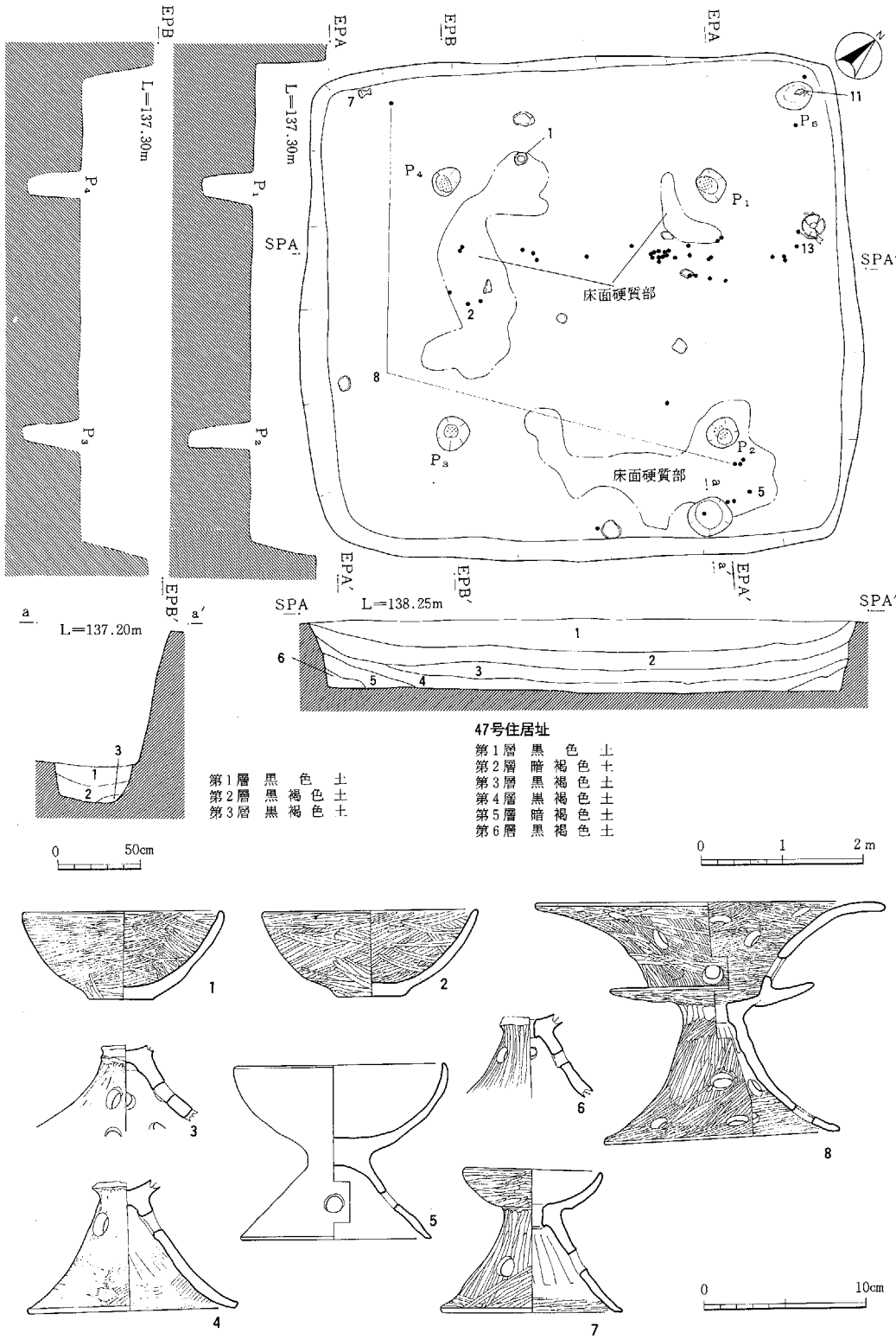
位置　W－25グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.98ｍ×5.19ｍ／壁高79～90cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は全体に締まりがあり硬質である。／柱穴　６本。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当するものと考えられる。Ｐ１・柱痕の検出あり。径18cmを計る。掘り方径39cm、深さ64cm。Ｐ２・柱痕の検出あり。径17cmを計る。掘り方径37cm、深さ72cm。Ｐ３・柱痕の検出あり。径14cmを計る。掘り方39cm、深さ69cm。Ｐ４・柱痕の検出あり。径17cm、掘り方径32cm。深さ63cm。Ｐ５・径44cm、深さ58cm。Ｐ６・長径51cm、短径44cm、深さ22cm。／炉・カマド　なし。／貯蔵穴　なし。

遺　物

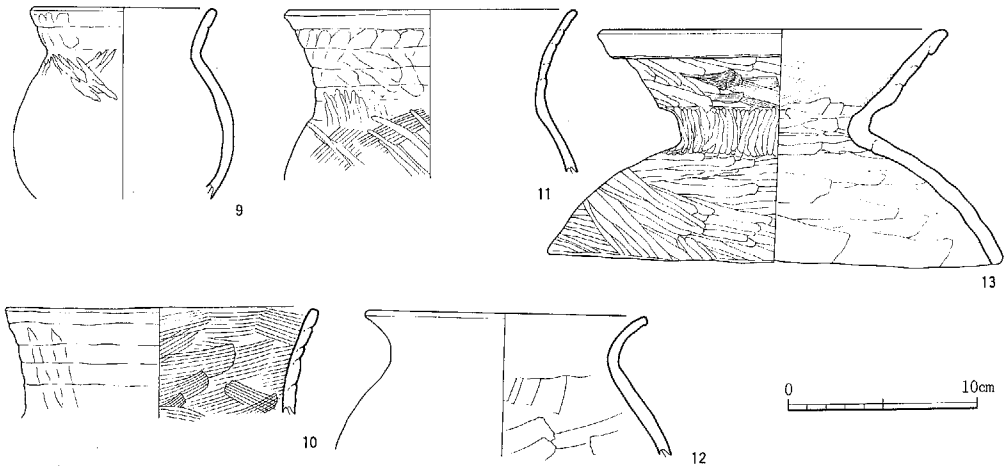
全体に散乱しているが、Ｐ１付近に集中する傾向が見られる。総点数　土師器破片52点。（床着18点）、砥石１点（床着）。その他自然礫11点。実測遺物点数13点。

表36　47号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 埦	口径12.1 底径 3.3 器高 5.3	口縁～体部は内反気味に開き、平底となる。	体部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 口縁一部欠損 $\frac{3}{4}$残存
2	土師器 埦	口径13.0 底径 3.8 器高 5.2	口縁～体部は内反気味に開き、平底となりやや突出する。	体部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 全体の $\frac{1}{3}$残存
3	土師器 高坏	残存 5.6	坏部との接点は小径となり、多段にわたり透かし孔を有す。	脚部外ミガキ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 脚台破片
4	土師器 高坏	復底12.4 残存 7.8	脚部は裾広がりとなり、透かし孔を有す。	脚部外ハケメのちヨコ方向のミガキ内ケズリのちヨコ方向のハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 脚台破片



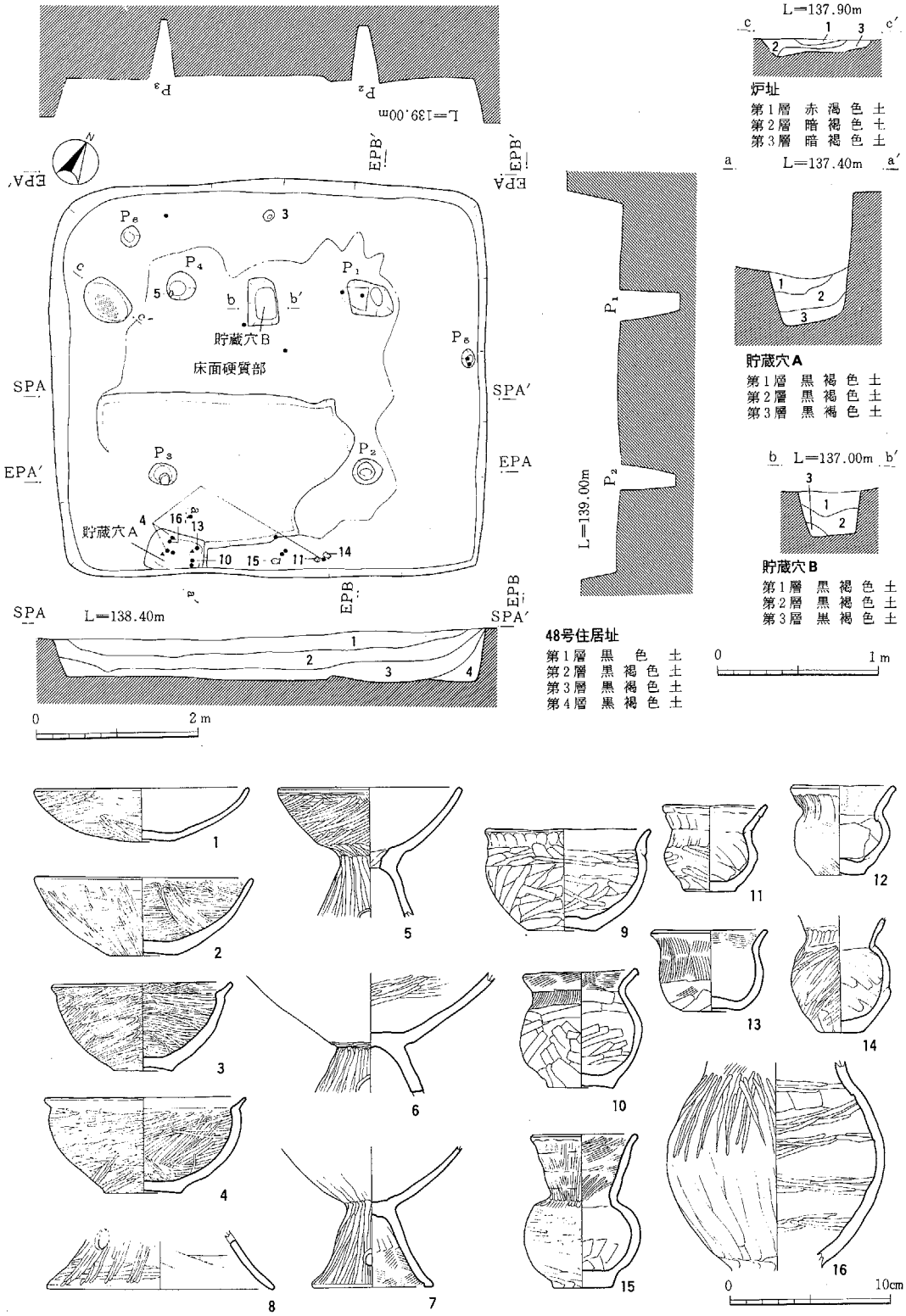
第383図　47号住居址・出土遺物(1)



第384図　47号住居址出土遺物(2)

表37　47号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
5	土師器 高坏	口径12.8 底径11.3 器高10.6	坏部は内反気味に開き、脚部は「ハの字」形に開く。透かし孔を有す。	体部内外ミガキ 脚部外ミガキ内ケズリのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 全体の$\frac{3}{4}$残存
6	土師器 高坏	残存5.2	脚部は裾広がりとなり、透かし孔を有す。	体部内外ミガキ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 器台
7	土師器 高坏	口径 8.4 底径10.5 器高 8.6	受け部は浅く内反気味のもとで、脚部は裾広がりとなり透かし孔を有す。	体部内外ミガキ 脚部外ヨコ方向のミガキ 内ナデのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 完形
8	土師器 高坏	口径21.0 底径14.4 器高14.4	受け部下に鍔状突帯を付け、脚部は裾広がりとなる。受～脚部透かし孔有	体部内ミガキ外ハケメのちミガキ脚部外ケズリのちヨコミガキ内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 全体の$\frac{2}{3}$残存
9	土師器 甕	口径 9.5 残存10.1	口縁部は輪積み痕を残し外反し、胴部は球形となる。	胴部外ヘラケズリのちヘラナデのちミガキ内ヘラナデのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着
10	土師器 甕	口径16.0 残存 5.9	口縁部は輪積み痕を残し直立気味に外反する。	口～胴部外指圧 内ヨコ方向のハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
11	土師器 甕	口径12.8 残存 8.9	口縁部は輪積みを残し外反する。	口縁部内ヘラナデ外指圧内ヘラナデ、胴部外ハケメのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着
12	土師器 甕	口径14.6 残存 7.4	口縁部は外反する。	口縁部内外ヘラナデ 胴部外ヘラナデ 〃 内ヘラナデツケ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
13	土師器 甕	口径17.8 残存12.3	有段口縁は先端で折り返され突帯を付ける。胴部は球形となる。器台か。	口縁部内木ロナデ外ナデ頸部外ハケメのちナデツケ胴部外ヘラミガキのちヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 胴部上半 $\frac{3}{4}$残存



第385図　48号住居址・出土遺物

48号住居址（第385図　図版97・115　表38・39）

位置　U・V－23グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.06ｍ×4.64ｍ／壁高　56.5cm～72cm。/壁溝　なし。／床　褐色砂質土に掘り込まれる。硬質化された部分は主柱穴を結ぶ線の内側の中央部より北側半分と、P１～P３の主柱穴を結ぶ線の外側まで及ぶ。また、中央より南西部分は約７cmの深さで一段低くなっている。／柱穴　６本。P１～P４が主柱穴に相当する。P１・径34cm、深さ74cm。P２・径30cm、深さ68cm。P３・長径44cm、短径31cm、深さ68cm、P４・径36cm、深さ75cm。P５・長径24cm、短径18cm、深さ63cm。P６・径24cm、深さ23cm。／炉・カマド　地床炉１基。北西隅寄りに位置する。長径64cm、短径48cm、深さ６cm。平面形楕円形、断面形は皿状を呈する。／貯蔵穴　南東隅寄り（貯蔵穴A）とP１とP４の主柱穴を結ぶ線の（貯蔵穴B）の２基検出。貯蔵穴A・長軸68cm、短軸44cm、深さ34cm。長方形を呈する。貯蔵穴B・長軸58cm、短軸34cm、深さ30cm。長方形を呈する。

遺　物

貯蔵穴内付近と北側に集中している。南壁中央寄りに　甕形土器が床着で３点出土。総点数23点。（床着４点、貯蔵穴内７点）、自然礫６点（床着１点、貯蔵穴内２点、柱穴内P３・１点、P４・４点）。実測遺物点数16点。

表38　48号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径13.0 底径 3.0 器高 3.2	浅い体部は内反気味に開き、底部は上げ底気味となる。	体部内ミガキ 外ヘラケズリのちナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
2	土師器 坏	口径13.2 底径 4.0 器高 4.8	体部は内反気味に開き、底部は上げ底気味となる。	体部外ヘラケズリのちミガキ 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
3	土師器 坏	口径10.9 底径 3.5 器高 5.3	口縁部は短く内稜を付けて外傾し、底部は上げ底となるもの。	体部内外ミガキ 外ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中 完形
4	土師器 坏	口径12.3 底径 4.6 器高 5.9	口縁部は短く内稜を付けて外傾し、底部は上げ底となるもの。	口縁部内外ナデ 胴部内外ミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴 $\frac{3}{4}$の残存
5	土師器 高坏	口径11.3 残存 8.2	受け部は内反気味に開き下部に緩かい稜を付け、脚部は透かし孔を有する。	体部外ハケメのちミガキ内ミガキ 脚部内ヘラケズリのちナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	ピット？
6	土師器 高坏	残存 7.6	受け部は内反気味に開き下部に緩かい稜を付け、脚部は透かし孔を有する。	体部内外ミガキ 脚部外ミガキ、内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
7	土師器 高坏	底径 7.2 残存 8.7	受け部は内反気味に開き、脚部は端部で面を成し透かし孔を有する。	体部外ミガキ、脚部外ミガキ内ハケメのちナデ	砂粒含む	酸化炎	褐色	覆土中 脚部$\frac{1}{2}$欠損

表39　48号住居址出土遺物観察表(2)

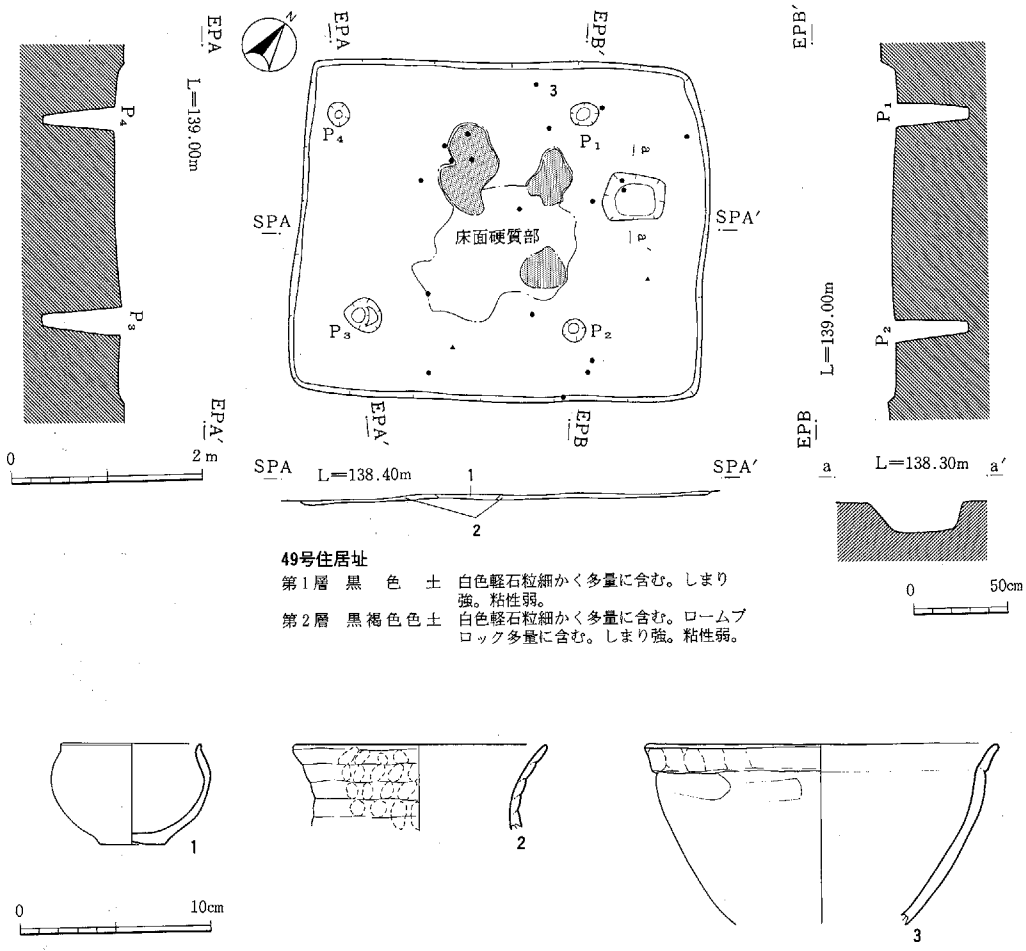
番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
8	土師器 高坏	底径13.6 残存 3.1	脚部は裾広がりとなり、透かし孔を有す。	脚部外ヘラミガキ 〃 内ハケメ	砂粒石粒含む	酸化炎	褐色	覆土中
9	土師器 坏	口径10.1 底径 3.8 器高 6.3	口縁部は短く緩い内稜を付けて外傾し、底部は上げ底となるもの。	胴部外ハケメのちヘラナデのちヘラミガキ内ハケメのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 $\frac{1}{2}$の残存
10	土師器 甕	口径 6.9 底径 4.0 器高 7.1	口縁部は短く外傾し、端部は面を成す。底部は平坦でやや上げ底となる。	頸部外タテ方向のハケメのちナデ、胴部内外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	貯蔵穴
11	土師器	口径 6.4 底径 3.2 器高 5.4	口縁部は短く外傾し、端部は面を成す。底部は平坦となる。	口縁部外指圧、頸部外ハケメのちナデ、胴部外ミガキ内ナデ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
12	土師器	口径 6.4 底径 3.0 器高 5.5	口縁部は短く外傾し、端部は面を成す。底部は平坦でやや上げ底となる。	頸部外タテ方向のハケメ 胴部外ハケメ 〃 内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	暗褐色	覆土中
13	土師器 甕	口径 6.8 底径 3.6 器高 5.0	口縁部は短く外傾し、胴部は張りが無く、底部は平たく上げ底となる。	頸部外タテ方向のハケメ 内ハケメ 胴部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	貯蔵穴
14	土師器 甕	底径 2.9 残存 7.2	口縁部は短く外傾し、胴部は張り、底部は平坦となる。	胴部外ヘラケズリのちミガキ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
15	土師器 甕	口径 6.2 底径 3.6 器高 9.4	口縁部は長く外傾し、胴部は突出し平坦となる。	胴部外ハケメのちミガキ 〃 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
16	土師器 甕	残存12.7	胴部は最大径を中位にとりほぼ球形を呈する。	胴部外ハケメのちヘラケズリのちミガキ内ケズリのちミガキ	石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴

49号住居址（第386図　図版97　表40）

位置　V－23グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.22m×3.44m。／壁高　11cm～36cm／壁溝　検出なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は中央部に認められる。さらに、主柱穴間線上内に火を受け焼けた部分が3箇所認められる。／柱穴　4本。P1・径26cm、深さ75cm。P2・径25cm、深さ76cm。P3・長径39cm、短径32cm、深さ81cm。P4・径25cm、深さ74cm。／炉・カマド　なし。床面が3箇所焼けた部分が検出されているが掘り込みが認められず、地床炉としての機能は考えられない。／貯蔵穴　東壁寄りに位置する。長軸63cm、短軸48cm、深さ10cm。不整長方形を呈する。

遺　物

全体に散乱した状態で出土している。総点数・土師器18点（床着破片15点、貯蔵穴2点）、自然礫2点（床着）。実測遺物点数3点。



49号住居址

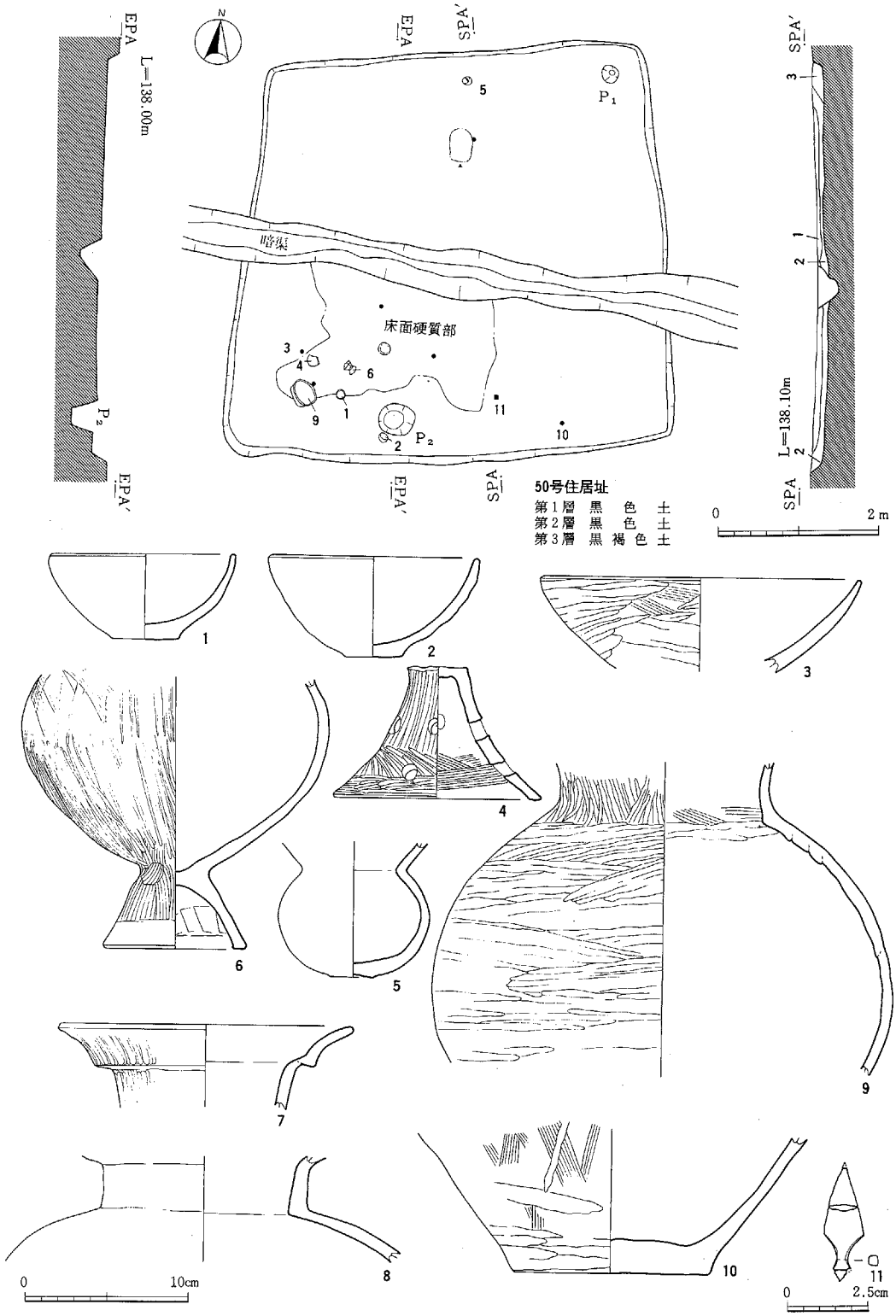
第1層 黒 色 土 白色軽石粒細かく多量に含む。しまり強。粘性弱。

第2層 黒褐色色土 白色軽石粒細かく多量に含む。ロームブロック多量に含む。しまり強。粘性弱。

第386図　49号住居址・出土遺物

表40　49号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 甕	口径 7.2 底径 3.4 器高 5.3	口縁部は内反気味に開く。	胴部内外ヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡黒褐色	覆土中
2	土師器 甕	口径13.4 残存 4.6	体部は内反しながら開き口縁部で短く外反気味になる。底部は上げ底。	口縁部内ヨコナデ 〃　外指圧	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
3	土師器 甕	口径19.2 残存 9.6	外反する口縁部は輪積み・押圧痕を残す。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラミガキ 〃　内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着



第387図　50号住居址・出土遺物

50号住居址（第387図　図版97・115　表41・42）

位置　Ⅴ－21グリッド／形態　方形／主軸方向　N－70°－E／規模　4.97ｍ×4.93ｍ。／壁高　14.5cm～18.5cm／壁溝　検出なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。ほぼ中央部を近・現代の暗渠によって南北に分断される。硬質部分は中央部より北側の一部分と中央部より南西部のＰ１の手前まで及ぶ。中央部は一部暗渠に切られていたため、全体の範囲は不明。／柱穴　２本。Ｐ１・径46cm、深さ31cm。Ｐ２・径21cm、深さ25cm。／炉　なし。暗渠により破壊された可能性があると考えられる。／貯蔵穴　なし。

遺　物

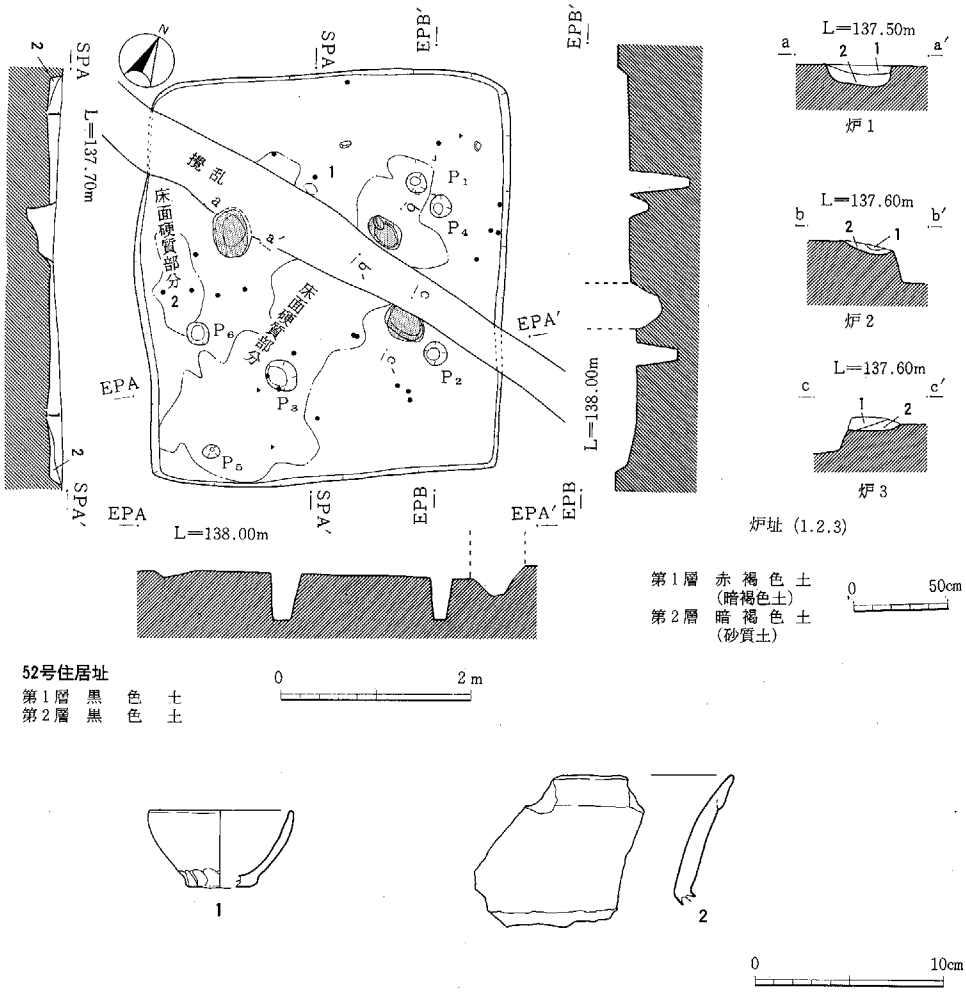
南西隅寄りに集中して検出されている。総点数・土師器12点（床着５点）、鉄鏃１点（床面より２cm高い位置で検出。）その他自然礫２点（床着）。実測遺物点数11点。

表41　50号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径11.2 底径 4.0 器高 5.3	体部は内反しながら開き、底部は突出する。	口縁部内外ミガキ	石粒含む	酸化炎	褐色	床着
2	土師器 坏	口径13.0 底径 3.5 器高 6.2	体部は内反しながら開き、底部は突出する。	口縁部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
3	土師器 高坏	口径19.7 残存 5.8	体部は内反しながら大きく開く。	体部外ハケメのちヘラナデツケ内雑なミガキ	石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着 受部破片
4	土師器 高坏 脚部	底径 5.6 器高 4.2	脚部は裾広がりとなり、２段に亘って透かし孔を有す。	内上半ナデ。下半がヨコ方向のハケ目 外上半タテ方向のミガキ 下半ヨコ方向のミガキ	石英、砂粒を含む 外黒斑あり	酸化炎	橙褐色	床着
5	土師器 甕	底径 2.8 残存 8.5	瓠形のもので胴部は偏球形となる。底部は上げ底になる。	胴部外ミガキ 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡黄褐色	床着
6	土師器 台付甕	底径 8.6 残存17.0	胴部上位が張るもので、脚部は直線的に開き、端部は面を成す。	胴部外ハケメのちミガキ 脚部外タテ方向のハケメのちヨコナデ内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
7	土師器 壷	口径17.8 残存 5.2	複合口縁部は外稜を付けて外反する。	口縁部外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 口縁部破片
8	土師器 甕	残存 7.3	複合口縁となるもので胴部は球形である。	頸部外ナデ、胴部外ヘラミガキ内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
9	土師器 甕	残存19.0	複合口縁となるもので胴部は球形である。	頸部内外ヘラミガキ胴部外雑なヘラミガキ内ハケメナデのちヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 胴部破片

表42　50号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
10	土師器 甕	底径12.0 残存 8.5	大型の胴部上位が張るもので、底部は平たく納める。	胴部外ハケメのちヘラナデ内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
11	鉄鏃	幅最大 2.4 厚さ(茎部) 0.6 重さ 15.8g 残存 7.0	――	先端部欠損 尖利に調整を行なっている	――	―	―	覆土中



第388図　52号住居址・出土遺物

52号住居址（第388図　表43）

位置　X・Y　22・23グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.58m×3.62m（南北×東西）／壁高　10cm～11cm／壁溝　検出なし。／床　褐色砂質層に掘り込まれる。近・現代の暗渠によって南北に分断される。硬質化された部分は中央部より南端に延びる部分とP1と炉址2の周囲とP6に接する西壁中央寄り部分と北西寄りの一部に認められる。／柱

穴　6本。P1～P3が主柱に相当する。残りの1本は位置的に考えて暗渠により、破壊されたものと考えられる。P1・径24cm、深さ59cm。P2・径24cm、深さ43cm、P3・径34cm、深さ52cm、P4・径24cm、深さ20cm。P5・径17cm、深さ57cm。／炉・地床炉　3基。炉址1・長径は暗渠に切られ不明。短径38cm、深さ6cm。断面は皿状を呈する。炉址2・長径43cm、短径28cm、深さ7cm。平面は楕円形。断面は皿状を呈する。炉址3・長径46cm、短径は暗渠に切られ不明。深さ6cm。断面は皿状を呈する。／貯蔵穴なし。

遺　物

土師器破片が全体に散乱して出土している。破片点数20点。実測遺物2点。（甕、手づくね）その他自然礫6点、床着とP4の中より出土している。

表43　52号住居址出土遺物観察表

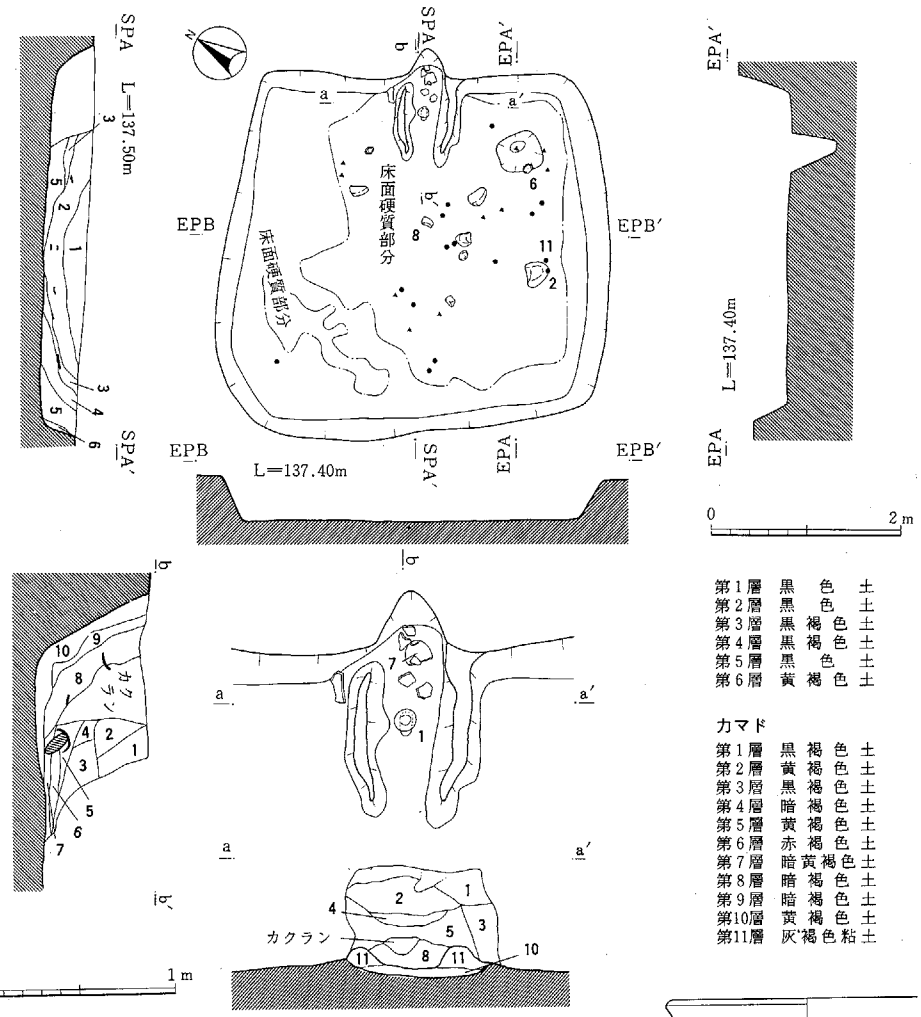
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 埦	復口 7.3 復底 3.6 残存 4.4	体部は内反しながら開き口縁部でさらに内反する。突出する平底を有す。	体部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
2	土師器 甕	残存高 6.4	口縁部は端部で折り返され、外傾する。	折り返し二重口縁 胴部外ナデ 〃 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着

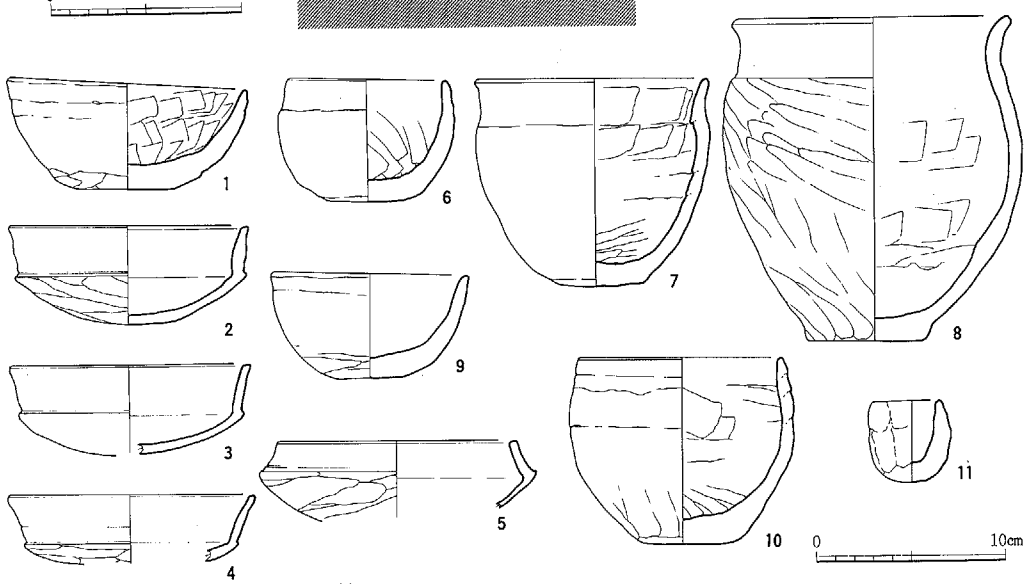
53号住居址（第389図　図版37・38・116　表44）

位置　Y－20グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　3.57m×3.03m（南北×東西）／壁高33cm～48.2cm／壁溝　検出なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質化された部分は中央部を中心にカマドの周囲より、西壁の手前まで延び南は貯蔵穴を囲み南壁の手前まで延びる。北側は西寄りに一部認められる。／柱穴なし。／カマド　東壁中央部に位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を三角形に掘り込んでいる。傾斜は46°を計る。火床部は良く焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。掘り方長軸98cm、短軸76cm、深さ5cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　南東隅に位置する。長軸44cm、短軸42cm、深さ47cm。隅丸方形を呈する。

遺　物

長軸線上より南寄りに集中する傾向を示す。土師器破片点数17点。（床着8点）また、カマドより石製の支脚に坏が伏せられた形で検出されている。さらに、縄文時代の石皿が覆土第1層より検出。流れ込みと考えられる。その他、自然礫が覆土中（第2層）より15点、床着で1点検出されている。実測遺物点数11点。





第389図　53号住居址・出土遺物

表44　53号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径12.5 底径 5.0 器高 5.5	口縁部は内反しながら開き、器肉は厚く底部は平たく納める。	口縁部内ヘラナデ 外指圧痕 体部外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド
2	土師器 坏	口径12.4 底径 3.6 器高 5.2	中位に外稜を付ける須恵器倣の坏である。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
3	土師器 坏	口径12.6 底径4.0 残存 4.6	中位に外稜を付ける須恵器倣の坏である。口縁端部は面を成す。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
4	土師器 坏	口径13.0 残存 3.6	下位に外稜を付ける須恵器模倣の坏である。口縁端部は面を成す。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
5	土師器 坏	口径12.6 残存 4.1	中位に外稜を付ける須恵器模倣の坏である。口縁端部は面を成す。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中 全体の $\frac{1}{2}$残存
6	土師器 埦	口径 8.4 底径 4.2 器高 6.4	口縁部は内反しながら開き、器肉は厚く底部は平たく納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部内外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 完形
7	土師器 甕	口径12.2 底径 4.1 器高10.8	口縁部は短く外傾し底部はやや突出する。	口縁部内外ヨコナデ 胴部内外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	カマド 完形
8	土師器 甕	口径14.8 底径 6.2 器高17.0	胴部は中位が張るもので口縁部は内傾する。底部は平坦となる。	口縁部内外ヨコナデ、胴部外ヘラケズリのちナデ内ヘラナデのちヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 全体の $\frac{3}{4}$残存
9	土師器 埦	口径 5.4 底径 3.5 器高 5.5	口縁部は緩い外稜を付け外反する。底部は平たく納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 口縁一部 欠損ほぼ 完形
10	土師器 埦	口径10.8 底径 4.6 器高 9.8	下位に外稜を付ける須恵器摸倣の坏である。口縁部は面を成す。	口縁部内外ヨコナデ 頸部外指圧痕 体部内外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡赤褐色	覆土中 全体の $\frac{2}{3}$残存
11	土師器 手づくね	口径 3.5 底径 1.6 器高 4.3	手捏で体部は内反しながら口縁部を形成する。	指ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着

54号住居址（第390・391図　図版98・116　表45・46）

位置　D－25グリッド／形態（推定）方形／主軸方向　調査区外に延びる為不明。／規模　東西3.26ｍ×南北不明／壁高　58cm～66cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に固く締まって土間の様である。／柱穴　なし。／炉　なし。／貯蔵穴　なし。

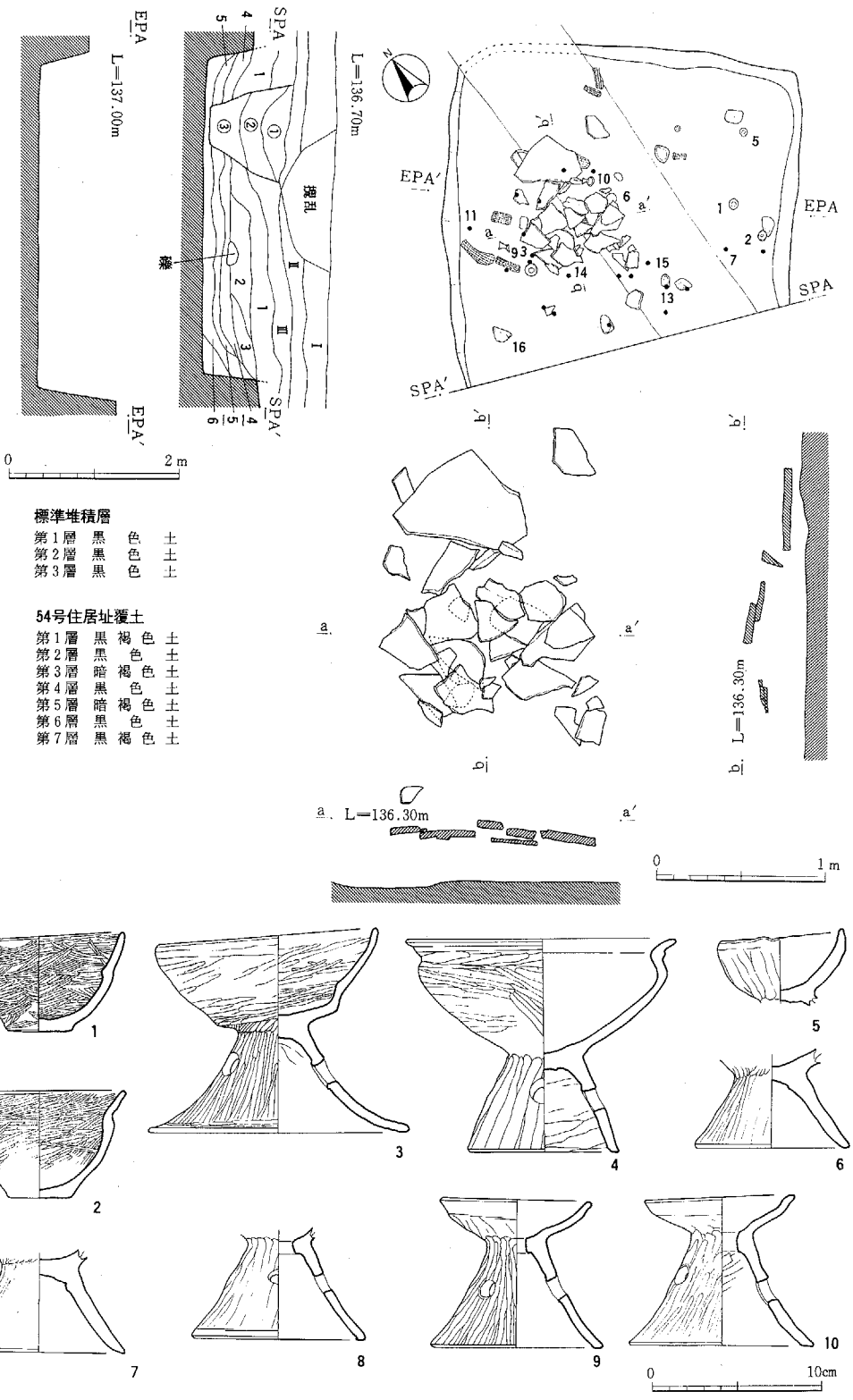
覆土の状況

本址は調査区外に延びている為、標準堆積土層と覆土の状況が合わせて観察でき、3層の標準堆積土層が住居址覆土の上を覆っている事が判明した。覆土は自然堆積である。黒褐色土2層、黒色土3層、暗褐色土2層の合わせて7層に分層される。

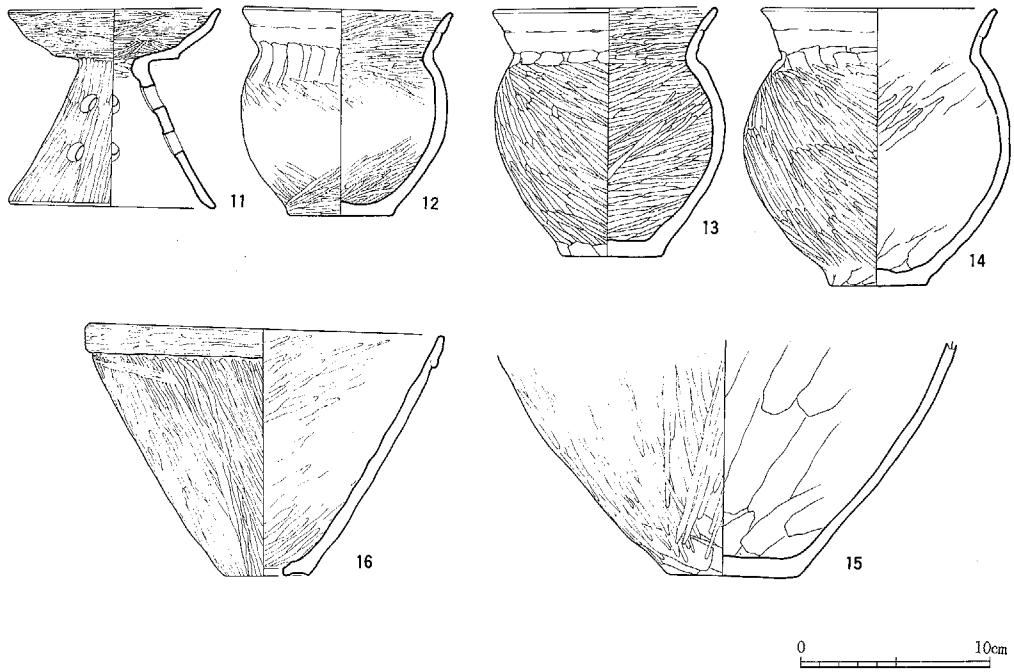
遺　物

全体に亘り散乱している。土師器は破片を含む出土総点数24点のうち床着9点。完形の器台高坏が2点、高坏が1点床着で出土している。その他自然礫が4点床着で出土している。

実測遺物16点。



第390図　54号住居址・出土遺物(1)



第391図　54号住居址出土遺物(2)

備　考

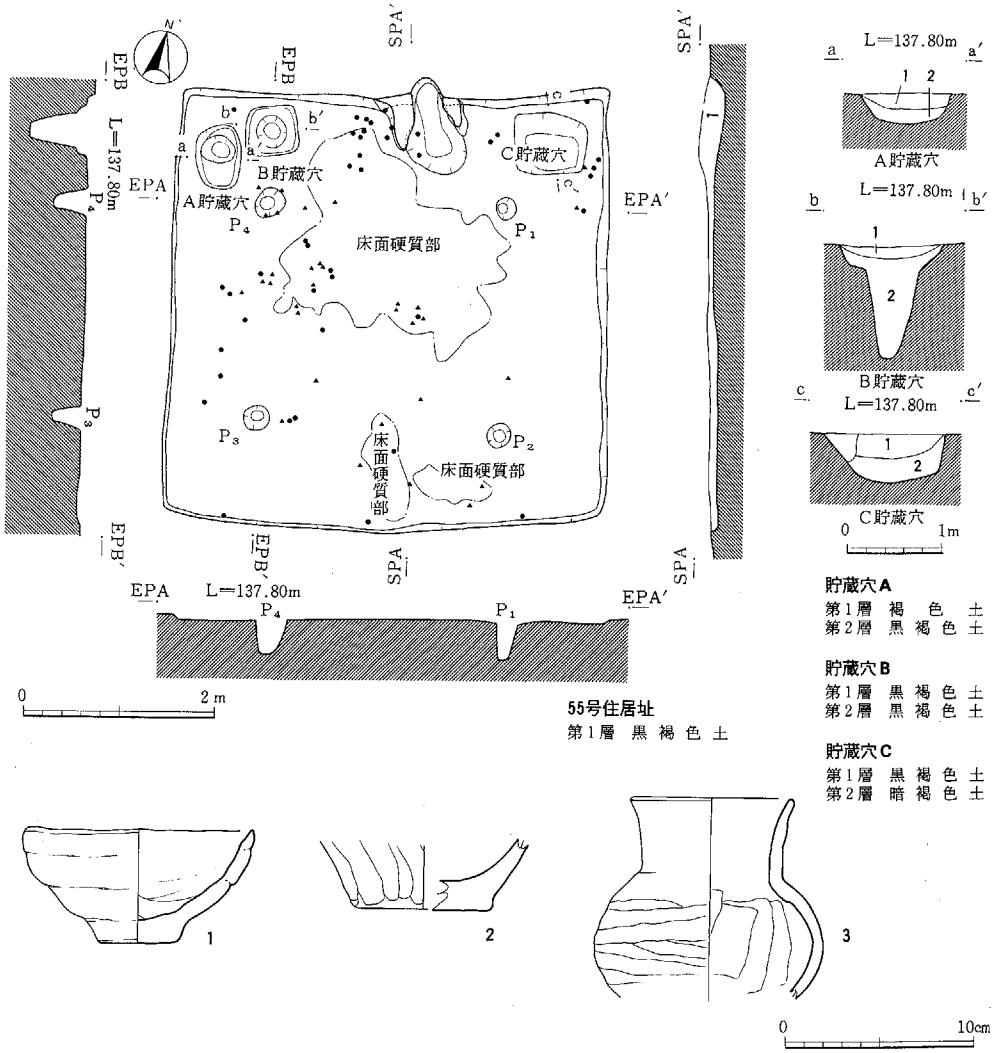
新旧関係は本址の埋没後に構築されている1号溝が一番新しい。1号溝は第Ⅱ層中より住居址覆土第6層中掘り込まれている。その前に覆土2層上面より敷石状の平たい石が集中して検出されている。調査当初、遺構としてとらえたが石の不規則な並びと石の下が締まりのない土層の為、遺構ではなく住居址の埋没過程において他の場所より運ばれて破棄されたものと考られる。また、本址の床下より縄文時代所産の土坑（223号土坑）が検出された。

表45　54号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坩	口径10.1 底径 3.8 器高 5.6	体部は内反しながら開き内稜を付ける。底部は平坦となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ミガキ 内ハケメのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 完形
2	土師器 小形甕	口径 9.8 底径 3.6 器高 6.2	体部は内反しながら開き緩い内稜を付ける。底部は平坦となる。	胴部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 完形

表46　54号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
3	土師器 高坏	口径12.8 底径15.0 器高11.5	坏部は外稜を付けて開き、口縁部でさらに内反する。脚部は裾広がり。	口縁部内外ナデ、体部外内ヘラミガキ、脚部外ミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着
4	土師器 高坏	口径15.7 底径 8.7 器高12.5	坏部はくびれて短い口縁を形成。脚部は開き端部は面を成する透かし孔有	体部外ヘラナデ 脚部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡橙褐色	床着
5	土師器 高坏	口径 7.5 底径 3.0 残存 4.0	坏部は内反気味に開く。	体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	床着 坏部破片
6	土師器 台付甕	底径 9.0 残存 5.6	脚部は短く開く。	脚部外タテ方向のミガキ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 脚部のみ残存
7	土師器 高坏	底径10.0 残存 6.0	脚部は短く開く。	脚部外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
8	土師器 高坏	底径10.6 残存 6.5	脚部は開き端部は面を成す。透かし孔を有す。	脚部外ヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
9	土師器 高坏	口径 8.8 底径 9.9 器高 8.7	受け部は浅く緩い外稜を付けて開く。脚端部は面を成す。透かし孔を有す。	口縁部内外ヨコナデ 脚部外ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡橙褐色	床着
10	土師器 高坏	口径 8.9 底径10.9 器高 8.7	受け部は浅く緩い外稜を付けて開く。脚端部は面を成す。透かし孔を有す。	脚部外ヘラミガキ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
11	土師器 高坏	口径11.0 底径10.3 器高10.4	受け部は浅く緩い外稜を付けて開く。脚端部は面を成す。透かし孔を有す。	体部内外丁寧なミガキ 脚部外ヘラミガキ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着
12	土師器 甕	口径11.0 底径 5.4 器高10.8	口縁部は輪積み痕を残し張りの無い胴部は平底を連続させる。	胴部外ヘラナデツケのちヘラミガキ内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中 $\frac{1}{2}$残存
13	土師器 甕	口径11.6 底径 5.2 器高13.0	口縁部は輪積み痕を残し張りの無い胴部は平底を連続させる。	胴部外ヘラケズリのちヘラミガキ内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
14	土師器 甕	口径13.0 底径 5.0 器高14.6	口縁部は輪積み痕を残し胴部は球形に近く、平底を連続させる。	胴部ヘラケズリのちヘラミガキ 〃 内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
15	土師器 甕	底径 6.9 残存12.4	胴部は上位が張るもので底部は平たく納める。	胴部外ヘラケズリのちミガキ 〃 内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中 胴部下半破片 $\frac{2}{3}$残存
16	土師器 甑	口径18.7 底径 4.3 器高13.0	口縁部は折り返され、底部は小径となり単孔を有す。	体部外丁寧なミガキ 内ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着



第392図　55号住居址・出土遺物

55号住居址（第392図　図版99　表47）

位置　V－19グリッド／形態　方形／主軸方向　N－10°－E／規模　4.47m×4.44m（南北×東西）／壁高　6cm～23.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴間の中央部よりカマド付近にかけた部分と南壁中央寄りに2ヵ所認められる。／柱穴6本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径20cm、深さ26cm、P2・径25cm、深さ33cm、P3・径27cm、深さ21cm、P4・径32cm、深さ26cm、P5・長軸68cm、短軸47cm、深さ12cmの隅丸長方形を呈する掘り込みの中に検出している。径24cm、深さは床面より61cmを計る。P6・長軸54cm、短軸51cm、深さ12cmの方形を呈する掘り込みの中に検出している。径38cm、深さは床面より61cmを計る。／カマド　北壁やや東寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円状に掘り込んでいる。傾斜は66°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。／貯蔵穴　北東壁寄りに位置する。長軸78cm、短軸64cm、深さ25

cmを計る。長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。近・現代の耕作により削平され黒褐色土の単層で検出された。

遺　物

カマド付近と貯蔵穴付近から中央部にかけて点在している。実測遺物点数　3点。

表47　55号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 埦	口径11.8 底径 4.0 器高 5.9	体部は輪積み痕が顕著で内反気味に開き、底部は突出する平底となる。	体部外ナデ、輪積痕 内ヘラケズリのちナデ	砂粒含む	酸化炎	淡黒褐色	床着 $\frac{1}{2}$残存
2	土師器 甕	底径 7.0 残存 3.7	平底の甕	胴部外ヘラケズリ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	暗褐色	貯蔵穴 底部$\frac{1}{2}$ 残存
3	土師器 壷	口径 8.5 残存10.5	口縁部は直立気味の長頸、胴部は偏球形となる。	胴部外ヘラケズリ 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 全体の 約$\frac{1}{4}$残存

56号住居址（第393・394図　図版99・116　表48・49・50）

位置　U－19グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　3.98m×3.97m（南北×東西）／壁高　6cm～27cm／壁溝　なし／床　褐色砂質土に掘り込まれる。硬質化された面は柱穴P1とP2の間より中央にかけた部分である。／柱穴　8本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径22cm、深さ53cm、P2・径24cm、深さ56cm、P3・径29cm、深さ53cm、P4・径42cm、深さ55cm、P5・径44cm、深さ67cm、P6・径48cm、深さ15cm、P7・径28cm、深さ17cmを計る。

／カマド　東壁の中央よりやや東寄りに位置する。煙道部は地山を三角状に掘り込まれている。傾斜は86°を計る。／貯蔵穴　北東隅寄りに位置する。長軸は58cm、短軸56cm、深さ54cm方形を呈する。

覆土の状況

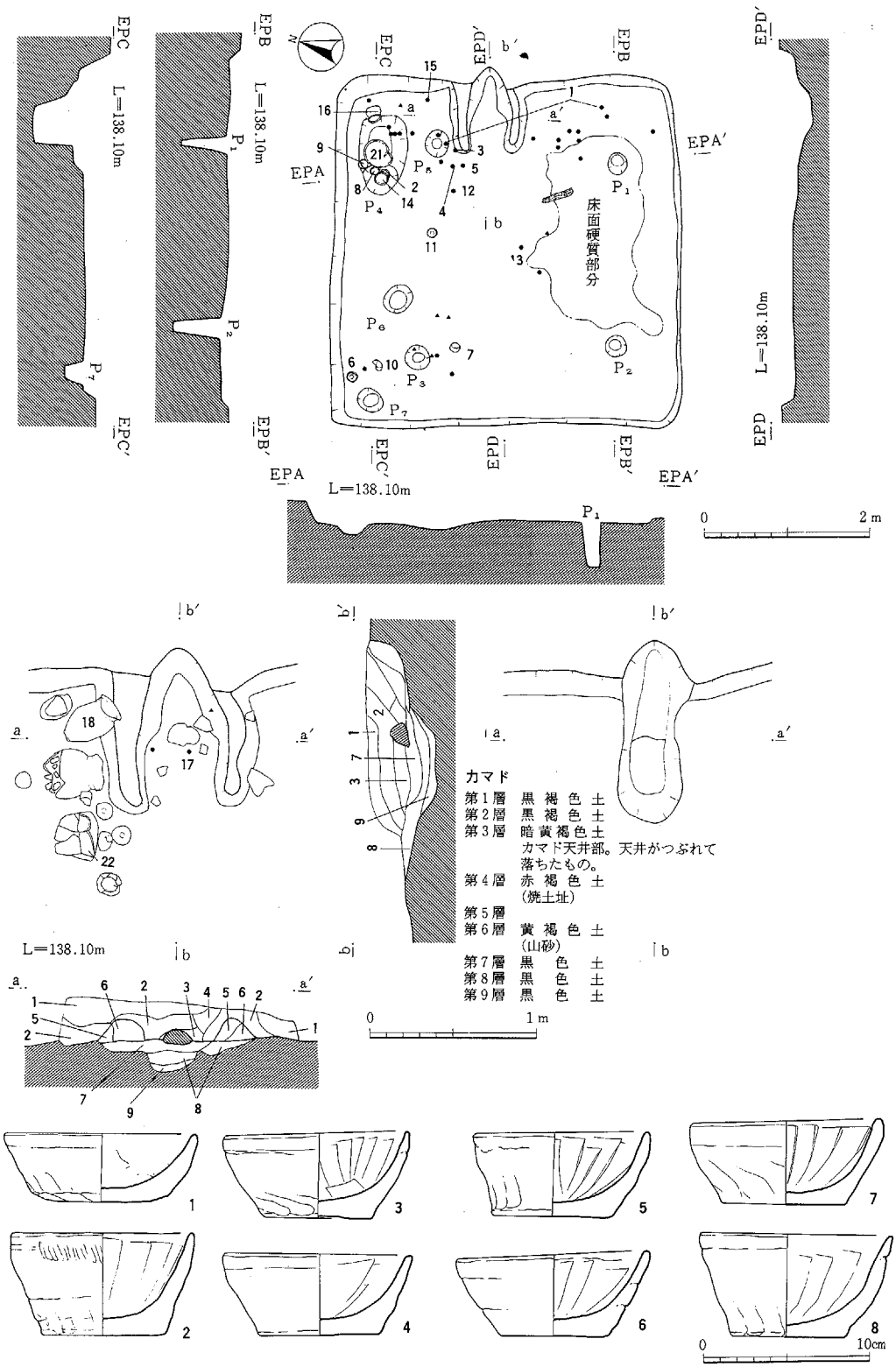
自然堆積である。近・現代の耕作により黒褐色土の単層で検出された。

遺　物

カマド付近と貯蔵穴内と南西隅寄りに集中している。特に、本遺跡では数少ない須恵器の出土が見られる。その他に、自然礫3点、炭化材1点出土している。実測遺物点数22点。

表48　56号住居址出土遺物観察表(1)

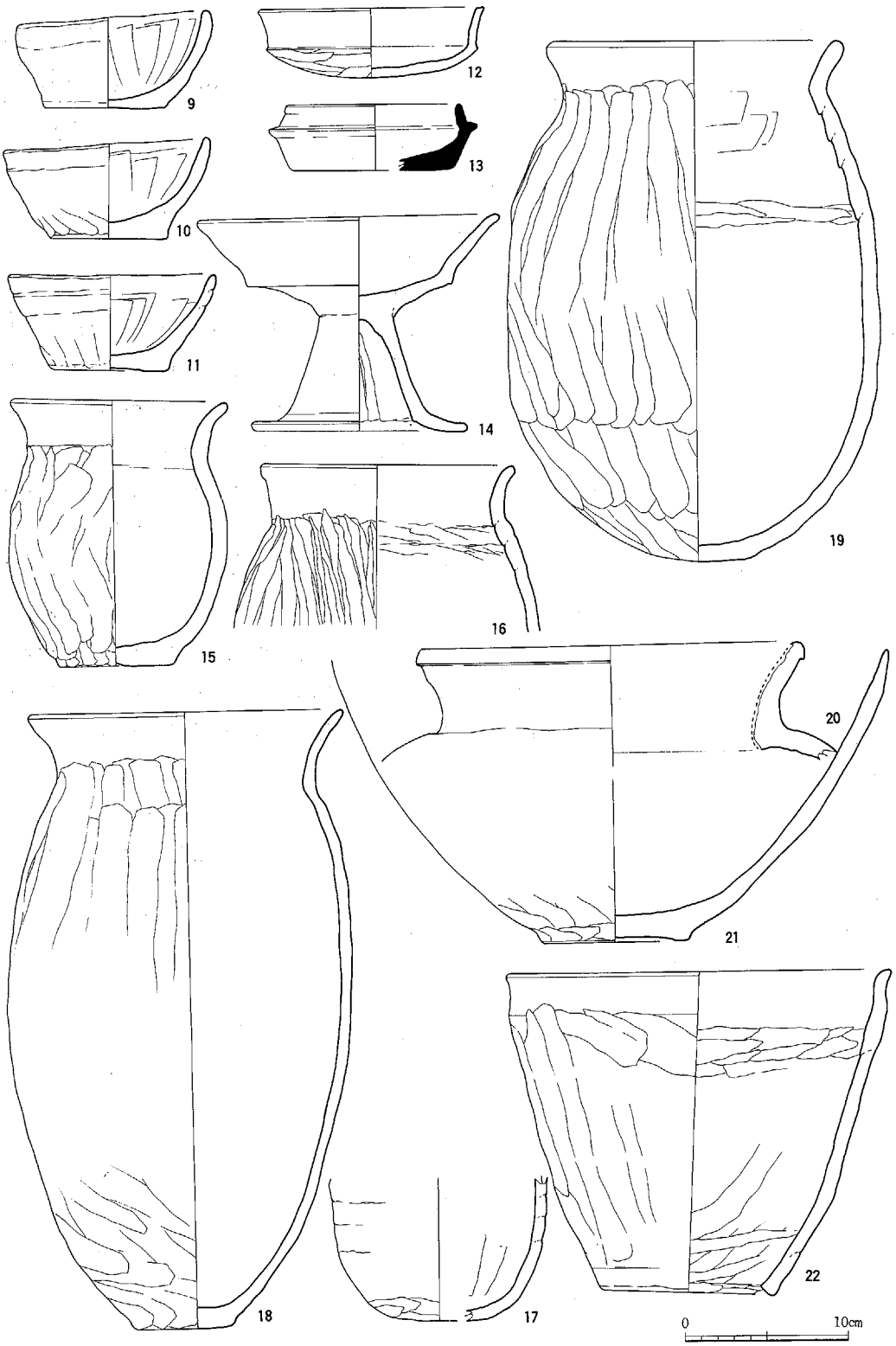
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径10.6 底径 6.0 器高 4.1	体部は内反気味に開き口縁部に続き、底部は体部との境が明瞭でない。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着



第393図　56号住居址・出土遺物(1)

表49　56号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
2	土師器 坏	口径10.8 底径 6.9 器高 6.2	体部は輪積み痕を残し内反気味に開く。底部は平たく納める。	口縁部内外ナデ 体部外輪積痕 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	貯蔵穴
3	土師器 坏	口径11.0 底径 6.5 器高 5.1	体部は輪積み痕を残し内反気味に開く。底部は平たく納める。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
4	土師器 坏	口径11.2 底径 7.0 器高 4.8	体部は輪積み痕を残し内反気味に開く。底部は平たく納める。	口縁部内外ナデ 体部外ナデ 〃 内ヘラナデ	石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
5	土師器 坏	口径10.5 底径 7.0 器高 4.9	体部は輪積み痕を残し内反気味に開く。底部は平たく納める。	口縁部内外ナデ 体部外ナデ、指圧 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
6	土師器 坏	口径11.4 底径 6.4 器高 4.8	体部は輪積み痕を残し内反気味に開く。底部は平たく納める。	口縁部内外ナデ 体部外輪積痕 〃 内ヘラナデ	石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
7	土師器 坏	口径11.2 底径 7.2 器高 5.0	体部は輪積み痕を残し内反気味に開く。底部は平たく納める。	口縁部内外ナデ 体部外ナデ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
8	土師器 坏	復口11.2 底径 7.0 器高 6.2	体部は輪積み痕を残し内反気味に開く。底部は平たく納める。	口縁部内外ナデ 体部外ナデ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	貯蔵穴
9	土師器 坏	口径11.7 底径 7.3 器高 5.5	体部は輪積み痕を残し内反気味に開く。底部は平たく納める。	口縁部内外ナデ 体部外指圧痕 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	貯蔵穴
10	土師器 坏	口径12.4 底径 7.0 器高 5.7	体部は輪積み痕を残し内反気味に開く。底部は平たく納める。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
11	土師器 坏	口径12.5 底径 7.0 器高 5.8	体部は輪積み痕を残し内反気味に開く。底部は平たく納める。	口縁部内外ナデ 体部外指圧痕 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
12	土師器 坏	口径13.5 底径 4.2 器高 7.4	須恵器摸倣の坏で外稜は下位となる。口縁端部は面を成す。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 口縁一部欠損
13	須恵器 坏	復口10.3 復底 9.4 器高 4.0	口縁部は内傾する。体部は外稜を付け底部は平たく納める。	口縁部内外ヨコナデ	砂粒含む	還元炎	灰褐色	床着 破片
14	土師器 高坏	口径18.0 底径13.0 器高13.0	坏部は下位に外稜を有し口縁部は外傾する。脚部はラッパ状に開く。	体部内外木ロナデ 脚部外指ナデ 〃 木ロナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴
15	土師器 甕	口径13.0 底径 7.0 器高16.1	口縁部は直立気味に外反し、張りの無い胴部から突出気味の平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリのちナデ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 口縁一部欠損 $\frac{3}{4}$残存
16	土師器 甕	口径15.3 残存10.0	口縁部は直立気味に外反する。	口縁部内外木ロナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	貯蔵穴
17	土師器 甕	残存 8.7	胴部は輪積み痕を残し、底部は丸く納める。	胴部外輪積痕 ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	暗赤褐色	カマド
18	土師器 甕	口径18.8 底径 5.5 器高37.5	外反する口縁部を有し胴部は長胴化する。底部は突出気味の平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	カマド
19	土師器 甕	口径17.3 底径 5.2 器高31.8	口縁部は短く外傾し、胴部は張り気味で連続する底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ、内ヘラナデ、部分的に輪積痕	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
20	土師器 甕	口径23.0 残存 7.1	口縁部は短く外反し端部は折り返される。胴部は球形に近い。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着 口縁部の約 $\frac{1}{4}$残存



第394図　56号住居址・出土遺物(2)

表50　56号住居址出土遺物観察表(3)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
21	土師器 甕	底径 9.0 残存17.3	胴部は大きく張り底部は突出して上げ底となる。	胴部外ナデツケ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	貯蔵穴 胴部下半破片
22	土師器 甑	口径23.3 底径10.5 器高19.5	口縁部は短く直立気味に外傾する。胴部は丸みをもって開き、単孔を有す。	口縁部内外木ロナデ 胴部外ナデツケのち木ロナデ内ナデツケのちナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	褐色	床着

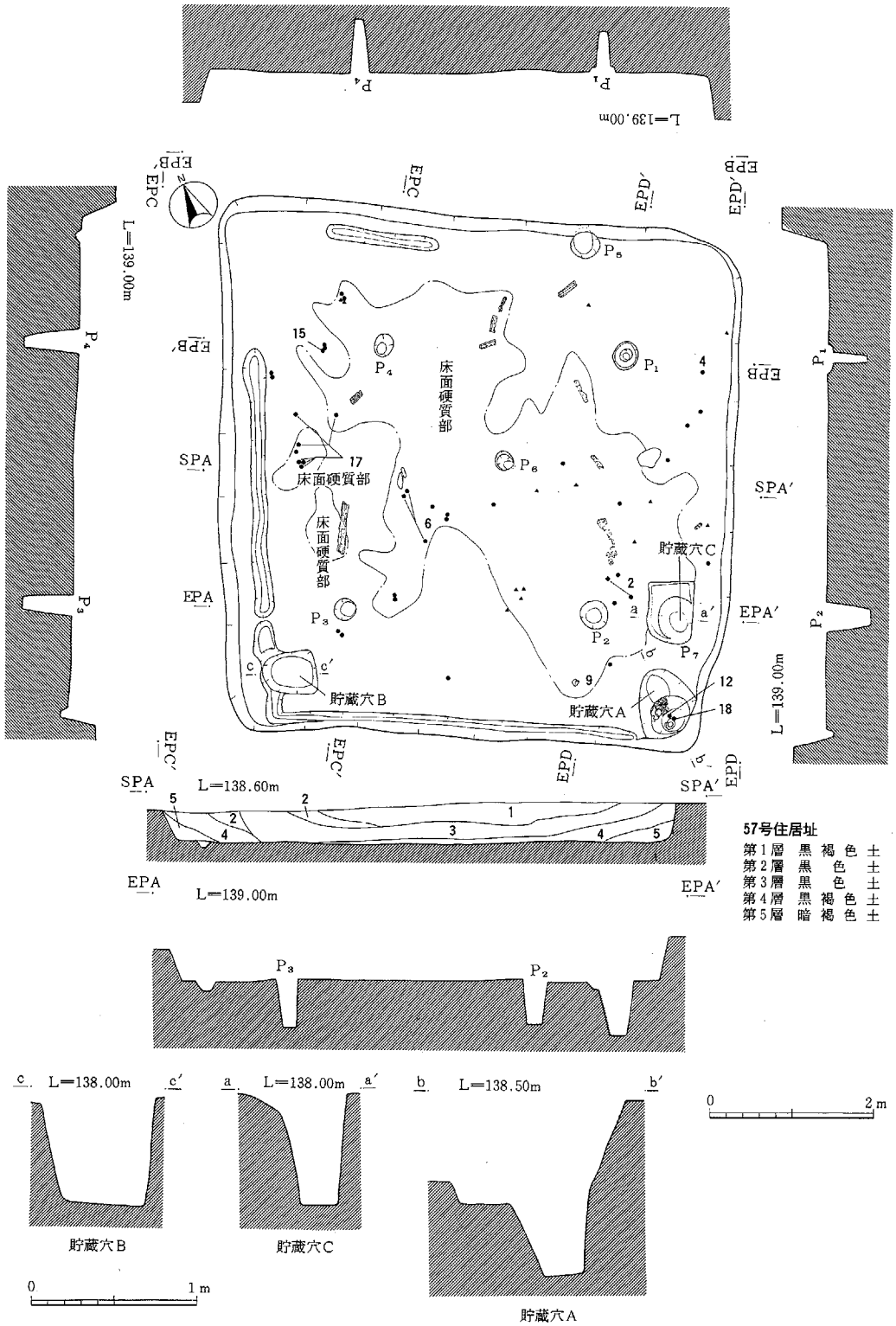
57号住居址（第359・396図　図版38・99・117　表51・52）

位置　T－20グリッド／形態　方形／主軸方向　N－40°－E／規模　6.14ｍ×5.94ｍ（南北×東西）／壁高　36.5cm～57cm／壁溝　南壁～西壁に沿った部分と北壁の中央より東寄りに検出している。幅は14cm～16cm、深さは6cm～9cmと一定していない。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質化された面はP1～P4の間と貯蔵穴1に接する所と主軸線上よりP2とP4の周囲が延びている。また逆にP1とP3の周囲は避けているかのようである。また西側の壁高寄りに部分的2ヶ所認められる。／柱穴　6本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径32cm、深さ48cm、P2・径36cm、深さ53cm、P3・径24cm、深さ59cm、P4・径24cm、深さ64cm、P5・径37cm、P6・径22cm、深さ49cm、P7・上径長軸76cm、短軸53cm、下径43cm、深さ67cmを計る。2段に掘られている。／炉・カマド　検出なし。／貯蔵穴　2ヶ所。A・長軸88cm、短軸70cm（上径）、長軸52cm、短軸44cm（中径）、長軸28cm、短軸26cm（下径）深さ63cmを計る。楕円形を呈する。B・長軸66cm、短軸54cm（上幅）長軸51cm、短軸37cm（下幅）深さ62cmを計る。隅丸長方形を呈する。

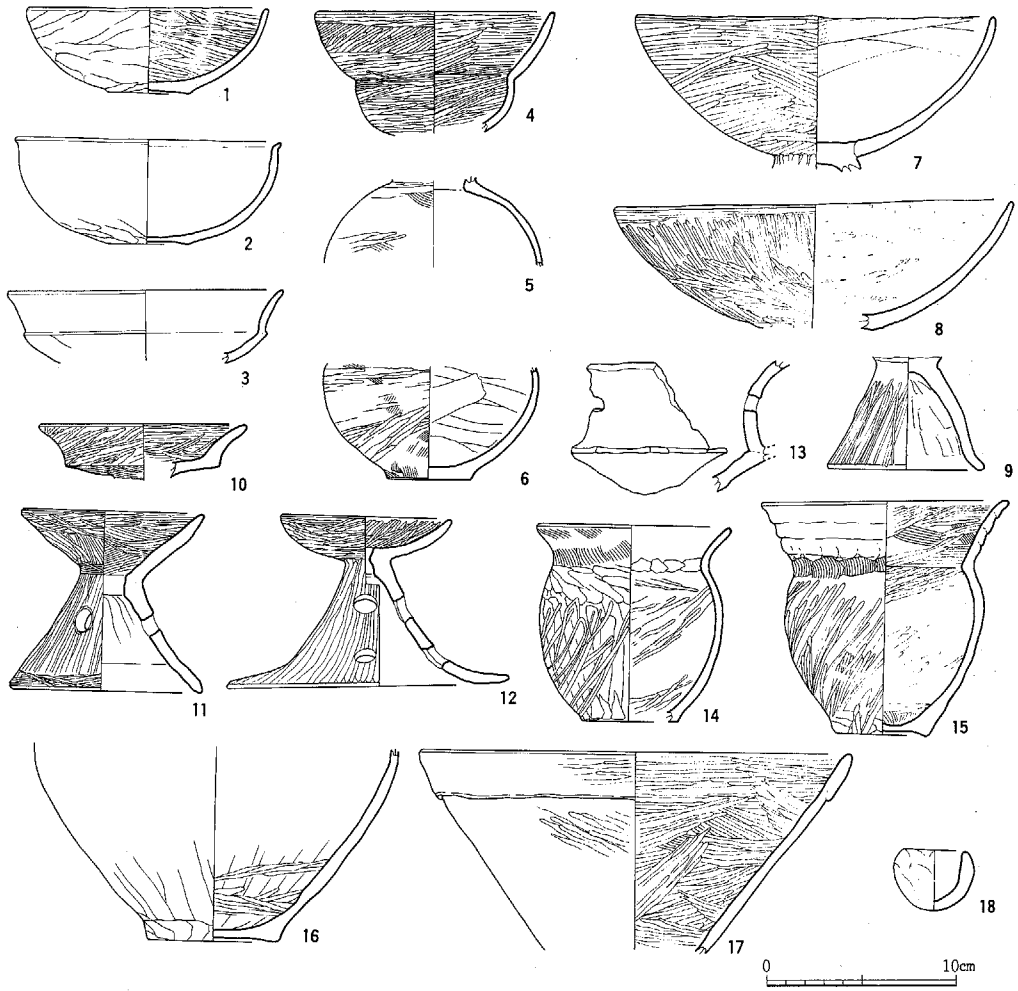
遺　物

全体に亘って散在している。他に、貯蔵穴内より4点出土している。また、自然礫16点床着で出土した。実測遺物点数18点。

備考　炭化材と焼土の検出が散在して見られる。焼失家屋である。



第395図　57号住居址



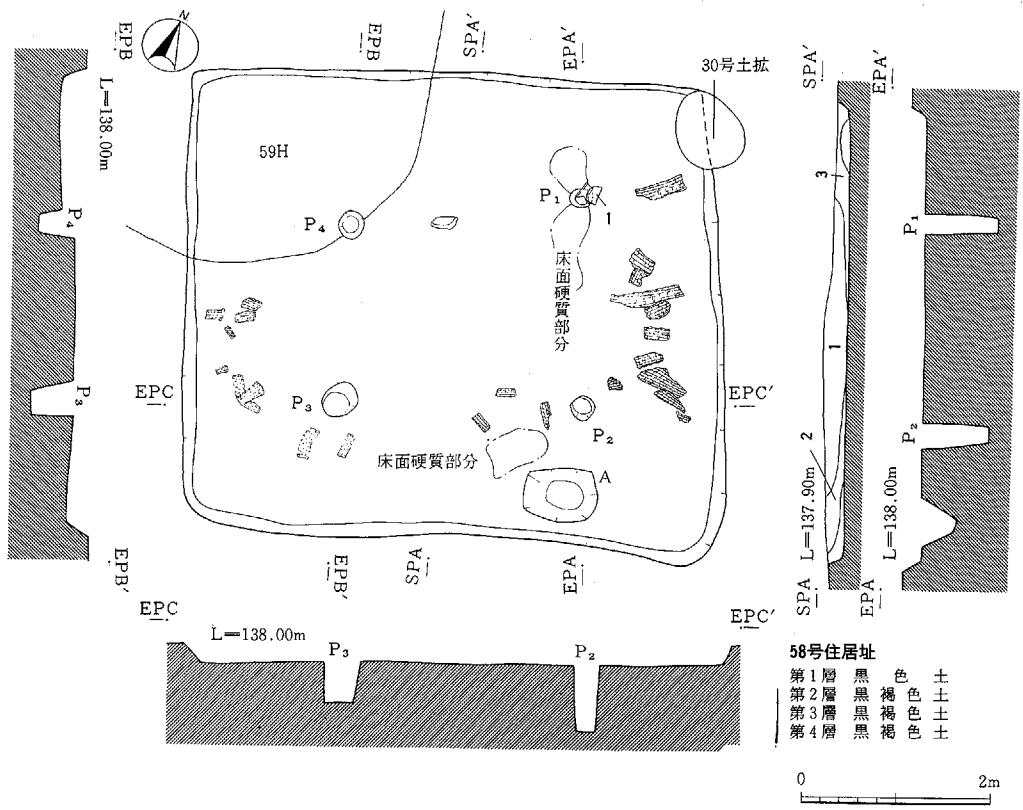
第396図　57号住居址出土遺物

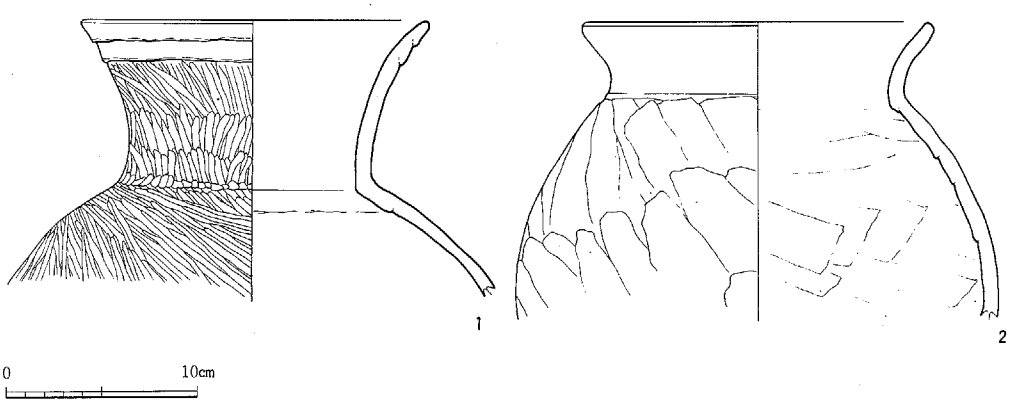
表51　57号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 椀	口径12.6 底径　4 器高 4.5	口縁部は内反しながら開き、底部はやや突出し上げ底になる。	体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中 全体の$\frac{3}{4}$残存
2	土師器 坏	口径13.8 底径 4.0 器高 5.5	口縁部は内稜し短く外傾する。底部はやや上げ底になる。	口縁部内外ナデ、体部外ヘラケズリのちヘラミガキ 〃 内ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着 全体の$\frac{1}{3}$残存
3	土師器 坏	復口14.3 残存 3.8	坏部口縁は外稜を有し、外反する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中 坏部の約$\frac{1}{4}$残存
4	土師器 坩	口径12.5 残存 6.3	瓠形のもので緩く内稜を付ける。	口縁～体部内外ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 全体の$\frac{1}{3}$残存

表52　57号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
5	土師器 小形甕	残存 4.7	球形の胴部から長いを形成するもの。	胴部外ハケメのちヘラミガキ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	明褐色	床着 胴部下半破片
6	土師器 甕	底径 4.4 残存 6.1	5と同じタイプのもので底部はやや突出する平底を有する。	胴部外ハケメのちヘラミガキ内ヘケラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中
7	土師器 高坏	口径18.8 残存 8.2	坏部は内反気味に開き、脚部は筒状となる。	体部外丁寧なミガキ 内ハケメ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
8	土師器 高坏	口径21.0 残存 6.4	7と同じタイプ	口縁～体部内外タテ、ヨコのミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
9	土師器 高坏	底径 8.0 残存 5.9	脚部は丸みをもって開き端部でさらに開く。	脚部外ヘラミガキ 外ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中 脚台破片 脚部完存
10	土師器 高坏	口径10.8 残存 3.0	受け部は浅く外稜を有して外反する。	体部内外ミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 受部の約$\frac{1}{2}$残存
11	土師器 器台	口径 9.6 底径 9.7 器高 9.5	受け部は外稜を痕跡程度に残し、脚部は「ハの字」に開き透かし孔を有す	体部内外ミガキ、脚部外タテミガキのちヨコミガキ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中 ほぼ完形
12	土師器 器台	口径 9.0 底径14.6 器高 8.9	受け部は浅く内反気味に開き、脚部は裾広がりで2段の透かし孔を有す。	体部内外ミガキ 脚部外タテミガキ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴 全体の$\frac{3}{4}$残存
13	土師器 器台 高坏	残存高 7.3	受け部に鍔状の突帯を付けるもので、透かし孔を有す。	口辺部上半内外ミガキ 下半内ヨコミガキ 外ヘラナデ 体部内外ミガキ	石英石粒 砂粒多量に含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
14	土師器 甕	口径10.0 残存10.3	口縁部は外反し、張りの無い胴部より平底に連続する。	口縁部内木ロナデ外ハケ 胴部内外ヘラケズリのちヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 全体の$\frac{2}{3}$残存
15	土師器 甕	口径12.8 底径 4.8 器高12.3	口縁部は外反し輪積み痕を残す。張りの無い胴部より平底に連続する。	口縁部内ハケメのちヘラミガキ外指圧顎部外ハケメのちヘラミガキ 胴部外ケズリのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中 全体の$\frac{3}{4}$残存
16	土師器 甕	底径 6.8 残存10.2	上位に張りを有す胴部より底部は突出気味になりやや上げ底となる。	胴部外ヘラケズリ 内ヘラケズリのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中
17	土師器 甑	口径22.4 残存10.5	口縁部は折り返されて底部は小径となり、単孔を有するものとなる。	折り返し二重口縁 胴部内外ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 全体の$\frac{3}{4}$残存
18	土師器 手づくね	残存 3.9	手捏で内反する体部に丸底を有す。	指ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 $\frac{1}{3}$残存





第397図　58号住居址・出土遺物

表53　58号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 甕	口径18.0 残存14.0	口縁部は内稜を有して外反し輪積み痕を残す。胴部は球形となる。	内ヘラナデ 外ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎	赤垢色	床着 胴部上半 $\frac{2}{3}$の残存
2	土師器 甕	口径18.2 残存15.6	口縁部は短く外反し先端で内反気味になる。胴部は肩のやや張るもの。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中 胴部上半 $\frac{1}{2}$の残存

58号住居址（第397図　表53）

位置　U－17グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.42ｍ×4.70ｍ（東西×南北）／壁高13cm～15.8cm／壁溝なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質化された面は柱穴Ｐ１の付近と貯蔵穴の北西隅付近に認められる。／柱穴　４本。Ｐ１・径24cm、深さ76cm、Ｐ２・径22cm、深さ71cm、Ｐ３・長径37cm、短径35cm、深さ44cm、Ｐ４・径29cm、深さ35cm・炉・カマド　なし。／貯蔵穴　長軸76cm、短軸66cm（上幅）、長軸38cm、短軸28cm（下幅）深さ38cmを計る。長方形を呈する。

遺　物

土師器甕の破片が３点出土。そのうち２点が床着である。その他、自然礫１点床着で出土している。床面上にはＰ１～Ｐ３とＰ４の外側を北壁の手前を除いてコの字状に炭化材の検出が見られる。細かく観察すると、それぞれ中心に向かって一定の方向である事が認められる。全体的に放射状を呈するものと思われる。これは上屋の基本構造を示す可能性があると思われる。

備　考

59号住居址を切る。また、30号土坑に北東隅を切られる。実測遺物点数２点

60号住居址（第３９８図　図版１００）

位置　Ｐ－16グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.64ｍ×4.28ｍ（東西×南北）／壁高　64cm～68cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。72号住居址に約３分の２を切られる。硬質部分は残存部分ではみられなかった。／柱穴　１本。北西側に位置する。72号住居址に対応する残りの柱穴の検出は72号住居址の床下より見られなかった。径34cm、深さ63cm。／炉　残存部分では見られなかった。／貯蔵穴　残存部分では見られなかった。

覆土の状況

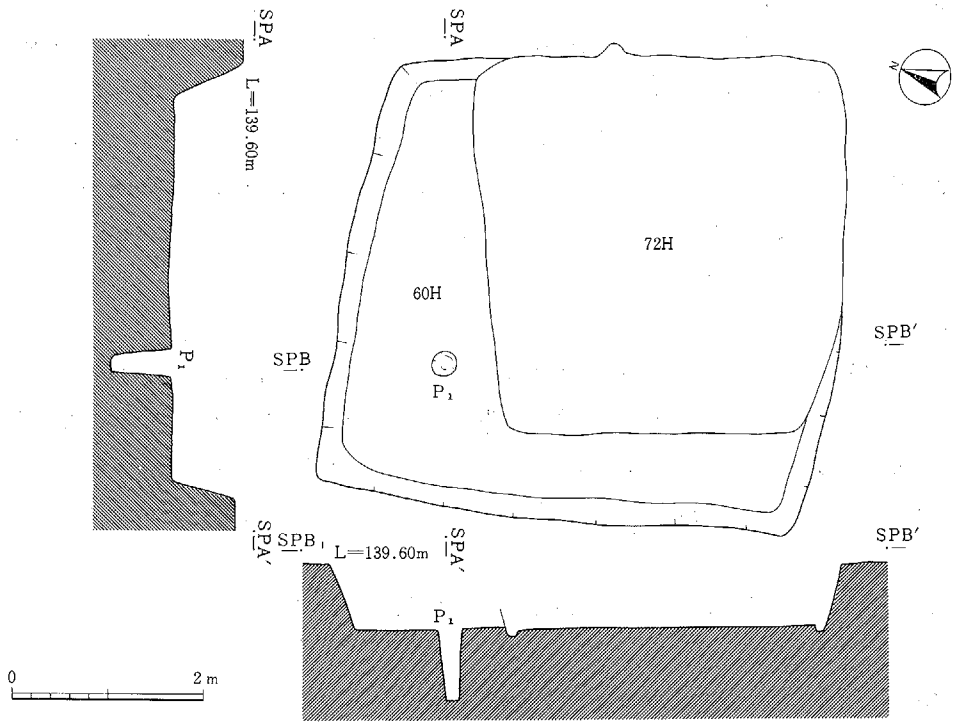
自然堆積である。黒褐色土と暗褐色土を基調に２層の合わせて３層に分層される。

遺　物

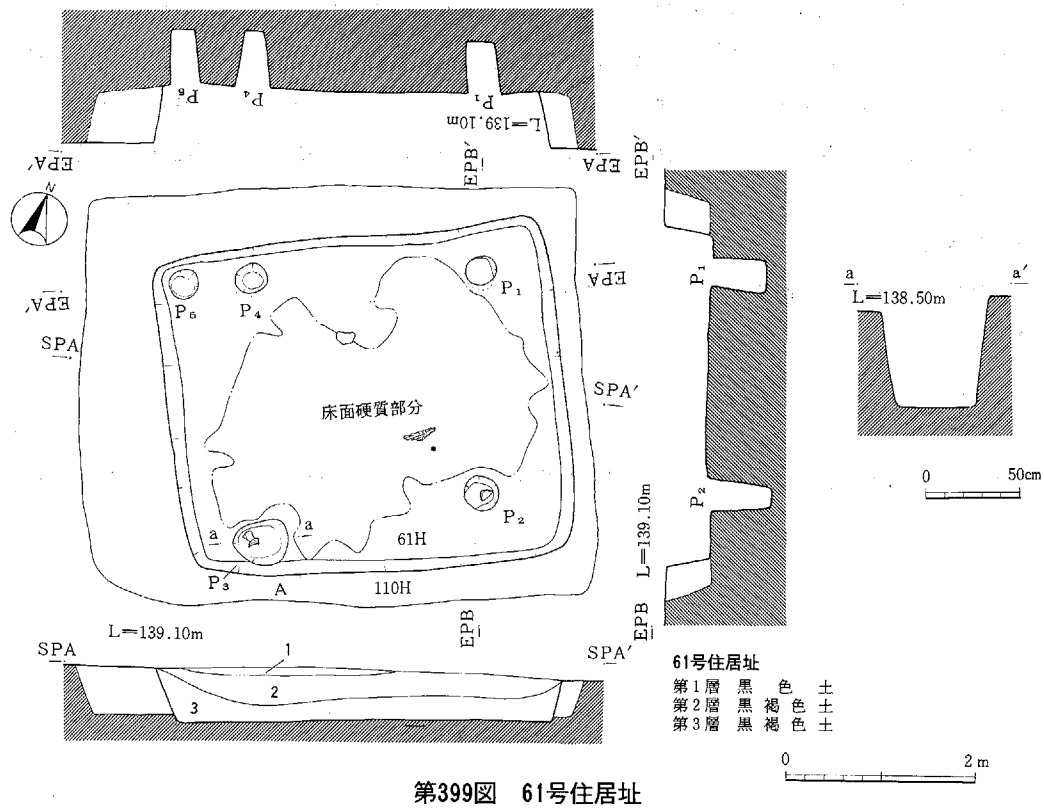
なし。

備　考

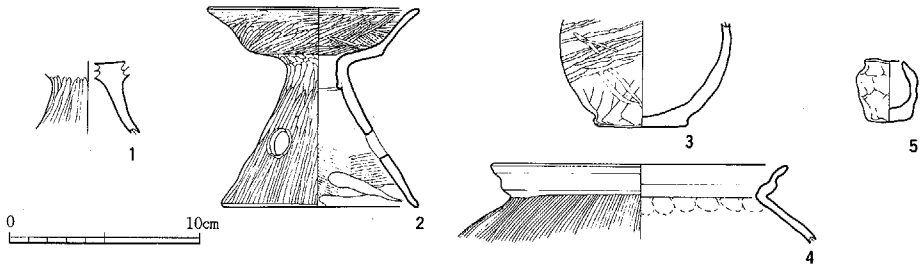
伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。



第398図　60号住居址



第399図　61号住居址



第400図　61号住居址出土遺物

61号住居址（第399・400図　図版100・117　表54）

位置　S－23グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－15°－W／規模　4.87m×3.78m（東西×南北）／壁高　51cm～55cm。／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に貯蔵穴付近まで及ぶ。／柱穴　4本。P1～P3が主柱穴に相当すると考えられる。P1・径34cm、深さ55cm。P2・径36cm。P3・長径35cm、短径32cm、深さ59cm。それらの3本に対応する残りの1本は南西隅に位置する貯蔵穴の位置付近に考えられる。P4・径32cm、深さ44cm。／貯蔵穴　南西隅に位置する。長軸57cm、短軸48cm、深さ74cm、楕円形を呈する。

新旧関係

110号住居址を切る。

覆土の状況

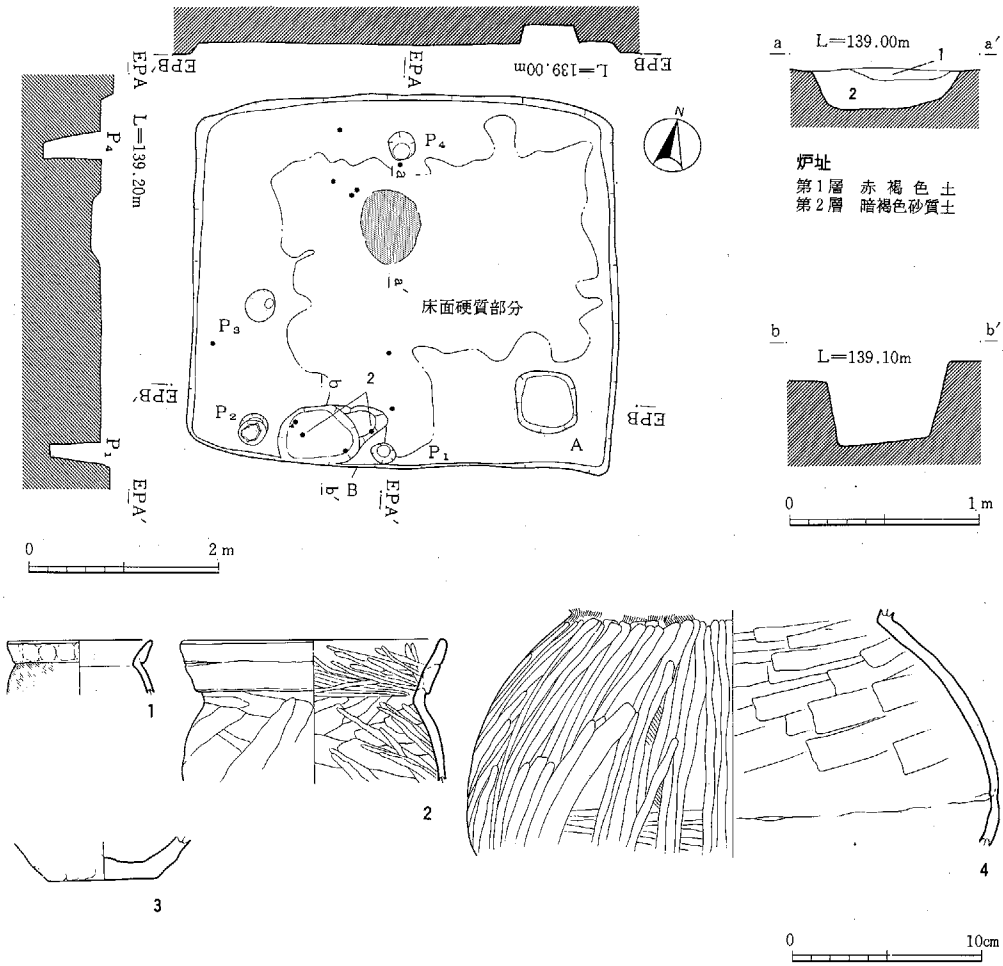
自然堆積である。黒色土と黒褐色土を基調に2層の合わせて3層に分層される。

遺　物

土師器破片が全体に亘って散乱している。また、貯蔵穴内よりほぼ完形の器台が1点出土した。実測遺物5点。

表54　61号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 高坏	残存 3.7	脚部で裾広がりとなるもの。	脚部外ミガキ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	茶褐色	覆土中 脚部の$\frac{1}{3}$残存
2	土師器 高坏	口径11.0 底径10.0 器高10.5	受け部は浅く外稜を有し、脚部は裾広がりとなり透かし孔を有す。	体部内外ミガキ 脚部外ナデのちミガキ 〃 内ヨコ方向のハケメ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	床着 全体の$\frac{3}{4}$残存
3	土師器 甕	底径 4.7 残存 5.7	小型のもので底部は突出した平底となる。	胴部外ケズリのちミガキ 〃 内ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中 全体の$\frac{1}{3}$残存
4	土師器 甕	口径15.5 残存 4.2	口縁部は短く「S字」状に外傾する石田川タイプのもの。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外タテ方向のハケメ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
5	土師器 手ね	口径 2.0 底径 1.7 器高 3.3	手　土器で口縁部は短く内傾し、胴部は寸胴で底部は平たく納める。	指ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着



第401図　62号住居址・出土遺物

表55　62号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 甕	口径 7.6 残存 3.0	口縁部は折り返され押圧が残る。	口縁部内ハケメのちミガキ外ナデ、胴部ハケメ内ハケメのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 $\frac{1}{4}$残存
2	土師器 甕	口径13.8 残存 7.6	口縁部は輪積み痕が残り、胴部は口径より小さい。	口縁部内ナデのちミガキ外指圧、胴部外ヘラケズリ内ヘラケズリのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	貯蔵穴 口縁の$\frac{1}{3}$ 残存
3	土師器 甕	底径 5.6 残存 2.1	平底の底部。	胴部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 底部のみ 残存
4	土師器 甕	残存13.3	胴部は偏球形で、口縁部は折り返しとなるもの。	胴部外ハケメのちヘラナデツケ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 胴部上半 $\frac{3}{4}$残存

62号住居址（第401図　表55）

位置　R－23グリッド／形態　方形／主軸方向　N－40°－E／規模　4.31ｍ×3.92ｍ（東西×南北）／壁高　14cm～15cm／壁溝なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は中央部より、柱穴と貯蔵穴を結ぶ線上内と東は東壁の付近まで及ぶ。貼床である。／柱穴　4本。P１・径29cm、深さ61cm。P２・径24cm、深さ54cm。P３・径29cm、深さ44cm。P４・径32cm、深さ61cm。短軸線上を結ぶP１とP２は主柱穴の可能性が考えられる。／炉・カマド　地床炉１基。中央部よりやや北寄りに位置する。掘り方（上幅）長軸81cm、短軸64cm、（下幅）長軸61cm、短軸31cm、深さ21cmを計る。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。

／貯蔵穴　南東隅と南西壁に接する２ヵ所に貯蔵穴状の掘り込みが検出されている。貯蔵穴A・長軸66cm、短軸64cm。深さ18cm　方形を呈する。貯蔵穴B・長軸1.19ｍ（付随するテラス状の掘り込みを含む。）短軸（テラス部分）34cm、（貯蔵穴部分）61cm。深さ33cm。楕円形を呈する。

遺　物

西寄りに散乱して検出されている。土師器破片総点数14点。（床着６点、貯蔵穴B内４点）実測遺物点数４点（甕、小型甕）。

63号住居址（第402図　図版133）

位置　T－19グリッド／形態　方形／主軸方向　N－0°－E／規模　3.47ｍ×3.17ｍ（南北×東西）／壁高　14cm～18.5cm／壁溝　検出なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は中央部より、炉址状の掘り込に接した部分に認められる。／貼床である。／柱穴　10本。壁際に柱穴が並ぶ。P１・径21cm、深さ54cm。P２・径29cm、深さ55cm。P３・径24cm、深さ34cm。P４・径31cm、深さ55cm。P５・長径42cm、短径28cm、深さ47cm。P６・径24cm、深さ59cm。P７・径48cm、深さ44cm。P８・径32cm、深さ53cm。P９・径26cm、深さ44cm。P10・径30cm、深さ42cm。／炉・カマド地床炉１基？。中央部よりやや南東に位置する。掘り方（上幅）長軸63cm、短軸54cm、（下幅）長軸48cm、短軸32cm、深さ３cmを計る。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。焼けた痕跡が無くまた、内部より自然礫が１点検出されているがこれも焼けていない為炉址とは断定しがたいが、形態や位置的に炉址としての可能性は考えられる。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

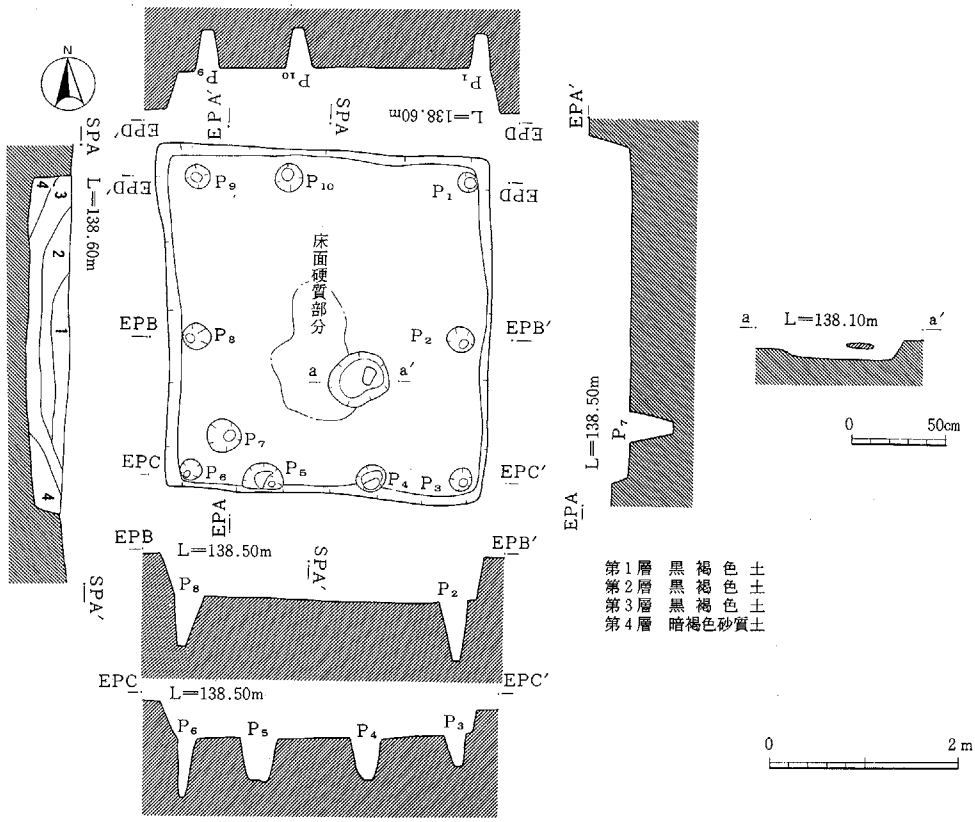
自然堆積を示すもので、黒褐色土を基調に４層に分層される。

遺　物

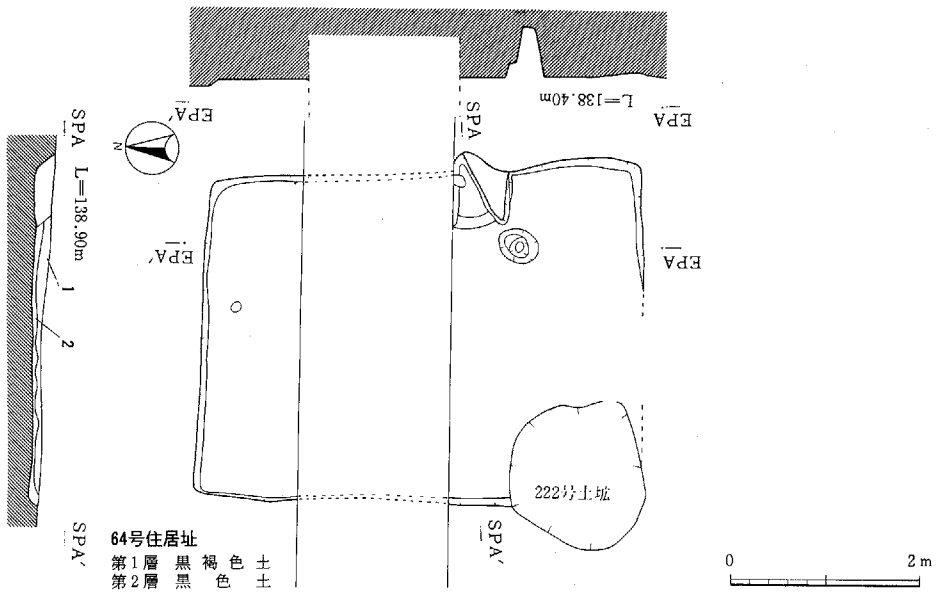
覆土中より土師器の細片が出土している。実測可能なものは検出されなかった。

備　考

伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。



第402図　63号住居址



第403図　64号住居址

64号住居址（第403図）

位置　T－17グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－90°－E／規模　4.57m×3.34m（南北×東西）／壁高　14cm～18.5cm／壁溝なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。全体に亘って硬質化されている。ほぼ中央部を試掘調査のトレンチに切られる。また、南西隅を222号土坑に切られる。／柱穴　1本。カマド東側袖の付近に位置する。P1・長径40cm、短径36cm、深さ52cm。／カマド　東壁中央部よりやや南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を三角形に掘り込んでいる。傾斜は42°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。掘り方長軸77cm、短軸不明。深さ4cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴なし。

覆土の状況

自然堆積である。第1層黒褐色土白色の軽石（FP）少量含む。第2層黒色土ロームブロック少量含む。

遺　物

覆土中より土師器の細片が出土している。実測可能なものは検出されなかった。

備　考

伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。

65号住居址（第404図）

位置　S－17グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－35°－E／規模3.97m×3.04m（南北×東西）／壁高　18cm～32.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。南東側を撹乱により破壊される。硬質部分は中央に炉址状の掘り込みがありその付近から南へかけた部分と炉址状の掘り込みに接した西側の一部に認められる。／柱穴　4本。北壁と東壁の隅と東壁中央部付近に位置する。P1・径19cm、深さ43cm。P2・径18cm・深さ48cm、P3・径34cm、深さ33cm。P4・径24cm、深さ24cm。／炉　中央部に炉址状の掘り込みが認められる。長軸68cm短軸48cm。深さ7cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。焼けた痕跡が認められない。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

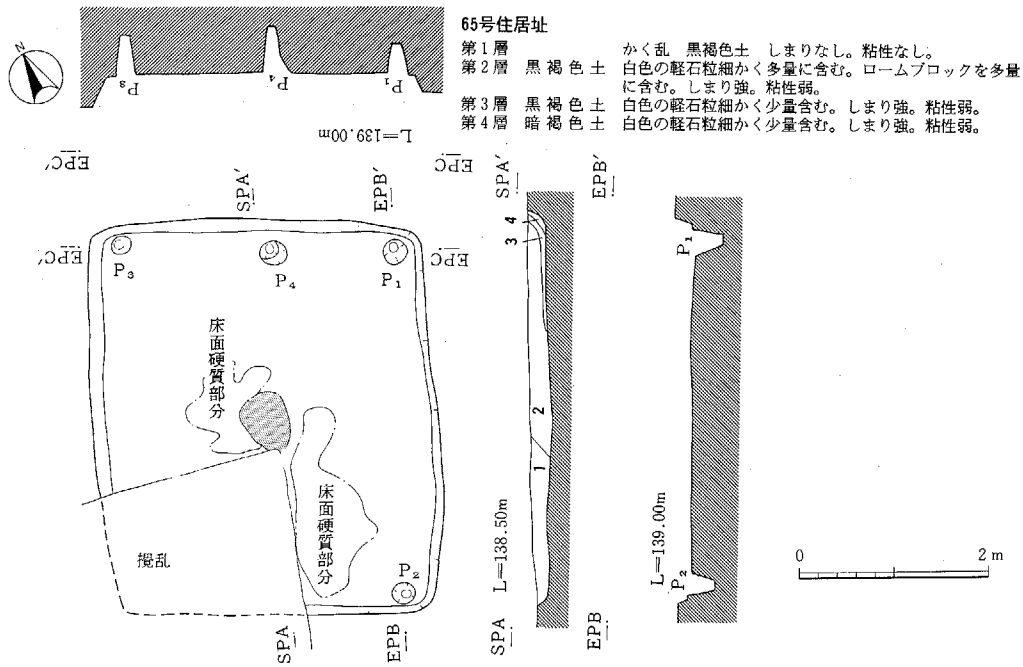
自然堆積である。黒褐色土を基調に2層、暗褐色土の3層に分層される。

遺　物

覆土中より土師器の細片が出土している。実測可能なものは検出されなかった。

備　考

伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。



第404図　65号住居址

66号住居址（第405・406図　図版100・117　表56）

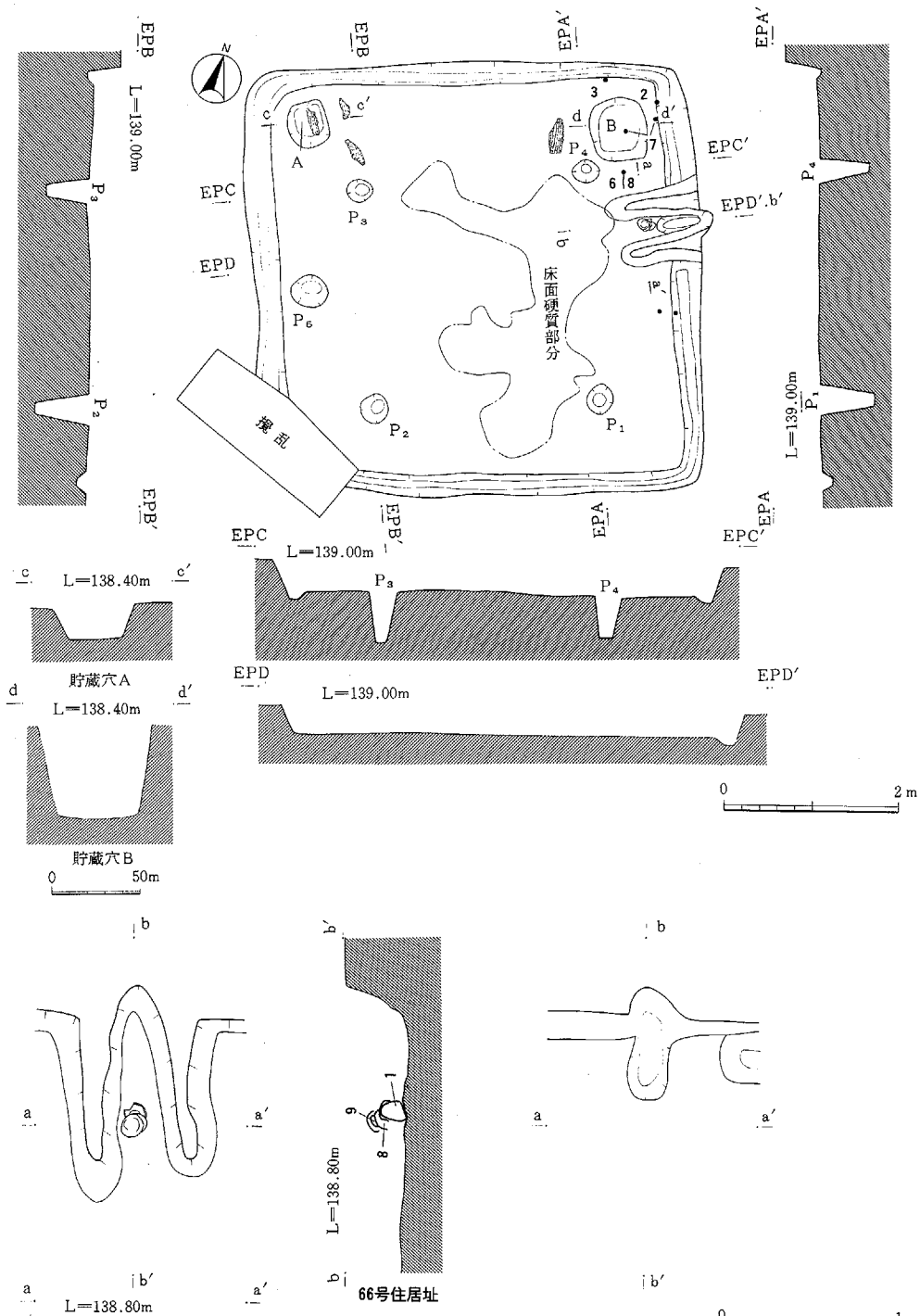
位置　R－17、S－22グリッド／形態　方形／主軸方向　N－65°－E／規模　4.47m×4.45m／壁高　38cm～43cm／壁溝　南西隅が撹乱により切られているが、カマド部分を除き全周するものと思われる。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分主柱穴の内側の東寄りを中心に硬質化され、P1～P3とP1の外側まで及ぶ。また、貯蔵穴に接する。／柱穴　5本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径26cm、深さ58cm。P2・径36cm、深さ58cm。P3・径36cm、深さ49cm。P4・径26cm、深さ49cm。P5・径38cm、深さ31cm。／カマド　東壁中央よりやや北寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を三角形に近い半円形に掘り込まれている。火床部はよく焼けて硬質化されている。3号住居址と同様に土師器坏が石製の支脚の上に逆位で重ねた状態で検出されている。本址では4個体重ねられている。／貯蔵穴　2基　北東隅（貯蔵穴A）と北西隅（貯蔵穴B）に位置する。貯蔵穴A　長軸71cm、短軸64cm、深さ54cmを計る。隅丸長方形を呈する。貯蔵穴B　長軸51cm、短軸46cm、深さ7cm。貯蔵穴Bは掘り込みが浅い為、貯蔵穴として断定は難しいが位置と形態より可能性は考えられる。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に2層、暗褐色土の3層に分層される。

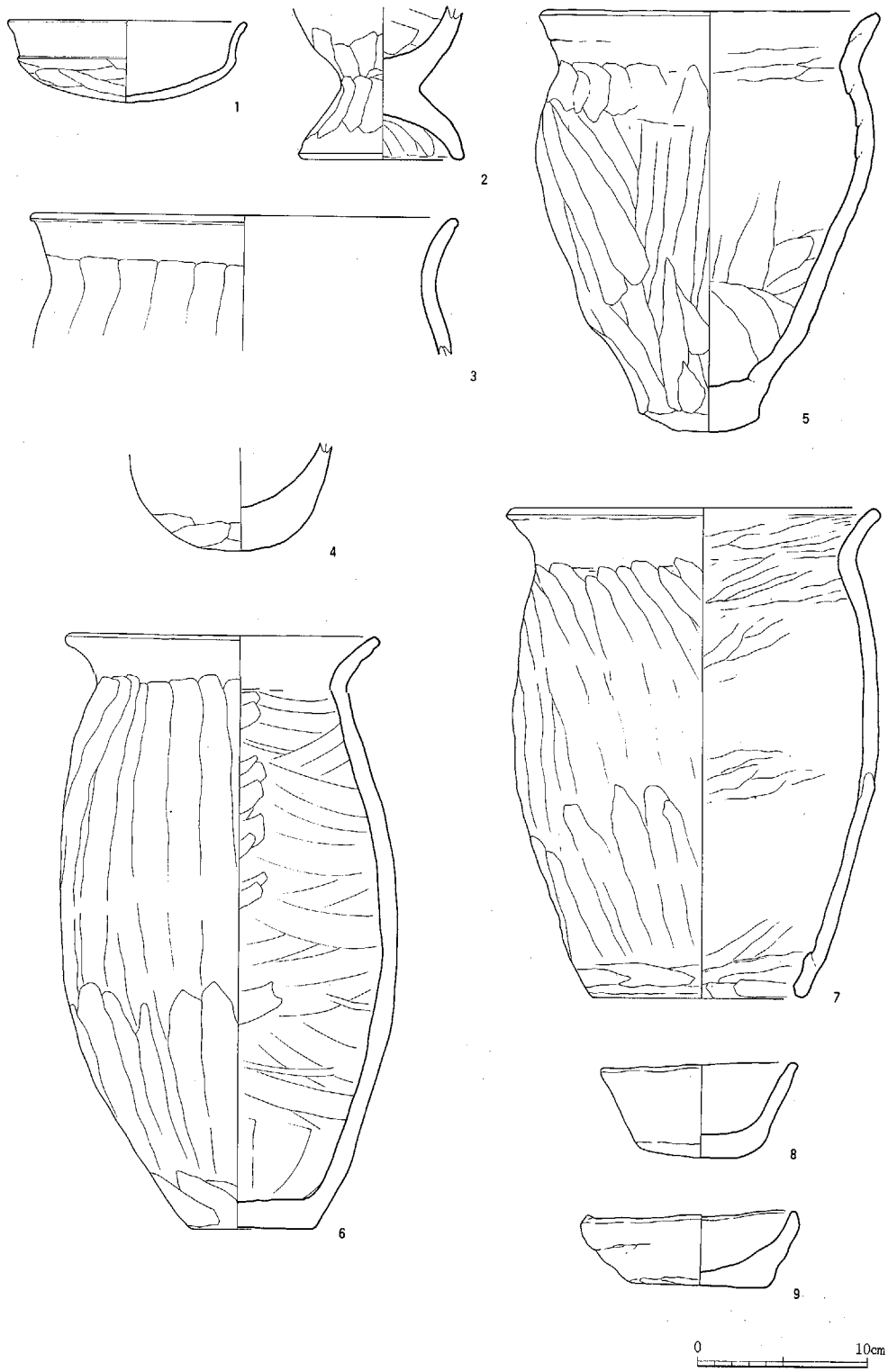
遺　物

カマド内より坏が5点。床着土師器破片7点。実測遺物9点。



66号住居址

第405図　66号住居址



第406図　66号住居址出土遺物

表56　66号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径13.9 底径 2.7 器高 4.7	口縁部は外反し、体部は外稜を有す。底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	カマド $\frac{3}{4}$残存
2	土師器 高坏	底径 9.4 残存 8.7	脚部は分厚く丸く納める。	体部外ヘラケズリ内ヘラナデツケ、脚部外ヘラケズリ内ナデ	砂粒含む	酸化炎	暗褐色	床着 脚部の $\frac{3}{4}$残存
3	土師器 甕	口径24.2 残存 8.0	口縁部は緩く「くの字」状となるもので、削りは口縁部下より施す。	口縁部内外ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着 口縁$\frac{1}{2}$残存
4	土師器 甕	底径 3.1 残存 6.0	器肉は厚く丸底となるものである。	胴部内外ヘラケズリ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	淡赤褐 色	覆土中 底部のみ 残存
5	土師器 甕	復口19.5 底径 5.0 器高24.5	口縁部は「くの字」状になり胴部は下位が細くなる。底部は突出する。	口縁部内外ヨコナデ、胴部外ヘラケズリ内ヘラナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中 全体の $\frac{1}{2}$残存
6	土師器 甕	口径18.0 復底径 7.0 器高34.8	口縁部は「くの字」状になり胴部は長胴化する。底部は平底である。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 全体の $\frac{3}{4}$残存
7	土師器 甑	復口21.1 復底12.0 器高28.9	寸胴気味の甑で底部は単孔となる。	口縁部内ヘラナデ外ヨコナデ、胴部外ヘラケズリ 内ナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴
8	土師器 埦	口径12.0 底径 7.0 器高 5.4	体部は外傾し、底部は平底で丸く納める。	体部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド 完形
9	土師器 坏	口径12.5 底径 8.0 器高 4.2	体部は外傾し、口縁端部で内傾する。底部は平底となる。	輪積後指ナデ 口縁をヘラでヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド 完形

67号住居址（第407図　図版100・117　表57）

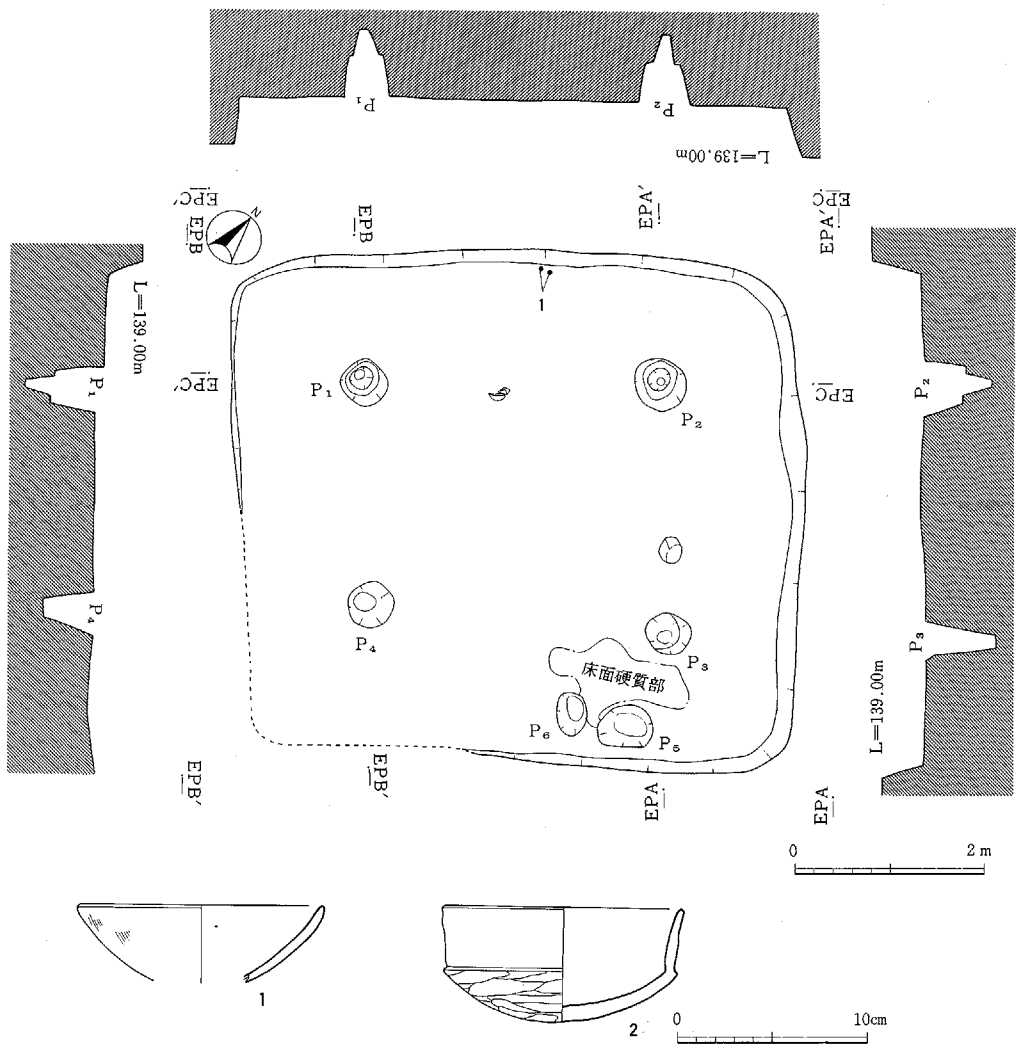
位置　S－16グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.76ｍ×5.17ｍ（東西×南北）／壁高　0～42.5cm　南西隅を近・現代の耕作により削平され、壁が消滅している。／壁溝　なし。／床　灰色砂質土に掘り込まれる。硬質化された部分はＰ３とＰ５とＰ６の間に認められる。／柱穴　６本。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当する。Ｐ１・径48cm、深さ76cm。Ｐ２・径48cm、深さ74cm。Ｐ３・径42cm、深さ74cm。Ｐ４・径44cm、深さ74cm。Ｐ５・長径56cm、短径44cm、深さ27cm。Ｐ６・長径44cm、短径31cm、深さ28cm。／炉　なし。／貯蔵穴　なし。Ｐ５が位置と形態と近接して床面が硬質化している事から貯蔵穴の可能性が考えられるが、規模が小さい為、柱穴として取り扱った。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に２層に分層される。

遺　物

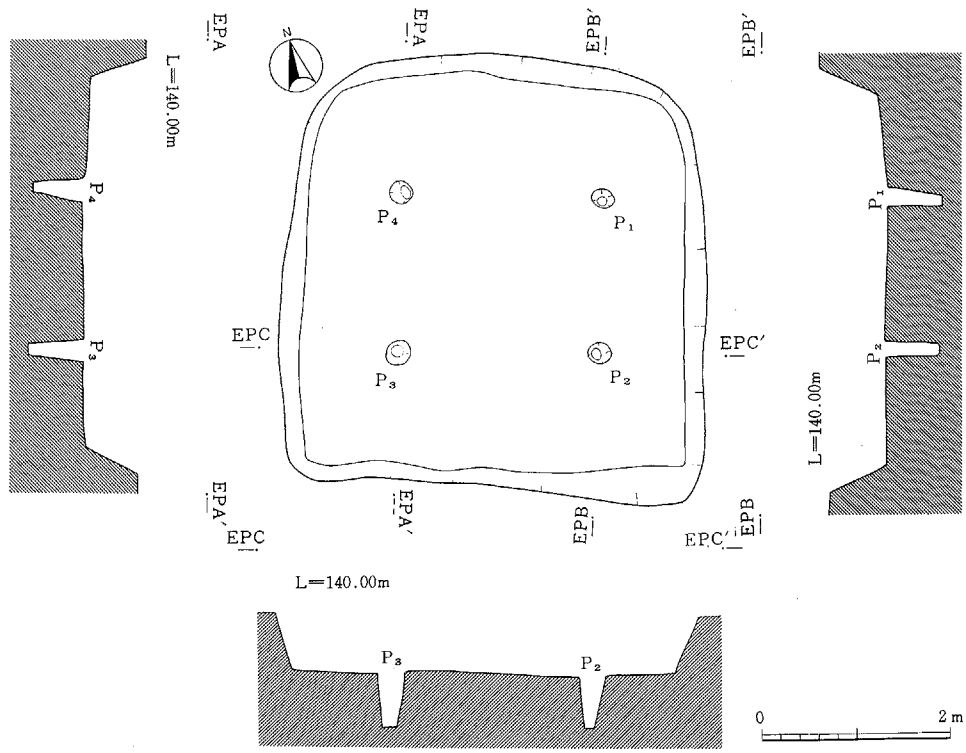
土師器破片５点（床着４点）。その他床着で自然礫が１点検出されている。実測遺物２点。



第407図　67号住居址・出土遺物

表57　67号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 高坏	復口12.7 残存 4.0	口縁部は素縁となり、端部でやや内反するもの。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ハケメのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 坏部$\frac{1}{3}$ 残存
2	土師器 坏	口径12.5 底径 2.4 器高 6.0	体部に外稜を有し口縁部は直立気味となり、底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中 $\frac{3}{4}$残存



第408図　68号住居址

68号住居址（第408図　図版101）

位置　Q－19グリッド／形態　方形／主軸方向　N－10°－E／規模　4.17ｍ×3.99ｍ（南北×東西）／壁高　58cm～59cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に面をなしているが硬質部分は認められなかった。／柱穴　4本。P1・径26cm、深さ58cm。P2・径28cm、深さ58cm。P3・径27cm、深さ54cm。P4・径29cm、深さ55cm。

／炉　なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

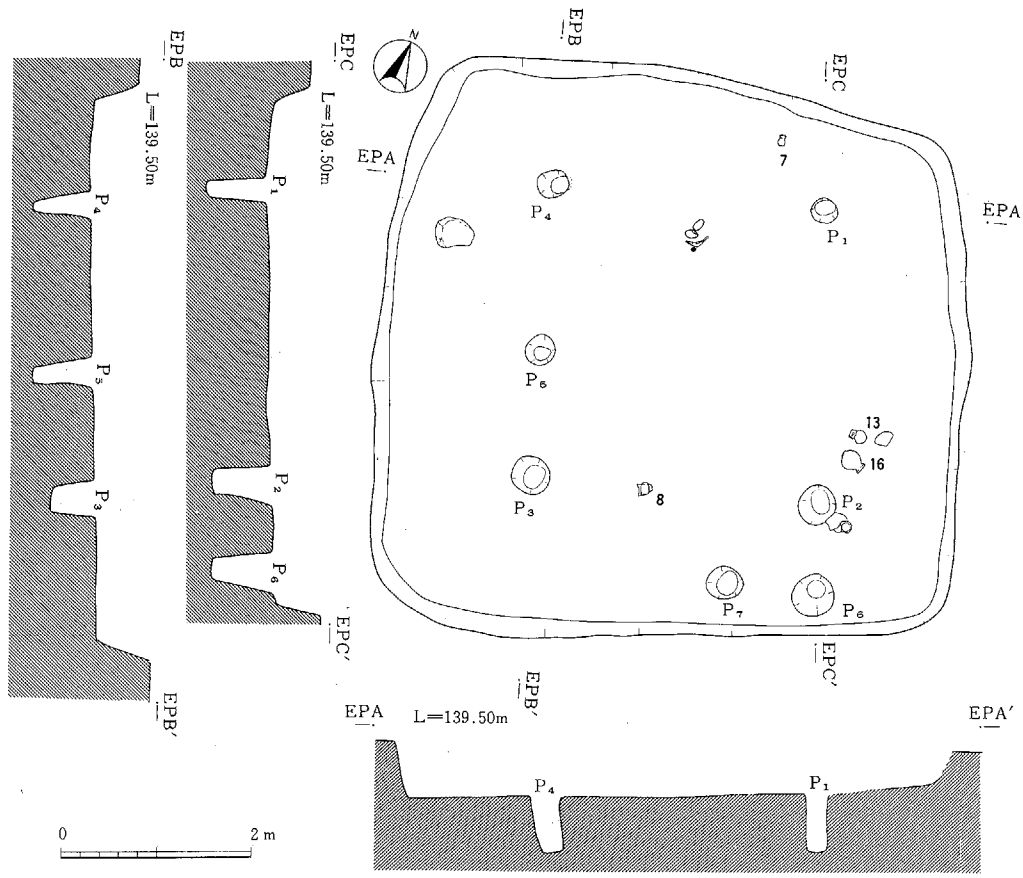
自然堆積である。黒褐色土を基調に3層、暗褐色砂質土層1層の合わせて4層に分層される。

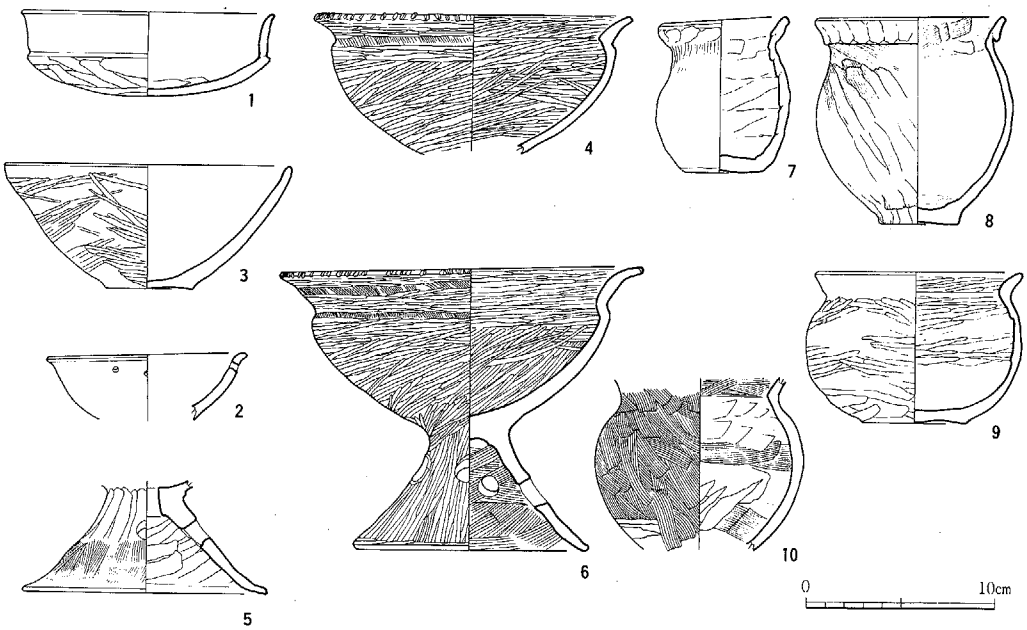
遺　物

覆土中より土師器の細片が出土している。実測可能なのもは検出されなかった。

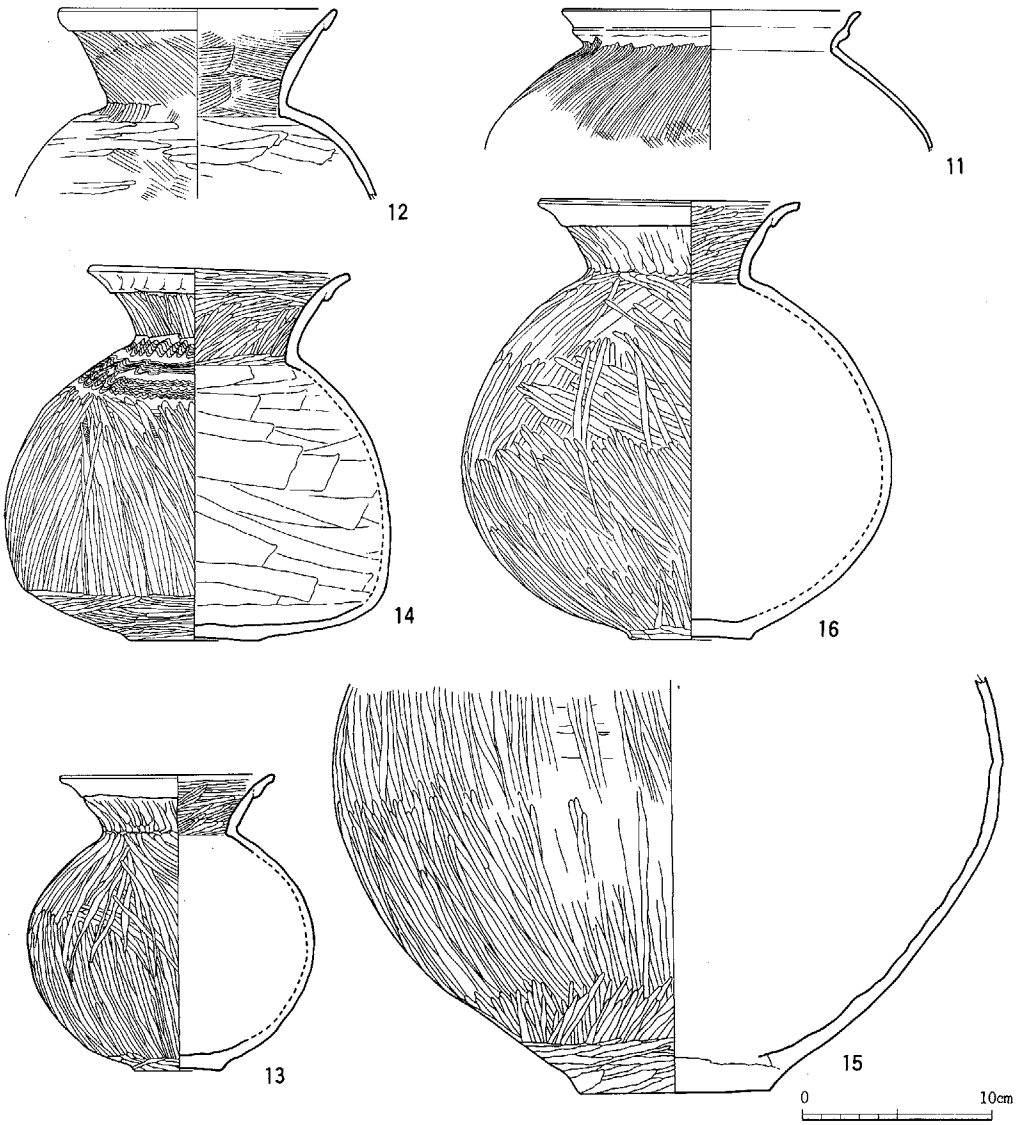
備　考

伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。





第409図　69号住居址・出土遺物(1)



第410図　69号住居址出土遺物(2)

69号住居址（第409・410・411図　図版101・117　表58・59）

位置　P－19グリッド／形態　方形／主軸方向　N－70°－E／規模　5.93ｍ×5.71ｍ（南北×東西）／壁高　45cm～54.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分の検出は認められなかったが全体に亘って堅く締まっている。／柱穴　7本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径28cm、深さ63cm。P2・長径44cm、短径38cm、深さ62cm。P3・径43cm、深さ52cm。P4・径34cm、深さ62cm。P5・径32cm、深さ62cm。P6・径46cm、深さ64cm。P7・長径39cm、短径34cm、深さ59cm。／炉　なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に４層に分層される。

遺　物

Ｐ２付近に土師器甕の完形品が３個体が横倒と斜位の状態で出土した。甕の内部には明黄褐色の軽石（Ａｓ－Ｃ）を含んだ堆積土が詰まっていた。その他　小型甕形土器　２点、自然礫３点出土した。実測遺物点数16点

表58　69号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	復口12.2 底径12.6 器高 4.4	口縁部は直立気味となり端部でさらに外反する。体部は外稜を有す丸底。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
2	土師器 坏	口径10.4 残存 3.5	内反気味に開く体部より口縁部はさらに外反し、口縁下に穿孔を有す。	口縁部内外ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
3	土師器 坏	口径14.8 底径 4.5 器高 6.5	口縁部は素縁となりたいぶは内反気味に開く。底部は平たく上げ底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外雑なヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎	褐色	覆土中
4	土師器 高坏	口径16.5 残存 7.0	内反気味に開く坏部は内稜を有し短い口縁部を形成。口唇部に刻みを有す。	体部外ハケメのちミガキ 〃　内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
5	土師器 器台	底径12.8 残存 5.7	受け部は欠損。脚部は裾広がりとなり、透かし孔を有す。	脚部外ヘラナデのちハケメ内ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
6	土師器 高坏	口径18.9 底径12.0 器高14.8	４の坏部に脚部は裾広がりとなり、複数の透かし孔を有す。	体部外ハケメのちミガキ内ミガキ、脚部外ハケメのちミガキ内ハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
7	土師器 甕	口径 6.7 底径 3.8 器高 8.0	小型の甕で口径と胴部径は同じもので底部は平底となる。	口縁部外指圧痕、頸部外ハケメ内ヘラナデ胴部外雑なナデ内輪積痕	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
8	土師器 甕	口径 9.9 底径 4.2 器高10.9	口縁部は折り返され押圧痕が残る。底部は突出気味の平底となる。	口縁部内ハケメ外指圧痕 胴部外ナデのちハケメ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着
9	土師器 甕	口径10.8 底径 5.4 器高 7.9	口縁部は外反し、胴部は偏球形、底部は上げ底となる。	口縁部内ミガキ、胴部外ヘラケズリのちミガキ 〃　内ミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
10	土師器 甕	残存 9.0	口縁部は「くの字」状になるもので胴部は球形となる。	胴部外ヘラミガキのちハケメ内ヘラナデのちハケメのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
11	土師器 甕	口径15.5 残存 7.2	口縁部は「S字」状となる石田川タイプのもので器肉は極薄である。	口縁部内外ナデ 胴部外ヨコ方向のハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
12	土師器 壷	口径14.4 残存10.0	口縁部は外反し先端で折り返される。胴部は球形となるもの。	頸部内外ハケメ、胴部外ハケメのちヘラミガキ 〃　内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	茶褐色	覆土中
13	土師器 甕	口径11.3 底径 4.4 器高15.6	小型の壷型土器である。12の特徴に底部が突出気味の上げ底となる。	口縁部外指ナデ その他内外とも丁寧なミガキ 脚部内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	床着 淡褐色	口縁一部欠損 ほぼ完形
14	土師器 甕	口径13.6 底径 6.6 器高19.6	13の特徴に頸～肩部に亘り櫛描き波状文を有す。胴部はフラスコ状となる。	口縁部内ミガキ外上指ナデ下外ミガキ 胴部内ヘラケズリ外上櫛描き波状文 中下ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡黄褐色	覆土中

表59　69号住居址出土遺物観察表(2)

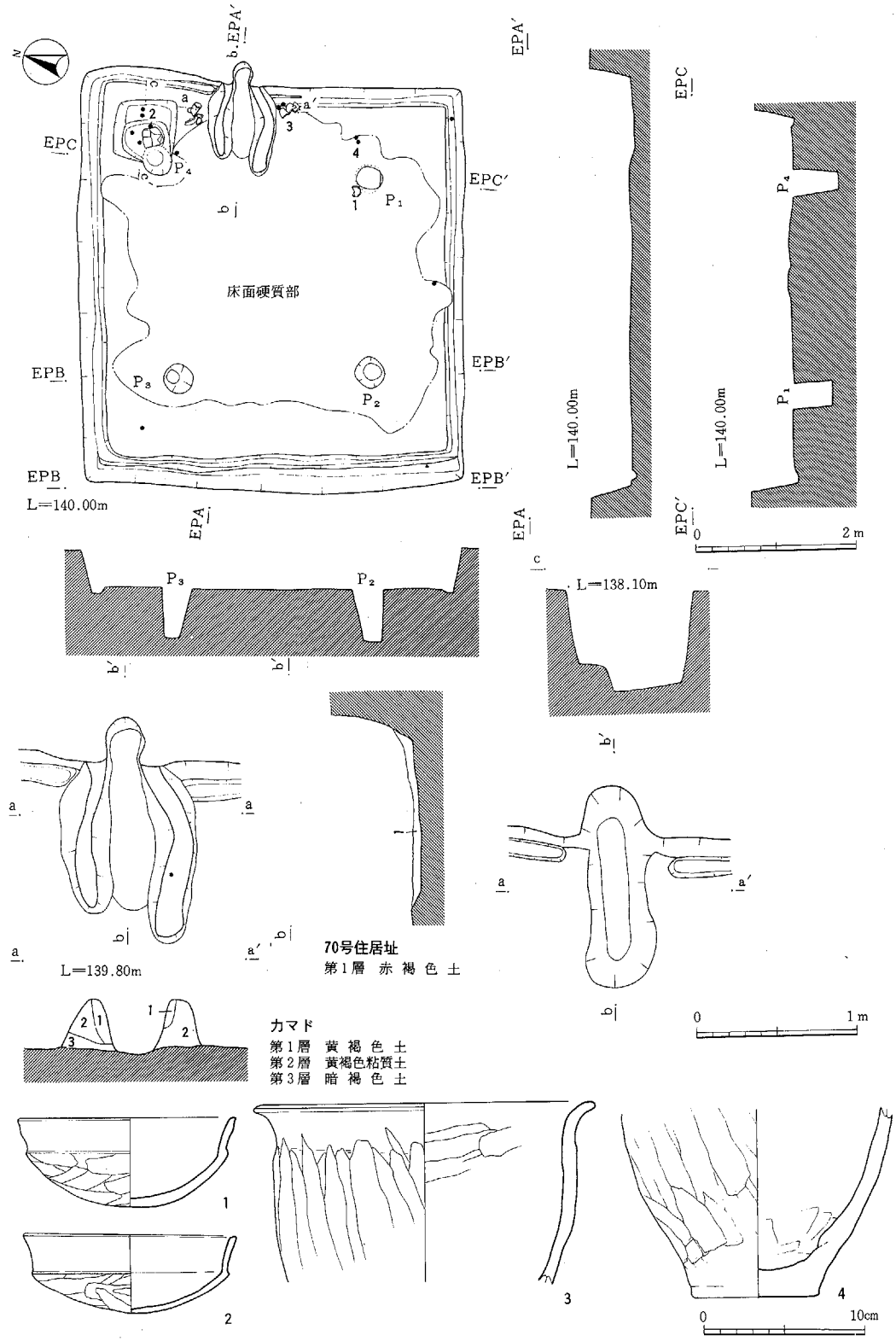
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
15	土師器 甕	底径10.0 残存21.9	大型の壺型土器で球形の胴部と突出気味の平底を有す。	外面ヨコ方向のハケ目のちミガキ 内面同化剥離している	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
16	土師器	口径13.7 底径 6.4 器高23.2	13を大型化したもので胴部はやや偏球形となる。	内外丁寧なミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡黄褐色	床着

70号住居址（第411図　図版101・117　表60）

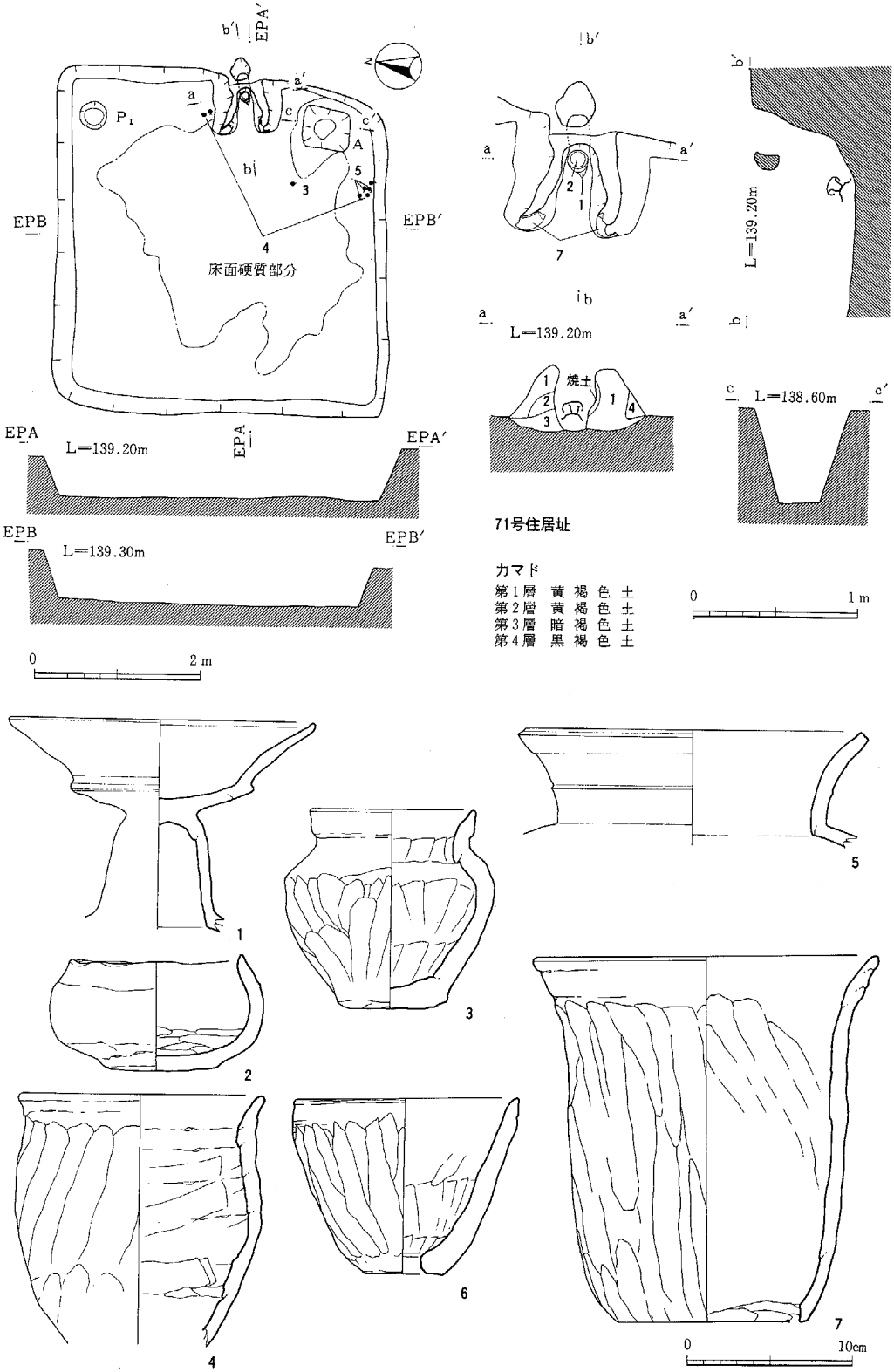
位置　Q－17グリッド／形態　方形／主軸方向　N－85°－E／規模　4.46ｍ×4.21ｍ（東西×南北）／壁高　42cm～45.5cm／壁溝　なし。／床　ローム層に掘り込まれている。硬質部分は中央部より南東隅炉址状の掘り込みがありその付近から南へかけた部分と炉址状の掘り込みに接した西側の一部に認められる。／柱穴　4本。Ｐ1・径37cm、深さ60cm。Ｐ2・径37cm、深さ62cm。Ｐ3・径37cm、深さ60cm。Ｐ4・径36cm、深さ59cm。／カマド　東壁中央部よりやや北側に位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込んでいる。傾斜は52°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。長軸210cm、短軸74cm、深さ4cm。方形を呈する。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　長軸76cm、短軸74cm、深さ64cm。方形を呈する。／**覆土の状況**は自然堆積である。黒褐色土を基調に2層と暗褐色土の3層に分かれる。**遺物**はカマド付近と貯蔵穴内とＰ1付近より出土した。実測点数4点。

表60　70号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径13.2 底径 3.1 器高 5.5	口縁部は外反し体部に外稜を有す。底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴
2	土師器 坏	口径13.0 底径 2.3 器高 4.8	口縁部は外反し体部に外稜を有す。底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
3	土師器 甕	口径20.5 残存11.0	口縁部は外に開き先端でさらに外反する。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ナデのちヘラケズリ内ヘラナデツケ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着 胴部上半破片
4	土師器 甕	底径 7.5 残存11.5	口縁部が最大径となるもので底部は突出した平底である。3と同一固体。	胴部外ヘラケズリ 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	褐色	床着



第411図　70号住居址・出土遺物



第412図　71号住居址・出土遺物

71号住居址（第412図　図版101・118　表61）

位置　Q－16グリッド／形態　方形／主軸方向　N－85°－E／規模　3.89ｍ×3.62ｍ（東西×南北）／壁高　52.5cm～57cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は中央部より東はカマドと貯蔵穴に接し、北西隅部分を除いた南寄りが硬質化されている。／柱穴　1本。北西隅に位置する。径32cm、深さ10cmと浅い。

／カマド　東壁中央よりやや南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を三角形に近い半円形に掘り込まれている。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。長軸94cm、短軸90cm、深さ4cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。土師器高坏を逆立にして支脚として転用している。その上を土師器坏が伏せた状態で検出されている。また、両袖の先端を甑の破片（同一固体）で補強されている。／貯蔵穴南東隅に位置する。長軸54cm、短軸48cm、深さ57cmを計る。隅丸長方形を呈する。

覆土の状況

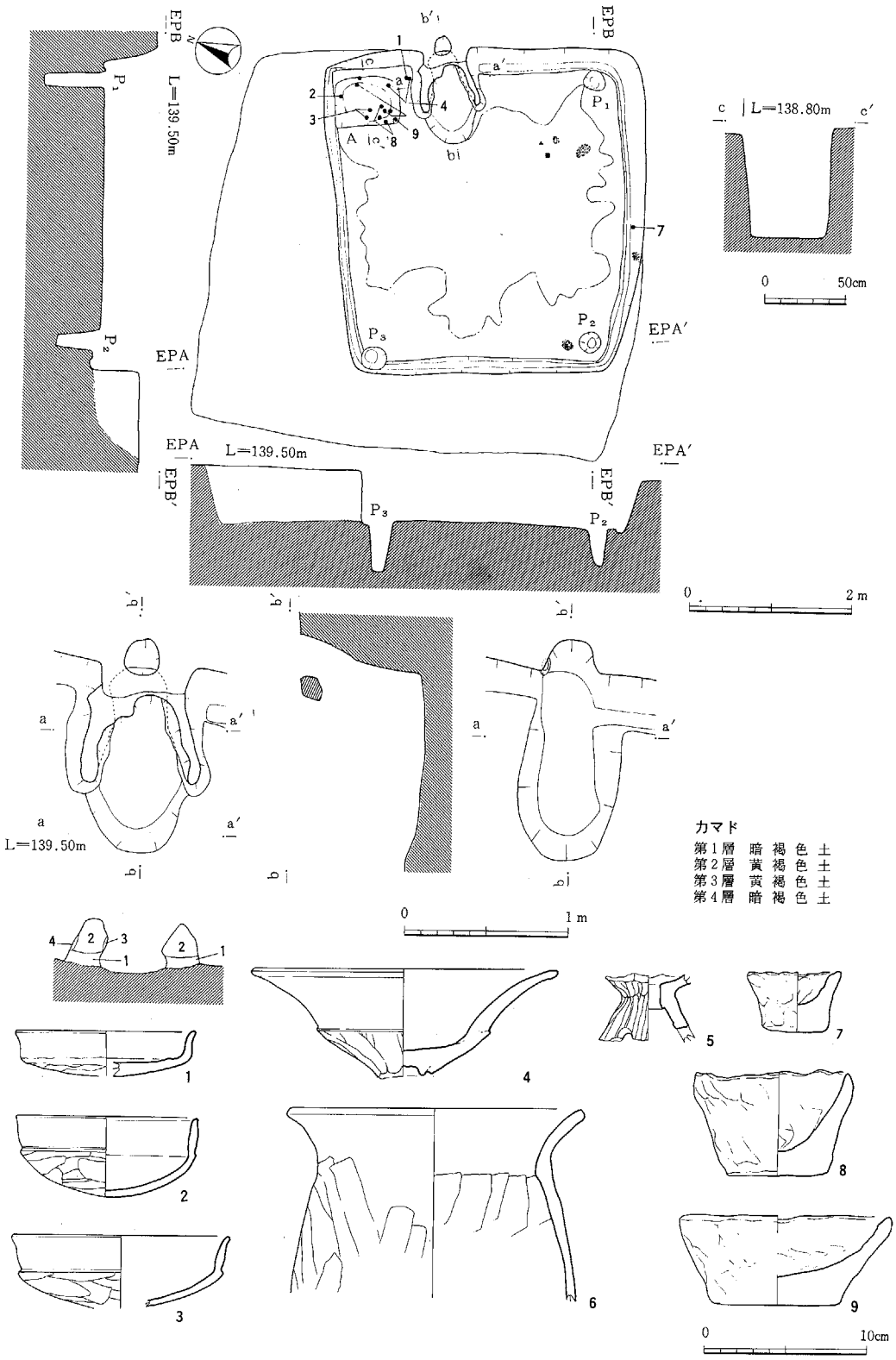
自然堆積である。黒褐色土を基調に2層と暗褐色土の3層に分層される。

遺　物

カマド内より坏が1点。支脚転用の高坏1点。カマド北側袖部下より、甕の破片が2点。床着貯蔵穴付近より、床着で土師器破片6点出土した。実測遺物は7点である。

表61　71号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 高坏	口径18.3 底径 4.3 残存12.5	坏部は突出する外稜を有し開き、先端で内反する。脚部は朝顔状に開く。	体部内外全体に回転台による回転ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	カマド 全体の $\frac{3}{4}$残存
2	土師器 坏	口径10.2 底径 3.1 器高 6.3	口縁部は内反し体部は偏球形となる。底部はやや突出した平底である。	口縁部内外ヨコナデ 体部外指圧 〃　内指ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	褐色	カマド 完形
3	土師器 甕	口径 9.9 底径 4.2 器高12.0	口縁部は短く開く突帯、胴部は肩が張るもので底部は平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ナデのちヘラケズリ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	黒褐色	貯蔵穴 口縁$\frac{2}{3}$ 欠損
4	土師器 甕	口径14.6 残存15.1	口縁部はやや開き気味になるものでロ径が最大径となるもの。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリのちナデ内ヘラナデのちケズリ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	カマド 胴部$\frac{1}{3}$ 欠損
5	土師器 甕	口径20.4 残存 6.9	口縁部は外反し端部は面を成す。胴部は球形となるものである。	口縁部内外ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 口縁約 $\frac{1}{3}$残存
6	土師器 甕	口径13.5 底径 4.5 器高10.6	口縁～胴部は外開し、口径が最大径となる。底部は単孔を有す。	口縁部内外ヘラナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	褐色	カマド 全体の $\frac{3}{4}$残存
7	土師器 甑	口径22.5 底径11.2 器高21.0	6の大型のもので寸胴となり口径と底径との差は余りない。単孔を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	カマド 全体の $\frac{1}{3}$残存



第413図　72号住居址・出土遺物

72号住居址（第413図　図版101・118　表62・63）

位置　P－16グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　3.58ｍ×3.93ｍ（東西×南北）／壁高　54cm／壁溝　カマド部分と貯蔵穴部分を除き全周する。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分はカマドの前方部より貯蔵穴に接し、東西は壁より46cm～15cm付近まで及び、西側は壁の24cm手前まで一部分が延びる。／柱穴　3本。P1・径26cm、深さ74cm。P2・径26cm、深さ52cm。P3・径31cm、深さ61cm。深さがまばらである。／カマド　東壁中央部よりやや北寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込まれている。傾斜は43°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。長軸110cm、短軸61cm、深さ5cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　北東隅に位置する。長軸81cm、短軸61cm、深さ68cm。長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に4層に分層される。

遺　物

北寄りに散乱して出土。土師器破片3点。（床着1点）その他、自然礫1点。粘土塊が3個体。それぞれ床着で出土。また、貯蔵穴内より甕と坏の破片が出土。実測遺物、総点数9点。

新旧関係

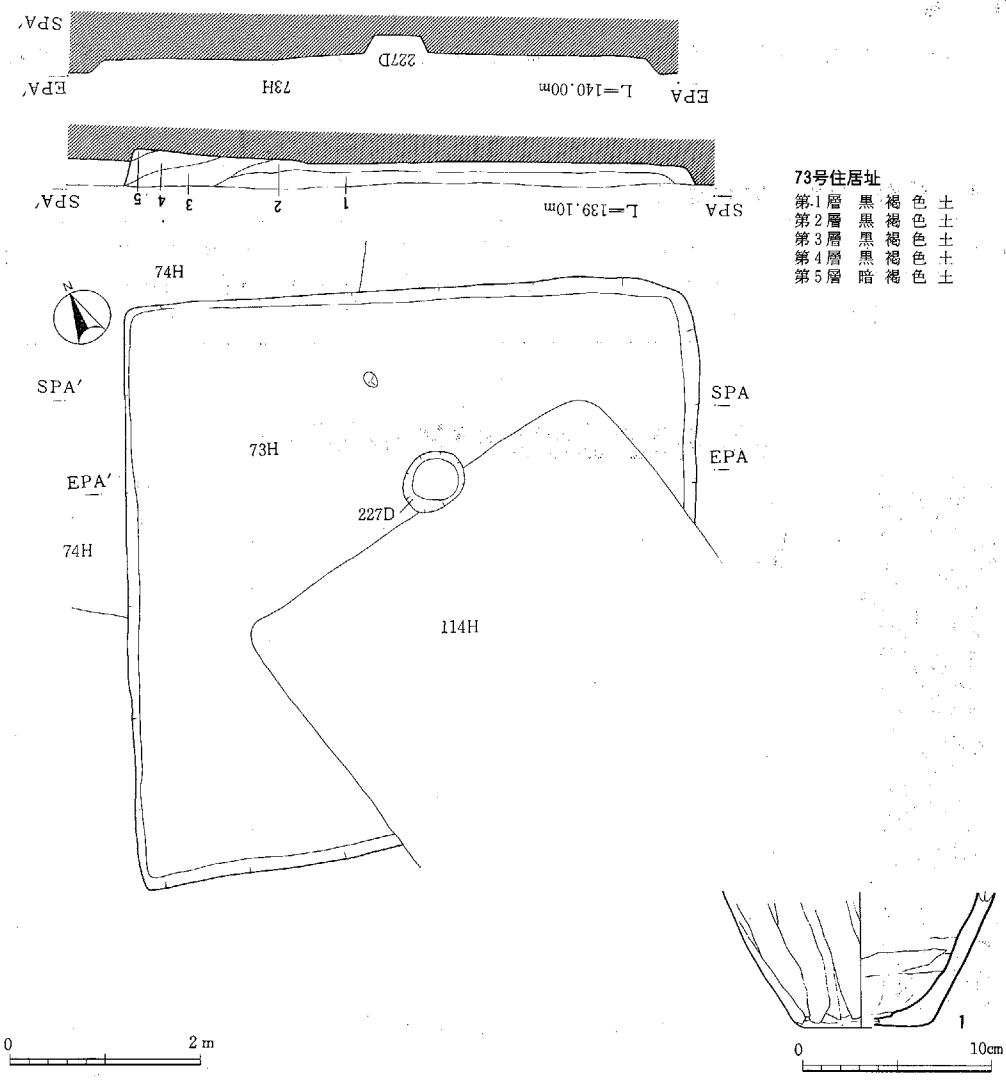
60号住居址を切る。

表62　72号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	復口10.8 残存 2.8	口縁部は直立気味で先端部で外反する。体部は緩い外稜を有し丸底に続く	口縁部内外ナデ 体部外指圧	砂粒含む	酸化炎 良好	淡橙褐色	貯蔵穴
2	土師器 坏	口径11.0 底径 1.7 器高 5.0	口縁部は直立気味で先端部は面を成す。体部は外稜を有し、丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴
3	土師器 坏	復口13.1 残存 4.5	口縁部は直立気味に外反し、体部は外稜を有し、丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	貯蔵穴
4	土師器 高坏	復口18.5 残存 6.5	坏口縁部は大きく外反し外稜を有す。脚部欠損。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 脚部欠損
5	土師器 器台	残存 3.8	受け部・脚部欠損。脚部上位に複数の透かし孔を有す。	脚部外ミガキ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
6	土師器 甕	口径17.8 残存11.5	口縁部は緩く「くの字」状に開き胴部は長胴化するもの。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
7	土師器 手ね	口径 5.7 底径 3.7 器高 3.6	手づくねで口縁～体部は開き、底部は平たく納める。指圧痕顕著。	内外ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着

表63　72号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
8	土師器	口径 9.5 底径 5.8 器高 6.2	口縁～体部は開き、先端で内反する。底部は平たく納める。	胴部外ナデ 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	褐色	貯蔵穴
9	土師器	口径12.8 底径 7.0 器高 5.4	口縁～体部は開き、先端で内反する。底部は平たく納める。	胴部外ナデ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡橙褐色	貯蔵穴



第414図　73号住居址・出土遺物

73号住居址（第414図　表64）

位置　R－16グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.32ｍ×5.29ｍ／壁高15cm～16cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。ほぼ中央部を227号土坑に切られる。さらに、中央部より南東側にかけて114号住居址にも切られる。全体に亘って面をなしているが硬質部分の検出はみられなかった。／柱穴　なし。／炉・カマド　なし。／貯蔵穴なし。114号住居址によって破壊された可能性が考えられる。

遺　物

覆土中より、土師器甕の破片が１点出土。床着で自然礫１点出土。実測遺物点数１点

新旧関係

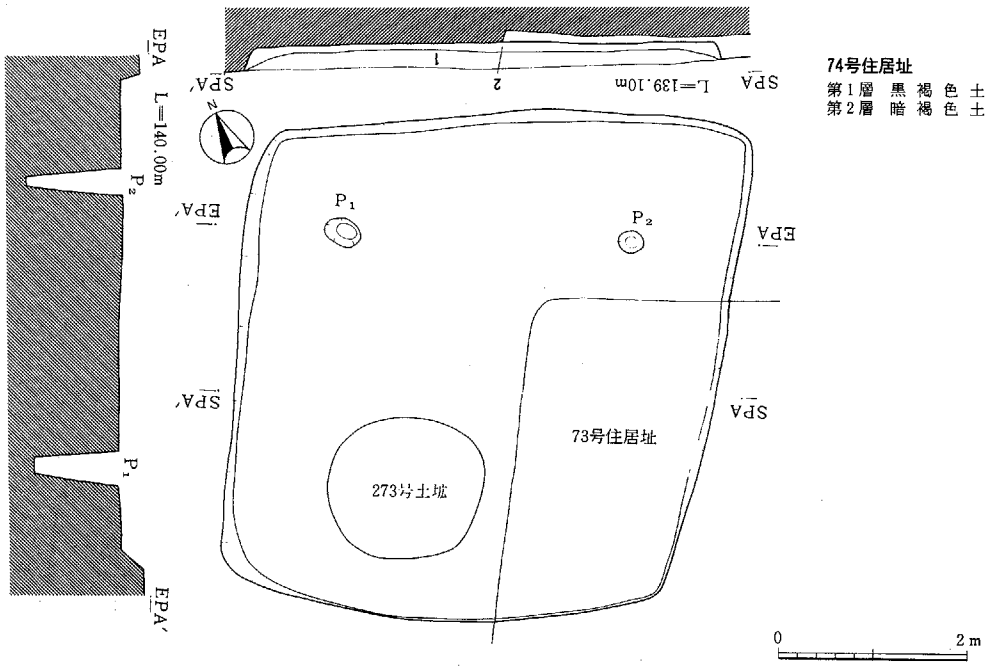
74号住居址を切る。また、227号土坑、114号住居址に切られる。

備　考

伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。

表64　73号住居址出土遺物観察表

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 甕	復底 6.5 残存 7.2	底部は器肉の薄い平底である。	胴部外ヘラナデ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡橙褐色	覆土中



第415図　74号住居址

74号住居址（第415図　図版102）

位置　Q－14、15グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.43ｍ×5.24ｍ（南北×東西）／壁高　15cm～24cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土に掘り込まれる。南西側寄りの床面を273号土坑に切られる。また、南東側の73号住居址を切る。全体に亘って面をなすが硬質部分の検出はみられなかった。／柱穴　２本。相対する残りの２本は273号土坑と73号住居址によって破壊された可能性が考えられる。Ｐ１・径38cm、深さ104cm。Ｐ２・径46cm、深さ88cm／炉・カマド　なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土と暗褐色の２層に分層される。

遺　物

検出されなかった。

備　考

伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。

75号住居址（第416・417回　図版102・118　表65・66）

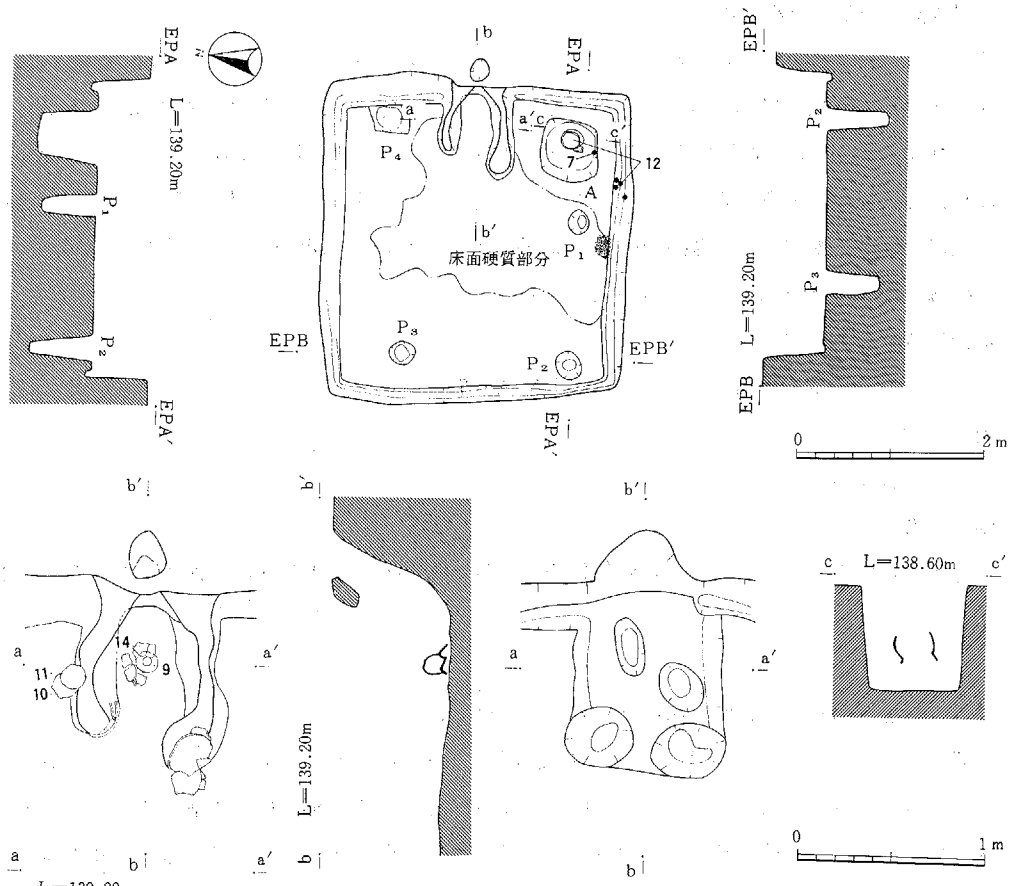
位置　Q－15グリッド／形態　方形／主軸方向　N－85°－E。／規模　3.06ｍ×2.77ｍ／壁高　56cm～64cm／壁溝　カマド部分を除いて全周する。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分はカマドの前方部より中央部にかけて西側は西壁の49cm手前まで及び主柱東側はほぼ中央部が壁溝に接する地点まで延びる。／柱穴　４本。Ｐ１・径26cm、深さ66cm。Ｐ２・径30cm、深さ58cm。Ｐ３・径24cm、深さ66cm。Ｐ４・径28cm、深さ58cm。／カマド　東壁中央部に位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。天井部が一部遺存する。煙道部は地山を半円形に掘り込んでいる。傾斜は54°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。／貯蔵穴　南東隅に位置する。長軸68cm、短軸60cm、深さ62cmを計る。長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に２層と暗褐色の合わせて３層に分かれる。

遺　物

南壁の中央よりやや東寄りの壁溝内に集中して土師器坏の破片が出土している。さらに貯蔵穴内に坏が転落した状態で出土。また、カマド内より甕の底部の破片が逆位にその上に小形甕の完形品が逆位で出土。支脚の転用が考えられる。その他、南壁中央寄りに粘土塊が床着で出土。実測遺物点数16点



カマド

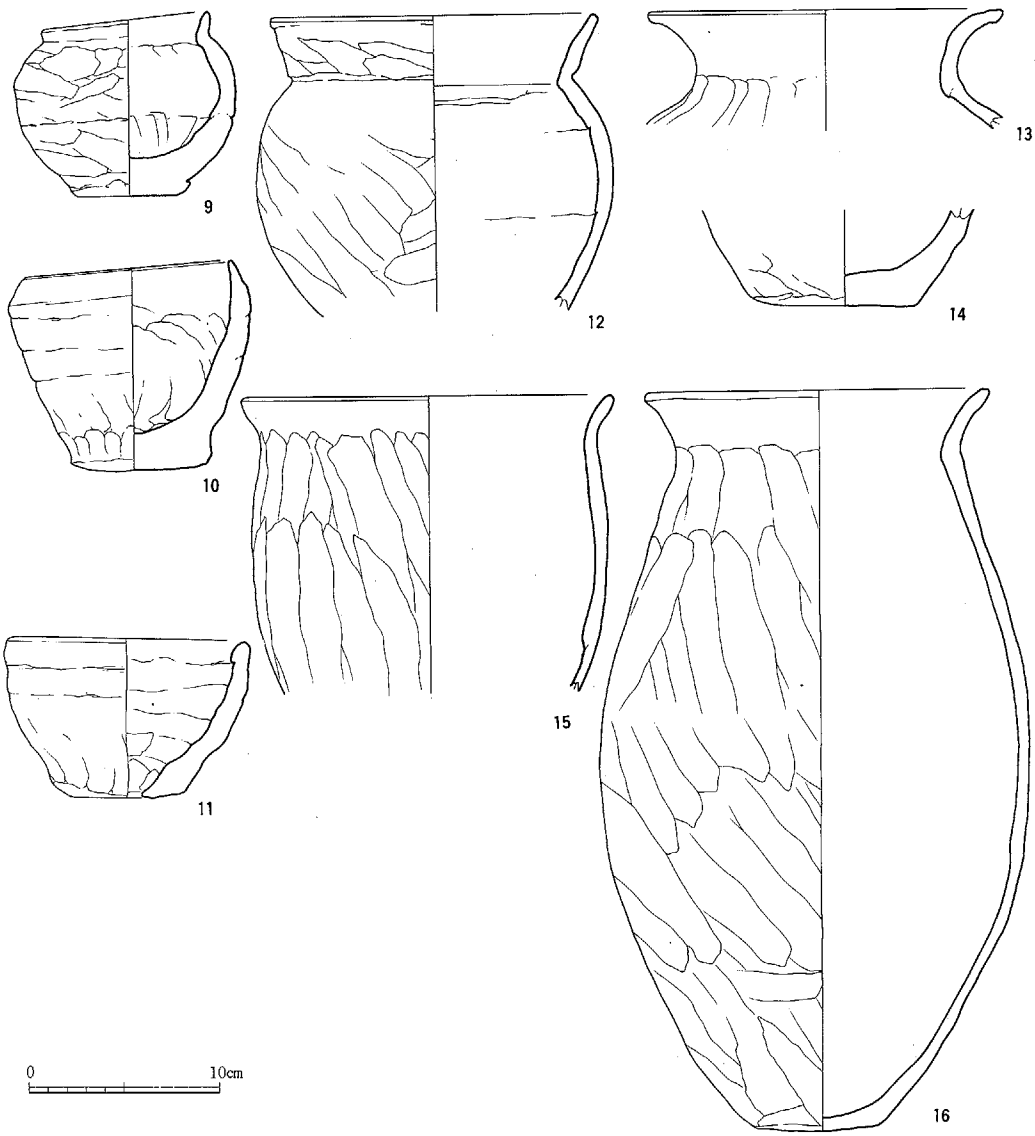
第1層　黒褐色土　白色の軽石粒細かく微量に含む。オレンジ色の軽石を含む。しまり弱。粘性弱。

第2層　黄褐色土　黒褐色土を少量含む。しまり強。粘性弱。

第3層　黄褐色土　焼土ブロックを含む。しまり強。粘性弱。

第4層　黄褐色土　暗褐色ブロックを微量に含む。しまり強。粘性強。

第416図　75号住居址・出土遺物(1)



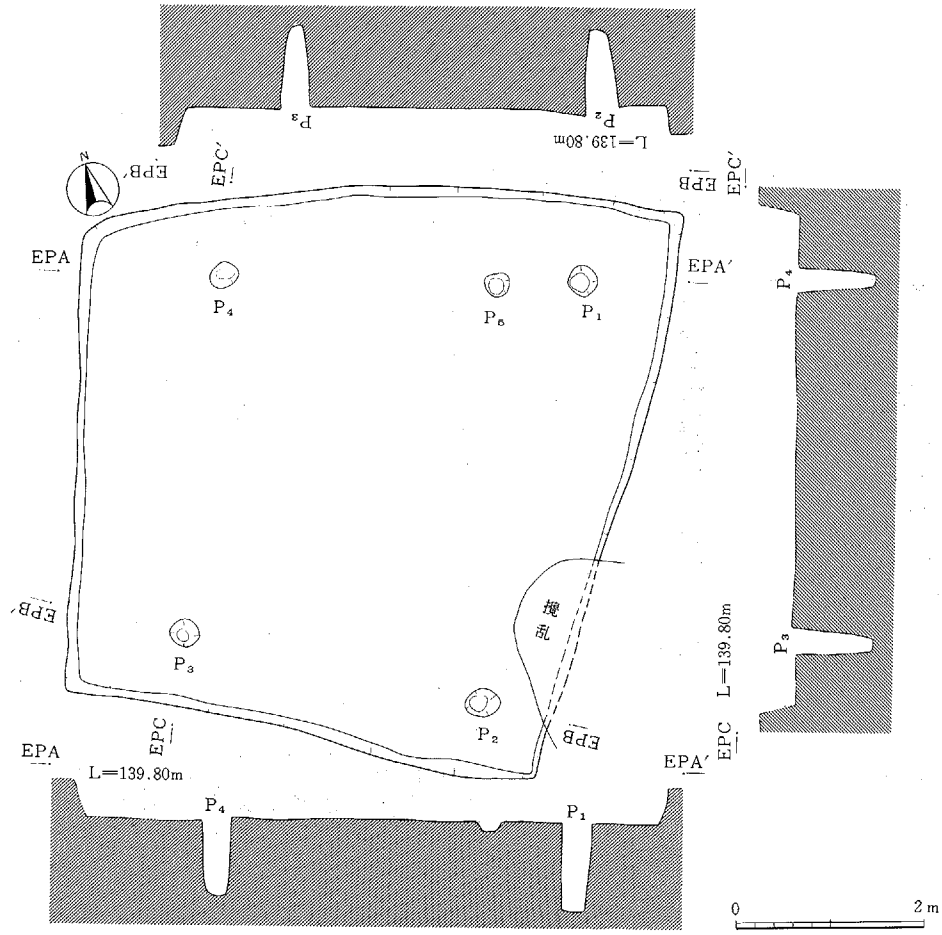
第417図　75号住居址出土遺物(2)

表65　75号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径12.0 底径 3.5 器高 4.3	口縁部は直立気味で先端部で外反する。体部は緩い外稜を有し丸底に続く	口縁部内外ヘラナデ体部外ナデのちヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴
2	土師器 坏	復口12.1 底径 3.1 器高 5.3	口縁部は直立気味に開き、体部は外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中

表66　75号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
3	土師器 坏	口径12.6 復底3.1 残存 4.6	口縁部は外反し端部で面を成す。体部は外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡橙褐色	 覆土中
4	土師器 坏	復口13.6 底径 4.1 器高 4.9	口縁部は外反し端部で面を成す。体部は外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
5	土師器 坏	口径12.8 底径 3.8 器高 5.2	口縁部は直立気味で先端部で外反する。体部は緩い外稜を有し丸底に続く	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中
6	土師器 坏	復口14.0 復底 2.0 残存 5.3	口縁部は外開し先端部で段を成す。体部は緩い内・外稜を有し丸底に続く	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
7	須恵器 坏	復口13.3 底径 3.0 器高 5.4	立ち上がりは短く内傾し口縁端部は丸く納める。底部は丸く安定に欠ける	口縁部内外ヨコナデ 体部外回転ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	貯蔵穴
8	土師器 高坏	 底径 9.0 残存 4.0	筒状の脚部は端部で裾広がりとなる。	脚部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	貯蔵穴 脚部破片
9	土師器 甕	口径 8.6 底径 5.6 器高 9.2	口縁部は短く開き内稜を有す。胴部は球形で底部は突出する平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	カマド
10	土撤器 鉢	口径11.0 底径 5.5 器高10.5	口縁部は内反し胴部は内反気味に開く。底部は突出する平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド
11	土師器	口径12.2 底径 4.3 器高 8.5	口縁・胴部は内反気味に開く。底部は小径の単孔を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド
12	土師器 甕	口径17.0 残存15.9	口縁部は「くの字」状に開き、複合口縁状となる。	口縁内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
13	土師器 甕	口径18.7 残存 6.2	口縁部は大きく外反し、端部は水平に近くなる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
14	土師器 甕	 底径 7.6 残存 5.2	底部は平底で器肉は厚い。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む 良好	酸化炎 良好	黒褐色	カマド
15	土師器 甕	復口19.3 残存15.8	口縁部は緩く「くの字」状に開き胴部は長胴化するもの。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗茶褐色	覆土中
16	土師器 甕	口径18.0 底径 6.5 器高39.3	口縁部は緩く「くの字」状に開き胴部は長胴化するもの。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中



第418図　76号住居址

76号住居址（第418図　図版102）

位置　O－14グリッド／形態　不整方形／主軸方向　N－20°－E／規模　5.74ｍ×5.61ｍ（南北×東西）／壁高　38.5cm～42cm／壁溝　なし。／床　灰色砂質土に掘り込まれる。特に硬質化された所は検出されていない。／柱穴　5本。P1～P4が主体穴に相当すると考えられる。P1・径31cm、深さ92cm。P2・長径34cm、短径30cm、深さ84cm。P3・径32cm、深さ98cm。P4・径28cm、深さ79cm。P5・径26cm、深さ11cm。／炉　なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

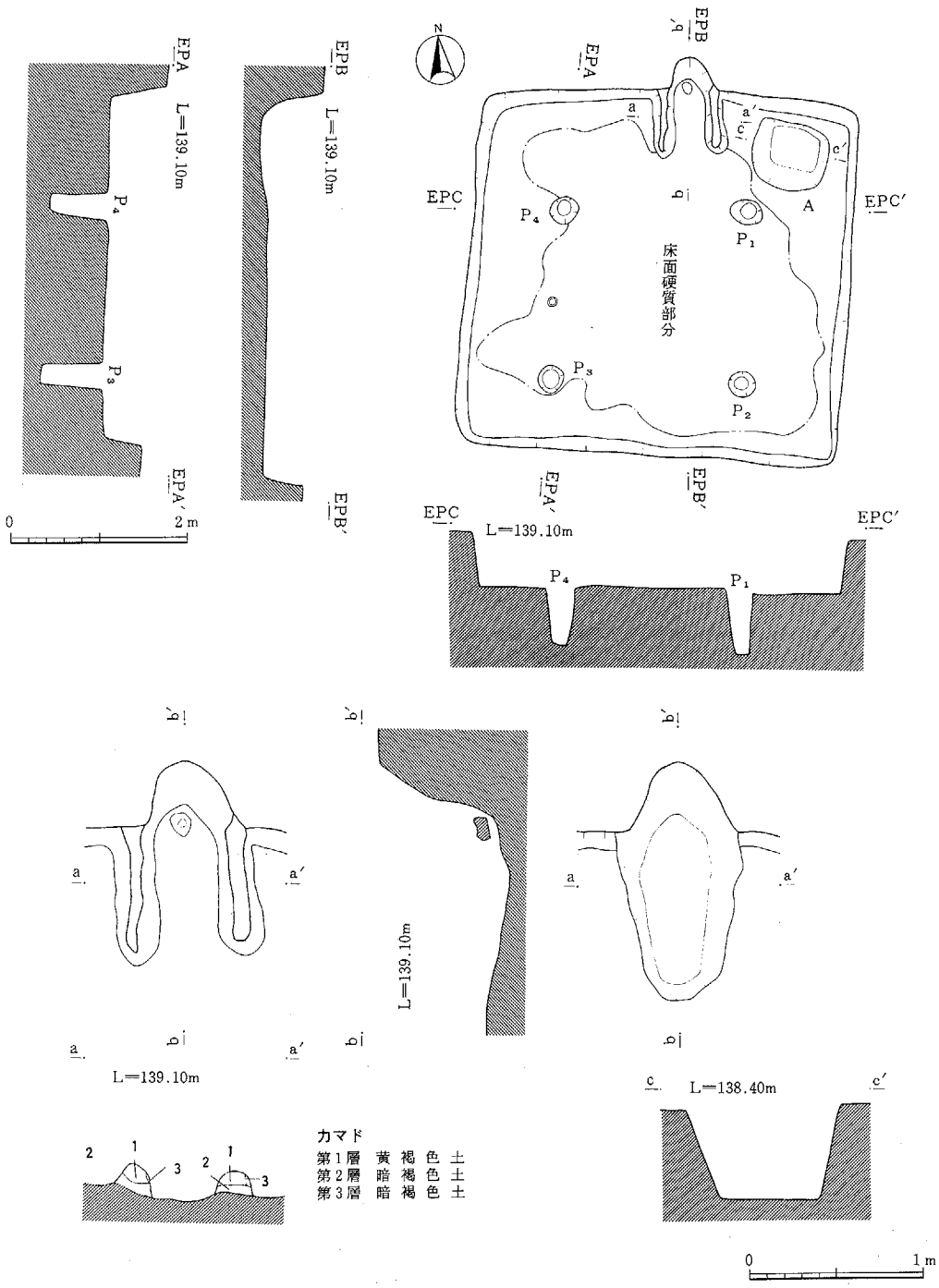
自然堆積である。黒褐色土を基調に3層、暗褐色砂質土層1層の合わせて4層に分層される。

新旧関係　南東隅寄りを撹乱に切られる。

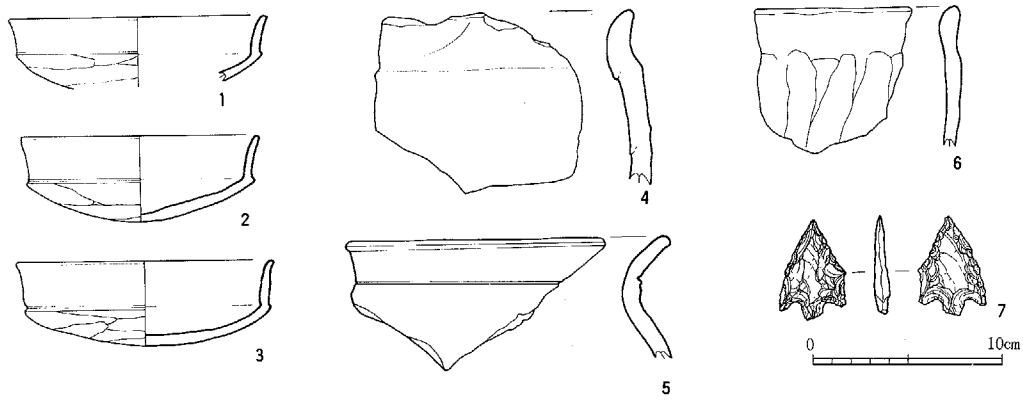
遺　　物　覆土中に土師器の細片が出土している。実測可能なものは検出されなかった。

備　　考

伴出遺物の出土はみられなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。



第419図　77号住居址



第420図　77号住居址出土遺物

77号住居址（第419・420図　図版102・103・118　表67・68）

位置　R－13、14グリッド／形態　方形／主軸方向　N－10°－E／規模　4.24m×4.14m（東西×南北）／壁高　57cm～62.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に北側はカマドの前方部に接し、南西部分と南東部分は壁に近接した範囲で検出されている。／柱穴　4本。P1・長径34cm、短径30cm、深さ68cm。P2・径32cm、深さ64cm。P3・径34cm、深さ64cm、P4・径34cm、深さ65cm。

カマド　東壁のやや南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込まれている。傾斜は66°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸106cm、短軸61cm、深さ6cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。

貯蔵穴　北東隅に位置する。長軸87cm、短軸79cm、深さ61cm。隅丸長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に2層と暗褐色砂質土の合わせて3層に分層される。

遺　物

P3とP4の柱穴間線上に床着で土師器坏が1点出土。その他、覆土中より土師器破片（甕・坏）が10点出土した。また、覆土中に縄文時代所産の石鏃1点が含まれていた。実測点数7点。

表67　77号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径13.2 残存 7.3	口縁部は外反して端部で面を成す。体部は外稜を有して丸底となる。	口縁部内ヨコナデ 体部外ヘラケズリ内	砂粒含む	酸化炎	淡赤褐色	覆土中
2	土師器 坏	口径12.5 底径 3.2 器高 4.9	口縁部は外傾し、体部は外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
3	土師器 坏	口径13.4 底径 4.6 器高 4.8	口縁部は直立気味となり、体部は外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	淡赤褐色	覆土中

表68　77号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
4	土師器 甕	復口14.2 残存高 9.5	胴部は内反気味に開くもので、口縁部は短く内傾しながら外反する。	口縁部内外ヨコナデ 胴部内外ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	黒褐色	覆土中
5	土師器 甕	復口18.7 残存 6.5	長胴甕の口縁部	口辺部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
6	土師器 甕	復口15.0 残存 7.3	口縁部は外傾し底部に単孔を有すもの。	口辺部ヨコナデのち指ナデ胴部外面外ヘラケズリ内ヘラケズリのちナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中
7	石鏃 (有茎)	長さ 2.7 幅　1.6 重さ 1.5g	チャート質の有茎腹抉タイプのもので本跡には帰属しない。	縄文所産のものと思われる 本址覆土第1層中より出土した	——	—	—	覆土中

78号住居址（第421・422図　図版103・118　表69・70）

位置　R－13グリッド／形態　方形／主軸方向　N－115°－E／規模　4.40m×4.27m（東西×南北）／壁高　75.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に西側から北西側にかけては壁に近接する範囲で検出。またP1とP2を避けるようにして検出している。／柱穴　4本。P1・径24cm、深さ68cm。P2・径25cm、深さ70cm。P3・径24cm、深さ62cm。P4・径29cm、深さ78cm。／カマド　南壁中央より西寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込んでいる。傾斜56°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸108cm、短軸44cm、深さ4cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　南東隅寄りに位置する。長軸72cm、短軸66cm、深さ57cmを計る。隅丸長方形を呈する。

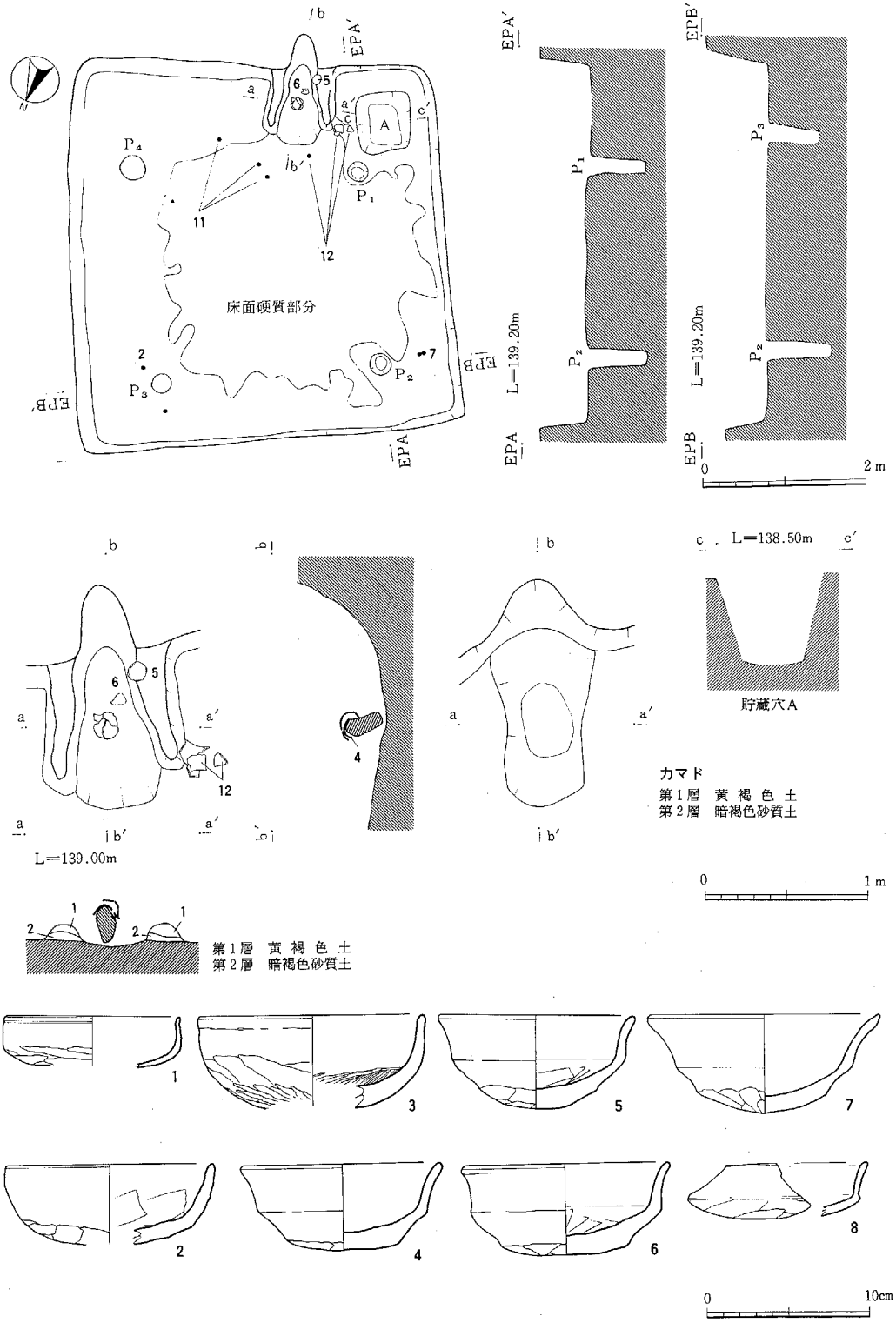
覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土と暗褐色土を基調に2層の合わせて3層に分層される。

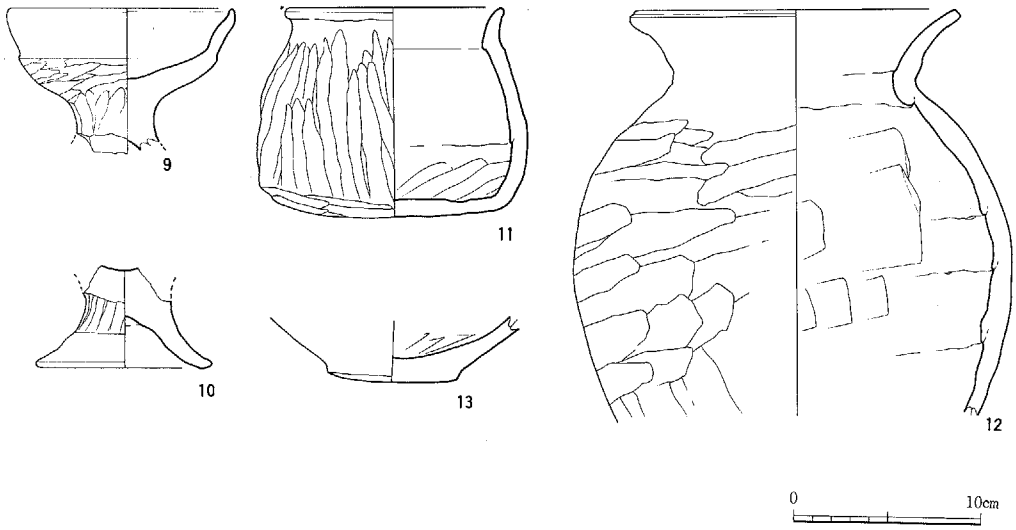
遺　物

3号・66号住居址同様に土師器坏が支脚の上に逆位で本址では2個体重ねた状態で検出している。また、床着遺物はカマド付近に集中している。

全体に散在して出土している。特に貯蔵穴内より集中して出土している。実測遺物点数13点。



第421図　78号住居址・出土遺物(1)



第422図　78号住居址出土遺物(2)

表69　78号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	復口10.4 底径 6.8 残存 3.0	口縁部は内反気味に立ち上がり端部でさらに外反する。底部は平底となる	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中
2	土師器 坏	口径12.4 残存 4.9	口縁部は内反気味に開き底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
3	土師器 坏	復口13.5 残存 5.5	口縁部は直立気味に開き底部は丸く納める。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリのちヘラミガキ内ヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
4	土師器 坏	口径12.0 底径 4.4 器高 5.2	口縁部は外反し体部に稜を有し、丸みを帯びる平底となる。全体に粗雑。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	カマド
5	土師器 坏	口径11.7 底径 3.5 器高 5.6	口縁部は外反し体部に稜を有し、丸底となる。全体に粗雑。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	カマド
6	土師器 坏	復口12.4 底径 5.4 器高 5.4	口縁部は外反し体部に稜を有し、丸みを帯びる平底となる。ぜなたいに粗雑。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	赤褐色	カマド
7	土師器 坏	口径13.2 底径 3.2 器高 6.0	口縁部は外反し体部に稜を有し、平底となる。全体に粗雑。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 体部$\frac{1}{2}$ 残存
8	土師器 坏	復口13.2 残存高 3.2	口縁部は外反し体部に稜を有す須恵器模倣の坏。	体部ヨコナデ 底部ヘラケズリ 内面ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
9	土師器 高坏	口径11.8 残存 7.7	坏口縁部は外開し端部で内反する。脚部は筒状より裾広がりとなる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラナデツケ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	カマド 坏部$\frac{2}{3}$ 脚部欠損
10	土師器 高坏	底径 8.7 残存 5.1	脚部は裾広がりとなるもの。	脚部外ヘラナデツケのちミガキのちヘラナデ、 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	床着

表70　78号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器　種	法量cm)	器形の特徴	整･成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置遺存度
11	土師器甕	口径11.2 底径 8.2 器高11.0	口縁部は外反し胴部は内反気味となる。底部は平底で全形は籠状となる。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	淡褐色	床着
12	土師器甕	口径16.9 残存21.8	口縁部は外反して胴部は中位に最大径を取るものである。	口縁部内外ナデ 胴部外ヨコヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	淡赤褐色	カマド
13	土師器甕	復底径 6.7 残存 3.3	球形の胴部より底部は突出気味の平底となる。	胴部内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎良好	黒褐色	覆土中

79号住居址（第423・424図　図版103・118　表71）

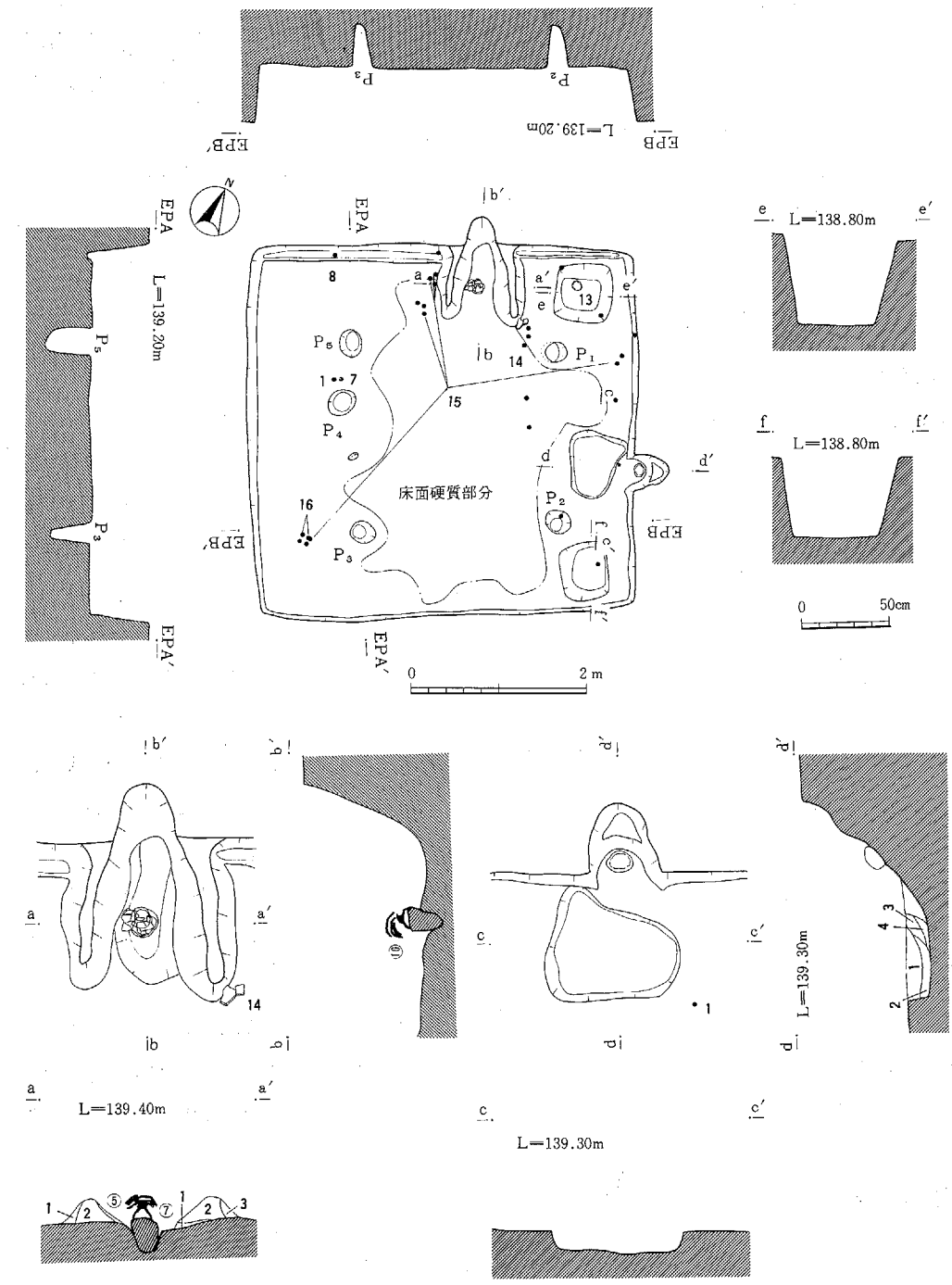
位置　P・Q－13グリッド／形態　方形／主軸方向　N－80°－W（新）、N－60°－E（旧）／規模　4.56ｍ×4.28ｍ（東西×南北）／壁高　43cm～58.5cm／壁溝　カマド部分を除く北壁沿いに検出されている。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。　中心部より北はカマド部分に接し、南は壁に近接した範囲まで及ぶ。また、東側では一部分、P１とP２の柱穴間の線上より外側に延びている。／柱穴　５本。P１～P４が主柱穴に相当する。P１・径24cm、深さ51cm。P２・径28cm、深さ49cm。P３・径28cm、深さ48cm。P４・長径31cm、短径24cm、深さ51cm。P５・長径34cm、短径26cm、深さ34cm。／カマド　東側から北側へと付け変えが行われている。○カマド（新）　北壁の中央部よりやや東寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込まれている。傾斜87°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸92cm、短軸44cm、深さ４cm、支脚部分の掘り込みの深さ17cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。○カマド（旧）　東壁の中央よりやや南寄りに位置する。袖部の痕跡は残されていない。煙道部は半円形に掘り込まれる。傾斜は56°を計る。煙道部に支脚を置かれた状態で人為的に埋土されている。火床部は掘り方が残存し、焼土の痕跡は若干認められるが、灰層は抜かれ人為的に埋め戻されて踏み固められている。／貯蔵穴　カマドと同様、新・旧の２基検出。○貯蔵穴（新）　北東隅に位置する。長軸67cm、短軸64cm、深さ48cm。方形を呈する。覆土は自然堆積である。貯蔵穴（旧）　南東隅に位置する。長軸63cm、短軸54cm、深さ46cm。方形を呈する。覆土は人為的な埋土である。締まり強く踏み固められている。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に２層と暗褐色土の合わせて３層に分層される。

遺　物

全体に亘って土師器破片が散乱して出土。その他、カマド付近より須恵器坏２点出土。実測遺物点数16点。



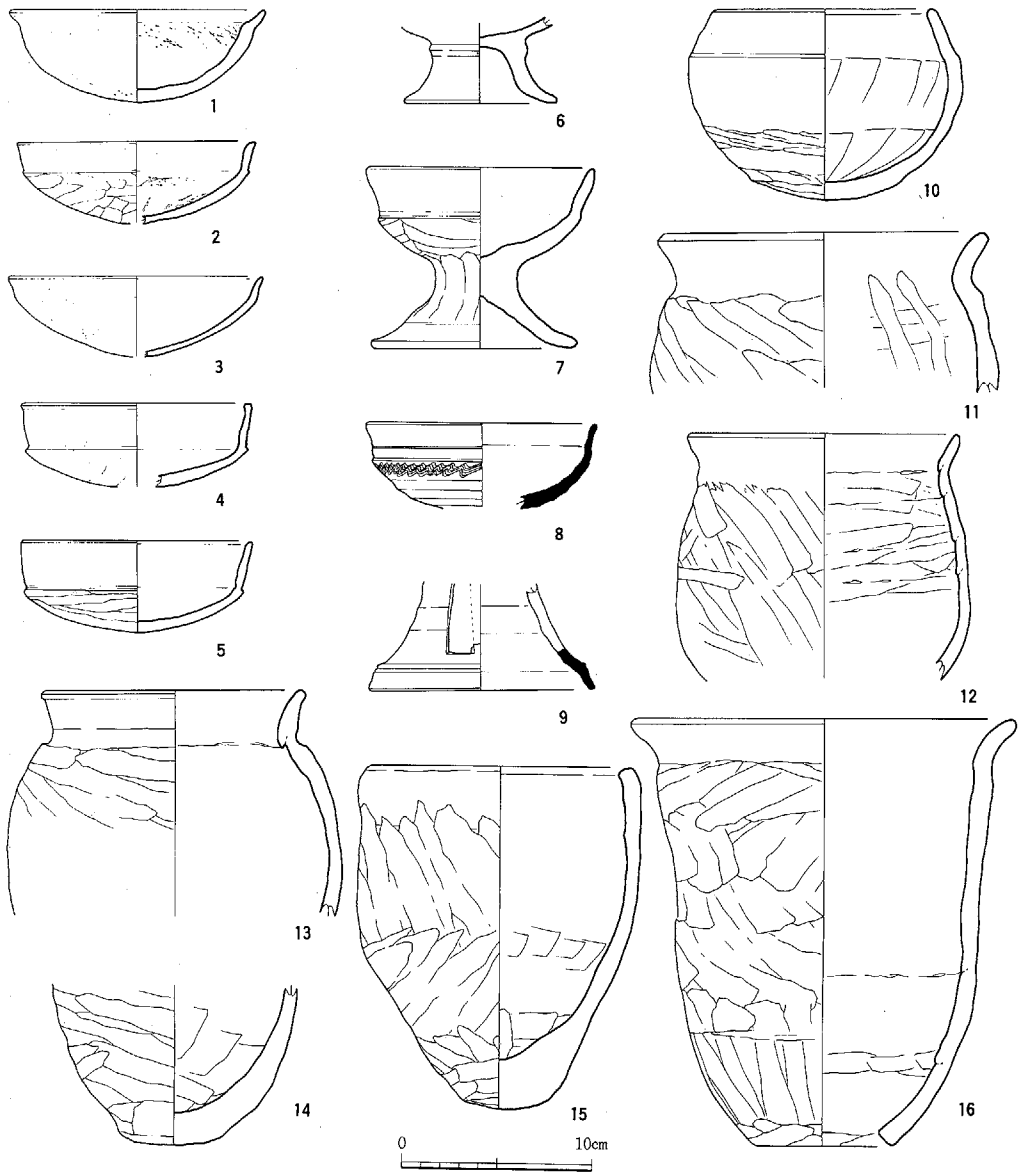
カマド

第1層 黄褐色土 焼土ブロック混入する。しまり強。粘性強。
第2層 黄褐色土 白色の軽石を微量に含む。しまり強。粘性強。
第3層 黄褐色土 焼土を含む。しまり強。粘性強。

旧カマド

第1層 黒褐色土
第2層 黒褐色土
第3層 黄褐色砂質土
第4層 灰色砂質土

第423図　79号住居址



第424図　79号住居址・出土遺物

表71　79号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	復口13.4 底径 器高 4.8	口縁部は内稜を有し短く受け気味に開き、底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ナデのちヘラミガキ内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
2	土師器 坏	復口12.5 底径 2.2 残存 4.3	口縁部は外傾し体部に外稜を有し、底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
3	土師器 坏	口径13.3 残存 4.3	口縁部は短く外反し体部に緩い外稜ををを有し、底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ケズリのちヘラミガキ内ナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
4	土師器 坏	口径12.0 残存 4.4	口縁部は外傾し端部は面を成す。体部に外稜を有し、底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中
5	土師器 坏	口径12.1 底径 2.2 器高 4.8	口縁部は直立気味に開き体部に外稜を有し、底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	カマド
6	土師器 高坏	 底径 7.7 残存 4.4	脚部は坏部との接点で突体を有し裾広がりとなる	脚部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
7	土師器 高坏	口径11.9 底径10.2 器高 9.5	2の坏部に裾広がりとなる脚部を有す須恵器模倣のものである。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ナデツケ、脚部内外ナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎	橙褐色	カマド
8	須恵器 高坏	復口12.0 残存 4.5	内体部に稜を、外体部に沈線・櫛描き波状文を有す。Ⅱ式1～2か	体部内外ロクロ回転によるナデ	砂粒含む	還元炎	灰褐色	床着
9	須恵器 高坏	 底径11.5 残存 5.8	脚部は裾で外稜を有し、縦長の透かし孔を有す。	脚部内外ロクロによるナデ	砂粒含む	還元炎 良好	灰褐色	覆土中 脚部 $\frac{1}{2}$残存
10	土師器 坏	口径11.4 底径 器高10.0	口縁部は内傾し、胴部は球形となり、突出する底部は丸く納める。	口縁部内外ナデ、胴部外ヘラケズリのちミガキ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	カマド
11	土師器 甕	口径16.8 残存 8.2	口縁部は「くの字」状に外反し、胴部はやや長めとなる。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
12	土師器 甕	口径14.0 残存13.2	口縁部は「くの字」状に外反し、胴部は下膨れ状となる。	口縁部内外ナデ 胴部外ナデのちケズリ 〃 内木ロヘラ	砂粒石粒 含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
13	土師器 甕	口径13.2 残存12.1	口縁部は外反し頸部で稜を有し胴部は球形に近似する。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴
14	土師器 甕	 底径 3.5 残存 8.5	底部は突出気味の平底となる。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎	赤褐色	カマド
15	土師器 甕	口径13.8 底径 1.8 器高17.9	口縁～体部は直立気味に、端部で内反気味となる。底部は尖り気味の丸底	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎	赤褐色	床着
16	土師器 甑	口径19.9 底径 7.3 器高22.4	口縁部は外反し胴部は寸胴で底部は単孔を有す。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 内ヘラナデのちヘラケズリ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着

80号住居址（第425・426図　図版103・104・118・119　表72・73）

位置　P－13グリッド／形態　方形／主軸方向　N－80°－E／規模　4.56ｍ×4.28ｍ／壁高43cm～58.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土に掘り込まれる。硬質部分はカマドの両脇と貯蔵穴の手前からＰ１とＰ２の柱穴間にかけて検出されている。／柱穴　５本。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当する。Ｐ１・径29cm、深さ76cm。Ｐ２・径23cm、深さ74cm。Ｐ３・径36cm、深さ74cm。Ｐ４・径29cm、深さ73cm。Ｐ５は貼り床の下より検出。Ｐ５・径36cm、深さ24cmを計る。／カマド　東壁中央部よりやや南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は天井が遺存する。傾斜55°をはかる。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸1.23ｍ、短軸36cm、深さ９cmを計る。平面は楕円形を呈する。断面は皿状を呈する。支脚は石を使用されている。／貯蔵穴　南東隅に位置する。長軸80cm、短軸69cmで平面は長方形を呈し、断面は２段掘りを呈する。深さ中段12cm、下段64cm。

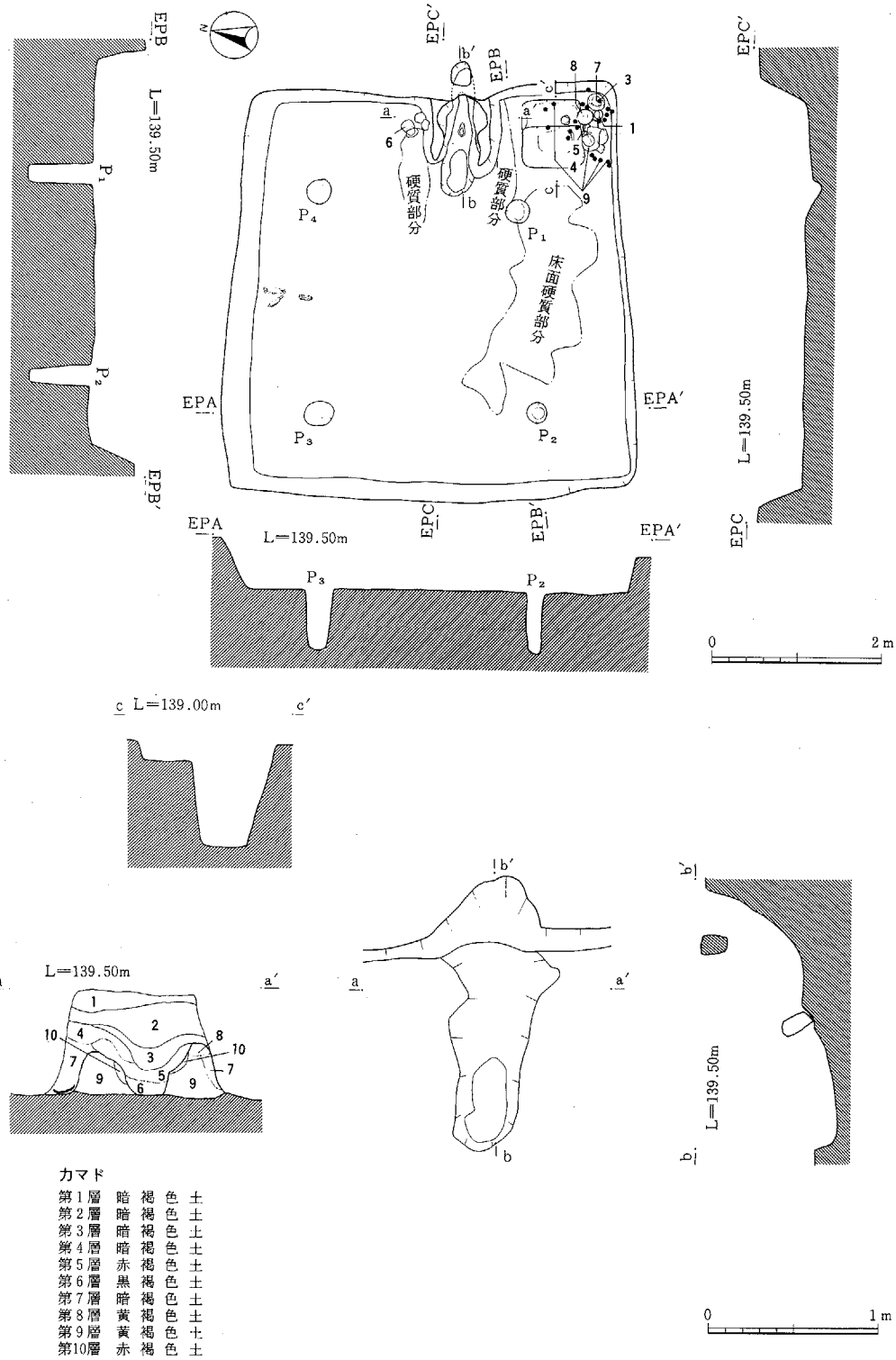
覆土の状況　自然堆積である。黒褐色土を基調に４層に分層される。

遺　物

南東隅に集中して人為的に寄せたかのように検出。（長胴甕・甕・甑・坏）その中でも長胴甕は隅に立て掛けた状態で出土。また、カマドの北側の脇に甕が横位で検出。さらに、西壁寄りの覆土上層より須恵器坩のほぼ完形品が１点出土。実測遺物点数10点。

表72　80号住居址遺物観察表(1)

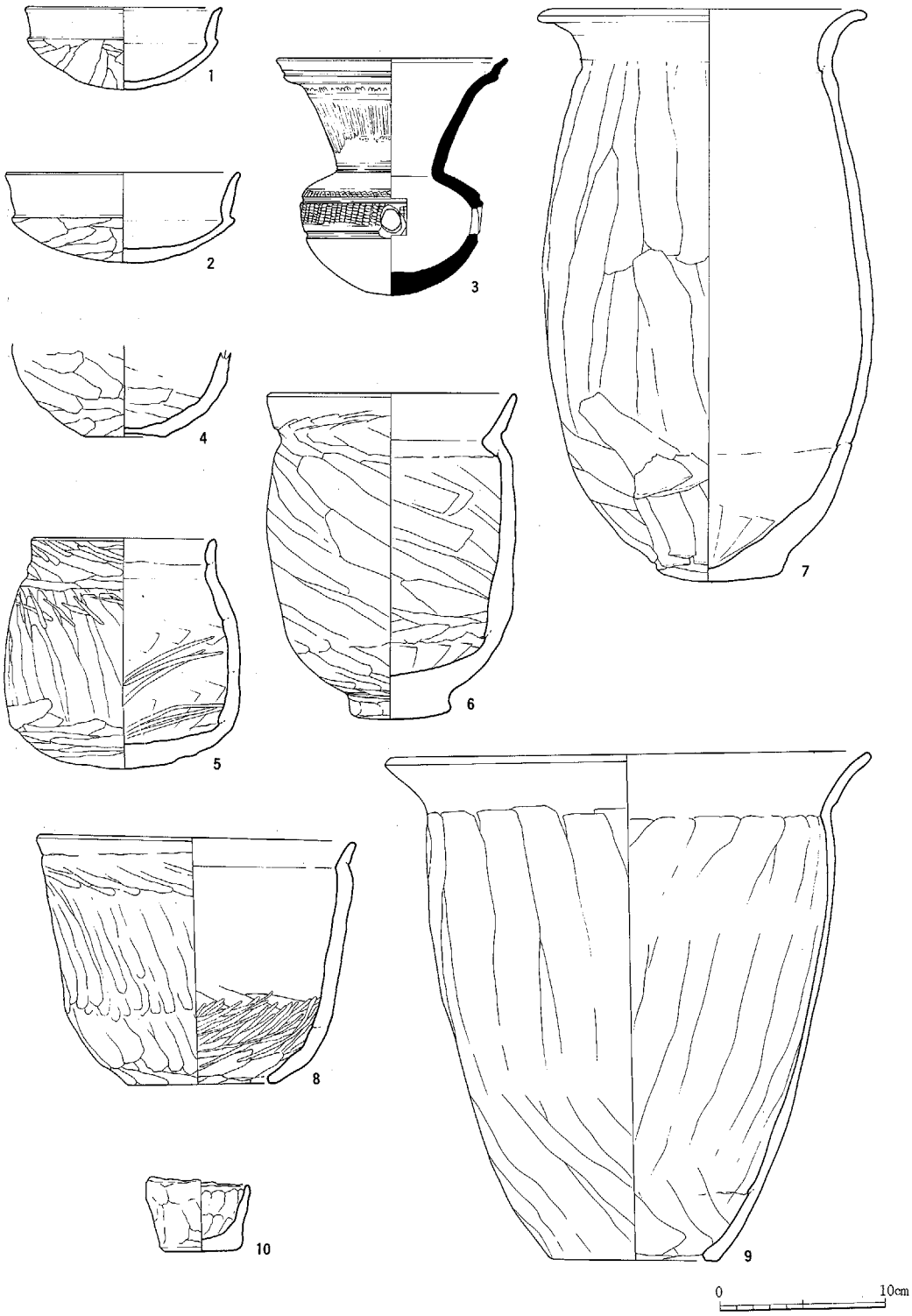
番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径11.6 底径 3.6 器高 5.0	口縁部は外反し端部は段を有す。体部に外稜を有し、底部は丸底となる。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗赤褐色	床着 完形
2	土師器 坏	復口13.9 底径 4.0 器高 5.4	口縁部は外反し、体部に外稜を有し、底部は丸底となる。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	カマド
3	須恵器 坩	口径13.8 底径14.3 器高 4.0	太めの頸部よりの口縁部は段を成し球形の胴部は沈線・刺突と円孔を有す	口縁部内外ヨコナデ 体部内外ロクロによるナデ	砂粒含む	還元炎	青黒色	覆土中
4	土師器 甕	底部 5.0 残存 5.5	胴部は球形となり、底部は上げ底気味となる。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 底部破片



カマド

第1層	暗	褐	色	土
第2層	暗	褐	色	土
第3層	暗	褐	色	土
第4層	暗	褐	色	土
第5層	赤	褐	色	土
第6層	黒	褐	色	土
第7層	暗	褐	色	土
第8層	黄	褐	色	土
第9層	黄	褐	色	土
第10層	赤	褐	色	土

第425図　80号住居址



第426図　80号住居址出土遺物

表73　80号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
5	土師器 甕	口径11.0 底径 9.8 器高13.8	口縁～胴部は全体に内反し底部は突出気味の平底となる。全形籠状を呈す	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着 完形
6	土師器 甕	口径14.7 底径 6.0 器高19.5	口縁部は内稜を有し張りのない胴部より大きく突出する底部をなす。	口縁部内外ヘラナデ 胴部外斜め方向のヘラケズリ内ケズリのちヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 完形
7	土師器 長胴甕	口径18.8 底径 7.0 器高34.5	口縁部は大きく外反し長胴化する胴部より突出する底部を形成する。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ内木ロナデのちヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	褐色	床着
8	土師器 甑	口径18.6 底径 8.4 器高14.8	口縁部は内稜を有し、箱形の胴部より底部に単孔を有す。	口縁部内外ナデ、胴部外ヘラケズリのちナデツケ内ヘラケズリのちミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
9	土師器 甑	口径28.5 底径10.0 器高30.5	口縁部は外反し胴部は緩やかに開く、底部は単孔を有し器肉は薄い。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリのちナデツケ内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
10	土師器 手ね	口径 6.1 底径 4.3 器高 4.2	手　土器で口縁～体部は外傾し、底部は平たく納める。	指圧痕	砂粒含む	酸化炎	暗褐色	覆土中

81号住居址（第427・428図　図版104・120　表74・75）

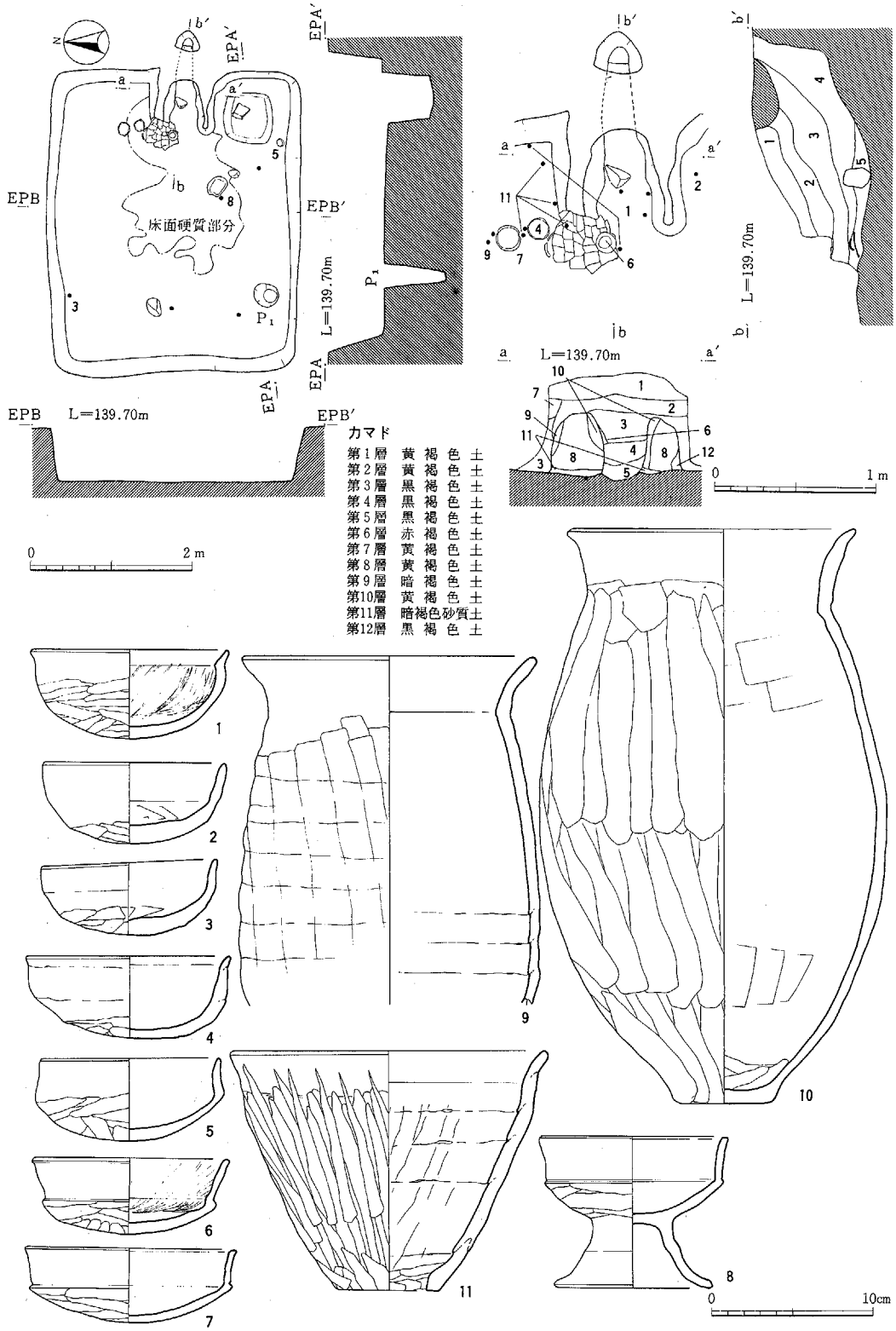
位置　O－13グリッド／形態　長方形／規模　3.40ｍ×2.88ｍ／主軸方向　N－95°－E／壁高　66cm～67cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は中央部分よりカマドに接して検出されている。／柱穴　1本。南西隅寄りに位置する。径33cm、深さ73cm／カマド　東壁中央部に位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。天井部が一部分わずかに遺存する。煙道部は地山をほぼ三角形に掘り込まれている。傾斜は46°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸1.02ｍ、短軸47cm、深さ7cmを計る。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。支脚は石製である。／貯蔵穴　南東隅に位置する。長軸は63cm、短軸62cm、深さ51cm。方形を呈する。

覆土の状況

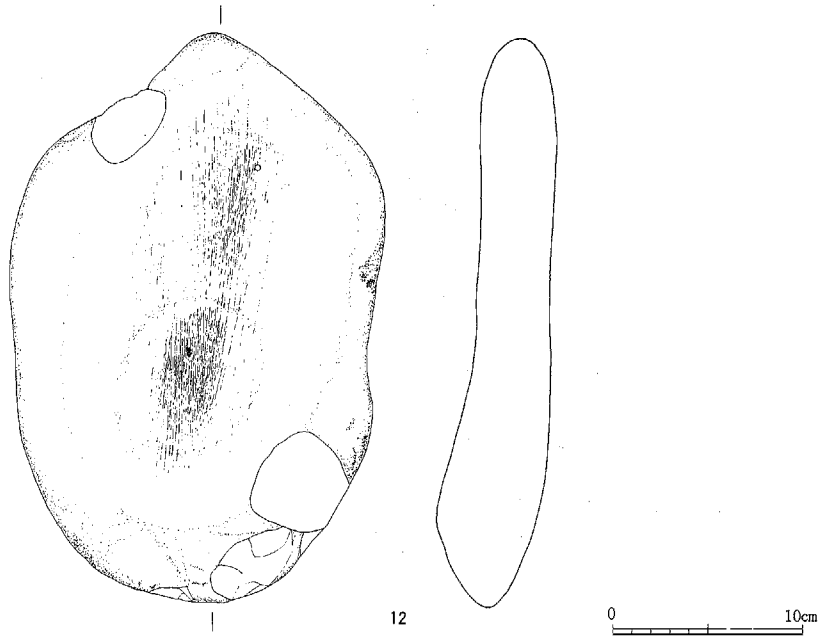
自然堆積である。黒色土と黒褐色土を基調に3層の合わせて4層に分層される。

遺　物

土師器の破片が全体に亘って散乱している。また、貯蔵穴内より土師器甕形土器の破片が1点出土。その他、石皿が床着で1点出土。実測点数12点。



第427図　81号住居址・出土遺物(1)



第428図　81号住居址出土遺物(2)

表74　81号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径12.1 底径 3.3 器高 5.5	口縁部は内稜わ有し短く外傾する。底部は丸底となり放射状磨きが顕著。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	カマド
2	土師器 坏	口径11.2 底径 2.4 器高 4.9	口縁部素縁となるもので、底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	カマド
3	土師器 坏	口径10.7 底径 2.5 器高 4.4	口縁部は外開し体部中央に緩く稜を有する。底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
4	土師器 坏	口径12.5 底径 2.5 器高 5.0	口縁部は端部で外反し、体部は内反気味に直立する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡橙褐色	カマド
5	土師器 坏	口径11.0 底径 3.5 器高 5.0	口縁部は内傾しながら外反し、体部は外稜を有す。底部は丸底となる。	口縁部内外ヘラナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	橙褐色	床着
6	土師器 坏	口径12.0 底径 2.5 器高 4.6	口縁部は外傾し端部で肥圧する。体部外稜は顕著で底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	カマド
7	土師器 坏	口径12.9 底径 3.0 器高 4.6	口縁部は外傾し端部で面をなす。体部外稜は顕著で底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	カマド

表75　81号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
8	土師器 高坏	口径11.7 底径 9.6 器高 9.3	口縁部は外反し端部は面をなし外稜を有す。脚部は裾広がりとなる。	口縁部内外ヘラナデ 体部外ヘラケズリ 脚部内外ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
9	土師器 甕	口径18.0 残存21.6	口縁部は外反し胴部は張りを持たないものである	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	カマド
10	土師器 甕	口径17.6 底径 5.5 器高35.6	口縁部は外反し、胴部は張りがなく突出する平底を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド 全体の$\frac{3}{4}$残存
11	土師器 甑	口径19.4 底径 6.1 器高14.7	口縁～胴部は外傾し、底部は単孔を有す。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド

82号住居址（第429図　図版104　表76）

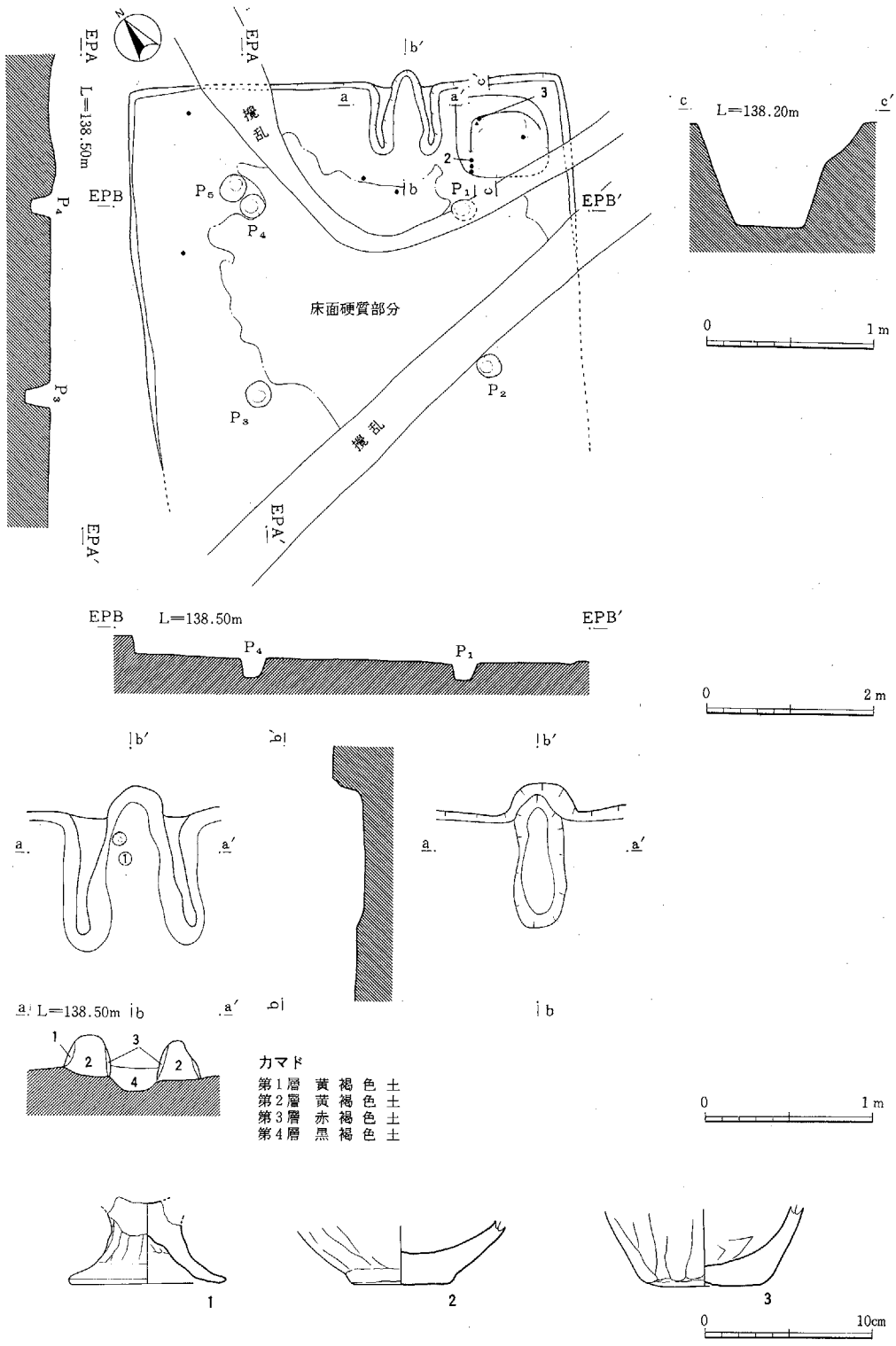
位置　R－10グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.16ｍ×4.79ｍ／壁高　0～21.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。近・現代の暗渠２条により分断される。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に北東側はカマドと貯蔵穴の付近まで延びる。また、南側は暗渠に切られ全体的な範囲は不明であるが、主柱穴間の線上より外側に延びていることは認められる。／柱穴　５本。Ｐ１～Ｐ２が主柱穴に相当する。Ｐ１・上面の３分の２を暗渠に切られる。径29cm（推定下幅）、深さ22cm。Ｐ２・径29cm、深さ26cm。Ｐ３・径31cm、深さ29cm。Ｐ４・径31cm、深さ26cm。Ｐ５・径31cm、深さ56cm。／カマド　北東壁中央部より南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は半円形に掘り込まれている。傾斜64°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸79cm、短軸26cm。深さ６cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。支脚は土製である。／貯蔵穴　南東隅の位置する。南西隅の暗渠に切られる。長軸106cm、短軸99cm、深さ59cm。長方形を呈する。北西隅に深さ21cmのテラス状の平坦面が中場が検出している。

覆土の状況

自然堆積である。近・現代の耕作により削平されており、確認面より掘り込みが浅い為、黒褐色土の単層である。

遺　物

貯蔵穴内と西寄りに土師器破片の出土が見られる。実測点数３点。



第429図　82号住居址・出土遺物

表76　82号住居址出土遺物観察表

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 高坏	底径 9.0 残存 4.7	脚部は裾広がりとなる。	脚部外ヘラナデのちナデ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	カマド 脚部のみ 残存
2	土師器 甕	底径 5.7 残存 3.8	胴部は大きく張るもので突出する平底を有する。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 底部$\frac{1}{3}$残存
3	土師器 甕	底径 6.4 残存 4.6	底部は平底となり中央でややくぼむ。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴 底部のみ 完存

83号住居址（第431～432図　図版104・105・119・120　表77・78・79・80）

位置　Q－10グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.76ｍ×4.72ｍ（東西×南北）／壁高　71cm～73cm／壁溝　南壁中央より西壁に沿って検出。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴の内側を中心にカマドと貯蔵穴の間まで延びる。／柱穴　4本。Ｐ１・径21cm、深さ69cm。Ｐ２・径26cm、深さ76cm。Ｐ３・径28cm、深さ76cm。Ｐ４・径26cm、深さ68cm。／カマド　北東壁中央より南寄りに位置する。袖は山砂を混入して粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込まれている。傾斜63°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸96cm、短軸53cm、深さ7cm。平面は楕円形、断面形は皿状を呈する。支脚は土製である。／貯蔵穴　長軸109cm、短軸83cm、深さ47cm。長方形を呈する。

覆土の状況

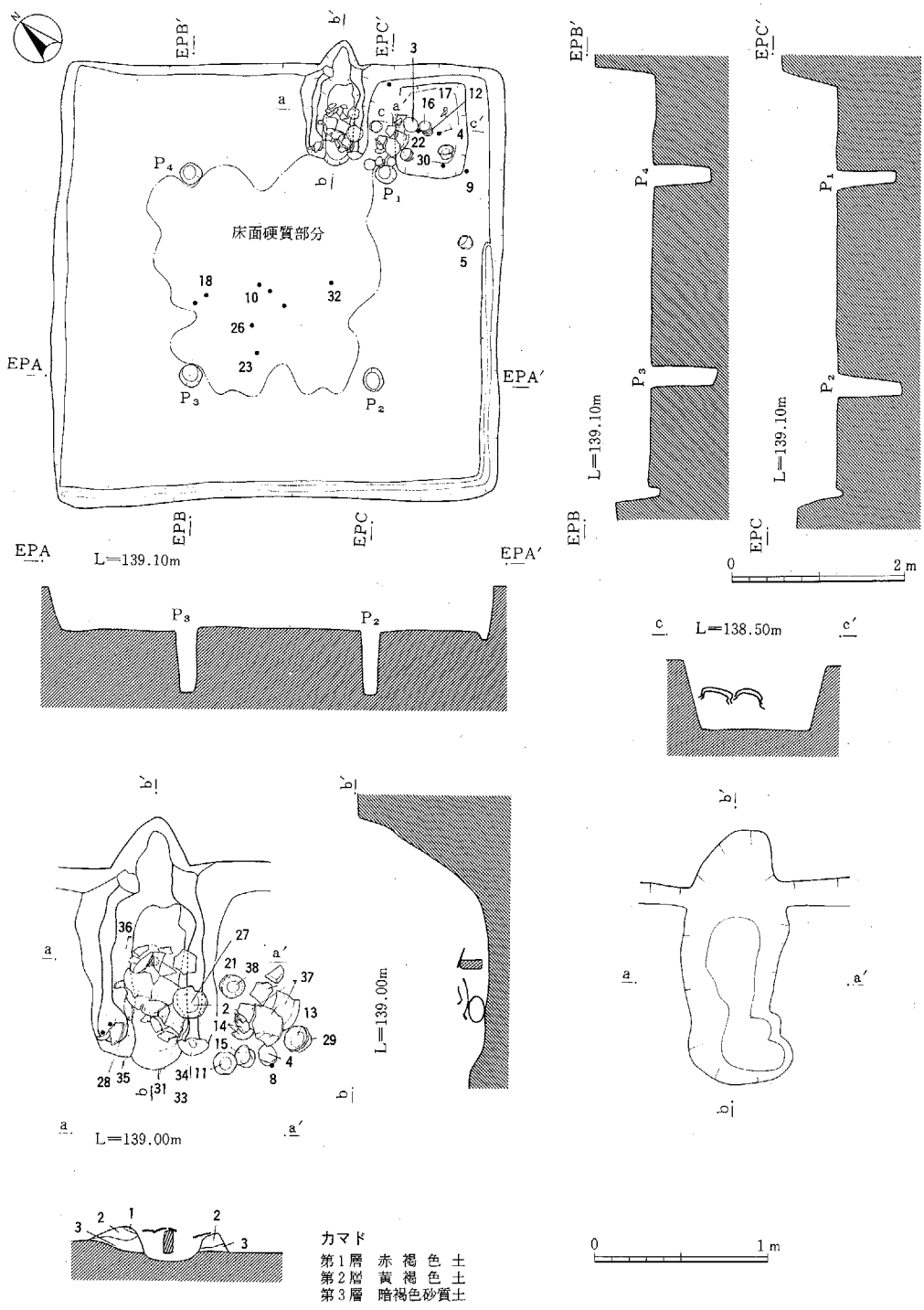
自然堆積である。黒褐色土を基調に４層に分層される。

遺　物

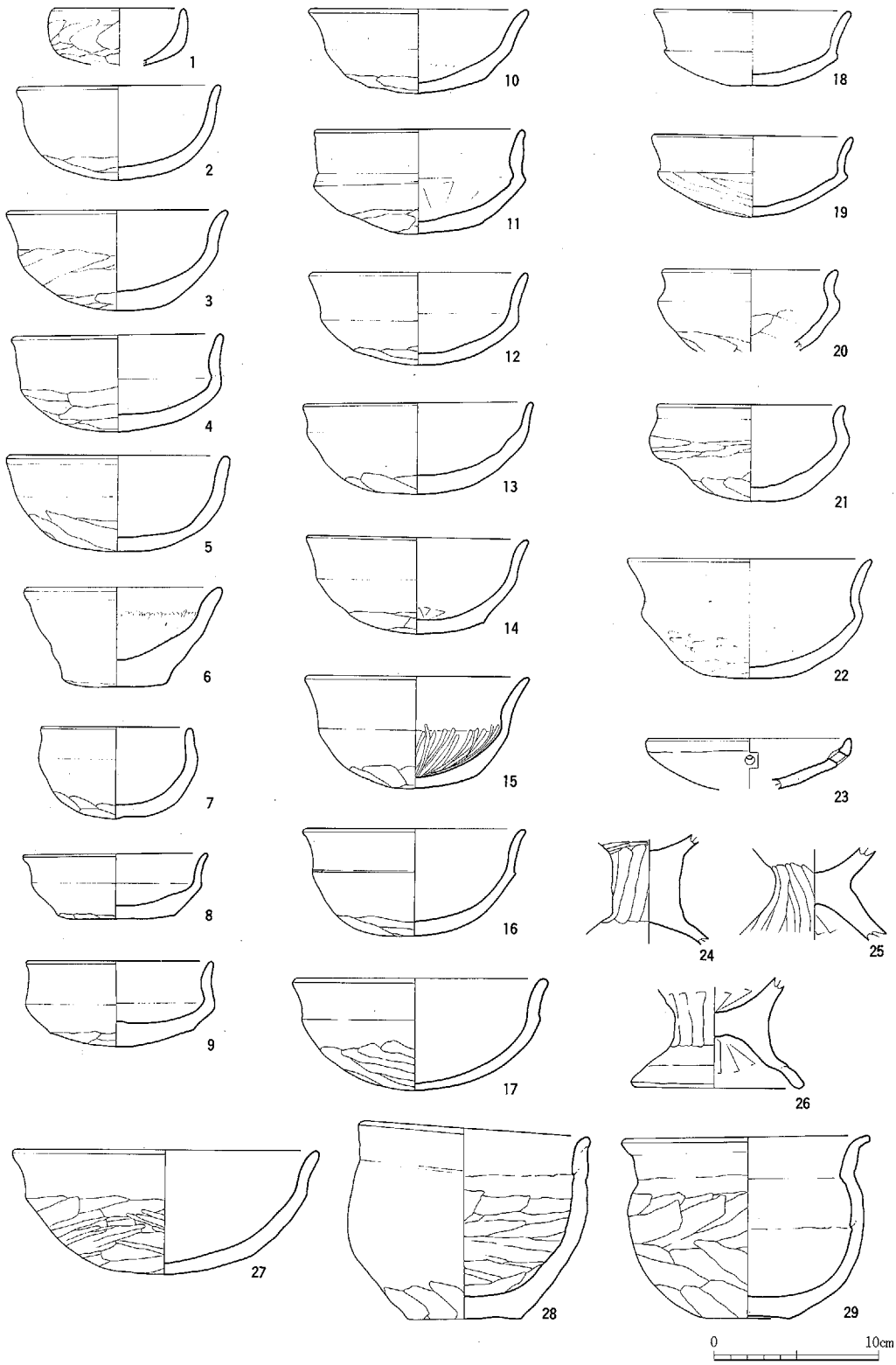
主柱穴間の内側に集中して土師器の破片が出土している。また、カマドの天井部が潰れた状態で検出しており、そのカマドより落ちたと考えられる土師器甑と甕が潰れた状態で出土。また、その上より貯蔵穴にかけて多量に土師器坏（18点）が転落した状態で出土。実測点数39点

表77　83号住居址遺物観察表(1)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径 7.7 残存 3.4	素縁となるもので体部は直立気味に立ち上がり底部は丸みを持つ平底	口縁部内部ヘラケズリ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
2	土師器 坏	口径12.0 底径 1.2 器高 5.7	素縁となるもので先端で外反する。体部は丸く開き連続して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	カマド 全体の$\frac{3}{4}$ 残存
3	土師器 坏	口径13.0 底径 6.3 器高 6.0	口縁部は外反し体部に緩く外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリのちナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	貯蔵穴 口縁一部 欠損 ほぼ完形



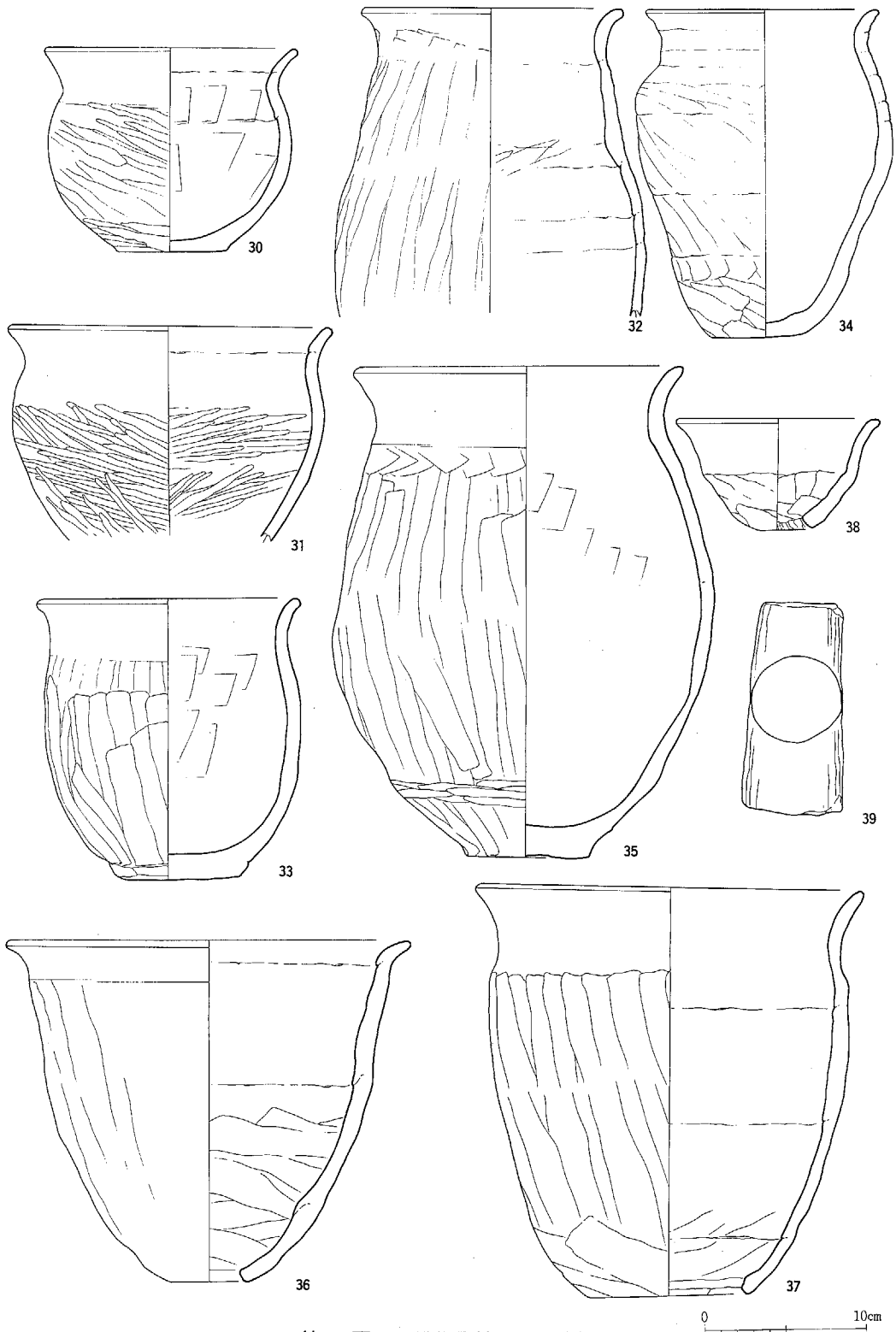
第430図　83号住居址



第431図　83号住居址出土遺物(1)

表78　83号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
4	土師器 坏	口径12.5 底径 7.0 器高 5.8	口縁部は直立気味に外反し体部に緩く外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド
5	土師器 坏	口径13.2 底径10.0 器高 5.8	素縁となるもので外反する。体部は丸く開き連続して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	暗赤褐色	覆土中 全体の$\frac{3}{4}$ 残存
6	土師器 埦	口径11.5 底径 6.4 器高 6.0	口縁～体部は外傾し、底部はやや突出気味の平底を有す。内体部磨き顕著	口縁部内外ヨコナデ 体部外ナデ 〃 内タテのミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 全体の$\frac{1}{2}$ 残存
7	土師器 坏	口径 9.0 底径 4.5 器高 5.5	口縁部は直立し体部は内反しながら開き球形に近い。底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 ほぼ完形
8	土師器 坏	口径10.9 底径 5.4 器高 3.9	口縁部は外反し体部に外稜を有す。底部は体部との境が明瞭で平底となる。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド $\frac{3}{4}$残存
9	土師器 坏	口径11.0 底径 3.6 器高 5.0	口縁部は直立気味に外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド 全体の$\frac{2}{3}$ 残存
10	土師器 坏	口径13.0 底径 8.6 器高 5.0	口縁部は大きく外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
11	土師器 坏	口径12.5 底径 3.6 器高 6.3	口縁部は直立気味で外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド 完形
12	土師器 坏	口径12.9 底径 7.7 器高 5.5	口縁部は大きく外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	貯蔵穴
13	土師器 坏	口径13.7 底径 4.2 器高 5.4	口縁部は外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	カマド 口縁一部 欠損ほぼ 完形
14	土師器 坏	口径13.2 底径 2.2 器高 5.8	口縁部は外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド $\frac{3}{4}$残存
15	土師器 坏	口径13.3 底径 4.4 器高 6.7	口縁部は外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。放射状磨き顕著。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 内暗文状のヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド ほぼ完形
16	土師器 坏	口径13.2 底径 3.4 器高 6.4	口縁部は大きく外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	貯蔵穴 口縁部一 部欠損ほ ぼ完形
17	土師器 坏	口径15.0 底径 9.2 器高 6.7	口縁部は大きく外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	カマド
18	土師器 坏	口径11.8 底径 3.0 器高 4.5	口縁部は大きく外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 $\frac{2}{3}$残存
19	土師器 坏	口径12.2 底径 4.5 器高 5.0	口縁部は大きく外反し体部に外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド 全体の$\frac{2}{3}$ 残存
20	土師器 坏	口径10.6 残存 5.0	口縁部は内傾気味に外反し体部に鈍い外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部内外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド $\frac{3}{4}$残存



第432図　83号住居址出土遺物(2)

表79　83号住居址出土遺物観察表(3)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
21	土師器 坏	口径11.2 底径10.5 器高 5.8	口縁部は内傾し先端でさらに外反する。体部に鈍い外稜を有す。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド $\frac{3}{4}$残存
22	土師器 坏	口径14.6 底径 4.3 器高 7.2	口縁部は大きく外反し体部に鈍い外稜を有す。底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	貯蔵穴 口縁一部 欠損ほぼ 完形
23	土師器 坏	復口12.2 残存 3.2	素縁の浅い坏である。体部は開き口縁部で直立気味となる。穿孔を有す。	口縁部内外ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着
24	土師器 高坏	 残存 6.5	脚部は坏部の下より筒状となり内反しながら裾広がりとなる。	脚部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗赤褐色	覆土中 脚部破片
25	土師器 高坏	 残存 5.6	脚部は坏部の下より内反しながら裾広がりとなる。	脚部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中 脚部のみ 残存
26	土師器 高坏	 底径 9.7 残存 6.0	脚部は坏部の下より短く筒状となり内反気味に裾広がりとなる。	脚部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着
27	土師器 坏	口径18.2 底径 4.0 器高 7.4	大振りの坏で口縁部は大きく外反し体部に鈍い外稜を有す。底部は丸底。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリのちミガキ風ナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド
28	土師器 甕	口径13.6 底径 6.8 器高11.5	口縁部は直立し胴部は張りを有して平底に続く。	口縁部内外ナデ 胴部外ナデのちヘラケズリ内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	カマド 完形
29	土師器 甕	口径14.9 底径 5.0 器高10.9	口縁部は「コの字」状となり張りのある胴部から底部は上げ底気味となる	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド ほぼ完形
30	土師器 甕	口径15.3 底径 6.5 器高12.6	口縁部は「くの字」状となり張りのある胴部から底部は平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	貯蔵穴 口縁一部 欠損ほぼ 完形
31	土師器 甕	口径19.2 残存13.2	30の大振りのもの。内外ヘラ磨き丁寧に行われている。	口縁部内外ヨコナデ 胴部内外ヘラケズリのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド 胴部上半 $\frac{3}{4}$残存
32	土師器 甕	復口16.0 残存19.0	口縁部は内傾し先端で外反する。胴部は長胴化しやや下膨れ気味になる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリのちナデ 〃　内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド 胴部上半 $\frac{1}{4}$残存
33	土師器 甕	口径15.6 底径 7.4 器高17.4	口縁部は直立気味に外反し張りのない胴部より突出する平底を作る。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド 全体の $\frac{3}{4}$残存
34	土師器 甕	口径14.2 底径 5.8 器高20.4	口縁部は内傾気味に外反し肩の張る胴部より平底を有す。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラナデのちヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド 完形
35	土師器 甕	口径19.9 底径 7.5 器高30.3	口縁部は外反しはりのある胴部は中位に最大径をとり突出する平底を有す	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド ほぼ完形
36	土師器 甑	口径24.7 底径 4.6 器高21.0	口縁部は短く外反し胴部は丸みを帯びて単孔を有する底部に続く。	口縁部内外ヘラナデ 胴部内外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	カマド $\frac{1}{2}$残存
37	土師器 甑	口径23.8 底径10.0 器高25.6	口縁部は外反し胴部は丸みを帯びて単孔を有する底部に続く。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリのちナデツケ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴

表80　83号住居址出土遺物観察表(4)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
38	土師器 甑	口径12.4 底径 3.2 器高 6.8	口縁部は外反し体部は外稜を付けて単孔を有する底部に続く。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリのちナ内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド 完形
39	土製 支脚	長さ13.3 径上 5.1 下 6.4 重さ 62.6g	土製の支脚である。筒状に整形し上部に径が小さくなって行く。	半分に22が付着上半が部分的に赤く焼けている	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド

84号住居址（第433図　図版105・120　表81）

位置　Q－10グリッド／形態　方形／主軸方向　N－55°－W／規模　5.55ｍ×4.47ｍ（南北×東西）／壁高　10.5cm～20cm／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。硬質部分は主中央部より主柱穴間の内側に検出されている。／柱穴　5本。Ｐ1～Ｐ4が主柱穴に相当する。Ｐ1・径46cm、深さ72cm。Ｐ2・径48cm、深さ72cm。Ｐ3・長径58cm、短径46cm、掘り込みは2段に亘って掘られている。中段の深さ39cm。下段の深さ71cm。Ｐ4・径43cm、深さ79cm。Ｐ5・径24cm、深さ17cm。／カマド　東壁の中央部よりやや南寄りを近・現代の暗渠によって切られている。この位置にカマドが存在した可能性が考えられるが、暗渠の幅が狭くカマド部分全体が破壊さと考えると断定出来ない。尚、暗渠の外側には火床部等は検出されなかった。

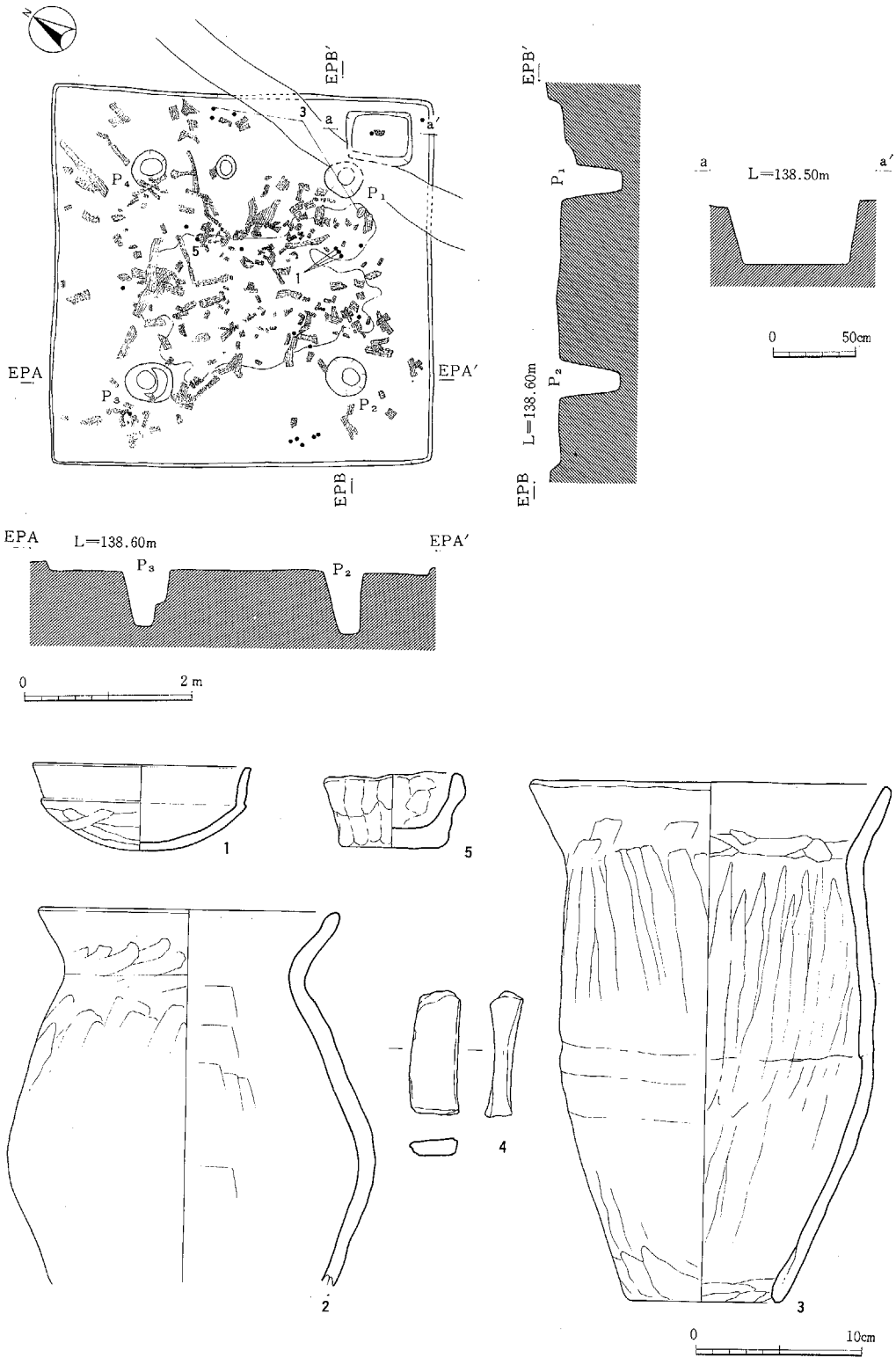
貯 蔵 穴　南東隅に位置する。北西側の上面を暗渠に切られる。長軸78cm、短軸64cm、深さ41cm。長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。82号住居址同様、耕作による削平の為掘り込みが浅く黒褐色土の単層である。

遺　物

炭化材が床面全体に亘って検出されている。火災住居である。炭化材を細かく観察すると中心部に向って放射状に検出されている。これは上屋の基本構造を示すものと考えられる。また、全体に散乱して土師器破片の出土がみられる。実測遺物点数5点。



第433図　84号住居址・出土遺物

表81　84号住居址遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径13.0 底径 3.6 器高 5.0	口縁部は外傾し端部は面をなす。体部に外稜を有し底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
2	土師器 甕	口径17.5 残存22.3	口縁部は「くの字」状に外反し端部でやや内反する。胴部は尖り気味。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴 全体の $\frac{1}{2}$残存
3	土師器 甑	口径21.5 底径 8.4 器高31.0	口縁部は外反し胴部はやや長めになり単孔を有する底部に続く。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリのちナデツケ内ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 全体の $\frac{1}{3}$残存
4	砥石	長　7.8 幅　2.7 厚さ 1.5	石質は流紋岩 石製の砥石である。四面共に使用され擦痕顕著。	稜状を呈する 使用面は5面、全面的に摩耗が著しい	——	—	—	覆土中 完形
5	土師器 手ね	口径 7.5 底径 6.2 器高 4.5	手捏土器である。体部は開き指圧痕顕著。口縁部は内反し平底となる。	指ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	黒褐色	床着 完形

85号住居址（第434・435図　図版105・120　表82）

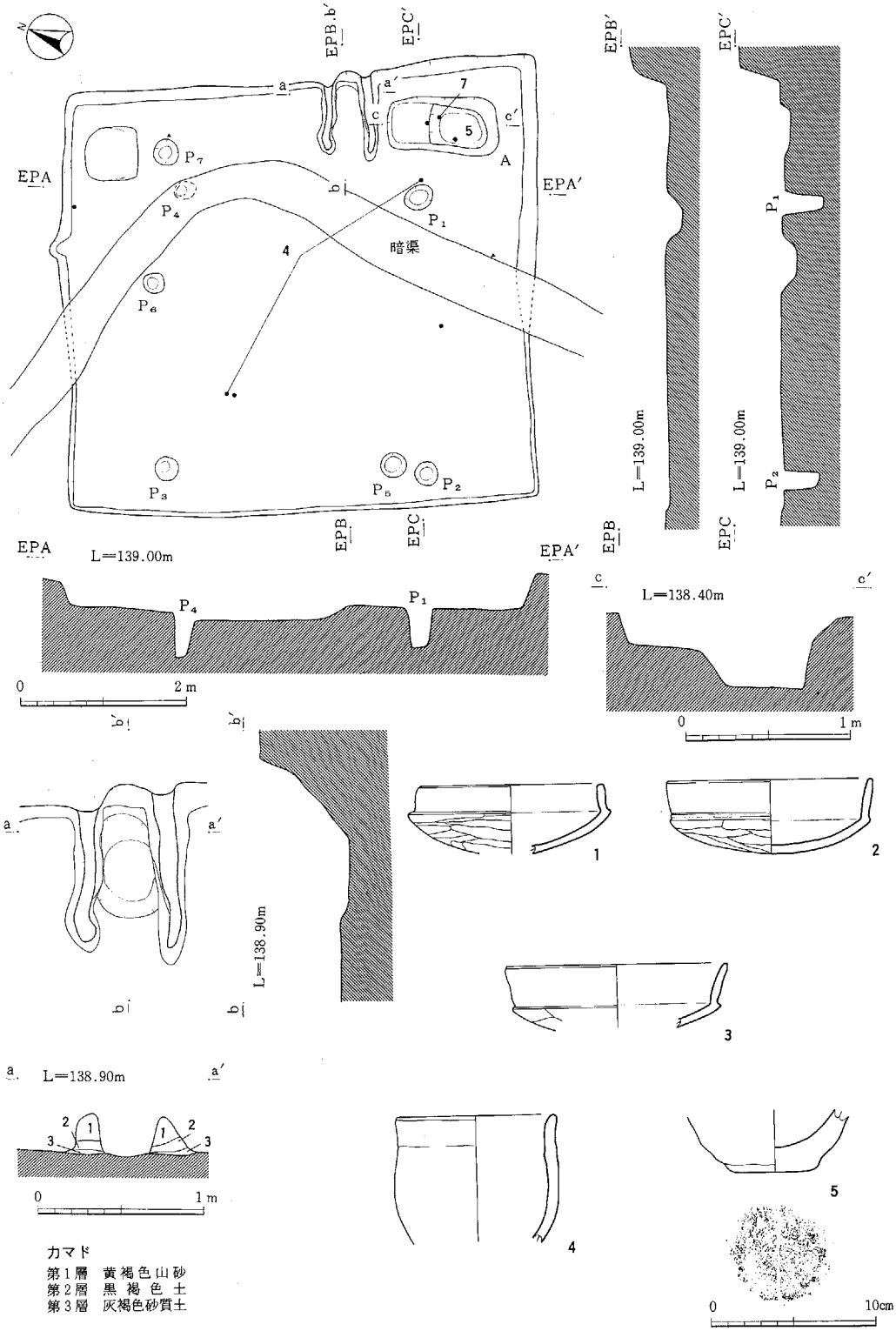
位置　P－85グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E（新）・N－45°－W（旧）／規模　5.47m×5.03m（南北×東西）／壁高　7cm～35cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。近・現代の暗渠により東西を分断される。全体に締まりがあり硬質化されている。／柱穴　7本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径30cm、深さ48cm。P2・径28cm、深さ58cm。P3・径28cm、深さ52cm。P4・上幅径を暗渠に切られる。残存径22cm、深さ55cm。P5・径31cm、深さ45cm。P6・径26cm、深さ39cm。P7・径30cm、深さ45cm。／カマド（新）東壁中央部よりやや南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山半円形に短く掘り込まれている。傾斜は57°を計る。火床部よく焼けて硬質化されている。（旧）北壁中央部より東寄りに位置する。袖の痕跡は認められない。煙道部は半円形に短く掘り込まれている。／貯蔵穴　南東隅寄りに位置する。2段に亘って掘られている。長軸132cm、短軸69cm。中段の深さ4cm、深さ44cm。長方形を呈する。

覆土の状況

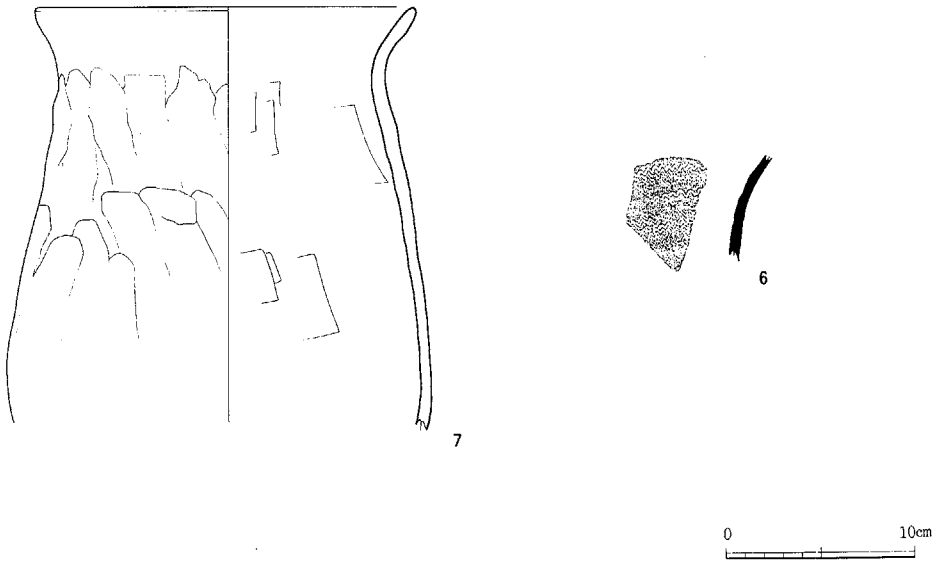
自然堆積である。近・現代の耕作により削平され暗褐色土の単層で検出された。

遺　物

土師器破片が貯蔵穴内と南壁に散乱して出土した。実測遺物点数7点。



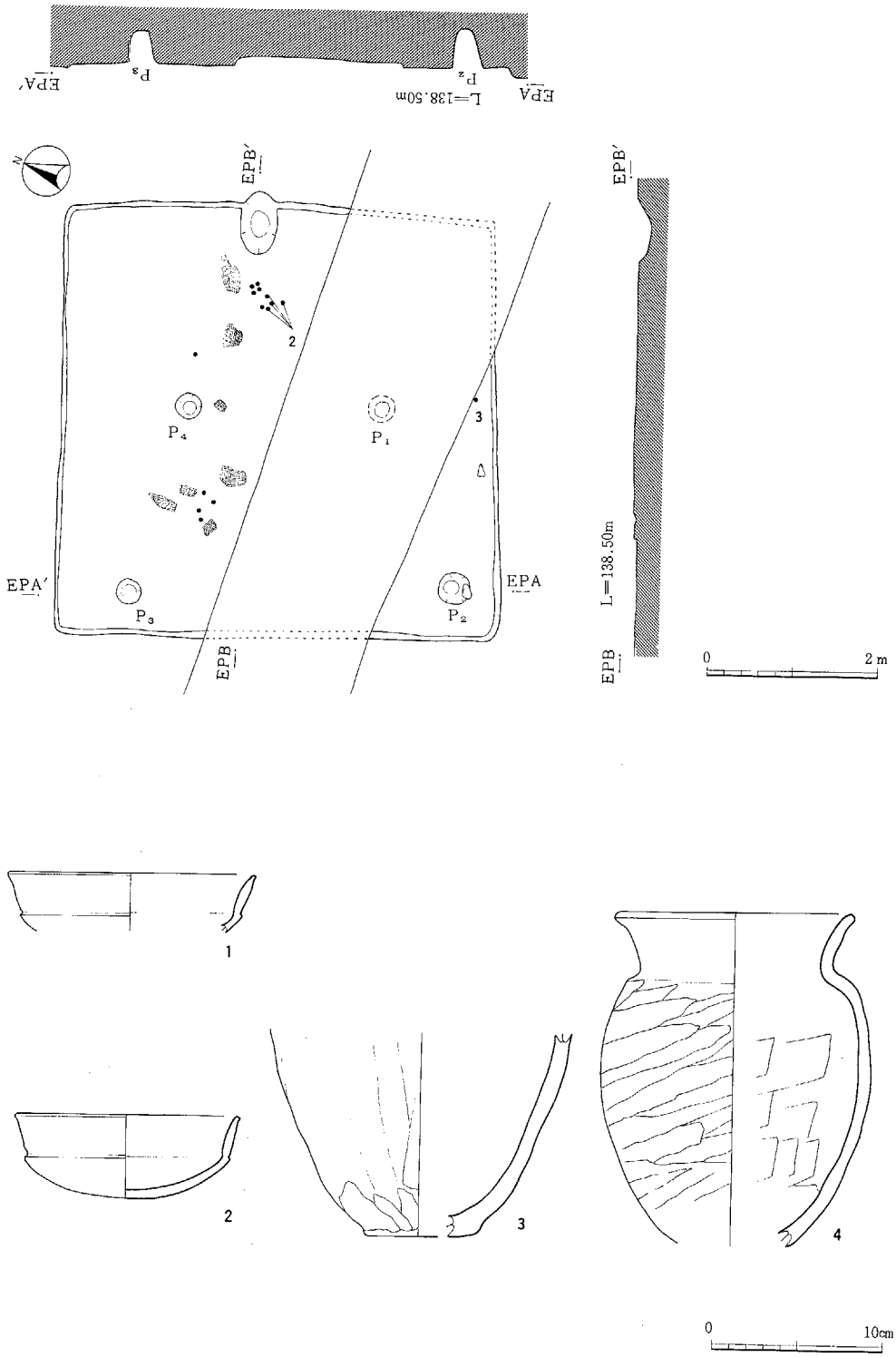
第434図　85号住居址・出土遺物(1)



第435図　85号住居址出土遺物(2)

表82　85号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径10.8 復底 3.4 残存 4.2	口縁部は内傾し端部は面をなす。体部に外稜を有し底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 頸部外ミガキ、体部外ヘラケズリ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着
2	土師器 坏	口径12.2 底径 2.8 器高 4.5	口縁部は外傾し端部は面をなす。体部に外稜を有し底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
3	土師器 坏	口径13.3 残存 3.9	口縁部は外傾し端部は面をなす。体部に外稜を有し底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	覆土中
4	土師器 甕	復口 9.4 残存 7.7	口縁部は直立し張りのない胴部に続く。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
5	土師器 甕	底径 5.0 残存 3.7	甕の底部は突出気味の平底を有す。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	暗褐色	貯蔵穴
6	須恵器	残存高 6.1	頸部破片 ゆるやかに外反する。	櫛描波状文を施す	砂粒含む	還元炎 良好	灰褐色	覆土中
7	土師器 甕	口径19.7 残存22.2	口縁部は外反し張りのない胴部に続く。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド



第436図　86号住居址・出土遺物

86号住居址（第436図　図版105・120　表83）

位置　Q・P－9グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.94ｍ×4.44ｍ（南北×東西）／壁高　3㎝～7㎝／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に面をなしているが硬質部分は認められなかった。／柱穴　4本。P1・径26㎝、深さ58㎝。P2・径28㎝、深さ58㎝。P3・径27㎝、深さ54㎝。P4・径29㎝、深さ55㎝。／炉　なし。／貯蔵穴　なし。／

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に3層、暗褐色砂質土層1層の合わせて4層に分層される。

遺　物

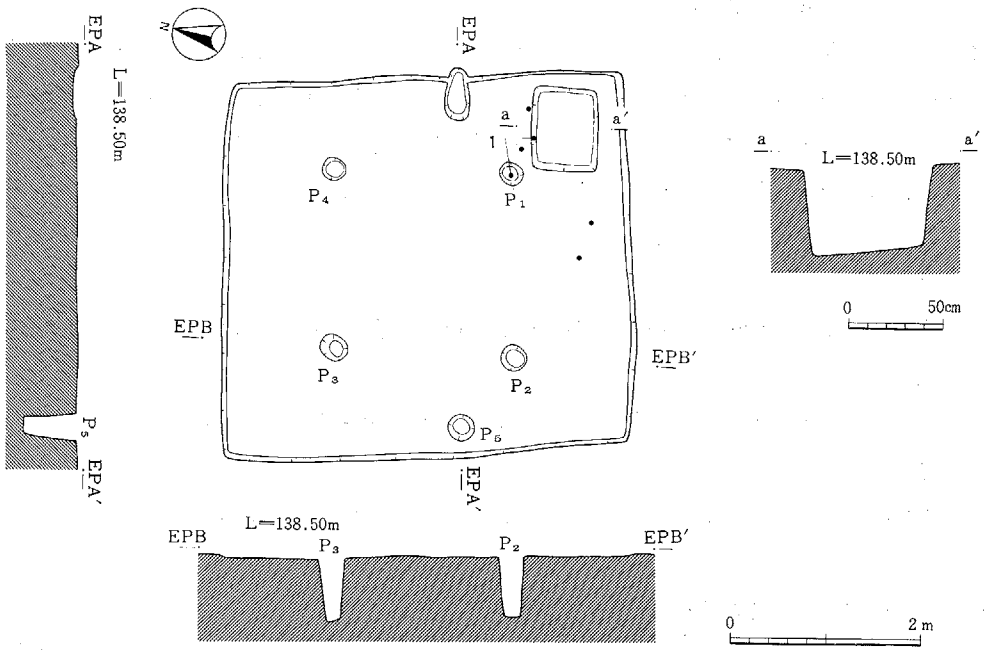
覆土中とカマド内と床直上より少量の遺物が出土した。実測遺物点数4点。

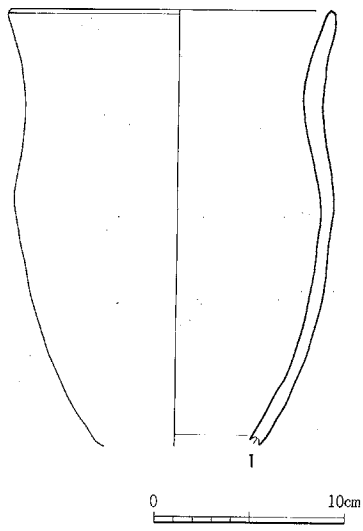
備　考

伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと思われる。

表83　86号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(㎝)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	復口14.2 残存 3.4	口縁部は外傾し端部は細くなる。体部に外稜を有し底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド 口縁$\frac{1}{3}$ 残存
2	土師器 坏	口径12.8 底径 3.6 器高 4.7	口縁部は外傾し端部は面をなす。体部に外稜を有し底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド
3	土師器 甕	底径 5.8 残存11.8	張りのない胴部より突出する平底を作る。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着 胴部下半 $\frac{1}{3}$残存
4	土師器 甕	口径13.4 残存19.2	口縁部は「コの字」状に外反し胴部は肩に最大径をとる。	口縁部内外ヘラケズリ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 全体の $\frac{2}{3}$残存





第437図　87号住居址・出土遺物

87号住居址（第437図　表84）

位置　Q－9グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.18m×4.03m（南北×東西）／壁高　2cm～4cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は認められなかった。／柱穴　5本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径26cm、深さ63cm。P2・径28cm、深さ63cm。P3・径30cm、深さ68cm。P4・径26cm、深さ68cm。P5・径28cm、深さ58cm。／カマド　近・現代の耕作により削平を受け、袖部は遺存していない。煙道部は半円形に掘り込まれている。傾斜47°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸51cm、短軸28cm、深さ4cm。平面形は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　南東隅に位置する。長軸89cm、短軸69cm、深さ44cm。長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。近・現代の耕作により削平を受け確認面より掘り込みが浅い為、黒色土の単層で検出された。

遺　物

土師器甕の破片が貯蔵穴付近に集中して出土した。実測遺物1点。

表84　87号住居址出土遺物観察表

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 甕	復口16.8 復底径 8.0 残存23.0	口縁部は直立気味に外反し胴部は長めとなる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラナデ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴 全体の $\frac{1}{2}$残存

88号住居址（第438・439図　図版86・105・106・120・221　表85・86）

位置　Q－8グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.32m×3.95m（東西×南北）／壁高　25cm～29cm／壁溝　カマド部分を除き全周する。／床　ローム層に掘り込まれている。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に南側は一部外側に延びる。／柱穴　6本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径25cm、深さ56cm。P2・径24cm、深さ60cm。P3・径26cm、深さ56cm。P4・径28cm、深さ55cm。／カマド　東壁中央部よりやや南側に位置する。袖は近・現代の耕作により削平を受け遺存されていない。煙道部は地山を半円形に掘り込んでいる。傾斜は47°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸101cm、短軸74cm、深さ12cm。方形を呈する。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　長軸104cm、短軸79cm。2段掘りを呈する。中段深さは18cm。下段は柱穴状の掘り込みを呈する。深さ床面より68cm。形態は長形を呈する。

覆土の状況

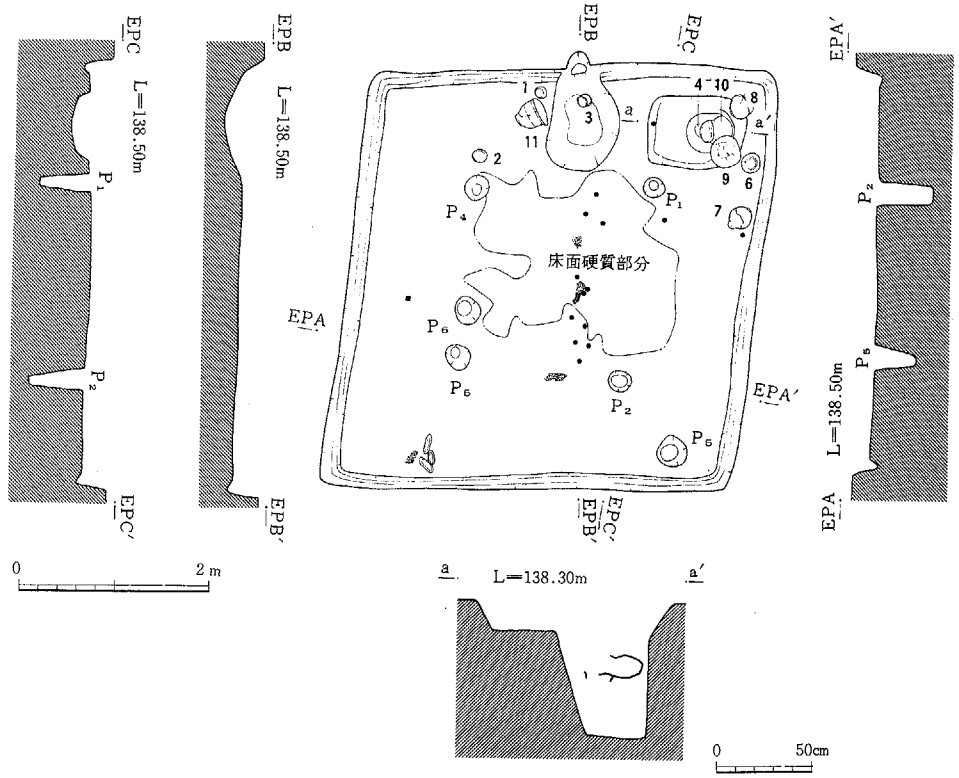
自然堆積である。近・現代の耕作により、削平を受け確認面より掘り込みが浅いため、黒褐色土の単層で検出された。

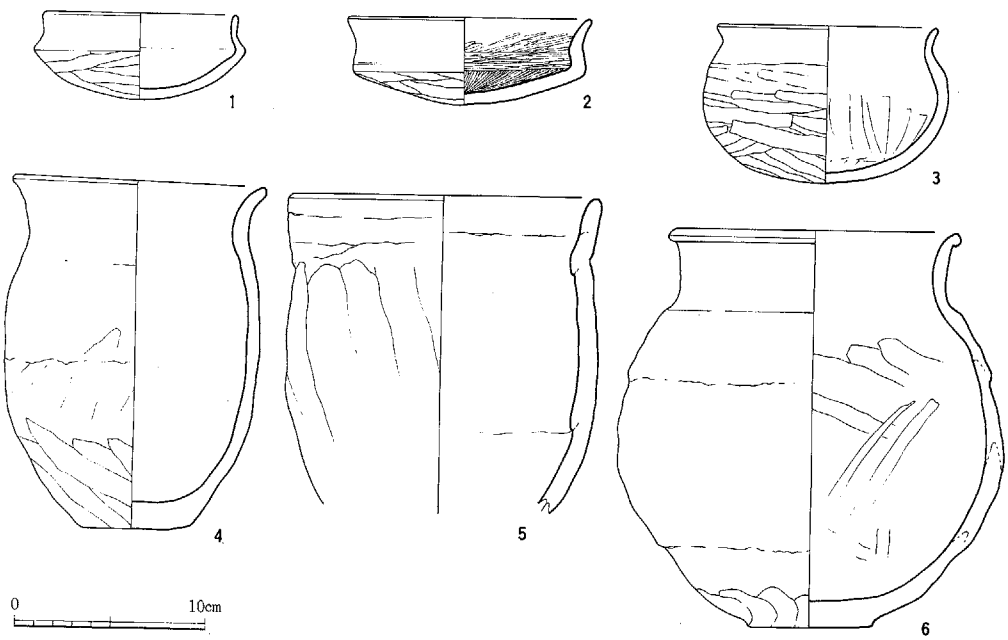
遺　物

カマド付近と貯蔵穴内とその付近より坏・甑・甕が出土した。カマド付近のものはカマドからの転落が考えられる。実測点数11点。

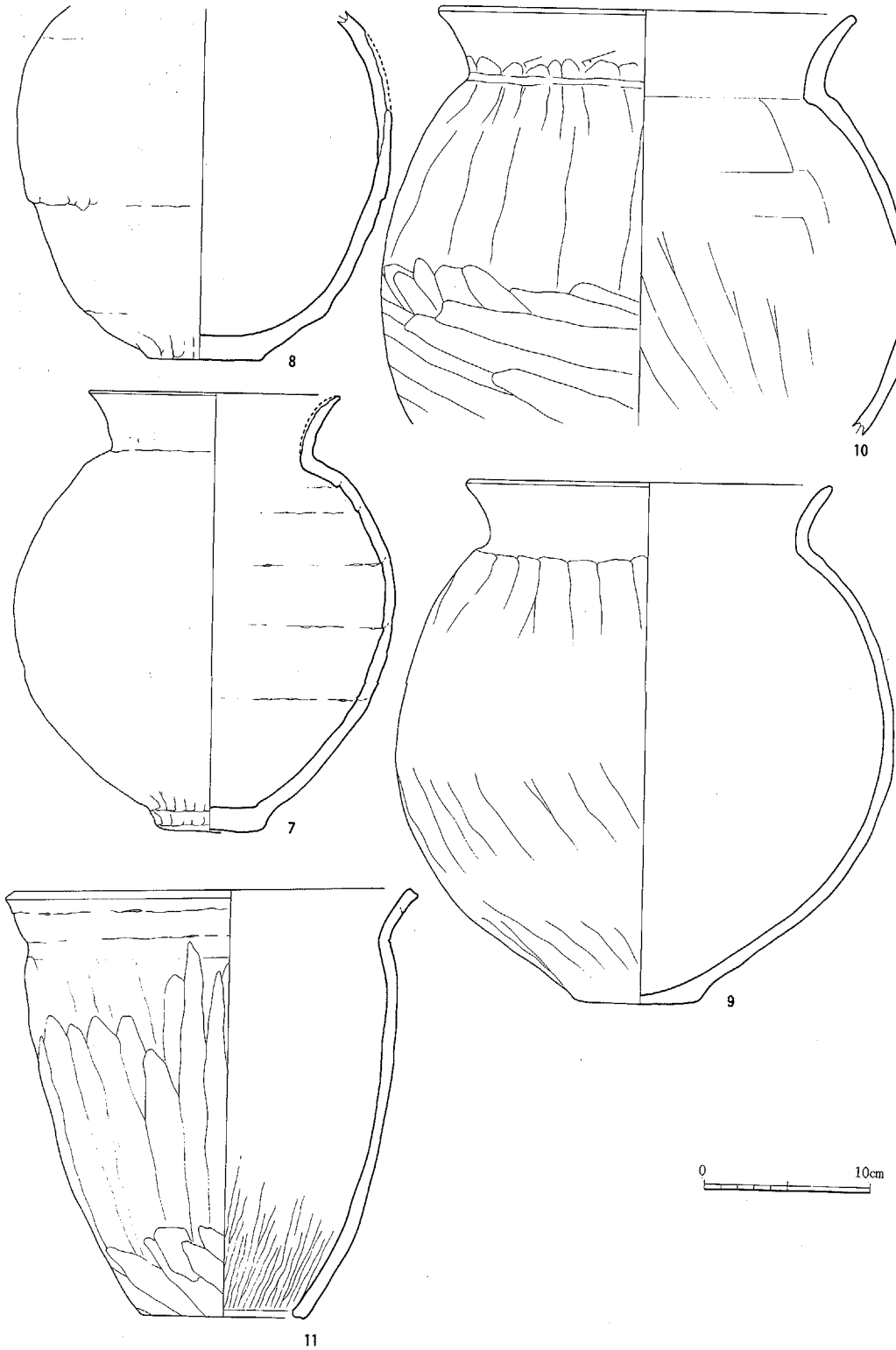
表85　88号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径10.0 底径 2.4 器高 4.5	口縁部は内傾気味に外反し体部に外稜を有し底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着
2	土師器 坏	口径12.7 底径 2.3 器高 4.5	口縁部は外反し体部に外稜を有し底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
3	土師器 埦	口径11.6 底径 3.6 器高 8.2	口縁部は外反し胴部は偏球形となり、底部は丸底となる。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリのちナデケシ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
4	土師器 甕	口径13.3 底径 5.8 器高18.2	口縁部は「コの字」状となり端部は肥厚。胴部は球状、突出する平底。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリのちナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	貯蔵穴





第438図　88号住居址・出土遺物(1)



第439図　88号住居址出土遺物(2)

表86　88号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
5	土師器 甕	口径16.2 残存16.6	口縁部は外傾し胴部は張りがない。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	石粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
6	土師器 甕	口径14.9 底径 6.5 器高20.8	口縁部は「コの字」状となり端部は肥厚。胴部は球形、突出する平底。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
7	土師器 甕	口径15.0 底径 6.0 器高26.2	口縁部は外反し胴部は肩の張る球形を呈す。底部は突出する平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒石粒含含	酸化炎 良好	黒褐色	床着
8	土師器 甕	 底径 6.8 残存21.2	胴部は肩の張る球形となり、突出する底部は平底となる。	胴部外ヘラケズリのちナデ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
9	土師器 甕	復口22.0 底径 7.6 器高31.2	口縁部は内稜を有して外反し胴部は球形を呈す。底部は突出する平底。	口縁部外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	床着
10	土師器 甕	口径24.8 残存25.6	口縁部は内稜を有して外反し胴部は球形を呈す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴 胴部上半破片
11	土師器 甑	口径23.8 底径 9.7 器高25.5	口縁部は外反し端部で面をなし張りのない胴部より底部は単孔を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着

89号住居址（第440図）

位置　b－27グリッド／形態　方形／主軸方向　不明／規模　4.03ｍ×不明／壁高　25cm～29cm／壁溝　なし。／床　褐色澄質土層に掘り込まれる。硬質部分は残存部分では検出されなかった。／柱穴　なし。／炉　なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土の単層である。

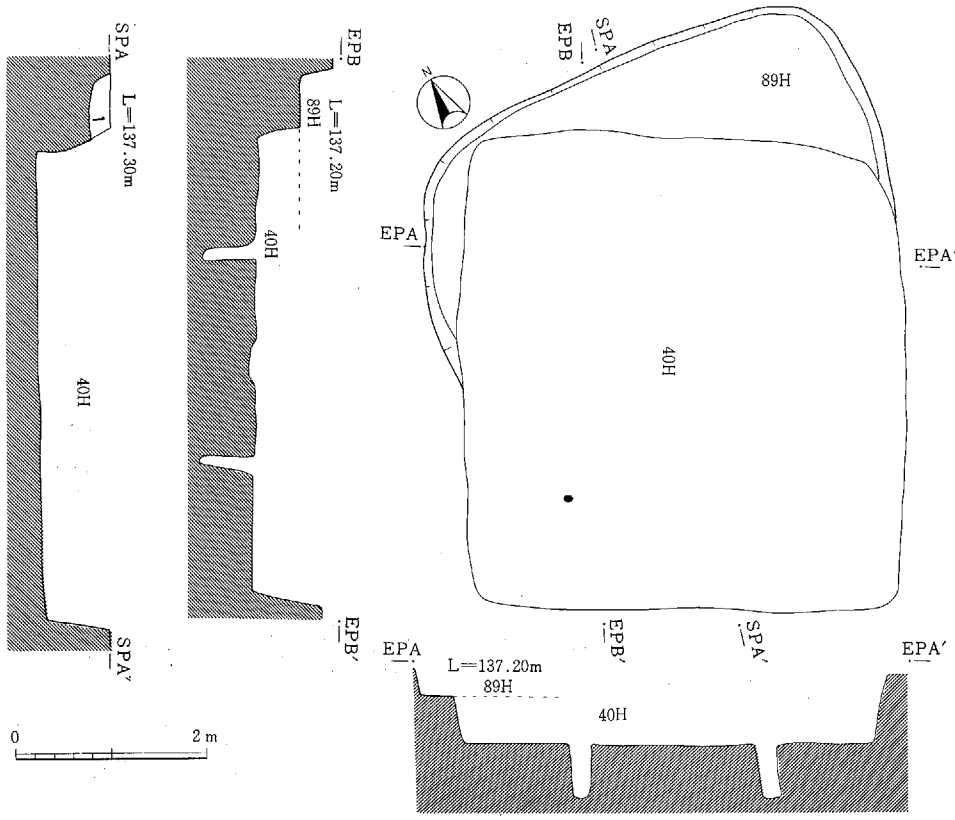
新旧関係　40号住居址に切られる。推定・全体の約3分の2の残存である。

遺　物

覆土中より土師器の細片が3点出土した。実測可能なものは検出されなかった。

備　考

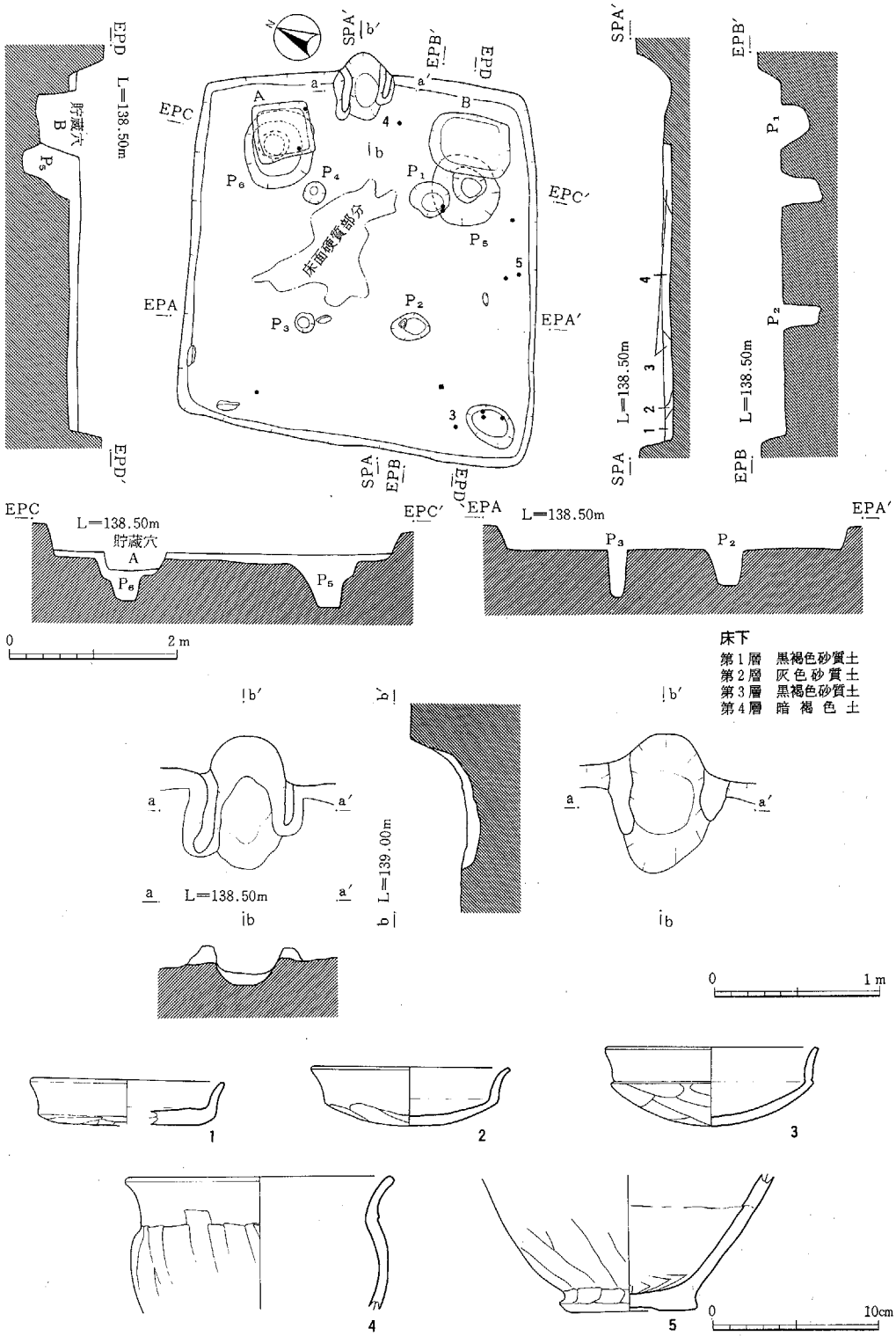
伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況から古墳時代の所産のものと考えられる。



第440図　89号住居址

90号住居址（第441図　図版106　表87）

位置　P・Q－7グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.40ｍ×3.96ｍ（東西×南北）／壁高33cm～34.5cm／壁溝　カマド部分と貯蔵穴部分を除き全周する。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に一部西側へ延びる。貼り床である。／柱穴　4本。貼り床下に2本検出。P1・長径48cm、短径44cm、深さ52cm。P2・長径49cm、短径32cm、深さ47cm。P3・径24cm、深さ54cm。P4・径26cm、深さ60cm。深さがまばらである。床下より検出した柱穴（P5、P6）は主柱穴間の外側に検出されている。P5とP6は掘り方の形態が同様で2段に亘って掘られている。また、P5は上幅の一部を貯蔵穴Bと P1に切られ、P6は貯蔵穴Aに切られる。P5・上幅径81cm、中幅径40cm、深さ55cm。P6・上幅径85cm（推定）、中幅径39cm、深さ50cm。さらに南東側の隅に長軸66cm、短軸44cm、深さ14cm、平面は楕円形、断面は皿状を呈する土坑が検出されている。／カマド　北東側の壁中央部に位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築され基礎部分は地山を掘り残している。全体的に遺存が悪い。煙道部は地山を半円形に掘り込まれている。傾斜は60°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。



第441図　90号住居址・出土遺物

掘り方は袖部の下まで及ぶ。長軸60cm、短軸54cm、深さ10cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　北西隅と南東隅の２基検出されている。覆土は２基共に自然堆積である。人為的な埋戻しが両方とも認められないため同時期に使用されていたものと考えられる。貯蔵穴Ａ　長軸68cm、短軸61cm、深さ68cm。ほぼ方形を呈する。貯蔵穴Ｂ　長軸96cm、短軸74cm、深さ46cm。長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に２層に分層される。

遺　物

全体に亘って土師器破片が７点、散乱して出土（床着１点）、その他、自然礫５点。（床着４点）が出土。また、床下より土師器破片６点、自然礫１点出土した。実測遺物点数５点。

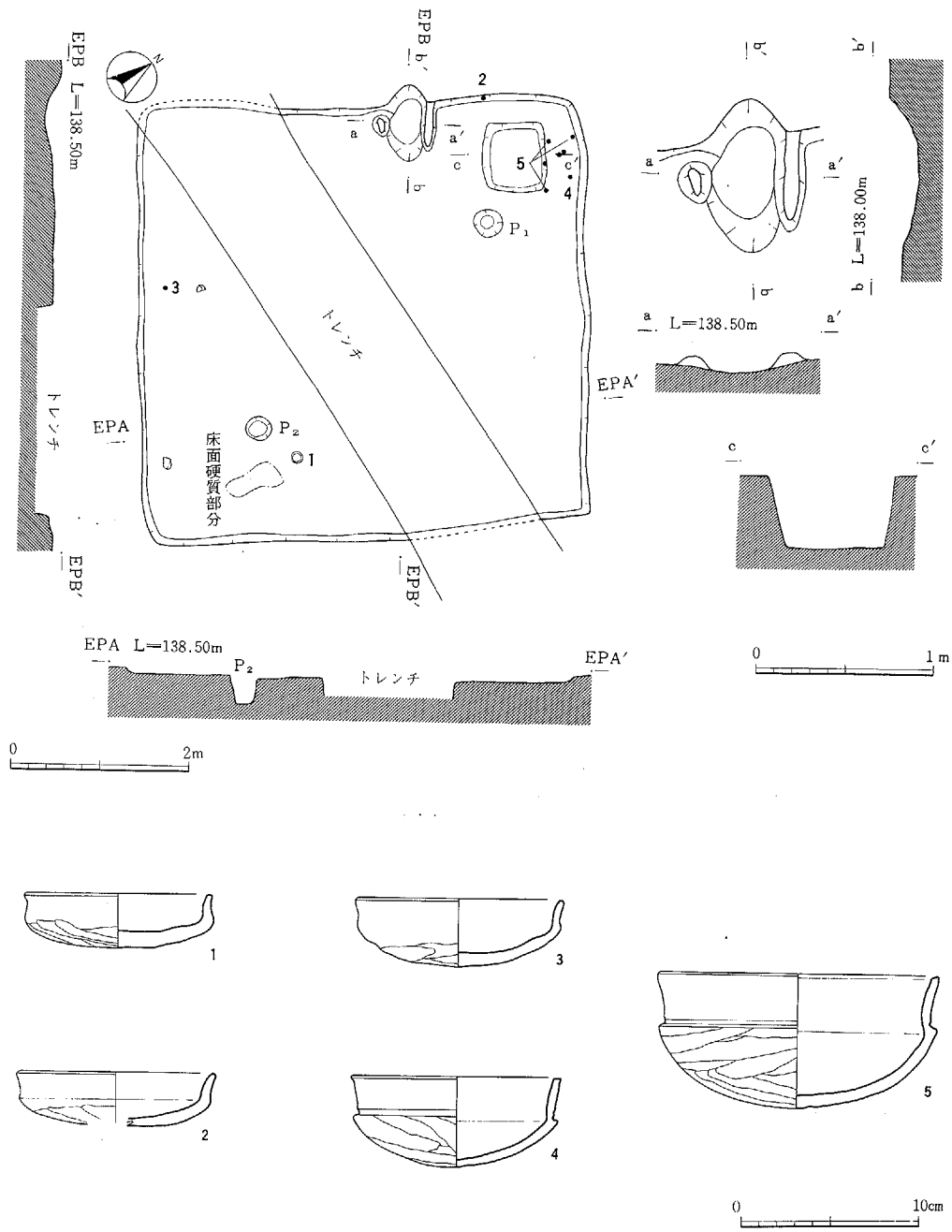
表87　90号住居址出土遺物観察表

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径11.5 残存 2.6	口縁部は直立気味に外反し、体部は下位に外稜を有し底部は平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 全体の $\frac{1}{3}$残存
2	土師器 坏	口径11.8 底径 2.4 器高 3.5	口縁部は外反し体部は外稜を有して底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 全体の $\frac{1}{3}$残存
3	土師器 坏	口径12.4 底径 3.0 器高 4.7	口縁部は外反し体部は外稜を有して底部は丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床下 全体の $\frac{1}{3}$残存
4	土師器 甕	口径15.6 残存 8.0	口縁部は外反し胴部は肩に最大径を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着
5	土師器 甕	底径 7.6 残存 8.2	底部は突出する平底を形成し、中央は上げ底となる。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	暗褐色	覆土中

91号住居址（第442図　図版86・106　表88）

位置　Ｐ－７グリッド／形態　方形／主軸方向　Ｎ－45°－Ｗ／規模　4.91ｍ×4.88ｍ

壁高　6.5cm～７cm（近・現代の耕作の削平により掘り込みが浅くなっている。）／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。東壁から西壁にかけて試掘トレンチに切られる。硬質部分はＰ２の南東側付近一部分認められる。／柱穴　２本。対応する残りの２本はトレンチ部分に存在した可能性が考えられる。Ｐ１・径34cm、深さ63cm。Ｐ２・径29cm、深さ32cm。／カマド　北西側の中央よりやや北よりに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込まれている。傾斜44°を計る。／貯蔵穴　北側の隅に位置する。長軸78cm、短軸74cm。深さ42cm。ほぼ方形を呈する。



第442図　91号住居址・出土遺物

覆土の状況

自然堆積である。近・現代の耕作により削平され掘り込みが浅い為、黒褐色土の単層である。

遺物

貯蔵穴周辺と南寄りに集中する傾向を示す。（土師器破片９点、自然礫２点。）実測遺物点数５点。

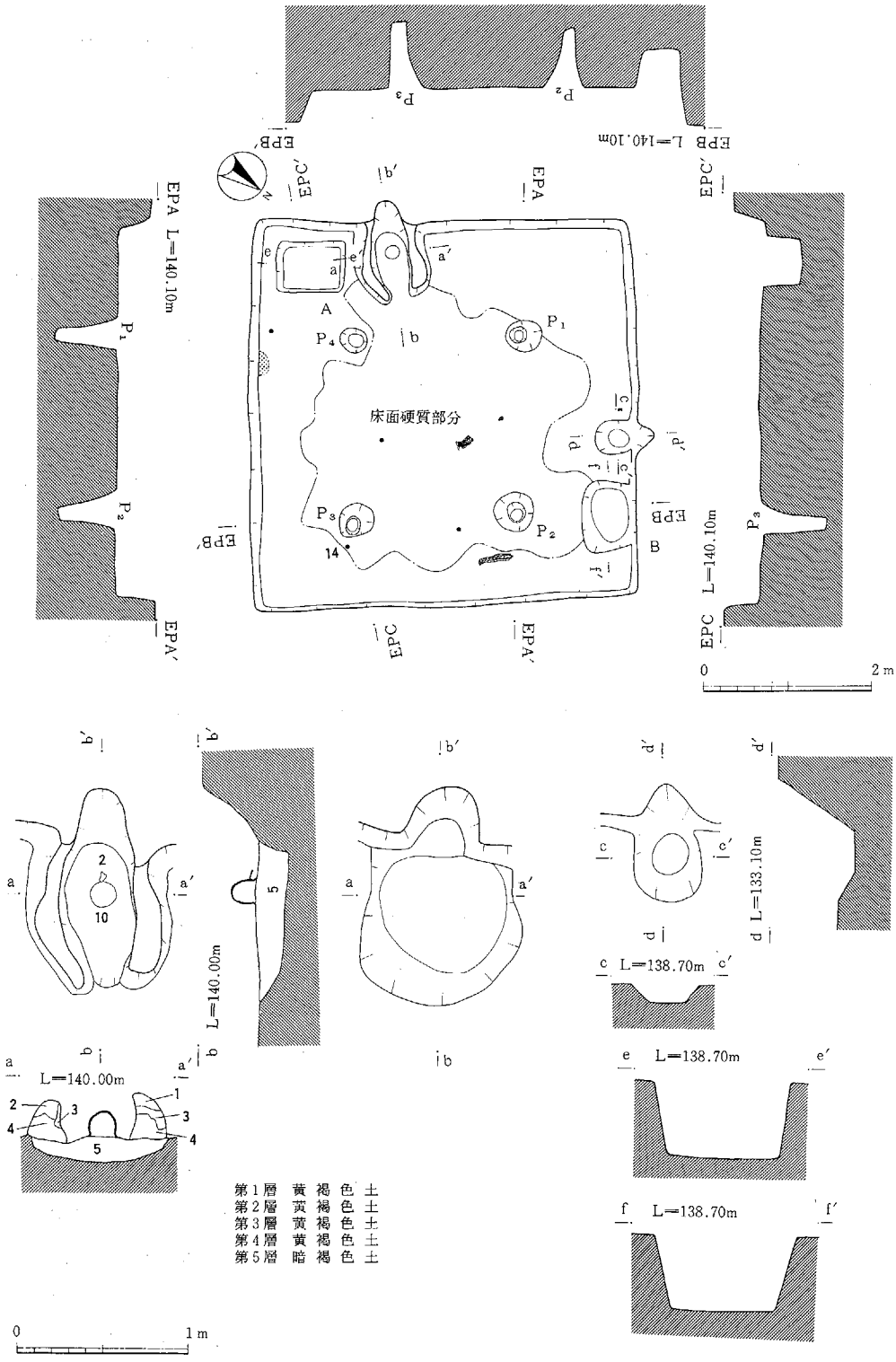
表88　91号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径10.4 底径 4.0 器高 3.0	口縁部は直立気味に外反し体部は外稜を有して底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 完形
2	土師器 坏	復口11.0 残存 3.0	口縁部は外反し体部は外稜を有して底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド 全体の $\frac{1}{3}$残存
3	土師器 坏	口径11.6 底径 5.0 器高 3.8	口縁部は直立気味に外反し体部は外稜を有して底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	全体の 床着 $\frac{1}{2}$残存
4	土師器 坏	復口11.6 底径 3.5 器高 5.0	口縁部は直立気味に外傾し端部は面をなす。体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着 全体の $\frac{1}{3}$残存
5	土師器 坏	口径15.6 底径 3.5 器高 7.5	口縁部は直立気味に外反し端部は面をなす。体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 全体の $\frac{2}{3}$残存

93号住居址（第443・444図　図版121　表89・90）

位置　Ｏ－10グリッド／形態　方形／主軸方向（新）Ｎ－110°－Ｅ（旧）Ｎ－45°－Ｗ／規模4.35ｍ×4.35ｍ（南北×東西）／壁高40cm～77cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に北側は旧カマド付近と旧貯蔵穴に接する部分まで延び、西側は新カマドに接する部分と南と東側は壁に35cm～45cm手前まで延びる。／柱穴　４本。Ｐ１～Ｐ３は２段に亘って掘り込まれている。Ｐ１・上幅径44cm、中幅径18cm、下幅径14cm、深さ70cm。Ｐ２・上幅径46cm、中幅径18cm、下幅径14cm、深さ67cm。Ｐ３・上幅径41cm、中幅径16cm、下幅径12cm、深さ75cm。／カマド　北西側から南西側へと付け変えが行われている。（新）南西側の壁中央部より南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。

煙道部は地山を半円形に掘り込まれる。傾斜49°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。長軸87cm、短軸84cm、深さ18cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。（旧）北西側の壁中央部よりやや東側に位置する。袖部の痕跡は残されていない。煙道部は地山を半円形に掘り込まれる。傾斜48°を計る。火床部は掘り方のみの残存である。焼土の痕跡は若干認められたが灰層は抜かれ人為的に埋戻されて踏み固められている。支脚は



第443図　93号住居址

小形甕形土器を転用されている。／貯蔵穴　カマドと同様新・旧の２基検出。（新）南東隅に位置する。長軸78cm、短軸61cm、深さ48cm。長方形を呈する。覆土は自然堆積である。（旧）南東隅の壁に接して位置する。長軸84cm、短軸65cm、深さ45cm。長方形を呈する。覆土は人為的な埋土である。締まり強く踏み締められている。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土と暗褐色土の２層に分層される。

遺　物

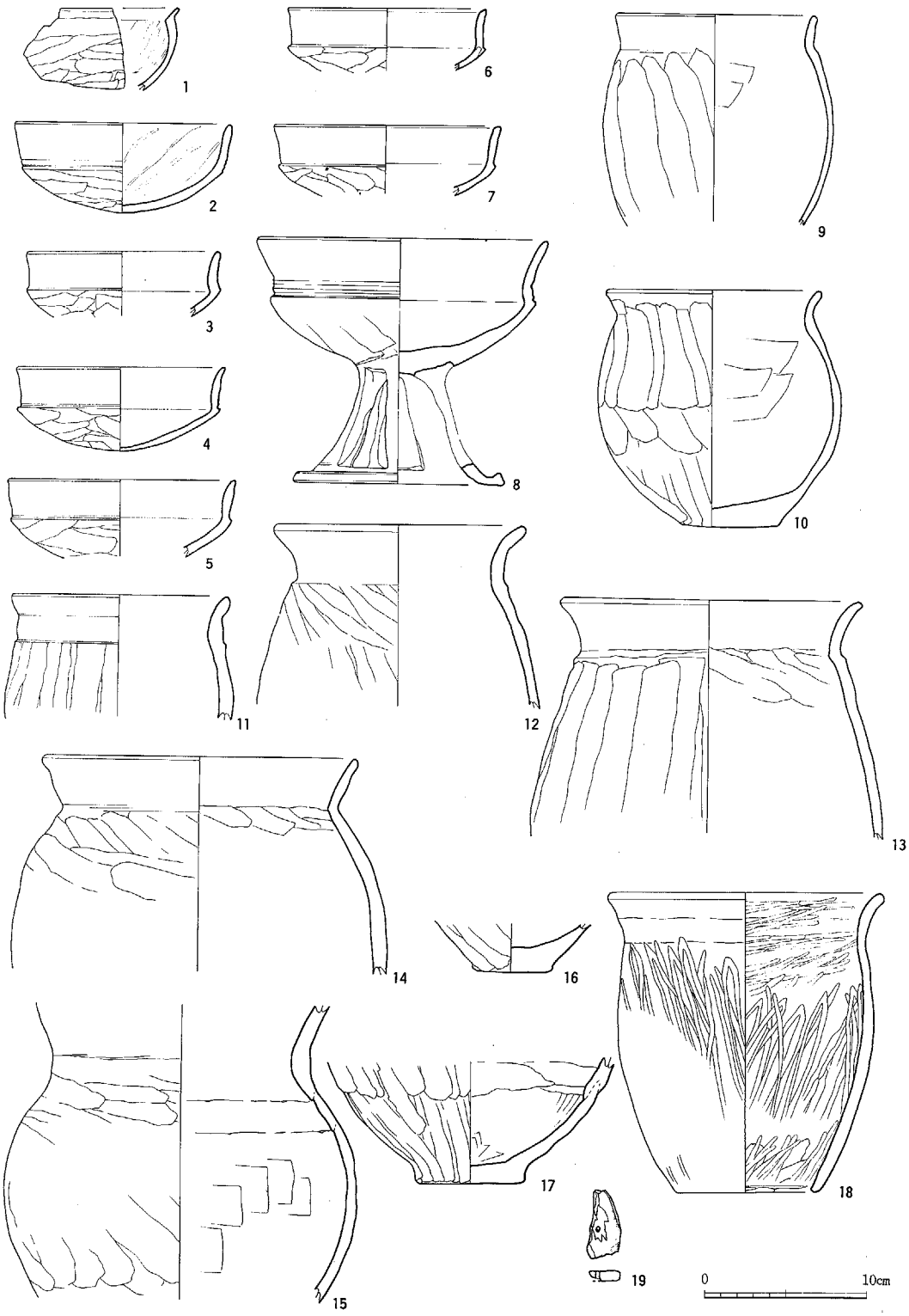
土師器の破片が貯蔵穴（新）付近と床面硬質部分とカマド（旧）付近に散乱して検出された。その他、炭化材が中央部とＰ２付近より、１点ずつ床直上で検出。さらに、南東側の壁に接して粘土塊が検出されている。実測遺物点数19点。

備　考

炭化材の検出が若干見られるが床面が焼けていない為、焼失家屋の可能性は薄いと考えられる。

表89　93号住居址出土遺物観察表(1)

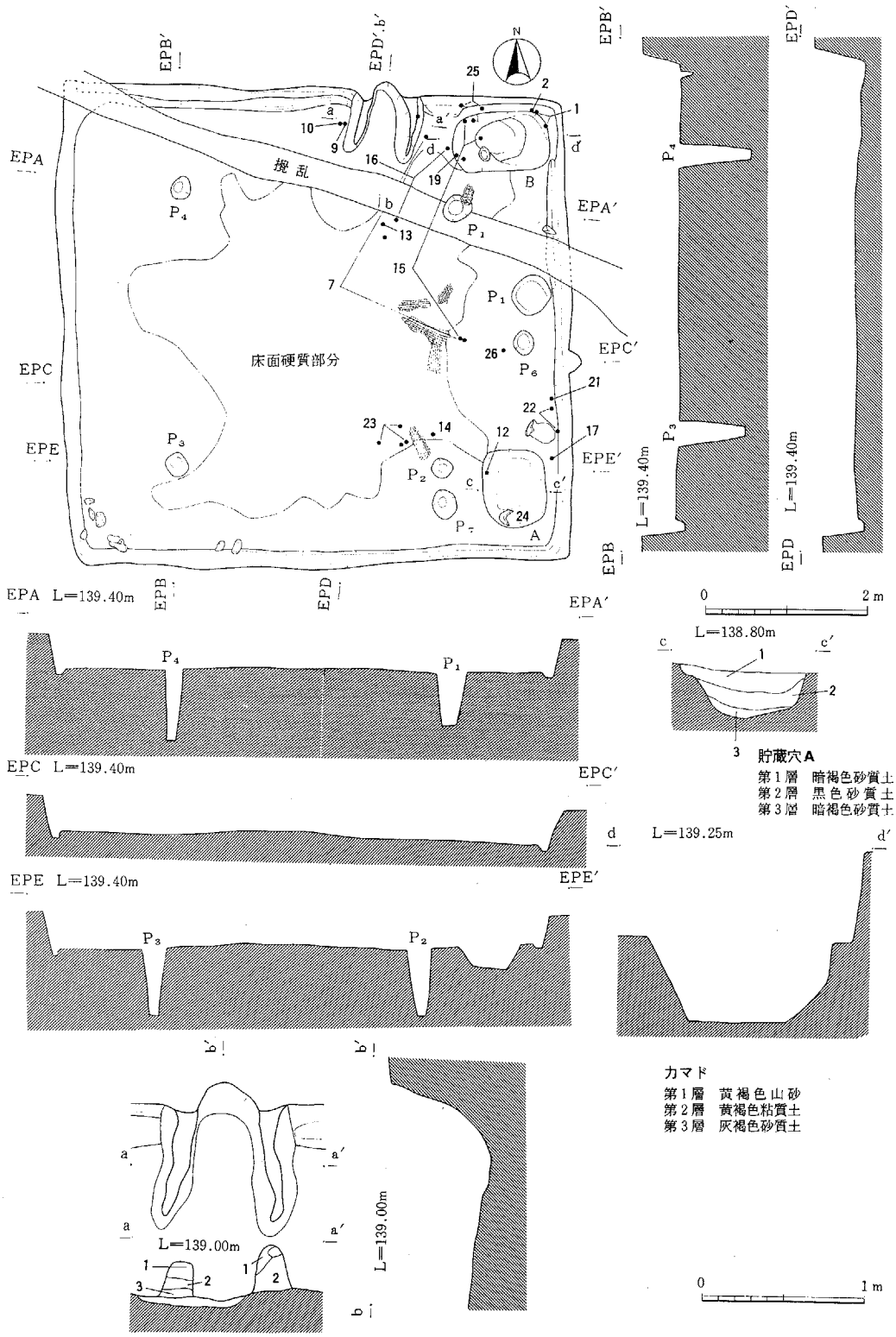
番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径11.0 残存高 5.2	口縁部は内稜を有し短く開く、体部は偏平球となり、内体部に磨き顕著。	口辺部内外ナデ 体部外面ヘラケズリ 内面ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
2	土師器 坏	口径13.1 底径 器高 5.5	口縁部は直立気味に外稜し端部は面をなす。体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
3	土師器 坏	口径11.5 残存 3.9	口縁部は直立気味に外反し体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
4	土師器 坏	口径12.6 底径 器高 5.2	口縁部は外反し体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
5	土師器 坏	口径13.8 残存 4.6	口縁部は直立気味に外反し体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中
6	土師器 坏	口径12.0 残存 3.8	口縁部は直立気味に外反し体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
7	土師器 坏	口径13.7 残存 4.2	口縁部は直立気味に外傾し端部は面をなす。体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	覆土中
8	土師器 高坏	口径17.5 底径12.3 器高15.0	坏部は４と同様で、脚部は裾広がり端部で外反し重宝形の透かしを有す。	口縁部内外ナデ 体～脚部外ヘラケズリのちヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
9	土師器 甕	口径12.2 残存13.0	口縁部は直立気味となり胴部は張りのないものとなる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
10	土師器 甕	口径13.0 底径 6.0 器高14.5	口縁部は外反し胴部は中位に最大径をとり、底部は突出する平底である。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	赤褐色	カマド



第444図　93号住居址出土遺物

表90　93号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
11	土師器 甕	口径13.0 残存 7.6	口縁部は直立気味で「コの字」状となる。胴部は張りがない。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
12	土師器 甕	復口15.2 残存11.3	口縁部は「コの字」状に外反し胴部は張りがない。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
13	土師器 甕	口径18.4 残存14.5	口縁部は「コの字」状に外反し胴部は張りがない。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	褐色	覆土中
14	土師器 甕	口径19.0 残存13.2	口縁部は「くの字」状に外反し胴部は張りがない。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	褐色	覆土中
15	土師器 甕	残存18.2	口縁部は「くの字」状に外反し、胴部は張り上位に最大径をとる。	胴部内外ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
16	土師器 甕	底径 4.3 残存 3.2	底部はわずかに突出し平たく納める。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中 底部$\frac{1}{2}$ 残存
17	土師器 甕	底部 6.4 残存 7.9	球形に近い胴部より底部は突出し平たく納める。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
18	土師器 甑	口径17.0 底径 8.5 器高18.3	口縁部は直立気味に外反し、張りのない胴部より単孔を有する。	口縁部外ヨコナデミガキ 胴部外ヘラミガキ内ヘラケズリのちヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
19	滑石製 模造品	長さ 4.2 幅 2.0 厚さ 0.6	径0.2の孔があく滑石製の石製品である。両面に亘って砂磨され、一方向の穿孔を有す。	丁寧なミガキ	——	—	—	覆土中



第445図　94号住居址

94号住居址（第445～448図　図版106・107・121・122　表91・92）

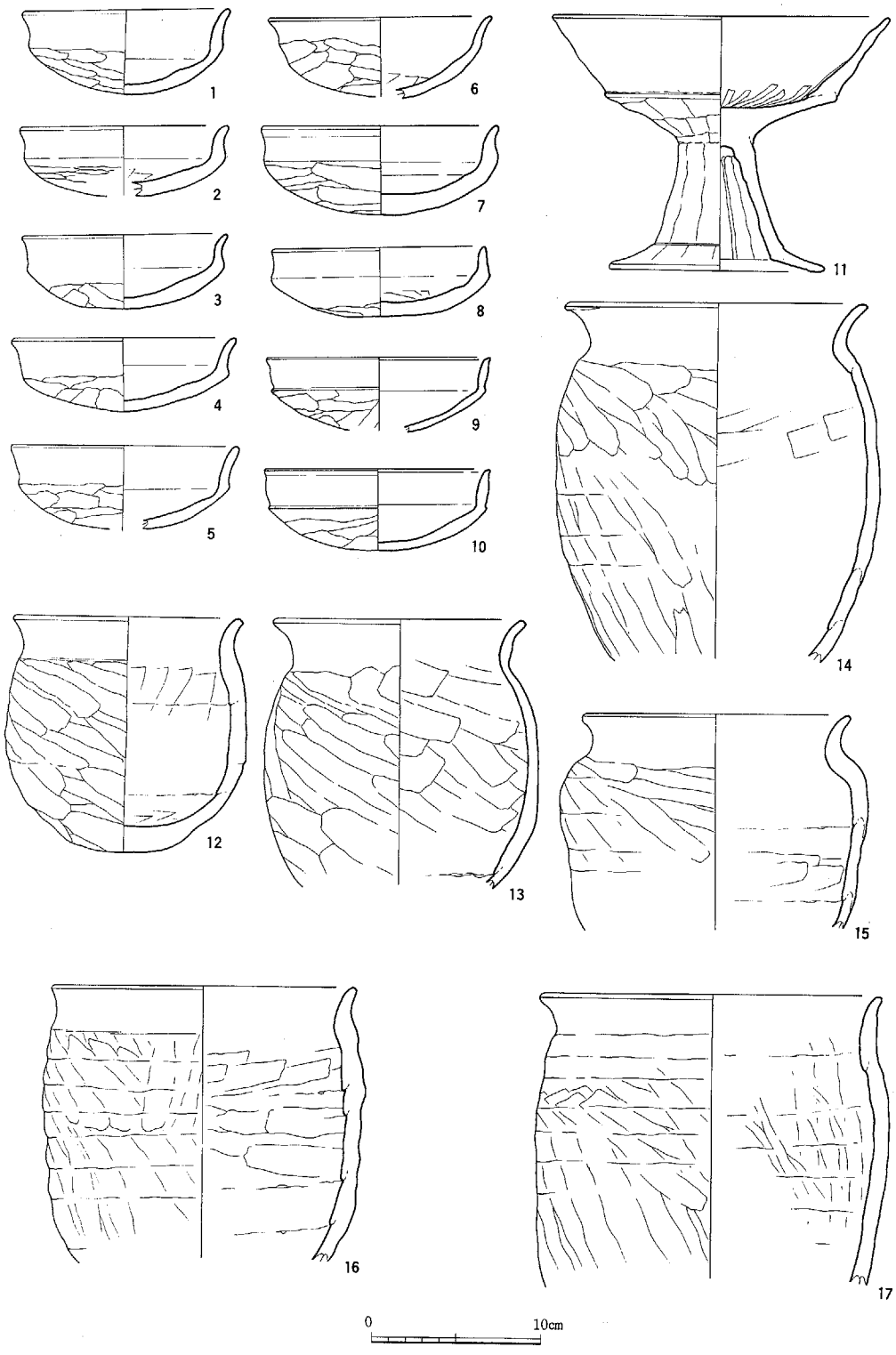
位置　M－11グリッド／形態　方形／主軸方向　（新）N－5°－E（旧）N－90°－E／規模5.63ｍ×5.29ｍ/壁高　42cm～43cm／壁溝　カマド（新）部分と貯蔵穴（新）を除いて全周する。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。北西隅から北東へかけて近・現代の暗渠に切られ南北を分断される。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に東側は貯蔵穴（旧）に一部分接し、西側は中央の一部分が西壁手前65cmまで延び南側は南壁62cm～46cm手前まで延び、北側は貯蔵穴（新）に接する範囲で延びる。／柱穴　7本。Ｐ1～Ｐ4が主柱穴に相当する。Ｐ1・上面を暗渠に切られる。推定径31cm、深さ68cm。Ｐ2・径28cm、深さ82cm。Ｐ3・径29cm、深さ80cm・Ｐ4・径24cm、深さ77cm。Ｐ5・径49cm、深さ20cm。Ｐ6・長径31cm、短径21cm、深さ11cm。Ｐ7・長径36cm、短径31cm、深さ65cm。／カマド　東側から北側へと付け変えが行われている。（新）北壁の中央より東寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を短く半円形に掘り込んでいる。傾斜は76°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は西側の袖の下まで及ぶ。長軸79cm、短軸51cm、深さ8cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。支脚は検出されなかった。（旧）東壁の中央部よりやや南に位置する。袖部は床面に山砂が痕跡として残存している。煙道部は地山をほぼ三角形に掘り込まれている。傾斜74°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶことが認められる。長軸84cm、短軸53cm、深さ12cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。壁溝によって一部切られている。／貯蔵穴　カマドと同様、新・旧2基検出。（新）北東隅に位置する。2段に亘って掘られている。長軸115cm、短軸74cm、中段深さ17cm、下段56cmを計る。長方形を呈する。覆土は自然堆積である。（旧）南東隅に位置する。長軸96cm、短軸76cm、深さ34cm。長方形を呈する。覆土は人為的な埋土である。締まり強く踏み固められている。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に2層に分かれる。

遺　物

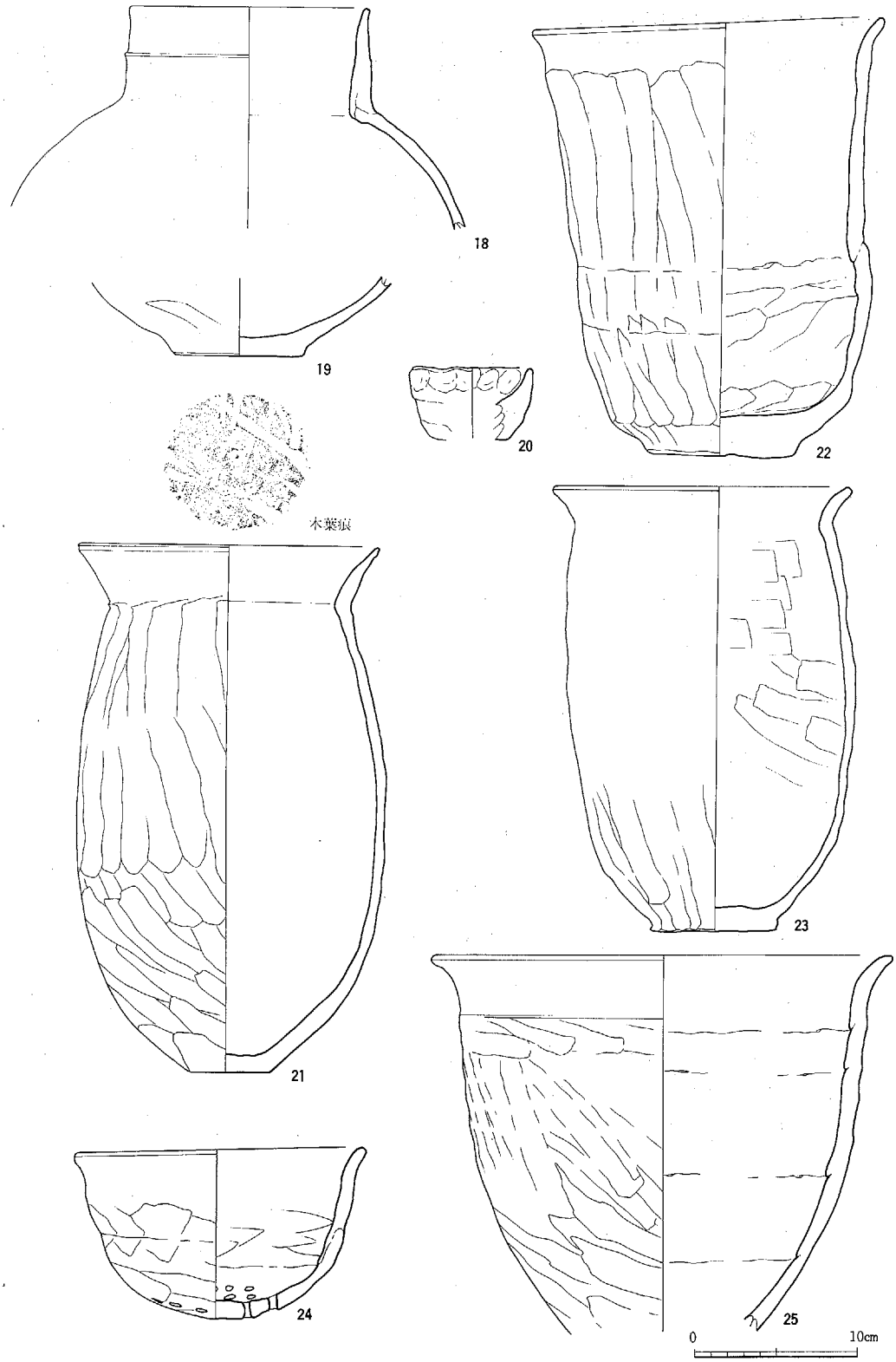
土師器破片が新カマド付近と東寄りに集中して出土した。また、炭化材が東寄りに集中して検出された。状況からみて焼失家屋と考えられる。旧カマド付近に覆土中よりほぼ完形の長胴甕と甑の破片が出土した。さらに自然礫が南東隅に床直上に集中し、新貯蔵穴内にも1点出土された。実測遺物総点数27点。



第446図　94号住居址出土遺物(1)

表91　94号住居址出土遺物観察表(1)

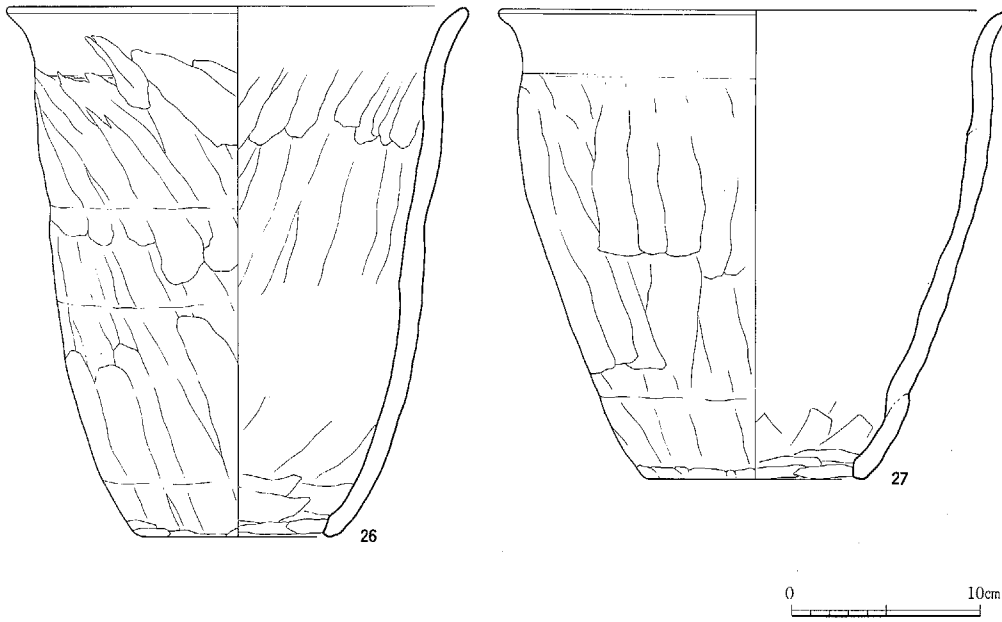
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径12.2 底径 4.0 器高 5.0	口縁部は外反し体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着
2	土師器 坏	口径12.2 底径 2.2 残存 4.1	口縁部は外反し体部に鈍い外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリのちナデツケ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡茶褐色	覆土中
3	土師器 坏	口径12.0 底径 4.3 器高 4.0	口縁部は外反し体部に鈍い外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
4	土師器 坏	復口13.0 底径 4.0 器高 4.0	口縁部は外反し体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中
5	土師器 坏	口径13.4 底径 4.0 残存 4.9	口縁部は外反し体部に外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中
6	土師器 坏	復口13.0 底部 3.4 残存 4.7	口縁部は外反し体部には明確な外稜はなく丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中
7	土師器 坏	復口13.8 底径 5.0 器高 5.3	口縁部は外反し体部に鈍い外稜を有し丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
8	土師器 坏	口径12.6 底径 4.0 器高 4.1	口縁部は直立気味に外反し体部に外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中
9	土師器 坏	復口13.1 底径 4.9 残存 4.4	口縁部は直立気味に外稜し端部は段をなす。体部は外稜を有し丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
10	土師器 坏	復口13.1 底径 4.0 器高 4.8	口縁部は直立気味に外反し体部に外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
11	土師器 高坏	復口20.0 底径12.5 器高15.0	坏口縁部は外稜を下位にとり外開する。脚部は2段に開く「喇叭」状。	口縁部内外ヘラナデ、体部外ヘラナデ脚部外ヘラケズリのちナデ内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
12	土師器 甕	口径13.5 底径 4.0 器高14.0	口縁部は短く外反し胴部は張りがないもので底部は突出し平たく納める。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
13	土師器 甕	口径14.8 残存16.2	口縁部は「コの字」状に外反し胴部は張りがない。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
14	土師器 甕	口径17.6 残存21.2	口縁部は外反し鈍い内稜を付け胴部は張りがないものとなる。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着
15	土師器 甕	口径18.0 残存16.0	口縁部は短く外反し胴部は肩が張るものである。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	覆土中
16	土師器 甕	口径20.1 残存17.5	口縁部は短く直立ぎみに立ち上がり、胴部は張りがない。輪積み痕顕著。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	黒褐色	覆土中
17	土師器 甕	口径22.0 残存17.5	口縁部は短く直立気味に立ち上り、胴部は張りがない。輪積み痕顕著。	口辺部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ輪積痕を内ナデ輪積痕を残す	砂粒石粒を含む	酸化炎	黒褐色 淡褐色が部分的に混ざる	
18	土師器 甕	口径14.5 残存13.4	口縁部は直立し中位に外稜を有す。胴部は球形となるもの。	内外ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中



第447図　94号住居址出土遺物(2)

表92　94号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
19	土師器 甕	底部 7.5 残存 5.1	球形の胴部より連続する底部は突出し平たく納める。	胴部内外ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着
20	土師器 手ね	口径 7.2 底径 5.0 残存 4.4	手捏土器。口縁部は直立気味に開き、底部は平底となる。	指ナデ	砂粒含む	酸化炎	淡赤褐色	覆土中
21	土師器 甕	口径18.2 底径 4.8 器高31.9	口縁部は「の字」状となり長胴化するもので底部は平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
22	土師器 甕	口径21.4 底径 8.7 器高26.2	口縁部は短く外反し張りのない胴部より突出する平底を連続させる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	褐色	床着
23	土師器 甕	口径18.0 底径 7.5 器高27.0	口縁部は「くの字」状となり長胴化するもので底部は平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部内外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
24	土師器 甑	口径17.4 底径 4.5 器高10.3	口縁部は外反し胴部は内反気味に開く。丸底に複数の単小孔を穿つ。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
25	土師器 甑	口径28.2 残存23.1	口縁部は外反し胴部は内反気味に開く。欠損する底部には単孔を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部ヘラナデツケ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
26	土師器 甑	口径24.0 底径10.8 器高28.0	口縁部は外反し胴部は外開し、底部は単孔を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
27	土師器 甑	口径27.0 底径11.4 器高24.7	口縁部は外反し胴部は外開し、底部は単孔を有す。	口縁部内外ナデ、胴部外ヘラケズリのちナデツケ、内ヨコナデツケのちタテナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着



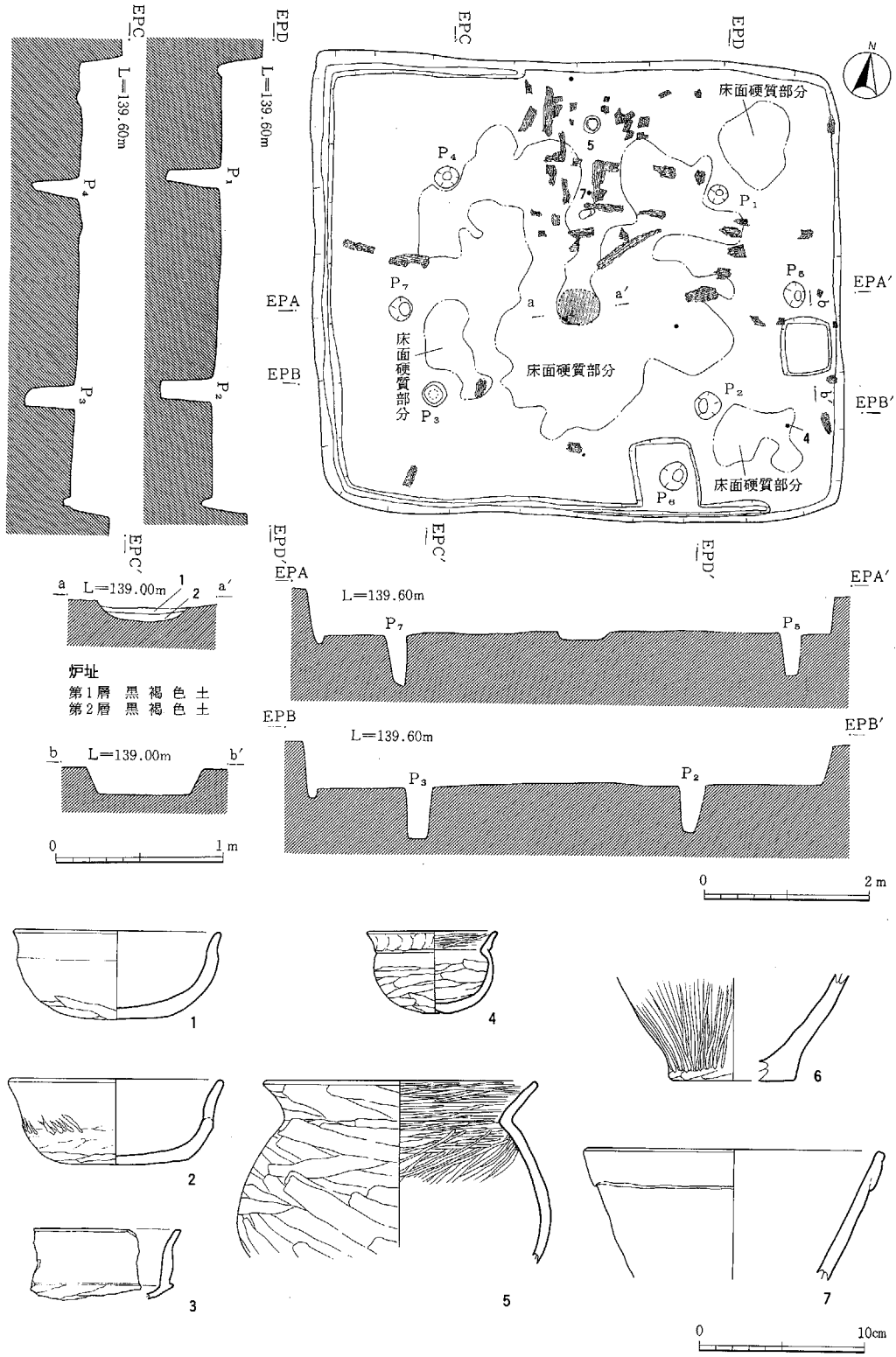
第448図　94号住居址出土遺物(3)

95号住居址（第449図　図版107・122　表93）

位置　L－11・12グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－85°－E／規模　6.07ｍ×5.16ｍ（南北×東西）／壁高　42.5cm～46cm／壁溝　南壁の途中より西壁に沿って北壁の中央部の付近までの範囲で検出されている。規模は幅５cm～９cm、深さ４cm～11cmを計る。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴間の内側より部分的に外側へ延びる範囲と北東と南東の一部に検出されている。またＰ６を取り囲むように方形に掘り込まれている部分が検出されている。長軸73cm、短軸70cm、深さ25cm。／柱穴　Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当する。またＰ６とＰ７は棟に相当する入母屋の可能性が考えられる。Ｐ１・径25cm、深さ54cm。Ｐ２・径32cm、深さ58cm。Ｐ３・柱痕の検出あり。径10cmを計る。掘り方径29cm、深さ61cm。Ｐ４・径29cm、深さ66cm。Ｐ５・径30cm、深さ56cm。Ｐ６・径35cm、深さ46cm。Ｐ７・径28cm、深さ58cm。／炉　ほぼ中央部に位置する。長軸49cm、短軸42cm、深さ７cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　長軸73cm、短軸60cm、深さ17cm。長方形を呈する。深さが20cm未満と浅いため、貯蔵穴として断定しがたいが位置と形態から可能性が考えられるため、貯蔵穴として扱かった。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土と黒褐色土の２層に分層される。



第449図　95号住居址・出土遺物

遺　物

北寄りに土師器甕形土器の胴部上半の破片が正位の状態で床直上より出土。その他、土師器の破片が散乱して出土した。また、炭化材が検出。特に、北側の中央寄りに集中して検出されている。焼失家屋である。炭化材を細かく観察すると中心部に向かって放射状に検出されている。これも上屋基本構造を示すものと考えられる。炭化材の遺存は良好である。実測遺物点数7点。

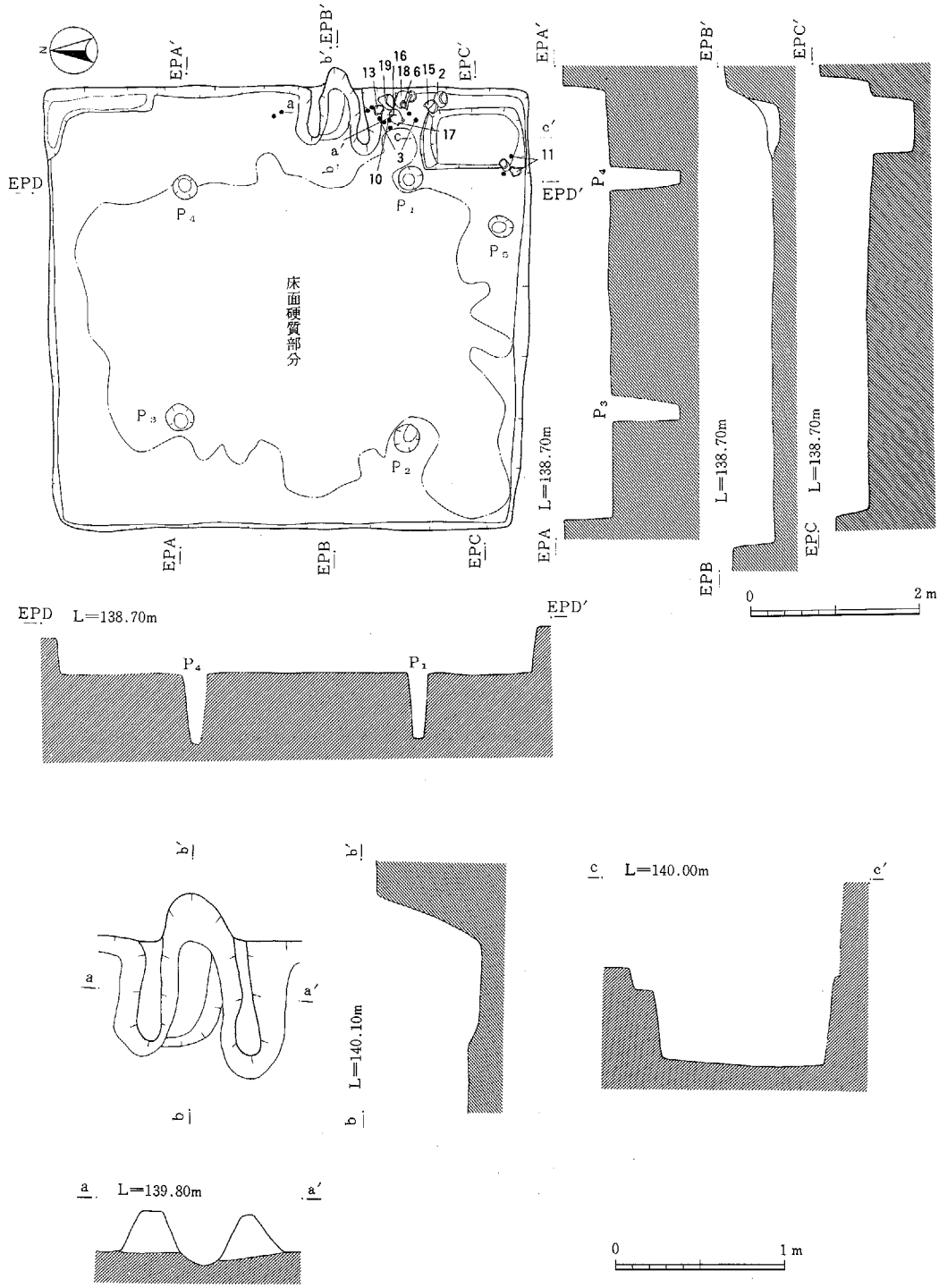
表93　95号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	復口12.3 底径 5.1 器高 5.2	口縁部は鈍い外稜を有し丸みを帯びた平底となる。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリのちナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	覆土中
2	土師器 坏	口径12.8 底径 6.4 器高 5.1	口縁部は鈍い外稜を有し丸みを帯びた平底となる。	口縁部内外ナデ 体部外ナデのちヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	覆土中
3	土師器 坏	復口16.0 残存高 4.2	口縁部は直立し端部でさらに外反し面をなす。体部には外稜を有す。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	覆土中
4	土師器 坩	復口 7.7 底径 1.0 器高 4.8	口縁部は折りこまれ短く開き押圧痕顕著。胴部は偏半球で上げ底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
5	土師器 甕	口径16.1 残存10.8	口縁部は内稜を有し「くの字」状に開く。胴部は偏平球を呈す。	口縁部内ヨコミガキ ロ～胴部外ヘラケズリ 胴部内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着
6	土師器 甕	復底径 7.5 残存 6.5	直線的に開く胴部は突出する平底を有す。	胴部外ヘラケズリのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 底部$\frac{1}{4}$ 残存
7	土師器 甑	復口17.7 残存 7.7	口縁部は折り返され胴部は直線的に開く。	口縁部内外ヨコナデ 胴部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	床着

96号住居址（第450・451図　図版86・107・122・123　表94・95）

位置　L－13グリッド／形態　方形／主軸方向　N－0°－E／規模　5.45m×5.16m（東西×南北）／壁高　47cm～51cm／壁溝　北東隅のみ検出。規模は8cm～16cm。深さ10cm～15cmを計る。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に東はカマドと貯蔵穴の間まで延び西は壁の74cm～31cm手前まで延びている。また、北は壁の75cm～31cm手前まで延びている。南は貯蔵穴付近から南西隅にかけて壁に近接して延びている。／柱穴5本。P1・径28cm、深さ30cm。P2・径32cm、深さ72cm。P3・径35cm、深さ86cm。P4・径28cm、深さ84cm。P5・径30cm、深さ31cm。／カマド　東壁の中央よりやや南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を三角形に掘り込んでいる。傾斜は61°を計る。

火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は北側の袖の下まで及ぶ。長軸65cm、短軸56



第450図　96号住居址

cm。深さ7cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。支脚は検出されなかった。／貯蔵穴　南東隅に位置する。2段に亘って掘られている。長軸124cm、短軸71cm、中段深さ13cm、下段53cmを計る。長方形を呈する。

覆土の状況

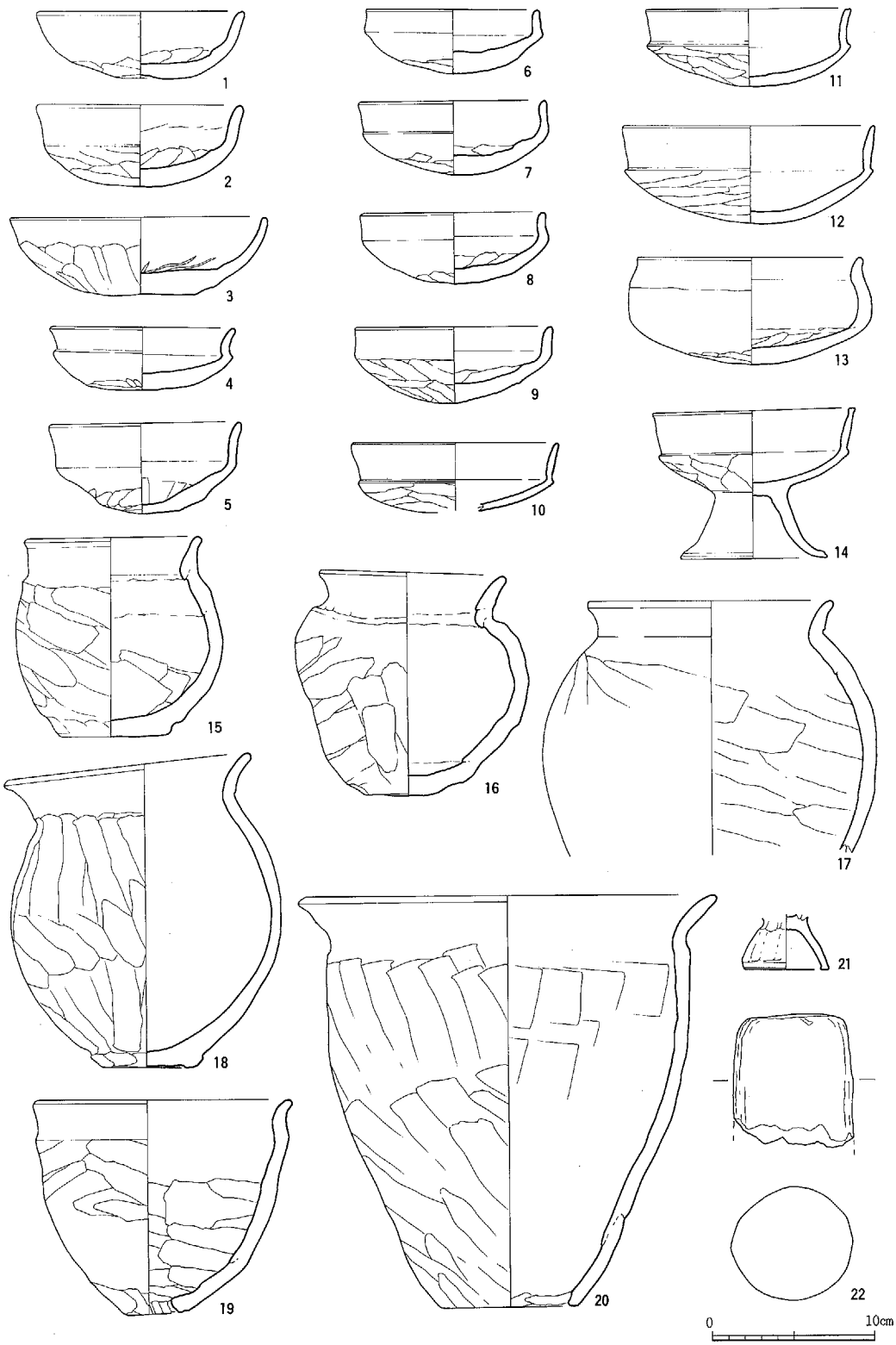
自然堆積である。黒褐色土を基調に2層に分層される。

遺　物

カマドと貯蔵穴の間に土師器甕、甑、坏の破片がカマドから転落したかのように集中して出土した。また、貯蔵穴の南東隅にも坏が出土した。実測遺物総点数22点。

表94　96号住居址出土遺物観察表(1)

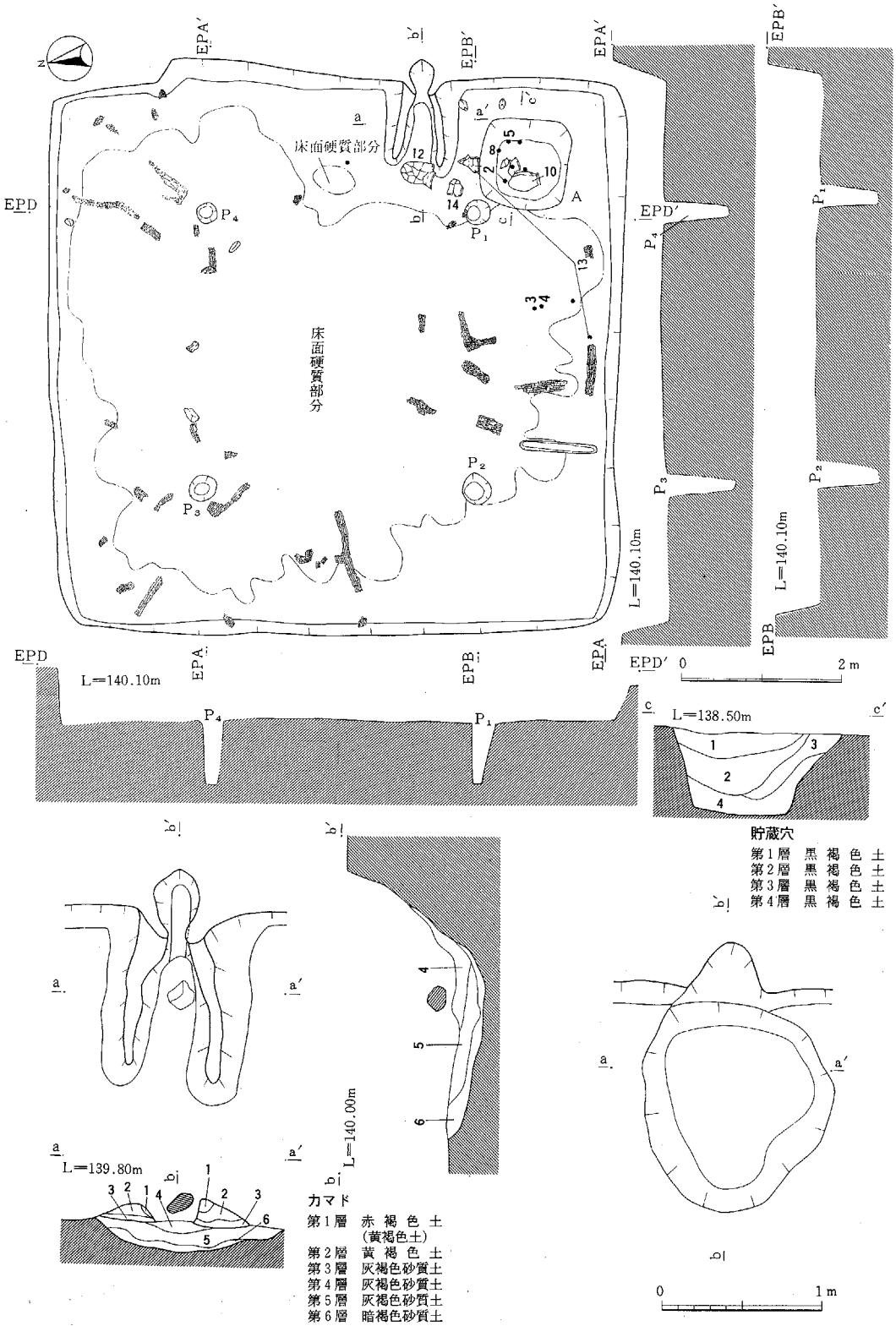
番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径12.5 底径 4.8 器高 4.1	素縁の物で体部～口縁部は内反気味に開く。底部は丸く納め上げ底となる。	口縁部内外ナデ 体部外ナデのちヘラケズリ内ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴
2	土師器 坏	口径12.3 底径 3.1 器高 5.0	口縁部は外反し体部に鈍い外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部内外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着 3/4残存
3	土師器 坏	口径15.5 底径 5.7 器高 4.6	素縁の物で体部～口縁部は内反気味に開く。底部は削りにより平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ミガキ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	床着 2/3残存
4	土師器 坏	口径11.0 底径 5.1 器高 3.8	口縁部は短く外反し体部に外稜を有して底部は丸く納める。	口縁部内外ヘラナデ 体部外ナデのちヘラケズリ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	カマド 3/4残存
5	土師器 坏	口径11.5 底径 3.1 器高 5.5	口縁部は外反し体部に外稜を有して底部は削りにより丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴 3/4残存
6	土師器 坏	口径10.5 底径 2.2 器高 3.9	口縁部は短く内傾し体部に外稜を有して底部は丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴
7	土師器 坏	口径11.4 底径 2.4 器高 4.5	口縁部は外傾し体部に外稜を有して底部は丸く納める。	口縁部内外ヘラナデ 体部外ナデのちヘラケズリ内ヘラケズリ	砂粒を含む	酸化炎 良好	暗褐色	貯蔵穴
8	土師器 坏	口径10.2 底径 2.2 器高 4.4	口縁部は短く直立気味に外反し体部に鈍い外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ナデ 体部外ナデのちヘラケズリ内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	淡黒褐色	貯蔵穴 完形
9	土師器 坏	口径12.0 底径 1.4 器高 4.7	口縁部は短く直立気味に外反し体部に鈍い外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヘラケズリ 体部内外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴
10	土師器 坏	復口12.5 残存 4.2	口縁部は外傾し体部に外稜を有して底部は丸く納める。器肉は薄い。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着



第451図　96号住居址出土遺物

表95　96号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
11	土師器 坏	口径12.0 底径 2.4 器高 4.7	口縁部は直立気味に外反し端部で面をなす。体部外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヨコナテ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	貯蔵穴 完形
12	土師器 坏	復口15.3 底径 2.1 器高 6.0	口縁部は外傾し体部に外稜を有して底部は丸く納める。器肉は薄い。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 $\frac{2}{3}$残存
13	土師器 坏	復口13.7 底径 6.5 器高 4.8	口縁部は鈍い内稜を有し外反し体部は偏平に近く内反して丸底に続く。	口縁部内外ナデ、体部外ヘラナデツケのちヘラケズリ内ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 $\frac{2}{3}$残存
14	土師器 高坏	口径12.3 底径 9.0 器高 9.0	坏口縁部は外傾し端部で面をなし外稜を有す。脚部は裾広がりとなる。	口縁部内外ヘラナデ 体部外ヘラケズリ、脚部外ヘラケズリのヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
15	土師器 甕	口径10.5 底径 6.5 器高12.1	口縁部は「コの字」状を呈し張りのない胴部より突出気味の平底を有す。	口縁部内外ナデ 胴部内外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	淡赤褐色	床着 完形
16	土師器 甕	口径11.0 底径 4.5 器高13.6	口縁部は内稜を有して外反し肩の張る胴部より突出気味の平底となる。	口縁部内外ヘラナデ 胴部外ヘラケズリのちナデのヘラケズリ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着 完形
17	土師器 甕	復口15.0 残存15.5	口縁部は短く外反し胴部上位に最大径を有する。	口縁部内外ヨコナデ 胴部内外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着 胴部上半 $\frac{1}{4}$残存
18	土師器 甕	口径14.7 底径 5.5 器高18.4	口縁部は外反し胴部中位に最大径を有して突出気味の底部は輪台状を呈す。	口縁部内外ヘラナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着
19	土師器 甑	口径15.5 底径 3.0 器高13.0	口縁部は内傾気味に外反し外に開く胴部より底部に小単孔を有す。	口縁部内外ヘラナデ 胴部内外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド
20	土師器 甑	復口径 25.0 復底径 8.3 器高21.1	口縁部は「コの字」状に外反し外に開く胴部より底部に単孔を有す。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラナデツケ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴 $\frac{1}{4}$残存
21	土師器 甕	 底径 5.3 残存 3.4	脚部は丸く納めながら開き端部で面をなす。	脚部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
22	土製 支脚	重さ 42.5g 残存 7.9	土製の支脚である。円柱状に成形されている。	丁寧なつくりナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	カマド 上部欠損 下半残存



第452図　97号住居址

97号住居址（第452・453 図版107・123 表96・97）

位置　K－13・14グリッド／形態　方形（東壁は北側寄りの一部が張り出して検出されている。）／主軸方向　N－110°－E／規模　6.82m×6.50m（東西×南北）／壁高　55cm～65cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。南西側に間仕切り溝が検出されている。規模は長さ96cm、幅4cm～11cm、深さ12cmを計る。硬質部分は主柱穴間の内側を中心にカマド付近の一部と貯蔵穴に接し、全体に亘って壁の121cm～10cm手前まで延びる。／柱穴　4本。P1・径31cm、深さ75cm。P2・径32cm、深さ80cm。P3・長径35cm、短径32cm、深さ97cm。P4・径26cm、深さ79cm。／カマド　東壁中央部より南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を円形に掘り込んでいる。傾斜は60°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は北側の袖の下まで及ぶ。長軸131cm、短軸118cm、深さ21cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。支脚は石製である。火床部からはずれ覆土中横位の状態で出土した。／貯蔵穴　南東隅に位置する。長軸113cm、短軸112cm、深さ59cm。方形を呈する。

覆土の状況

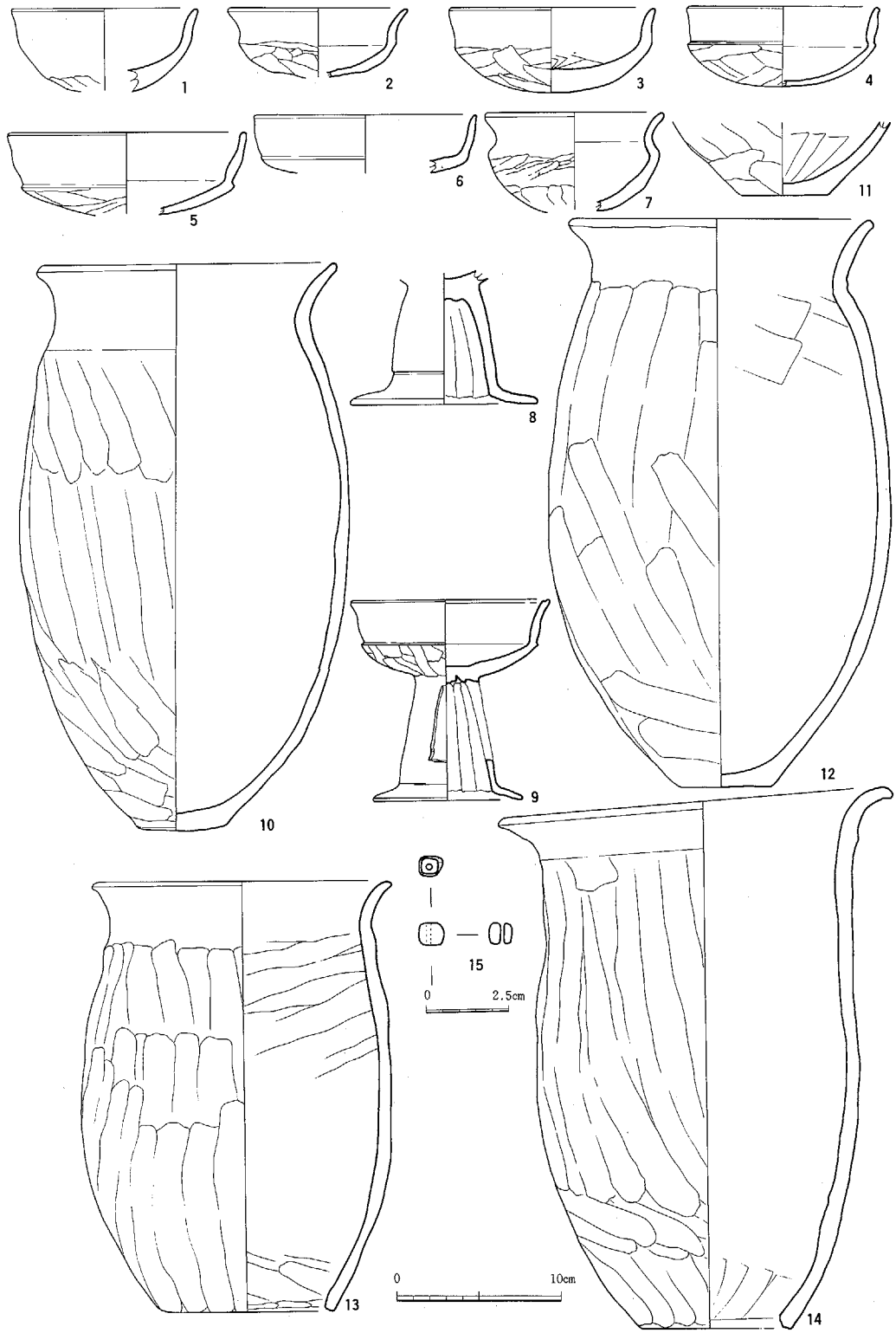
自然堆積である。黒褐色土を基調に2層と暗褐色土と合わせて3層に分層される。

遺　物

カマド付近と貯蔵穴内に土師器長胴甕、甑、坏がカマドから転落したかのように集中して出土した。また、床着で小玉が1点出土した。やや偏平に近い丸玉で色はダークブルーである。その他、自然礫が北寄りとカマドと貯蔵穴の間に総点数6点出土した。さらに全体に亘って炭化材が床直上で検出された。焼失家屋である。炭化材を細かく観察すると本址も中心に向かって放射状に検出されている。実測遺物総点数15点。

表96　97号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径11.2 残存 5.0	口縁部は外反し体部に鈍い外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中 1/3残存
2	土師器 坏	口径10.8 残存 4.2	口縁部は外反し体部に外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヘラナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 1/3残存
3	土師器 坏	口径12.4 底径 2.6 器高 5.1	口縁部は外反し体部に鈍い外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヘラナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中 2/3残存
4	土師器 坏	口径11.7 底径 2.9 器高 4.9	口縁部は直立気味に外傾し端部で面をなす。体部外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中 1/2残存
5	土師器 坏	口径14.4 残存 5.0	口縁部は内反気味に外傾し端部で面をなす。体部外稜を有して丸底となる。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 1/4残存
6	土師器 坏	口径13.4 残存 3.5	口縁部は直立気味に外傾し体部に外稜を有して丸底となり箱型を呈す。	口縁部内外ヘラナデ 体部外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 1/3残存



第453図　97号住居址出土遺物

表97　97号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
7	土師器 坏	口径10.6 残存 6.0	口縁部は内傾気味に外反し外稜を有して丸底に連続する。	口縁部内外ヘラナデ 体部外ヘラミガキのちヘラケズリ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	貯蔵穴 $\frac{1}{3}$残存
8	土師器 高坏	底径11.4 残存 8.1	脚部は筒状より真横に広がる「喇叭」状となる。	脚部外ナデ 〃 内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	貯蔵穴 脚台の $\frac{2}{3}$残存
9	土師器 高坏	口径12.0 底径 9.0 器高12.0	口縁部は外反し端部で段をなし「喇叭」状の脚部は長方形透かしを有す。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ内ナデ脚部内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中 $\frac{3}{4}$残存
10	土師器 甕	口径17.7 底径 4.7 器高34.3	口縁部は「くの字」状に外反し胴部は長胴化した突出する平底を作る。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	貯蔵穴
11	土師器 甕	底径 5.6 残存 4.5	突出しない平底である。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中 底部$\frac{1}{3}$ 残存
12	土師器 甕	口径18.2 底径 5.6 器高34.7	口縁部は「くの字」状に外反し胴部は長胴化した平底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 $\frac{2}{3}$残存
13	土師器 甑	口径17.8 底径10.0 器高26.1	口縁部は外反し長胴化した胴部より径の大きな単孔を有す。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド
14	土師器 甑	口径23.5 底径 9.0 器高32.1	口縁部は大きく外反し長胴化した胴部より径の大きな単孔を有す。	口縁部内外ヨコナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	貯蔵穴
15	小玉	長さ 0.7 幅 0.8 厚さ 0.7 重さ 0.4g	瑪瑙	中心部に小さな突孔があく。丁寧ミガキが施されている	——	—	ダークブルー	床着

98号住居址（第454図　図版108・123　表98）

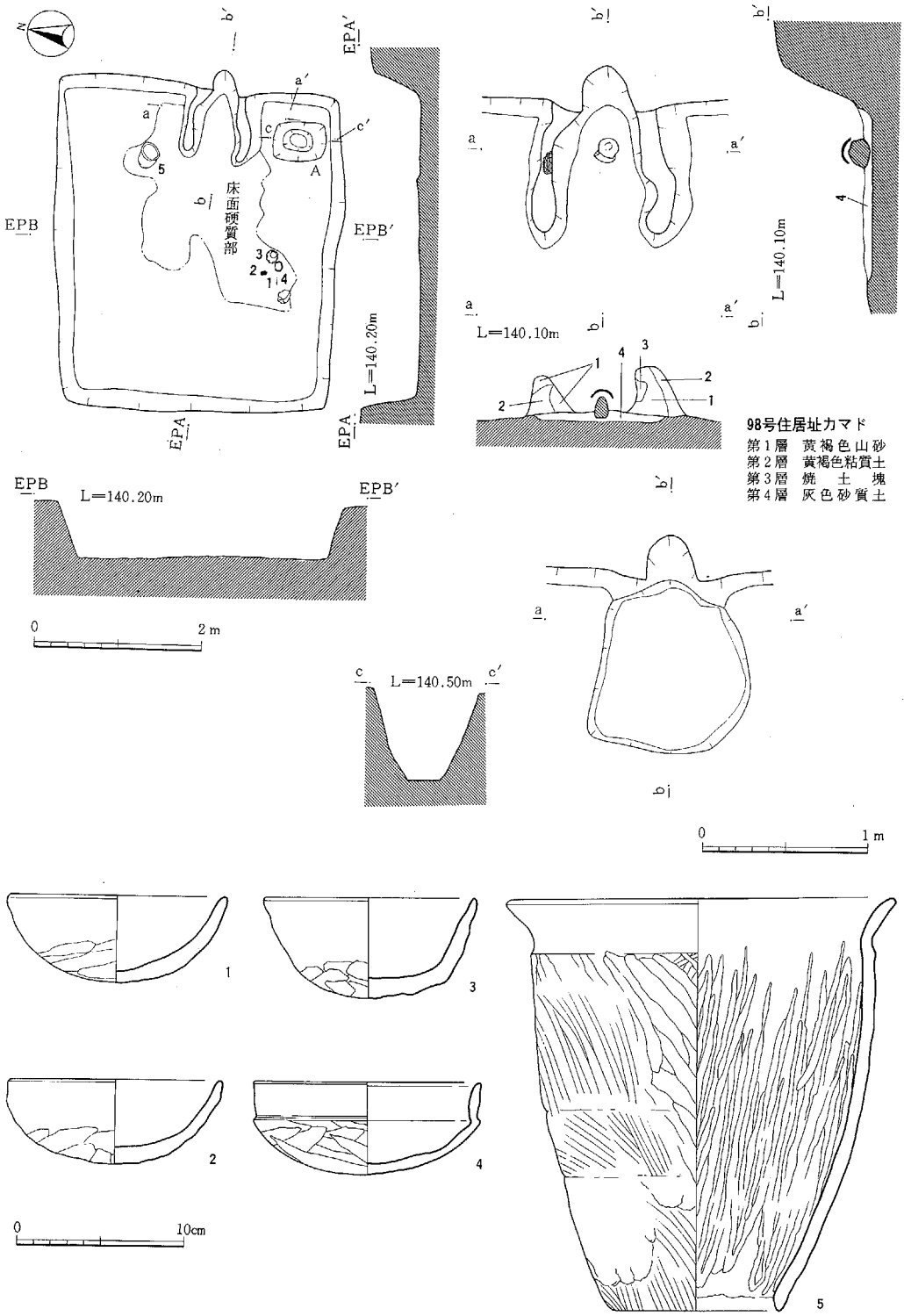
位置　J・K・L－14・15グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－70°－E／規模　3.64m×2.98m（東西×南北）／壁高　70cm～72cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。硬質部分はカマド付近より南壁寄りにかけて検出されている。／柱穴　なし。／カマド　東壁中央部よりやや南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込んでいる。傾斜は75°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は北側の袖の下まで及ぶ。長軸104cm、短軸91cm、深さ6cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。支脚は石製である。／貯蔵穴　南東隅に位置する。2段に亘って掘られている。長軸64cm、短軸47cm、中段の深さ42cm、深さ53cm。上部は方形を呈する。下部は楕円形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土、暗褐色土、黒褐色土の合わせて3層に分層される。

遺　物

カマド付近より土師器長胴甕のほぼ完形品が床直上より1点出土した。また、南壁より中央寄り覆土中から坏が3点、自然礫1点出土した。実測遺物点数5点。



第454図　98号住居址・出土遺物

表98　98号住居址出土遺物観察表

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径13.0 底径 2.2 器高 5.2	素縁のもので体～口縁部は内反気味に開く。底部は丸く納る。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内雑なヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中 ほぼ完形
2	土師器 坏	口径12.5 底径 3.2 器高 5.0	素縁のもので体～口縁部は内反気味に開く。底部は丸く納る。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	褐色	カマド $\frac{2}{3}$残存
3	土師器 坏	口径12.5 底径 2.2 器高 6.0	素縁のもので体～口縁部は内反気味に開く。底部は丸く納る。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
4	土師器 坏	口径13.6 底径 2.6 器高 5.5	口縁部は直立気味となり体部に外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヘラナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中 完形
5	土師器 甑	口径23.2 底径10.0 器高24.6	口縁部は外反し開く胴部より径の大きく単孔を有す。内外ヘラ磨き顕著。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリのちミガキ内ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 ほぼ完形

99号住居址（第455図　図版108）

位置　J－14・15グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－E／規模　5.23cm×4.21cm／壁高　43cm～58.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に締まりがあり硬質である。／柱穴　5本。P1～P4主柱穴に相当する。P1・径32cm、深さ56cm。P2・径32cm、P3・径64cm、深さ61cm。P4・径31cm、深さ76cm、P5・径28cm、深さ60cm／炉　なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

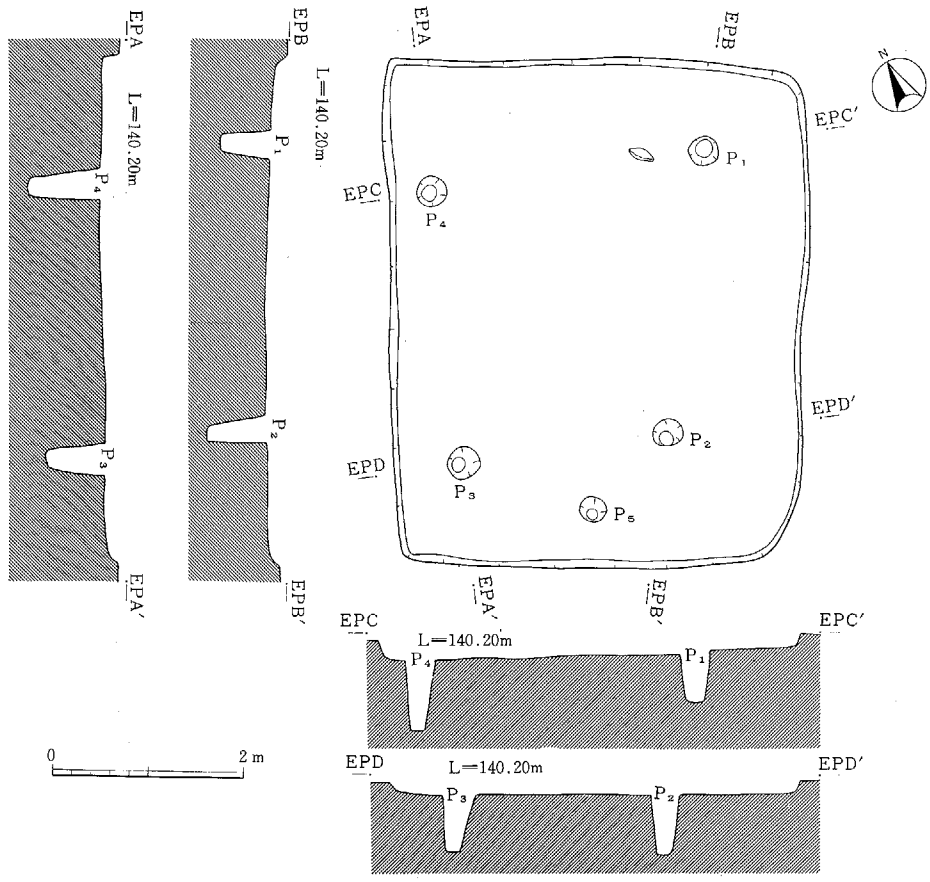
自然堆積である。黒色土と黒褐色土の2層に分層される。

遺　物

検出されなかった。

備　考

伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。

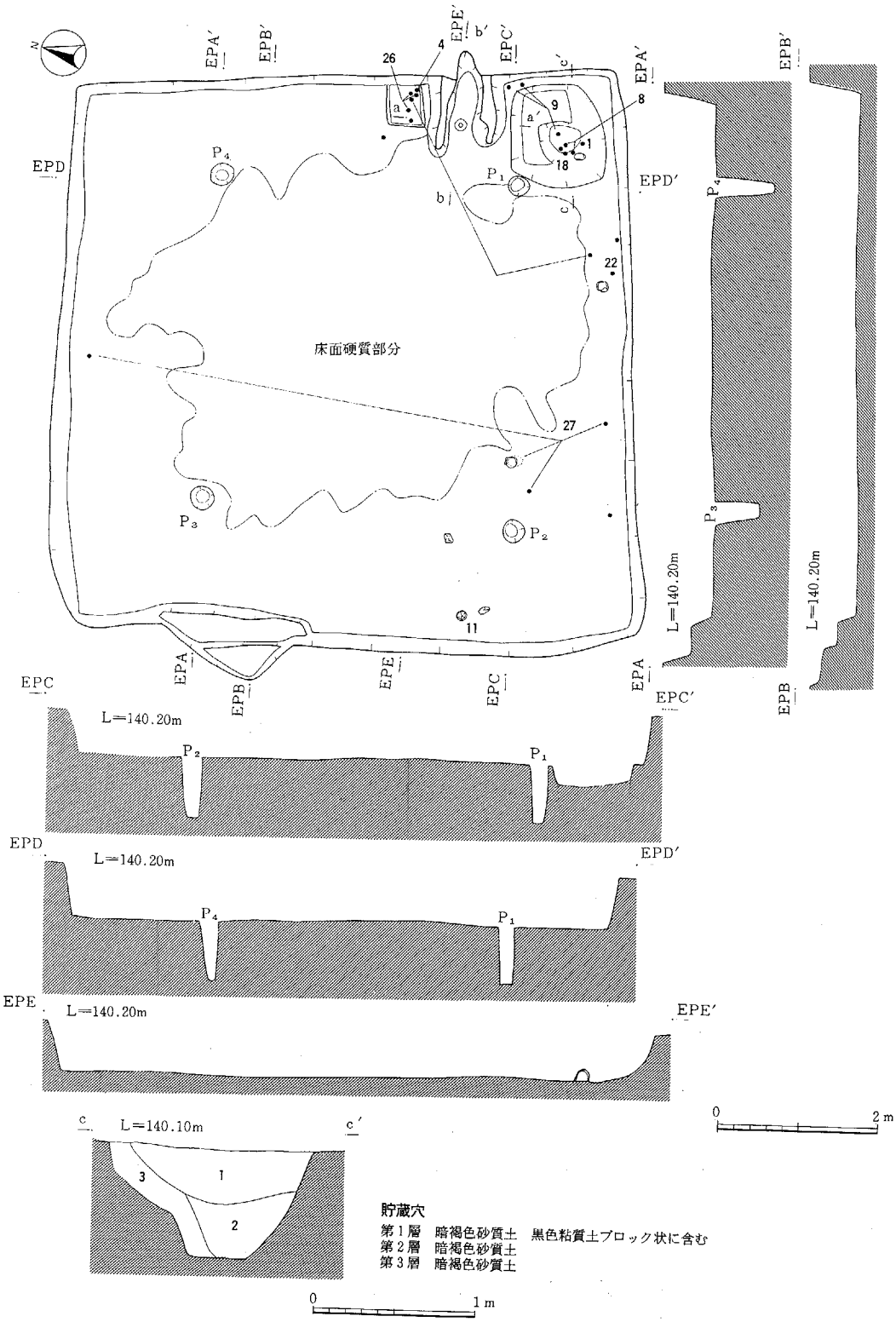


第455図　99号住居址

100号住居址（第455～459図　図版108・109・124　表99。100・101）

位置　K－16グリッド／形態　方形／規模　7.06ｍ×6.81ｍ／主軸方向　N－80°－E／壁高60cm～62.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に東はカマドと貯蔵穴に接し、北は壁の手前73cm～48cm、南は115cm～43cmまで延びた範囲で検出されている。また、カマドの北側の脇に長軸50cm、短軸46cm、深さ４cmの方形を呈する掘り込みが検出されている。掘り込みが浅いため貯蔵穴扱いにはしなかった。／柱穴　４本。Ｐ１・径28cm、深さ70cm。Ｐ２・径28cm、深さ74cm。Ｐ３・径30cm、深さ74cm。Ｐ４・径29cm、深さ78cm。／カマド　東壁中央部より南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を三角形に掘り込んでいる。傾斜は61°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖の下まで及ぶ。長軸78cm、短軸52cm、深さ７cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。支脚は土師器小形丸胴甕を逆位で転用されている。

／貯蔵穴　南東隅に位置する。２段に亘って掘られている。長軸144cm、短軸115cm、中段の深さ37cm、深さ66cm。長方形を呈する。



第456図　100号住居址

覆土の状況

自然堆積である。黒色土、暗褐色土、黒褐色土を基調に2層の合わせて4層に分層される。

遺　物

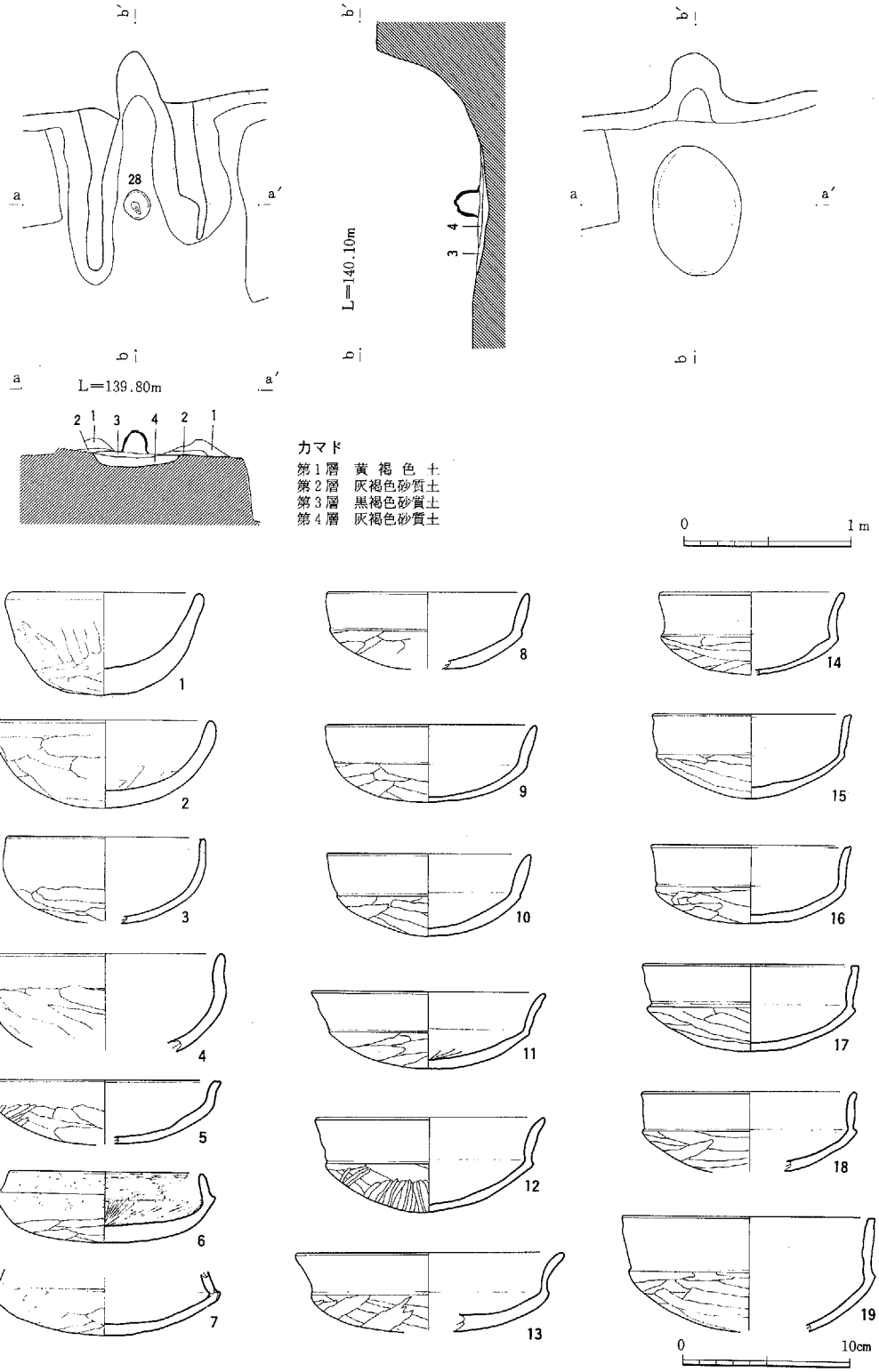
カマド内より支脚転用の土師器丸胴甕のほぼ完形品が1点、貯蔵穴内と方形の浅い掘り込みより土師器坏の破片が出土した。また、南寄りに坏と自然礫が床直上に散乱して出土した。さらに、南壁中央寄りの覆土中から大甕の破片がまとまって出土した。実測遺物点数33点。

備　考

北西側隅寄りに地山に掘り込まれた階段状の遺構が付設されている。調査中の段階では遺構の重複と考えこの場所にセクションベルトを設定し土層を観察した結果、覆土の状況は切り合いがなく同一の状態で堆積していることが判明した。したがって、本址に付設された遺構と考えられる。

表99　100号住居址出土遺物観察表(1)

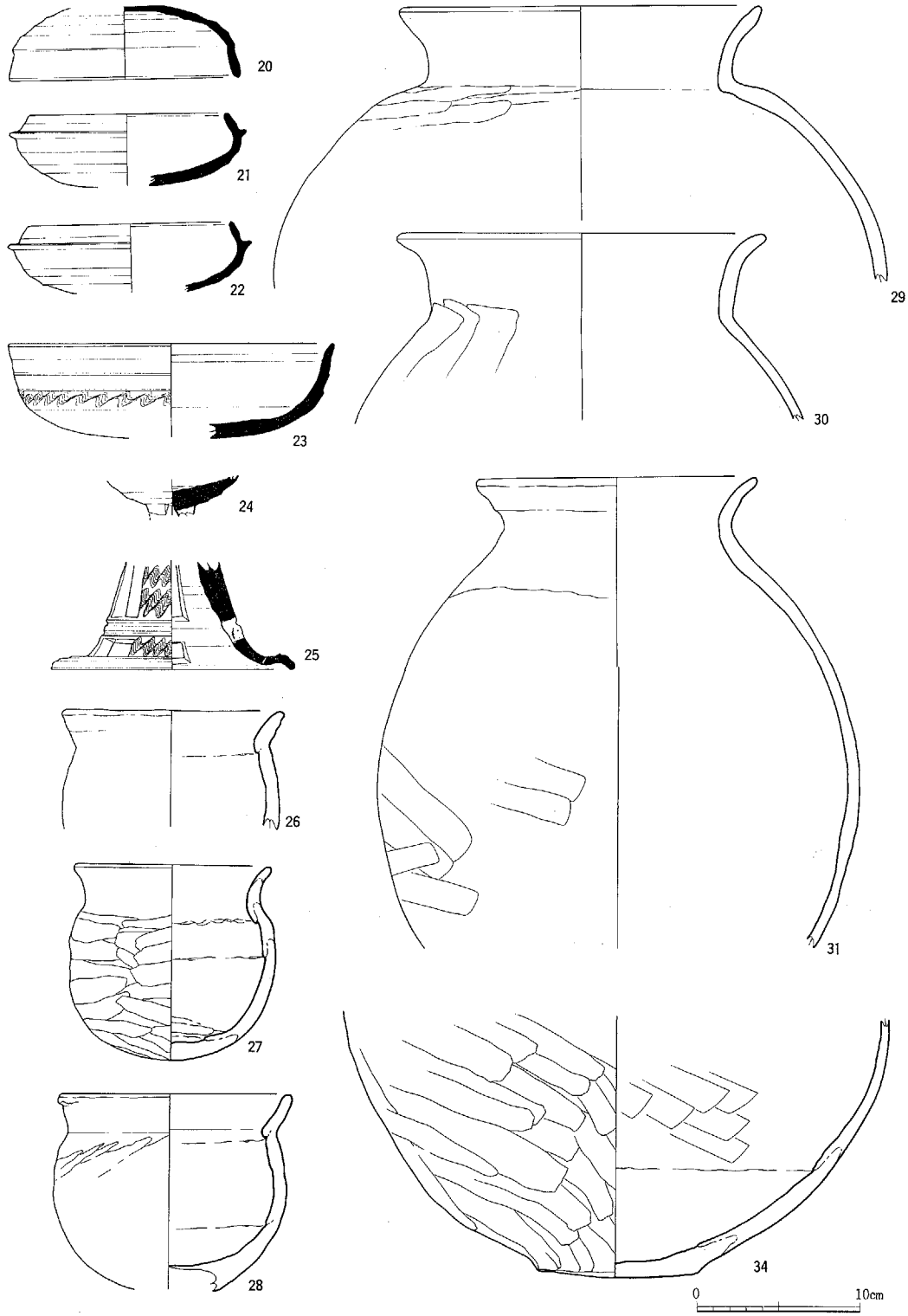
番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径11.1 底径 3.5 器高 6.0	口縁部は素縁のもので体部より丸みを有して開き丸底に連続する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリのちミガキ内ナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	覆土中
2	土師器 坏	口径12.5 底径 器高 5.2	口縁部は素縁のもので体部より丸みを有して開き丸底に連続する。	口縁部内外ホロナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
3	土師器 坏	口径11.6 残存 5.1	口縁部は素縁のもので体部より丸みを有して開き丸底に連続する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
4	土師器 坏	口径13.9 残存 5.8	口縁部は外体部に鈍い外稜を有して開き丸底に連続する。	口縁部内外ホロナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴
5	土師器 坏	口径13.5 残存 3.8	口縁部は外体部に鈍い外稜を有して短く開き丸底に連続する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリのち雑なミガキ内ナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	覆土中
6	土師器 蓋付坏	口径11.3 底径 4.1 器高 4.2	口縁部は内傾し体部に外稜を有して偏平な底部は丸く納める。	口縁部内外ミガキ 体部外ミガキのちヘラケズリ内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
7	土師器 蓋付坏	底径 3.5 残存 3.9	口縁部は内傾し体部に外稜を有して底部は丸く納める。	体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中
8	土師器 坏	口径11.8 残存 4.5	口縁部は外傾し体部に外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	赤褐色	貯蔵穴
9	土師器 坏	口径12.3 底径 2.4 器高 4.6	口縁部は外傾し体部に外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	貯蔵穴 $\frac{1}{2}$残存
10	土師器 坏	口径11.9 底径 2.9 器高48.5	口縁部は外傾し体部に外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中



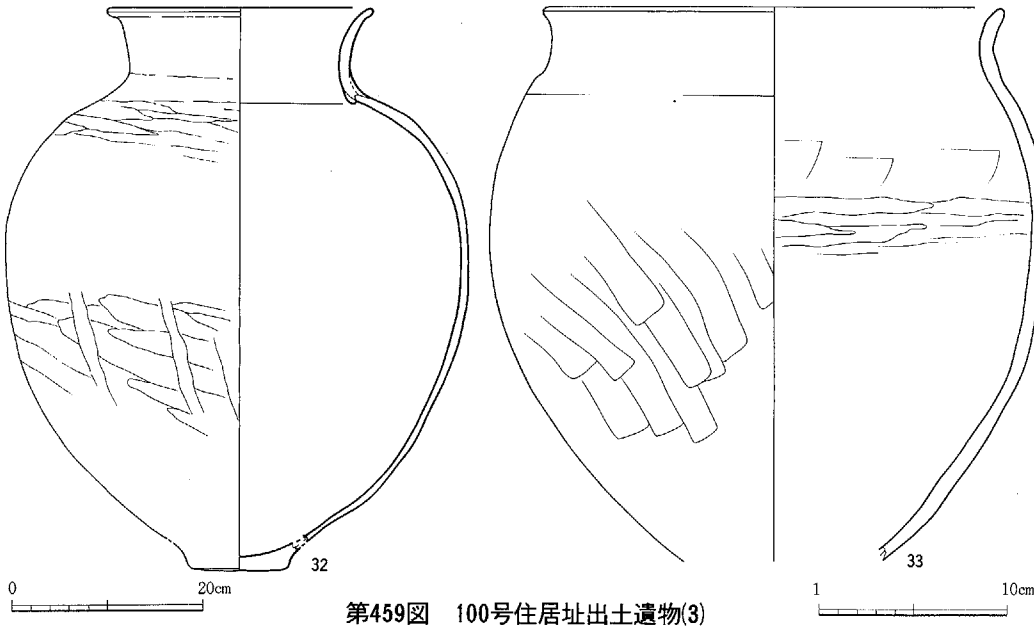
第457図　100号住居址・出土遺物(1)

表100　100号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
11	土師器 坏	口径13.8 底径 2.4 器高 4.6	口縁部は外傾し体部に外稜を有して丸底に続く。器肉は薄い。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
12	土師器 坏	口径13.3 底径 2.1 器高 5.6	口縁部は外反し体部に外稜を有して丸底に続く。器肉は薄い。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリのち雑なミガキ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
13	土師器 坏	口径15.8 残存 4.2	口縁部は外反し体部に外稜を有して丸底に続く大振りのもの。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	覆土中
14	土師器 坏	口径10.9 底径 2.1 残存 4.9	口縁部は直立気味に外反し体部外稜を有して尖り気味の丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中
15	土師器 坏	口径11.8 底径 1.1 器高 5.0	口縁部は外傾し端部で面をなし、体部外稜を有して尖り気味の丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中 $\frac{3}{4}$残存
16	土師器 坏	口径12.0 底径 3.5 器高 4.6	口縁部は直立気味に外反し端部で段をなし体部外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	覆土中
17	土師器 坏	口径12.8 底径 5.1 器高 5.1	口縁部は直立気味に外反し端部で面をなし体部外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
18	土師器 坏	口径12.7 残存 4.8	口縁部はちょっとりつぎみとなり端部さらに外反し体部外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内線刻	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	貯蔵穴
19	土師器 坏	口径15.1 残存 6.8	口縁部は直立気味となり端部で面をなし体部外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
20	須恵器 蓋	口径13.7 底径 器高 4.7	口縁部は外稜を有して開き丸底に続く。回転ヘラ削りは天井部1/2に及ぶ	体部外回転ヘラケズリ	銀雲母含む	還元炎	淡灰褐色	覆土中
21	須恵器 蓋	口径11.8 残存 4.4	口縁部は内傾し受け部は丸味を帯びて偏平な丸底に続く。	体部外回転ヘラケズリ	銀雲母含む	還元炎	淡灰褐色	覆土中
22	須恵器 蓋	口径12.3 残存 4.2	口縁部は内傾し受け部は丸味を帯びて偏平な丸底に続く。	体部外回転ヘラケズリ	銀雲母含む	還元炎	淡灰褐色	覆土中
23	須恵器 坏	口径19.8 残存 5.7	口縁部は丸く開き外体部2段に亘り稜をなす。下位に櫛描き波状文を有す	体部外回転ヘラケズリ	銀雲母含む	還元炎	淡灰褐色	覆土中



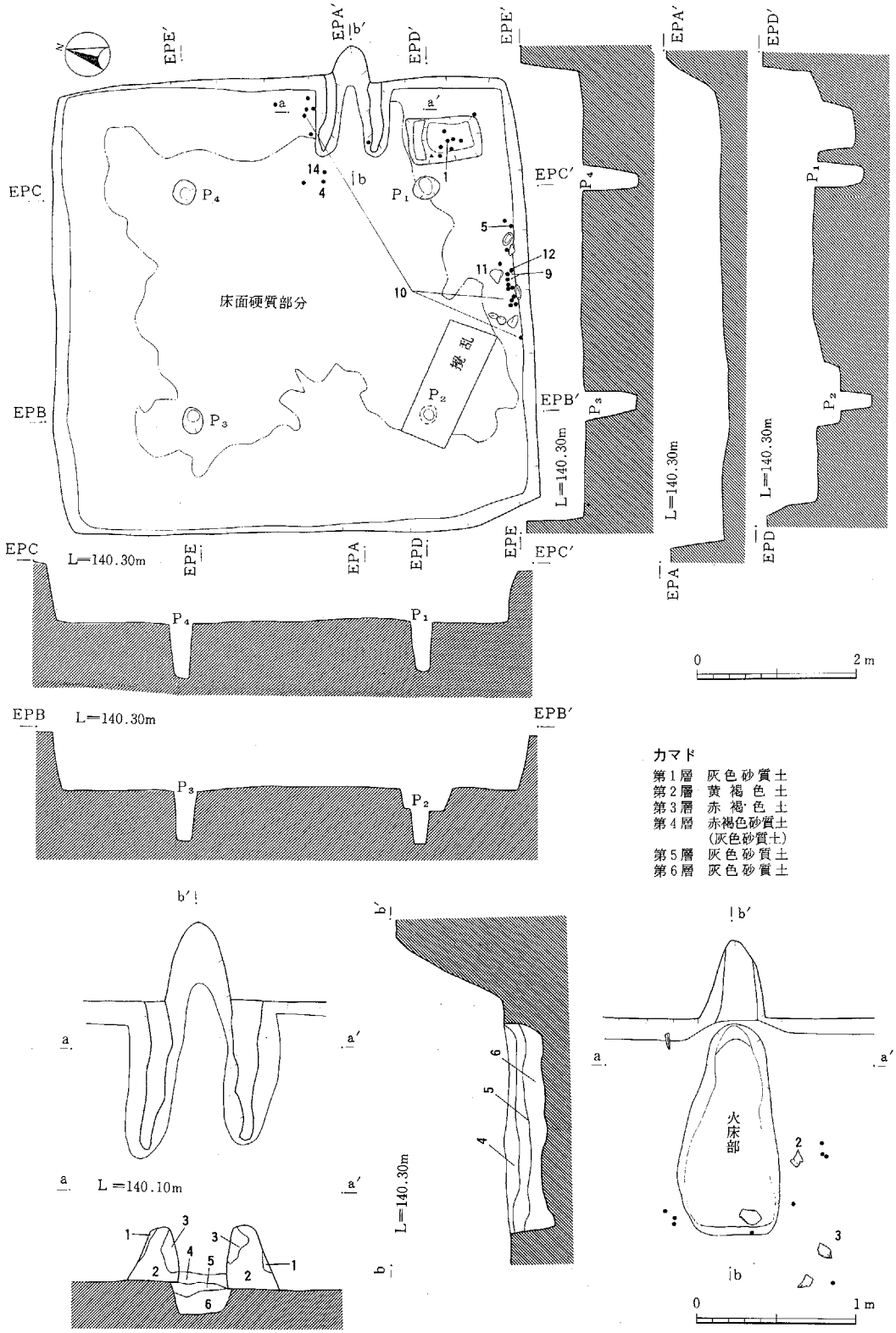
第458図　100号住居址出土遺物(2)



第459図　100号住居址出土遺物(3)

表101　100号住居址出土遺物観察表(3)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
24	須恵器 高坏	残存 2.6	脚部は小径の筒状となるもので縦長の透かし孔を有す。	ロクロ成形	砂粒含む	還元炎	淡灰褐色	覆土中
25	須恵器 高坏	底径14.5 残存 6.5	裾が広がり端部で内反して2段に亘り透かし孔を有し櫛描き波状文を配す	ロクロ成形	砂粒含む	還元炎	淡灰褐色	覆土中
26	土師器 甕	口径13.0 残存 7.2	口縁部は短く外傾し胴部は張りのないもの。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡赤褐色	貯蔵穴 胴部上半 $\frac{3}{4}$残存
27	土師器 甕	口径11.8 底径 2.1 器高11.9	口縁部は内傾気味に外反し胴～底部は球形となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 ほぼ完形
28	土師器 甕	口径13.9 残存12.0	口縁部は受け気味に外反し胴～底部は球形となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	カマド 底部欠損
29	土師器 甕	口径21.8 残存17.2	口縁部は内稜を有し外反して端部で受け気味となる。胴部は球形を呈す。	口縁部内外ヘラナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
30	土師器 甕	口径22.0 残存11.5	口縁部は「コの字」状に外反する。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデツケ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
31	土師器 甕	口径16.9 残存28.5	小径の口縁部は緩く「コの字」状に外反し最大径を中位にとる胴部へ続く	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	明褐色	覆土中
32	土師器 甕	口径28.0 底径 9.3 器高66.0	口縁部は「コの字」状に外反し肩の張る胴部に突出する小径の底部へ続く	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリのちヘラナデ内	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
33	土師器 甕	口径24.0 残存29.3	口縁部は「コの字」状に立ち上がり上位に最大径を有する胴部へ続く。	口縁部内外ヘラナデ 胴部ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	淡赤褐色	覆土中
34	土師器 甕	底径 9.7 残存16.0	大きく球形を呈す胴部は突出気味の平底に続く。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中



第460図　101号住居址

101号住居址（第460・461図　図版108・109・124　表102・103・104）

位置　J－15・16グリッド／形態　方形／主軸方向　N－70°－E／規模　5.53ｍ×5.46ｍ（南北×東西）／壁高　64.5cm～69.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。Ｐ３付近が近・現代の撹乱が入る。硬質部分は主柱穴間の内側を中心にカマド付近と貯蔵穴に接し、北東、北西、南西隅へとそれぞれ延びている。特に南西側は壁に近接する。／柱穴　4本。Ｐ１・径26cm、深さ62cm。Ｐ２・撹乱（近・現代の芋穴）に切られる。残存径21cm、深さ61cm。Ｐ３・長径33cm、短径26cm、深さ64cm。Ｐ４・径29cm、深さ69cm。／カマド　東壁中央部より南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を円形に掘り込んでいる。傾斜は64°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は北側の袖の下まで及ぶ。長軸132cm、短軸64cm、深さ16cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。支脚は検出されなかった。／貯蔵穴　南東隅に位置する。２段に亘って掘られている。長軸98cm、短軸54cm、中段の深さ21cm。深さ48cm。長方形を呈する。

覆土の状況

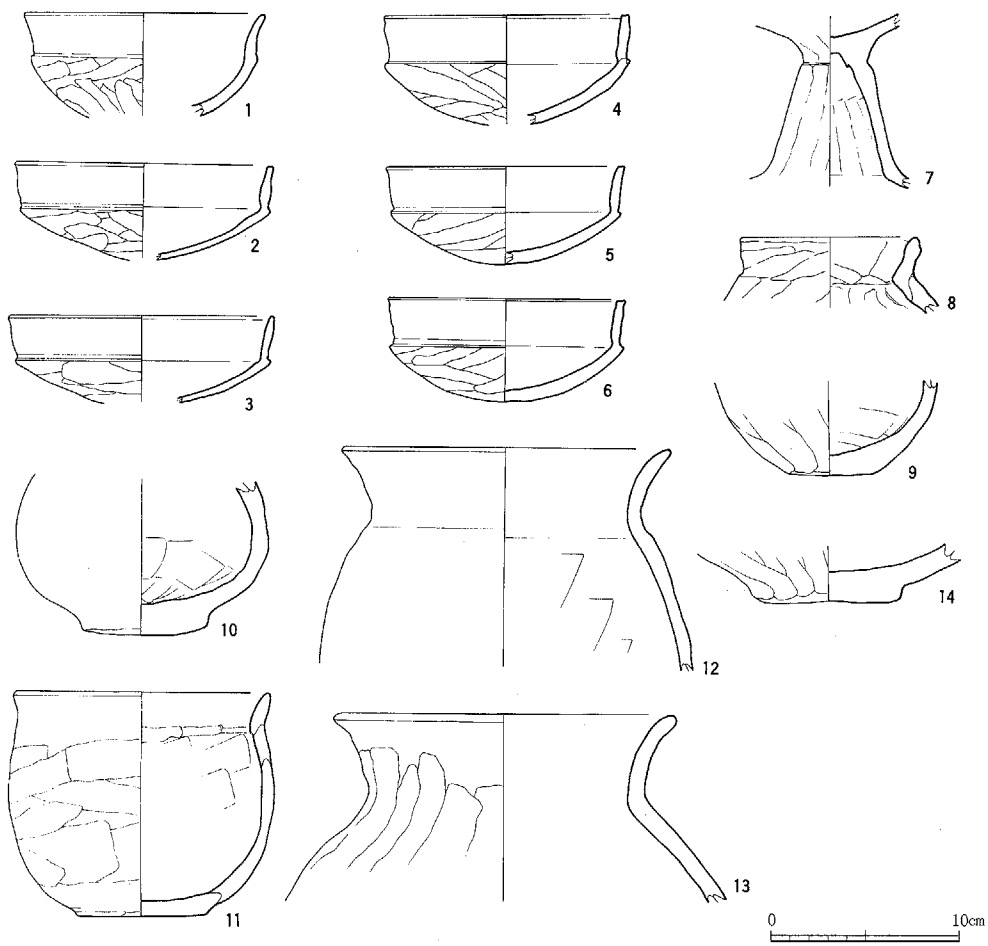
自然堆積である。黒褐色土を基調に２層と暗褐色土と合わせて３層に分層される。

遺　物

カマド付近と貯蔵穴内と南壁中央部付近に集中して出土した。土師器長胴甕、甑、坏の破片である。また自然礫が南壁中央寄りに床直上で７点集中して出土した。実測遺物総点14点。

表102　101号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	復口12.6 残存 5.4	口縁部は外反し体部に外稜を有し深い丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴 1/4残存
2	土師器 坏	復口13.4 底径 1.6 残存 5.1	口縁部は直立気味に外傾し体部に外稜を有し尖り気味の丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	床着 1/3残存
3	土師器 坏	復口13.8 残存 4.5	口縁部は外傾し体部に外稜を有し丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	床着 1/4残存
4	土師器 坏	口径12.8 残存 5.7	口縁部は直立気味となり端部で面をなし体部に外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 1/2残存
5	土師器 坏	口径12.4 底径4.0 残存 5.1	口縁部は外傾し端部に外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 1/2残存
6	土師器 坏	口径12.4 底径 4.0 器高 5.4	口縁部は外傾し端部で面をなし体部に外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 1/4残存
7	土師器 高坏	残存 9.0	脚部は裾広がりとなって「喇叭」状に２段に開く。	脚部外ナデ 〃 内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	貯蔵穴 脚部破片



第461図　101号住居址出土遺物

表103　101住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
8	土師器 甕	口径 9.4 残存 4.2	口縁部は短く内稜を有して外傾する。	胴部内外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎	黒褐色	覆土中
9	土師器 甕	底径 4.5 残存 5.0	球状を呈する胴部より平底を形成する。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	橙褐色	床着 底部$\frac{3}{4}$残存
10	土師器 甕	底径 6.2 残存 8.3	偏球形の胴部より突出する平底が続く。	胴部外ケズリのちナデ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	床着 $\frac{1}{3}$残存
11	土師器 甕	口径13.4 底径 6.7 器高11.9	口縁部は短く開き最大径を中位にとる胴部は突出気味の平底を形成する。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	カマド $\frac{1}{2}$残存

表104　101号住居址出土遺物観察表(3)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
12	土師器 甕	口径17.0 残存11.7	口縁部は「コの字」状に開き長めの胴部に続く。	口縁部内外ヘラナデ 胴部外ナデ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
13	土師器 甕	口径17.5 残存10.0	口縁部は外反する。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中
14	土師器 甕	底径 6.8 残存 3.0	大きく球形を呈す胴部は突出する平底を形成する。	胴部外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 底部のみ完存

102号住居址（第462図　図版109・124　表105・106）

位置　Ⅰ－18グリッド／形態　方形／規模　5.10ｍ×4.70ｍ／主軸方向　N－45°－E／壁高34cm～52cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に亘って面をなしているが硬質部分の検出はみられなかった。／柱穴　4本。P1・径45cm、深さ72cm。P2・径39cm、深さ84cm。P3・径37cm、深さ80cm。P4・径31cm、深さ96cm。／炉　中央部よりやや北寄りに位置する。長軸71cm、短軸52cm。深さ4cm。楕円形を呈する。断面は皿状である。地床炉である。／貯蔵穴　南壁中央部よりやや東寄りに接して位置する。長軸56cm、短軸49cm、深さ38cmを計る。長方形を呈する。

覆土の状況

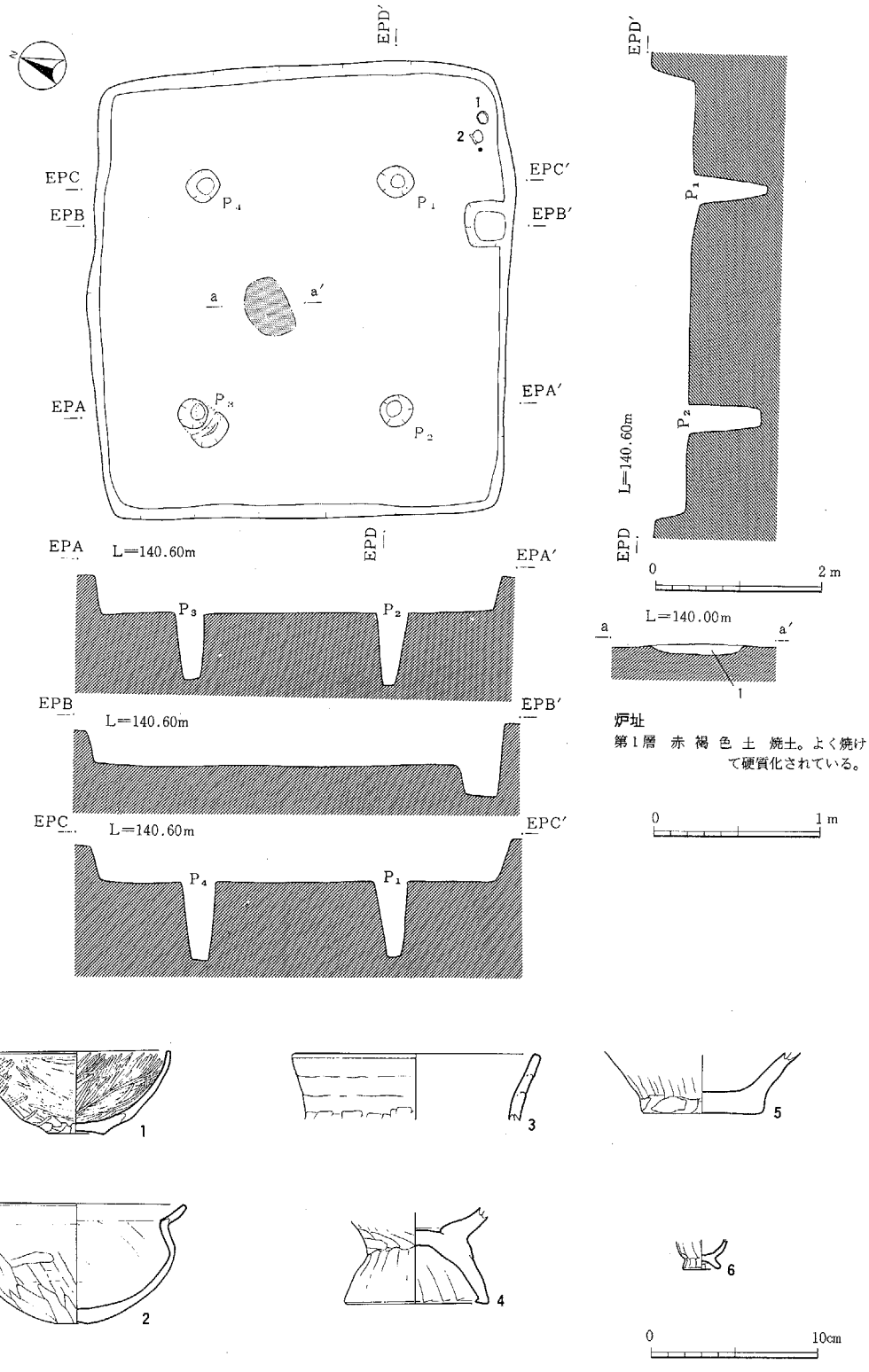
自然堆積である。黒褐色土を基調に2層に分層される。

遺　物

北東隅寄りに床直上で3点出土した。土師器坏2点、手づくね1点である。その他、覆土中より口縁部に輪積みの跡を装飾的に残す赤井戸系の甕の口縁部の破片、土師器台付甕、甕底部破片が出土した。実測遺物の点数6点である。

表105　102号住居址出土遺物観察表(1)

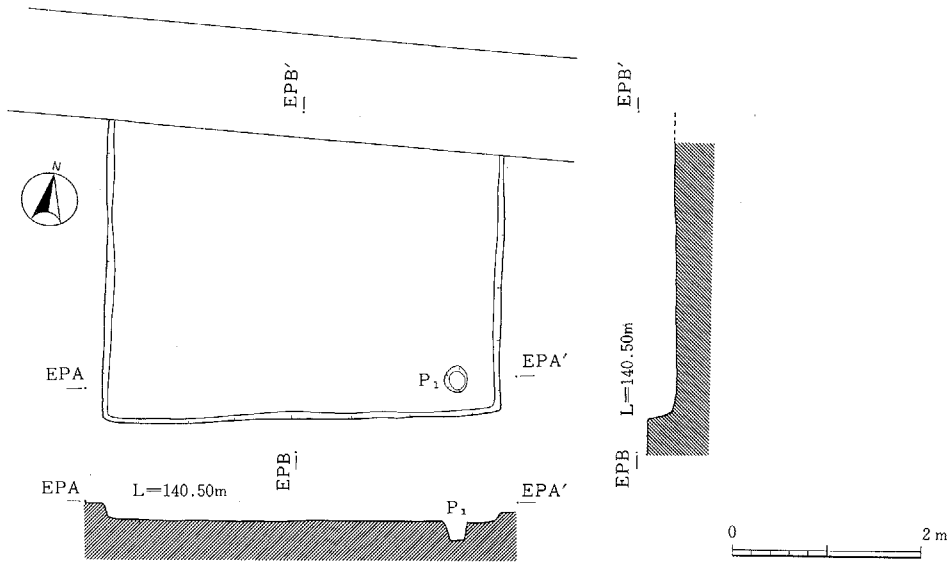
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径11.2 底径 3.4 器高 4.7	素縁の口縁部は内反気味に開き上げ底気味の底部に続く。内外ヘラ磨き。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリのちミガキ内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
2	土師器 坏	口径13.2 底径 2.0 器高 7.0	口縁部は内稜を有し受け気味に開き内反する体部より上げ底の底部を形成	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 $\frac{2}{3}$残存
3	土師器 甕	口径14.0 残存 4.1	口縁部は外傾し輪積み紺が顕著となるもの。	口縁部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中 口縁$\frac{1}{2}$ 残存



第462図　102号住居址・出土遺物

表106　102号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
4	土師器 高坏	底径 8.4 残存 5.8	脚部は内反気味に開き端部で面をなす。	脚部内外ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中 脚部のみ残存
5	土師器 甕	底径 7.0 残存 3.2	直線的に開く胴部より突出気味の平底に続く。	胴部外ヘラナデのちヘラケズリ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	暗褐色	覆土中 底部のみ残存
6	手づくね 代付甕	底径 2.1 残存 1.9	台付き甕の手捏土器	指ナデ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存



第463図　103号住居址

103号住居址（第463図）

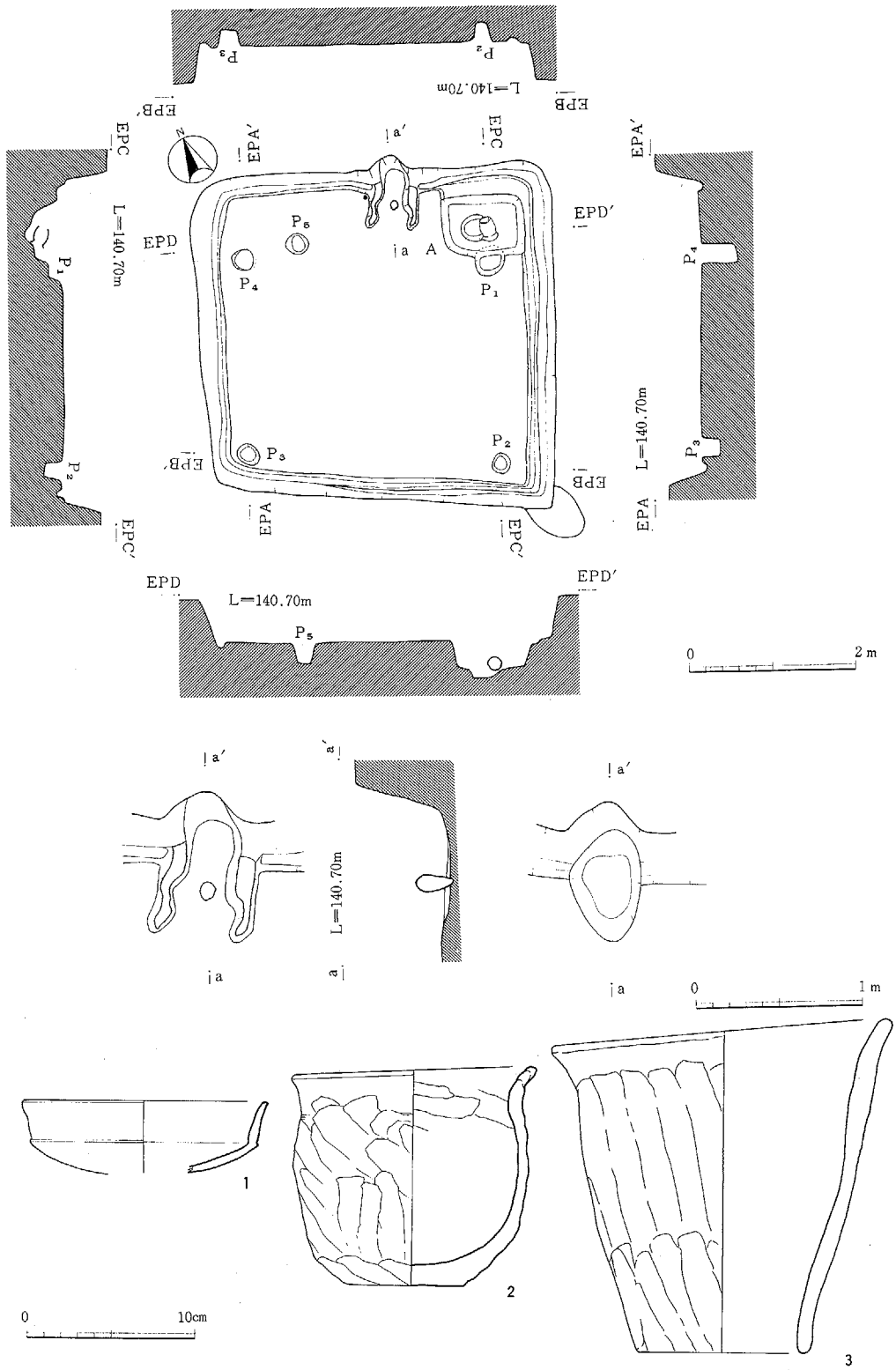
位置　J－18グリッド／形態　方形（推定）／主軸方向　N－5°－E／規模　4.40ｍ×不明（東西×南北）／壁高　12cm～18.5cm／床　灰褐色砂質土に掘り込まれている。全体に締まりがなく軟質である。北部を試掘トレンチに切られる。／柱穴　1本。南東隅に位置する。径26cm、深さ19cm。／炉　なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況　自然堆積である。黒褐色土を基調とする。

遺　物　遺物は検出されなかった。

備　考

遺物の出土はみられなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。



第464図　104号住居址・出土遺物

104号住居址（第464図　図版109・124　表107）

位置　Ⅰ・Ｊ－20グリッド／形態　方形／主軸方向　Ｎ－45°－Ｅ／規模　5.47ｍ×5.03ｍ（南北×東西）／壁高　50cm～53cm／壁溝　カマド部分を除き全周する。規模は幅６～13cm。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分の検出はみられなかった。／柱穴　６本。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当する。Ｐ１・径24cm、深さ16cm。Ｐ２・径22cm、深さ20cm。Ｐ３・径25cm、深さ20cm。Ｐ４・径24cm、深さ43cm。Ｐ５・径24cm、深さ25cm。Ｐ６・貯蔵穴内から検出。覆土の状況から観察すると貯蔵穴に切られていることが判明される。残存径32cm、残存深さ12cm。床面からの深さ46cm。／カマド　北壁中央部よりやや東寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を半円形に掘り込んでいる。傾斜は81°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。長軸67cm、短軸74cm、深さ４cm。方形を呈する。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。支脚は石製である。／貯蔵穴　北東隅に位置する。長軸98cm、短軸72cm、深さ34cm。長方形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に３層に分層される。

遺　物

貯蔵穴内より土師器長胴甕のほぼ完形品が転落した様な状況で出土した。実測遺物点数２点。

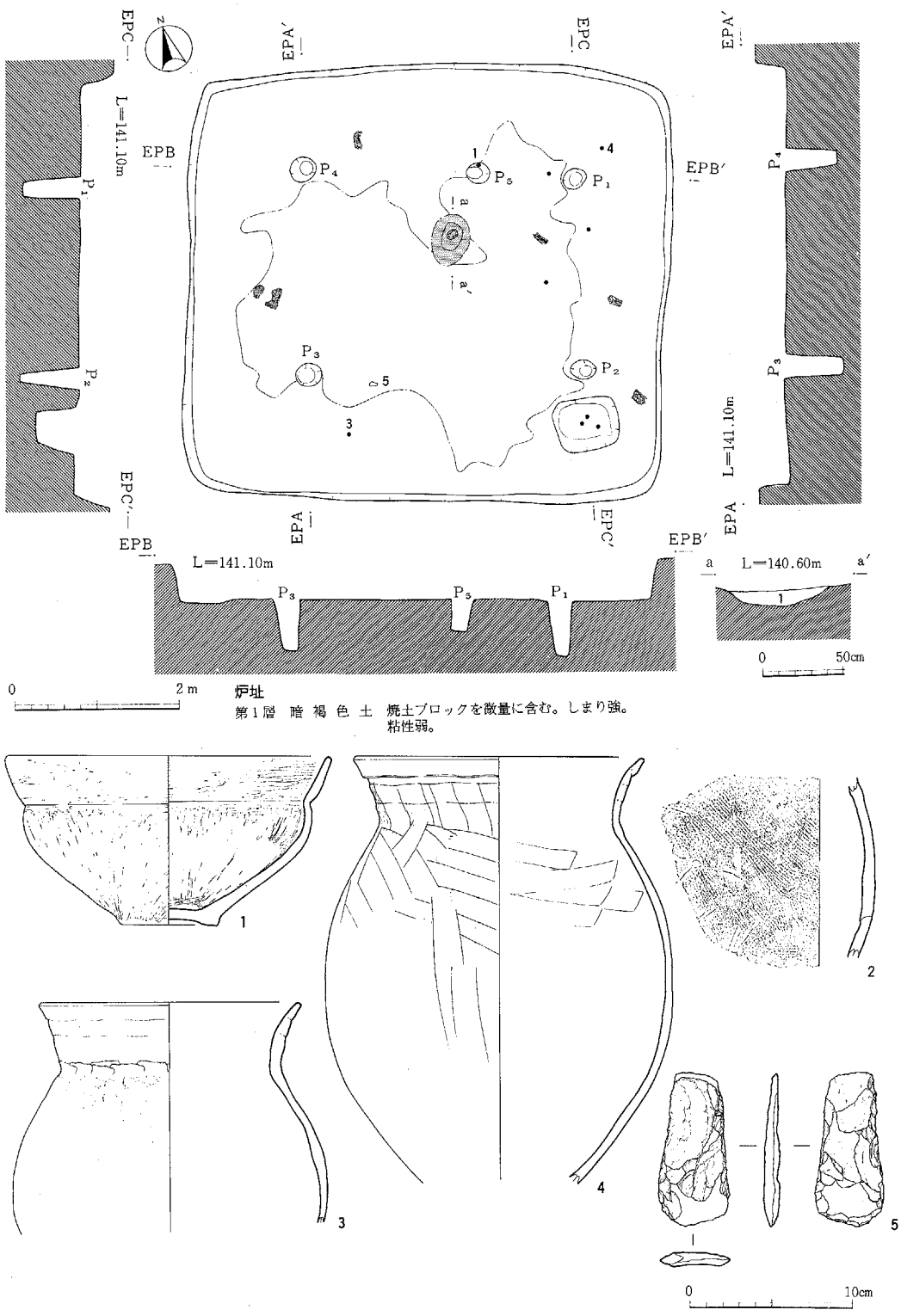
新旧関係　338号土坑（縄文）を切る。

表107　104号住居址出土遺物観察表

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	復口14.5 残存 4.4	口縁部は外反し体部に外稜を有し、浅く丸く納める底部に続く。	口縁部内外ヨコナデ	砂粒含む	酸化炎	褐色	覆土中 $\frac{1}{4}$残存
2	土師器 甕	口径14.5 底径 6.5 器高12.8	口縁部は外反し箱形の張りのない胴部より平底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 胴部内外ヘラケズリ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	カマド $\frac{2}{3}$残存
3	土師器 甑	口径19.0 底径10.5 器高20.1	口縁部外反し最大径をもつ胴部下端につれ径が小さくなる	口縁部内外ヨコナデ 胴部内ヘラケズリ 外ヘラケズリ	砂粒を含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴

105号住居址（第465図　図版109・125　表108）

位置　Ｈ－25・26グリッド／形態　方形／主軸方向　Ｎ－110°－Ｅ／規模　5.76ｍ×5.20ｍ／壁高　40.5cm～43cm。／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は主柱穴の内側を中心にＰ１とＰ５の間が北壁の手前53cm～28cmまで延びる。また、南はＰ２とＰ３の間は貯蔵穴付近から南壁中央部にかけての壁の手前51cm～14cmまで延びる。西はＰ３とＰ４の間が壁の手前41cm～27cmまで延びる。／柱穴　５本。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当する。Ｐ１・長径28cm、短径24cm、深さ69cm。Ｐ２・径30cm、深さ78cm。Ｐ３・径34cm、深さ72cm。Ｐ４・径34cm、深さ62cm。Ｐ５・長径30cm、短径26cm、深さ40cm。／炉　中央よりやや北寄りに位置する。長軸64cm、短軸47cm、深さ10cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。地床炉である。／貯蔵穴　南東隅に位置する。長軸76cm、短軸54cm、深さ56cmを呈する。



第465図　105号住居址・出土遺物

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に2層に分層される。

遺物

P1とP3付近の床直上に土師器甕、坏の破片が散乱し、砥石が1点P3付近より出土した。また、貯蔵穴内より土師器の破片が出土した。さらに炭化材が西寄りと東寄りに検出された。状況からみて焼失家屋の可能性が考えられる。実測遺物5点。

表108　105号住居址出土遺物観察表

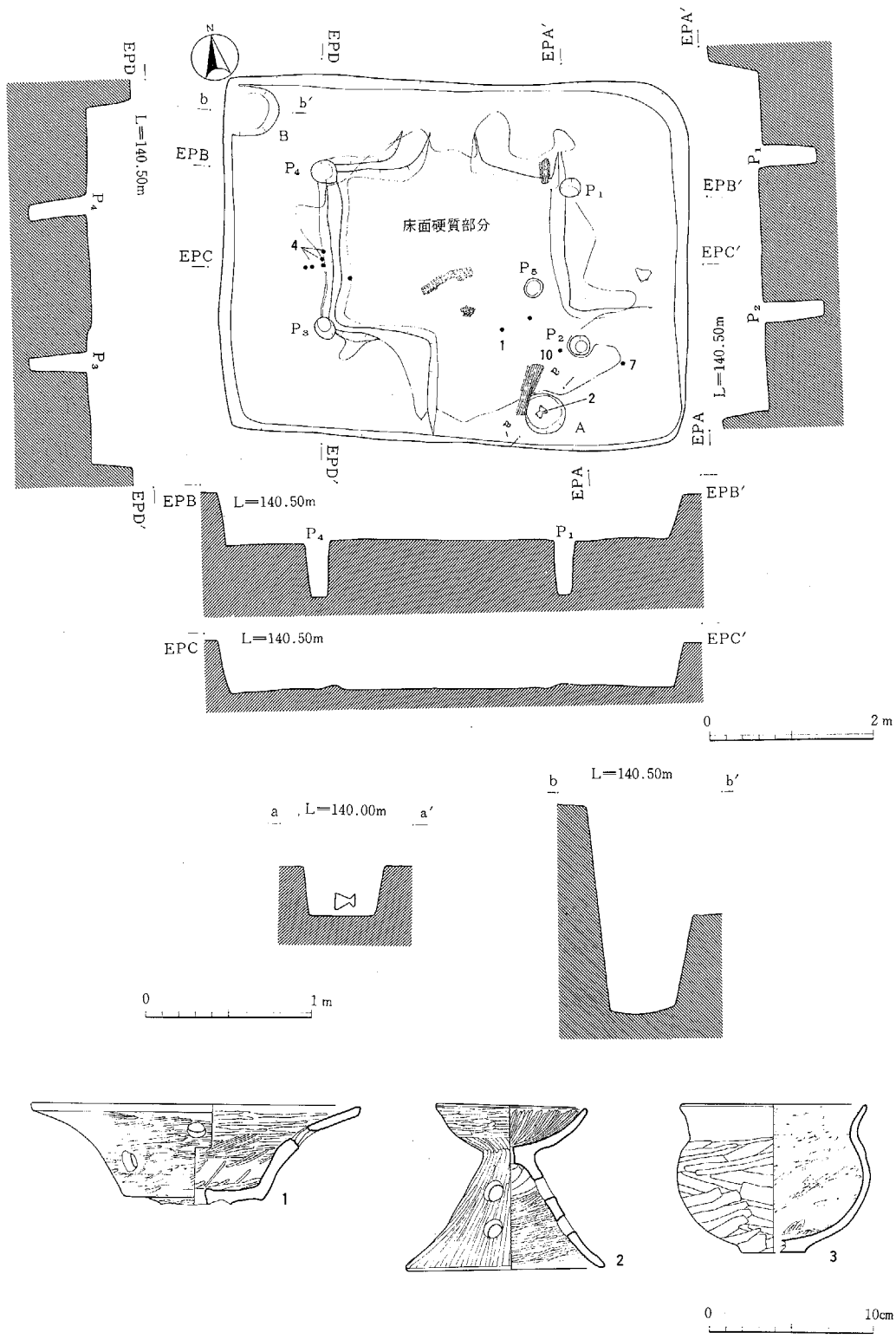
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坩	復口19.7 底径 5.8 器高10.3	口縁部は内稜を有して内反気味に外傾し胴部は内反して底部は輪台となる	口縁部内外ヨコミガキ 体部内外タテミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着 1/3残存
2	土師器 甕胴部 破片	残存11.3	――	口縁部内外ヨコナデ 胴部内ナデ外ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
3	土師器 甕	口径15.6 残存13.7	口縁部は外反して輪積み痕を残して胴部に続く。	口縁部内ハケメのちミガキ外ナデ胴部外ハケメのちヘラミガキ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 1/3残存
4	土師器 甕	復口17.5 残存24.1	口縁部は折り返され輪積み痕を残して最大径を中位にとる胴部に続く。	口縁部内ハケメのちヘラミガキ外指圧痕タテハケメ 胴部外雑なハケメ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 1/4残存
5	打製石 斧	長さ 9.4 幅　4.2 重さ 40g	安山岩製の短冊形打製石斧で片面に自然面を残す。	表面の一部に自然面を残す。刃部から体部にかけてま磨滅している	――	―	―	床着

107号住居址（第466・467図　図版109・110・125　表109・110）

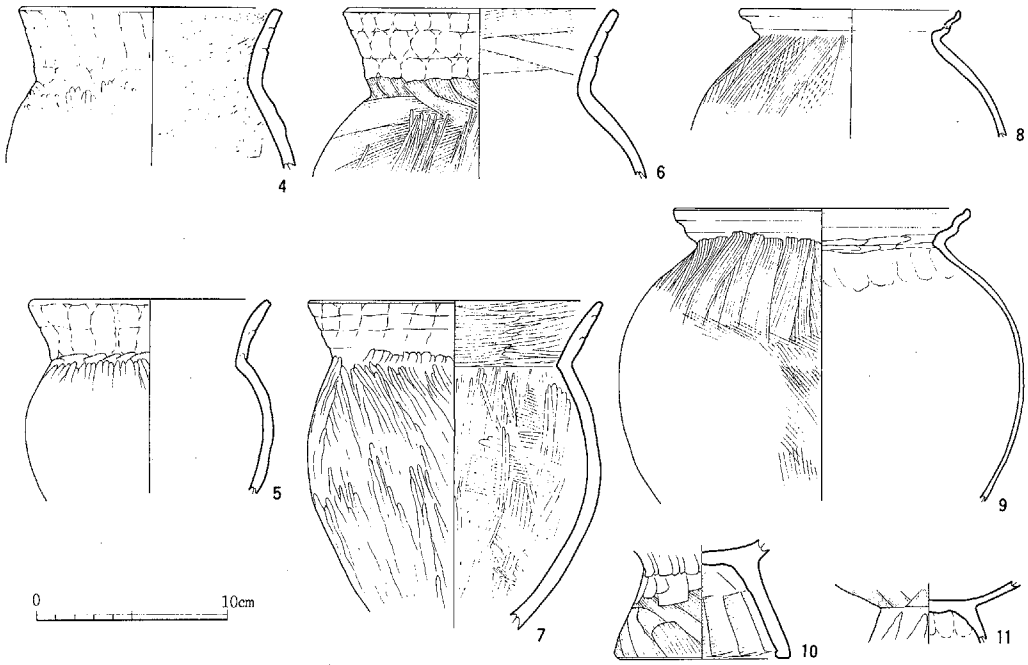
位置　K－26グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－90°－E／規模　4.74m×4.18m（東西×南北）／壁高　54cm～63cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。主柱穴間の内側より貯蔵穴の位置する南東側を除いてベッド状に一段高くなっている。高さ5cm～6cmを計る。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に貯蔵穴付近とベッド状を呈する縁の部分まで検出されている。／柱穴　5本。P1～P4が主柱穴に相当する。P1・径23cm、深さ68cm。P2・径24cm、深さ70cm。P3・長径29cm、短径24cm、深さ72cm。P4・径31cm、深さ69cm。P5・径22cm。深さ3cm。／炉　なし。／貯蔵穴　南東側（貯蔵穴A）と北西隅（貯蔵穴B）の2基検出。覆土の状況はそれぞれ自然堆積である。人為的な埋め戻しが認められないため同時期に使用されていた可能性が強いと考えられる。貯蔵穴A　長径54cm、短径49cm、深さ32cm。楕円形を呈する。貯蔵穴B　西壁に接する。長径66cm、短径59cm、深さ60cm。楕円形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。暗褐色土を基調に2層と黒褐色土の合わせて3層に分層される。



第466図　107号住居址・出土遺物(1)



第467図　107号住居址出土遺物(2)

遺　物

貯蔵穴寄りとＰ３とＰ４の間に覆土中より口縁部に輪積みの跡を装飾的に残す赤井戸系の甕の破片と土師器台付き甕、小形丸胴甕、高坏の破片が集中して出土した。また、貯蔵穴内より完形の器台１点出土した。さらに、炭化材が検出されている。炭化材の検出量は少ないが検出状況から観察して焼失家屋の可能性が高いと考えられる。実測遺物点数11点。

表109　107号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 高坏	口径19.0 残存 6.0	受け部は下位に外稜を有して大きく外反し２段に亘り透かし孔を有す。	口縁部内外ハケメ 体部内外ハケメのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中 受部の$\frac{3}{4}$残存
2	土師器 高坏	口径 9.1 底径11.2 器高 9.9	受け部は内反気味に開き脚部は裾広がりとなる２段に亘り透かし孔を有す	口縁部内外ミガキ 脚部外ヘラミガキ内ヘラケズリのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	貯蔵穴 完形
3	土師器 甕	復口11.2 底径 3.8 器高 9.0	口縁部は外反し偏球形の胴部より突出する平底を形成する。	口縁部内ミガキ外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	覆土中 $\frac{1}{3}$残存
4	土師器 甕	口径13.6 残存 8.4	口縁部は外傾し端部は面をなし輪積み痕を残す。押圧痕顕著。	口縁部内ミガキ外指圧痕 胴部外ハケメのちミガキ 〃 内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着

表110　107号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
5	土師器 甕	口径12.4 残存10.3	口縁部は外傾し端部は面をなし輪積み痕を残す。押圧痕顕著。	口縁部内ハケメのちヘラミガキ外指圧痕胴部外ハケメのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中 $\frac{1}{3}$残存
6	土師器 甕	口径14.3 残存 8.9	口縁部は外傾し端部は面をなし輪積み痕を残す。押圧痕顕著。	口縁部内ハケメ外指圧痕 胴部外ハケメのちヘラナデのちヘラミガキ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中
7	土師器 甕	口径15.5 残存17.3	口縁部は外傾し端部は面をなし輪積み痕を残す。押圧痕顕著。	口縁部内ミガキ外指圧痕 胴部外ハケメのちヘラミガキ内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
8	土師器 台付甕	口径 残存	口縁部は「S字」状を呈し器肉の薄い胴部に続く。	胴部内ナデ 外タテ方向ハケ目	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 $\frac{1}{4}$残存
9	土師器 甕	口径15.5 残存15.5	口縁部は「S字」状を呈し器肉の薄い肩の張る胴部に続く。	口縁部内外ヨコナデ頸部内ナデツケのち指圧痕 胴部外ハケメ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中 $\frac{2}{3}$残存
10	土師器 高坏	底径 9.0 残存 6.3	脚部は直線的に裾広がりとなるもので端部で面をなす。	脚部外ハケメのちヘラナデ内ハケメのちホロナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 脚部の残存
11	土師器 台付甕	残存 2.9	脚部は裾広がりとなるもので器肉が薄い。ハケ目は脚部にまで及ぶ。	胴部外タテハケメ 脚部外斜めハケメのちナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中 脚部破片

108号住居址（第468・469図　図版110・125　表111）

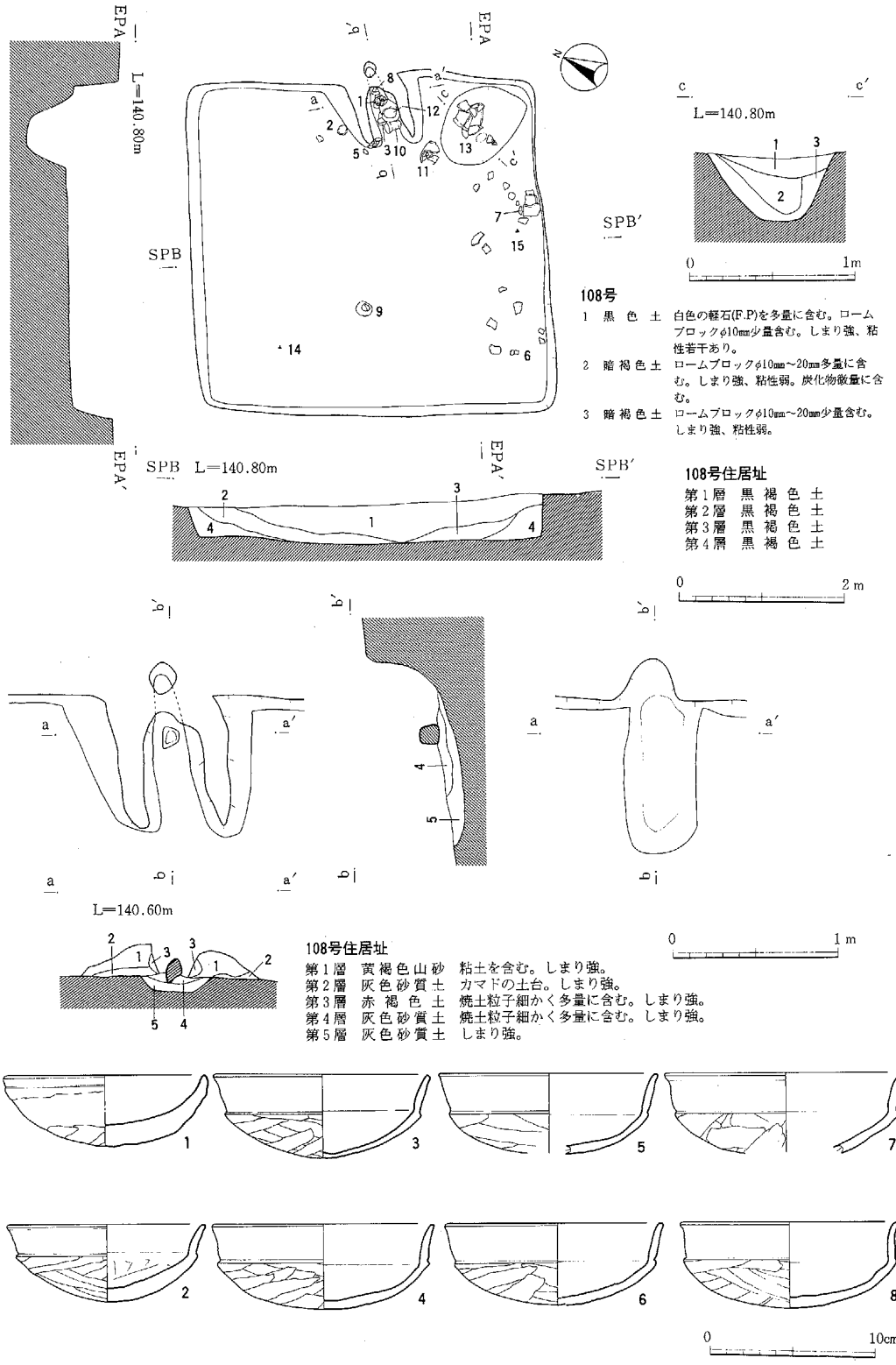
位置　H－17グリッド／形態　方形／主軸方向　N－62°－E／規模　4.08ｍ×4.06ｍ（東西×南北）／壁高　48cm～64cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に亘って面をなしているが硬質部分は検出されなかった。全体に締まりがなく柔らかい。／柱穴　なし。／カマド　東壁中央部よりやや北側に位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。天井部が一部遺存する。煙道部は地山を半円形に掘り込んでいる。傾斜は76°を計る。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は長軸98cm、短軸43cm、深さ11cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。支脚は石製である。／貯蔵穴　長軸108cm、短軸97cm、深さ52cm。楕円形を呈する。

覆土の状況

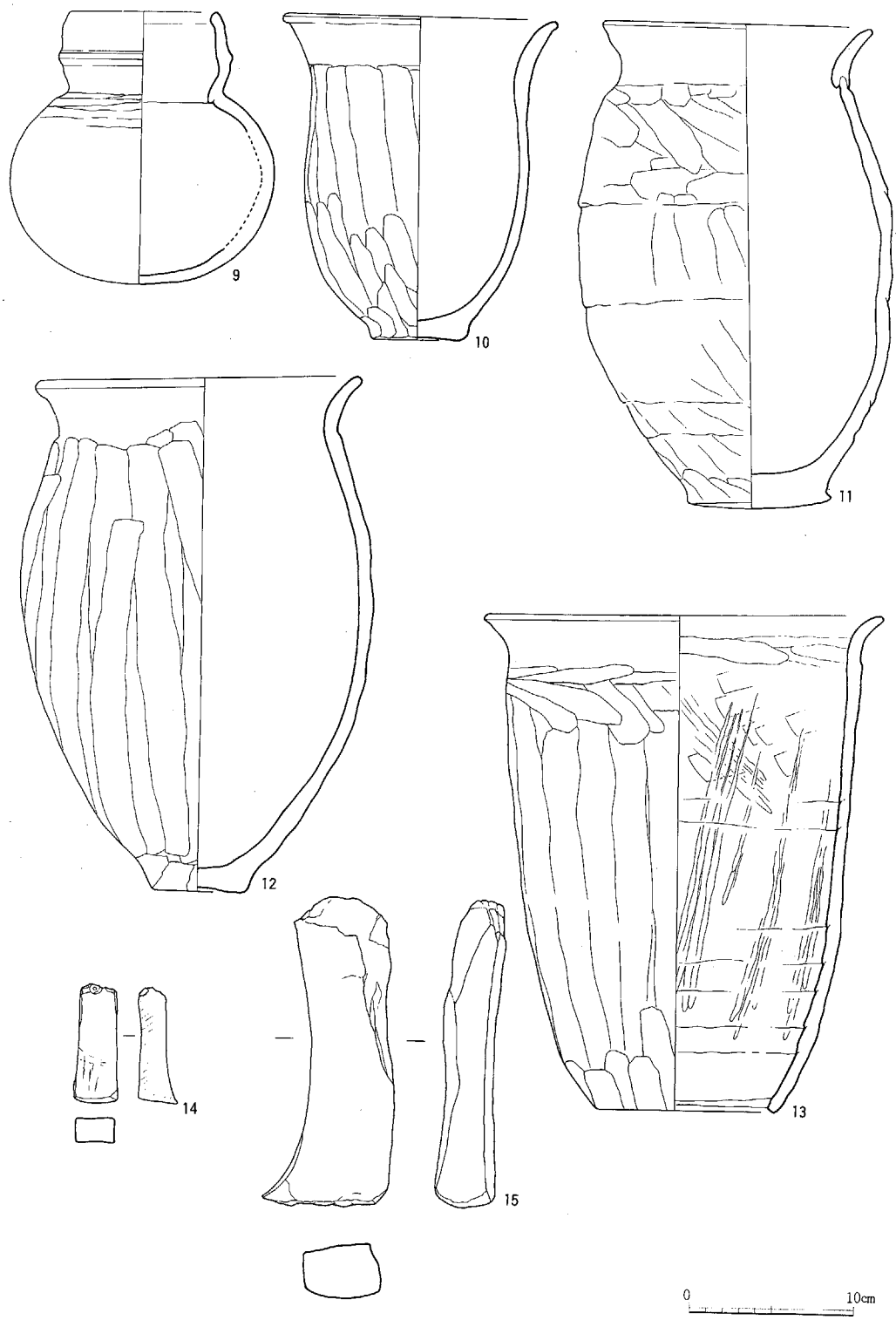
自然堆積である。黒褐色土を基調に４層に分層される。

遺　物

カマド内より土師器長胴甕と甑が天井部が崩れ落ちて転落した状態で出土した。しかし、遺存状態がよくほぼ完形である。また、貯蔵穴内より甑の破片が出土。さらに、床面より出土した土師器の破片は南壁よりに集中する傾向を示した。その他、床直上より砥石が１点出土した。実測点数15点。



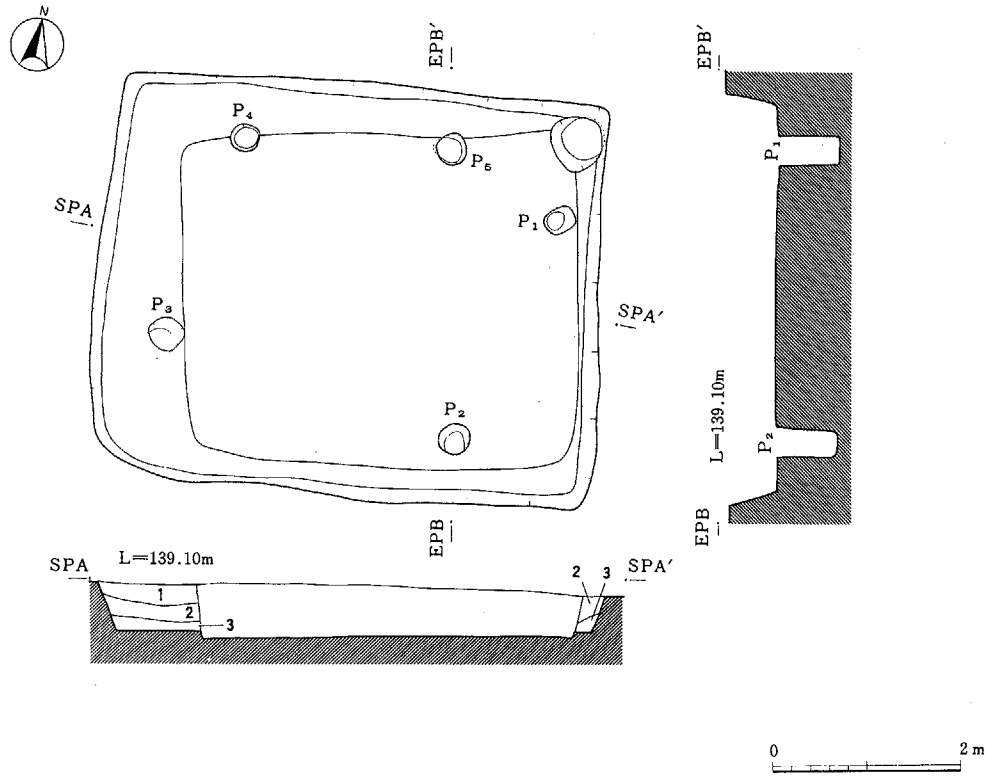
第468図　108号住居址・出土遺物(1)



第469図　108号住居址出土遺物(2)

表111　108号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径12.0 底径 2.4 器高 4.2	素縁となる口縁～体部は内反気味に開き丸底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド $\frac{3}{4}$残存
2	土師器 坏	口径11.9 底径 3.0 器高 4.6	口縁部は外反して体部に外稜を有して底部を丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
3	土師器 坏	口径13.0 底径 4.0 器高 5.0	口縁部は外反して体部に外稜を有して底部を丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド 完形
4	土師器 坏	復口13.3 底径 4.0 器高 5.1	口縁部は外反して体部に外稜を有して底部を丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド $\frac{1}{3}$残存
5	土師器 坏	口径13.0 残存 4.6	口縁部は外反して体部に外稜を有して底部を丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 $\frac{1}{4}$残存
6	土師器 坏	復口12.9 底径 4.0 器高 5.0	口縁部は外反して体部に外稜を有して底部を丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 $\frac{1}{3}$残存
7	土師器 坏	復口14.5 残存 4.8	口縁部は外反し端部は段をなす。体部に外稜を有して底部を丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 $\frac{1}{4}$残存
8	土師器 坏	復口13.1 底径 4.0 器高 5.1	口縁部は直立気味に外反し体部に外稜を有して底部を丸く納める。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	カマド $\frac{1}{3}$残存
9	土師器 短頸壷	復口 9.0 底径 6.0 器高16.5	口縁部は外稜を有して内反し球形の胴部に続く。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリのちヘラミガキ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
10	土師器 甕	口径16.4 底径 5.5 器高19.5	口縁部は外反し長目の胴部は下膨れとなる。底部は突出した平底となる。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	カマド
11	土師器 甕	復口16.2 底径 8.5 器高29.3	口縁部は外反し胴部は輪積み跡顕著。底部は突出し平底となる。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中 $\frac{3}{4}$残存
12	土師器 甕	口径19.2 底径 5.5 器高30.1	口縁部は外反し胴部は上位に最大径を有す。底部は突出し平底となる。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒 雲母含む	酸化炎 良好	淡褐色	カマド ほぼ完形
13	土師器 甑	口径24.0 底径10.6 器高29.9	口縁部は「この字」状に外反し寸銅の胴部から底部は単孔を有す。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ内ヘラナデのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	貯蔵穴 完形
14	砥石	長さ 7.1 幅　2.2 厚さ 2.5 重さ 54g	長方形の砥石である。上位に未穿孔部分がある。四面使用。	棒状を呈する。使用面4面	——	—	—	覆土中
15	砥石	長さ18.6 幅　5.2 厚さ 2.9 重さ 570g	長方形の砥石である。四面使用。	使用面4面うち3面はさく研きに使われている。1面は自然石の丸みが残っている。	——	—	—	床着



110H

第1層	黒褐色土	灰色砂質土ブロック状に含む。61Hの1層と異なる。白色の軽石粒細かく多量に含む。しまり強。粘性弱。
第2層	黒褐色土	白色の軽石粒細かく多量に含む。褐色砂質土ブロック状にφ20㎜～40㎜含む。しまり強。粘性弱。
第3層	褐色土	褐色砂質土φ20㎜～30㎜多量に含む。しまり強。粘性弱。

第470図　110号住居址

110号住居址（第470図）

位置　S－23グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－85°－E／規模5.03ｍ×4.01ｍ（東西×南北）／壁高　47.5cm～50.2cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は61号住居址に切られ不明である。残存部分では検出されなかった。／柱穴　5本。P1～P4が主柱穴に相当すると考えられる。P1・長径36cm、短径28cm、深さ41cm。P2・径32cm、深さ45cm。P3・径36cm、深さ67cm。P4・径30cm、深さ68cm。P5・長径34cm、深さ64cm／炉　残存部分では検出されなかった。／貯蔵穴　北東隅に位置する。長径58cm、短径55cm、深さ42cmを計る。楕円形を呈する。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土を基調に2層と褐色土の合わせて3層に分層される。

遺　物

検出されなかった。

新旧関係

61号住居址に切られる。当初、平面の確認では主軸方向や覆土の色調に相違がみられないため、1軒と思われたが、調査を進めていく段階で土層の観察により2軒が重複していることが判明した。

備　考

遺物の出土はみられなかったが、形態と覆土の状況から古墳時代の所産のものと考えられる。

114号住居址（第471図　図版110・111・126　表112・113）

位置　R－15グリッド／形態　方形／主軸方向　N－5°－E／規模　4.19m×4.18m（南北×東西）／壁高　34cm～45.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土に掘り込まれる。南側を273号土坑に切られる。さらに南東側を73号住居址に切られる。全体に亘って面をなすが硬質部分の検出はみられなかった。／柱穴　2本。相対する残りの2本は273号土坑と73号住居址によって破壊された可能性が考えられる。P1・径38cm、深さ104cm。P2・径46cm、深さ88cm／炉　残存部分では見られなかった。／貯蔵穴　残存部分では見られなかった。

覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土と暗褐色の2層に分層される。

遺　物

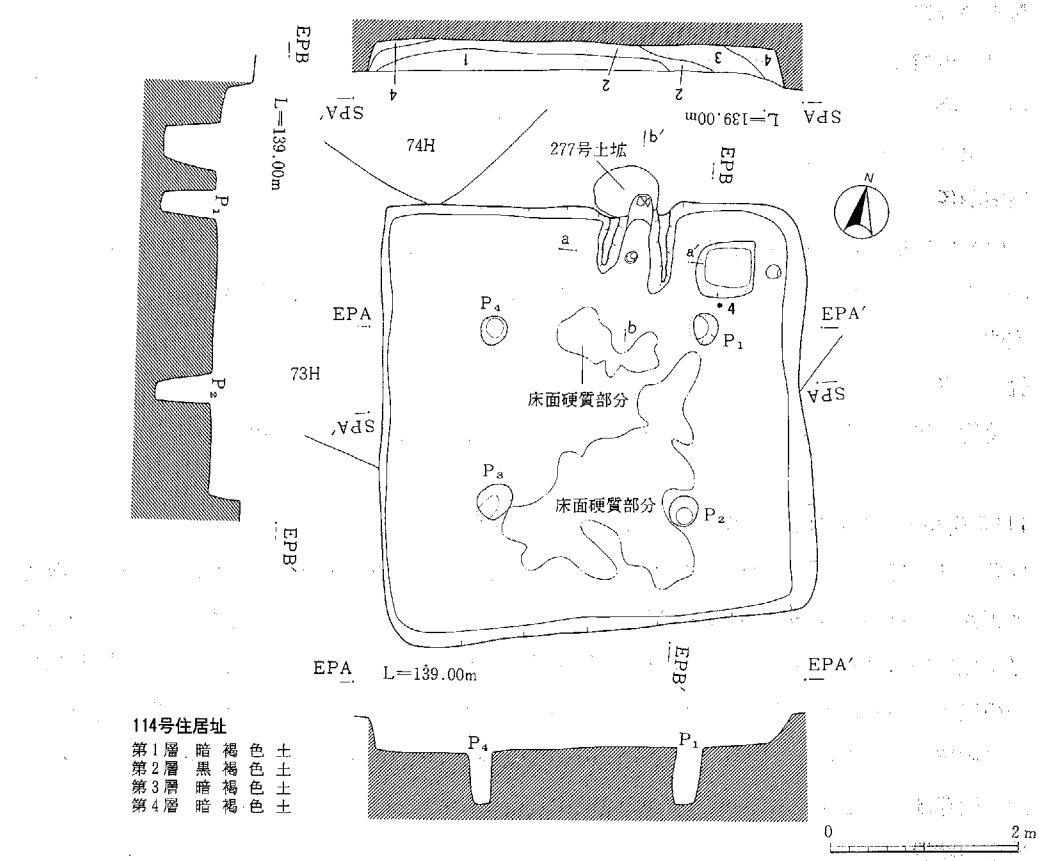
カマド内より出土した。2は支脚の上りふせた状態で検出されている。実測遺物点数5点。

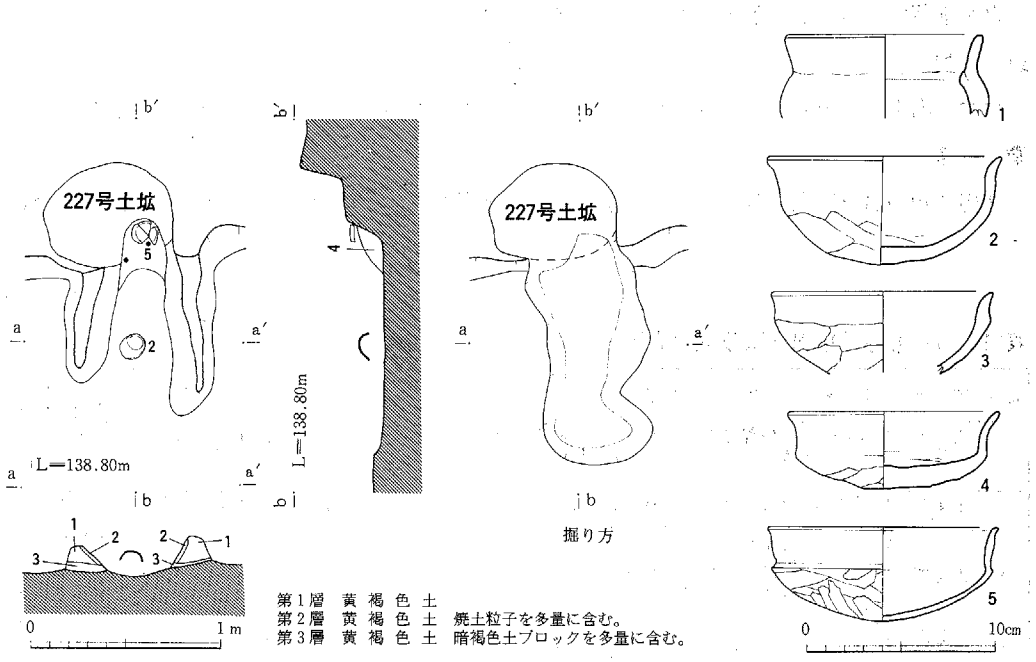
備　考

伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。

表112　114号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 甕	口径10.4 残存 4.5	口縁部は短く外反し内稜を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中 1/2残存
2	土師器 坏	口径12.4 底径 4.0 器高 5.7	口縁部は外反し体部は丸みを帯び、丸底に連続する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡黄褐色	カマド 3/4残存
3	土師器 坏	口径11.6 残存 4.5	口縁部は外反し外稜を有す。体部は丸みを帯びる。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 1/4残存
4	土師器 坏	口径11.2 底径 4.5 器高 4.0	口縁部は外反し外稜を有す。体部は扁平となり平底に連続する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 2/3残存

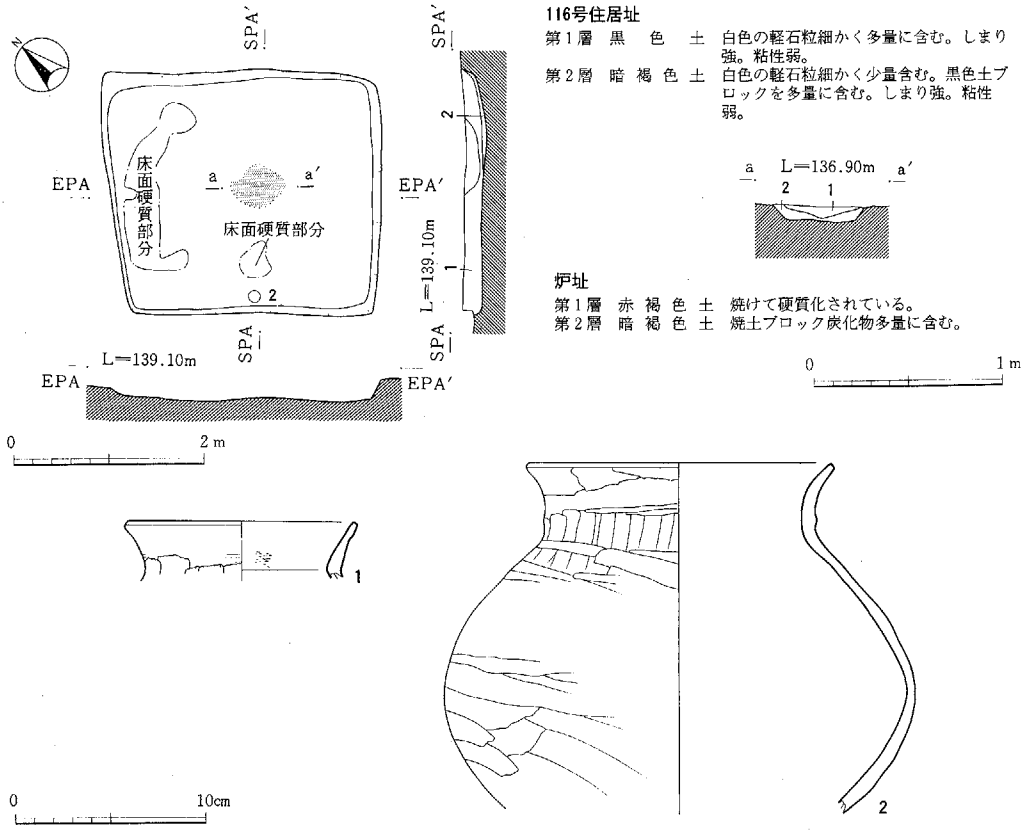




第471図　114号住居址・出土遺物

表113　114号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
5	土師器 坏	口径12.2 底径 4.0 器高 5.9	口縁部は外反し端部で面をなし外稜を有して尖り気味の丸底に連続する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	カマド $\frac{1}{3}$残存



第472図　116号住居址・出土遺物

116号住居址（第472図　図版111　表114）

位置　C－28グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　2.68m×2.42m／壁高21cm～21.5cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。硬質部分は西壁寄りと南壁中央部寄りに検出された。／柱穴　なし。／炉　ほぼ中央部に位置する。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況　自然堆積である。黒色土と暗褐色土の2層に分層される。

遺　物

南西側の壁中央部よりの覆土中より土師器丸胴甕、甕の口縁部の破片が出土している。実測遺物点数2点。

表114　116号住居址出土遺物観察表

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 甕	口径12.0 残存 3.4	口縁部は直線的に外反し内稜を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	褐色	覆土中
2	土師器 甕	口径16.0 残存18.5	球形の胴部より外反する口縁部は頸部の所でやや直線的となる。	口縁部内ハケメのちヘラナデ外ヘラナデ胴部外ヘラナデのちヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎	淡褐色	覆土中

117号住居址（第473・474図　図版39・111・126　表115・116）

位置　X－19グリッド／形態　方形／主軸方向　N－45°－E／規模　4.56ｍ×4.22ｍ（南北×東西）／壁高　54.5cm～58cm。／壁溝　貯蔵穴付近より北壁にかけて検出。北壁の中央部付近はとぎれ北西隅に検出されている。規模は幅４cm～17cm、深さ２cm～11cmを計る。／床　褐色砂質土層に掘り込まれている。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に南東側はカマドと貯蔵穴付近まで延び、北西側は壁の55cm手前まで及ぶ。／柱穴　６本。Ｐ１～Ｐ４が主柱穴に相当する。Ｐ１・径24cm、深さ53cm。Ｐ２・径34cm、深さ66cm。Ｐ４・２段掘りを呈する。Ｐ５・径20cm、深さ13cm。／カマド　東壁中央部より南寄りに位置する。煙道部にかけて一部撹乱に切られる。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。煙道部は地山を掘り込まれていない。撹乱により不明である。火床部はよく焼けて硬質化されている。掘り方は袖部の下まで及ぶ。長軸73cm、短軸67cm、深さ８cm。平面は楕円形、断面は皿状を呈する。／貯蔵穴　長軸65cm、短軸60cm、深さ64cm。ほぼ方形を呈する。

覆土の状況

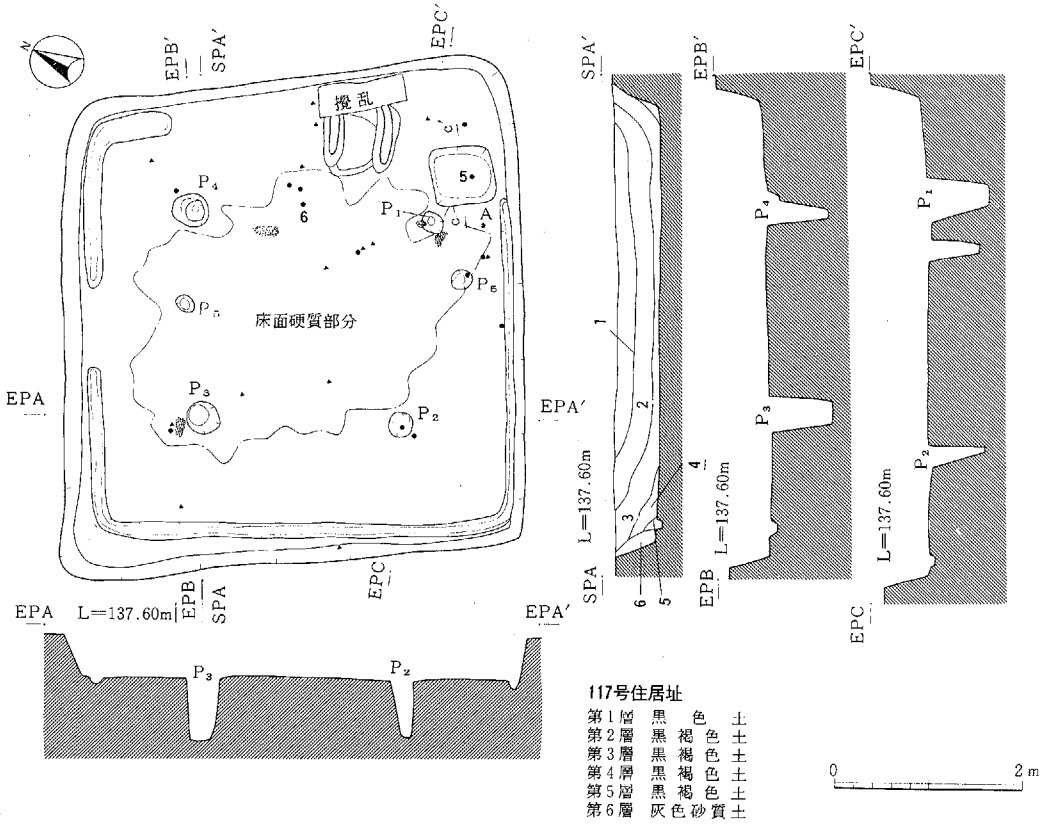
自然堆積である。黒色土と黒褐色土を基調に４層の合わせて５層に分層される。

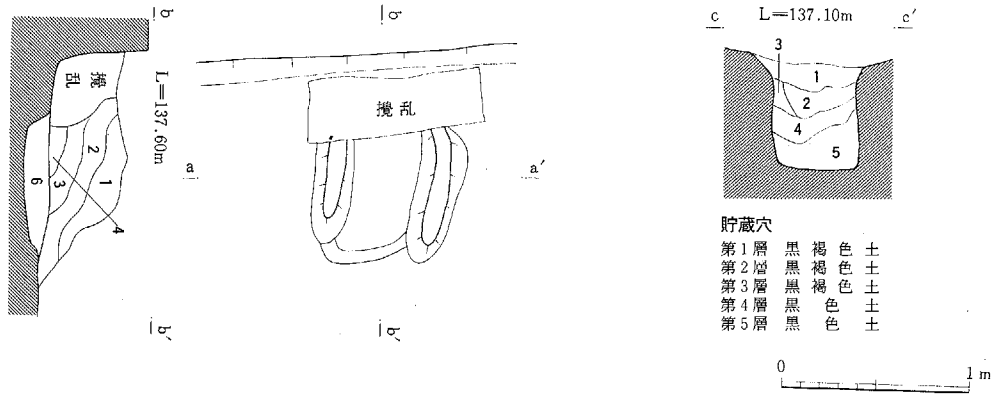
遺　物

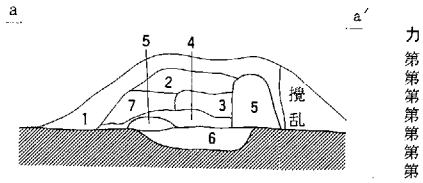
カマド付近と貯蔵穴付近に集中して出土した。また貯蔵穴内より土師器坏と甕が１点ずつ出土した。さらに、Ｐ１とＰ３の付近及びＰ１とＰ４の柱穴間に炭化材が少量検出された。検出状況から観察して焼失家屋の可能性が考えられる。その他、自然礫が床着で14点出土した。実測遺物点数７点。

表115　117号住居址出土遺物観察表(1)

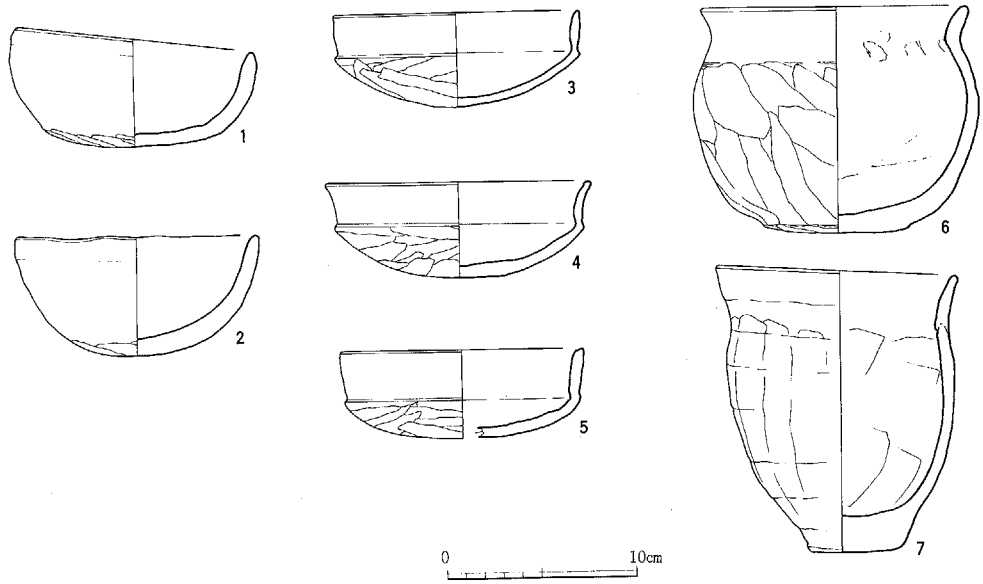
番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径12.5 底径 9.0 器高 6.5	素縁となるものでロ縁・体部は内反気味に開き、底部は丸く納める。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラナデツケ 〃　内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	淡褐色	床着
2	土師器 坏	口径12.7 底径 4.1 器高 6.3	素縁となるものでロ縁・体部は内反気味に開き、底部は丸くなる。	口縁部内外ナデ 体部外指圧のちヘラケズリ、内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎	黒褐色	貯蔵穴







第473図　117号住居址



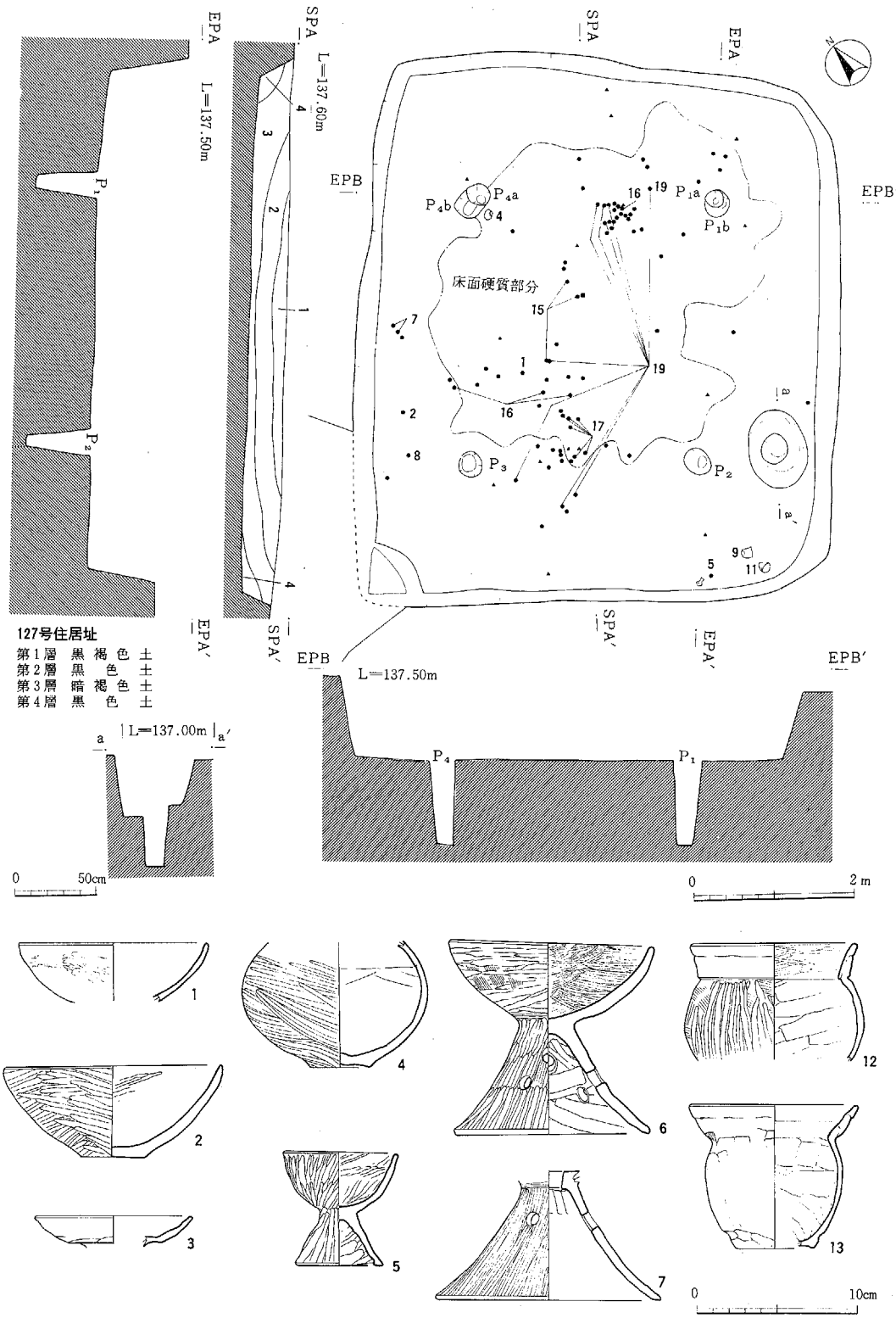
第474図　117号住居址出土遺物

表116　117号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
3	土師器 坏	口径12.8 底径 6.0 器高 5.0	口縁部は直線的に立ち上がり、外稜を有して尖り気味の丸底に連続する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
4	土師器 坏	口径13.9 底径 5.6 器高 5.0	口縁部は外反し、外稜を有して丸底に連続する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着
5	土師器 坏	口径12.7 底径 4.0 残存 4.6	口縁部は直線的に立ち上がり、外稜を有して平気味の丸底に連続する。	口縁部内外ヨコナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒石粒 含む	酸化炎 良好	赤褐色	貯蔵穴
6	土師器 甕	口径14.4 底径 8.0 器高12.0	口縁部は外反し胴部は張りを有し、突出する平底に続く。	口縁部内外ナデ 胴部外ナデのちヘラケズリ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎	暗褐色	床着
7	土師器 甕	口径12.8 底径 5.0 器高15.3	口縁・胴部は張りが無く突出する平底に続く。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	貯蔵穴

127号住居址（第475・476図　図版111・126・127　表117・118）

位置　X－21グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－E／規模　6.32ｍ×5.48ｍ（南北×東西）／壁高　72cm～96cm　南西隅を撹乱に切られる。／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。南西隅に床面より高さ10cmの三角形に地山を掘り残した有段を呈する部分が検出された。硬質部分は主柱穴間の内側を中心に北東側は壁の手前48cm～20cmまで延び、貯蔵穴付近と西壁が柱穴間の線上より外側に延びて検出された。／柱穴4本。Ｐ１・移動が認め



第475図　127号住居址・出土遺物(1)

られる。Ｐ１ａ（新）径20cm、深さ68cm、Ｐ１ｂ（旧）径32cm、深さ34cm。Ｐ２・径38cm、深さ61cm。Ｐ３・長径34cm、短径30cm、深さ45cm。Ｐ４・移動が認められる。Ｐ４ａ長径31cm、短径26cm、深さ52cm。Ｐ４ｂ長径32cm、深さ33cm。／炉　なし。／貯蔵穴　南東隅に位置する。２段に亘って掘られている。上段・長軸98cm、短軸73cm、下段・長軸40cm、短軸35cm　中段の深さ43cm、深さ70cmを計る。楕円形を呈する。

覆土の状況

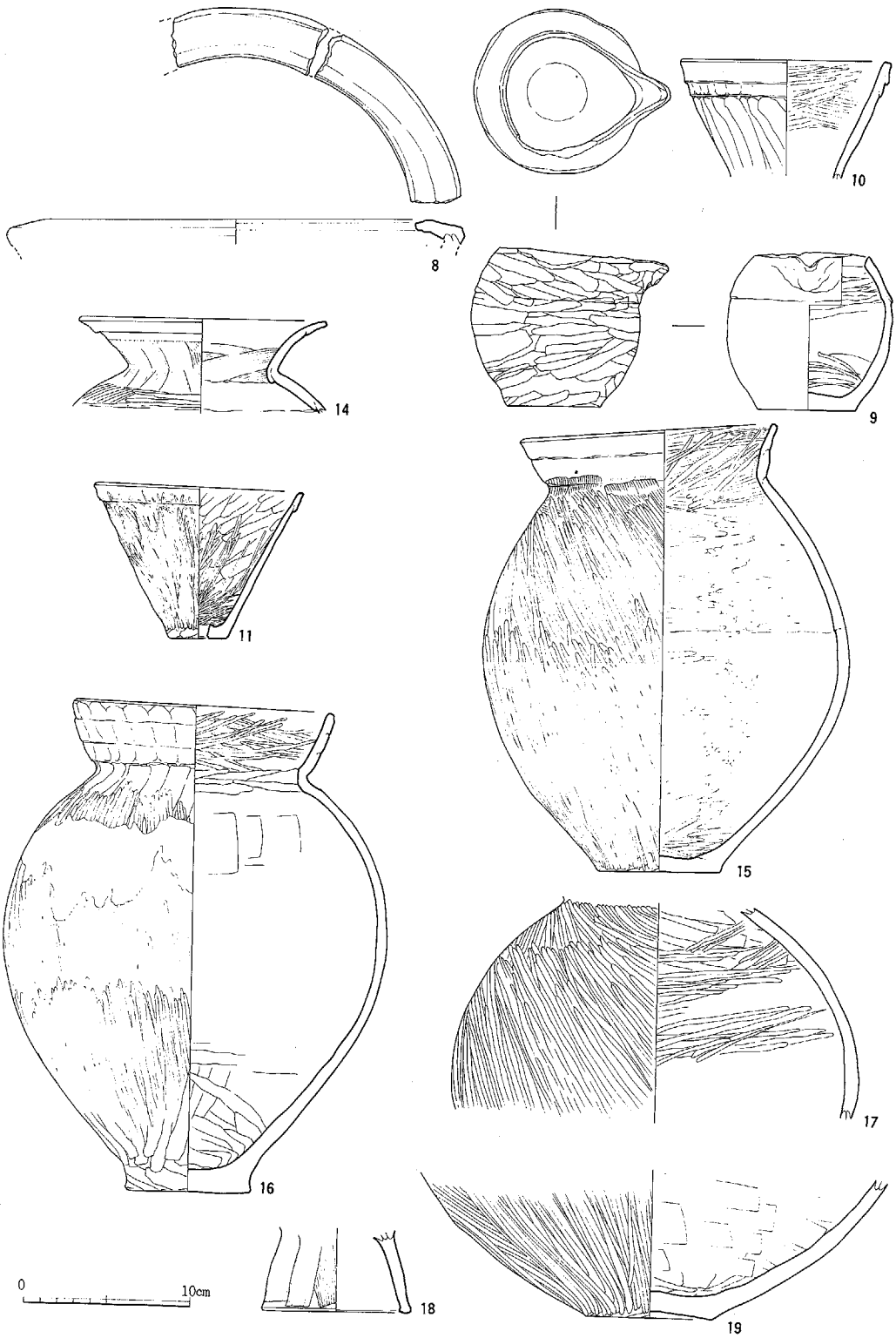
自然堆積である。黒褐色土と黒色土２層、暗褐色土の合わせて４層に分層される。

遺　物

土師器坏、高坏、赤井戸系の甕の破片が床面の硬質部分に集中して出土した。また南東隅に完形の甑が正位で出土し、近接して横位で完形の片口が出土した。さらにそれらの付近の南壁寄りに完形の小形の高坏が横位で出土した。実測点数19点。

表117　127号住居址出土遺物観察表(1)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径11.6 残存 3.6	素縁となるもの。口縁・体部は内反気味に開き丸底に連続する。	口縁部内外ナデ 体部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎	橙褐色	床着 1/3残存
2	土師器 塊	口径13.5 底径 4.0 器高 5.7	素縁となるもの。口縁・体部は内反気味に開き突出気味の平底に連続する。	口縁部内外ナデ 体部外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 3/4残存
3	土師器 高杯	口径 9.8 残存 1.7	器台の受け部である。浅い受け部は直線的に開く	口縁部内外ミガキ 体部外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 1/3残存
4	土師器 坏	 底径 3.8 残存 8.0	球形の胴部より突出気味の平底を連続させる。	体部外ヘラミガキ 〃　内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 3/4残存
5	土師器 高坏	口径 7.1 底径 5.3 器高 7.0	小型の高坏である。坏部は深く、脚部は裾広がりとなり端部で面をなす。	口縁部内外ナデ体部内外ミガキ脚部ミガキ 〃　内ヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
6	土師器 高坏	口径12.6 底径11.9 器高11.9	坏部は内反気味に開き、脚部は裾広がりで２段に複数の透かし孔を有す。	体部外ハケメのちミガキ 〃　内ミガキ脚部外ハケメのちミガキ内ケズリのちナデツケ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中
7	土師器 高坏	 底径復元 13.8 残存 8.0	器台の脚部である。中央に孔を穿ち、裾広がりとなる。透かし孔を有す。	脚部外タテのミガキ 〃　内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	床着 脚部1/3残存
8	土師器 高坏	口径27.1 残存 1.6	高坏の口縁部か。口縁部は鋤先状となるものか。	口縁部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	床着
9	土師器 片口	口径10.2 底径 5.7 器高 9.3	口縁・体部は内反気味に開き端部で面をなし片口をつける。平底を形成。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	床着 完形
10	土師器 甑	口径12.8 残存 7.2	小型の甑で逆台形を呈す。口縁部は折り返され、底部に単孔を有す。	口縁部内外ヨコナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎	褐色	覆土中 3/4残存
11	土師器 甑	口径12.6 底径 3.5 器高 9.2	小型の甑で逆台形を呈す。口縁部は折り返され、底部に単孔を有す。	胴部外ハケメのちミガキのちヘラケズリ内ハケメのちミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 完形



第476図　127号住居址出土遺物(2)

表118　127号住居址出土遺物観察表(2)

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
12	土師器 甕	口径10.4 残存 7.1	口縁部は内稜を有して外傾し球形の胴部を有す。	口縁部内ヘラミガキ外ナデ胴部外ハケメのちヘラミガキ内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	床着
13	土師器 甕	口径10.6 底径 4.8 器高 8.9	口縁部は受けながら開き口径より小さい胴部より突出気味の平底に続く。	口縁部内ハケメ外ナデ胴部外ハケメのちヘラナデ内ヘラケズリのちハケメ	砂粒含む	酸化炎	褐色	覆土中
14	土師器 甕	口径14.9 残存 5.5	口縁部は内稜を有して大きく外反し先端で折り返される。	口縁部内外ヨコナデ 頸部外ハケメのちヘラミガキ内ハケメのちナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 $\frac{1}{3}$残存
15	土師器 甕	口径15.4 底径 7.4 器高27.1	口縁部は外傾し輪積み痕を残し胴部中位に最大径を取り平底に続く。	頸部内外ハケメのちヘラミガキ胴部外ヘラケズリのちヘラミガキ内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
16	土師器 甕	口径15.7 底径 7.3 器高29.3	口縁部は輪積み痕を残し内反気味となり上位が張る胴部より平底に続く。	口縁部内ミガキ外指圧痕 頸部外ヘラケズリのちミガキ内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
17	土師器 甕	残存12.8	壷型土器で胴部は球形を呈す。	胴部外ヘラミガキ 〃　内ヘラケズリのちヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎	褐色	床着 $\frac{1}{2}$残存
18	土師器 台付甕	底径 9.0 残品 5.0	台付甕の脚部。直線的に開き端部で面をなす。	脚部外タテのハケメ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中
19	土師器 甕	底径 7.8 残存 8.7	壷型土器で球形の胴部より上げ気味の底部に続く。	胴部外ヘラケズリのちヘラミガキ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	床着 $\frac{1}{2}$残存

130号住居址（第477図　図版111　表119）

位置　Z－20グリッド／形態　方形／主軸方向　N－120°－E／規模　2.54ｍ×2.53（南北×東西）／壁高　4㎝～9.35㎝／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に面をなしているが硬質部分は認められなかった。／柱穴　なし。／炉　なし。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

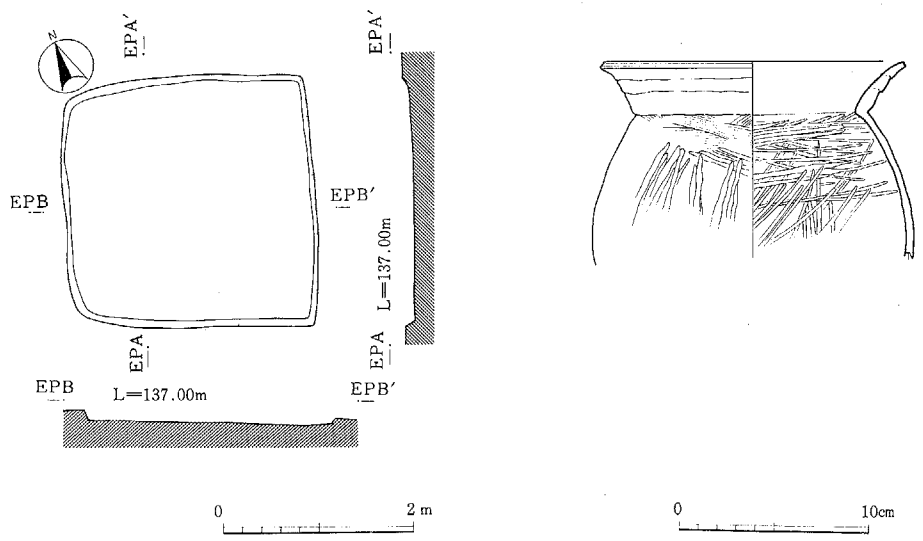
自然堆積である。黒色土の単層である。

遺　物

覆土中より土師器甕の口縁部の破片が１点出土している。口縁部に装飾的に輪積み痕を残す特徴である赤井戸系の甕である。実測遺物点数１点。

備　考

伴出遺物の出土は見られなかったが覆土の状況と形態から古墳時代の所産のものと考えられる。



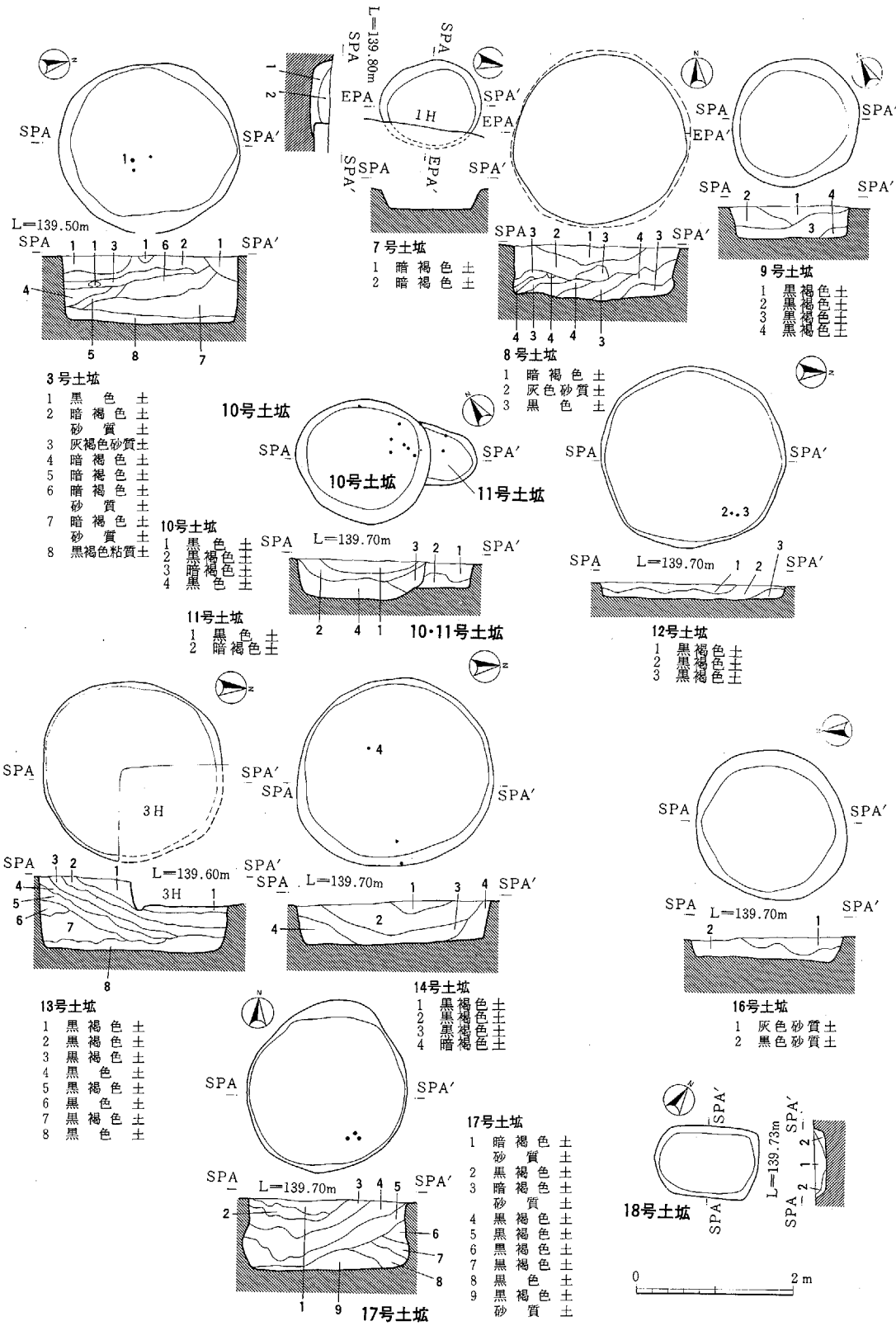
第477図　130号住居址・出土遺物

表119　130号住居址出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 甕	口径15.9 残存10.4	内稜を有し輪積み痕を残す口縁部は外反する。	口縁部内ハケメ外ナデ 胴部外ハケメのちヘラミガキ内ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 $\frac{1}{3}$残存

2　土　坑

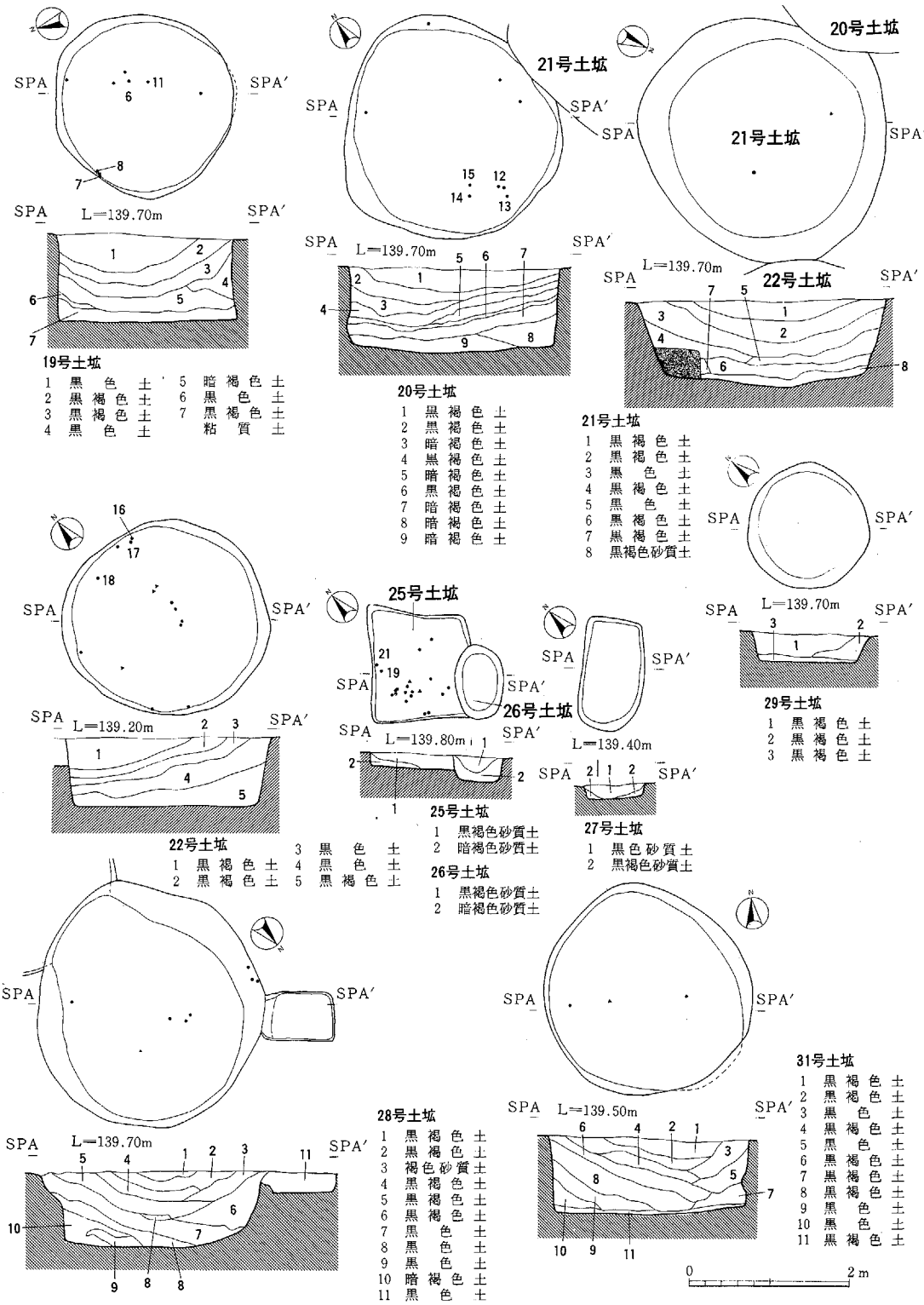
古墳時代の土坑は同時代の住居址に近接するように分布して検出されている。特に円形の土坑は古墳時代の住居址を切るものと切られるものがある。本項では出土遺物や覆土の状況で古墳時代と考えられる土坑を掲載した。



第478図　古墳時代土坑(1)

古墳時代土坑一覧表(1)　　（単位m）

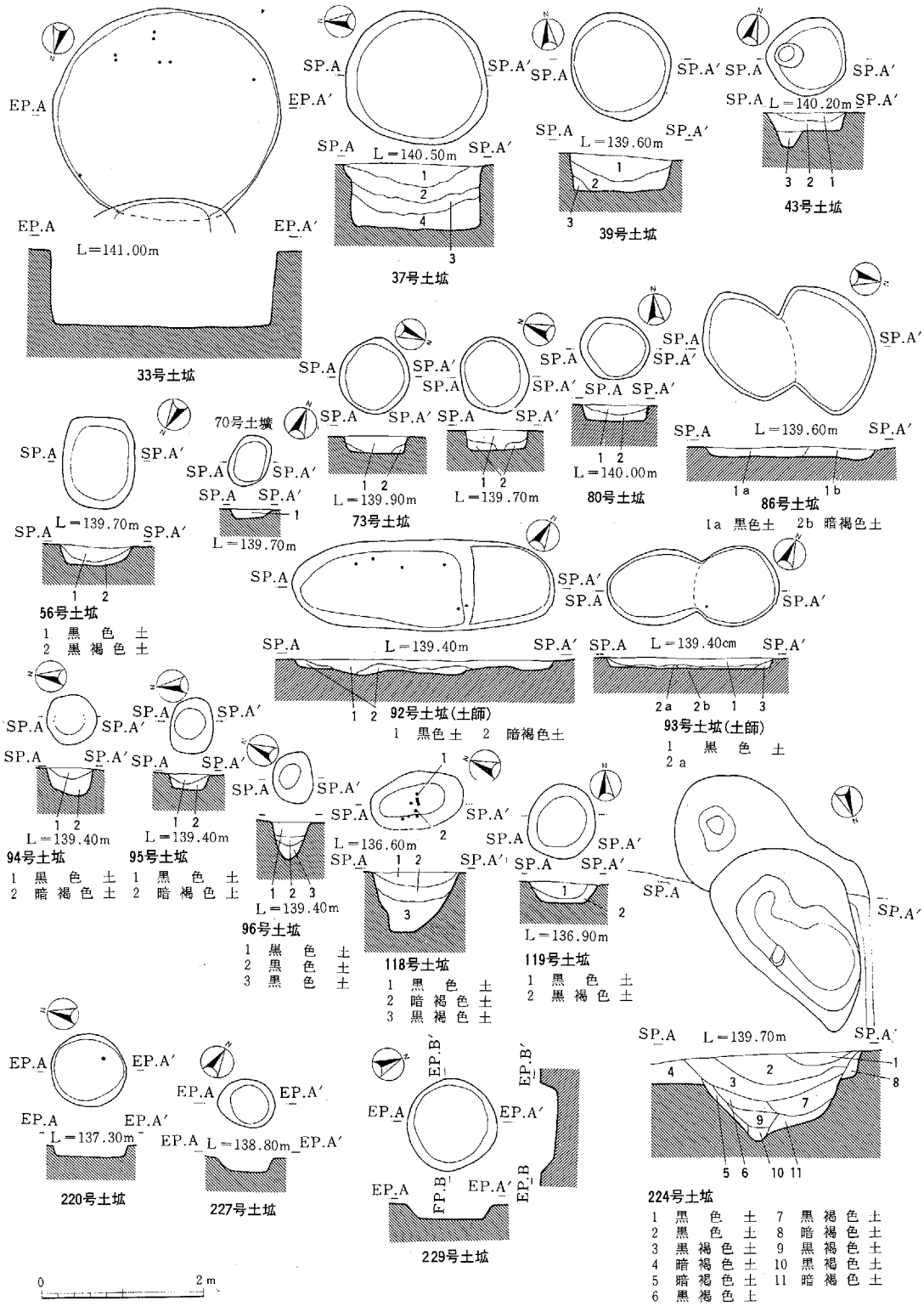
番号	位置	形態	上幅 下幅	長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
3	M-13	円形		2.31×2.18 2.10×1.88	0.88	——	有	鍋底形
7	L-13	楕円形		1.30×0.88+α 1.12×0.96	0.26	N-10°-W	無	鍋底形
8	M-14	円形		2.18×2.02+α 2.28×2.10+α	0.70	——	無	フラスコ形
9	M-13	円形		1.64×1.60 径1.35	0.40	——	無	鍋底形
10	M-14	楕円形		1.72×1.60 1.42×1.28	0.50	N-57°-W	有	鍋底形
11	M-14	楕円形？		0.58+α×0.74 0.53+α×0.58	0.32	N-57°-W	有	鍋底形
12	N-14	円形		径2.36 2.26×2.18	0.20	——	有	鍋底形
13	N-14	円形		径2.30 径2.16	0.90	——	無	鍋底形
14	M-14	円形		2.50×2.42 2.30×2.24	0.53	——	有	鍋底形
16	M-15 N-15	円形		径1.92 1.68×1.62	0.26	——	無	鍋底形
17	N-15	楕円形		2.24×2.04 1.98×1.90	0.88	N-1°-E	有	フラスコ形
18	N-15	(隅丸) 長方形		1.32×0.92 1.20×0.76	0.16	N-62°-E	無	鍋底形
19	N-15	円形		2.28×2.22 2.12×2.10	1.05	——	有	鍋底形
20	N-15	円形		2.78×2.62 2.48×2.46	1.06	——	有	鍋底形
21	N-15-16	円形		3.10×3.04 径2.46	1.06	——	有	鍋底形
22	N-16	円形		2.56×2.42 2.28×2.24	0.86	——	有	鍋底形
25	M-16	方形		1.28×1.02+α 1.26×0.98+α	0.19	——	有	鍋底形
26	M-16	楕円形		0.94×0.60 0.78×0.50	0.31	N-42°-E	有	鍋底形
27	M-15・16	長方形？		1.40×0.78 1.26×0.67	0.15	N-15°-E	無	鍋底形
28	N-16	(不整) 楕円形		2.96×2.80 2.84×2.20	0.94	N-41°-E	有	鍋底形
29	O-16	(不整)		2.64×2.54	0.96	——	有	鍋底形
31	M-16	円形		2.48×2.26	1.20	——	有	鍋底形
33	N-16	円形		2.82×2.35+α 2.67×2.32+α	0.97	——	有	鍋底形
37	K-22	円形		1.74×1.65 1.52×1.46	0.80	——	無	鍋底形
39	N-23 O-23	楕円形		1.34×1.24 径1.11	0.43	N-6°-E	無	鍋底形
43	K-29	(不整) 円形		1.00×0.98 0.22×0.20	0.24～ 0.42	——	無	鍋底形
56	L-32 M-32	(隅丸) 長方形		1.14×0.92 0.93×0.72	0.28	N-32°-W	無	鍋底形



第479図　古墳時代土坑(2)

古墳時代土坑一覧表(2)　　（単位m）

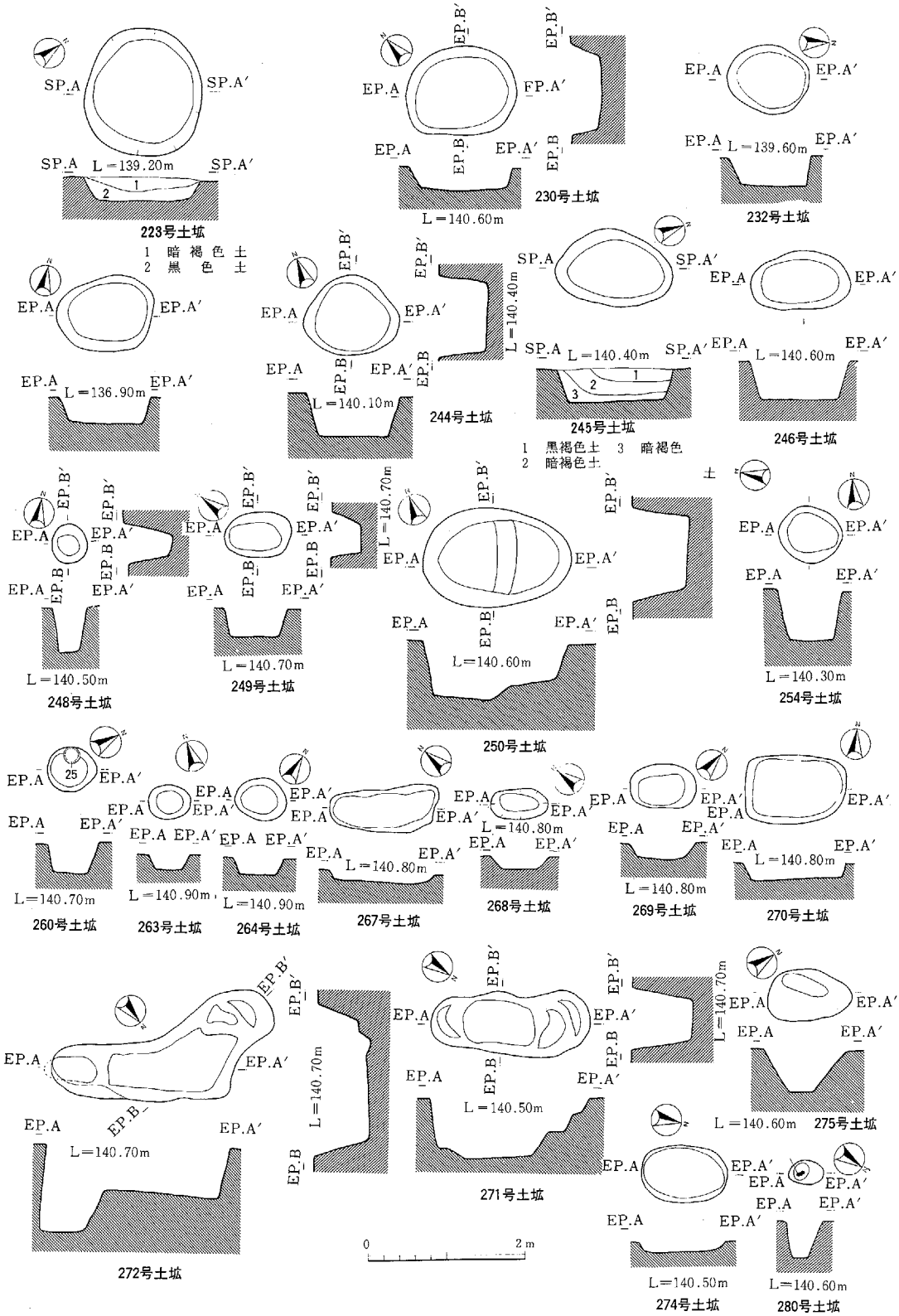
番号	位置	形態	上幅 下幅	長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
70	M-32	楕円形		0.66×0.46 0.52×0.36	0.11	N-1°-W	無	鍋底形
73	J-31	楕円形		0.95×0.88 0.82×0.72	0.22	N-20°-W	無	鍋底形
74	J-31	楕円形		0.94×0.84 0.80×0.66	0.25	N-67°-E	無	鍋底形
80	L-30	楕円形		0.84×0.78 0.72×0.66	0.20	N-86°-W	無	鍋底形
86	N-31	ひょうたん形 不整形		2.15×0.90 2.02×0.78	0.10～ 0.14	N-1°-E	無	鍋底形
92	O-30・31	(長) 楕円形		3.24×1.16 1.61×0.89	0.06～ 0.19	N-63°-E	有	鍋底形
93	O-30・31	ひょうたん形 不整形		2.12×0.66 2.02×0.58	0.13	N-67°-E	有	鍋底形
94	f-31 O-30	円形		1.19×0.72 0.62×0.60 0.38×0.15	0.75 0.34	N-38°-W	有 無	U字形 鍋底形
95	O-30	楕円形		0.68×0.51 径0.35	0.20	N-89°-W	無	鍋底形
96	O-30	楕円形		0.62×0.50 0.27×0.12	0.48	N-61°-E	無	V字形
108	L-29・30	楕円形		1.20×0.80 0.96×0.57	0.44	N-49°-W	無	鍋底形
118	f-31	楕円形		0.82×0.38	0.78	N-45°-W		U字形
119	e-27	楕円形		0.92×0.84 0.70×0.56	0.25	N-15°-E	無	鍋底形
220	Z-21.22	円形 円形		0.92×0.91 0.86×0.82	0.23	——	有	41号住居址を切る
223	Q-14	楕円形		1.64×1.48 1.32×1.26	1.07	N-35°-W	有	鍋底形
224	O-14	——		—×— —×—	0.85～ 1.09	——	無	範囲不明
227	R-15	楕円形		0.69×0.58 0.47×0.45	0.20	N-72°-E	無	鍋底形
229	J-26 K-26	円形		1.41×1.10 0.96×0.90	0.20	——	有	鍋底形
230	K-25・26	楕円形		1.42×1.13 1.16×0.90	0.30	N-49°-W	無	鍋底形
231	J-26	不整形		1.39×1.06 1.11×0.75	0.37	N-38°-E	無	鍋底形
232	J-26	楕円形		1.06×0.88 0.88×0.70	0.38	N-2°-W	無	鍋底形
233	J-25・26	楕円形		1.24×0.94 1.00×0.72	0.30～ 0.34	N-74°-E	無	鍋底形
244	J-23・24	楕円形		1.25×1.03 0.95×0.86	0.55	N-66°-W	無	鍋底形
245	J-23・24 J-23・24	楕円形		1.47×1.00 1.19×0.74	0.42	N-30°-E	無	鍋底形
246	J-23	楕円形		1.30×0.73 1.00×0.56	0.51	N-73°-W	無	鍋底形
248	I-23	円形		0.50×0.46 0.30×0.24	0.58	——	無	U字形
249	I-23	楕円形		0.84×0.58 0.64×0.36	0.38～ 0.40	N-30°-W	無	鍋底形
250	I-23	(長) 楕円形		1.91×1.26 1.55×0.90	0.48～ 0.70	N-72°-W	無	——



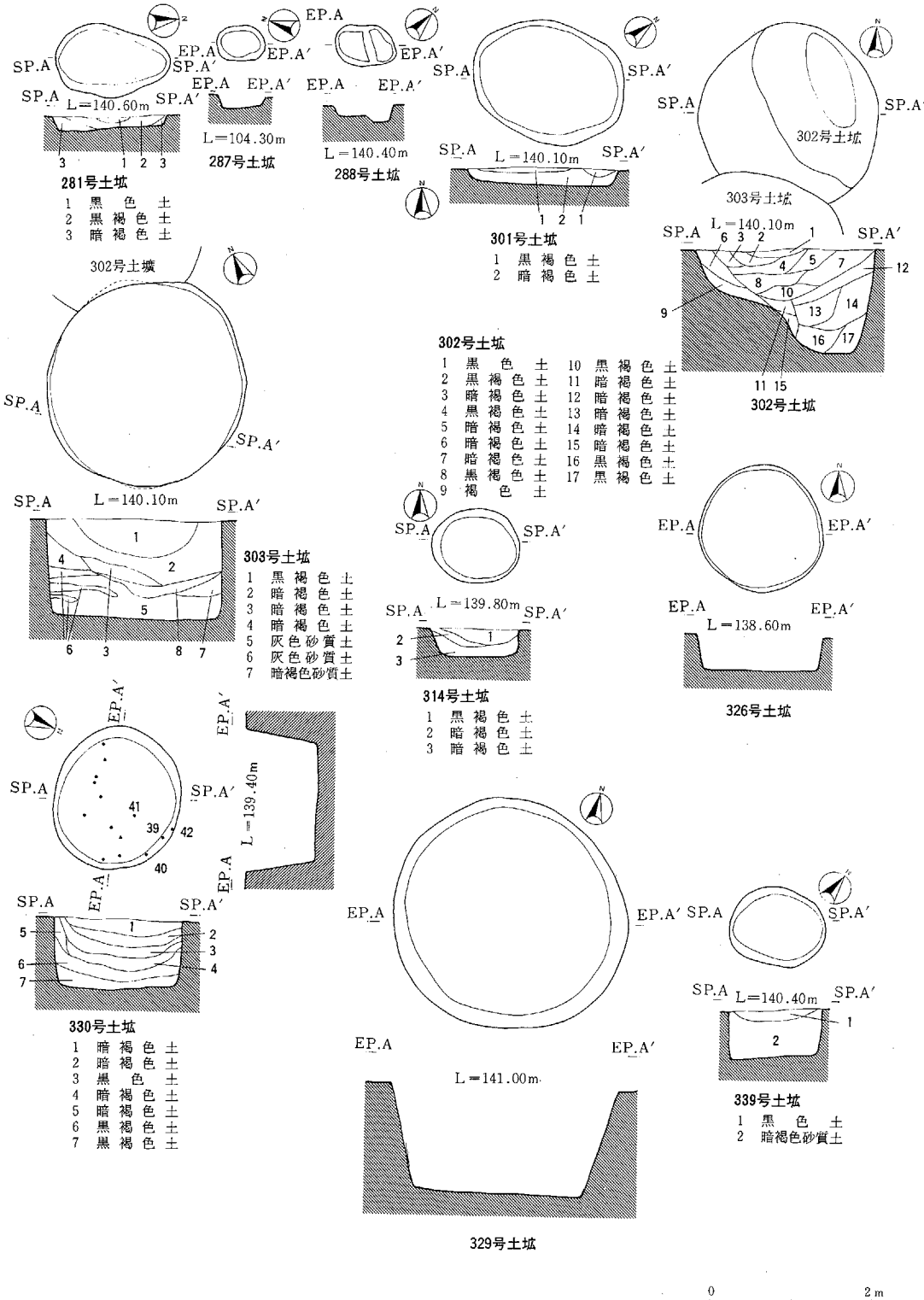
第480図　古墳時代土坑(3)

古墳時代土坑一覧表(3)　　（単位ｍ）

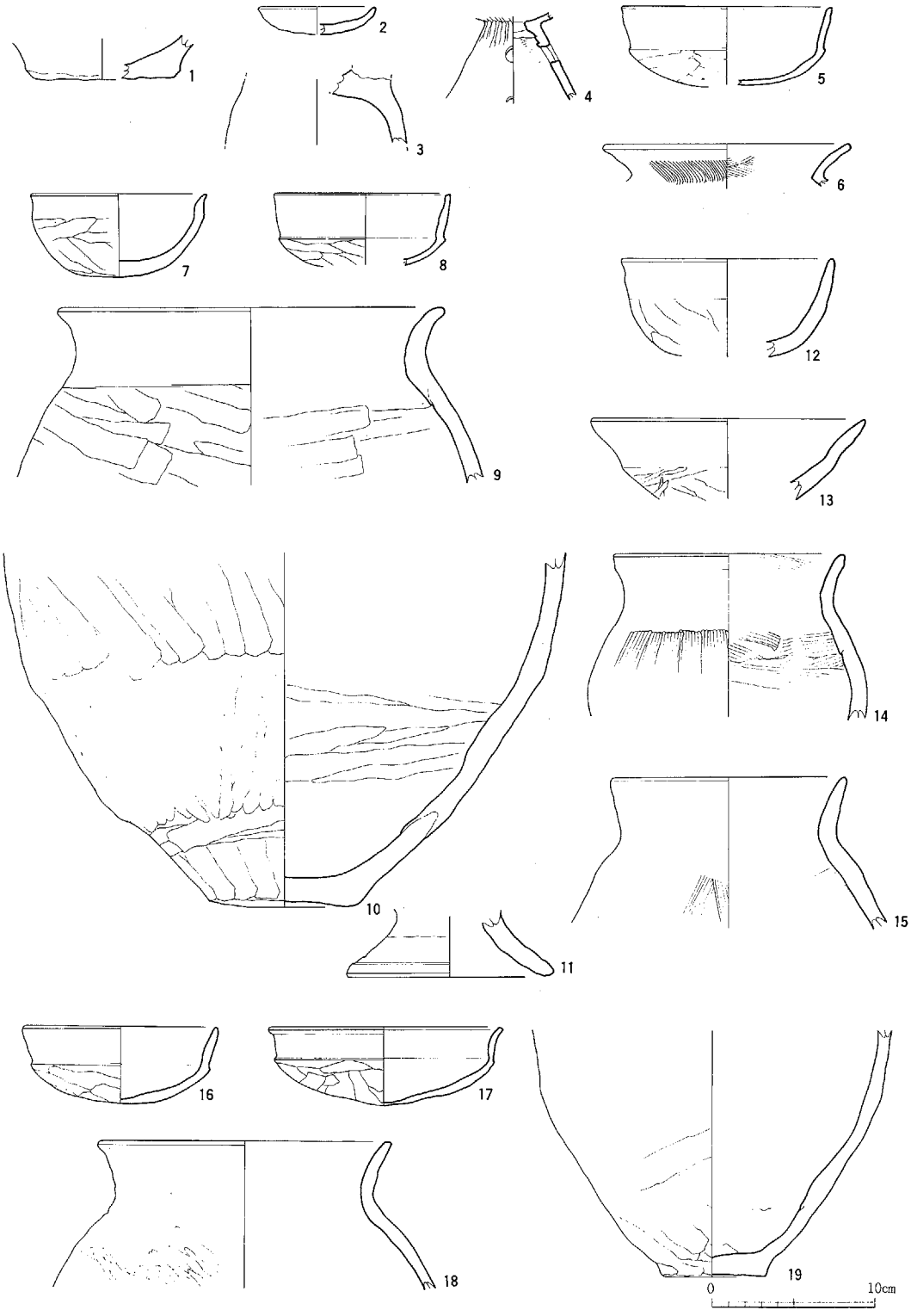
番号	位　置	形　態	上幅 下幅	長軸×短軸	深　さ	主軸方向	出土遺物	備　考
254	J-23	楕円形	0.83×0.71 0.64×0.50		0.48	N-9°-E	無	U　字　形
260	J-21	楕円形	0.62×0.57 0.46×0.40		0.28	N-46°-E	無	鍋　底　形
263	J-21	楕円形	0.52×0.44 0.38×0.32		0.20	N-70°-W	無	鍋　底　形
264	J-21	楕円形	0.64×0.54 0.44×0.36		0.20	N-77°-E	無	鍋　底　形
267	H-18 I-18	楕円形	1.30×0.55 1.20×0.43		0.12	N-44°-W	無	鍋　底　形
268	H-19	(長) 楕円形	0.73×0.39 0.48×0.24		0.16	N-36°-W	有	鍋　底　形
269	H-18	楕円形	0.84×0.56 0.58×0.40		0.21	N-46°-E	無	鍋　底　形
271	H-18 I-18	不整形	2.04×0.80 0.90×0.54		0.11～ 0.76	N-42°-W	無	不　整　形
272	I-18	不整形	2.32×0.74 0.66×0.28		0.61～ 1.12	N-50°-W	無	不　整　形
274	H-18	楕円形	1.08×0.74 1.01×0.65		0.18	N-10°-W	無	鍋　底　形
275	I-18	楕円形	1.08×0.66 0.60×0.20		0.54	N-30°-E	無	逆　台　形
280	I-17	楕円形	0.46×0.30 0.22×0.18		0.14	N-30°-W	有	U　字　形
281	H-17 I-17	楕円形	1.42×0.90 1.32×0.68		0.14～ 0.19	N-7°-E	無	鍋　底　形
287	I-16	楕円形	0.58×0.43 0.48×0.32		0.16	N-15°-W	無	鍋　底　形
288	I-15 0.21	楕円形	0.72×0.50 0.43×0.18		0.13～ 0.21	N-46°-E	無	不　整　形
301	I-14 J-14	楕円形	1.86×1.50 1.68×1.30		0.20	N-37°-E	無	鍋　底　形
302	L-16	円形	径2.25 1.24×0.48		0.46～ 1.26	——	無	鍋　底　形
303	L-15·16	円形	2.50×2.43 2.60×2.33		1.22	——	無	鍋　底　形
314	L-13 M-13	楕円形	1.07×0.92 0.88×0.75		0.32	N-88°-W	無	鍋　底　形
326	R-9 0.44	円形	1.60×1.54 1.56×1.50		0.44	——	無	鍋　底　形
329	O-12·13 P-13	円形	2.90×2.84 2.56×2.50		1.34	——	無	鍋　底　形
330	Q-12	楕円形	1.76×1.54 1.56×1.42		0.87	N-72°-E	無	鍋　底　形
339	K-17	楕円形	1.18×0.95 1.06×0.76		0.58	N-49°-E	無 無	鍋　底　形 鍋　底　形



第481図　古墳時代土坑(4)



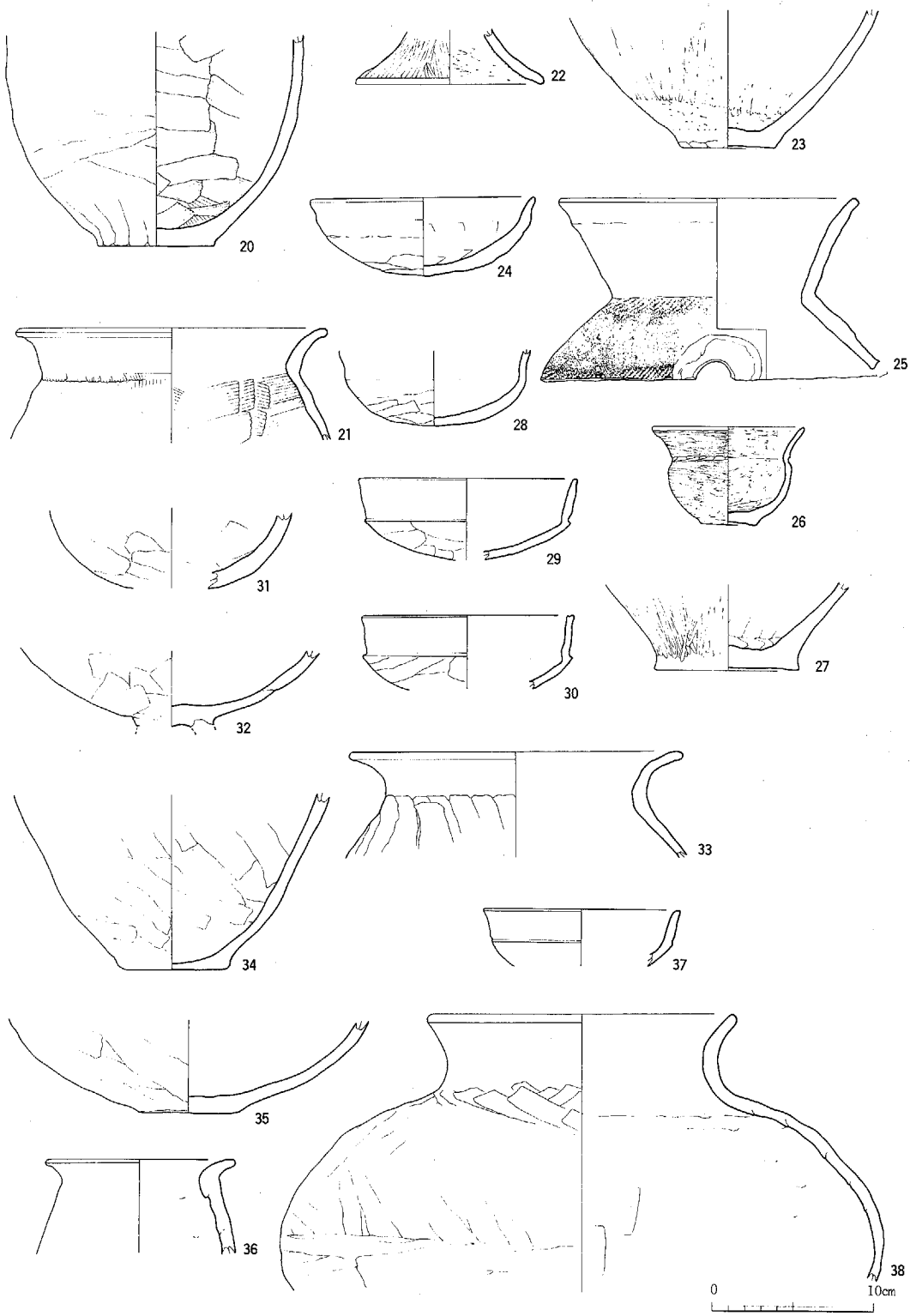
第482図　古墳時代土坑(5)



第483図　古墳時代土坑出土遺物(1)

表120　古墳時代土坑出土遺物観察表(1)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1 3号 土坑	土師器 甕	底径 8.4 残存 2.5	底部は丸く納める。	底部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗灰褐色	覆土中 底部破片
2 12号 土坑	土師器 坏	口径 7.0 残存 1.7	口縁・体部は内反気味に浅く開き底部は丸く納める。	口縁部内外ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
3 12号 土坑	土師器 台付甕	残存 3.9	脚部は開く。	脚部内外ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
4 14号 土坑	土師器 高坏	残存 5.3	受け部欠損。脚部は裾広がり2段に透かし孔を有す。	脚部外ヘラミガキ 〃　内ハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	黄褐色	覆土中
5 17号 土坑	土師器 坏	口径12.8 残存 4.8	口縁部は外傾し端部で面をなす。外稜を有し底部は丸く納める。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黄褐色	覆土中
6 17号 土坑	土師器 甕	口径15.0 残存 2.6	口縁部は内稜を有して「くの字」に開く。	口縁部内外ナデ 頸部内外ハケメのちヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	黄褐色	覆土中
7 19号 土坑	土師器 坏	口径10.6 底径 2.9 器高 5.1	体部は内反気味に開き口縁部は先端で内反気味に開く。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中
8 19号 土坑	土師器 坏	口径10.7 残存 4.4	口縁部は直線的に開き外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中
9 19号 土坑	土師器 甕	底径12.0 残存 3.7	脚部は裾広がりとなる。	脚部外ナデツケのちナデ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中
10 19号 土坑	土師器 甕	口径23.3 残存10.8	口縁部は「コの字」状に外反する。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃　内ヘラナデツケ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 $\frac{1}{4}$残存
11 19号 土坑	土師器 甕	底径 8.0 残存21.8	胴部の接合面は各々突出し上げ底気味の底部に続く。	胴部外ヘラケズリのちヘラナデ内ヘラナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	覆土中 $\frac{3}{4}$残存
12 20号 土坑	土師器 坏	口径13.0 残存 6.0	素縁の坏である。口縁・体部は立ち上がり気味に開き丸底に続く。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗赤褐色	覆土中
13 20号 土坑	土師器 高坏	口径16.6 残存 4.9	高坏の坏部。緩く外稜を有し開く。	口縁部内外ナデ 体部外雑なヘラミガキ 〃　内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黒褐色 赤褐色 混合	覆土中
14 20号 土坑	土師器 甕	口径14.0 器高10.0	緩く外反する口縁部は先端で短く立ち上がる。	口縁部内ハケメのちナデ 〃　外ナデ 胴部内外ハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	黄褐色	覆土中



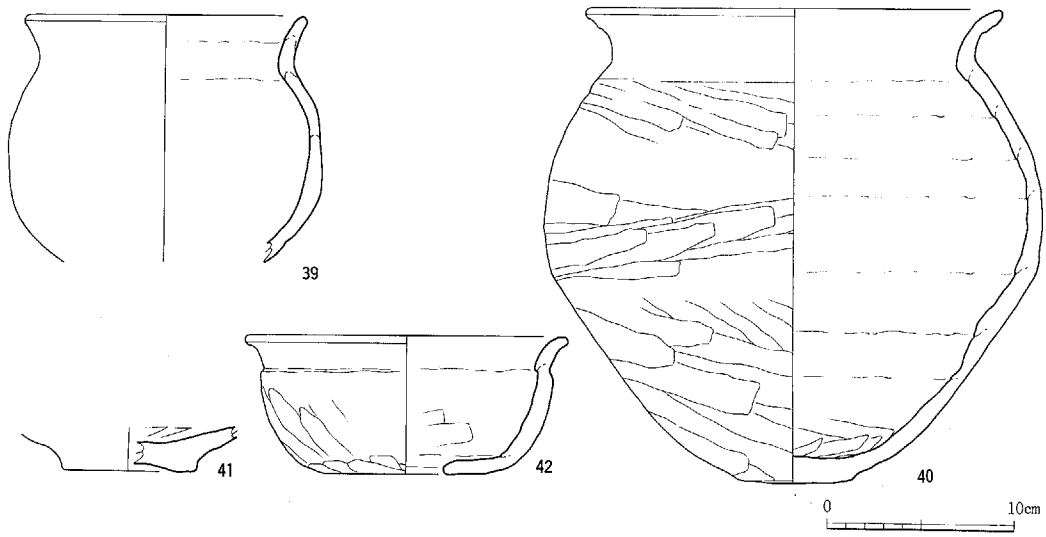
第484図　古墳時代土坑出土遺物(2)

表121　古墳時代土坑出土遺物観察表(2)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
15 20号 土坑	土師器 甕	口径14.2 残存 9.0	口縁部は「くの字」状に外反し胴部は中位に最大径を有するもの。	口縁部内外ナデ 胴部外内雑なミガキ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	黒褐色	覆土中
16 22号 土坑	土師器 坏	口径11.9 底径 4.0 器高 4.7	口縁部は外傾し外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	赤褐色	床着 $\frac{3}{4}$残存
17 22号 土坑	土師器 坏	口径14.2 底径 2.0 器高 4.7	口縁部は外反し端部は丸く納め外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黄褐色	覆土中 $\frac{1}{3}$残存
18 22号 土坑	土師器 甕	口径17.8 残存 9.1	口縁部は緩く外反する。	口縁部内外ナデ 胴部外雑なナデのち雑なヘラミガキ内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	黄褐色	覆土中 $\frac{1}{3}$残存
19 25号 土坑	土師器 甕	 底径 7.0 残存13.0	底部は突出する平底を有する。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	黄褐色	覆土中 $\frac{1}{3}$残存
20 25号 土坑	土師器 甕	 底径 6.2 残存15.0	底部は突出する平底を有する。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中 $\frac{1}{4}$残存
21 26号 土坑	土師器 甕	口径18.8 残存 6.8	口縁部は外反し先端で丸く納める。	口縁部内外ナデ 頸部外ナデのちハケメ 〃 内ハケメ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中 $\frac{1}{2}$残存
22 118号 土坑	土師器 高坏	 底径11.4 残存 3.4	器台脚部。裾広がりとなるもので端部でやや受け気味となる。	脚部内ミガキ 外タテのミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 脚部破片
23 118号 土坑	土師器 甕	 底径 6.0 残存 8.5	底部は突出する平底を有する。	胴部内外ミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	暗褐色	覆土中 胴部下半のみ残存
23 223号 土坑	土師器 坏	口径13.8 底径 3.0 器高 4.7	体部に緩い外稜を有し口縁部は外反し、丸底に続く。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中 $\frac{2}{3}$残存
25 260号 土坑	土師器 甕	口径18.4 残存11.0	口縁部は直線的に開き内稜を有し貼り付けの注口部を有す。器台転用か。	口縁部内外雑なヘラミガキ胴部内ヘラナデツケ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 胴部上半のみ
26 268号 土坑	土師器 甕	 底径 8.6 残存 5.4	突出する平底は端部が鋭角的となる。	胴部外ヘラケズリのちヘラミガキ内ナデ	砂粒石粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 底部破片
27 280号 土坑	甕	口径 9.4 底径 3.4 残存 5.9	口縁部は内稜を有して外反し突出する底部は上げ底となる。	胴部外ヘラケズリのちヘラミガキ内ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 ほぼ完形
28 303号 土坑	土師器 坏	口径13.4 残存 5.0	体部は立ち上がり気味に開き丸底に続く。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中 $\frac{1}{3}$残存

表122　古墳時代土坑出土遺物観察表(3)

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
29 303号 土坑	土師器 坏	口径13.0 残存 4.5	口縁部は直線的に開き外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中 1/4残存
30 303号 土坑	土師器 坏	復元口径 11.5 残存 4.7	口縁部は外反し端部で面を成す。外稜を有して丸底となる。	体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 2/3残存
31 303号 土坑	土師器 坏	 残存 4.7	体部は丸みを帯、丸底に続く。	体部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	茶褐色	覆土中 1/4残存
32 303号 土坑	土師器 台付甕	底径 4.7 残存 4.8	大きく球形を呈す。底に台が付く。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 2/3残存
33 303号 土坑	土師器 甕	口径19.8 残存 7.5	口縁部は大きく外反し端部は水平に近くなる。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	橙褐色	覆土中 1/4残存
34 303号 土坑	土師器 甕	 底径 6.9 残存10.7	底部は平底となり、中央でややくぼむ。	胴部外内ヘラケズリ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 胴部下半 1/2残存
35 303号 土坑	土師器 甕	口径20.1 底径 6.1 残存 5.5	大きく球形を呈す。上げ気味の底部に続く。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	明褐色	覆土中
36 312号 土坑	土師器 甕	口径11.4 残存 6.6	細身の胴部より口縁部は短く外反する。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中 1/4残存
37 329号 土坑	土師器 坏	口径11.8 残存 3.5	口縁部は沈線状の稜を有して外反する。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎	黄褐色	覆土中
38 329号 土坑	土師器 甕	口径18.6 残存17.0	口縁部は大きな偏球形を呈す。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
39 330号 土坑	土師器 甕	口径21.6 底径 5.4 器高25.0	口縁部は外傾し端部は面を成し外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
40 330号 土坑	土師器 甕	口径14.5 残存12.8	口縁部は立ち上がり端部は面を成して段を有し外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中
41 330号 土坑	土師器 甕	 底径 6.6 残存 2.4	底部は丸く納める。	胴部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	褐色	覆土中 1/2残存
42 330号 土坑	土師器 甑	口径16.7 底径 8.2 器高 7.2	口縁部は外反し緩い外稜を有して丸底に続く。	口縁部内外ナデ 胴部外ヘラケズリのちナデ内ヘラナデ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡褐色	覆土中



第485図　古墳時代土坑出土遺物(3)

第486図　歴史時代遺構配置図

第3節　歴史時代

1．歴史時代の概観

本遺跡の歴史時代の遺構や遺物は、縄文時代、古墳時代に比べ大きく減少する傾向を示している。検出された遺構は、住居址1軒と溝2条である。遺物は遺構内と試掘調査時においてトレンチ内より若干量の出土がみられた。

本節では、住居址、溝、トレンチ内の出土遺物という順番で述べて行く事にする。なお、凡例に述べたように遺構番号については時代とは特に関係をもつものではない。

2．住居址

106号住居址（第487図　図版133　表123）

位置　J－25グリッド／形態　長方形／主軸方向　N－45°－E／規模　6.19m×3.24m（南北×東西）／壁高　13.5cm～19cm／壁溝　なし。／床　褐色砂質土層に掘り込まれる。全体に面をなしているが硬質部分は認められなかった。／柱穴　2本。P1・径26cm、深さ48cm。P2・径28cm、深さ58cm。／カマド　東壁中央部よりやや南寄りに位置する。袖は山砂を混入した粘土で構築されている。焚口部には自然礫で補強されている。遺存状況が悪く北側の袖は検出されなかった。煙道部は地山を細長く掘り込まれている長さ102cm、幅20cmを計る。傾斜は燃焼部から32°後は80°の角度で立ち上がる。火床部にあたる部分はよく焼けて硬質化されている。床面より掘り込みは検出されなかった。／貯蔵穴　なし。

覆土の状況

自然堆積である。黒色土と黒褐色土を基調に2層の合わせて3層に分層される。

遺　物

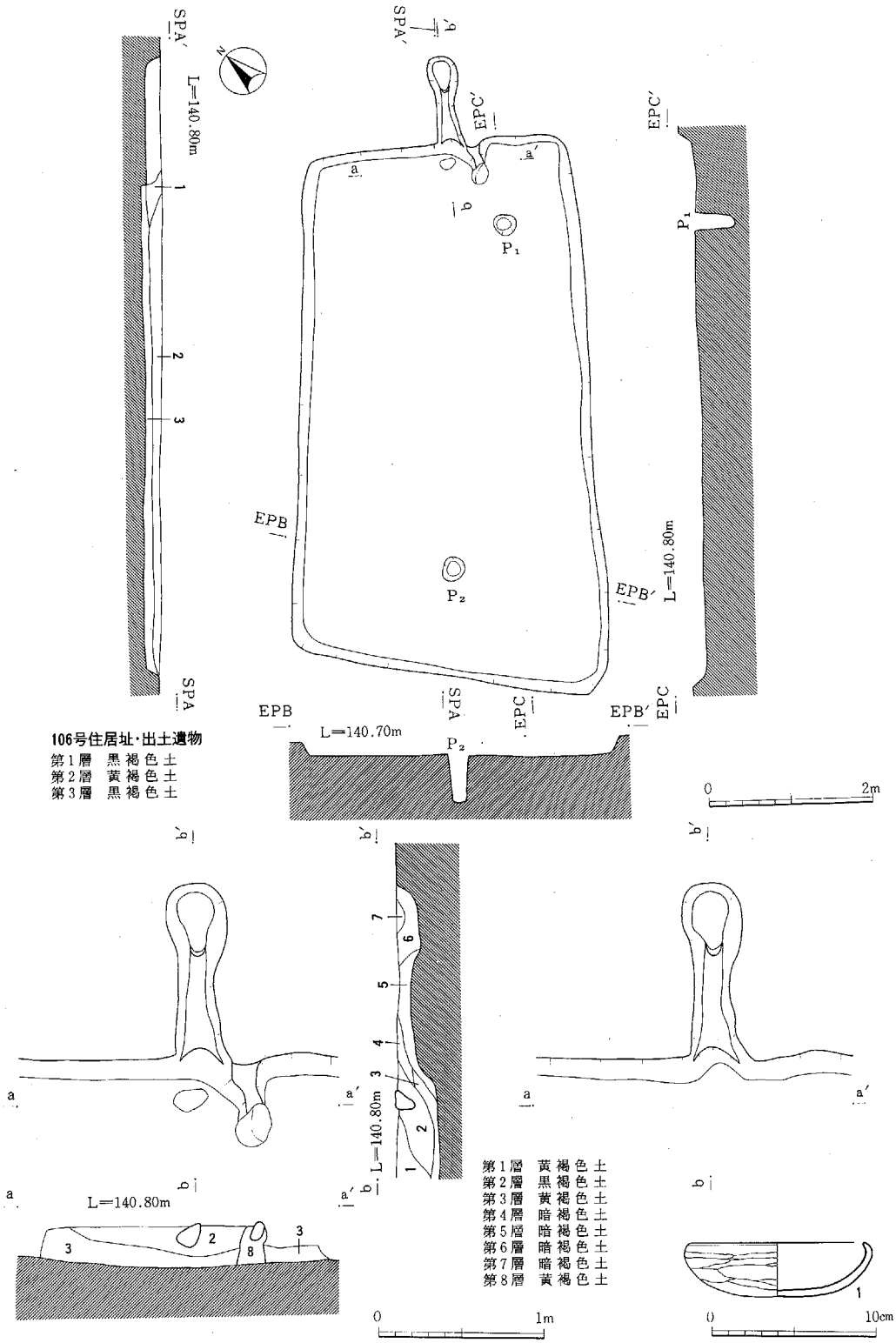
覆土中より土師器坏が1点出土した。実測遺物点数1点。

備　考

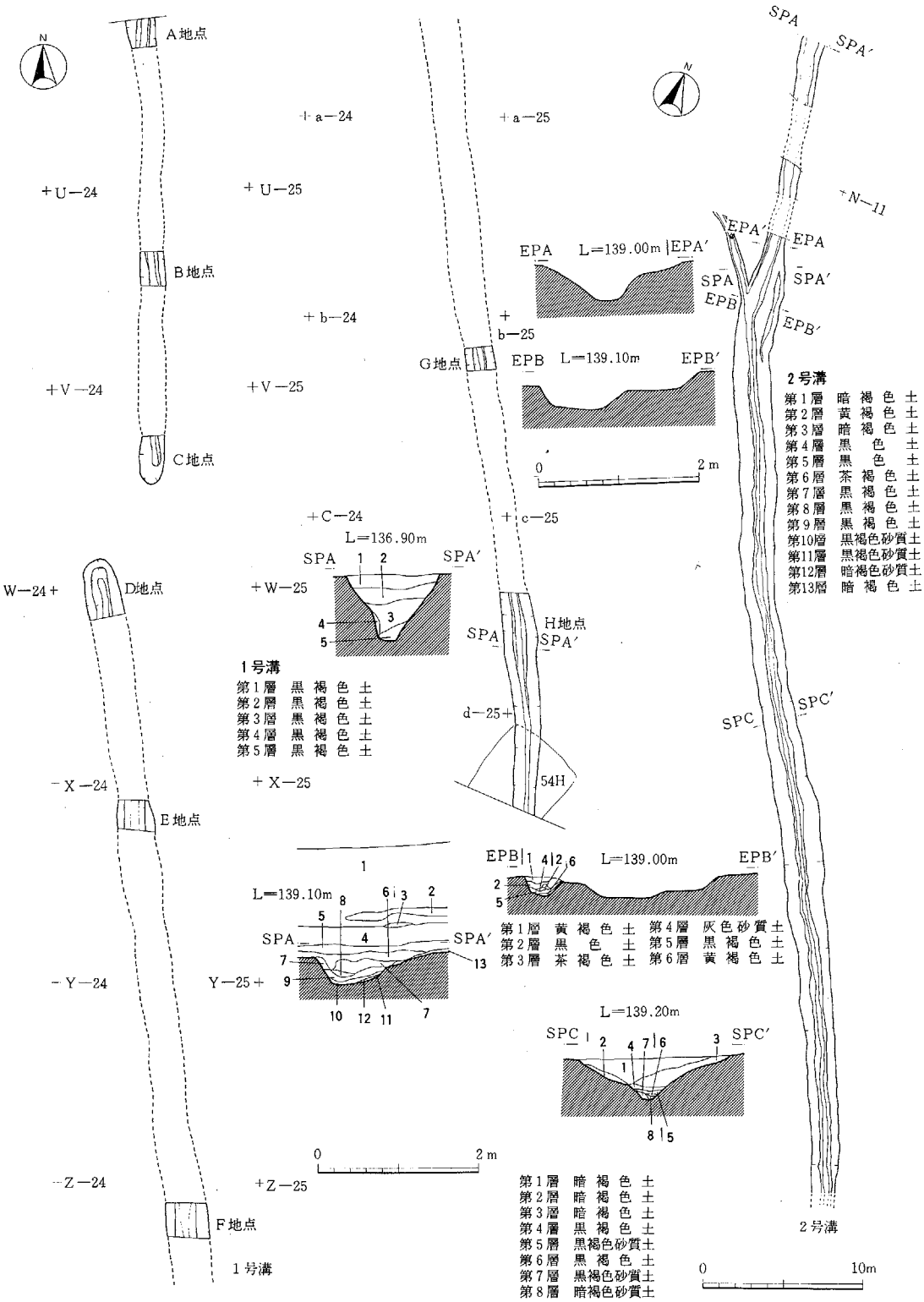
伴出遺物の出土は見られなかったが形態と覆土の状況から歴史時代の所産のものと考えられる。

表123　106号住居址出土遺物観察表

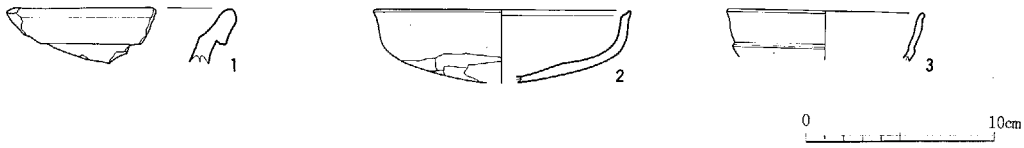
番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	土師器 坏	口径10.8 底径 3.9 器高 3.2	素縁の口縁部は小さく内反し体部は内反気味に開き底部は丸みを帯びる	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ 〃 内ナデ	砂粒を含む	酸化炎良好	橙褐色	覆土中



第487図　106号住居址・出土遺物


A地点
B地点
C地点
D地点
E地点
F地点
G地点
H地点
+a−24
+a−25
+U−24
+U−25
+b−24
+b−25
+V−24
+V−25
+C−24
+c−25
+W−25
+X−25
+Y−25
+Z−25
+N−11
W−24+
−X−24
−Y−24
−Z−24
d−25+
SPA
SPA′
EPA
EPA′
EPB
EPB′
SPC
SPC′
L=136.90m
L=139.00m
L=139.10m
L=139.20m
54H
0
2 m
10m
1号溝
2号溝
1号溝
第1層 黒 褐 色 土
第2層 黒 褐 色 土
第3層 黒 褐 色 土
第4層 黒 褐 色 土
第5層 黒 褐 色 土
2号溝
第1層 暗 褐 色 土
第2層 黄 褐 色 土
第3層 暗 褐 色 土
第4層 黒 色 土
第5層 黒 色 土
第6層 茶 褐 色 土
第7層 黒 褐 色 土
第8層 黒 褐 色 土
第9層 黒 褐 色 土
第10層 黒褐色砂質土
第11層 黒褐色砂質土
第12層 暗褐色砂質土
第13層 暗 褐 色 土
第1層 黄 褐 色 土
第2層 黒 色 土
第3層 茶 褐 色 土
第4層 灰色砂質土
第5層 黒 褐 色 土
第6層 黄 褐 色 土
第1層 暗 褐 色 土
第2層 暗 褐 色 土
第3層 暗 褐 色 土
第4層 黒 褐 色 土
第5層 黒褐色砂質土
第6層 黒 褐 色 土
第7層 黒褐色砂質土
第8層 暗褐色砂質土

第488図　1・2号溝



第489図　1・2号溝出土遺物

3．溝

1号溝(第488・489図　図版132・135　表124)

1号溝はU～b－24グリッド間とc・d－25グリッドまでの範囲内において検出された。南北ともに調査区外に延びる。また、V－24・25グリッドで切れ食い違いになって空間を呈する。調査区内に検出された遺構の規模はV－24・25グリッドを境に北側は幅60cm～73cm、長さ22.1m、深さはA地点58cm、B地点60cm、C地点61cm。南側は幅58cm～108cm。長さ75.8cm、深さはD地点66cm、E地点68cm、F地点71cm、G地点76cm、H地点84cm。北から南へと緩斜面に沿っている。断面の形状は逆台形（薬研堀状）を呈する。さらに北側の調査区外のL～S－24グリッド内は試掘調査において撹乱が著しく本調査区より除外されている。それより北側と東西には溝の続きの検出は見られなかった。南側は大正用水を隔てた南側に現況で落ち込みが認められる位置的に合うため1号溝の続きの可能性が考えられる。出土遺物はG地点より陶器甕の口縁部の破片が覆土中より出土した。本址の時期は覆土の状況と形態より中世以降の所産のものと考えられる。

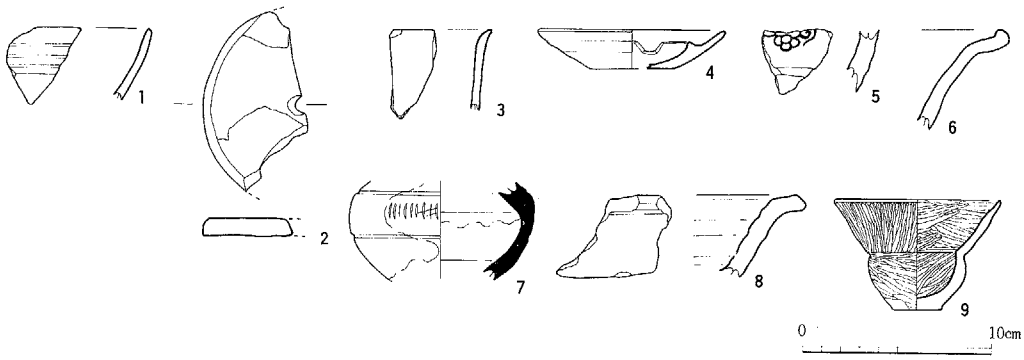
2号溝

2号溝はM～O－10グリッドとO～P－11グリッド、Q～R－12グリッドの範囲内において検出された。北側は調査区外に延びる。南側は近・現代の耕作により削平され、掘り込みはR－12グリッド内で消滅されている。また、N－11グリッドで2本に別れる。調査区内の遺構の規模は長さ2号溝aは長さ46.2m、幅58cm～102cm、深さ24cm～52cm。2号溝bは長さ3.8m、幅26cm、深さ24cm～33cm。北から南へと緩斜面を利用して掘り込まれている。さらにH～M－7～12グリッド内は試掘調査において撹乱が著しい地区であるという事が判明されたため本調査区より除外されている。それより北の調査区内では検出されなかった。

遺物は覆土上層より土師器坏が2点出土したが覆土上層である為、伴う遺物とは考えにくい。

表124　1・2号溝出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	陶器 甕	残存 3.0	口縁部は折り返され玉縁状となる甕。	月黄色でサックリ	堅	釉調 褐釉 総がけ	黄褐色	1号溝 覆土中
2	土師器 坏	口径13.4 残存 3.9	口縁部は外稜を有し開き端部でさらに外反する。	口縁部内外ナデ 体部外ヘラケズリ	細かい砂粒含む	堅	黄褐色	2号溝 覆土上層
3	須恵器 坏	口径10.4 残存 2.3	口縁部は立ち上がり端部で段をなす。	内外ヨコナデ	相細か	還元炎	暗灰色 外体部 自然釉 付着	2号溝 覆土上層



第490図　トレンチ内出土遺物

4．トレンチ内出土遺物

トレンチ内出土の遺物では、本遺跡の6割が縄文時代所産のもので、残りの4割が古墳時代以降のものであった。その中で歴史時代の遺物は、上記に掲載した7と9を除く7点のみの出土であった。掲載の順序はトレンチの若い番号順である為、時代的には前後してしまうが、古墳時代の遺物の中で本遺跡の遺構や遺構外出土が少なかった7と9を紙面の関係上、本項を使って述べる事とした。

表125　トレンチ出土遺物観察表（1）

番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置 遺存度
1	碗	残存高 4.1	———	ロクロによるナデ	緻密	還元炎 良好	釉調 枯葉緑	No.2トレンチ
2	土製 紡錘車	径　5.7 厚さ 1.0	———	内外ヨコナデ	雲母を含む	酸化炎 良好	淡赤褐色	No.3トレンチ
3	瀬戸美濃焼の碗	残存高 4.4	———	ロクロによるナデ	緻密	還元炎	釉調は黄灰色	No.6トレンチ
4	灯明皿	口径 9.8 底径 4.4 器高 2.0	———	ロクロによるナデ 内面に釉がかかる	緻密	還元炎 良好	淡赤褐色	No.7トレンチ
5	陶器 碗	残存高 3.5	———	外面釉薬がかる	砂粒を含む	還元炎	釉調 暗緑色	No.7トレンチ
6	陶器 美濃焼 盤	残存高 3.5	———	ロクロによるナデ	緻密	還元炎 良好	淡緑褐色	No.7トレンチ
7	須恵器 坩	残存高 5.2	内外に釉薬が部分的にかかる球状に内彎する中央よりやや下部にクシ描き状の沈線を施文する	ロクロによるナデ	砂粒含む	環元炎 良好	灰色	体部破片$\frac{1}{3}$残存 No.9トレンチ
8	志野焼 盤	残存 5.9	———	ロクロによるナデ	黄色灰色でザックリ	堅質	釉調は白灰色で気泡が密となる	No.10トレンチ

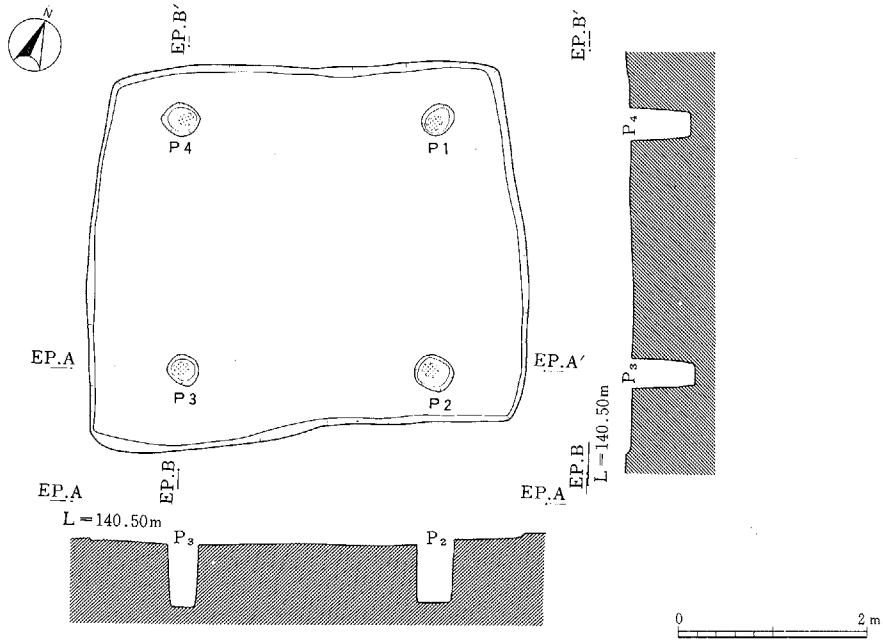
表126　トレンチ出土遺物観察表（2）

番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	胎　土	焼　成	色　調	出土位置 遺存度
9	土師器 坩	口径 8.6 底径 2.6 器高 5.8	口縁部は直線的に外傾する。	口縁部内外ヘラミガキ 体部内外ヘラミガキ	砂粒含む	酸化炎 良好	淡黄褐色	No.14トレンチ ほぼ完形
10	土製品 丸玉	長さ 1.4 幅　1.4 重さ 2.4g	表彩遺物である。縄文時代の所産のものと思われる	――	細かい砂粒を少量含む	良好	淡黒褐色	覆土中

第491図　その他の遺構配置図

第4節　その他の遺構

本節では遺物が伴わない遺構で、覆土の状況と形態からも時代を断定することの出来ないものを掲載した。住居址1軒、土坑81基、炭窯1基である。



第492図　10号住居址

10号住居址(第492図　図版133)

位　　置　K－20グリッド／**形態**　方形／**主軸方向**　N－45°－E／**規模**　4.40m×3.58m(東西×南北)／**壁高**　2～5cm(確認面より掘り込み浅い。)／**壁溝**　なし。／**床**　褐色砂質土層に掘り込まれている。全体に締まりがあって硬質である。／**柱穴**　4本。柱痕が4本とも検出された。柱痕の直径は18cmを計る。掘り方はP1・長径36cm、短径31cm、深さ64cm。P2・長径42cm、短径36cm、深さ66cm。P3・長径34cm、短径30cm、深さ66cm。P4・長径41cm、短径35cm。深さ65cm。／**炉**　なし。／**貯蔵穴**　なし。

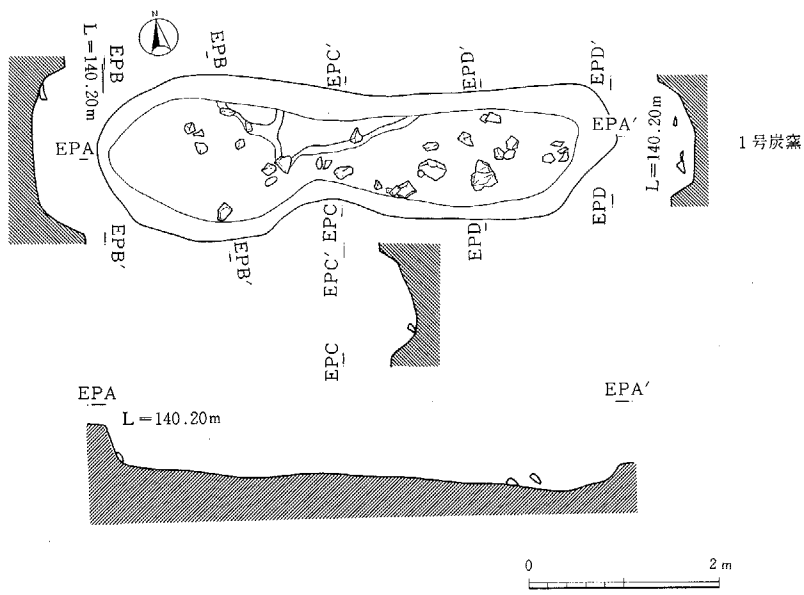
覆土の状況

自然堆積である。黒褐色土の単層である。

遺　　物　なし

備　　考

遺物の出土がなく覆土も薄い堆積であった。従って時代の判定は困難なため時期不明とした。



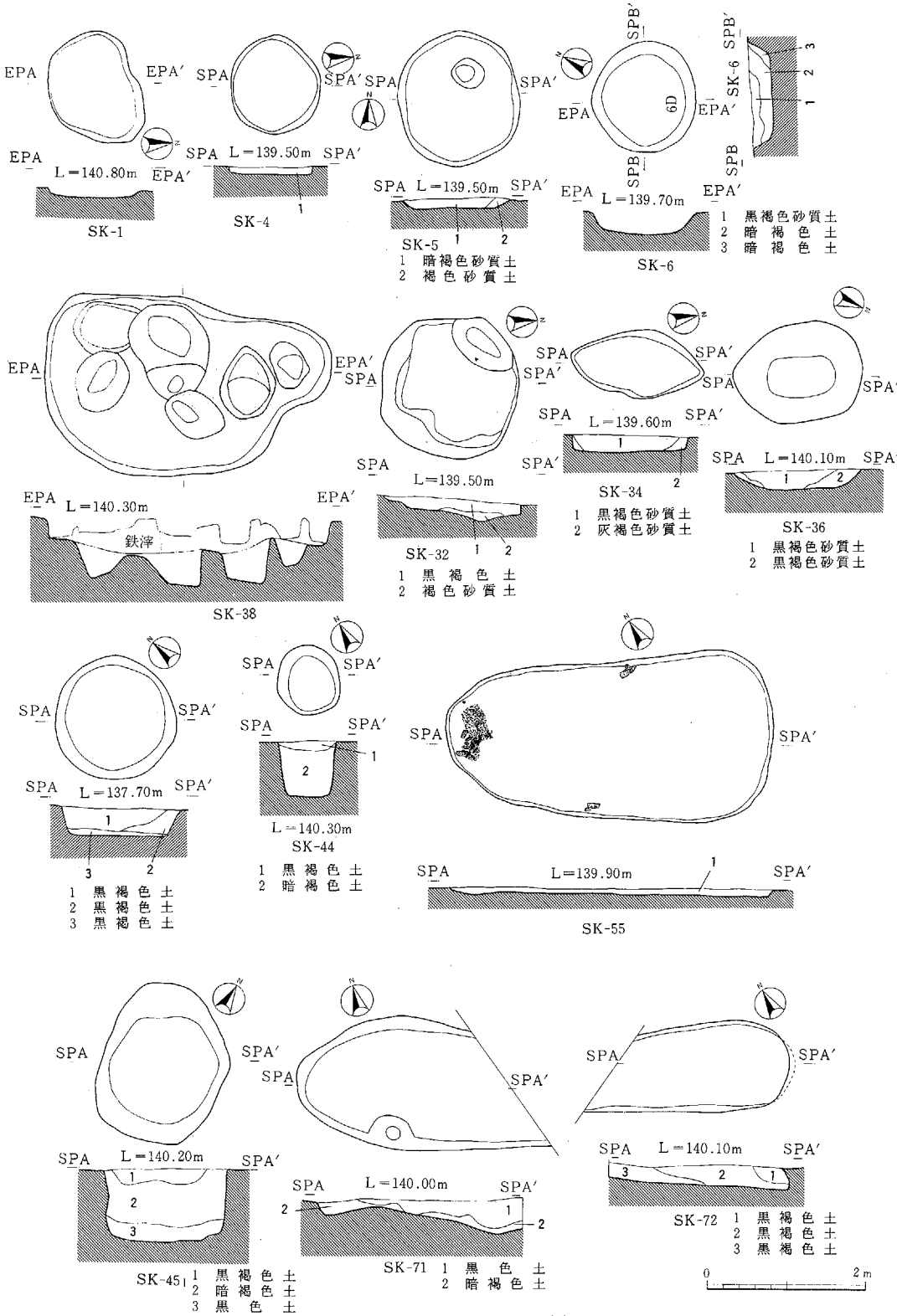
第493図　1号炭窯

1号炭窯(第493図　図版134)

位　　置　D－10グリッド／形態　くびれ部をもつ楕円形（瓢形に近い）／規模　長軸5.4ｍ、東側短軸1.78cm、中央くびれ部幅1.1ｍ、西側短軸1.24ｍを計る。／深さ　30cm～50cm。／覆土の状況　自然堆積である。暗褐色土を基調に2層に分層される。混入物は焼土ブロック、炭化物を多量に含む。

遺　　物

検出されなかった。床面上には安山岩系の山石が散乱していた全面に焼土が確認された。

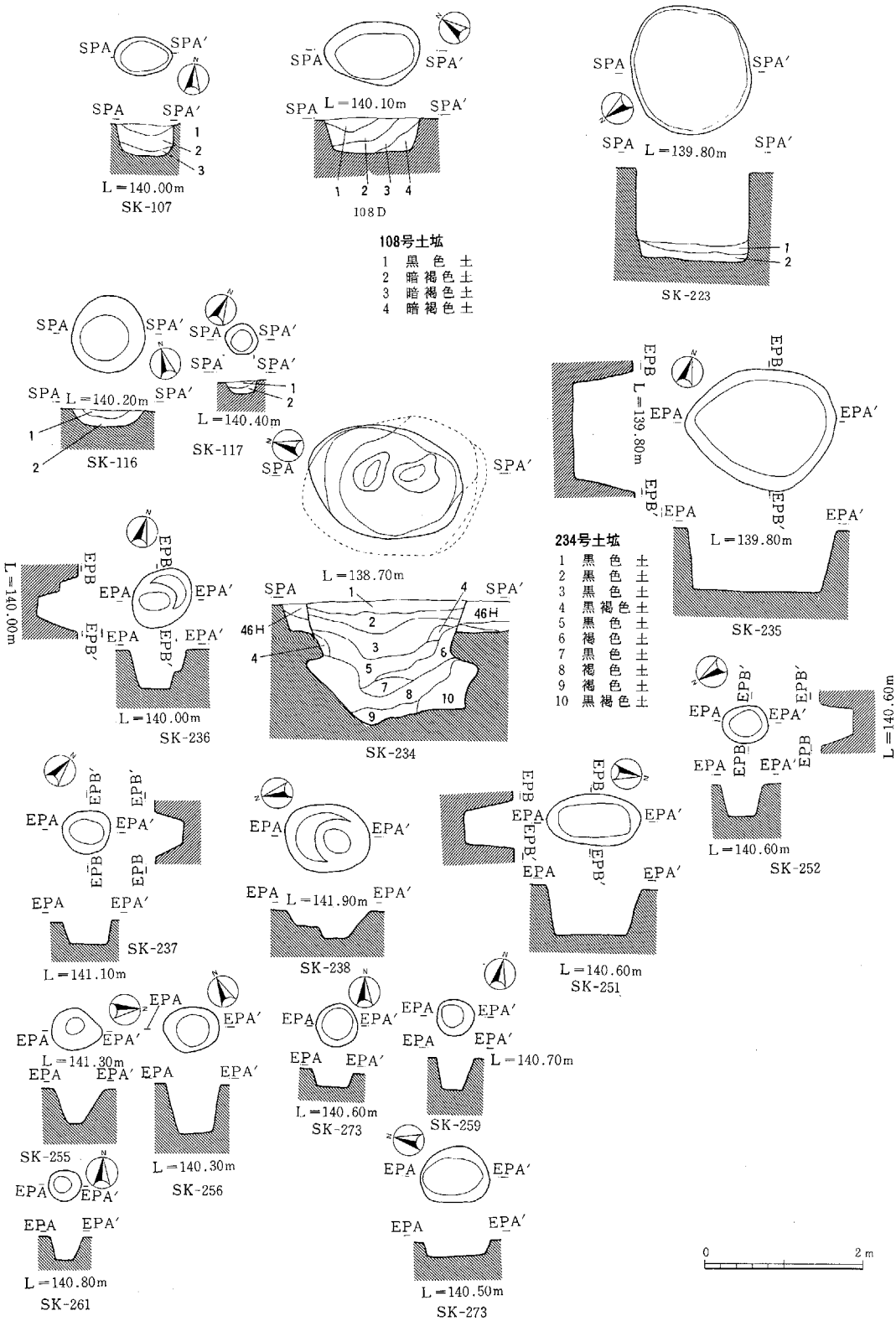


第494図　時期不明土坑 (1)

時期不明土坑一覧表 (1)

（単位m）

番号	位置	形態	上幅 下幅	長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
1	M-12	(不整) 楕円形		1.40×1.15 1.23×1.00	0.11	N-4°-E	無	鍋底形
4	N-12・13	楕円形		1.28×1.12 1.16×1.08	0.10	N-83°-W	無	鍋底形
5	N-12・13	楕円形		1.70×1.52 0.42×0.37	0.10 ～0.44	N-3°-W	無	鍋底形
6	M-13	円形		1.20+α×1.30 1.16×1.04	0.28	——	無	鍋底形
29	N-16	円形		径1.57 1.34×1.26	0.36	——	無	鍋底形
32	M-12	(不整) 円形		1.78×1.72 0.53×0.20	0.06～ 0.25	——	剝片 一点	皿形
34	N-19	(長) 楕円形		1.68×0.86 1.56×0.70	0.21	N-19°-E	無	鍋底形
36	L-20	楕円形		1.64×1.26 0.87×0.41	0.24	N-21°-E	無	皿形
38	K-22	不整形		3.60×2.24 3.44×2.07	0.12～ 0.49	N-46°-W	無	箱形
44	K-29	楕円形		0.88×0.76 0.70×0.52	0.70	M-35°-E	無	鍋底形
45	K-29	楕円形		2.00×1.62 1.38×1.26	0.82	N-21°-W	無	フラスコ形
55	M-30・31	楕円形		4.10×1.98 4.00×1.84	0.08	N-57°-W	無	鍋底形
71	I-31	推 楕円形		2.70+α×1.66 2.58+α×1.34	0.05～	N-74°-W	無	不整形
72	H-31	推 楕円形		2.16+α×0.98 2.22+α×1.12	0.11～	N-59°-W	無	不整形
107	K-30・31	楕円形		0.73×0.50 0.60×0.38	0.41	N-76°-E	無	鍋底形
108	L-29・30	楕円形		1.20×0.80 0.96×0.57	0.44	N-49°-W	無	鍋底形
116	K-28・29	円形		0.97×0.92 0.62×0.58	0.20	——	無	鍋底形
117	K-29	円形		0.40×0.38 0.28×0.26	0.15	——	無	鍋底形
223	Q-14	楕円形		1.64×1.48 1.32×1.26	1.07	N-35°-W	無	鍋底形 74号住居址を切る
234	Y-30	楕円形		1.97×1.42 0.40×0.14	0.34～ 1.60	N-3°-E	無	風到木址
235	I-25 J-25	楕円形		1.90×1.53 1.66×1.20	0.76	N-74°-E	無	鍋底形
236	H-25 I-25	楕円形		0.10×0.66 0.42×0.25	0.50	N-41°-E	無	不整形
237	H-25	楕円形		0.60×0.54 0.42×0.30	0.29	N-54°-E	無	不整形
238	H-25	楕円形		1.08×0.88 0.36×0.28	0.38	N-21°-E	無	不整形
251	I-23	(長) 楕円形		1.20×0.63 0.90×0.41	0.58	N-11°-W	無	鍋底形
252	I-23	楕円形		0.60×0.50 0.40×0.32	0.41	N-34°-E	無	鍋底形
255	J-23	楕円形		0.64×0.53 0.22×0.19	0.44	N-4°-E	無	逆台形

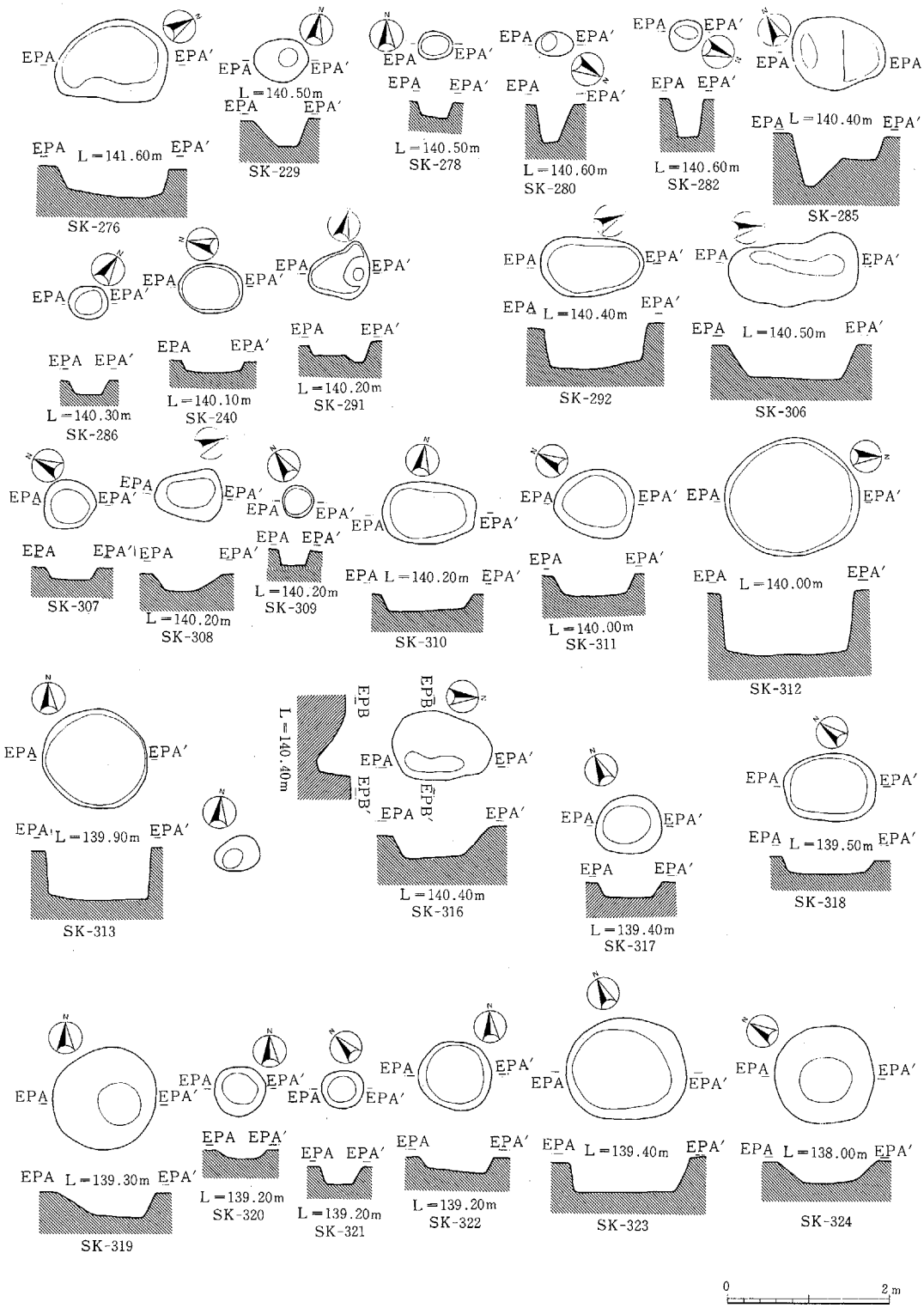


第495図　時期不明土坑 (2)

時期不明土坑一覧表 (2)

（単位m）

番号	位置	形態	上幅 下幅	長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
256	J-22	楕円形		0.69×0.55 径0.40	0.63	N-63°-W	無	逆台形
257	I-22	円形		0.52×0.50 0.38×0.36	0.24	——	無	——
259	J-21	円形		径0.45 0.30×0.27	0.43	——	無	逆台形
261	J-21	円形		0.40×0.39 径0.20	0.31	——	無	逆台形
273	H-17	楕円形		0.86×0.70 0.74×0.46	0.18	N-21°-W	無	鍋底形
276	I-18	不整形		1.34×1.02 1.22×0.60	0.39	N-28°-E	無	鍋底形
278	I-17	楕円形		0.42×0.35 0.33×0.24	0.21	N-3°-W	無	鍋底形
279	I-17	楕円形		0.68×0.53 径0.22	0.33	N-79°-E	無	——
280	I-17	楕円形		0.46×0.30 0.22×0.18	0.47	N-30°-W	有	逆台形
282	H-17	楕円形		0.40×0.36 0.30×0.15	0.48	N-40°-W	無	逆台形
285	H-16	楕円形		1.18×0.92 0.44×0.20	0.32～ 0.66	N-58°-W	無	不整形
286	I-16	楕円形		0.48×0.42 0.32×0.30	0.17	N-58°-E	無	鍋底形
290	H-15	楕円形		0.79×0.62 0.70×0.52	0.16	N-8°-W	無	——
291	H-15	不整形		0.73×0.57 0.16×0.12	0.14～ 0.21	N-74°-E	無	不整形
305	L-17	(長) 楕円形		1.28×0.70 1.13×0.55	0.49	N-24°-E	有	土師細片の為 時期不明とした
306	K-14 L-14	不整形		1.62×0.76 1.18×0.16	0.42	M-9°-E	無	鍋底形
307	K-14	楕円形		径0.64 0.48×0.40	0.16	N-26°-W	無	鍋底形
308	K-15	不整形		0.82×0.57 0.57×0.34	0.21	N-25°-E	無	不整形
309	J-14	円形		0.39×0.38 0.34×0.32	0.20	——	無	鍋底形
310	J-14	楕円形		1.12×0.77 0.90×0.58	0.23	N-79°-E	無	鍋底形
311	J-13	楕円形		0.98×0.82 0.78×0.62	0.25	N-28°-W	無	鍋底形
312	J-13	楕円形		1.67×1.46 1.50×1.35	0.77	N-4°-E	有	土師細片の為 時期不明とした
313	K-13・14	楕円形		1.28×1.18 1.13×1.10	0.61	N-48°-W	無	鍋底形
315	M-12	楕円形		0.55×0.40 0.26×0.20	0.22～ 0.40	N-66°-E	無	鍋底形
316	L-11	楕円形		1.23×0.84 0.72×0.16	0.31	N-1°-E	無	鍋底形
317	N-11	楕円形		0.80×0.72 0.56×0.46	0.19	N-66°-W	無	鍋底形
318	N-11	(隅丸) 長方形		1.14×0.84 0.92×0.67	0.22	N-37°-E	無	鍋底形

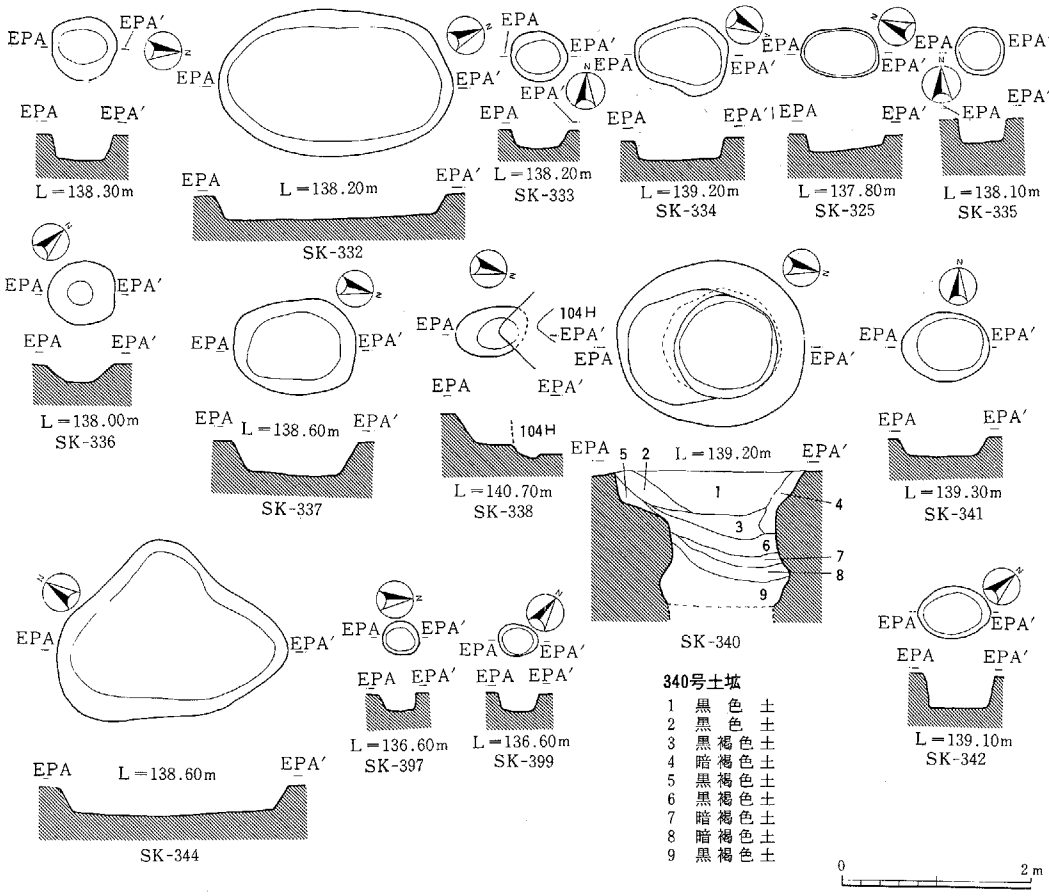


第496図　時期不明土坑 (3)

時期不明土坑一覧表 (3)

（単位ｍ）

番号	位置	形態	上幅 下幅 長軸×短軸	深さ	主軸方向	出土遺物	備考
319	N-11	楕円形	1.32×1.22 0.54×0.50	0.30	N-45°-E	無	不整形
320	N-11	円形	0.64×0.63 0.42×0.36	0.12	——	無	鍋底形
321	N-11	楕円形	0.52×0.46 0.34×0.30	0.23	N-45°-W	無	鍋底形
322	O-11	円形	0.88×0.87 0.73×0.71	0.22	——	無	鍋底形
323	O-11・12	(隅丸) 長方形	1.48×1.12 1.20×0.97	0.36～ 0.43	N-66°-W	無	鍋底形
324	Q-11	(不整) 円形	1.23×1.20 0.65×0.55	0.27	——	無	不整形
325	R-11	楕円形	0.82×0.52 0.75×0.48	0.12～ 0.19	N-26°-W	無	鍋底形
331	Q-14	不整形	0.69×0.68 0.50×0.37	0.28	N-1°-W	有	時期不明 土師細片の為、 時期不明とした
332	Q-14	楕円形	2.46×1.55 2.23×1.20	0.17～ 0.27	N-24°-W	有	鍋底形
333	Q-14	楕円形	0.60×0.53 0.46×0.36	0.22	N-89°-W	無	鍋底形
334	Q-15	楕円形	0.98×0.74 0.86×0.56	0.21	N-64°-E	有	鍋底形
335	Q-15	円形	0.52×0.43 0.50×0.42	0.28	——	無	鍋底形
336	R-15	円形	0.70×0.68 0.24×0.16	0.18	——	無	鍋底形
337	P-16・17	楕円形	1.28×0.98 0.96×0.69	0.38	N-16°-W	無	鍋底形
338	I-20	楕円形	0.45+α×0.53 0.44×0.32	0.33	N-22°-W	無	鍋底形
340	R-21・22	楕円形	1.96×1.75	0.33～ 1.42 掘り下げ部分	N-11°-W	有	土師細片の為 時期不明とした
341	Q-23 R-23	楕円形	0.90×0.88 0.68×0.58	0.20	N-89°-E	無	鍋底形
342	R-23	楕円形	0.78×0.55 0.62×0.45	0.37	N-43°-E	無	鍋底形
344	S-18 T-18	不整形	2.43×1.88 2.14×1.98	0.31	N-33°-W	有	土師細片の為 時期不明とした
397	W-12	円形	0.39×0.37 0.29×0.24	0.18	——	無	鍋底形
399	W-13	楕円形	0.42×0.34 0.32×0.28	0.20	N-50°-E	無	鍋底形



第497図　時期不明土坑 (4)

第6章　ま　と　め

調査の結果、縄文時代より近世に至る遺構・遺物が検出された。特に縄文時代と古墳時代の遺構・遺物はまとまって検出され、資料的に大きな成果を得ることができた。まとめとして時代別に調査の成果と問題点を述べる。

Ⅰ　縄文時代

遺構は調査区内の南部に集中して検出され、居住区と墓域から構成される。住居址は墓域と考えられる配石遺構群を取り囲むように配され、竪穴住居址と敷石住居址に大別される。

集落の特徴としては、配石群の周囲を加曽利B式期の住居址が孤状に囲み、さらにその外側を堀之内式期の住居址が囲んだ形で検出されている。その他、称名寺式期と安行式期は配石群の前者が東側、後者が西側に偏在する傾向を示している。

配石遺構の時期決定は資料不足よりできなかったが、4・25号配石より加曽利B式土器が検出されている。このことより後期後半を中心とする時間幅を考えたい。

遺構の内訳は竪穴住居址23軒・敷石住居址4軒・配石遺構27基・集中遺構2基・屋外埋設土器9基・土坑356基であった。さらに調査区西側の谷地部分には縄文後期の遺物包含層が約60cmの深さで堆積し、部分調査であったが多くの資料を得ることができている。

住居址の年代

竪穴住居址

称名寺式　44・119号住居址

堀之内式　120・122・123・126号住居址

加曽利B式　28・30・35・51・121・124・125号住居址

安行式　29・32・33・113号住居址

敷石住居址

堀之内式　126・131・132号住居址

加曽利B式　118号住居址

遺物の出土はみられないが覆土の状況と形態により縄文時代の所産とみられるもの

14・15・43・59・111・128号住居址

竪穴住居址

住居址の平面的形態は称名寺式期では円形を呈し、堀之内式・加曽利B式期では楕円形、安行式期では隅丸の方形から方形へと変化している。各時期共柱穴の配列に一貫性はないが、炉の形態としてはいずれも川原石を使用する石囲炉と共通している。床面は地山と覆土の色調が似ており検出には困難をきたしたが、時期が新しくなるほど明瞭な硬質部が確認できている。

出土遺物としては覆土中に投棄されたものが主であるが、大量の遺物が検出されている。

土器では精製土器と粗製土器が共伴した住居址（32、33号住居址）で良好な資料が得られて

いる。粗製土器は精製土器に比べ編年の研究が遅れており、当遺構で得られた一括の資料は今後の研究にとり貴重な資料と考えられる。

特徴的な遺物として砂岩製の砥石の出土がかなりみられる。これは端部を細く尖らせた形態より筋切り等の切断具、またはこれは酸性土壌のため出土はみられなかったが骨角器や木器を研磨する為に使用されていた可能性が考えられる。

敷石住居址

検出された遺構4基はすべて張り出し部に敷石を配するタイプである。敷石住居址中には加曽利B3式の土器片を伴出している住居址（118号住居址）がみられる。当該期の類例で管見に触れたものはない。

検出された遺構中の2基に環礫が確認されている。いずれも上面での硬質部は確認されず、環礫は柱穴の真上を巡るように観察された。従って、本遺跡における環礫は、柱穴が埋没した後に配された可能性が考えられる。

全国的な類例を見ていくと建築材の補強としての性格説と祭祀説の見解に分かれるが、結論は出ていない。今後更に類例を細かく検討して行く必要があると思われる。

配石遺構（第136図）

配石遺構は上部配石と下部配石に大別される。

上部配石は円形に配列されるものと方形に配列されるものがあり、5基が確認されている。また、中央または配石の付近に13基の立石が検出されている。中央部に立った状態で検出されたものもあったが、多くは配石の付近に倒れた状態で検出されていた。

下部配石は18基検出されている。いずれも石棺状を呈し、形態より墓としての機能が考えられる。従って上部配石は墓標としての性格が考えられる。しかし、配石内からは根拠となる埋葬人骨は検出されなかった。尚、配石内の土壌はサンプルとして取り上げ、自然化学分析を行った。その結果については第7章自然科学分析に譲ることにする。

下部配石は主軸方向と形態から分類できる。時期は伴出遺物が出土しているものは4号配石と25号配石のみである。

以下主軸方向と形態より分類してまとめた。

主軸方向　N－20°－E〈4・6・10・18・20・23・25号配石〉
N－60°－E〈5・9・11・22号配石〉
N－115°－E〈7・21・26号配石〉
N－10°－W〈13・14号配石〉
その他N－150°－E〈12号配石〉、N－90°－W〈24号配石〉

形　態　側面石2段積み、大型長方形－〈4・5・6号配石〉
側面右円礫を並べたもの　長方形－〈7・26号配石〉
側面石1段　箱式石棺形　－〈9・10・11・12・13・14・15・16・17・18・20・21・22・23・24・25・26号配石〉

特筆される遺物では1号配石より出土した三角壕形土製品がある。全国的にも出土例が少なく、現在でも80数例しか発見されていない。用途については現在の研究段階では、非実用的なものと認識され、護符・装身具などと推定されている。

また、配石群と離れたW－13グリット内に敷石状の配石遺構が検出されている。配石下より遺構の検出はなく、墓としての可能性は薄い。部分的に火熱を受けて焼けている箇所がある。形態から調理施設か祭祀的な遺構としての可能性が考えられる。

集　石

小礫が円形に敷き詰められている。部分的に火熱を受け赤色に化している。集石下の掘込みは検出されていない。性格は実用的な調理に使われたものとしては規模が大きく、祭祀的な可能性が考えられる。また、1号集石内には手水鉢状の石製品が出土している。性格は石皿的な使用が考えられるが管見に触れる類例もなく性格不明である。

屋外埋設土器

9カ所で検出されている。住居址内検出の埋甕と区別するため本遺跡では単独検出の埋甕を屋外埋設土器と呼称した。配石群の周辺に点在して検出され、堀之内1式に比定される粗製土器である。一方、配石遺構内及び配石周辺から出土している土器が加曽利B式に比定されることから、本遺構と配石は直接的な関連は薄いと考えられる。埋設状態は正位のものと横位のものと2つのタイプが検出されている。

土　坑

調査区南部と東部に分布する。特に、一群の土坑が配石遺構群の南東側に集中して検出されている。土坑内の遺物は殆どが覆土中より検出されたものである。配石内・配石周辺より出土した遺物の時期とほぼ同時期の加曽利B式期であることより、配石遺構と何らかの関連性が指摘される。

小　結

以上、縄文時代の調査成果について概略を述べた。

その他、特筆される遺物としては32号住居址内や遺物包含層から高井東式、遺物包含層より東北地方南部の新地式土器が出土している。以上のことから広範囲に渡る他地域との交流が考えられる。更に、a－26グリット内の包含層より出土した土偶は、掘之内2式と加曽利B式期の接点になると考えられる器形と文様構成が施されている。

又、試掘調査時に縄文前期の遺物が後期の遺物確認面の下より出土している。このため文化層が下層にあるものと思われるが、試掘時に確認した南部の地区は緑地帯として保存されるため下層の調査は行われなかった。出土遺物についてはグリッド内出土遺物の項で掲載した。

尚、本項の末尾であるが、33・34号住居址・遺構外より出土した赤彩土器の顔料の分析については国立歴史民族博物館、永嶋正春氏に依頼中である。これについては紙面をかえて発表する予定である。

Ⅱ　古墳時代

該期の遺構は、住居址と土坑を調査区のほぼ全面に亘って検出されている。住居址は大まかに弥生時代終末～古墳時代前期のものが47軒、後期のものが33軒検出され、中期の和泉式に属するものは検出されていない。土坑については覆土中の遺物より44基が帰属されるが、細分については明確でない。

竪穴住居址

住居址は形態的に方形と長方形に大別する事が出来、これらは各期に亘る。弥生時代終末～古墳時代前期はその中でも古いタイプに長方形が、新しいタイプのものに方形となるものが多いようである。長方形の中には南北を長軸とするものと、東西を長軸とするものに分けられるが、これについては時期差は余り感じられないものの、構築時の掘り込み、特に隅角に限定して言えば後期のものが圧倒的に鋭角的となる。さらに壁面から見るとやはり後期のものが直線的となる事から、住居形態の定型化が窺われる。主柱穴は基本的には４本であり、２・53・71・74・81・108号住のように外柱となるものもある。

炉とカマドについては時代差が明確であり弥生時代終末～古墳時代前期は炉、後期のものはカマドがそれぞれ付帯する事については従来の域を出ない。カマドの出現期である和泉期の住居址は本遺跡では検出されていないためにこの間は空白となっている。炉は中央あるいは北寄りに位置するが時間差は曖昧である。後期のカマドは東側に位置し、連続する歴史時代のもの同様の結果となる。貯蔵穴については後期のカマド脇に付帯するようである。

遺　物

前述したように、本跡では古墳時代は大まかに弥生時代終末～古墳時代前期（五領式）と古墳時代後期（鬼高式）に分けられるが、特に弥生時代終末～古墳時代前期の土器は従来の土器組成に加えて、樽系、赤井戸系、石田川系の甕がそれぞれ共伴して新たな様相を醸し出しておりいっそう複雑となっている。それぞれの調整痕の特長を述べると以下のようになる。

弥生時代終末～古墳時代前期

樽系土器　　刷毛目調整後櫛状工具で波状文を施す。19号住にのみ見られる。

赤井戸系土器　口縁部に輪積痕を残すが縄文の施文は無く、刷毛目主体あるいはヘラ磨きを行なう。

石田川系土器　「Ｓ字甕」は少なく、口縁部は「くの字」に外反する厚手の台付き甕が現れる。

このように各々の樽・赤井戸系の在地土器にも外来系である刷毛目の調整痕が全体に亘って受け入れられている事に注目したい。該当する住居は８・９・11・12・13・16・17・18・20～27・36～42・47～50・５・54・55・57・58・61・102・105～107・114・116・127号である。また、浅間Ｃ軽石が覆土中に混じるものは19・69号住居で上記のものに比べ古くなる様相を呈している。

古墳時代後期

この時期は鬼高式に代表されるもので、鬼高Ⅲ式の様相の新しいものは見られない。以下、各期に分ける事ができる。

鬼高Ⅰ式　4・6・7・56・71・79・81・93・94・96・100・101号住居址が該当する。

鬼高Ⅱ式　1～3・5・53・55・66・70・72・73・75・77・78・80・82・83・85～88・90・91・98・104・108・114・117号住居址が該当する。

Ⅲ　歴史時代

竪穴住居址

奈良・平安時代以降を本時代として扱った。本跡の住居址は106号の1例のみである。住居址の形態は東西に長くなり、主柱穴も棟持柱の2本となる。カマドは東側に位置し、煙道は古墳時代のものに比べはるかに長くなっている。遺物は土師器坏が1点だけであり組成はわからない。坏は口縁～体部が内反気味に開き端部でさらに内反するもので、底部は丸く収める。外体部のヘラ削りは口縁部まで及んでいる。これらの特長より7世紀後半～8世紀初頭のものと考えられ、奈良時代中期に比定されるであろう。

溝状遺構

1号溝はⅤ－24、25グリッドで開口し出入口的な様相を呈しているが、それに関わる痕跡は検出されなかった。1号溝の延びは北側は調査区外へ、南側は大正用水を隔てた位置に窪みが認められた。遺物は覆土上層より17世紀後半の美濃焼き摺り鉢片が見られる。2号溝は配水施設的な性格が考えられる。

最後に本遺跡の情報量は、多大なものであったにもかかわらず、筆者の力量不足と紙面の限りから調査の成果を取り上げたものとなり詳細を論じる事が出来なかった。将来稿を改めて論じて行きたい。先学・諸兄の御指導、御教示を頂ければ幸いである。　（近江屋）

参考文献

『群馬県史　資料編1　原始古代1　旧石器・縄文』1988　群馬県史編纂室

『群馬県史　資料編2　原始古代2　弥生・土師　』1988　群馬県史編纂室

『埼玉県史　資料編1　原始　　旧石器・縄文』1980　埼玉県史刊行協会

『荒砥島原遺跡』　1983　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

『荒砥前遺跡・赤石城址』　1985　群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

『荒砥二之堰遺跡』　1985　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団』

『深沢遺跡・前田原遺跡』　1987　群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団・東日本旅客鉄道株式会社

『横俵遺跡群Ⅰ』　1990　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

『田篠中原遺跡』　1990　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

『加會利南貝塚』　1976　杉原壮介編　中央公論美術出版

『立石遺跡』　昭和54年3月　大迫町教育委員会

『道平遺跡の研究』　1983　福島県大熊町教育委員会

『郷蔵地遺跡』　1987、3　山梨県教育委員会　山梨県土木部

『赤城遺跡』　1988　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

『三貫地貝塚』　1988年3月　福島県立博物館

『三春ダム関連遺跡発掘調査報告2　柴原A遺跡（第1次）・折之内遺跡』　1989年3月　福島県教育委員会　財団法人福島県埋蔵文化財センター　建設省東北地方建設局

『雅楽谷遺跡』　1990　埼玉県埋蔵文化調査事業団

『縄文文化の研究』　9　精神文化　1984　雄山閣

『北奥古代文化』第17号　特集　北部日本の配石遺構　昭和61年11月　北奥古代文化研究会

村田　文夫「柄鏡形住居址考」　1975　古代文化27－11　「続・柄鏡形住居址考」　1976　考古学ジャーナル　№170

金井　安子「縄文時代の周礫を有する住居址について」　1984年12月　青山考古通信第4号

原　雅信「群馬県の集石遺構について」　昭和63年11月　群馬の考古学　創立10周年記念論集　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

菊地　実「群馬県における縄文時代の配石覚書」　昭和63年11月群馬の考古学　創立10周年記念論集　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

平林　彰「長野県明科町北村遺跡の調査」　1989　日本考古学協会第55回総会研究発表要旨

『第5回　三県シンポジウム古墳出現期の地域性』　1984　北武蔵古代文化研究会　群馬県考古学談話会　千曲川水系古代文化研究所

坂口一「群馬県における古墳時代中期土器の編年」―共伴関係における土器型式組列の検討―　1987、3『研究紀要』4㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団

茂木　由行　「群馬県における鬼高式土器の編年」　1984、4　群馬通信第9号　群馬県考古学談話会

若狭　徹　「群馬県における弥生土器の崩壊過程」　1990『群馬考古学手帳　Vol.1』群馬土器観会

小笠原　好彦「古墳時代の竪穴住居集落にみる単位集団の移動」　平成元年3月『国立歴史民俗博物館研究報告第22集　共同研究「古代の集落」』

第7章　自然科学分析

－配石内のリン・カルシウム分析について－

パリノサーヴェーイ株式会社　辻　本　崇　夫

1．はじめに

本遺跡では、縄文時代後期（称名寺～加曽利B式期）や古墳時代（石田川期・鬼高式期）の住居址・土坑をはじめとする多数の遺構、遺物が検出されている。特に縄文時代後期のものとみられる石囲いを伴う土坑（配石遺構）が多数検出されており、覆土の堆積状況などから、その用途は埋設施設つまり墓坑と考えられている。しかし、積極的にこれを示唆する遺物等には乏しく、現段階で明確な結論を得るには至っていない。

そこで、今回の分析調査ではこの配石遺構に埋積した土のリン酸およびカルシウム含量から人骨埋納の痕跡を探り、墓坑の可能性を検討することを試みる。

2．試　　料

リン・カルシウム分析に供した41点の試料は表1に一覧表として記載し、その採取位置は図1～3に示した（これらの図は、添付資料に基づき当社にて浄書した）。なお、分析試料番号については、報告の都合上、便宜的に当社で付した。

3．分析方法

粉砕、節別した試料について、硝酸・過塩素酸分解を行った後、リンについてはバナドモリブデン、酸法、カルシウムについては原子吸光光度法によりそれぞれ測定した。

具体的な分析工程は以下に示すとおりである。

①試料を風乾・粉砕した後、0.5㎜の篩を全通させる。（微粉砕試料）

②水分は、過熱減量法により測定する。

③微粉砕試料の一定量を秤り、はじめに硝酸（NHO_3）により、次いで過塩素酸（$HCLO_4$）により過熱分解を行い、水で100mlに定容し、ろ過する。

④ろ液の一定量を採取し、干渉抑制剤を加えた後、原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）を測定する。

4．結果・考察

結果は、表2および図4に示した。また、遺構の床面あるいは下層付近に内容物成分の相対的高まりが認められるか否かを把握するため、試料採取層位別の分布を図5～図7に示した。

以下遺構毎に結果を述べる。

〈6号配石〉

リン酸・各試料とも1㎎以下の値を示しているが（図4）、この値は、（G．H．Bolt·M．G．M．Bruggenwert編著　岩田他訳、1980）が述べている「土壌は普通0.1～0.25％（単位を㎎／ｇで示すと1.0～2.5㎎／ｇとなる。）のリン酸（P_2O_5）を含み、この値は例外的な条件下では0.5％（5.0㎎／ｇ）に達することもあるが、この濃度は極端な値とされている。」ことから判断すると、著しく少ない含量である。また、（山崎、1966）によって述べられている「わが国で調べられた土壌中の全リン酸は0.054～0.121％（0.54～1.21㎎／ｇ）平均して0.108％（1.108㎎／ｇ）」リン酸量と比較しても少ないと言える。一方、図5に示される床面の分布は、北側で相対的にやや高いものの全体的な高まりは認められない。

カルシウム：各試料ともリン酸含量に比べると著しく高い値を示している。（いずれの試料も6㎎以上）。この傾向は、7号配石、9号配石についても同様である。しかし、一般に土壌中におけるカルシウム含量は、通常酸化カルシウム（CaO）として0.1～5.0％（1～50㎎／ｇ）含まれていると言われ（地質調査所技術部化学課編、1976）、かなり含量に幅がある。図5に示される床面の分布は、リン酸と同じく北側でやや高い傾向があるものの、床面全体の高まりは認められない。

したがって、リン酸・カルシウムともに特徴的に高濃度な集積はなく、しかも床面に相対的な高まりもないところから、遺構内に人骨埋納の痕跡は認めにくい。

〈7号配石〉

リン酸：各試料とも1㎎以下の値を示し、著しく少ない含量が認められる。但し、図6に示される床面の分布は全体的にやや高く、南東下層（試料番号7－5）であきらかに高い傾向にある。

カルシウム：図4で示すように大部分の試料が10㎎前後の値を示し、6号配石の試料に比較してやや高い傾向にある。一方、図6に示される分布では床面に特徴ある高まりはないが、南東下層ではリン酸同様に高い傾向が認められる。

したがって、相対的に南東下層ではリン酸・カルシウムともに含有の高まりが認められ、床面ではリン酸のやや高い傾向が伺える。しかし、これが人骨埋納の痕跡を示唆するものか否かは、絶対量的面（いずれも1㎎以下の著しく低い値を示すこと）を考慮すると判断の難しいところである。

〈9号配石〉

リン酸：6号・7号配石と比較して殆ど変化なく、各試料とも著しく低い値を示している。しかし、図7に示される試料採取位置別の分布では蓋石3・4・5番の下層（試料番号9－9・9－12・9－15）が上層よりも高い傾向にある。

カルシウム：７号配石同様に大部分の試料で10㎎前後の値を示している。一方、図７に示される試料採取位置別の分布では下層が上層あるいは中層よりやや高い傾向にあり、下層付近全体に含量の高まりがある。

したがって、下層付近ではリン・カルシウム含量ともに相対的に高い傾向が伺われる。しかし、これを人骨埋納の痕跡と判断するは、７号配石同様に難しい。

５．まとめ

３基の配石遺構（６号・７号・８号）について人骨埋納の可能性をリン・カルシウム分析によって検討したが、いずれの遺構においても絶対量的にそれを示唆する結果を得ることはできなかった。但し、位置的なことで言えば７号配石・９号配石における床面あるいは下層でのリン酸およびカルシウム含量の相対的な高まりはリン酸・カルシウム成分の多いものが埋納されたことを示唆しているのかもしれない。しかし、各遺構付近の地山や包含層の土壌試料などが採取されていないので、その評価は難しい。今後試料採取にあたっては、遺構覆土とともに地山や標準土層も対比試料として採取する必要があろうし、さらに脂肪酸分析なども場合によっては必要と考える。

〈引用・参考文献〉

土壌標準分析・測定法委員会編（1986）土壌標準分析・測定法。354p.，博友社。

G. H. Bolt, M, G, M, Bruggenwert(1980) 土壌の化学、岩田進午他訳，p. 235.，学会出版センター

京都大学農学部農芸化学教室編（1957）農芸化学実験書（第１巻）．411p.，産業図書.

地質調査所技術部化学課編（1976）地質調査所化学分析法、№50、p. 57.

山崎　傅（1966）微量要素と多量要素－土壌・作物の診断・対策－p. 126.，博友社.

表1　大道遺跡リン・カルシウム分析試料表

試料番号	遺構名	採取位置	試料番号	遺構名	採取位置
6－1		北東　上層	9－1		蓋石1上層
6－2		中層	9－2		中層
6－3		下層	9－3		下層
6－4		北西　下層	9－4		蓋石2上層
6－5		東　床	9－5		中層
6－6	6号配石	西　床	9－6		下層
6－7		中央　床	9－7		蓋石3上層
6－8		南　床	9－8		中層
6－9	9号配石	北　床	9－9		下層
6－10		南西　上層	9－10		蓋石4上層
6－11		中層	9－11		中層
6－12		下層	9－12		下層
			9－13		蓋石5上層
7－1		北東　上層	9－14		中層
7－2		中層	9－15		下層
7－3		下層	9－16		蓋石6上層
7－4		北西　下層	9－17		中層
7－5		南東　下層	9－18		下層
7－6	7号配石	南西　下層			
7－7		東　床			
7－8		西　床			
7－9		中央　床			
7－10		南　床			
7－11		北　床			

表2　大道遺跡リン・カルシウム分析結果

試料番号	リン酸含量 P_2O_5mg／g	カルシウム含量 Caomg／g
6－1	0.42	6.55
2	0.32	7.20
3	0.28	7.47
4	0.32	6.89
5	0.25	6.70
6	0.30	6.95
7	0.30	9.57
8	0.32	8.35
9	0.46	10.27
10	0.90	7.84
11	0.36	7.81
12	0.37	7.56
7－1	0.41	6.29
2	0.37	10.39
3	0.61	9.96
4	0.32	9.29
5	0.96	14.46
6	0.39	9.48
7	0.81	10.62
8	0.51	8.93
9	0.58	10.81
10	0.65	9.97
11	0.56	9.53
9－1	0.96	9.50
2	0.49	10.28
3	0.74	11.49
4	0.56	8.62
5	0.91	9.68
6	0.54	11.65
7	0.61	9.12
8	0.72	12.60
9	0.74	12.51
10	0.56	9.85
11	0.67	10.88
12	0.67	10.65
13	0.49	10.21
14	0.53	10.34
15	0.76	13.30
16	0.48	10.18
17	0.56	10.28
18	0.50	10.38

注）単位は、リン酸・カルシウムともに乾土1ｇあたりのmgで表示。

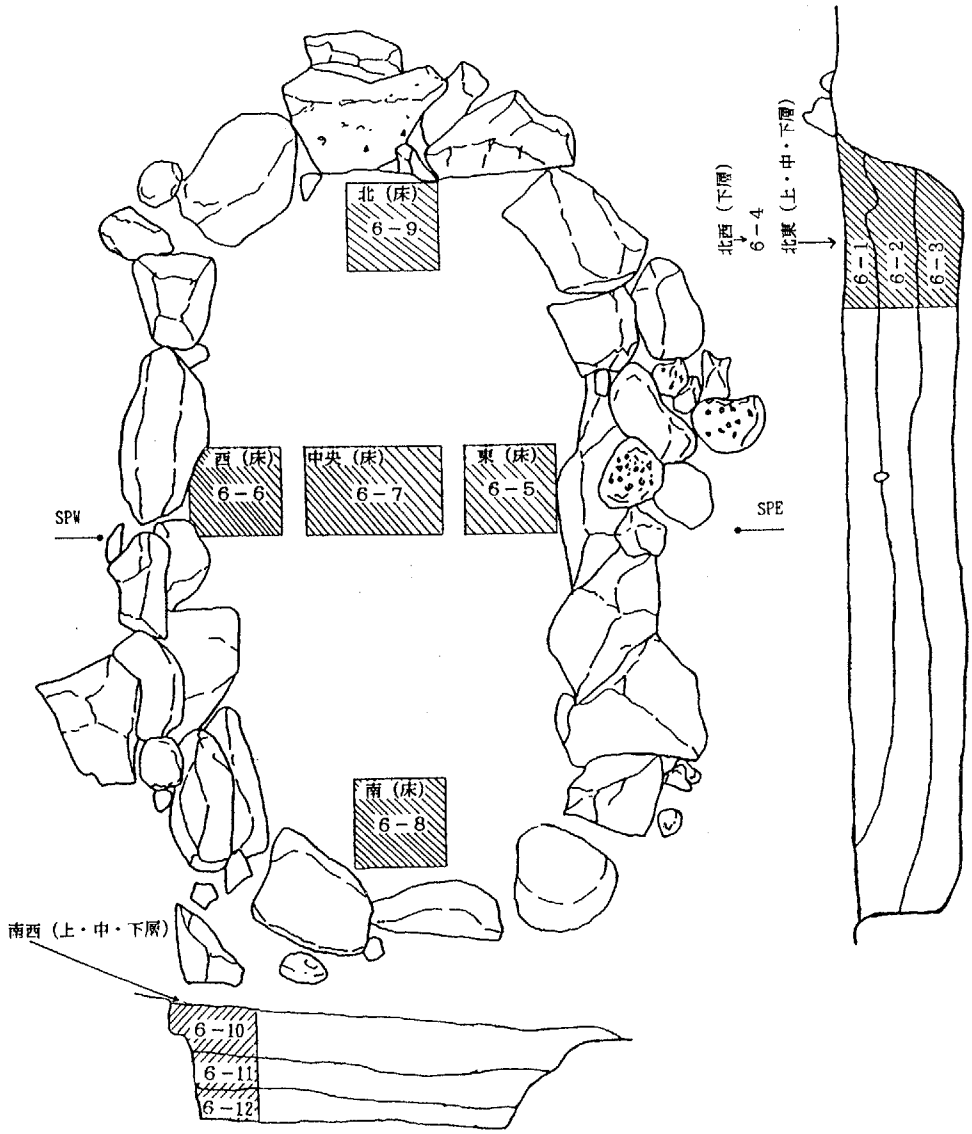


図1　大道遺跡6号配石遺構のリン・カルシウム分析試料採取位置

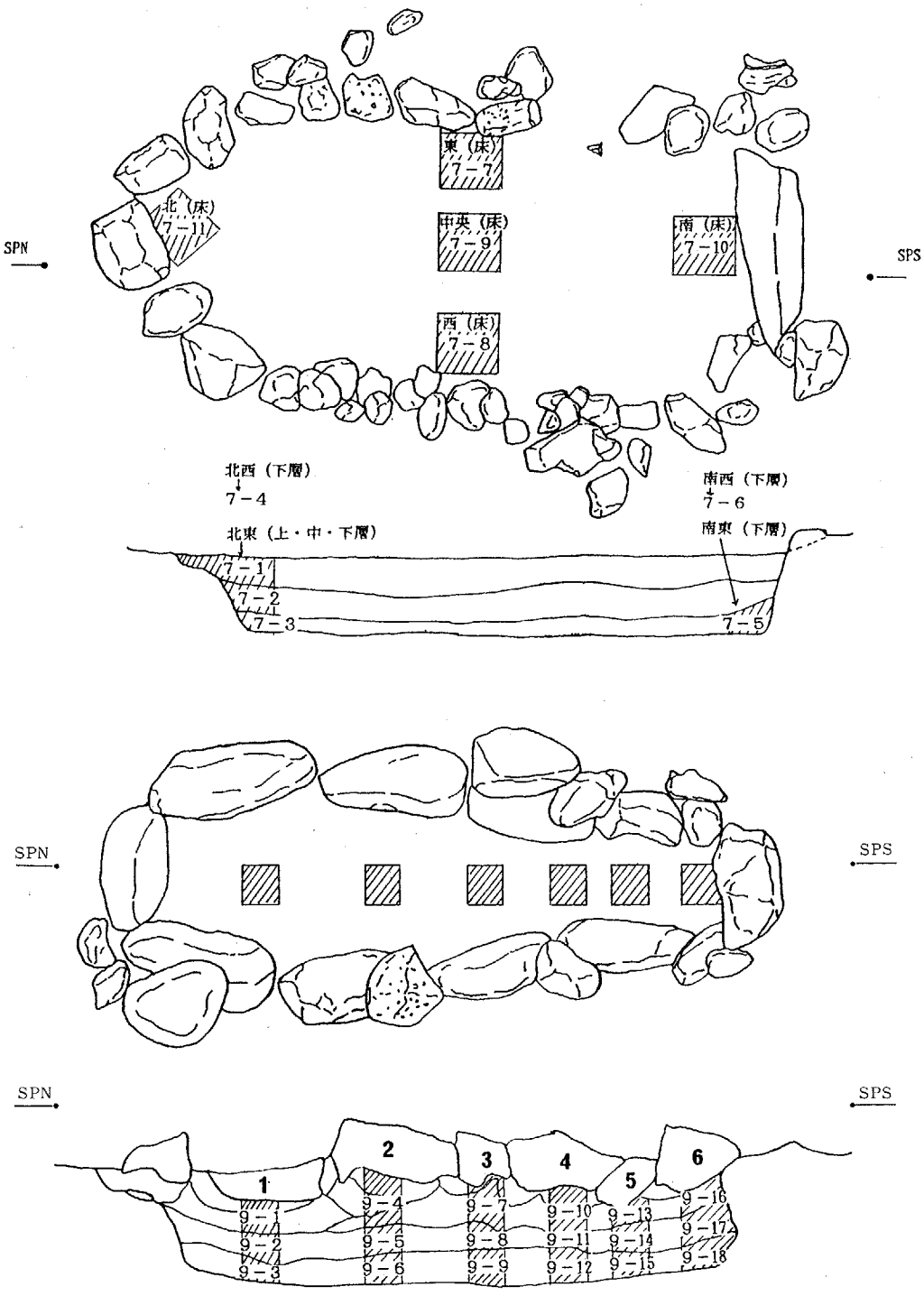


図２　大道遺跡７・９号配石遺構のリン・カルシウム分析試料採取位置

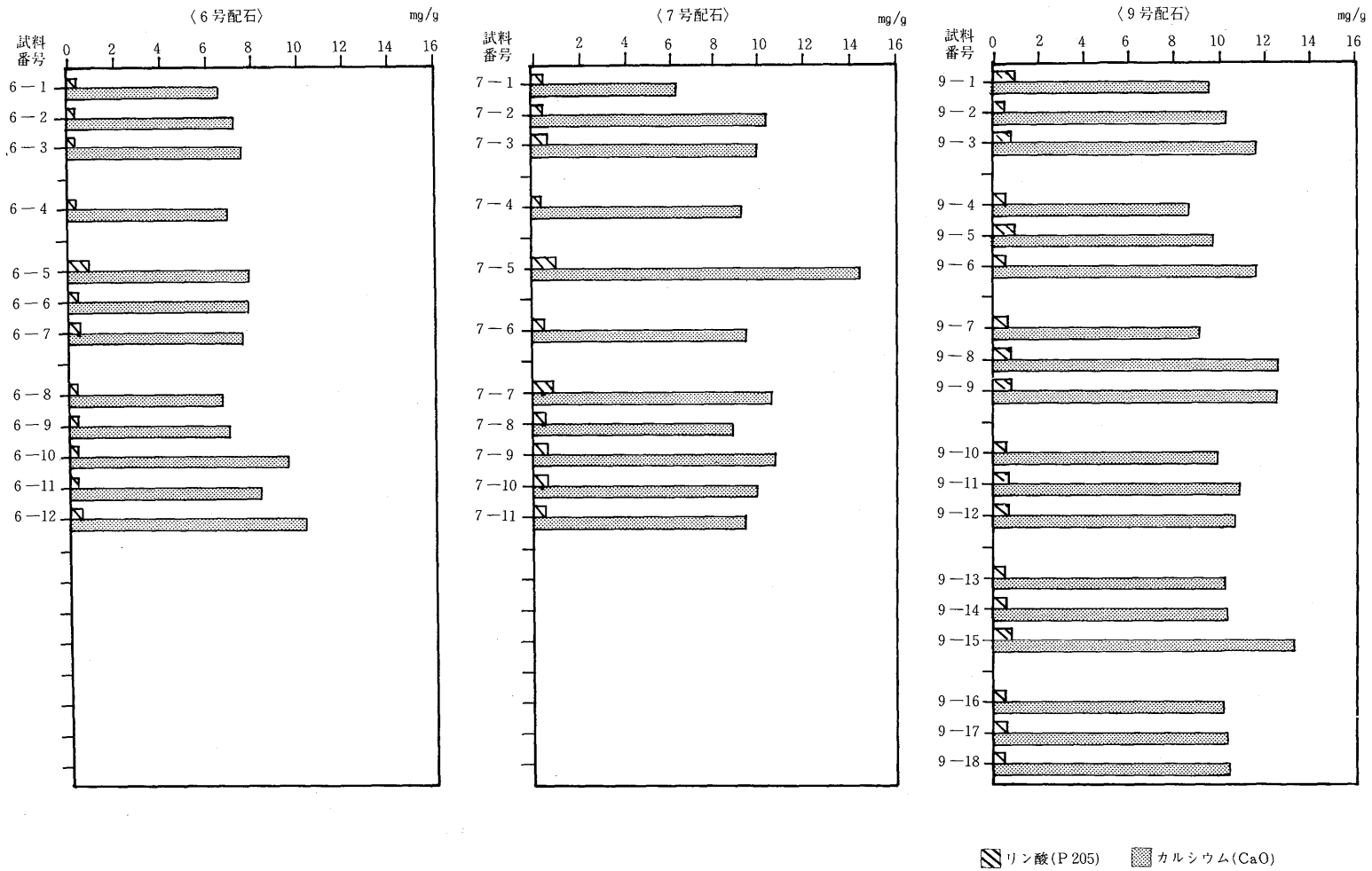


図3　大道遺跡6・7・9号配石遺構のリン酸・カルシウム含量

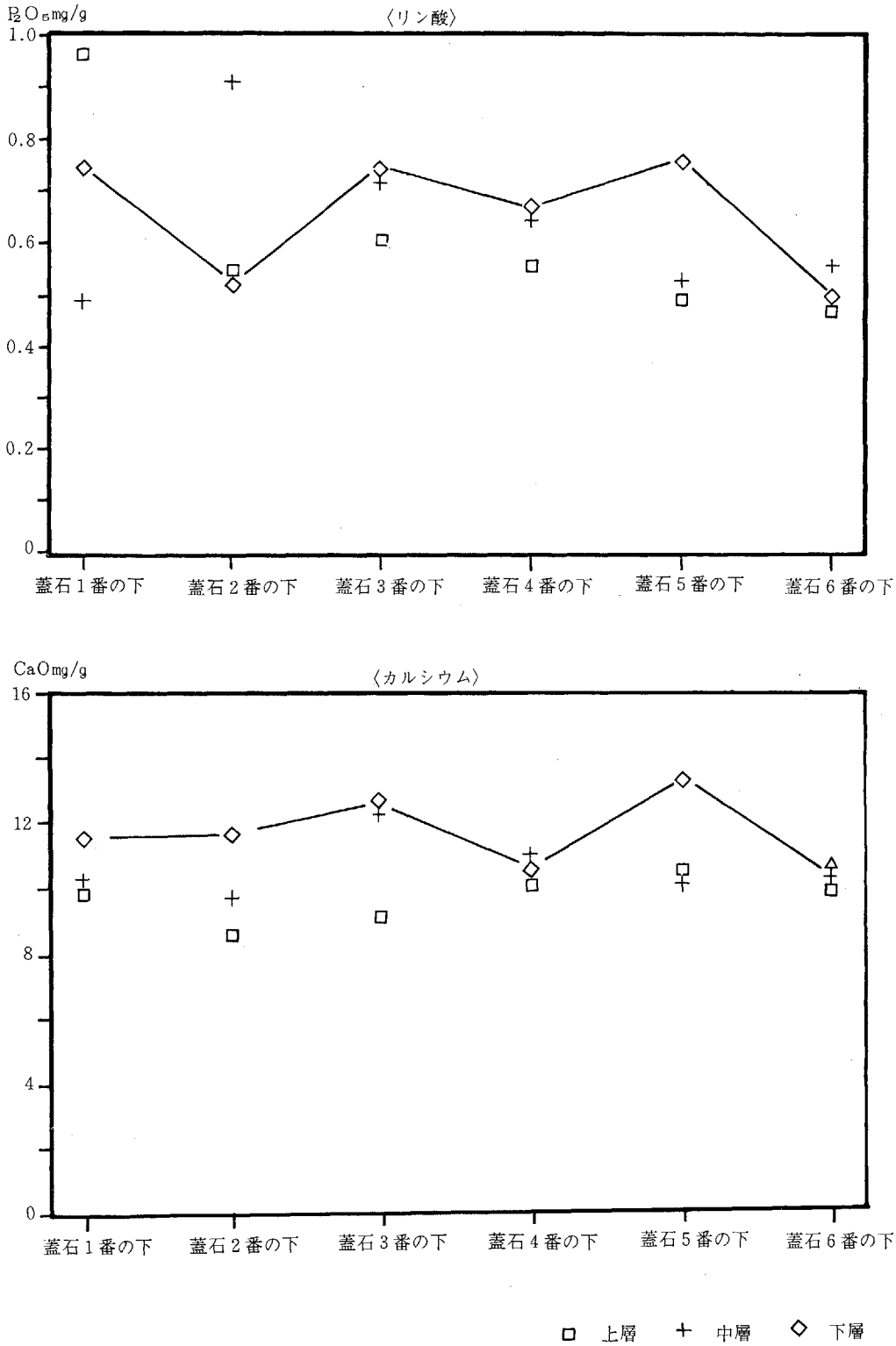


図4　大道遺跡6号配石遺構の分析試料採取位置別リン酸・カルシウム含量分布

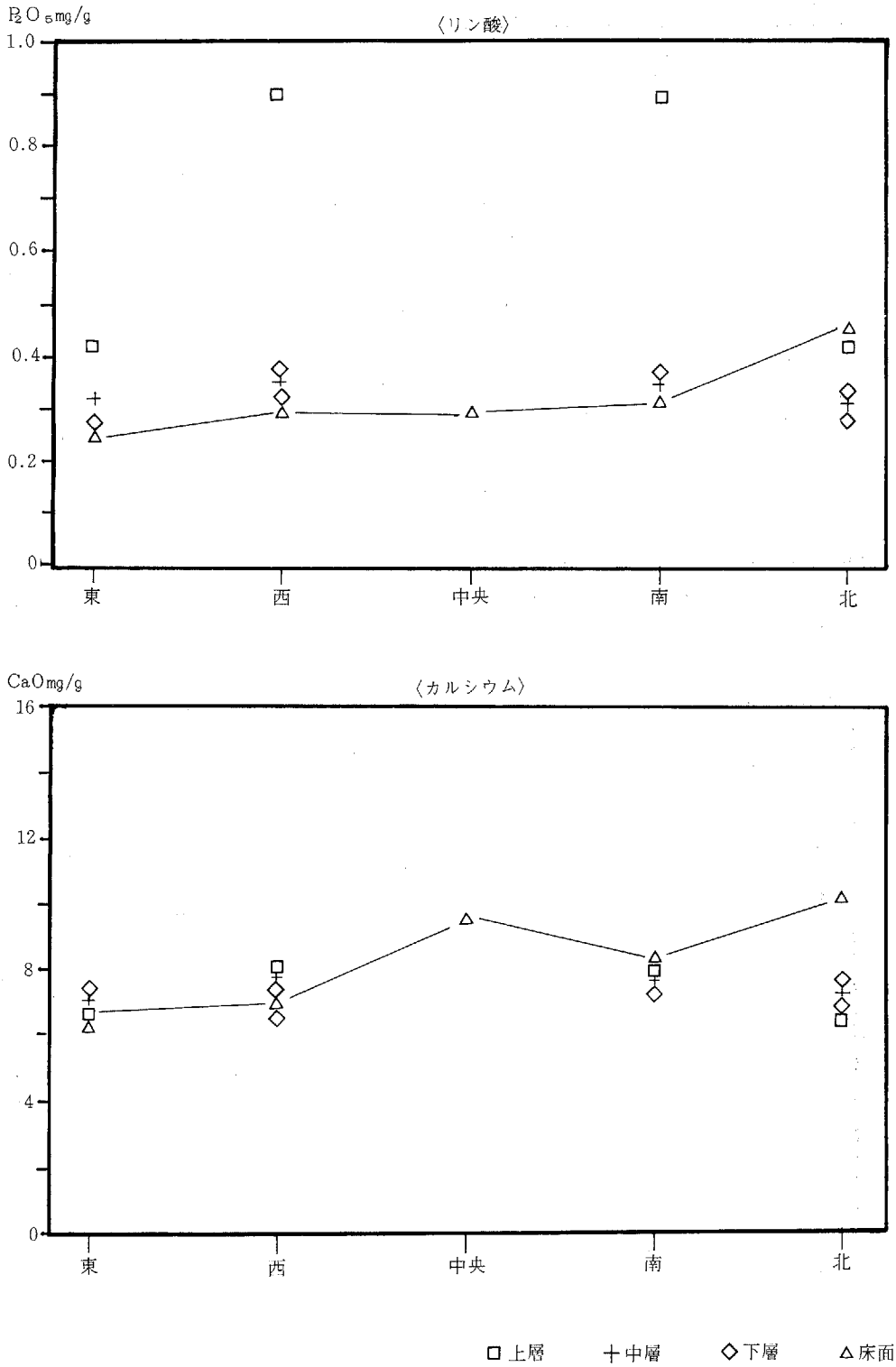


図5　大道遺跡7号配石遺構の分析試料採取位置別リン酸・カルシウム含量分布

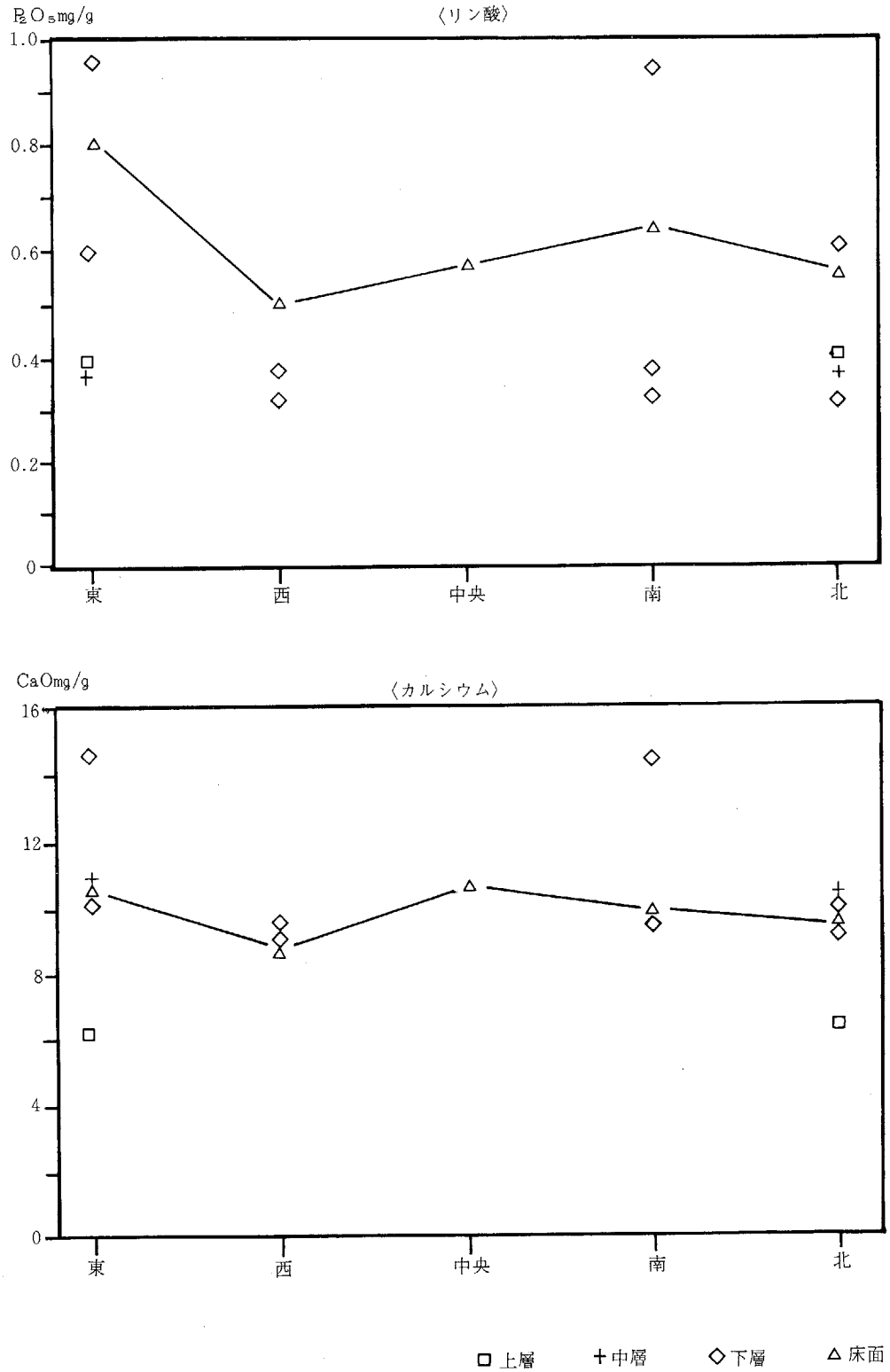


図6　大道遺跡9号配石遺構の分析試料採取位置別リン酸・カルシウム含量分布

横俵遺跡群 Ⅱ

（本文編）

印　刷　平成3年3月20日
発　行　平成3年3月25日

編　集　山武考古学研究所

発行者　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

印刷所　(株)文化総合企画
TEL.0476-24-1563

正　誤　表

本文中の誤字・脱字を下記のとおり訂正致します。
ご了承頂きますとともにおわび申し上げます。

	誤	正
3ページ 18行目	図版72	図版69
432ページ 11行目	なし。114号…… ……考えられる。	東側に位置する。長軸94cm、 短軸76cm、深さ42cm～59cm。 長方形を呈する。
436ページ 4行目	柱穴7本。	柱穴5本。
436ページ 6行目	径cm、深さcm。	径36cm、深さ62cm。
436ページ 7行目	径cm、…… ……P7・径cm、	径38cm、深さ60cm。P4・径 38cm、深さ62cm。P5・径38 cm。深さ64cm。 P6、P7　削除
677ページ 9行目	本跡の	本遺跡の

横俵遺跡群 II

（写 真 図 版 編）

1991

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

図版1

調査前全景　南→

テストピット掘り下げ作業　北西→

遺構確認状況（No.11トレンチ）　東→

遺構確認状況（No.10トレンチ）　西→

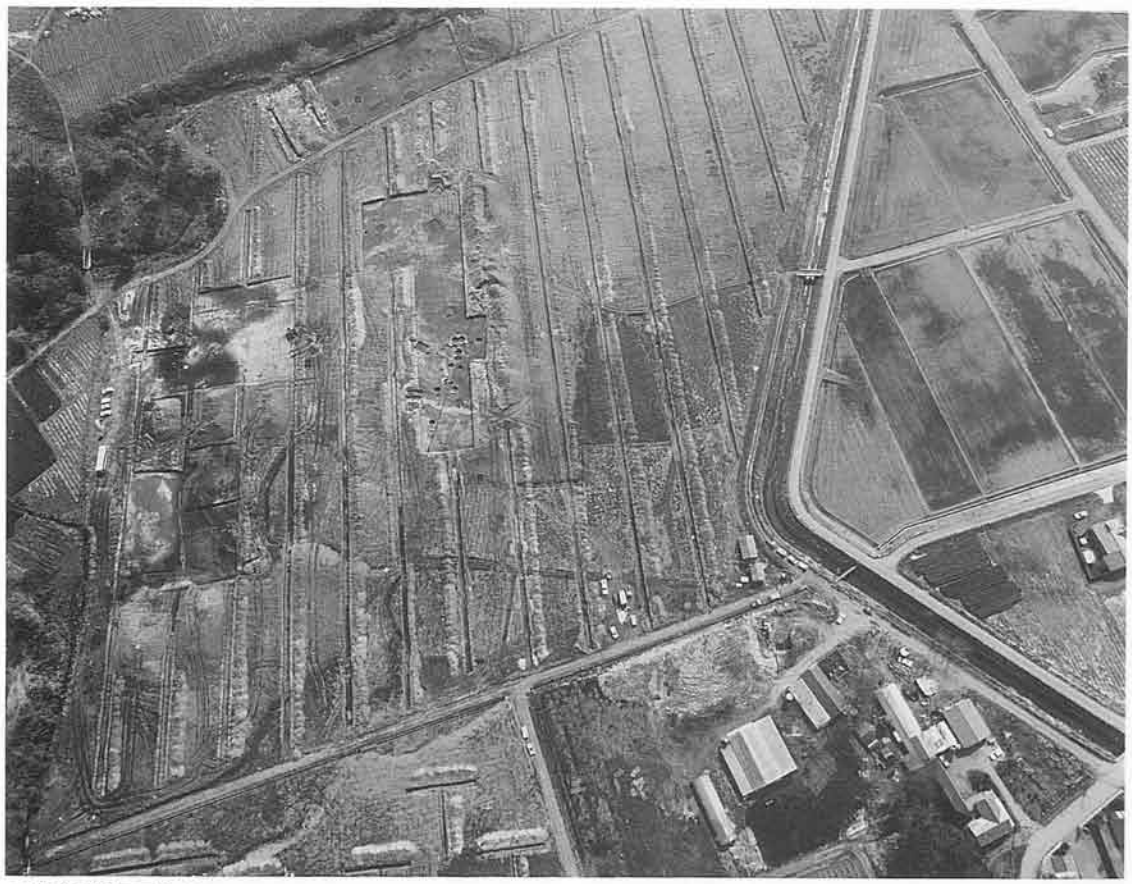
遺構確認状況（No.9トレンチ）　西→

東端部調査状況（No.3トレンチ）西→

東端部調査状況（No.2トレンチ）西→

東端部調査状況（No.1トレンチ）西→

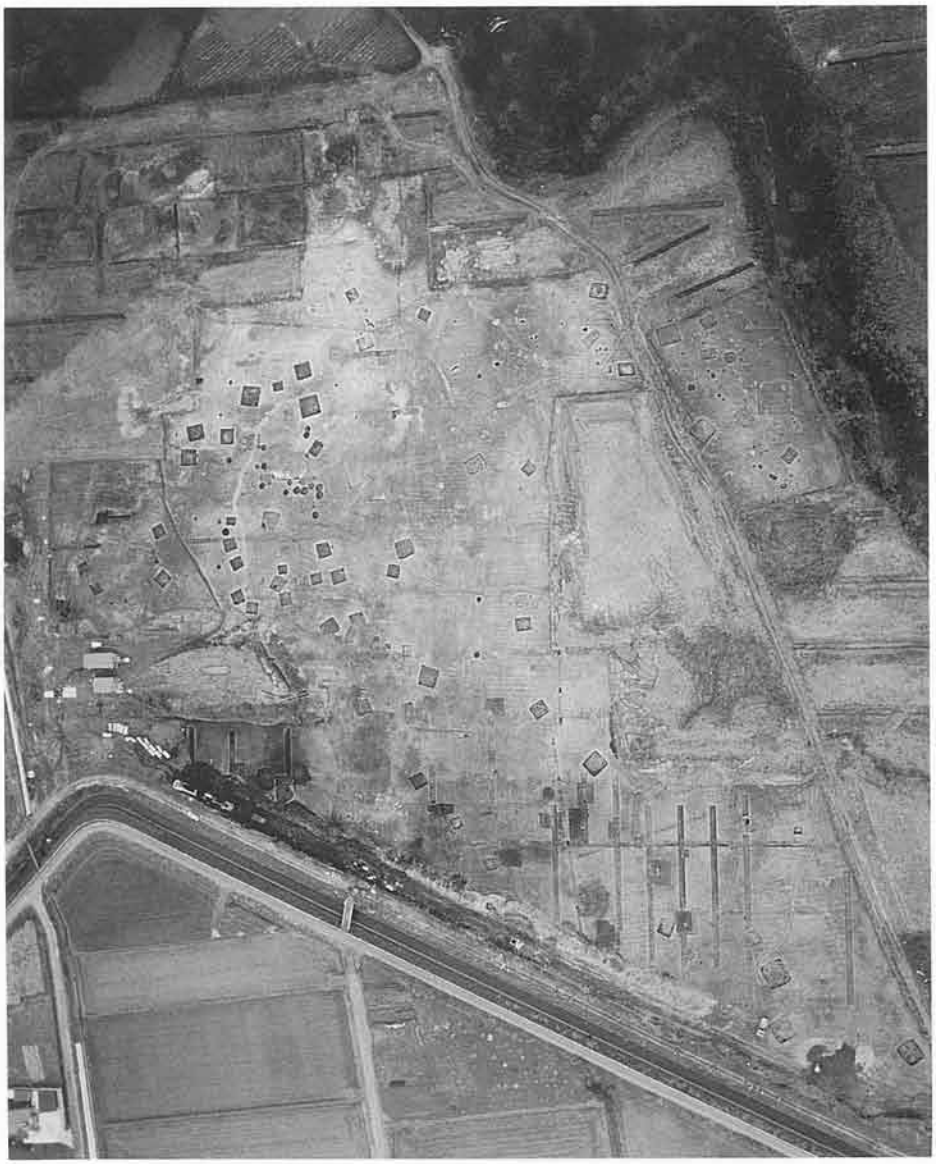
図版2



63年度調査区全景

同　本調査区全景

北部全景

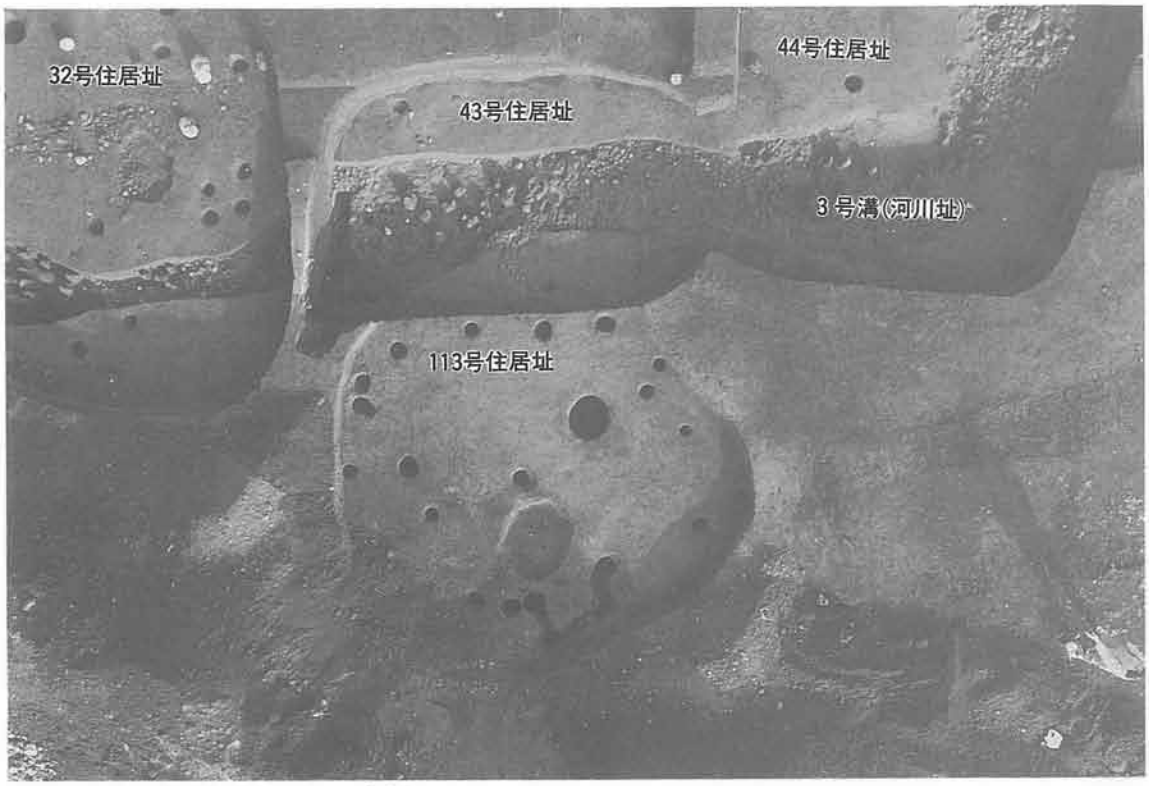


全景（平成元年度）

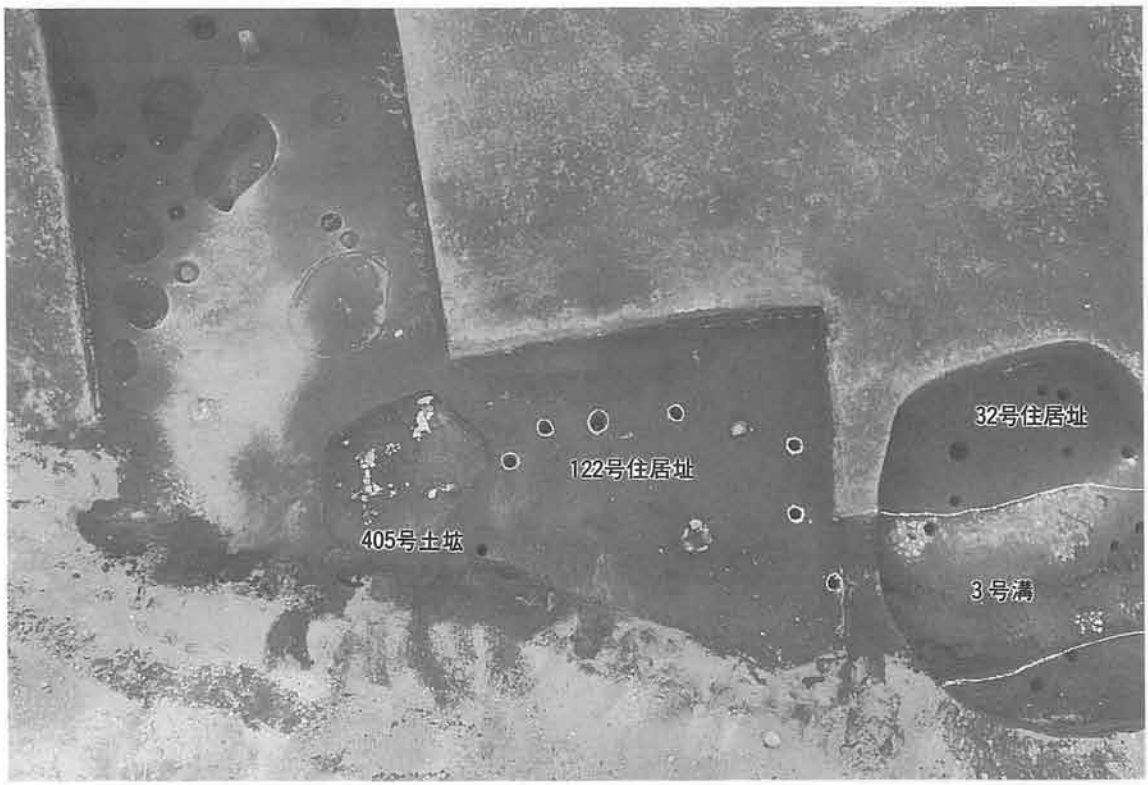
図版4

東端部全景

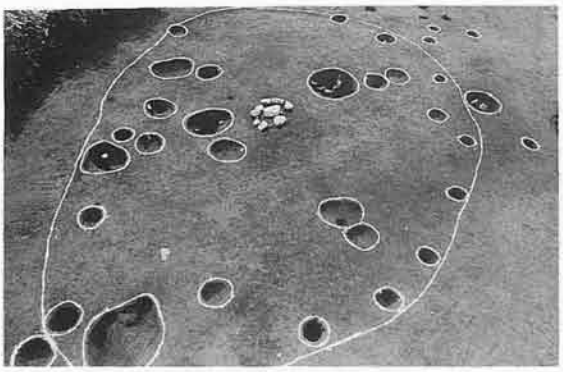
南端部全景



南西部縄文時代遺構密集地区　東側

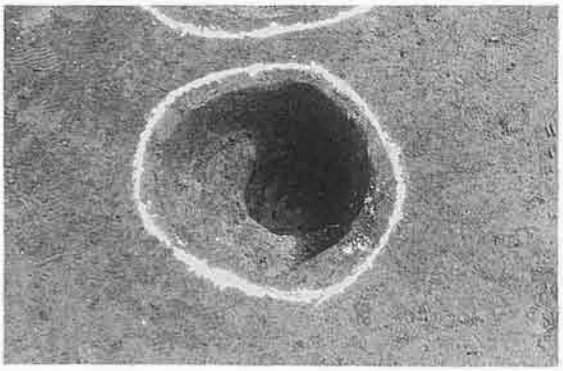


同　　西側

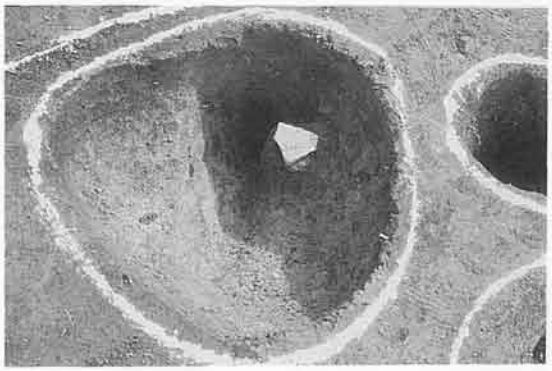


28号住居址

同　炉址



28号住居址柱痕検出状況



同　柱穴内遺物出土状況

29号住居址

30号住居址

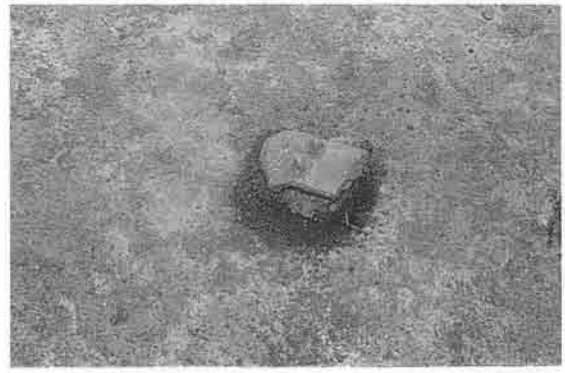
32号住居址遺物出土状況

同　近影

32号住居址

32号住居址炉址近影

32号住居址土偶出土状況



同　近影

33号住居址遺物出土状況

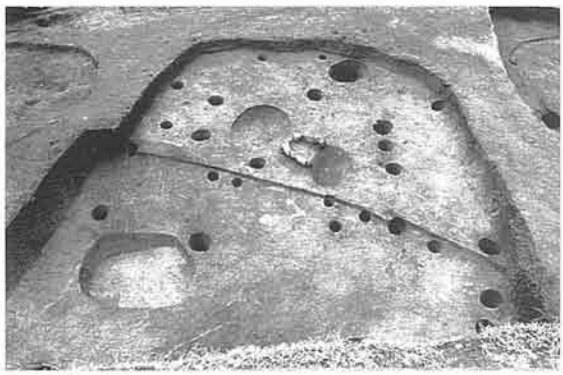
同　近影

同　近影

同　近影

33号住居址出土遺物近影

33号住居址内集石近影



33号住居址

34号住居址遺物出土状況

34号住居址

同　炉址近影

35号住居址遺物出土状況

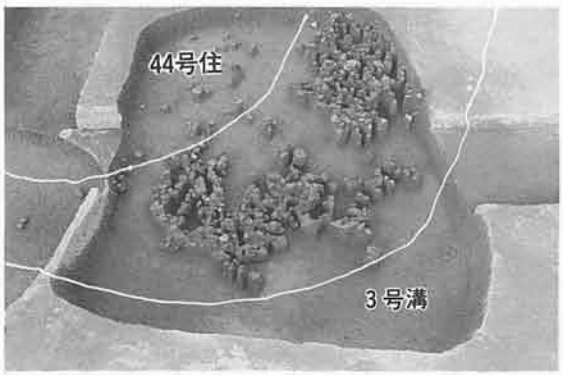
35号住居址遺物近影

35号住居址

同　炉址近影

3 号溝遺物出土状況

43号住居址



44号住居址遺物出土状況

3 号溝遺物近影

44号住居址・3 号溝遺物近影

44号住居址遺物近影

図版10　縄文時代

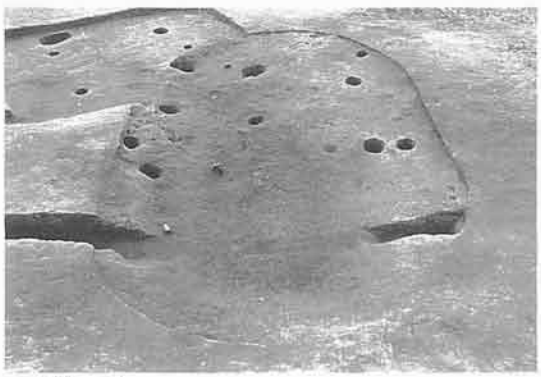
51号住居址セクション

同　遺物出土状況

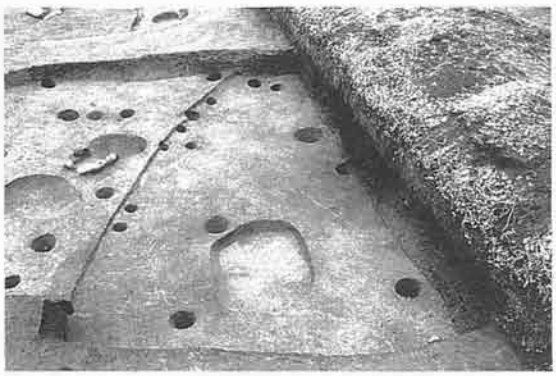
51号住居址遺物近影

同　炉址

59号住居址セクション

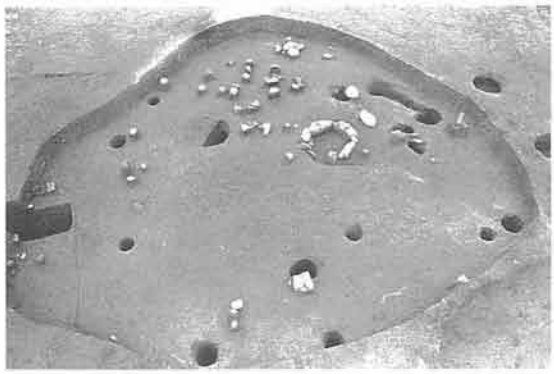


59号住居址

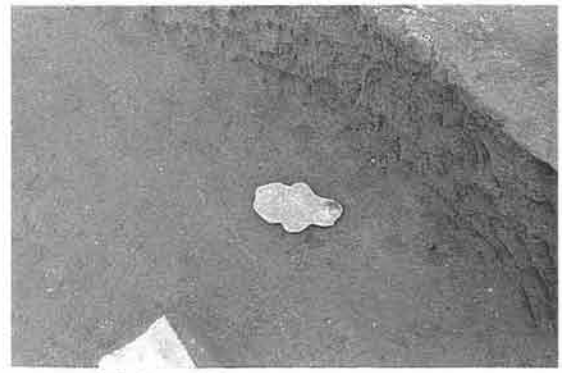


111号住居址

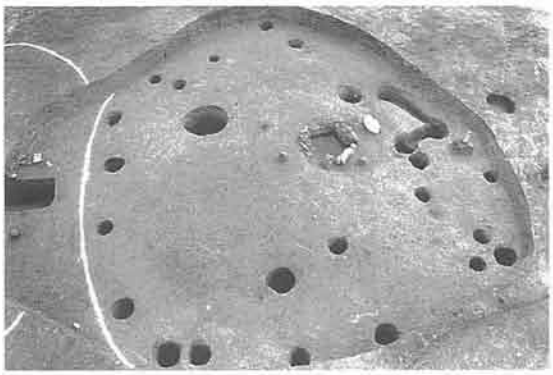
113号住居址セクション



113号住居址遺物出土



同　遺物出土近影



同　検出状況　南西→

113号住居址検出　東→（炉址の掘り方）

同　炉址セクション

同　炉址近影

同　炉址解体状況

入口部柱穴検出

118号住居址遺物出土状況

118号住居址遺物出土状況

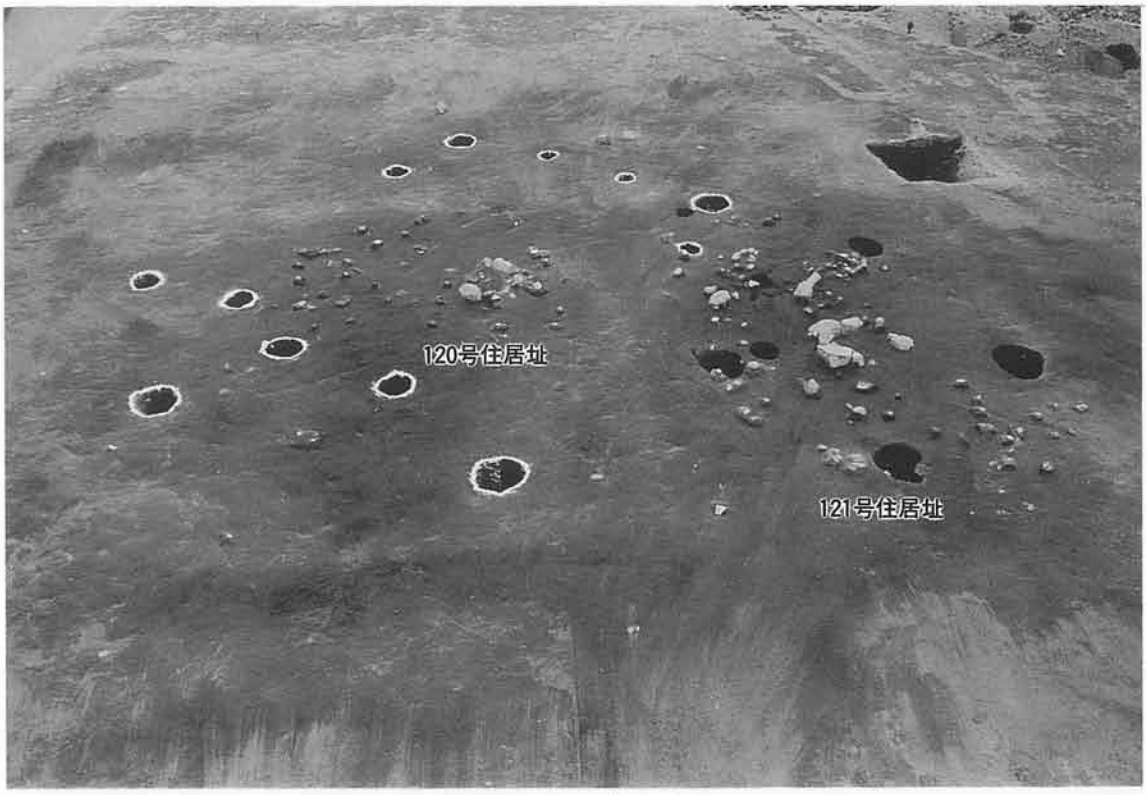
118号住居址

同　遺物出土（南より）

同　炉址近影

119号住居址

119号住居址炉址近影



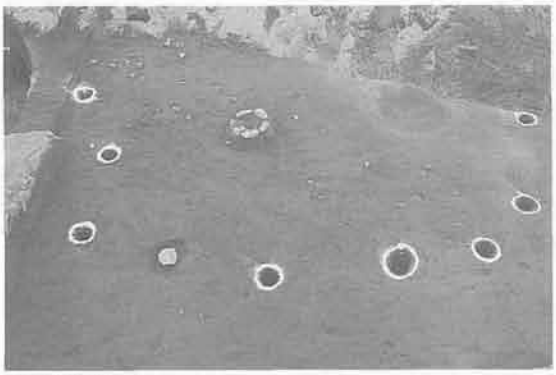
120・121号住居址

120号住居址炉址近影

121号住居址炉址近影

122号住居址遺物出土状況

同　近影

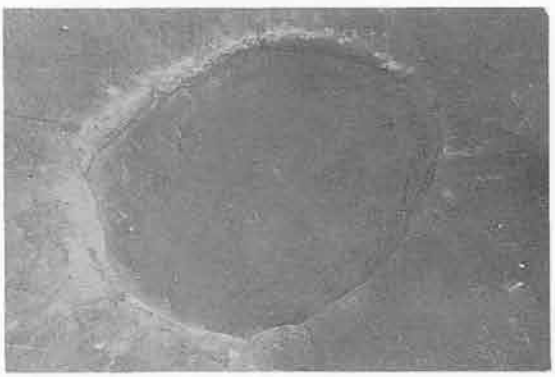


122号住居址

同　炉址近影

123号住居址遺物出土状況

同　遺物近影



123号住居址

124号住居址遺物出土状況

125号住居址遺物出土状況

125号住居址

126号住居址遺物出土状況

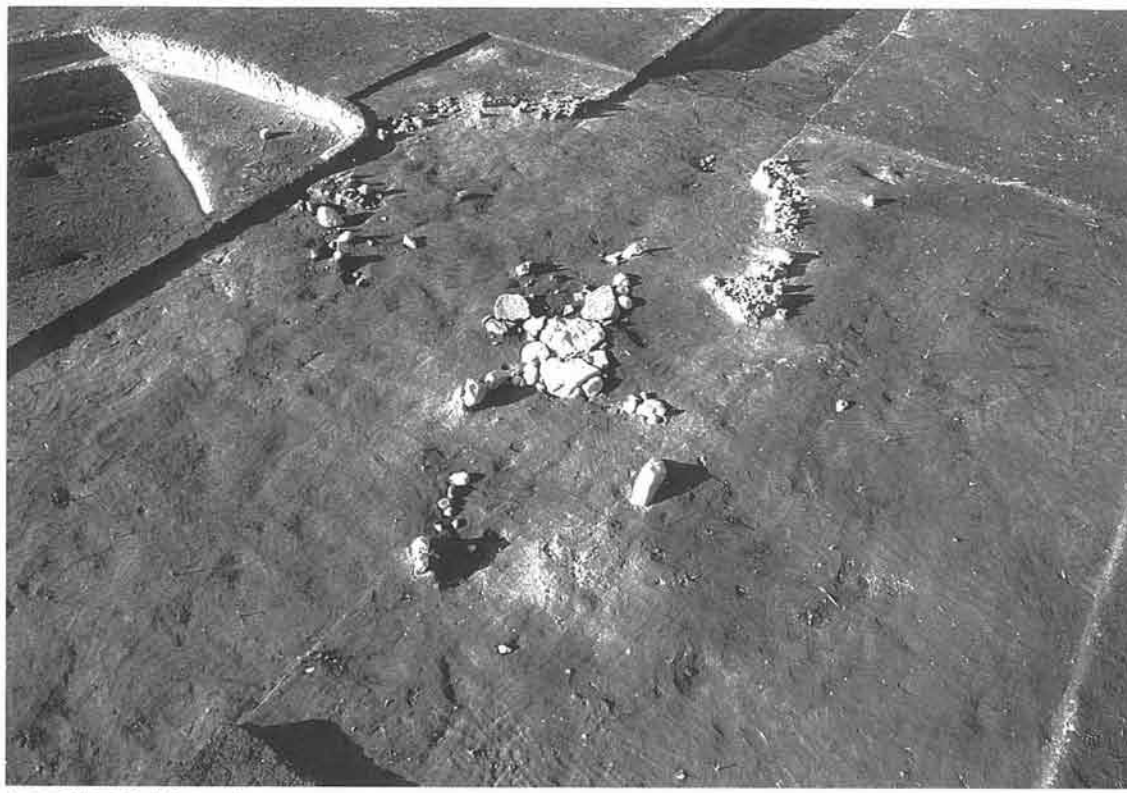
同　炉址近影

126号住居址埋甕確認状況

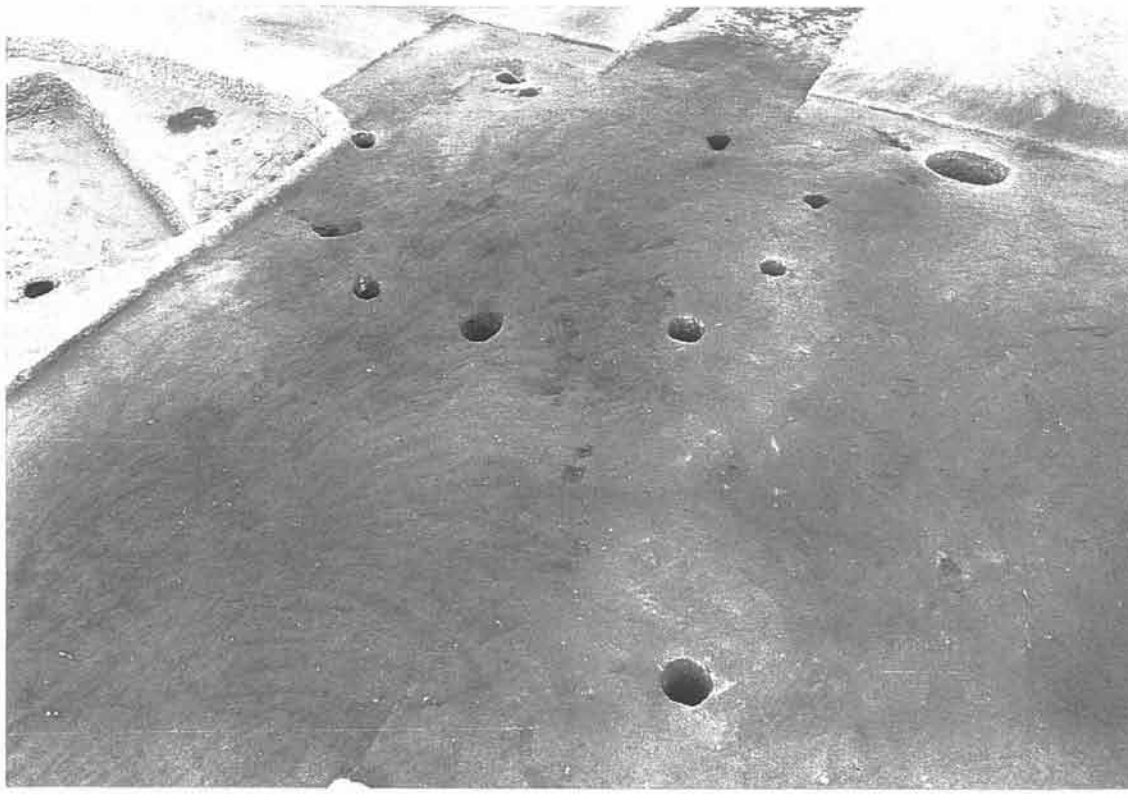
同　埋甕検出状況

128号住居址

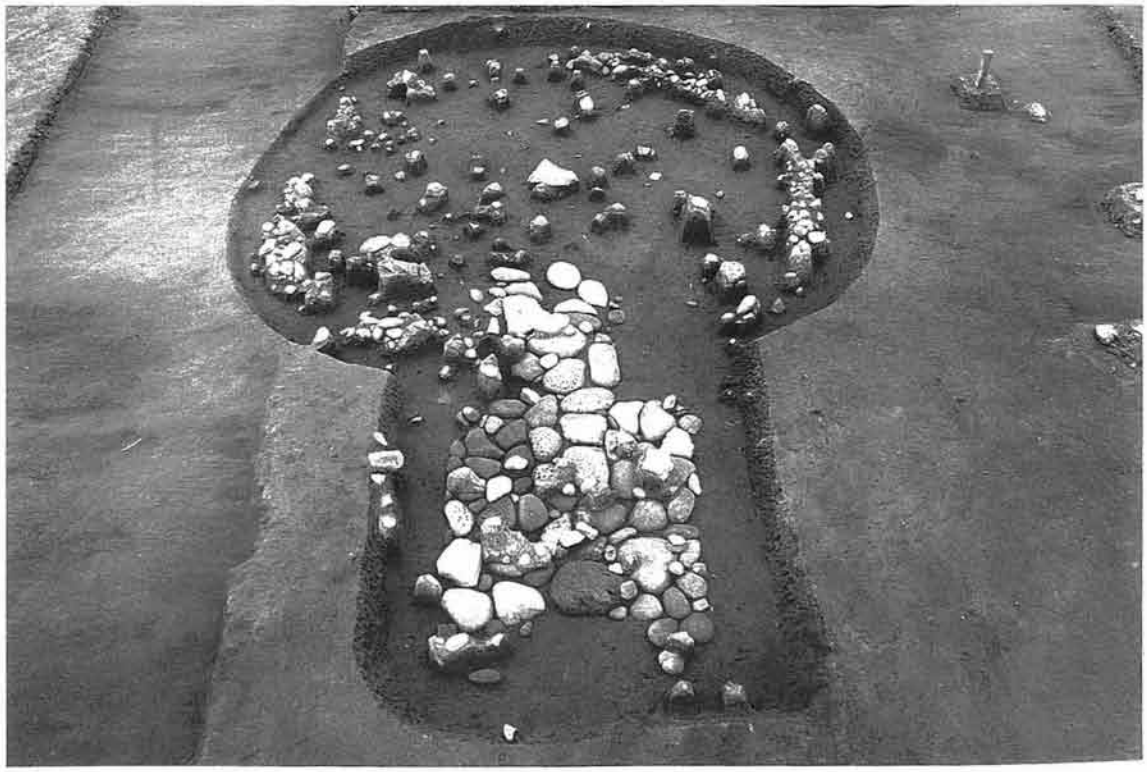
同　炉址敷石近影



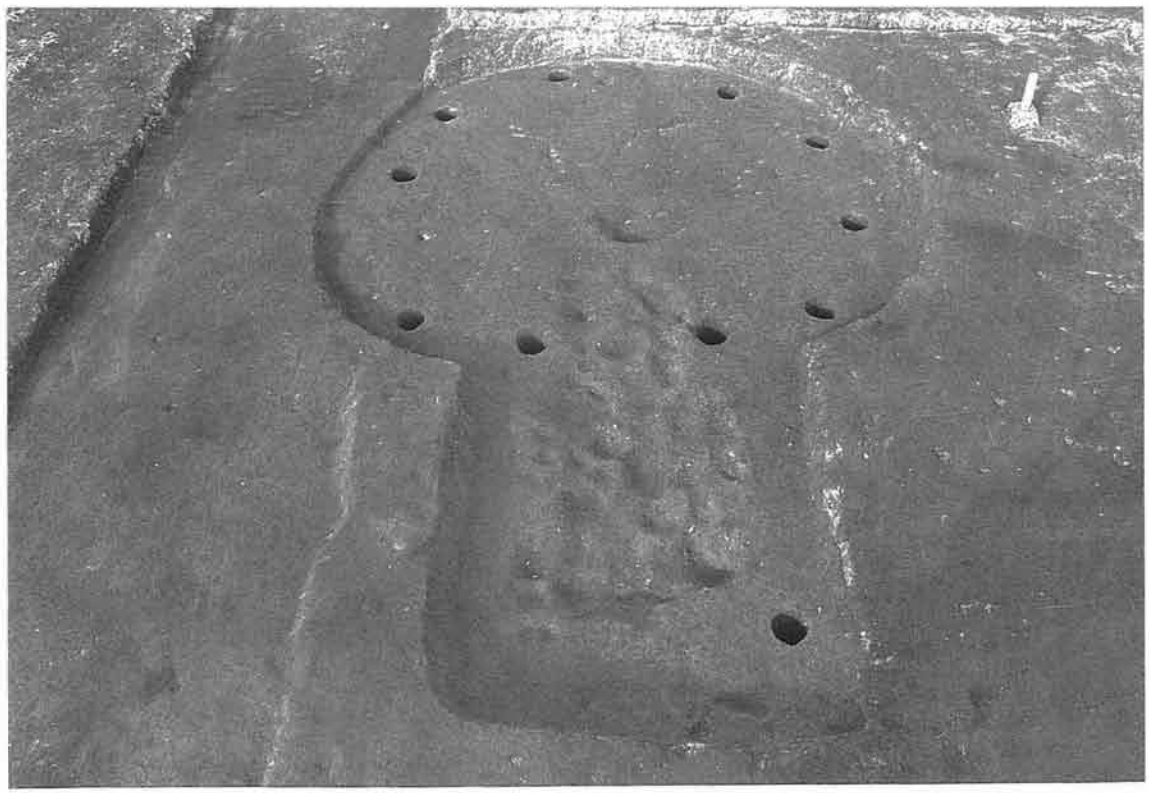
131号住居址（南より）



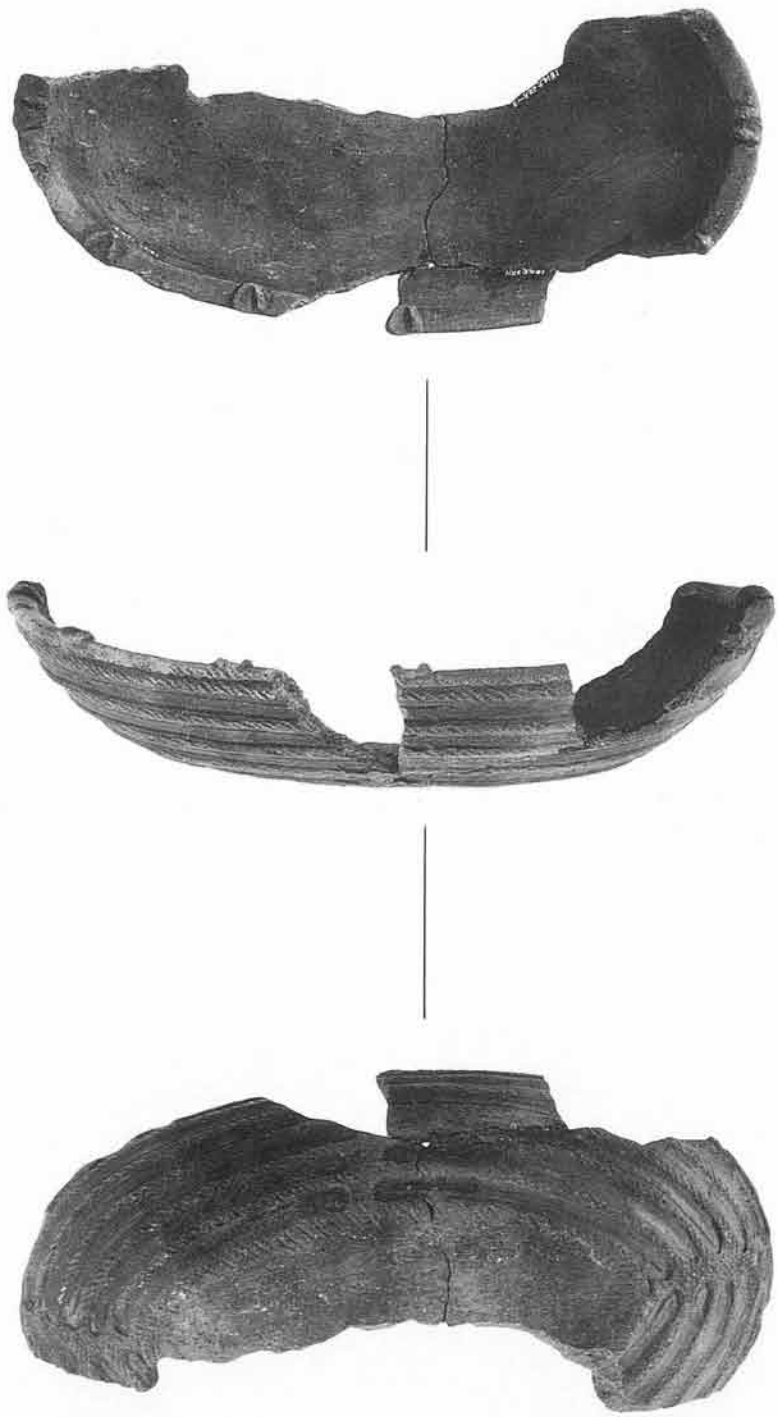
同　敷石除去状況（南より）



132号住居址遺物出土状況（南より）



同　敷石除去状況（南より）



10

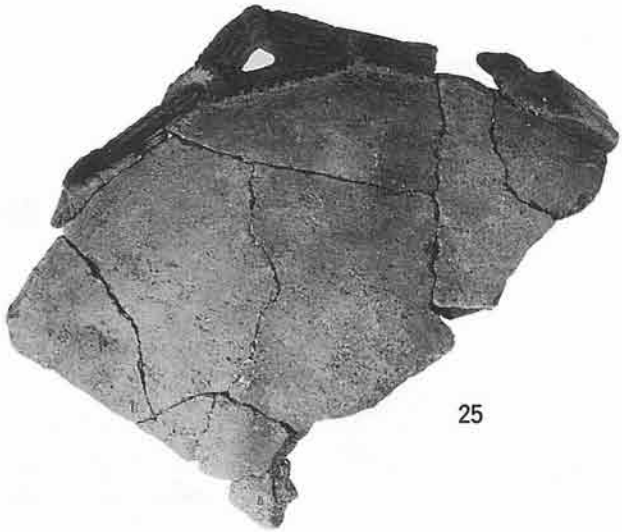
32号住居址出土遺物(1)

3

15

28

28


25

26

26

28

9

32号住居址出土遺物(2)

8

32

30

33

12

22

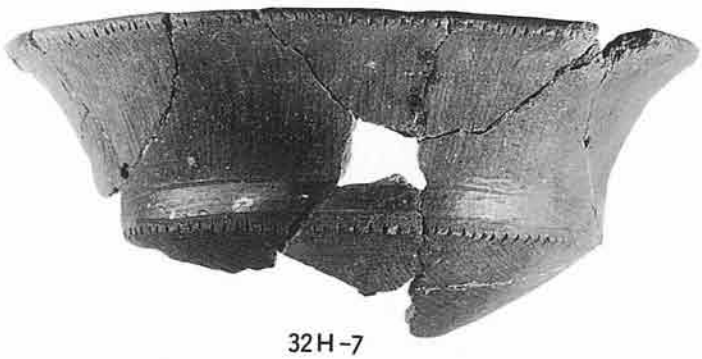
11

20

54

35

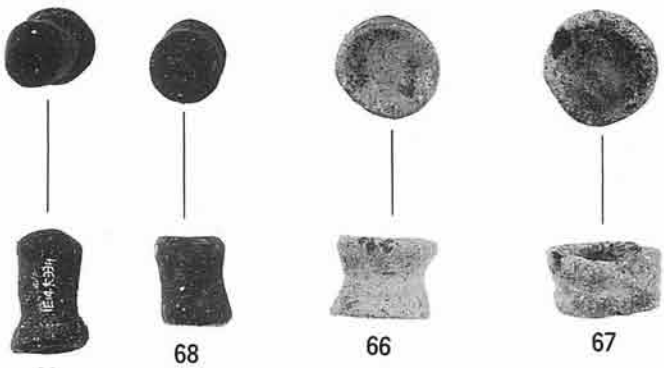
32号住居址出土遺物(3)



32H-7

33H-70　51H-31

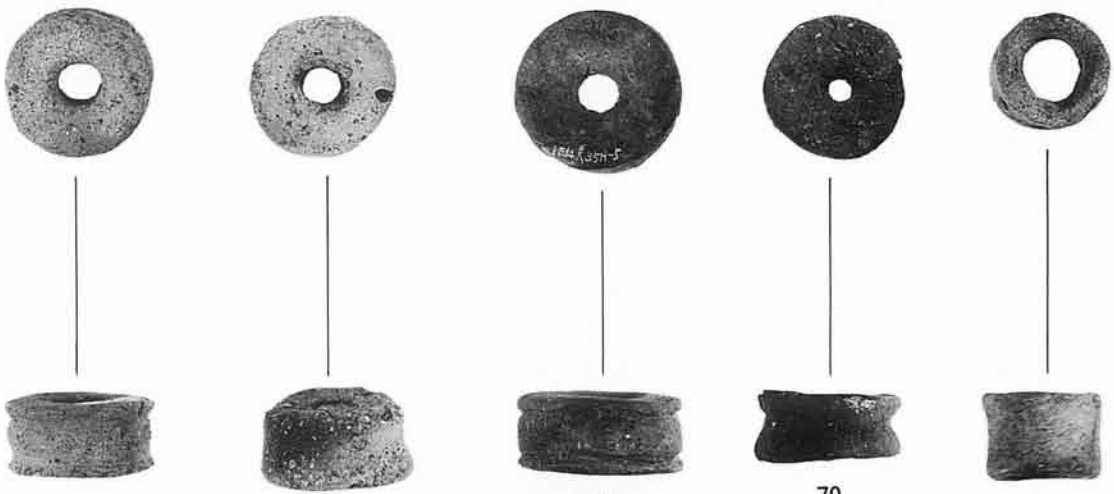
33H-63
土偶脚部



69　68　66　67

33H

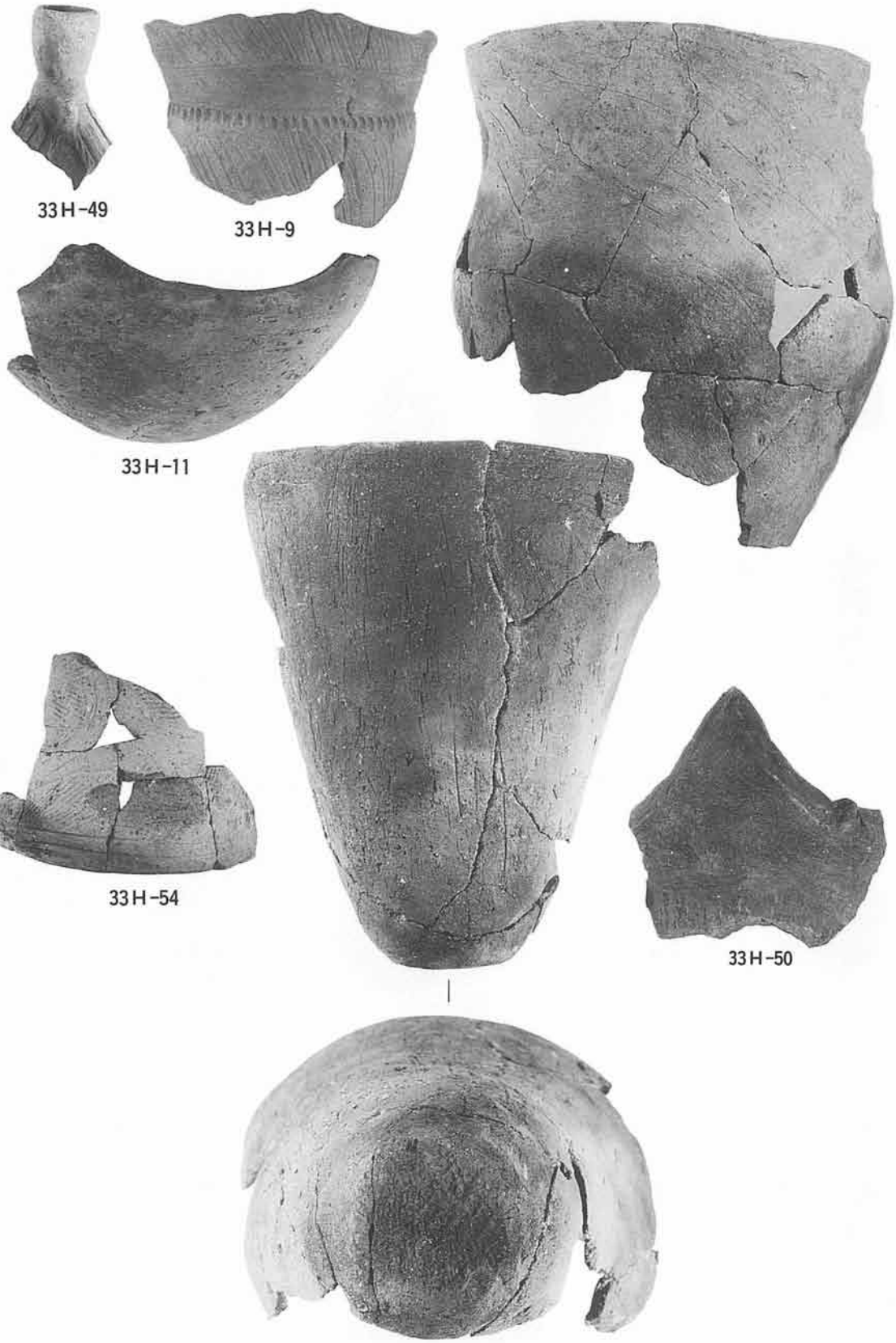
33H-61



67　68　69　70　71

35H

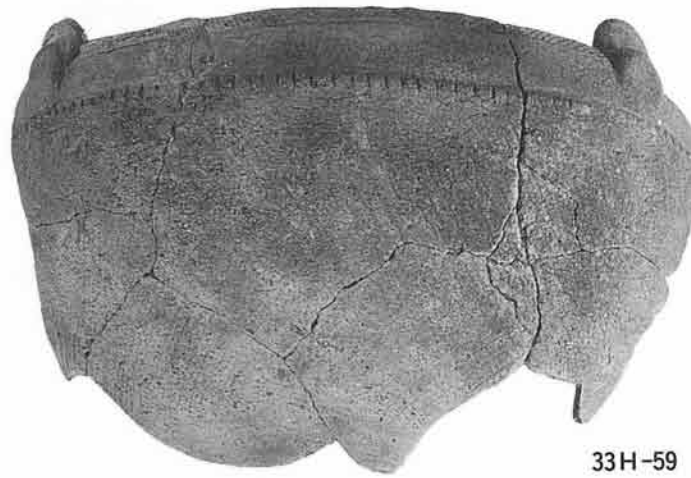
32号住居址出土遺物(4)



33号住居址出土遺物(1)

33H-57

33H-60



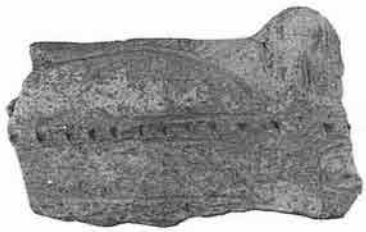
33H-59

33H-37

33H-2

33号住居址出土遺物(2)

図版24　縄文時代


34H-41

34H-6

34H-7

34H-8

35H-66

34H-51

3号溝-58

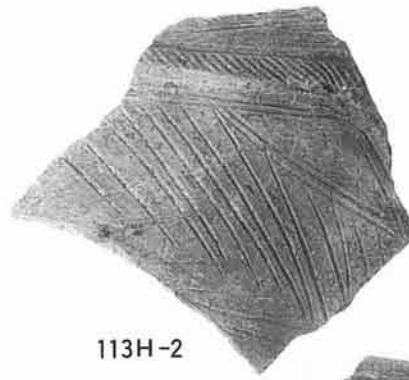
3号溝-138

3号溝24

3号溝62

34・35号住居址、3号溝出土遺物

113H-1


113H-2

113H-20

113H-49

113H-4

113号-3

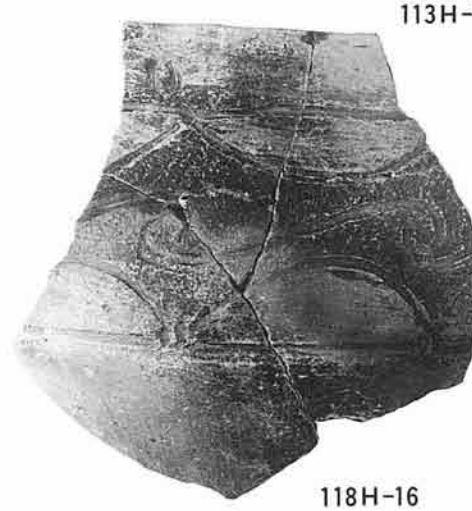
113H-17

118H-49

113H-16

113H-15

118H-56


118H-16

118H-28

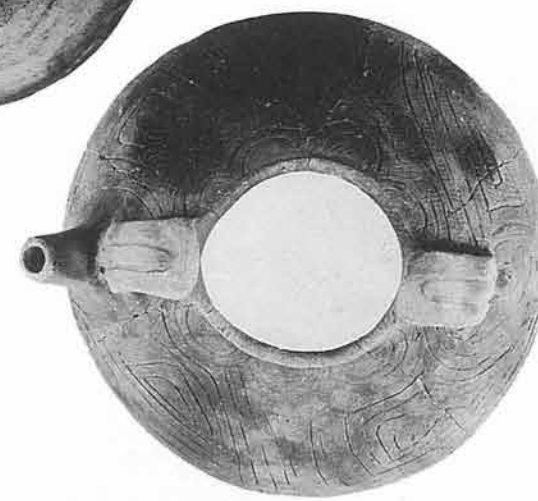
118H-2

118H-76

113・118号住居址出土遺物

126H内埋甕

122H-63



123H-51

125H-1

124H-15

122号～126号住居址出土遺物

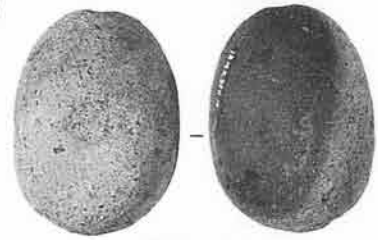
28H-28

28H-29

30H-28

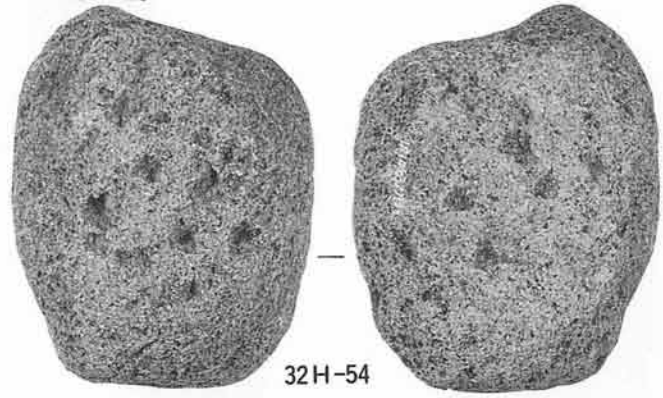
28H-27

30H-33

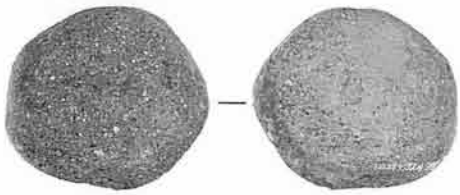


32H-52

32H-46

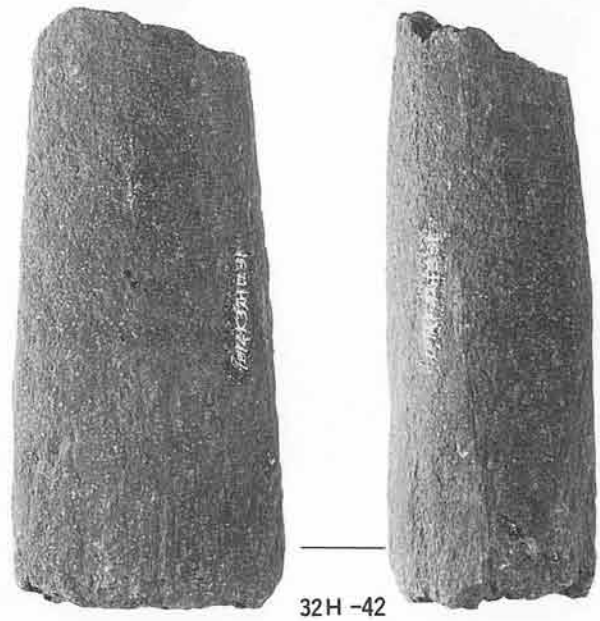


32H-54



32H-50

32H-51



32H-42

28号～32号住居址出土遺物

図版28　縄文時代

32H-40

32H-37

32H-43

32H-38

32H-44

32H-39

32H-36

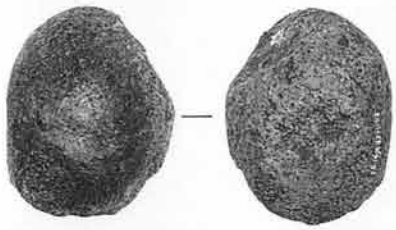
32H-45

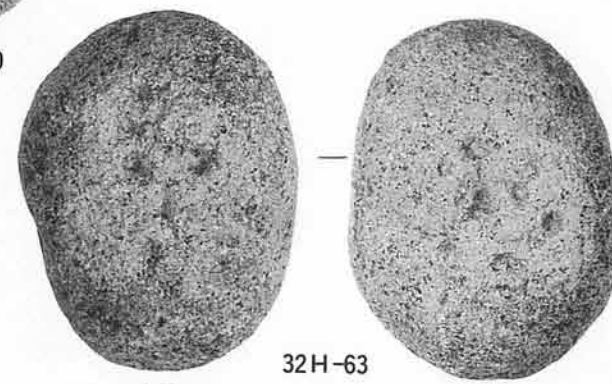
32H-56

32H-58

32H-57

32H-60


32H-61


32H-63

32号住居址出土遺物

32H-65

32H-66

33H-80

33H-93

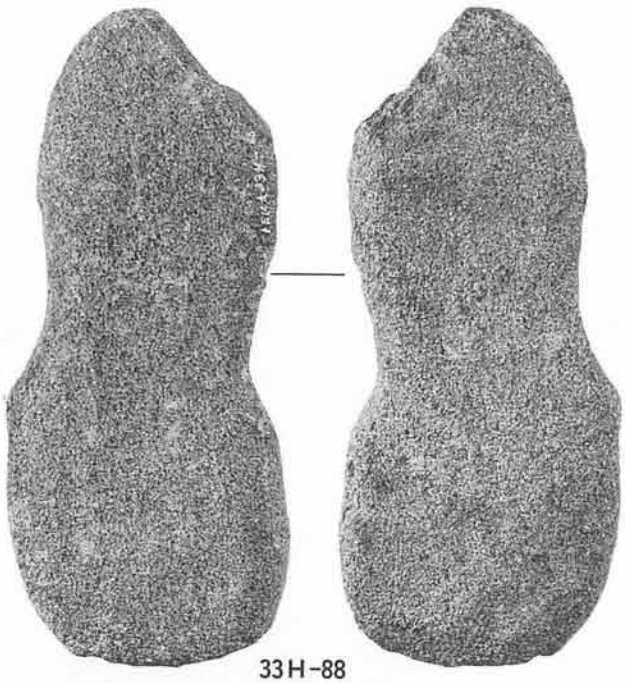
33H-85

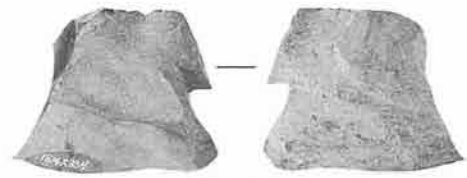
33H-82

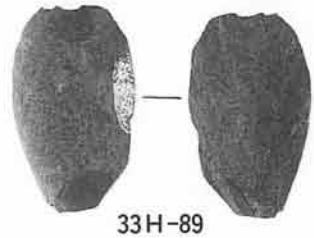
33H-92

33H-84

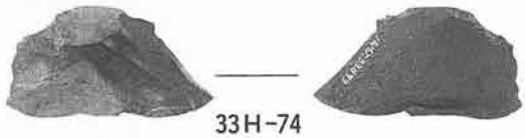
32号～33号住居址出土遺物


33H-88

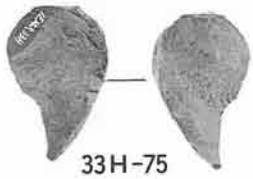

33H-87


33H-89

33-100


33H-74

33H-78


33H-75

3H-76

34H-64

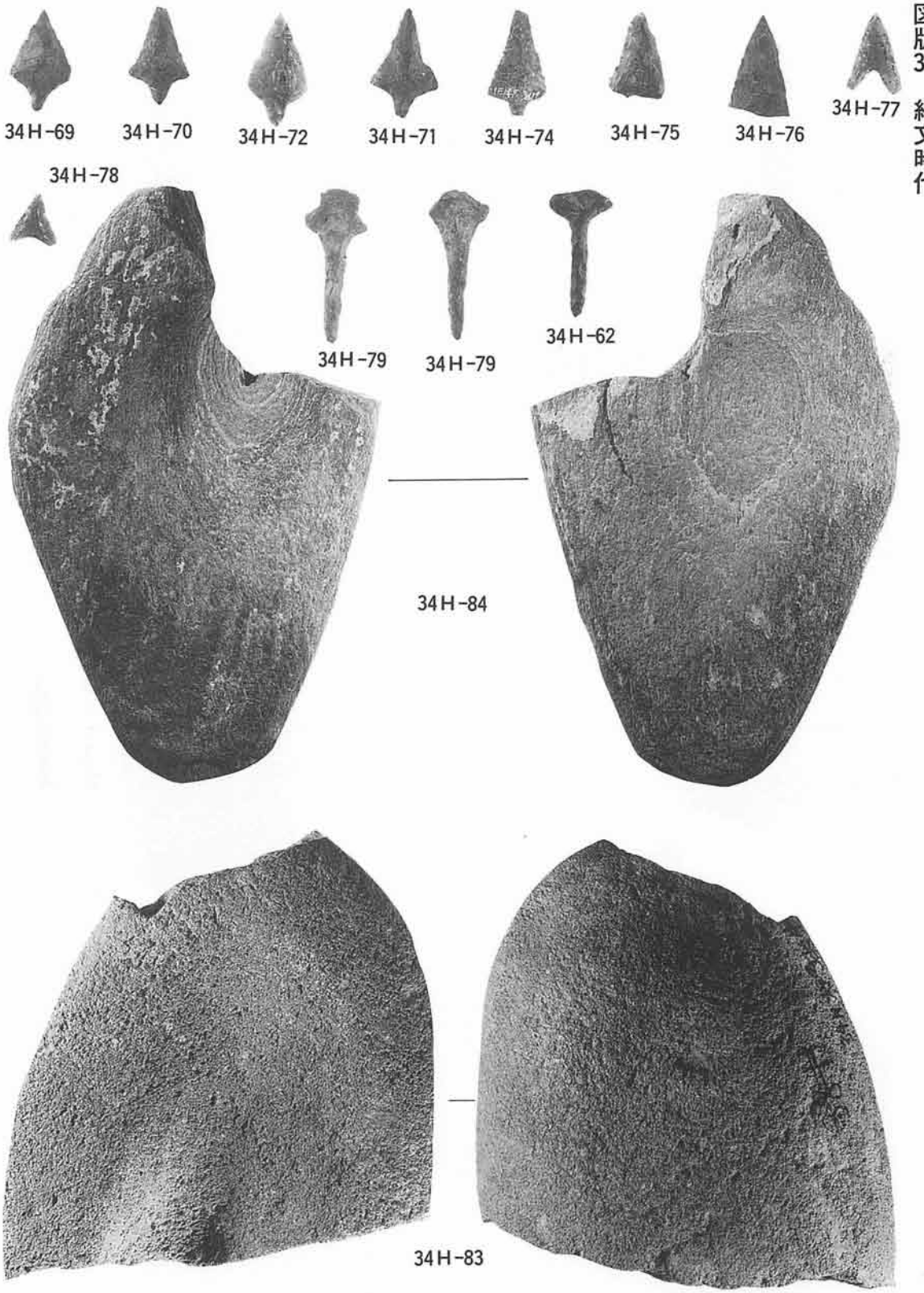
34H-65

33H-66

33H-67

34H-58

33号・34号住居址出土遺物(1)



34号住居址出土遺物(2)

図版32　縄文時代

35H-82

35H-79

35H-81

35H-1

3号溝-275

3号溝-268

3号溝-269

3号溝-273

35号住居址・3号溝出土遺物

51 H -39

51 H -47

51 H -40

51 H -41

51 H -43

51 H -35

51 H -46

51 H -48

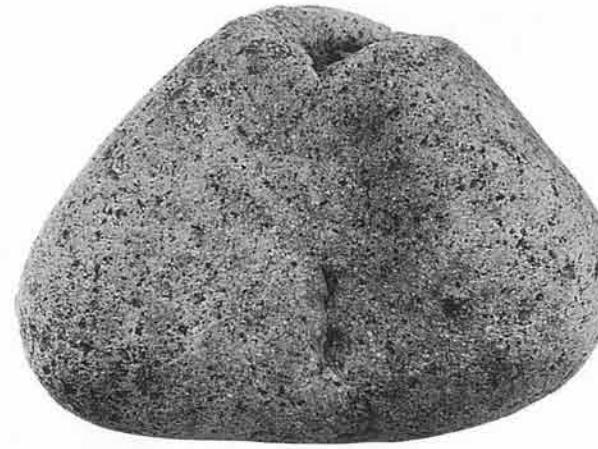
51 H -37

51 H -33

51 H -42

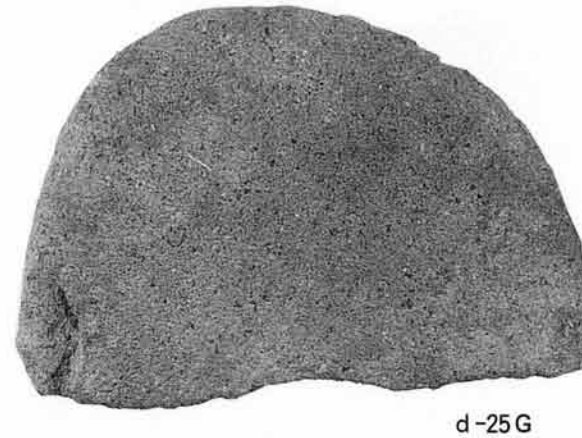
51号住居址出土遺物(1)

51 H -50



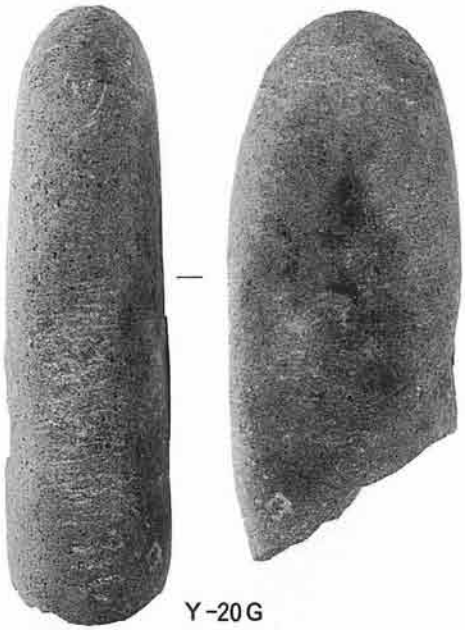
51 H -52

51 H -45

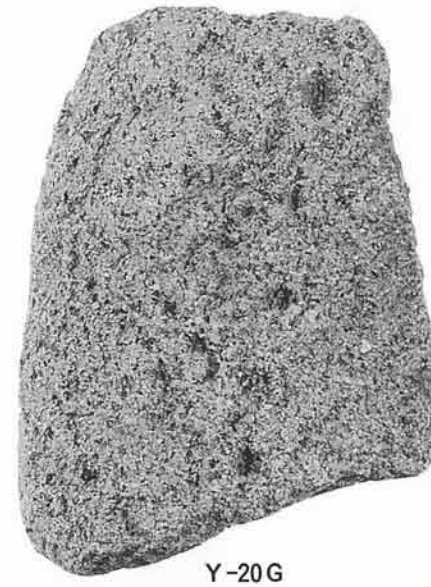


d -25 G

51号住居址出土遺物(2)

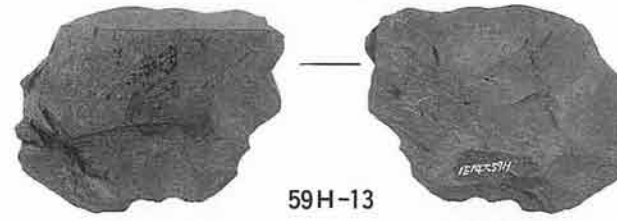


Y-20G



Y-20G

T-20G



59H-13

59H-14

113H-55

113H-56

113H-57

113H-79

59号・113号住居址出土遺物

図版36 縄文時代

113H-74

113H-73

113H-75

113H-76

113H-78

X-19G

118H-77

118H-78

118H-79

118H-87

119H-26

119H-28

119H-27

113号・118号・119号住居址出土遺物

120H-31

120H-32

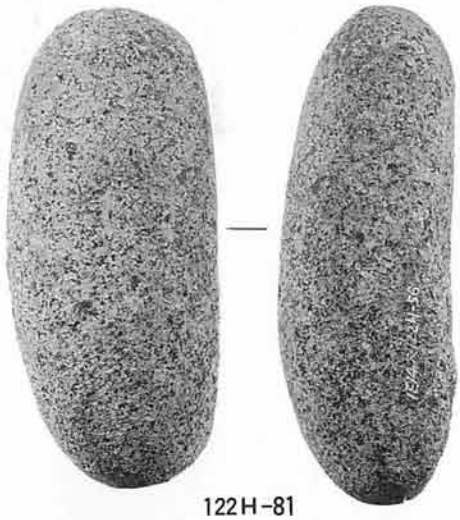
122H-75

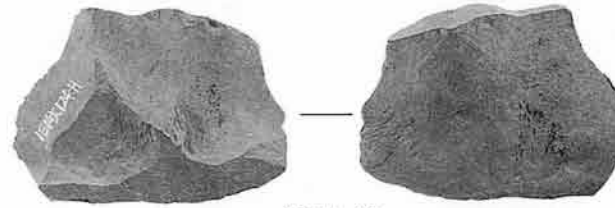
122H-73

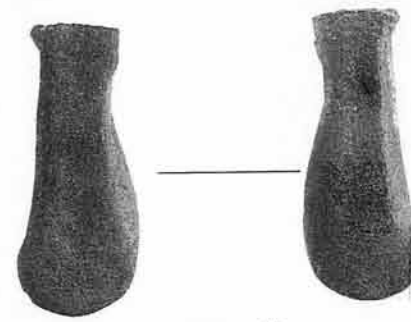
122H-74

122H-79

122H-80


122H-81


124H-18


124H-17

124H-19

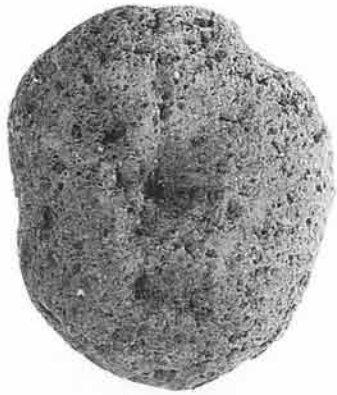
120号・122号・124号住居址出土遺物

124H-16

125H-11

125H-12

125H-13



125H-15

125H-14

125H-16

126H-33

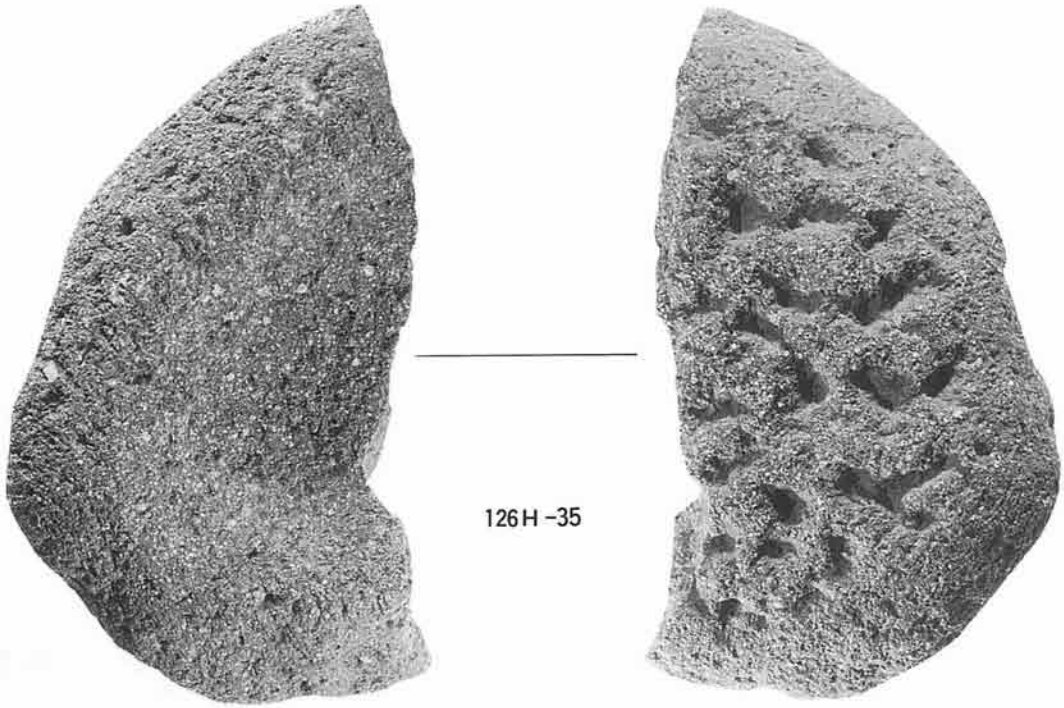
126H-30

126H-34

126H-32

126H-31

124号・125号・126号住居址出土遺物

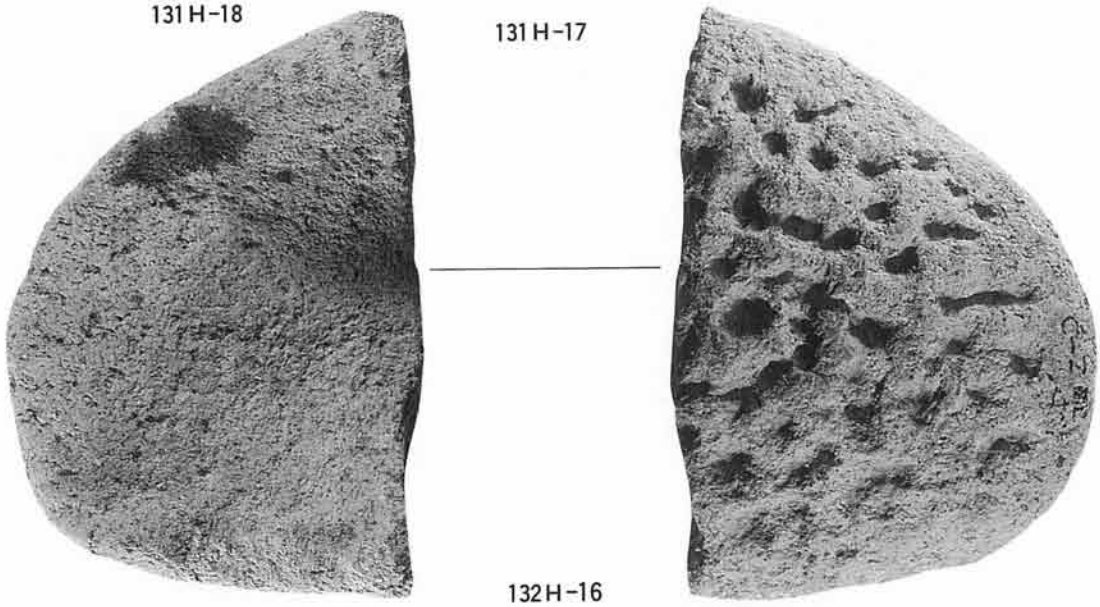


126H-35

131H-18

131H-17

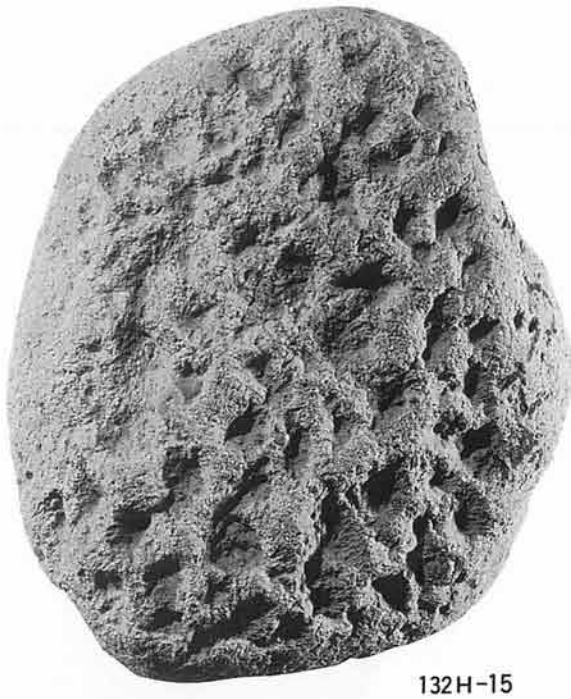
131H-16



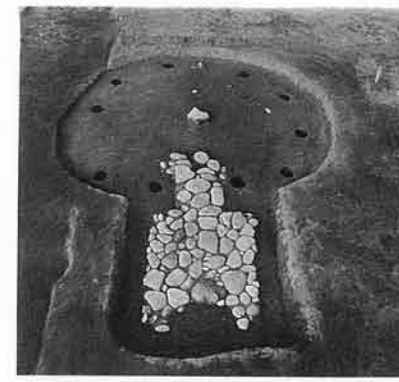
132H-16

126号・131号・132号住居址出土遺物(1)

132H-13



132H-15

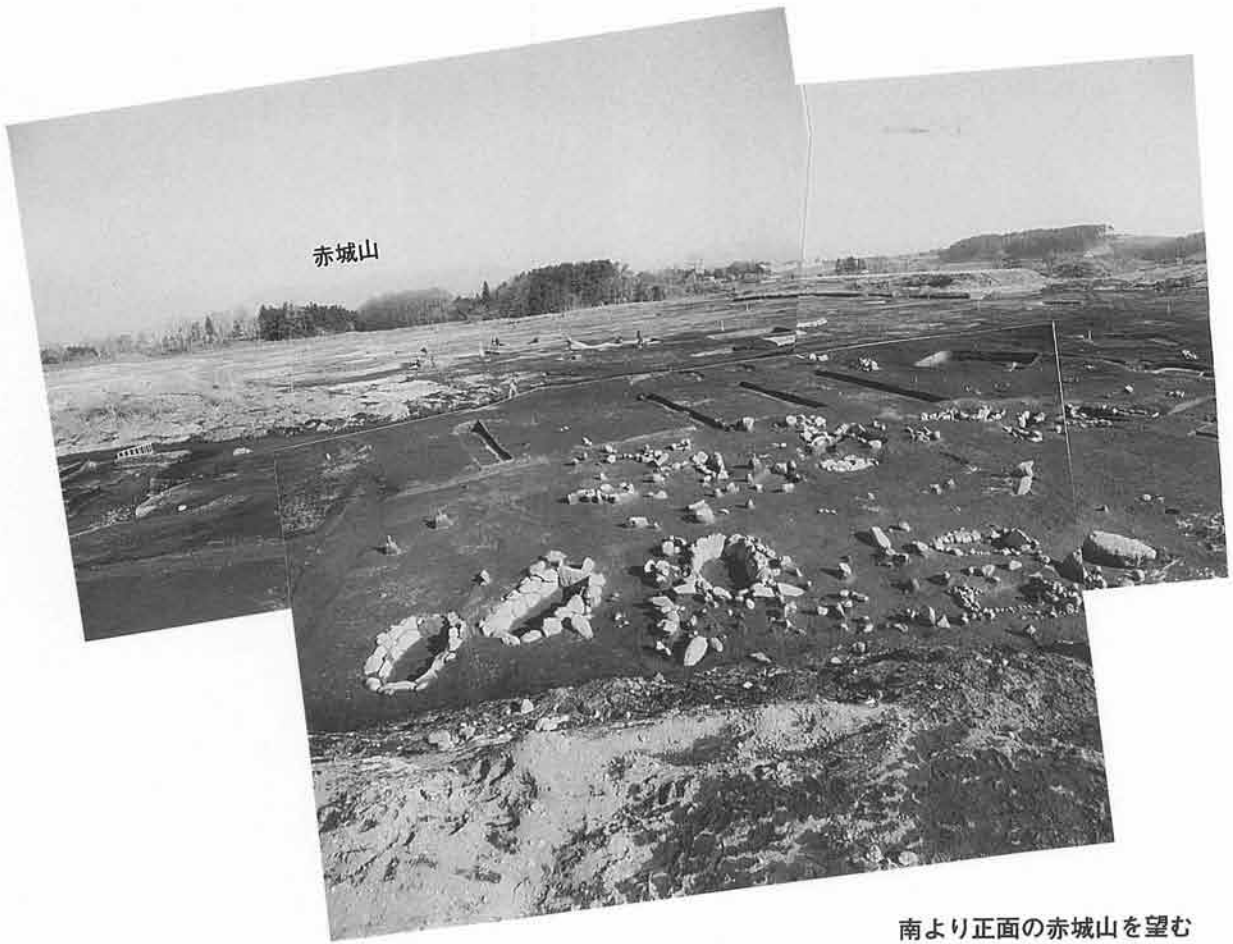


132H　本頁の多孔石は敷石に使用されたものである。

132号住居址出土遺物(2)

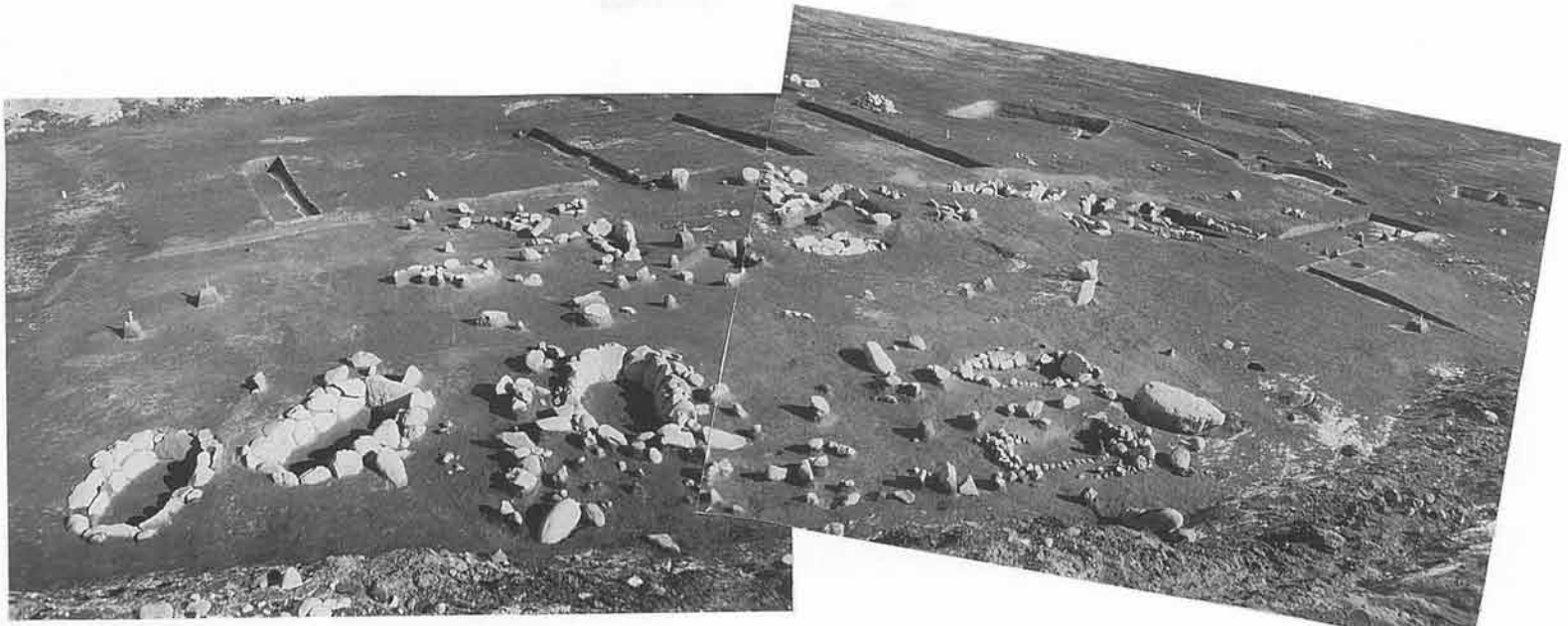
配石遺構全景

1号配石遺構（立石　3基検出）



南より正面の赤城山を望む

配石遺構全景(1)



配石遺構全景(2)

調査工程の関係で上記の遺構調査の頃は１号配石は残土に埋もれている。
ちょうど下記の位置で検出されている。

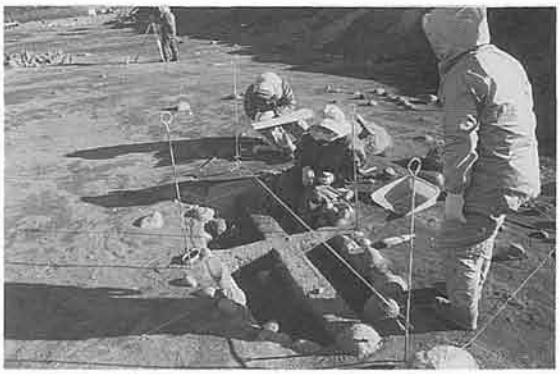
１号配石

図版44　縄文時代配石遺構調査状況

配石群確認状況

配石群発掘風景（下部配石）④

配石群発掘風景（上部配石）①



7号配石実測風景（セクション）(下部配石)

配石群発掘風景（上部配石）②

配石群実測風景（下部配石）

配石発掘風景（上部配石）③

調査終了状況（埋め戻し保存）

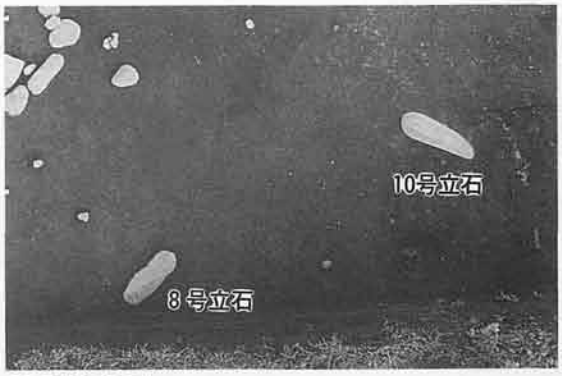
1号立石　1号配石

2号立石

3、4号立石

5号立石

6号立石　16号配石



8、10号立石

7、9号配石上面

13号立石　8号配石

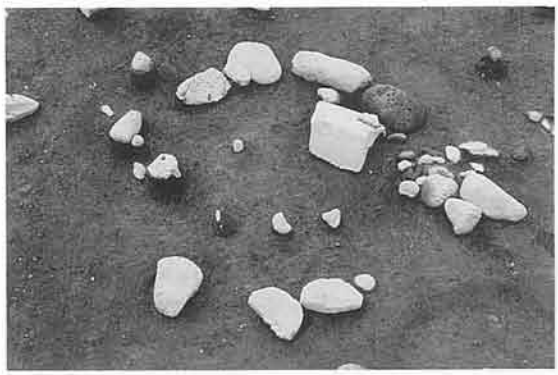
15号配石

15号配石

15号配石

16号配石

下部配石全景

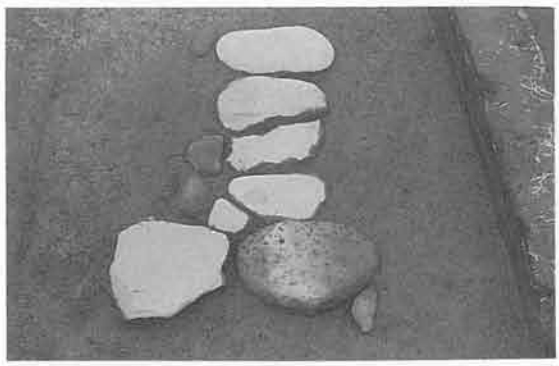


1 号配石

1 号配石遺物出土状況

2 号配石

2 号配石掘り方

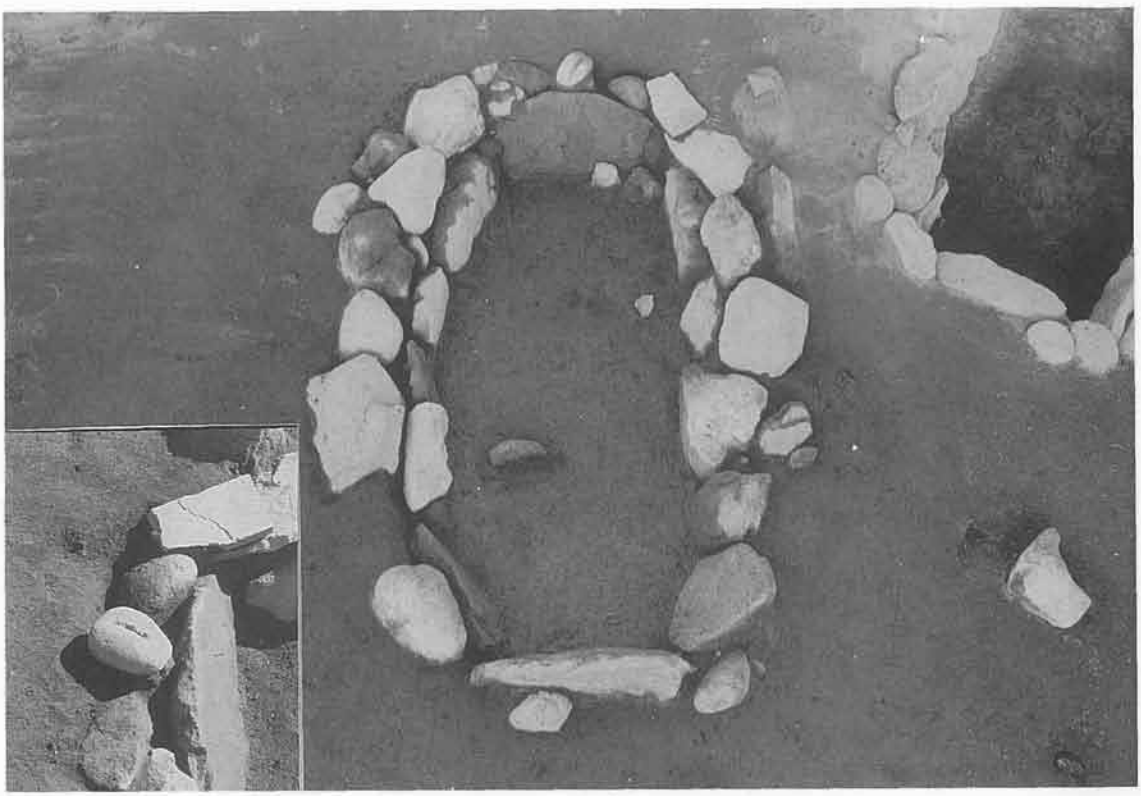


3 号配石

3 号配石掘り方

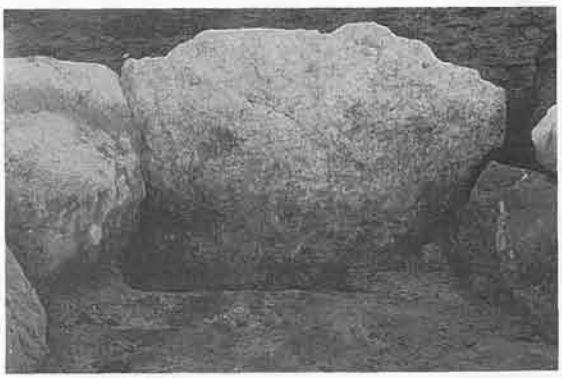
4 号配石

4 号配石遺物出土状況



4号配石遺物出土状況　　4号配石全景

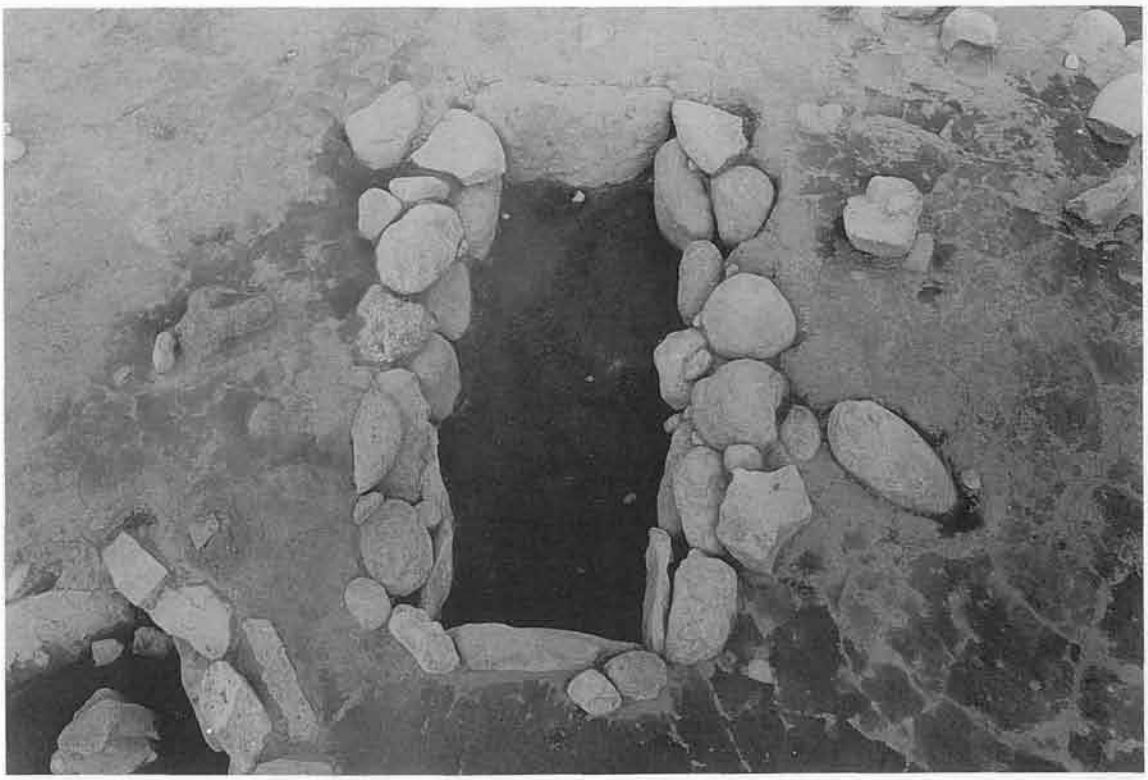
同　北側側石



同　南側側石

同　東側側石

同　西側側石



5号配石

5号配石側面（北側）

5号配石側面（南側）

5号配石側面（東側）

5号配石側面（西側）

6 号配石確認状況

6 号配石検出状況

6 号配石側石（北）

6 号配石側石（南）

6 号配石側石（西）

6 号配石側石（東）

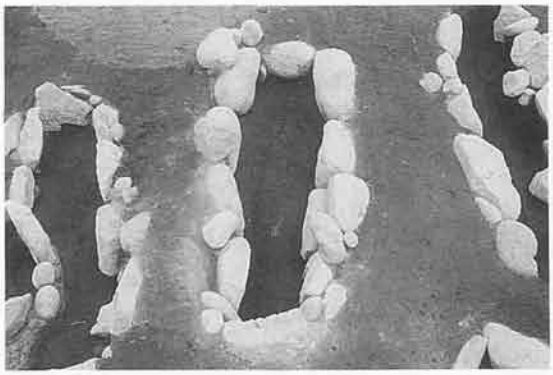
6 号配石セクション

同　（東）多孔石近影

7号配石

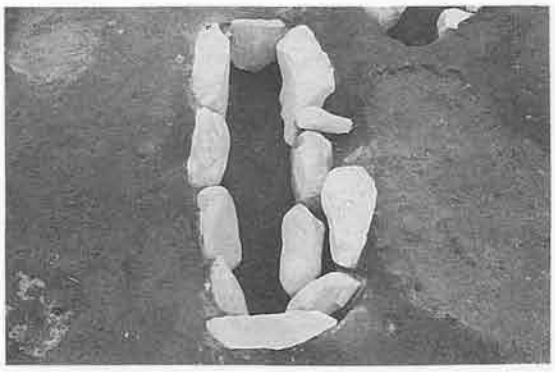
同　配石北東隅遺物出土状況

9号配石蓋石検出状況



9号配石

10号配石蓋石検出状況

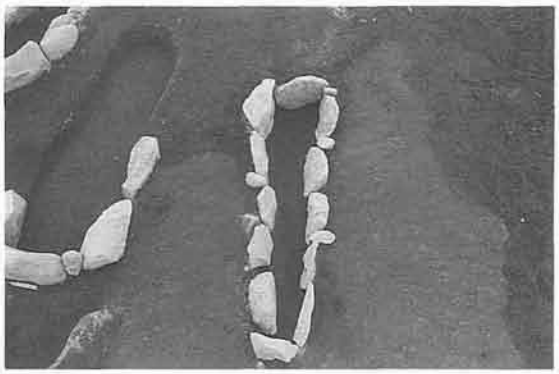


10号配石

11号配石蓋石検出状況

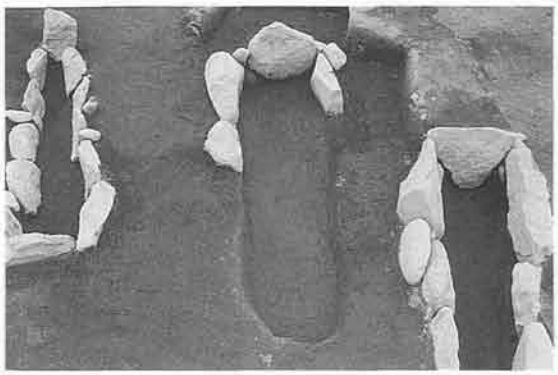
11号配石

12号配石蓋石検出状況



12号配石

13号配石蓋石検出状況

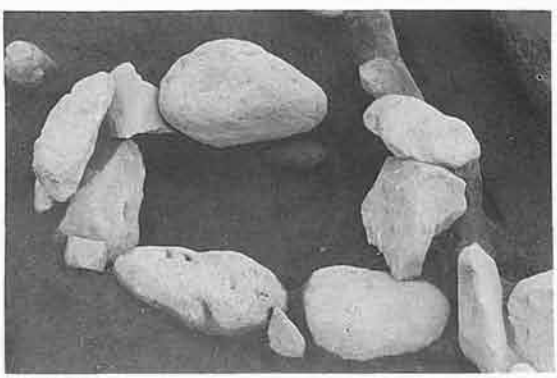


13号配石

14号配石蓋石検出状況

14号配石

17号配石蓋石検出状況



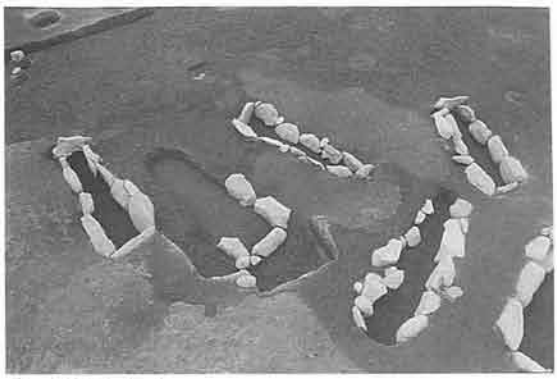
17号配石

18号配石蓋石検出状況

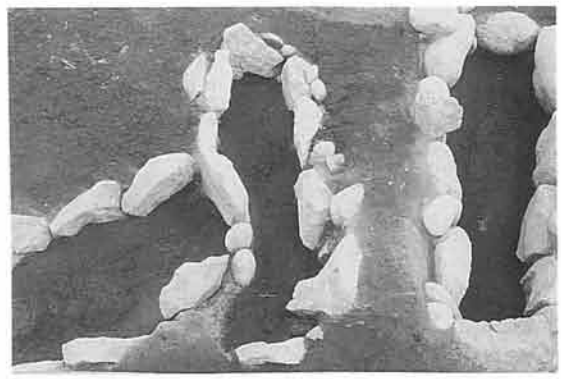
18号配石

20号配石

21号配石



21～22号配石



22号配石

23号配石蓋石検出状況

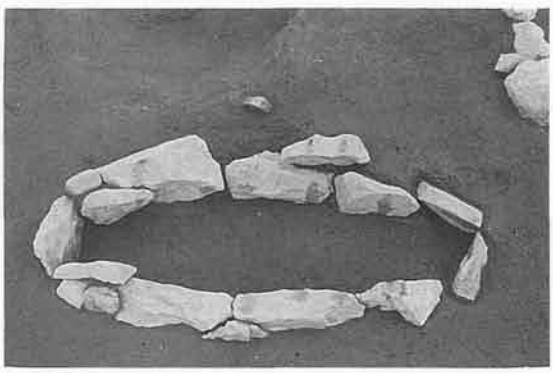
23号配石遺物出土状況

23号配石遺物出土状況

23号　同　遺物出土状況

23号配石掘り方確認状況

23号配石（蓋石除去）



24号配石

同　遺物出土

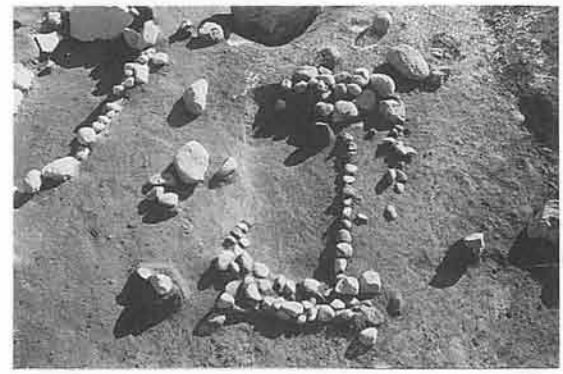
25号配石

25号配石遺物出土状況①

25号配石遺物出土状況②

25号配石遺物出土状況 ③

3、4号立石検出状況



26号配石検出状況（3、4号立石の下より検出）

W—グリッド内　8号埋甕、27号配石検出

1号集石検出状況

2号集石検出状況

同　発掘風景

三角壌形土製品

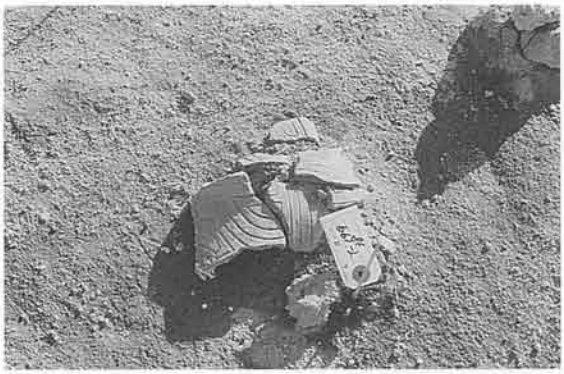
1号配石―1

配石遺構内出土遺物

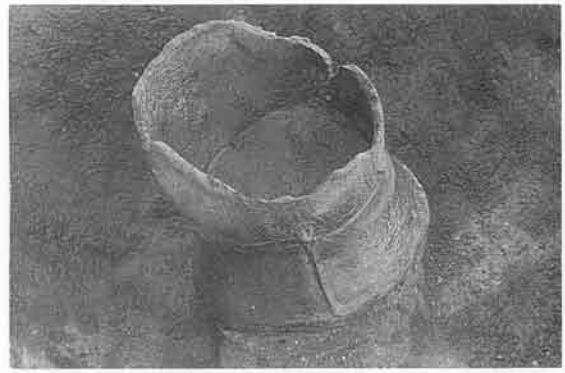
図版57　縄文時代配石群周辺グリッド内出土遺物出土状況

Y—24グリット遺物近影

5号配石付近Z—18G



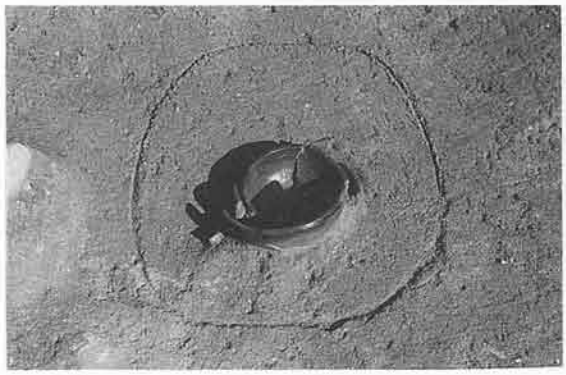
Y—19G



14号配石Y—19G（内）（南）

R—18G

12号配石Y—19G南西付近遺物出土



Z—18G

Y—18G

図版58 縄文時代

Y-17G-20

Y-18G-7

ITb-28

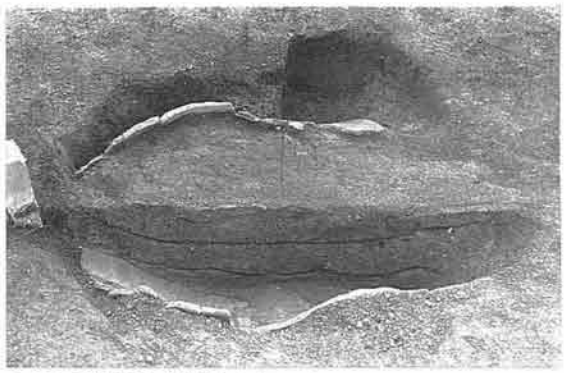
Z-23G-226

Y-18G-18

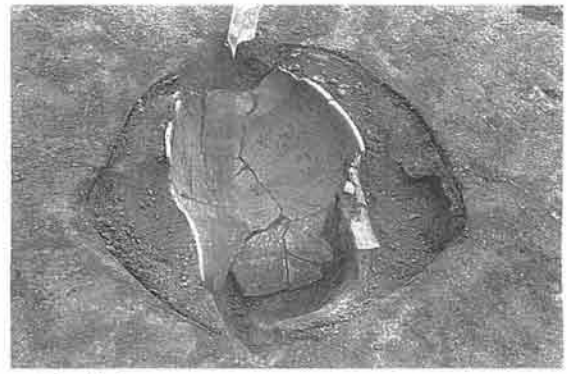
配石遺構周辺グリッド内出土遺物

1号屋外埋設土器セクション

同　検出



2号屋外埋設土器セクション



同　検出

3号屋外埋設土器セクション

同　検出

4号屋外埋設土器セクション

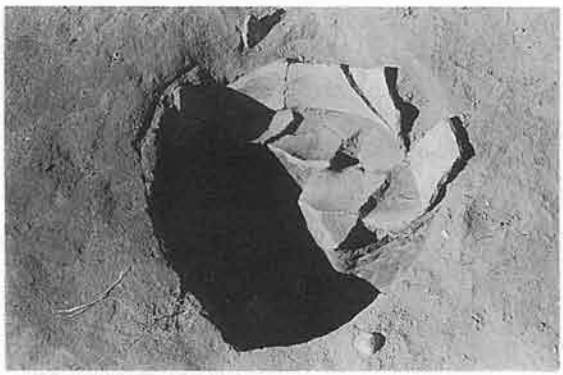
同　検出

5号屋外埋設土器セクション

同　検出

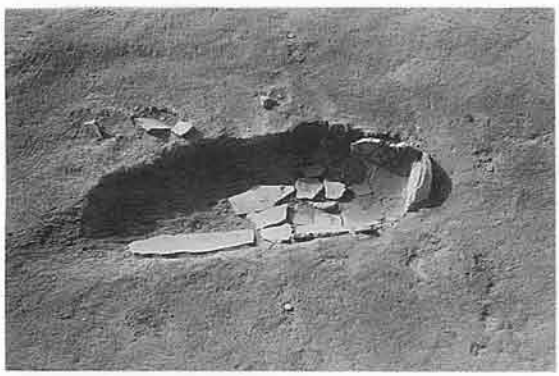
6号屋外埋設土器セクション

7号屋外埋設土器セクション

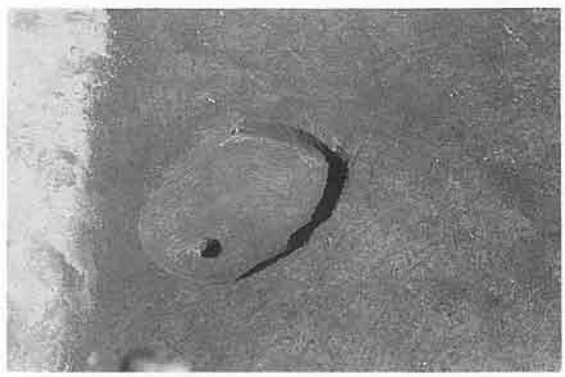


7号屋外埋設土器検出

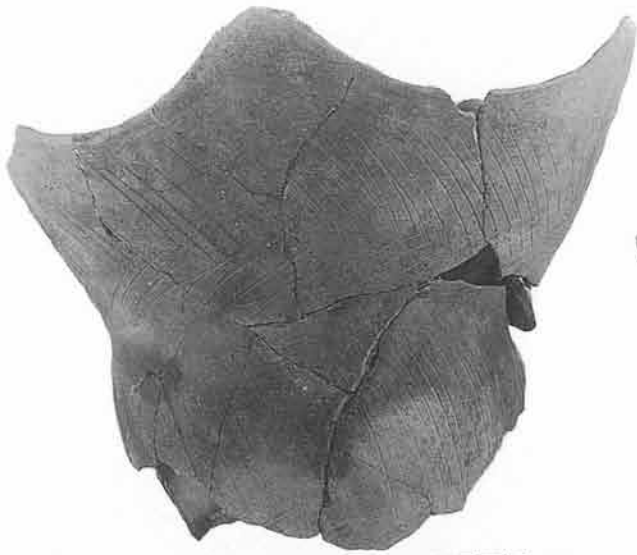
8号屋外埋設土器検出



9号屋外埋設土器検出



30号土坑検出状況

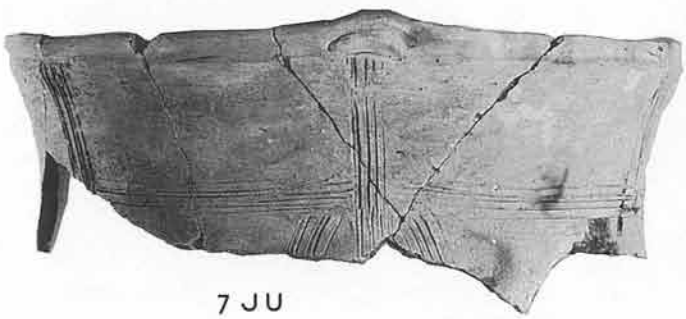


25号配石-77

3 JU-1

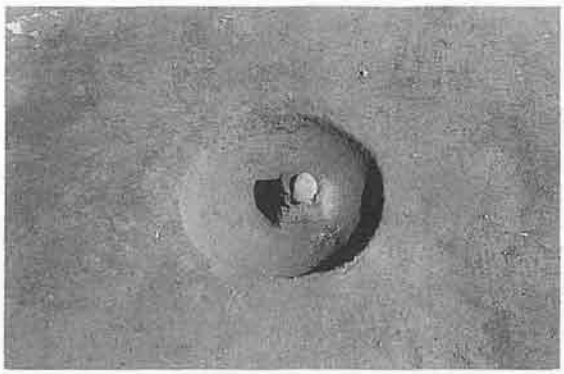
9 JU

5 JU



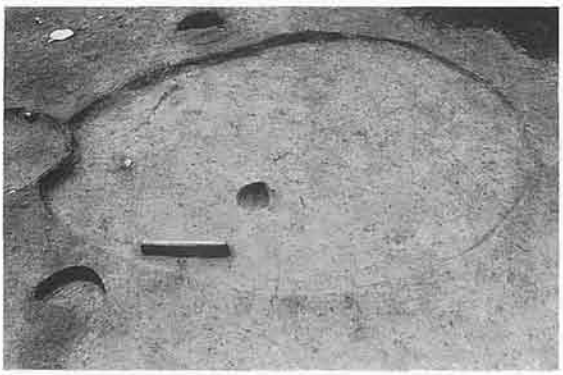
7 JU

配石遺構出土遺物・屋外埋設土器

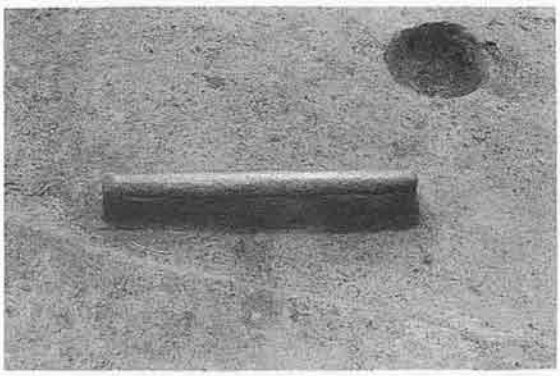


39号土坑

105号土坑



146号土坑



同　遺物出土近影

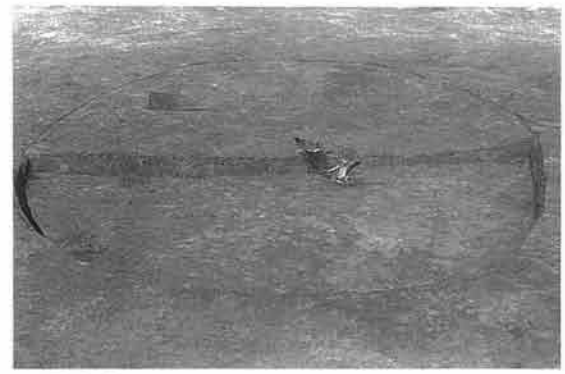
225号土坑セクション

同　検出

223号土坑

346号土坑

367号土坑

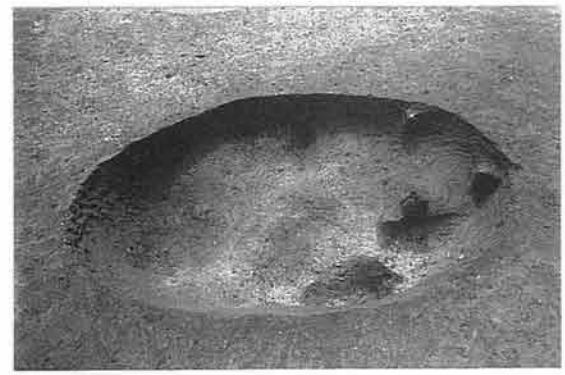


115号土坑 セクション

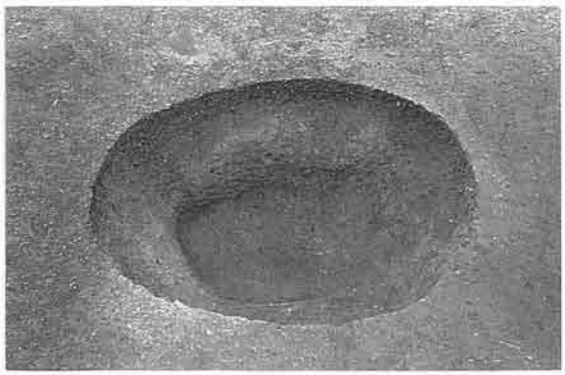
115号土坑

同　遺物出土近影

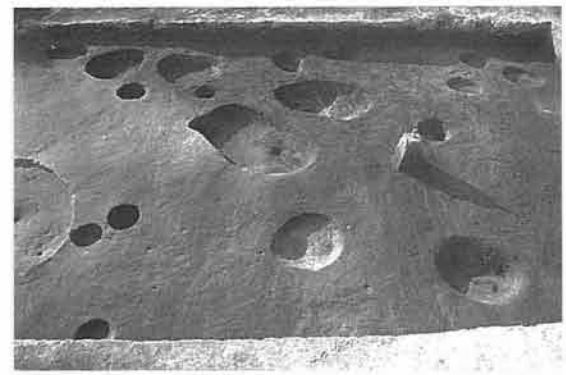
198号土坑



186号土坑



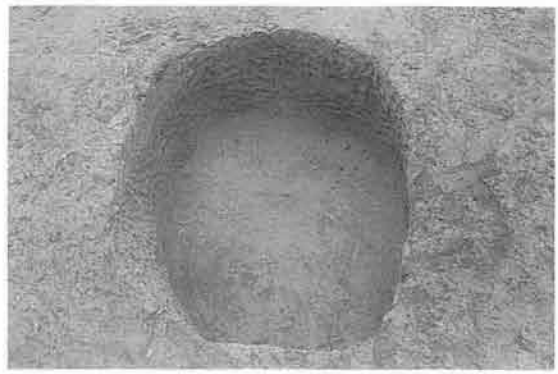
328号土坑



386号～403号土坑

図版64　縄文時代

58号土坑



59号土坑

87号土坑

156号土坑

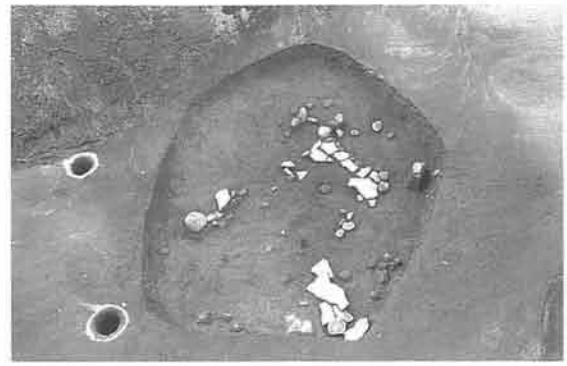
166号土坑

181号土坑

355号土坑

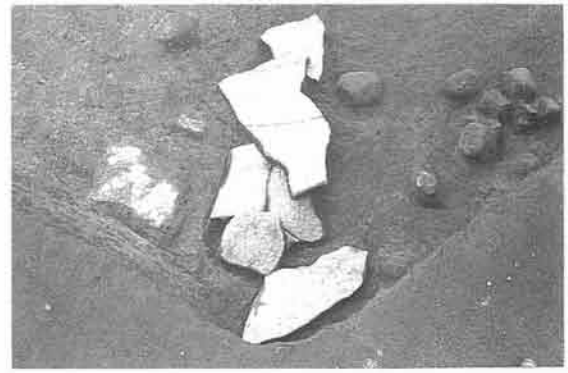
382号土坑

405号土坑遺物出土状況

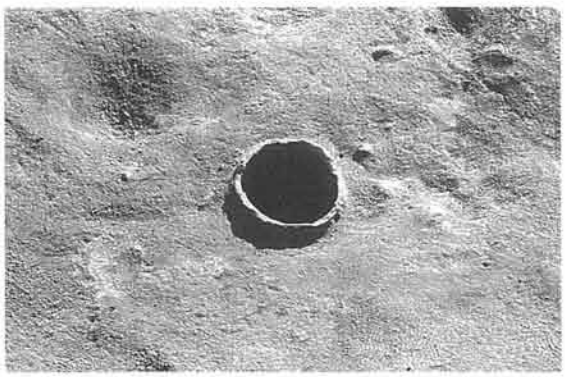


405号土坑検出　東→

同　土坑内敷石近影　北→



同　土坑内敷石近影　北→



同　土坑内埋甕検出状況　西→

同　掘り方確認　西→

同　掘り方　東→

同　敷石除去後全景　東→

図版66　縄文時代

2 D-1

8 D-M-14

226 D-202

355 D-203

355 D-373

405 D内埋甕 31

土坑内出土遺物

405D-15

405D-12

405D-14

土坑内出土遺物

No.3 トレンチ

No.7 トレンチ
土製円盤

トレンチ内出土遺物

146D -44

8 D-M-14

21 D-N-15、16

21 D-N-15、16

32D -M-12

33D -N-16

35D -N-20

133D -41

177D -81

203D -142

213D -152

218D-157

土坑内出土石器

3号溝（河川址全景）

3号溝（河川址）セクション

3号溝（河川址）東→

北部土石流検出状況　北西→

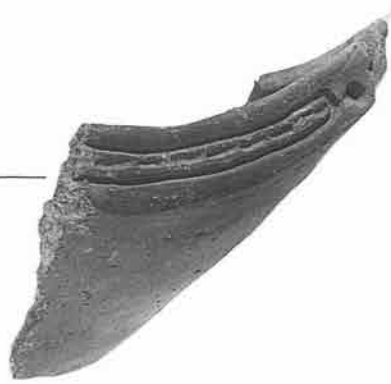
同　北→

3号溝 175

3号溝194

3号溝92

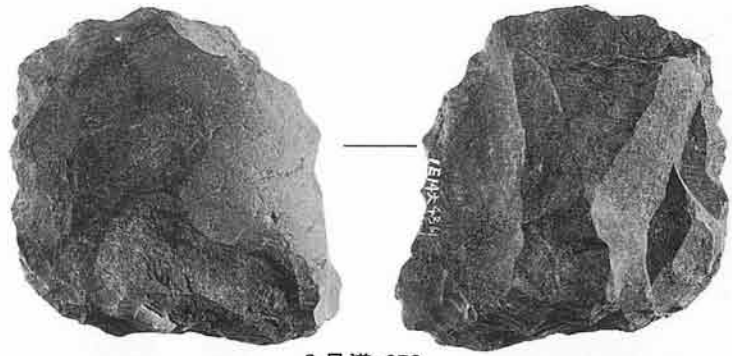
3号溝135



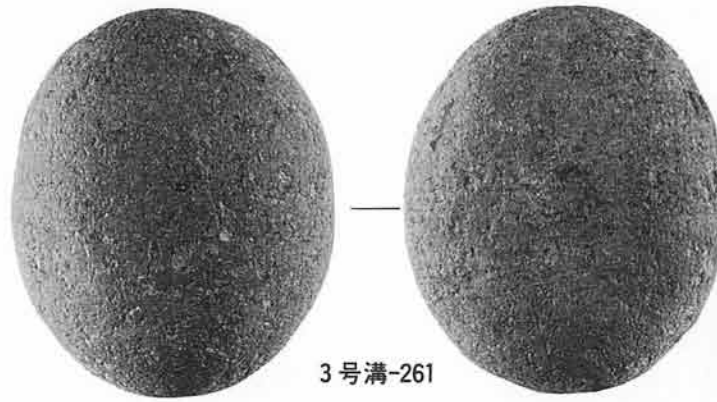
3号溝195

溝出土遺物(1)

3号溝-263



3号溝-252



3号溝-261

3号溝-253

3号溝-274

3号溝-266

3号溝-250

3号溝-257

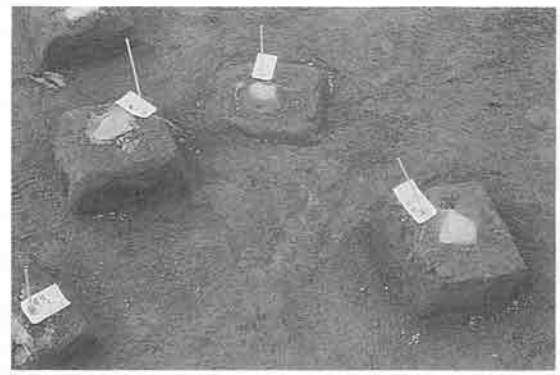
3号溝-271

3号溝-267

溝出土遺物(2)

図版72　縄文遺物包含層調査状況

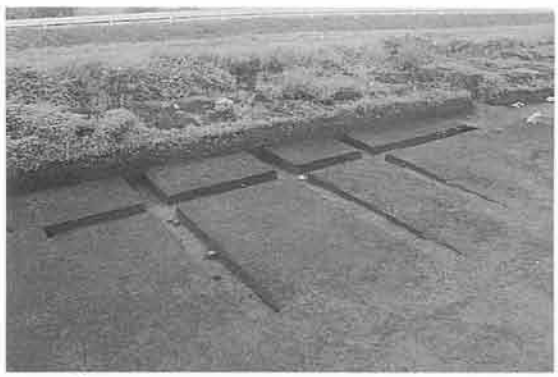
L-31グリッド



同　遺物近影

W-13グリッド

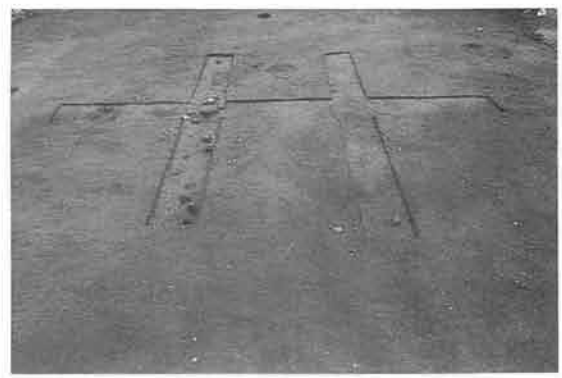
同　遺物近影



Y-15グリッド

同　遺物近影

Y.Z-15・16グリッド



b.c-23グリッド

D-10G-3

b-23G-7

b-21G-5

L-16G-8

NTY-25G-224

M-11G-4

O-12G-2

K-21G-6

b-23G-1

d-27G-170

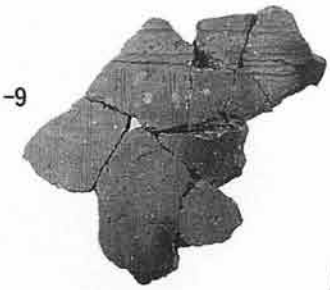
MトY-25G上-230

Hトd-28G-10

W-20G-15

T-23G-14

L-31G-9


HトY-26G上-12

20

Hトb-28GF-13

Y-24G下-11

21

41

Z-25G-41

グリット内出土遺物①

図版74

ATV11G下-424

H1-24G下

CTV-15G75-630

18W-17G-607

X-13G-688

C1-W-15G-2-151

M1-Y-27G上-636

1 E14大 611

Y-19G-13 602

Y17G-7 606

X-16G-2 601

21 X-14G 599

21 X-14G 593

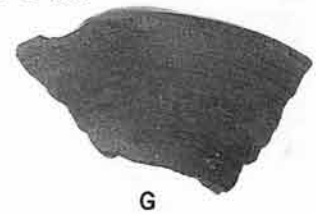
Y-16G-5 605

Y-17G-9
603

Y-17G-10 604

Y-17G-20 603

Y-17G-48 595


G

Y-19G

X-17G

C23G-2

W-12G-3 352

W-12G-5

W-12G-6

W-12G-8

Y-22G 281

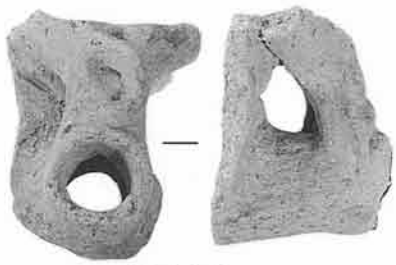
Y26G 594

b-23G

b-23G 410

U-22G

図版76　縄文時代



25G-653

Z19G-101-652

25G

25G-647

28G

U-26G-643

W-15-639

U-22G-624

C-25G-9-647

Z-19G-641

表採

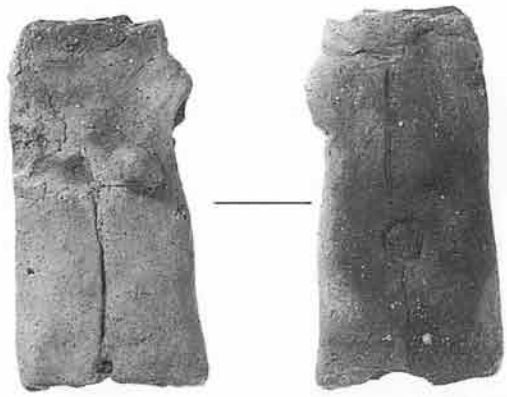
C-26G

W-13G-587
（新地式）

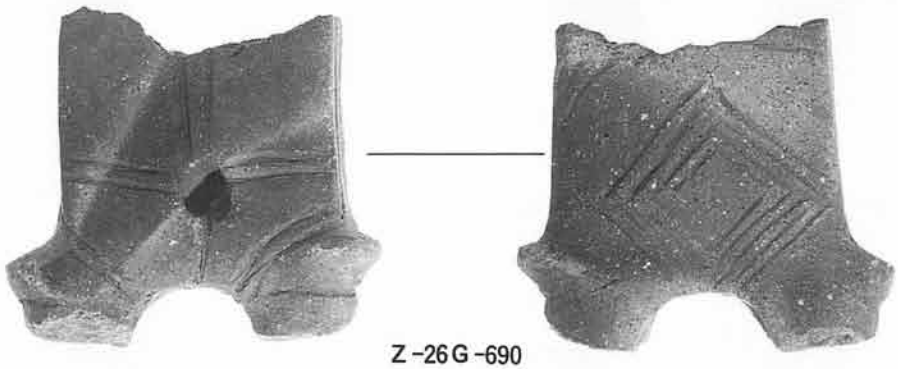
Y-17G-649

グリット内出土遺物④

Y-24G-691



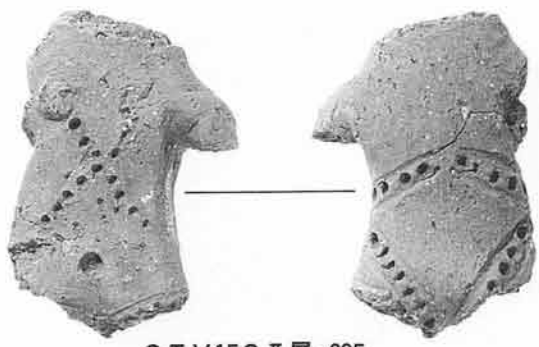
Y26G-696



Z-26G-690

MTa-26G上-693

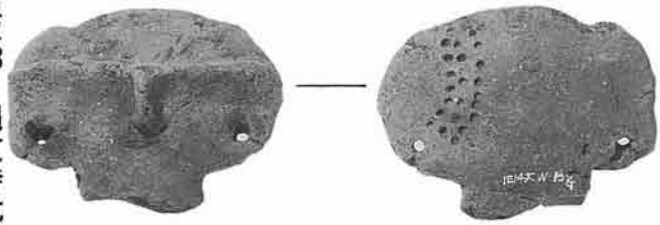
Y-18G



CTV15GⅡ層-695

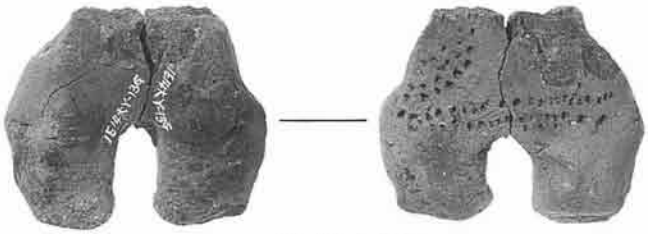
グリッド内出土遺物⑤

図版78 縄文時代



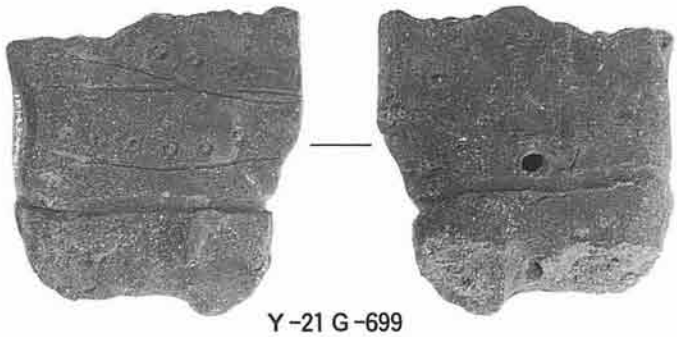
W-13 G -693

2 W-P 11- G -696



Y -13 G -697

W-16 G -704



Y -21 G -699

W-15 G -692

Y -23 G 698

Z -20 G -703

a -21 G -701

184 D

702

グリッド内出土遺物⑥

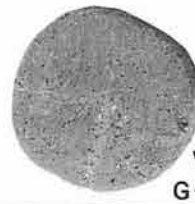
Y-19G-671

HトS-26G上-670

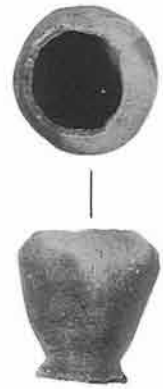
Aト-673

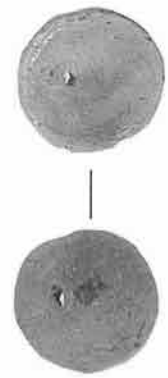
V-12G-667

Z-26G-668
土器片転用土製円盤

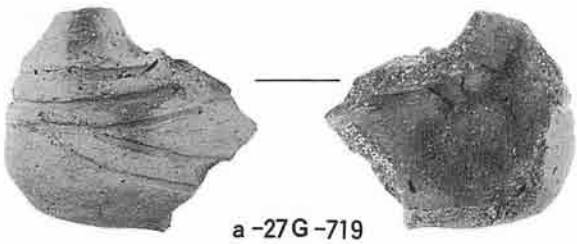

W-15
G-672

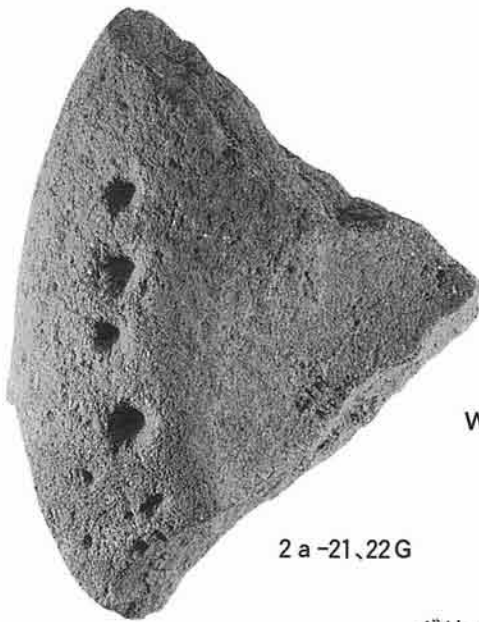
X-19G-720


715


716

W-13G-713


a-27G-719


2a-21、22G

W-15G-706

W-19G-117

A-27G-712

X-20G-708

図版80　縄文時代

表採-760

表採-746

表採-772

表採-758

表採-841

表採-801

表採-762

表採-821

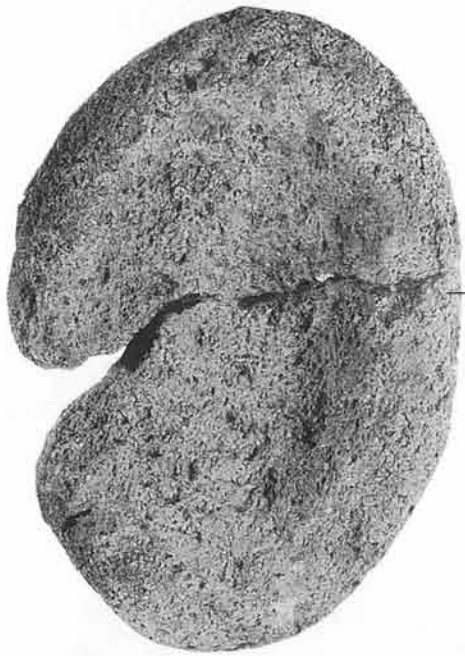
表採-823

表採-758

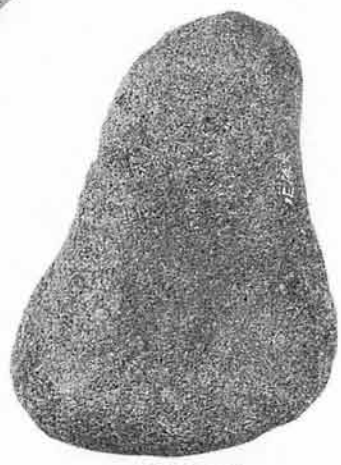
表採-799

グリッド内出土遺物⑧

表採-903



表採-858



表採-882

表採-889

図版82　縄文時代

表採-885

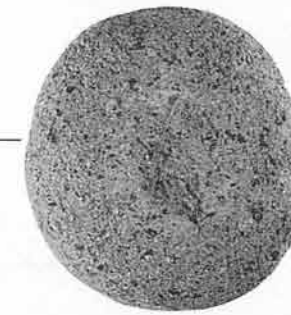
表採-886

表採-887

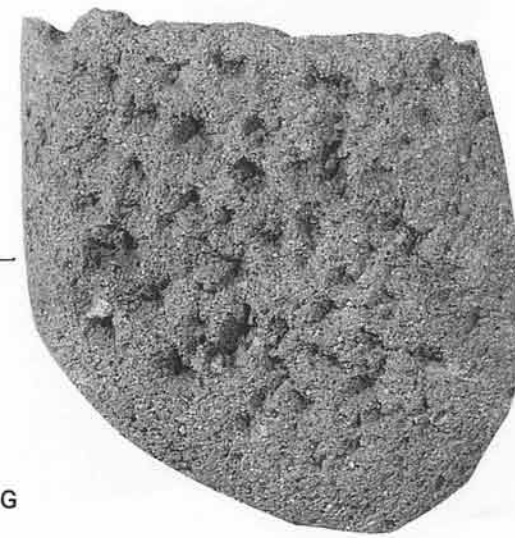
表採-888

表採-890

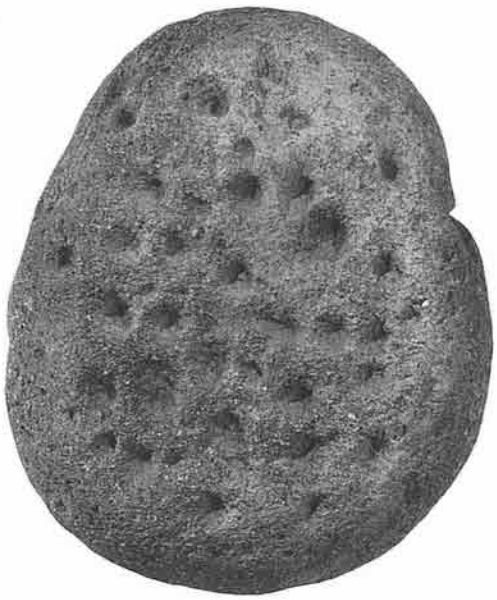
X-17G-871

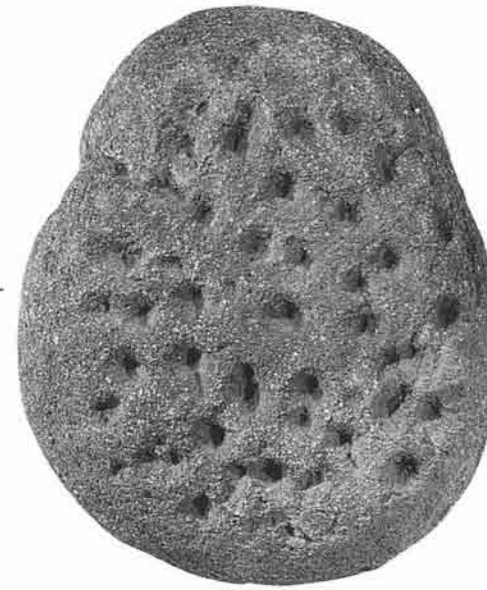


X-17G



X-18G





X22G-914

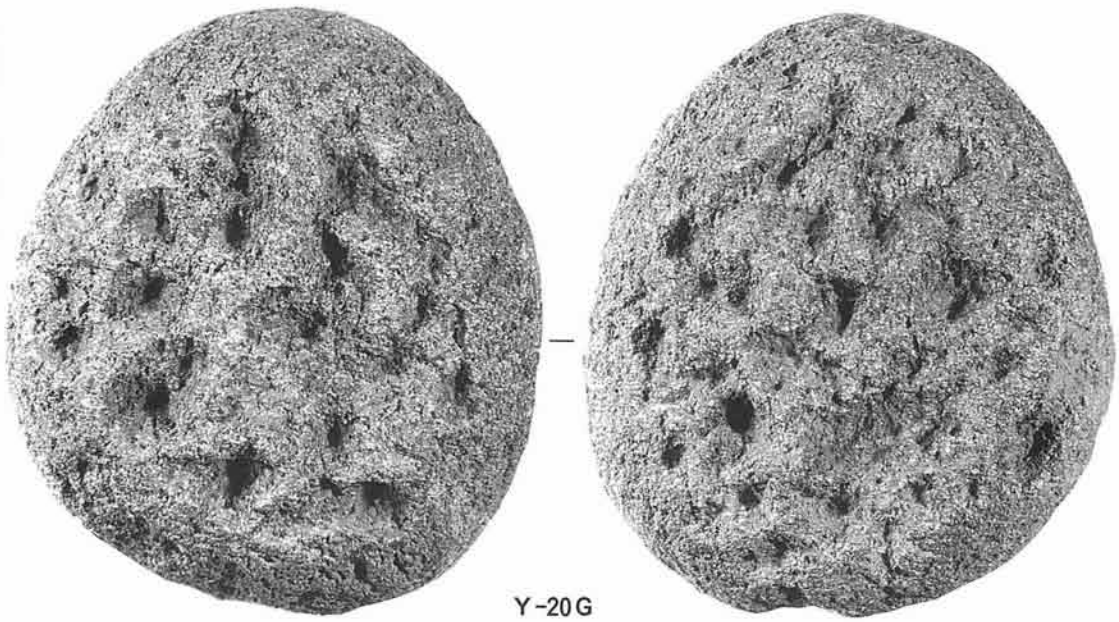
P-16G-849

W-13G-826

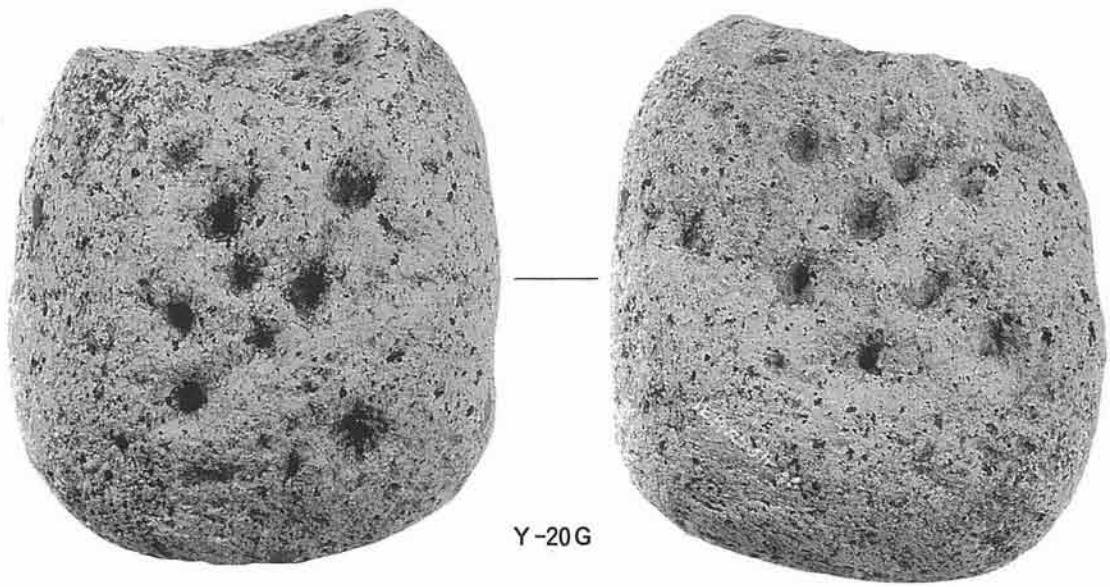
W-13G-842

W-21G-892

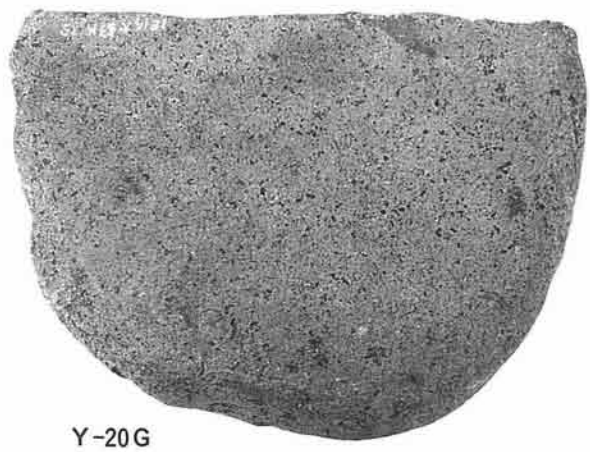
W-15G-893



Y-20G

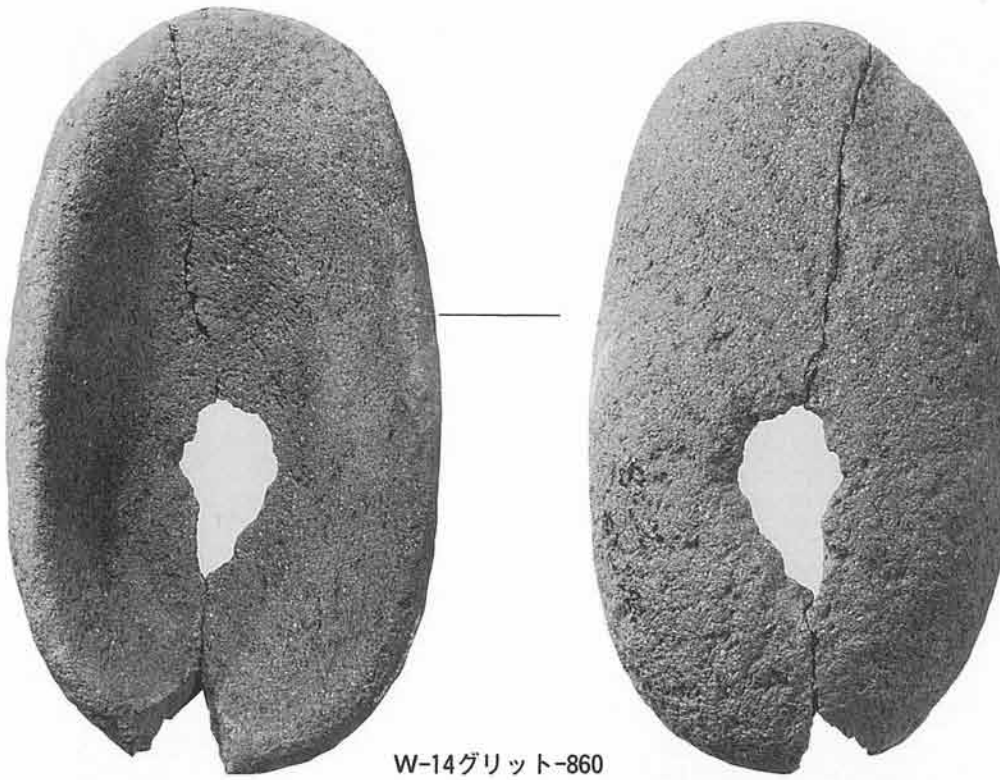


Y-20G



Y-20G

グリッド内出土遺物⑫



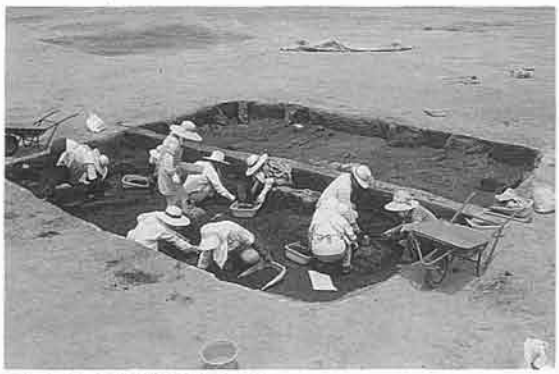
W-14グリット-860

d-28G-827

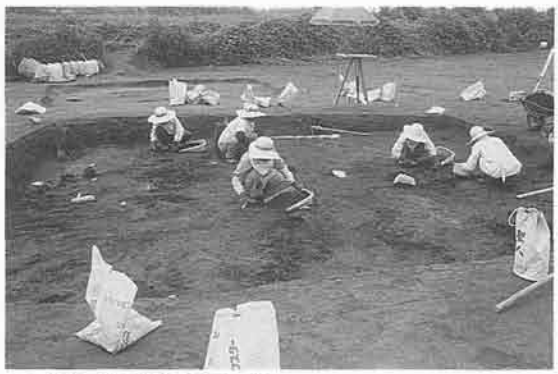
X-25 グリッド　　1号集石-19

グリッド内出土遺物⑬

図版86　古墳時代住居址・歴史時代溝発掘作業風景



26号住居址発掘風景　南→



26号住居址発掘風景　北→

実測風景（6号住）奥南東→発堀作業風景（4号住手前）

96号住居址発掘風景　北東→

1号住居址カマド・貯蔵穴調査状況　南西→

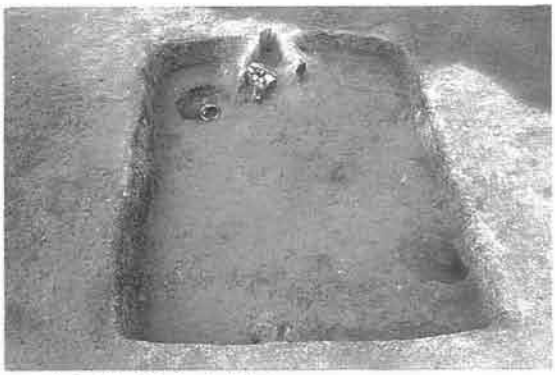
88号住居址・2号溝発掘風景　西→

91号住居址床下調査状況　南→

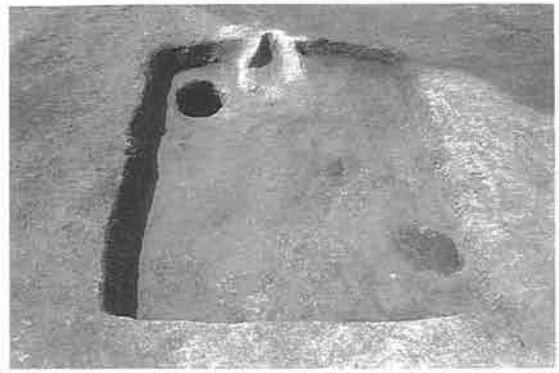
1号溝調査状況　北→

1号住居址

1号住居址カマド



2号住居址遺物出土状況

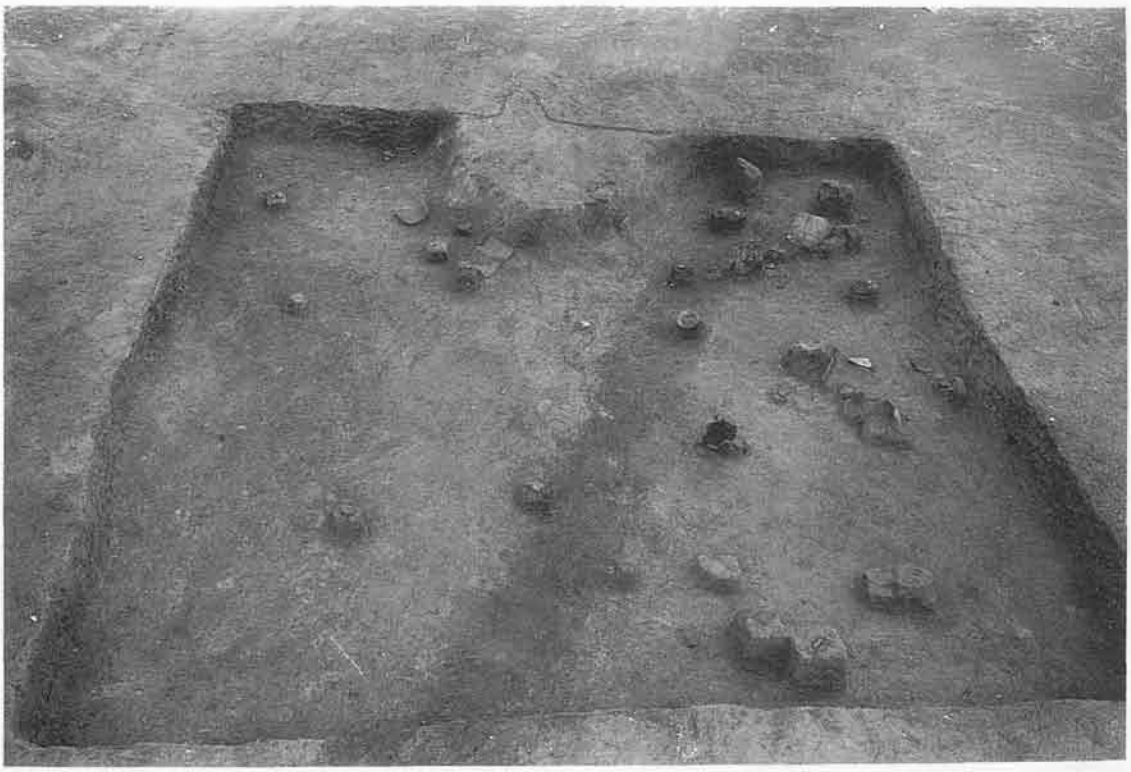


2号住居址

6号住居址遺物出土

2号住居址遺物出土近影（左、右）

6号住居址



3号住居址遺物出土状況

カマド付近遺物出土状況

同　遺物近影

同　遺物出土状況

貯蔵穴内遺物出土状況

3号住居址全景

カマド内遺物近影

同　1番遺物除去状況

同　2番遺物除去状況

同　3番遺物除去支脚検出

4号住居址全景

4号住居址カマド

4号住居址カマドセクション

5号住居址

7号住居址

8号住居址遺物出土状況

8号住居址

9号住居址遺物出土状況

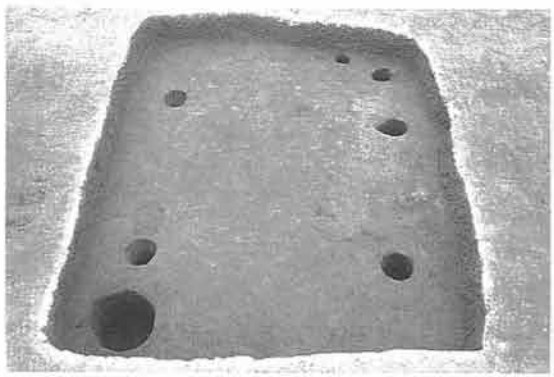
9号住居址

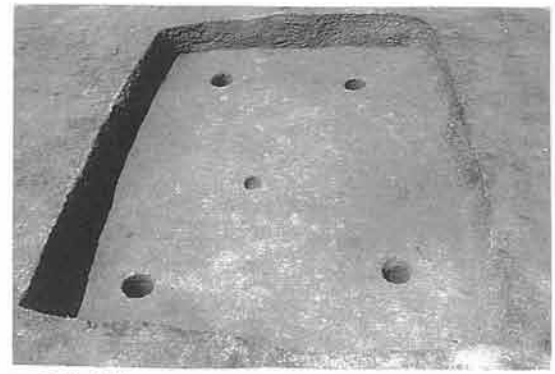
11号住居址遺物出土状況

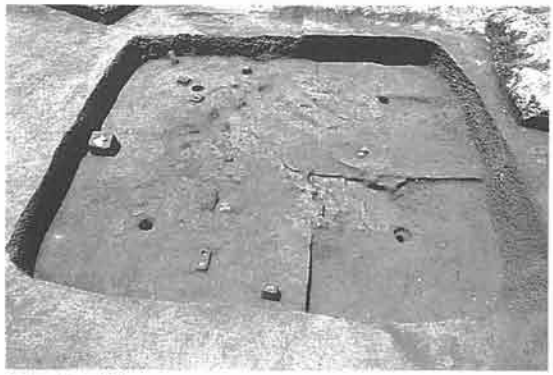
11号住居址

12号住居址遺物出土状況

12号住居址遺物近影


12号住居址

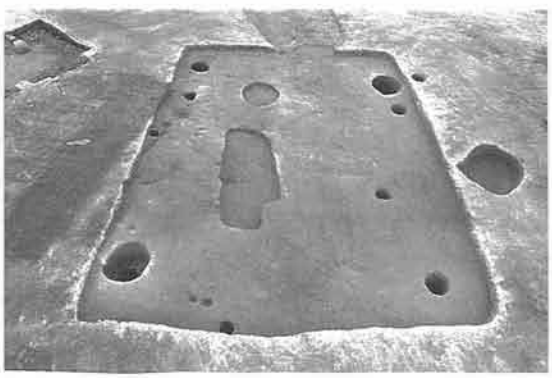

13号住居址

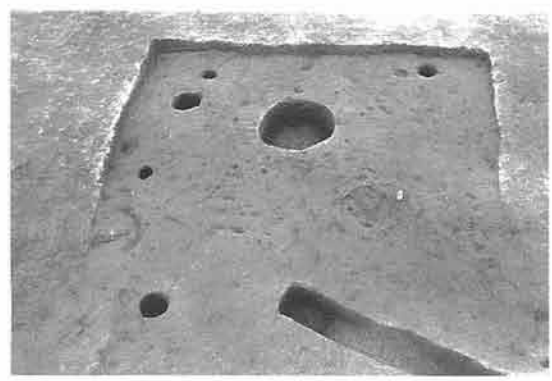

16号住居址

16号住居址遺物出土近影

16号住居址貯蔵穴内遺物出土状況

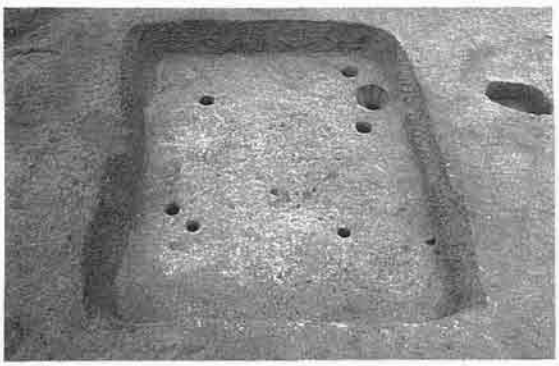
17号住居址遺物出土状況


17号住居址


18号住居址

19号住居址遺物出土状況

同　遺物出土近影



19号住居址

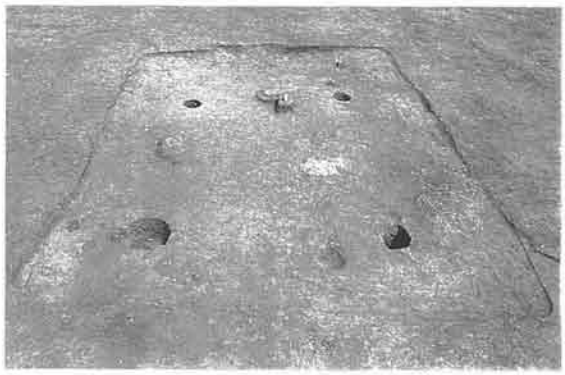
20号住居址

21号住居址

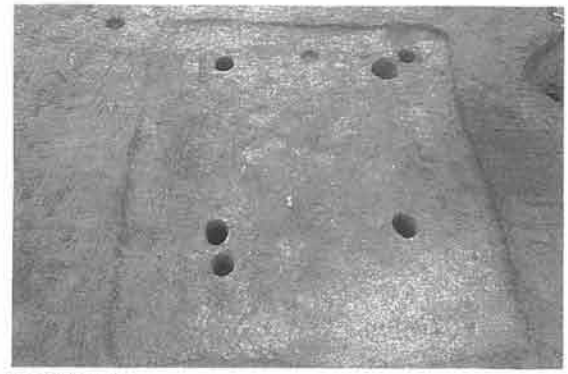
22号住居址遺物出土状況

22号住居址

22号住居址

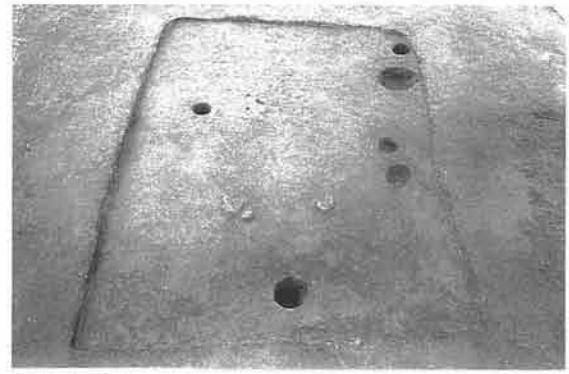


22号住居址



23号住居址

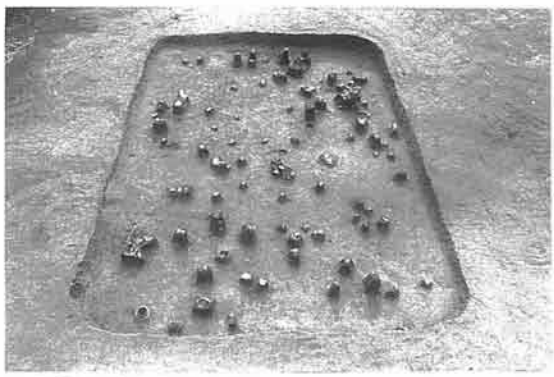
24号住居址



25号住居址

26号住居址遺物出土状況

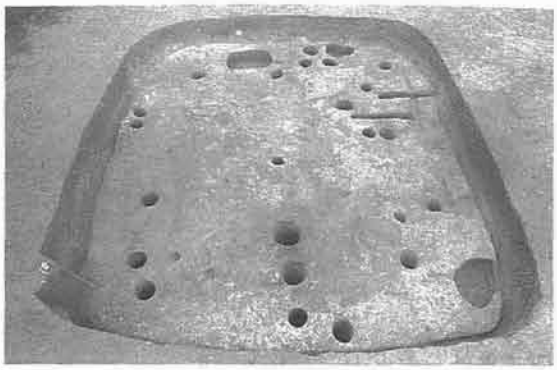
同　検出



27号住居址遺物出土状況

同　検出

36号住居址遺物出土状況



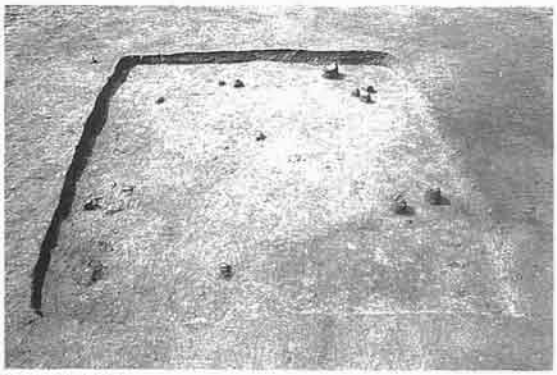
36号住居址

37号住居址遺物出土状況

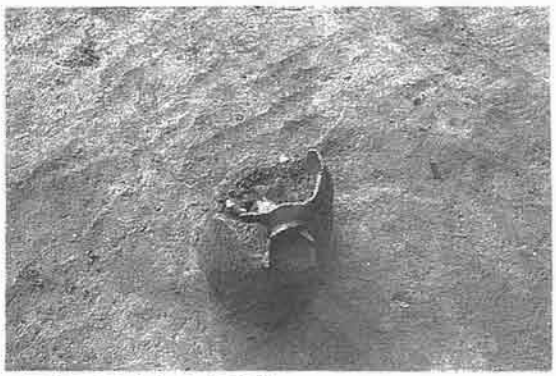
37号住居址

38号住居址

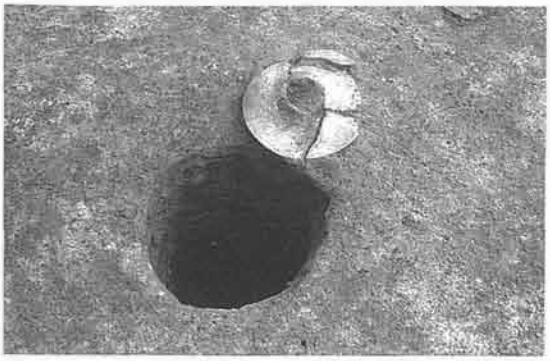
38号住居址遺物出土近影



39号住居址

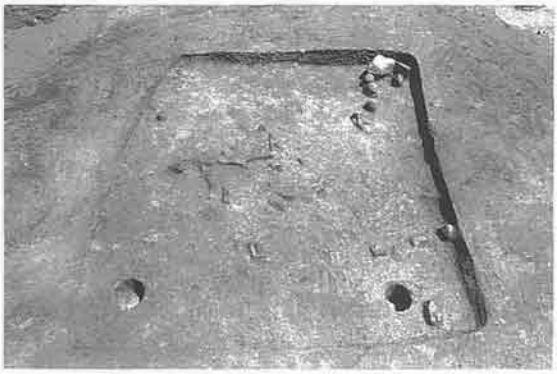


39号住居址遺物出土近影



40号住居址遺物出土状況

41号住居址

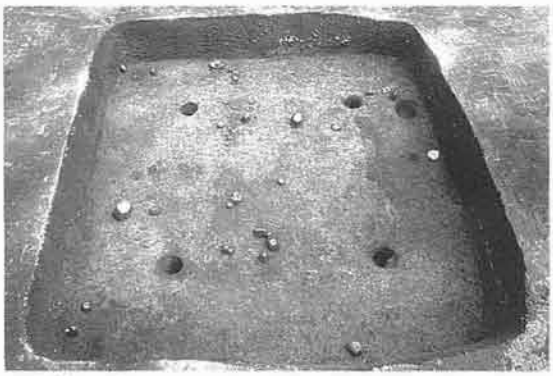


42号住居址

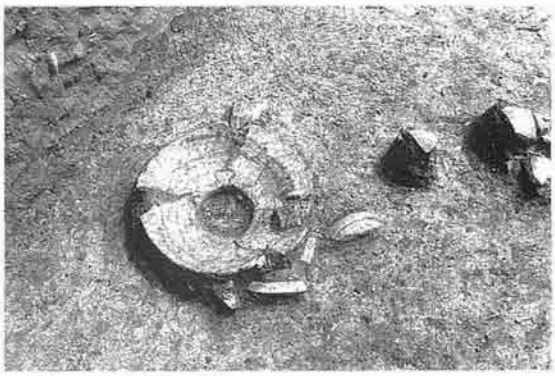
42号住居址遺物出土状況

42号住居址遺物出土状況

46号住居址



47号住居址

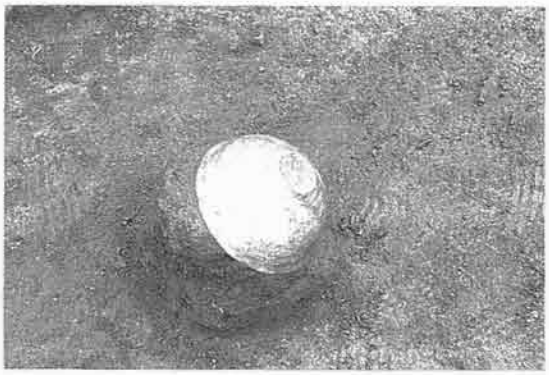


47号住居址遺物近影

47号住居址遺物出土状況

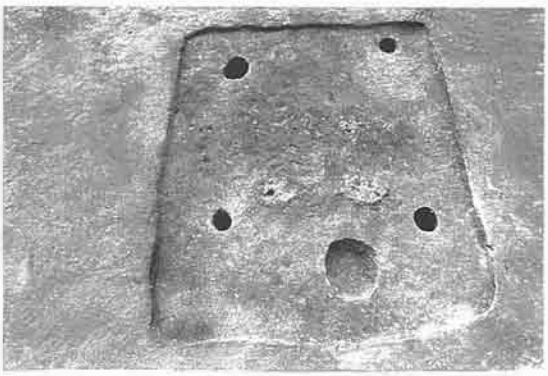
48号住居址

48号住居址貯蔵穴内遺物出土状況



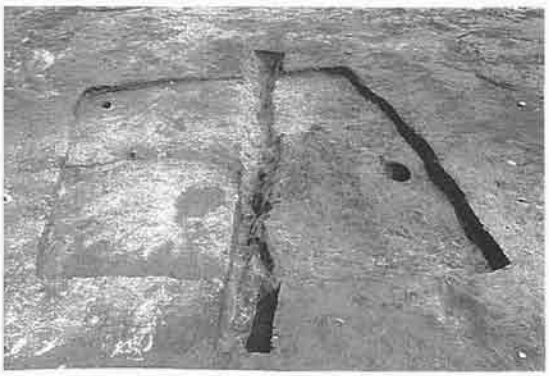
同　遺物出土近影

48号住居址遺物出土近影



49号住居址

50号住居址遺物出土近影



50号住居址

54号住居址セクション

同　遺物出土状況（1）

同　遺物出土状況（2）

同　遺物近影

同　遺物近影

同　遺物近影

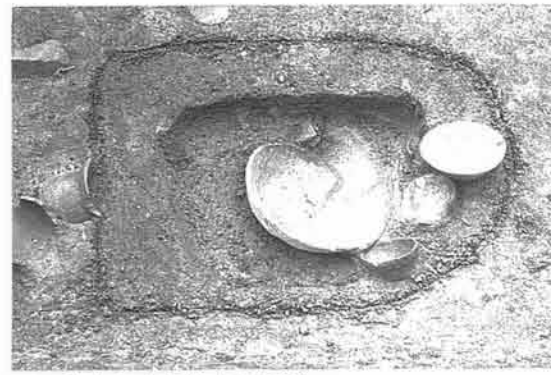
同　遺物近影

同　遺物近影

55号住居址

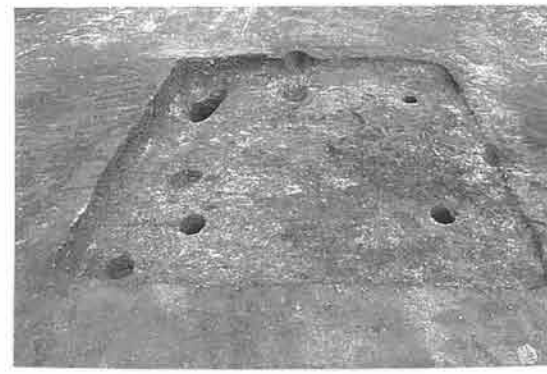
55号住居址

56号住居址遺物出土状況

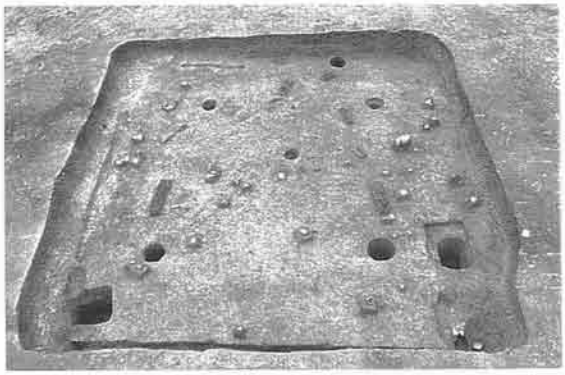


同　貯蔵穴内遺物出土近影

56号住居址遺物出土近影

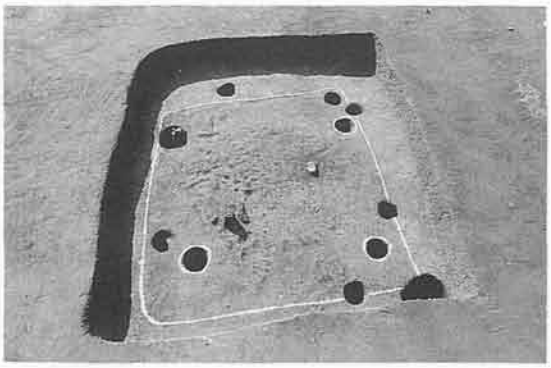


56号住居址

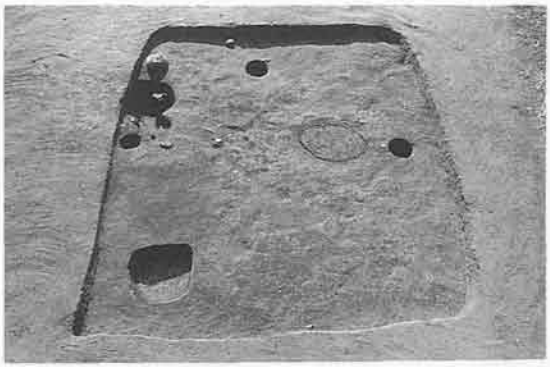


57号住居址

同　遺物出土近影



60号住居址



61号住居址遺物出土状況

61号住居址遺物出土状況

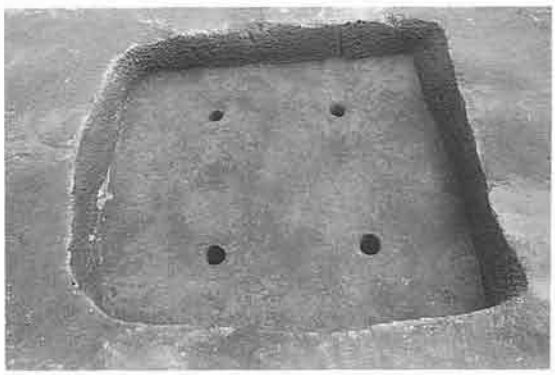
66号住居址完掘

66号住居址

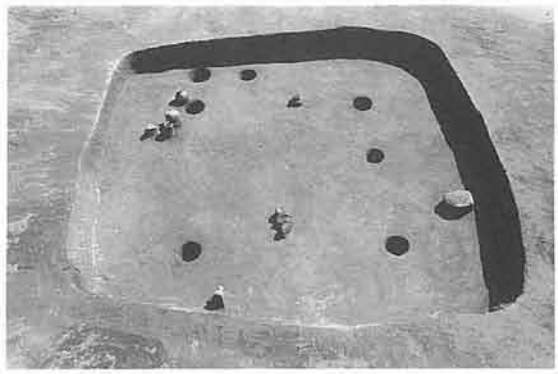
66号住居址同カマド近影

66号住居址、カマド内遺物近影

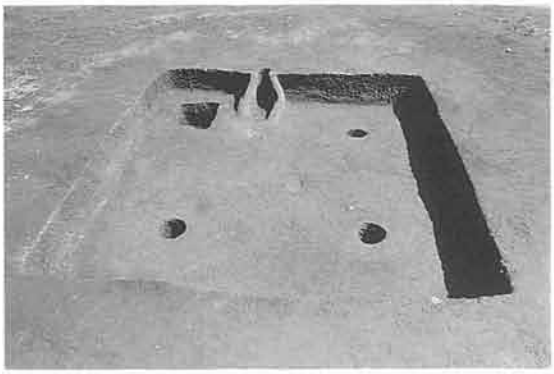
67号住居址



68号住居址



69号住居址



70号住居址

69号住居址遺物出土近影

71号住居址

71号住居址カマド近影

同支脚転用遺物近影

72号住居址

74号住居址

75号住居址

76号住居址

76号住居址カマド近影

76号住居址遺物出土近影

76号住居址遺物出土近影

77号住居址

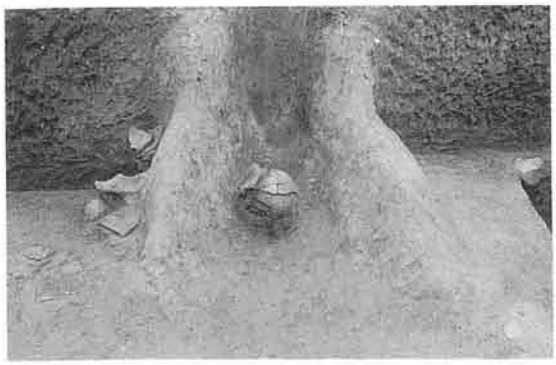
77号住居址カマド近影

78号住居址

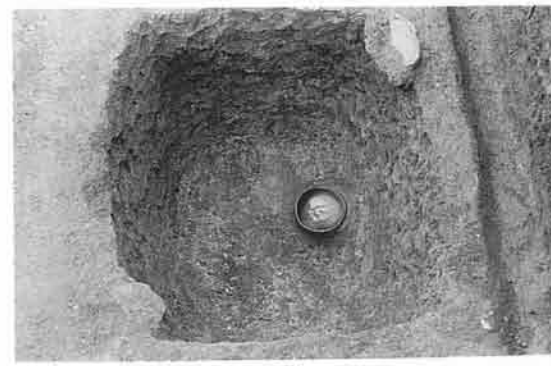
78号住居址カマド近影

79号住居址

79号住居址遺物出土近影



79号住居址カマド近影



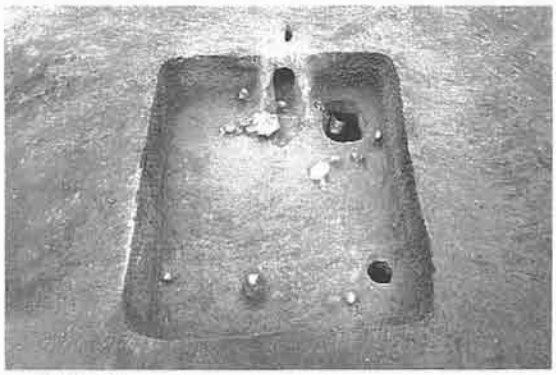
79号同カマド近影

80号住居址

80号住居址遺物出土近影

80号住居址カマド近影

80号住居址

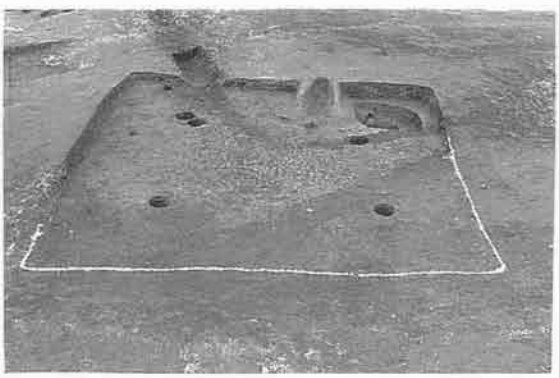


81号住居址

81号住居址

81号住居址カマド近影

81号住居址カマド近 影



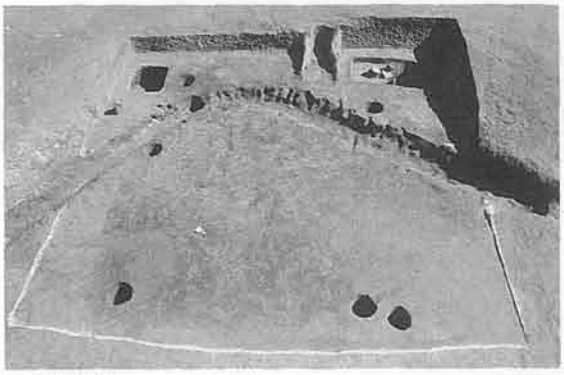
82号住居址

83号住居址

83号住居址カマド遺物近影

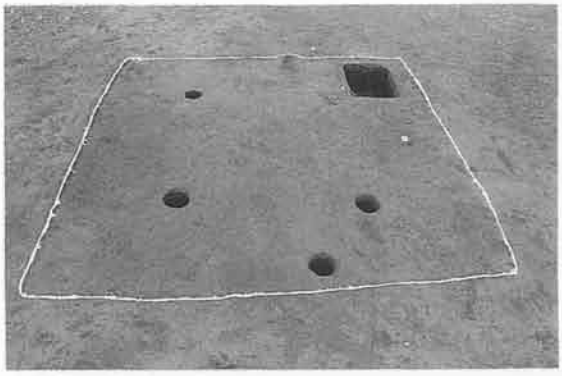
83号住居址カマド近影

84号住居址



85号住居址

86号住居址



88号住居址

88号住居址遺物出土状況

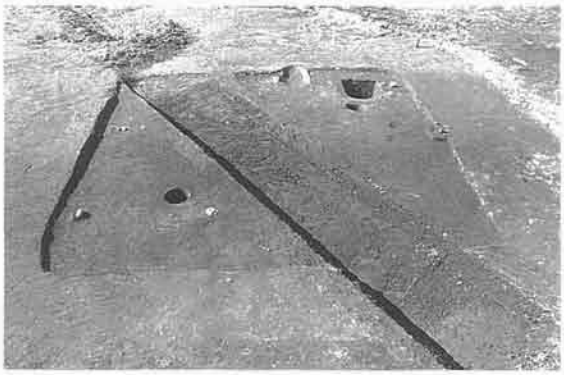
88号住居址遺物出土近影

88号住居址

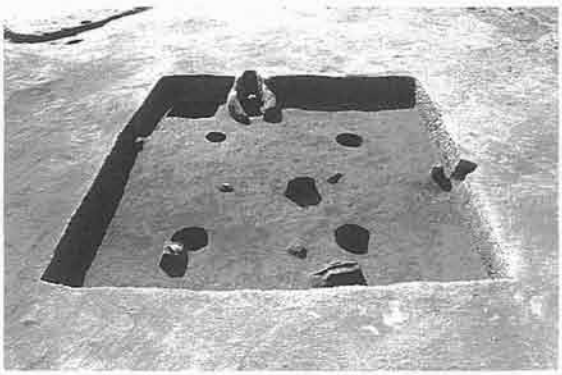
88号住居址遺物出土近影

90号住居址

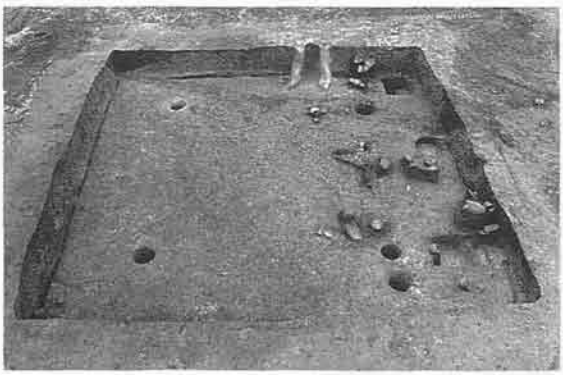
91号住居址



92号住居址



94号住居址



94号住居址

94号住居址旧カマド付近遺物出土状況

94号住居址カマド近影

94号住居址旧カマド近影

95号住居址

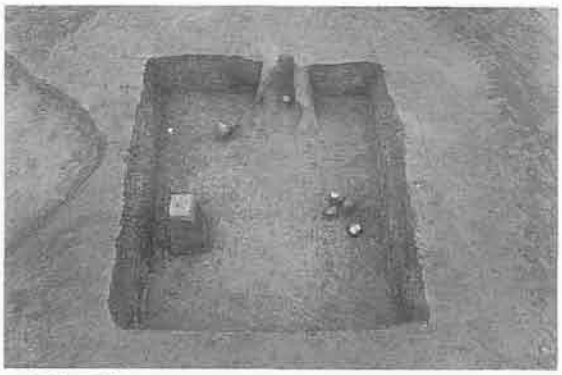
95号住居址遺物出土近影

96号住居址

96号住居址カマド近影

97号住居址

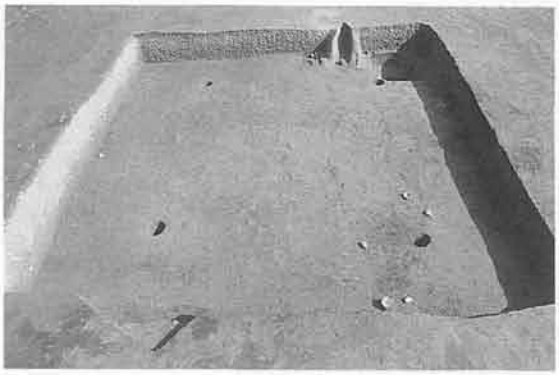
97号住居址カマド近影



98号住居址

98号住居址カマド近影

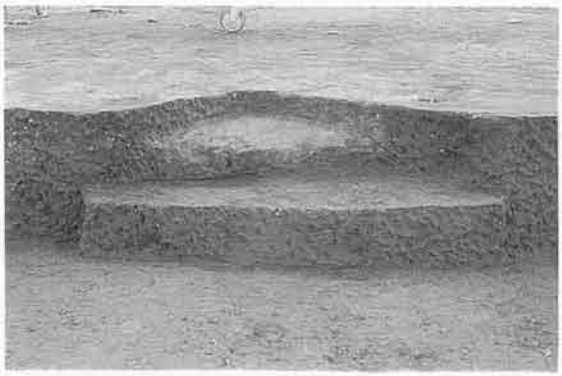
99号住居址



100号住居址

100号住居址カマド近影

100号住居址階段状遺構　南→



100号住居址階段状遺構　東→

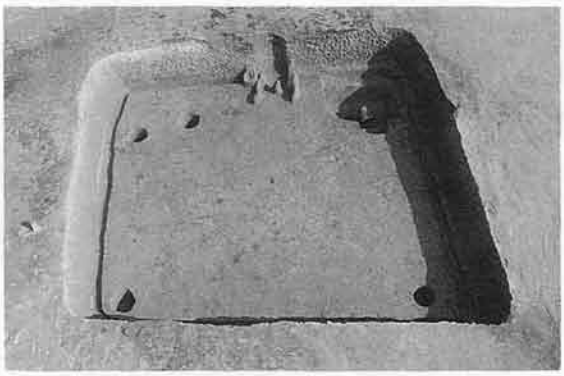
100号住居址貯蔵穴内遺物出土近影

100号住居址遺物出土近影

101号住居址

101号住居址カマド近影

102号住居址



104号住居址

105号住居址

105号住居址

107号住居址

107号住居址

107号住居址遺物出土近影

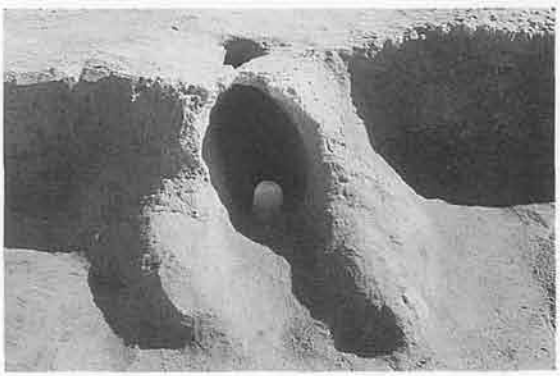
108号住居址遺物出土状況

108号住居址

108号住居址カマド

108号住居址カマド近影

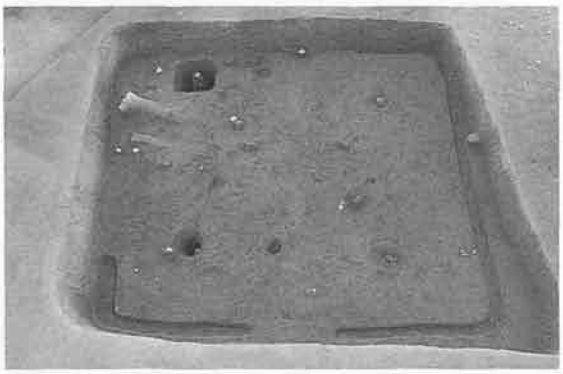
114号住居址



114号住居址カマド近影

114号住居址カマド近影

116号住居址



117号住居址

117号住居址遺物出土近影

127号住居址

127号住居址遺物出土近影

130号住居址遺物出土近影

130号住居址

図版112 古墳時代

1H-1

1H-3

1H-8

1H-9

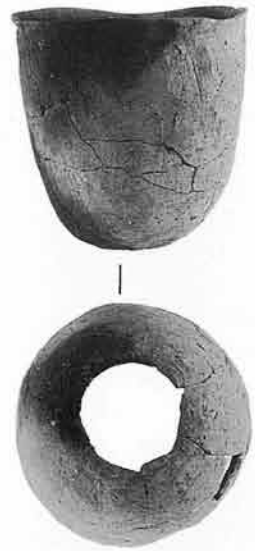
2H-5

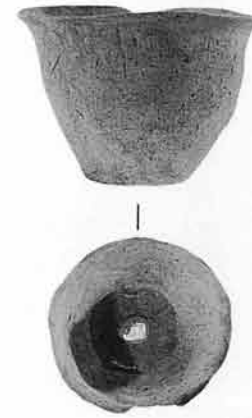
2H-7

2H-8

2H-9

2H-6


2H-12


2H-11

2H-10

2H-13

2H-2

2H-3

1・2号住居址出土遺物

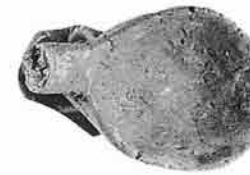
3H-1

3H-2

3H-3

3H-8

3H-10



3H-6

3H-11

3H-14 土匙

4H-1

4H-5

4H-3

4H-4

4H-2

4H-6

4H-9

4H-11

3・4号住居址出土遺物

図版114 古墳時代

4H-13

4H-12

4H-10

5H-1

5H-2

5H-5

5H

6H-6

6H-5

6H-2

17H-1

17H-7

17H-6

6H-8

16H-4

12H-6

19H-2

17H-5

19H-11

19H-1

4・5・6・12・16・17・19号住居址出土遺物

19H-8

23H-1

25H-3

26H-6

27H-8

27H-13

27H-16

36H

27H-5

38H-10

37H-6

37H-1

38H-11

40H-2

47H-7

47H-5

47H-13

42H-1

47H-8

48H-11

48H-14

50H-1

48H-15

48H-3

50H(鉄鏃)-11

19·23·25·26·27·37·38·40·42·47·48·50号住居址出土遺物

図版116 古墳時代

53H-5

53H-3

53H-6

53H-8

53H-11

53H-9

53H-7

54H-5

54H-4

54H-3

54H-11

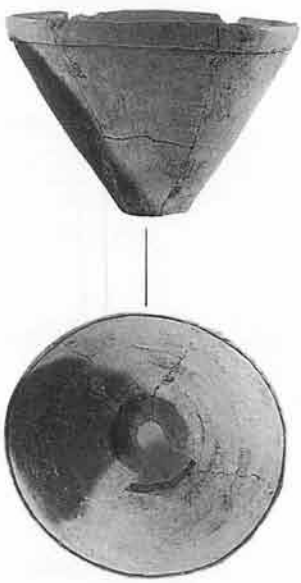
54H-1

54H-13

54H-9

54H-10

54H-12


54H-16

56H-15

56H-16

56H-19

56H-18

53・54・56号住居址出土遺物

57H-8

57H-2

57H-15

57H-14

57H-11

57H-12

61H-5

66H-9

66H-8

66H-1

66H-6

66H-5

67H-2

69H

69H-9

69H-8

69H-16

69H-10

69H-6

69H-14

70H-1

70H-2

70H-3

57·61·66·67·69·70号住居址出土遺物

図版118 古墳時代

71H-2

71H-1

72H-2

71H-3

71H-6

75H-1

75H-1

75H-10

75H-7

75H-12

75H-16

75H-11

75H-9

77H-2

77H-3

78H-2

78H-8

78H-6

78H-11

79H-5

79H-4

79H-7

79H-10

79H-16

79H-15

80H-1

80H-3

71·72·75·77·78·79·80号住居址出土遺物

80H-6

80H-7

80H-9

80H-5

83H-12

83H-21

83H-27

83H-38

83H-11

83H-3

83H-2

83H-5

83H-15

83H-16

83H-22

83H-28

83H-30

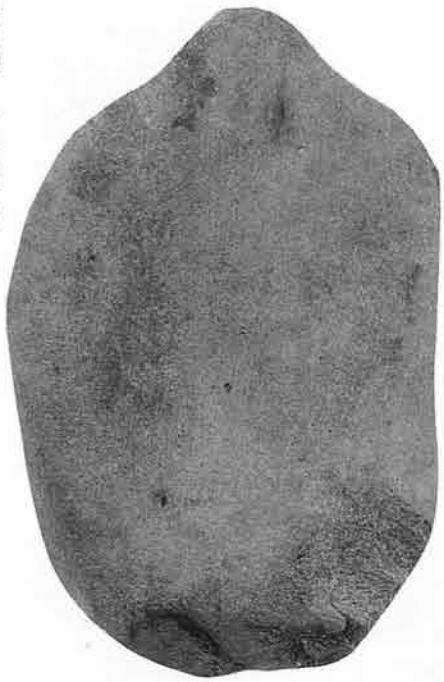
83H-34

83H-33

83H-29

83H-26

80・83号住居址出土遺物



81H-12

81H-10

84H-1

83H-37

84H-5

85H-1

84H-4

84H-2

83H-33

86H

88H-3

88H-2

86H-4

88H-6

81・83・84・85・86・88号住居址出土遺物

88H-10

88H-4

88H-9

93H-8

94H-4

94H-2

88H-11

94H-24

94H-5

94H-13

88・93・94号住居址出土遺物

94H-12

94H-21

94H-22

94H-23

94H-11

95H-4

96H-12

96H-9

96H-14

96H-19

96H-13

96H

96H-16

94・95・96号住居址出土遺物

96H-18

96H-15

97H-10

97H

97H-12

97H-7

98H-4

97H-14

98H-1

98H-3

98H-5

98H-2

96・97・98住居址出土遺物

100H-12

100H-22

100H-2

100H-13

100H-3

100H-27

100H-11

100H-23

100H-17

100H-33

100H-28

101H-11

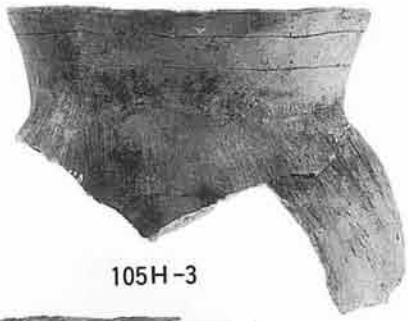
102H-1

102H-2

104H-1

104H-3

100·101·102·104号住居址出土遺物


105H-3

107H-2

108H-3

107H-7

107H-6

108H-4

108H-1

108H-12

108H-10

108H-13

108H-9

108H-15

117H-4

105・107・108・117号住居址出土遺物

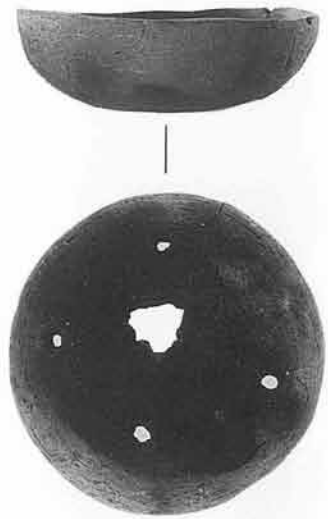
117H-1

117H-5

117H-3

127H-6

117H-7

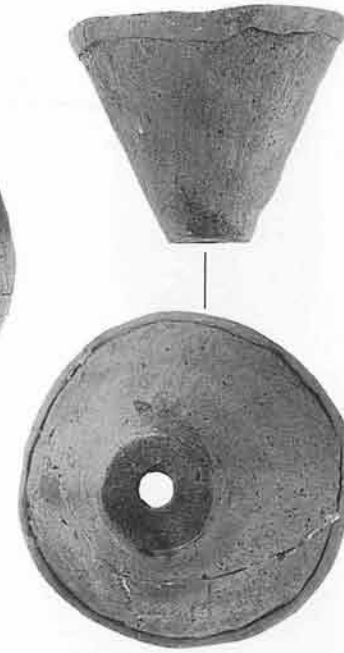


118H（覆土上面）

127H-14

127H-16

127H-15

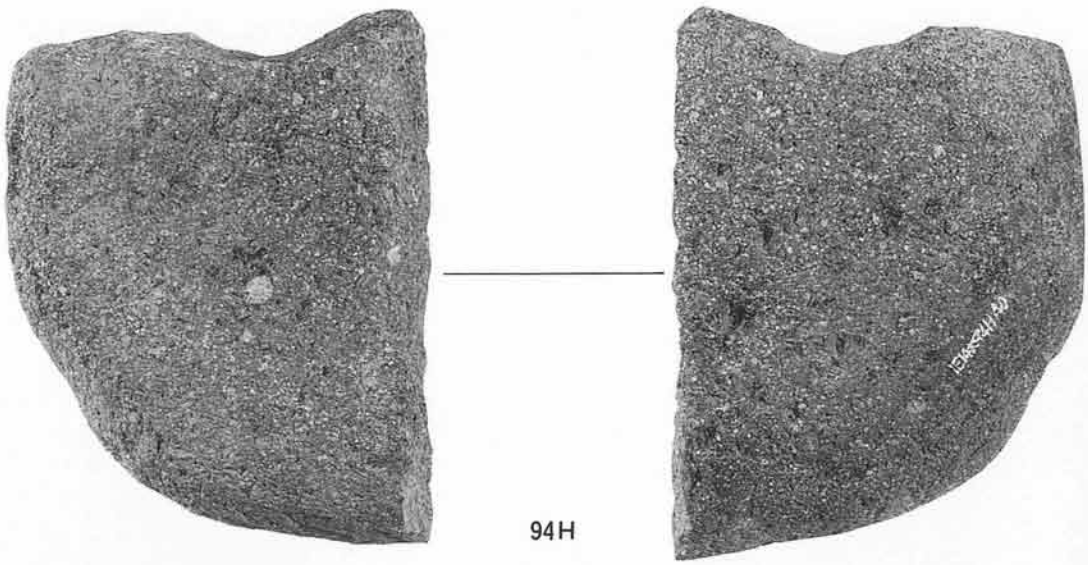


127H-11

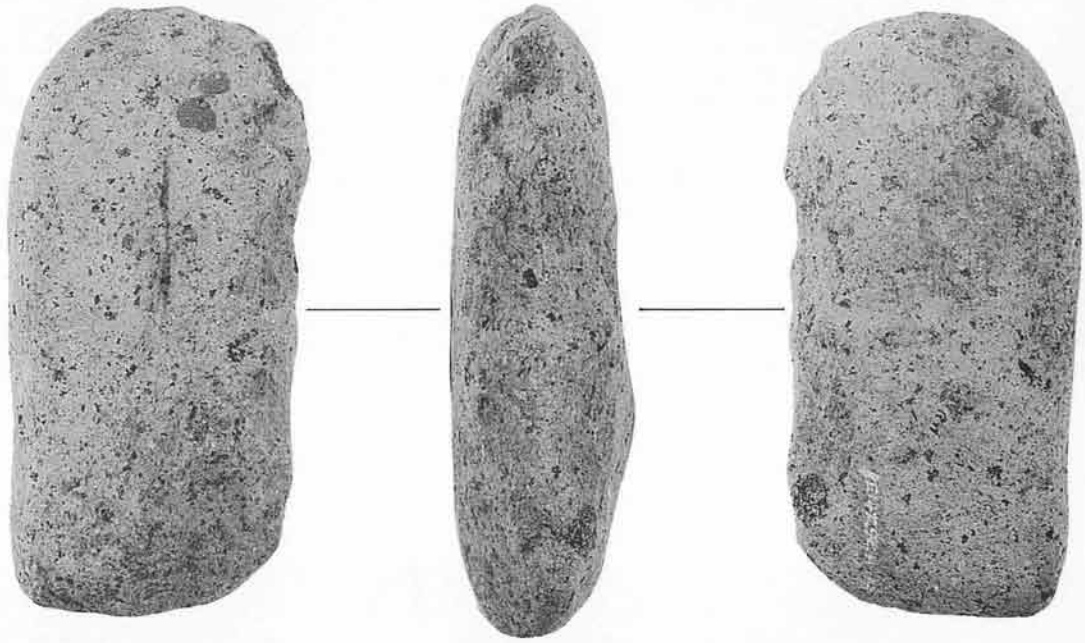
127H-9

127H-5

117・118・127号住居址出土遺物



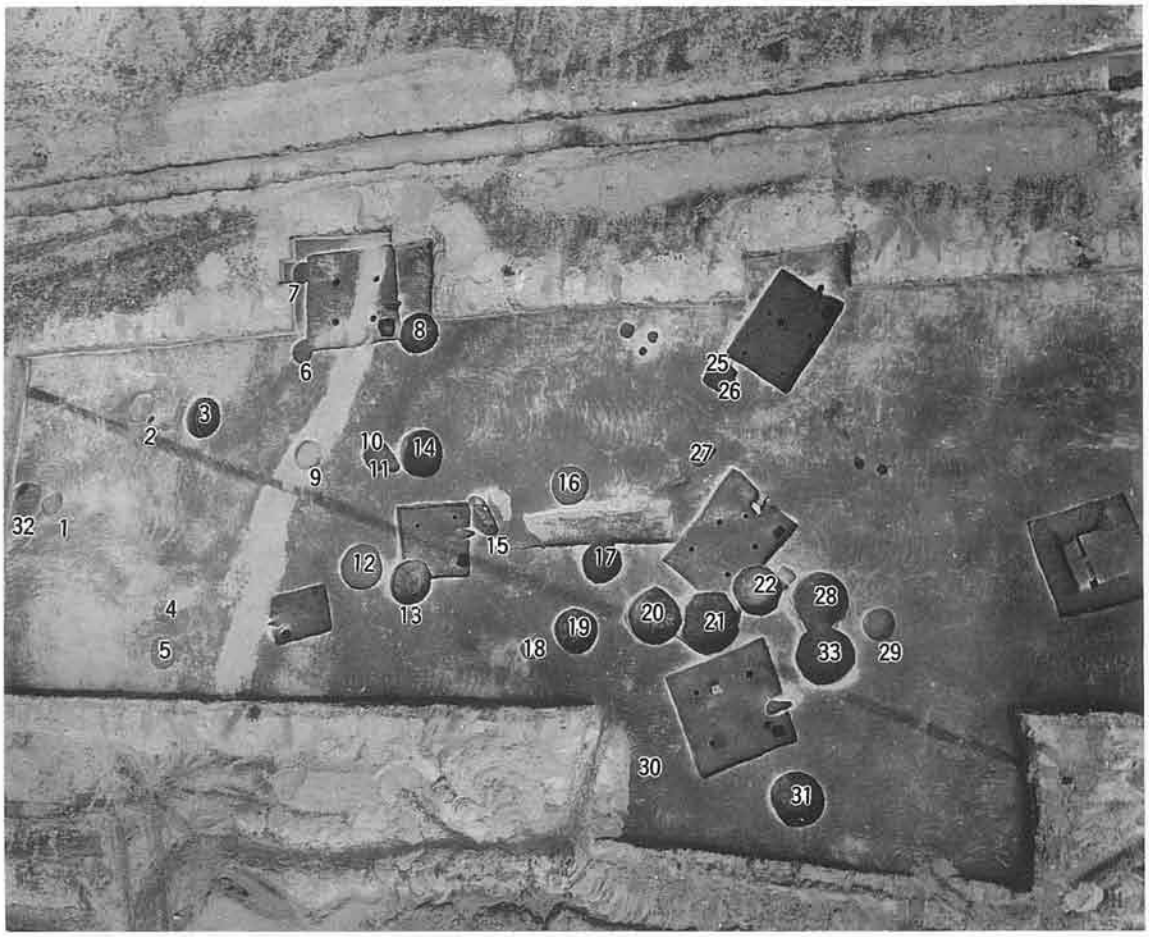
94H



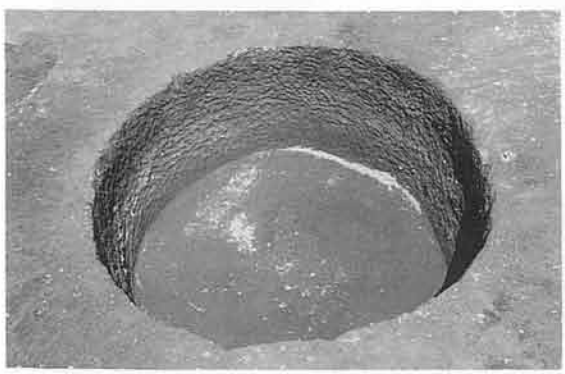
94H

97H

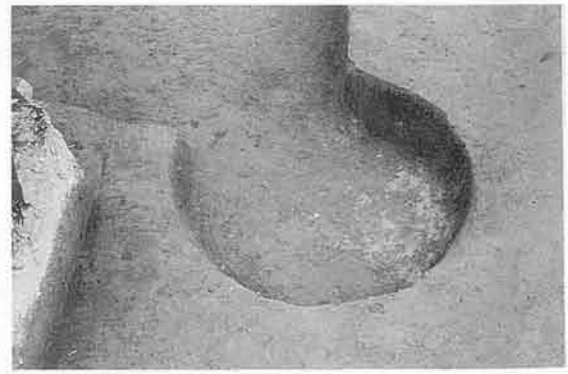
94・97号住居址出土遺物



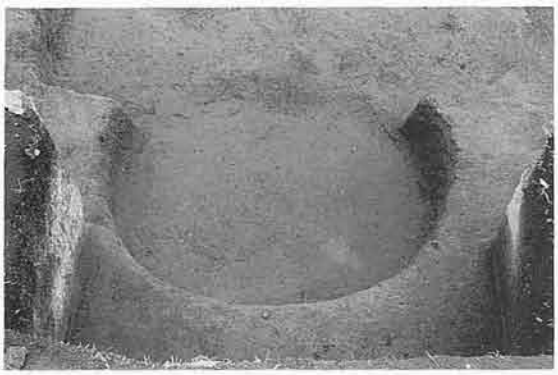
円形土坑検出状況（空撮）数字は土坑番号



3号土坑



6号土坑

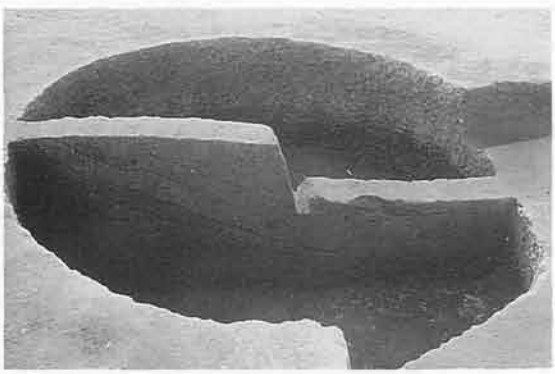


7号土坑

8号土坑

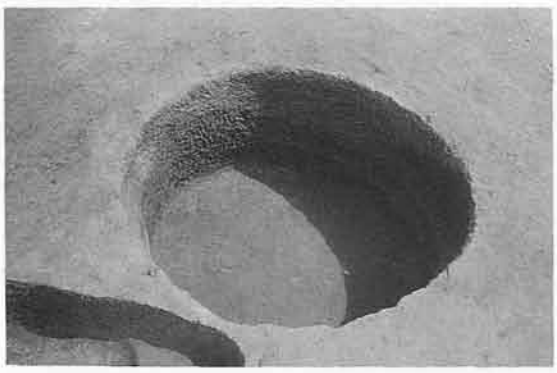
9号土坑

12号土坑

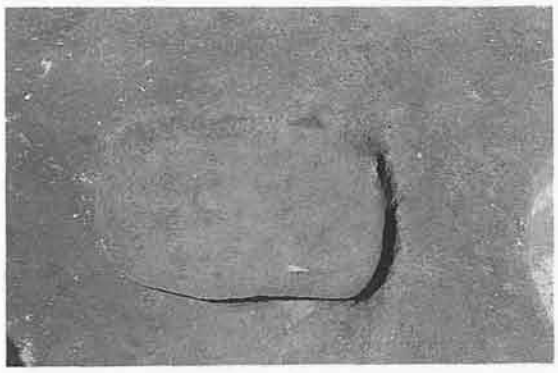


13号土坑セクション

13号土坑



14号土坑



18号土坑

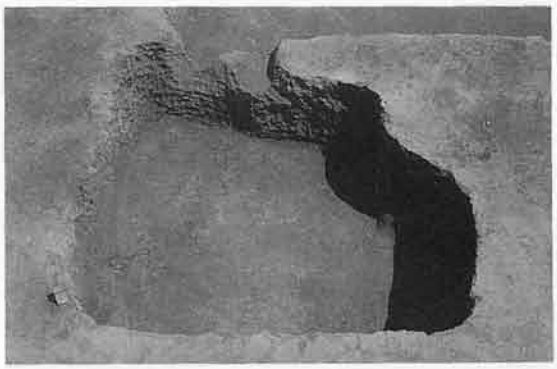
16号土坑

17号土坑

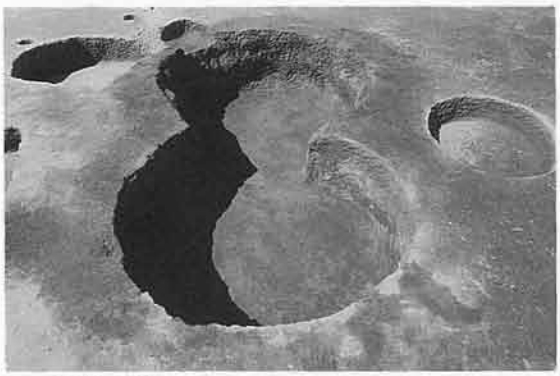
17号土坑セクション

22号土坑

21号土坑

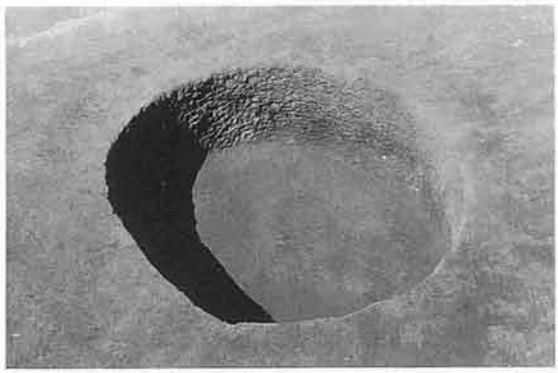


25、26号土坑

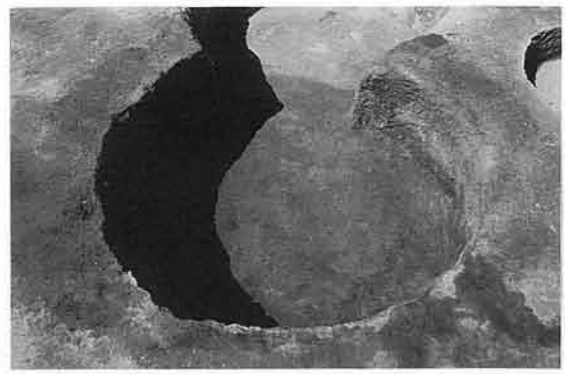


28、33号土坑

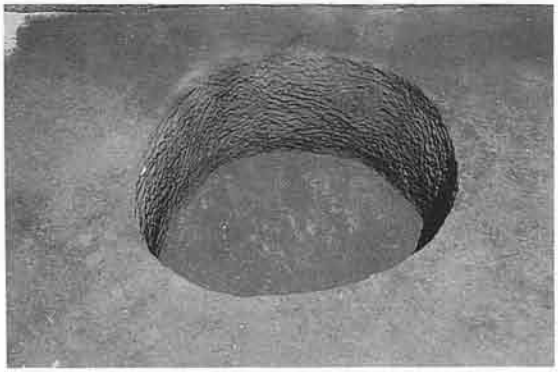
28号土坑



31号土坑



33号土坑

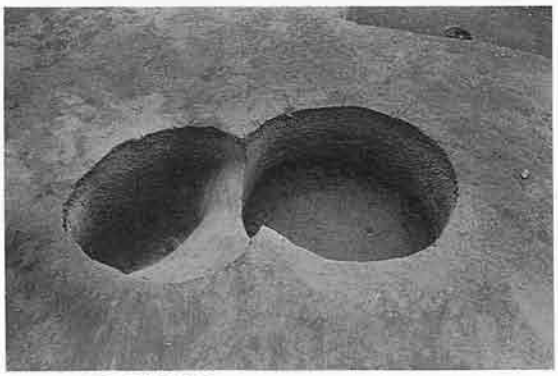


37号土坑

39号土坑

118号土坑遺物出土状況

220号土坑



302、303号土坑完掘

329号土坑完掘

1号溝全景

1号溝セクション

2号溝セクション

2号溝北側より

2号溝南側より

1号溝

2号溝覆土上面

1. No.2 トレンチ

2. No.3 トレンチ

3. No.6 トレンチ

4. No.7 トレンチ

5. No.7 トレンチ

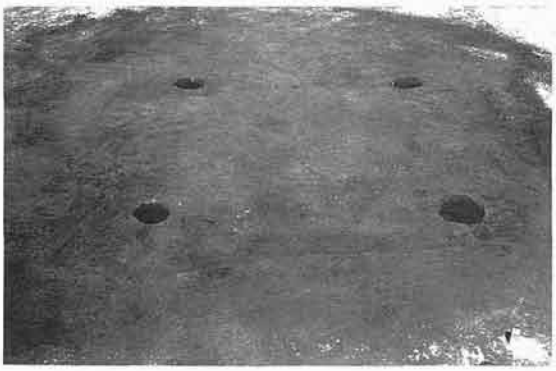
6. No.7 トレンチ

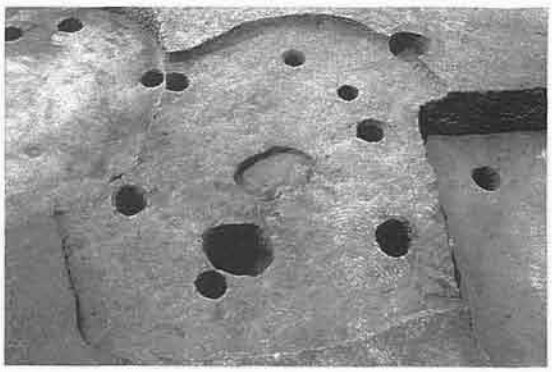
7. No.7 トレンチ

8. No.10トレンチ

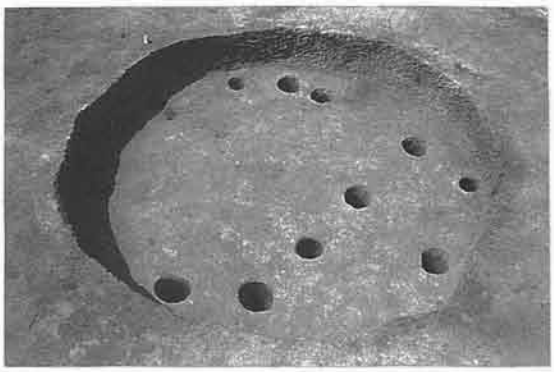
溝・トレンチ内出土遺物

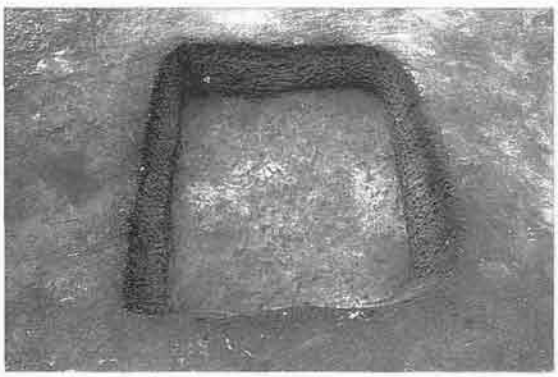
図版134　伴出遺物が検出されなかった住居址（時代は覆土の状況より）


10号住居址（時期不明）

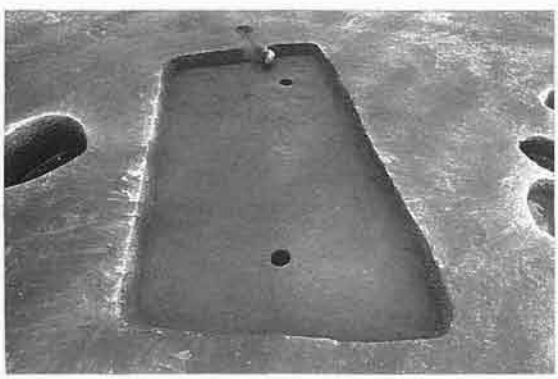

14号住居址（縄文時代）

15号住居址発掘風景


15号住居址（縄文時代）


45号住居址（古墳時代）

63号住居址（古墳時代）


106号住居址（歴史時代）

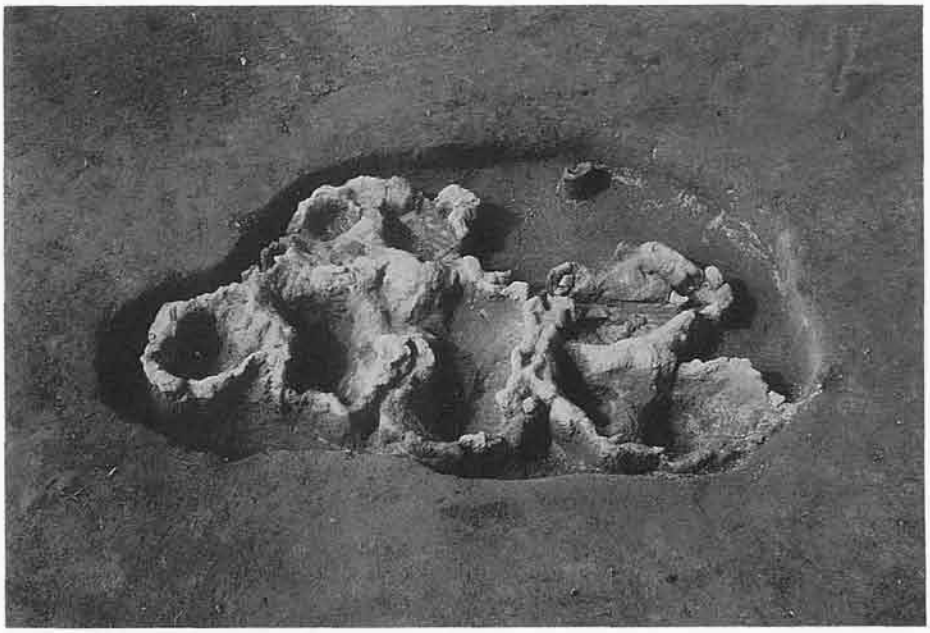
106号住居址カマド近影

1号炭窯

1号炭窯

38号土坑（製鉄遺構？）

38号土坑掘り方



38号土坑（製鉄遺構？）近影

横俵遺跡群 Ⅱ

（写真図版編）

印　刷　　平成3年3月20日
発　行　　平成3年3月25日

編　集　　山武考古学研究所

発行者　　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

印刷所　　(株)文化総合企画
TEL.0476-24-1563

遺跡全体図（1）

遺跡全体図（2）